WOODONE

Data File
Catalogue
2011

設計施工資料集

建具／収納／洋風造作材／腰壁／床／階段／カウンター etc…









2011.07

カタログ及び商品に関する最新情報は ウッドワン 検索 をご覧ください!

WOODONE

設計施工資料集 2011

Contents

ホルムアルデヒドについて ····· P3
お手入れについて ····· P4
ケーシングの納まり ····· P5
躯対接合金具・通気について ····· P6



建具

使用上の注意【建具】 ····· P7
内装ドア ····· P9
マグネット式ドアストッパー／レバーハンドル スクエアー ····· P16
プッシュプル錠(カスタムオーダー対応) ····· P17
開きドア用ソフトクローズ金具 ····· P18
内装ドア専用枠材(調整枠) ····· P20
内装ドア専用枠材(固定枠) ····· P27
集合住宅用ドア専用枠 ····· P32
欄間ドア ····· P37
欄間付きドア専用枠 ····· P38
スライディングドア ····· P41
スライディングドア枠 ····· P48
引き戸(レール) ····· P55
引き戸(ソフトクローズ機構付) ····· P60
床直置きレール ····· P65
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材(調整枠) ····· P66
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材
(SC付 調整枠) ····· P73
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材(固定枠) ····· P87
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材
(SC付 固定枠) ····· P94
集合住宅用片引き戸・引き分け戸専用枠材 ····· P108
集合住宅用引き違い戸専用枠材 ····· P113
3枚引き違い戸枠専用枠材(調整枠) ····· P118
3枚引き違い戸専用枠材(固定枠 PE・JP) ····· P123
3枚引き違い戸専用枠材(固定枠 SA) ····· P128
引き込み戸専用枠材(調整枠 PE・JP) ····· P133
引き込み戸専用枠材(調整枠 SA・GS) ····· P138
引き込み戸専用枠材(固定枠 SA) ····· P143
上吊り引き戸 ····· P148
上吊り引き戸(ソフトクローズ機構付) ····· P151
上吊り片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材
(調整枠) ····· P154
上吊り片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材
(SC付 調整枠) ····· P161
上吊り片引き戸・引き違い戸専用枠材(固定枠 SA) ····· P171
上吊り片引き戸・引き違い戸専用枠材
(SC付 固定枠 SA) ····· P176
アウトセット引き戸枠 ····· P183
間仕切システム 連動引戸 ····· P190
間仕切システム 連動引き戸枠 ····· P193
天井ジャストシリーズ ····· P198
天井ジャストインセット開き戸枠 ····· P199
天井ジャストインセット引き戸枠 ····· P202
天井ジャストアウトセット引き戸枠 ····· P209
天井ジャストクローゼットドア枠 ····· P214
天井ジャスト収納両開き戸枠 ····· P219
機能引き戸 2枚連動引き戸 ····· P222
機能引き戸 2枚連動引き戸枠 ····· P225
機能引き戸 3枚引き違い戸 ····· P230
機能引き戸 3枚引き違い戸枠 ····· P233
間仕切システム 折れ戸 ····· P238
間仕切システム 折れ戸専用枠材 ····· P239
クローゼットドア ····· P244
クローゼット専用枠(PE・JP) ····· P248
クローゼット専用枠(GS) ····· P255
クローゼット専用枠(SA) ····· P262
クローゼットの有効開口寸法目安 ····· P269
シューズインクローク専用枠 ····· P270
収納3連引き戸 ····· P275
収納3連引き戸枠 ····· P278
収納両開き戸 ····· P281
収納両開き戸専用枠 ····· P284
吹き抜け窓 ····· P289
スクリーンパネル ····· P296
スライド枠(天井ジャスト開きドア枠) ····· P302

スライド枠(クローゼットドア枠) ····· P309
スライド枠(収納両開き戸枠) ····· P315
アルシャルル ····· P320
和-洋開きドア ····· P327
和-洋引き戸 ····· P330

洋風造作材

幅広敷居・下枠 ····· P335
窓枠 ····· P340
窓枠L型 ····· P341
リフォーム窓枠 ····· P343
シート笠木対応 コーナー部材 ····· P344
W型巾木・カーテンBOX ····· P346

玄関収納

使用上の注意【玄関収納】 ····· P347
玄関収納 ····· P348

壁厚収納

使用上のご注意 ····· P370
壁厚収納 ····· P371

腰壁

腰壁(工芸調・ストライプ PE・JP) ····· P376
腰壁(工芸調・ストライプ SA) ····· P380
腰壁(シンプルモダン SA) ····· P387

造り付け家具

造り付け家具(PE・JP・SA) ····· P390
造り付け家具(GS) ····· P397

収納

e·ra·bo ミセス-i ····· P402
e·ra·bo布団収納 ····· P409
e·ra·bo扉 ····· P410
押入れセット ····· P416
押入れセット ジュピーノ(無垢タイプ) ····· P421
押入れ用壁材・桐(無垢集成) ····· P422

床

床材 商品別 掲載ページ 一覧表 ····· P423
床材JAS認定・大臣認定など ····· P424
床材 商品別 種別 一覧表 ····· P425
抗菌塗装・裏面防虫処理について ····· P426
安全上のご注意 ····· P427
一般住宅用床材(共通) ····· P428
捨て張り工法用フローリング ····· P429
無垢フローリング ····· P431
無垢フローリング ピノアース6㎜厚タイプ ····· P432
コンビットリアージュ® ····· P433
根太工法用フローリング ····· P434
直張り接着工法用床材 ····· P435
床材(共通) ····· P437
上り框・玄関巾木(リフォームタイプ・後付けタイプ) ···· P439

階段

安全上のご注意 ····· P440
関連法規 ····· P441
安全上のご注意 ····· P443
施工上のご注意 ····· P444
施工資料・参考資料 ····· P445
施工資料 ····· P446
デザイン階段 ····· P447
上下ジョイント金具施セット ····· P452
スターティング役物 ····· P453

規格型カーブ階段 ····· P454
リフォーム階段 ····· P458
プレカット階段 ····· P460

手すり

R66シリーズ ····· P466
35φシリーズ・手すりブラケットシステム····· P470

屋根裏・ロフト

安全上のご注意····· P476
屋根裏収納はしご／ロフト用はしご ····· P477
屋根裏収納用はしご ····· P478
ロフト用はしご（木製）····· P480
ロフト用はしご（アルミ製）····· P481

カウンター

安全上のご注意····· P482
集成カウンター・集成フリーサイズ板····· P483
カウンター用脚 ····· P485

壁・天井材

安全上のご注意 ····· P486
サラッとM ····· P487
リアルウォール　ジュピーノ ····· P489
羽目板 ピノアース／ジュピーノ・ソリッド····· P490
銘木壁材 ····· P491
羽目ロング····· P492
鎧天井®····· P493
洋風天井 ····· P494

アフターサービス ····· P496

ホルムアルデヒドについて

空気中の汚染物質

建築材料から発生し身体に悪影響を与える空気汚染物質が、住宅の高気密化に伴い大きな問題になっています。
空気中の汚染物質には①化学物質などのガス状物質②ガラス繊維・アスベストなどの無機粒子・繊維状物質③花粉・カビなどの有機粒子状物質④ウイルス・ダニなどの微生物・細菌類などがあげられます。
現代の住宅建材には化学的に作られた物質が多く使用されており、そこから有害な空気汚染物質が発生していることがあります。
建材に含まれるおもな空気汚染物質はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）・農薬系防腐防虫剤・アスベストなどがあげられ、呼吸器系への刺激、喘息の発作・アレルギー・めまいなどの症状を引き起こすことがあります。

▶ホルムアルデヒドとは？

ホルムアルデヒド（CH_2O）は建材に使用される有害物質のひとつで、おもに合成樹脂や接着剤に含まれています。従って、接着剤を多く使う合板などに多く含まれ、壁材やカーペットを貼る接着剤にも種類によっては使われています。ホルムアルデヒドは刺激臭のある無色の気体で水によく溶け、37%のホルムアルデヒドとメタノール9～13%とを含む水溶液がホルマリンで、防菌・防虫剤として広く使われています。
接着剤の中でホルムアルデヒドが多く含まれているものは、含有量の多い順から、ユリア樹脂系、メラミン樹脂系、フェノール樹脂系です。吸引時の身体症状は、人によってかなり差がありますが目・鼻・のど等に刺激を与えます。

▶VOC（揮発性有機化合物）とは？

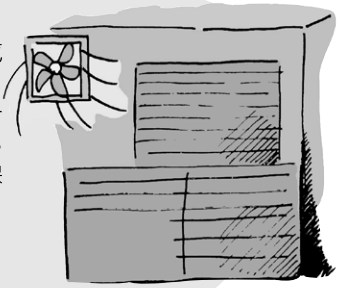
VOC=Voratile Organic Compound
その種類は数百種にのぼりますが、性質も毒性も様々です。
おもなものに、トルエン・キシレン・DBP・TCP・酢酸ビニル・デカン等があり、発ガン性の確認されたものもあります。ペンキの溶剤・ラッカーの溶剤・ビニールクロスの可塑剤・壁紙類の難燃加工材・床ワックス等に含まれます。中毒症状として、めまい・吐き気などがありますが、重度の場合は小脳麻痺により死亡することもあります。

▶農薬系防腐防虫剤とは？

畳・土台の防腐剤・白蟻駆除剤などに含まれます。
住宅での中毒事故は白蟻駆除剤によるものが多いです。

ホルムアルデヒドの影響を抑制するためのアドバイス

保管について



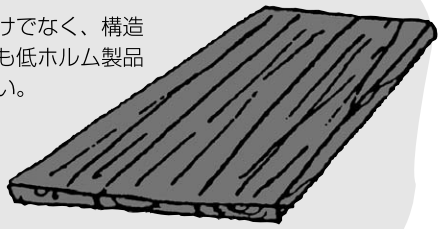
●倉庫内は常に換気を行い、通気性をよくしておいてください。
●ホルムアルデヒド対策品と、そうでないものを一緒に保管する場合は、それぞれを密閉して保管してください。

内装仕上げについて



●ホルムアルデヒドについての対策を施した製品をご使用ください。
●施工時に使用する接着剤・塗料などもホルムアルデヒドの含有量の少ないものをご使用ください。（詳しくは、メーカーにお問い合わせください）
●作業中は換気に十分注意してください。

構造材・下地材について



●内装仕上げ材だけでなく、構造躯体や下地材にも低ホルム製品をご使用ください。

完成後のご注意



●施工直後の住宅では、通気・換気を十分に行ってください。長時間密閉していた後や、室温が高くなっている場合は、ホルムアルデヒドの気中濃度が高くなりやすいので、特に注意してください。在宅中はできるだけ換気に努めてください。

お願い 本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品ですが、シックハウス症候群予防のため、他の建材につきましてもホルムアルデヒド対策品をご使用ください。

お手入れについて

ドア・引き戸 お手入れのご注意

■金具表面のお手入れについて

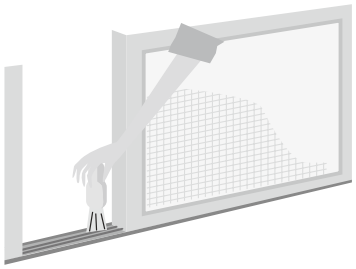
人の手が触れるレバーハンドルセット・引き手・ハンドル・ツマミといった金具は定期的に乾いた軟らかい布で軽く拭いて下さい。（必要以上に擦ると表面にキズつく場合があります）
また、汚れがひどい時には水や薄めた中性洗剤を染込ませた軟らかい布で汚れを拭き取り、乾いた軟らかい布で仕上げてください。

なお、クロムタイプやサーチライトタイプといった表面メッキ品は使用過程中の手垢など汚れが付き易く、定期的なメンテナンスを怠ると除去し難くい事もあります。その場合は、エタノールを染み込ませた軟らかい布で対象部位を拭き汚れなどを除去してから、湿った布で仕上げ拭きをして下さい。



留意点　ベンジン・シンナー・塩素系洗剤・酸性洗剤・アルカリ性洗剤は絶対に使用しないで下さい。メッキの変色や膨れ・剥がれの原因となります。

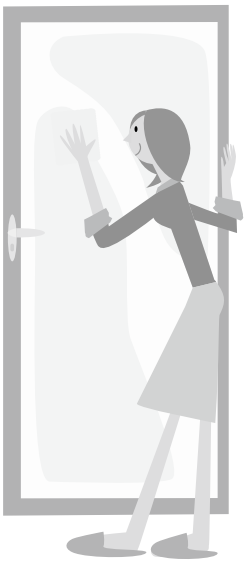
■レールなどのお手入れについて



引き戸などに取り付けている戸車や、レールは消耗性部品です。レールと戸車の間に、砂やチリ・ホコリといった異物が付着していると、使用過程中にレールや戸車表面をキズ付けて、扉が開閉し難くなりますので、定期的にレールの掃除をお願いします。

なお、万が一、レールにキズがついたりして扉が開閉し難くなった場合は、ご購入頂いた工務店でのレールと戸車の交換（有償）お願いします。

■ガラスのお手入れについて



ガラスにも日常生活でも色々な物質が付着して汚れの原因となります。汚れはどんなものであれ時間の経過とともにガラスとの接着が強固になり、クリーニングが難しくなります。汚れは出来るだけ早い時期にガラス用クリーナーで清掃をお願いします。

■シートのお手入れについて（ソフトアートシリーズのみ）

表面化粧シートにも日常生活でも色々な物質が付着して汚れの原因となります。日常のお手入れは、軟らかい布での乾拭きでも充分にシートの美しさを保てます。尚、乾拭きでは汚れが取れきれない時には、水や薄めた中性洗剤を染込ませた軟らかい布で汚れを拭き取り、乾いた軟らかい布で仕上げてください。

尚、万が一シート表面のエンボス（ごく小さな凸凹）内に付着している汚れがとれない場合には、市販のメラニンウォームに水を染み込ませた状態で、シート汚れ部分を拭き、柔らかく乾いた布で仕上げて下さい。

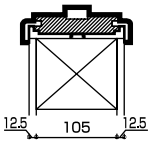
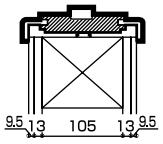
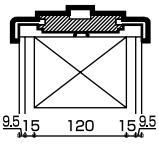
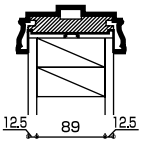
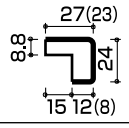
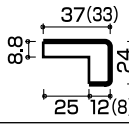
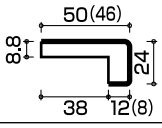
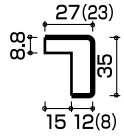
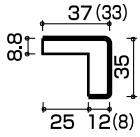
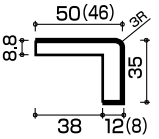
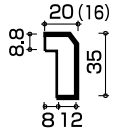
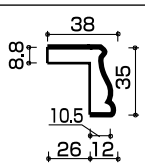
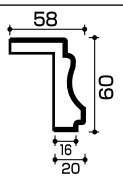
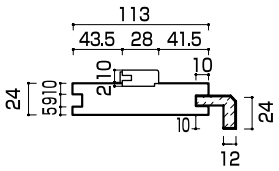
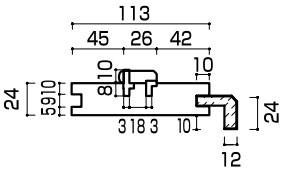
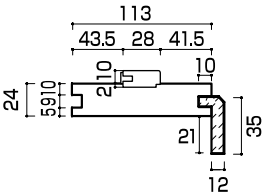
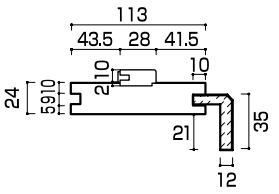
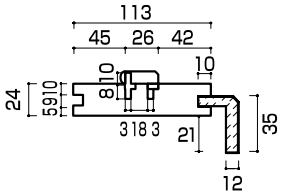
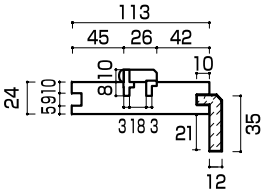
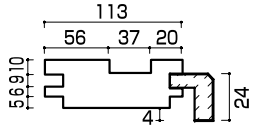
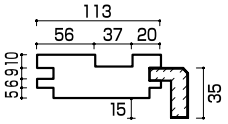
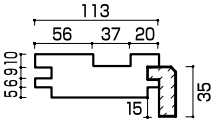
また、お施主様がご使用過程中に付いた軽微なシート表面キズにはタッチアップスティック・補修用スティック（別売）での簡易補修をお願いします。

ケーシングの納まり

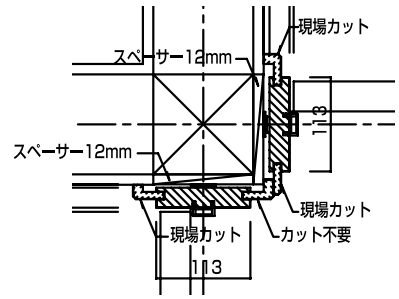
ケーシングの種類と壁厚納まり

※シリーズによって対応する形状が異なります。

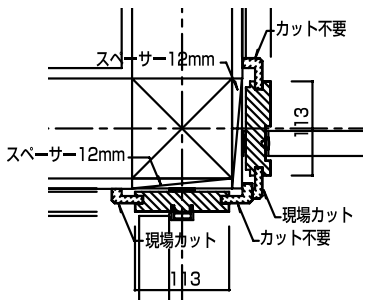
A・B・C型	全シリーズ	K型	ピノアース・ジュピーノ
L型	ソフトアート・グランステージ	R型	ソフトアート・グランステージ
M型	ソフトアート・グランステージ	U型	ジュピーノ・ソフトアート
N型	ジュピーノ・ソフトアート	S型	ジュピーノ

	113～133㎜	134～153㎜	154～179㎜	114㎜(2×4工法)
壁厚納まり（参考例）				
レギュラーケーシング ( )内の寸法は竪勝ち納めの横用の寸法です。	A型 	B型 	C型 	
	L型※ 	M型※ 	N型※ 	K型※ R型※ 
デラックスケーシング		U型※ 	S型※ 	※ケーシングを差し込む際多少きつい場合は削ったうえで施工してください。 ※デラックスケーシングには竪勝ち用がないため、留め施工となります。片留め加工はしておりませんので、現場でカットをしてご使用ください。
ド ア	A・B・C型※ ピノアース・ジュピーノ・グランステージ 	ソフトアート 		K型※ 
	L・M・N型※ ピノアース・ジュピーノ・グランステージ 	ソフトアート 		R型※ 
引 戸	A・B・C型※ 			
	L・M・N型※ 			K・R型※ 

ドアとドアの入隅み取り合い



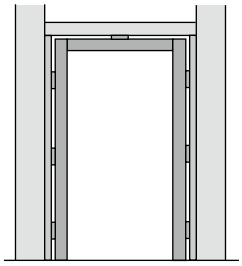
ドアと引戸の入隅み取り合い



躯対接合金具・通気について

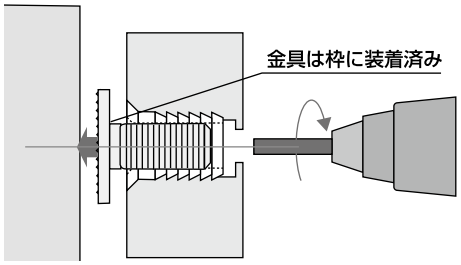
躯体接合金具

① 開口部に枠をセット



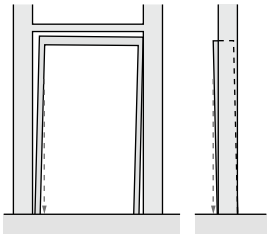
組み立てた枠材を開口部にセットします。

② 枠材の仮固定



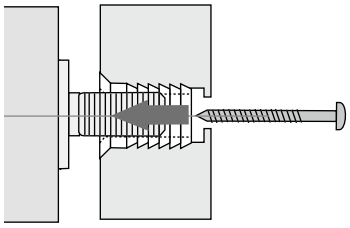
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

③ 立て付け調整



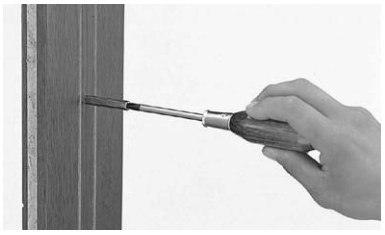
枠材の垂直・水平を確認しながら、立て付けを調整します。特に竪枠の金具位置を正確に調整してください。

④ 枠材の固定



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→上枠の順に固定します。）

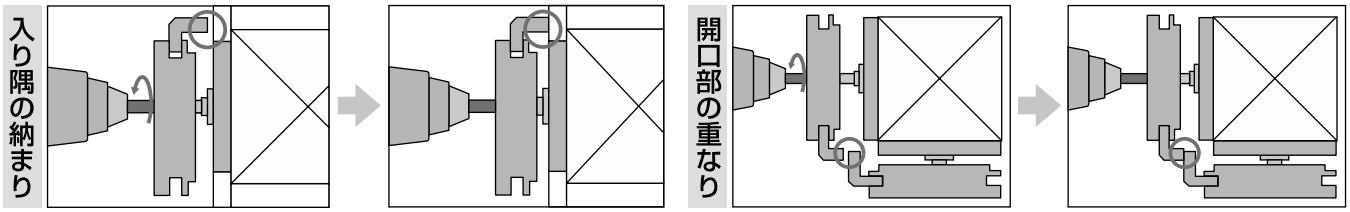
⑤ 微調整



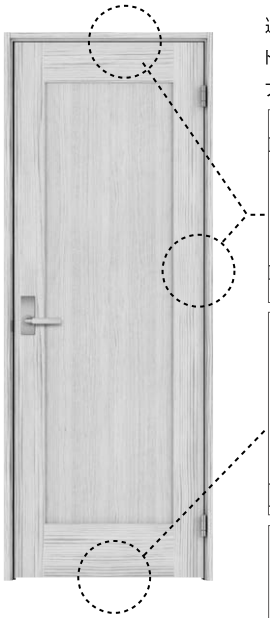
枠の微調整は、下げ振りで垂直を確認しながら、ミニレンチか、別売の六角レンチにて行ってください。

細部の納まりもラクラク・きれい

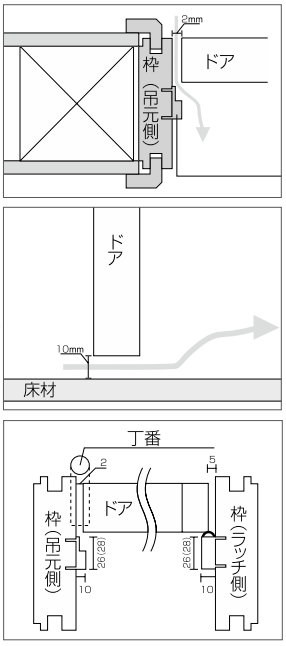
一方の枠だけを金具で固定し、ケーシングを差し込んで、壁にあるいはケーシングにぴったりあたるところまで調整します。

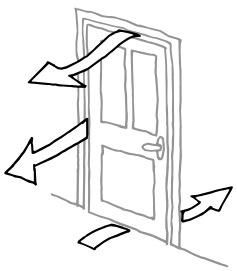


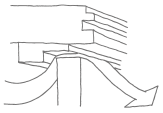
通気対応ドア枠（住宅性能表示推奨）



通気措置を必要とする開口部には、吊元側竪枠と上枠に換気対応戸当たりを採用。ドア下端隙間10mmと併せ、わずかな隙間からの通気により、トイレドアを含む全タイプドアで相当有効開口面積100cm²以上を確保できます。

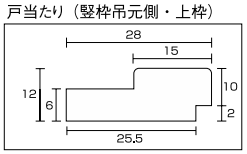




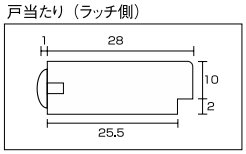


● 戸当たり寸法図

戸当たり（竪枠吊元側・上枠）

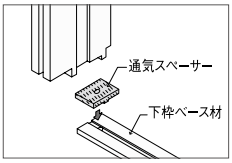


戸当たり（ラッチ側）



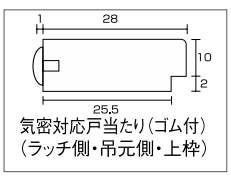
● ４方枠（下枠付）専用枠材に通気スペーサーを同梱。

ドア・枠材１本化し、下端隙間を5mm から 10mm に設定できます。



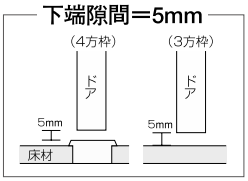
● 気密対応戸当たり装備ドア専用枠材をお選びください。（標準設定）

通気措置を必要としない開口部には、3方共ゴム付の気密対応戸当たりを採用。ドア下端隙間5mmと併せ通気量は最小限に抑え、音もれ・光もれを防ぐ際にも高い性能を発揮します。



気密対応戸当たり（ゴム付）
（ラッチ側・吊元側・上枠）

下端隙間＝5mm



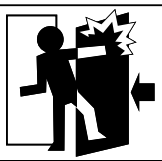
■ 建具

使用上の注意【建具】

施工に際しての安全上のご注意

⚠ 警告

はさまれ注意!!
扉と枠などのあいだに、また扉の軌跡内及び稼動部に、体の一部が入っている状態で扉を操作すると、ケガをする場合がありますのでご注意ください。



⚠ 注意

施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。
梱包を解いたら数量に不足および損傷等の問題がないかどうかを確認してください。
製品に水濡れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

設計・施工される方は必ずお読みください

⚠ 注意

〈全製品共通〉

禁止	**屋内専用。** 屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。
必ずおこなう	**開梱後は換気を行なう。** 本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。

必ずおこなう	**養生を行う。** 当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。
	使用説明書の手渡し。 同梱の「使用説明書」と専用の工具（スパナ、レンチ類）を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に貼り付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮願います。

お願い

- 金具の固定を行う際は、過大トルクを発生させる工具の使用により、商品に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

〈建具―枠材の扱いについて〉

必ずおこなう	**ビスはビス穴に取り付ける。** ビス穴加工以外の位置にビスを取り付けると、枠材に割れが発生し、扉の脱落の原因となり危険です。
	躯体に欠点がないことを確認する。 躯体接合金具を取り付ける際、躯体のビスのあたる部分に節や割れなどの欠点がある場合、金具が固定されず枠材がはずれる原因となり危険ですので、強固に固定できるよう下穴や下地材を入れてください。

必ずおこなう	**躯体接合金具の調整範囲は竪枠最大8㎜** **上枠最大9㎜。** 調整可能範囲を越える場合は枠材がはずれる原因となり危険ですので、調整範囲を満たすように下地材などを入れてください。

〈建具―ドアの取り付けについて〉

注意!	**はさまれ注意!** 強くドアが閉まると指のはさまれや衝撃によるガラスの割れ等が起こる原因となり危険ですので、ご注意ください。
禁止	**インパクトドライバーは使用しない。** レバーハンドル、丁番取り付けビスなどは、必ず手まわしのドライバーでビスを締めてください。インパクトドライバーなどを使用すると、ビス山をつぶしてしまうおそれがあります。

必ずおこなう	**レバーハンドルは、ハンドル同士を引き寄せて、確実に締める。** レバーハンドル取り付け用のビスの締め忘れ、ゆるみ等による開閉はレバーの脱落の原因になりますので必ず取り付けビスは確実にお締めください。
	丁番用固定ネジは確実に締める。 丁番用固定ネジのゆるみ、締め忘れた状態で開閉されると枠などへ干渉やドアのガタつきの原因となりますので、必ず固定ネジは確実にお締めください。施工後に再確認をお願いいたします。

使用上の注意【建具】

⚠ 注意

〈建具―クローゼットの取り付けについて〉

必ずおこなう

上ランナーと固定カップは確実に取り付ける。
上ランナーと固定カップは「カチッ」と音がするまで確実に取り付けてください。きちんと固定されていないと扉の脱落の原因となり危険です。

〈建具―引戸、収納引戸の取り付けについて〉

必ずおこなう

戸車がレールに確実にはまっていることを確認する。
引戸取付時は、戸車がレールにはまっていることを確認してください。脱線したまま使用すると敷居を損傷する場合があります。又、レールや戸車にゴミなどが付着してない状態で取り付けて下さい。ゴミなどが付着した状態で扉を開閉するとレールがキズつき、開閉しにくくなります。

〈建具―収納両開き戸の取り付けについて〉

禁止

ヒンジを分解しない。
扉取り付け用のヒンジを分解したり、無理に曲げたりすると、扉が脱落してケガの原因となりますので、絶対にしないでください。

必ずおこなう

確実にヒンジと座金をジョイントする。
扉取り付け用のヒンジが確実に座金とジョイントされていない時、又扉を90°以上開くと扉が脱落してケガの原因となりますので、確実にヒンジと座金をジョイントしてください。

〈建具―開閉間仕切り取り付けについて〉

必ずおこなう

ワンタッチ取り付け吊り車は奥までしっかりと完全に固定する。
不完全な装着は扉の脱落の原因となりますので奥まで完全に装着してください。

〈吹き抜け窓〉

必ずおこなう

床面から800㎜以上（3階以上に設置の場合は1,100㎜以上）の高さに設置する。
転落防止のため、吹き抜け両開き戸は床面から800㎜以上（3階以上に設置の場合は1,100㎜以上）の高さに設置ください。

使用に際しての安全上のご注意

⚠ 注意 使用に際して以下の注意が守られない場合、住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。

使用される方は必ずお読みください

⚠ 注意

必ずおこなう

入居後は換気を行なってください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。

〈建具―ドアの扱いについて〉

注意!

指や手をはさまれないように注意してください。
強くドアが開閉されると指や手がはさまれ、ケガをするおそれがありますので、ドアクローザーやドアストッパーをお使いください。また、ドアの開閉時にはドアと枠の隙間に手や指を入れないでください。

禁止

扉にぶらさがらないでください。
ドアや取っ手にぶら下がったり、重たいものをぶら下げたりしないでください。壊れたり落下・転倒してケガをするおそれがあります。

必ずおこなう

ガラスが割れないように注意してください。
強くドアが開閉されるとガラスの破損によって重大な傷害に結びつく危険性がありますので、ドアクローザーやストッパーをお使いください。また、衝突、開閉にはご注意ください。

〈建具―引戸、収納引戸の扱いについて〉

注意!

指や手をはさまないように注意してください。
強く扉が閉まると指や手がはさまれ、ケガをするおそれがあります。扉の開閉時には扉と枠の隙間に手や指を入れないでください。

調整用戸車・レール等は消耗性部品です。
引戸用戸車・吊り車およびレール間に、異物が付着した状態での開閉は避けてください。長期間のご使用にあたり、開閉がしづらくなった場合には、交換（有償）をお薦めします。

禁止

もたれかからないでください。
引き戸がはずれ、転倒する危険性があります。

強い衝撃を与えないでください。
引き戸の開閉時、引戸を勢いよく開閉すると引き戸落下やガラス割れ、又、部品や部材の変化・破損の原因となり、重大な傷害に結びつきます。

〈建具―クローゼット開閉間仕切り、収納両開き戸等の扱いについて〉

禁止

扉にぶらさがらないでください。
扉や取っ手にぶら下がったり、重たいものをぶら下げたりしないでください。壊れたり落下・転倒してケガをするおそれがあります。

必ずおこなう

戸車の脱線に注意してください。
戸車がレールにはまっていないままご使用されますと、敷居を損傷する場合があります。確実にはまっていることを確認してください。

〈建具―玄関収納等の扱いについて〉

禁止

扉の開き過ぎに注意してください。
収納扉など扉を必要以上に開くと、金具やその取付部が破損して扉が外れる原因になります。

〈吹き抜け窓〉

警告

小さなお子様ののりだし厳禁!
就学前のお子様が当製品上にのって遊んだり、身をのりだしたりされますと落下のおそれがあり大変危険です。そのような行為のないよう、保護者の方はご注意ください。

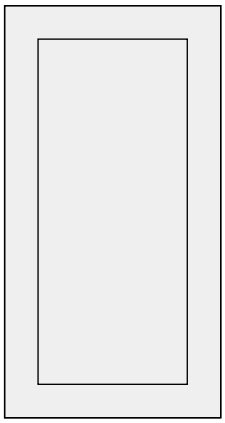
内装ドア

1. 開梱

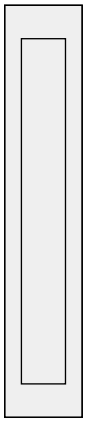
梱包を開いたらドア本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

Ⓐ シングルドア（親子ドア用親ドア）



Ⓑ 親子ドア用子ドア



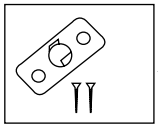
梱包内訳表

Ⓐ シングルドア（親子ドア用親ドア）

	部材名	数量	備　考
	ドア	1枚	丁番取付済、錠ケース取付済
	施工説明書	1部	
	使用説明書	1部	必ずお施主様に渡してください

Ⓑ 親子ドア用子ドア

	部材名	数量	備　考
	ドア	1枚	丁番取付済、ラッチ受取付済、フランス落し金具取付済
	フランス落し受け金具	1セット	ビス付
	施工説明書	1部	
	使用説明書	1部	必ずお施主様に渡してください



レバーハンドル（別売品）

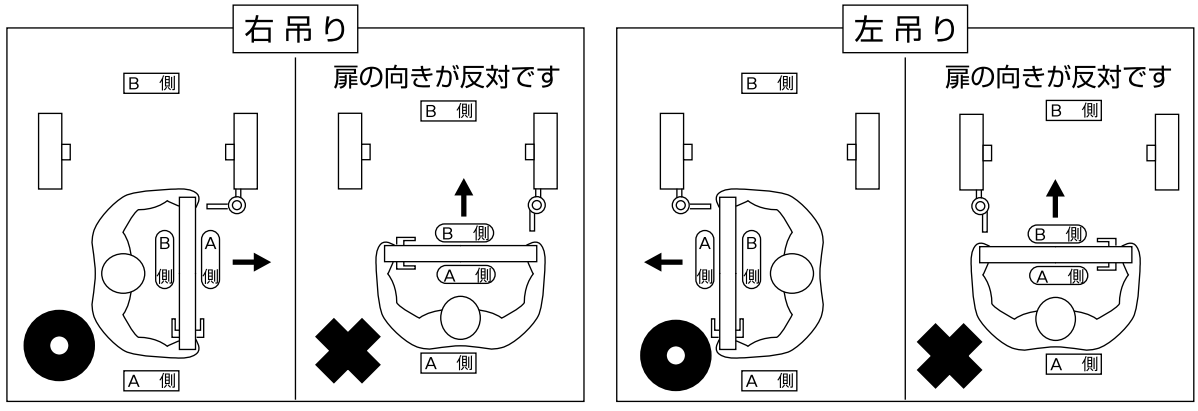
	部材名	数量	備　考
	レバーハンドル	1セット	
	3㎜レンチ	1本	必ずお施主様に渡してください

お願い

同梱されています3㎜レンチと使用説明書は、
必ずお施主様に行き渡るようご配慮願います。

扉吊り込み時の向きにご注意ください

扉を逆に吊り込むと丁番を破損するおそれがあります。



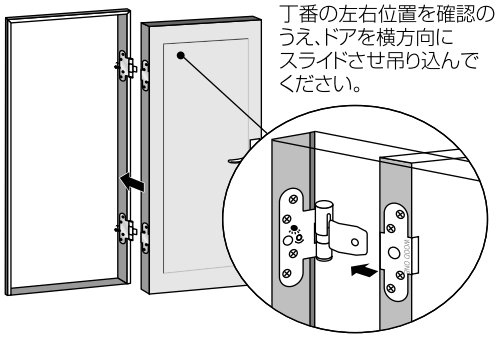
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

内装ドア

2. 施工手順

ドアの吊り込み

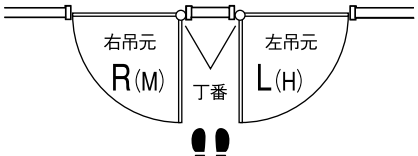


丁番の左右位置を確認のうえ、ドアを横方向にスライドさせ吊り込んでください。

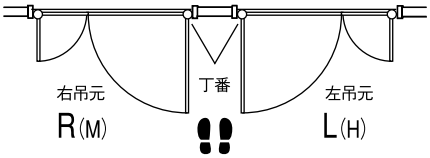
お願い

レバーハンドル取付までは、ドアを閉めないでください。

シングルドア・トイレドアの場合



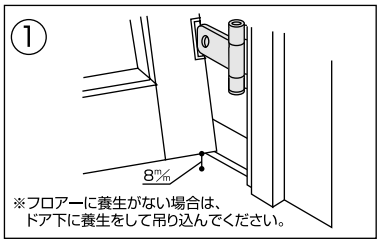
親子ドアの場合



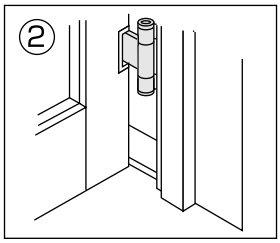
開く側から見た時の親ドアの吊り元が基準になります。

⚠ 注意

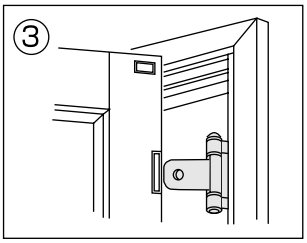
ドアをはずして再度取り付ける際にはドア側丁番のロックボタンが、プレートの手前まである事をご確認ください。ドアを取り外した際にはロックボタンがプレートの手前に戻りますが、再度取り付けの際には今一度ご確認の上取り付けを行ってください。



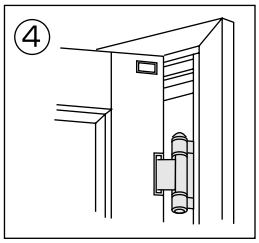
吊り込む方だけを少し持ち上げて、下側のベロを差し込みます。



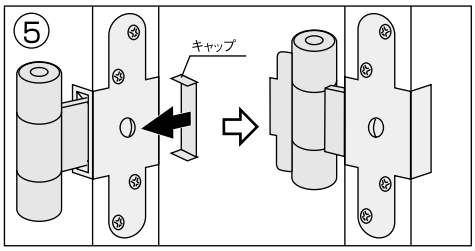
カチッと音がし、固定されるまで差し込んでください。



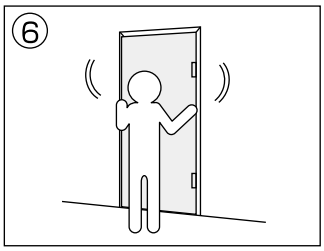
上部のベロを位置合わせします。



カチッと音がし、固定されたら吊り込み完了です。

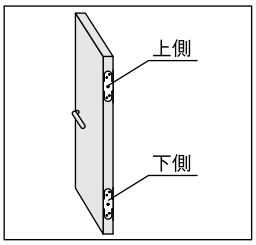


反対側の木口にはキャップをして仕上げます。**キャップは竪枠丁番のベロにセロテープで取り付けてあります。それをはがしてお使いください。**

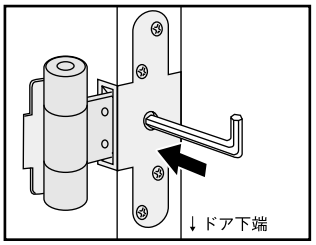


軽く前後にゆすって外れないことを確認してください。

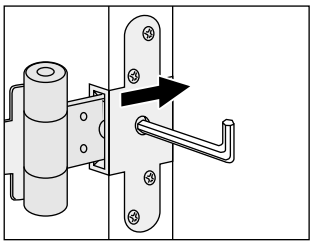
【ドアの取りはずし方】



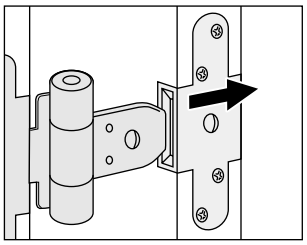
(1) ドア側丁番の下側から必ず行ってください。



(2) ドア側丁番の解除穴に六角レンチを差し込んで押さえてください。



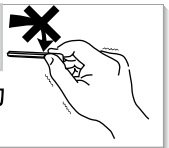
(3) ドアを少しずらすように引いて、ロック解除状態にしてください。
(4) 同時にドア側丁番の上側を行って、ロック解除状態にしてください。



(5) 上側と下側の両方共にロック解除状態にしてドアをゆっくりと取り外してください。

お願い

破損の原因になりますので、きつく力を込めて押すのはおやめください。

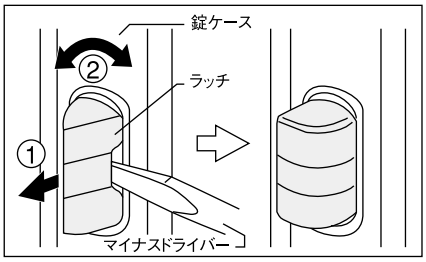


お願い

金具の固定を行う際は、過大トルクを発生させる工具の使用により、商品に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。

ラッチの設定

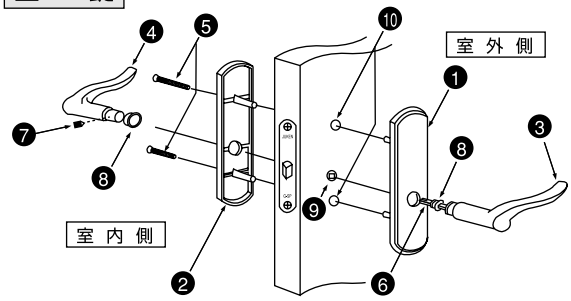
ラッチは右吊で設定してあります。
左吊の時は必ず下図のように
ラッチを反転させてください。



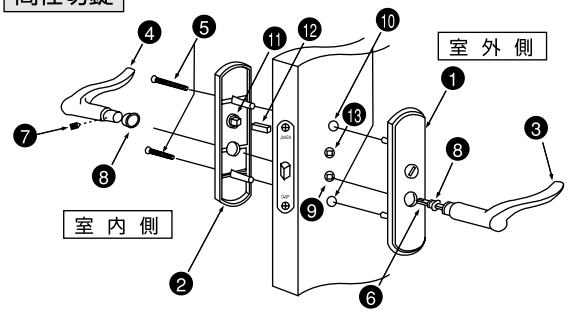
①ラッチの水平側の差し込みに
マイナスドライバーを入れて
前に出します。
②ラッチを反転させてください。

レバーハンドルの取り付け

空　錠



間仕切錠



レバーハンドルの取り付け

（1）室外側より外部ハンドル座❶を切欠き穴❿に挿入してください。

（2）室内側より内部ハンドル座❷をはめ込み、ハンドル座取り付けビス❺で締め付けてください。

（3）レバーハンドル❸を角芯穴❾に通して、反対側のレバーハンドル❹を角芯❻と合わせて、取り付けビス❼で締め付けてください。（ナイロンワッシャ❽のセット忘れのないようご注意ください。）

部材・部位名	
❶	外部ハンドル座（室外側）
❷	内部ハンドル座（室内側）
❸	レバーハンドル（室外側）
❹	レバーハンドル（室内側）
❺	ハンドル座取り付けビス
❻	角芯
❼	取り付けビス
❽	ナイロンワッシャ
❾	角芯穴
❿	切欠き穴

⚠ 注意

レバー脱落防止の為、レバーハンドル用取り付けビスは確実にお締めください。

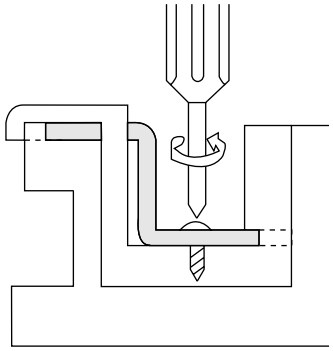
ドアの上下・左右およびラッチ受けの調整

ドアと枠の隙間が適切になるようにドアの丁番を調整してください。また、ドアがガタつく場合、あるいはラッチが入りきらない場合はラッチ受けの調整機能を使って建て付けの補正を行ってください。

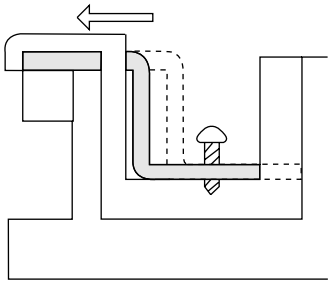
（イ）ラッチが正常にラッチ受けに納まらない場合は下記方法で調整してください。

調整ラッチ受け





ラッチ受けの中の固定ネジを
⊕ドライバーでゆるめます。



スライド板を矢印の方向に動
かし、広げます。位置を確認し
て、固定ネジを締め、完了です。

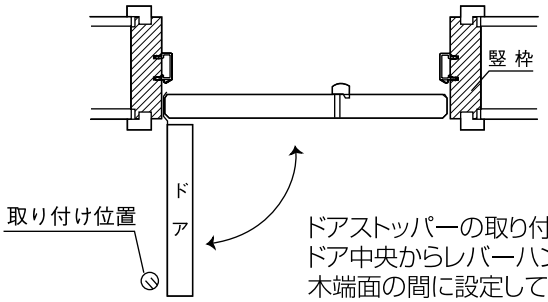
（ロ）ドアの調整方法については、以下「ドアの調整の仕方」を参照してください。

内装ドア

ドアストッパー（別売品）の取り付け

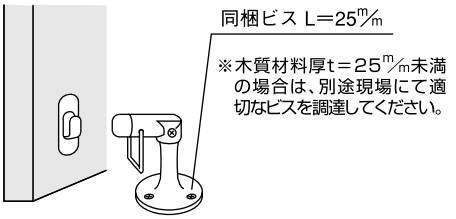
このドアストッパー（別売品）は、床付け・巾木付け兼用タイプです。下図のように取り付けてください。

● 取り付け位置

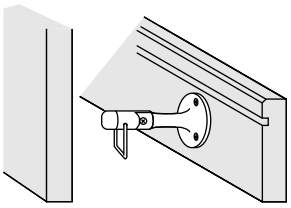


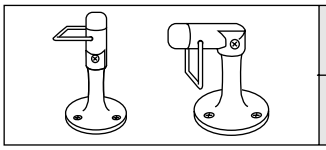
ドアストッパーの取り付け位置は、
ドア中央からレバーハンドル側
木端面の間に設定してください。

● 床付けの場合



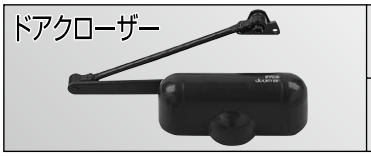
● 巾木付けの場合





品　名	ドアストッパー ゴールド	ドアストッパー シルバー
品　番	ZY0811	ZY0817

オプションとしてドアクローザーを取り付ける場合は必ず弊社別販売品のドアクローザーをお使いください。



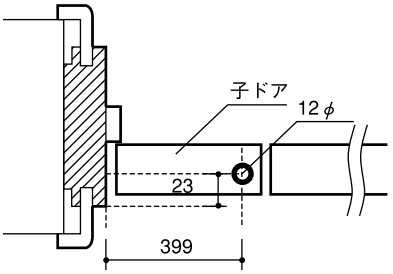
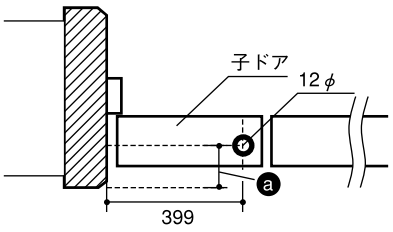
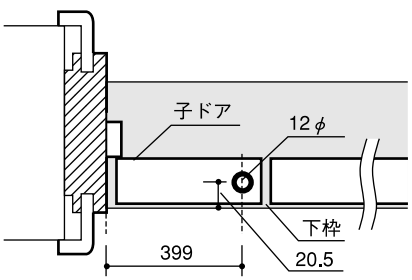
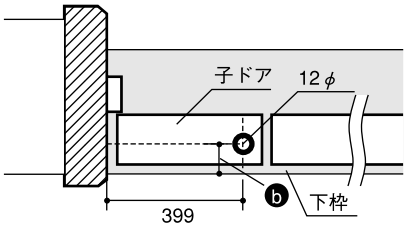
品　名	ドアクローザー チョコ	ドアクローザー ライトブラウン	ドアクローザー ホワイト
品　番	ZY2515	ZY2516	ZY2511

ドアクローザーを取り付ける場合は、上部木口より50㎜以内に取り付けてください。

フランス落し受け金具の取り付け

下図のように下枠または、床面に直接12φの穴加工を施し、そこに受け金具をかぶせビスにて固定してください。

（単位:㎜）

	調　整　枠	固定枠（90・113・155・170型）
3方枠（下枠なし）の場合		
4方枠（下枠付）の場合		

	90型	113型	155型	170型
ⓐ	23	28	28	28

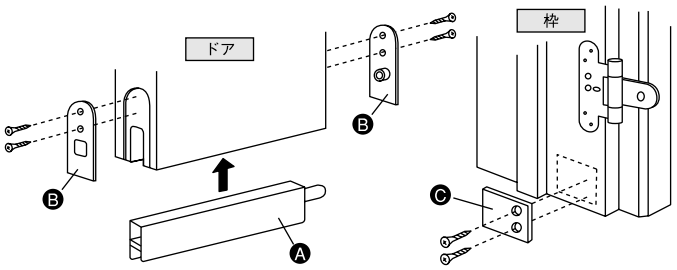
	90型	113型	155型	170型
ⓑ	19	22.5	22.5	22.5

3. ドアボトムの取り付け

開梱

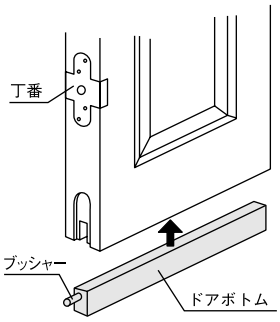
梱包を開いたら下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

	部材名	数量	備考
Ⓐ	ドアボトム	1セット	ドア下端にはめ込んで納品
Ⓑ	サイドブラケット	2個	木ネジ(L=20㎜)4本同梱
Ⓒ	サイドプレート	1枚	木ネジ(L=16㎜)2本同梱



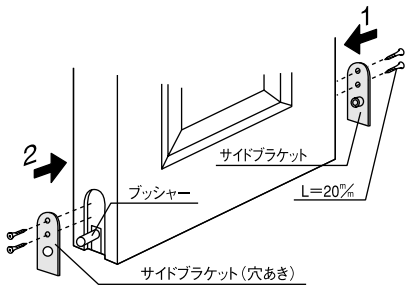
施工手順

ドアボトムの位置確認



ドアの丁番側にドアボトムのブッシャーがくるようにはめ込みます。

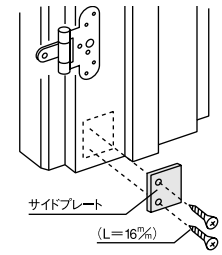
サイドブラケットの取付け

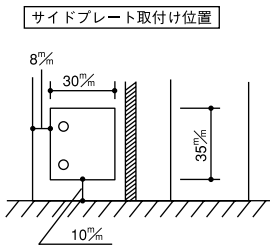


上図のように、1·2の順にサイドブラケットを取り付けます。同梱のビス（L=20㎜）でしっかり固定してください。ブッシャーがくる方に穴あきのサイドブラケットを取り付けます。

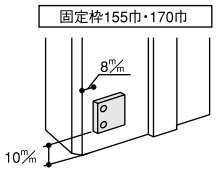
サイドプレート枠側の固定

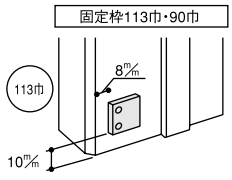
調整枠の場合

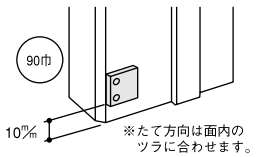




その他枠材の場合







丁番側の枠下端へサイドプレートを取り付けます。同梱のビス（L=16㎜）でしっかりと頭が出ないように固定してください。取り付け位置は上図をごらんください。

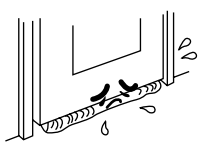
⚠ 注意

ドアボトムまたはサイドプレートを取り付けるビスは、締め忘れ、ゆるみ等のないよう確実にお締めください。脱落、損傷の原因となります。

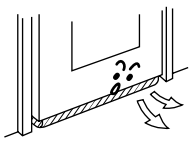
⚠ 注意

エアータイトゴムを押し出すための突起物である「ブッシャー」もゴミ、ほこりがつかないようにしてください。故障の原因となります。

ドアボトムの調整方法

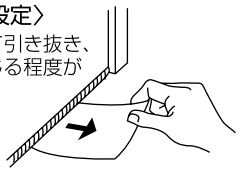


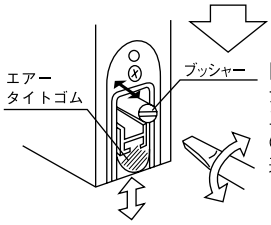
閉めた時にきゅうくつで圧迫感があったり…



もう少し下げて隙間を隠したい時…

〈最適な設定〉
紙を敷いて引き抜き、抵抗を感じる程度が最適です。





ドアボトムのブッシャーを廻して、エアータイトゴムの上下調整が出来ます。

・ブッシャーを出すと、エアータイトゴムが余計に飛び出し、
・ブッシャーをひっこめると飛び出し方が弱まります。

施工終了後

養生

当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして、養生してください。

お手入れのしかた

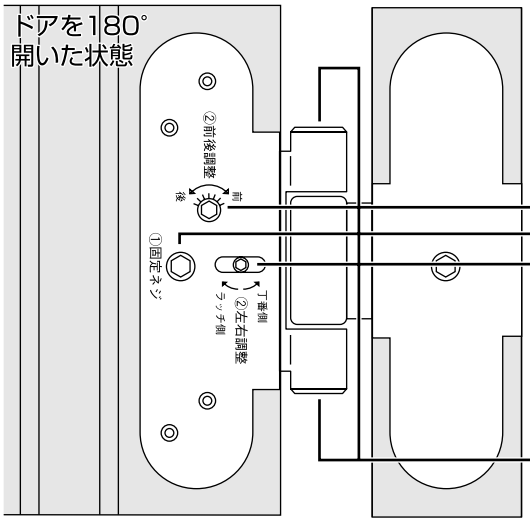
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」と3㎜レンチを使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

内装ドア

調整丁番〈各部名称と機能〉



手順

1（ゆるめる） → 2（調整） → 1（しめる）

※上下調整は③のみで行います。

①固定ネジ　調整前にゆるめる 調整後にしめる

②左右調整ネジ　ドアを左右に調整 丁番側 2㎜ ラッチ側2㎜ ┐調整可能

②前後調整ネジ　ドアを前後に調整 前（戸当り側から離す） 2㎜ 後（戸当り側に近づける）2㎜ ┐調整可能（1目盛1㎜）

③上下調整ネジ　上 2㎜ 下 2㎜ ┐調整可能

● すべて同梱の3㎜レンチ1本で調整できます。

お願い

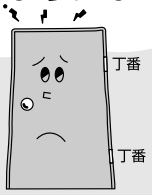
固定ネジを締め付ける際は、六角レンチの頭をしっかりとさし込んでから行ってください。固定ネジの頭がつぶれるおそれがあります。

特許出願中

ドアの調整の仕方

A　ドアの上部が枠に当たるようになった。

下に下げて調整



① 下丁番の下部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、ネジをゆるめておきます。



② ドアの上部がスムーズに動くまで、ドアと枠とのスキ間を見ながら、上丁番の下部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させます。
（ドアが少しずつさがります）



③ 上丁番の上部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、しっかりと締めつけ、固定します。



④ 下丁番の下部調整ネジを、止まるまで上から見て時計と逆回りに回転させます。

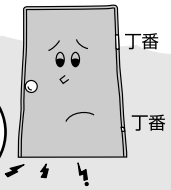


⑤ 下丁番の上部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、しっかりと締めつけ、固定します。



B　ドアの下部が枠に当たるようになった。

上に上げて調整



① 上下の丁番ともそれぞれの上部調整ネジを、上から見て時計と逆回りに回転させ、ドアを上げる余裕を作っておきます。



② ドアの下部がスムーズに動くまで、ドアと枠とのスキ間を見ながら、上丁番の下部調整ネジを、上から見て時計と逆回りに回転させます。（ドアが少しずつあがります）



③ 上丁番の上部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、しっかりと締めつけ、固定します。



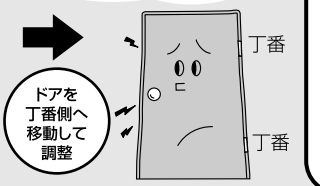
④ 下丁番の下部調整ネジを、止まるまで上から見て時計と逆回りに回転させます。



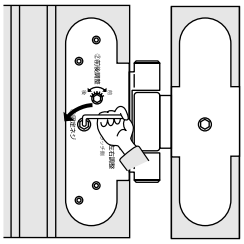
⑤ 下丁番の上部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、しっかりと締めつけ、固定します。



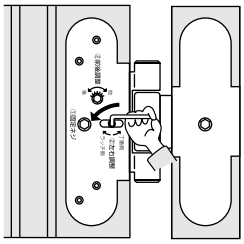
C ドアのレバーハンドル側につかえるようになった。



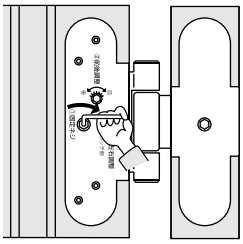
① 固定ネジをゆるめます。



② 左右調整ネジを「丁番側」に回転させます。

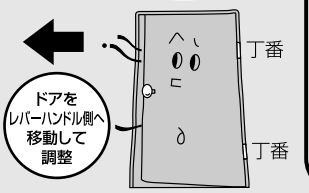


③ 固定ネジをしっかりと締めつけ、固定します。

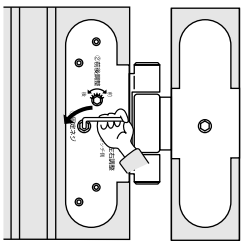


D ドアのレバーハンドル側にすき間が開きすぎる。

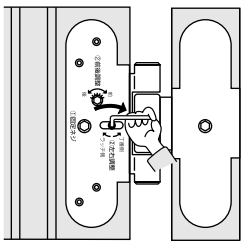
ドアをレバーハンドル側へ移動して調整



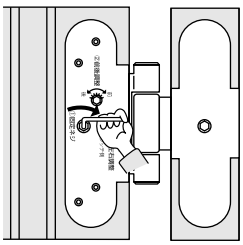
① 固定ネジをゆるめます。



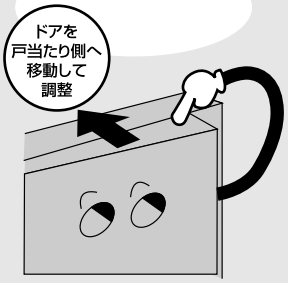
② 左右調整ネジを「ラッチ側」に回転させます。



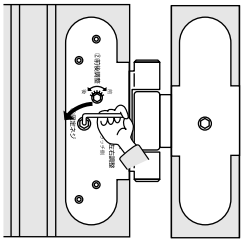
③ 固定ネジをしっかりと締めつけ、固定します。



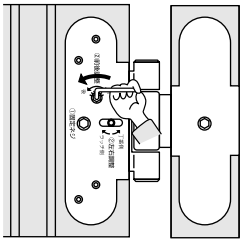
E ドアが枠より出すぎている場合



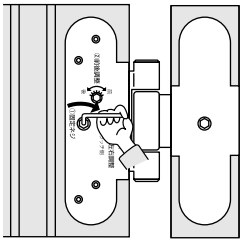
① 固定ネジをゆるめます。



② ドア本体を戸当たり側に動かすために前後調整ネジを「後」側に回転させます。



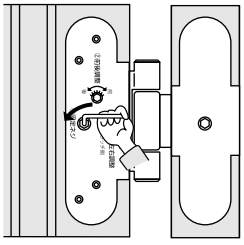
③ 固定ネジをしっかりと締めつけ、固定します。



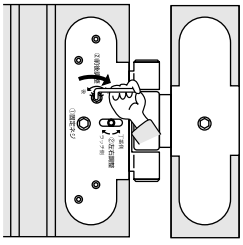
F ドアが枠より入り込みすぎている場合



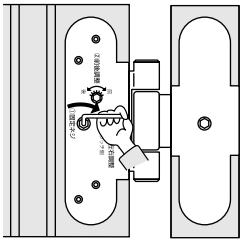
① 固定ネジをゆるめます。



② ドア本体を枠外側に動かすために前後調整ネジを「前」側に回転させます。

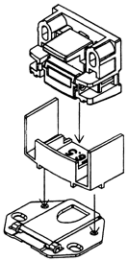


③ 固定ネジをしっかりと締めつけ、固定します。

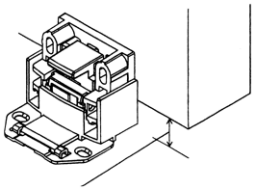


マグネット式ドアストッパー／レバーハンドル スクエアー

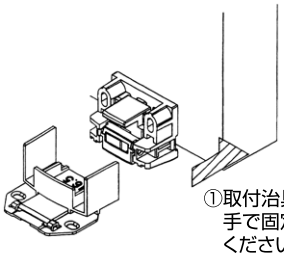
ドアストッパー（マグネットタイプ）の取り付け



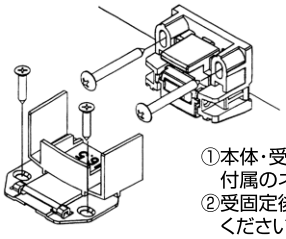
①受ベースの穴
2箇所に取付
治具をはめ込んで
ください。
②本体を取付
治具にはめ
込んでください。



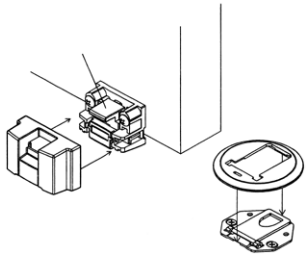
①取付位置にセットし、本体を扉に
貼付けてください。



①取付治具、受を動かさないように
手で固定し、開き戸を移動させて
ください。



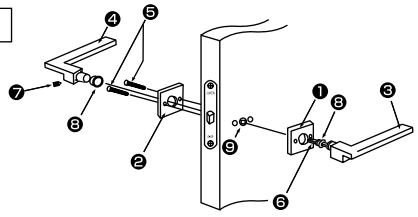
①本体・受取付位置に下穴をあけ、
付属のネジで固定してください。
②受固定後取付治具を取り外して
ください。



①ロックレバーを下げた状態で
本体にカチッと音がするまで
本体カバーをはめ込んで
ください。
②受にカチッと音がするまで
ベースカバーをはめ込んで
ください。

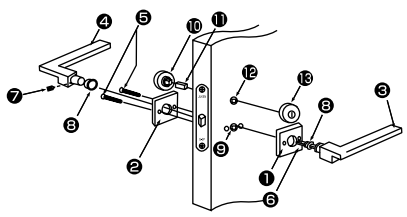
レバーハンドル スクエアーの取り付け

空　錠



	部材・部位名	備　考
❶	ハンドル座	
❷	ハンドル座	
❸	レバーハンドル	
❹	レバーハンドル	
❺	ハンドル座取り付けビス	
❻	角芯	
❼	取り付けビス	

間仕切錠・
表示錠・
鍵付錠



	部材・部位名	備　考
❽	ナイロンワッシャ	
❾	角芯穴	
❿	ツマミ（サムターン座）	空錠にはありません
⓫	連結板	空錠にはありません
⓬	間仕切り穴	空錠にはありません
⓭	エマージェンシー座	

レバーハンドルの取り付け

（1）室外側より外部ハンドル座❶を切欠き穴❿に挿入してください。
（2）内部ハンドル座❷をはめ込み、ハンドル座取り付けビス❺で締め付けてください。
（3）レバーハンドル❸を角芯穴❾に通して、反対側のレバーハンドル❹を角芯❻と合わせて、取り付けビス❼で締め付けてください。（ナイロンワッシャ❽のセット忘れのないようご注意ください。）

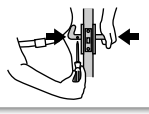
〈間仕切錠（表示・鍵付錠）の場合〉
（1）エマージェンシー座⓭の方から取り付けてください。この際の連結板⓫を間仕切穴⓬に貫通させてください。
（2）サムターン❿に間仕切穴⓬を貫通してきた連結板⓫を押入し、取り付けビスでエマージェンシー座⓭とサムターン座❿を互いに引張り合わせてください。

⚠ 注意　施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

・レバー脱落防止の為、レバーハンドル用取り付けビスは確実に締める。

取り付けビスを締めるとき、化粧座とレバーハンドルの間にすき間がないかご確認ください。すき間があると、がたつきの原因となります。
電動ドライバーを使用しての施工はおやめください。ハンドルの作動不良、がたつきの原因となります。
※スライディングドアの入隅部分でご使用いただくとレバーハンドルが壁に接触しますので、開口部をずらしていただくか、弊社ストッパーをご使用ください。



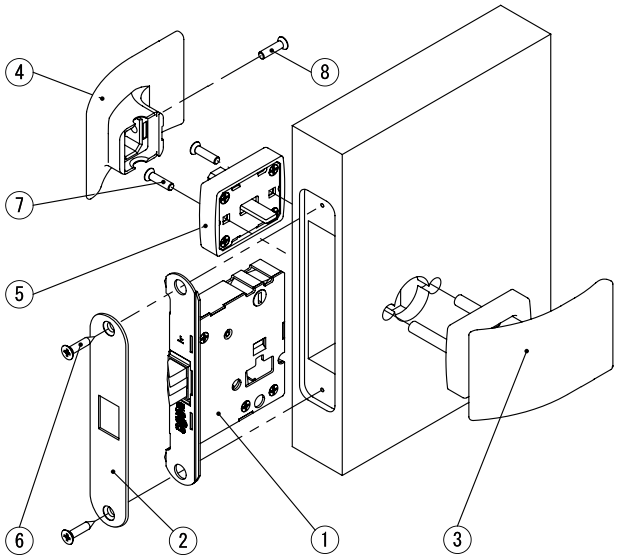
プッシュプル錠（カスタムオーダー対応）

施工手順

梱包内容・各部名称および取り付け方法

①錠ケース ×1個
②フロントカバー ×1個
③外部ハンドル ×1個
④内部ハンドル ×1個
⑤内部化粧座 ×1個
⑥錠取り付けビス(M4×20皿ビス　タッピン1種) ×2本
⑦化粧座取り付けビス(M4×16皿ビス D=7) ×2本
⑧ハンドル取り付けビス(M4×16皿ビス D=7) ×2本

対応扉厚　33～36㎜



取付方法

1 ⑥錠取り付けビスで①錠ケースと②フロントカバーを扉に取り付けてください。

2 外側の扉面に③外部ハンドルを取り付け、内側から⑦化粧座取り付けビスで⑤内部化粧座とともに③外部ハンドルを固定してください。
※化粧座の取り付けは錠と平行に取り付けてください。平行に取り付けられていない場合、閉じ込め、開放等の原因になる可能性がありますので特にご注意ください。

3 ⑤内部化粧座に④内部ハンドルを取り付けてください。

4 ⑧ハンドル取り付けビスで④内部ハンドルを固定してください。

⚠ 注意

ハンドル脱落防止のため、化粧座取り付けビス・ハンドル取り付けビスは確実にお締めください。

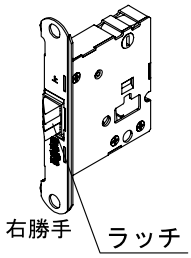
ハンドル取り付けビスを締めるとき、化粧座と内部ハンドルの間にすき間がないかご確認ください。すき間があると、がたつきの原因となります。
またインパクトドライバー等を使用しての施工はおやめください。ハンドルの作動不良、がたつきの原因となります。

ラッチ 勝手変更方法

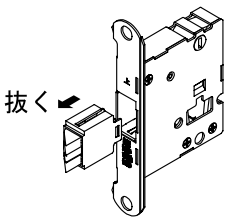
（図は右勝手から左勝手への変更を表現しています）

①フロントカバーを外した状態でラッチを抜いてください。

①-1

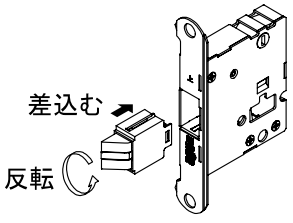


①-2

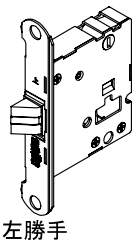


②ラッチを反転させ差し込んでください。

②-1

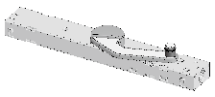


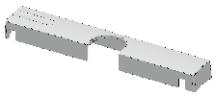
②-2



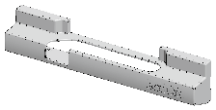
開きドア用ソフトクローズ金具

製品内容


■ 本体※:1個


■ 本体カバー※:1個


■ 受座※:1個


■ 受座カバー※:1個

※図はZH-1201-R（右吊元用）です。ZH-1201-L（左吊元用）は左右対称形状となります。


■ 受座スペーサー:1枚
(2㎜)


■ 受座スペーサー:1枚
(3㎜)


■ 本体取付用皿ねじ:2本
（呼び3.5×30）


■ 受座取付用ねじ:2本
（呼び4×16）

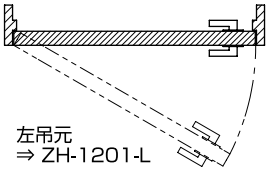


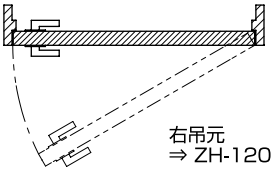
■ 受座取付テンプレート:1枚
■ 取扱説明書（本書）:1枚

取り付け前の確認

■ ドア吊元方向の確認
・ドアを開く側からみて、右側に吊元がある。
⇒ ZH-1201-R(右吊元用)をご使用ください。

・ドアを開く側からみて、左側に吊元がある。
⇒ ZH-1201-L(左吊元用)をご使用ください。





取り付け手順 ※図は ZH-1201-R（右吊元用）です。ZH-1201-L（左吊元用）は左右対称となります。

※本製品の取り付けは、ドアや枠の建て付け調整後におこなってください。

1.本体の取り付け

① 付属の本体取付用皿ねじ（呼び 3.5×30）2 本で上枠に取り付けます。
本体を吊元側のたて枠と戸当りに突き当て、指定の取付穴にて取り付けてください。

② アームを矢印の方向に図2の位置まで引き出します。この時、アームの上下方向や矢印と反対方向に力を加えないでください。
破損の原因となります。
アームが図 1 の状態ではドアダンパーは機能しません。

図1

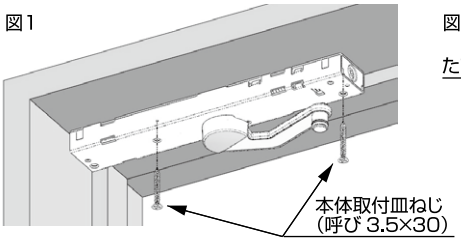


図2

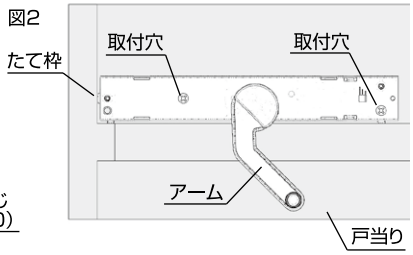
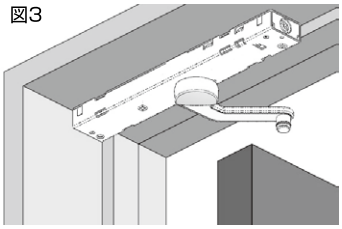


図3



2.受座の取り付け

① ドアをゆっくり閉めながら、アームの先端と付属の受座取付テンプレートの四角穴をあわせてください。

② ドアの上端面と受座取付テンプレートが平行になるよう調整し、受座取付テンプレートの2箇所の取付穴に印を付けてから下穴をあけてください。
その際、受座取付テンプレートをマスキングテープ等で仮固定すると作業が容易におこなえます。

③ 受座を付属の受座取付用ねじ（呼び4×16）2本でドアに取り付けます。

図4

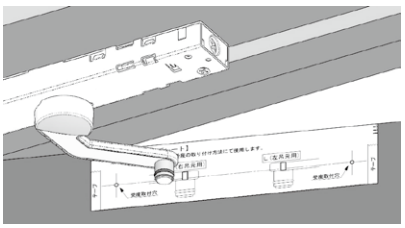
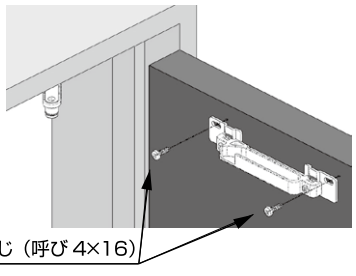
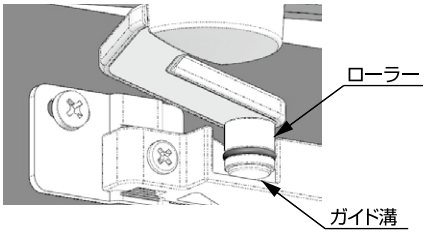


図5



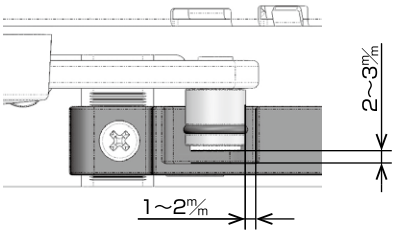
④ ドアをゆっくりと閉め、アームのローラーが受座のガイド溝に入ることをご確認ください。

図6



⑤ ローラーとガイド溝とのすき間が図7の範囲に入っていない場合は、受座の上下・左右位置調整をおこなってください。（詳細は「3. 受座の調整」をご参照ください。）

図7



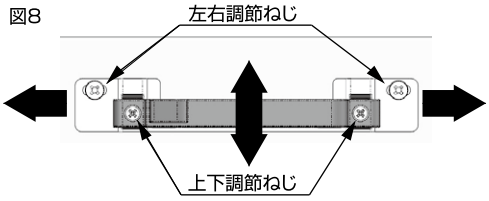
⑥ ドアをゆっくりと開閉し、正常に作動することをご確認ください。正常に作動しない場合は再度、受座の位置調整をおこなってください。

3.受座の調整

① ローラーが受座のガイド溝に入らない場合
⇒ 受座の上下・左右調整をおこなってください。

② ドアを開いたときにアームが戻ってしまう場合
⇒ 受座の左右調整で吊元方向に移動させてください。

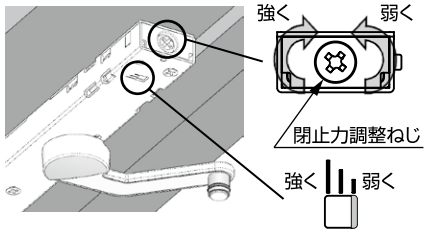
図8



4.閉止力の調整

① 閉止力が弱い場合（ドアが閉まりきらない場合など）
⇒ 本体の閉止力調整ねじで閉止力を調整してください。

図9



5.カバーの取り付け

① ドアを開いた状態で、本体カバー・受座カバーを取り付けます。

図10

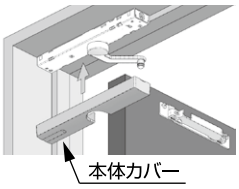
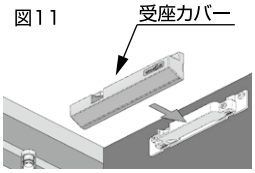


図11

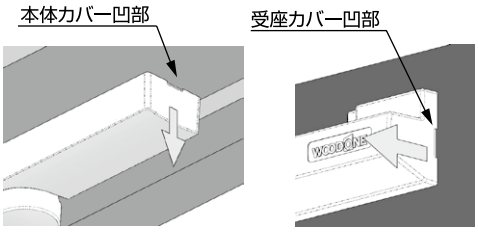


カバーの取り外し方法

・ドアを開けた状態で、カバーの凹部にマイナスドライバー等を差し込み、矢印の方向に引き出してください。

・反対側をつまんで両側均等に少しずつ取り出してください。

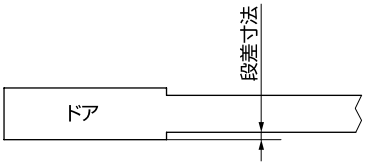
※枠・ドアにキズをつけないよう慎重に作業をおこなってください。



受座スペーサーの使用方法

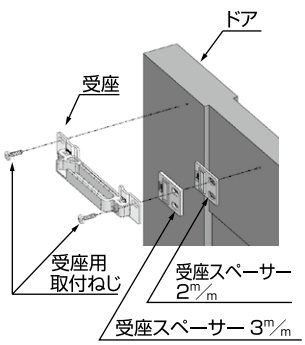
・段差のあるドアに本製品を取り付ける場合、付属の受座スペーサーを使用します。
・受座スペーサーは、厚さ 2㎜、3㎜ が各 1 枚付属し、ドアの段差 2㎜、3㎜、5㎜ に対応しています。
（ドアの段差 5㎜ の場合は、受座スペーサー 2㎜ と 3㎜ を重ねて使用します）
・受座スペーサーを付けたまま、受座の上下・左右調整をおこなうことができます。

■ 取り付け前の確認
・ドアの段差寸法を確認し、受座スペーサーを選定してください。

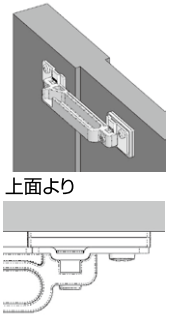


■ 使用例
・ドアの段差部に受座スペーサーを配置し受座にて挟み込みます。

【ドアの段差が5㎜の場合】
※図はZH-1201-R(右吊元用)



受座取付状態



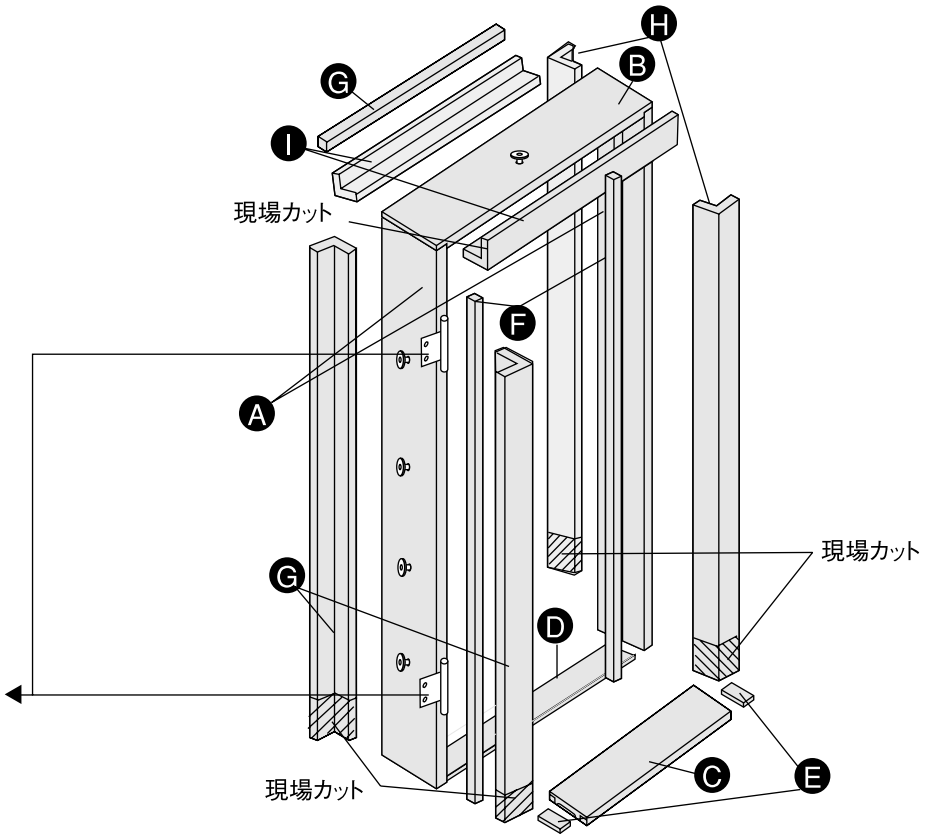
調整枠

内装ドア専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



お願い

丁番のベロ部分にはセロテープでキャップが取り付けてあります。
これはドア吊り込み時に使用しますので、必ず大切に保管をしてください。

梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
A	竪枠	2本	正寸カット済、丁番付×1、ラッチ受付×1
B	上枠	1本	正寸カット済
F	竪枠用戸当り	2本	現場カット
G	上枠用戸当り	1本	ピノアース・ジュピーノ・グランステージ…現場カット ソフトアート…正寸カット済
	施工説明書	1部	
	組み立て用専用ビス	4本	ビスセット
	下枠ベース専用ビス	4本	
	躯体接合金具用ビス	9本	
	ミニレンチ	1本	
	木ダボ	2本	
	戸当りビス	15(12)本	（　）はピノアース・ジュピーノの本数です。

ケーシングセット

	部材名	数量	備　考
H	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
I	上枠用ケーシング	2本	現場カット

下枠セット（別売品）

	部材名	数量	備　考
C	下枠	1本	正寸カット済、下枠ありの場合
D	下枠ベース	1本	正寸カット済、下枠ありの場合
E	通気スペーサー	2本	正寸カット済、下枠ありの場合

お願い

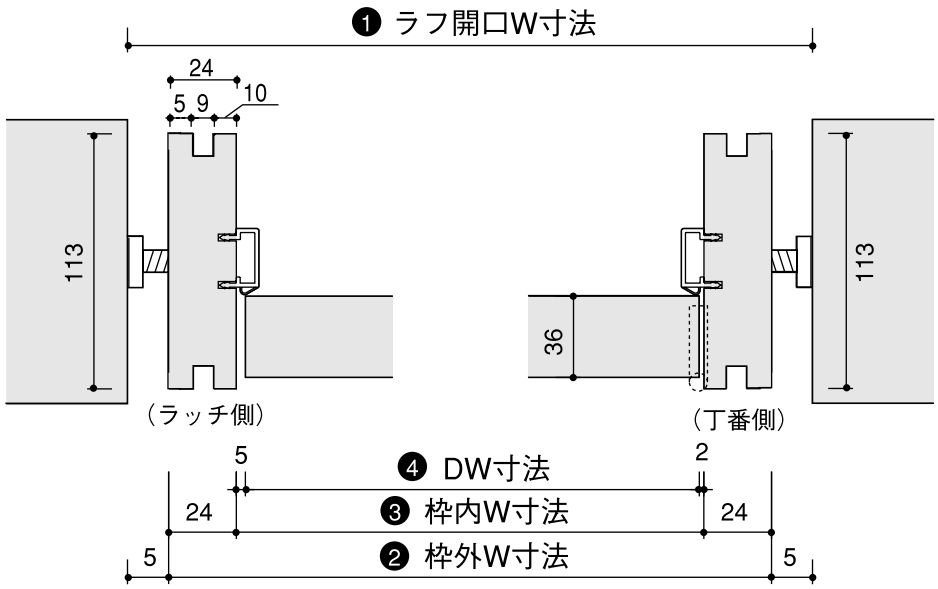
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
納まり図はソフトアートシリーズの場合です。ピノアース・ジュピーノ・グランステージシリーズの場合も寸法は同様になります。
※ハイドアは対応しているシリーズのみになります。

横断面図

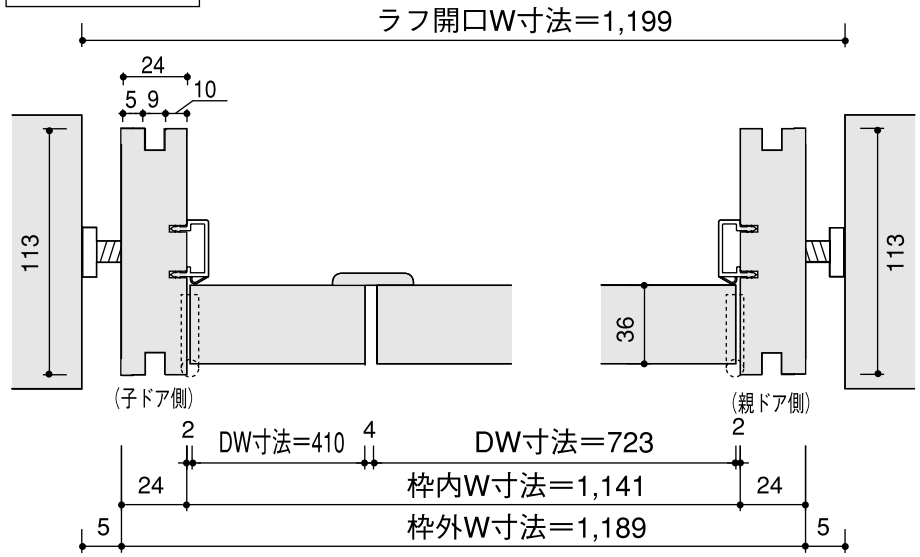
（単位：㎜）



■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	848	778	758	735	654（トイレ）
❶ラフ開口W寸法	858	788	768	745	664
❷枠外W寸法	848	778	758	735	654
❸枠内W寸法	800	730	710	687	606
❹DW寸法	793	723	703	680	599

親子ドアの場合



調整枠

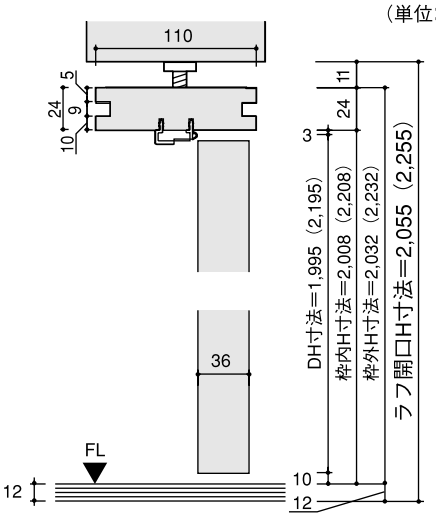
内装ドア専用枠材

縦断面図

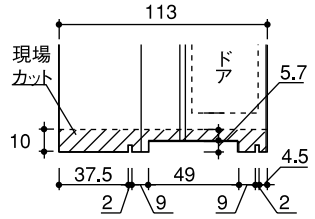
3方枠（下枠なし）

ドアに通気が必要な場合

（単位:㎜）

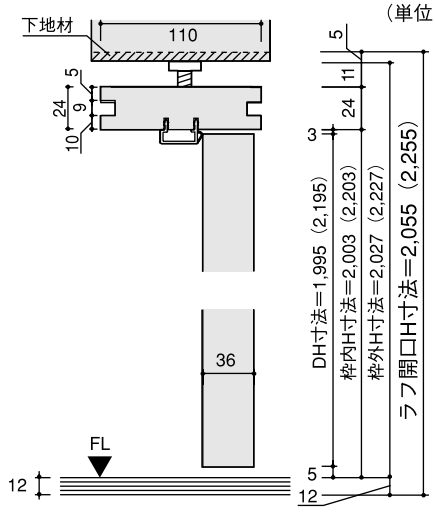


竪枠下端加工図

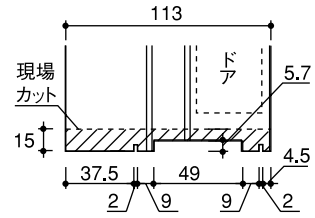


ドアに通気が不要な場合

（単位:㎜）



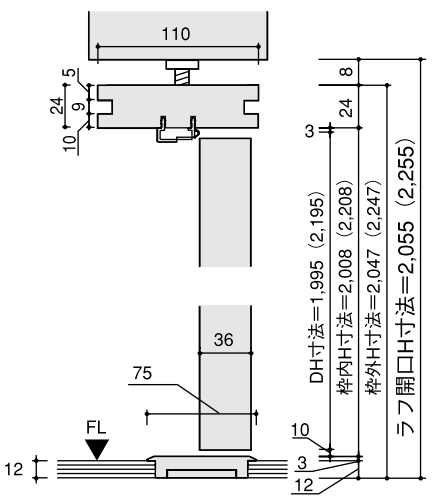
竪枠下端加工図



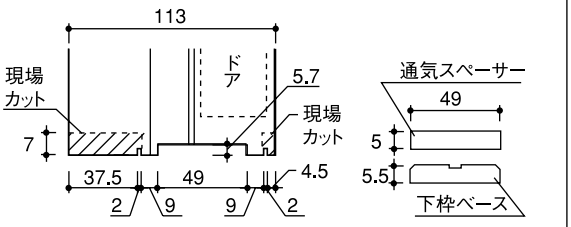
4方枠（下枠Q型）

ドアに通気が必要な場合

（単位:㎜）

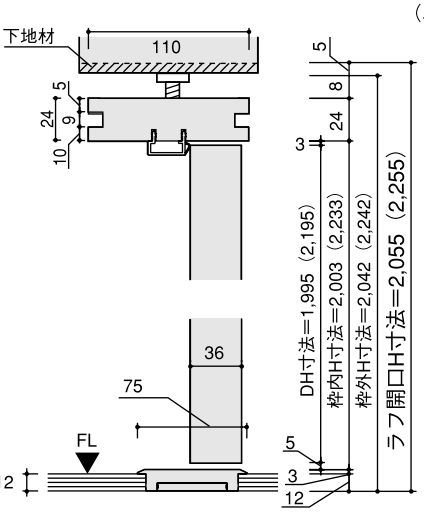


竪枠下端加工図

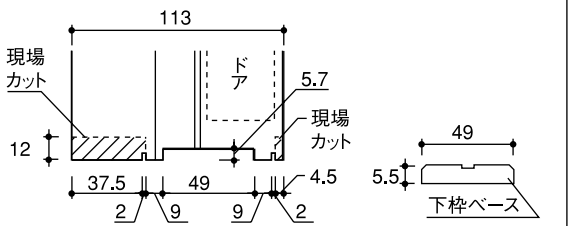


ドアに通気が不要な場合

（単位:㎜）



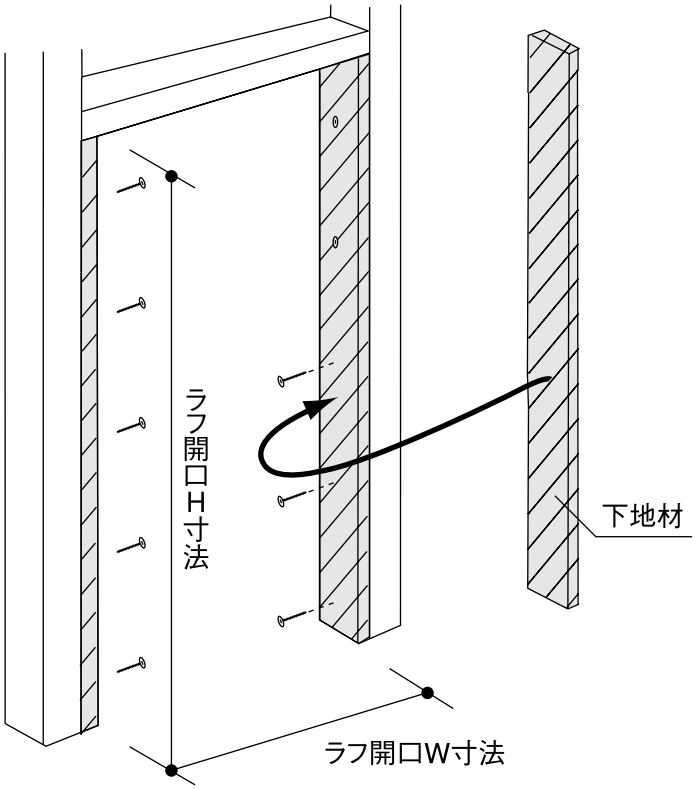
竪枠下端加工図



※（　）内の寸法はハイドアの場合です。

3. 施工手順

取り付け開口部の確認



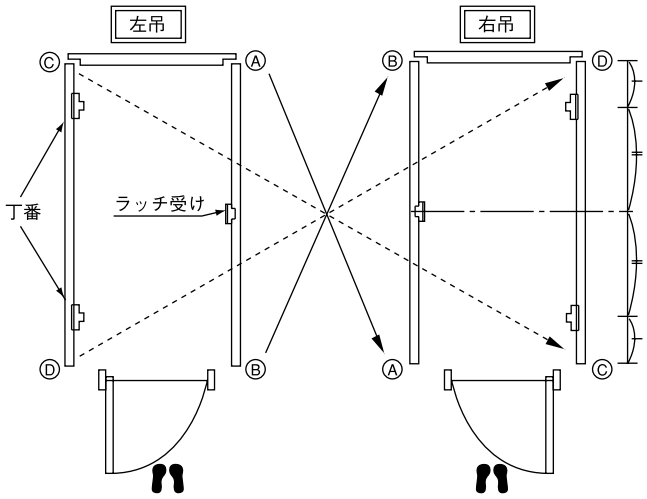
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠材寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

枠材の組み立て（前準備）

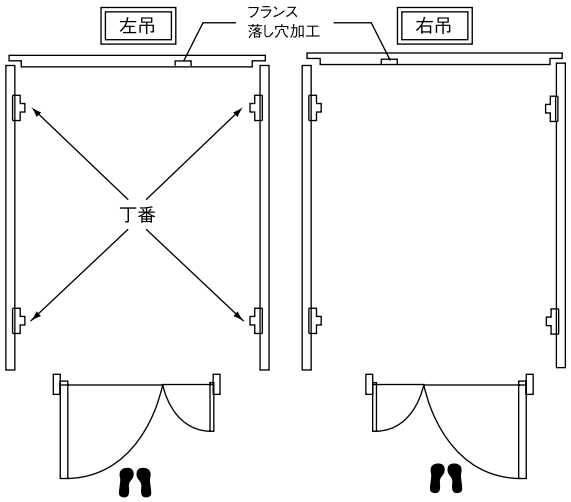
シングルドア

● 当社のドア枠は左右兼用です。開口部の吊元を確認の後、下図のように設定してください。

※ハイドアには右吊り、左吊りがあります。



親子ドア

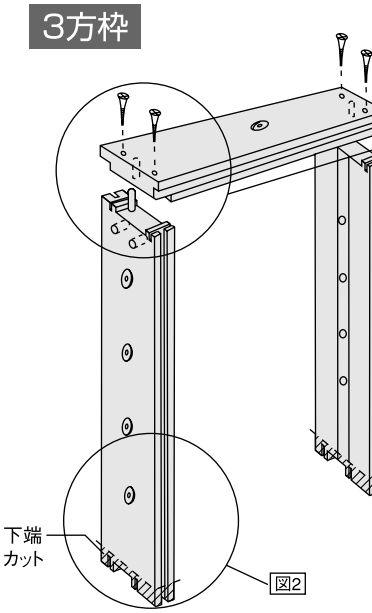


調整枠

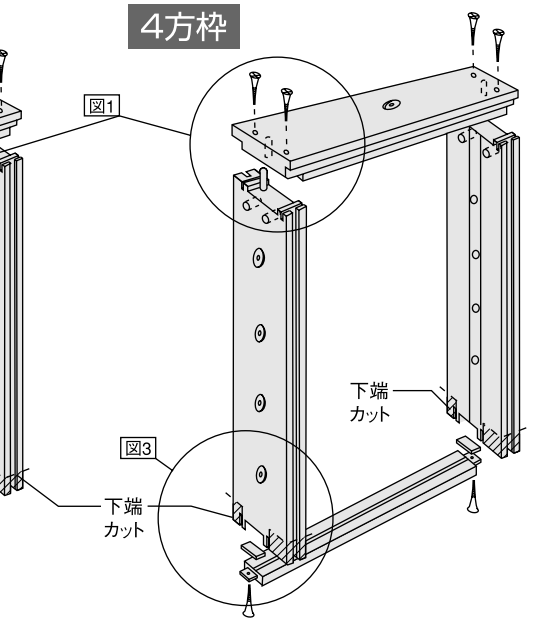
内装ドア専用枠材

枠材の組み立て（正寸カット済）

3方枠



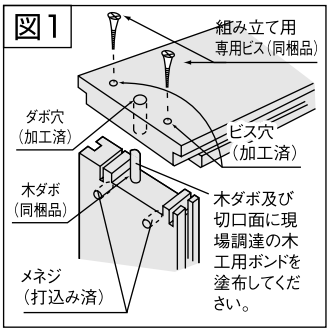
4方枠



お願い

開口部に通気が必要な場合、同梱の「通気スペーサー」を取り付けた後、下枠ベースを施工してください。

図1

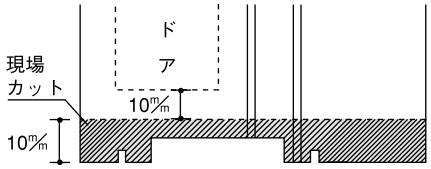


※メネジは、ソフトアートシリーズのみ

●ドアに通気が必要な場合

3方枠

図2 竪枠下端加工図

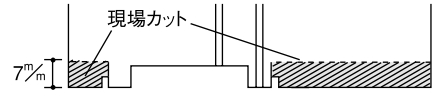


下端10㎜カットしてください。（ドアとのクリアランス10㎜）
※ドア下のクリアランスは最大14㎜までとれます。

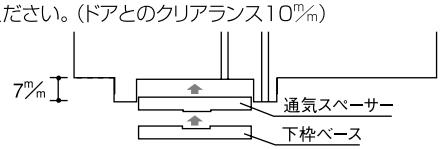
4方枠　下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図

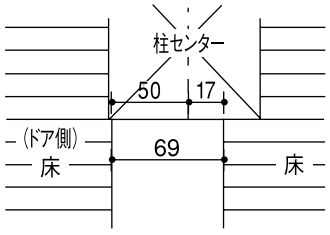
- 7㎜（斜線部）を欠き込んでください。



- 通気スペーサー（同梱）を装着して、下枠ベースを取り付けてください。（ドアとのクリアランス10㎜）



フロアーの張り込み位置

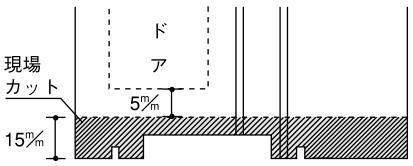


- 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

●ドアに通気が不要な場合

3方枠

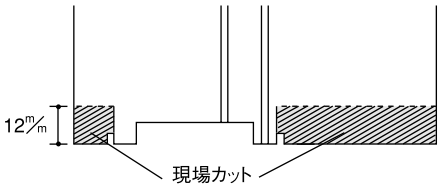
図2 竪枠下端加工図



下端15㎜カットしてください。（ドアとのクリアランス5㎜）
※ドア下のクリアランスは最大14㎜までとれます。

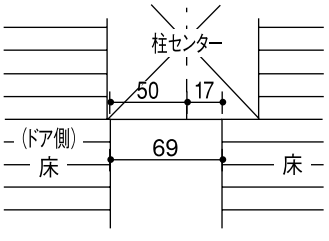
4方枠　下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図



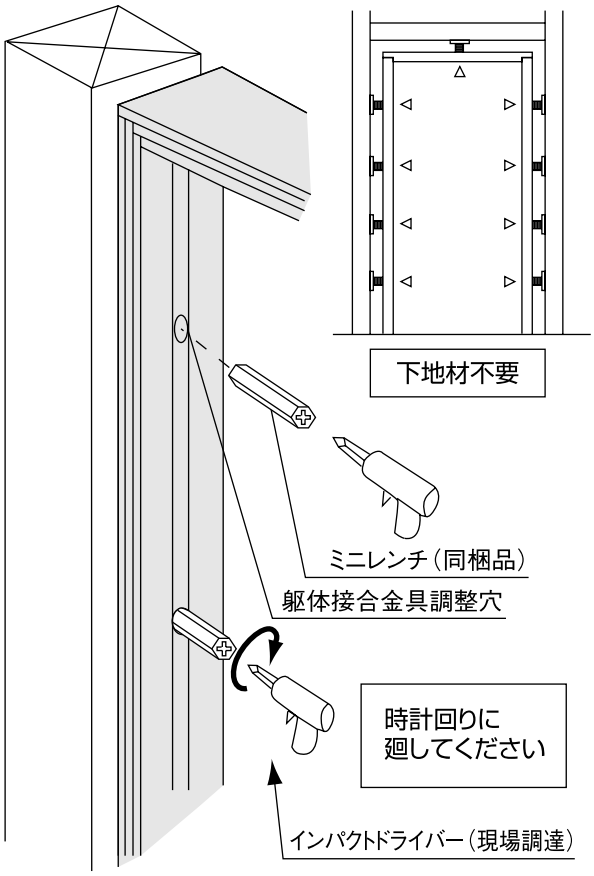
- 12㎜（斜線部）を欠き込んでください。

フロアーの張り込み位置

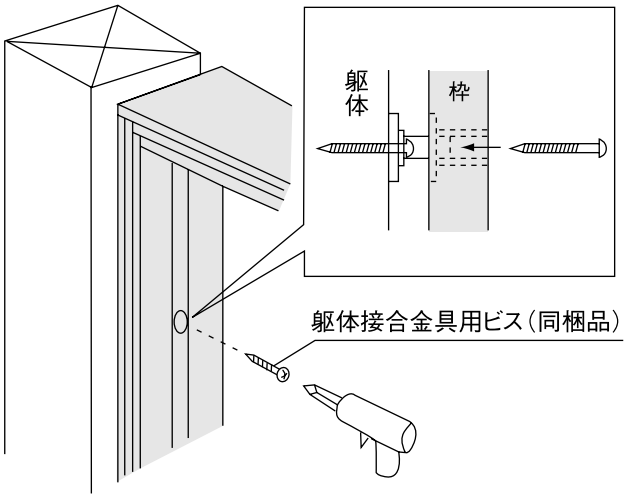


下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

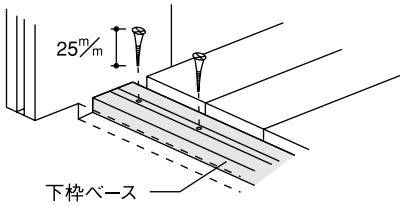
枠材の仮固定



竪枠の本固定



下枠ベースの固定（下枠埋め込みの場合）

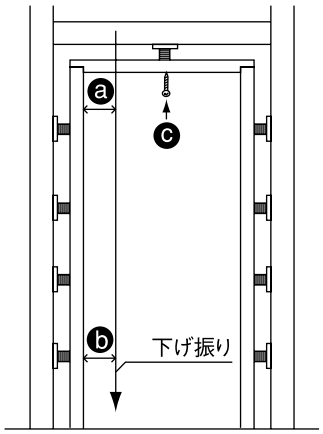


下枠ベースを同梱のビス（L＝25㎜）で
床下地材に固定します。

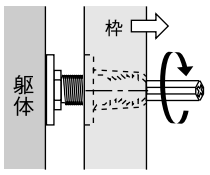
※いったん下枠本体ははずします。

建て付け調整ならびに上枠の本固定

●ⓐ =ⓑ となるよう調整してください。
合わせて前後の建りも調整してください。
●ⓒ は建りを調整後、最後に固定してください。

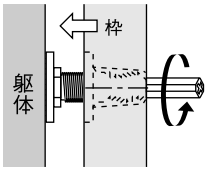


枠を内側に寄せる場合



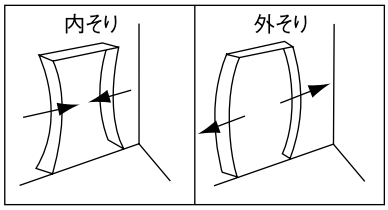
時計回り（右回り）で調整

枠を外側に出す場合



反時計回り（左回り）で調整

※右記の様なことがないようご注意ください。



ケーシングの取り付け

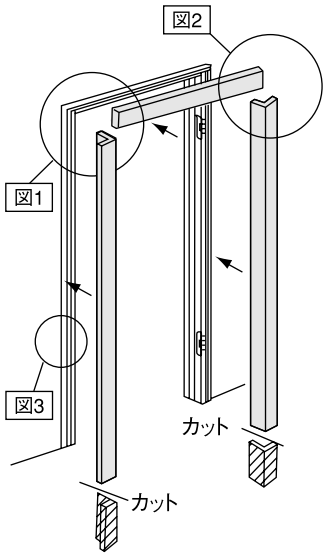


図1・図2

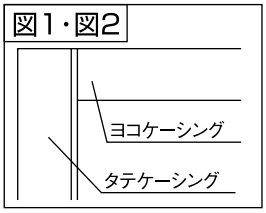
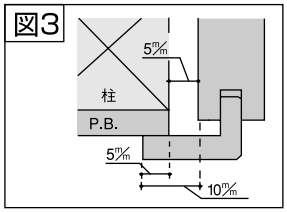


図3



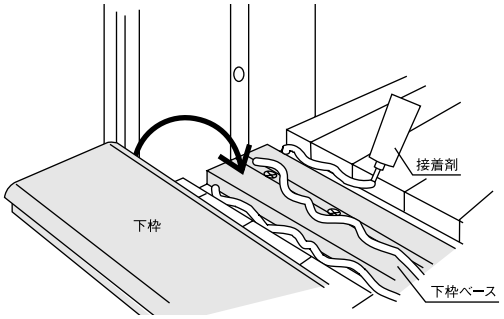
調整枠

内装ドア専用枠材

下枠の取り付け（4方枠の場合）

下枠Q型突板タイプ

下枠ベースの上に下枠を接着剤併用にてしっかりと固定して下さい。



お願い

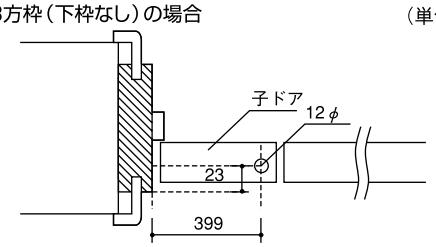
下枠端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。
必ず下枠中央を目安にたたき込んでください。

フランス落しの下穴加工

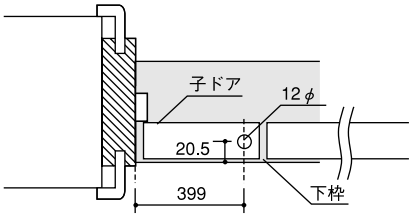
親子ドアの場合

下図のように下枠または、床面に直接12φの穴加工を施してください。

3方枠（下枠なし）の場合　（単位:㎜）



4方枠（下枠付）の場合

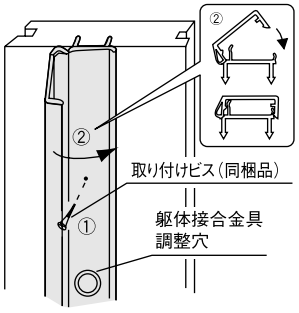


戸当りの取り付け

※シリーズによって取り付け方法が異なりますので、ご確認の上で、取り付けてください。

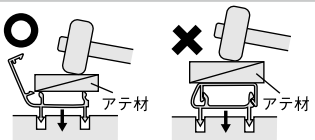
樹脂タイプ …ソフトアート

①上枠部の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



※上枠用戸当りも同梱のビスで固定してください。（ビス内訳:タテ…12本、ヨコ…3本）

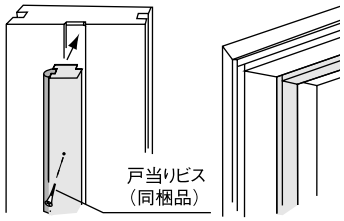
お願い



戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。

無垢タイプ … ピノアース・ジュピーノ・グランステージ

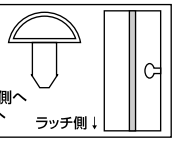
①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



お願い

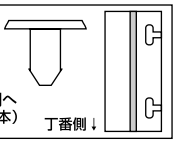
ドーム型

品番 ZY5020
2100 1本 ラッチ側へ
850 1本 上枠側へ



T型

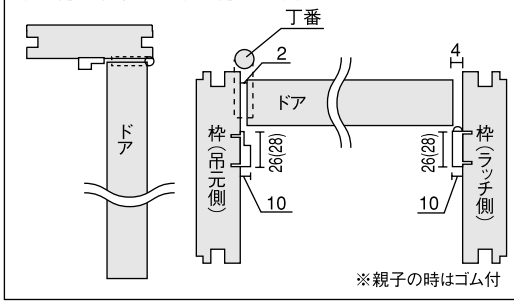
品番 ZY5021
2100 1本 丁番側へ
（親子ドア枠には2本）



ゴムパッキンは2種類用意させてもらっております。それぞれ右記のように施工される様お願いいたします。逆に使いますと、かみこみ等の不具合が発生する可能性がありますのでご注意ください。

換気対応型枠材をお使いのお客様へ

取り付け位置と、取り付け方向について

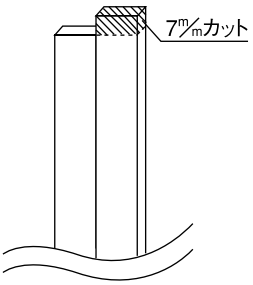


※親子の時はゴム付

※親子ドア枠の場合

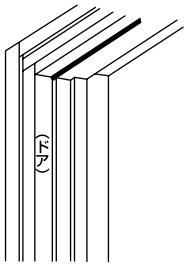
ソフトアート・グランステージ

竪枠用戸当りの上端7㎜をカットしてご使用ください。



下端は、DH寸法に合わせてカットしてください。

ピノアース・ジュピーノ



①上枠部の戸当り（ゴム付）を取り付けます。
②竪枠の戸当り（ゴムなし）を高さにあわせ長さカットをし、取り付けます。

施工終了後

養生　当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

固定枠 155 巾・170 巾

内装ドア専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

施工の前に

●躯体接合金具はピノアース·ジュピーノのみです。施工方法が一部異なりますので、説明をよくお読みになって施工してください。
●メネジはソフトアートシリーズのみ加工されています。

親子ドア 梱包内容

枠材本体（ピノアース·ジュピーノ）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、丁番·ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	
	躯体接合金具用ビス	9本	
	下枠ベース用ビス	4本	
	ミニレンチ	1本	
	木ダボ	2本	
	戸当りビス	15本	
	フランス落とし	1個	
	フランス落とし用ビス	2本	

枠材本体（ソフトアート）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、丁番·ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	下枠ベース専用ビス	4本	
	戸当りビス	15本	
	木ダボ	2本	
	フランス落とし	1個	
	フランス落とし用ビス	2本	

シングルドア　トイレドア 梱包内容

枠材本体（ピノアース·ジュピーノ）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	
	躯体接合金具用ビス	9本	
	下枠ベース用ビス	4本	
	ミニレンチ	1本	
	木ダボ	2本	
	戸当りビス	15本	

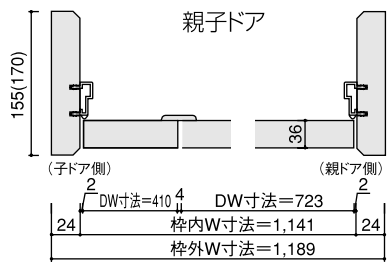
枠材本体（ソフトアート）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	下枠ベース専用ビス	4本	
	戸当りビス	15本	
	木ダボ	2本	

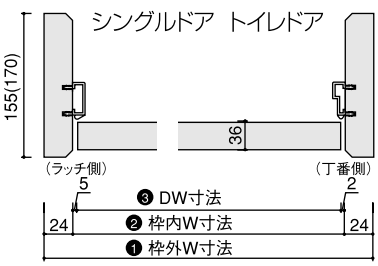
2. 納まり図

※170巾の固定枠はソフトアートシリーズのみ対応しています。
※ハイドアの固定枠はソフトアートシリーズのみ対応しています。

横断面図



（　）内は170巾の場合の寸法です。



（単位：㎜）

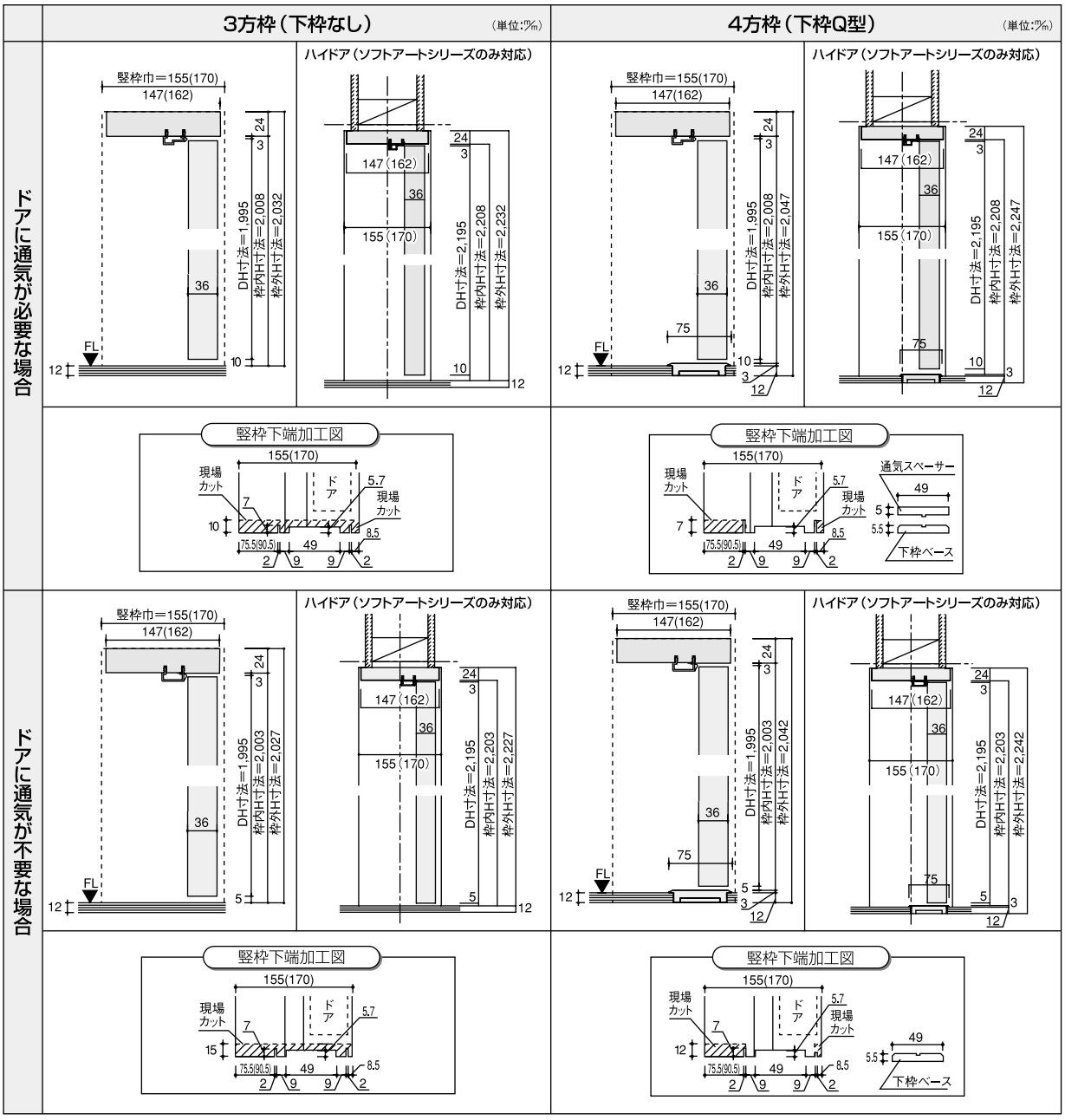
■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	848	778	758	735	654（トイレドア）
❶枠外W寸法	848	778	758	735	654
❷枠内W寸法	800	730	710	687	606
❸DW寸法	793	723	703	680	599

※ピノアース·ジュピーノシリーズには躯体接合金具が付いています。
ラフ開口を枠外寸法+10㎜で設定してください。

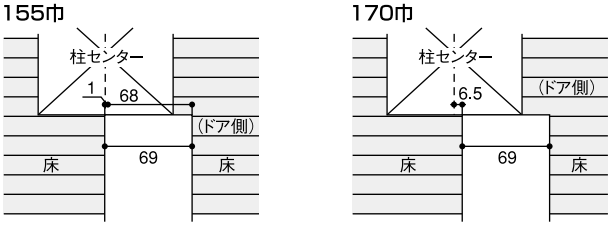
2. 納まり図

縦断面図



※（ ）内は170巾の場合の寸法です。
※ピノアース・ジュピーノシリーズには躯体接合金具が付いています。ラフ開口を枠外寸法+10㎜で設定してください。
※ハイドアはソフトアートシリーズのみ対応です。

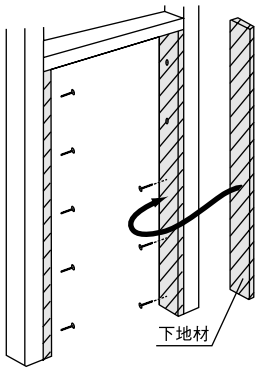
●床板の張り込み寸法



3. 施工手順

取り付け開口部の確認・枠材の吊り元確認

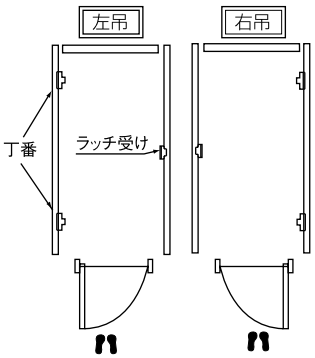
●取り付け開口部の確認



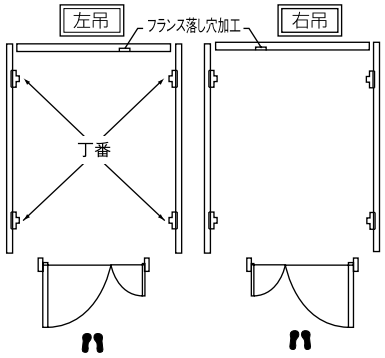
ピノアース・ジュピーノシリーズには躯体接合金具が**装備されているため**、納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**ラフ開口**を設けてください。

ソフトアートシリーズには躯体接合金具が**装備されていないため**、納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。

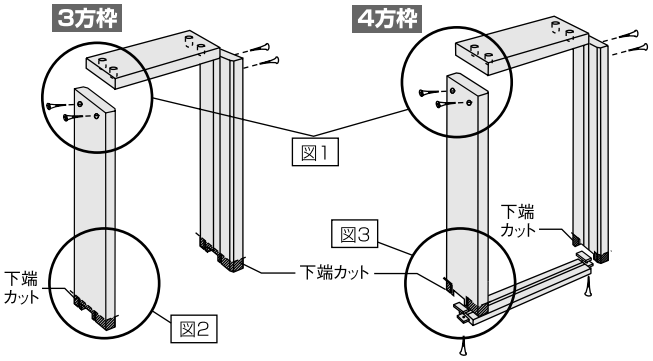
シングルドア



親子ドア



枠材の組み立て

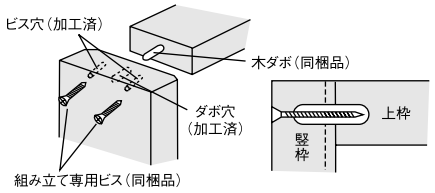


お願い

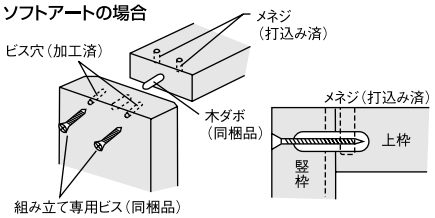
開口部に通気が必要な場合、同梱の「通気スペーサー」を取り付けた後、下枠ベースを施工してください。

図1 木ダボおよび切口面に木工用ボンドを塗布してください。

ピノアース・ジュピーノの場合



ソフトアートの場合

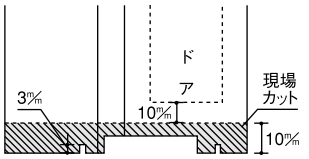


●ドアに通気が必要な場合

3方枠

図2 竪枠下端加工図

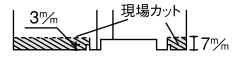
下端10㎜カットしてください。
（ドアとのクリアランス10㎜）
※ドア下のクリアランスは最大14㎜までとれます。



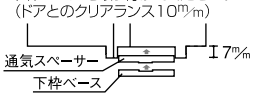
4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図

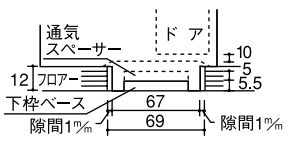
●7㎜（斜線部）を欠き込んでください。



●通気スペーサー（同梱）を装着して、下枠ベースを取り付けてください。
（ドアとのクリアランス10㎜）



竪枠とフロアーの納まり



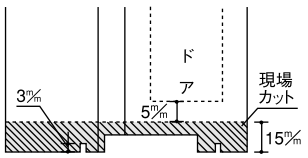
●15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

●ドアに通気が不要な場合

3方枠

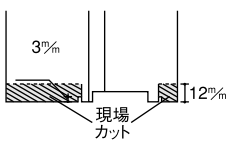
図2 竪枠下端加工図

下端15㎜カットしてください。
（ドアとのクリアランス5㎜）
※ドア下のクリアランスは最大14㎜までとれます。



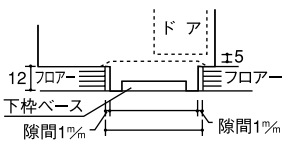
4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図



●12㎜（斜線部）を欠き込んでください。

竪枠とフロアーの納まり



下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

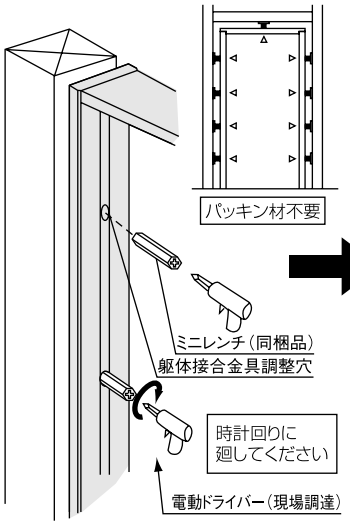
固定枠 155 巾・170 巾

内装ドア専用枠材

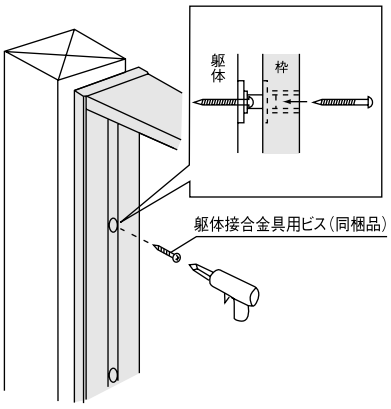
枠材の固定（ピノアース・ジュピーノとソフトアートで施工方法が異なります）

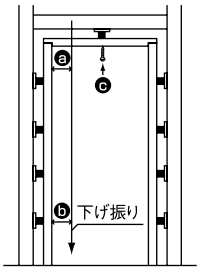
ピノアース・ジュピーノ枠の場合

枠材の仮固定

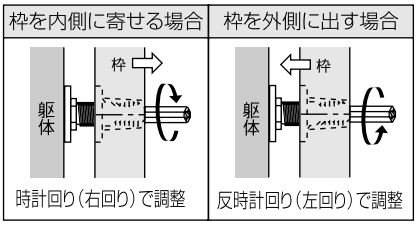


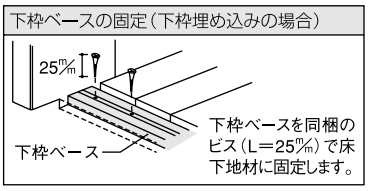
建て付け調整ならびに枠材の本固定





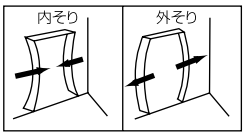
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。





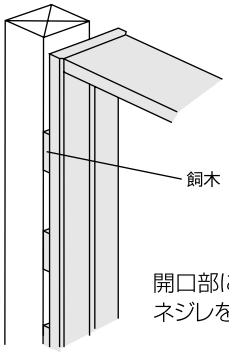
いったん下枠本体ははずします。

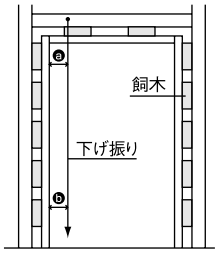
※右記の様なことがないようご注意ください。



ソフトアート枠の場合

枠材の仮固定

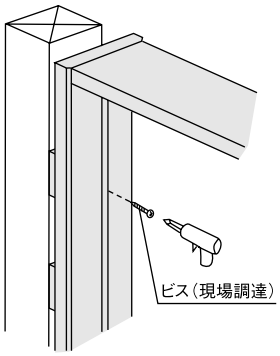


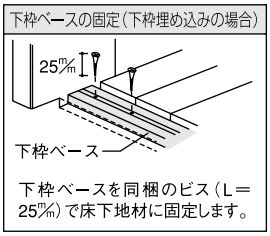


- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材の本固定



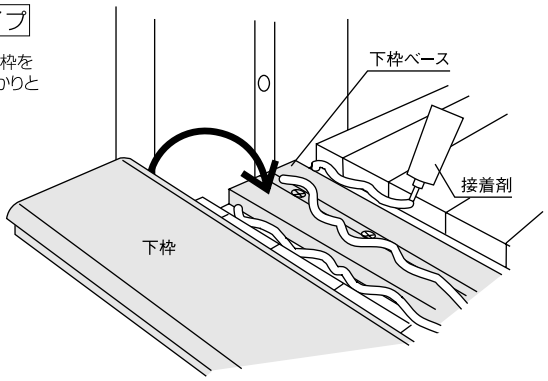


いったん下枠本体ははずします。

下枠の取り付け

下枠Q型突板タイプ

下枠ベースの上に下枠を接着剤併用にてしっかりと固定して下さい。



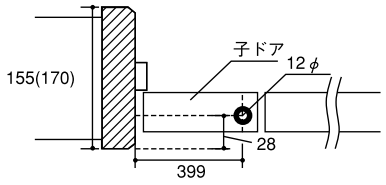
お願い

下枠端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず下枠中央を目安にたたき込んでください。

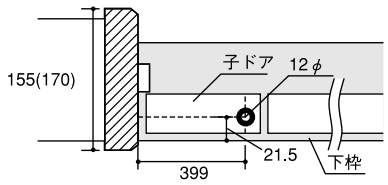
フランス落しの下穴加工

下図のように上枠及び下枠または、床面に直接12φの穴加工を施してください。

3方枠（下枠なし）の場合
（単位:㎜）



4方枠（下枠付）の場合
（単位:㎜）

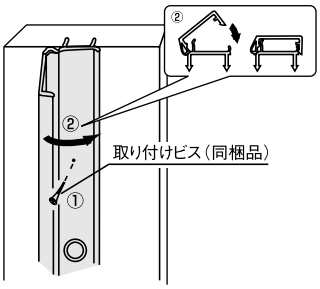


戸当りの取り付け

※シリーズによって取り付け方法が異なりますので、ご確認の上で、取り付けてください。

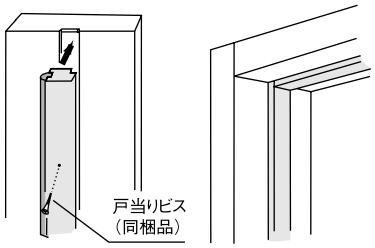
樹脂タイプ ……ソフトアート

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



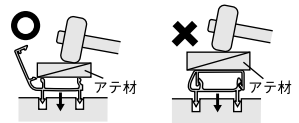
無垢タイプ …ピノアース・ジュピーノ・グランステージ

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



※上枠用戸当りも同梱のビスで固定してください。（ビス内訳:タテ…12本、ヨコ…3本）

お願い

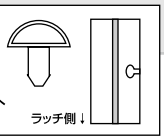


戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。

お願い

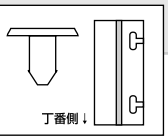
ゴムパッキンは2種類用意させてもらっております。それぞれ右記のように施工される様お願いいたします。逆に使いますと、かみこみ等の不具合が発生する可能性がありますのでご注意ください。

ドーム型



品番　ZY5020
2100 1本　ラッチ側へ
850　1本　上枠側へ

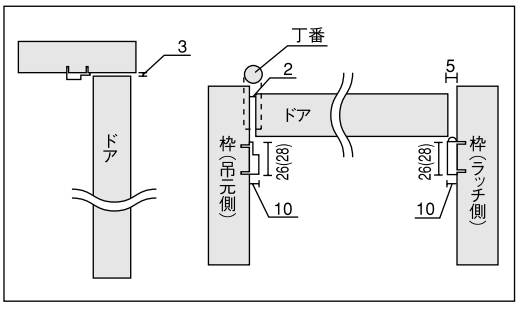
T型

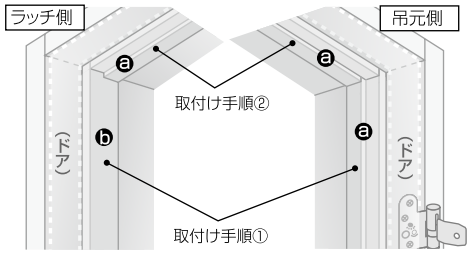


品番　ZY5021
2100 1本　丁番側へ
（親子ドア枠には2本）

⚠ 注意

戸当りの取り付け位置・向きにご注意ください。





ⓐの換気対応戸当たりは、取り付け位置（上枠・丁番側竪枠）、向き（凹んだ方がドア方向）を確認のうえ、お取り付けください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

固定枠 90 巾・113 巾

集合住宅用ドア専用枠

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

親子ドア 梱包内容

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	正寸カット済、丁番付
	上枠	1本	正寸カット済
	竪枠用戸当り	2本	現場カット要
	上枠用戸当り	1本	正寸カット済
	組み立て専用ビス	4本	
	戸当りビス	15本	
	下枠組み立て用ビス	4本	
	木ダボ	2本	

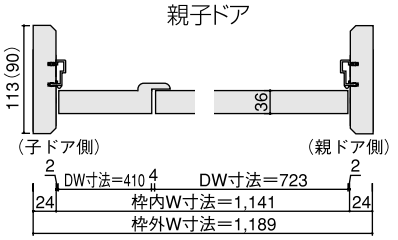
シングルドア　トイレドア 梱包内容

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	正寸カット済、丁番付
	上枠	1本	正寸カット済
	竪枠用戸当り	2本	現場カット要
	上枠用戸当り	1本	正寸カット済
	組み立て専用ビス	4本	
	戸当りビス	15本	
	下枠組み立て用ビス	4本	
	木ダボ	2本	

2. 納まり図

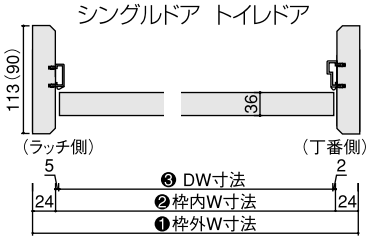
横断面図

親子ドア



（　）内は90巾の場合の寸法です。

シングルドア　トイレドア



（単位：㎜）

■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	848	778	758	735	654 (トイレドア)
❶枠外W寸法	848	778	758	735	654
❷枠内W寸法	800	730	710	687	606
❸DW寸法	793	723	703	680	599

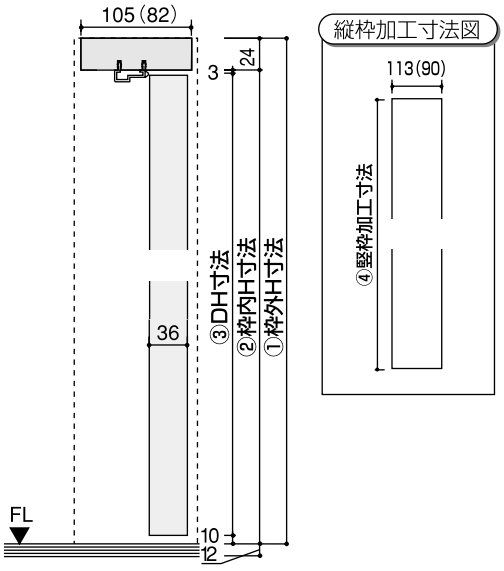
縦断面図

※（　）内は90巾の場合の寸法です。

ドアに通気が必要な場合

3方枠

（単位：㎜）

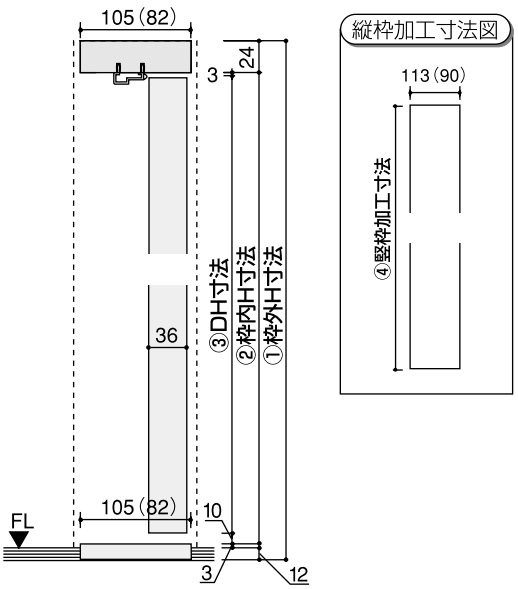


■ 枠製品寸法と納まり（3方枠）

①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,032	2,008	1,995	2,032
1,917	1,893	1,880	1,917
1,837	1,813	1,800	1,837

4方枠

（単位：㎜）



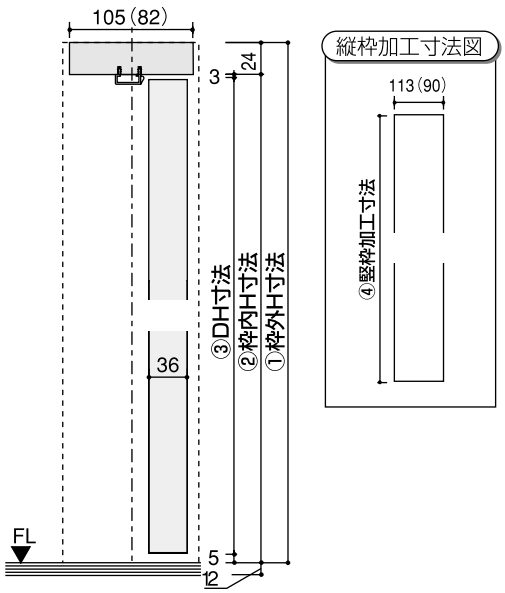
■ 枠製品寸法と納まり（4方枠）

①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,047	2,008	1,995	2,047
1,932	1,893	1,880	1,932
1,852	1,813	1,800	1,952

ドアに通気が不要な場合

3方枠

（単位：㎜）

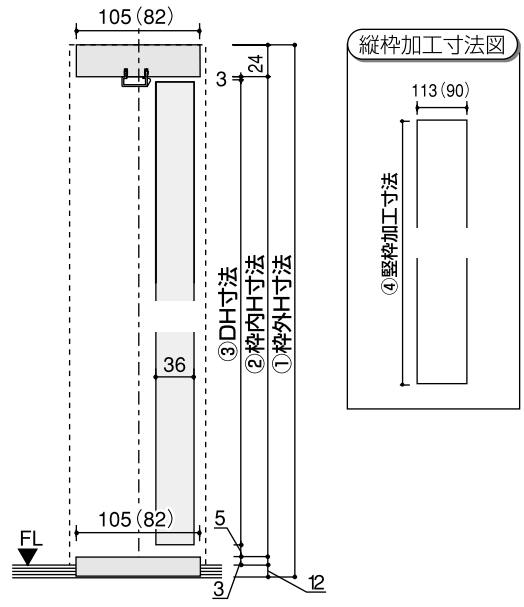


■ 枠製品寸法と納まり（3方枠）

①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,027	2,003	1,995	2,027
1,912	1,888	1,880	1,912
1,832	1,808	1,800	1,832

4方枠

（単位：㎜）



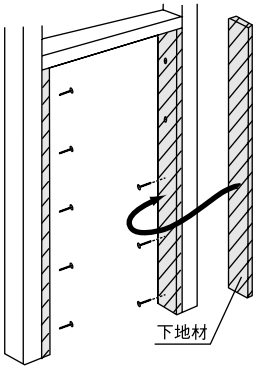
■ 枠製品寸法と納まり（4方枠）

①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,042	2,003	1,995	2,042
1,927	1,888	1,880	1,927
1,847	1,808	1,800	1,847

3. 施工手順

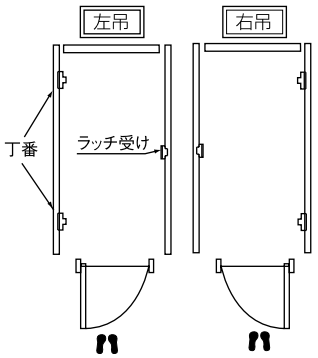
取り付け開口部の確認・枠材の吊り元確認

●取り付け開口部の確認

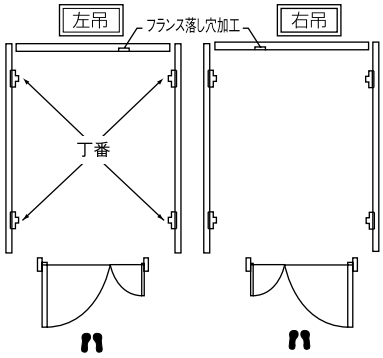


躯体接合金具が**装備されていないため**、納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。

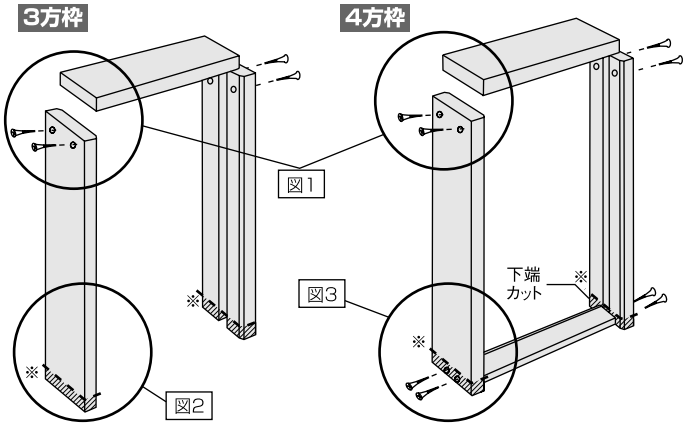
シングル・トイレドア



親子ドア

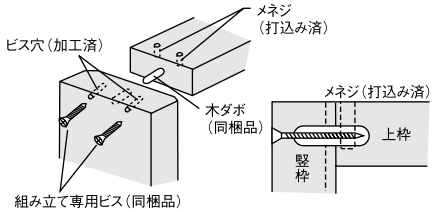


枠材の組み立て



※下端欠き込みスリットなし

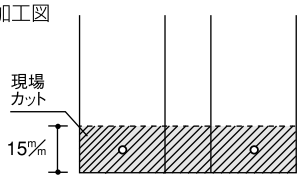
図1 木ダボおよび切口面に木工用ボンドを塗布してください。



●ドアに通気が必要な場合

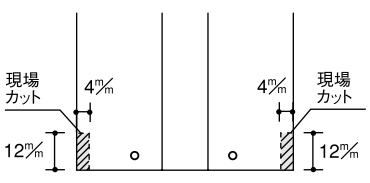
3方枠

図2 竪枠下端加工図



4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

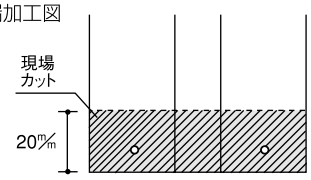
図3 竪枠下端加工図



●ドアに通気が不要な場合

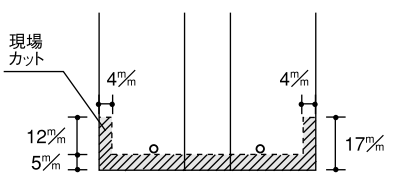
3方枠

図2 竪枠下端加工図

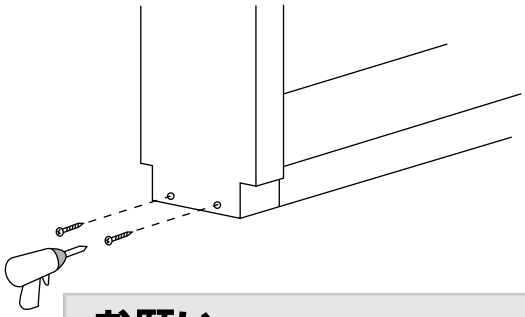


4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図



下枠の取り付け（4方枠の場合）



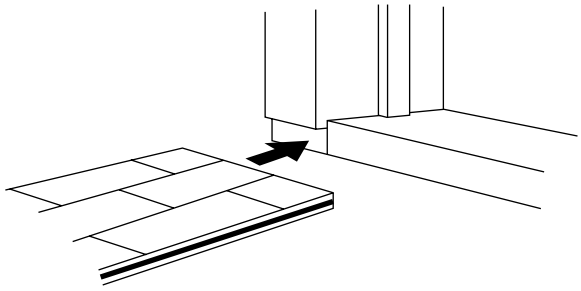
お願い

下枠はL=800㎜を内寸法に合わせてカットしてください。

敷居と床の納まり

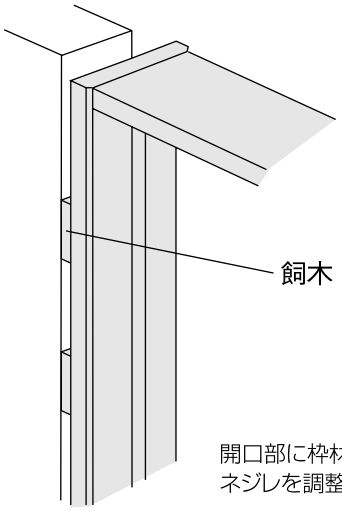
床板は敷居に突き付けとなります。

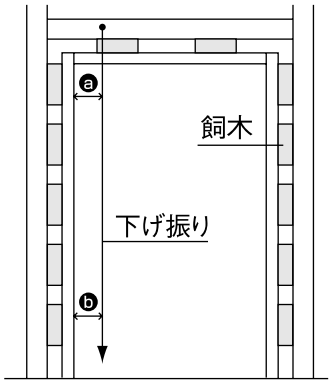
※床板の厚みが15㎜の場合、枠、下枠の下に3㎜のベニヤなどをかませて高さを調整してください。



枠材の固定

枠材の仮固定と建て付け調整

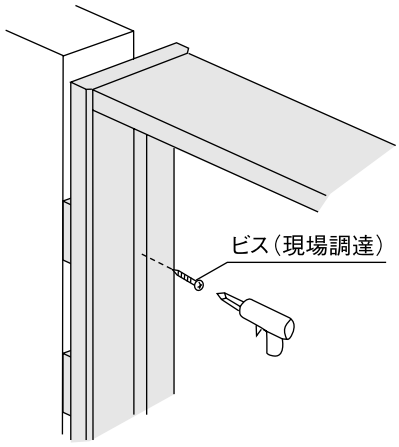




● ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
合わせて前後の建りも調整してください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材の本固定



固定枠 90 巾・113 巾

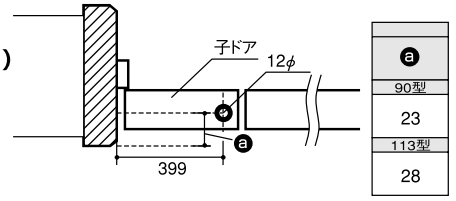
集合住宅用ドア専用枠

フランス落しの下穴加工

下図のように上枠及び下枠または、床面に直接12φの穴加工を施してください。

3方枠（下枠なし）の場合

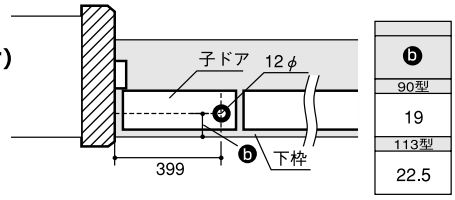
（単位:㎜）



ⓐ	
90型	23
113型	28

4方枠（下枠付）の場合

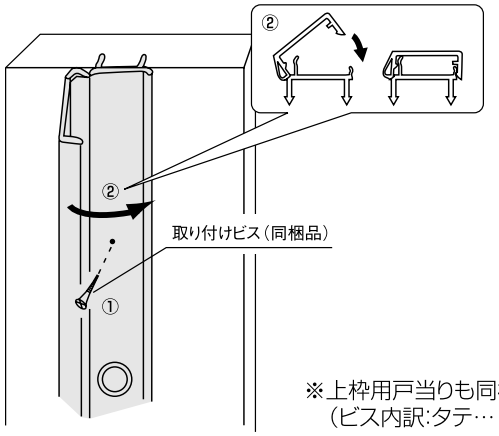
（単位:㎜）



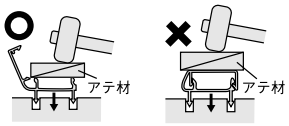
ⓑ	
90型	19
113型	22.5

戸当りの取り付け

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



お願い

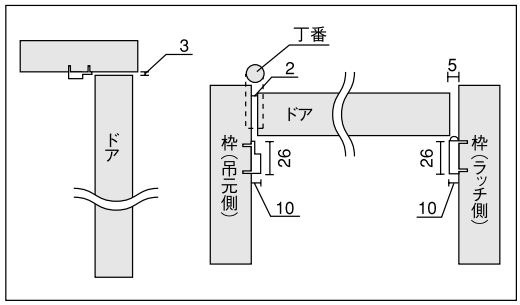


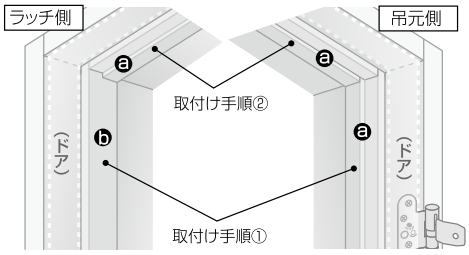
戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。

※上枠用戸当りも同梱のビスで固定してください。
（ビス内訳:タテ…12本、ヨコ…3本）

⚠ 注意

戸当りの取り付け位置・向きにご注意ください。





ⓐの換気対応戸当たりは、取り付け位置（上枠・丁番側竪枠）、向き（凹んだ方がドア方向）を確認のうえ、お取り付けください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

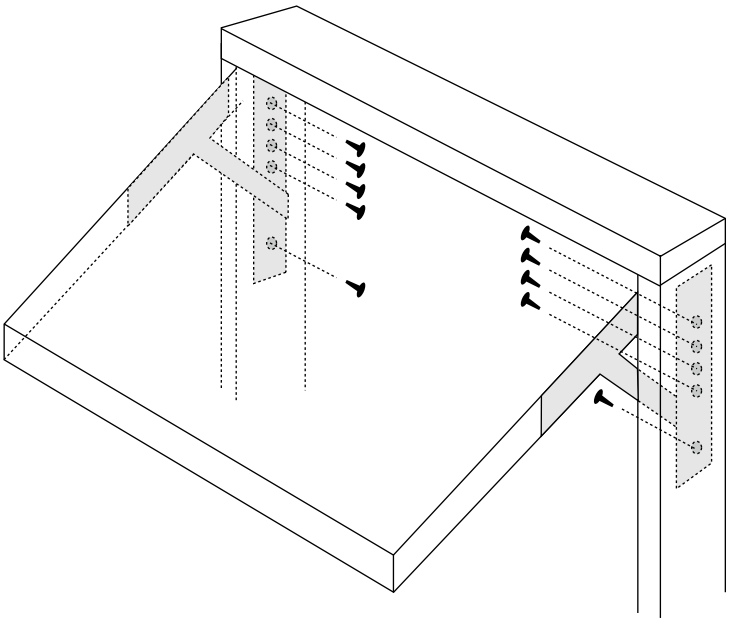
お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

欄間ドア

1. 施工手順

欄間ドアの取り付け



欄間付きドア専用枠には、欄間ドア取り付け用のビス下穴があいています。同梱のビスで確実にとめてください。

⚠ 注意

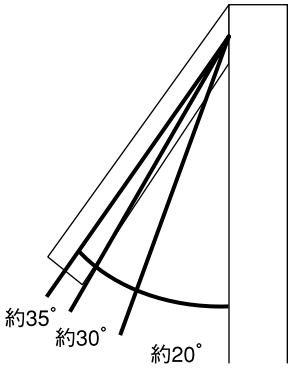
必ずおこなう

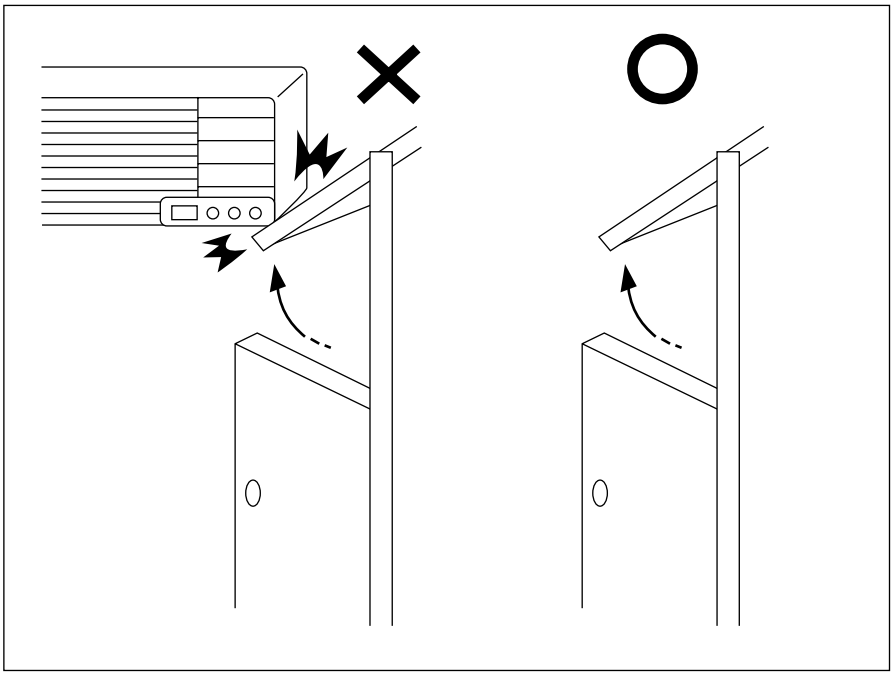
固定のビスどめは確実に行ってください。

確実にビスどめをしないと、欄間ドアの落下などの原因となり、ケガをするおそれがあります。

施工場所の注意

欄間ドアは3段階の角度で開閉することができます。開閉ドアの開閉範囲内に障害物があると、開閉に支障をきたすおそれがあります。施工場所にご注意ください。





固定枠 155 巾

欄間付きドア専用枠

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

施工の前に

●メネジはソフトアートシリーズのみ加工されています。

欄間ドア 梱包内容

枠材本体（ピノアース）

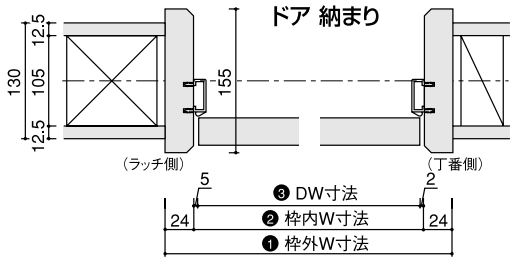
	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	
	下枠ベース用ビス	4本	
	木ダボ	2本	
	戸当りビス	15本	

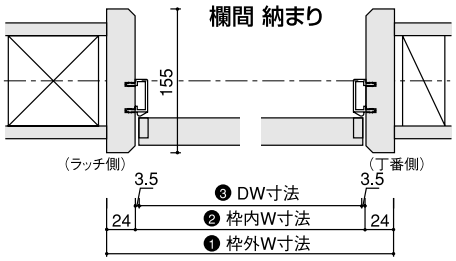
枠材本体（ソフトアート）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	
	下枠ベース専用ビス	4本	
	戸当りビス	15本	
	木ダボ	2本	

2. 納まり図

横断面図



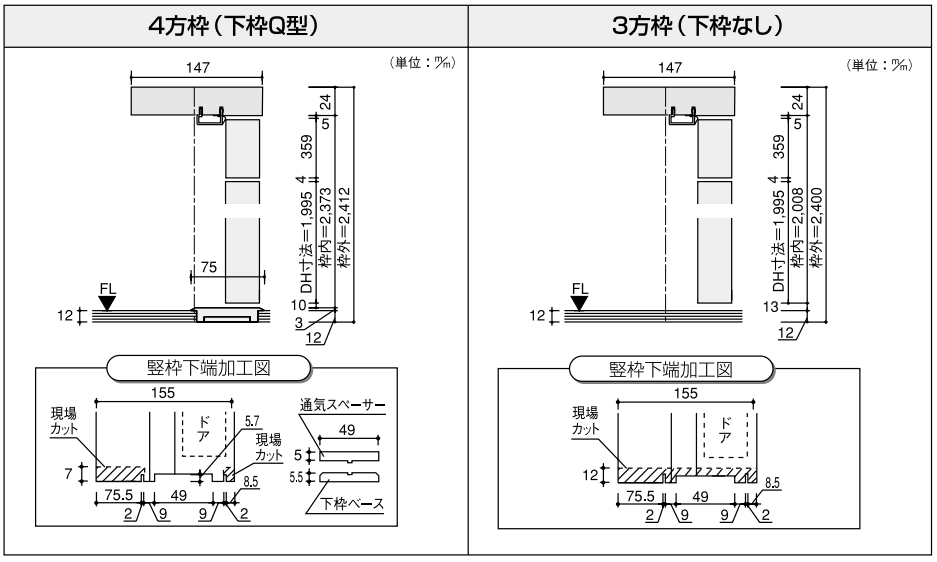


（単位：㎜）

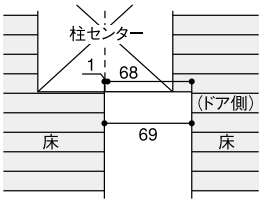
■枠製品寸法と納まり

製品寸法	778	758
❶枠外W寸法	778	758
❷枠内W寸法	730	710
❸DW寸法	723	703

縦断面図



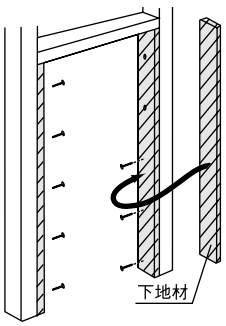
●床板の張り込み寸法



3. 施工手順

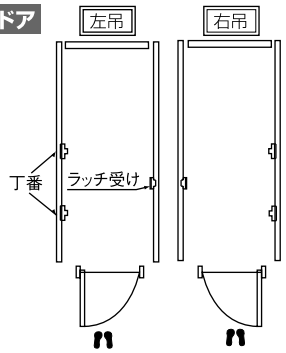
取り付け開口部の確認・枠材の吊り元確認

●取り付け開口部の確認

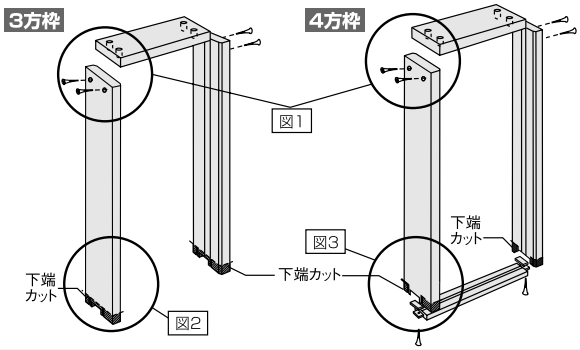


躯体接合金具は**装備されていません。**
納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。

シングルドア



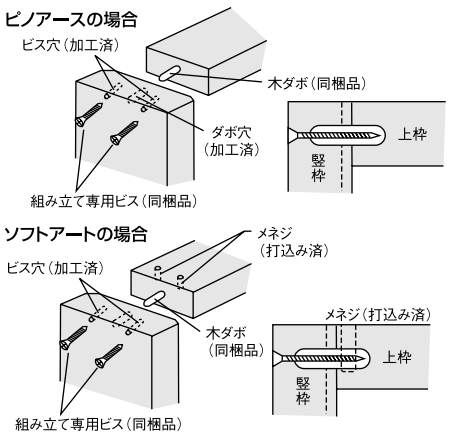
枠材の組み立て



お願い

開口部に通気が必要な場合、同梱の「通気スペーサー」を取り付けた後、下枠ベースを施工してください。

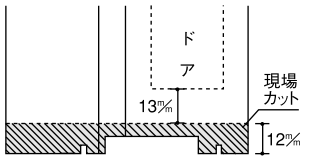
図1 木ダボおよび切口面に木工用ボンドを塗布してください。



3方枠

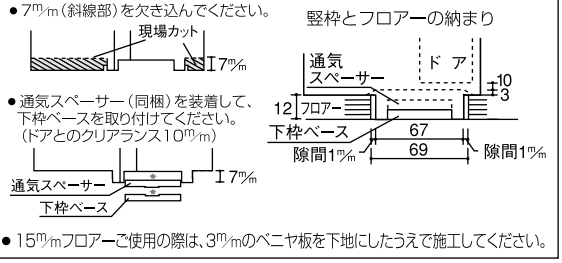
図2 竪枠下端加工図

下端12㎜
カットしてください。
（ドアとのクリアランス13㎜）



4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

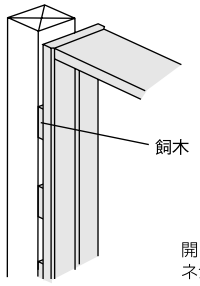
図3 竪枠下端加工図

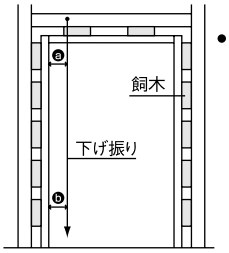


●15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

枠材の固定

枠材の仮固定

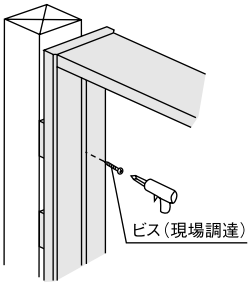




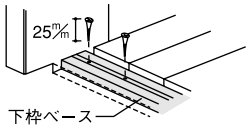
●ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材の本固定



下枠ベースの固定（下枠埋め込みの場合）



下枠ベースを同梱のビス（L＝25㎜）で床下地材に固定します。

いったん下枠本体ははずします。

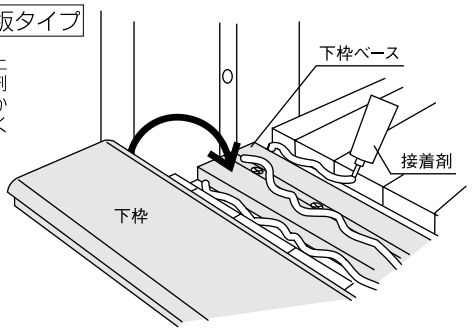
固定枠 155 巾

欄間付きドア専用枠

下枠の取り付け

下枠Q型突板タイプ

下枠ベースの上に下枠を接着剤併用にてしっかりと固定してください。



お願い

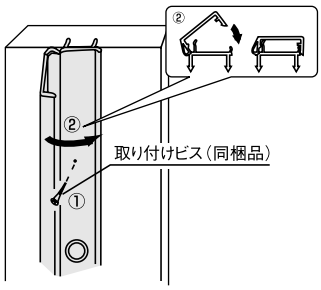
下枠端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。
必ず下枠中央を目安にたたき込んでください。

戸当りの取り付け

※シリーズによって取り付け方法が異なりますので、ご確認の上で、取り付けてください。

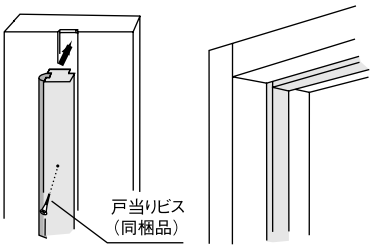
樹脂タイプ ……ソフトアート

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。

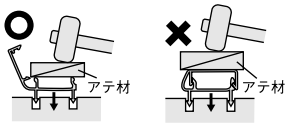


無垢タイプ ……ピノアース

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



お願い

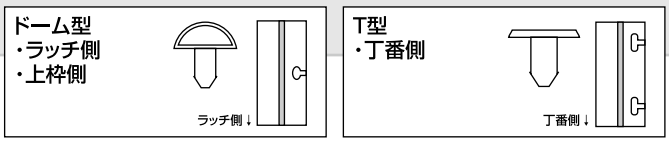


戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。

※上枠用戸当りも同梱のビスで固定してください。（ビス内訳:タテ…12本、ヨコ…3本）

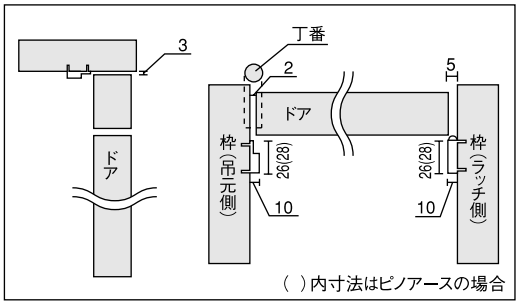
お願い（ピノアースのみ）

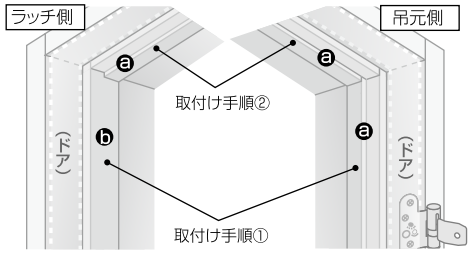
ゴムパッキンは2種類用意させてもらっております。それぞれ右記のように施工される様お願いいたします。逆に使いますと、かみこみ等の不具合が発生する可能性がありますのでご注意ください。



⚠ 注意

戸当りの取り付け位置・向きにご注意ください。





ⓐの換気対応戸当たりは、取り付け位置（上枠・丁番側竪枠）、向き（凹んだ方がドア方向）を確認のうえ、お取り付けください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

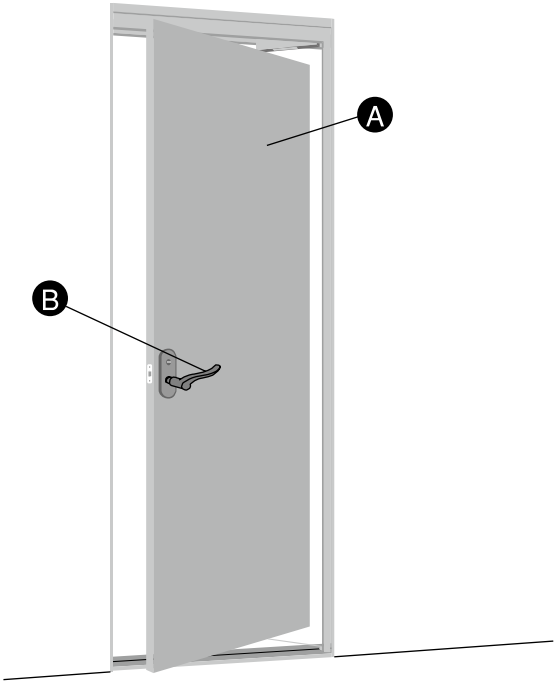
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

スライディングドア

1. 開梱

梱包を開いたらドア本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

Ⓐドア本体

	部材名	数量	備　考
	ドア	1枚	錠ケース取付済
	施工説明書	1部	
	使用説明書		必ずお施主様に渡してください

Ⓑレバーハンドル（別売品）

	部材名	数量	備　考
	レバーハンドル	1セット	
	3㎜レンチ	1本	必ずお施主様に渡してください

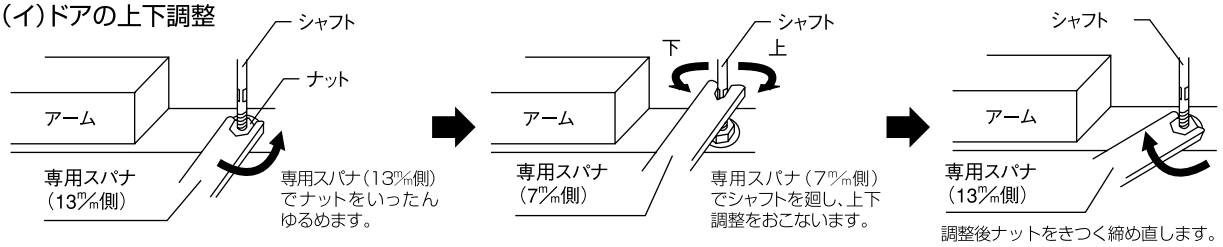
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

ドアの上下およびラッチ受けの調整

ドアと鴨居の隙間が適切になるようにドアを調整してください。また、ドアがガタつく場合、あるいはラッチが入りきらない場合はラッチ受けの調整機能を使って建て付けの補正を行ってください。

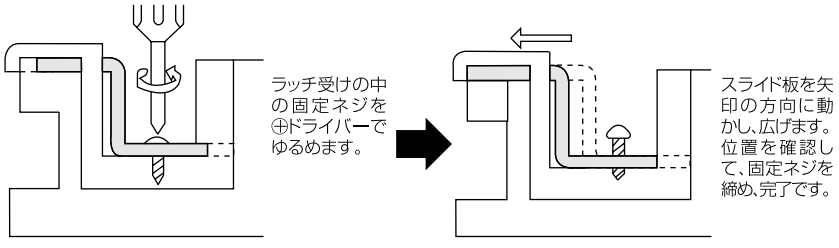
(イ)ドアの上下調整



(ロ)ラッチ受けの調整

調整ラッチ受け



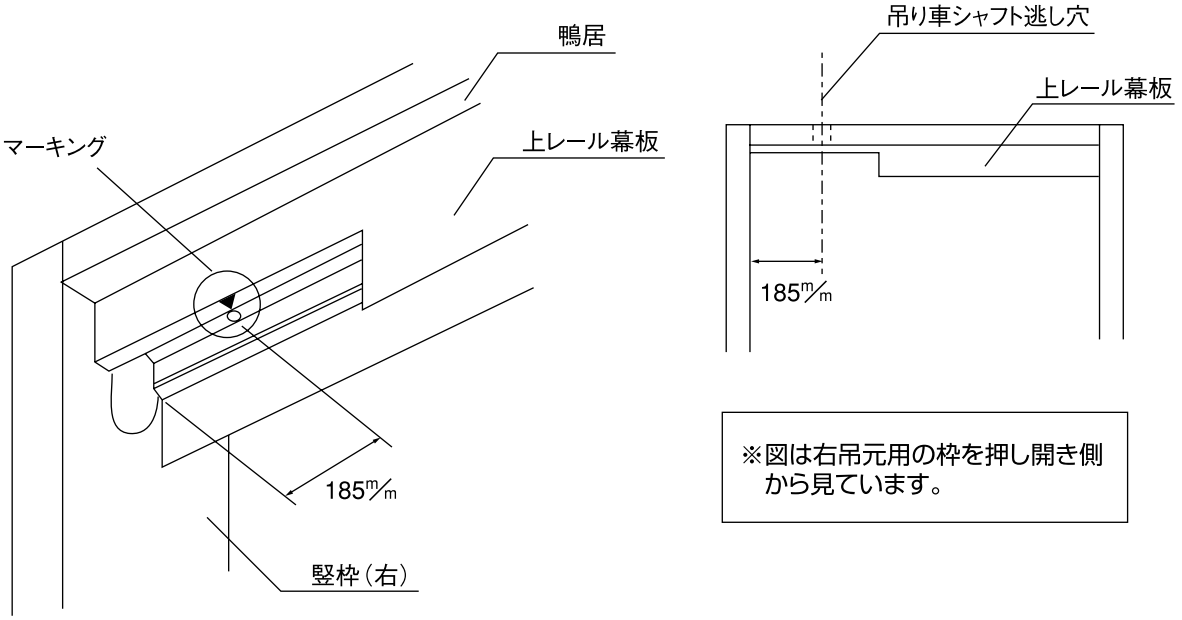


スライディングドア

2. 施工手順

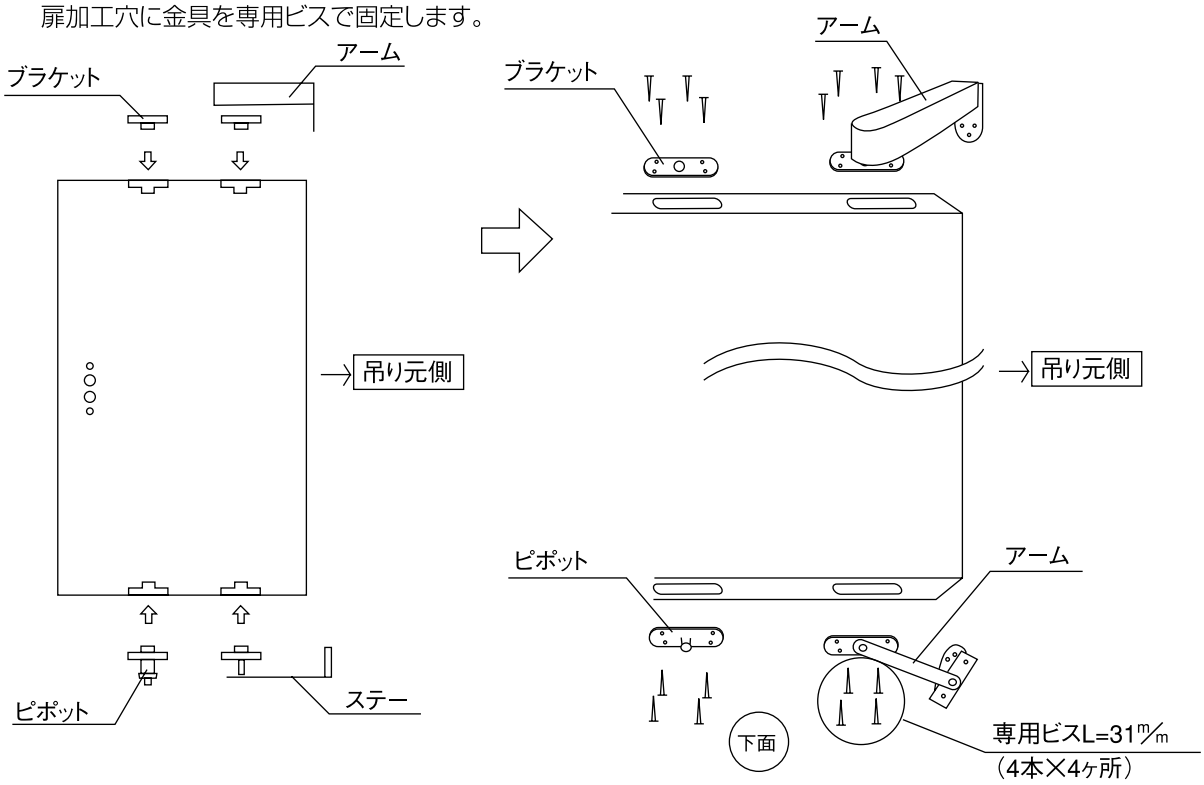
事前準備

（1）上レールにマーキングする。（マーキングは養生テープ等を切り貼りしてください。）
扉を吊り込む際の目印となります。



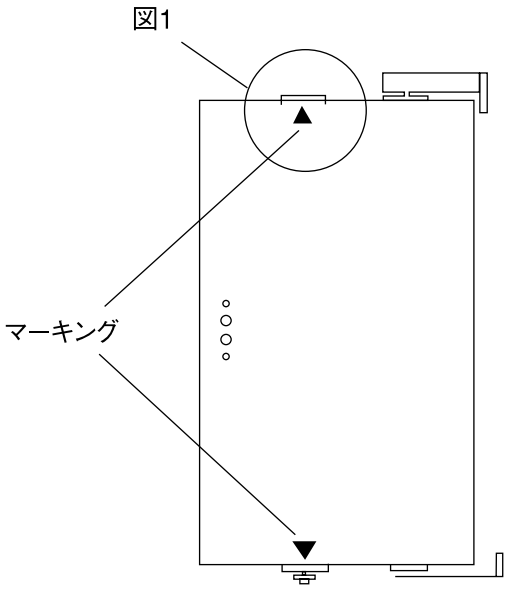
※図は右吊元用の枠を押し開き側から見ています。

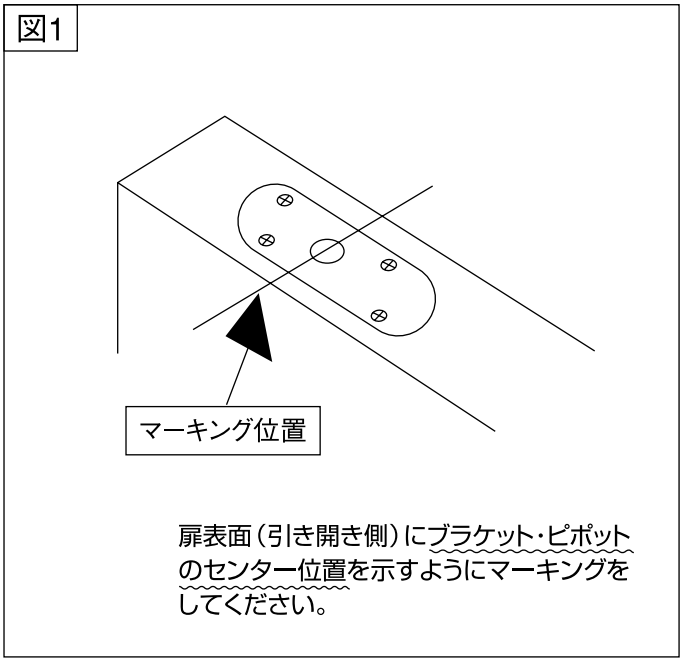
（2）扉に金具を取り付ける。
扉加工穴に金具を専用ビスで固定します。



（3）扉表面にマーキングをする。（マーキングは養生テープを切り貼りしてください。）

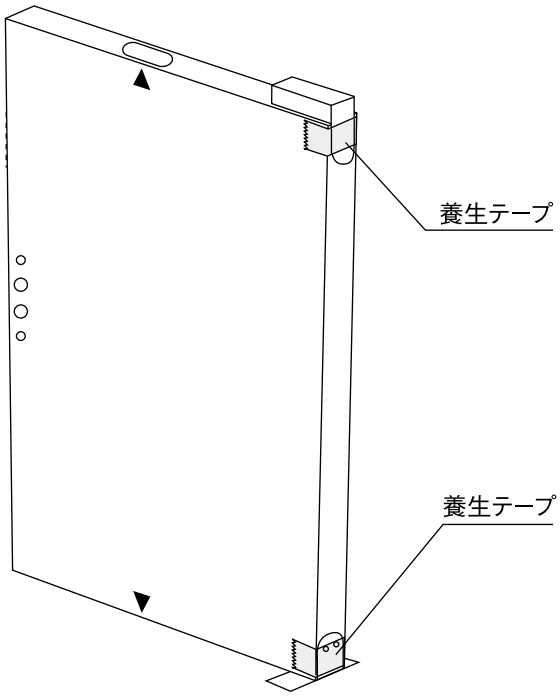
扉を吊り込む際の目印となります。





（4）アームとステーを養生テープで固定する。

扉を吊り込む際のキズ防止にもなります。



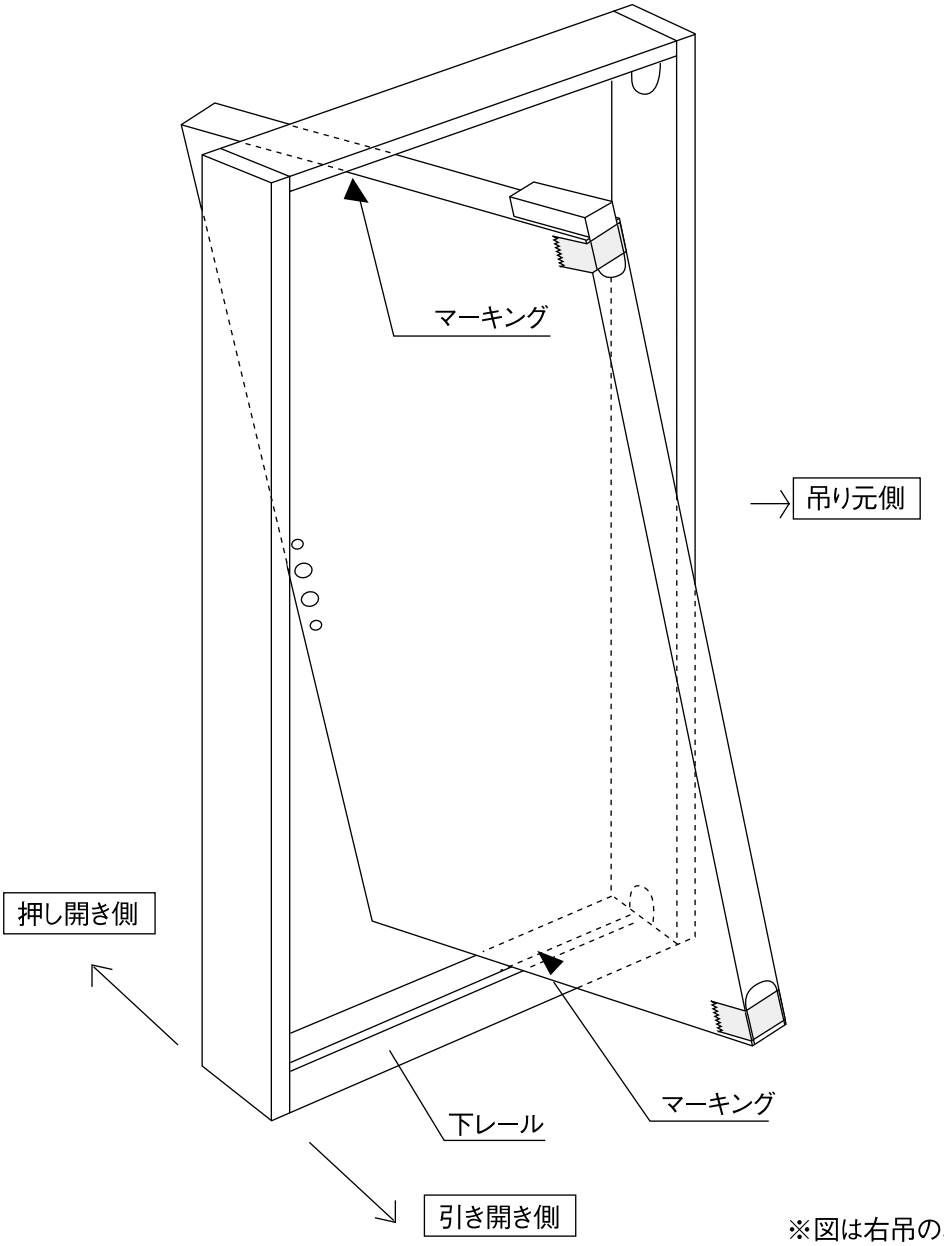
スライディングドア

扉の吊り込み

（1）吊り車を鴨居レールに貼ったマーキングの位置に移動させる。

（2）扉を斜めにして枠内に入れる。

扉表面に貼ったピポット位置を示すマーキングを目印にしてピポットをレールにはめます。



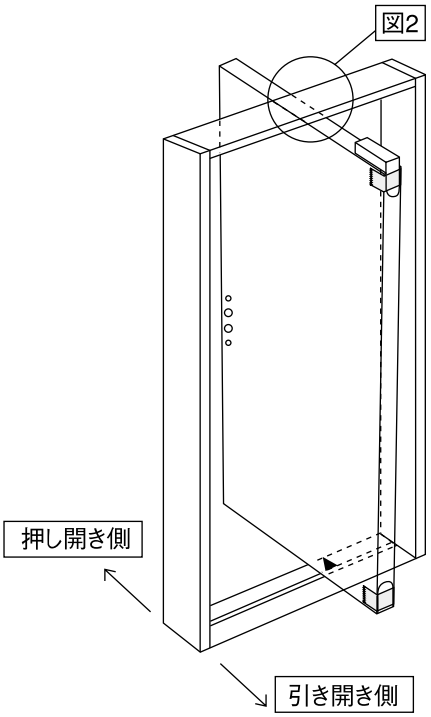
※図は右吊の場合です。

お願い

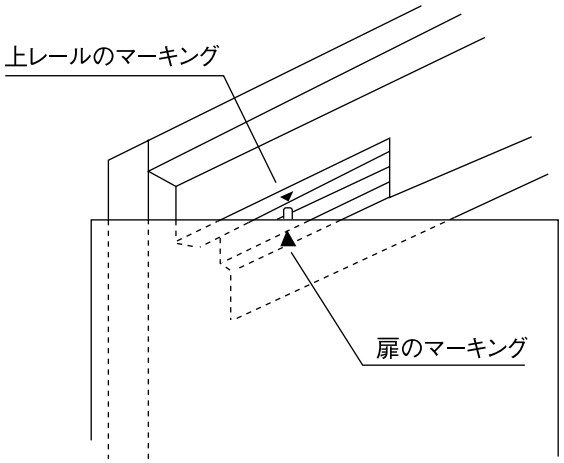
- 扉と上枠（上レール）とのクリアランスが小さい為、扉をおこす際上レールに扉を当ててキズつけない様、ご注意ください。

※吊り込み後は、上レールの養生テープをはがしてください。

（3）扉を垂直に立てる。



吊り車のシャフトをシャフト逃し穴のところで上へ逃がして扉に貼ったブラケット位置を示すマーキングに合わせます。

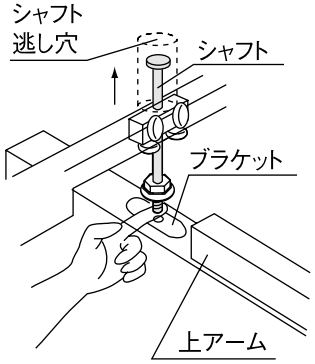


※押し開き側から見ています。

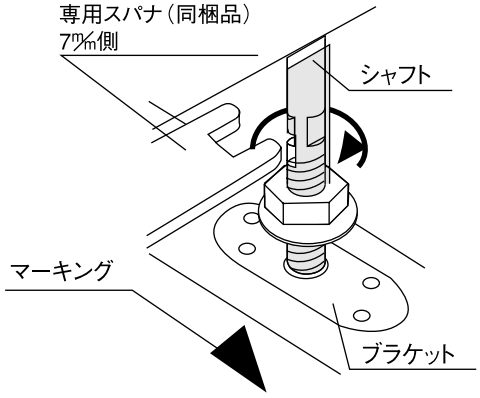
※図は右吊の場合です。

図2

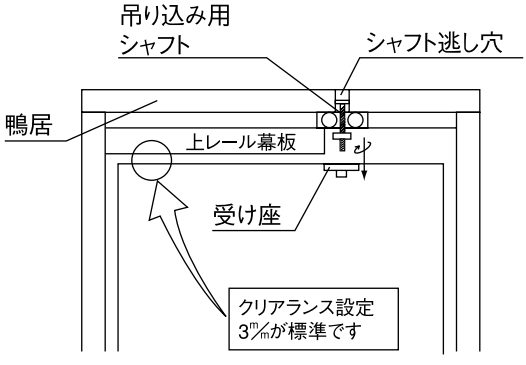
〈1〉シャフトをシャフト逃し穴のところで上へ逃がして、ブラケットと位置を合わせます。

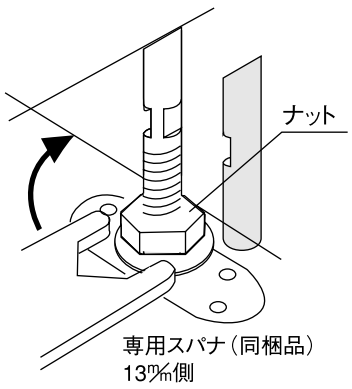


〈2〉シャフトをブラケットに同梱のスパナでねじ込んでいき扉を吊り上げていきます。



〈3〉上レール幕板と扉とのスキマが3㎜になるまで吊り上げたら、専用スパナの13㎜側でナットを強くしめこんでください。



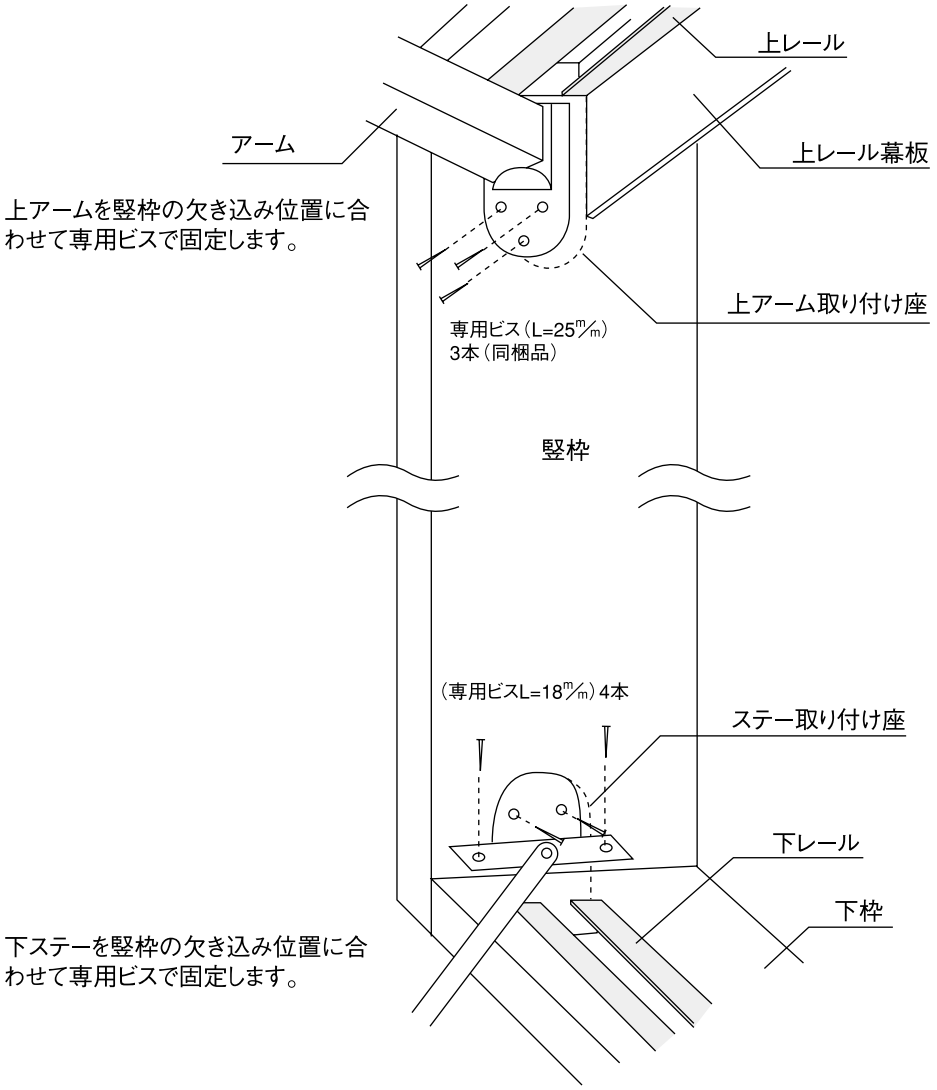


スライディングドア

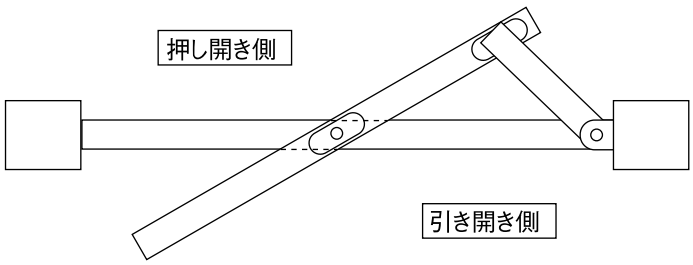
枠材へのアームとステーの固定

（1）扉に貼ったアームとステーを固定する養生テープをはがす。

（2）アームとステーを竪枠に固定する。



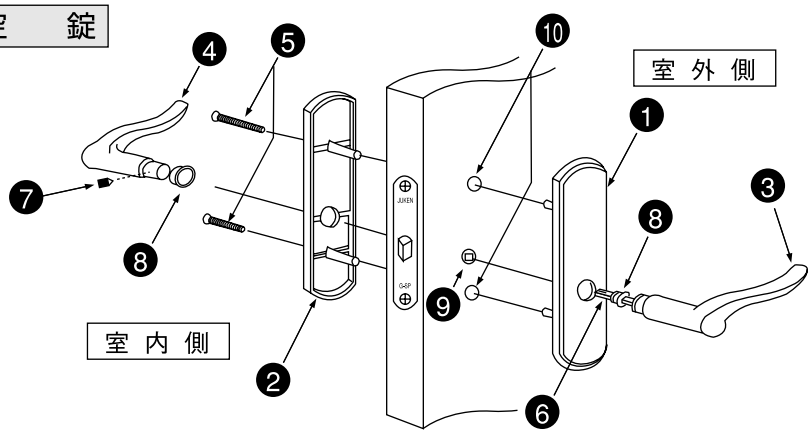
※アームとステーを固定する時に、枠材へのアームとステーの固定の（1）ではがした養生テーを用いて取り付け座に仮固定すると作業しやすくなります。
※ステー、アームの順で固定をすると作業がしやすくなります。
※下図の状態で引き開き側から固定すると作業がやりやすくなります。



レバーハンドルの取り付け

間仕切錠付が標準仕様となります。

空　錠



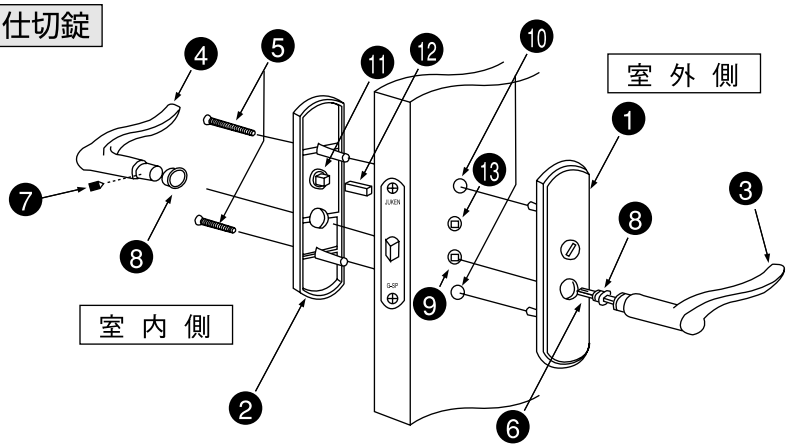
レバーハンドルの取り付け

（1）室外側より外部ハンドル座❶を切欠き穴❿に挿入してください。

（2）室内側より内部ハンドル座❷をはめ込み、ハンドル座取り付けビス❺で締め付けてください。

（3）レバーハンドル❸を角芯穴❾に通して、反対側のレバーハンドル❹を角芯❻と合わせて、取り付けビス❼で締め付けてください。（ナイロンワッシャ❽のセット忘れのないようご注意ください。）

間仕切錠



部材・部位名	
❶	外部ハンドル座（室外側）
❷	内部ハンドル座（室内側）
❸	レバーハンドル（室外側）
❹	レバーハンドル（室内側）
❺	ハンドル座取り付けビス
❻	角芯
❼	取り付けビス
❽	ナイロンワッシャ
❾	角芯穴
❿	切欠き穴

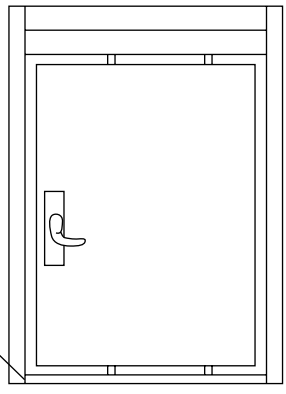
⚠ 注意

レバー脱落防止の為、レバーハンドル用取り付けビスは確実にお締めください。

扉の開閉のチェック

（1）扉をゆっくり閉じて枠・金具との干渉がないことを確認する。

（2）吊り車のネジを締めてロックする。



特にステーと扉の下部の干渉に注意してください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」と3㎜レンチを使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

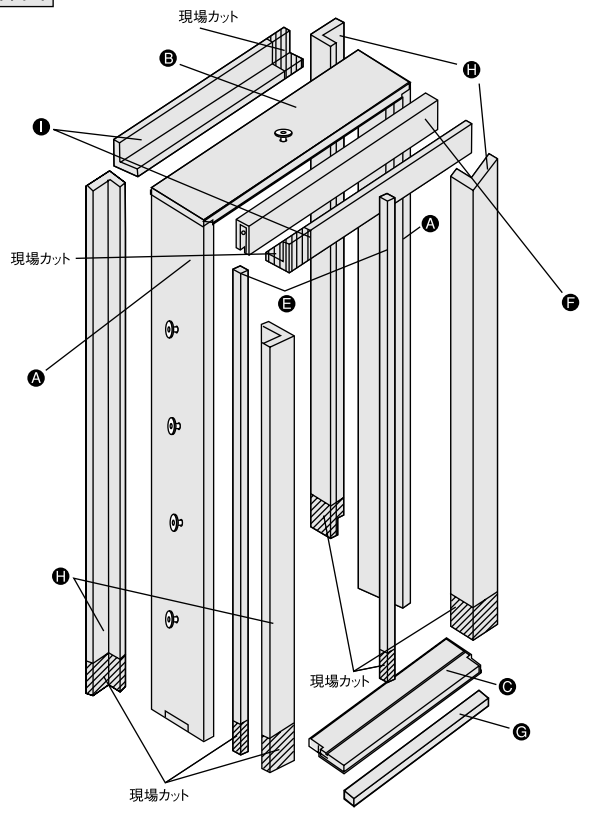
調整枠

スライディングドア枠

1.開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考	
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済、アーム受側×1、ラッチ受側×1	
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済	
Ⓔ	竪枠用戸当り	2本	現場カット	
Ⓕ	鴨居レール	1本	専用ビス付（4本）	
Ⓖ	敷居レール	1本		
	吊り車	1個	専用ビス付	金具セット
	アーム	1本	専用ビス付	
	ステー	1本	専用ビス付	
	ピボット	1個	専用ビス付	
	ブラケット	1個	専用ビス付	
	専用スパナ	1個		
	組み立て専用ビス	4本		ビスセット
	敷居ベース専用ビス	4本		
	躯体接合金具用ビス	9本		
	ミニレンチ	1本		
	木ダボ	2本		
	戸当りビス	10本	各色	
	敷居レール用ビス	3本		
	躯体接合金具用キャップ	8個		
	施工説明書	1部		

ケーシングセット

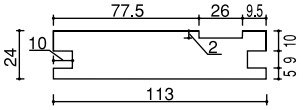
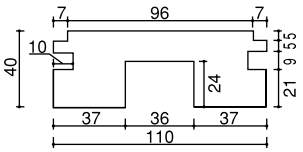
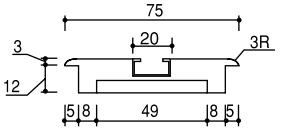
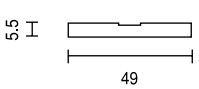
	部材名	数量	備　考
Ⓗ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
Ⓘ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

下枠セット（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	敷居	1本	正寸カット済

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

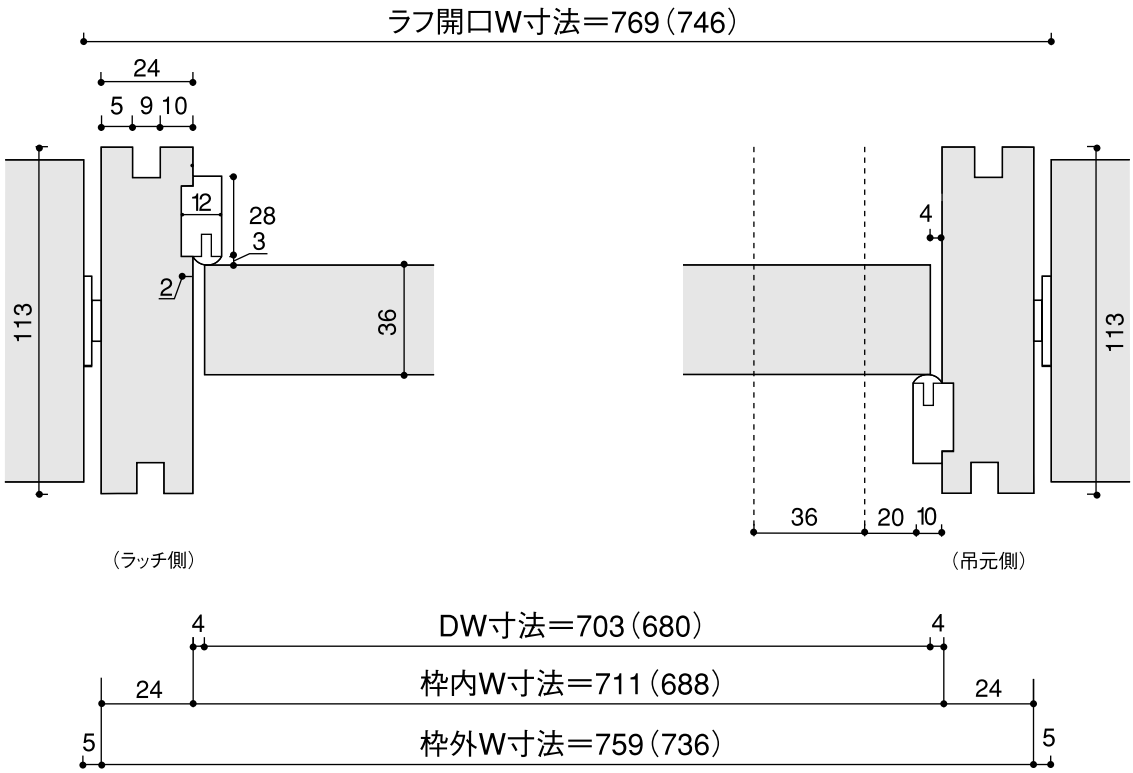
部材名		断面形状	長さ（m/m）		数量
枠材本体（下枠は別梱です）	竪　枠		2,028	アーム受付 ラッチ受付	各1
	鴨　居		DW 703	DW 680	1
			759	736	
	敷　居	Q型（突板） 	711	688	1
	敷居ベース		759	736	1

2.納まり図

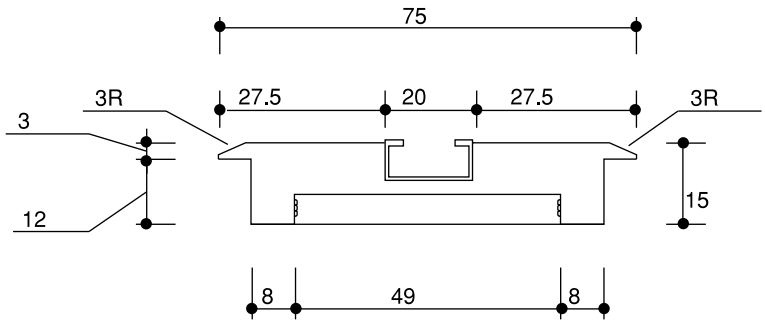
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

（単位:㎜）



下枠Q型突板タイプ（埋め込み）敷居拡大図

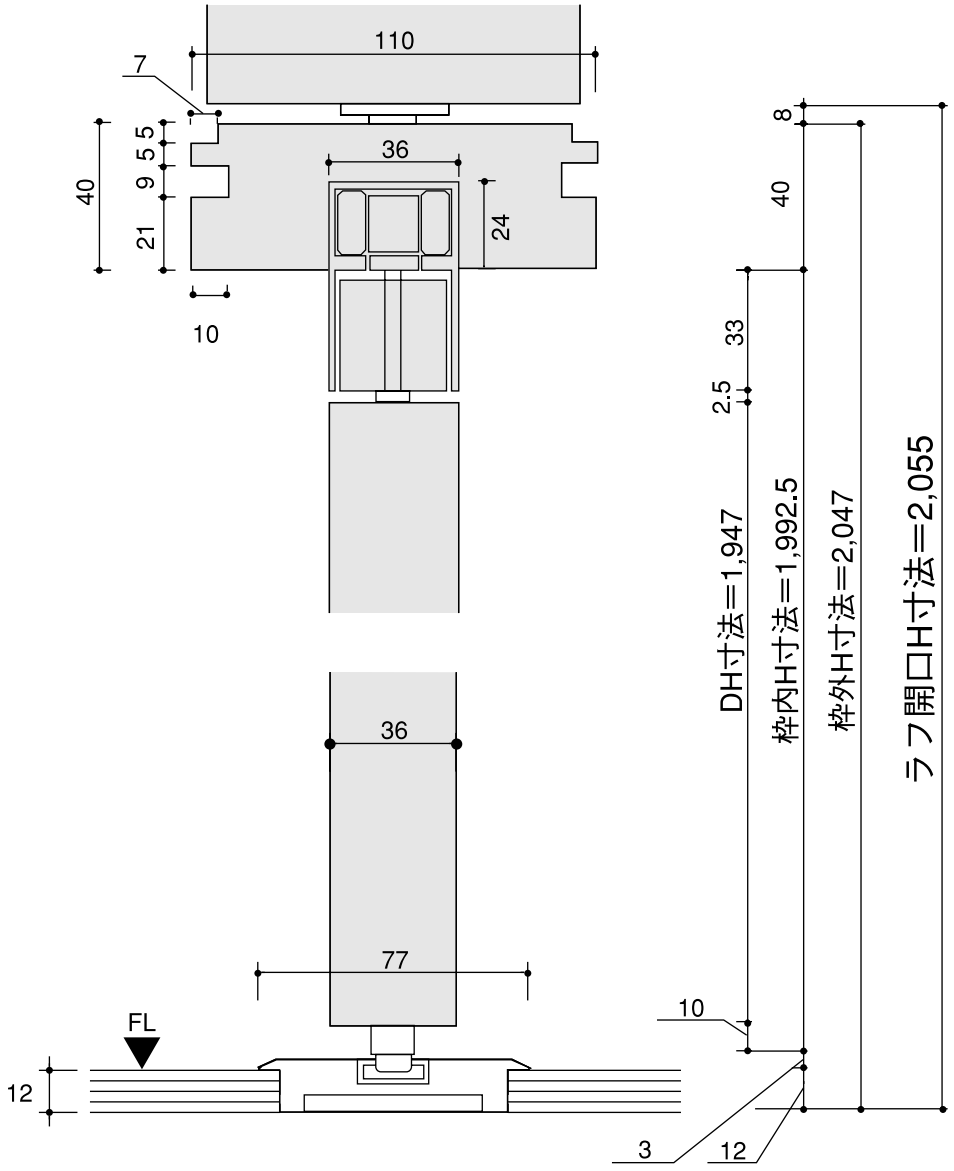


調整枠

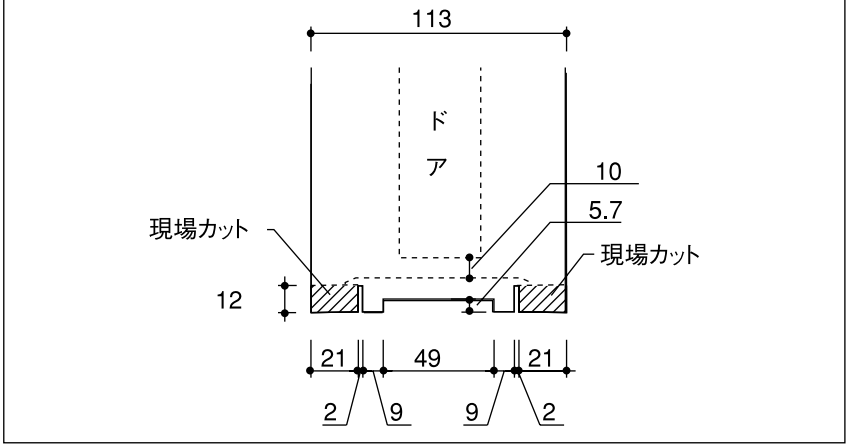
スライディングドア枠

縦断面図

（単位:㎜）

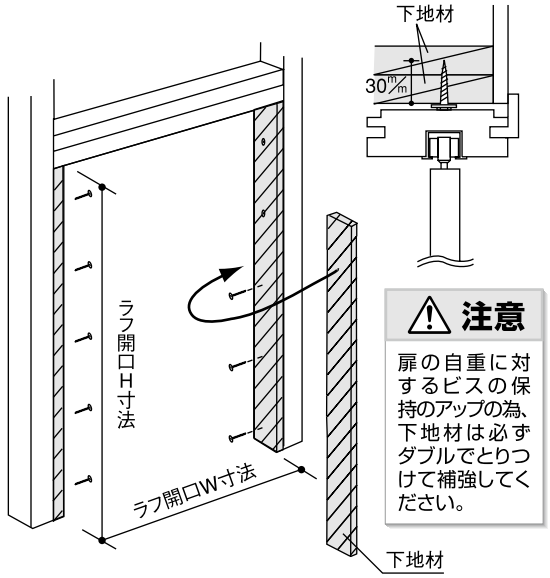


竪枠下端加工図



3.施工手順

取り付け開口部の確認

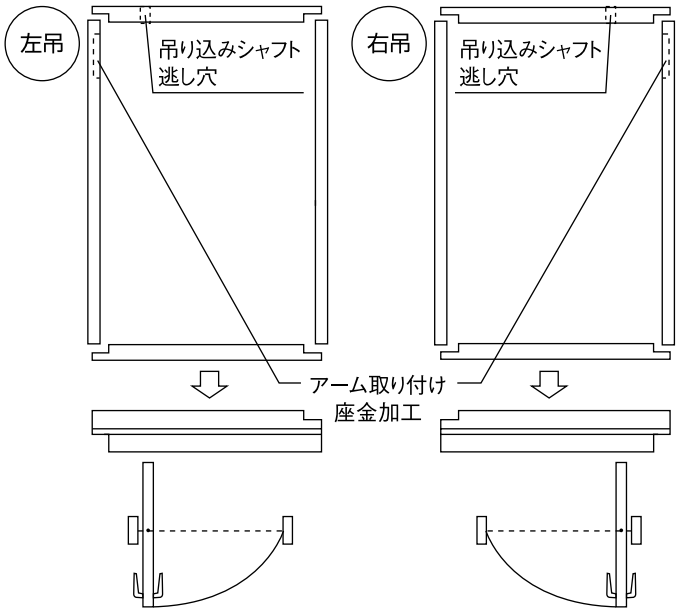


⚠ 注意
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

枠材の組み立て（前準備）

上枠にも左右がありますので、下図を必ずご確認願います。



枠材の組み立て（正寸カット済）

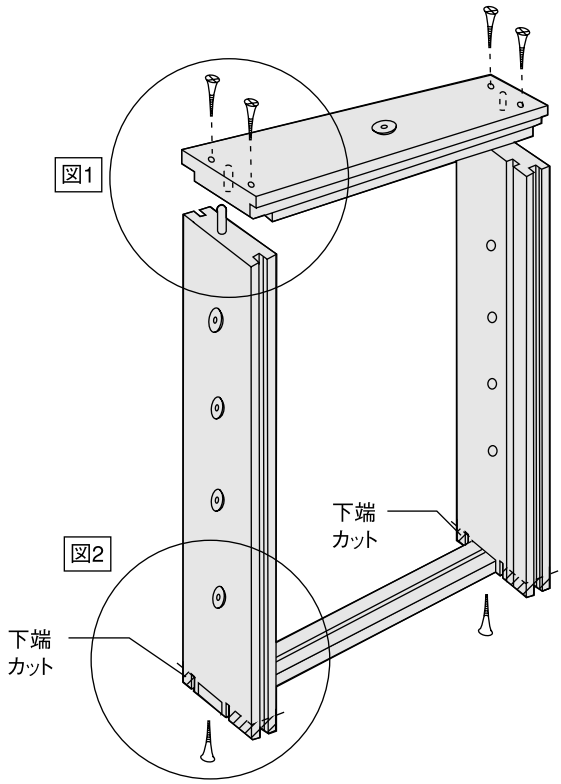


図1

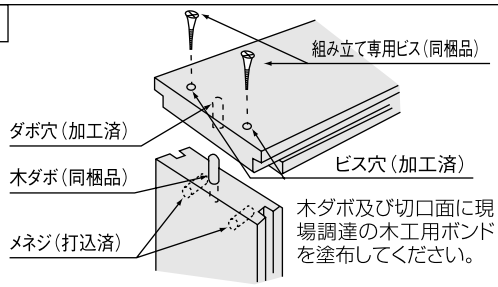
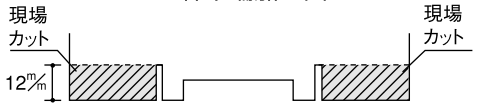


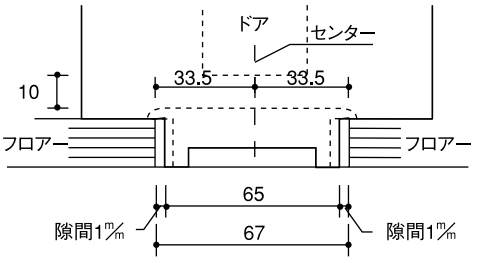
図2

竪枠下端加工図



● 12㎜（斜線部）を欠き込んでください。

竪枠とフロアーの納まり

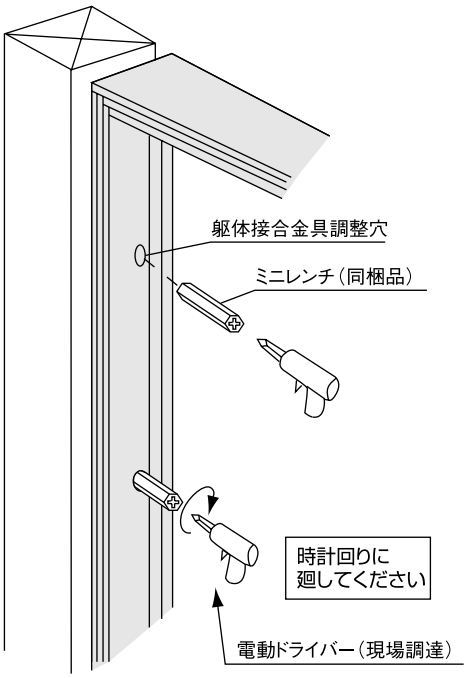


● 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

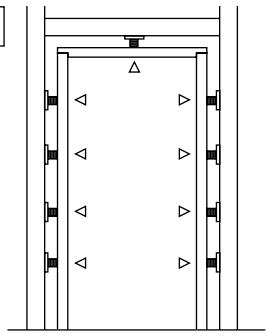
調整枠

スライディングドア枠

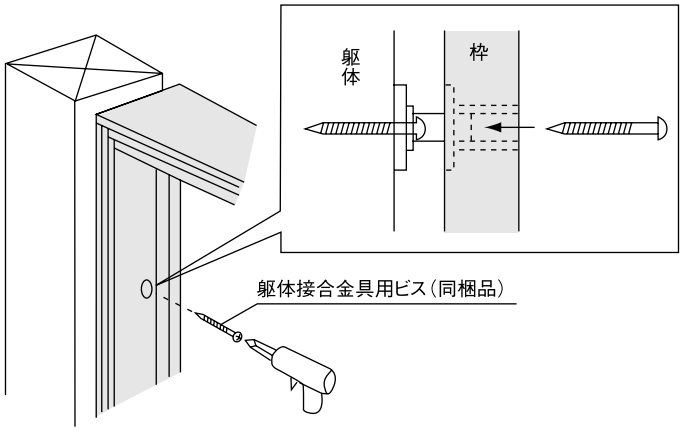
枠材の仮固定



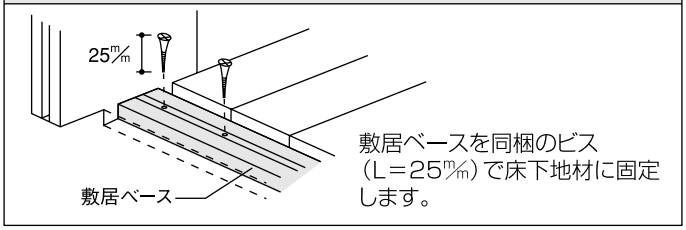
下地材不要



竪枠の本固定



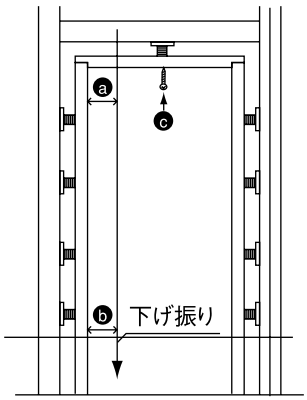
敷居ベースの固定



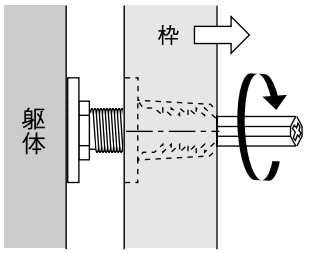
いったん敷居本体ははずします。

建て付け調整ならびに鴨居の本固定

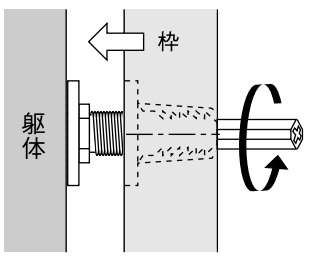
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



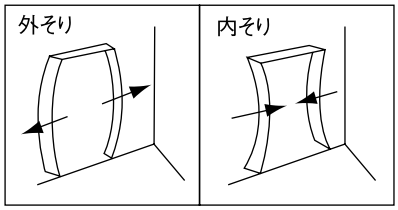
枠を内側に寄せる場合



枠を外側に出す場合



※下記の様なことがないようご注意ください。



ケーシングの取り付け

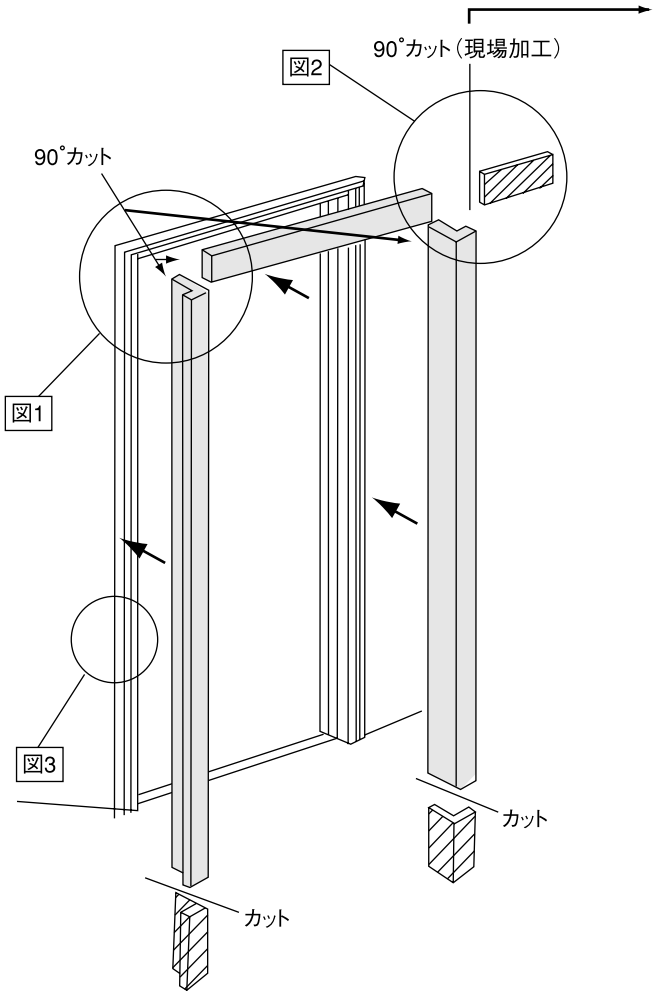


図1・図2

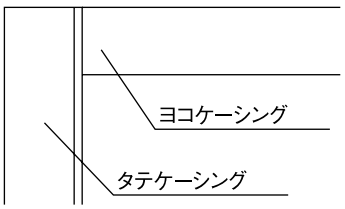
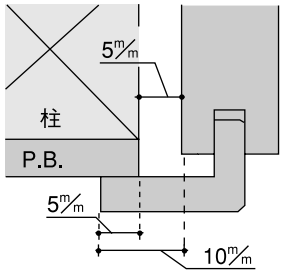


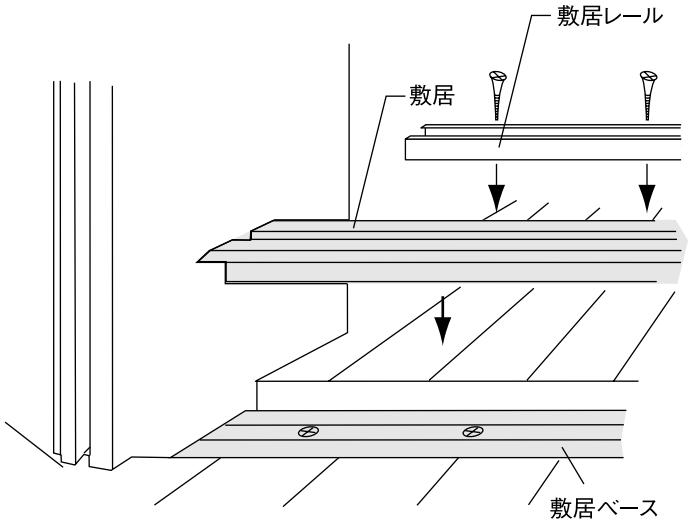
図3



戸当りの取り付け

下枠Q型突板タイプ

敷居レールをラッチ側に寄せ、
敷居にビス（同梱品）で
取り付けてください。



お願い

敷居端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

調整枠

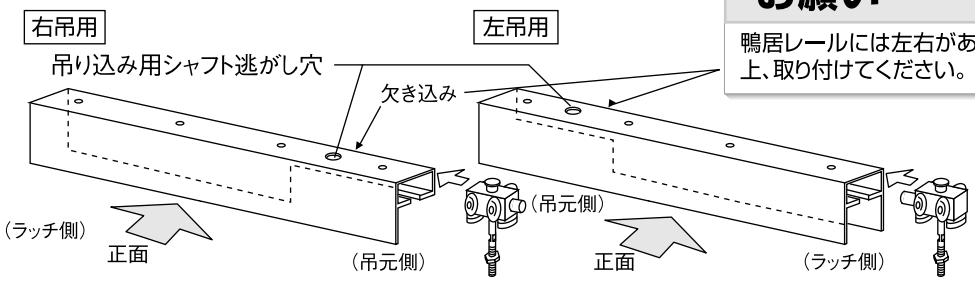
スライディングドア枠

鴨居レールの取り付け

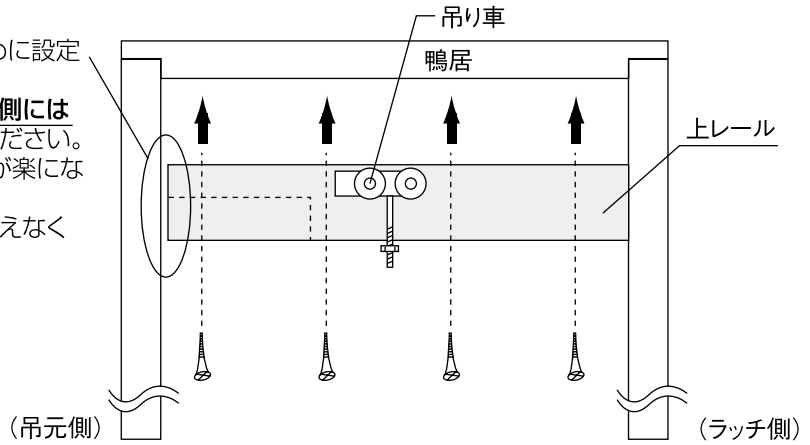
吊り車をレールに挿入後、レールを鴨居にビスで取り付けます。

お願い

鴨居レールには左右がありますので下図を参考の上、取り付けてください。

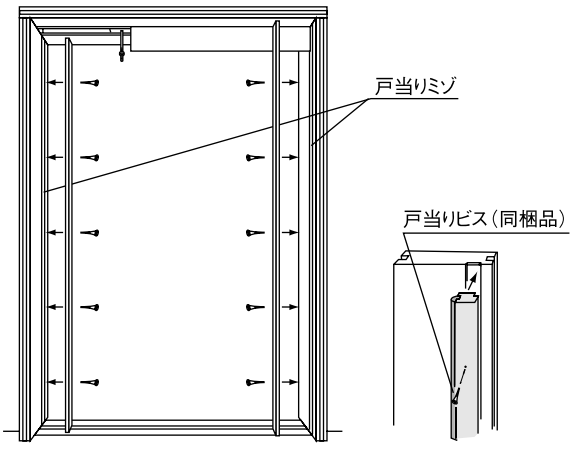


上レールは鴨居内寸法より3㎜短かめに設定しています。
極力ラッチ側にレールを寄せて、**吊元側には隙間を設けるようにして**取り付けてください。
アームの座金を取り付ける際に作業が楽になります。
（レールの隙間は戸当りでかくれて見えなくなります）



戸当りの取り付け

戸当りを枠材の戸当りミゾにビスで固定します。



※アーム受座の取り付け、ステー受座の取り付けについてはスライディングドアの施工説明書をご覧ください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

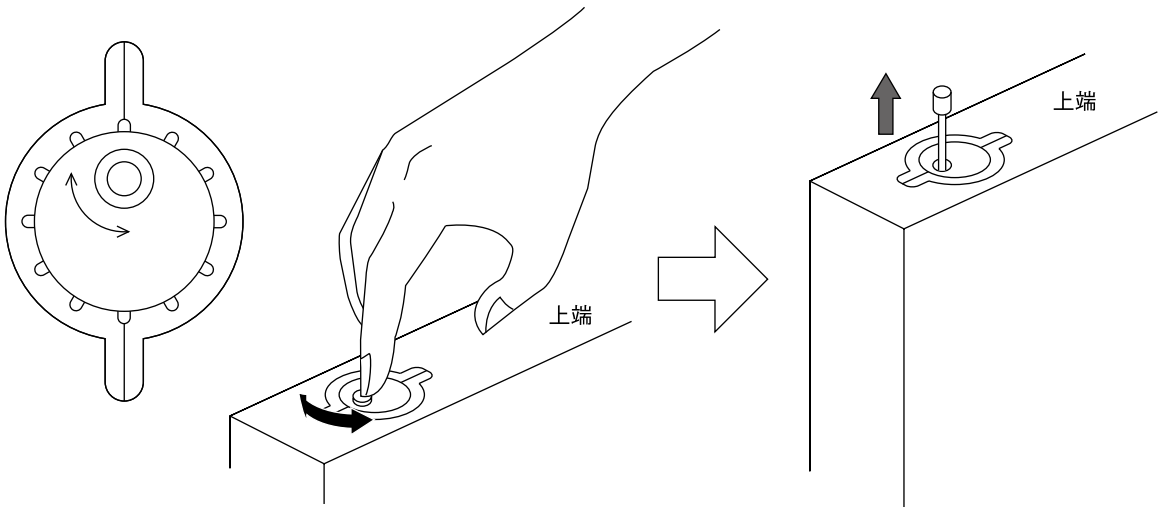
お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

引き戸（レール）

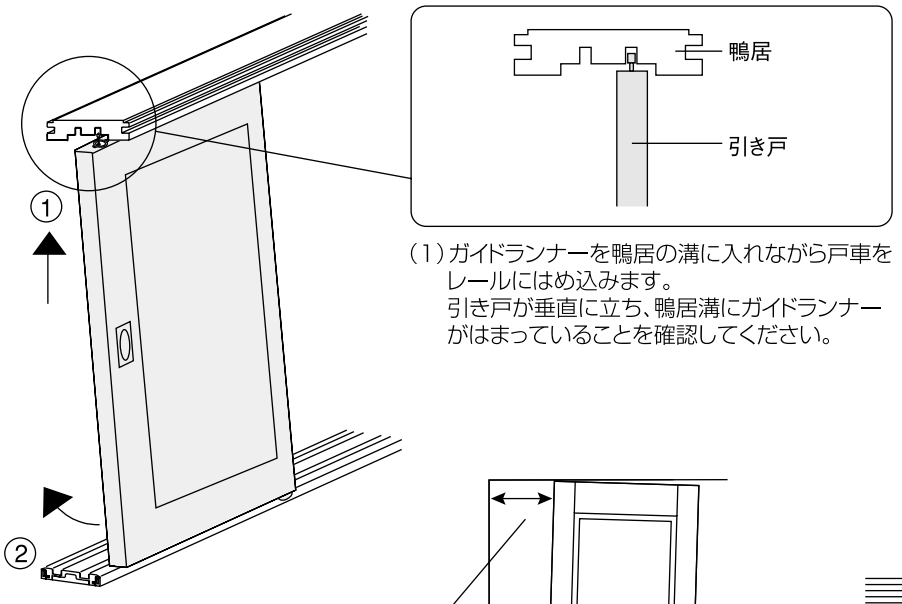
1. 施工手順

ガイドランナー先端の取り出し

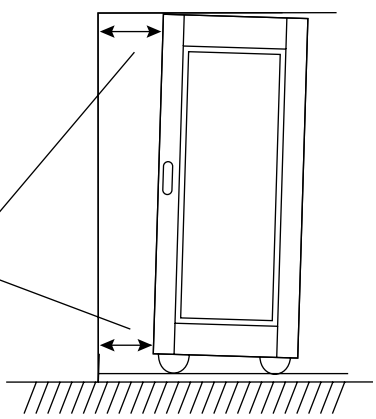


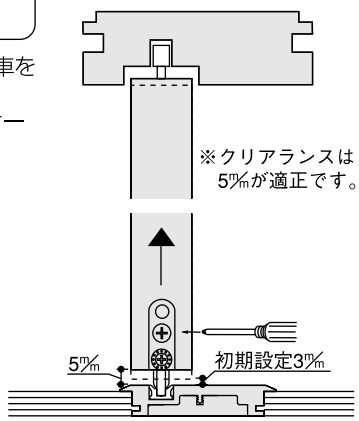
工場出荷時にガイドランナー先端は金具本体に入った状態になっています。
図のようにガイドランナーの先端をまわすとロックが解除されガイドランナーが出てきます。

引き戸の取り付け



（1）ガイドランナーを鴨居の溝に入れながら戸車をレールにはめ込みます。
引き戸が垂直に立ち、鴨居溝にガイドランナーがはまっていることを確認してください。





（2）引き戸を上下調整機能により、上へ2㎜程度上げてご使用ください。

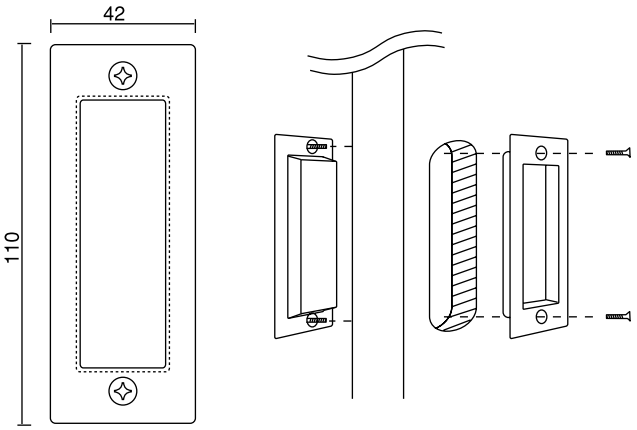
お願い

取付前に、レール上のゴミなどを清掃してください。

引き戸（レール）

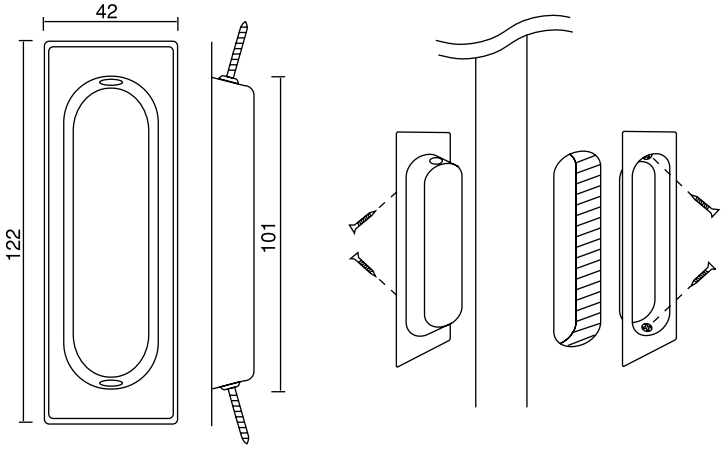
引き手の取り付け

角タイプ引き手の場合



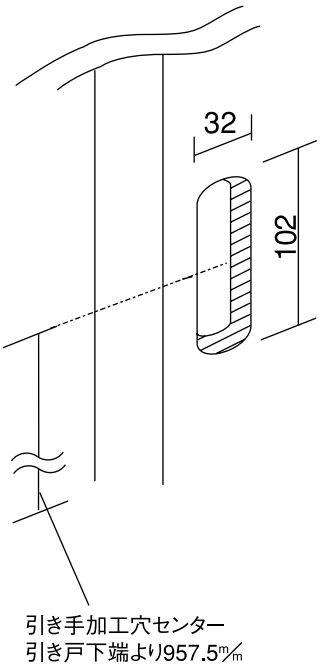
1セットを同梱のビスで水平にとめます。

Rタイプ引き手の場合



片側ずつ同梱のビスで斜めにとめます。
表・裏ともにビスでとめます。

引き手加工穴



引き手加工穴センター
引き戸下端より957.5㎜

お願い

電動ドライバーによるビス止めは、引き手を破損するおそれがありますのでご遠慮ください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

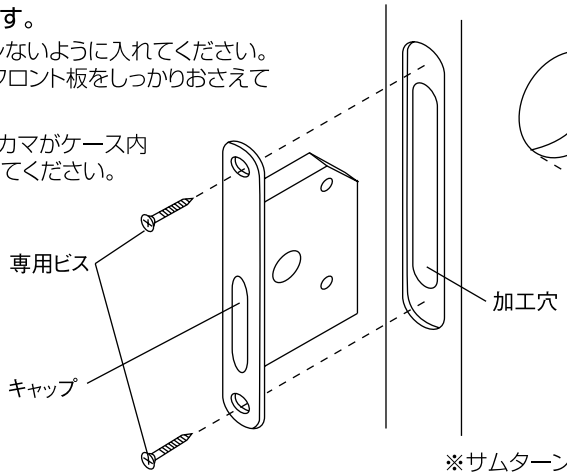
錠の取り付け

表示錠・間仕切り錠・鍵付き錠の場合のみ

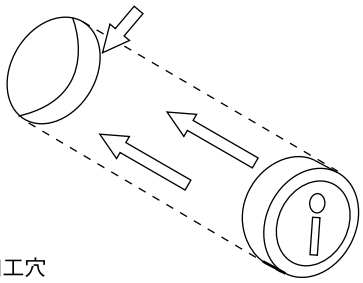
①カマ錠の取り付けをします。

フロント板は、加工穴にズレないように入れてください。
ビスをしめつける際には、フロント板をしっかりおさえて行ってください。

※カマ錠の取付時は、必ずカマがケース内に入った状態で取り付けてください。

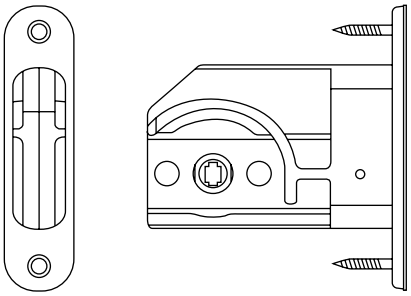


※青が表示された状態で取り付けてください。

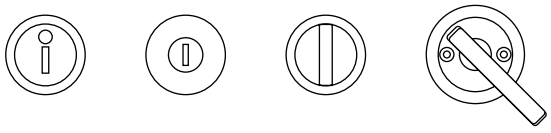


※サムターンが回転するので干渉しないように、ビスをしっかり締めてください。

②錠を錠加工穴にとりつけます。



錠の向きは下図の表示で取り付けてください。



ビスの取り付けの留意点

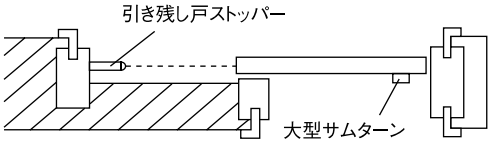
ビスは同梱のビスを使用して取り付けてください。ビスで金具の固定を行う際は過大なトルクを発生させる工具は極力使用しないでください。強いトルクを発生させるインパクトドライバーを安易に用いると、締め過ぎによるビスの空転や部材に割れが生じ、適切な固定できず、商品に悪影響を及ぼす原因となります。

大型サムターン表示錠ご使用時の注意

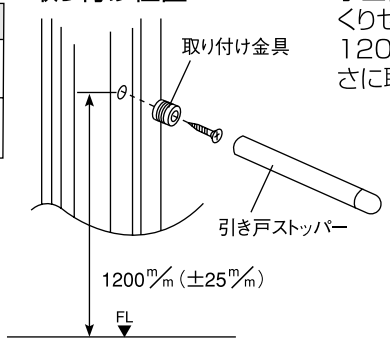
大型サムターンが中方立て側にくる時、必ず別売のストッパーを使い、引き残しをつくってください。
ただし、有効開口は102㍉狭くなります。



	品番	設計価格／個
ゴールド	ZY1636	¥2,100（¥2,000）
シルバー	ZY1637	¥2,100（¥2,000）



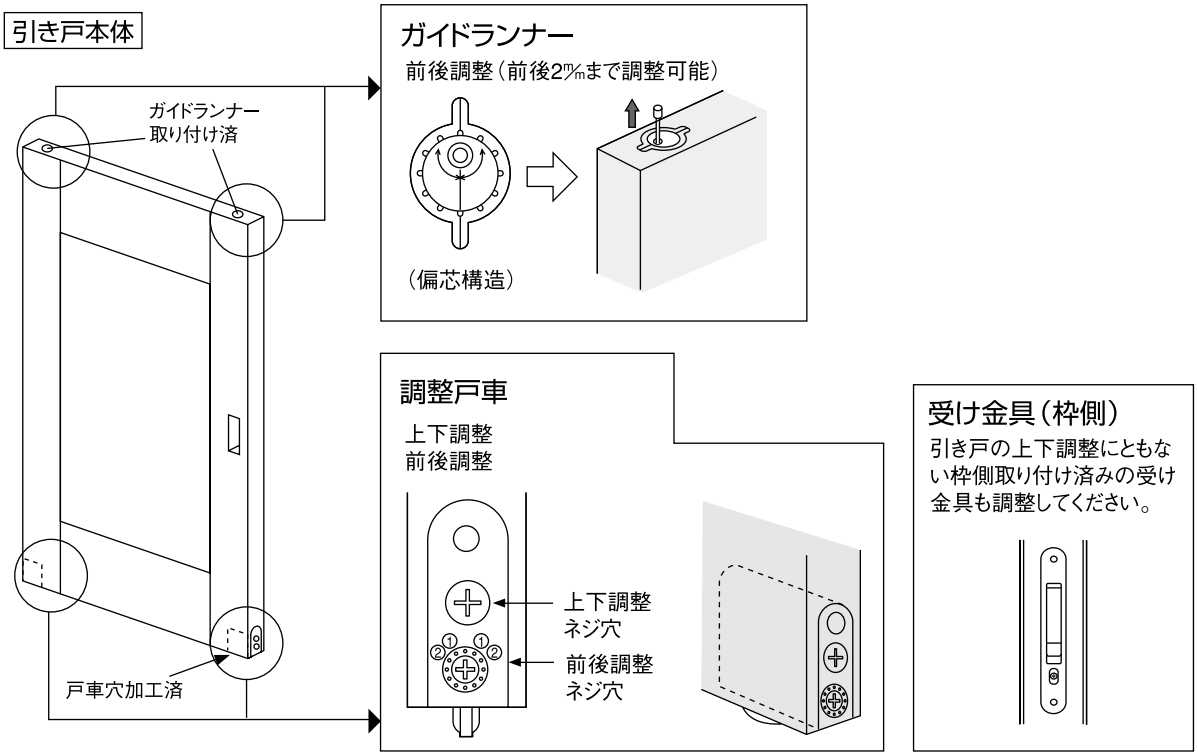
取り付け位置



※小壁側たて枠の防寒じゃくりセンターに床から1200㍉（±25㍉）の高さに取り付けてください。

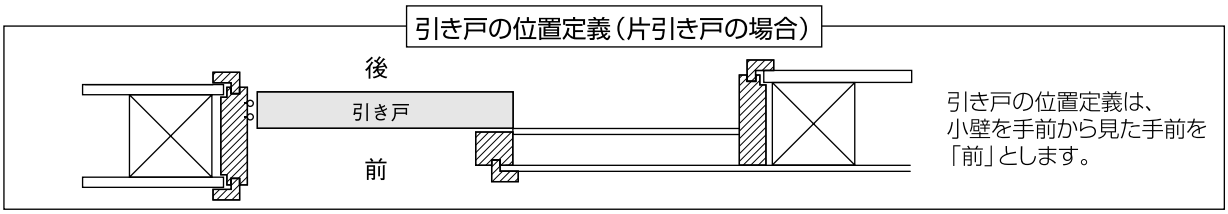
引き戸（レール）

各部の名称および機能



引き戸の調整の仕方

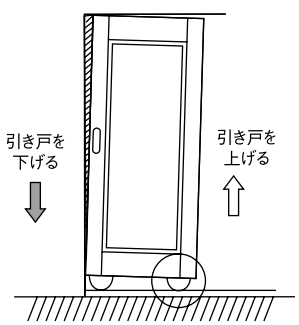
引き戸を使用されている際、以下のような状態が生じましたら、戸車とガイドランナーにて引き戸を調整することができます。



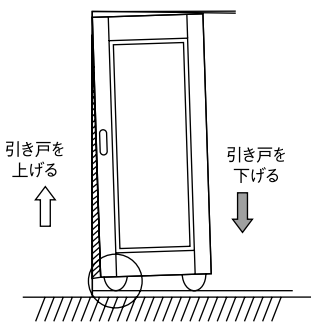
竪枠と引き戸の間に隙間が生じたとき（上下調整）

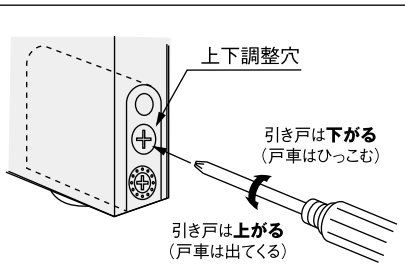
※上下の調整をした場合、必ず受け金具の調整をしてください。

（1）引き戸と竪枠の上部に隙間が生じたとき



（2）引き戸と竪枠の下部に隙間が生じたとき





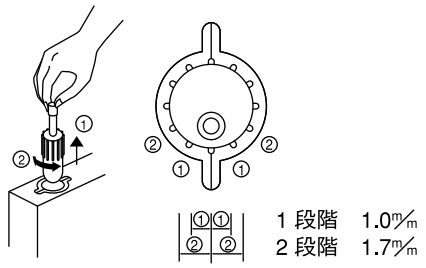
竪枠と引き戸との間に生じる隙間をよくご確認ください。

隙間の状態をご確認後、プラスドライバーにて戸車の上下調整ネジで調整を行ない、竪枠と引き戸の隙間をなくしてください。
その際は、両側の戸車2つとも必ず調整をしてください。

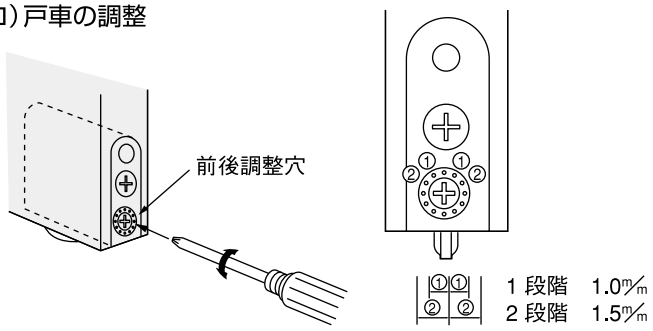
引き戸と引き戸が擦れ合う、引き戸と中方立があたる場合（前後調整）

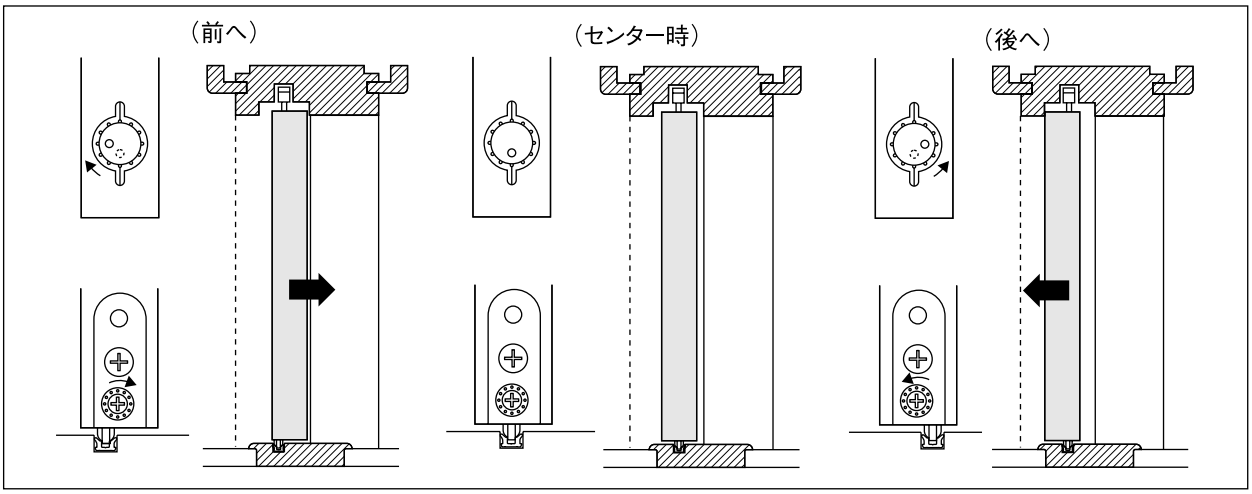
引き戸をご使用の際に、引き戸と中方立の間の隙間が大きい、または、逆に隙間が少なくて引き戸同士、または引き戸と中方立が擦れるような場合には、前後調整を行ってください。前後調整は、前後2段階ずつ行うことができます。

イ）ガイドランナーの調整



ロ）戸車の調整

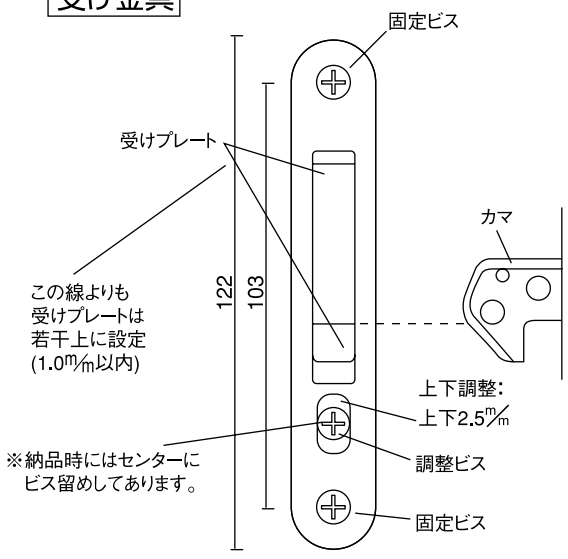




受け金具（枠側）の上下調整

引き戸の上下調整を行った場合は、錠と受け金具の上下の位置関係にズレが生じます。
引き戸のロックがしっかりと行われるように下記の要領で調整してください。

受け金具



1.受けプレートの調整ビスを受けプレートが動く程度にゆるめます。
2.カマ錠のカマを出した状態にし、上図のような位置関係になるように調整します。
調整は、基準ラインよりも若干上に設定してください。
3.調整が終わりましたら調整ビスを締めて確実に固定してください。

お願い

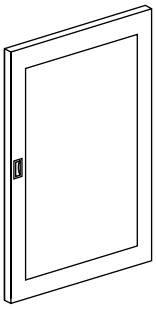
引き戸の上下調整の両方またはどちらかの調整を行われましたら必ず受け金具の調整を行ってください。引き戸が閉まらなくなったり、金具を破損するおそれがあります。

引き戸（ソフトクローズ機構付）

1. 開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表



	部材名	数量	備考
	引き戸	1枚	
	戸車	2個	取付済
	施工説明書	1部	
	使用説明書	1部	



引き手（別売品）

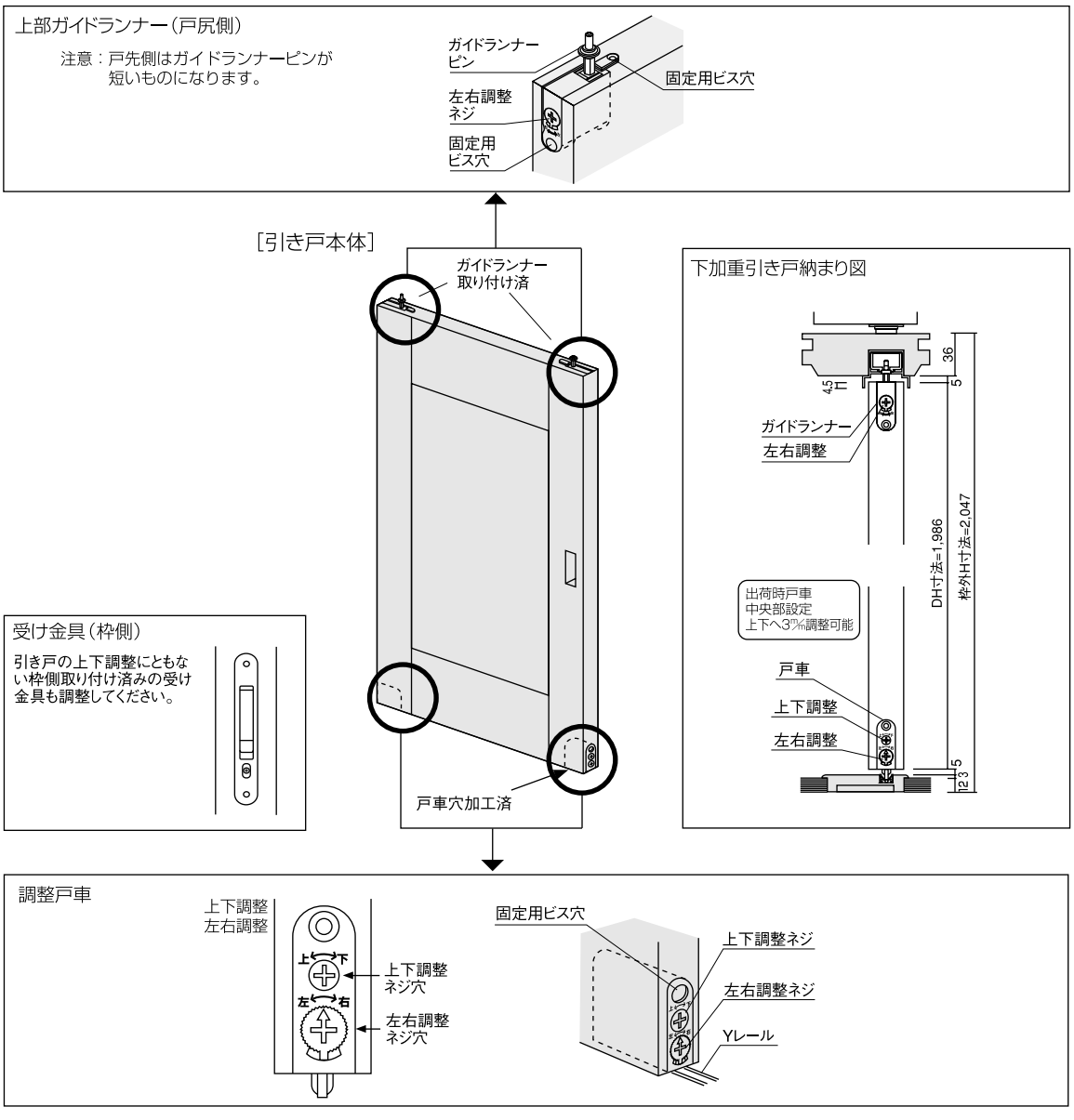
	部材名	数量	備考
	引き手	1セット	ビス同梱

お願い

以下の点にご注意ください。

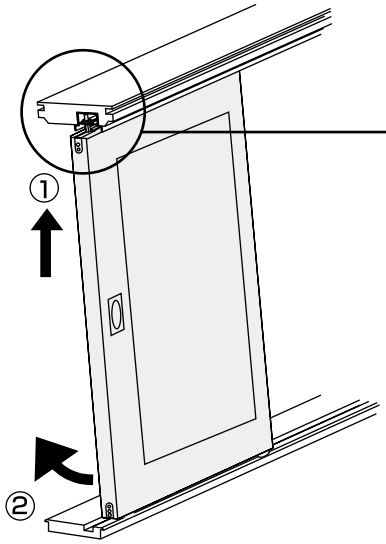
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。
- 施工には必ず＃2⊕ドライバーを使用してください。

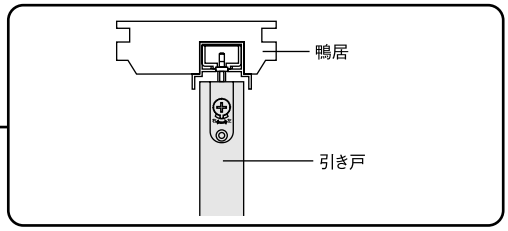
各部の名称および機能



2. 施工手順

引き戸の取り付け





（1）ガイドランナーを鴨居の溝に入れながら戸車をレールにはめ込みます。
引き戸が垂直に立ち、鴨居溝にガイドランナーがはまっていることを確認してください。

お願い

取付前に、レール上のゴミなどを清掃してください。

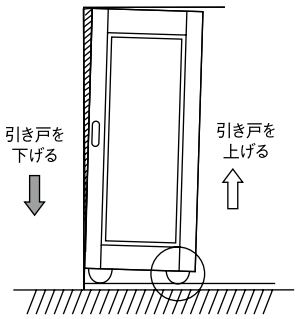
〈引き戸の調整の仕方〉

引き戸吊り込み後、調整戸車で高さ調整をしてください。下レールから引き戸下端が5㎜になるように調整します。
また、引き戸の右左調整が必要な場合は、上部ガイドランナーの左右調整と戸車部の左右調整にて調整してください。
引き戸とおし、引き戸と中方立てがぶつからないように注意してください。

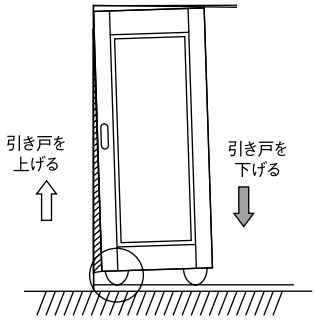
竪枠と引き戸の間に隙間が生じたとき（上下調整）

※上下の調整をした場合、必ず受け金具の調整（次頁を参照）をしてください。

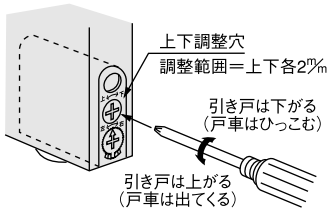
（1）引き戸と竪枠の上部に隙間が生じたとき



（2）引き戸と竪枠の下部に隙間が生じたとき



隙間の状態をご確認後、プラスドライバーにて戸車の上下調整ネジで調整を行ない、竪枠と引き戸の隙間をなくしてください。
その際は、両側の戸車2つとも必ず調整をしてください。

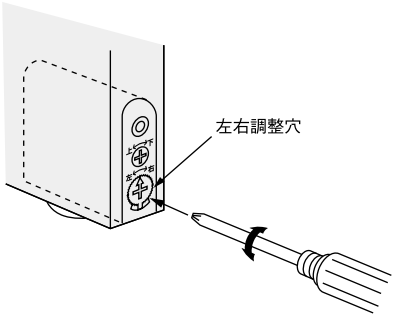


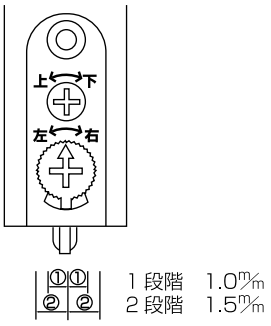
竪枠と引き戸との間に生じる隙間をよくご確認ください。

引き戸と引き戸が擦れ合う、引き戸と中方立があたる場合（左右調整）

戸車の調整

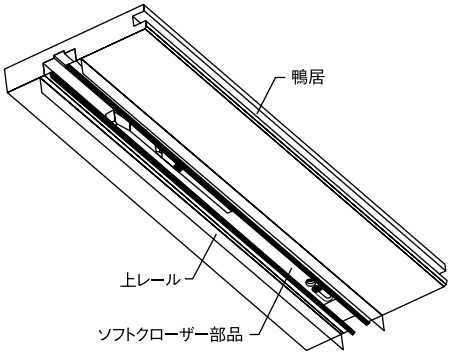
引き戸をご使用の際に、引き戸と中方立の間の隙間が大きい、または、逆に隙間が少なくて引き戸同士、または引き戸と中方立が擦れるような場合には、左右調整を行ってください。
左右調整は、左右2段階ずつ行うことができます。

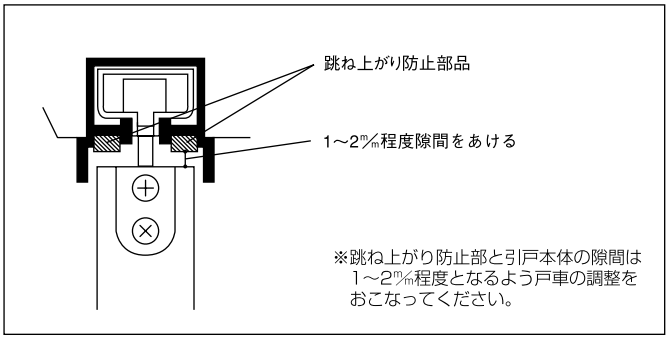




引き戸（ソフトクローズ機構付）

ソフトクローズ機構の確認と調整





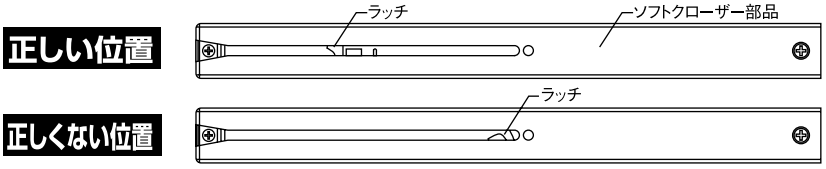
⚠ 注意

下記の点にご注意ください。

・ソフトクローザー機構が作動しない時は、まず下図の「ソフトクローズ機構が作動しない場合」をご確認ください。
・調整は必ず手回しドライバーにて調整を行ってください。　・ソフトクローザー部品へは油を差さないでください。
・絶対に分解しないでください。

ソフトクローズ機構が作動しない場合

①上レール内に取り付けられているソフトクローザー部品のラッチ位置が正しい位置にあるか確認してください。（下図参照）

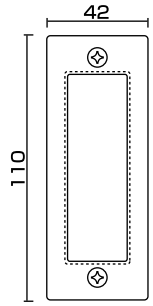


※ラッチ位置が正しくない場合は、ドライバーをラッチに引掛け正しい位置に戻してください。

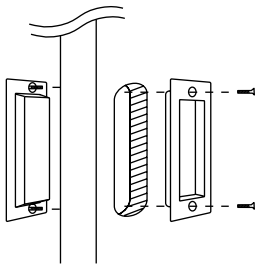
②鍵付けに問題がないか確認してください。傾き、ねじれなどがある場合は本体の鍵付け調整機構で調整してください。

引き手の取り付け

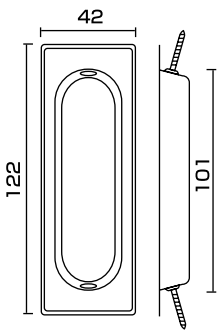
〈角タイプ引き手の場合〉



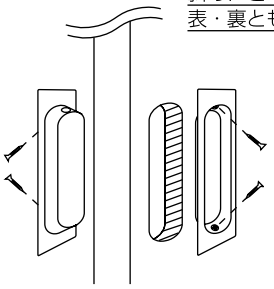
1セットを同梱のビスで水平にとめます。



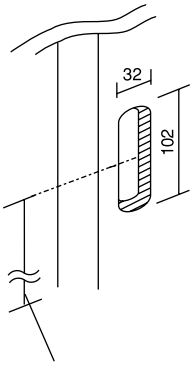
〈Rタイプ引き手の場合〉



片側ずつ同梱のビスで斜めにとめます。
表・裏ともにビスでとめます。



引き手加工穴



お願い

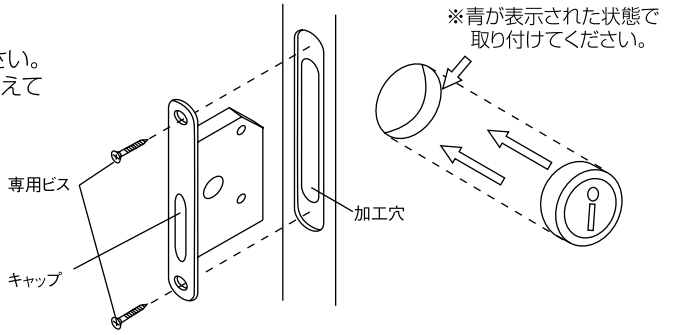
電動ドライバーによるビス止めは、引き手を破損するおそれがありますのでご遠慮ください。

錠の取り付け

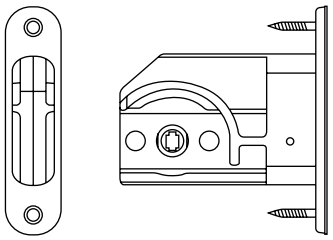
〈表示錠・間仕切り錠・鍵付き錠の場合のみ〉

①カマ錠の取り付けをします。
フロント板は、加工穴にズレないように入れてください。
ビスをしめつける際には、フロント板をしっかりおさえて行ってください。

※カマ錠の取付時は、必ずカマがケース内に入った状態で取り付けてください。

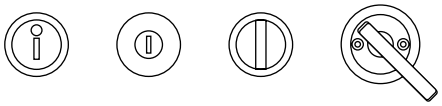


②錠を錠加工穴にとりつけます。



※サムターンが回転するので干渉しないように、ビスをしっかり締めてください。

錠の向きは下図の表示で取り付けてください。



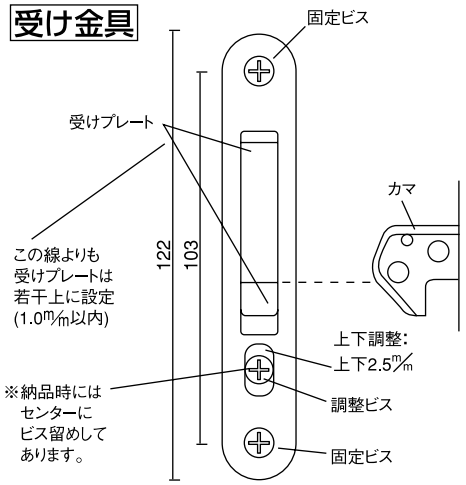
⚠ ビスの取り付けの留意点

ビスは同梱のビスを使用して取り付けてください。
ビスで金具の固定を行う際は過大なトルクを発生させる工具は極力使用しないでください。

強いトルクを発生させるインパクトドライバーを安易に用いると、締め過ぎによるビスの空転や部材に割れが生じ、適切な固定できず、商品に悪影響を及ぼす原因となります。

〈受け金具（枠側）の上下調整〉

引き戸の上下調整を行った場合は、錠と受け金具の上下の位置関係にズレが生じます。
引き戸のロックがしっかりと行われるように下記の要領で調整してください。



1.受けプレートの調整ビスを受けプレートが動く程度にゆるめます。
2.カマ錠のカマを出した状態にし、上図のような位置関係になるように調整します。
調整は、基準ラインよりも若干上に設定してください。
3.調整が終わりましたら調整ビスを締めて確実に固定してください。

お願い

引き戸の上下調整の両方またはどちらかの調整を行われましたら必ず受け金具の調整を行ってください。

引き戸が閉まらなくなったり、金具を破損するおそれがあります。

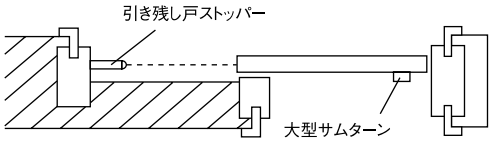
引き戸（ソフトクローズ機構付）

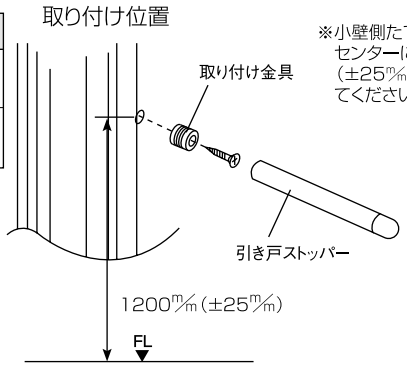
大型サムターン表示錠ご使用時の注意

大型サムターンが中方立て側にくる時、必ず別売のストッパーを使い、引き残しをつくってください。
ただし、有効開口は102㎜狭くなります。



	品番	設計価格／個
ゴールド	ZY1636	¥2100（¥2000）
シルバー	ZY1637	¥2100（¥2000）





※小壁側たて枠の防寒じゃくりセンターに床から1200㎜（±25㎜）の高さに取り付けてください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

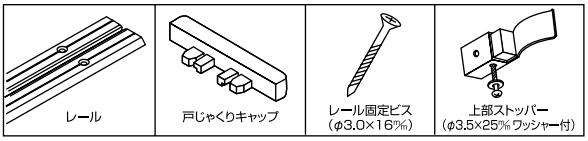
使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

床直置きレール

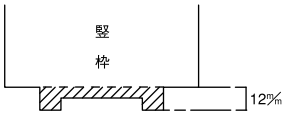
開梱

梱包を開いたら床直付けレールおよび、下表の付属品に
不足および問題がないかどうか確認してください。



施工の前に

・右図のように、竪枠は下端より
12㎜カットしてください。



・床直付けレールが曲がったりしていないか確認してください。
・枠の取り付けは、水平垂直を十分に注意してください。
・床直付けレール取り付け前に、取り付け箇所のフローリングを
十分に清掃してください。

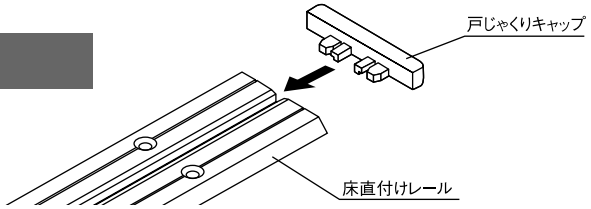
梱包内訳表

引戸形式		レールサイズ	レール本数	レール固定ビス	戸じゃくりキャップ	上部ストッパー
片引き	枠外1190用	1129	1本	8本袋入×1	2個	1個
	枠外1324用	1263	1本	8本袋入×1	2個	1個
	枠外1450用	1389	1本	8本袋入×1	2個	1個
	枠外1644用	1583	1本	8本袋入×1	2個	1個
	枠外1824用	1763	1本	8本袋入×1	2個	1個
引き分け		3173	1本	13本袋入×1	2個	−
引き違い	枠外1644用	1583	2本	8本袋入×2	2個	2個
	枠外1824用	1763	2本	8本袋入×2	2個	2個
	12尺用	3173	2本	13本袋入×2	2個	2個
3本引き違い		2363	3本	10本袋入×3	2個	2個
2本引き込み		2366	2本	10本袋入×2	1個	1個
3本引き込み		3146	3本	13本袋入×3	1個	1個

施工手順

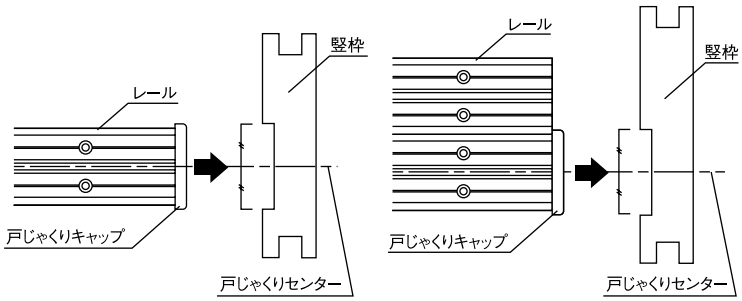
戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、
戸じゃくりキャップを取り付けます。



床直付けレール取り付け位置の確認

片引き、引き違いともに、竪枠の戸じゃくり
センターが床直付けレールのセンターになる
ように位置決めをします。引き違いの場
合など、2本以上の床直付けレールをご使
用になるときは戸じゃくりの位置で片方の
床直付けレール位置を決め、その他の床直
付けレールがすき間なく並ぶように位置決
めしてください。

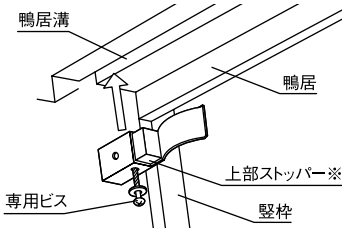


レールの固定

同梱のレール固定ビスφ3.0×16㎜で
床直付けレールの下穴からレールを固定します。
ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、
床直付けレールが床から浮いた状態だと、
建具の動作不良の原因となりますので
注意してください。

上部ストッパーの取り付け

上部ストッパーを戸じゃくり側の鴨居溝へ、差し込み、
竪枠に、あたる位置で取り付けます。
クッションゴムの見える側を上にして金属プレート側から
専用ビスにて固定してください。



※ソフトクローズ仕様の
時は上部ストッパーを
取り付けないでください。

調整枠

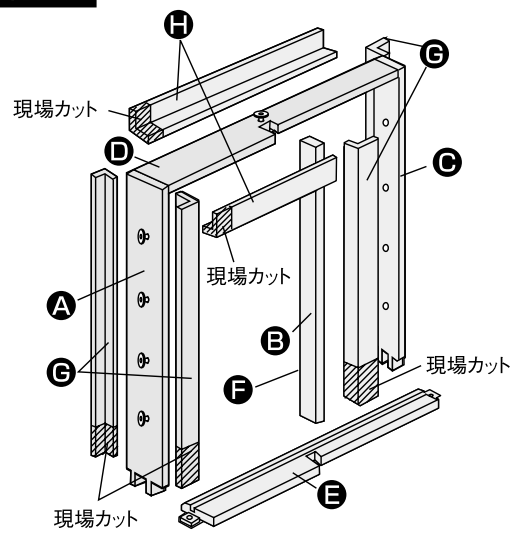
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

片引き戸



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
A	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
B	竪枠（中方立て）	1本	正寸カット済
C	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
D	鴨居	1本	正寸カット済
F	モヘア	1本	
	敷居レール	1本	
	組み立て専用ビス	6本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	5本	
	躯体接合金具用ビス	9本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	2本	
	Yレールストッパー	1個	

ケーシングセット（別売品）

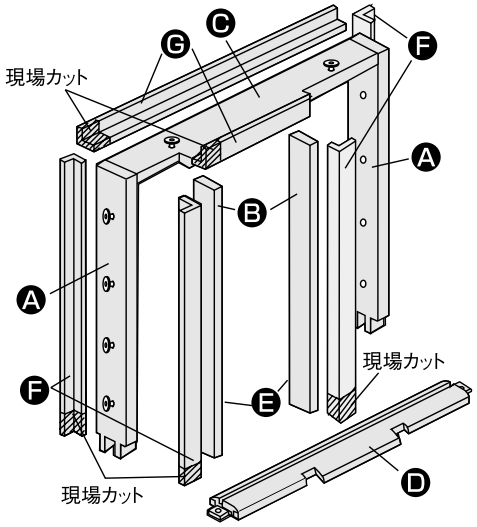
	部材名	数量	備　考
G	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
H	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
E	敷居	1本	正寸カット済

全体図

引き分け戸



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
A	竪枠（戸袋側）	2本	正寸カット済
B	竪枠（中方立て）	2本	正寸カット済
C	鴨居	1本	正寸カット済
E	モヘア	2本	
	敷居レール	1本	
	組み立て専用ビス	8本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	4本	

ケーシングセット（別売品）

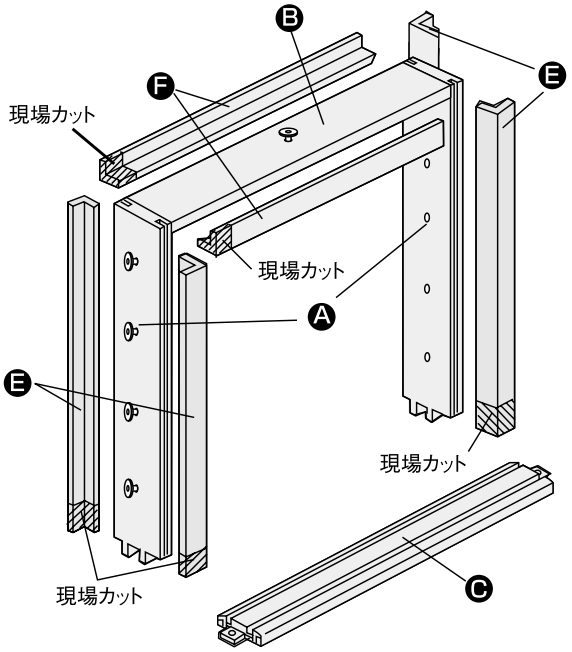
	部材名	数量	備　考
F	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
G	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
D	敷居	1本	正寸カット済

全体図

引き違い戸 6尺



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
A	竪枠	2本	正寸カット済
B	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール	2本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	4本	
	Yレールストッパー	2個	

ケーシングセット（別売品）

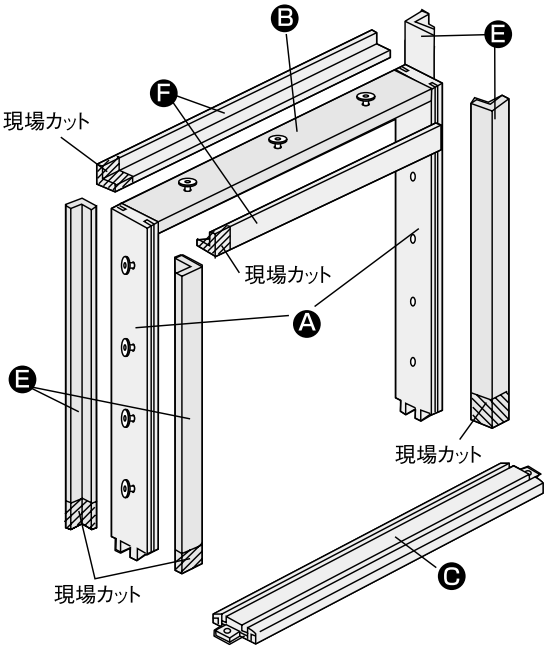
	部材名	数量	備　考
E	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
F	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
C	敷居	1本	正寸カット済

全体図

引き違い戸 12尺



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
A	竪枠	2本	正寸カット済
B	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）	1本	
	敷居レール（短）	1本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	4本	
	Yレールストッパー	2個	

ケーシングセット（別売品）

	部材名	数量	備　考
E	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
F	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
C	敷居	1本	正寸カット済

調整枠

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材

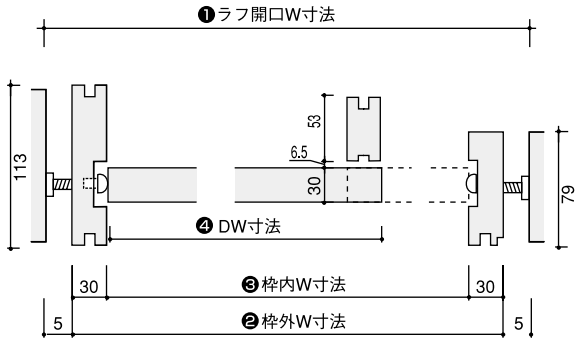
2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

片引き戸

（単位：㎜）

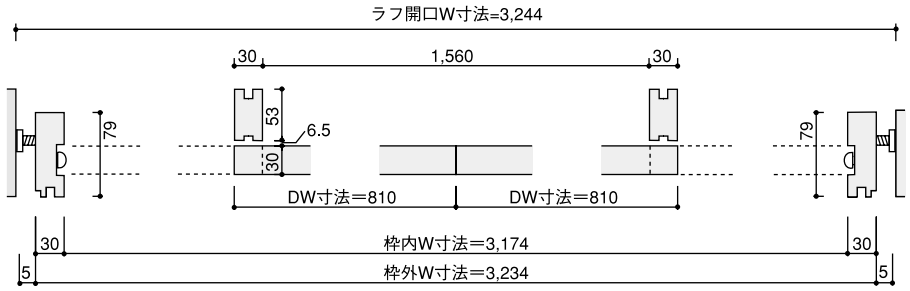


■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶ラフ開口W寸法	1,834	1,654	1,460	1,334	1,200
❷枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❸枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❹DW寸法	900	810	713	650	583
❺有効開口寸法	867	777	680	617	550

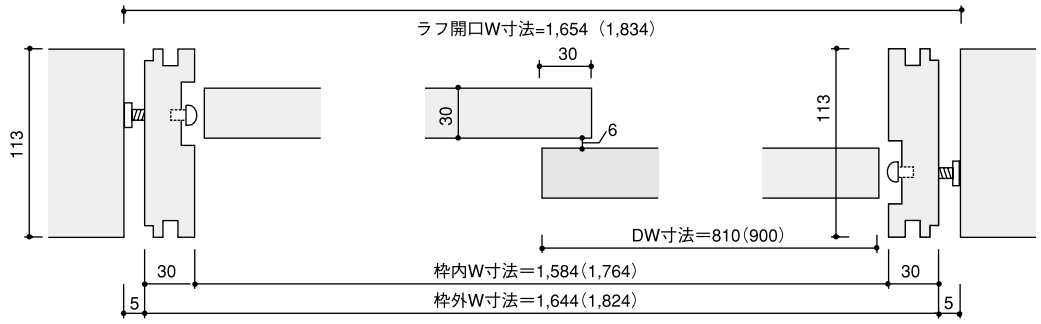
引き分け戸

（単位：㎜）



引き違い戸（間口6尺）

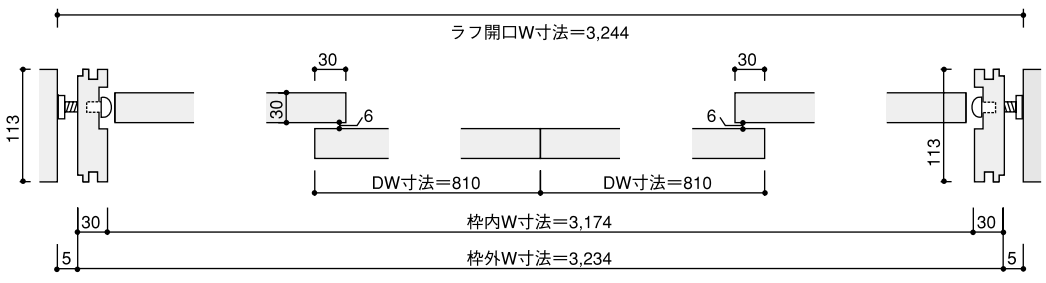
（単位：㎜）



※（ ）内の寸法はメーターモジュール対応の場合です。

引き違い戸（間口12尺）

（単位：㎜）

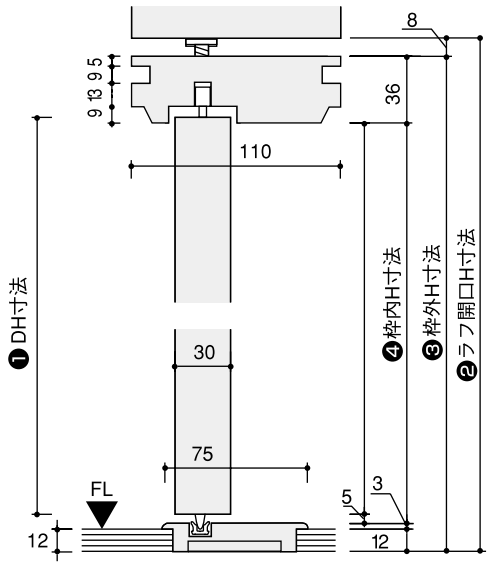


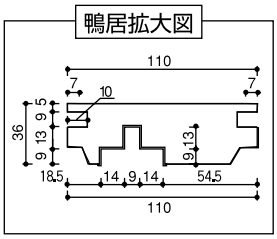
※ソフトアート DH2,195㎜（ハイドア）には対応していません。

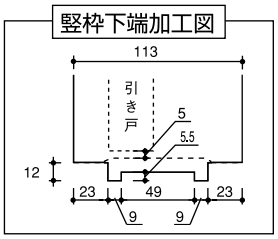
縦断面図

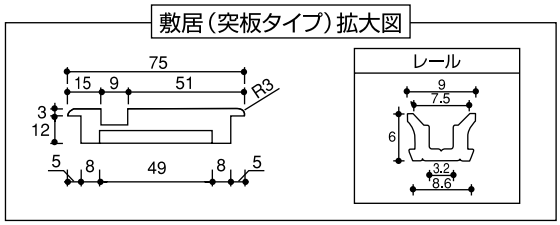
片引き戸・引き分け戸

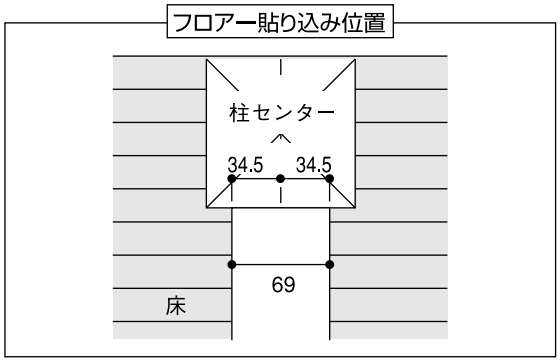
（単位：㎜）









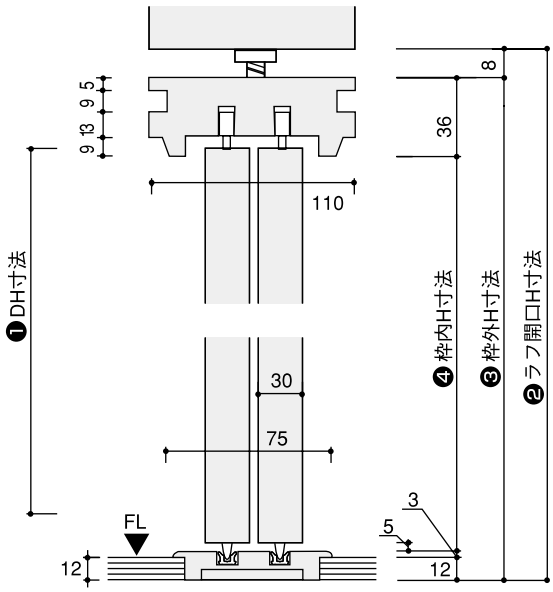


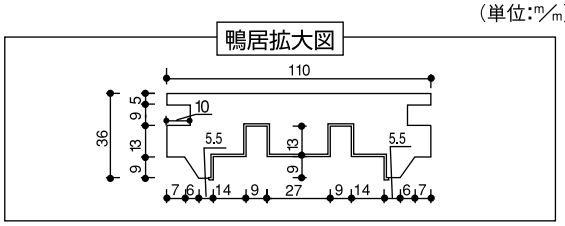
■納まり寸法表

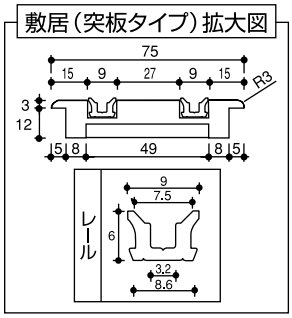
	標準タイプ DH1,995	ソフトアートハイドア DH2,195
❶ DH寸法	1,995	2,195
❷ ラフ開口H寸法	2,055	2,255
❸ 枠外H寸法	2,047	2,247
❹ 枠内H寸法	1,996	2,196

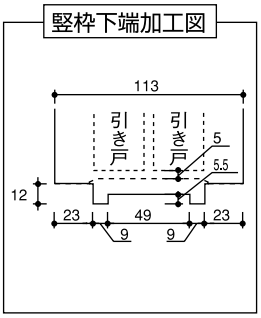
引き違い戸

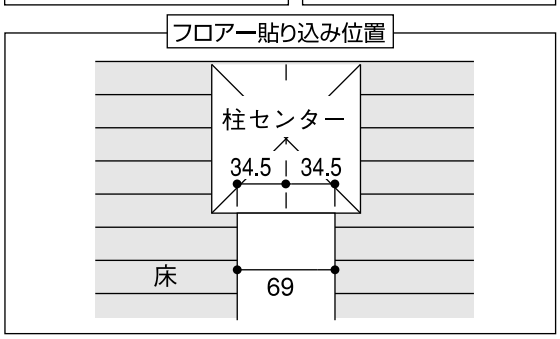
（単位：㎜）











■納まり寸法表

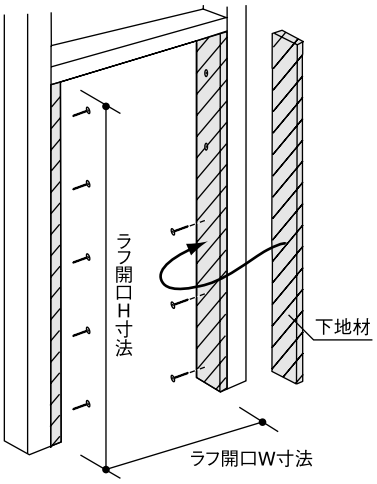
	標準タイプ DH1,995	ソフトアートハイドア DH2,195
❶ DH寸法	1,995	2,195
❷ ラフ開口H寸法	2,055	2,255
❸ 枠外H寸法	2,047	2,247
❹ 枠内H寸法	1,996	2,196

調整枠

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材

3. 施工手順

取り付け開口部の確認



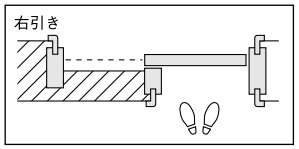
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

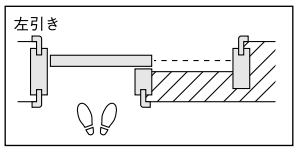
枠材の組み立て（前準備）

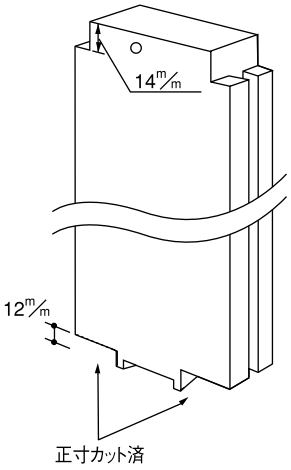
引き手方向の確認

※片引き戸の場合のみ。

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

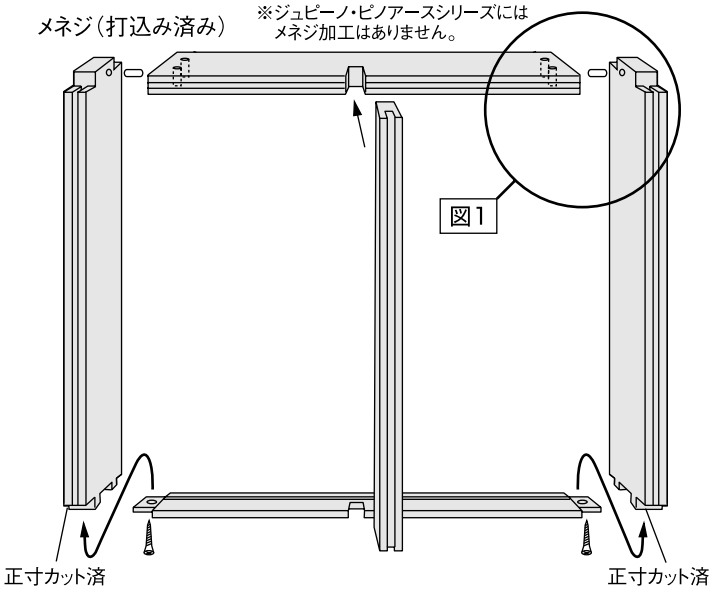






枠材の組み立て

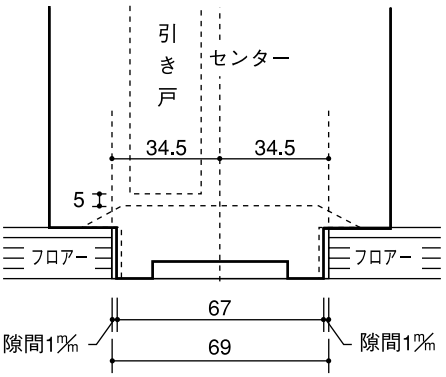
※下図は片引き戸の場合です。



注意! 敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

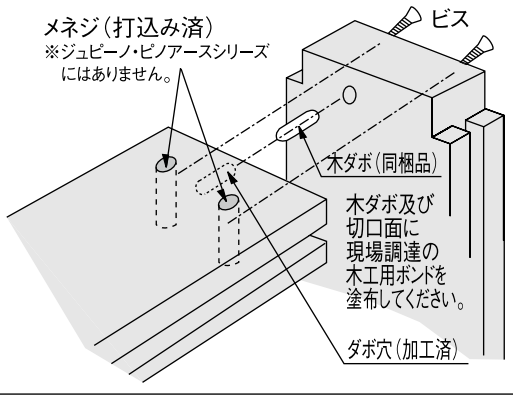
敷居埋め込みの場合

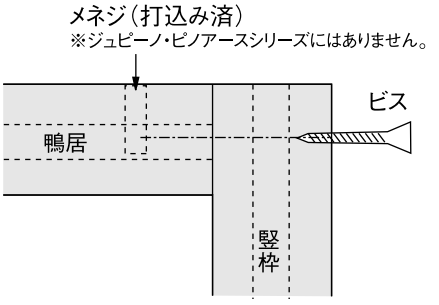
竪枠とフロアーの納まり



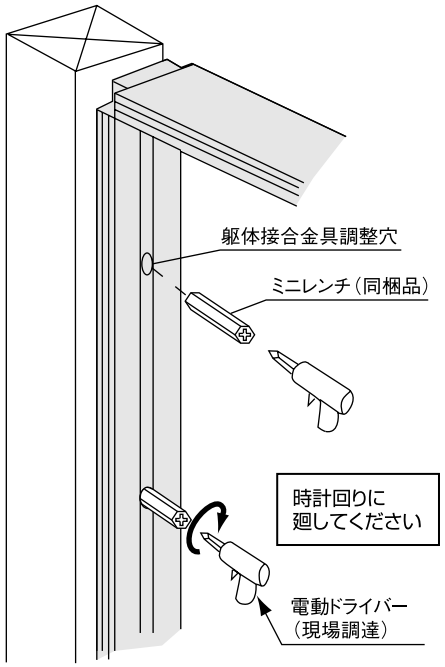
●15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板などを下地にし、高さ調整をしたうえで施工してください。

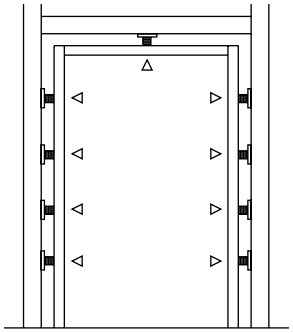
図1





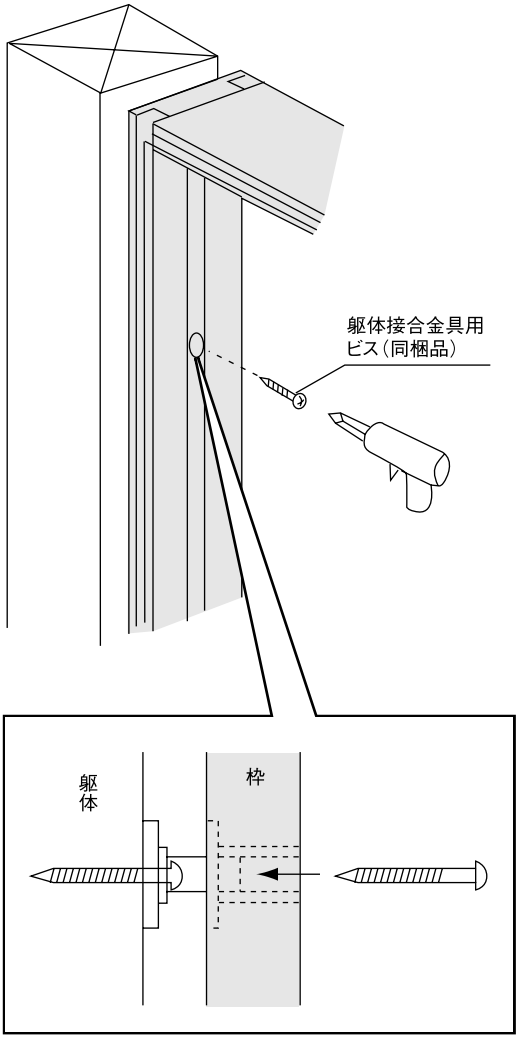
枠材の仮固定





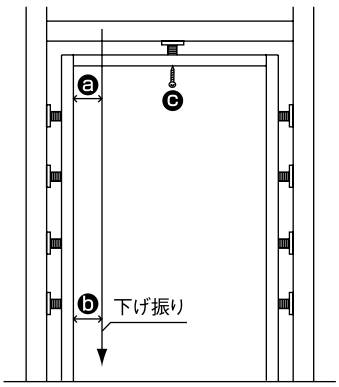
下地材不要

竪枠の本固定

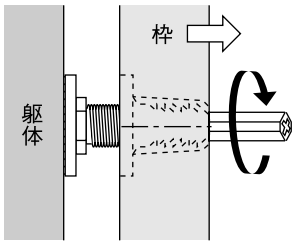


建て付け調整ならびに鴨居の本固定

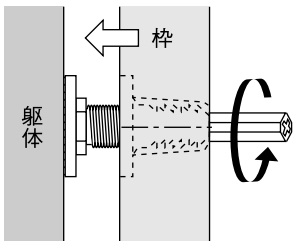
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



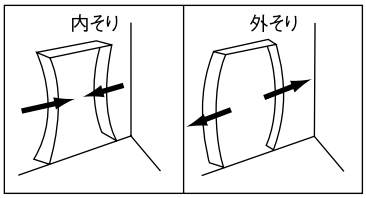
枠を内側に寄せる場合



枠を外側に出す場合



※下記の様なことがないようご注意ください。



調整枠

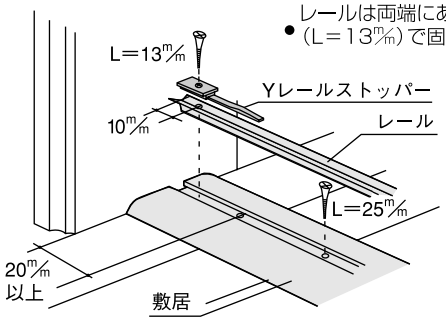
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材

敷居の固定とレールの取り付け

※下図は片引き戸の場合です。

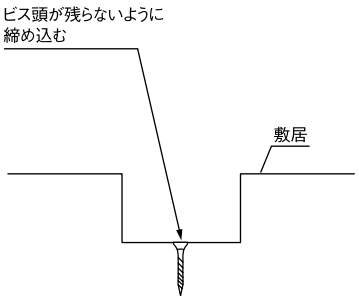
敷居とレールの固定

- 敷居は接着剤･ビス併用で下地材に固定します。（L＝25㎜）で床下地材に固定します。
- レールは両端にある下穴から2ヶ所、同梱のビス（L＝13㎜）で固定します。



※レール固定ビスが端から10㎜にきますので、20㎜以上逃がして取り付けてください。

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

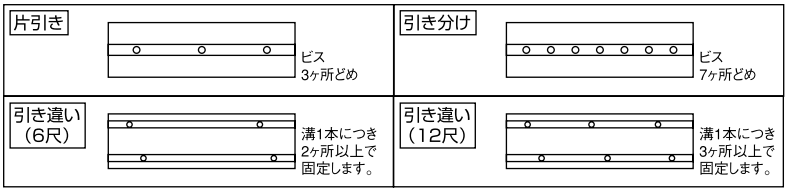


確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

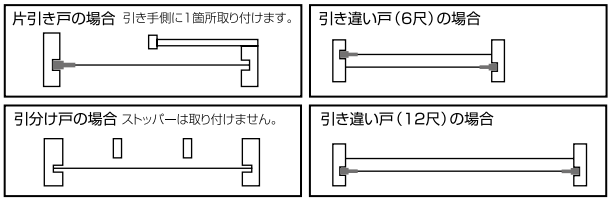
敷居と下地の固定

※引き違いの場合、ビスは敷居基材に割れが生じないよう、ちどりに打ってください。

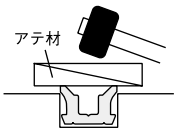


Yレールストッパーの取り付け

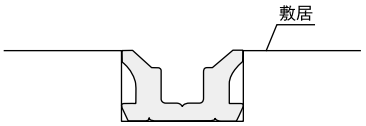
Yレールストッパーは必ず引き手側に取り付けてください。



Yレール取り付け時の注意



ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。



※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

お願い

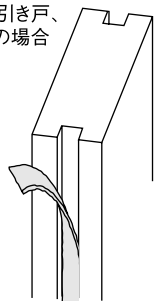
敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

⚠ 注意

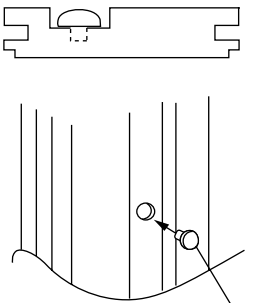
レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

モヘア・キャップの取り付け

※中方立は片引き戸、引き分け戸の場合のみです。



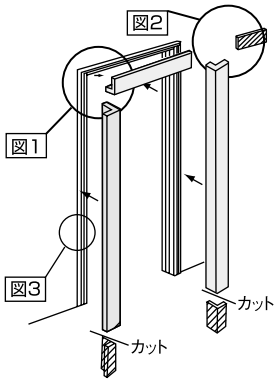
施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

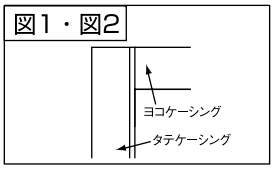


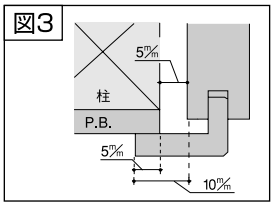
クッションキャップ

クッションキャップをします。

ケーシングの取り付け







施工終了後

養生 当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

調整枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

1. 開梱（梱包内訳表）

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

片引き戸

	部材名	数量	備　考
	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
	竪枠（中方立て）	1本	正寸カット済
	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	モヘア	1本	
	敷居レール（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付）1本・上レールビス8本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	2本	
	組み立て専用ビス	6本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	5本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	9本	ビスセット
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	ビスセット
	ミニレンチ	1本	ビスセット

引き分け戸

	部材名	数量	備　考
	竪枠（戸袋側）	2本	正寸カット済
	竪枠（中方立て）	2本	正寸カット済
	鴨居	1本	ソフトクローズ機構用
	モヘア	2本	ソフトクローズ機構用
	敷居レール（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付 上レールストッパー付）1本・上レールビス10本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	4本	
	組み立て専用ビス	8本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	9本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	11本	ビスセット
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	ビスセット
	ミニレンチ	1本	ビスセット

引き違い戸（間口6尺）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（Yレール）	2本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付）1本・上レールビス8本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	4本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	9本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	11本	ビスセット
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	ビスセット
	ミニレンチ	1本	ビスセット

引き違い戸（間口12尺）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	敷居レール（短）（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付 上レールストッパー付）1本・上レールビス16本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	8本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	9本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	11本	ビスセット
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	ビスセット
	ミニレンチ	1本	ビスセット

3枚引き違い戸

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）（Yレール）	2本	※下枠埋込みタイプの場合
	敷居レール（短）（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付）1本・上レールビス8本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	6本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	11本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	11本	ビスセット
	クッションキャップ	8本	ビスセット
	躯体接合金具用キャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	ビスセット
	ミニレンチ	1本	ビスセット

（2枚・3枚）引き込み戸

	部材名	数量	備　考
	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
	竪枠（中方立て）	1本	正寸カット済
	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	敷居レール（短）（Yレール）	1(2)本	（　）内は3枚用 ※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付 上レールストッパー付）1本・上レールビス10本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	4(6)本	（　）内は3枚用
	モヘア	1本	ビスセット
	組み立て専用ビス	6本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	14本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	11本	ビスセット
	クッションキャップ	4個	ビスセット
	キャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	ビスセット
	ミニレンチ	1本	ビスセット

調整枠 ソフトクローズ機構付

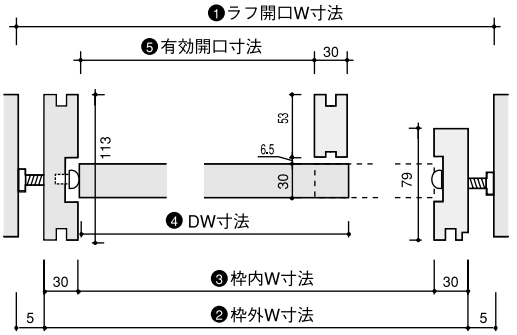
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が装備されているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

片引き戸

横断面図

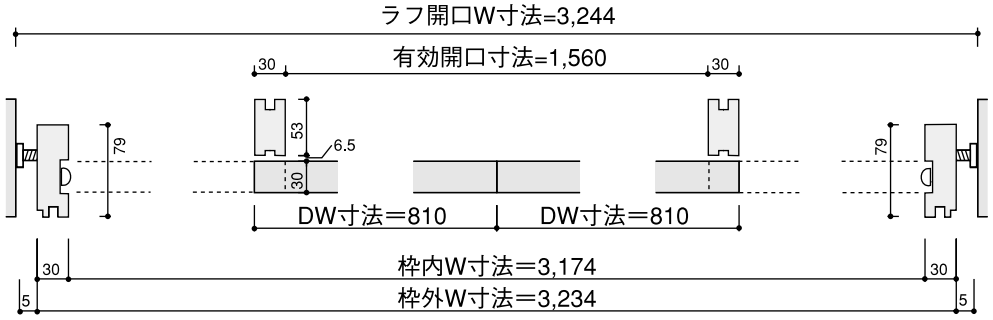


■ 枠製品寸法と納まり　（単位:㎜）

製品寸法	1,824	1,644	1,450
❶ ラフ開口W寸法	1,834	1,654	1,460
❷ 枠外W寸法	1,824	1,644	1,450
❸ 枠内W寸法	1,764	1,584	1,390
❹ DW寸法	900	810	713
❺ 有効開口寸法	870	780	683

引き分け戸

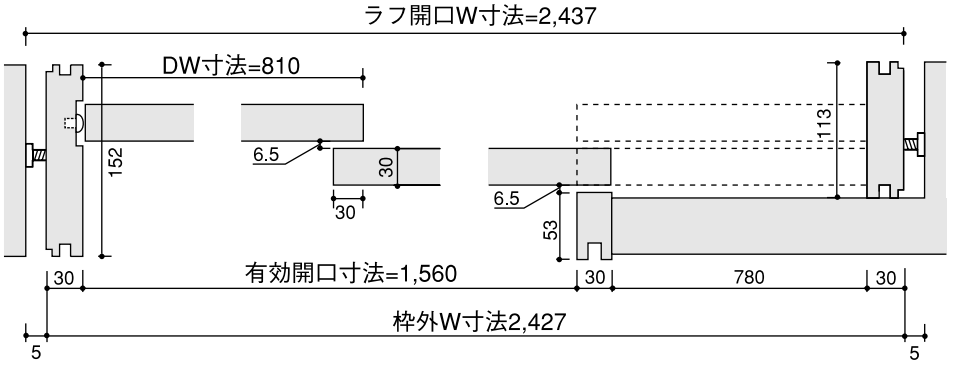
（単位:㎜）



2枚引き込み戸

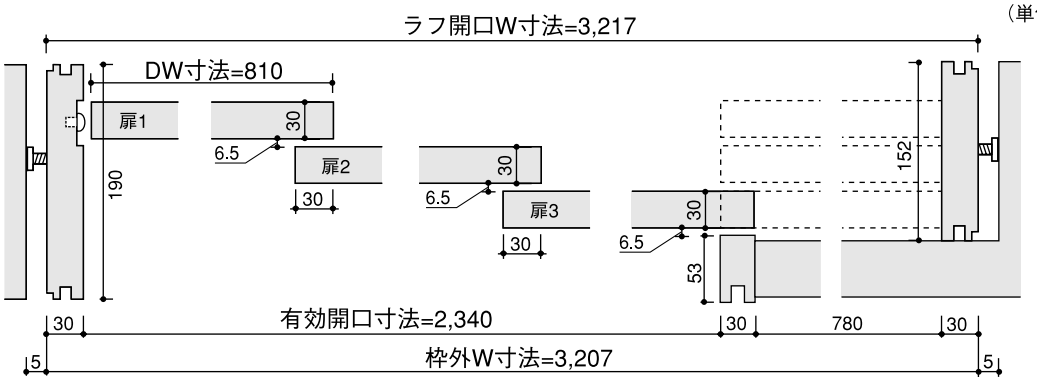
横断面図

（単位:㎜）



3枚引き込み戸

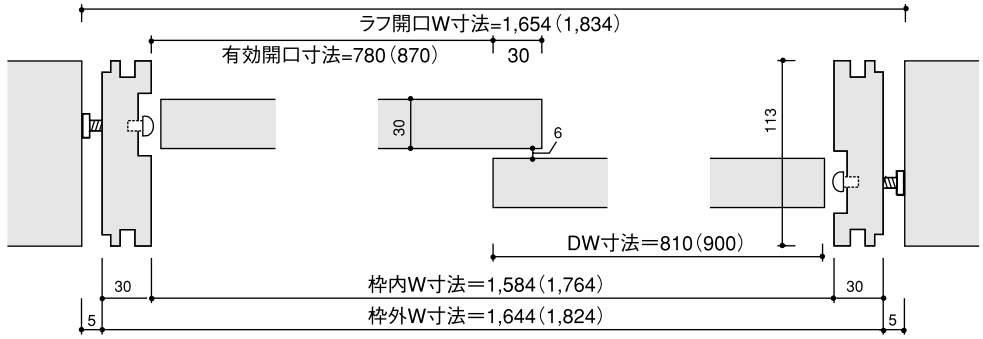
（単位:㎜）



引き違い戸（間口6尺）

横断面図

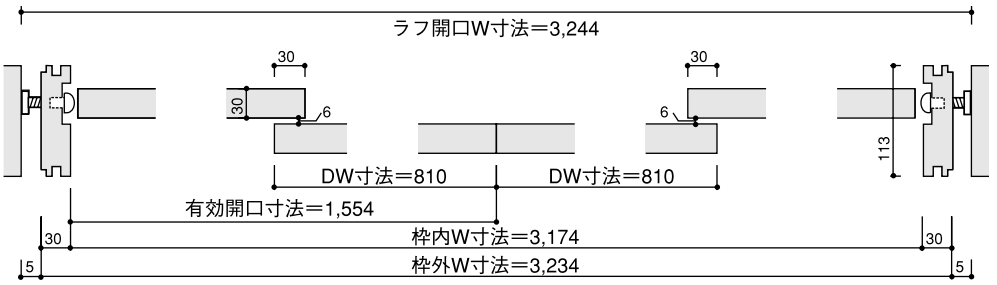
（単位:㎜）



引き違い戸（間口12尺）

横断面図

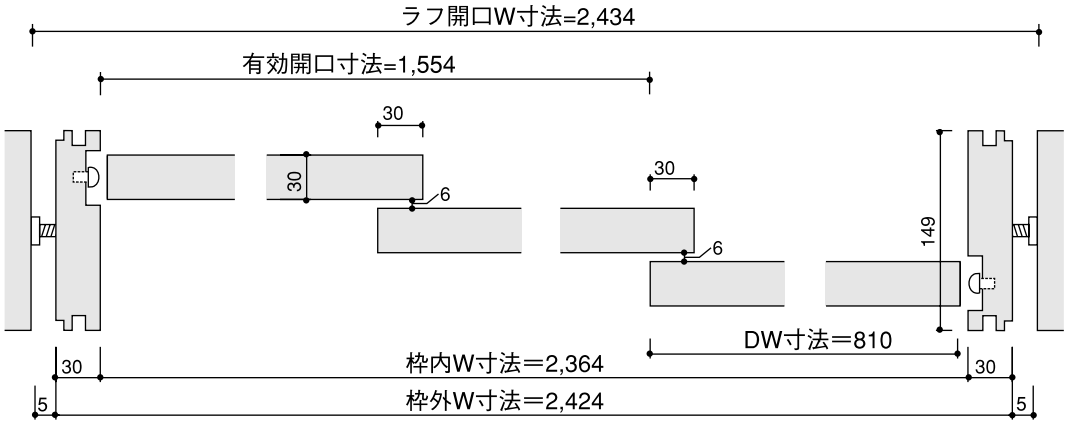
（単位:㎜）



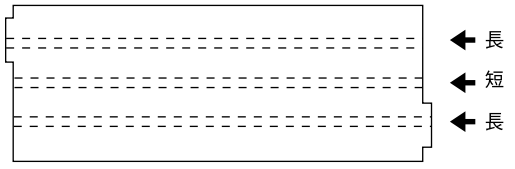
3枚引き違い戸

横断面図

（単位:㎜）



レールの配置



調整枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

2. 納まり図

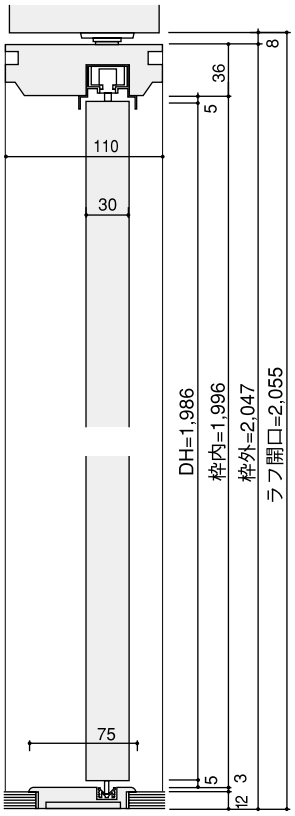
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

下枠埋め込みタイプ

縦断面図

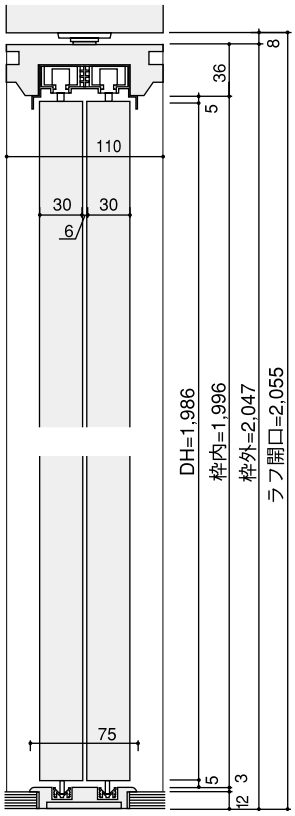
片引き戸・引き分け戸

（単位：㎜）



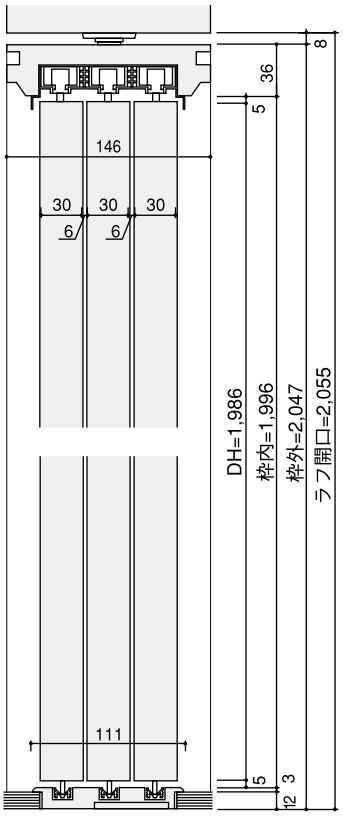
引き違い戸（間口6尺・12尺）

（単位：㎜）

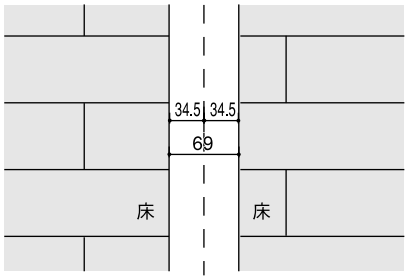


3枚引き違い戸

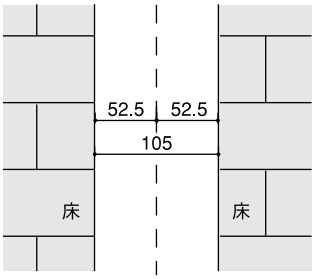
（単位：㎜）



フロアー張り込み位置



壁（枠）センター



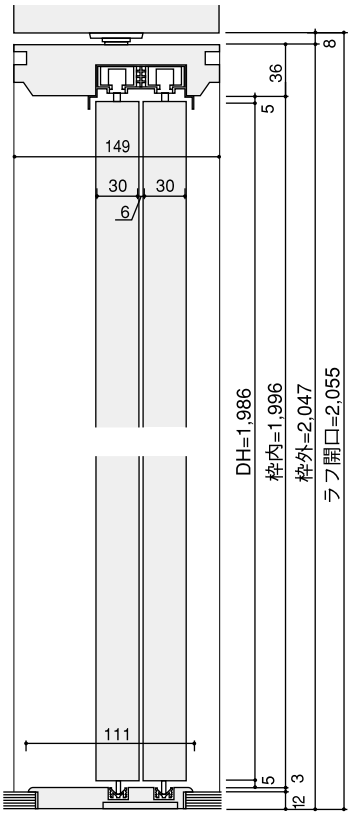
壁（枠）センター

下枠埋め込みタイプ

縦断面図

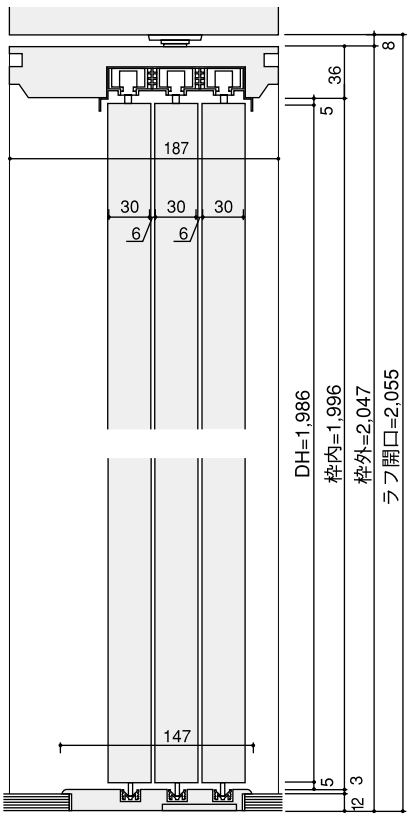
2枚引き込み戸

（単位：㎜）

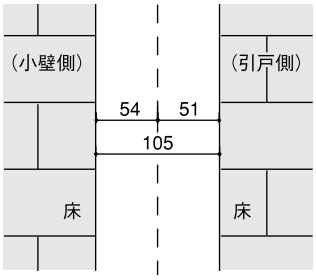


3枚引き込み戸

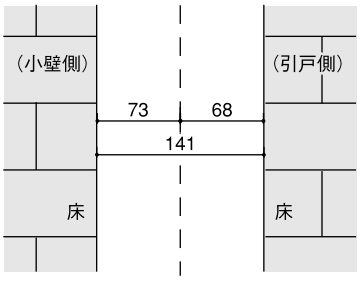
（単位：㎜）



フロアー張り込み位置



壁（枠）センター



壁（枠）センター

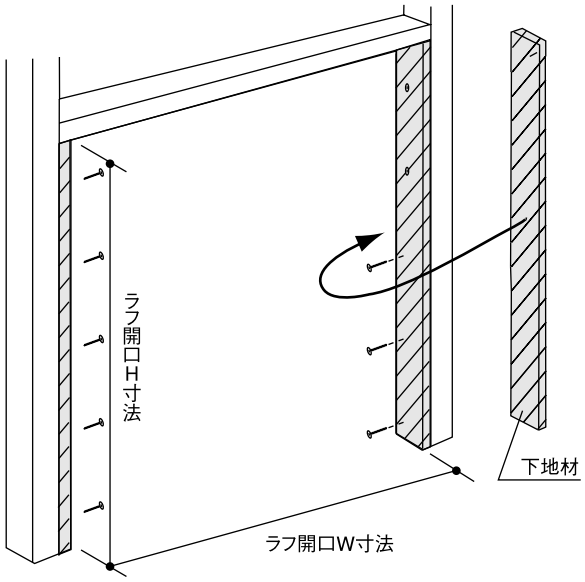
調整枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

3. 施工手順

① 取り付け開口部の確認

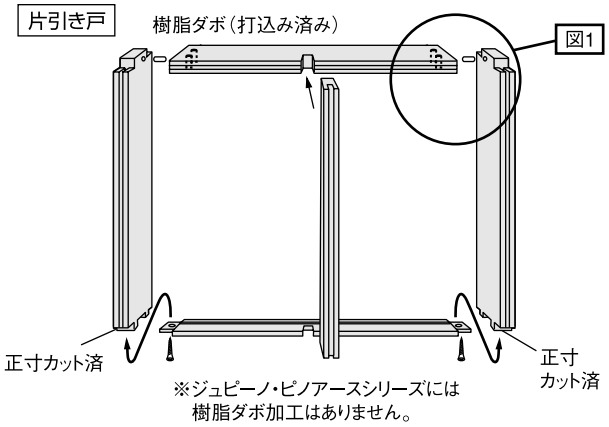
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、
枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



② 枠材の組み立て

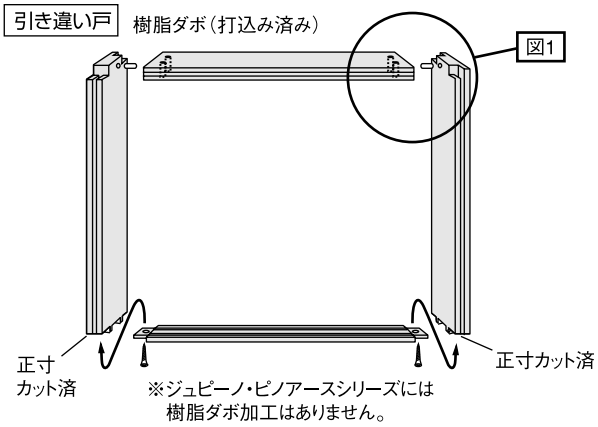
下枠埋め込みタイプの場合

片引き戸



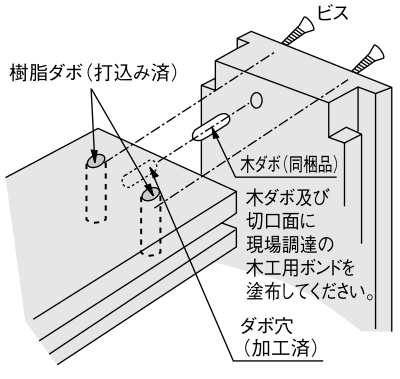
※ジュピーノ・ピノアースシリーズには
樹脂ダボ加工はありません。

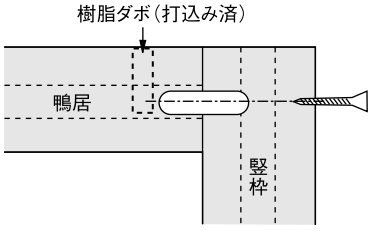
引き違い戸



※ジュピーノ・ピノアースシリーズには
樹脂ダボ加工はありません。

図1

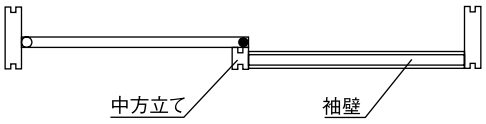
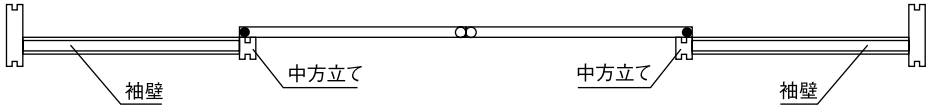
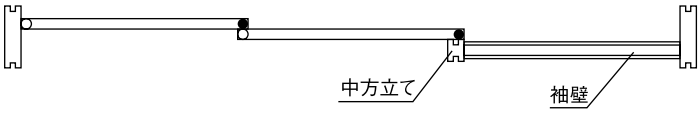
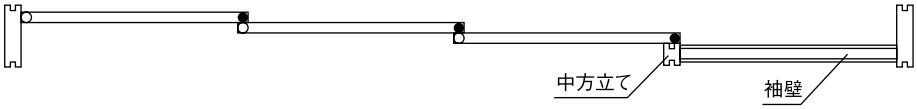




※ジュピーノ・ピノアースシリーズには樹脂ダボ加工はありません。
また、9尺、12尺タイプにはビス穴、ダボ穴は加工されていません。

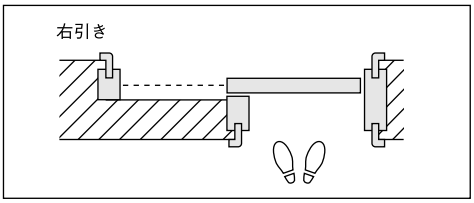
③ 枠材の取り付け（前準備）

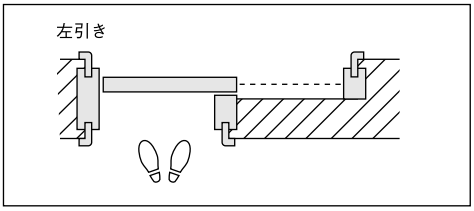
下図を参照して、取り付けする枠材の向きを確認してから仮固定してください。

片引き （左引きの場合）	
引き分け	
2本引き込み （左引きの場合）	
3本引き込み （左引きの場合）	

引き手方向の確認

片引き戸には2本引き込み3本引き込み、
引き手方向によって左右の区別がありますので、
ご確認のうえ施工してください。

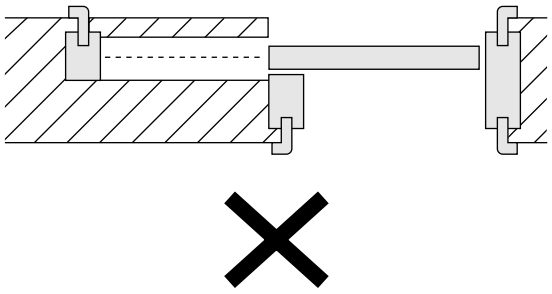




⚠ 注意

両戸袋での枠材施工は行わないでください

※右引きの場合の両戸袋施工例



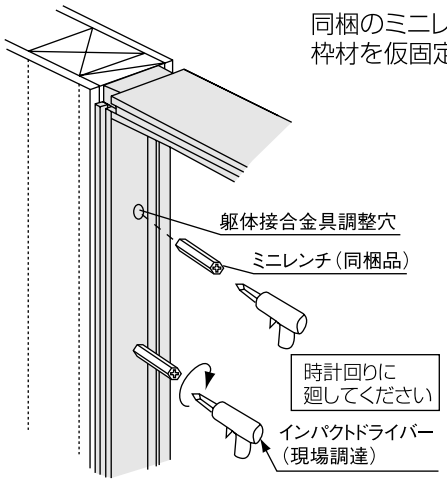
両戸袋での施工をされると、戸車やレール等の消耗消耗製部品の交換ができませんので行わないでください。

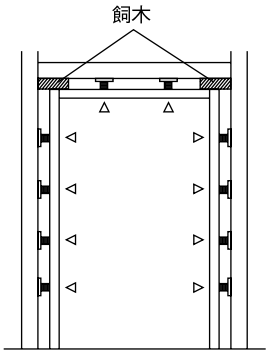
調整枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

④ 枠材の仮固定

同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具調整穴より躯体接合金具を調整し、枠材を仮固定してください。





⚠ 注意

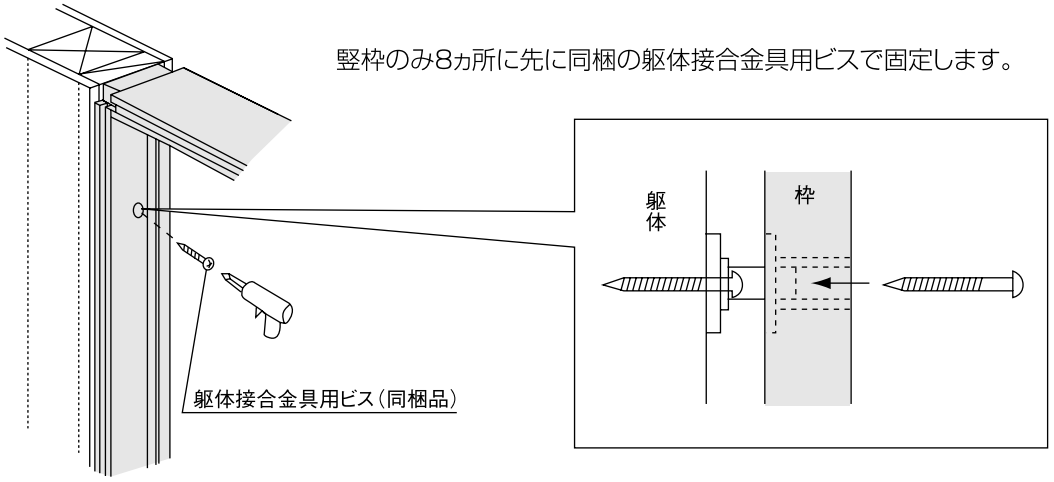
必ずおこなう

鴨居と竪枠の接合部とまぐさの間に隙間ができないよう飼木を入れる。

この間に飼木がないと、鴨居がもち上がり、戸車が脱輪する原因となります。

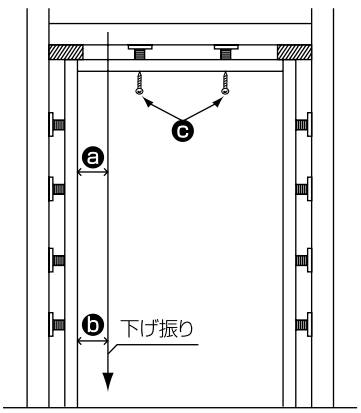
⑤ 竪枠の本固定

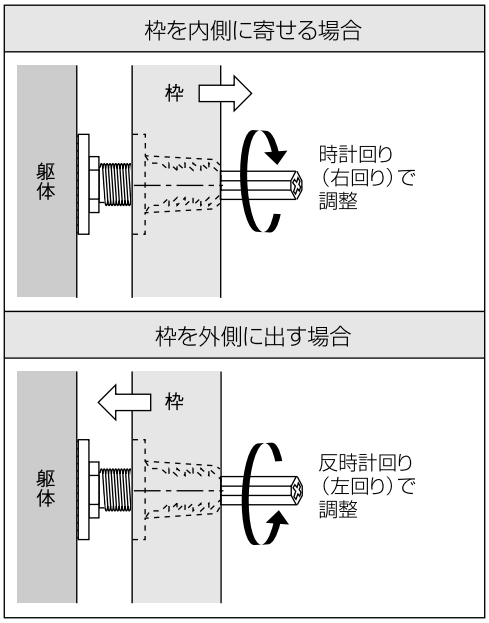
竪枠のみ8ヵ所に先に同梱の躯体接合金具用ビスで固定します。



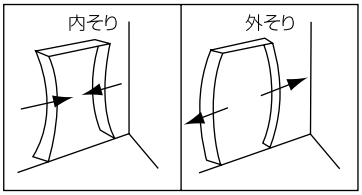
⑥ 建て付け調整ならびに鴨居の本固定

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。





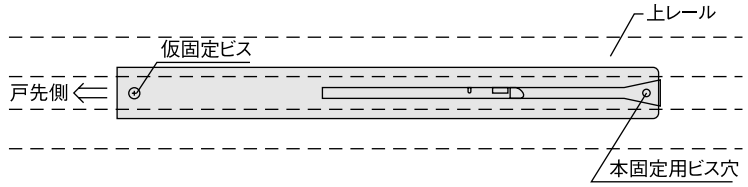
※下記の様なことがないようご注意ください。



⑦ 上レールの取り付け

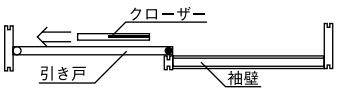
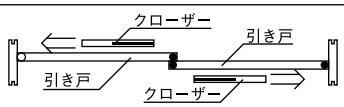
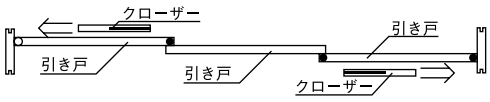
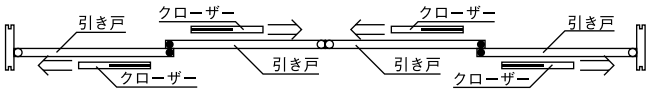
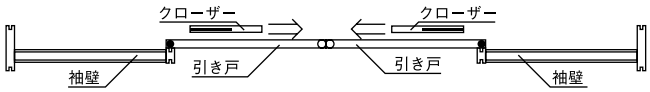
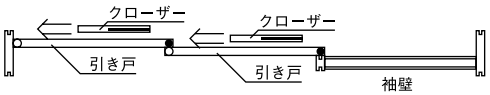
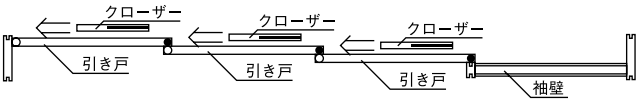
上レールの内部には、あらかじめ引き戸クローザー本体が仮固定されています。
クローザー本体の向きを確認して上レールを取り付けしてください。
取り付けは上レールのビス穴から同梱の専用ビスで固定してください。

引き戸クローザー本体（上レールを見上げた時の図）

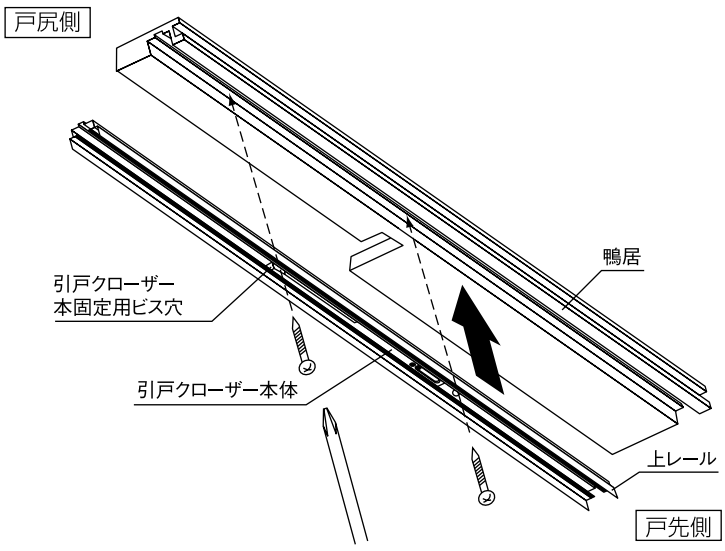


⚠ 注意

引き戸クローザーと引き戸の位置が間違って取り付けられている場合、正常に動作しません。

片引き（左引きの場合）	
引き違い（間口6尺）	
3本引き違い	
引き違い（間口12尺）	
引き分け	
2本引き込み（左引きの場合）	
3本引き込み（左引きの場合）	

取り付け方向を確認した上レールを
鴨居溝へはめ込み、
同梱の専用ビスで固定してください。



⚠ 注意

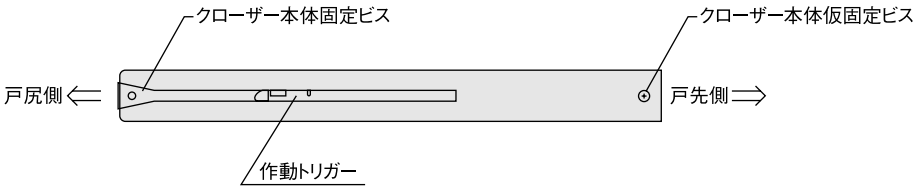
引き戸クローザー本体の戸尻側には、本固定用のビス下穴がありますので上レールと同じビスで固定する。

調整枠 ソフトクローズ機構付

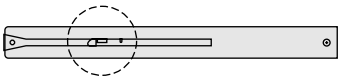
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

⑧ ソフトクローズ機構の調整方法

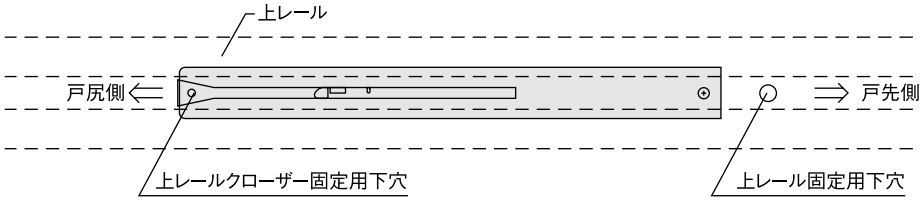
1.引き戸クローザー本体について



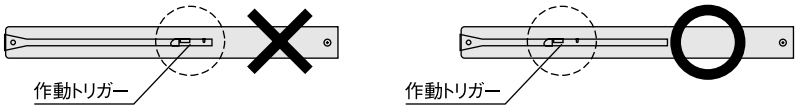
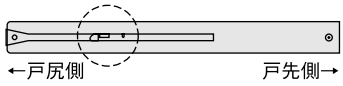
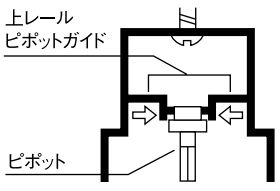
3.引き戸クローズ機構の調整方法

現　象		チェックポイント
減速感なく、引き戸が閉まる。 ※ブレーキの効き具合には限度がございます。速い速度で引き戸を閉めたり、取付状態や本体デザイン（重量）によって、ブレーキ感が弱く感じる場合がございます。	引き戸クローズ機構が作動していない。 （作動していませんと、引き戸を閉めたときに、枠から跳ね返ります。）	引き戸クローザー本体の作動トリガーの位置を確認する。 
		引き戸クローザー本体外観に潤滑油が塗布された形跡がないかを確認する。
		上記の項目を全て確認した上で、ブレーキがかかることなく引戸が閉まる。
引き戸が閉まりきらない。		引き戸クローザー本体を戸先側、戸尻側逆に取り付けていないか確認する。
		下レールにゴミがたまり付着し、戸車の滑りが悪くないか確認する。
		戸車にゴミが付着している。もしくは破損していないか確認する。
		下レールの端部が、敷居から浮いていないか確認する。
		引き戸が中方立てのモヘアと干渉していないか確認する。
		上レールのピポットガイド部分が内側方向へ変形していないか確認する。
		上記の項目を全て確認した上で、引き戸が閉まりきらない場合

2.引き戸クローザー本体の取り付け位置



※引き戸クローザーは、上レールに仮固定された状態で出荷されております。出荷時の仮固定位置は、上レールのクローザー固定用下穴と引き戸クローザー本体のクローザー本体固定ビス穴と位置合わせした状態となっております。鴨居へ上レールを取り付けの際は、クローザーを動かさずそのまま固定してください。

対処方法	備　考
引き戸本体を取外し、作動トリガーが下図のように作動完了位置にあった場合は、作動トリガーに細長い棒状のものを差し込み、作動トリガーを作動開始位置に移動させ、再度引き戸を取り付けて下さい。 【作動完了位置にある状態】 【作動開始状態位置】  	工場出荷状態の引き戸クローザー本体の作動トリガーは、作動開始状態位置にあります。
潤滑油等が塗布されている場合は、引き戸クローザー本体の交換が必要です。本体に潤滑油を塗布しないでください。	
もよりの弊社営業所、もしくは、フリーダイヤル0120-81-3331までご連絡ください。	
溝が付いている側が戸尻側となります。  	
清掃をお願いします。現場施行中のときには、レール内にゴミや木くずなどが入りこまないよう、養生をお願いします。	引き戸下部の戸車の回転に抵抗があると、引き戸が閉じにくくなります。
清掃をお願いします。また、破損している場合は、戸車（品番:ZY1640）の交換が必要です。もよりの弊社営業所までご連絡ください。	引き戸下部の戸車の回転に抵抗があると、引き戸が閉じにくくなります。
あて木をして、下レールを隙間なく叩き込んでください。	
引き戸に取り付けられている、ピポットと戸車の左右調整をしてください。	
『上レールビス』もしくは『クローザー本体仮固定ビス』の締め込み過ぎにより、上レールが内側へ寄ったため、『上レールピポットガイド部分』と『ピポット』が競り合っている可能性があります。それぞれのビスを半回しずつ緩め、変形を緩和させてください。  	上レールピポットガイド部分とピポットには、隙間を設けております。この隙間がなくなりますと、ピポットを押し付けることになり、その抵抗によって、引き戸が閉じにくくなることがございます。
もよりの弊社営業所、もしくは、フリーダイヤル0120-81-3331までご連絡ください。	

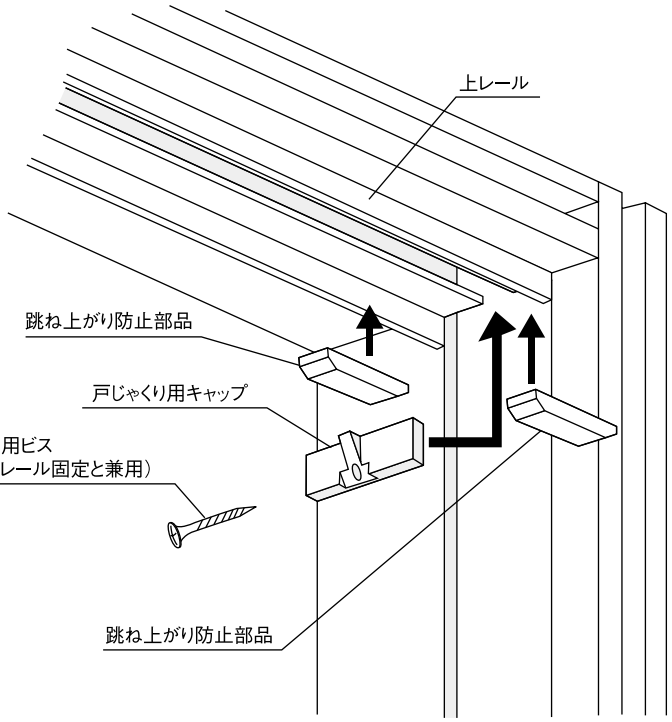
調整枠 ソフトクローズ機構付

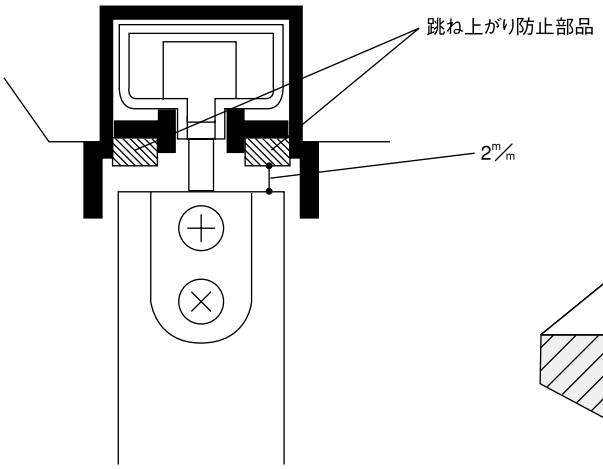
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

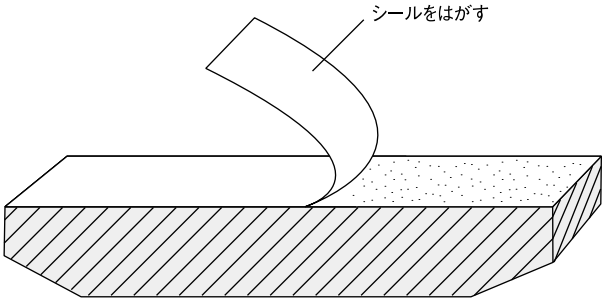
⑨ 戸じゃくり用キャップ・跳ね上がり防止部品の取り付け

※施工手順「上レールの取り付け」後、下記の要領で施工して下さい。

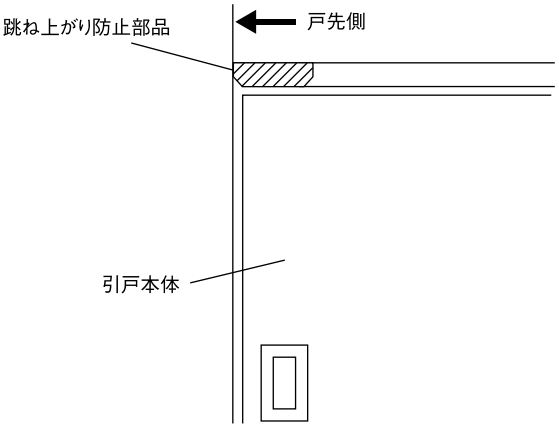
戸じゃくり用キャップを戸じゃくりへあて、
上レールと竪枠のすき間（戸じゃくり部分）に
すべり込ませます。
上へ押し上げて止まったところで専用のビス
（上レール固定と兼用）を使い
戸じゃくり用キャップにあいているビス穴より
固定をして下さい。







跳ね上がり防止部品

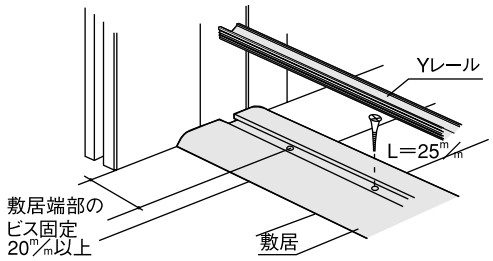


- 引戸を閉めた時に戸先側先端部分の真上の位置に取り付けてください。
- 取り付け後、跳ね上がりが目立ちにくくなるように戸車を上方向に調整してください。

⑩ 敷居・レールの取り付け

敷居埋め込みタイプ

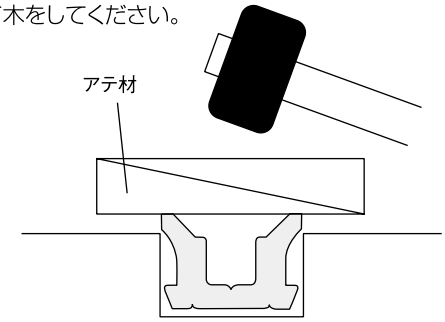
敷居とレールの固定



- 敷居は接着剤･ビス併用で下地材に固定します。（L＝25㎜）で床下地材に固定します。
- ビスの固定目安は1.5尺間隔を目安として、2本レール、3本レールの場合は、敷居の割れを防ぐ上で、ちどりでビスを打ってください。

Yレール取り付け時の注意

ハンマー等をご使用の場合は
あて木をしてください。

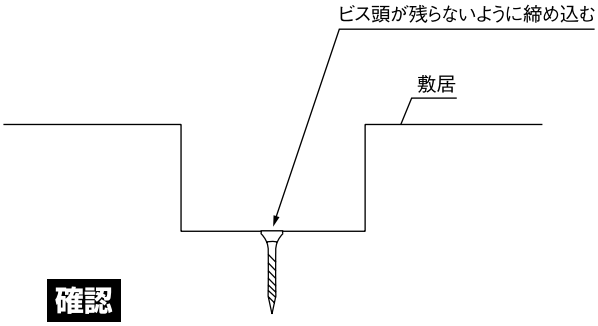


⚠ 注意

レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

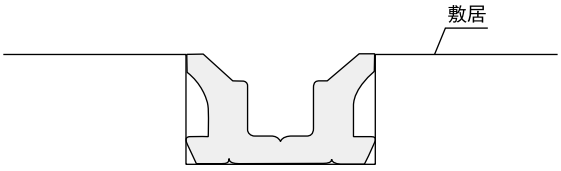
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。



確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。



※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

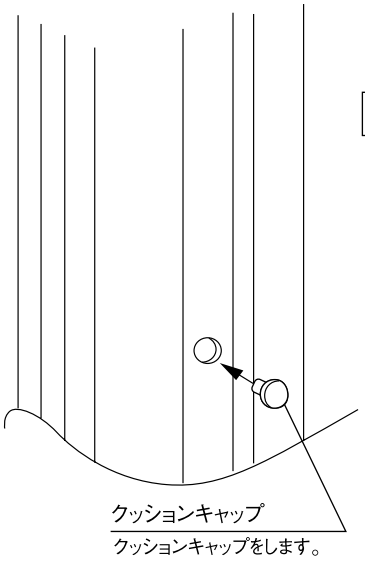
⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

調整枠 ソフトクローズ機構付

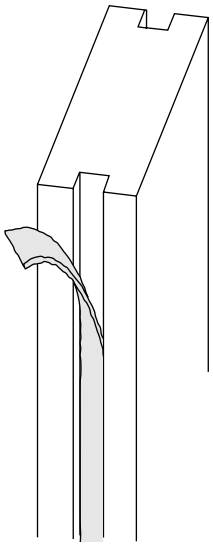
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

⑪ モヘア・キャップの取り付け



片引き・引き分け・引き込み

施工後にモヘアを中方立てに
しっかりと貼り付けます。



⑫ ケーシングの取り付け

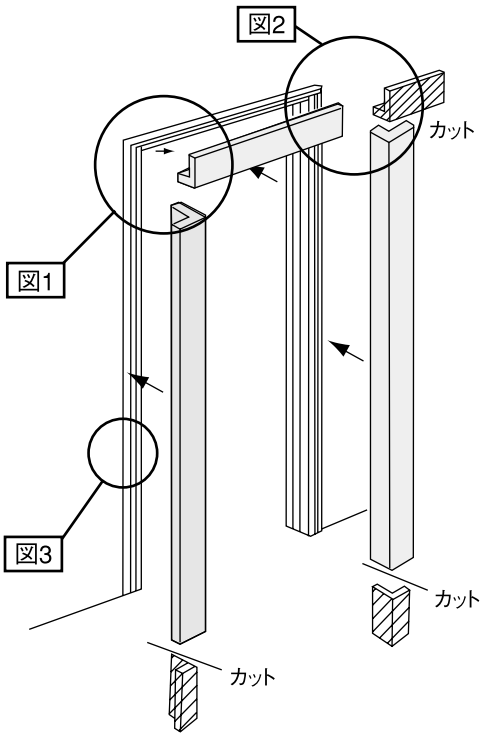


図1・図2 縦、横ケーシング納まり

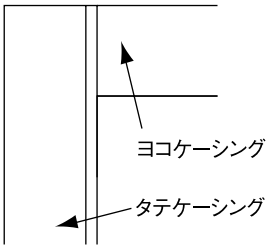
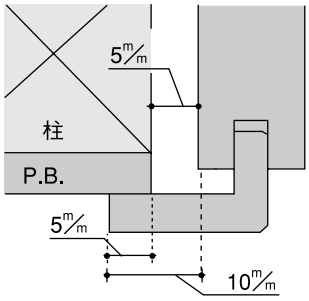


図3 24㎜見付けケーシング納まり断面



施工終了後

養生の方法

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

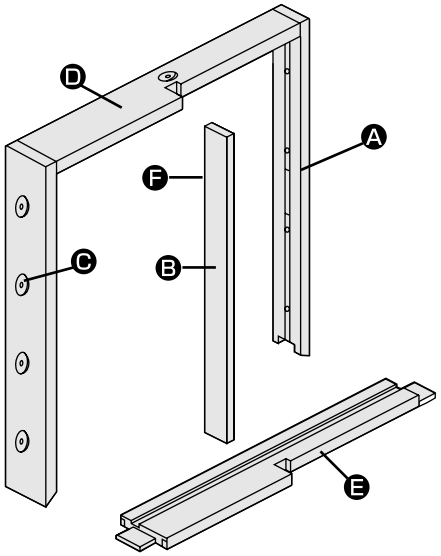
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

片引き戸 ※ソフトアートシリーズには躯体接合金具はありません。



梱包内訳表

枠材本体

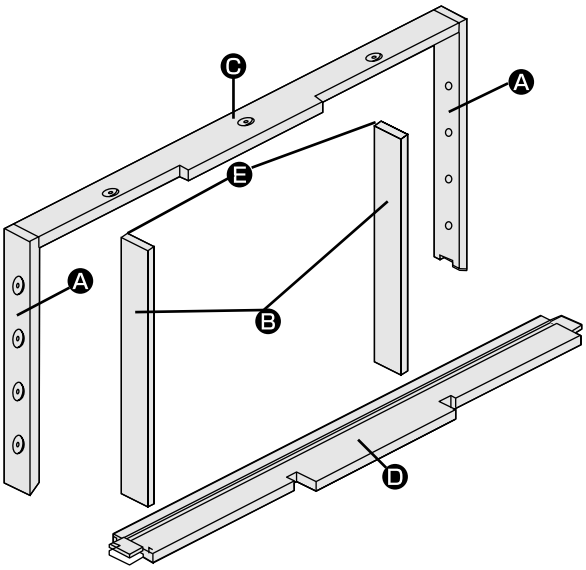
	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立）	1本	正寸カット済
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済
Ⓕ	モヘア	1本	
	敷居レール	1本	
	組み立て専用ビス	6本	
	敷居ベース用ビス	5本	
	躯体接合金具用ビス	9本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	2本	
	Yレールストッパー	1個	
	施工説明書	1部	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	敷居	1本	正寸カット済

全体図

引き分け戸 ※ソフトアートシリーズには躯体接合金具はありません。



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（戸袋側）	2本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立）	2本	正寸カット済
Ⓒ	鴨居	1本	正寸カット済
Ⓑ	モヘア	2本	
	敷居レール	1本	
	組み立て専用ビス	8本	
	敷居ベース用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	4本	
	施工説明書	1部	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	敷居	1本	正寸カット済

お願い

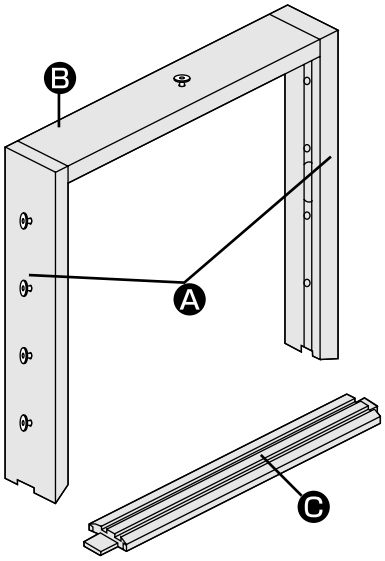
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

155・170 巾固定枠

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材

全体図

引き違い戸 6尺 ※ソフトアートシリーズには躯体接合金具はありません。



梱包内訳表

枠材本体

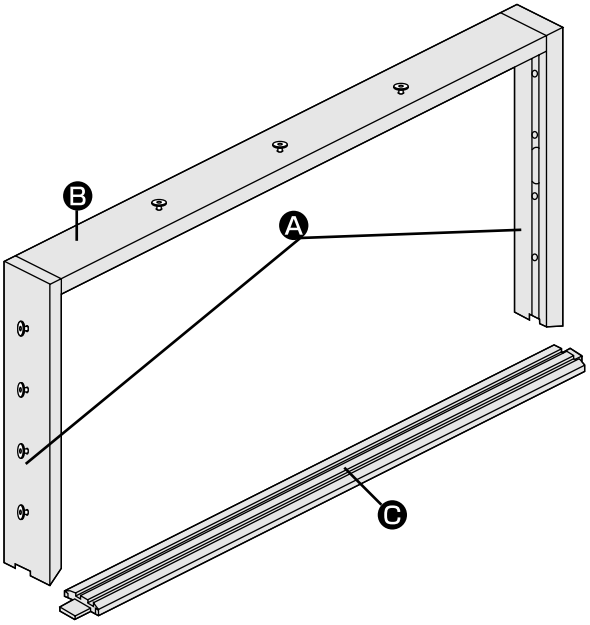
	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール	2本	
	組み立て専用ビス	4本	
	敷居ベース用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	4本	
	Yレールストッパー	2個	
	施工説明書	1部	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	敷居	1本	正寸カット済

全体図

引き違い戸 12尺 ※ソフトアートシリーズには躯体接合金具はありません。



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）	1本	
	敷居レール（短）	1本	
	組み立て専用ビス	4本	
	敷居ベース用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	ビスセット
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	4本	
	Yレールストッパー	2個	
	施工説明書	1部	

敷居（別売品）

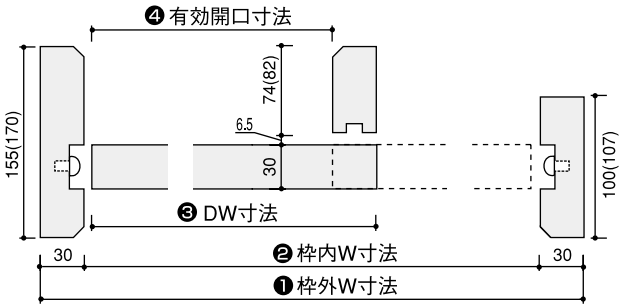
	部材名	数量	備　考
Ⓒ	敷居	1本	正寸カット済

2. 納まり図

横断面図

片引き戸

（単位：㎜）



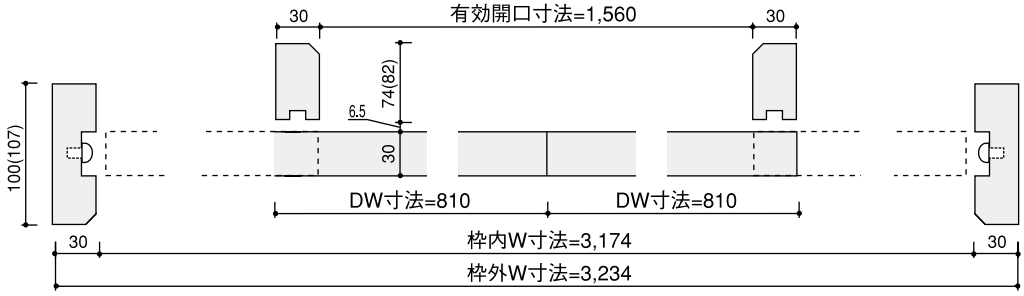
■ 枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❷枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❸DW寸法	900	810	713	650	583
❹有効開口寸法	867	777	680	617	550

※（ ）内はソフトアートシリーズ170巾の寸法です。

引き分け戸

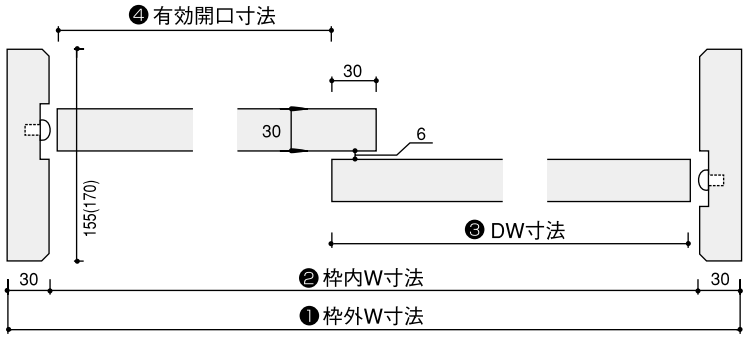
（単位：㎜）



※（ ）内はソフトアートシリーズ170巾の寸法です。

引き違い戸（間口6尺）

（単位：㎜）

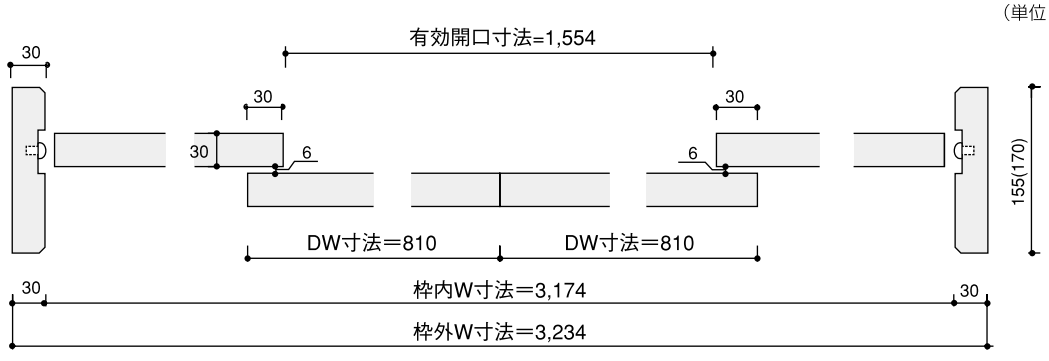


■枠製品寸法と納まり

製品寸法	1,824	1,644
❶ 枠外W寸法	1,824	1,644
❷ 枠内W寸法	1,764	1,584
❸ DW寸法	900	810
❹ 有効開口寸法	864	774

引き違い戸（間口12尺）

（単位：㎜）



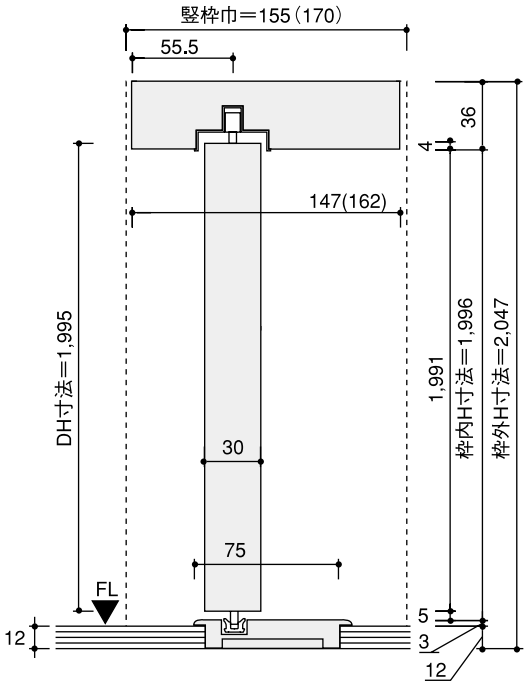
155・170 巾固定枠

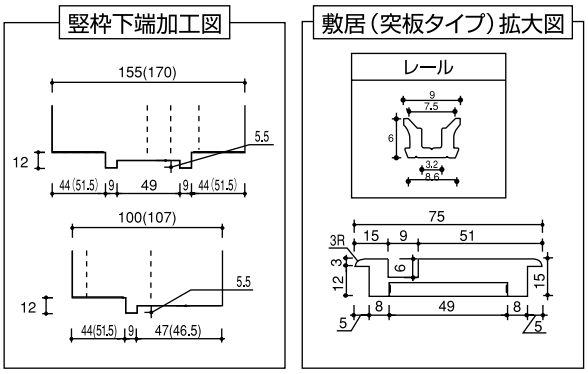
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材

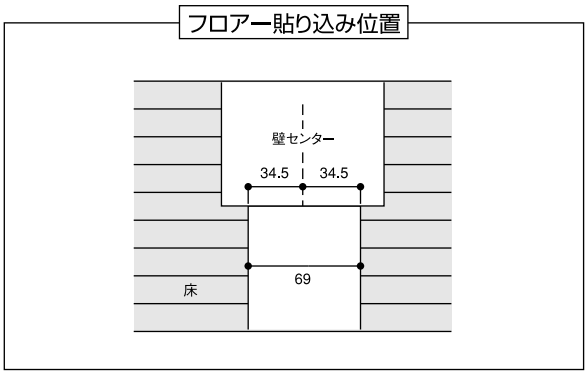
縦断面図

（単位：㎜）

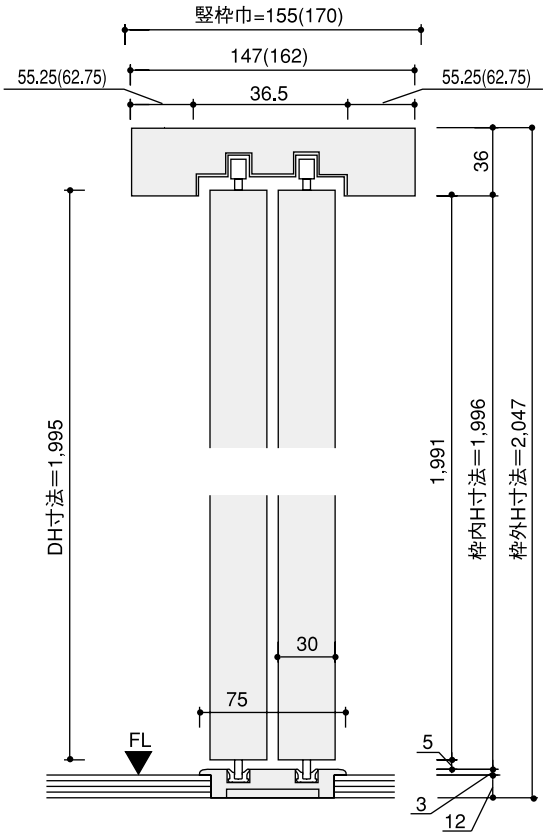
片引き戸・引き分け戸

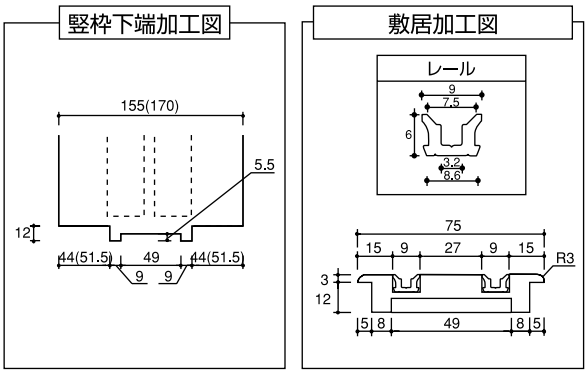


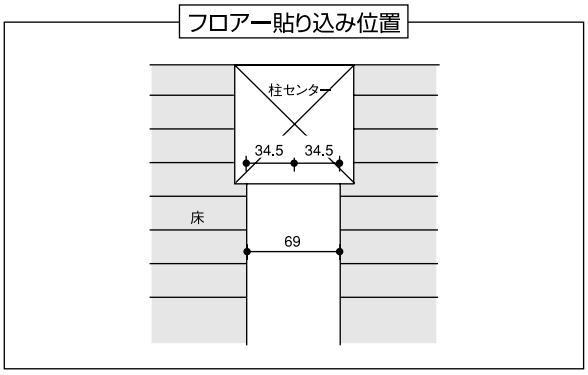




引き違い戸（間口6尺・12尺）



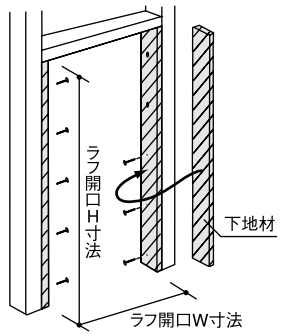




3. 施工手順

ジュピーノ・ピノアースシリーズの場合

取り付け開口部の確認



開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

	DW	900	810	713	650	550
片引き戸	ラフ開口寸法	1,834	1,654	1,460	1,334	1,200
引き分け戸	ラフ開口寸法		3,244			

	DW	900	810
引き違い戸（6尺）	ラフ開口寸法	1,834	1,654
引き違い戸（12尺）	ラフ開口寸法		3,244

ソフトアートシリーズの場合

枠材の組み立て（前準備）より始めてください。

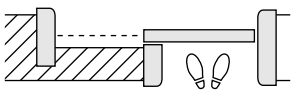
枠材の組み立て（前準備）

引き手方向の確認

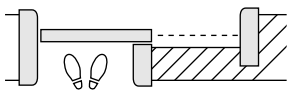
※片引き戸の場合のみです。

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

右引き



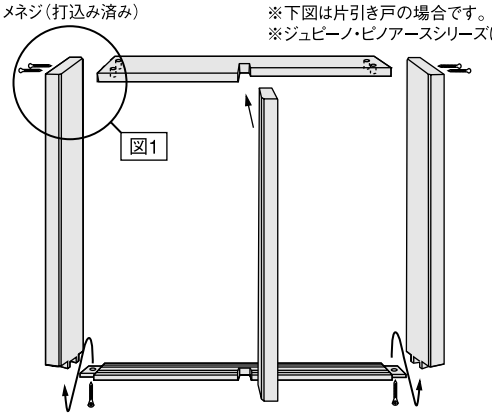
左引き



枠材の組み立て

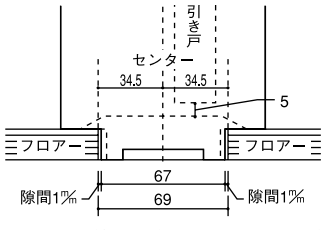
メネジ（打込み済み）

※下図は片引き戸の場合です。
※ジュピーノ・ピノアースシリーズにはありません。



ご注意 敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

敷居埋め込みの場合 竪枠とフロアーの納まり



● 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板などを下地にし、高さを調整したうえで施工してください。

図1

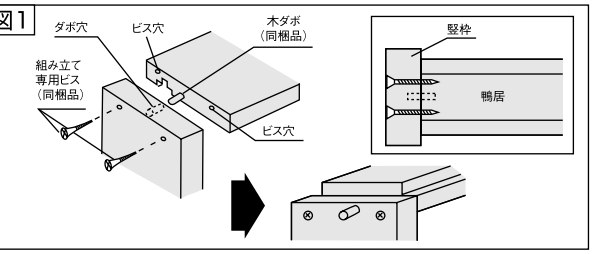
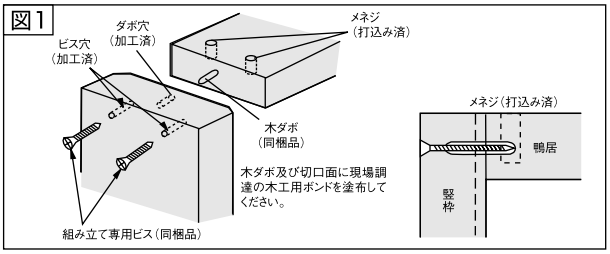


図1

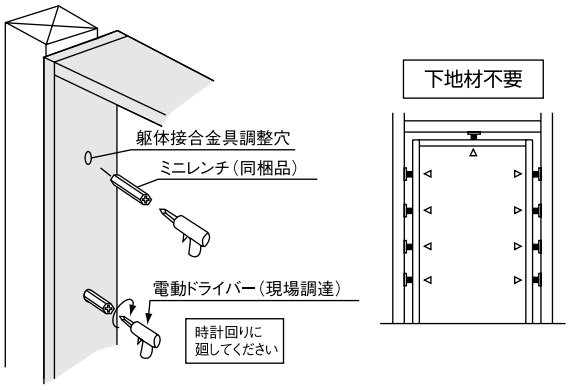


155・170 巾固定枠

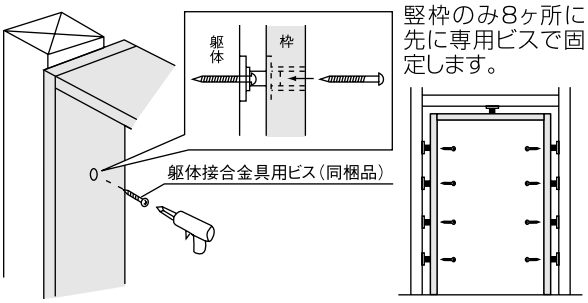
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸専用枠材

ジュピーノ・ピノアースシリーズの場合

枠材の仮固定



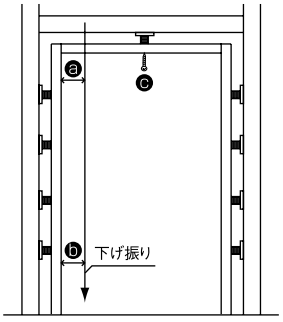
竪枠の本固定

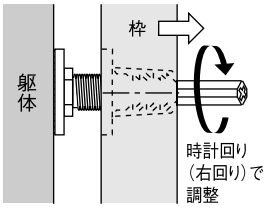
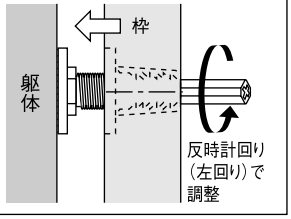


竪枠のみ8ヶ所に先に専用ビスで固定します。

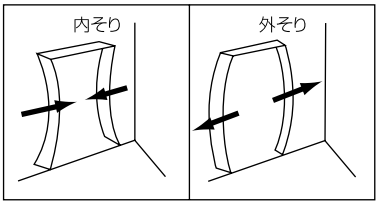
建て付け調整ならびに鴨居の本固定

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



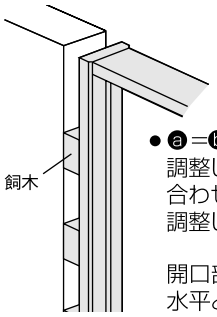
枠を内側に寄せる場合	枠を外側に出す場合
	

※右記の様なことがないようご注意ください。

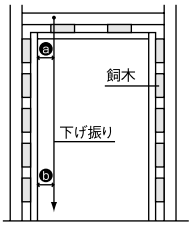


ソフトアートシリーズの場合

枠材の仮固定と建て付け調整



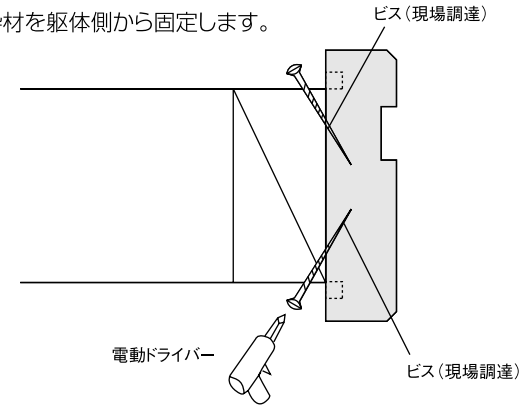
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。



開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材の本固定

枠材を躯体側から固定します。



敷居の固定と小壁の施工に進んでください。

ジュピーノ・ピノアースシリーズの場合

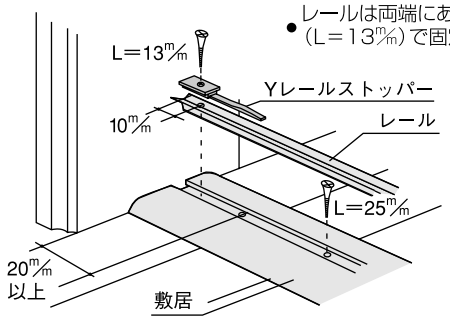
ソフトアートシリーズの場合

敷居の固定とレールの取り付け

※下図は片引き戸の場合です。

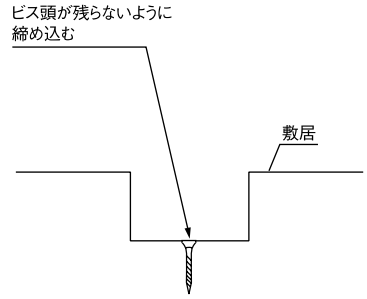
敷居とレールの固定

- 敷居は接着剤・ビス併用で下地材に固定します。
- (L＝25㎜)で床下地材に固定します。
- レールは両端にある下穴から2ヶ所、同梱のビス
- (L＝13㎜)で固定します。



※レール固定ビスが端から10㎜にきますので、20㎜以上逃がして取り付けてください。

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

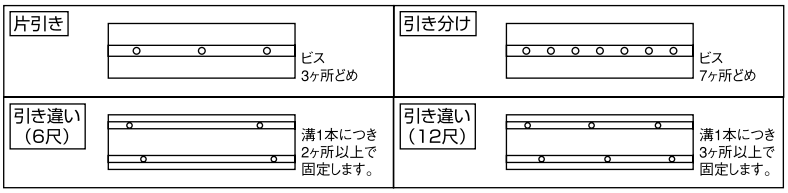


確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

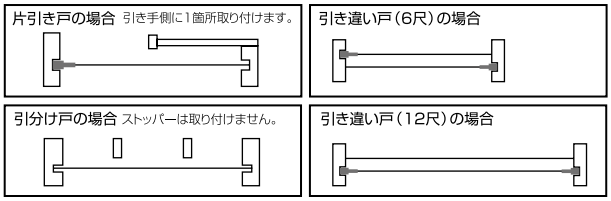
敷居と下地の固定

※引き違いの場合、ビスは敷居基材に割れが生じないよう、ちどりに打ってください。

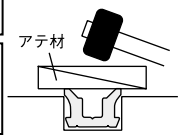


Yレールストッパーの取り付け

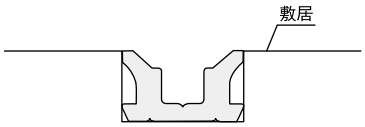
Yレールストッパーは必ず引き手側に取り付けてください。



Yレール取り付け時の注意



ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。



※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

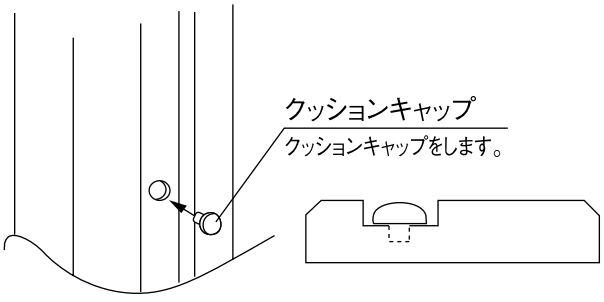
お願い

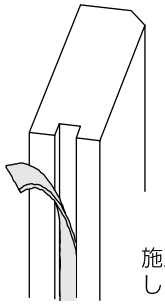
敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。また、ハンマー等をご使用の場合はあて木をしてください。

⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

モヘア・キャップの取り付け





※中方立は片引き戸、引き分け戸の場合のみです。

施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

施工終了後

養生 当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

固定枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

1. 開梱（梱包内訳表）

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

片引き戸

	部材名	数量	備　考
	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
	竪枠（中方立て）	1本	正寸カット済
	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	モヘア	1本	
	敷居レール（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付）1本・上レールビス8本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	2本	
	組み立て専用ビス	6本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	5本	
	躯体接合金具用ビス	9本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	

引き分け戸

	部材名	数量	備　考
	竪枠（戸袋側）	2本	正寸カット済
	竪枠（中方立て）	2本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	モヘア	2本	
	敷居レール（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付 上レールストッパー付）1本・上レールビス10本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	4本	
	組み立て専用ビス	8本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	

引き違い戸（間口6尺）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（Yレール）	2本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付）1本・上レールビス10本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	4本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	

引き違い戸（間口12尺）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	敷居レール（短）（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付 上レールストッパー付）1本・上レールビス16本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	8本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	

3枚引き違い戸

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）（Yレール）	2本	※下枠埋込みタイプの場合
	敷居レール（短）（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付）1本・上レールビス8本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	6本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	11本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8本	
	躯体接合金具用キャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	

2本・3本引き込み戸

	部材名	数量	備　考
	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
	竪枠（中方立て）	1本	正寸カット済
	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）（Yレール）	1本	※下枠埋込みタイプの場合
	敷居レール（短）（Yレール）	1(2)本	（ ）内は3枚用 ※下枠埋込みタイプの場合
	上レールセット	1セット	上レール（ソフトクローズ本体付 上レールストッパー付）1本・上レールビス10本・防間キャップ2個
	跳ね上がり防止部品	4(6)本	（ ）内は3枚用
	モヘア	1本	ビスセット
	組み立て専用ビス	6本	
	敷居ベース用ビス	14本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	4個	
	キャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	

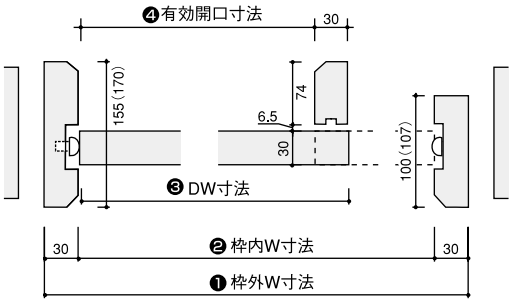
2. 納まり図

ジュピーノ・ピノアースシリーズ（固定枠155巾）には躯体接合金具が装備されているため、ラフ開口に準じた施工をお勧めします。

片引き戸

横断面図 （ ）内はソフトアート170巾のときの寸法です。

（単位：㎜）



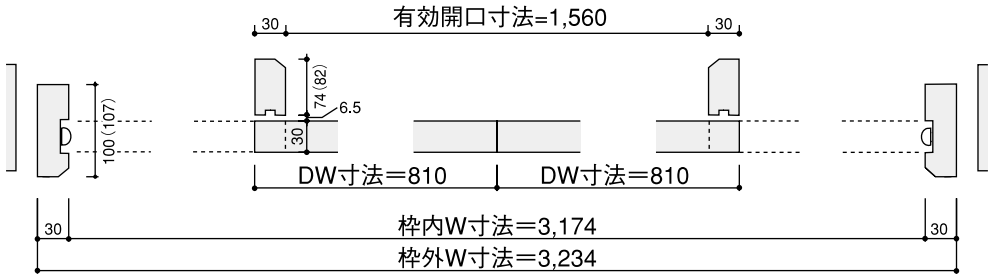
■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	1,824	1,644	1,450
❶ 枠外W寸法	1,824	1,644	1,450
❷ 枠内W寸法	1,764	1,584	1,390
❸ DW寸法	900	810	713
❹ 有効開口寸法	867	777	680

※ジュピーノ・ピノアースシリーズは枠外W寸法＋10㎜でラフ開口W寸法を設定してください。

引き分け戸

（単位：㎜）

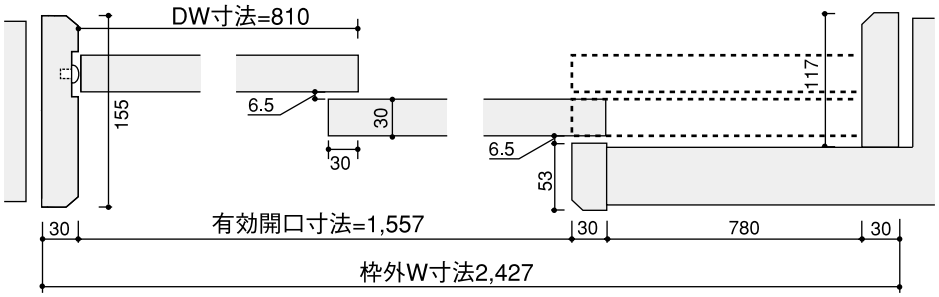


※ジュピーノ・ピノアースシリーズはラフ開口W寸法=3,244で設定してください。

2本引き込み戸

横断面図

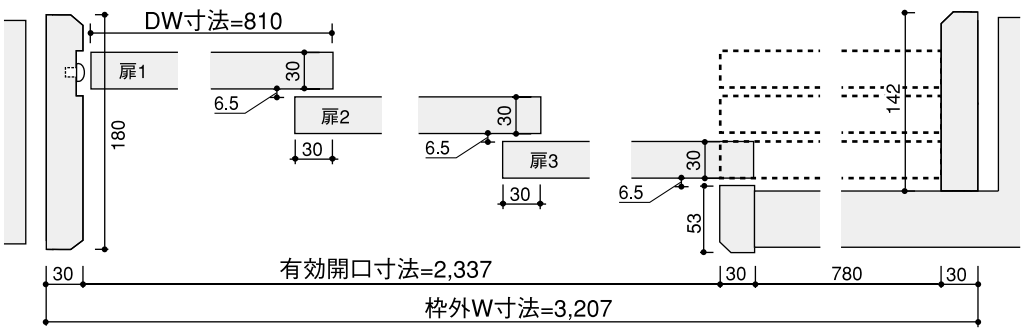
（単位：㎜）



※ジュピーノ・ピノアースシリーズはラフ開口W寸法=2,437で設定してください。

3本引き込み戸

（単位：㎜）



※ジュピーノ・ピノアースシリーズはラフ開口W寸法=3,217で設定してください。

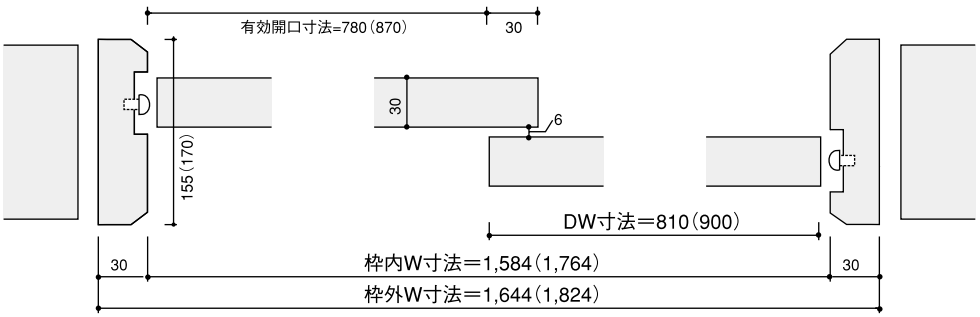
固定枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

横断面図 （ ）内はソフトアート170巾のときの寸法です。

引き違い戸（間口6尺）

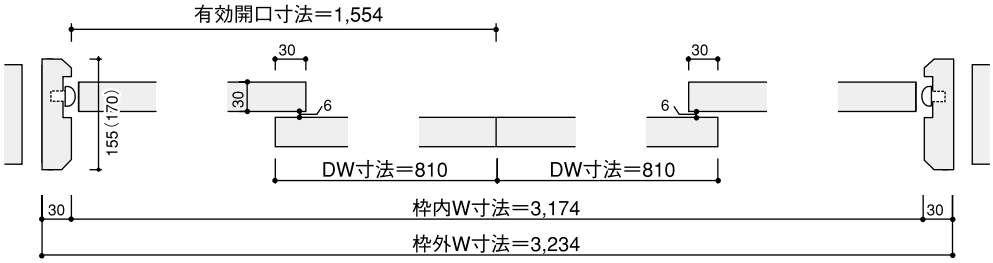
（単位：㎜）



※ジュピーノ・ピノアースシリーズはラフ開口寸法=1,654（1,834）で設定してください。

引き違い戸（間口12尺）

（単位：㎜）

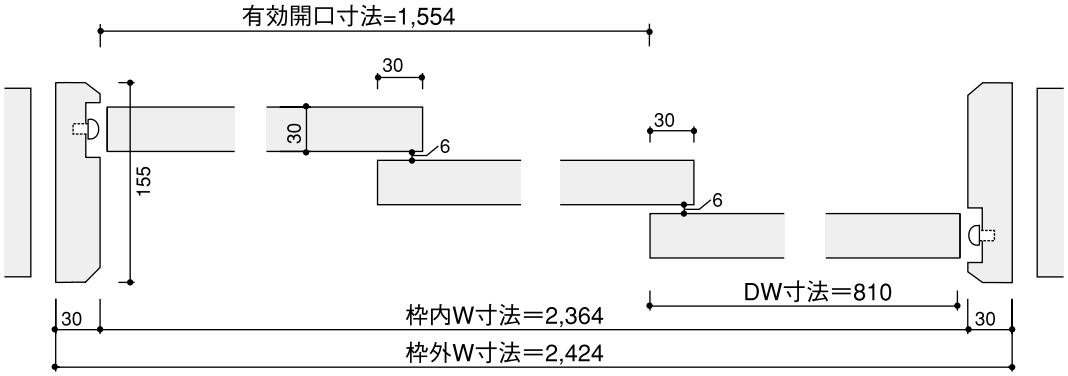


※ジュピーノ・ピノアースシリーズはラフ開口寸法=3,244で設定してください。

横断面図

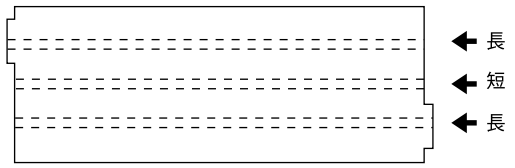
3本引き違い戸

（単位：㎜）



※ジュピーノ・ピノアースシリーズはラフ開口寸法=3,244で設定してください。

レールの配置



2. 納まり図

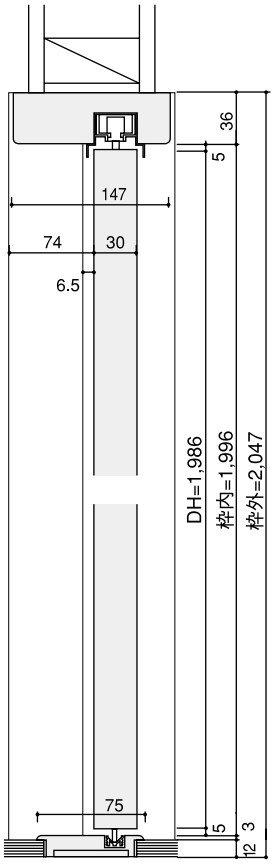
ジュピーノ・ピノアースシリーズ（固定枠155巾）には躯体接合金具が装備されているため、ラフ開口（2055㎜）に準じた施工をお勧めします。

下枠埋め込みタイプ

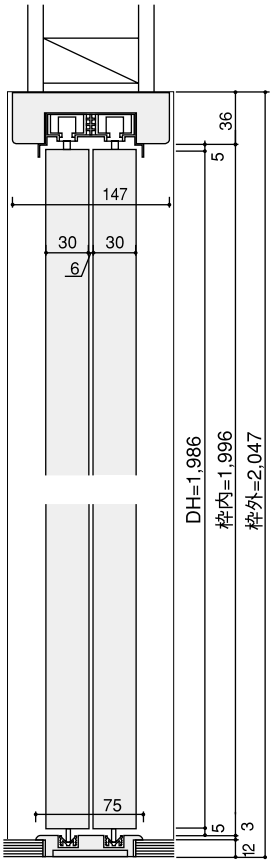
縦断面図

片引き戸・引き分け戸	引き違い戸（間口6尺・12尺）	3本引き違い戸

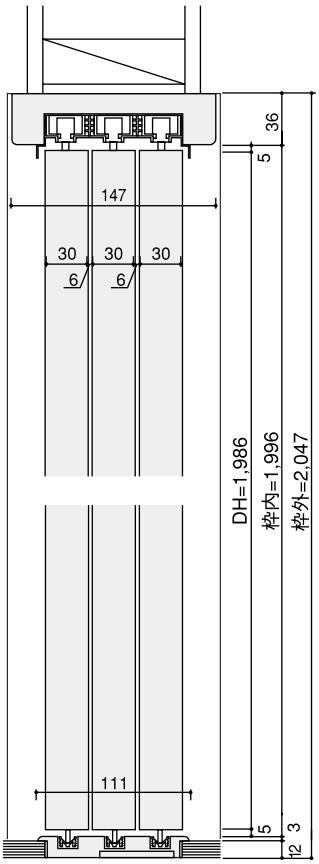
（単位：㎜）



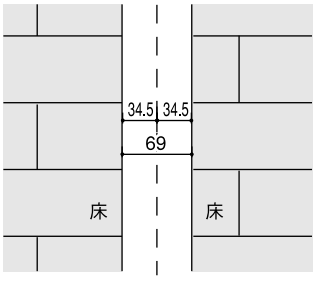
（単位：㎜）



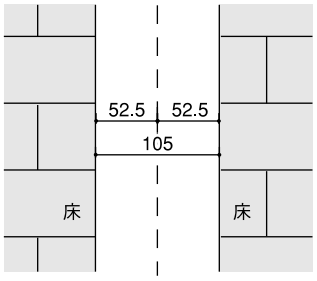
（単位：㎜）



フロアー張り込み位置



壁（枠）センター



壁（枠）センター

固定枠 ソフトクローズ機構付

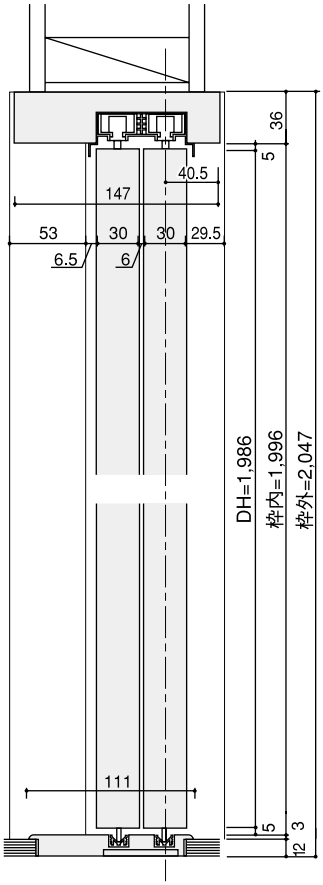
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

縦断面図

下枠埋め込みタイプ

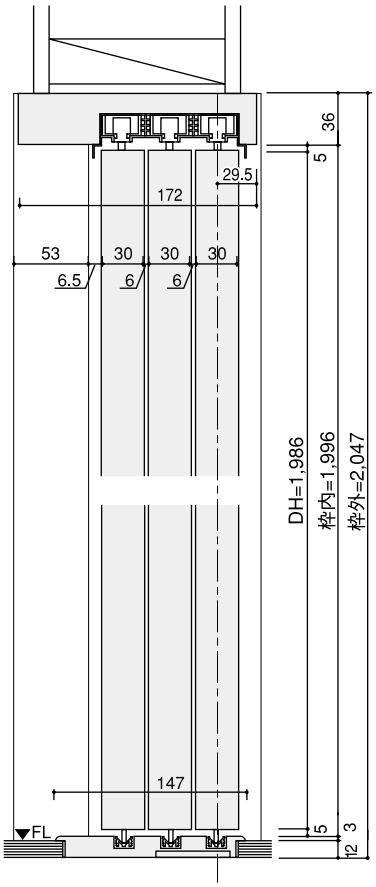
2本引き込み戸

（単位：㎜）

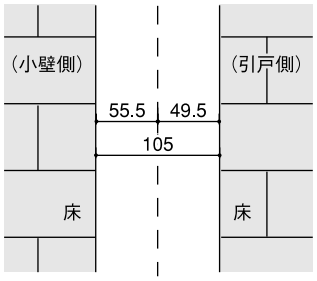


3本引き込み戸

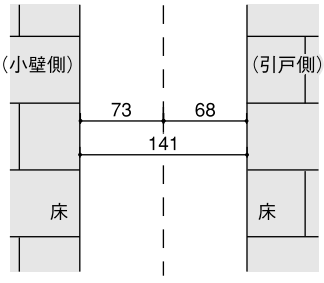
（単位：㎜）



フロアー張り込み位置



壁（枠）センター



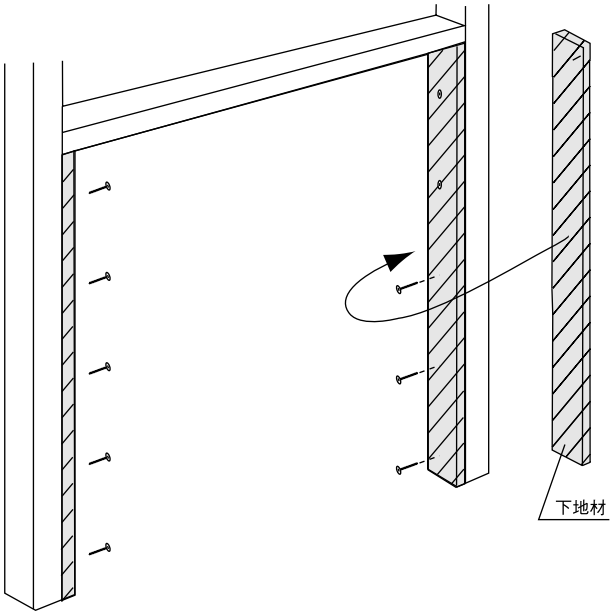
壁（枠）センター

3. 施工手順

取り付け開口部の確認

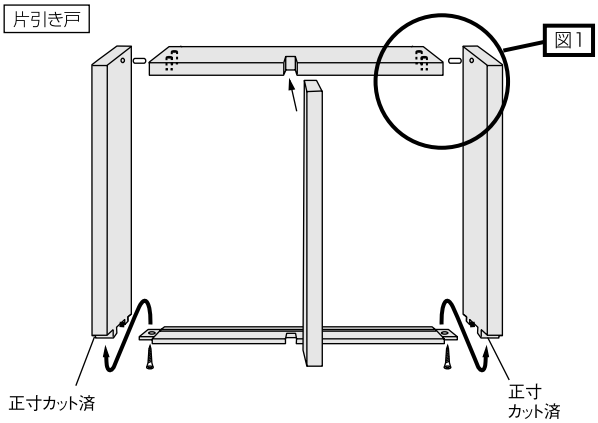
ジュピーノ·ピノアースシリーズには躯体接合金具が**装備されているため**、納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**ラフ開口**を設けてください。

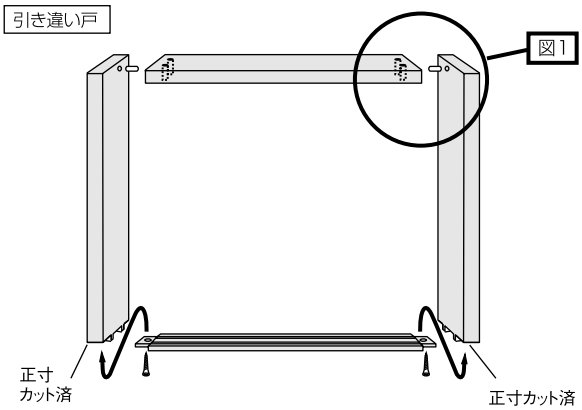
ソフトアートシリーズには躯体接合金具が**装備されていないため**、納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。

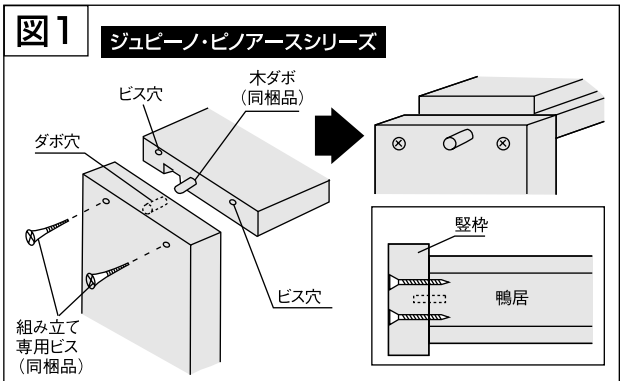


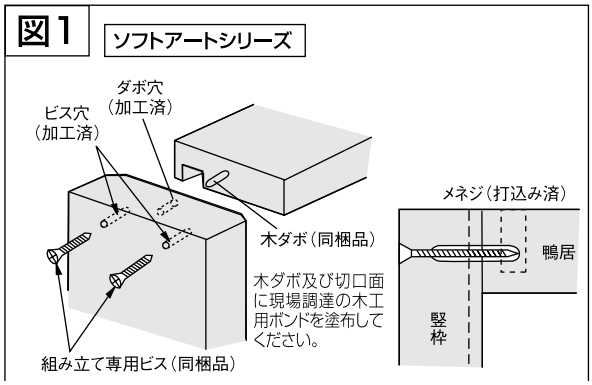
枠材の組み立て

下枠埋め込みタイプの場合







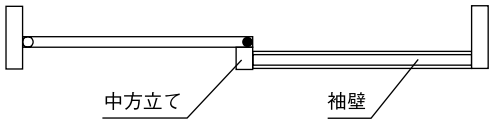
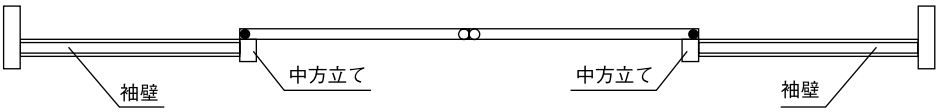
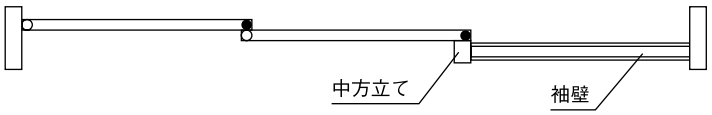
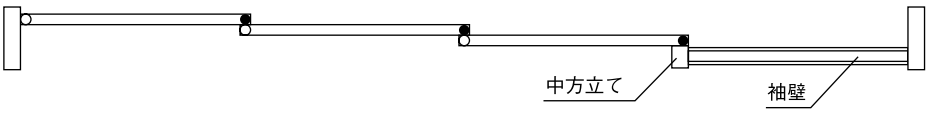


固定枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

枠材の取り付け（前準備）

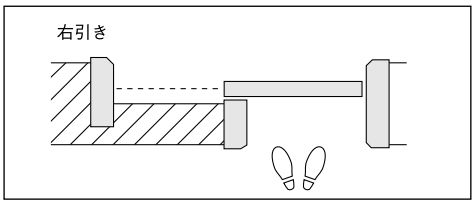
下図を参照して、取り付けする枠材の向きを確認してから仮固定してください。

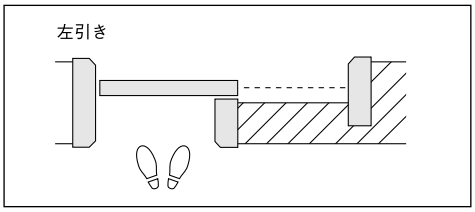
片引き （左引きの場合）	
引き分け	
2本引き込み （左引きの場合）	
3本引き込み （左引きの場合）	

※両袖壁の施工は、戸車やレール等の消耗製部品の交換が出来ませんので、しないでください。

引き手方向の確認

片引き戸には2本引き込み3本引き込み、
引き手方向によって左右の区別がありますので、
ご確認のうえ施工してください。

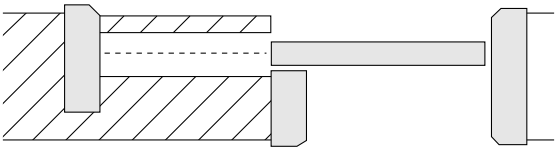




⚠ 注意

両戸袋での枠材施工は行わないでください

※右引きの場合の両戸袋施工例

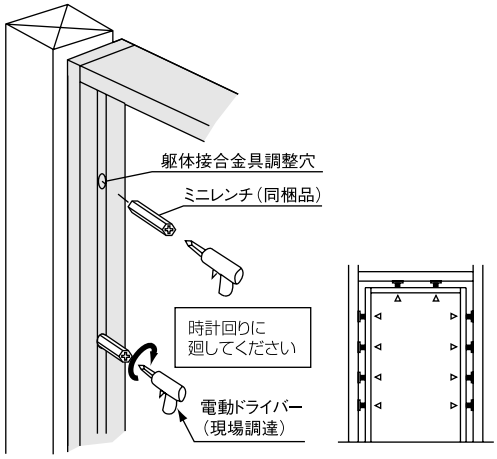




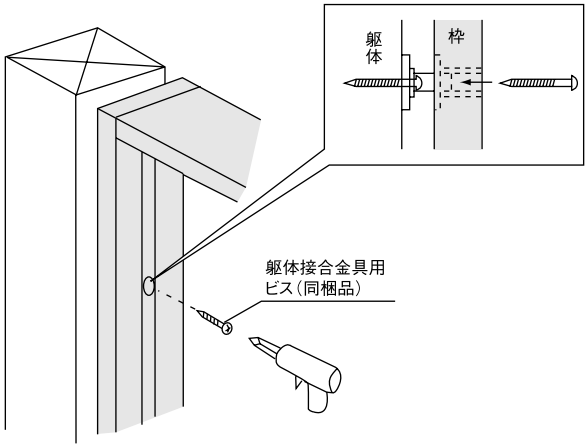
両戸袋での施工をされると、戸車やレール等の消耗消耗製部品の交換ができませんので行わないでください。

ジュピーノ・ピノアースシリーズ

枠材の仮固定

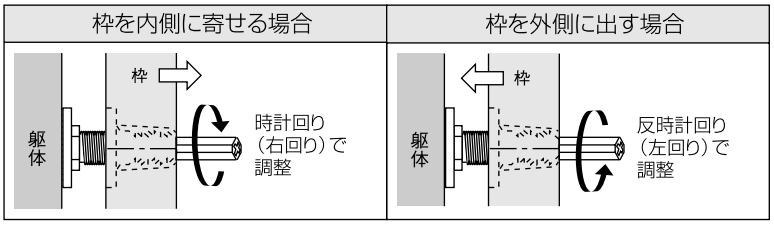


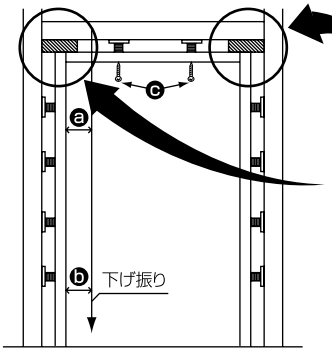
竪枠の本固定



建て付け調整ならびに鴨居の本固定

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、
  最後に固定してください。





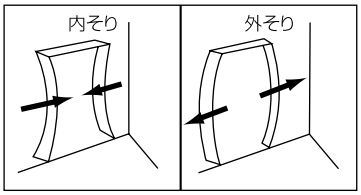
⚠ 注意

必ずおこなう

鴨居と竪枠の接合部とまぐさの間に隙間ができないよう飼木を入れる。

この間に飼木がないと、鴨居がもち上がり、戸車が脱輪する原因となります。

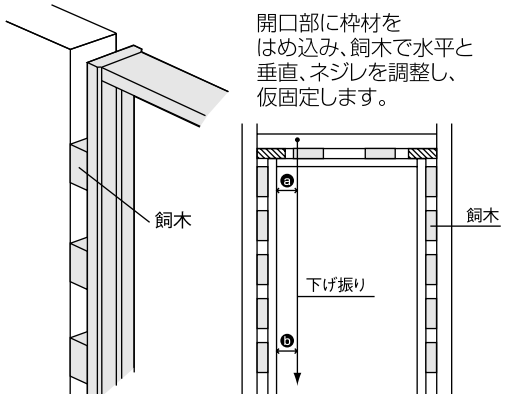
※下記の様なことがないようご注意ください。



ソフトアートシリーズ

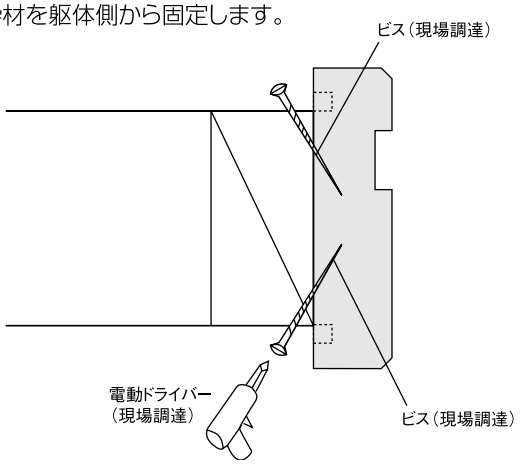
枠材の仮固定と建て付け調整

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。



枠材の本固定

枠材を躯体側から固定します。



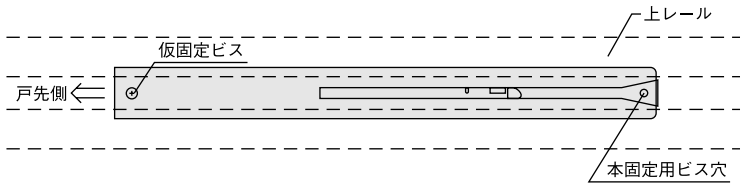
固定枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

上レールの取り付け

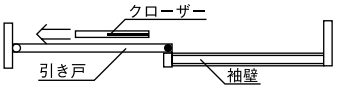
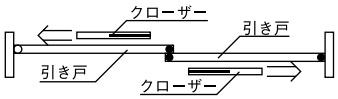
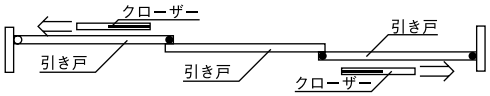
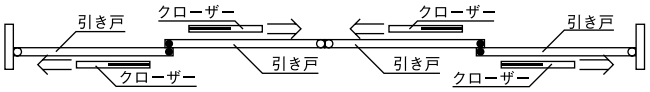
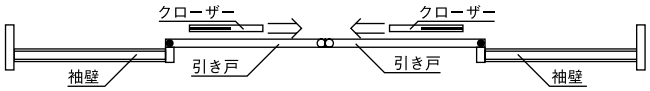
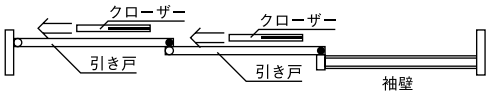
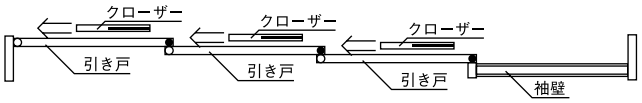
上レールの内部には、あらかじめ引き戸クローザー本体が仮固定されています。
クローザー本体の向きを確認して上レールを取り付けしてください。
取り付けは上レールのビス穴から同梱の専用ビスで固定してください。

引き戸クローザー本体（上レールを見上げた時の図）

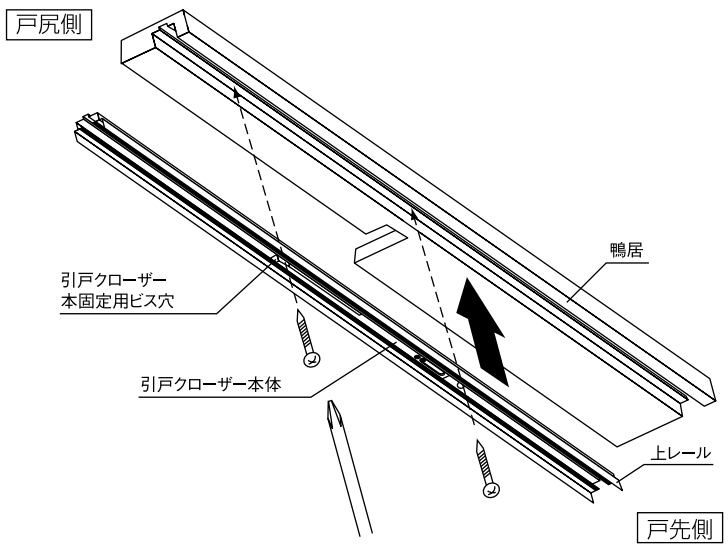


⚠ 注意

引き戸クローザーと引き戸の位置が間違って取り付けられている場合、正常に動作しません。

片引き（左引きの場合）	
引き違い（間口6尺）	
3本引き違い	
引き違い（間口12尺）	
引き分け	
2本引き込み（左引きの場合）	
3本引き込み（左引きの場合）	

取り付け方向を確認した上レールを
鴨居溝へはめ込み、
同梱の専用ビスで固定してください。



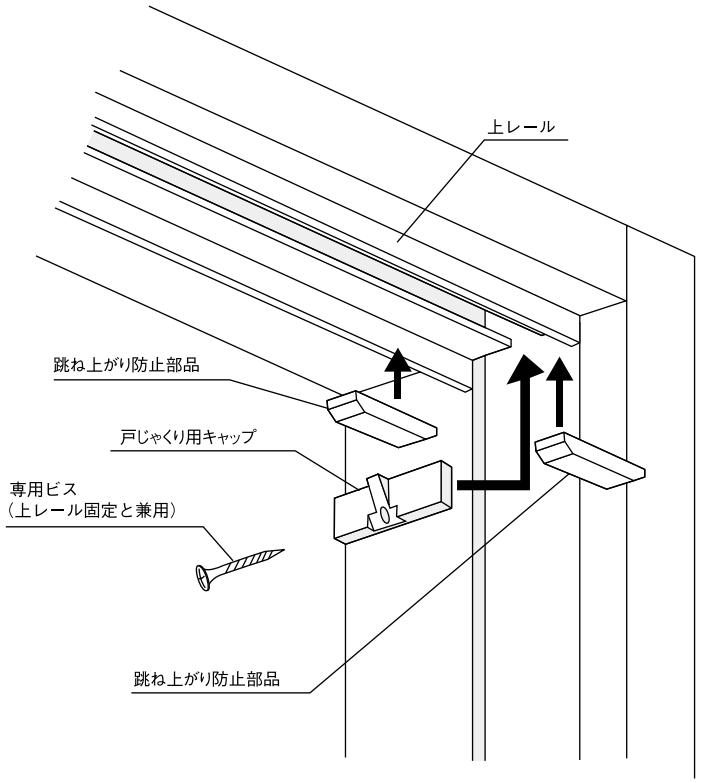
⚠ 注意

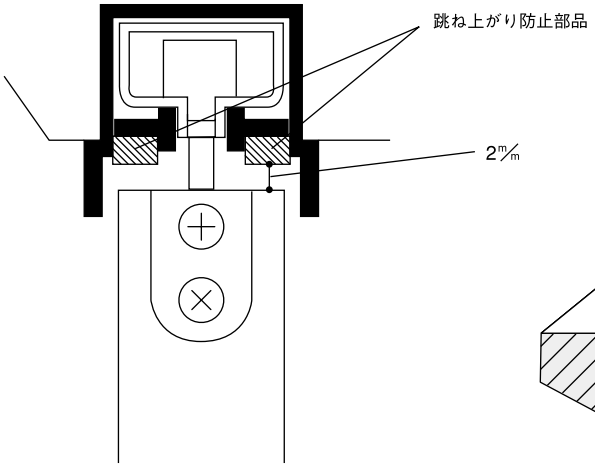
引き戸クローザー本体の戸尻側には、本固定用のビス下穴がありますので上レールと同じビスで固定する。

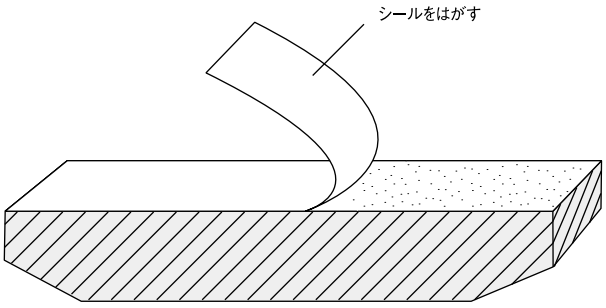
戸じゃくり用キャップ・跳ね上がり防止部品の取り付け

※施工手順「上レールの取り付け」後、下記の要領で施工して下さい。

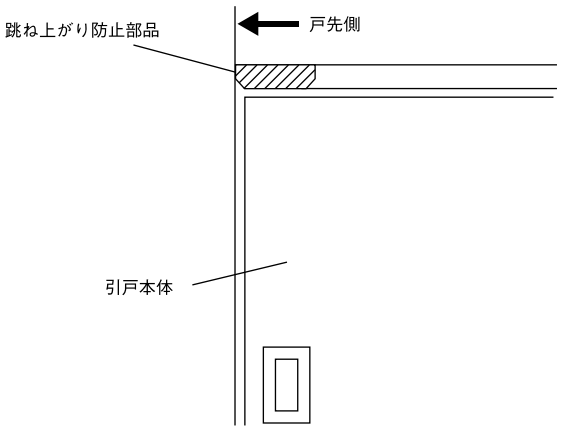
戸じゃくり用キャップを戸じゃくりへあて、
上レールと竪枠のすき間（戸じゃくり部分）に
すべり込ませます。
上へ押し上げて止まったところで専用のビス
（上レール固定と兼用）を使い
戸じゃくり用キャップにあいているビス穴より
固定をして下さい。







跳ね上がり防止部品

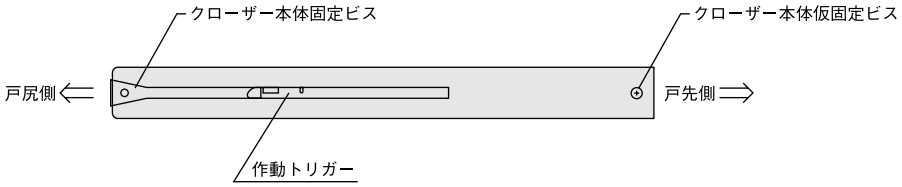


- 引戸を閉めた時に戸先側先端部分の真上の位置に取り付けてください。
- 取り付け後、跳ね上がりが目立ちにくくなるように戸車を上方向に調整してください。

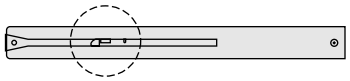
片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

ソフトクローズ機構の調整方法

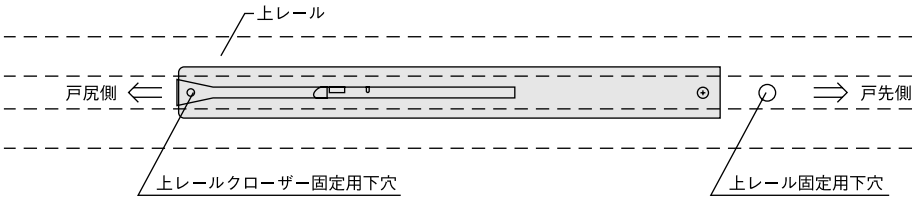
1.引き戸クローザー本体について



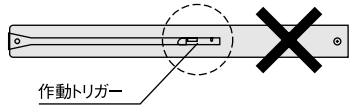
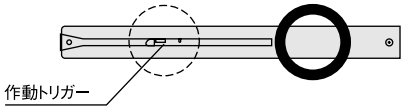
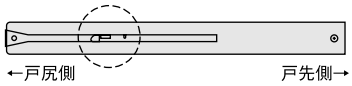
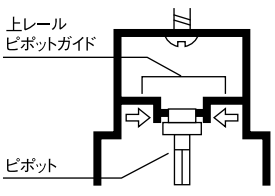
3.引き戸クローズ機構の調整方法

現　象		チェックポイント
減速感なく、引き戸が閉まる。 ※ブレーキの効き具合には限度がございます。速い速度で引き戸を閉めたり、取付状態や本体デザイン（重量）によって、ブレーキ感が弱く感じる場合がございます。	引き戸クローズ機構が作動していない。（作動していませんと、引き戸を閉めたときに、枠から跳ね返ります。）	引き戸クローザー本体の作動トリガーの位置を確認する。 
		引き戸クローザー本体外観に潤滑油が塗布された形跡がないかを確認する。
		上記の項目を全て確認した上で、ブレーキがかかることなく引戸が閉まる。
引き戸が閉まりきらない。		引き戸クローザー本体を戸先側、戸尻側逆に取り付けていないか確認する。
		下レールにゴミがたまり付着し、戸車の滑りが悪くないか確認する。
		戸車にゴミが付着している。もしくは破損していないか確認する。
		下レールの端部が、敷居から浮いていないか確認する。
		引き戸が中方立てのモヘアと干渉していないか確認する。
		上レールのピポットガイド部分が内側方向へ変形していないか確認する。
		上記の項目を全て確認した上で、引き戸が閉まりきらない場合

2.引き戸クローザー本体の取り付け位置



※引き戸クローザーは、上レールに仮固定された状態で出荷されております。出荷時の仮固定位置は、上レールのクローザー固定用下穴と引き戸クローザー本体のクローザー本体固定ビス穴と位置合わせした状態となっております。鴨居へ上レールを取り付けの際は、クローザーを動かさずそのまま固定してください。

対処方法	備　考
引き戸本体を取外し、作動トリガーが下図のように作動完了位置にあった場合は、作動トリガーに細長い棒状のものを差し込み、作動トリガーを作動開始位置に移動させ、再度引き戸を取り付けて下さい。 【作動完了位置にある状態】  【作動開始状態位置】  	工場出荷状態の引き戸クローザー本体の作動トリガーは、作動開始状態位置にあります。
潤滑油等が塗布されている場合は、引き戸クローザー本体の交換が必要です。本体に潤滑油を塗布しないでください。	
もよりの弊社営業所、もしくは、フリーダイヤル0120-81-3331までご連絡ください。	
溝が付いている側が戸尻側となります。  	
清掃をお願いします。現場施行中のときには、レール内にゴミや木くずなどが入りこまないよう、養生をお願いします。	引き戸下部の戸車の回転に抵抗があると、引き戸が閉じにくくなります。
清掃をお願いします。また、破損している場合は、戸車（品番:ZY1640）の交換が必要です。もよりの弊社営業所までご連絡ください。	引き戸下部の戸車の回転に抵抗があると、引き戸が閉じにくくなります。
あて木をして、下レールを隙間なく叩き込んでください。	
引き戸に取り付けられている、ピポットと戸車の左右調整をしてください。	
『上レールビス』もしくは『クローザー本体仮固定ビス』の締め込み過ぎにより、上レールが内側へ寄ったため、『上レールピポットガイド部分』と『ピポット』が競り合っている可能性があります。それぞれのビスを半回しずつ緩め、変形を緩和させてください。  	上レールピポットガイド部分とピポットには、隙間を設けております。この隙間がなくなりますと、ピポットを押し付けることになり、その抵抗によって、引き戸が閉じにくくなることがございます。
もよりの弊社営業所、もしくは、フリーダイヤル0120-81-3331までご連絡ください。	

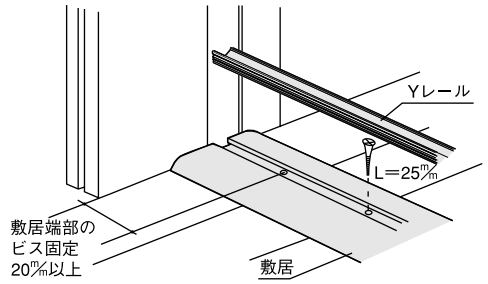
固定枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸・引き込み戸専用枠材

下枠・レールの取り付け

※下図は片引き戸の場合です。

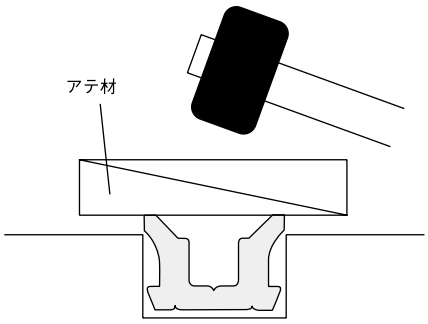
敷居とレールの固定



- 敷居は接着剤･ビス併用で下地材に固定します。（L＝25㎜）で床下地材に固定します。
- ビスの固定目安は1.5尺間隔を目安として、2本レール、3本レールの場合は、敷居の割れを防ぐ上で、ちどりでビスを打ってください。

Yレール取り付け時の注意

ハンマー等をご使用の場合は
あて木をしてください。

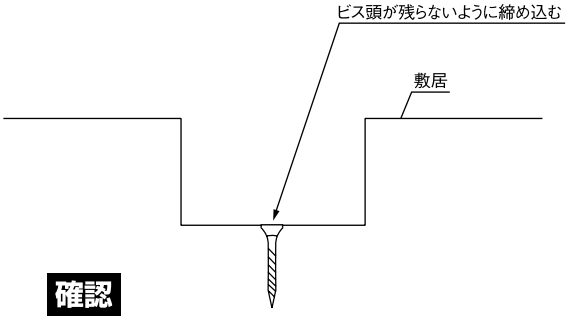


⚠ 注意

レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

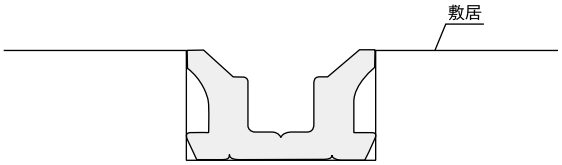
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。



確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように
確実に締め込んでください。

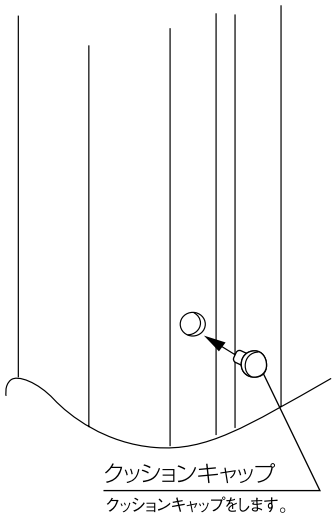


※レールが完全に敷居に入っていることを
確認してください。

⚠ 注意

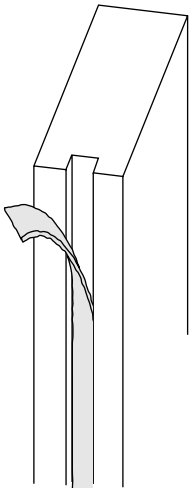
レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

モヘア・キャップの取り付け



片引き・引き込み

施工後にモヘアを
中方立てにしっかりと
貼り付けます。



施工終了後

養生の方法

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

固定枠 90 巾・113 巾

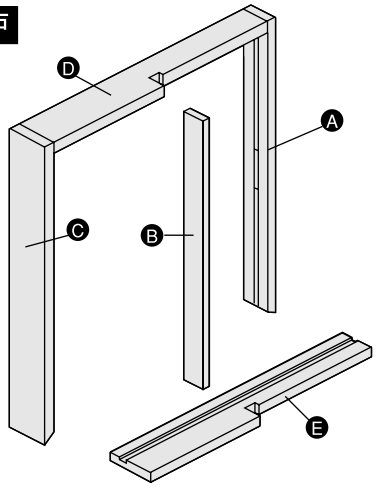
集合住宅用片引き戸・引き分け戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

片引き戸



梱包内訳表

枠材本体

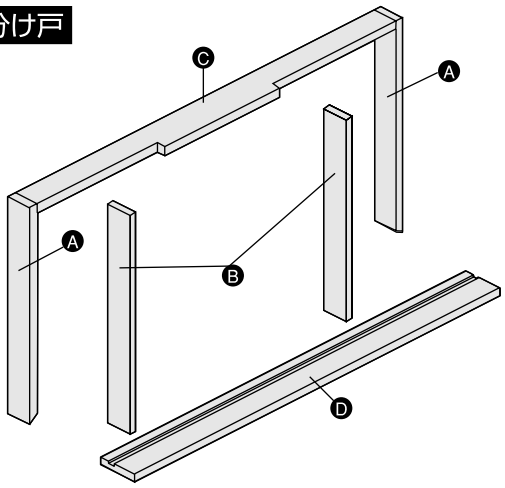
	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立）	1本	現場カット
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール	1本	
	組み立て専用ビス	6本	
	敷居ベース用ビス	6本	
	敷居組み立て用ビス	4本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	レール用ビス	2本	
	Yレールストッパー	1個	
	施工説明書	1部	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	敷居	1本	正寸カット済

全体図

引き分け戸



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（戸袋側）	2本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立）	2本	現場カット
Ⓒ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール	1本	
	組み立て専用ビス	8本	
	敷居ベース用ビス	10本	
	敷居組み立て用ビス	4本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	レール用ビス	4本	
	施工説明書	1部	

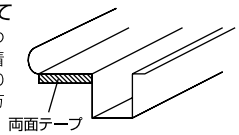
敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓓ	敷居	1本	正寸カット済

90巾枠 をご使用の施工業者の方へお願い

鴨居キャップの取り付けについて

同梱されている鴨居のキャップについては、現場接着になっており、接着剤と両面テープの併用になっておりますので、以下の手順にて接着の方をお願いいたします。



作業手順

1.同梱してあります接着剤を、溝に塗布してください。
2.キャップ裏面にあらかじめ貼ってあります両面テープをはがし、溝に差し込んでください。
3.両面テープを貼った表面を強く手で圧着してください。

注:必ず接着剤と両面テープを併用して施工してください。どちらかが欠けますと、必要な接着強度が得られない可能性がありますのでご注意ください。※113巾枠にはありません。

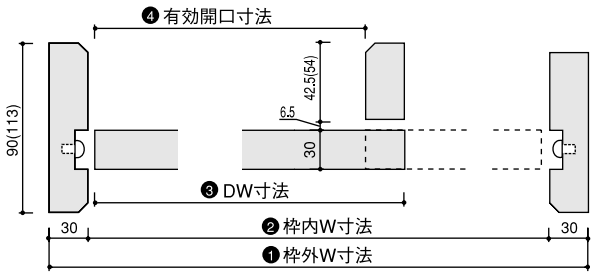
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

2. 納まり図

横断面図

片引き戸



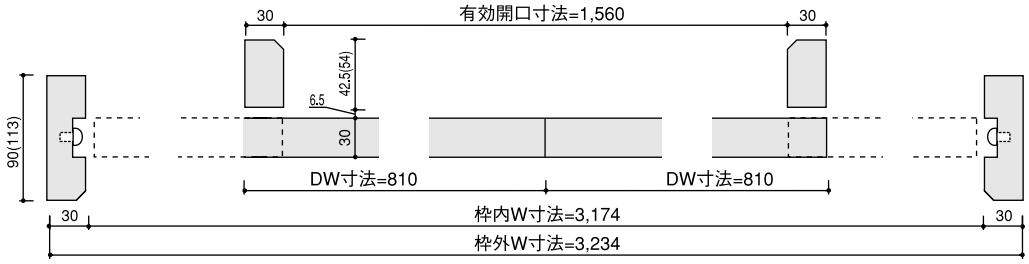
■ 枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❷枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❸DW寸法	900	810	713	650	583
❹有効開口寸法	870	780	683	620	553

※（ ）内は113巾の寸法です。

引き分け戸

（単位：㎜）

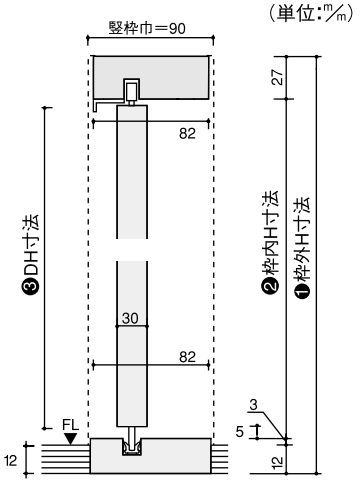


※（ ）内は113巾の寸法です。

縦断面図

90型

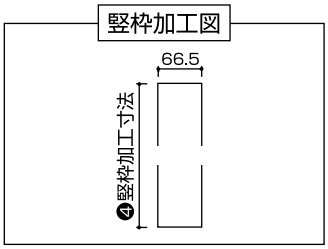
（単位：㎜）



■ 納まり寸法表

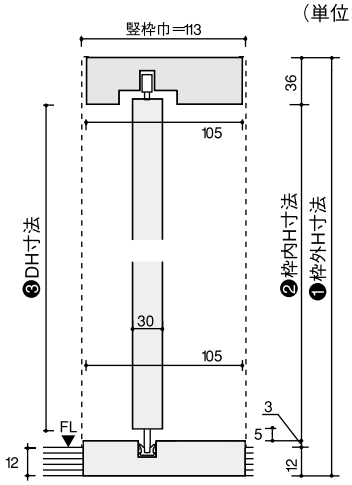
❶枠外H寸法	2,047	1,932	1,852
❷枠内H寸法	2,005	1,890	1,810
❸DH寸法	1,995	1,880	1,800
❹竪枠加工寸法	2,047	1,932	1,852

竪枠加工図



113型

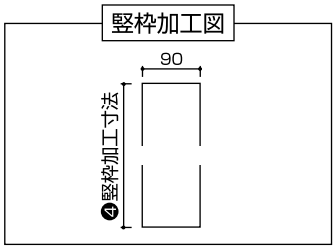
（単位：㎜）



■ 納まり寸法表

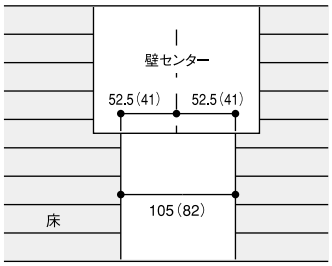
❶枠外H寸法	2,047	1,932	1,852
❷枠内H寸法	1,996	1,881	1,801
❸DH寸法	1,995	1,880	1,800
❹竪枠加工寸法	2,047	1,932	1,852

竪枠加工図



（単位：㎜）

フロアー張り込み位置

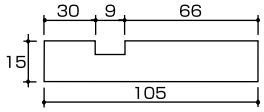


※（ ）は90巾用です。

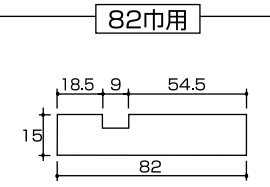
（単位：㎜）

下枠形状図

105巾用



82巾用



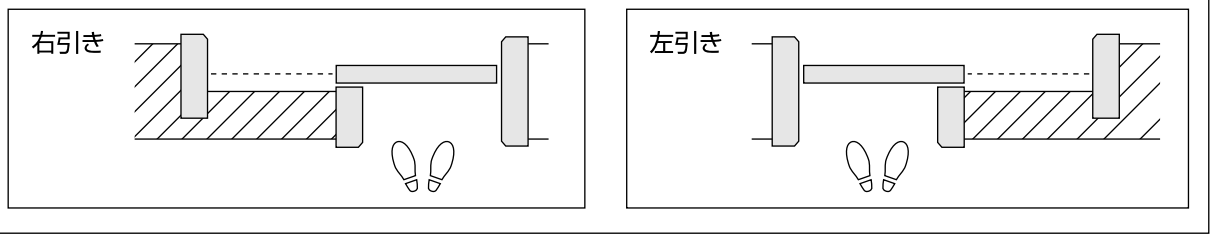
集合住宅用片引き戸・引き分け戸専用枠材

3. 施工手順

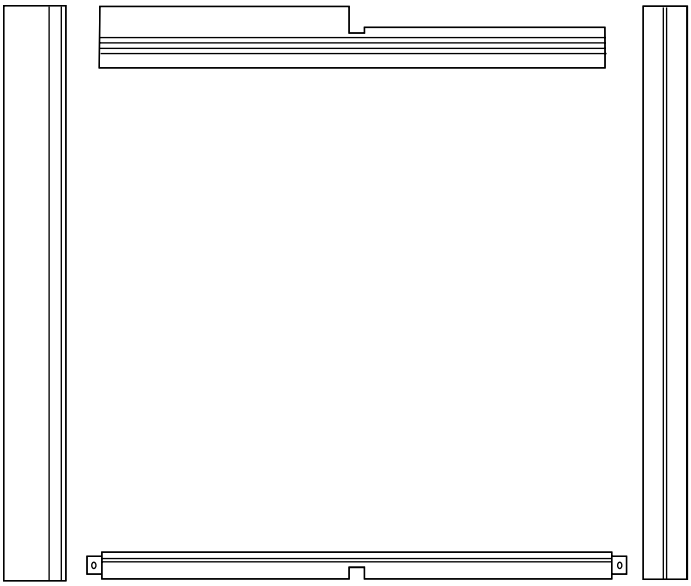
枠材の組み立て（前準備）

引き手方向の確認

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。



※下図は左引き用です。

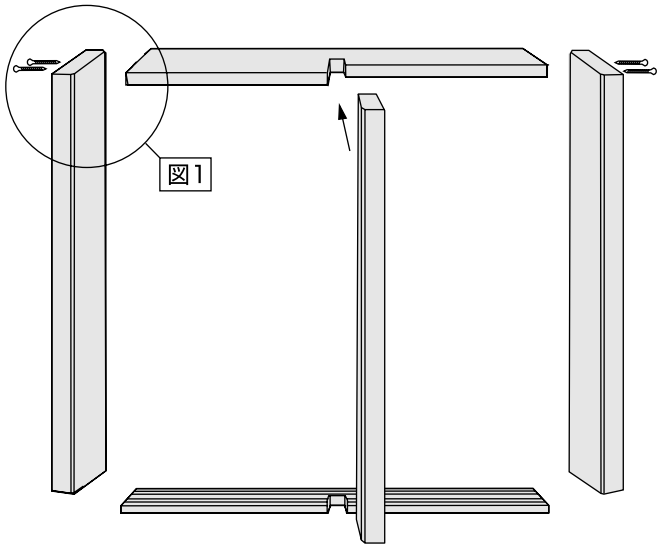


ご注意

敷居はバリアフリー
（埋め込み施工）となります。

※鴨居は正寸カット・小壁カット済になっています。

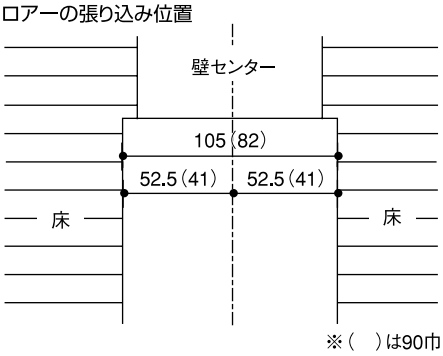
枠材の組み立て



ご注意　敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

敷居埋め込みの場合

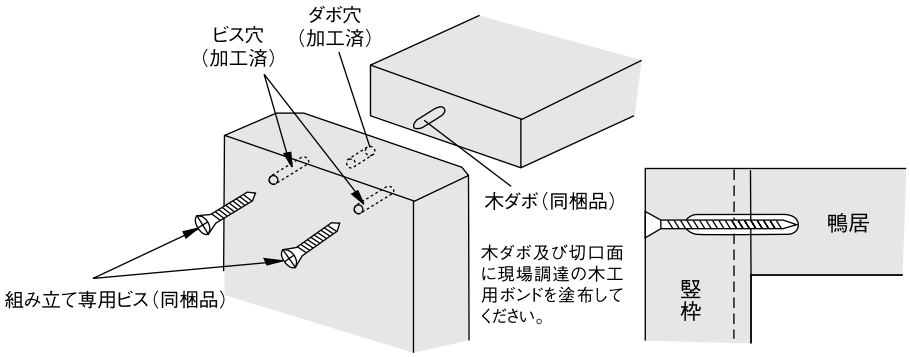
フロアーの張り込み位置



※（　）は90巾

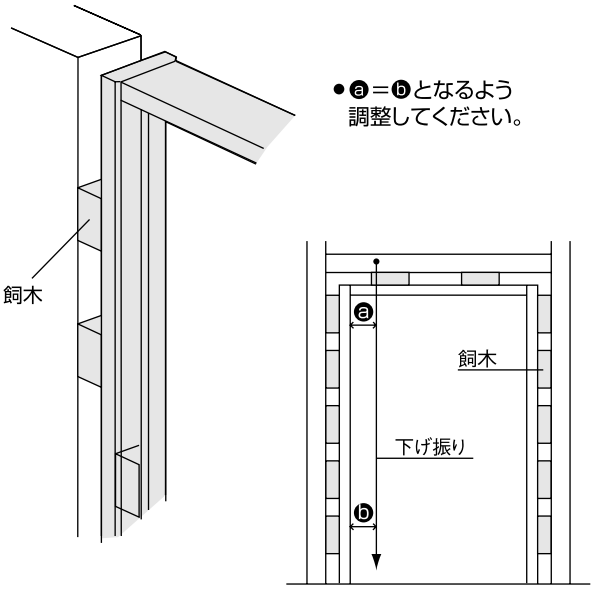
● 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

図1　ソフトアートシリーズ



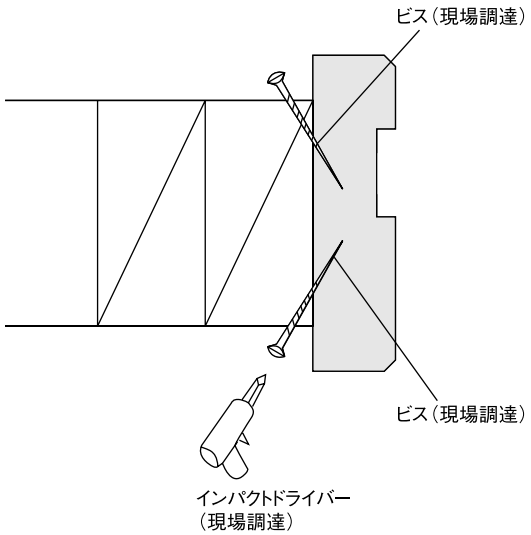
枠材の仮固定と建て付け調整

開口部に枠材をはめ込み、飼木で
水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。



枠材の本固定

枠材を躯体側から固定します。



固定枠 90 巾・113 巾

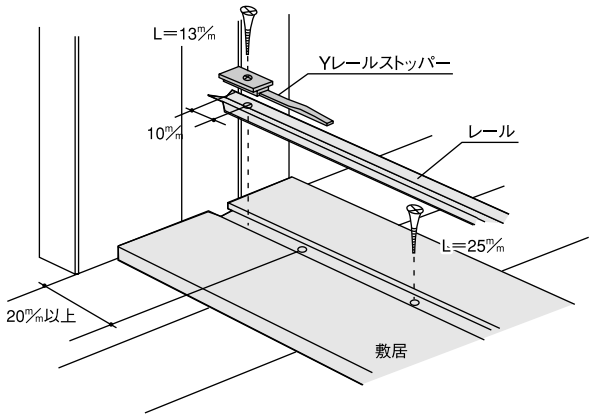
集合住宅用片引き戸・引き分け戸専用枠材

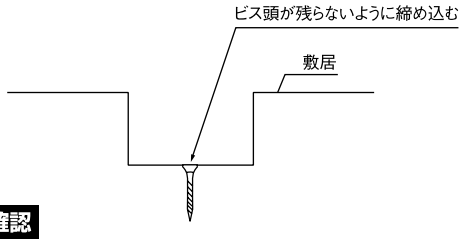
敷居の固定と小壁の施工

突板タイプ

敷居とレールの固定

- 敷居は接着剤･ビス併用で下地材に固定します。(L＝25㎜)で床下地材に固定します。
- レールは両端にある下穴から2ヶ所ビスで固定します。





確認

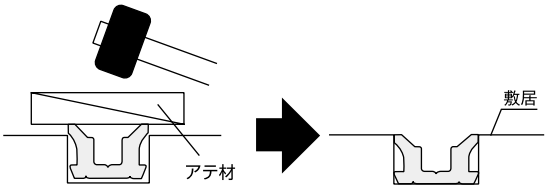
敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

※レール固定ビスが端から10㎜にきますので、20㎜以上逃がして取り付けてください。

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂･ホコリ等が付着しないようにしてください。

（片引き……ビス4ヶ所どめ
引き分け…ビス7ヶ所どめ）

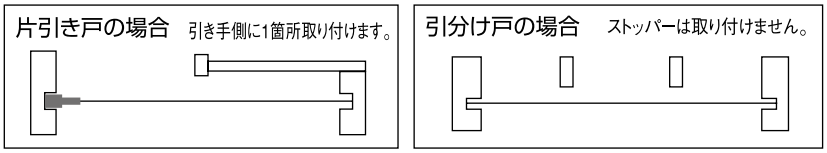
Yレール 取り付け時の注意



※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

Yレールストッパーの取り付け

Yレールストッパーは必ず引き手側に取り付けてください。

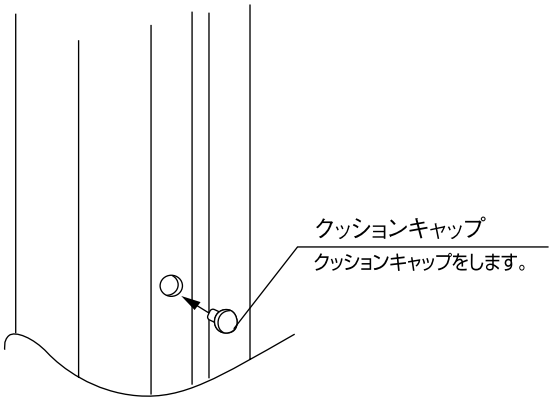


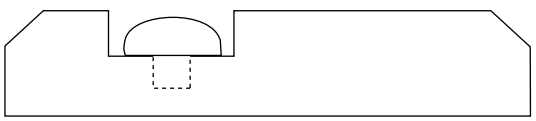
ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。

⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

キャップの取り付け





施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

固定枠 90 巾・113 巾

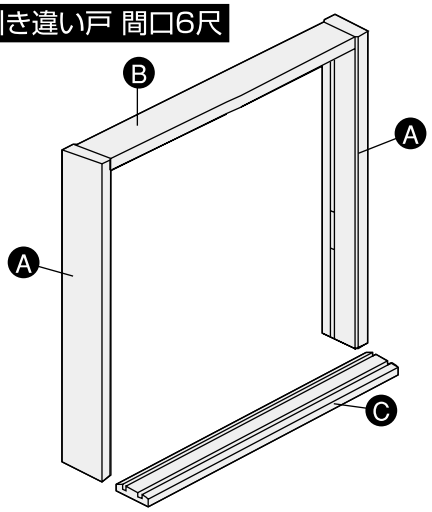
集合住宅用引き違い戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

引き違い戸 間口6尺



梱包内訳表

枠材本体

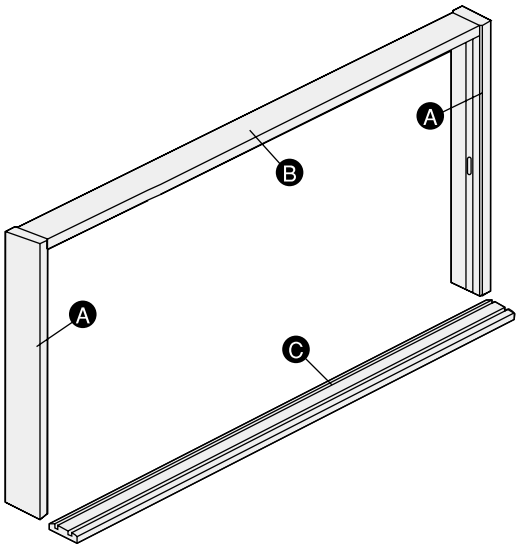
	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール	2本	
	組み立て専用ビス	6本	
	敷居ベース用ビス	6本	
	敷居組み立て用ビス	4本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	レール用ビス	4本	
	Yレールストッパー	2個	
	施工説明書	1部	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	敷居	1本	正寸カット済

全体図

引き違い戸 間口12尺



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）	1本	
	敷居レール（短）	1本	
	組み立て専用ビス	8本	
	敷居ベース用ビス	10本	
	敷居組み立て用ビス	4本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	レール用ビス	4本	
	Yレールストッパー	2個	
	施工説明書	1部	

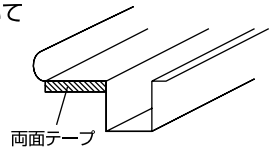
敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	敷居	1本	正寸カット済

90巾枠 をご使用の施工業者の方へお願い

鴨居キャップの取り付けについて

同梱されている鴨居のキャップについては、現場接着になっており、接着剤と両面テープの併用になっておりますので、以下の手順にて接着の方をお願いいたします。



作業手順

1.同梱してあります接着剤を、溝に塗布してください。
2.キャップ裏面にあらかじめ貼ってあります両面テープをはがし、溝に差し込んでください。
3.両面テープを貼った表面を強く手で圧着してください。

注:必ず接着剤と両面テープを併用して施工してください。どちらかが欠けますと、必要な接着強度が得られない可能性がありますのでご注意ください。
※113巾枠にはありません。

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

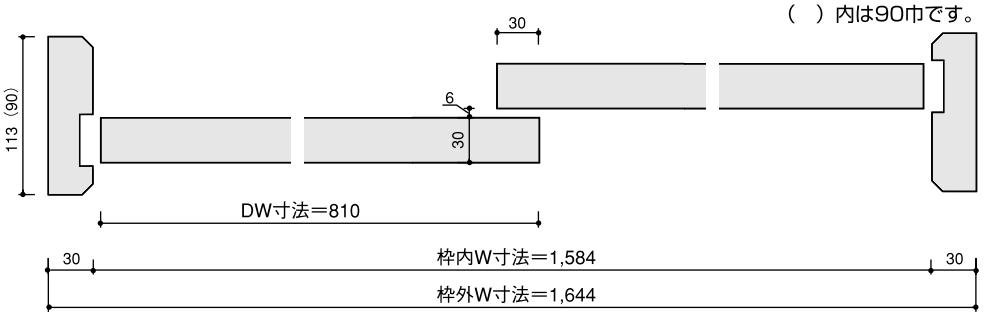
固定枠 90 巾・113 巾

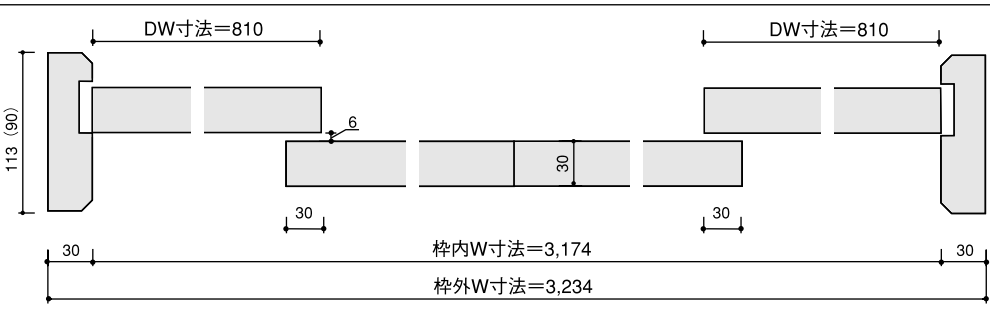
集合住宅用引き違い戸専用枠材

2. 納まり図

横断面図

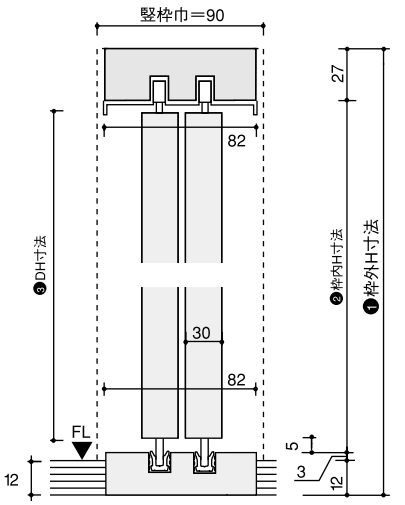
（　）内は90巾です。（単位:㎜）





縦断面図

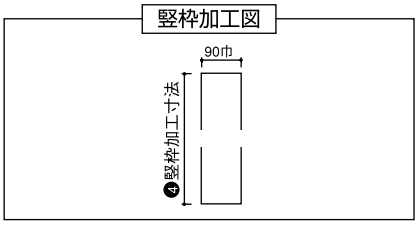
90型



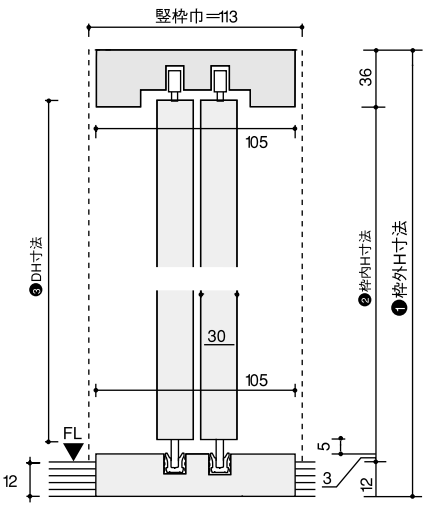
■ 納まり寸法表

❶枠外H寸法	2,047	1,932	1,852
❷枠内H寸法	2,005	1,890	1,810
❸DH寸法	1,995	1,880	1,800
❹竪枠加工寸法	2,047	1,932	1,852

竪枠加工図



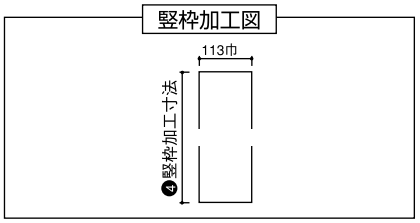
113型



■ 納まり寸法表

❶枠外H寸法	2,047	1,932	1,852
❷枠内H寸法	1,996	1,881	1,801
❸DH寸法	1,995	1,880	1,800
❹竪枠加工寸法	2,047	1,932	1,852

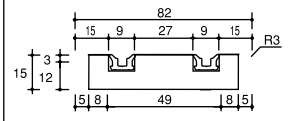
竪枠加工図



敷居拡大図

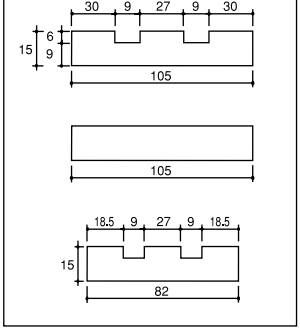
（単位:㎜）

90巾用 82巾



113巾用 105巾

竪枠



3. 施工手順

枠材の組み立て（前準備）

※間口12尺の場合は納まり図参照の上、鴨居・敷居・敷居ベースを現場カットしてください。

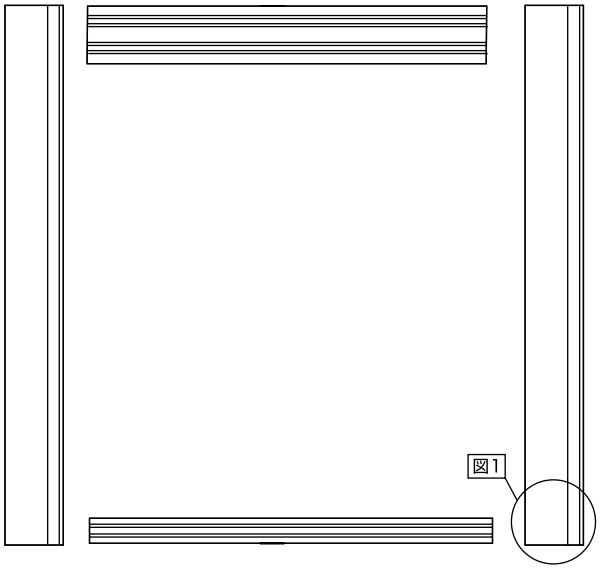
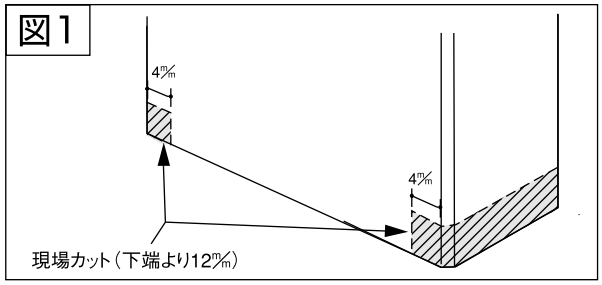
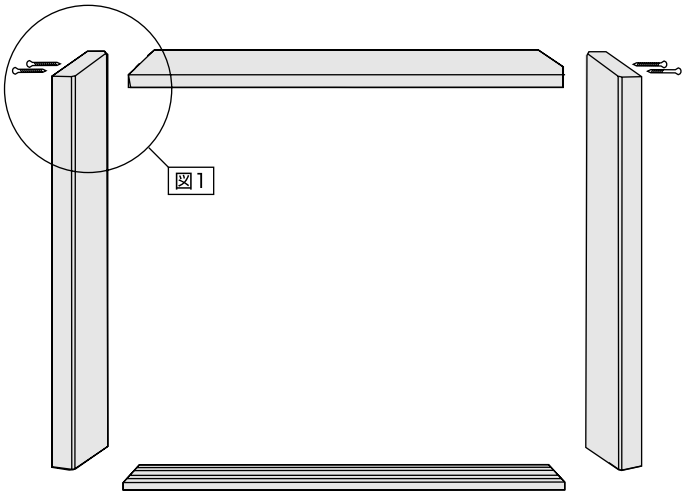


図1



枠材の組み立て

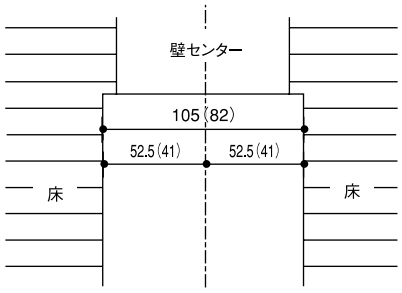


ご注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

敷居埋め込みの場合

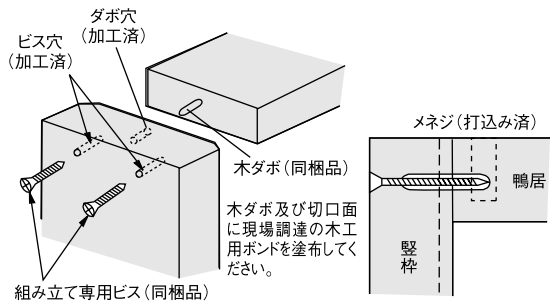
フロアー張り込み位置



※（　）は90巾用です。

● 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

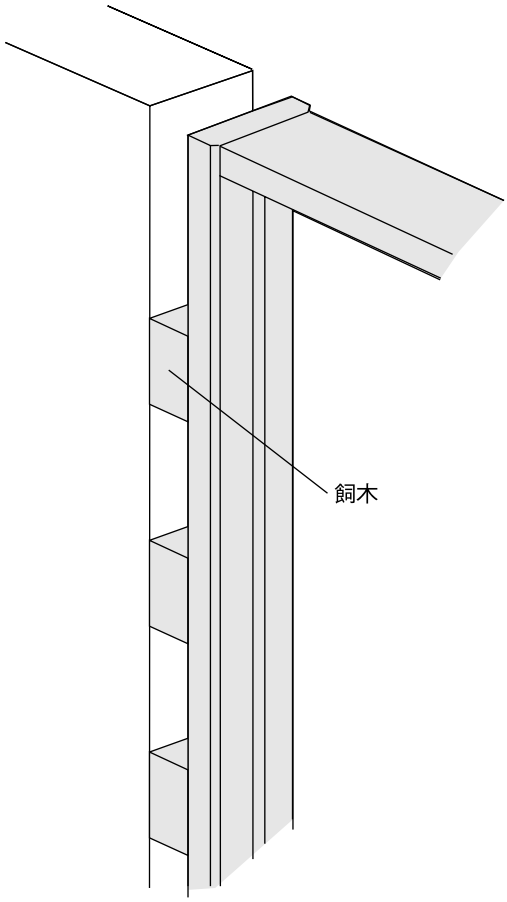
図1 ソフトアートシリーズ

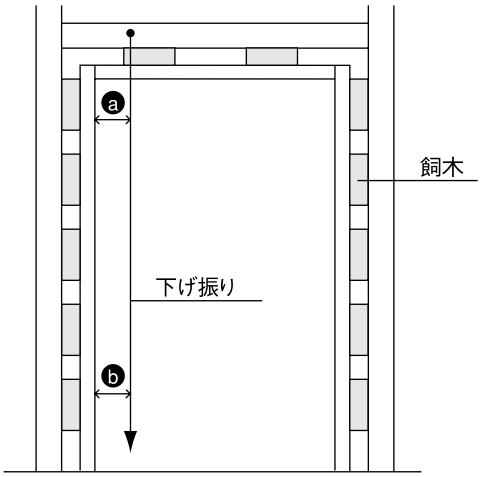


固定枠 90 巾・113 巾

集合住宅用引き違い戸専用枠材

枠材の仮固定と建て付け調整



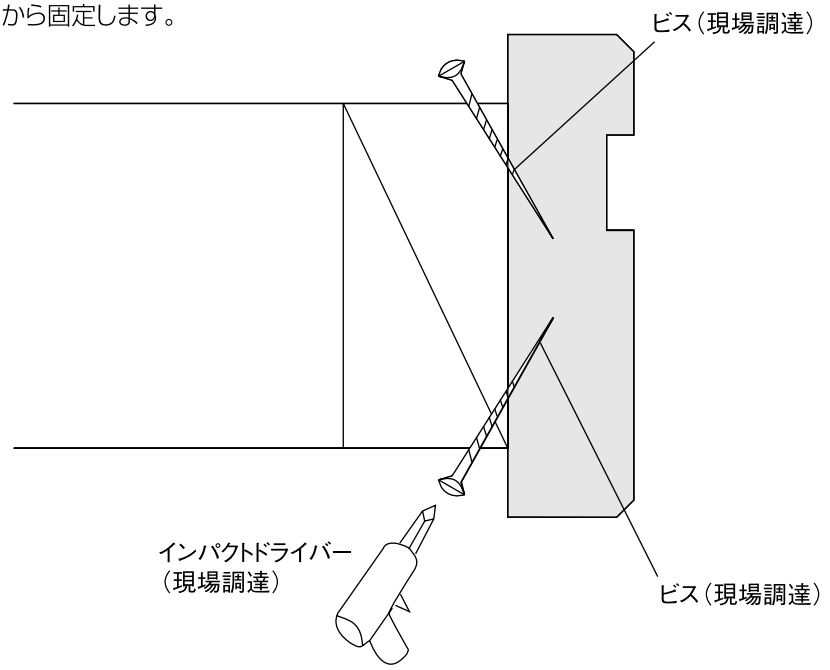


- ⓐ＝ⓑとなるよう
  調整してください。
  合わせて前後の建りも
  調整してください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木で
水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材の本固定

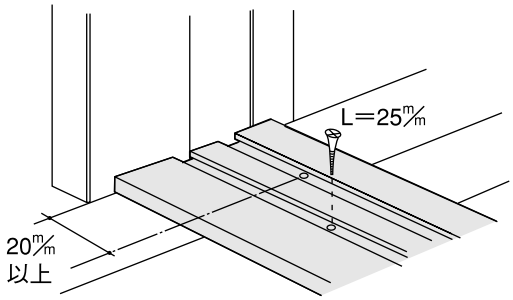
枠材を躯体側から固定します。



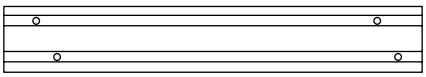
敷居の固定と小壁の施工

敷居の固定

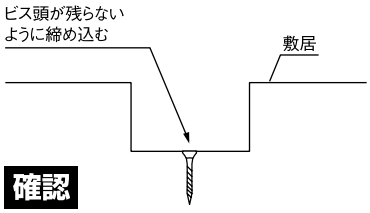
●敷居は接着剤･ビス併用で下地材に固定します。
ビスは敷居基材に割れが生じないよう、ちどりに打ってください。



※レール固定ビスが端から10㎜にきますので、20㎜以上逃がして取り付けてください。



溝1本につき2ヶ所以上で固定します。

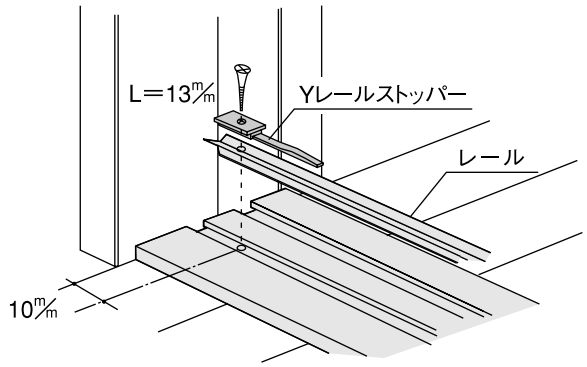


確認

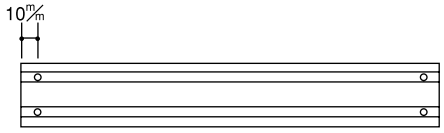
敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

レールの取り付け

●レールの両端にある下穴から同梱のビス（L＝13㎜）を取り付けます。

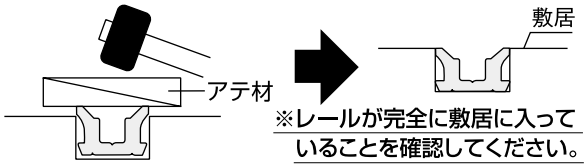


※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂･ホコリ等が付着しないようにしてください。



レールの両端を固定します。

Yレール取り付け時の注意

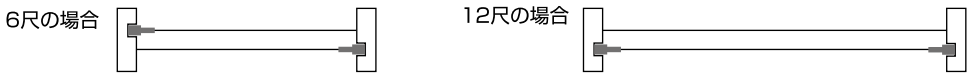


⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

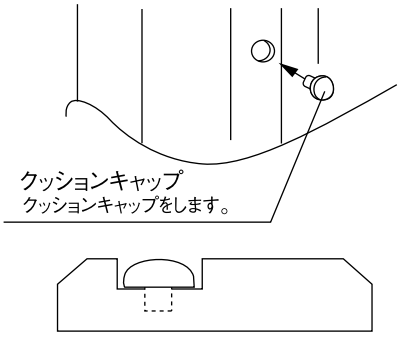
Yレールストッパーの取り付け

●Yレールストッパーは必ず引き手側に取り付けてください。



ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。

キャップの取り付け



施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

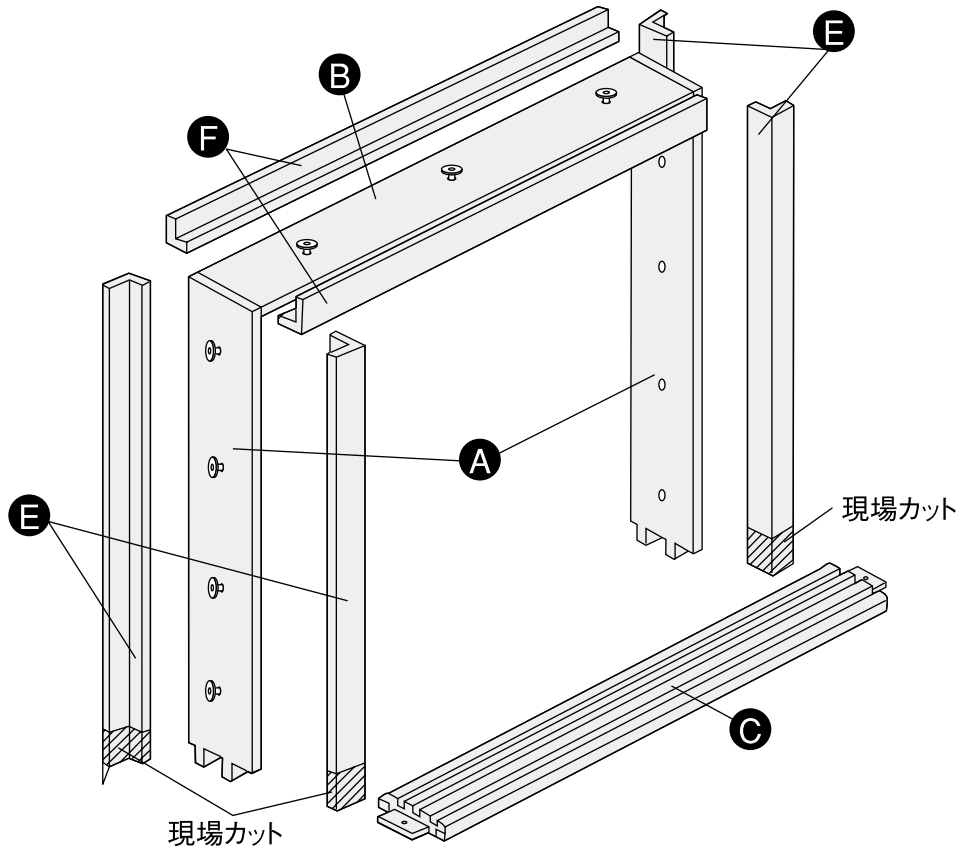
調整枠

3枚引き違い戸枠専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

① 全体図



② 梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）	2本	
	敷居レール（短）	1本	
	組み立て専用ビス	4本	
	敷居ベース用ビス	11本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	躯体接合金具用キャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	6本	
	Yレールストッパー	2個	

ケーシングセット（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
Ⓕ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

敷居（別売品）

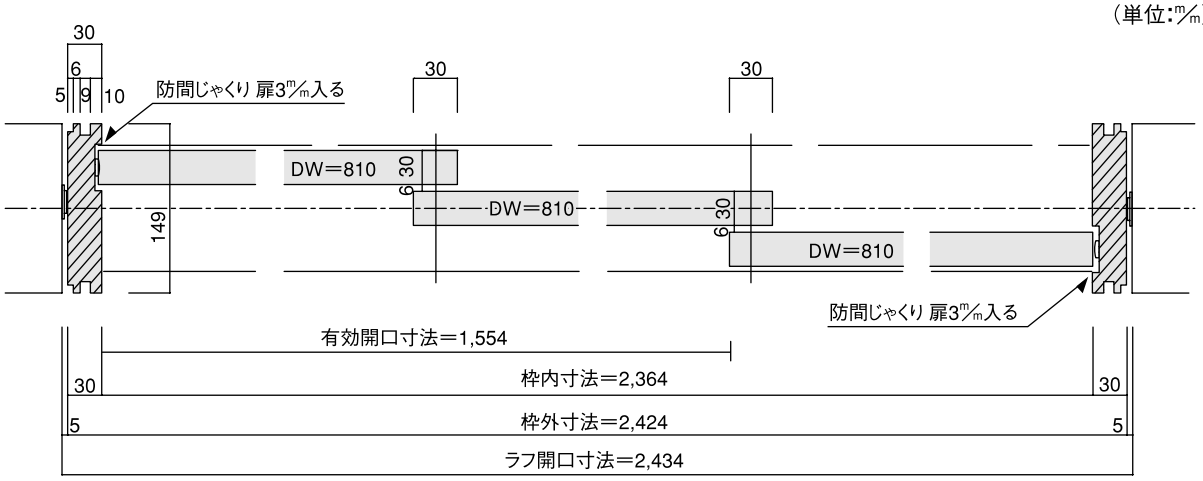
	部材名	数量	備　考
Ⓒ	敷居	1本	正寸カット済

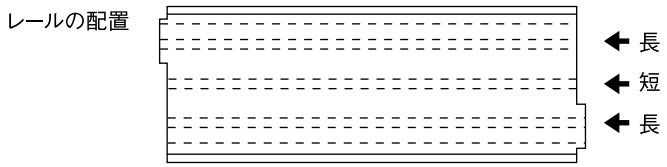
2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

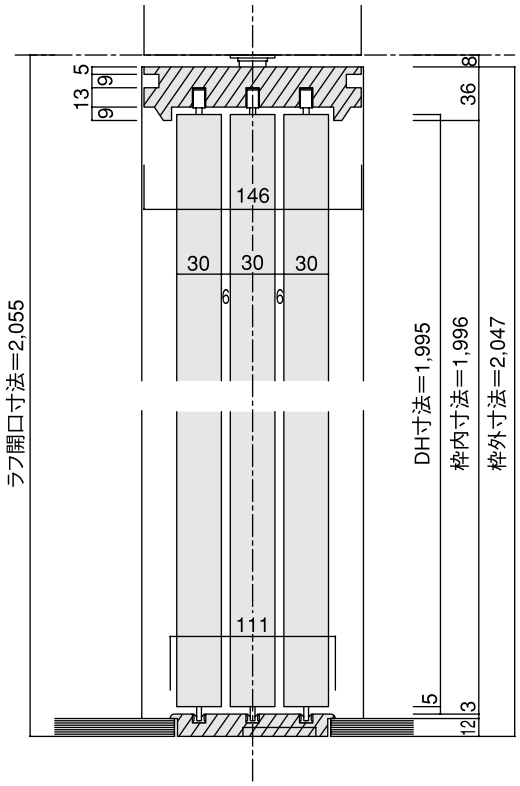
（単位:㎜）



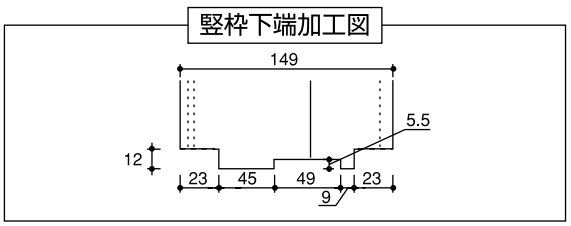


縦断面図

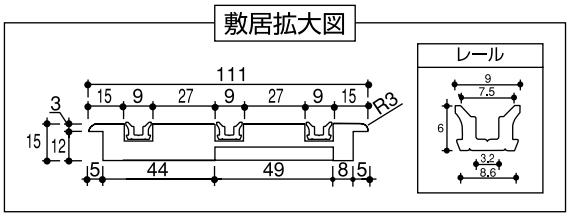
（単位:㎜）



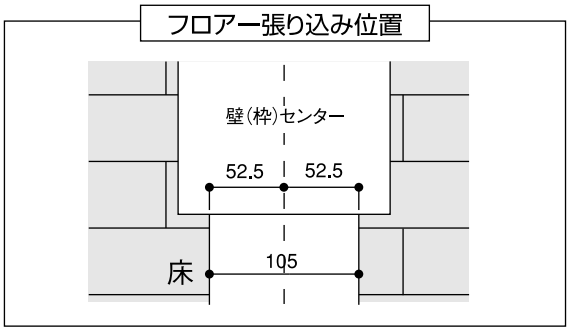
竪枠下端加工図



敷居拡大図



フロアー張り込み位置

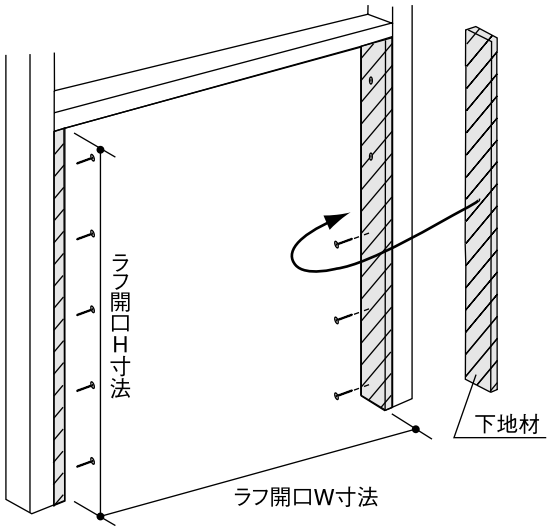


調整枠

3枚引き違い戸枠専用枠材

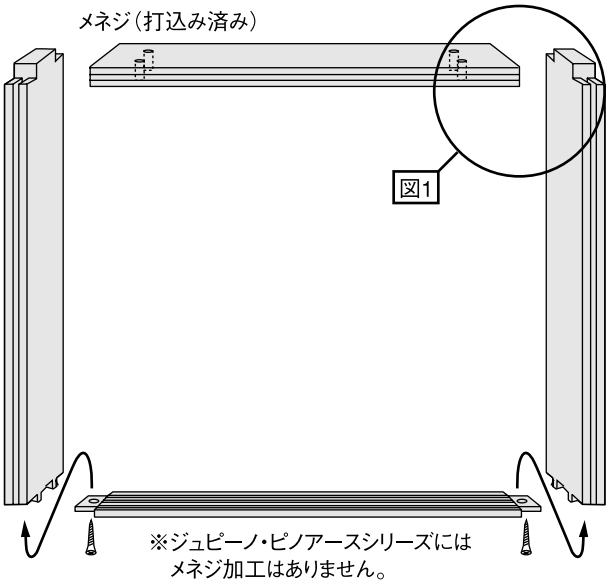
3. 施工手順

① 取り付け開口部の確認



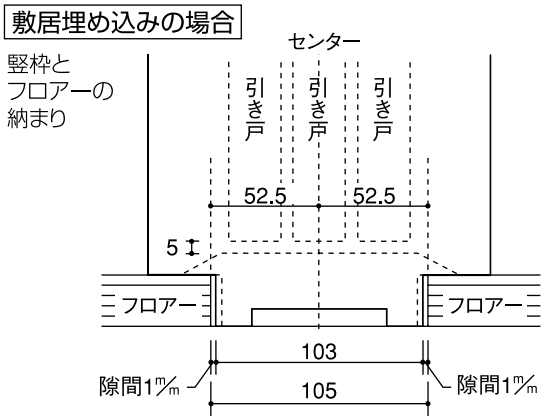
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、
枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

② 枠材の組み立て



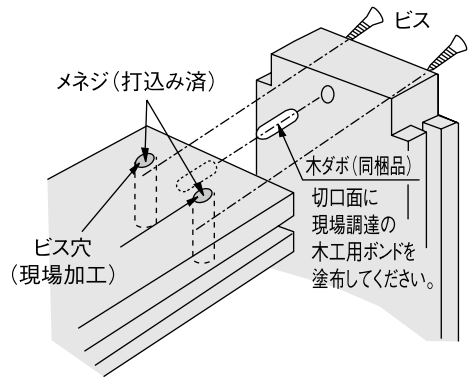
注意! 敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

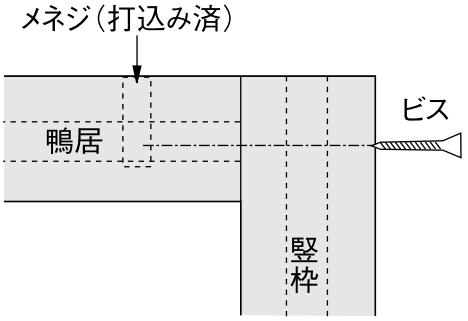
敷居埋め込みの場合



● 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板などを
下地にし、高さ調整したうえで施工してください。

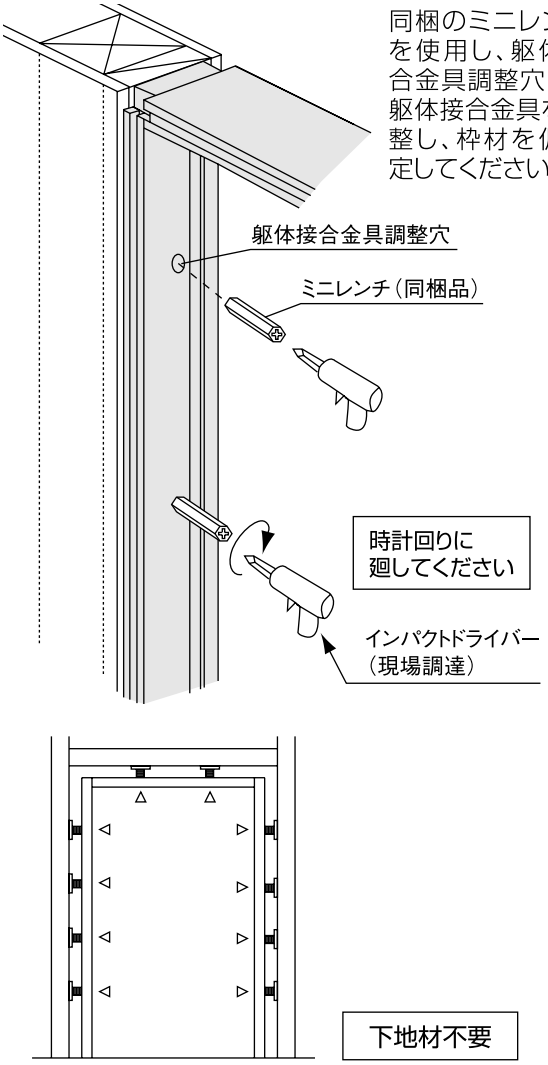
図1



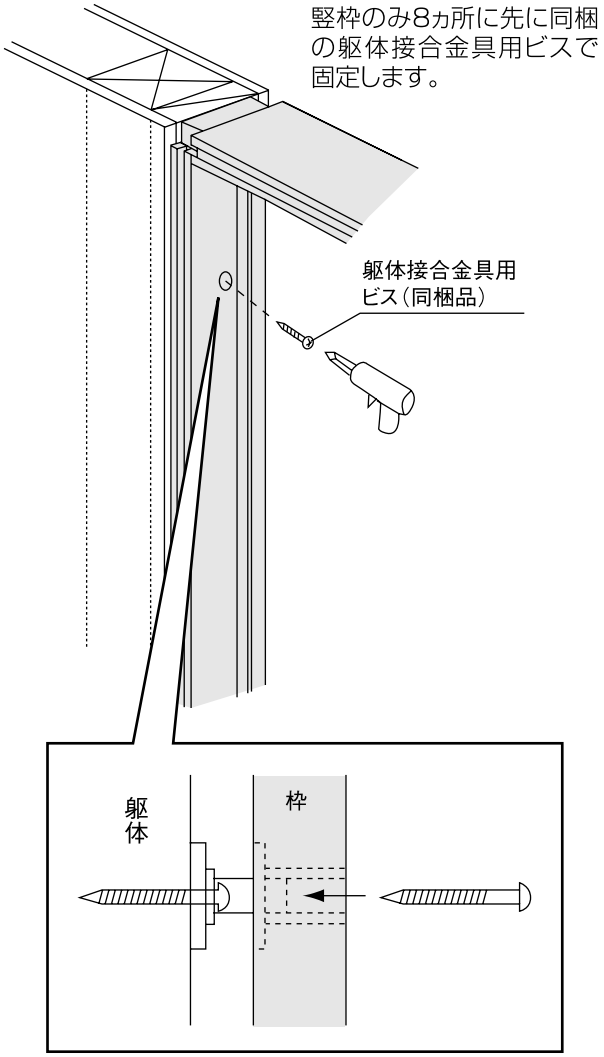


※ジュピーノ・ピノアースシリーズにはメネジ加工はありません。

③ 枠材の仮固定

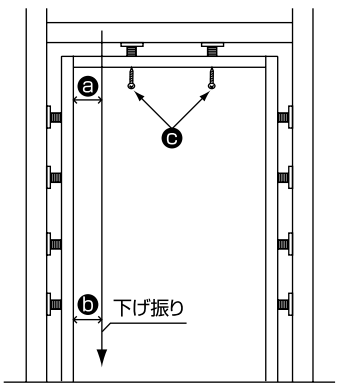


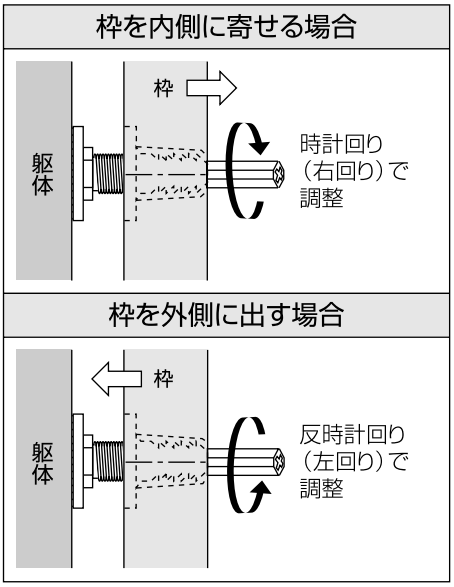
④ 竪枠の本固定



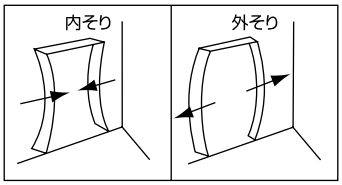
⑤ 建て付け調整ならびに鴨居の本固定

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。





※下記の様なことがないようご注意ください。

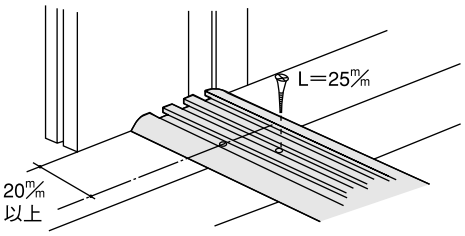


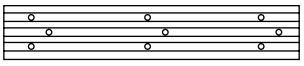
3枚引き違い戸枠専用枠材

⑥ 敷居の固定とレールの取り付け

敷居の固定

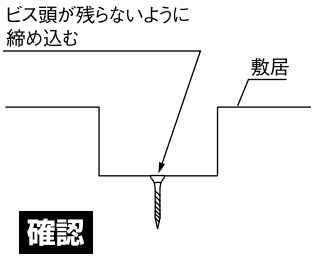
●接着剤･ビス併用で下地材に固定します。
敷居基材が割れないようビスはチドリにしっかりと打ってください。





ビスは溝1本につき3ヶ所とめます。

※レール固定ビスが端から10㎜にきますので、20㎜以上逃がして取り付けてください。

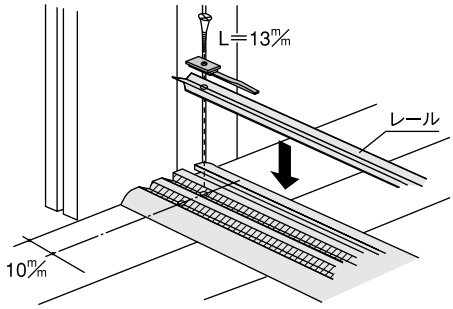


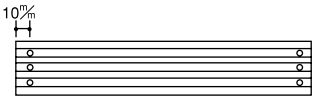
確認

敷居を固定するビスは、
ビス頭が残らないように
確実に締め込んでください。

レールの取り付け

●レールに同梱のビス(L=13㎜)でレールの
両端にある下穴にしっかり固定します。

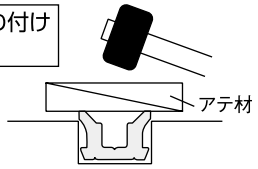


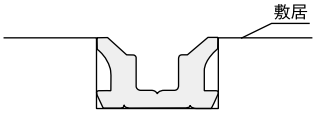


レールの両端を固定します。

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

Yレール取り付け時の注意





※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

お願い

敷居を端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。また、ハンマー等をご使用の場合はあて木をしてください。

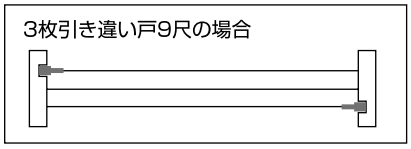
⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

Yレールストッパーの取り付け

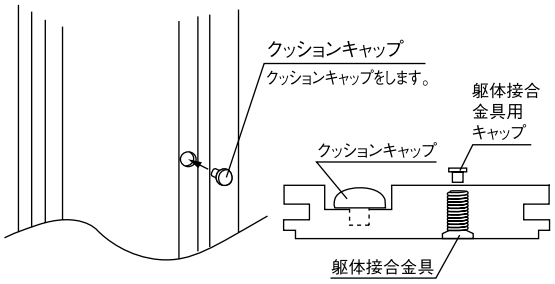
Yレールストッパーは必ず引き手側に
取り付けてください。

3枚引き違い戸9尺の場合



ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。

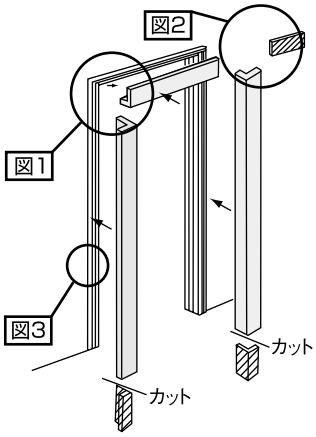
⑦ キャップの取り付け

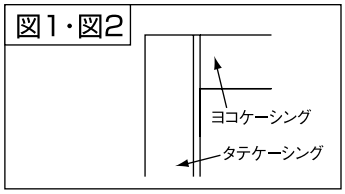


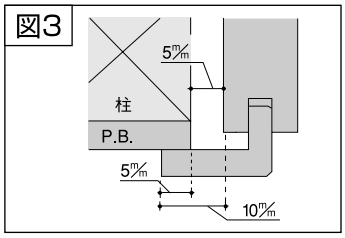
お願い

扉側にクッションキャップを取りつけてください。

⑧ ケーシングの取り付け







施工終了後

養生 当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

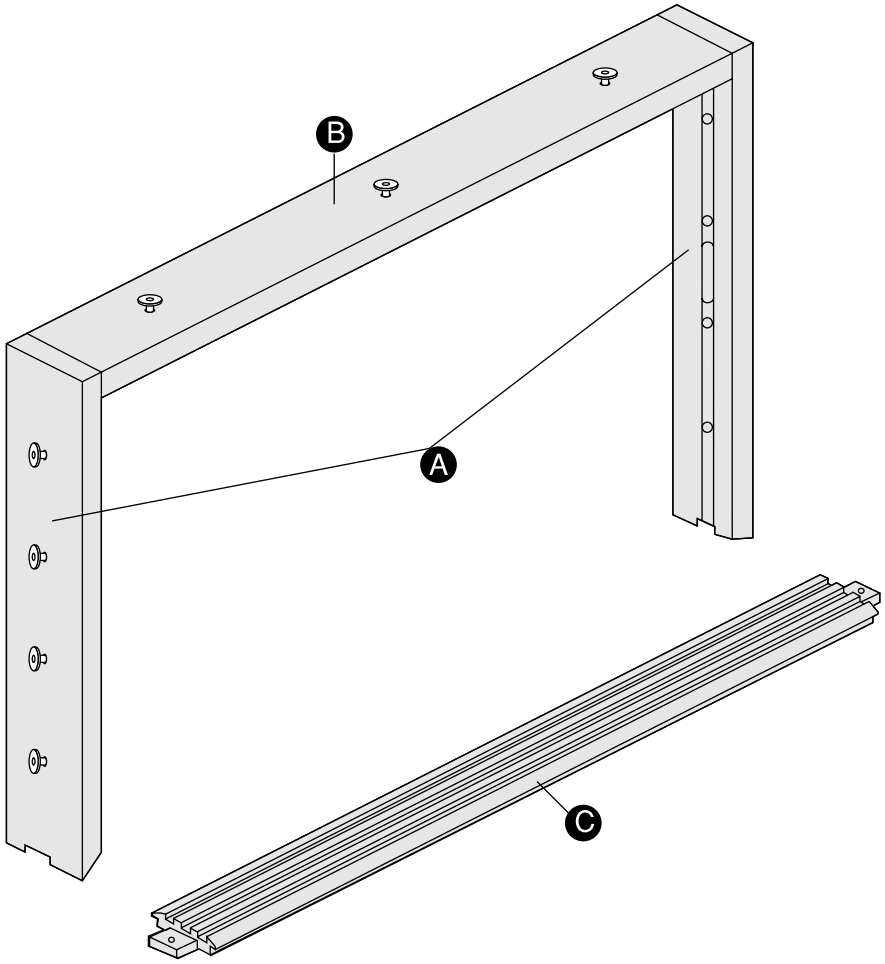
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

3枚引き違い戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール	1本	
	施工説明書	1部	
	木ダボ	2本	

	部材名	数量	備　考
	組み立て専用ビス	4本	
	敷居用ビス	9本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッション用キャップ	8個	
	躯体接合金具用キャップ	8個	
	ミニレンチ	1本	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	敷居	1本	正寸カット済

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

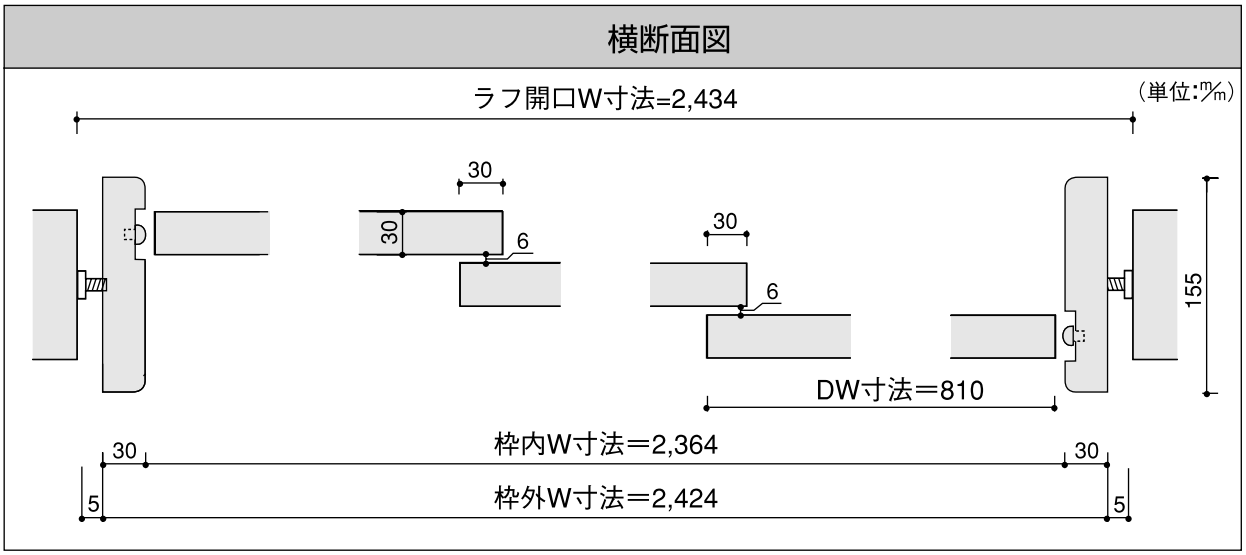
固定枠

3枚引き違い戸専用枠材

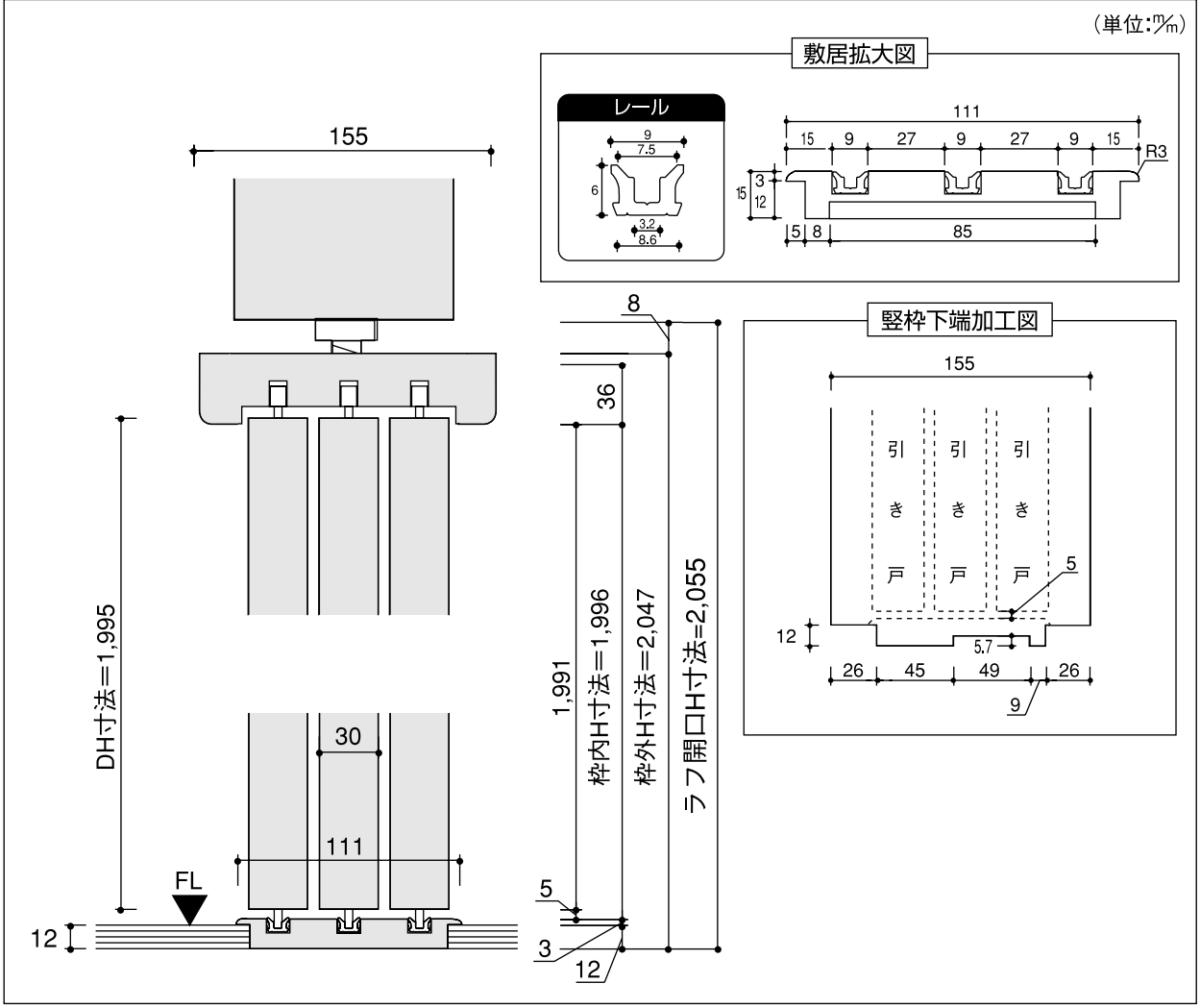
2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

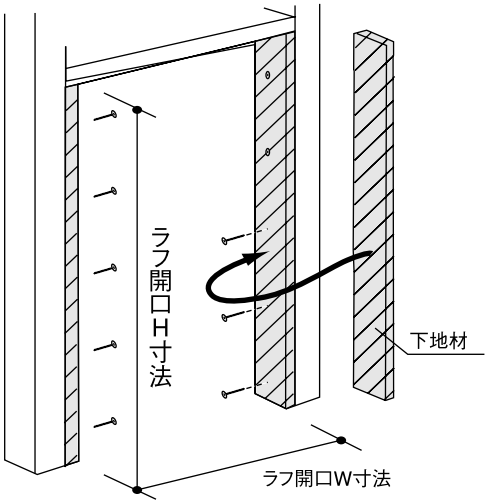


縦断面図



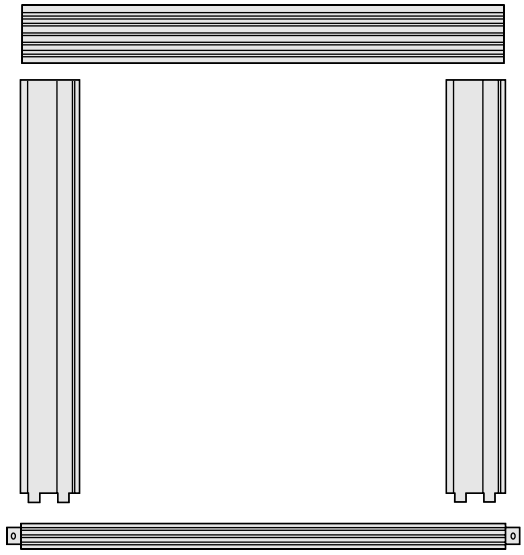
3. 施工手順

取り付け開口部の確認

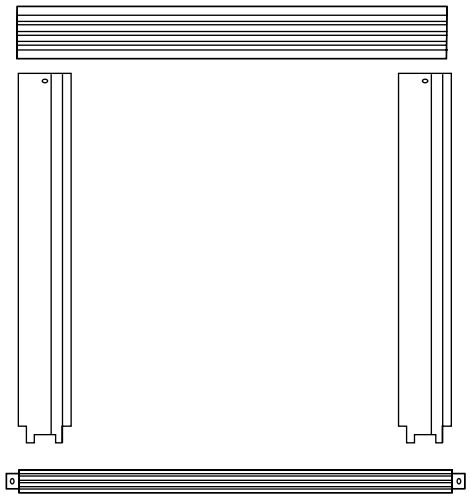


開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、
枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

枠材の組み立て（前準備）



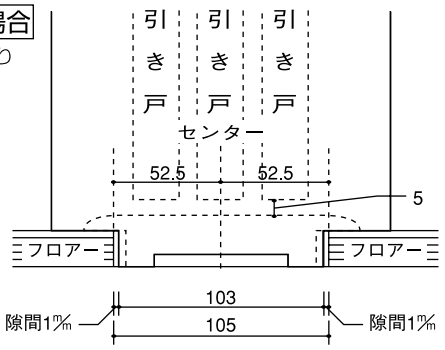
枠材の組み立て



ご注意 敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

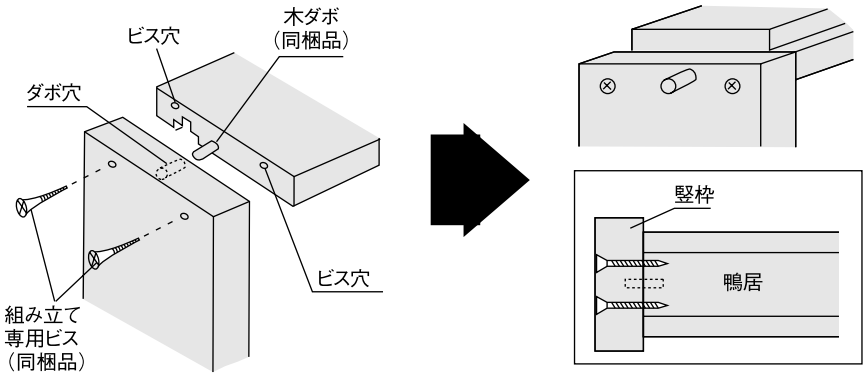
敷居埋め込みの場合

竪枠とフロアーの納まり



● 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

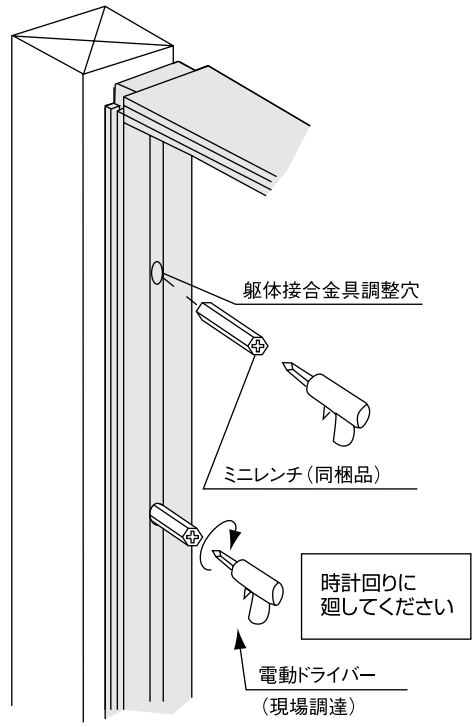
図1

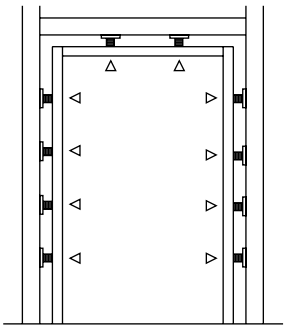


固定枠

3枚引き違い戸専用枠材

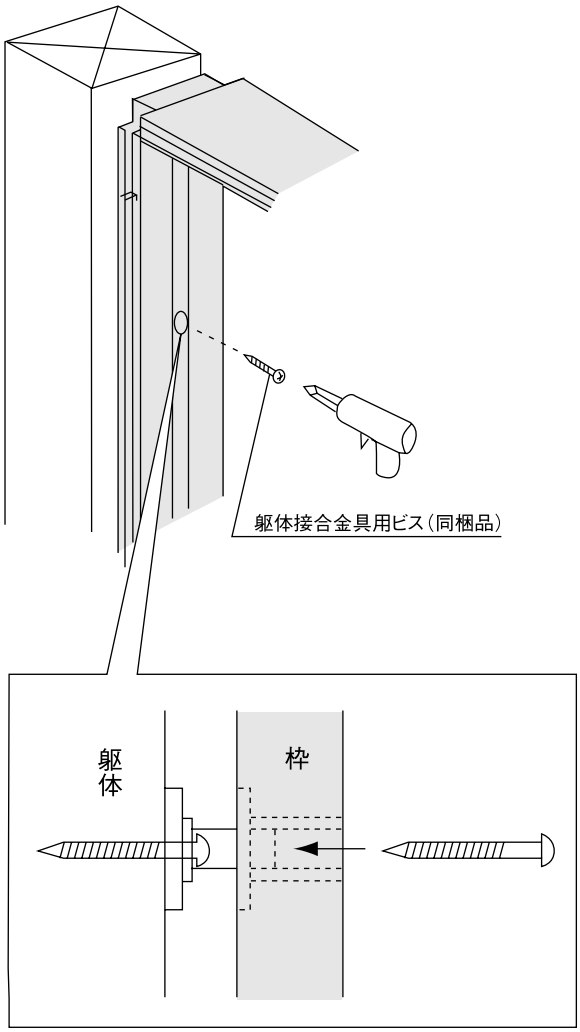
枠材の仮固定





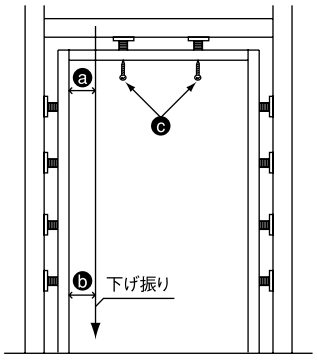
下地材不要

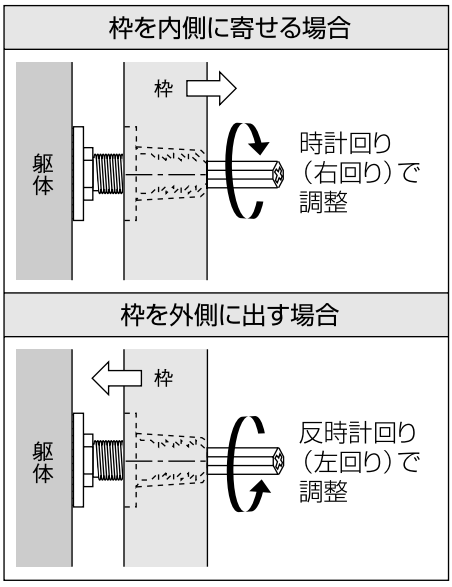
竪枠の本固定



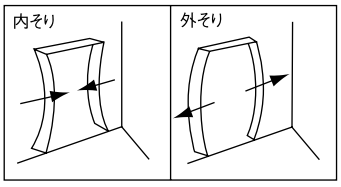
建て付け調整ならびに鴨居の本固定

- ⓐ =ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。





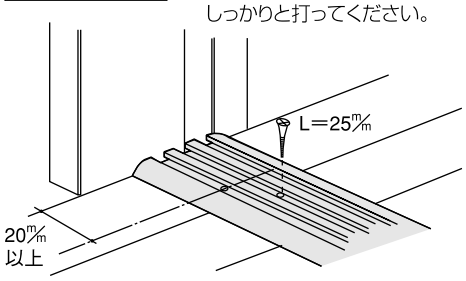
※下記の様なことがないようご注意ください。



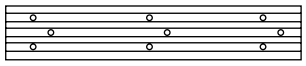
小壁の施工と敷居の取り付け

敷居の固定

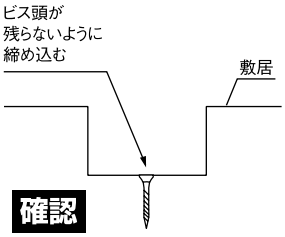
● 接着剤·ビス併用で下地材に固定します。敷居基材が割れないようビスはチドリにしっかりと打ってください。



※レール固定ビスが端から10㎜にきますので、20㎜以上逃がして取り付けてください。



ビスは溝1本につき3ヶ所とめます。

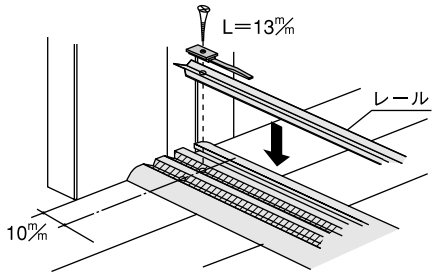


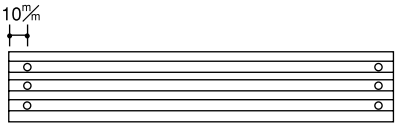
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

レールの取り付け

● レールに同梱のビス（L=13㎜）でレールの両端にある下穴にしっかり固定します。



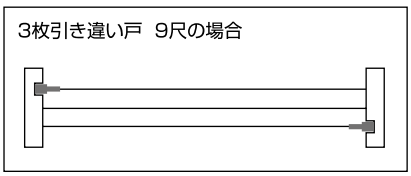


レールの両端を固定します。

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂·ホコリ等が付着しないようにしてください。

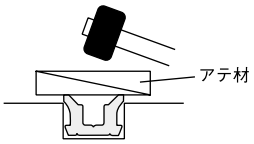
Yレールストッパーの取り付け

Yレールストッパーは必ず引き手側に取り付けてください。



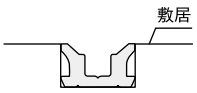
ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。

Yレール取り付け時の注意



お願い

敷居を端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。また、ハンマー等をご使用の場合はあて木をしてください。

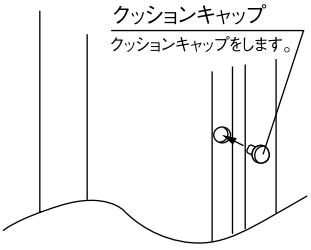


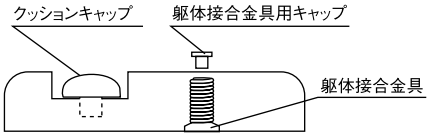
※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

キャップの取り付け





お願い

扉側にクッションキャップを取りつけてください。

施工終了後

養生

当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

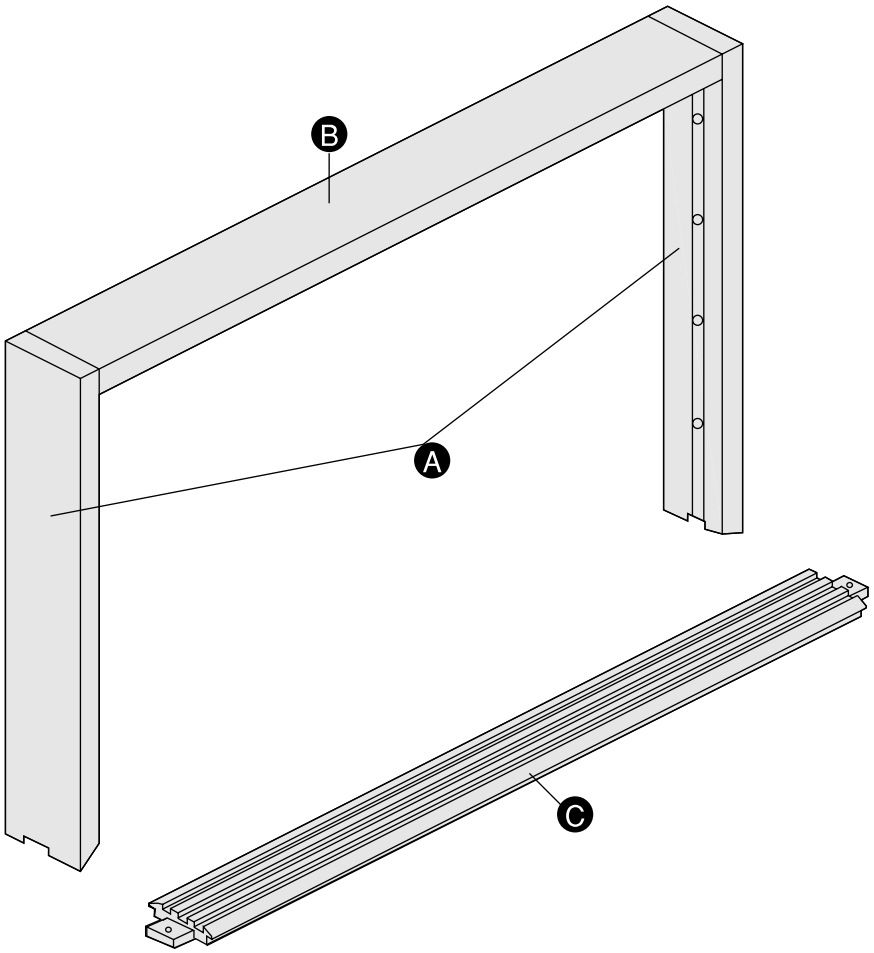
固定枠

3枚引き違い戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール	計3本	内訳:長2本、短1本
	木ダボ	2本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	敷居用ビス	11本	

	部材名	数量	備　考
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッション用キャップ	8個	
	レール用ビス	6本	ビスセット
	Yレールストッパー	2個	
	ミニレンチ	1本	
	施工説明書	1部	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	敷居	1本	正寸カット済

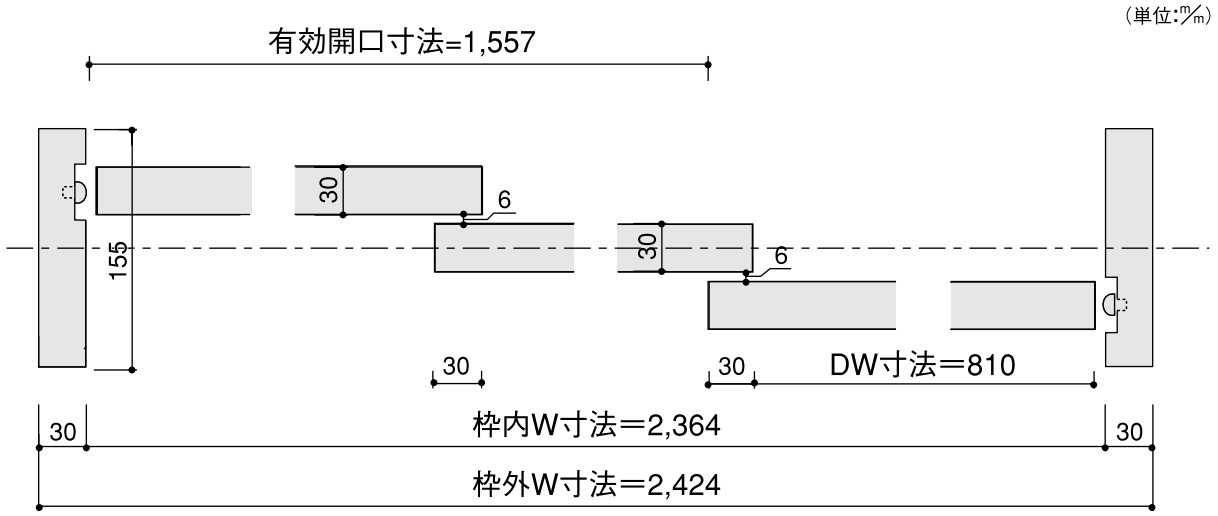
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

2. 納まり図

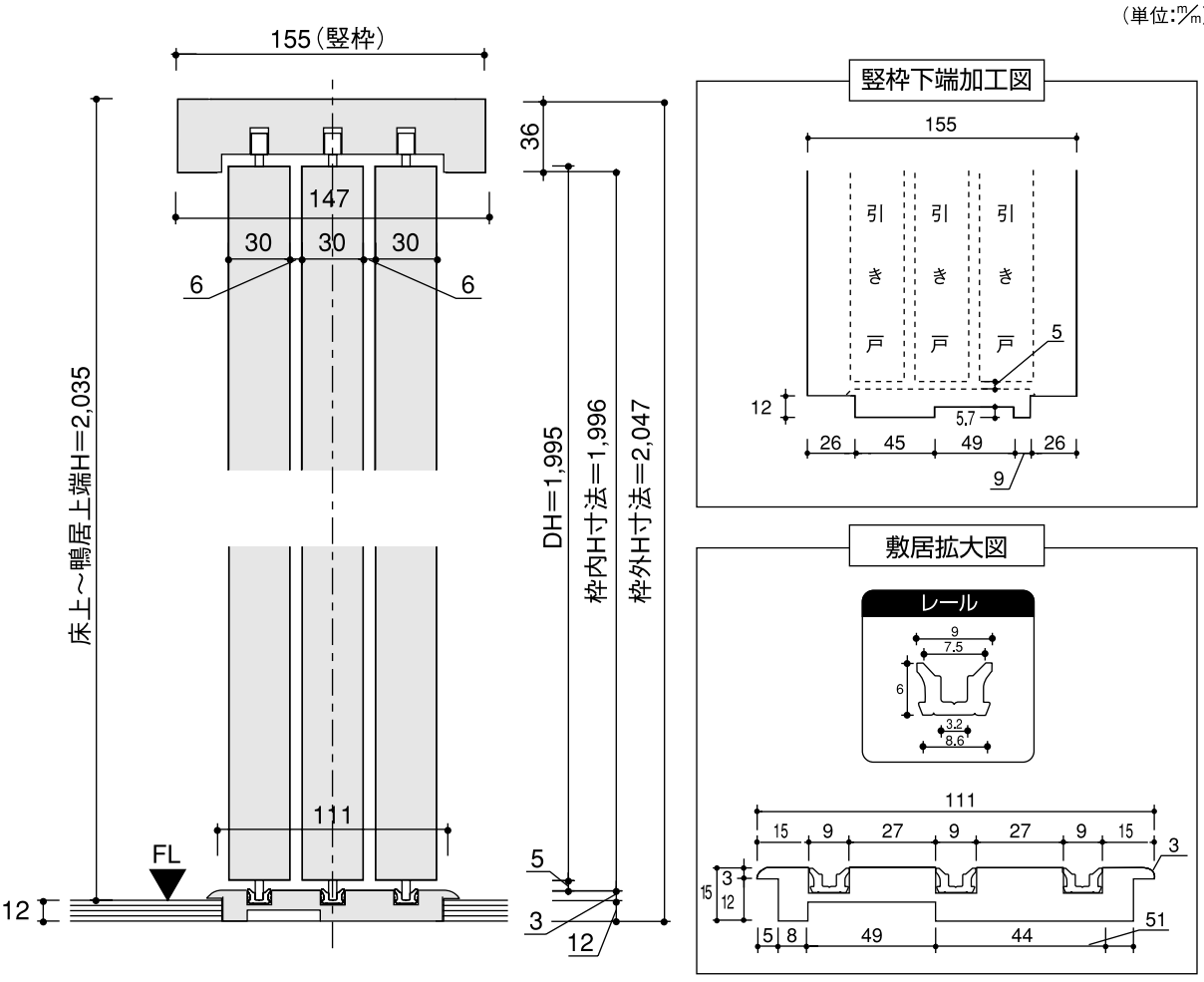
横断面図

（単位:㎜）



縦断面図

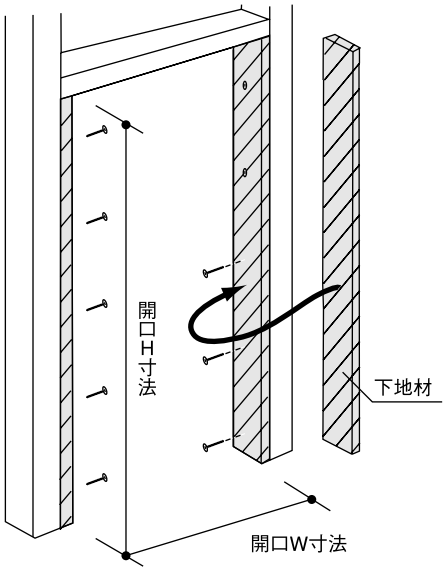
（単位:㎜）



3枚引き違い戸専用枠材

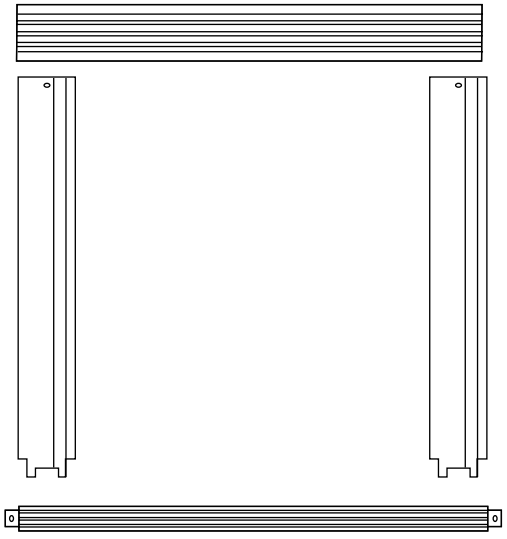
3. 施工手順

取り付け開口部の確認



開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、
枠外寸法に見合った開口を設けてください。

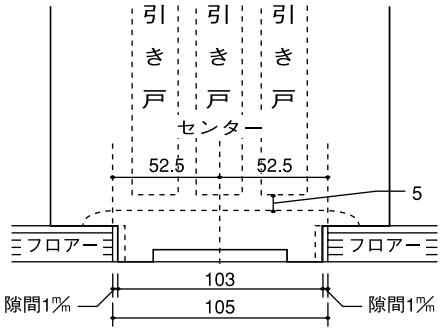
枠材の組み立て



ご注意　敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

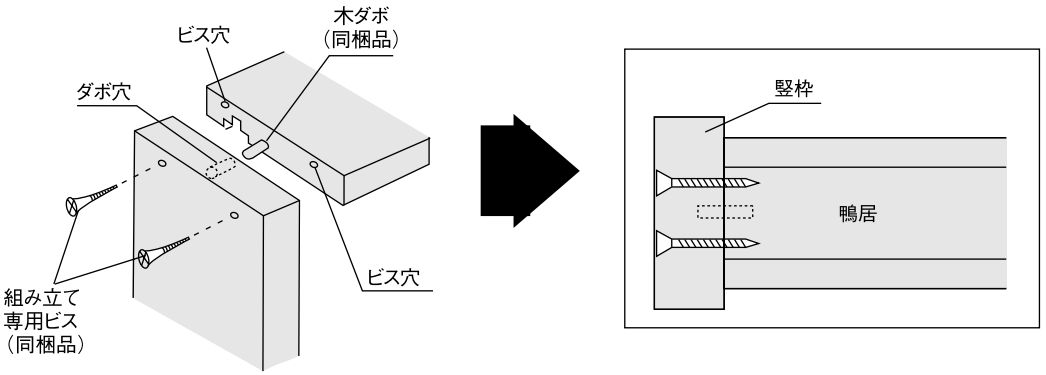
敷居埋め込みの場合

竪枠とフロアーの納まり

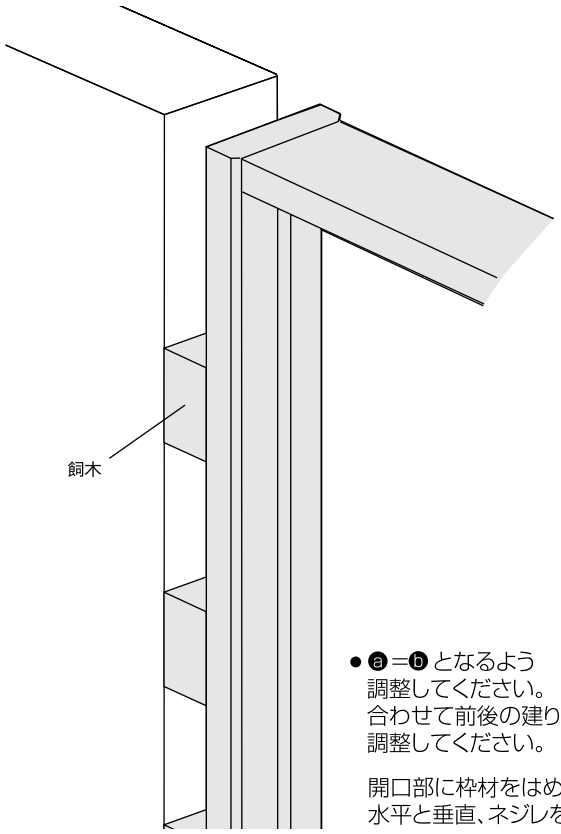


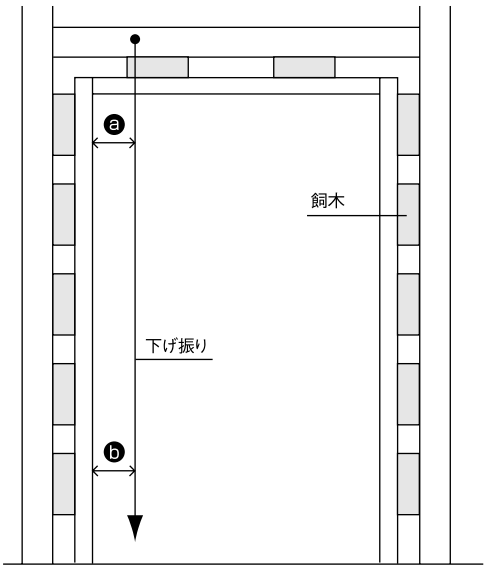
● 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

図1



枠材の仮固定と建て付け調整



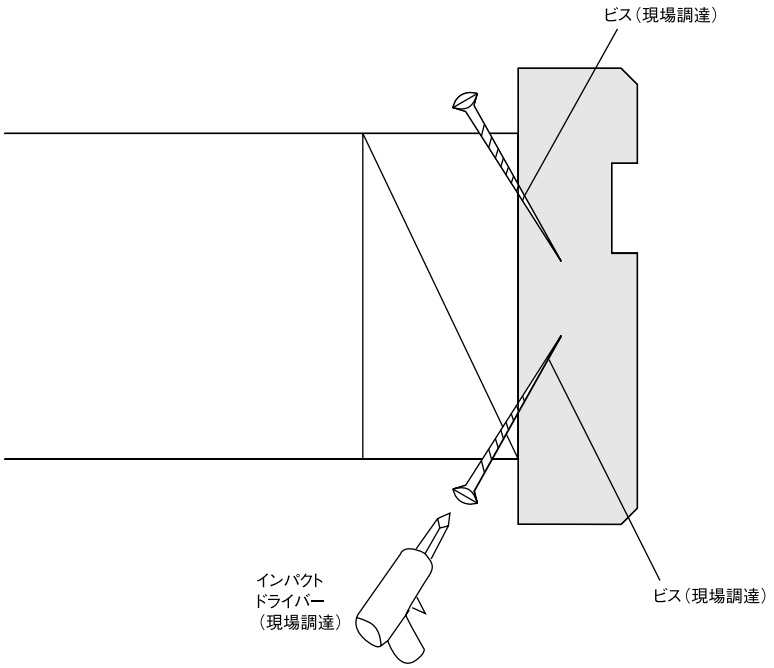


- ⓐ＝ⓑ となるよう
  調整してください。
  合わせて前後の建りも
  調整してください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木で
水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材の本固定

枠材を躯体側から固定します。



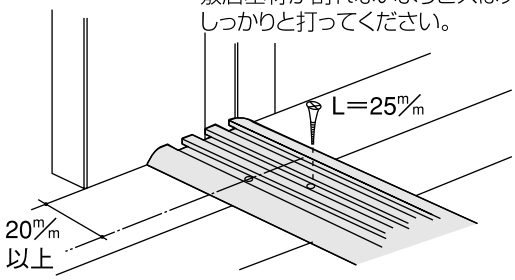
固定枠

3枚引き違い戸専用枠材

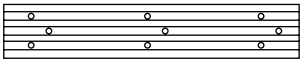
小壁の施工と敷居の取り付け

敷居の固定

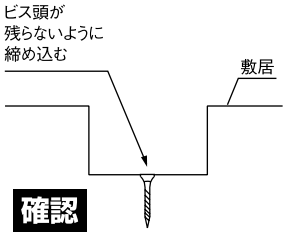
●接着剤･ビス併用で下地材に固定します。敷居基材が割れないようビスはチドリにしっかりと打ってください。



※レール固定ビスが端から10㎜にきますので、20㎜以上逃がして取り付けてください。



ビスは溝1本につき3ヶ所とめます。

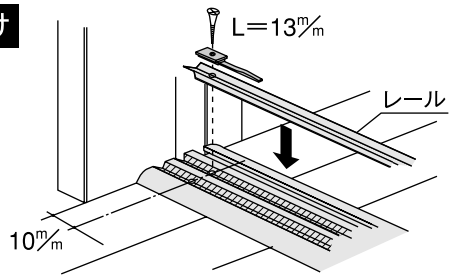


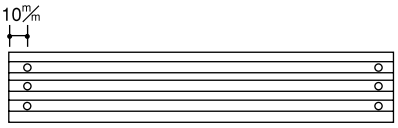
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

レールの取り付け

●レールに同梱のビス（L＝13㎜）でレールの両端にある下穴にしっかり固定します。



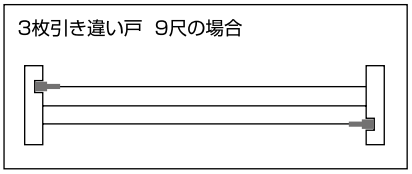


レールの両端を固定します。

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂･ホコリ等が付着しないようにしてください。

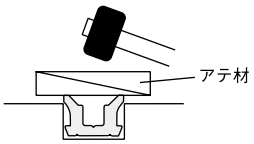
Yレールストッパーの取り付け

Yレールストッパーは必ず引き手側に取り付けてください。



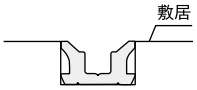
ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。

Yレール取り付け時の注意



お願い

敷居を端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。また、ハンマー等をご使用の場合はあて木をしてください。

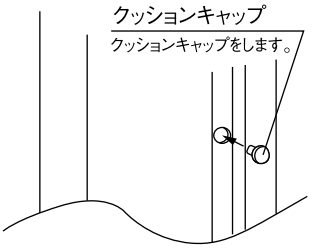


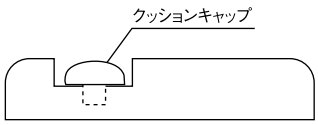
※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

キャップの取り付け





お願い

扉側にクッションキャップを取りつけてください。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

引き込み戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立て）	1本	正寸カット済
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）	1本	
	敷居レール（短）	1(2)本	（　）内は3枚用
Ⓕ	モヘア	1本	
	組み立て専用ビス	6本	
	敷居ベース用ビス	14本	
	躯体接合金具用ビス	11本	ビスセット
	クッションキャップ	4個	
	キャップ	10個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	6本	
	Yレールストッパー	1個	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	敷居	1本	正寸カット済

ケーシングセット（別売品）

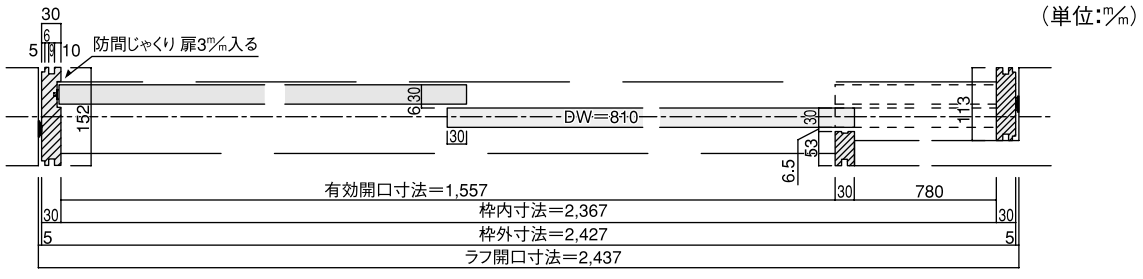
	部材名	数量	備　考
Ⓖ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
Ⓗ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

2. 納まり図

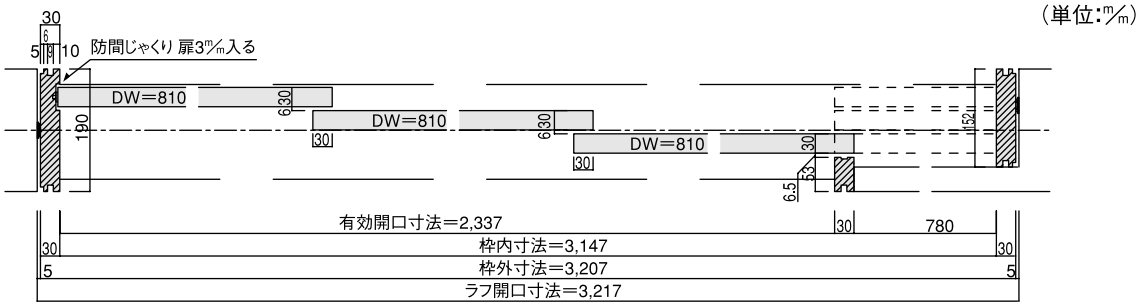
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

2枚引き込み戸



3枚引き込み戸



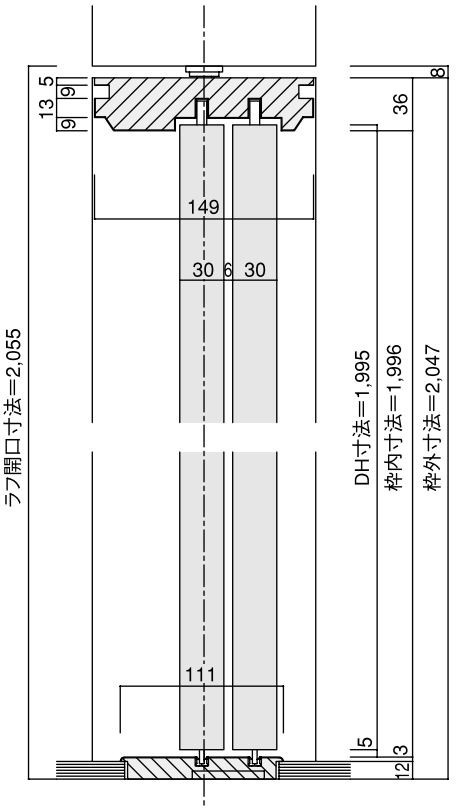
調整枠

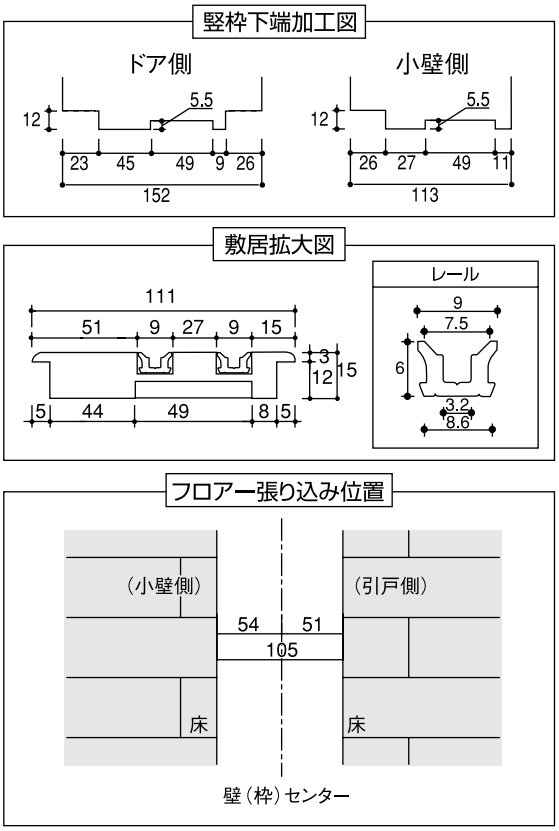
引き込み戸専用枠材

縦断面図

2枚引き込み戸

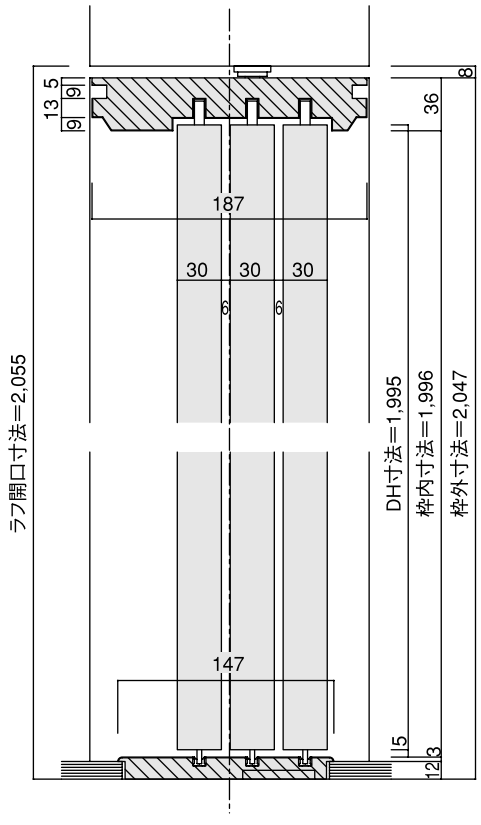
（単位：m/m）

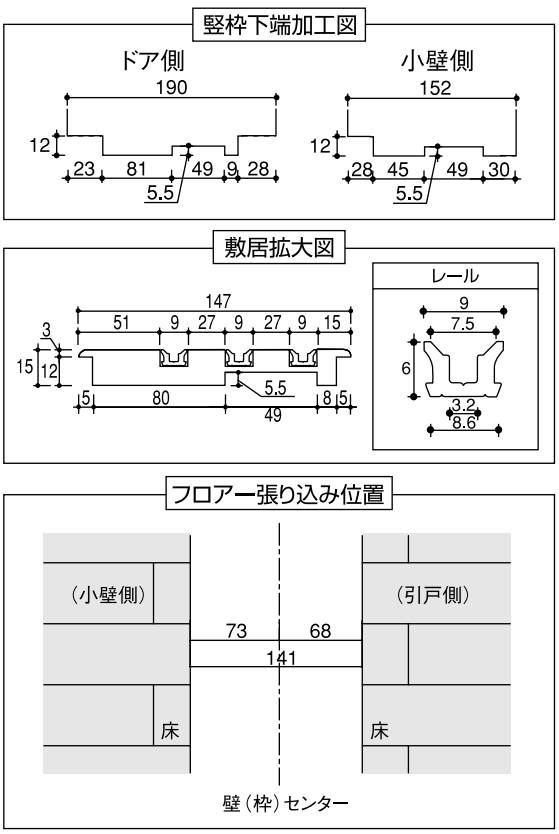




3枚引き込み戸

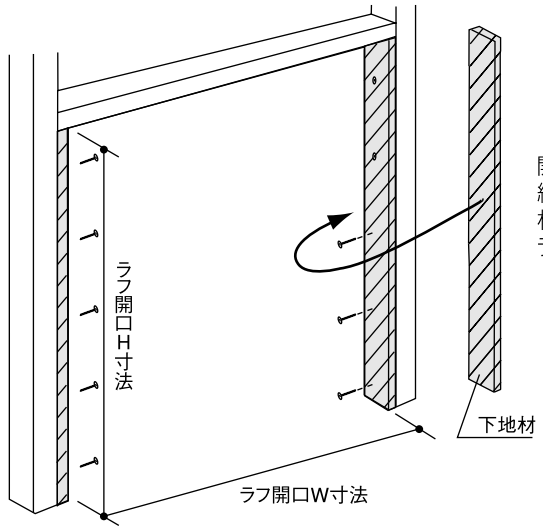
（単位：m/m）





3. 施工手順

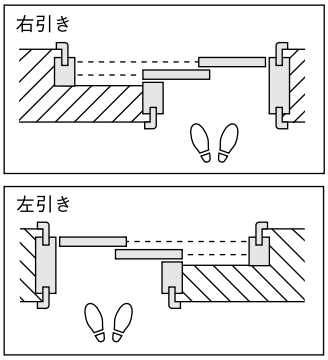
① 取り付け開口部の確認



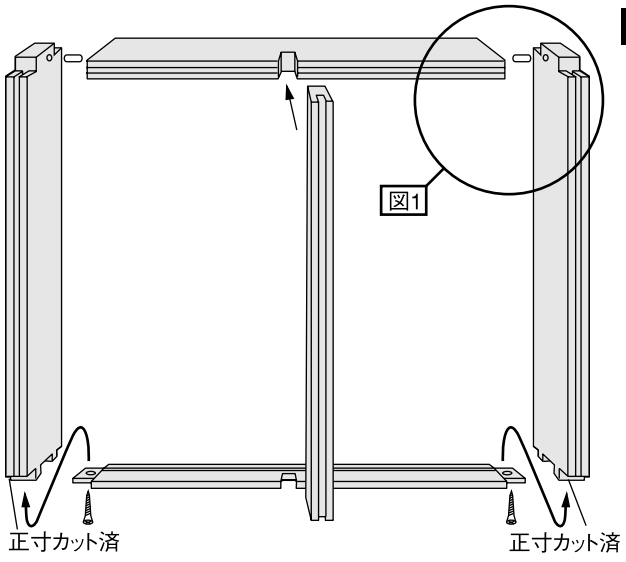
開口部に下地材を取り付け、
納まり図参照の上、
枠外寸法に見合った
ラフ開口を設けてください。

引き手方向の確認

引き戸には、引き手方向によって
左右の区別がありますので、
ご確認のうえ施工してください。



② 枠材の組み立て

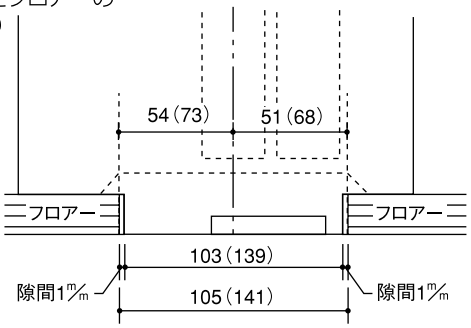


注意！ 敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

敷居埋め込みの場合

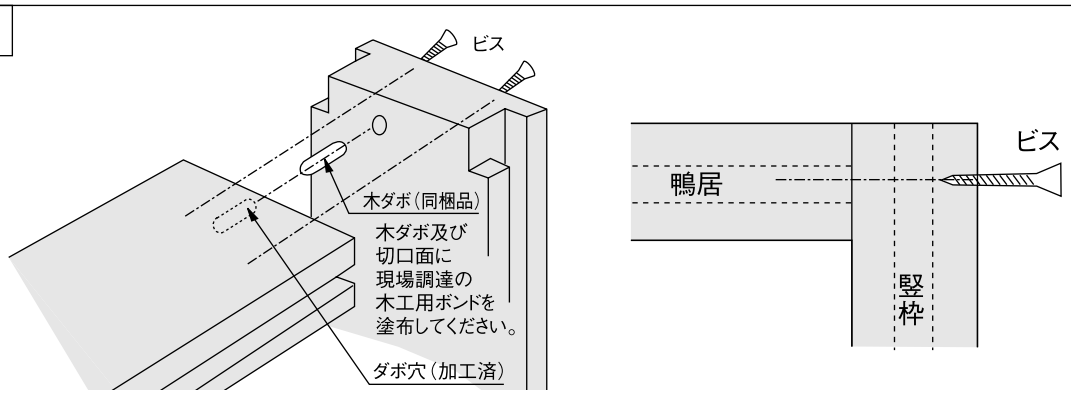
※図は2枚引き込み戸の場合の納まりです。

竪枠とフロアーの納まり



- 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板などを下地にし、高さ調整をしたうえで施工してください。
- （　）内寸法は、3枚引き込み戸の場合です。

図1

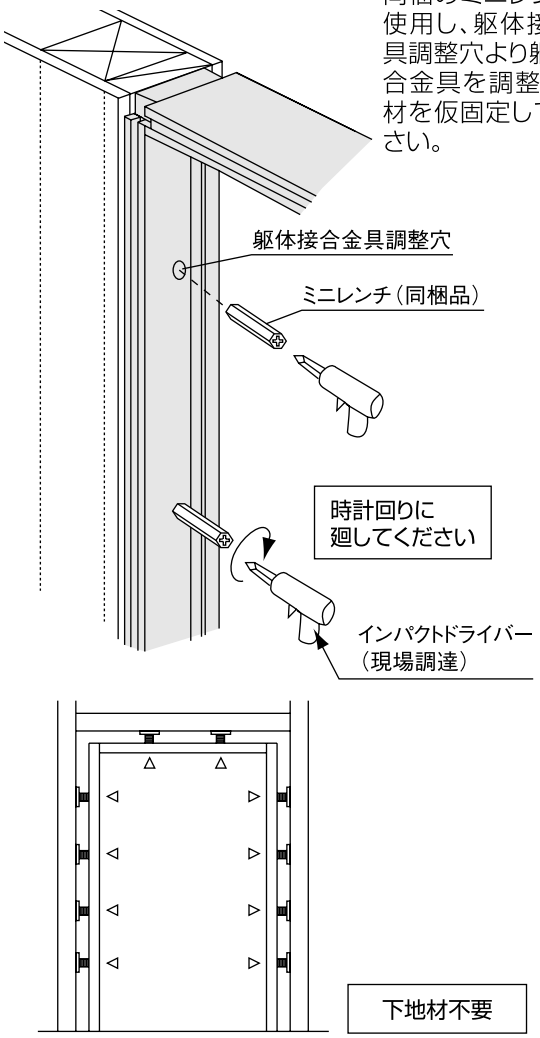


調整枠

引き込み戸専用枠材

③ 枠材の仮固定

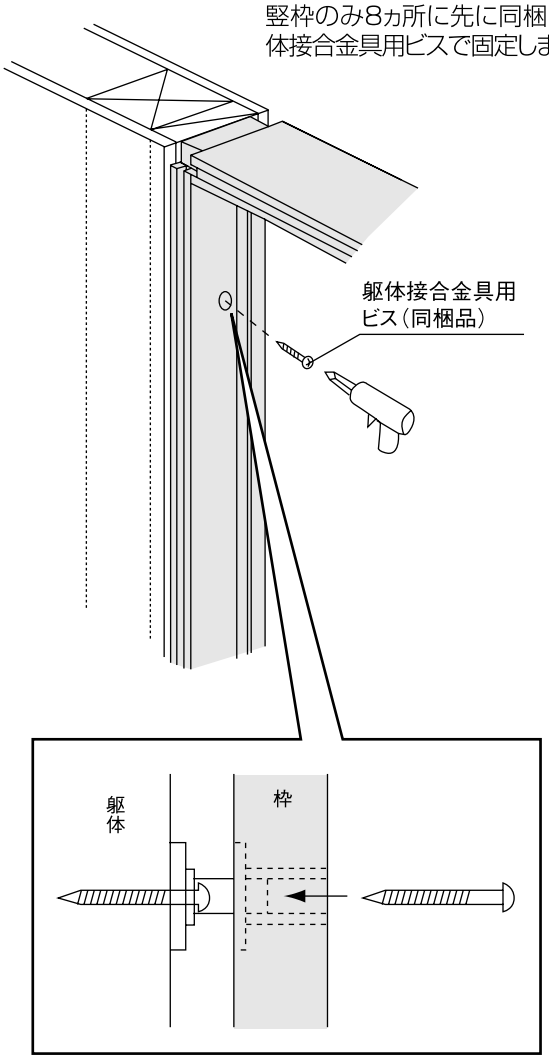
同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具調整穴より躯体接合金具を調整し、枠材を仮固定してください。



下地材不要

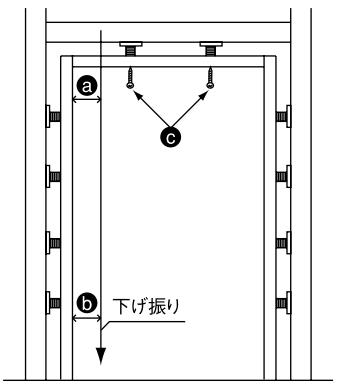
④ 竪枠の本固定

竪枠のみ8ヵ所に先に同梱の躯体接合金具用ビスで固定します。

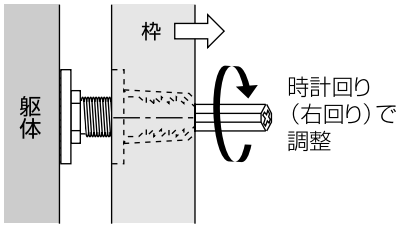


⑤ 建て付け調整ならびに鴨居の本固定

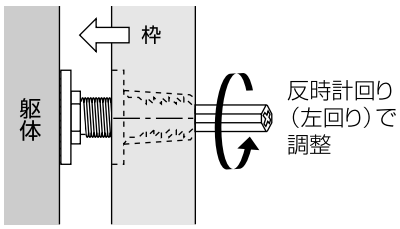
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



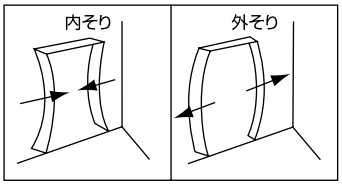
枠を内側に寄せる場合



枠を外側に出す場合



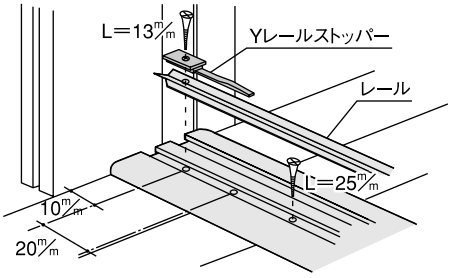
※下記の様なことがないようご注意ください。



⑥ 敷居の固定とレールの取り付け

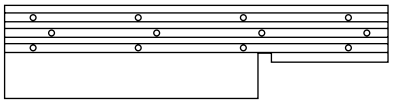
敷居とレールの固定

●レールは両端にある下穴から同梱のビス（L＝13㎜）を取り付けます。

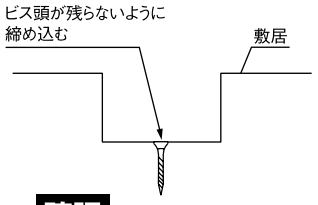


※レール固定ビス（L＝13㎜）が端から10㎜にきますので、敷居固定ビス（L＝25㎜）は、20㎜以上逃がして取り付けてください。
※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

●敷居は接着剤・ビス併用で下地材に固定します。ビスは敷居基材に割れが生じないよう、ちどりに打ってください。



※3本引き込みの場合。

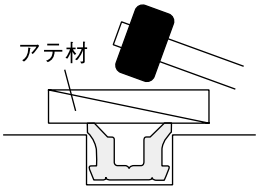


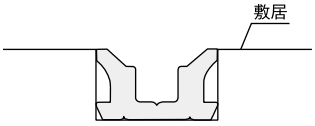
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

Yレール取り付け時の注意

ハンマー等をご使用の場合はあて木をしてください。





※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

お願い

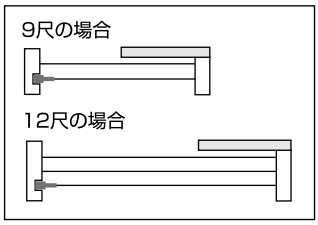
敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

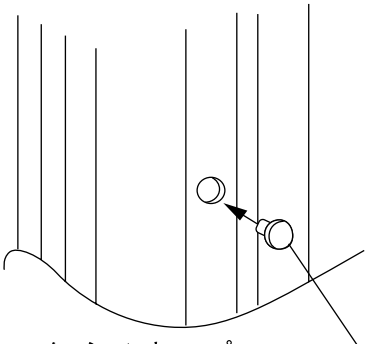
Yレールストッパーの取り付け

Yレールストッパーは必ず引き手側に取り付けてください。

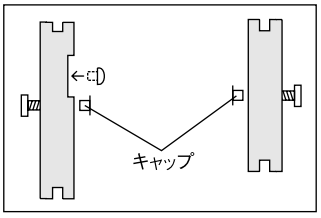


ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。

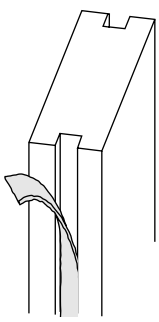
⑦ モヘア・キャップの取り付け



クッションキャップを取り付けます。

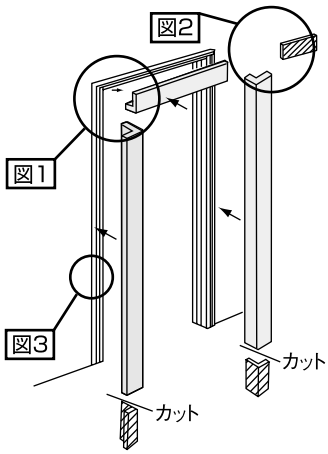


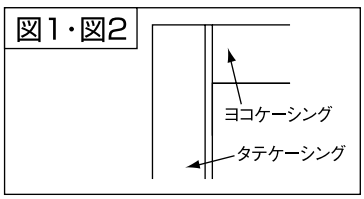
竪枠の躯体接合金具調整穴にキャップを取り付けます。

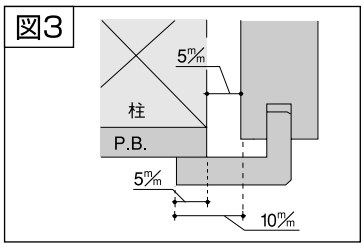


施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

⑧ ケーシングの取り付け







施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

調整枠

引き込み戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立て）	1本	正寸カット済
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）	1本	
	敷居レール（短）	1(2)本	（　）内は3枚用
Ⓕ	モヘア	1本	
	組み立て専用ビス	6本	
	敷居ベース用ビス	14本	
	躯体接合金具用ビス	11本	ビスセット
	クッションキャップ	4個	
	キャップ	11個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	レール用ビス	6本	
	Yレールストッパー	1個	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	敷居	1本	正寸カット済

ケーシングセット（別売品）

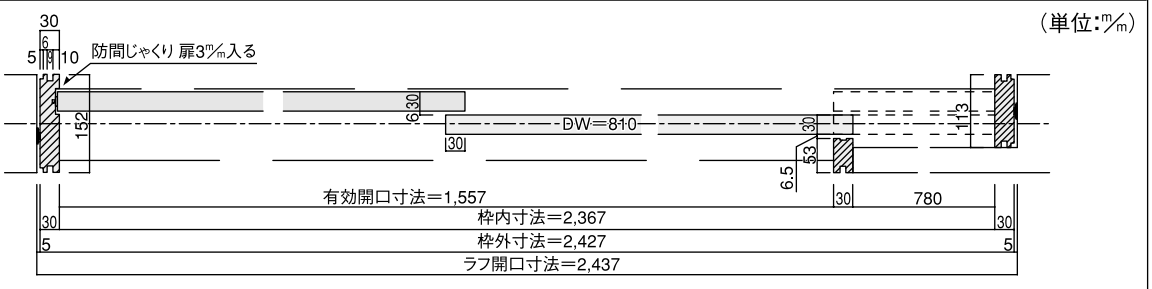
	部材名	数量	備　考
Ⓖ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
Ⓗ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

2. 納まり図

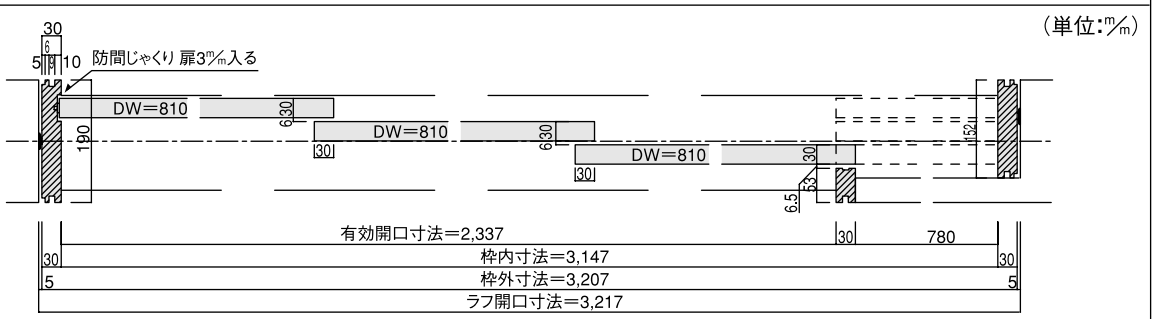
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

2枚引き込み戸



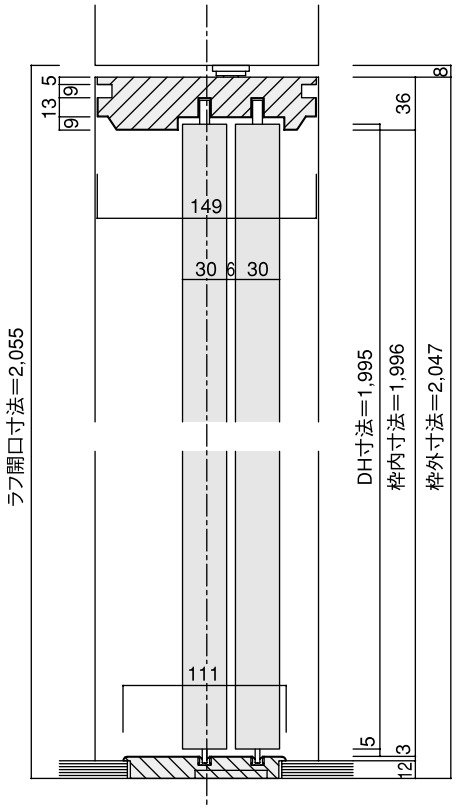
3枚引き込み戸



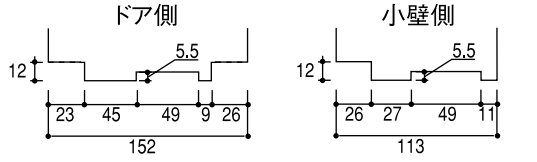
縦断面図

2枚引き込み戸

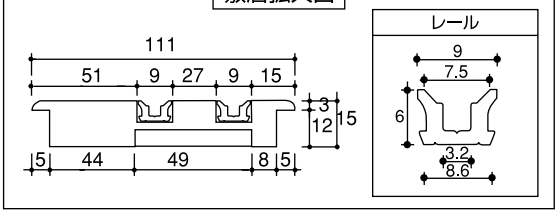
（単位：㎜）



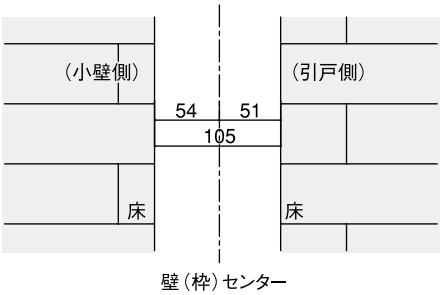
竪枠下端加工図



敷居拡大図

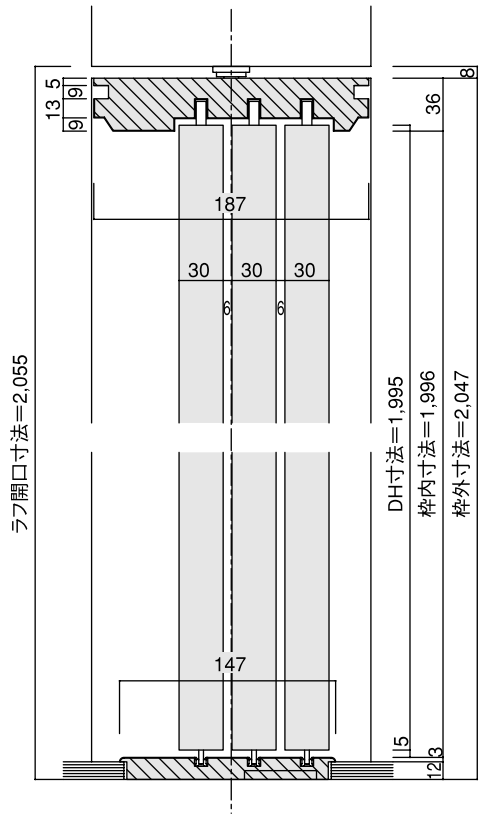


フロアー張り込み位置

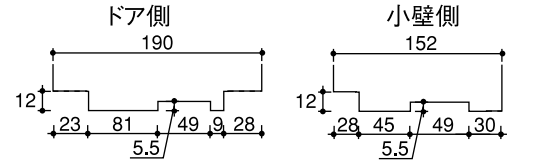


3枚引き込み戸

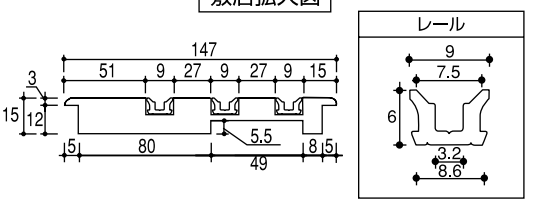
（単位：㎜）



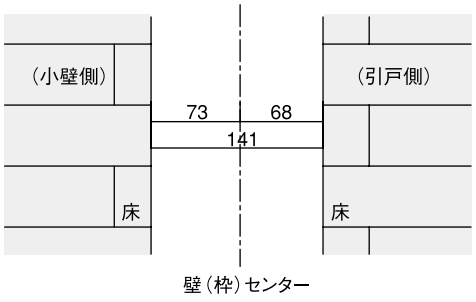
竪枠下端加工図



敷居拡大図



フロアー張り込み位置

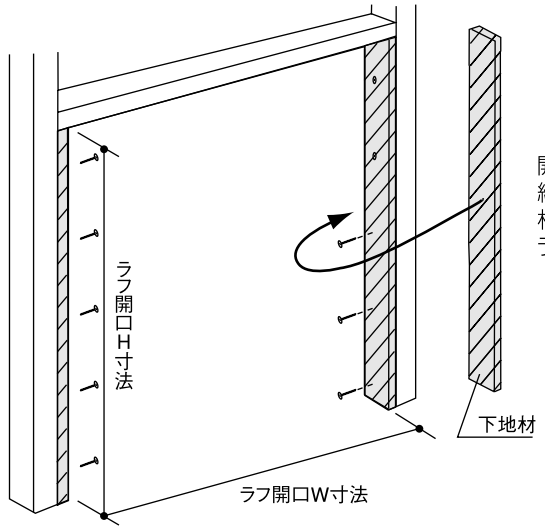


調整枠

引き込み戸専用枠材

3. 施工手順

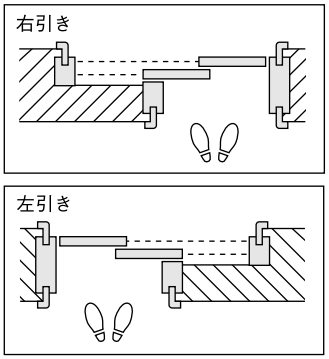
① 取り付け開口部の確認



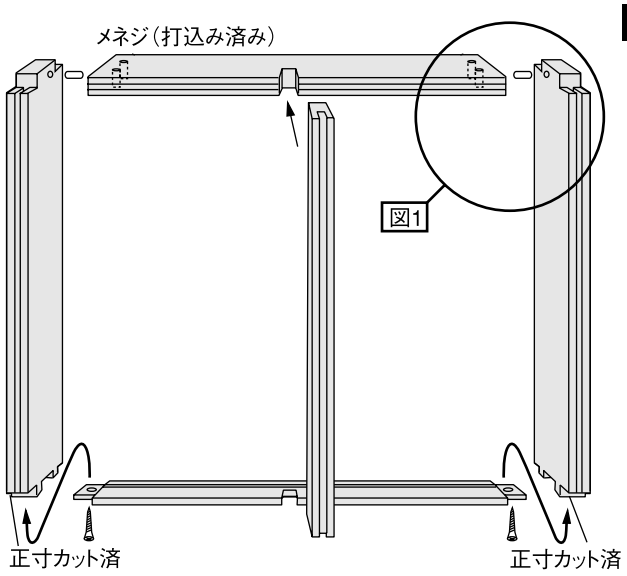
開口部に下地材を取り付け、
納まり図参照の上、
枠外寸法に見合った
ラフ開口を設けてください。

引き手方向の確認

引き戸には、引き手方向によって
左右の区別がありますので、
ご確認のうえ施工してください。



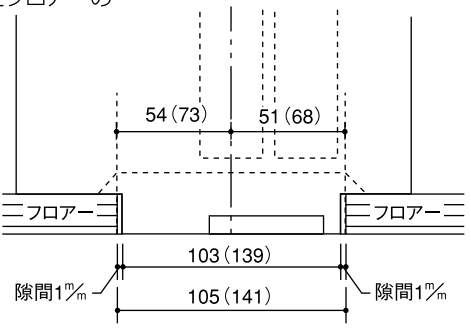
② 枠材の組み立て



注意！ 敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

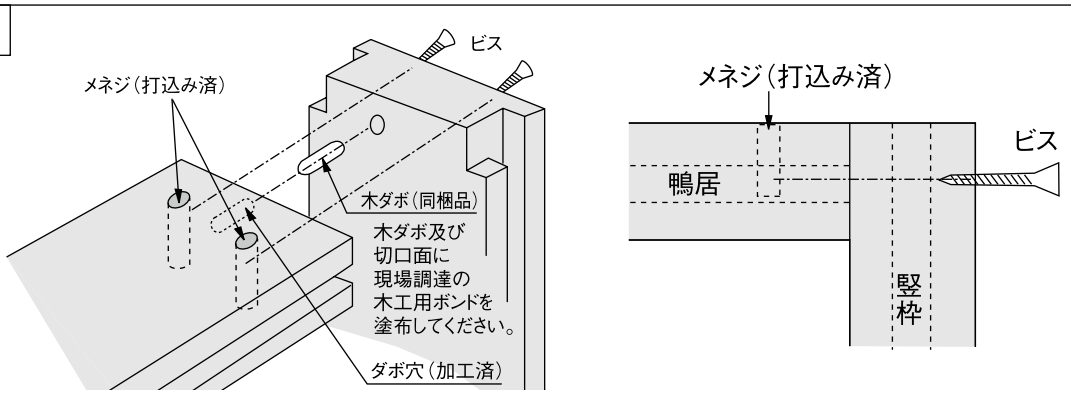
敷居埋め込みの場合 ※図は2枚引き込み戸の場合の納まりです。

竪枠とフロアーの納まり



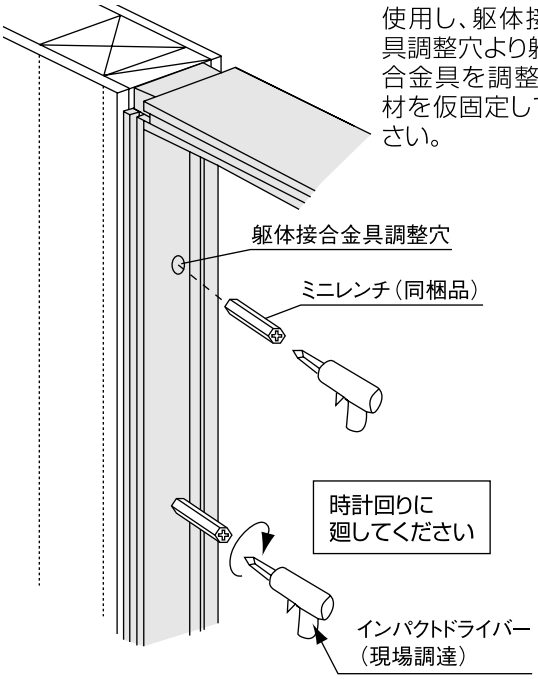
- 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板などを下地にし、高さ調整をしたうえで施工してください。
- （　）内寸法は、3枚引き込み戸の場合です。

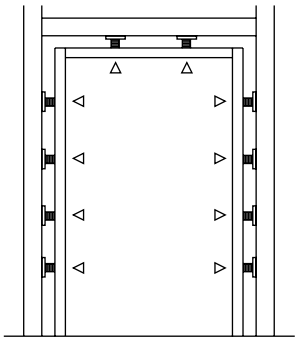
図1



③ 枠材の仮固定

同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具調整穴より躯体接合金具を調整し、枠材を仮固定してください。

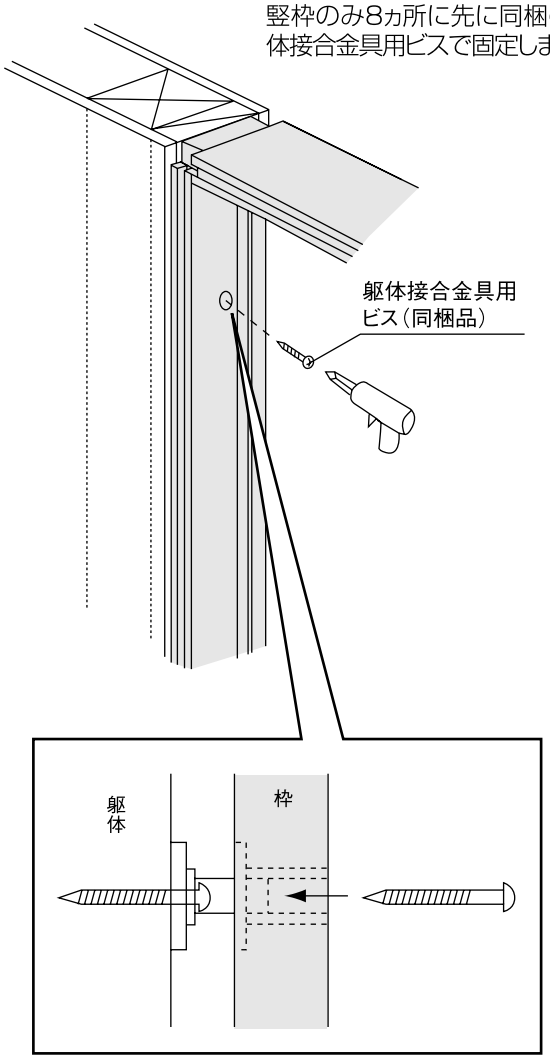




下地材不要

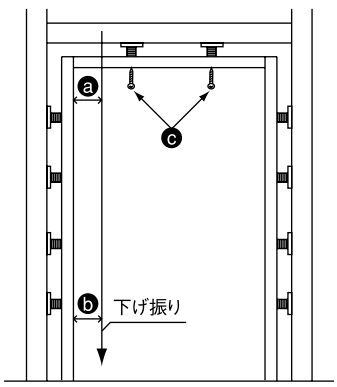
④ 竪枠の本固定

竪枠のみ8ヵ所に先に同梱の躯体接合金具用ビスで固定します。

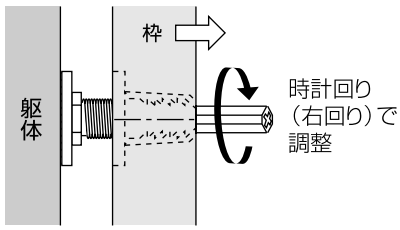


⑤ 建て付け調整ならびに鴨居の本固定

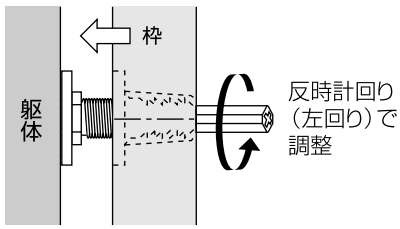
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



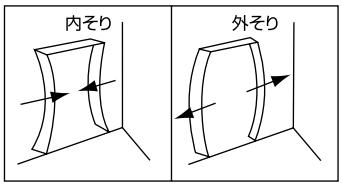
枠を内側に寄せる場合



枠を外側に出す場合



※下記の様なことがないようご注意ください。



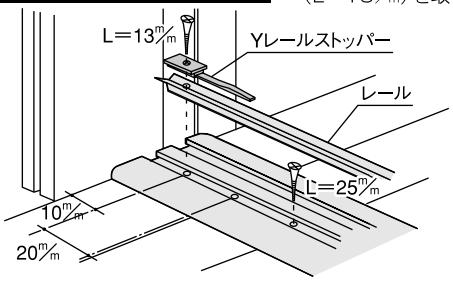
調整枠

引き込み戸専用枠材

⑥ 敷居の固定とレールの取り付け

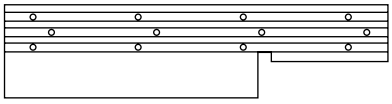
敷居とレールの固定

●レールは両端にある下穴から同梱のビス（L＝13㎜）を取り付けます。

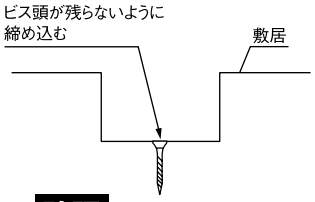


※レール固定ビス（L＝13㎜）が端から10㎜にきますので、敷居固定ビス（L＝25㎜）は、20㎜以上逃がして取り付けてください。
※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

●敷居は接着剤・ビス併用で下地材に固定します。ビスは敷居基材に割れが生じないよう、ちどりに打ってください。



※3本引き込みの場合。

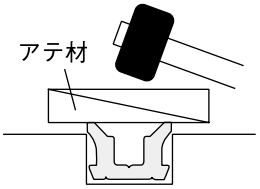


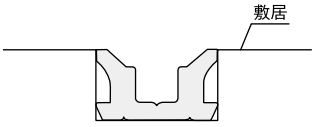
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

Yレール取り付け時の注意

ハンマー等をご使用の場合はあて木をしてください。





※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

お願い

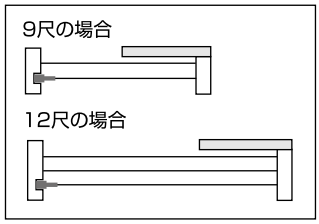
敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

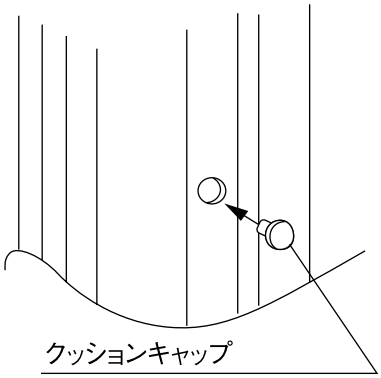
Yレールストッパーの取り付け

Yレールストッパーは必ず引き手側に取り付けてください。

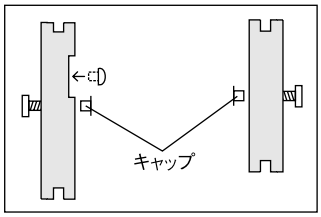


ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。

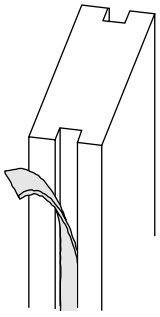
⑦ モヘア・キャップの取り付け



クッションキャップを取り付けます。

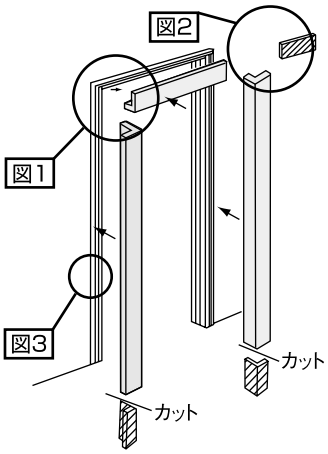


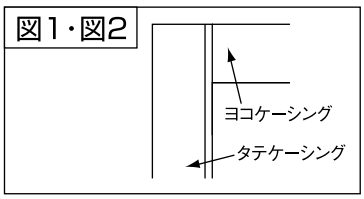
鴨居と竪枠の躯体接合金具調整穴にキャップを取り付けます。

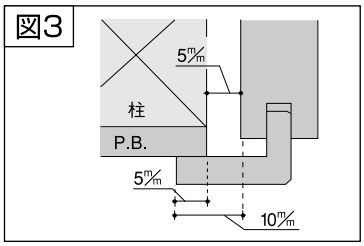


施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

⑧ ケーシングの取り付け







施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

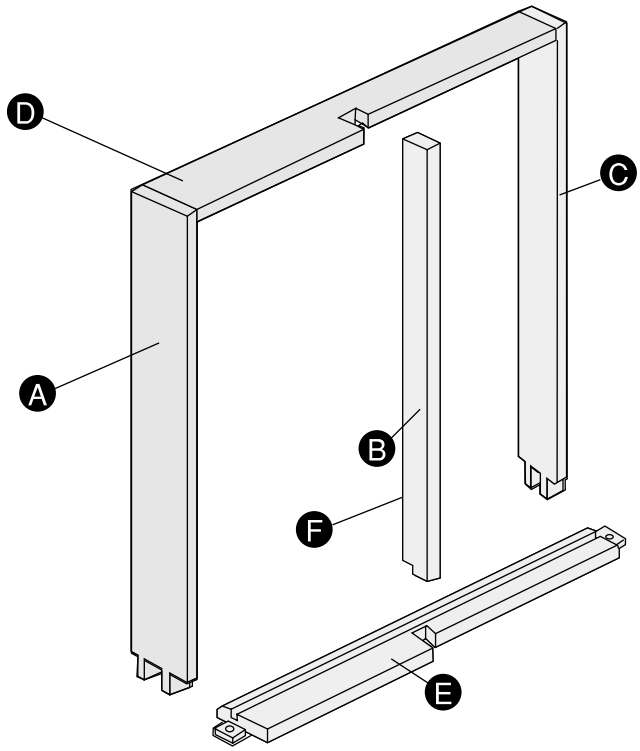
引き込み戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

引き込み戸



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立て）	1本	正寸カット済
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済
	敷居レール（長）	1本	
	敷居レール（短）	1(2)本	（　）内は3枚用
Ⓕ	モヘア	1本	
	組み立て専用ビス	6本	ビスセット
	敷居ベース用ビス	14本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	11本	ビスセット
	クッションキャップ	4個	ビスセット
	木ダボ	2本	ビスセット
	キャップ	4個	ビスセット
	ミニレンチ	1本	ビスセット
	レール用ビス	6本	
	Yレールストッパー	1個	
	施工説明書	1部	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	敷居	1本	正寸カット済

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

固定枠

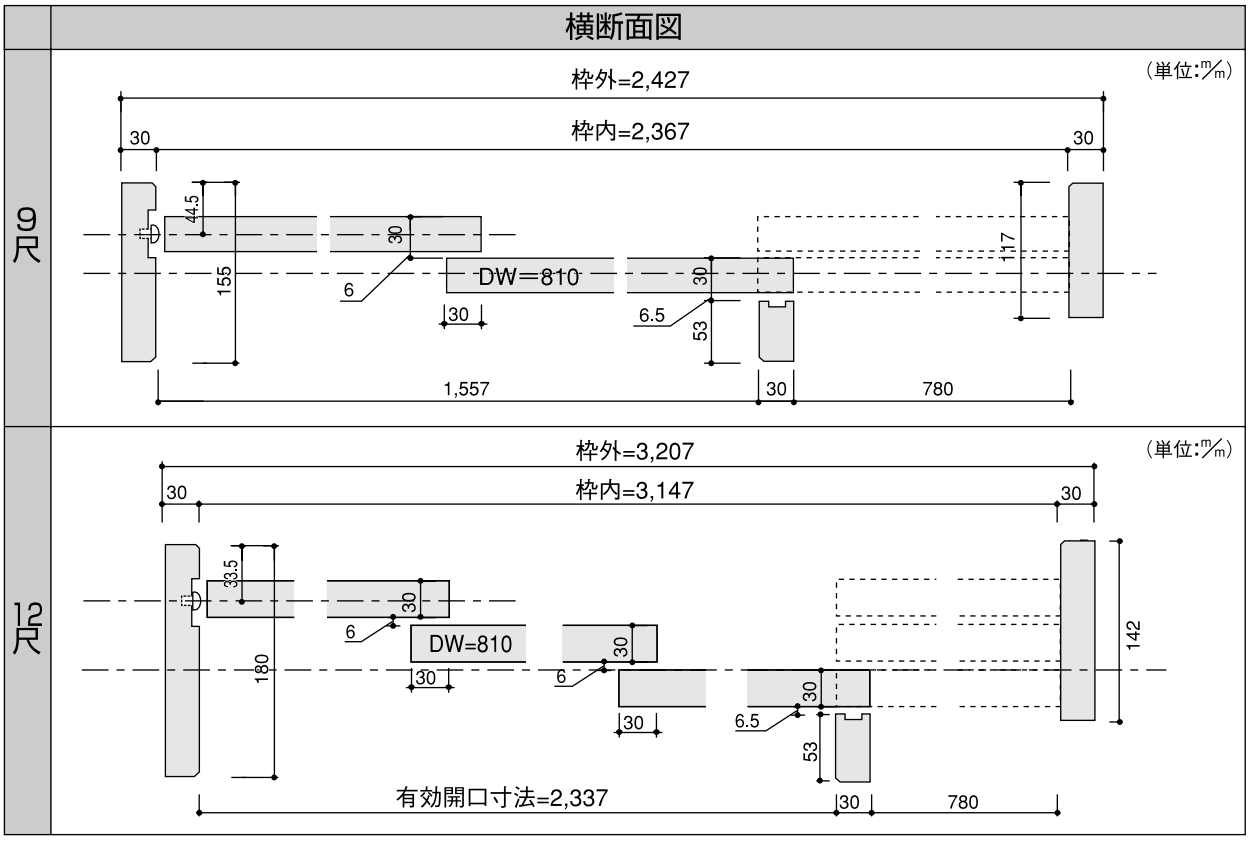
引き込み戸専用枠材

2. 納まり図

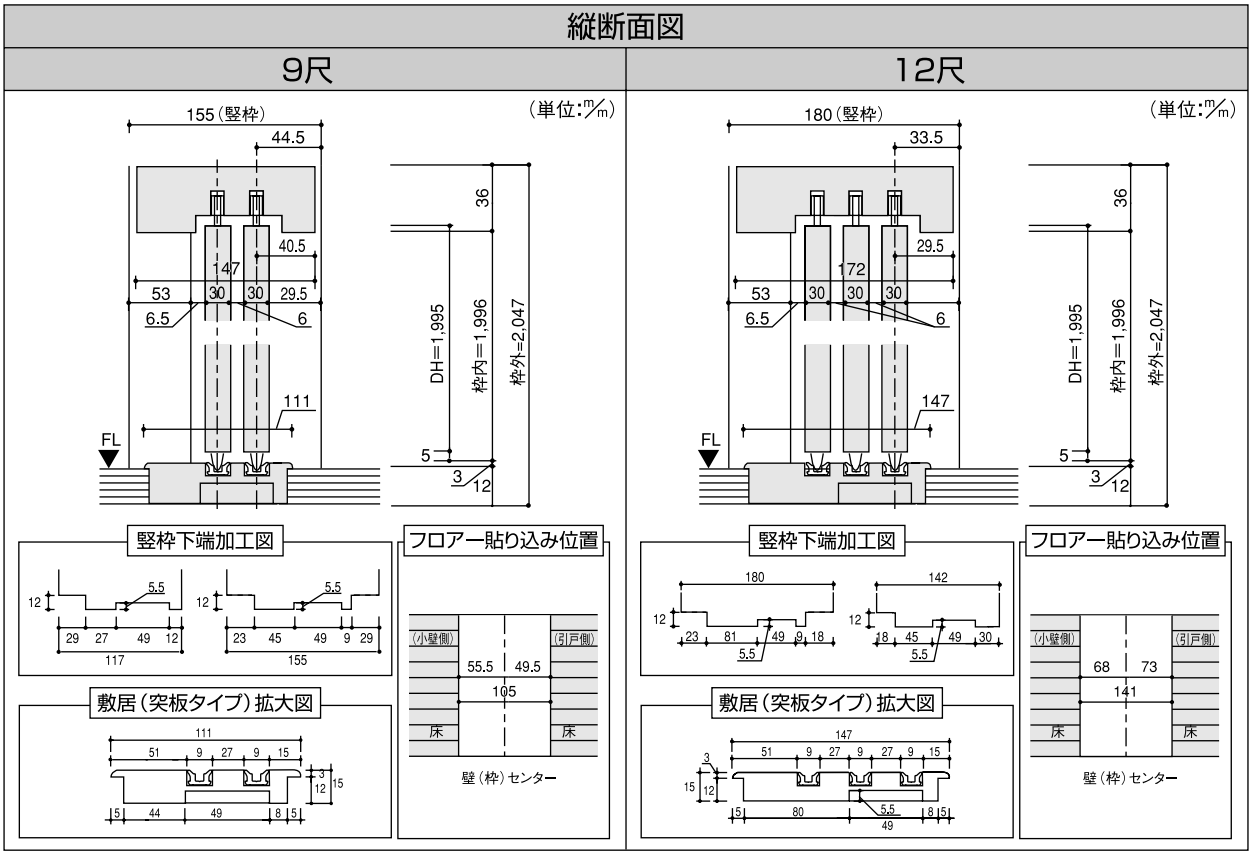
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

（単位：㎜）

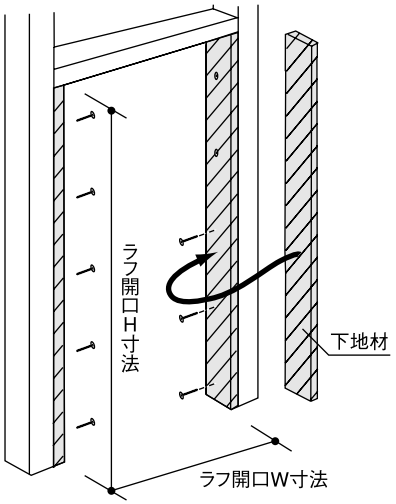


縦断面図



3. 施工手順

取り付け開口部の確認

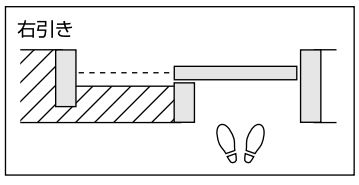


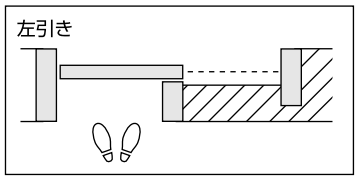
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。

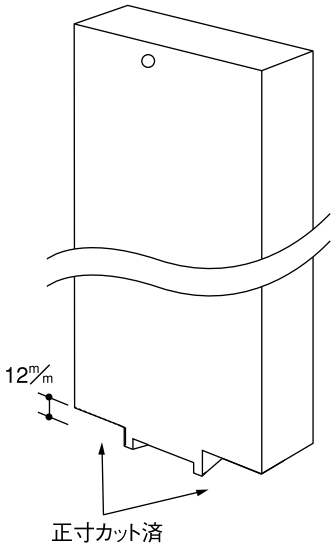
枠材の組み立て（前準備）

引き手方向の確認

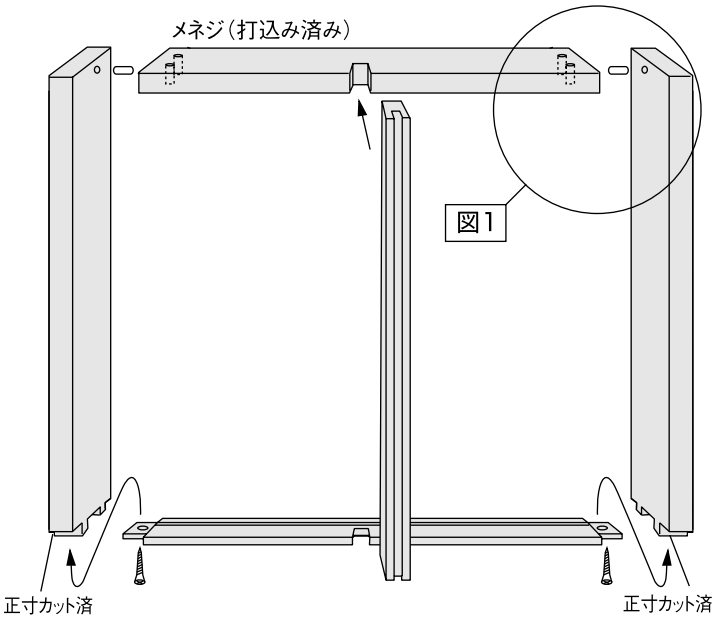
片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。







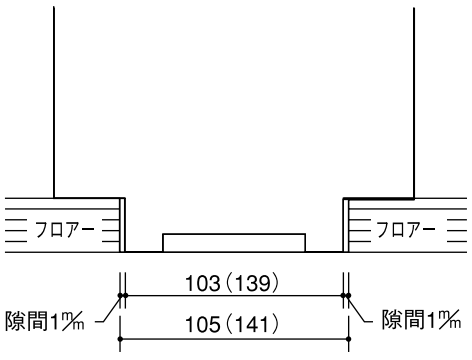
枠材の組み立て



ご注意 敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

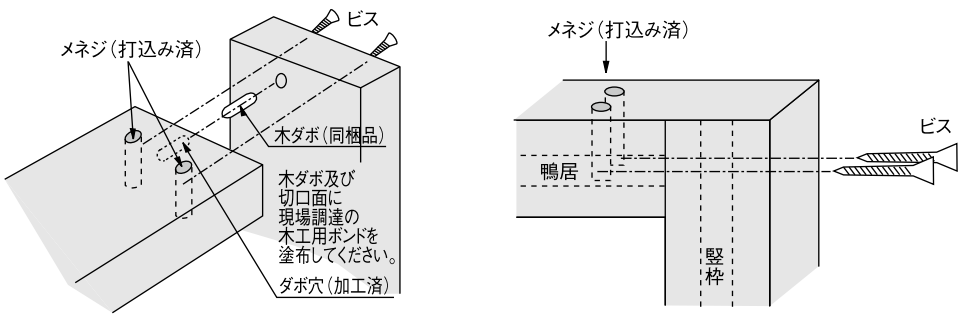
敷居埋め込みの場合

竪枠とフロアーの納まり



- 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。
- （　）寸法は、3枚引き込み戸の場合です。

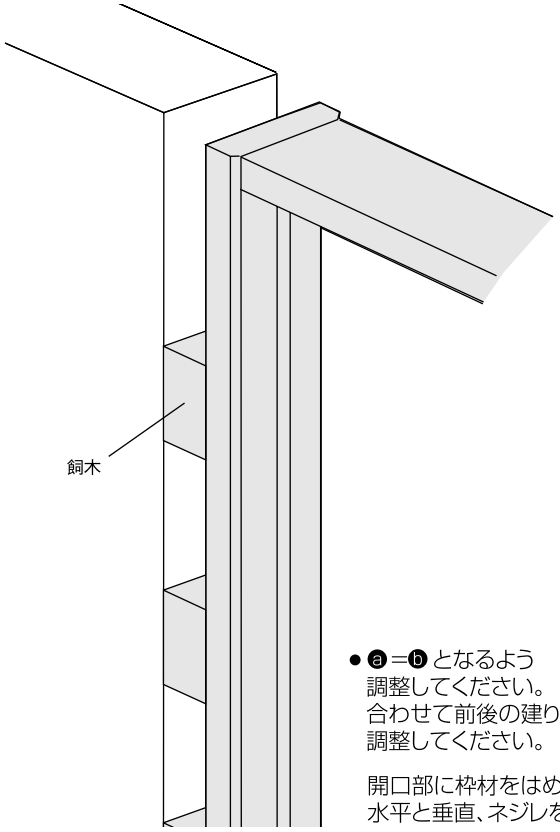
図1

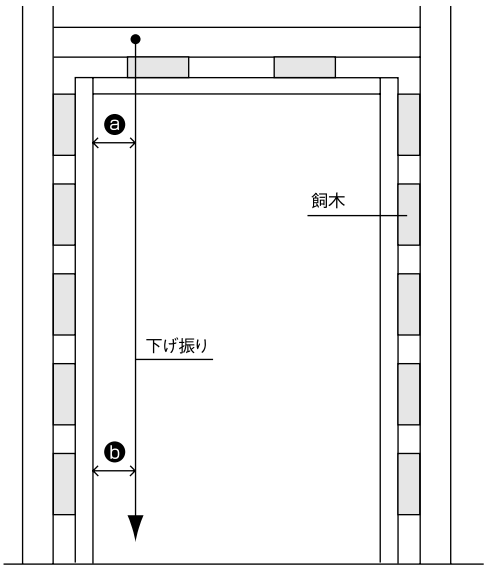


固定枠

引き込み戸専用枠材

枠材の仮固定と建て付け調整



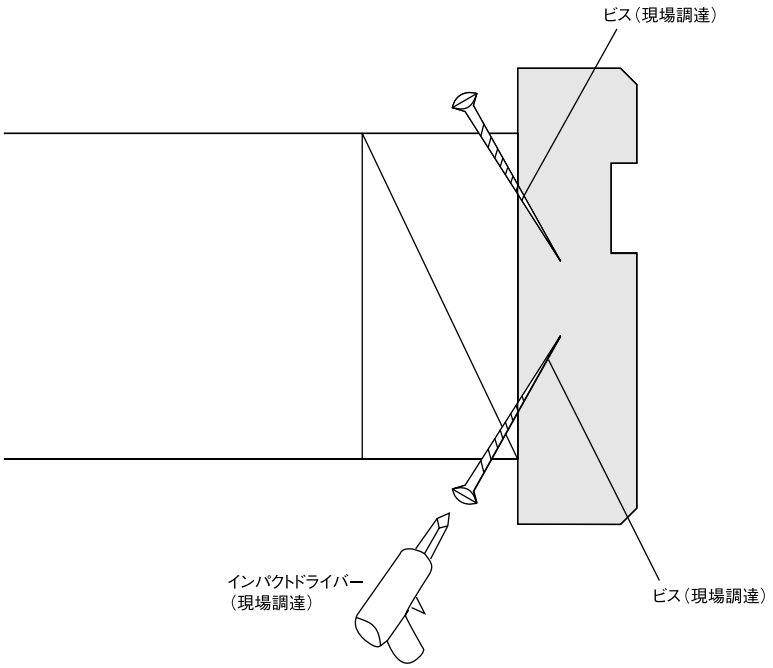


- ⓐ＝ⓑとなるよう
  調整してください。
  合わせて前後の建りも
  調整してください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木で
水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材の本固定

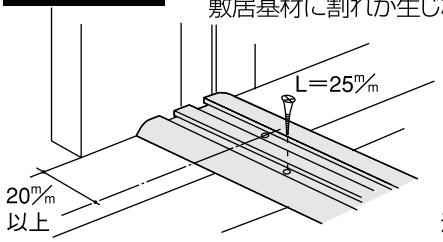
枠材を躯体側から固定します。

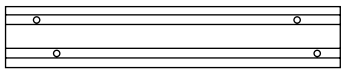


敷居の取り付け

敷居の固定

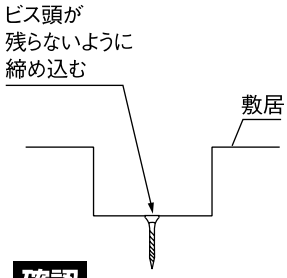
● 敷居は接着剤・ビス併用で下地材に固定します。ビスは敷居基材に割れが生じないよう、ちどりに打ってください。





溝1本につき2ヶ所以上で固定します。

※レール固定ビスが端から10㎜にきますので、20㎜以上逃がして取り付けてください。

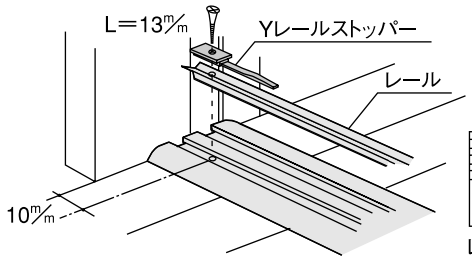


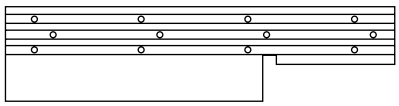
確認

敷居を固定するビスは、
ビス頭が残らないように
確実に締め込んでください。

レールの取り付け

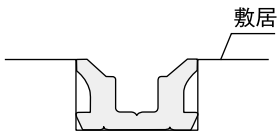
● レールの両端にある下穴から同梱のビス（L＝13㎜）を取り付けます。





レールの両端を固定します。

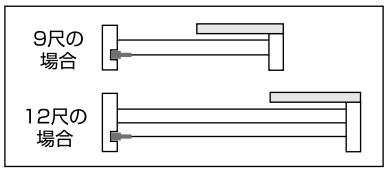
※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。



※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

Yレールストッパーの取り付け

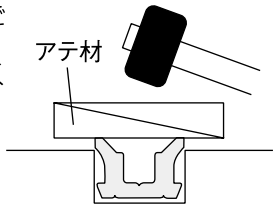
Yレールストッパーは必ず引き手側に取り付けてください。



ビスはレールのビス穴にあわせて埋め込んでください。

Yレール取り付け時の注意

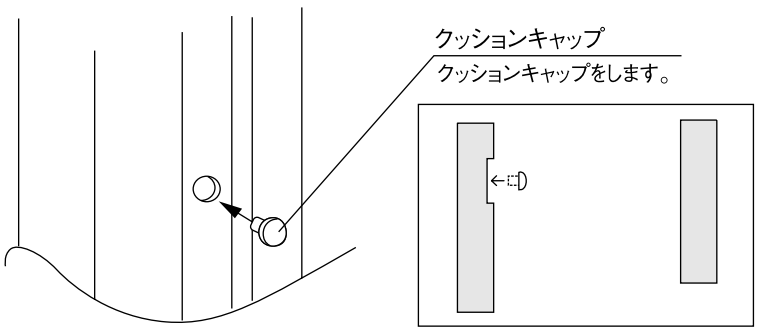
ハンマー等をご使用の場合はあて木をしてください。

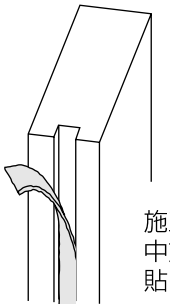


⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

キャップの取り付け





施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

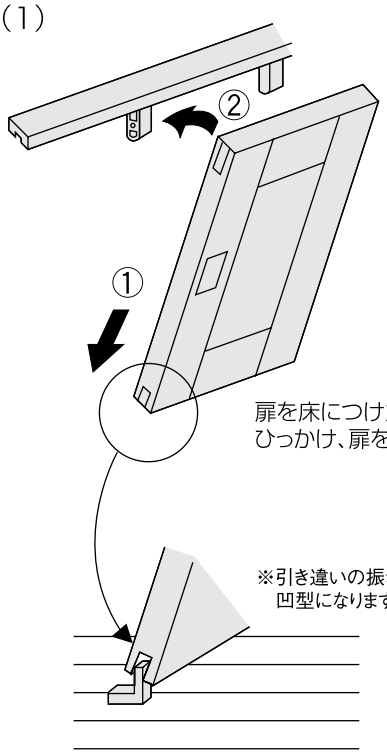
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

上吊り引き戸

施工手順

引き戸の取り付け

（1）

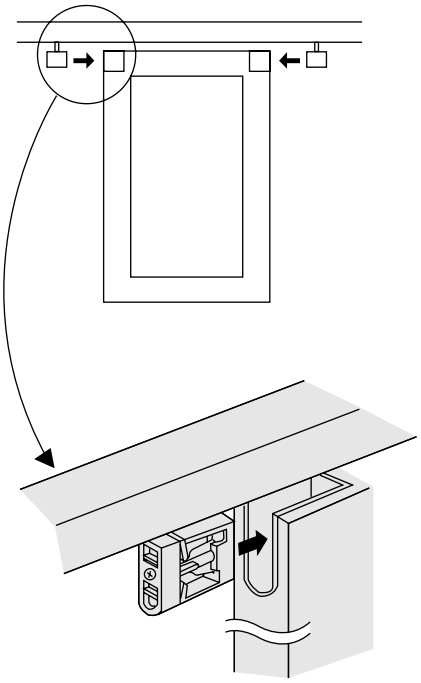


扉を床につけた振れ止め金具にひっかけ、扉をおこします。

※引き違いの振れ止め金具は凹型になります。

振れ止め金具

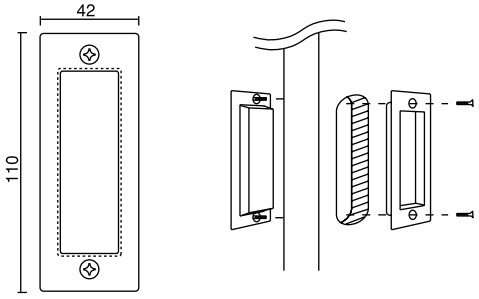
（2）



吊り車をスライドさせ、固定カップにカチッと音がするまで差し込んでください。

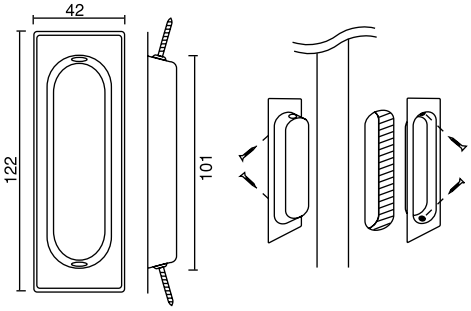
引き手の取り付け

〈角タイプ引き手の場合〉



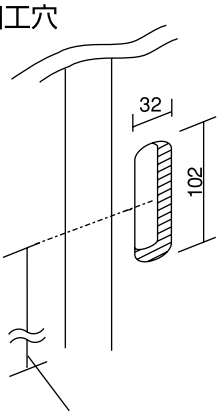
1セットを同梱のビスで水平にとめます。

〈Rタイプ引き手の場合〉



片側ずつ同梱のビスで斜めにとめます。
表・裏ともにビスでとめます。

引き手加工穴



引き手加工穴センター
引き戸下端より957.5㎜

お願い

電動ドライバーによるビス止めは、引き手を破損するおそれがありますのでご遠慮ください。

錠の取り付け

〈表示錠・間仕切り錠・鍵付き錠の場合のみ〉

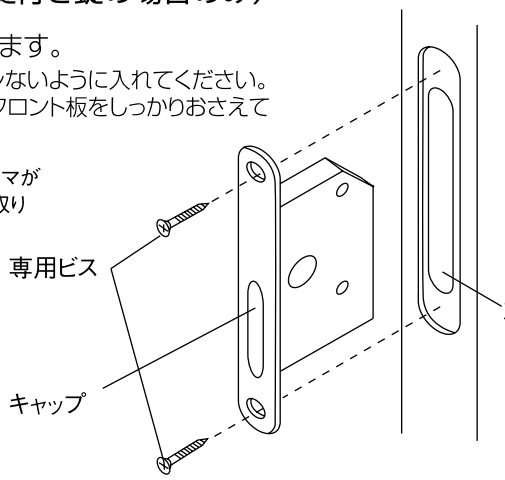
①カマ錠の取り付けをします。

フロント板は、加工穴にズレないように入れてください。
ビスをしめつける際には、フロント板をしっかりおさえて行ってください。

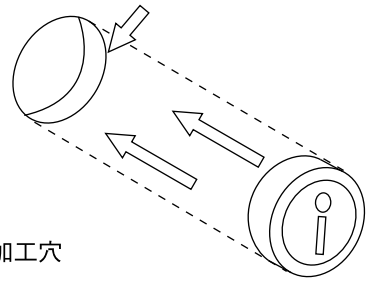
※カマ錠の取付時は、必ずカマがケース内に入った状態で取り付けてください。

お願い

ビス打ち込みの際は、割れ防止のため、下穴を空けてください。

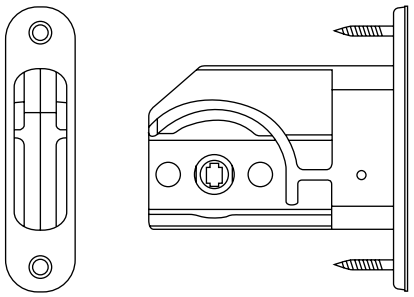


※青が表示された状態で取り付けてください。

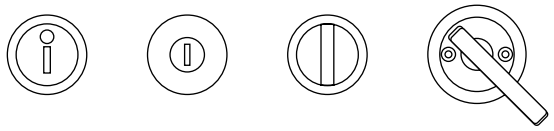


※サムターンが回転するので干渉しないように、ビスをしっかり締めてください。

②錠を錠加工穴にとりつけます。



錠の向きは下図の表示で取り付けてください。

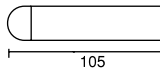


ビスの取り付けの留意点

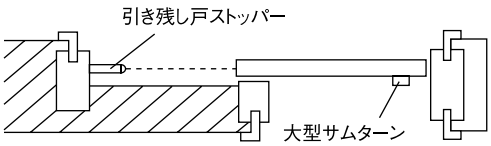
ビスは同梱のビスを使用して取り付けてください。ビスで金具の固定を行う際は過大なトルクを発生させる工具は極力使用しないでください。強いトルクを発生させるインパクトドライバーを安易に用いると、締め過ぎによるビスの空転や部材に割れが生じ、適切な固定ができず、商品に悪影響を及ぼす原因となります。

大型サムターン表示錠ご使用時の注意

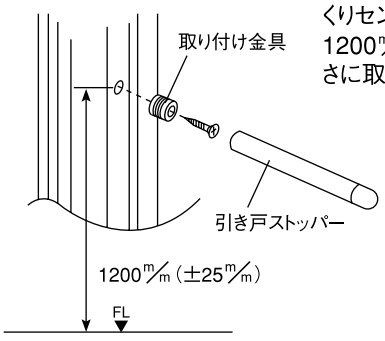
大型サムターンが中方立て側にくる時、必ず別売のストッパーを使い、引き残しをつくってください。
ただし、有効開口は102㎜狭くなります。



	品番	設計価格／個
ゴールド	ZY1636	¥2100（¥2000）
シルバー	ZY1637	¥2100（¥2000）



取り付け位置

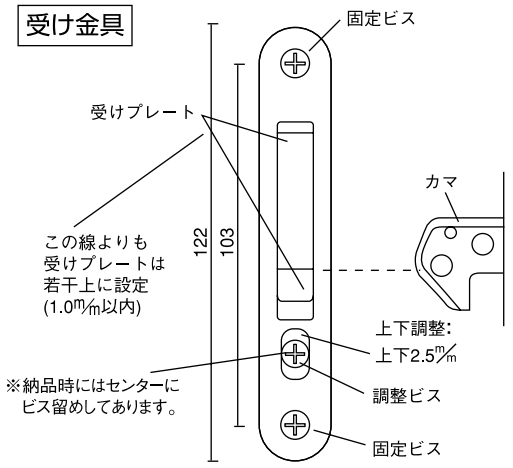


※小壁側たて枠の防寒じゃくりセンターに床から1200㎜（±25㎜）の高さに取り付けてください。

上吊り引き戸

受け金具（枠側）の上下調整

引き戸の上下調整を行った場合は、錠と受け金具の上下の位置関係にズレが生じます。
引き戸のロックがしっかりと行われるように下記の要領で調整してください。



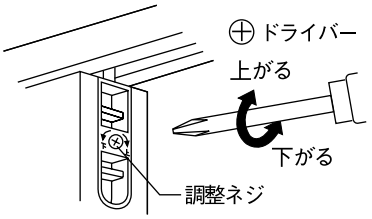
1.受けプレートの調整ビスを受けプレートが動く程度にゆるめます。
2.カマ錠のカマを出した状態にし、上図のような位置関係になるように調整します。
調整は、基準ラインよりも若干上に設定してください。
3.調整が終わりましたら調整ビスを締めて確実に固定してください。

お願い

引き戸の上下調整の両方またはどちらかの調整を行われましたら必ず受け金具の調整を行ってください。引き戸が閉まらなくなったり、金具を破損するおそれがあります。

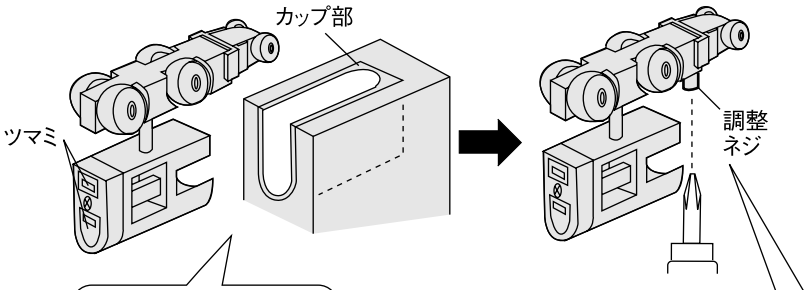
引き戸の調整方法

1.吊り車の上下調整



扉と鴨居に隙間が生じたときは、
上図のように調整ネジで調整します。

2.ブレーキの力調整



引き戸に取り付けた吊り車のツマミ部分をつまんで引き出し、固定カップより分離します。



調整ネジを時計回りに締め込んでいくと、ブレーキ力は弱くなります。（いっぱいまで締め込むとブレーキは効かなくなります。）



調整ネジを時計回りと逆にゆるめていくと、ブレーキ力は強くなります。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

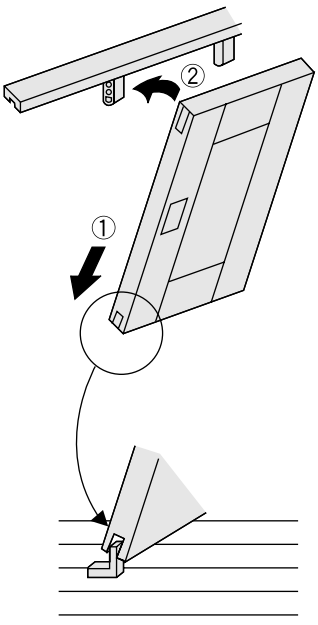
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

上吊り引き戸（ソフトクローズ機構付）

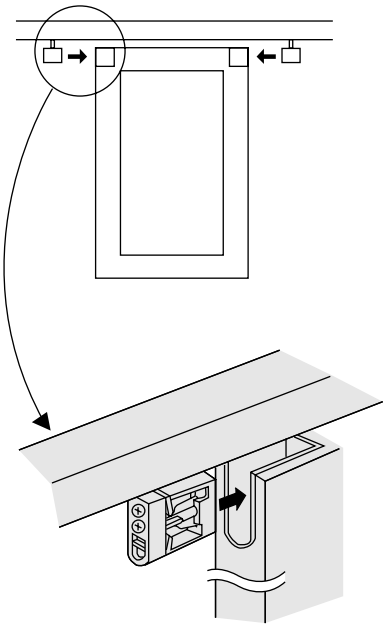
施工手順

引き戸の吊り込み

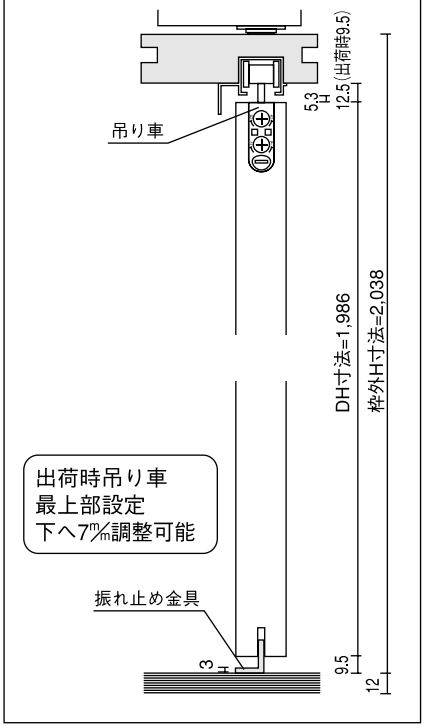
(1)
扉を床につけた振れ止め金具に
ひっかけ、扉をおこします。



(2)
吊り車をスライドさせ、固定カップに
カチッと音がするまで差し込んでください。

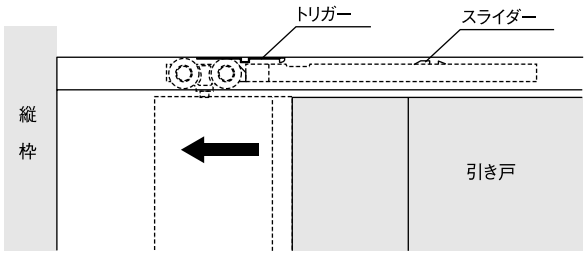


上吊り引き戸納まり図 （単位㎜）

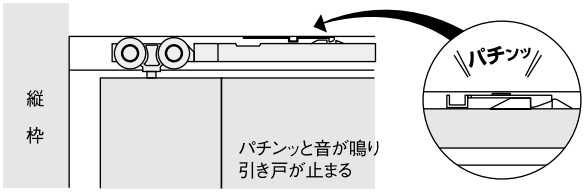


ソフトクローズ機構の動作確認

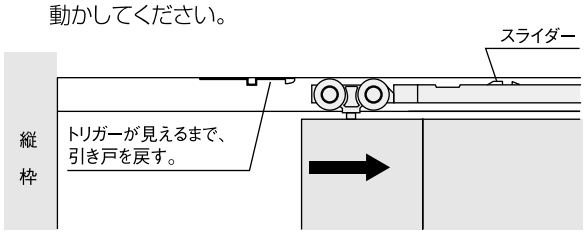
①引き戸を縦枠の方にゆっくりと動かしてください。



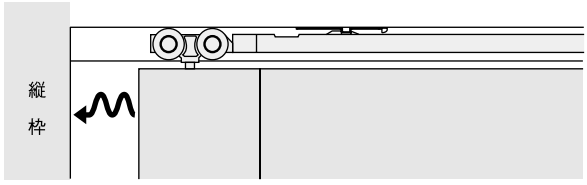
②パチンッと音が鳴ったら引き戸を止めてください。
スライダーの位置が間違っていると、音が鳴りません
（8 12を再度確認してください）が③に進んでください。



③トリガーが下から見えるまで、引き戸を逆方向へ
動かしてください。



④再度、引き戸を縦枠の方にゆっくりと動かしてください。
縦枠までゆっくりと引き込まれるか確認してください。



⑤ ①②③④の動作確認をすべての引き戸に対して
行ってください。

⚠ 注意

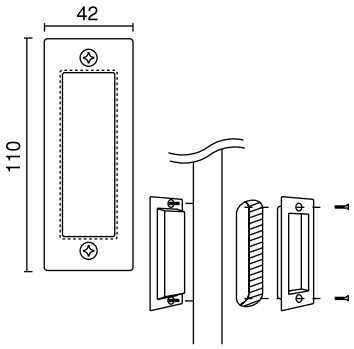
動作に不具合がある場合は、トリガーの取り付け方、取り付け方向などを確認して、再度取り付けをやり直してください。

上吊り引き戸（ソフトクローズ機構付）

引き手の取り付け

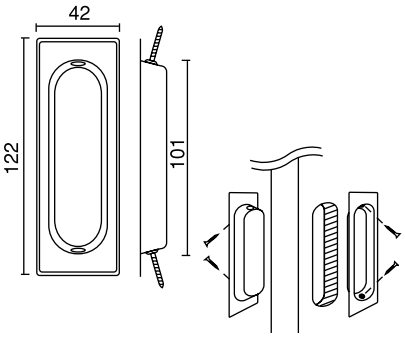
〈角タイプ引き手の場合〉

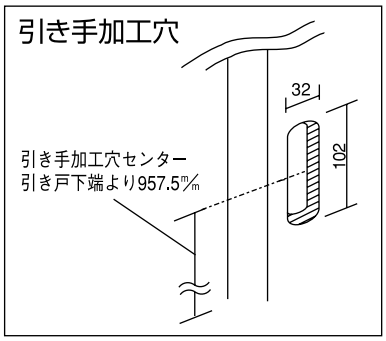
1セットを同梱のビスで水平にとめます。



〈Rタイプ引き手の場合〉

片側ずつ同梱のビスで斜めにとめます。
表・裏ともにビスでとめます。





お願い

電動ドライバーによるビス止めは、引き手を破損するおそれがありますのでご遠慮ください。

錠の取り付け

〈表示錠・間仕切り錠・鍵付き錠の場合のみ〉

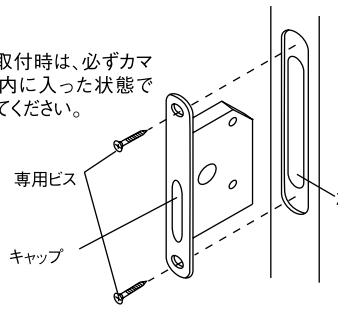
①カマ錠の取り付けをします。

フロント板は、加工穴にズレないように入れてください。ビスをしめつける際には、フロント板をしっかりおさえて行ってください。

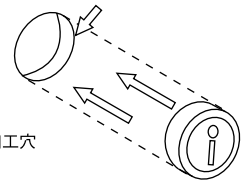
お願い

ビス打ち込みの際は、割れ防止のため、下穴を空けてください。

※カマ錠の取付時は、必ずカマがケース内に入った状態で取り付けてください。

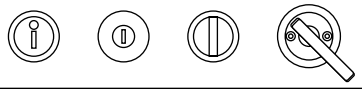


※青が表示された状態で取り付けてください。

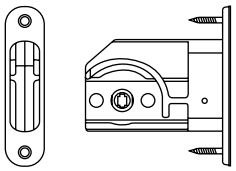


※サムターンが回転するので干渉しないように、ビスをしっかり締めてください。

錠の向きは下図の表示で取り付けてください。



②錠を錠加工穴にとりつけます。

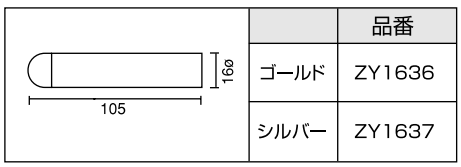


ビスの取り付けの留意点

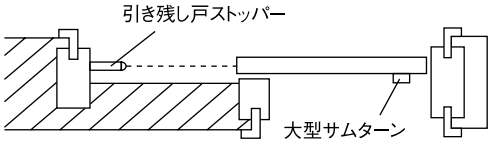
ビスは同梱のビスを使用して取り付けてください。ビスで金具の固定を行う際は過大なトルクを発生させる工具は極力使用しないでください。強いトルクを発生させるインパクトドライバーを安易に用いると、締め過ぎによるビスの空転や部材に割れが生じ、適切な固定できず、商品に悪影響を及ぼす原因となります。

大型サムターン表示錠ご使用時の注意

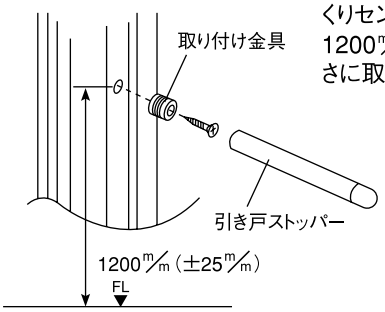
大型サムターンが中方立て側にくる時、必ず別売のストッパーを使い、引き残しをつくってください。
ただし、有効開口は102㎜狭くなります。



	品番
ゴールド	ZY1636
シルバー	ZY1637



取り付け位置

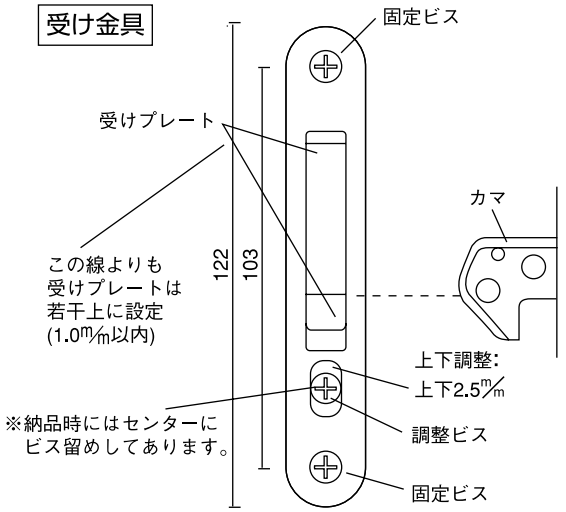


※小壁側たて枠の防寒じゃくりセンターに床から1200㎜（±25㎜）の高さに取り付けてください。

受け金具（枠側）及び引き戸の調整方法

引き戸の上下調整を行った場合は、錠と受け金具の上下の位置関係にズレが生じます。
引き戸のロックがしっかりと行われるように下記の要領で調整してください。

受け金具



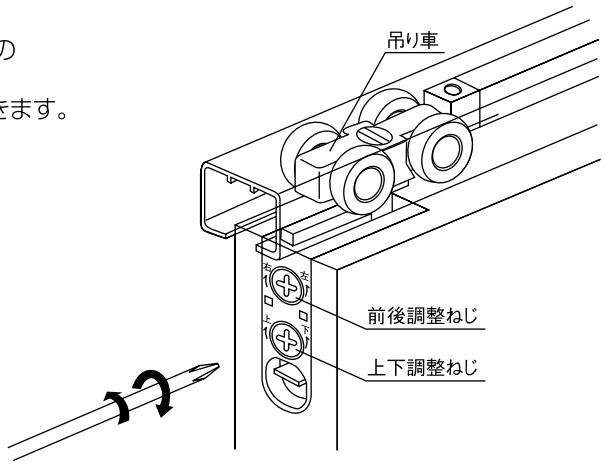
1.受けプレートの調整ビスを受けプレートが
動く程度にゆるめます。
2.カマ錠のカマを出した状態にし、上図のような
位置関係になるように調整します。
調整は、基準ラインよりも若干上に設定してください。
3.調整が終わりましたら調整ビスを締めて
確実に固定してください。

お願い

引き戸の上下調整の両方またはどちらかの調整を行われましたら必ず受け金具の調整を行ってください。引き戸が閉まらなくなったり、金具を破損するおそれがあります。

引き戸の調整方法

戸を吊ったままで、引き戸ホルダー部の
上のねじを回せば戸の前後調整、
下のねじを回せば戸の上下調整ができます。



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

上吊り 調整枠

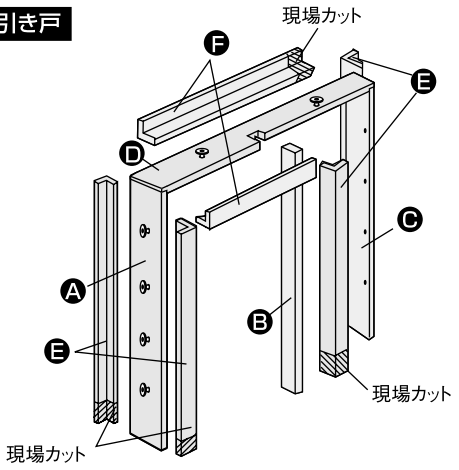
片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

片引き戸



梱包内訳表

枠材本体

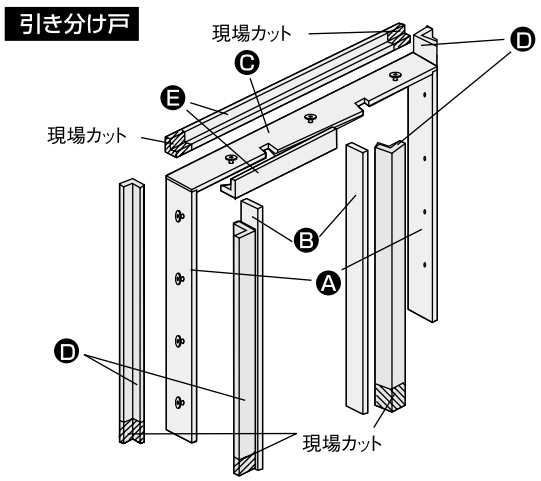
	部材名	数量	備　考
A	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
B	竪枠（中方立）	1本	正寸カット済
C	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
D	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	
	モヘア	1本	
	ブレーキ付吊り車	1個	
	吊り車	1個	
	ブレーキ作動板	1個	
	キャッチャー	1個	金具セット
	振れ止め金具	1個	
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	5本	
	組み立て専用ビス	6本	
	躯体接合金具用ビス	10本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	施工説明書	1部	

ケーシングセット（別売品）

	部材名	数量	備　考
E	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
F	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

全体図

引き分け戸



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
A	竪枠（戸袋側）	2本	正寸カット済
B	竪枠（中方立）	2本	正寸カット済
C	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	
	モヘア	2本	
	吊り車	4個	
	キャッチャー	2個	
	振れ止め金具	2個	
	L型ストッパー	2個	金具セット
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	10本	
	組み立て専用ビス	4本	
	躯体接合金具用ビス	12本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	施工説明書	1部	

ケーシングセット（別売品）

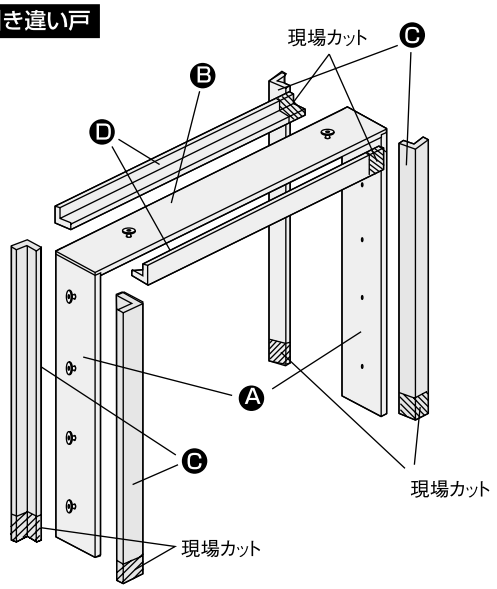
	部材名	数量	備　考
E	竪枠用ケーシング	4本	現場カット、片留加工済
F	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

全体図

引き違い戸



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	
	上レール	1本	
	ブレーキ付吊り車	2個	
	吊り車	2個	
	ブレーキ作動板	2個	
	キャッチャー	2個	金具セット
	振れ止め金具	1個	
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	10本	
	組み立て専用ビス	8本	
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	ビスセット
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	施工説明書	1部	

ケーシングセット

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
Ⓓ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

上吊り 調整枠

片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

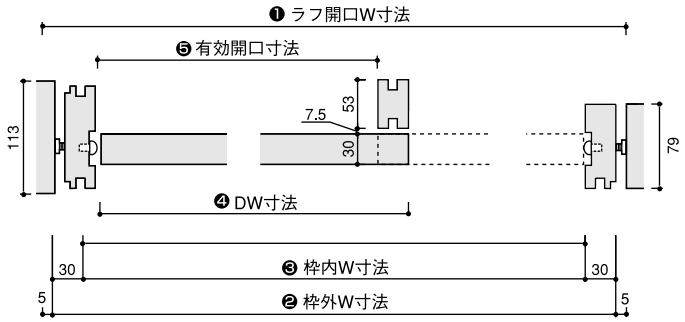
2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

片引き戸

（単位:㎜）

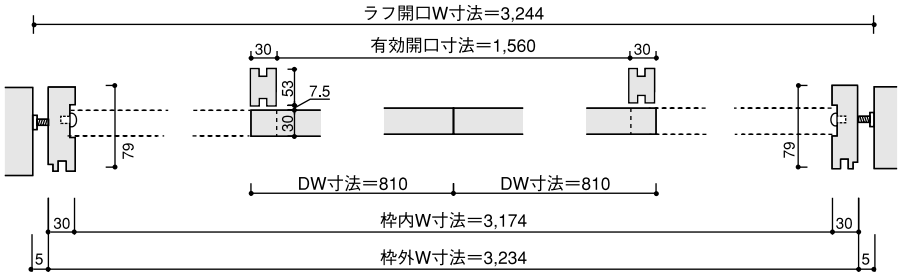


■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	1,824	1,644	1,450
❶ ラフ開口W寸法	1,834	1,654	1,460
❷ 枠外W寸法	1,824	1,644	1,450
❸ 枠内W寸法	1,764	1,584	1,390
❹ DW寸法	900	810	713
❺ 有効開口寸法	867	777	680

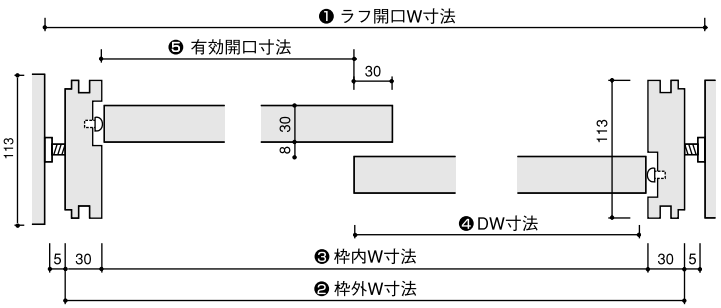
引き分け戸

（単位:㎜）



引き違い戸

（単位:㎜）



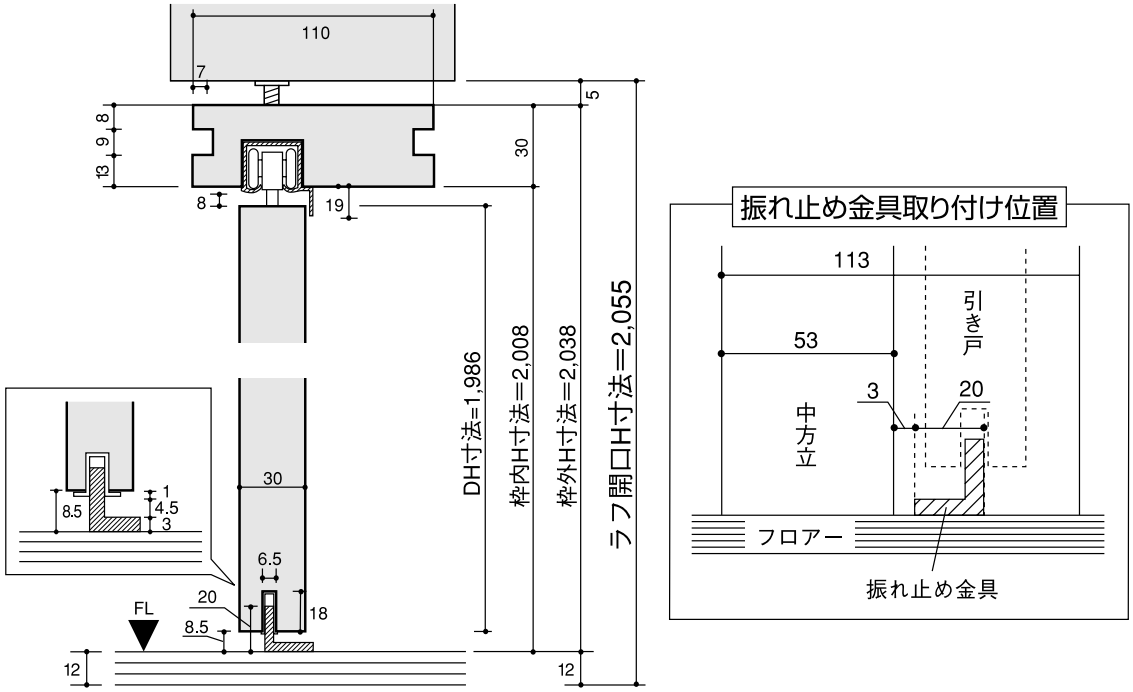
■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	1,824	1,644
❶ ラフ開口W寸法	1,834	1,654
❷ 枠外W寸法	1,824	1,644
❸ 枠内W寸法	1,764	1,584
❹ DW寸法	900	810
❺ 有効開口寸法	864	774

横断面図

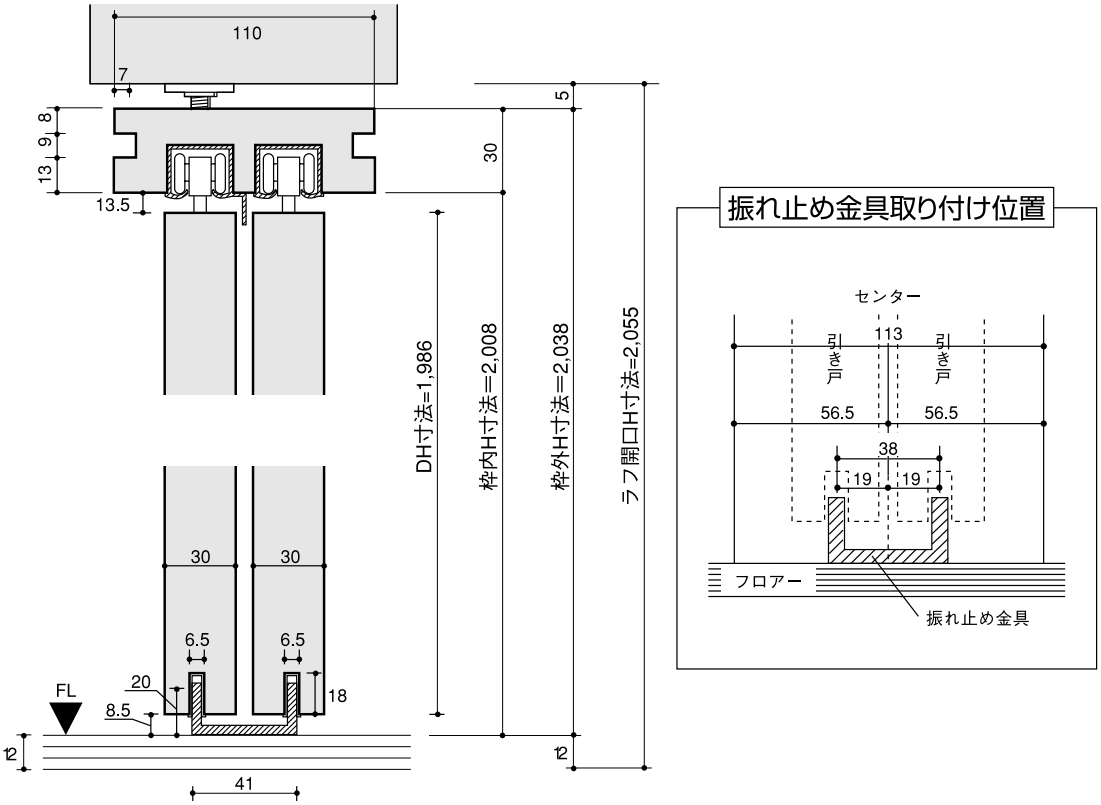
片引き戸・引き分け戸

（単位：㎜）



引き違い戸

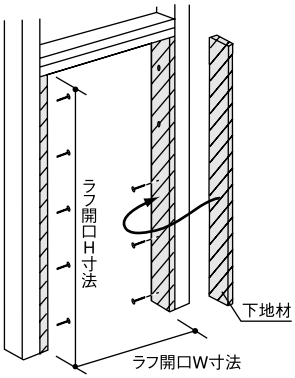
（単位：㎜）

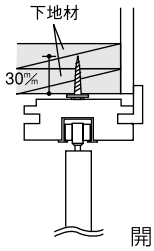


片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

3. 施工手順

取付け開口部の確認





⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

枠材の組み立て

※下図は片引き戸の場合です。

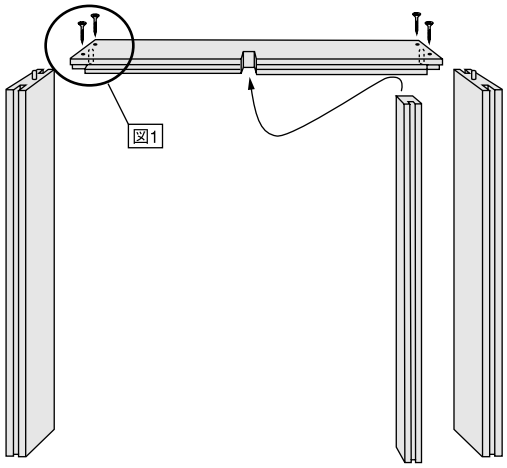
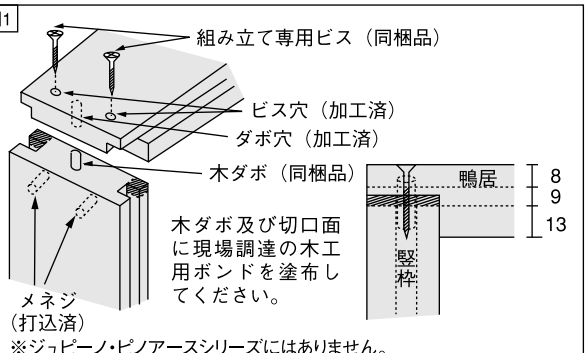


図1



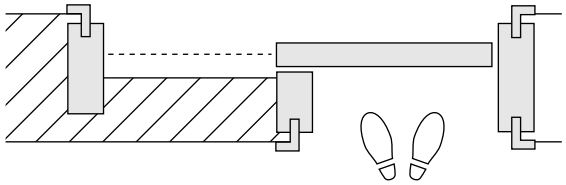
※ジュピーノ・ピノアースシリーズにはありません。

引き手方向の確認

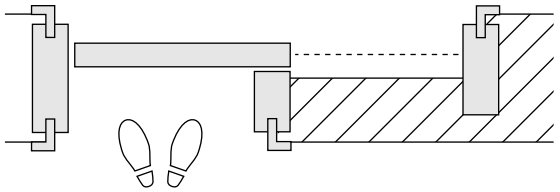
※片引き戸の場合のみ。

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

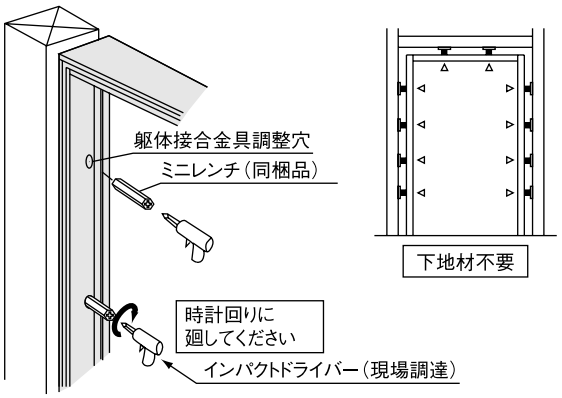
右引き



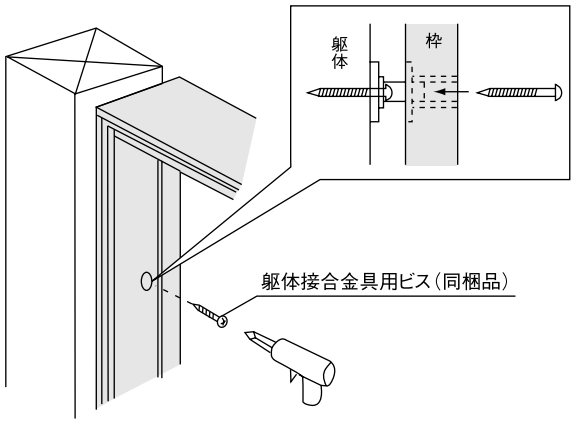
左引き



枠材の仮固定

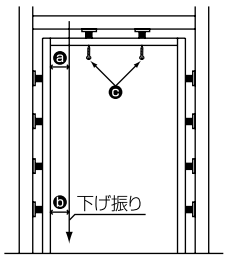


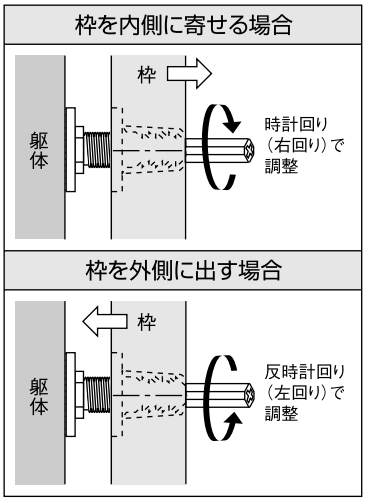
竪枠の本固定



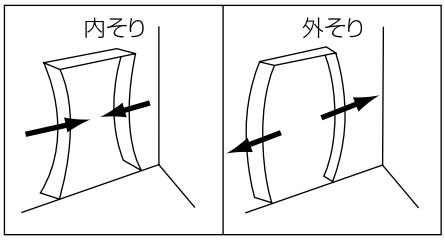
建て付け調整ならびに鴨居の本固定

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

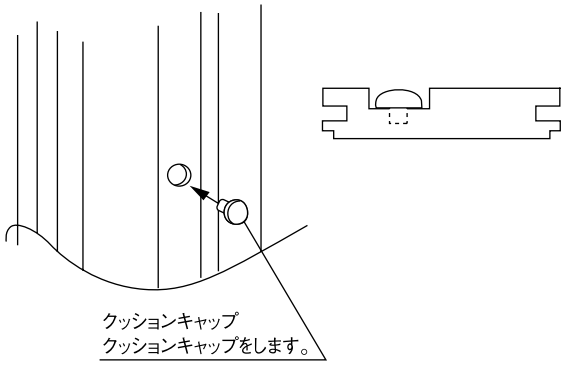


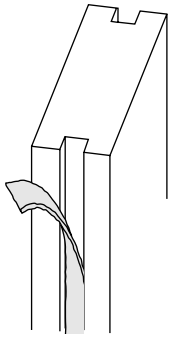


※右記の様なことがないようご注意ください。



キャップの取り付け

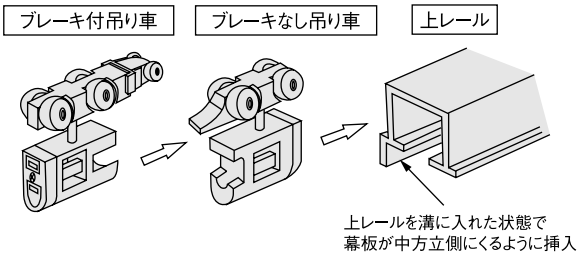


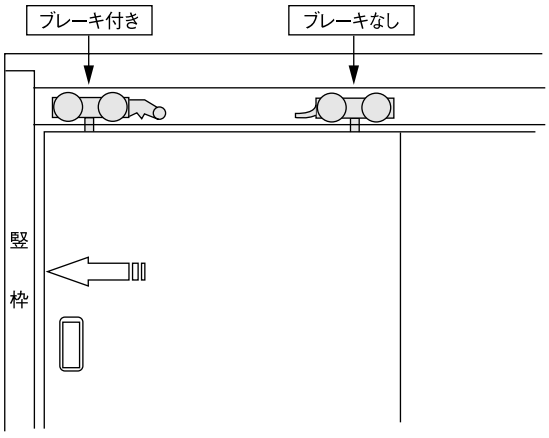


※中方立は片引き戸、引き分け戸の場合のみです。

施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

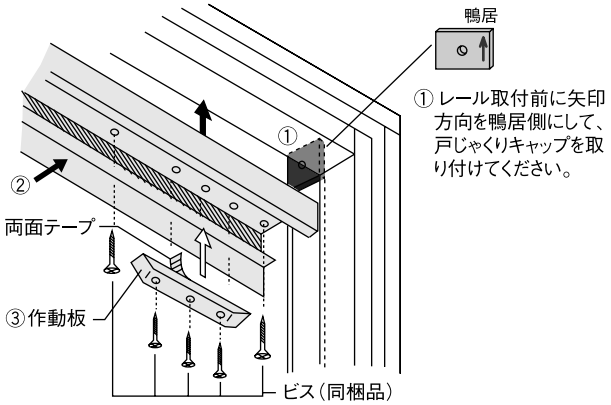
吊り車の挿入





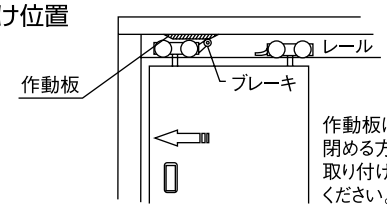
※引き分け戸の吊り車は全てブレーキなしタイプになります。

上レールと作動板の取り付け



※作動板の両面テープをはがして、レール下穴にあわせて仮どめします。
レール取り付けの際にレールのビスどめと同時にビスで固定します。

作動板取り付け位置



※引き分け戸の吊り車は全てブレーキなしタイプになります。

⚠ 注意

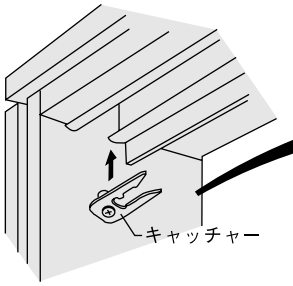
上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。

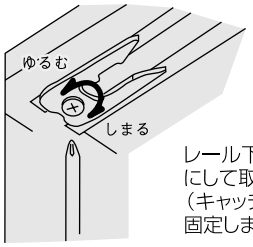
上吊り 調整枠

片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

キャッチャーの取り付け

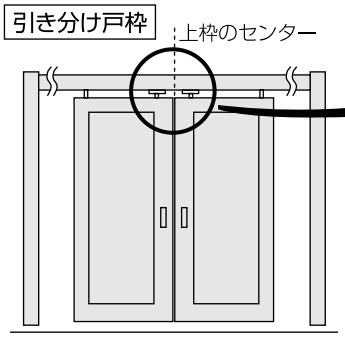
片引き戸枠 引き違い戸枠

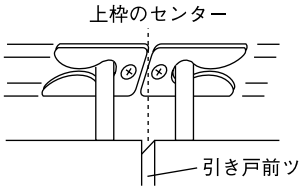




レール下にキャッチャーを取り付けます。竪枠におしつけるようにして取り付けてください。
（キャッチャーはいったんゆるめたうえでしまる方向へまわして固定します。）

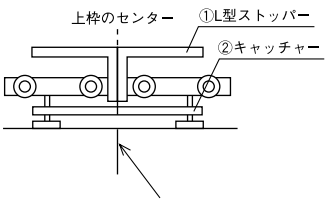
引き分け戸枠





①L型ストッパーを鴨居センターに取り付けます。
②キャッチャーの背中どうしをセンターでくっつけて固定します。
（キャッチャー背中と引き戸前ツラは同じ位置にきます）

L型ストッパーの取り付け

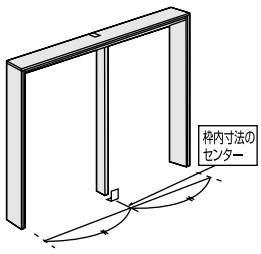


L型ストッパー・キャッチャーと引き戸端はツラ合せになります。

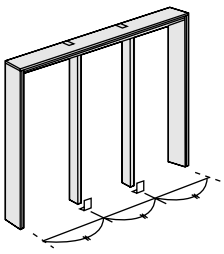
※L型ストッパーを取り付けるビスはアルミ貫通型です。

振れ止め金具の取り付け

片引き戸枠

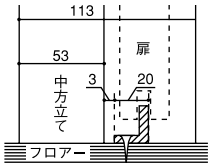


引き分け戸枠

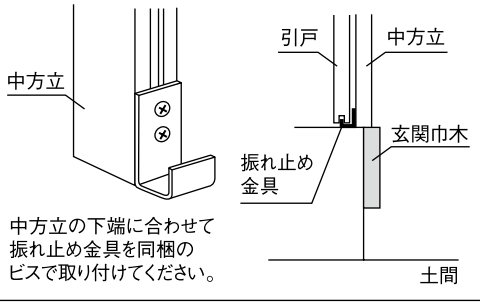


振れ止め金具取り付け位置

専用ビスでフロアーに固定してください。

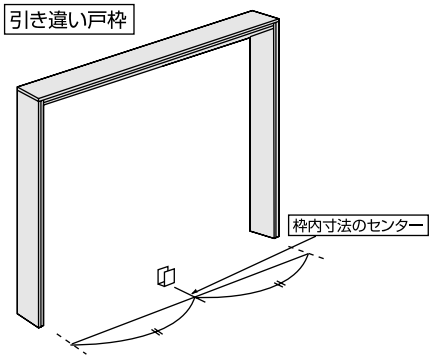


上吊り中方立取り付け用振れ止め金具の場合



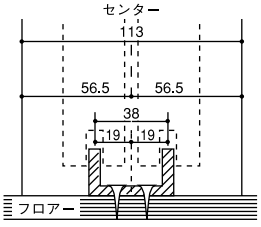
中方立の下端に合わせて振れ止め金具を同梱のビスで取り付けてください。

引き違い戸枠



振れ止め金具取り付け位置

専用ビスでフロアーに固定してください。



ケーシングの取り付け

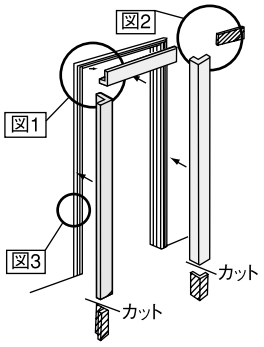


図1・図2

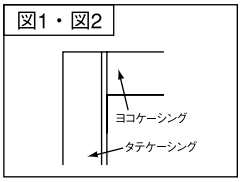
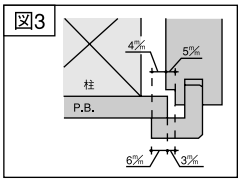


図3



施工終了後

養生 当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

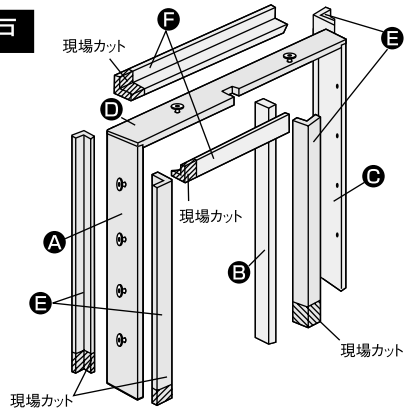
片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

片引き戸



梱包内訳表

枠材本体

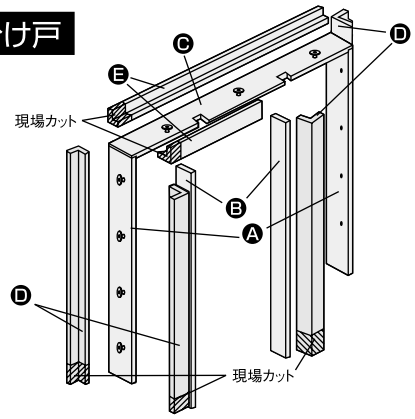
	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立）	1本	正寸カット済
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	ソフトクローズ機構用
	モヘア	1本	
	ソフトクローズ機構付吊り車	1個	金具セット
	吊り車	1個	
	トリガー	1個	
	振れ止め金具	1個	
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	5本	
	組み立て専用ビス	6本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	10本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	施工説明書	1部	

ケーシングセット（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
Ⓕ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

全体図

引き分け戸



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（戸袋側）	2本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立）	2本	正寸カット済
Ⓒ	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	ソフトクローズ機構用
	モヘア	2本	
	ソフトクローズ機構付吊り車	2個	金具セット
	吊り車	2個	
	トリガー	2個	
	振れ止め金具	2個	
	関止めストッパー	1個	
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	10本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	施工説明書	1部	

ケーシングセット（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット、片留加工済
Ⓕ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

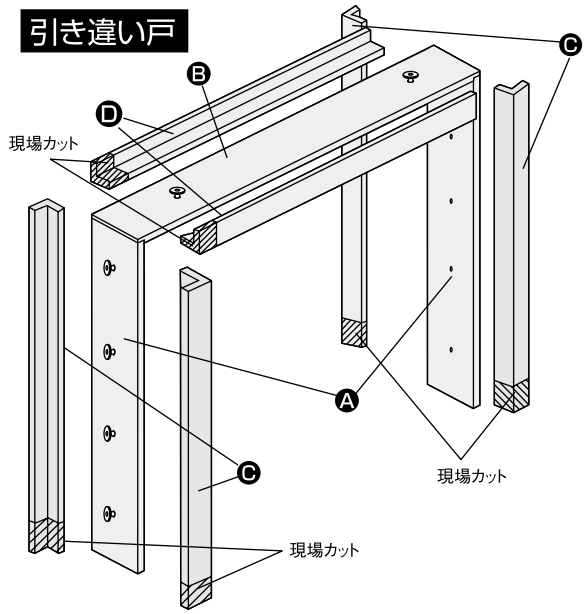
上吊り 調整枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

引き違い戸



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	ソフトクローズ機構用
	上レール	1本	ソフトクローズ機構用
	ソフトクローズ機構付吊り車	2個	金具セット
	吊り車	2個	
	トリガー	2個	
	振れ止め金具	2個	
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	10本	
	組み立て専用ビス	8本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	11本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	ミニレンチ	1本	
	施工説明書	1部	

ケーシングセット

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
Ⓓ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

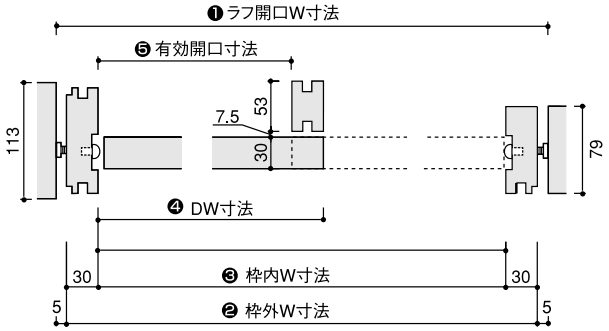
2. 納まり図

片引き戸 引き分け戸 枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

片引き戸

（単位：㎜）

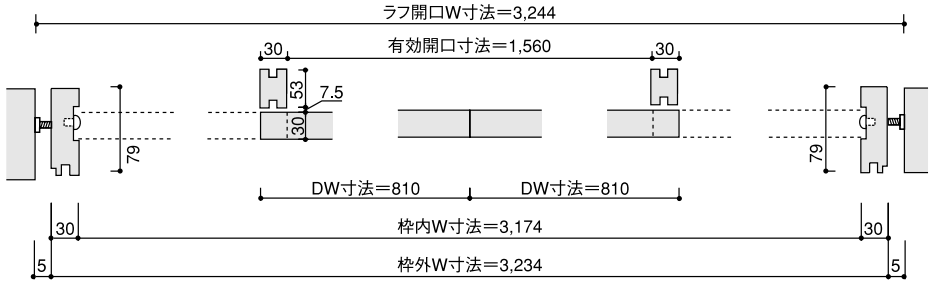


■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶ ラフ開口W寸法	1,834	1,654	1,460	1,334	1,200
❷ 枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❸ 枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❹ DW寸法	900	810	713	650	583
❺ 有効開口寸法	867	777	680	617	550

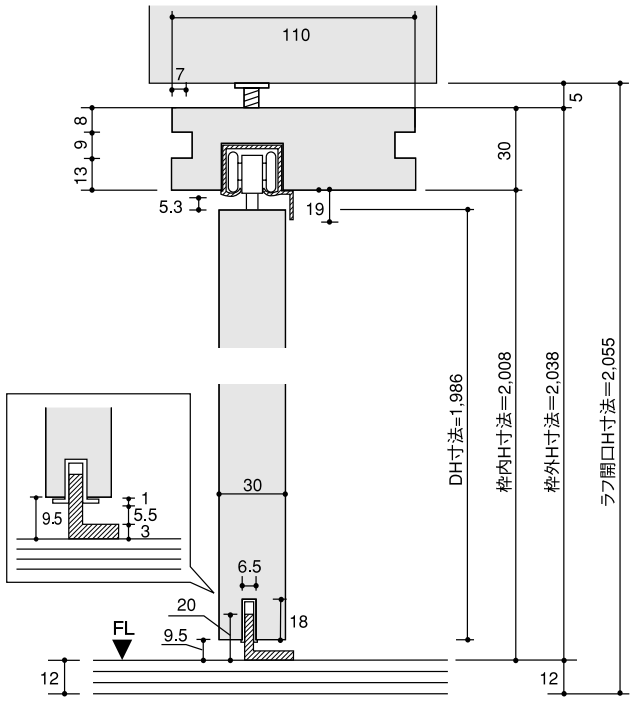
引き分け戸

（単位：㎜）

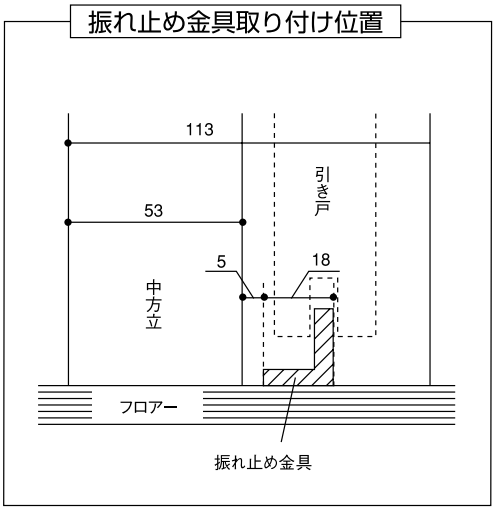


縦断面図

（単位：㎜）



振れ止め金具取り付け位置



⚠ 注意

出荷時吊り車最上部設定、下へ7㎜調整可能。

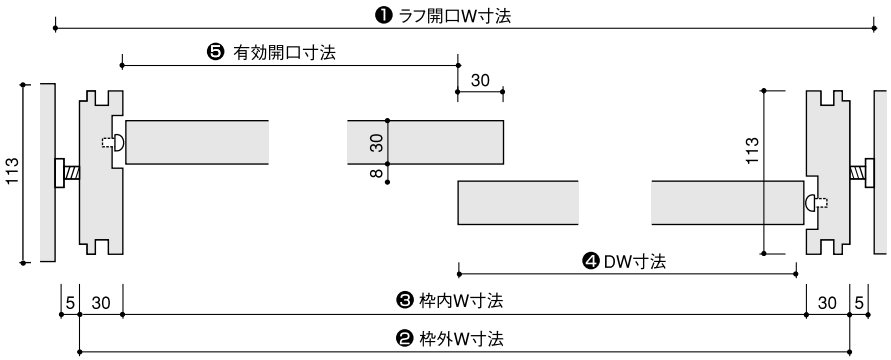
上吊り 調整枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

引き違い戸 枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

（単位:㎜）

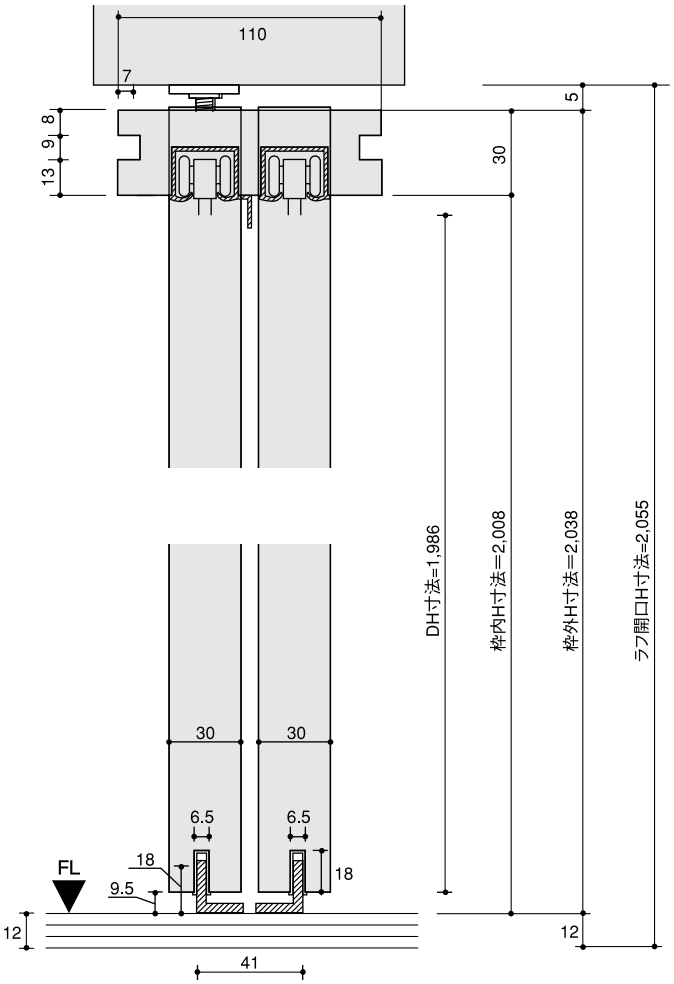


■ 枠製品寸法と納まり

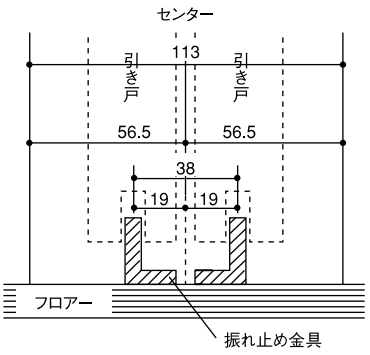
製品寸法	1,824	1,644
❶ラフ開口W寸法	1,834	1,654
❷枠外W寸法	1,824	1,644
❸枠内W寸法	1,764	1,584
❹DW寸法	900	810
❺有効開口寸法	864	774

縦断面図

（単位:㎜）



振れ止め金具取り付け位置

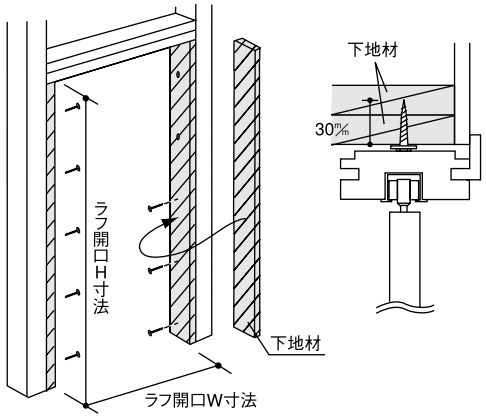


⚠ 注意

出荷時吊り車最上部設定、下へ7㎜調整可能。

3. 施工手順

取付け開口部の確認



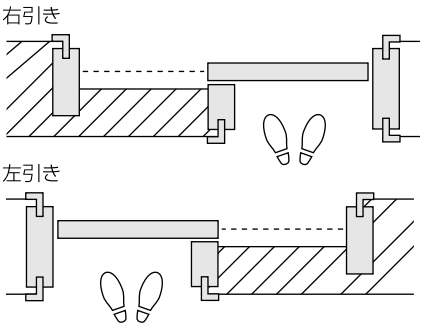
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、
枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

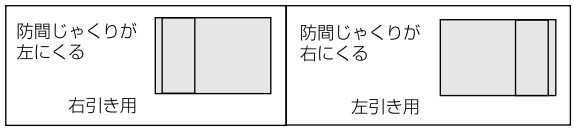
取り付け方向の確認（片引き戸・引き分け戸）

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、
ご確認のうえ施工してください。



右引き・左引きの竪枠の識別方法

防間じゃくりのついた竪枠を正面から見て、



枠材の組み立て

図:片引き戸枠（左引き）

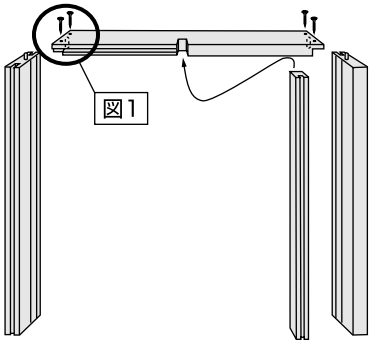
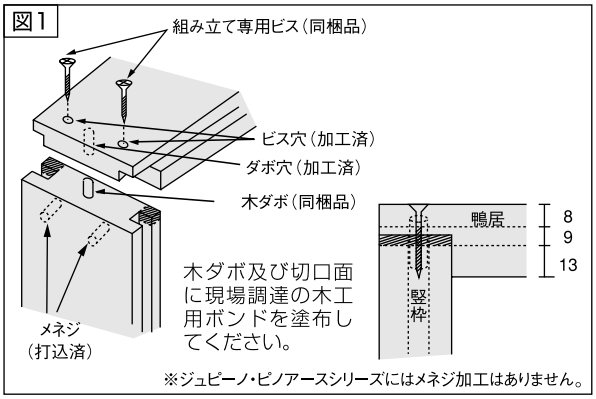
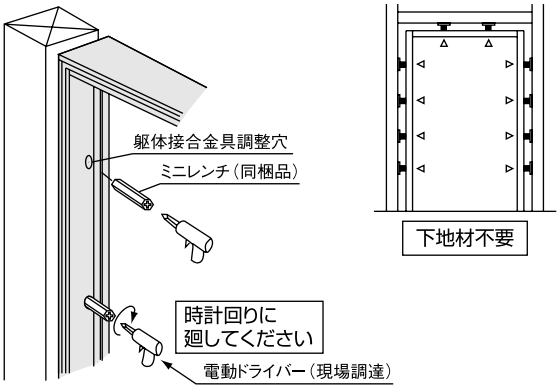


図1

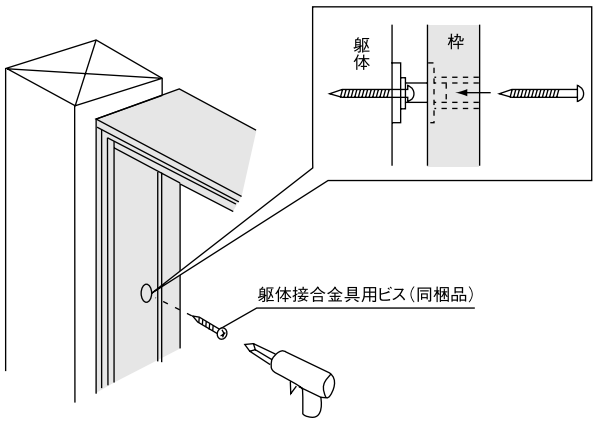


※ジュピーノ・ピノアースシリーズにはメネジ加工はありません。

枠材の仮固定



竪枠の本固定

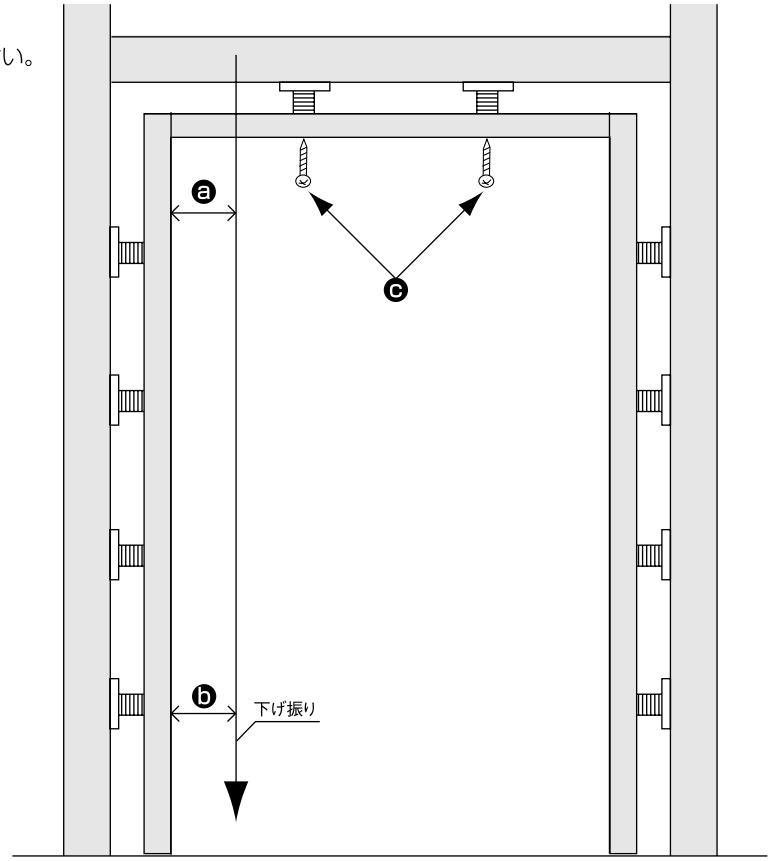


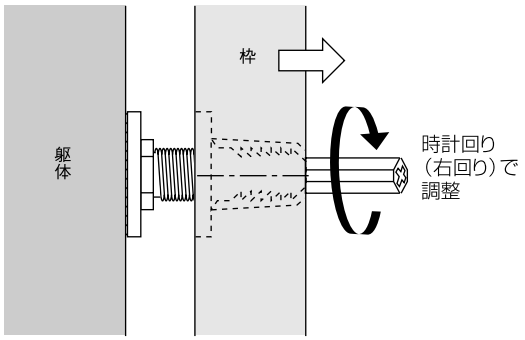
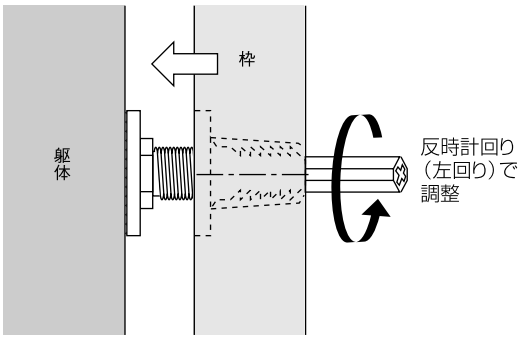
上吊り 調整枠 ソフトクローズ機構付

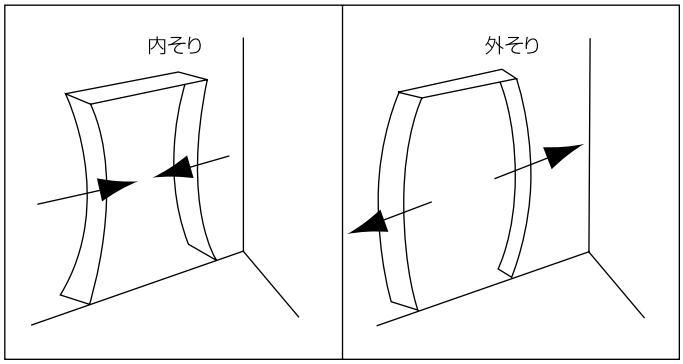
片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

建て付け調整ならびに鴨居の本固定

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

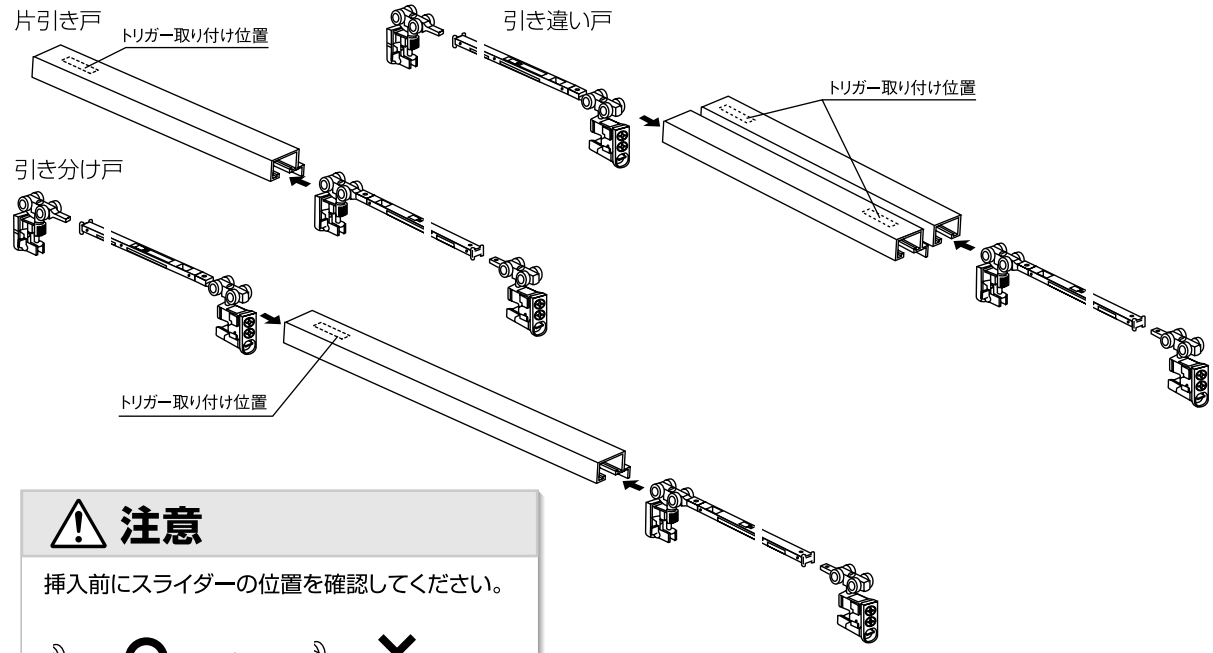


枠を内側に寄せる場合	枠を外側に出す場合
	



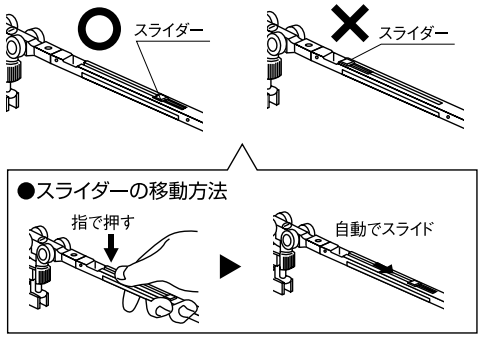
※右記の様なことがないようご注意ください。

上吊りレールに吊り車の挿入



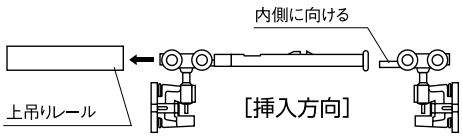
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。

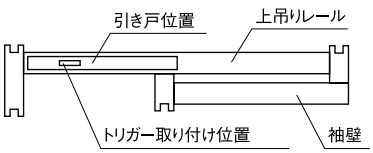
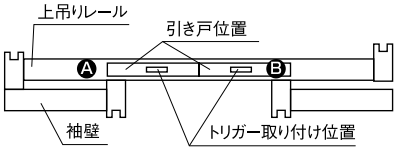
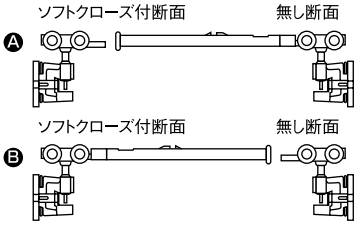
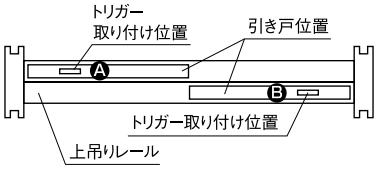
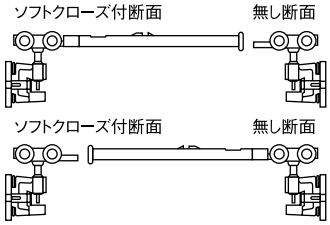


⚠ 注意

吊り車の挿入方向



レール及び吊り車取り付け方向

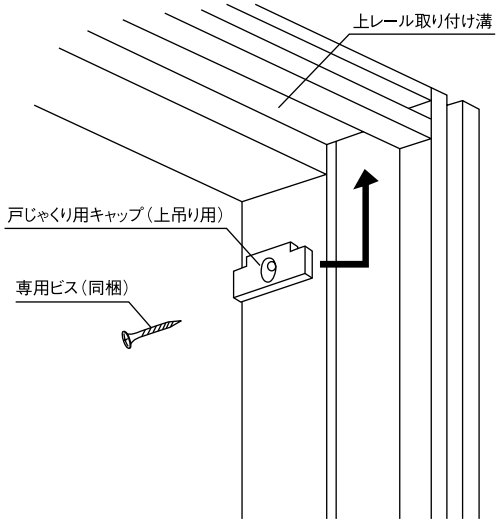
片引き戸（左引き）	引き分け戸	引き違い戸
・上吊りレール取り付け方向  ・吊り車取り付け方向 	・上吊りレール取り付け方向  ・吊り車取り付け方向 	・上吊りレール取り付け方向  ・吊り車取り付け方向 

上吊り 調整枠 ソフトクローズ機構付

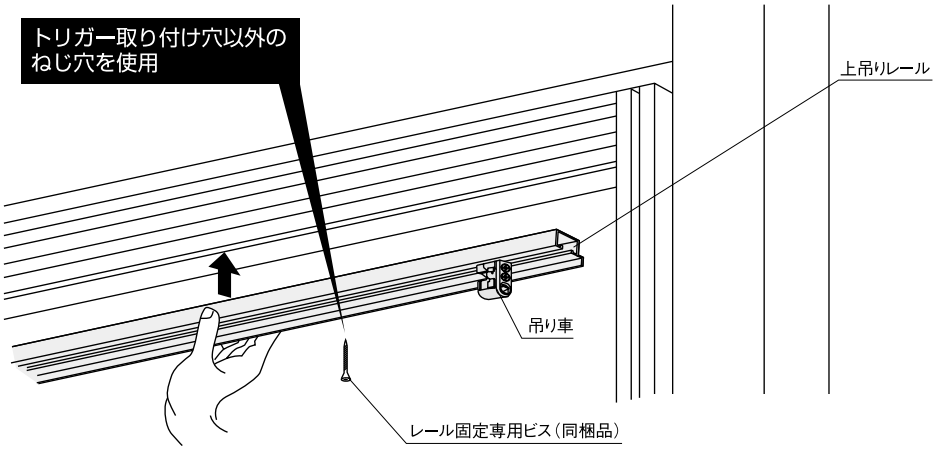
片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

戸じゃくり用キャップ及び上吊りレールの取り付け

戸じゃくり用キャップを戸じゃくりへあて、
鴨居と竪枠のすき間（戸じゃくり部分）にすべり込ませます。
上へ押し上げて止まったところで
同梱の専用ビスを使い戸じゃくり用キャップに
あいているビス穴より固定をして下さい。



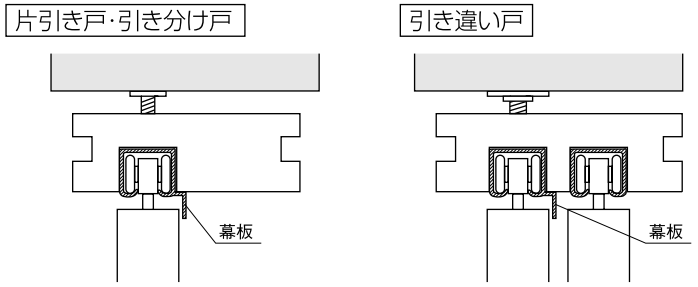
戸じゃくり用キャップを枠へ固定し、上吊りレールへ吊り車を挿入後、
鴨居へ上吊りレールを取り付けてください。
上吊りレールについている幕板の向きを確認（図A参照）して、
トリガー取り付け用のビス下穴以外（前頁の レール及び吊り車取り付け方向 を参照）の
ビス下穴へ同梱の専用ビスで、上吊りレールを固定してください。



⚠ 注意

・上吊りレールが水平に固定されているか、必ず確認してください。
・トリガー取り付け位置のビス下穴は、25㎜間隔で2箇所、下穴があけてある部分です。（左右にあり）

図A 上吊りレール取り付け方向（幕板向き）

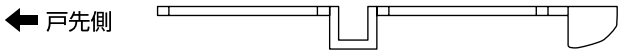


上吊りレールについている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。
引き違い戸では片方の上吊りレールには幕板はついていません。

トリガーの取り付け

上吊りレール内の溝にトリガーを同梱の専用ビスで取り付けます。

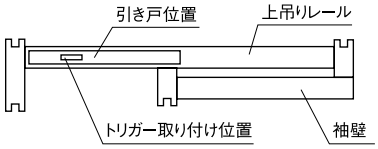
①トリガー取り付け方向

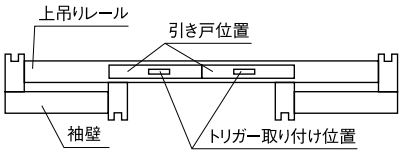


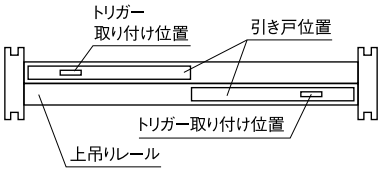
上吊りレールのトリガー取り付け用ビス下穴は、25㎜の間隔でレール両端付近にあります。

②トリガー取り付け位置

片引き戸（左引き）	引き分け戸	引き違い戸
・上吊りレール取り付け方向	・上吊りレール取り付け方向	・上吊りレール取り付け方向

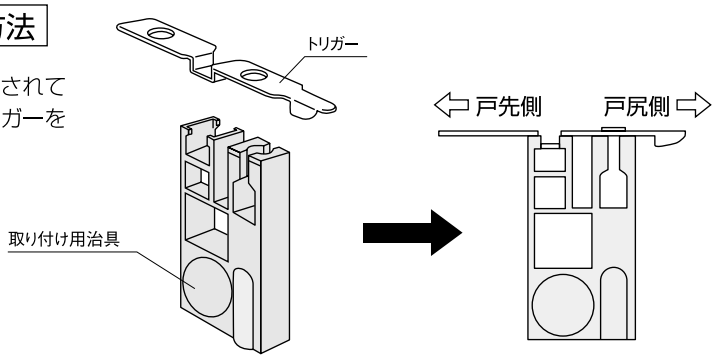






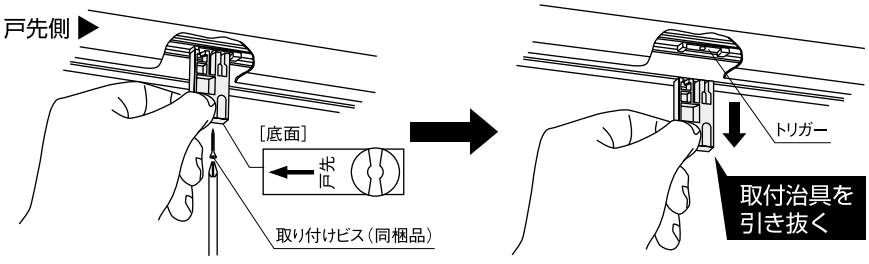
③取り付け用治具へのトリガーセット方法

本品は出荷時、トリガーと取り付け用治具がセットされている状態ですが、外れている場合は図のようにトリガーを取り付け用治具へセットしてください。



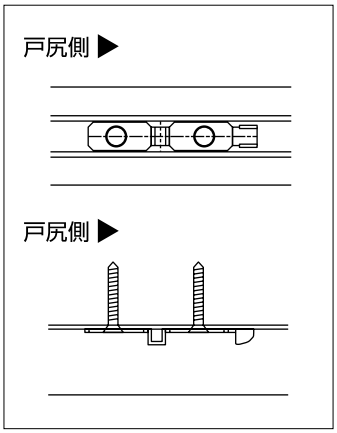
④トリガー取り付け

トリガーをセットした取り付け用治具を上吊りレール内側の溝へ押し当てて（トリガー取り付け用ビス下穴のあいている位置）同梱の専用ビスを治具ビス穴に通し、トリガーを固定します。



固定されたら、取り付け治具を下に引っ張って抜いてください。トリガーの固定は2箇所となっています。取り付け用治具を引き抜いた後、もう1箇所のビス穴の、同梱の専用ビスで固定してください。

トリガー・上吊りレール納まり図



⚠ 注意

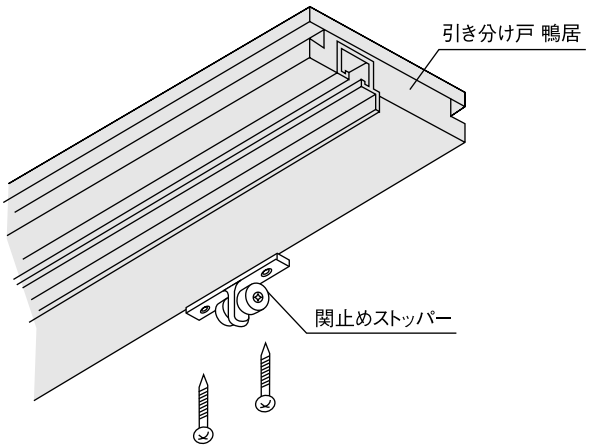
トリガーの取り付けは、手回しドライバーにて行ってください。トリガーがしっかりと取り付けされていない場合、ソフトクローズ機構の動作不良の原因となります。

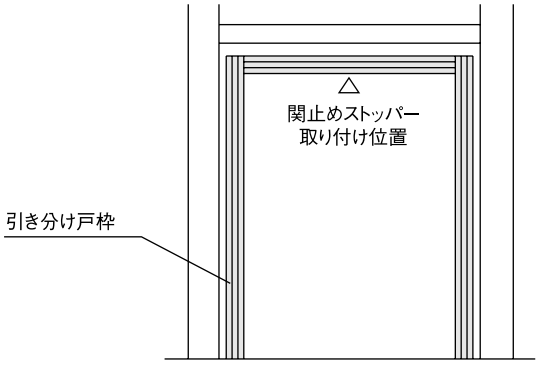
上吊り 調整枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き分け戸・引き違い戸専用枠材

関止めストッパーの取り付け（引き分け戸の場合）

引き分け戸には鴨居中央部に「関止めストッパー」を取り付けます。上吊レール中央部に30㎜ピッチのビス下穴がありますので、同梱されている専用ビスにて取り付けをしてください。



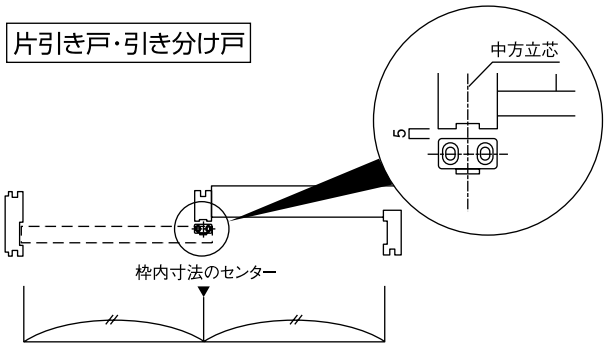


全体図

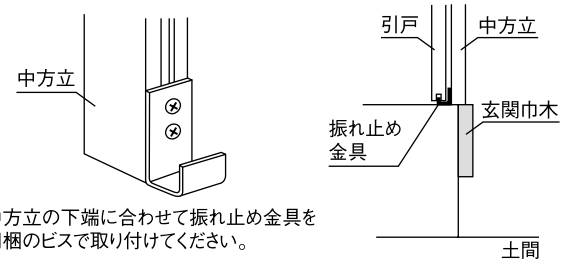
振れ止め金具の取り付け

振れ止め金具を同梱の専用ビスで取り付けてください。
引き分け戸の金具取り付け位置は、左右の中方立て芯と金具芯（図参照）をそろえて取り付けてください。

片引き戸・引き分け戸

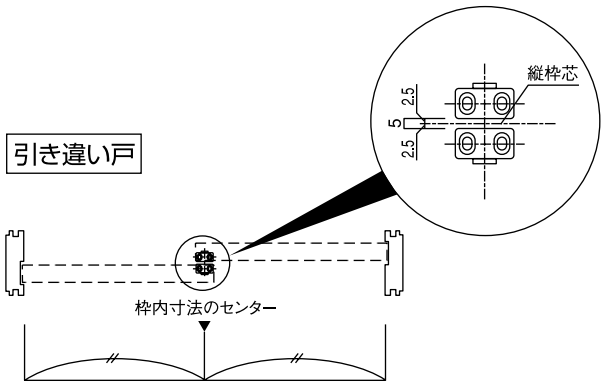


上吊り中方立取り付け用振れ止め金具の場合

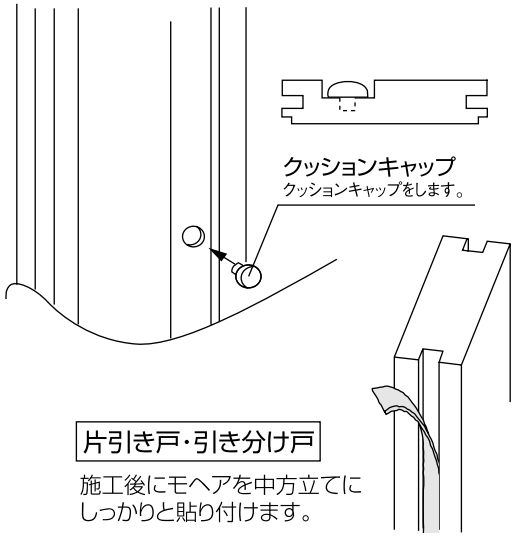


中方立の下端に合わせて振れ止め金具を同梱のビスで取り付けてください。

引き違い戸



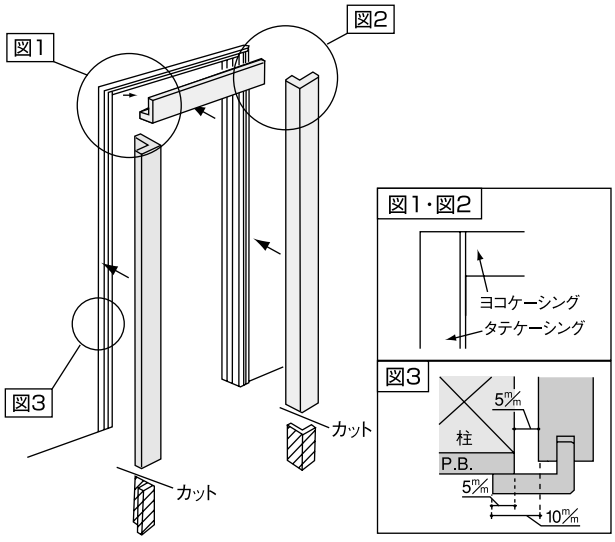
キャップの取り付け



片引き戸・引き分け戸

施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

ケーシングの取り付け



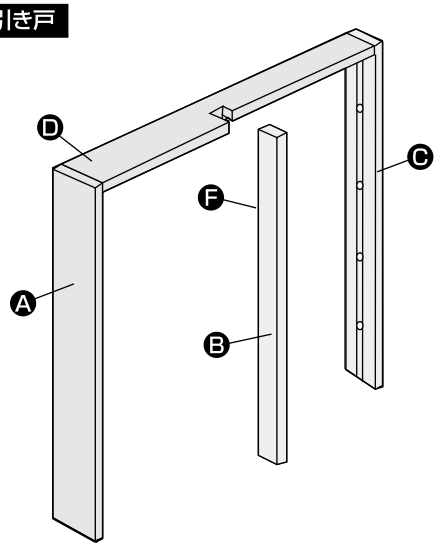
片引き戸・引き違い戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

片引き戸



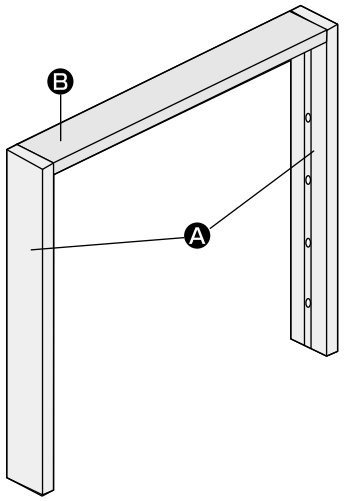
梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立）	1本	正寸カット済
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	
Ⓕ	モヘア	1本	
	ブレーキ付吊り車	1個	
	吊り車	1個	
	ブレーキ作動板	1個	
	キャッチャー	1個	金具セット
	振れ止め金具	1個	
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	5本	
	組み立て専用ビス	8本	
	竪枠組立用ビス	10本	
	鴨居取り付けビス	4本	ビスセット
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	施工説明書	1部	

全体図

引き違い戸6尺



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	
	上レール	1本	
	ブレーキ付吊り車	2個	
	吊り車	2個	
	ブレーキ作動板	2個	
	キャッチャー	2個	金具セット
	振れ止め金具	1個	
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	10本	
	組み立て専用ビス	8本	
	竪枠組立用ビス	11本	
	鴨居取り付けビス	4本	ビスセット
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	施工説明書	1部	

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

上吊り 固定枠

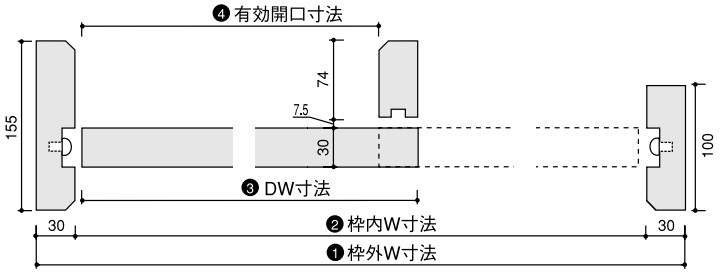
片引き戸・引き違い戸専用枠材

2. 納まり図

横断面図

片引き戸

（単位：㎜）

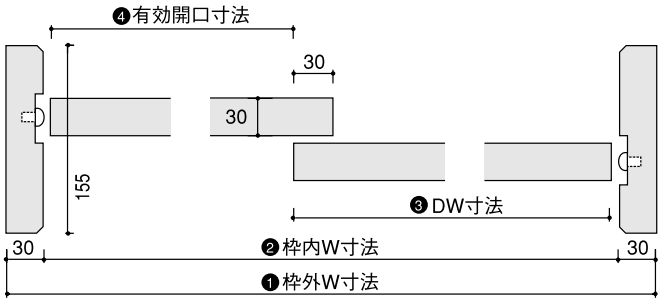


■ 枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,644	1,450
❶枠外W寸法	1,644	1,450
❷枠内W寸法	1,584	1,390
❸DW寸法	810	713
❹有効開口寸法	777	680

引き違い戸（間口6尺）

（単位：㎜）



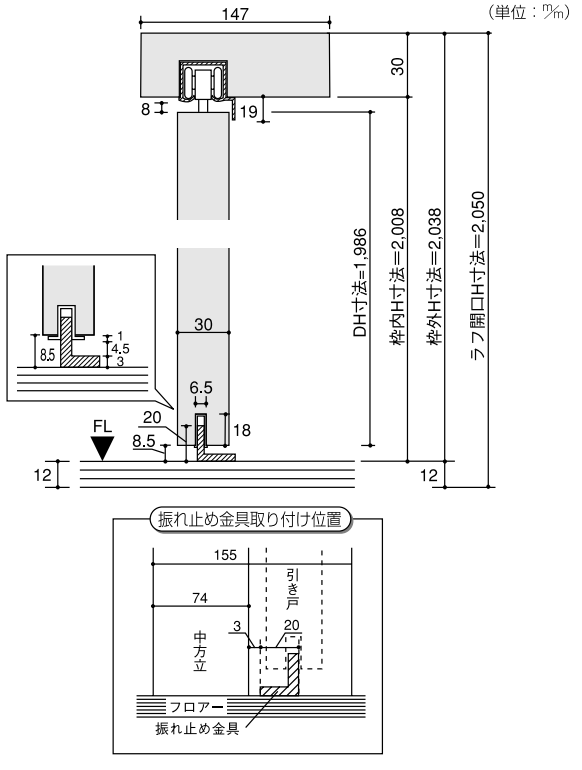
■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	1,644
❶枠外W寸法	1,644
❷枠内W寸法	1,584
❸DW寸法	810
❹有効開口寸法	774

縦断面図

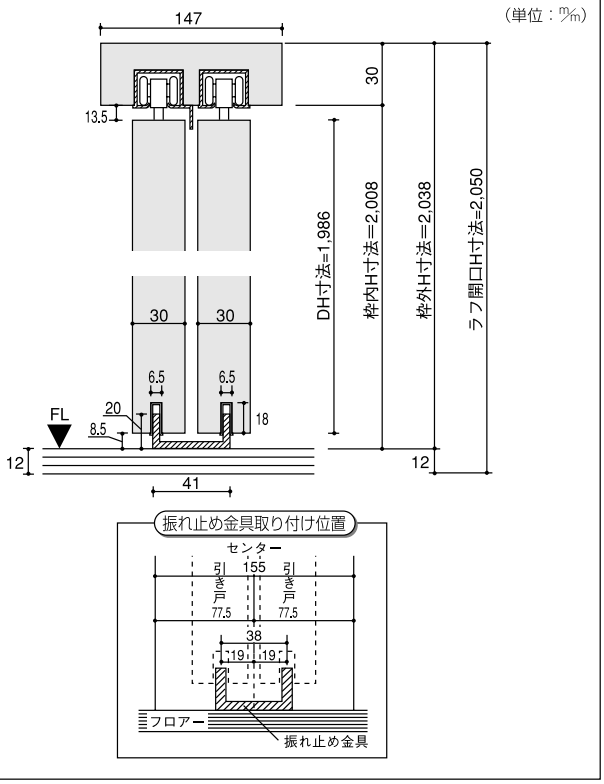
片引き戸

（単位：㎜）



引き違い戸（間口6尺）

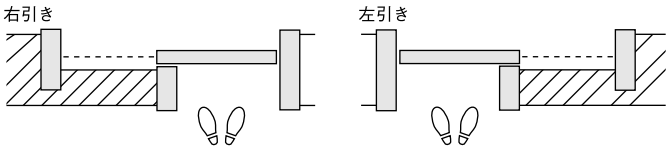
（単位：㎜）



3. 施工手順

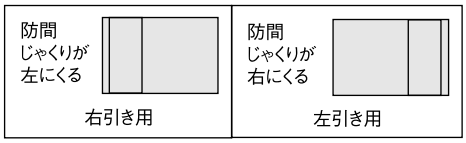
取り付け方向の確認（片引き戸の場合）

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、
ご確認のうえ施工してください。



右引き・左引きの竪枠の識別方法

防間じゃくりのついた竪枠を正面から見て、



枠材の組み立て

図:片引き戸枠（左引き）

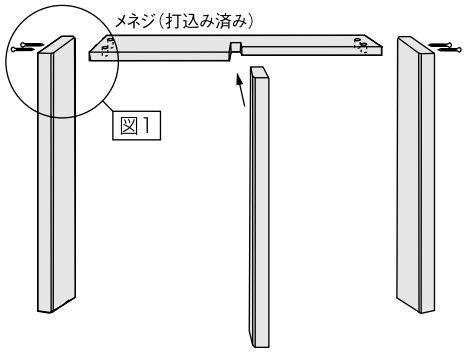
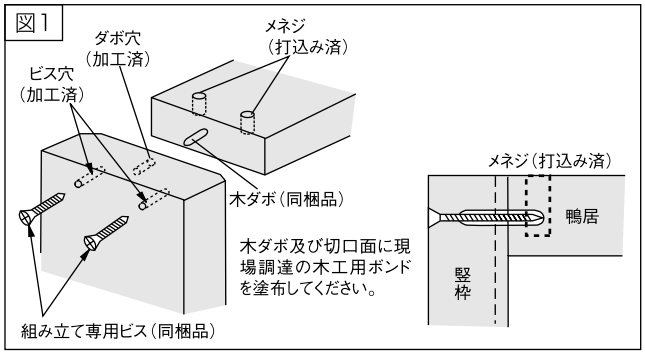
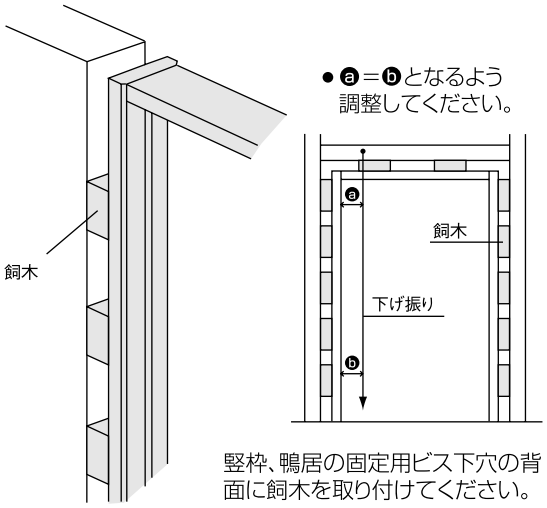


図1



枠材の仮固定と建て付け調整

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、
ネジレを調整し、仮固定します。



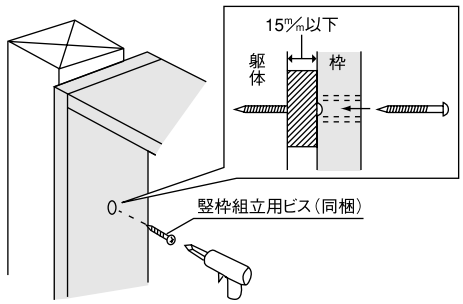
竪枠、鴨居の固定用ビス下穴の背
面に飼木を取り付けてください。

⚠ 注意

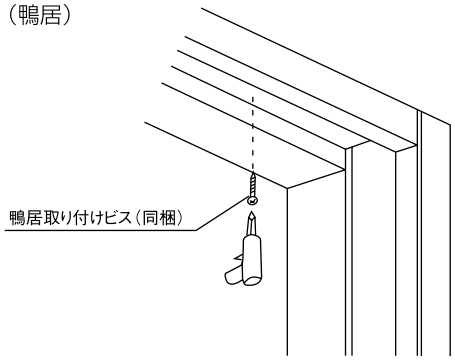
飼木の厚みは最大でも15㎜以下にしてください。

竪枠の固定

（縦枠）



（鴨居）

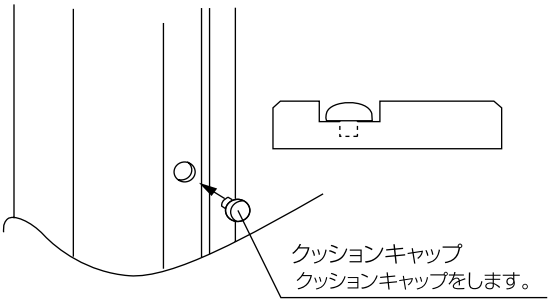


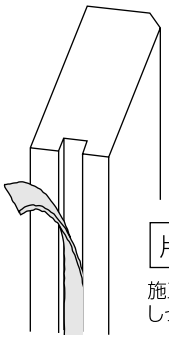
レールを取り付ける前に必ず鴨居本体を躯体に固定させて
ください。

上吊り 固定枠

片引き戸・引き違い戸専用枠材

キャップの取り付け

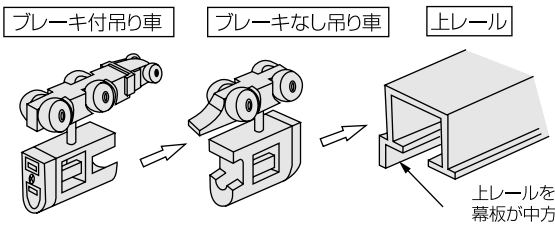




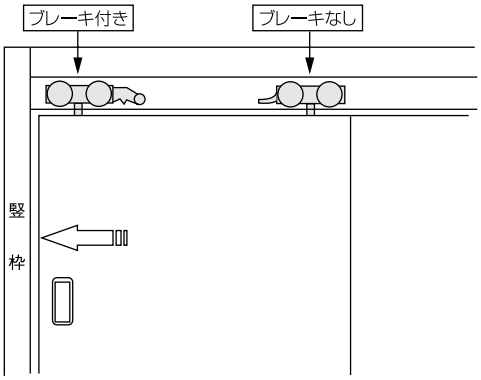
片引き戸の場合のみ

施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

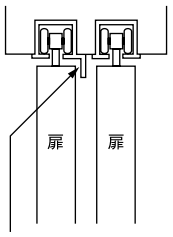
吊り車の挿入



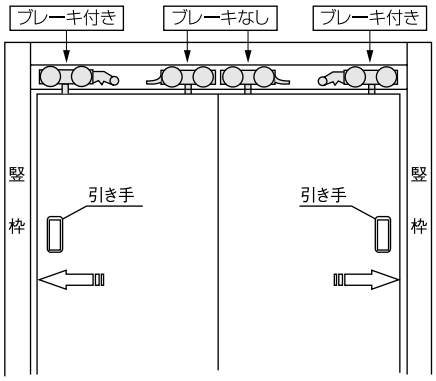
片引き戸



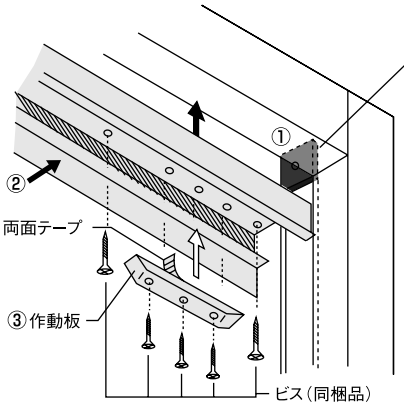
引き違い戸



幕板が扉と扉の間にくるように挿入してください。



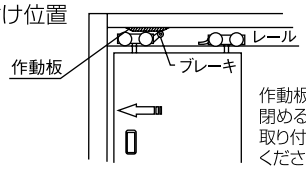
上レールと作動板の取り付け



①レール取付前に矢印方向を鴨居側にして、戸じゃくりキャップを取り付けてください。

※作動板の両面テープをはがして、レール下穴にあわせて仮どめします。レール取り付けの際にレールのビスどめと同時にビスで固定します。

作動板取り付け位置



作動板は扉を閉める方向に取り付けてください。

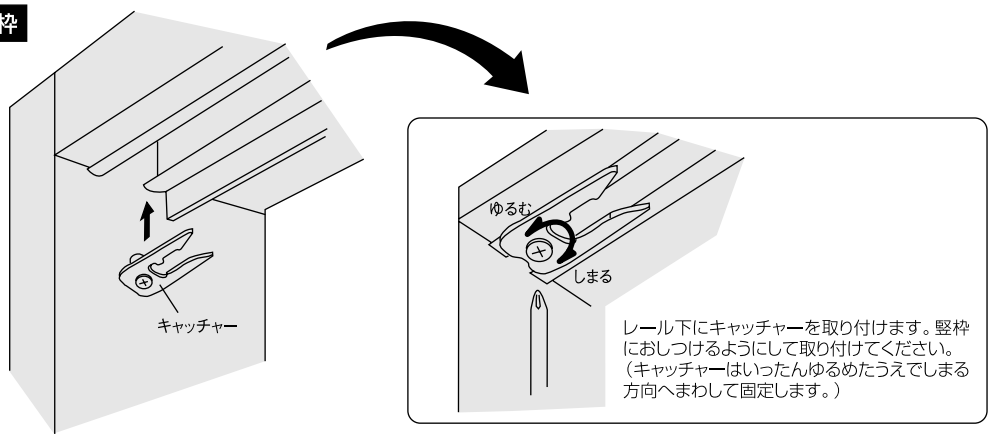
※引き分け戸の吊り車は全てブレーキなしタイプになります。

⚠ 注意

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。

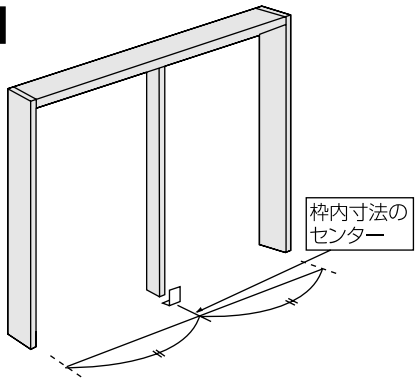
キャッチャーの取り付け

片引き戸枠



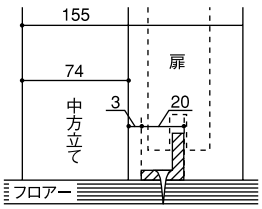
振れ止め金具の取り付け

片引き戸枠

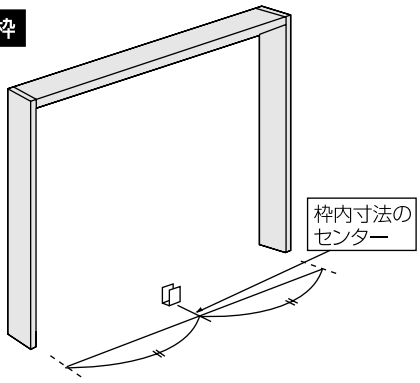


振れ止め金具取り付け位置

専用ビスでフロアーに固定してください。

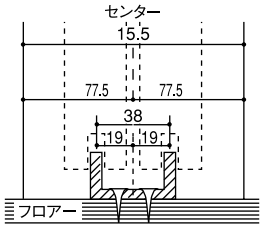


引き違い戸枠

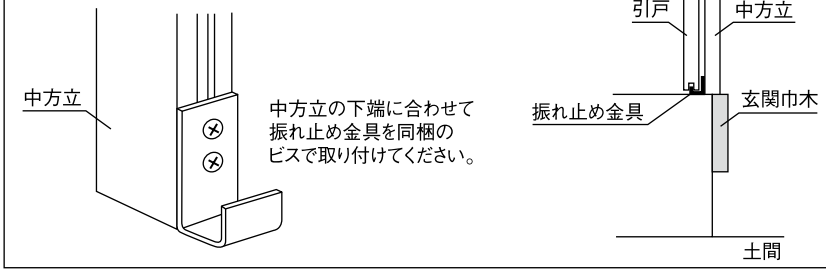


振れ止め金具取り付け位置

専用ビスでフロアーに固定してください。



上吊り中方立取り付け用振れ止め金具の場合



施工終了後

養生

当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

上吊り 固定枠 ソフトクローズ機構付

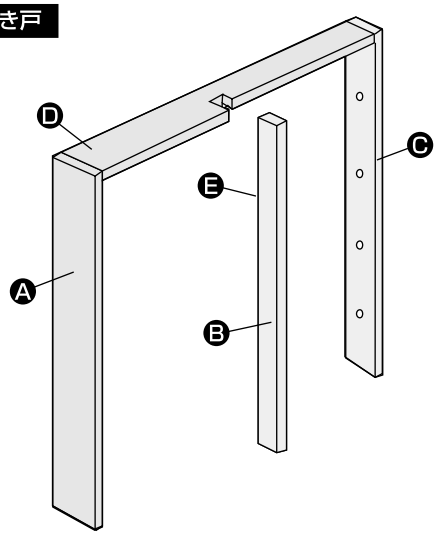
片引き戸・引き違い戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

片引き戸



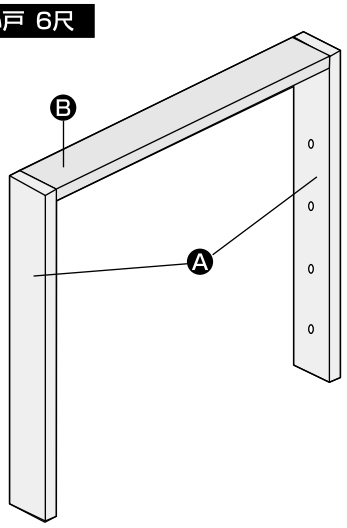
梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済
Ⓑ	竪枠（中方立）	1本	正寸カット済
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	ソフトクローズ機構用
Ⓔ	モヘア	1本	
	ソフトクローズ機構付吊り車	1個	金具セット
	吊り車	1個	
	トリガー	1個	
	振れ止め金具	1個	
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	5本	
	組み立て専用ビス	8本	ビスセット
	竪枠組立用ビス	10本	
	鴨居取り付けビス	4本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	施工説明書	1部	

全体図

引き違い戸 6尺



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	幕板付上レール	1本	ソフトクローズ機構用
	上レール	1本	ソフトクローズ機構用
	ソフトクローズ機構付吊り車	2個	金具セット
	吊り車	2個	
	トリガー	2個	
	振れ止め金具	2個	
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	レールビス	10本	
	組み立て専用ビス	8本	ビスセット
	竪枠組立用ビス	11本	
	鴨居取り付けビス	4本	
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2本	
	施工説明書	1部	

お願い

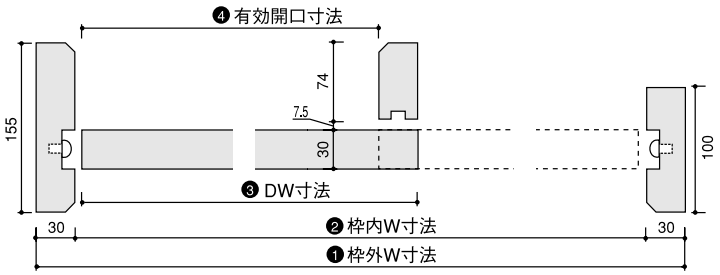
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

2. 納まり図

横断面図

片引き戸

（単位：㎜）

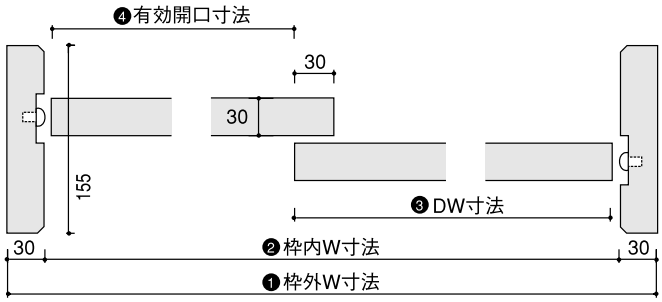


■ 枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,644	1,450
❶枠外W寸法	1,644	1,450
❷枠内W寸法	1,584	1,390
❸DW寸法	810	713
❹有効開口寸法	777	680

引き違い戸（間口6尺）

（単位：㎜）



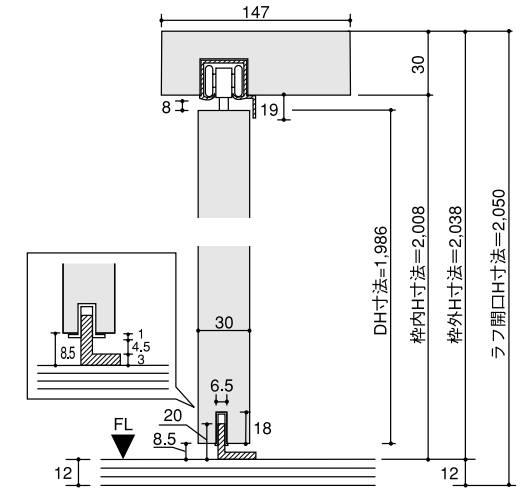
■ 枠製品寸法と納まり

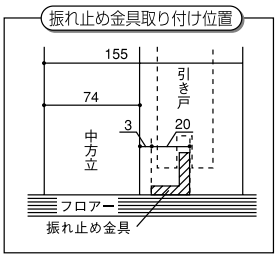
製品寸法	1,644
❶枠外W寸法	1,644
❷枠内W寸法	1,584
❸DW寸法	810
❹有効開口寸法	774

縦断面図

片引き戸

（単位：㎜）



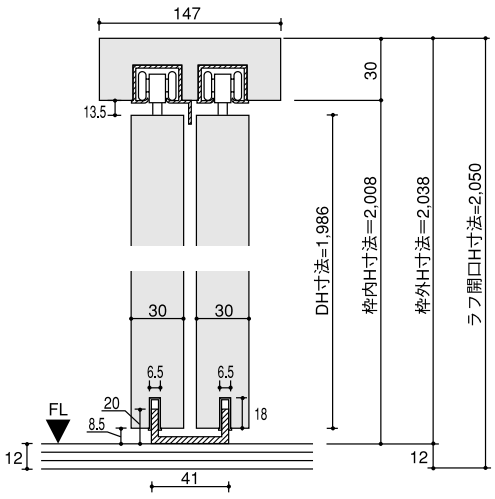


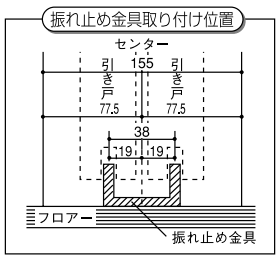
⚠ 注意

出荷時吊り車最上部設定、下へ7㎜調整可能。

引き違い戸（間口6尺）

（単位：㎜）





⚠ 注意

出荷時吊り車最上部設定、下へ7㎜調整可能。

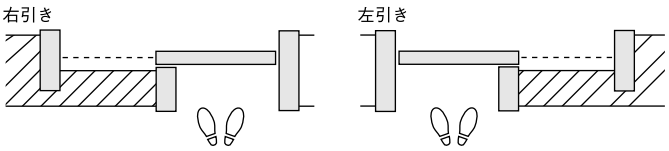
上吊り 固定枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸専用枠材

3. 施工手順

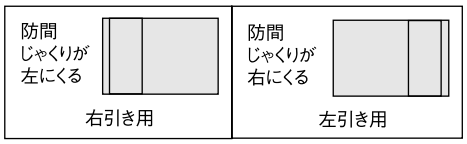
取り付け方向の確認（片引き戸の場合）

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、
ご確認のうえ施工してください。



右引き・左引きの竪枠の識別方法

防間じゃくりのついた竪枠を正面から見て、



枠材の組み立て

図:片引き戸枠（左引き）

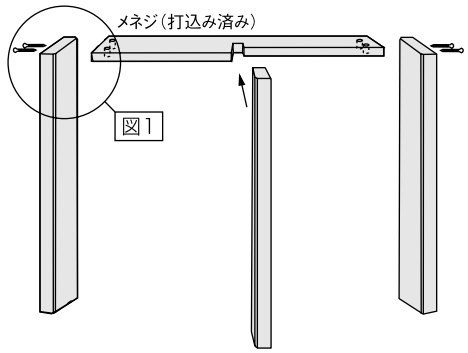
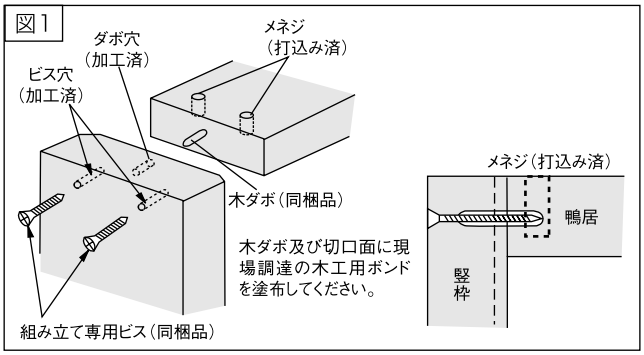
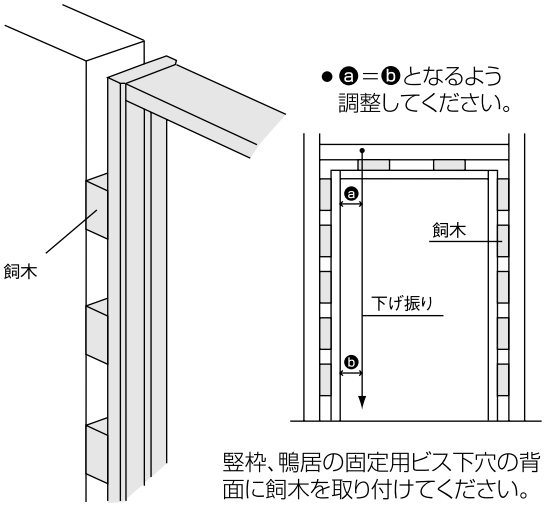


図1



枠材の仮固定と建て付け調整

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、
ネジレを調整し、仮固定します。



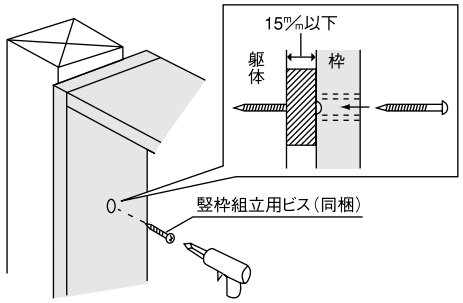
竪枠、鴨居の固定用ビス下穴の背
面に飼木を取り付けてください。

⚠ 注意

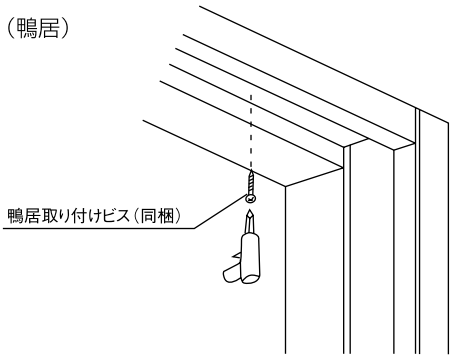
飼木の厚みは最大でも15㎜以下にしてください。

竪枠の固定

（縦枠）

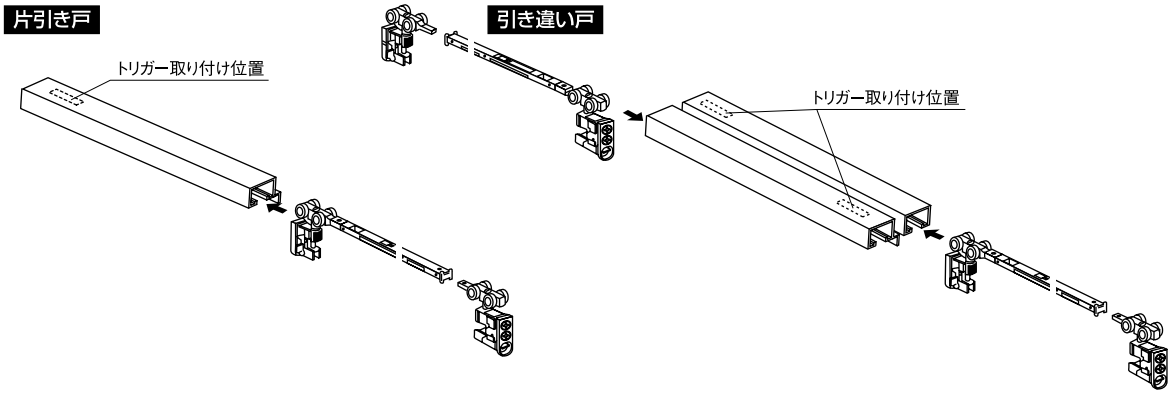


（鴨居）



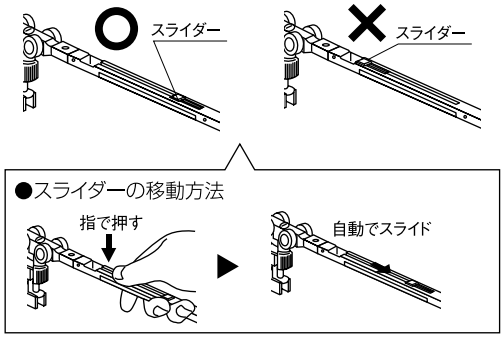
レールを取り付ける前に必ず鴨居本体を躯体に固定させて
ください。

上吊りレールに吊り車の挿入



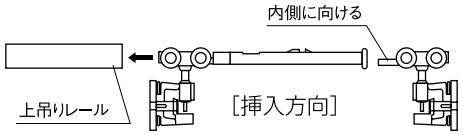
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。

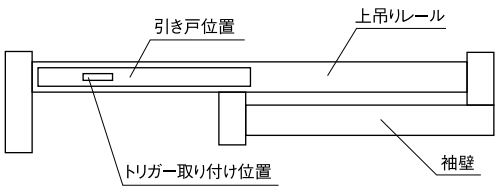
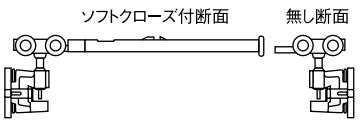
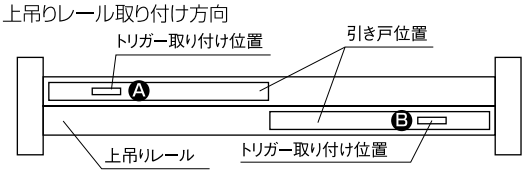
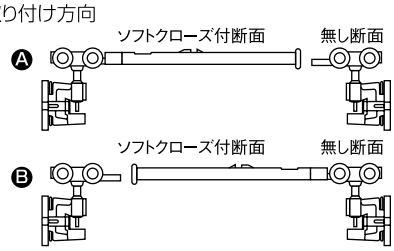


⚠ 注意

吊り車の挿入方向



レール及び吊り車取り付け方向

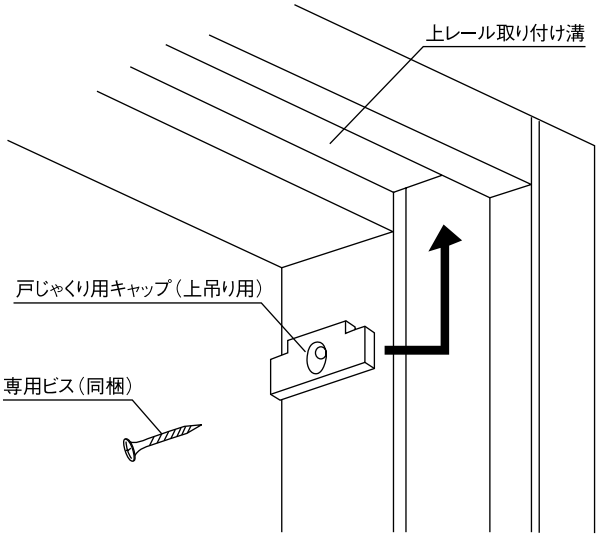
片引き戸（左引き）	引き違い戸
・上吊りレール取り付け方向  ・吊り車取り付け方向  	・上吊りレール取り付け方向  ・吊り車取り付け方向 

上吊り 固定枠 ソフトクローズ機構付

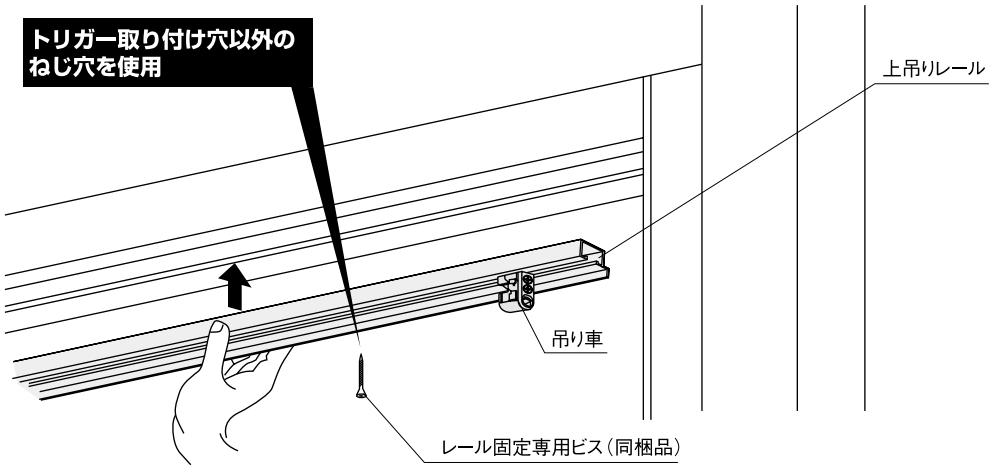
片引き戸・引き違い戸専用枠材

戸じゃくり用キャップ及び上吊りレールの取り付け

戸じゃくり用キャップを戸じゃくりへあて、
鴨居と竪枠のすき間（戸じゃくり部分）にすべり込ませます。
上へ押し上げて止まったところで
同梱の専用ビスを使い戸じゃくり用キャップに
あいているビス穴より固定をしてください。



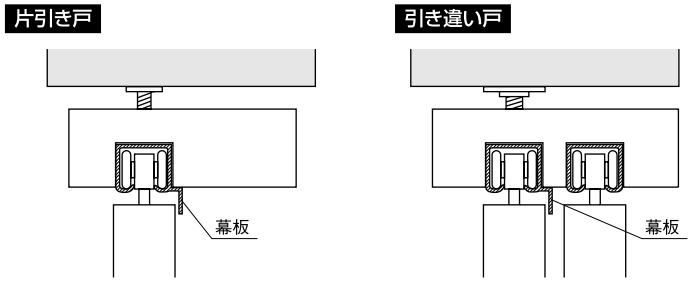
戸じゃくり用キャップを枠へ固定し、上吊りレールへ吊り車を挿入後、鴨居へ上吊りレールを取り付けてください。
上吊りレールについている幕板の向きを確認（図A参照）して、トリガー取り付け用のビス下穴以外
（ 前項の、レール及び吊り車取り付け方向を参照 ）のビス下穴へ同梱の専用ビスで、上吊りレールを固定してください。



⚠ 注意

- 上吊りレールが水平に固定されているか、必ず確認してください。
- トリガー取り付け位置のビス下穴は、25㎜間隔で2箇所、下穴があけてある部分です。（左右にあり）

図A 上吊りレール取り付け方向（幕板向き）



上吊りレールについている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。
引き違い戸では片方の上吊りレールには幕板はついていません。

トリガーの取り付け

上吊りレール内の溝にトリガーを同梱の専用ビスで取り付けます。

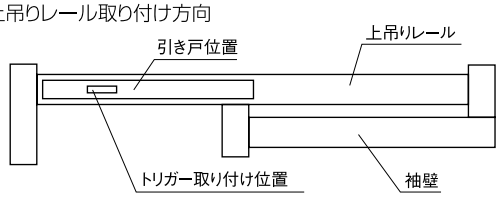
①トリガー取り付け方向

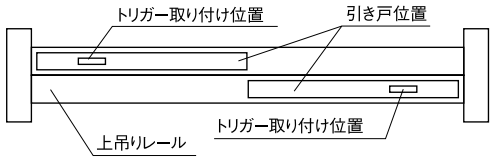


上吊りレールのトリガー取り付け用ビス下穴は、25㎜の間隔でレール両端付近にあります。

②トリガー取り付け位置

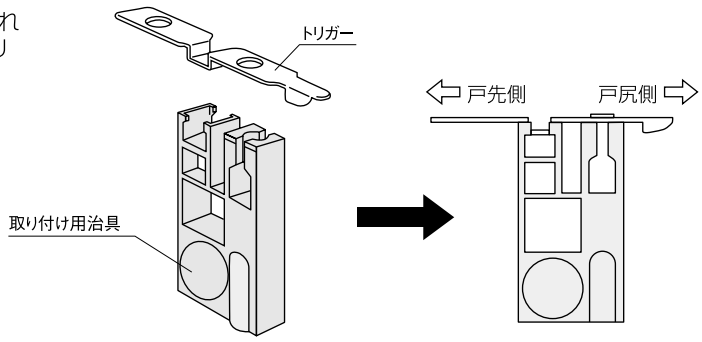
片引き戸（左引き）	引き違い戸
・上吊りレール取り付け方向	・上吊りレール取り付け方向





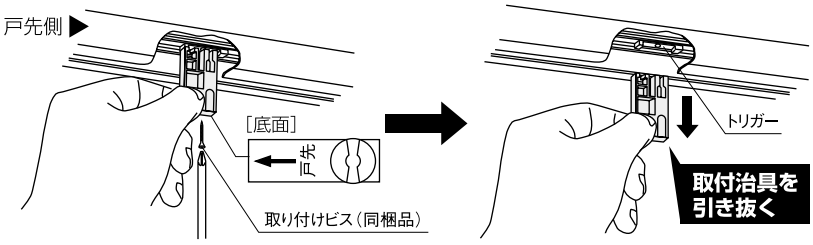
③ 取り付け用治具へのトリガーセット方法

本品は出荷時、トリガーと取り付け用治具がセットされている状態ですが、外れている場合は図のようにトリガーを取り付け用治具へセットしてください。

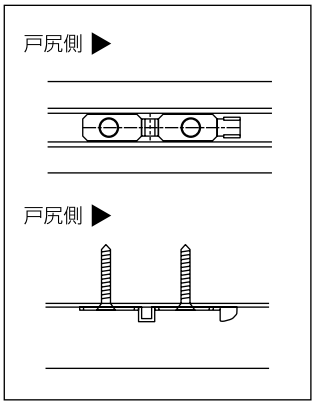


④トリガー取り付け

トリガーをセットした取り付け用治具を上吊りレール内側の溝へ押し当てて（トリガー取り付け用ビス下穴のあいている位置）同梱の専用ビスを治具ビス穴に通し、トリガーを固定します。



トリガー・上吊りレール納まり図



固定されたら、取り付け治具を下に引っ張って抜いてください。トリガーの固定は2箇所となっています。取り付け用治具を引き抜いた後、もう1箇所のビス穴の、同梱の専用ビスで固定してください。

⚠ 注意

禁止

トリガーの取り付けは、手回しドライバーにて行ってください。

トリガーがしっかりと取り付けされていない場合、ソフトクローズ機構の動作不良の原因となります。

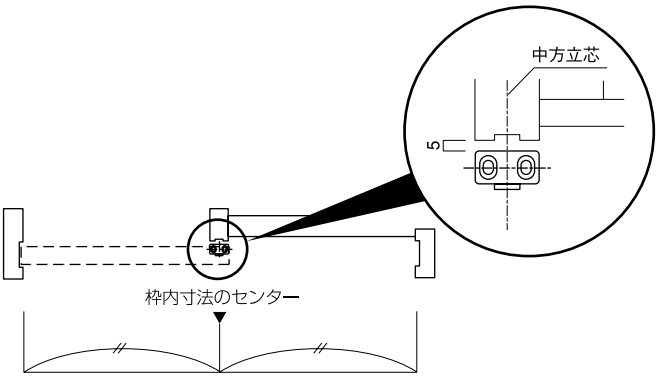
上吊り 固定枠 ソフトクローズ機構付

片引き戸・引き違い戸専用枠材

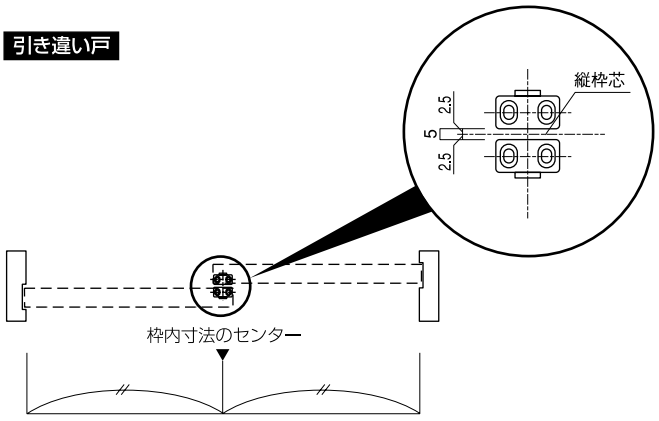
振れ止め金具の取り付け

振れ止め金具を同梱の専用ビスで取り付けてください。

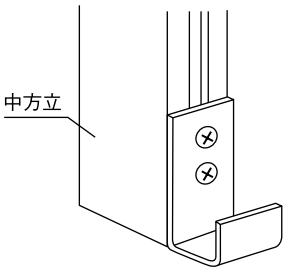
片引き戸



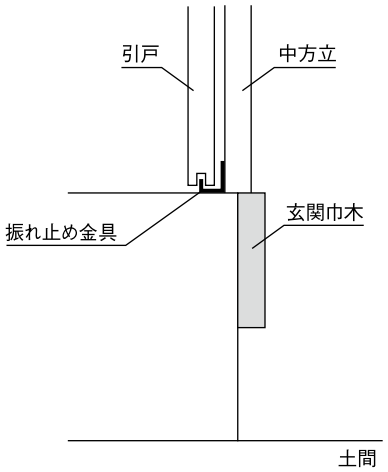
引き違い戸



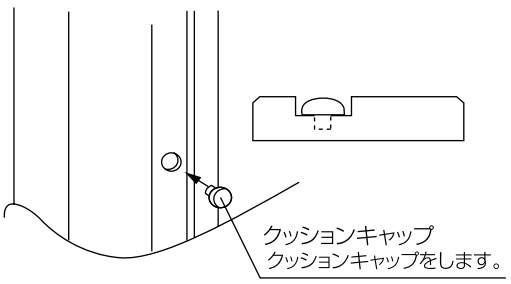
上吊り中方立取り付け用振れ止め金具の場合

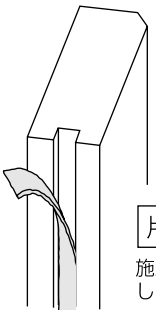


中方立の下端に合わせて振れ止め金具を同梱のビスで取り付けてください。



キャップの取り付け





片引き戸

施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

アウトセット引き戸枠

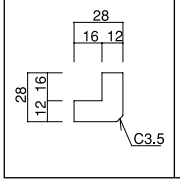
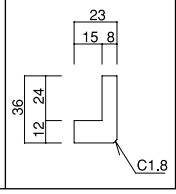
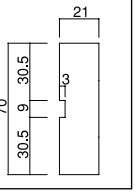
1. 梱包内訳

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

		部材名	数量
レールセット		壁付けレール	1本
		レール取り付けビス	8本
		壁付けレールエンドキャップ	2個
		エンドキャップ取り付けビス	2本
		縦用出隅材	2本
		横用出隅材	1本

間仕切り錠を使用の場合のみ

		部材名	数量
		竪枠	1本
		モヘア	1本

見切り材（竪）	見切り材（横）	間仕切り用竪枠
		

両側ソフトクローズ仕様

		部材名	数量
金具セット		ソフトクローズ機構付き吊車	2個
		トリガー	2個
		トリガー取り付け用ナット	2個
		トリガー取り付け用ネジ	2個
		振れ止め金具	1個
		振れ止め金具固定用ビス	2本

片側ソフトクローズ仕様

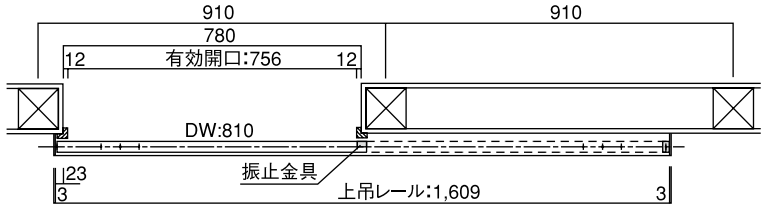
		部材名	数量
金具セット		ソフトクローズ機構付き吊車	1個
		トリガー	1個
		トリガー取り付け用ナット	1個
		トリガー取り付け用ネジ	1個
		吊車	1個
		ブレーキ作動板	1個
		ブレーキ作動板取り付け用ナット	3個
		ブレーキ作動板取り付け用ネジ	3個
		振れ止め金具	1個
		振れ止め金具固定用ビス	2本

ソフトクローズ無し

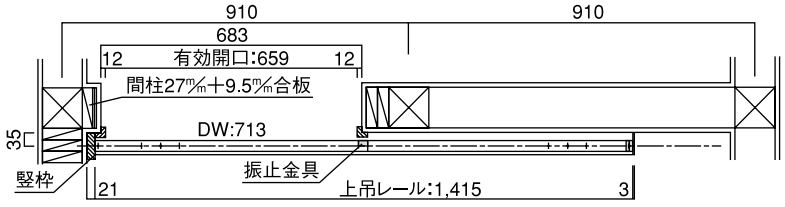
		部材名	数量
金具セット		吊車	2個
		ブレーキ作動板	2個
		ブレーキ作動板取り付け用ナット	6個
		ブレーキ作動板取り付け用ネジ	6個
		振れ止め金具	1個
		振れ止め金具固定用ビス	2本

2. 納まり図

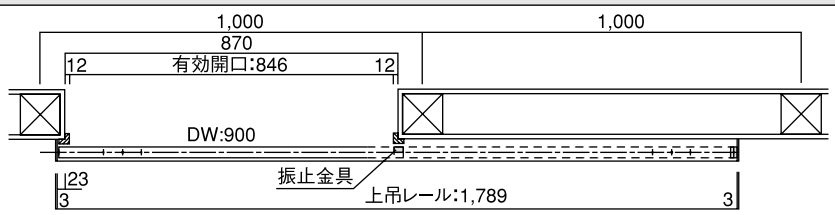
通常納まり 910モジュールの場合



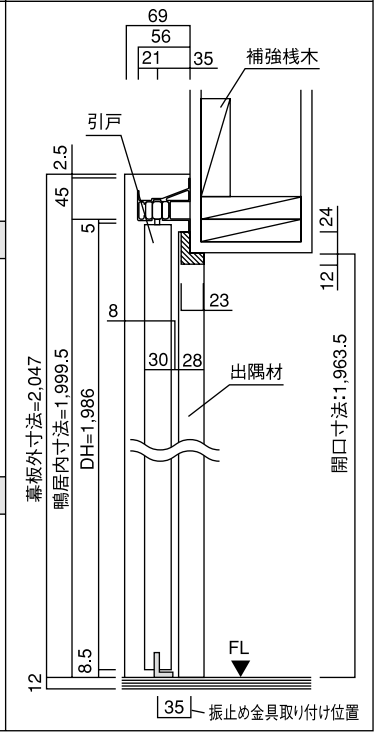
両入隅、間仕切り用竪枠使用の場合



通常納まり メーターモジュールの場合

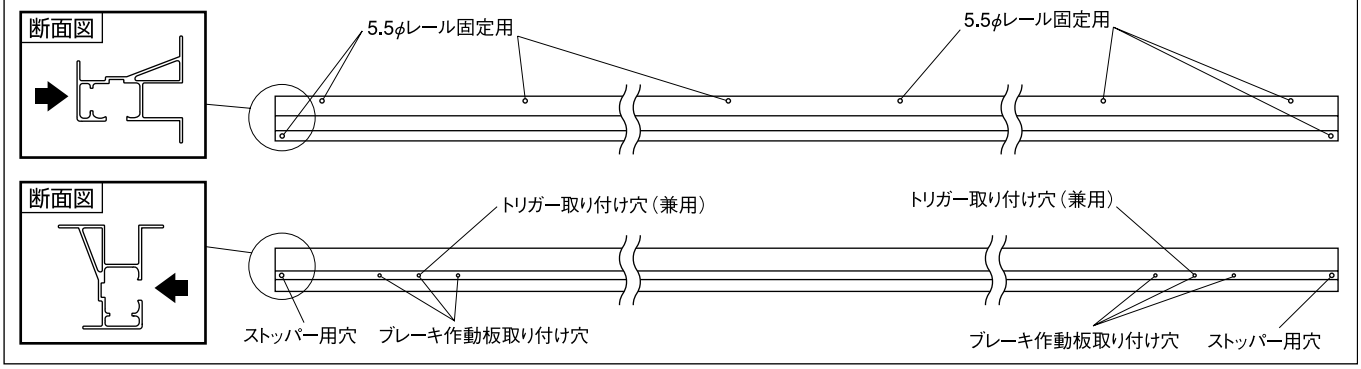


縦断面図



アウトセット引き戸枠

壁付けレール　ビス穴詳細図



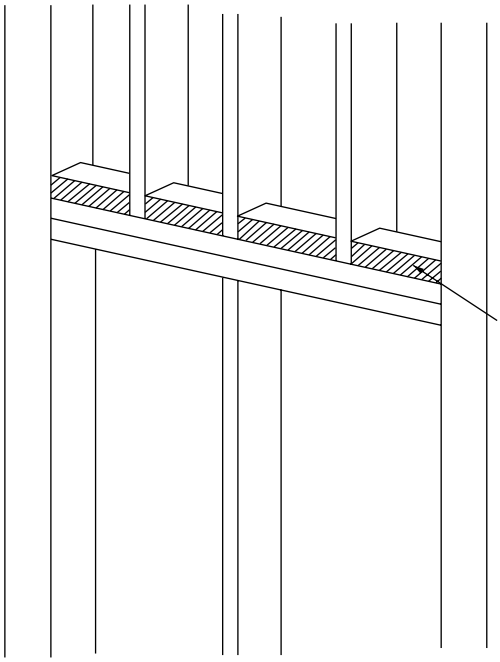
※上記詳細図は断面図の矢印方向から見た図になります。

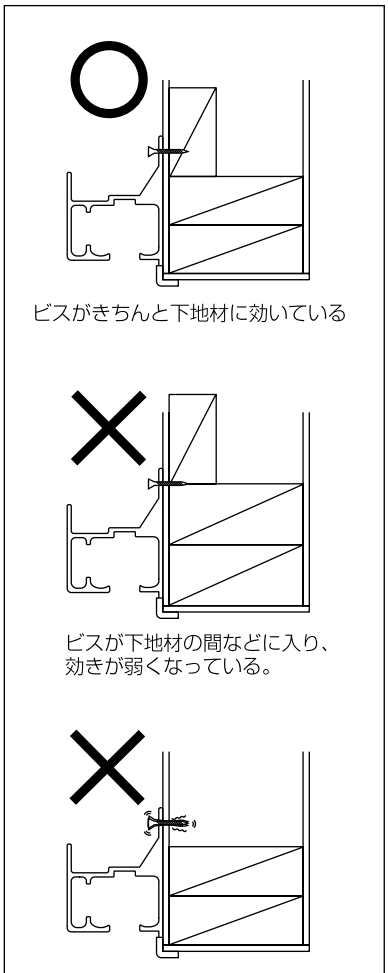
3. 施工手順

①下地補強

取り付ける場所の下地を補強してください。

下地材の補強



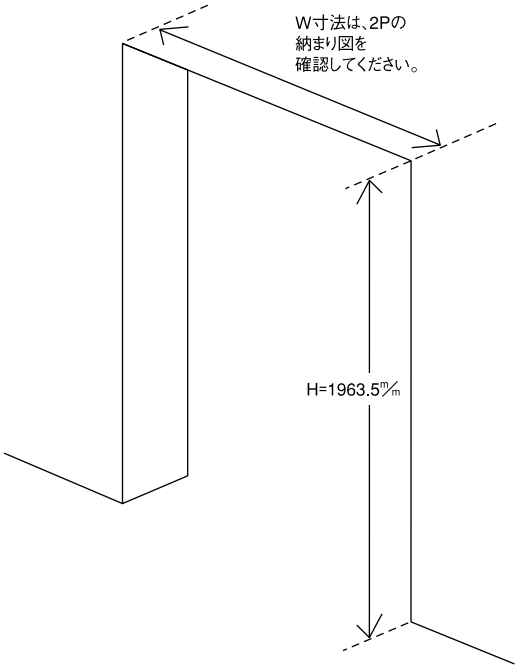


⚠ 注意

扉を吊るため、壁付けレールには大きな荷重がかかります。ビスは確実に下地材に固定するようにしてください。
固定が十分でない場合、レール、扉が落下、転倒しケガをするおそれがあります。

②開口寸法の確認

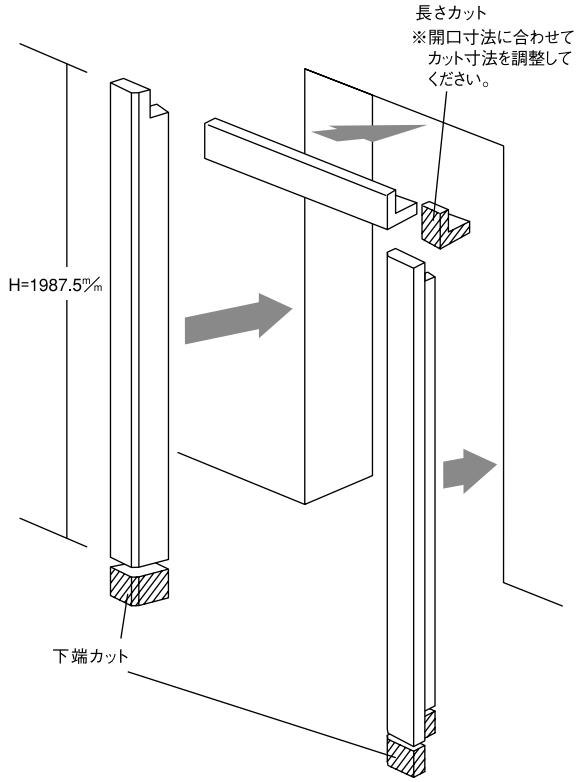
取り付け開口のH寸法・W寸法を確認してください。



⚠ 注意

アウトセット引戸になりますので、壁仕上げ面より寸法を確認してください。

③出隅材の取り付け

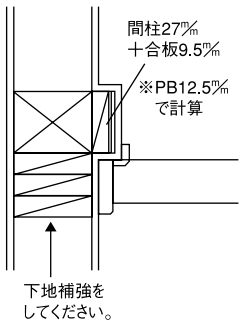


⚠ 注意

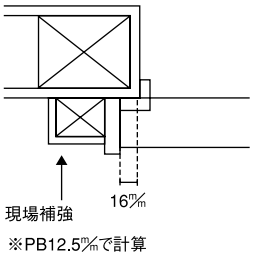
縦用出隅材のカットは必ず下側にくる方をカットしてください。
上側には横用出隅材と接続するための加工が施されています。

間仕切り用竪枠を取り付ける場合

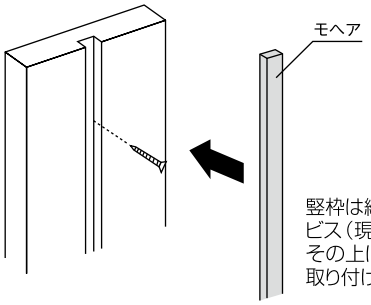
竪枠側が入隅の場合



竪枠側に壁がない場合



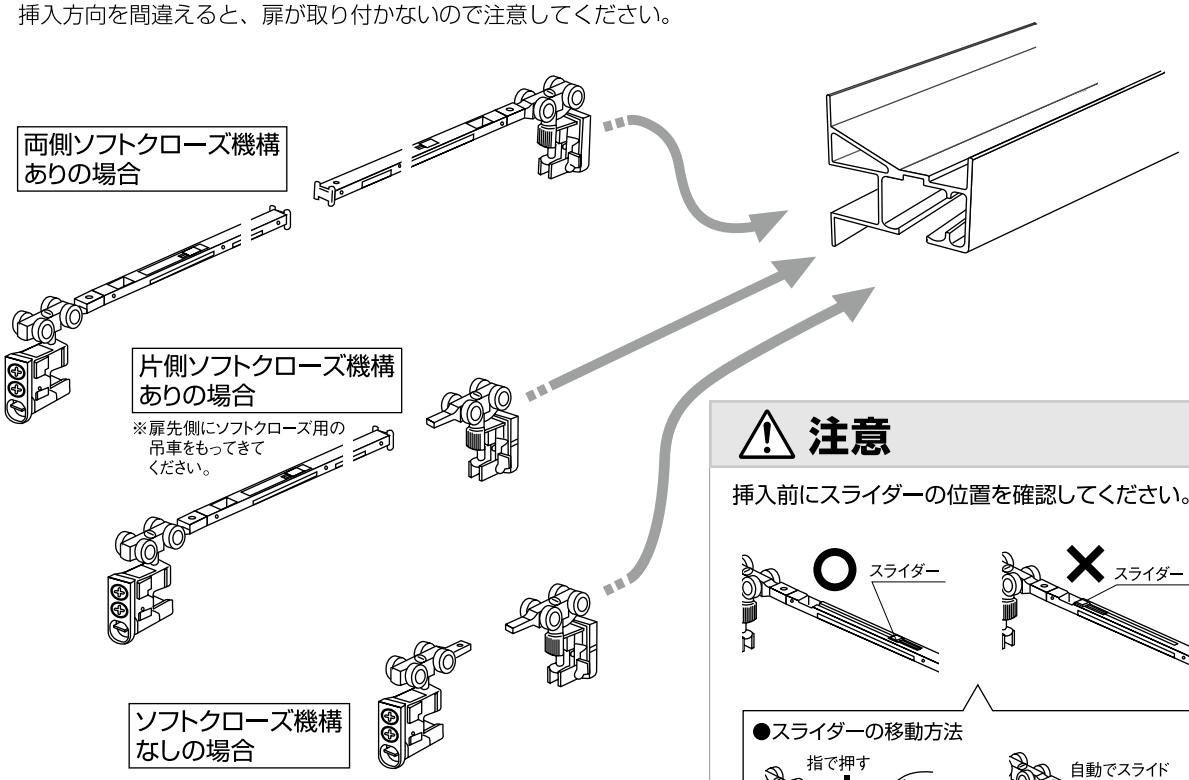
竪枠を使用する場合は納まり図を参考に取り付けてください。



アウトセット引き戸枠

④吊車の挿入

上吊レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により、
図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないので注意してください。



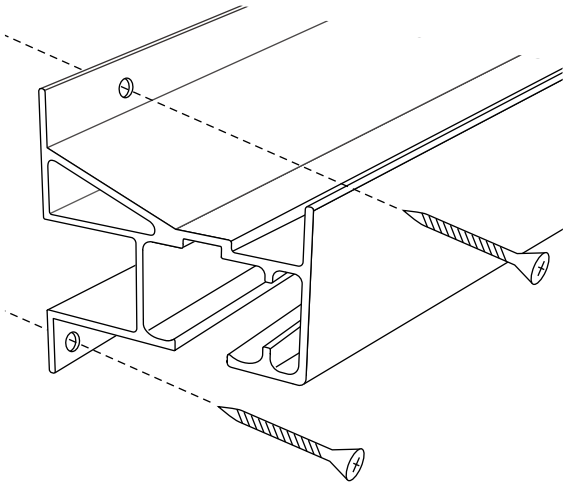
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。

⑤壁付けレールの取り付け

上吊レールを取り付けます。
3ページの「壁付けレール ビス穴詳細図」を参照し、5.5φレール固定用のビス穴に同梱の取り付けビスで8カ所確実に固定させてください。

※ビスを取り付ける前に下穴をあけておいてください。



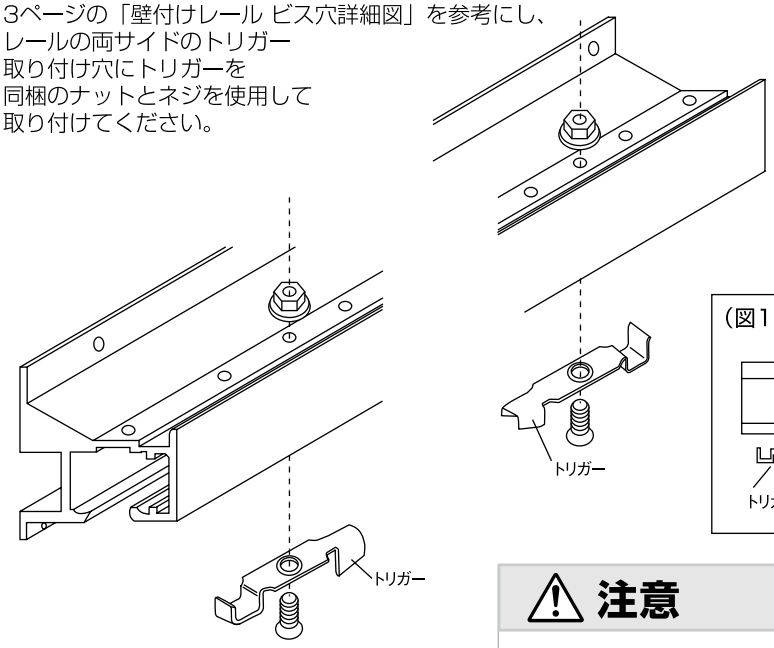
⚠ 注意

・レール取り付けビスを打ち込む場所にはビスがきちんと効くように、下地の補強を確実におこなっておいてください。（3P参照）
・吊車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。

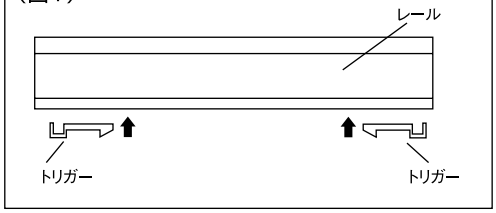
⑥トリガー、ブレーキ作動板の取り付け

両側ソフトクローズ機構ありの場合

3ページの「壁付けレール ビス穴詳細図」を参考にし、
レールの両サイドのトリガー
取り付け穴にトリガーを
同梱のナットとネジを使用して
取り付けてください。



（図1）

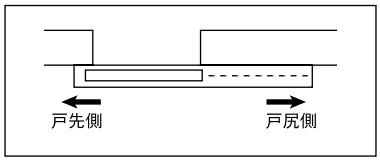


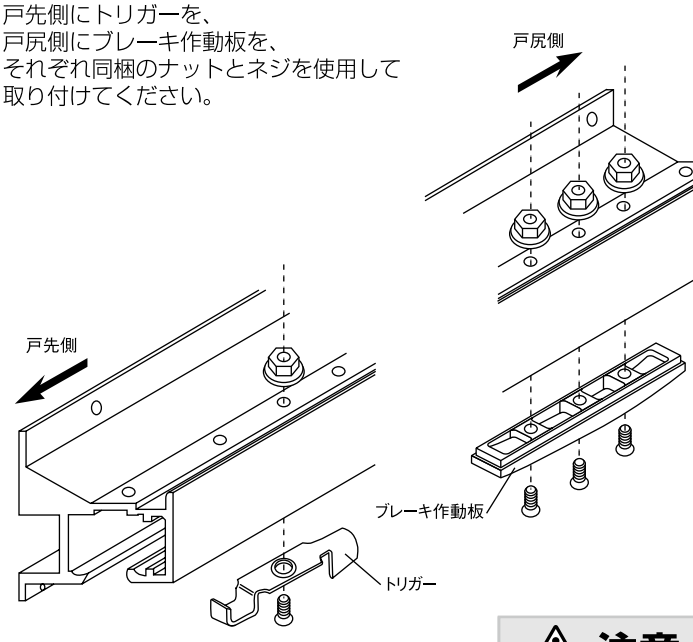
⚠ 注意

トリガーの取り付け向きに気をつけてください。（図1参照）
向きを逆に取り付けると、ソフトクローズ機構がうまく作動しません。

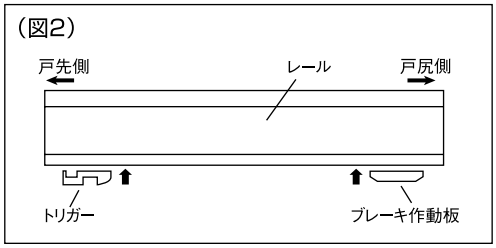
片側ソフトクローズ機構ありの場合

3ページの「壁付けレール ビス穴詳細図」を参考にし、
戸先側にトリガーを、
戸尻側にブレーキ作動板を、
それぞれ同梱のナットとネジを使用して
取り付けてください。





（図2）



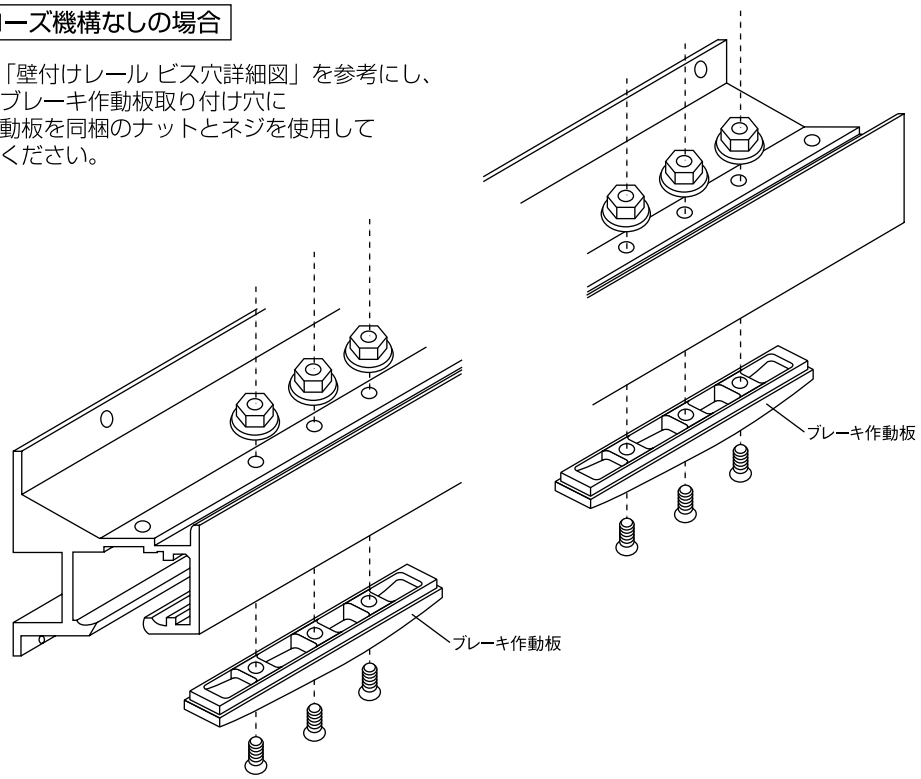
⚠ 注意

トリガーの取り付け向きに気をつけてください。（図2参照）
向きを逆に取り付けると、ソフトクローズ機構がうまく作動しません。

アウトセット引き戸枠

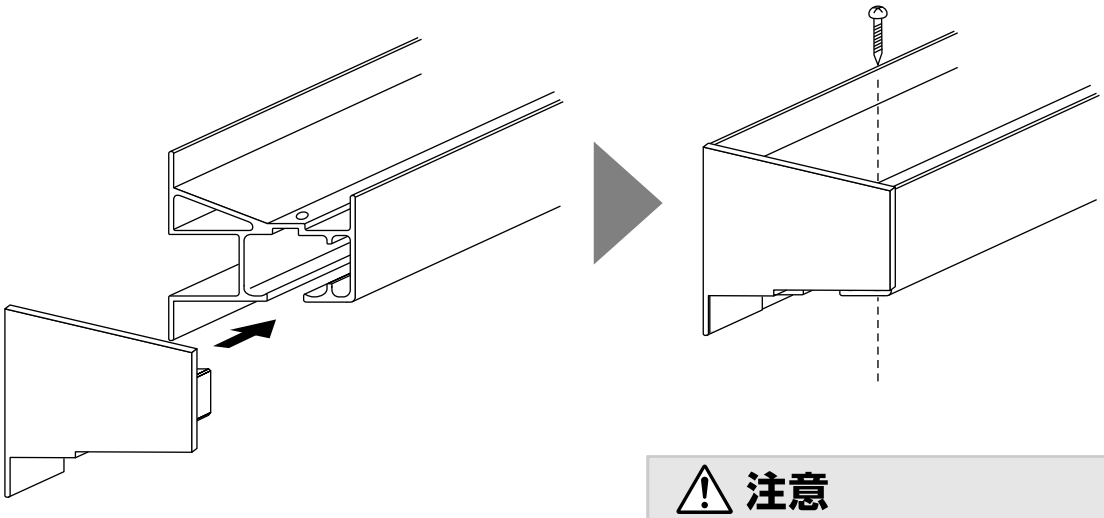
ソフトクローズ機構なしの場合

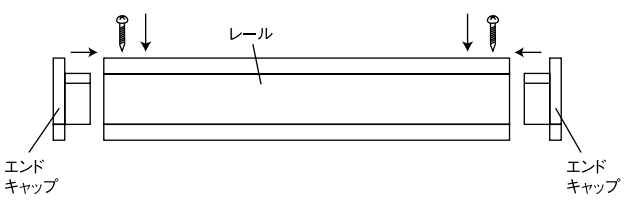
3ページの「壁付けレール ビス穴詳細図」を参考にし、
両サイドのブレーキ作動板取り付け穴に
ブレーキ作動板を同梱のナットとネジを使用して
取り付けてください。



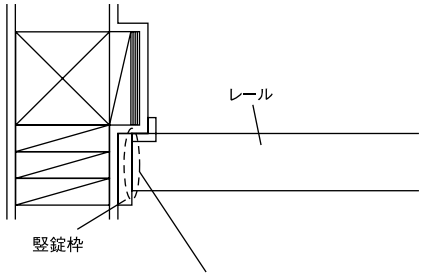
⑦エンドキャップの取り付け

壁付けレールの両サイドにエンドキャップを取り付け、同梱のビスで上から固定してください。





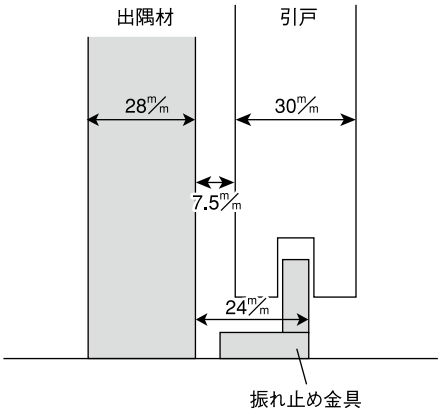
⚠ 注意

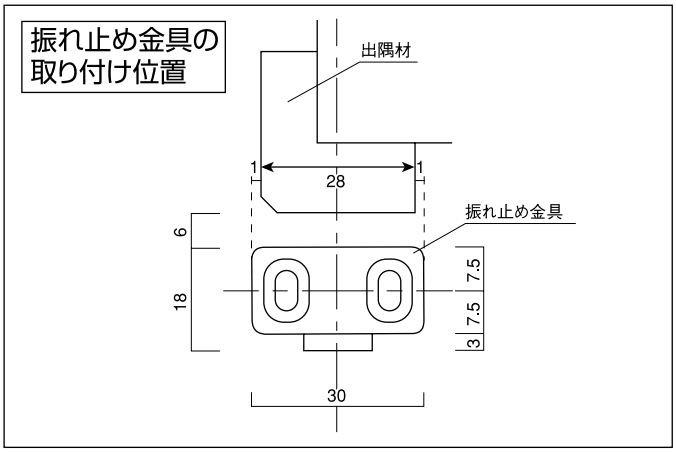


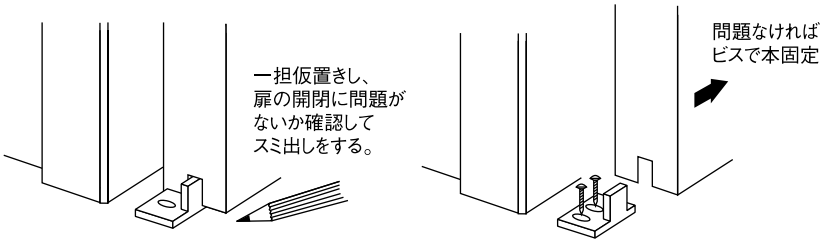
竪枠とレールが接する場合は、エンドキャップを取り付けないでください。

⑧振れ止め金具の取り付け

取り付け寸法を参考に振れ止め金具の取り付け位置を決めてください。本固定する前に一旦仮置きし、吊った扉が問題なく作動することを確認してから、同梱の取り付けビスで本固定させてください。







施工終了後

養生

当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

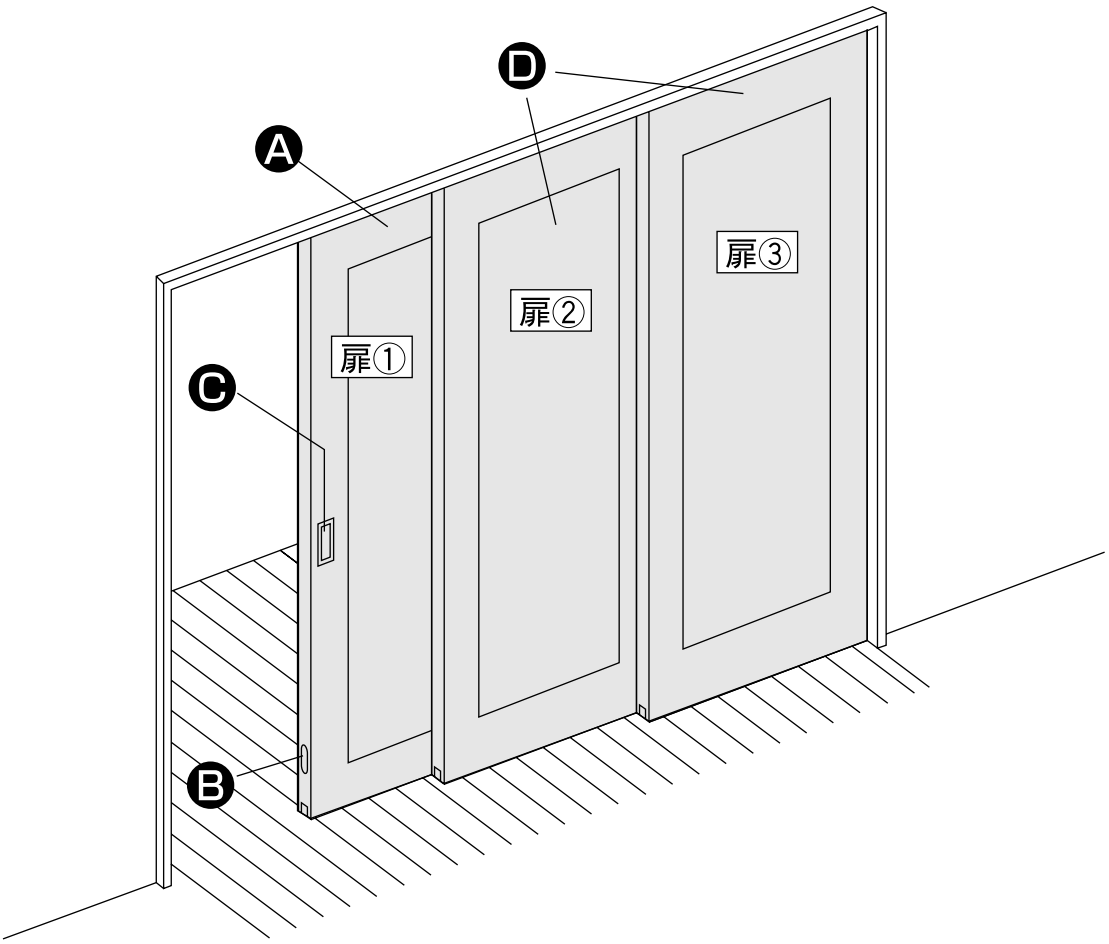
（間口９尺・12尺）

間仕切システム　連動引戸

開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



扉① 梱包内訳表

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	引き戸	1枚	
Ⓑ	振れ止め金具	1個	取付済
📖	施工説明書	1部	
📖	使用説明書	1部	必ずお施主様にお渡しください

引き手（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	引き手	1セット	ビス同梱

扉② 扉③ 梱包内訳表

	部材名	数量	備　考
Ⓓ	引き戸	1枚	引き手加工無し
📖	施工説明書	1部	
📖	使用説明書	1部	

※間口9尺タイプは扉②のみです。

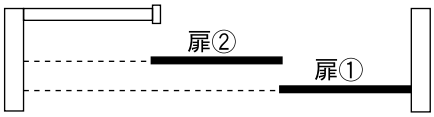
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

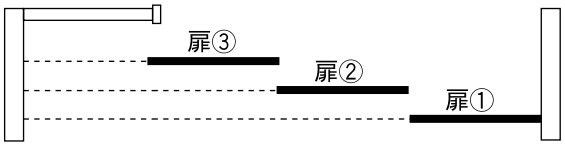
施工手順

引き戸の取り付け

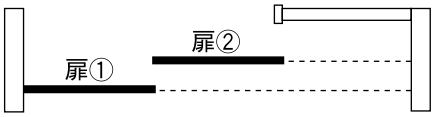
〈間口9尺タイプ〉左引き（L）



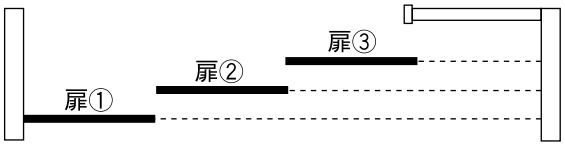
〈間口12尺タイプ〉左引き（L）



〈間口9尺タイプ〉右引き（R）

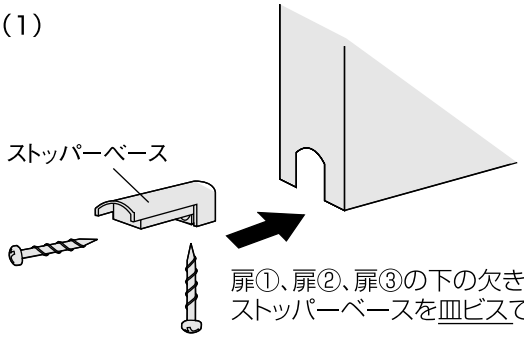


〈間口12尺タイプ〉右引き（R）



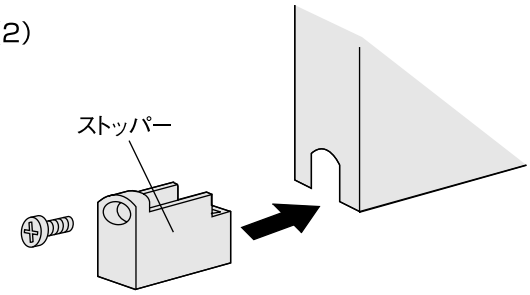
ストッパーの取り付け（枠材に同梱）

（1）



扉①、扉②、扉③の下の欠き込みに
ストッパーベースを皿ビスで固定します。

（2）



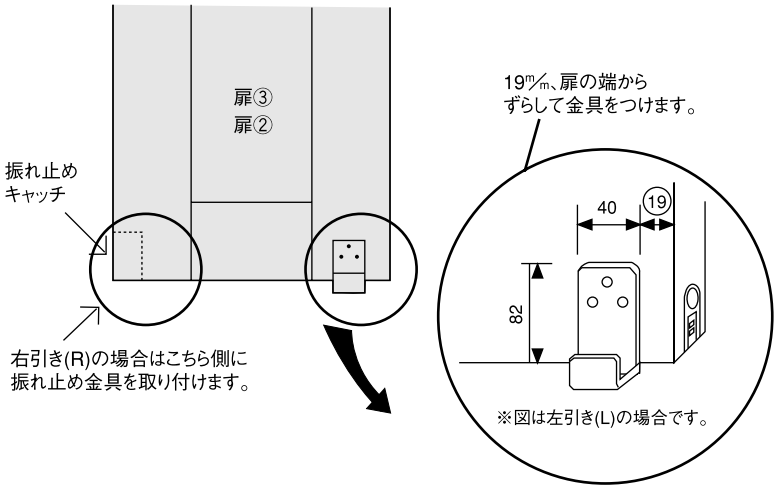
ストッパー本体をベースに専用ビスで固定します。

お願い

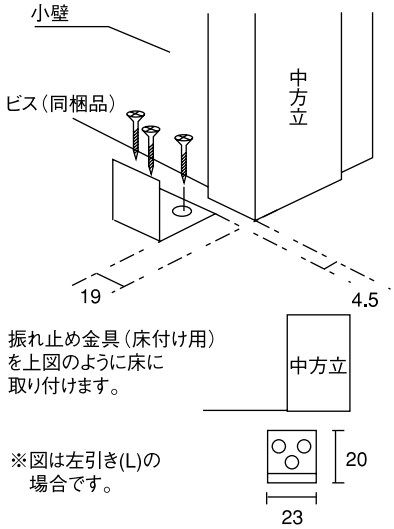
- ストッパーベースを組み付ける前にビス下穴（φ2.5、深さ50㎜）をあけてください（基材割れ防止）

振れ止め金具の取り付け

（1）3連引き戸の場合は扉②·③に、2連引き戸の場合は扉②に振れ止め金具（扉用）を図の位置に取り付けます。



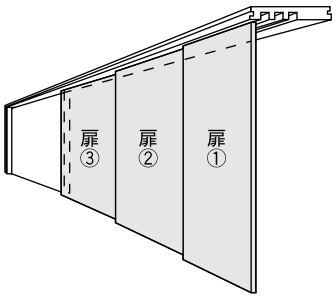
振れ止め金具（床付け用）



（間口９尺・12尺）

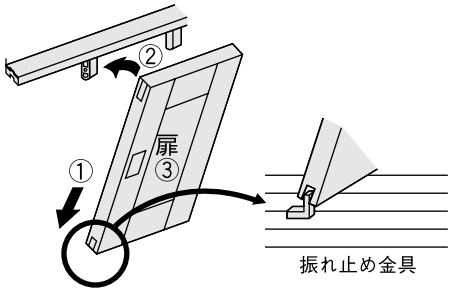
間仕切システム　連動引戸

引き戸の取り付け

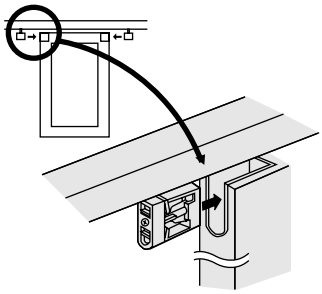


扉③、扉②、扉①、の順で吊り込みます。
（2連の場合は扉②、扉①の順）
※図は左引き（L）の場合です。

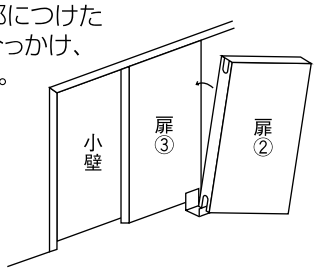
（1）扉③を床につけた
振れ止め金具にひっかけ、
扉③をおこします。



（2）吊り車をスライドさせ、
固定カップにカチッと
音がするまで差し込んでください。



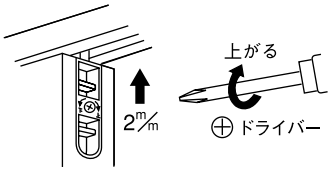
（3）扉②を扉③の下部につけた
振れ止め金具にひっかけ、
扉②をおこします。



（4）（2）と同様に吊り車を差し込んでください。

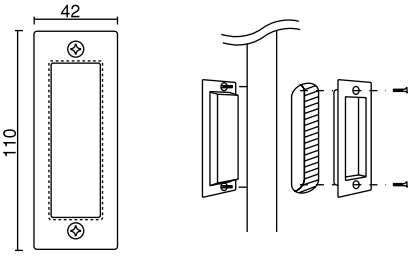
（5）扉①は（3）、（4）の手順で取り付けてください。

（6）吊り車の調整を行い、
扉を全て2㎜上に
上げてください。



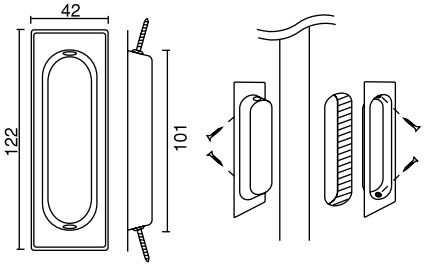
引き手の取り付け

〈角タイプ引き手の場合〉



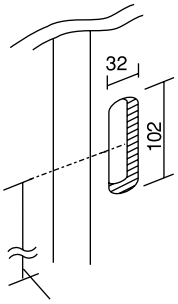
1セットを同梱のビスで水平にとめます。

〈Rタイプ引き手の場合〉



片側ずつ同梱のビスで斜めにとめます。
表・裏ともにビスでとめます。

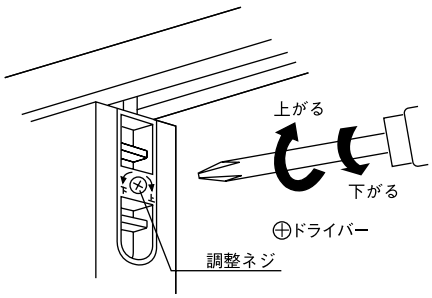
引き手加工穴



引き手加工穴センター
引き戸下端より957.5㎜

お願い　電動ドライバーによるビス止めは、引き手を破損するおそれがありますのでご遠慮ください。

吊り車の上下調整



扉と鴨居に隙間が生じたときは、
上図のように調整ネジで調整します。

施工終了後

養生	当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。
お手入れのしかた	引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。
使用説明書の手渡し	同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

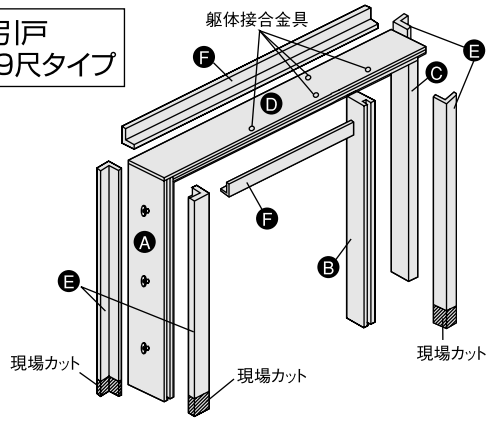
連動引き戸枠

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

連動引戸
間口9尺タイプ



梱包内訳表

枠材本体

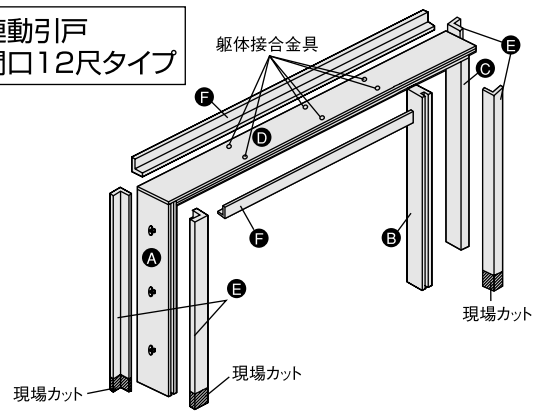
	部材名	数量	備　考	
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済	
Ⓑ	竪枠（中方立）	1本	正寸カット済	
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済	
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済	
	レール	2本	躯体接合金具下穴加工済のうち1本	
	吊り車	4個		
	ストッパー	4個		
	振れ止め金具（床付け用）	1個	ビス同梱	金具セット
	振れ止め金具（扉用）	1個	ビス同梱	
	戸じゃくり用キャップ	1個		
	組み立て専用ビス	6本		
	躯体接合金具用ビス	14本		
	躯体接合金具用キャップ	8個		
	ミニレンチ	1本		ビスセット
	木ダボ	2本		
	クッションキャップ	4個		
	レールビス	30本		
	モヘア	1本		
	振れ止め枠用金具（マグネット）	1個		
	施工説明書	1部	ビス同梱（2本）	

ケーシングセット

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	ケーシング たて用	4本	現場カット
Ⓕ	ケーシング カモイ用	2本	現場カット

全体図

連動引戸
間口12尺タイプ



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考	
Ⓐ	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済	
Ⓑ	竪枠（中方立）	1本	正寸カット済	
Ⓒ	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済	
Ⓓ	鴨居	1本	正寸カット済	
	レール	2本	正寸カット済	
	レール	1本	躯体接合金具下穴加工済	
	吊り車	6個		
	ストッパー	6個		金具セット
	振れ止め金具（床付け用）	1個		
	振れ止め金具（扉用）	2個	ビス同梱	
	戸じゃくり用キャップ	1個	ビス同梱	
	組み立て専用ビス	6本		
	躯体接合金具用ビス	14本		
	躯体接合金具用キャップ	8個		ビスセット
	ミニレンチ	1本		
	木ダボ	2本		
	クッションキャップ	4個		
	レールビス	30本		
	モヘア	1本		
	振れ止め枠用金具	1個		
	施工説明書	1部	ビス同梱（2本）	

ケーシングセット

	部材名	数量	備　考
Ⓔ	ケーシング たて用	4本	現場カット
Ⓕ	ケーシング カモイ用	1本	現場カット

お願い

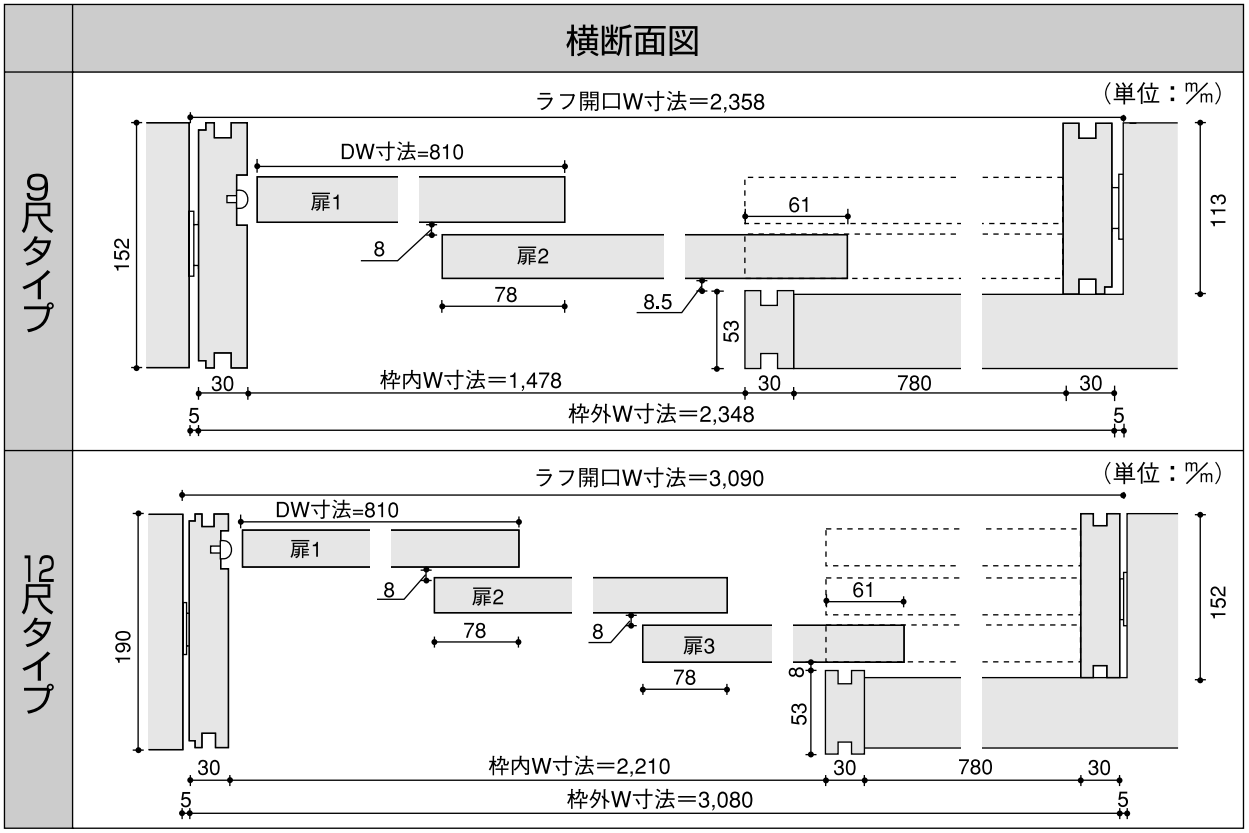
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

連動引き戸枠

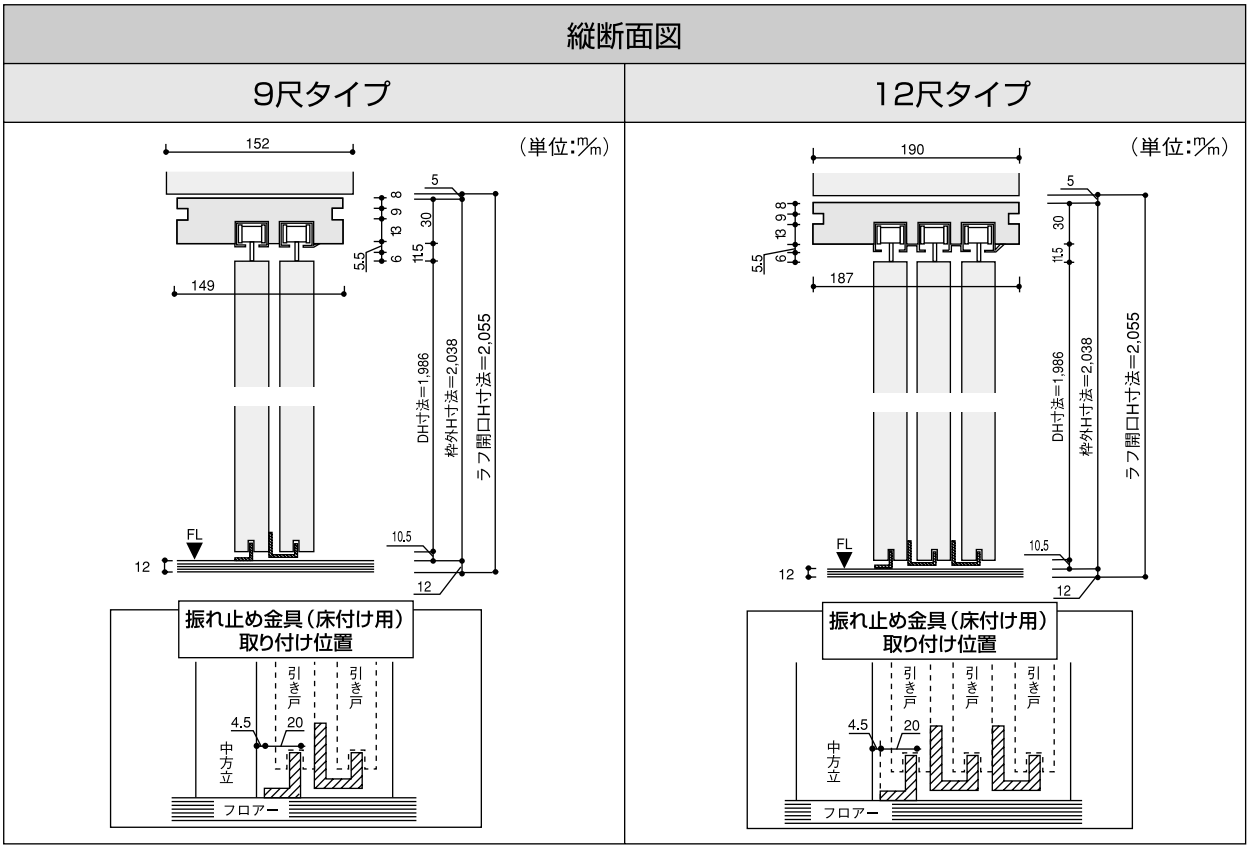
2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

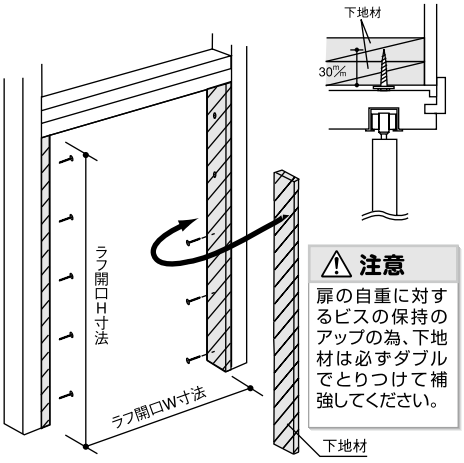


縦断面図



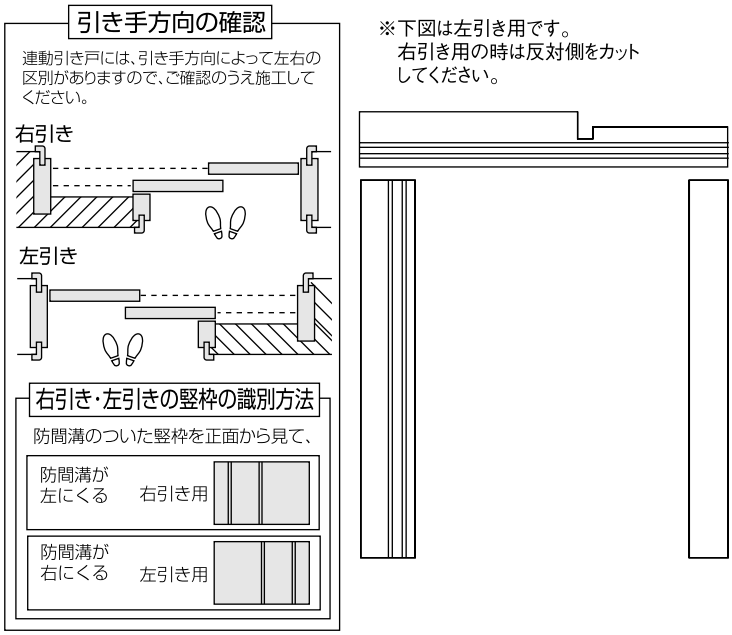
3. 施工手順

取り付け開口部の確認

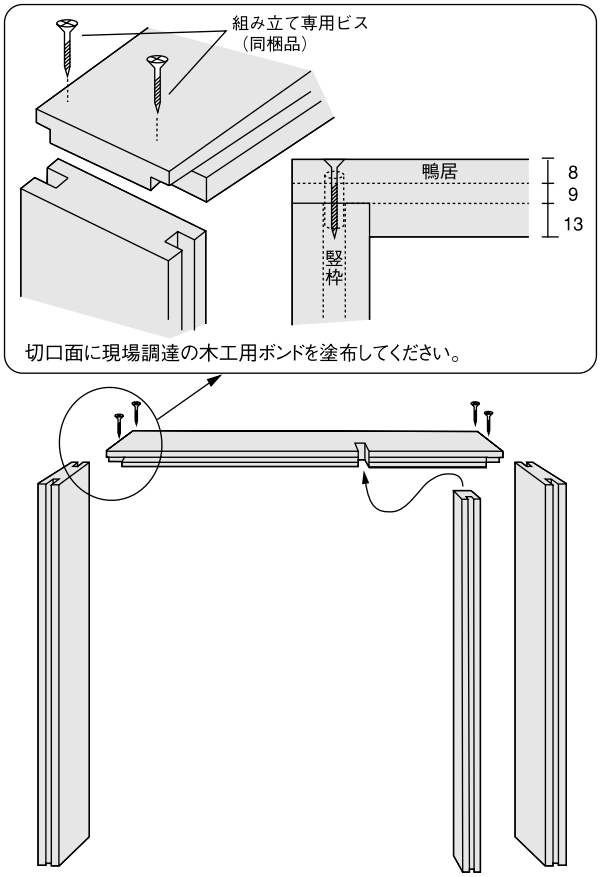


開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

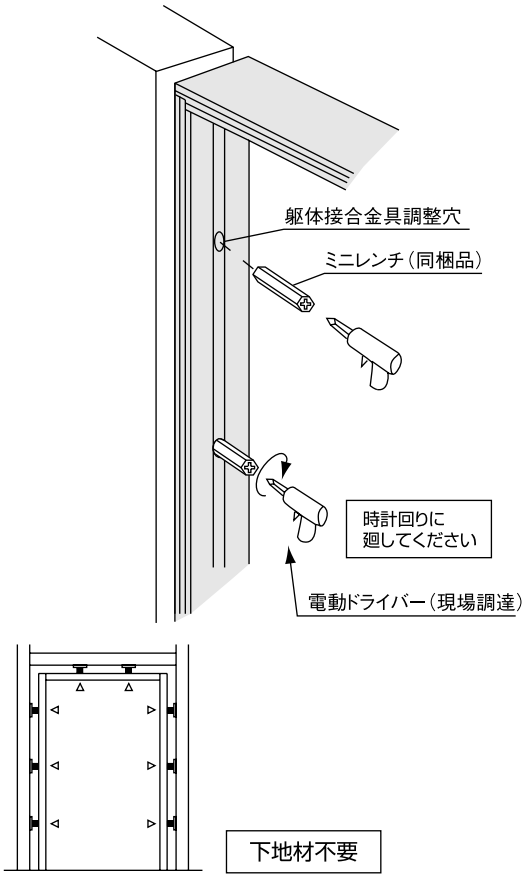
枠材の組み立て（前準備）



枠材の組み立て



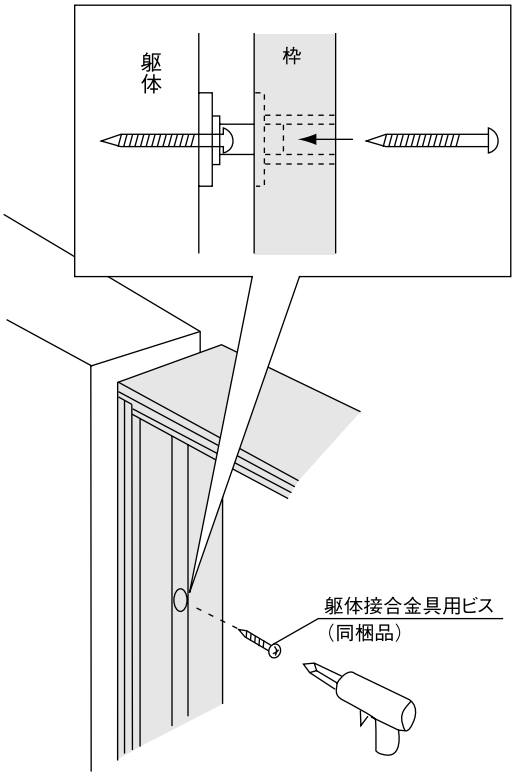
枠材の仮固定



調整枠

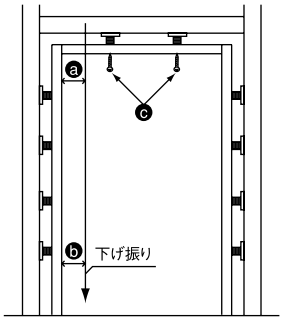
連動引き戸枠

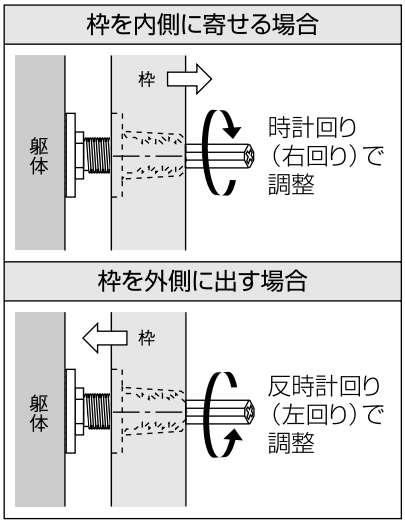
竪枠の本固定



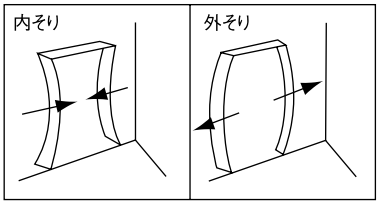
建て付け調整ならびに鴨居の本固定

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

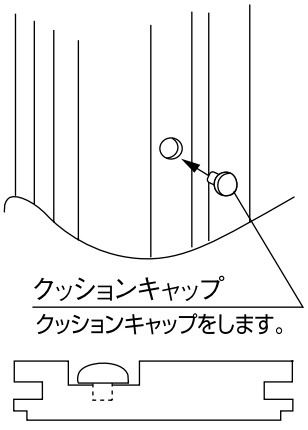


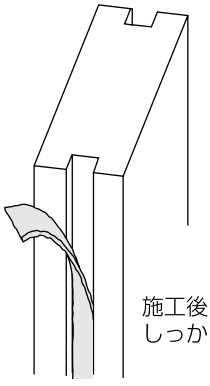


※下記の様なことがないようご注意ください。



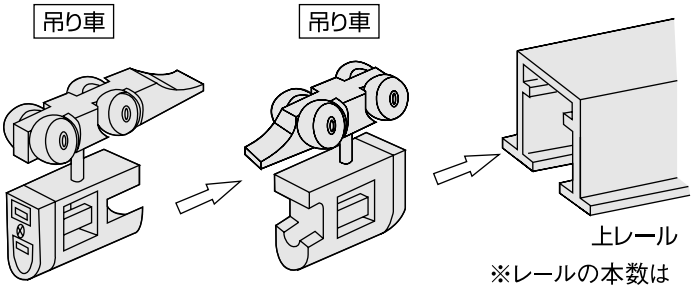
キャップの取り付け



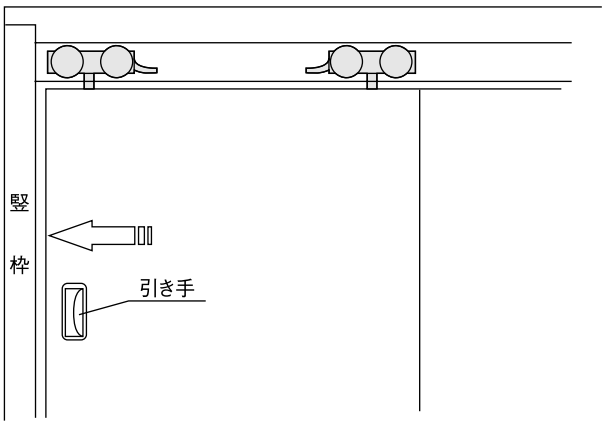


施工後にモヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

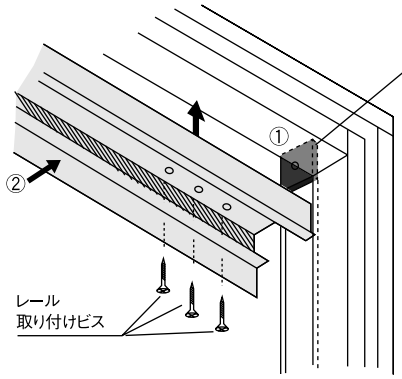
吊り車の挿入



※レールの本数は
9尺の場合 2本
12尺の場合 3本
です。



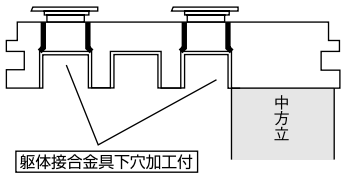
戸じゃくりキャップおよび上レールの取り付け



①レール取付前に矢印方向を鴨居側にして、戸じゃくりキャップを取り付けてください。

上レールを鴨居に取り付けます。

12尺タイプの場合

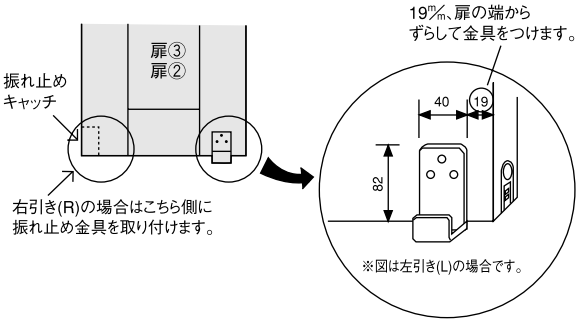


⚠ 注意

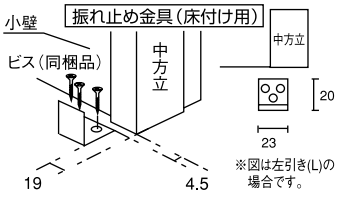
上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

振れ止め金具の取り付け

（1）3連引き戸の場合は扉②・③に、2連引き戸の場合は扉②に振れ止め金具（扉用）を図の位置に取り付けます。

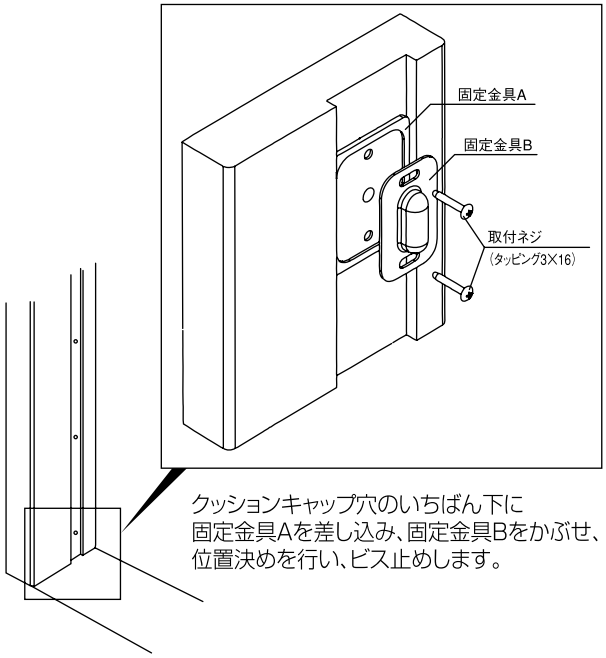


振れ止め金具（床付け用）を右図のように床に取り付けます。



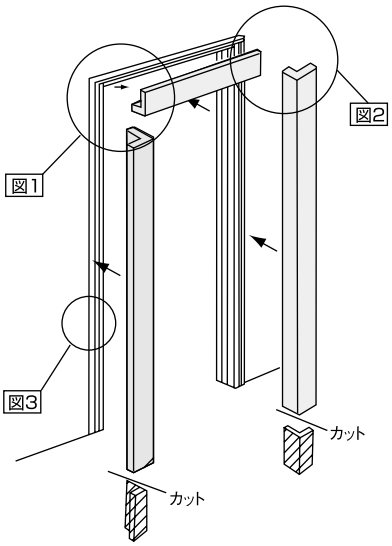
振れ止め金具枠用の取り付け

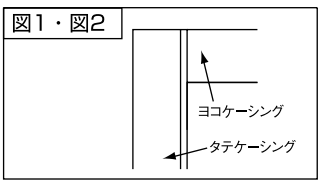
扉が振れることを防止するため、振れ止め金具枠用（マグネット）を取り付けます。

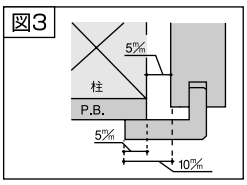


クッションキャップ穴のいちばん下に固定金具Aを差し込み、固定金具Bをかぶせ、位置決めを行い、ビス止めします。

ケーシングの取り付け







施工終了後

養生 当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

天井ジャストシリーズ

天井ジャストシリーズ専用枠材	建具本体説明書	掲載ページ
天井ジャスト インセット開き戸枠 ・・・・・	内装ドア	P.9～
天井ジャスト インセット引き戸枠 ・・・・・	上吊り引き戸	P.148～
天井ジャスト アウトセット引き戸枠 ・・・・	上吊り引き戸	P.148～
天井ジャスト クローゼットドア枠 ・・・・・・	クローゼットドア	P.244～
天井ジャスト 収納両開き戸枠 ・・・・・・・・	収納両開き戸	P.281～

※天井ジャストシリーズ専用枠材に対応する建具本体の施工説明書は上記掲載ページの説明書をご確認ください。

天井ジャストインセット開き戸枠

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳

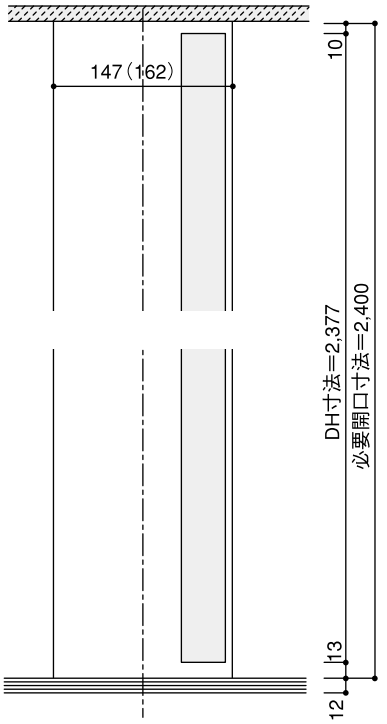
部材名	数量
竪枠	2本
竪枠用戸当り（換気）	※ 1本
竪枠用戸当り（非換気）	※ 1本
戸当り用ビス	15本

※気密タイプの場合は、竪枠用戸当り（非換気）が2本になり、竪枠用戸当り（換気）は同梱されません。

2. 納まり図

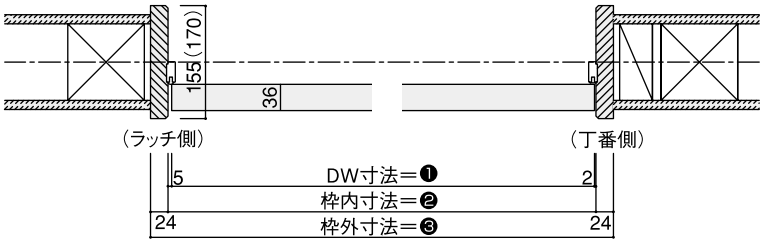
縦断面図

（単位:㎜）



横断面図

（単位:㎜）



※図示:右吊り元

❶ DW寸法	723	703	680	599
❷ 枠内寸法	730	710	687	606
❸ 枠外寸法	778	758	735	654

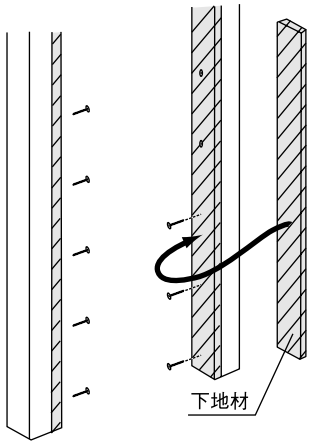
固定枠

天井ジャストインセット開き戸枠

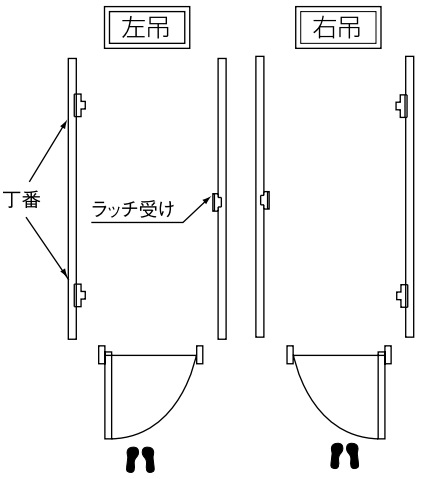
3. 施工手順

①取り付け開口部の確認・吊り元確認

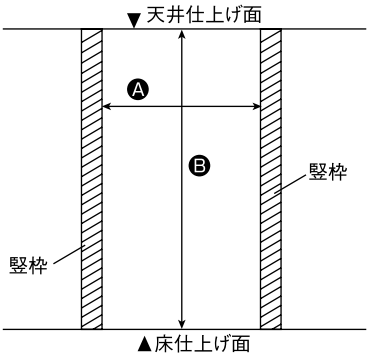
●取り付け開口部の確認



納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。



重要



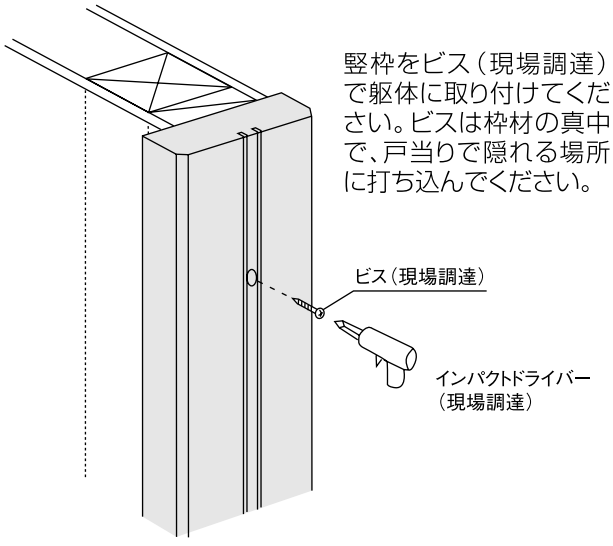
Ⓐ枠内寸法が納まり図と同寸法になるように開口を仕上げてください。

Ⓑ床仕上げ面から天井仕上げ面までがH＝2400㎜になるように仕上げてください。

⚠ 注意

Ⓐ・Ⓑ寸法が守られないと、ドアが納まらなくなる可能性があります。

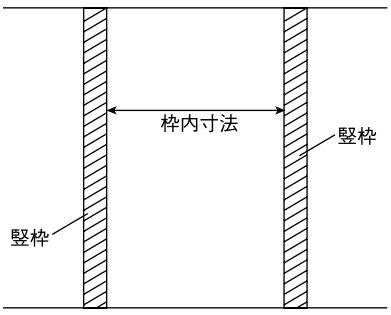
②竪枠の取り付け



竪枠をビス（現場調達）で躯体に取り付けてください。ビスは枠材の真中で、戸当りで隠れる場所に打ち込んでください。

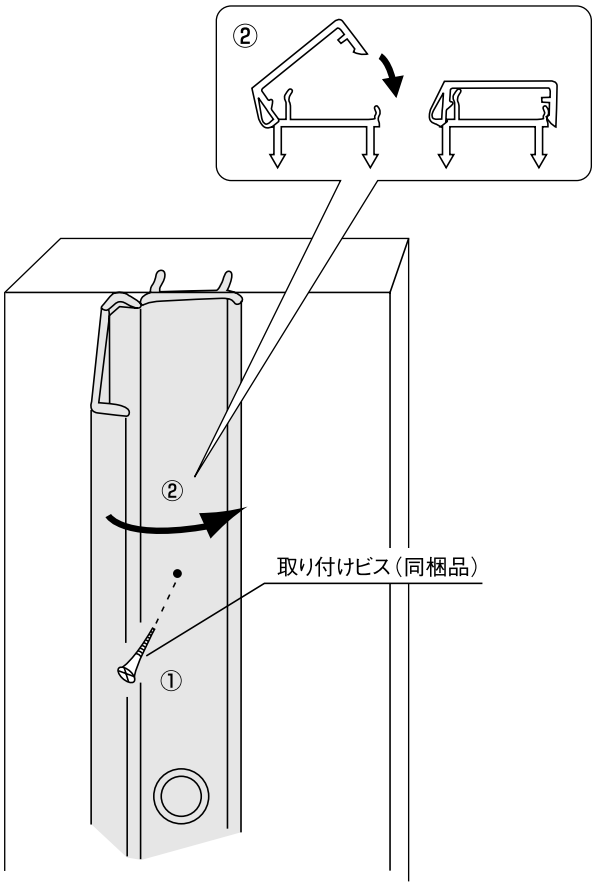
⚠ 注意

竪枠を取り付けるときは、納まり図をよく確認し、枠内寸法を確保してください。枠内寸法が異なっていると、ドアが取り付かない可能性があります。

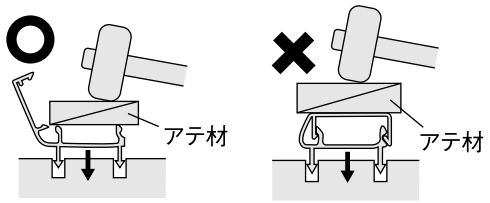


③戸当りの取り付け

戸当りを同梱のビスで取り付けます。



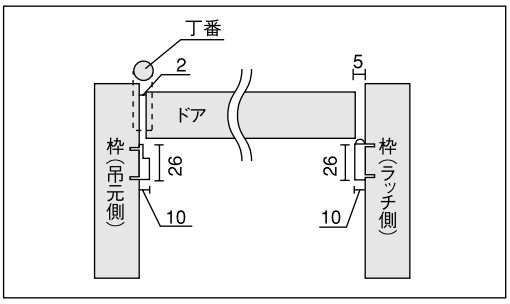
お願い



戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。
戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。

⚠ 注意

換気タイプの場合、戸当りの取り付け位置・向きにご注意ください。



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

天井ジャストインセット引き戸枠

1. 開梱

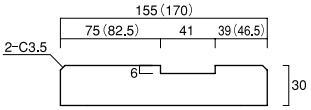
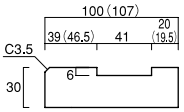
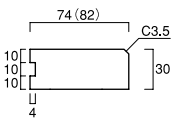
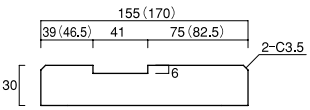
梱包内訳

	片引き戸	両側SC付き	片側SC付き	SC無し
	竪枠（戸先側）	1本		
	竪枠（戸尻側）	1本		
	中方立	1本		
	上レール	1本		
	上レール固定ビス	6本		
	モヘア	1本		
	ソフトクローズ付き吊車	2個	1個	
	吊車		1個	2個
	トリガー	2個	1個	
	トリガー取り付けビス	4本	2本	
	ブレーキ作動板		1個	2個
	ブレーキ作動板取り付けビス		3本	6本
	戸じゃくりキャップ	2個		
	キャップ取り付けビス	2本		
	クッションキャップ	8個		
	振れ止め金具	1個		
	振れ止め金具固定ビス	2本		

	引き違い戸	両側SC付き	片側SC付き	SC無し
	竪枠	2本		
	上レール	2本		
	上レール固定ビス	12本		
	ソフトクローズ付き吊車	4個	2個	
	吊車		2個	4個
	トリガー	4個	2個	
	トリガー取り付けビス	8本	4本	
	ブレーキ作動板		2個	4個
	ブレーキ作動板取り付けビス		6本	12本
	戸じゃくりキャップ	2個		
	キャップ取り付けビス	2本		
	クッションキャップ	8個		
	振れ止め金具	2個		
	振れ止め金具固定ビス	4本		

	引き分け戸	両側SC付き	片側SC付き	SC無し
	竪枠	2本		
	中方立	2本		
	上レール	1本		
	上レール固定ビス	9本		
	モヘア	2本		
	ソフトクローズ付き吊車	4個	2個	
	吊車		2個	4個
	トリガー	4個	2個	
	トリガー取り付けビス	8本	4本	
	ブレーキ作動板		2個	4個
	ブレーキ作動板取り付けビス		6本	12本
	戸じゃくりキャップ	2個		
	キャップ取り付けビス	2本		
	クッションキャップ	8個		
	引分ストッパー	1個		
	ストッパー取り付けビス	2本		
	振れ止め金具	2個		
	振れ止め金具固定ビス	4本		

	4枚引き違い戸	両側SC付き	片側SC付き	SC無し
	竪枠	2本		
	上レール	2本		
	上レール固定ビス	18本		
	ソフトクローズ付き吊車	8個	4個	
	吊車		4個	8個
	トリガー	8個	4個	
	トリガー取り付けビス	16本	8本	
	ブレーキ作動板		4個	8個
	ブレーキ作動板取り付けビス		12本	24本
	戸じゃくりキャップ	2個		
	キャップ取り付けビス	2本		
	クッションキャップ	8個		
	振れ止め金具	4個		
	振れ止め金具固定ビス	8本		

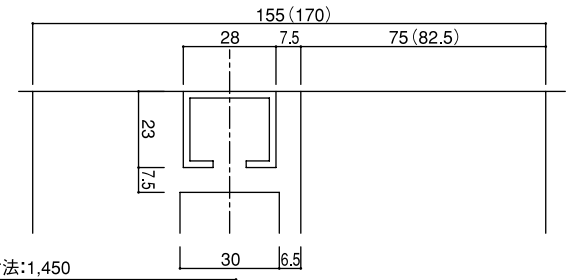
片引き戸・引き分け戸（②・③のみ）※下記部材図は右引きの場合			引き違い戸
①竪枠（戸先側）	②竪枠（戸尻側）	③中方立て	竪　枠
			

※（　）内寸法は170巾の場合

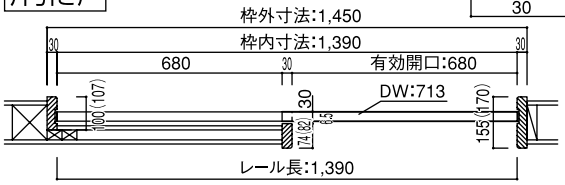
2. 納まり図

横断面図 （単位:㎜）

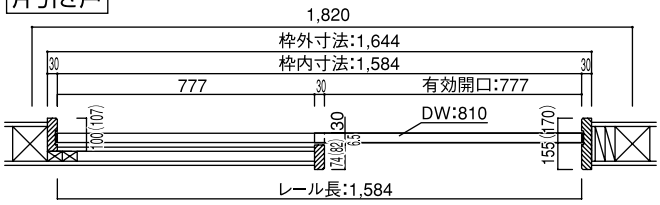
（　）内寸法は170巾の場合
※納まり図は右引きの場合



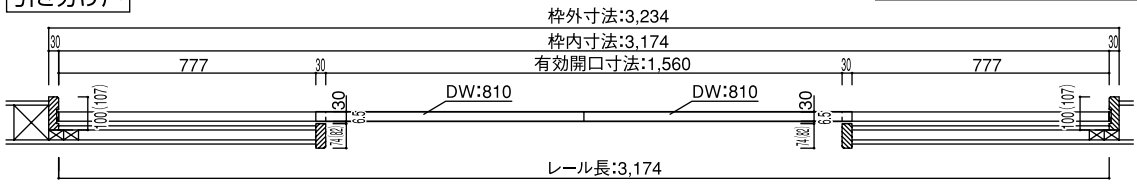
片引き戸



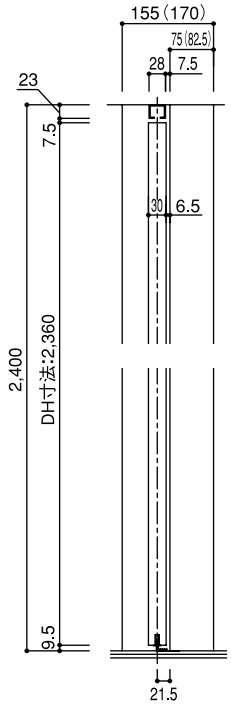
片引き戸



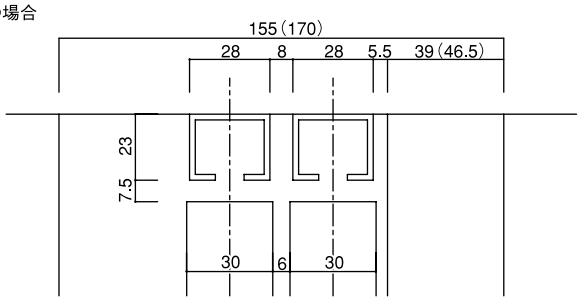
引き分け戸



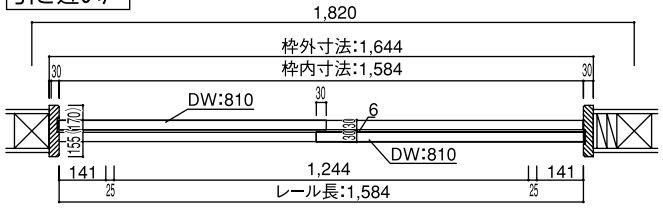
縦断面図 （単位:㎜）



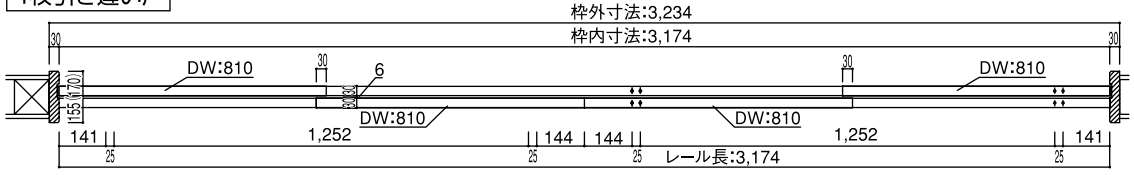
（　）内寸法は170巾の場合



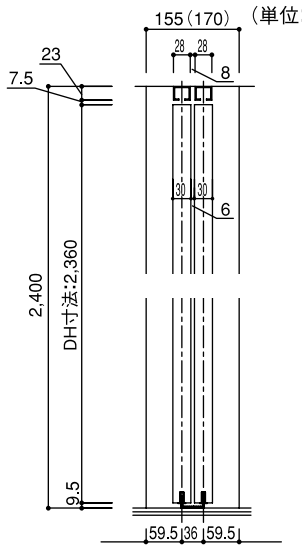
引き違い戸



4枚引き違い戸



縦断面図 （単位:㎜）

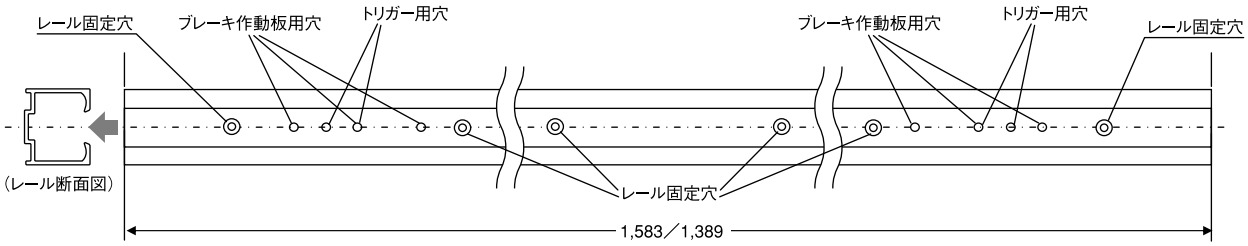


天井ジャストインセット引き戸枠

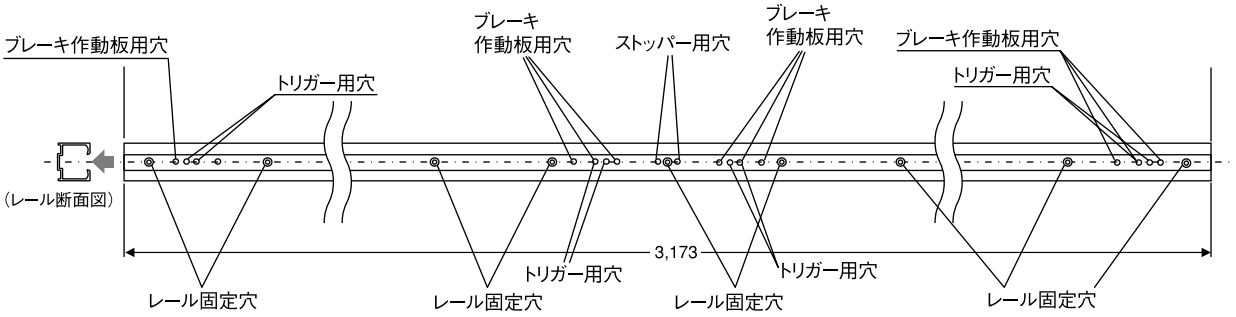
上吊レールビス穴詳細図

（単位:㎜）

L=1,583（片引き・引き違い用）
L=1,389（片引き用）



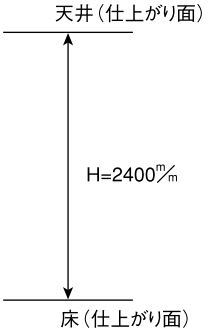
L=3,173（4枚引き違い・引き分け用）

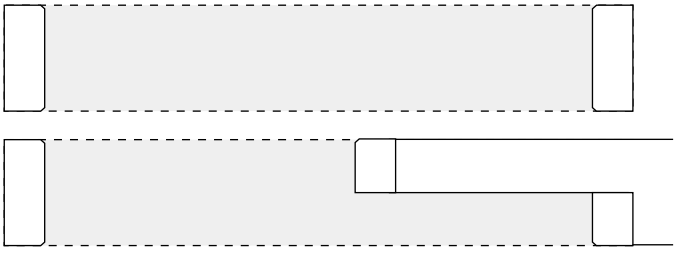


※上記図はレール断面図の矢印の方向からみた図です。

3. 施工手順

①開口部の確認





⚠ 注意

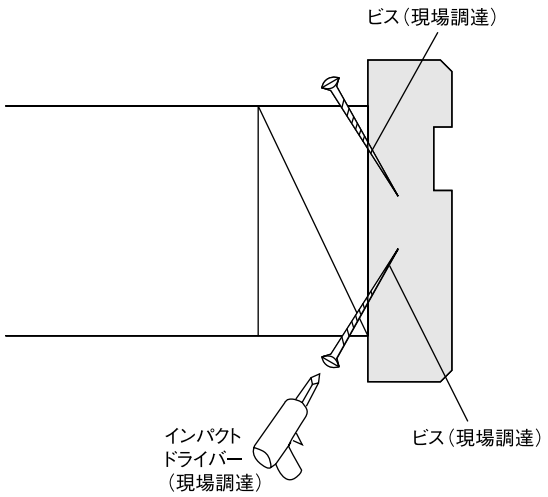
扉の高さがH=2360㎜になります。
天井高がH=2400㎜になるように仕上げてください。

⚠ 注意

竪枠の内々に天井取り付けの上吊レールが取り付きます。枠の内々の天井部分は荷重に耐えられるように必ず補強をおこなってください。天井下地の補強が不十分だと、扉、上吊レールが脱落・転倒するおそれがあります。
※天井下地にはLV野縁システムを推奨します。

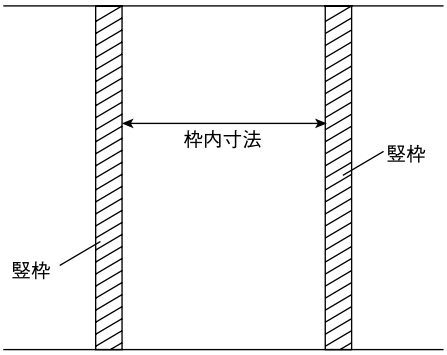
②竪枠の取り付け

枠材を躯体側から固定します。

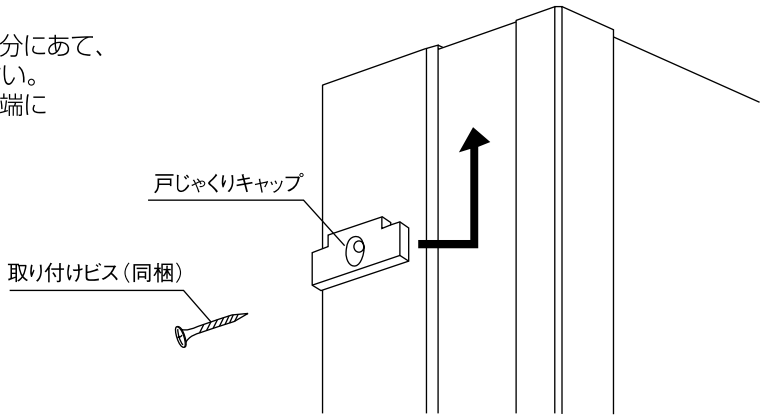


⚠ 注意

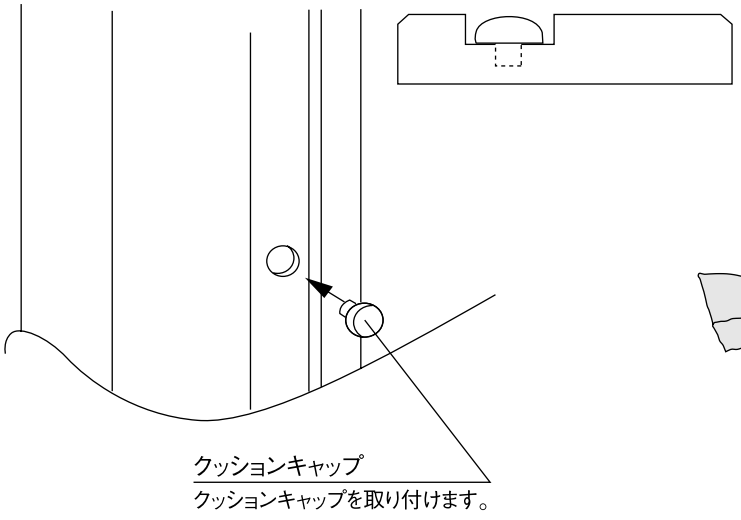
竪枠を取り付けるときは、納まり図をよく確認し、枠内寸法を確保してください。枠内寸法が異なっていると扉が納まらない可能性があります。

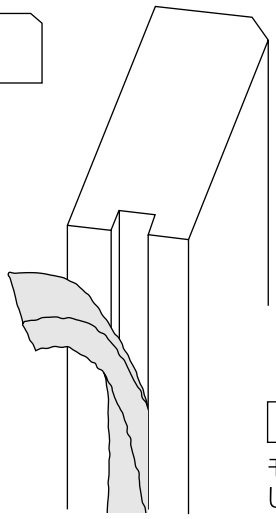


戸じゃくりキャップを竪枠の戸じゃくり部分にあて、同梱の取り付けビスで取り付けてください。
このとき、戸じゃくりキャップは竪枠の上端に合わせて取り付けてください。



③クッションキャップ・モヘアの取り付け





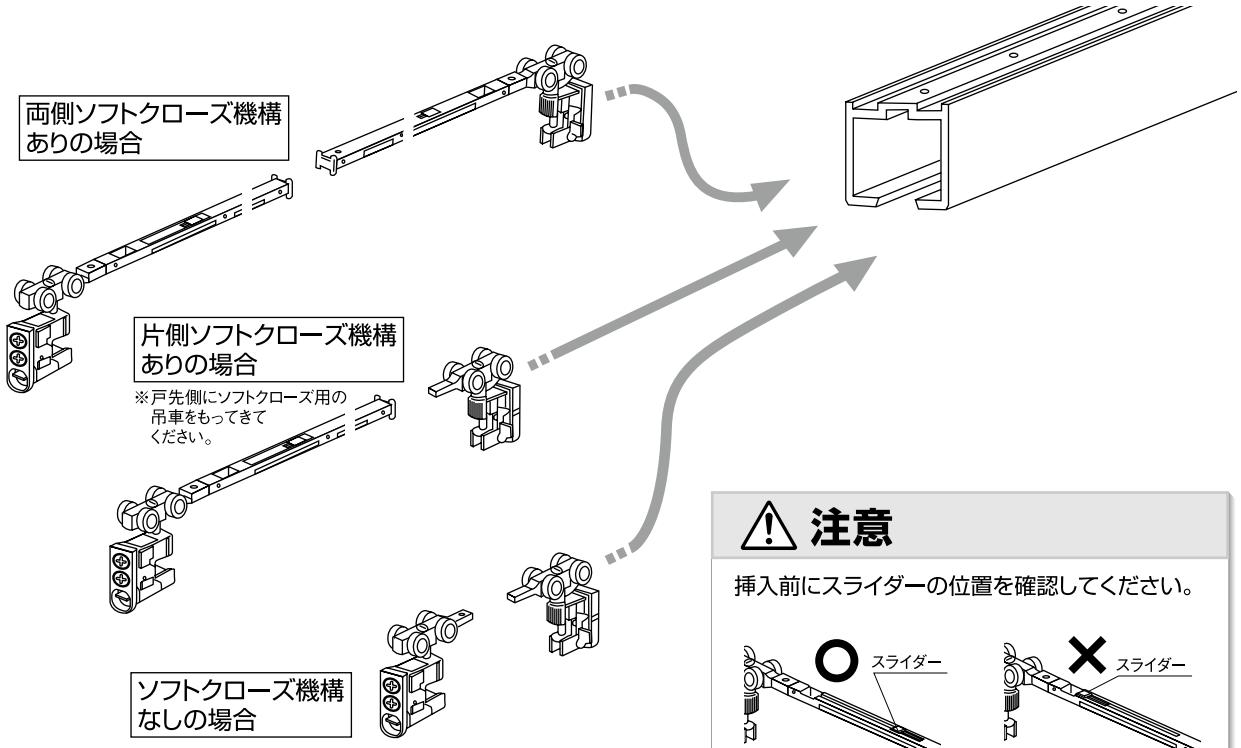
片引き戸の場合のみ

モヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

天井ジャストインセット引き戸枠

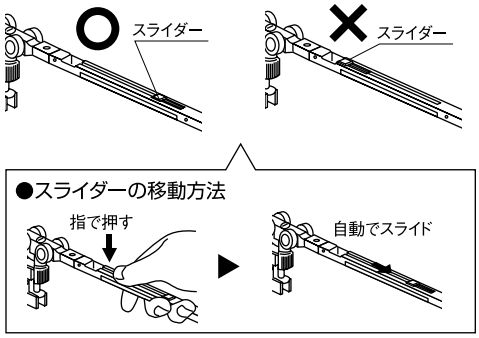
④吊車の挿入

上吊レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により、
図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないので注意してください。



⚠ 注意

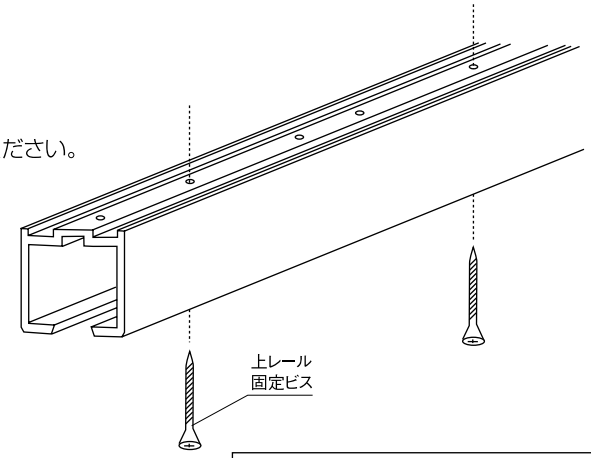
挿入前にスライダーの位置を確認してください。



⑤上吊レールの固定

竪枠取り付け後、天井のクロス仕上げ後に
上吊レールを取り付けてください。

4ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参照し、
レール固定穴に同梱の取り付けビスで確実に固定させてください。
※ビスを取り付ける前に下穴をあけておいてください。



- L=1,583 L=1,389の場合……6ヵ所固定
- L=3,173の場合……9ヵ所固定

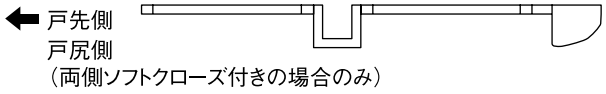
⚠ 注意

・レール取り付けビスを打ち込む場所にはビスがきちんと効くように下地の補強を確実に行っておいてください。（4P参照）
・吊車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。

⑥トリガー・ブレーキ作動板・引分ストッパーの取り付け

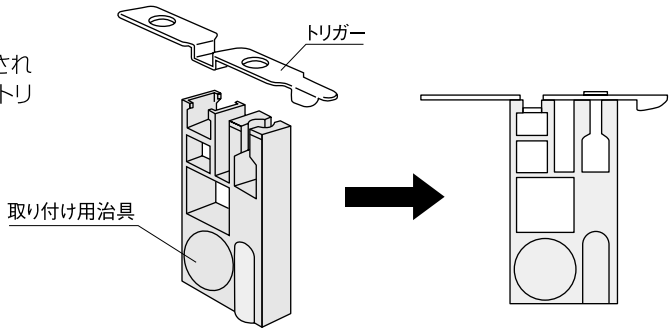
ソフトクローズ仕様の場合、4ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参考に、トリガー用穴にトリガーを同梱のビスで取り付けます。
※ビスを取り付ける前に下穴をあけておいてください。

①トリガー取り付け方向



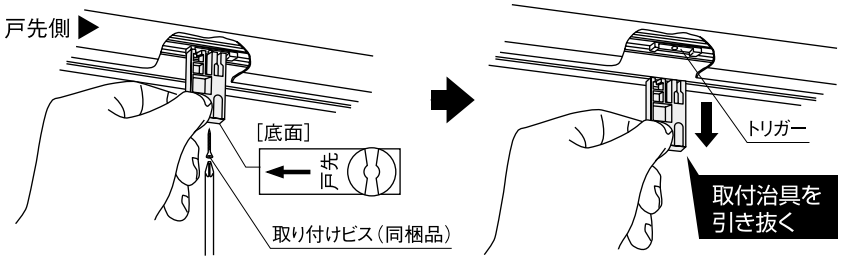
②取り付け用治具とトリガーセットの確認

本品は出荷時、トリガーと取り付け用治具がセットされている状態ですが、外れている場合は図のようにトリガーを取り付け用治具へセットしてください。



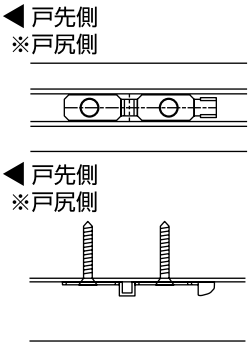
③トリガーの取り付け

トリガーをセットした取り付け用治具を上吊レール内側のトリガー用穴へ押し当てて同梱の専用ビスを治具ビス穴に通し、トリガーを固定します。



固定されたら、取り付け治具を下に引っ張って抜いてください。トリガーの固定は2ヵ所となっています。取り付け用治具を引き抜いた後、もう1ヵ所のビス穴に、同梱の取り付けビスで固定してください。

トリガー・上吊レール納まり図



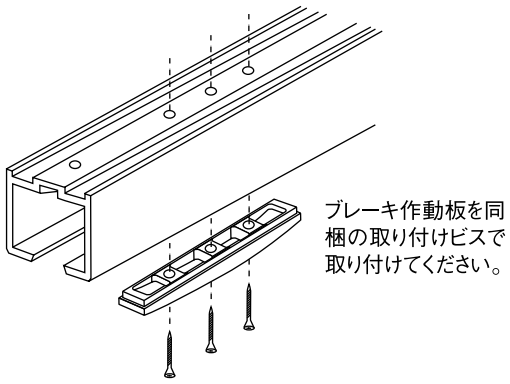
※両側ソフトクローズ付きの場合のみ

⚠ 注意

トリガーの取り付けは、手回しドライバーにて行ってください。トリガーがしっかりと取り付けされていない場合、ソフトクローズ機構の動作不良の原因となります。

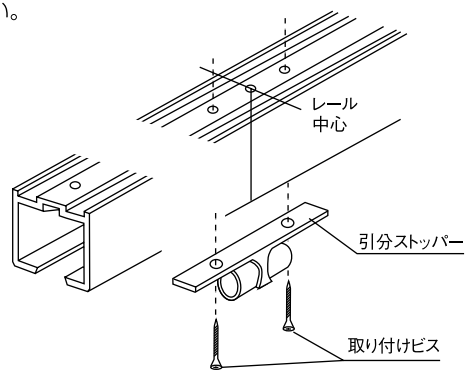
①ブレーキ作動板の取り付け方

4ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参考に、トリガーと逆側（片側SC付の場合）もしくは、両側（SC無しの場合）のブレーキ作動板用穴に取り付けてください。



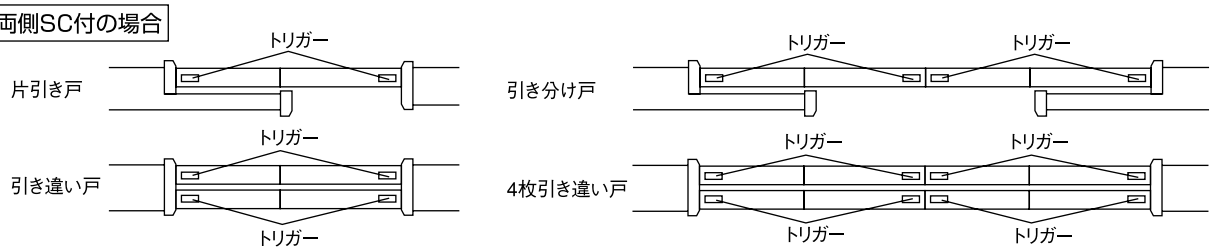
引き分けの場合のみ

4ページの「上吊レールビス穴詳細図」を確認し、ストッパー用穴に引分ストッパーを同梱の取り付けビスで取り付けてください。

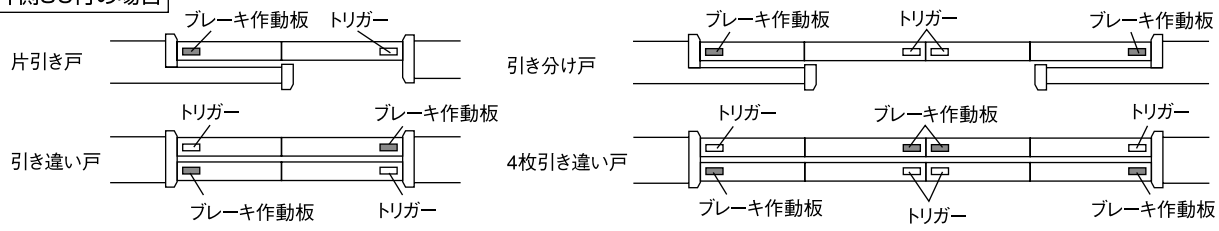


天井ジャストインセット引き戸枠

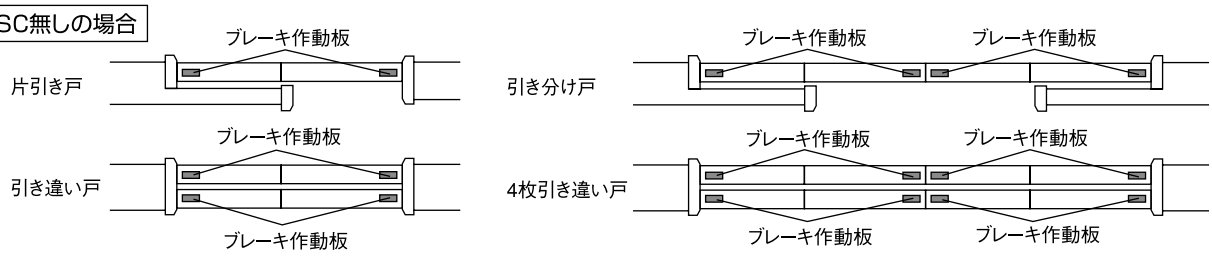
両側SC付の場合



片側SC付の場合

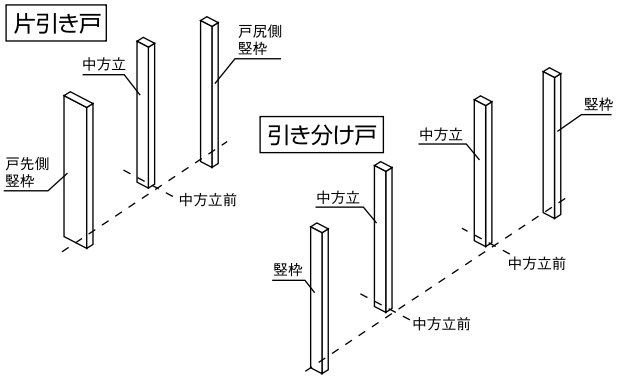


SC無しの場合

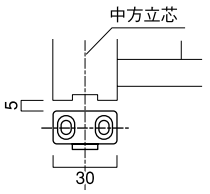


⑦振れ止め金具の取り付け

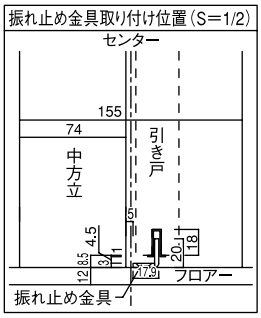
片引き戸



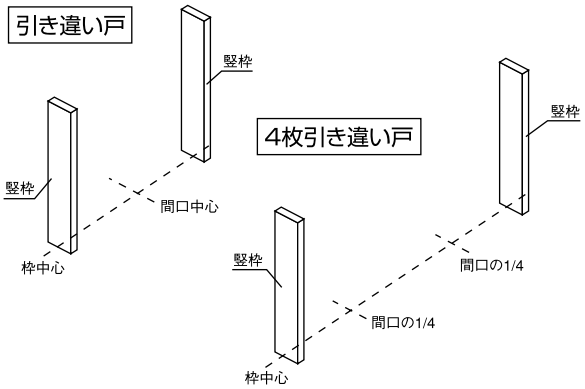
※一旦仮置きし、引戸の開閉に支障がないことを確認してから本固定してください。



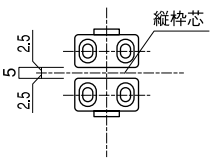
振れ止め金具取り付け位置（S=1/2）



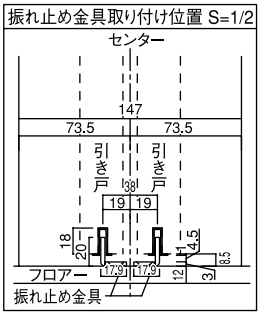
引き違い戸



※一旦仮置きし、引戸の開閉に支障がないことを確認してから本固定してください。



振れ止め金具取り付け位置 S=1/2



施工終了後

養生 当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

天井ジャストアウトセット引き戸枠

1. 梱包内訳

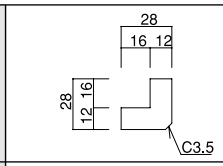
	部材名	数量
	上吊レール	1本
	レール固定ビス	6本
	エンドキャップ	2個
	エンドキャップ固定ビス	2本
	出隅材	2本
	ソフトクローズ機構付き吊車	2個

	部材名	数量
	トリガー	2個
	トリガー用固定ビス	4本
	振れ止め金具	1個
	振れ止め金具固定ビス	2本

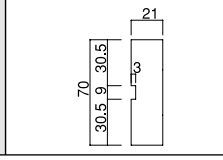
※間仕切錠を使用の場合のみ

	間仕切り用竪枠	1本
	モヘア	1本

出隅材

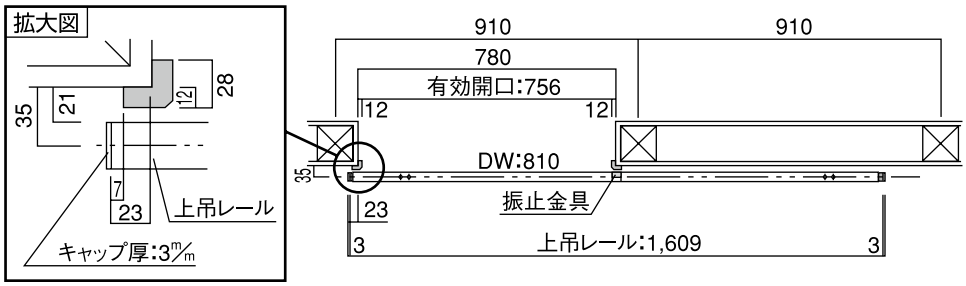


間仕切り用竪枠

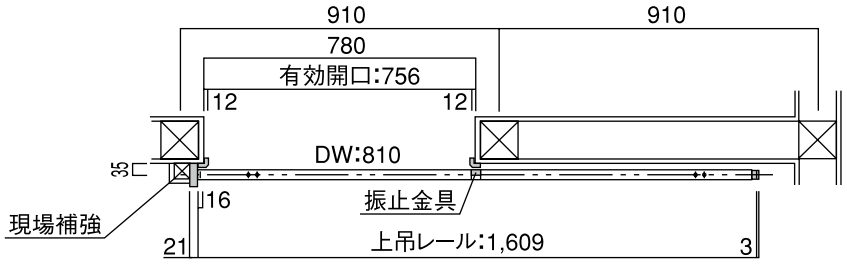


2. 納まり図

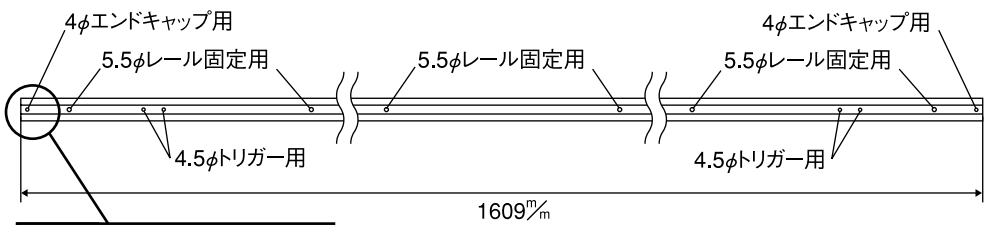
通常枠 納まり図

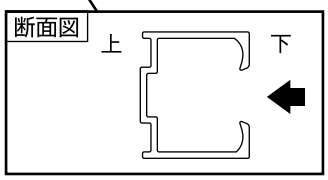


間仕切り用竪枠 片入隅 納まり図



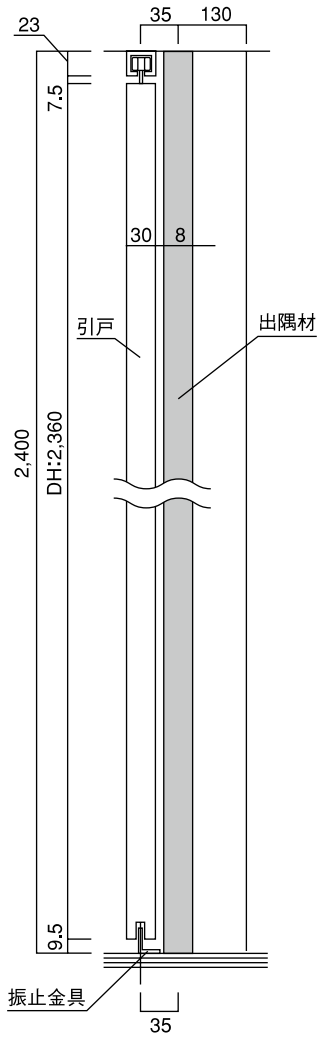
上吊レール ビス穴 詳細図





※上記詳細図はレール断面図の矢印からみた図になります。

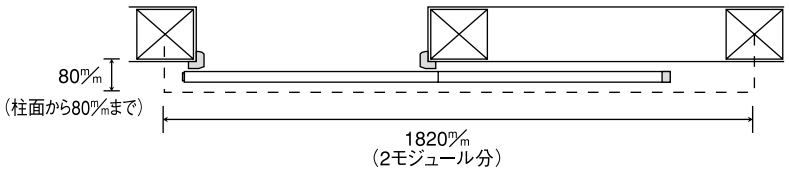
縦断面図



天井ジャストアウトセット引き戸枠

3. 施工手順

①取り付け位置の下地補強

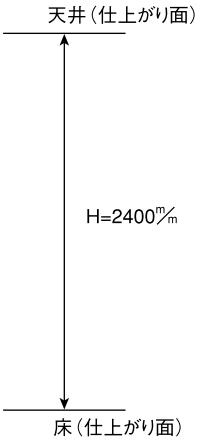


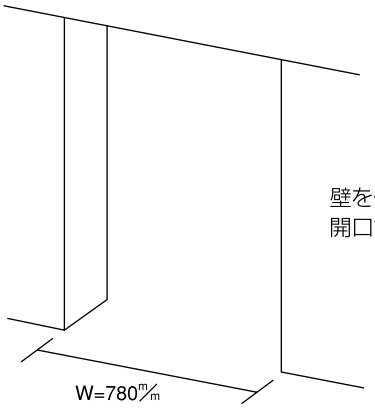
アウトセットの扉を取り付ける位置側の天井裏の補強を行ってください。

⚠ 注意

天井下地の補強が不十分だと、扉・上吊レールが脱落・転倒するおそれがありますので必ず十分な補強をおこなってください。
※天井下地には、LV野縁システムを推奨します。

②間口寸法の確認





壁を仕上げた状態から
開口寸法を確認してください。

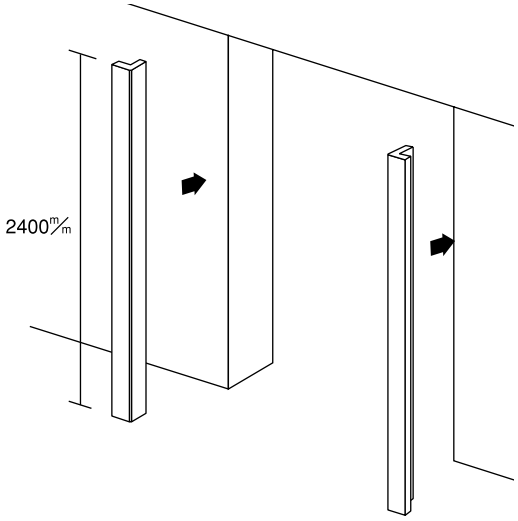
⚠ 注意

扉の高さがH=2360㎜になります。天井高がH=2400㎜になるように仕上げてください。

⚠ 注意

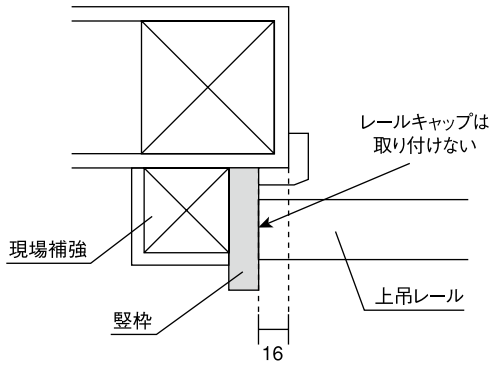
開口寸法（壁が仕上がった状態）がW=780㎜になります。
レール取り付けには2モジュール（W=1820㎜）必要になります。

③出隅材の取り付け

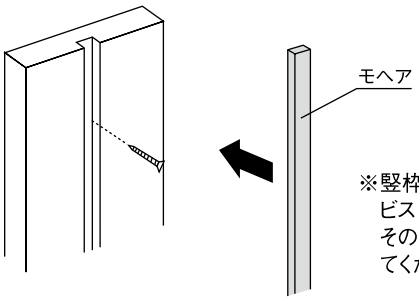


出隅材を開口部のコーナーへ取り付けます。
※出隅材を取り付けるのは、扉が通る側のコーナー部分です。

間仕切り用竪枠を取り付ける場合



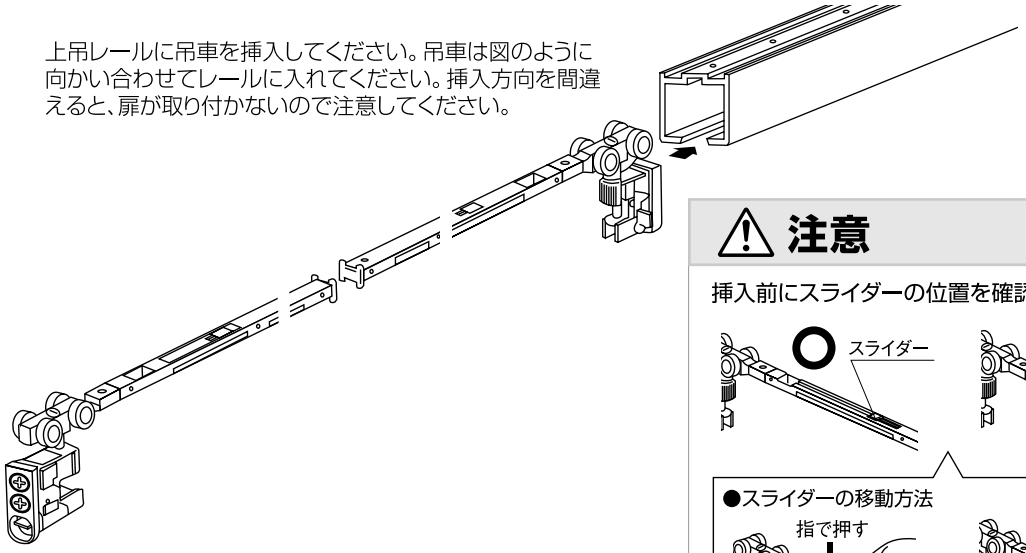
間仕切り用竪枠を使用する場合は納まり図を参考に
現場補強を行ってください。



※竪枠は縦溝のところから
ビス（現場調達）で固定し、
その上にモヘアを取り付け
てください。

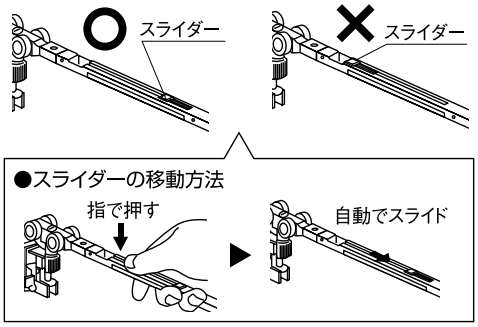
④吊車の挿入

上吊レールに吊車を挿入してください。吊車は図のように
向かい合わせてレールに入れてください。挿入方向を間違
えると、扉が取り付かないので注意してください。



⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



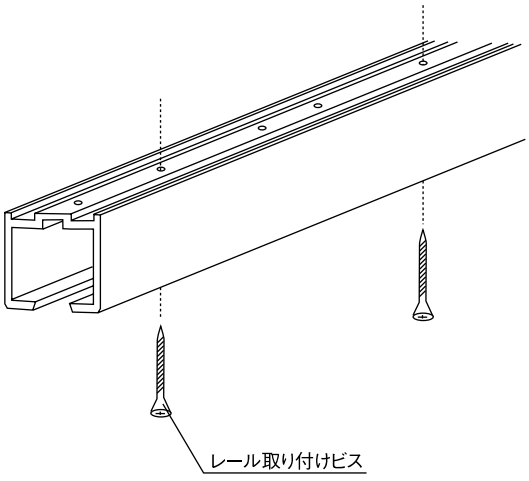
⑤上吊レールの固定

竪枠取り付け後、天井のクロスを仕上げた後に、
上吊レールを天井に取り付けます。

2ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参照し、
5.5φレール固定用のビス穴に同梱の
取り付けビスで6ヵ所確実に固定させてください。
※ビス穴を取り付ける前に下穴をあけておいてください。

⚠ 注意

・レール取り付けビスを打ち込む場所にはビスがきちんと効くように、下地の補強を確実におこなっておいてください。（3P参照）
・吊車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。



天井ジャストアウトセット引き戸枠

⑥トリガーの取り付け

2ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参考に、4.5φトリガー用のビス穴にトリガーを同梱のビスで取り付けます。
※ビスを取り付ける前に取り付ける位置に下穴をあけておいてください。

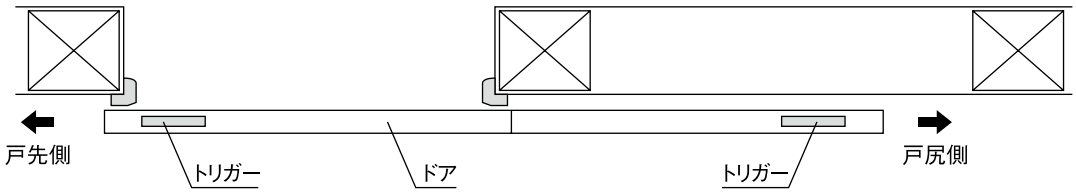
①トリガー取り付け方向

上吊りレールのトリガー取り付け用ビス下穴は、25㎜の間隔でレール両端付近にあります。



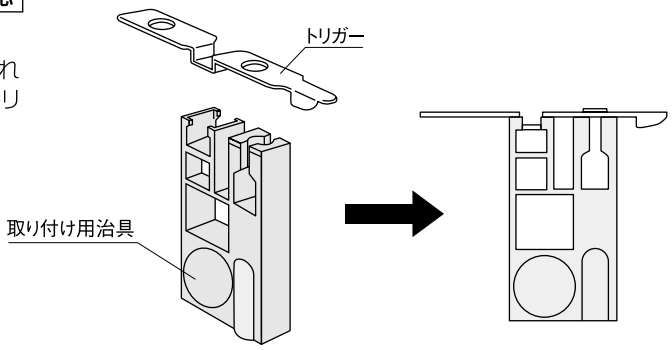
②トリガー取り付け位置

※右引きの場合



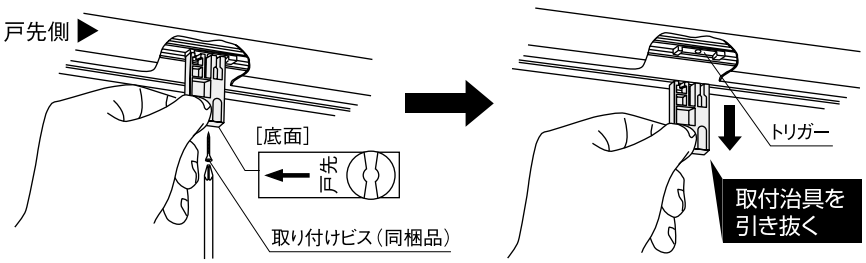
③取り付け用治具とトリガーセットの確認

本品は出荷時、トリガーと取り付け用治具がセットされている状態ですが、外れている場合は図のようにトリガーを取り付け用治具へセットしてください。

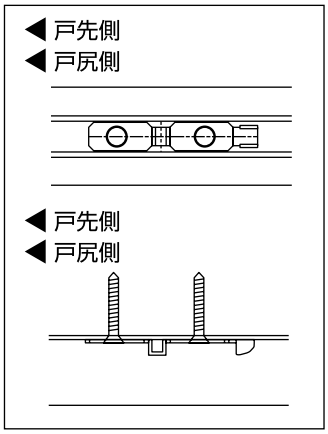


④トリガーの取り付け

トリガーをセットした取り付け用治具を上吊レール内側のトリガー用ビス穴へ押し当てて同梱の専用ビスを治具ビス穴に通し、トリガーを固定します。



トリガー・上吊レール納まり図

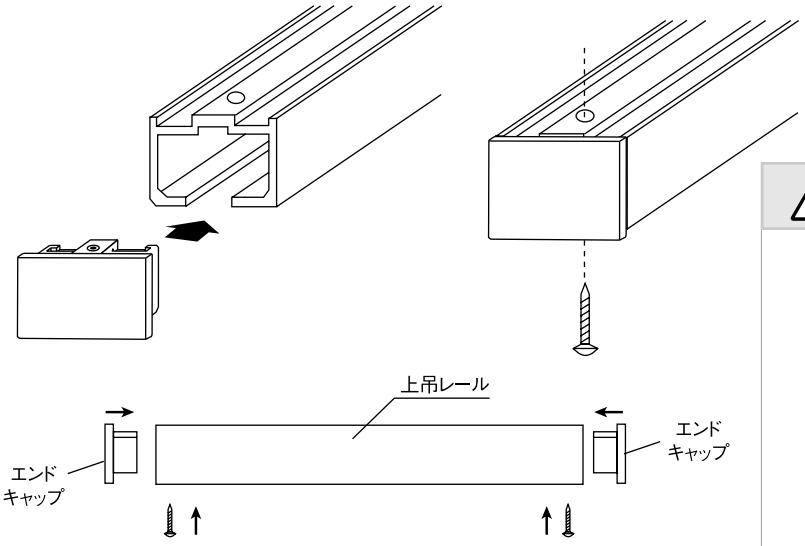


固定されたら、取り付け治具を下に引っ張って抜いてください。トリガーの固定は2ヵ所となっています。取り付け用治具を引き抜いた後、もう1ヵ所のビス穴に、同梱の取り付けビスで固定してください。

⚠ 注意

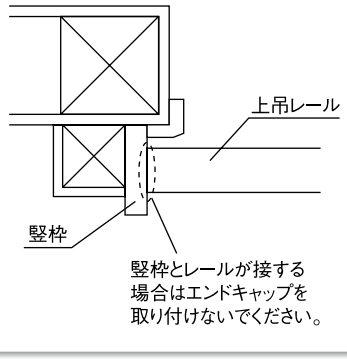
トリガーの取り付けは、手回しドライバーにて行ってください。トリガーがしっかりと取り付けされていない場合、ソフトクローズ機構の動作不良の原因となります。

⑦エンドキャップの取り付け

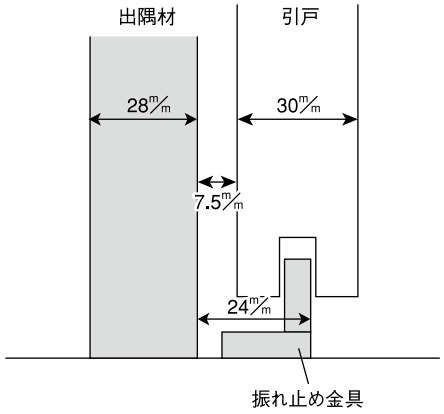


上吊レールの両サイドにエンドキャップを取り付け、
同梱のビスで固定してください。

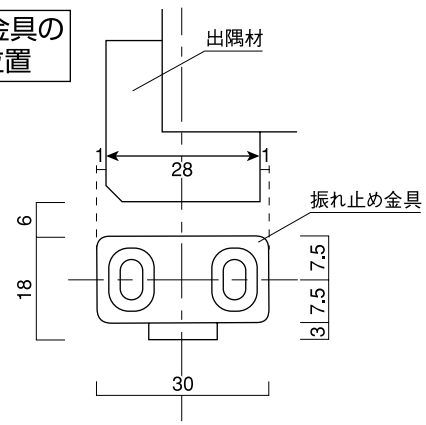
⚠ 注意

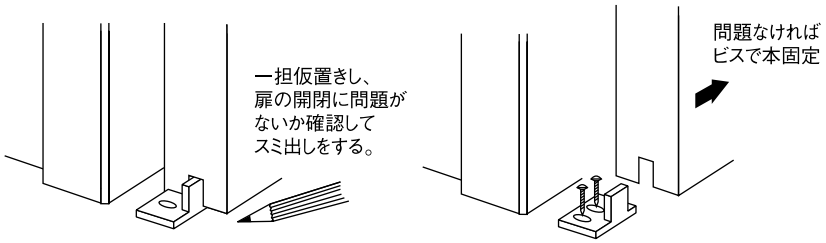


⑧振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具の取り付け位置





取り付け寸法を参考に振れ止め金具の取り付け位置を決めてください。
本固定する前に一担仮置きし、吊った扉が問題なく作動することを確認してから、同梱の取り付けビスで本固定させてください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

天井ジャストクローゼットドア枠

1. 開梱

梱包内訳表

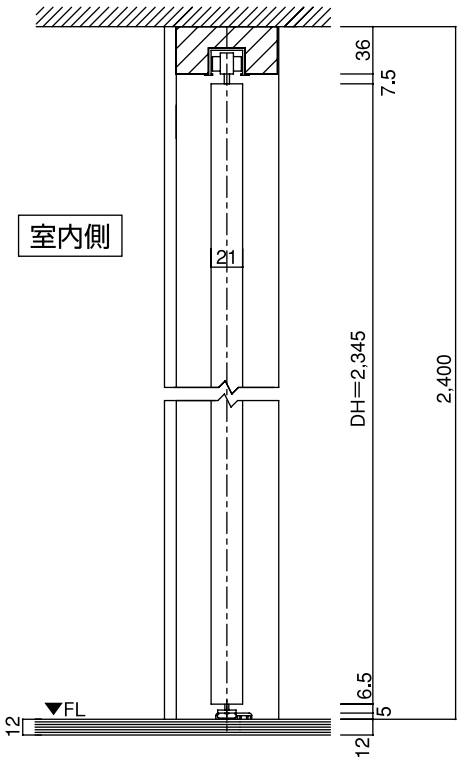
	枠材		レール		上下ランナー		金具	
	竪枠	鴨居	上レール	下レール	上ランナー	下ランナー	上固定ストッパー	下固定ストッパー
								
3尺	2本	1本	1本	1本	2個	2個	1個	1個
4.5尺					4個	4個	2個	2個
6尺								
9尺					6個	6個		

	その他	ビス			
	化粧キャップ	上レール用ナベビス	下レール用サラビス	鴨居組み立てビス	竪枠取り付けビス
					
3尺	8個	3本	3本	4本	8本
4.5尺		4本	4本		
6尺		5本	5本		
9尺		7本	7本	6本	

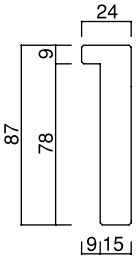
2. 納まり図

縦断面図

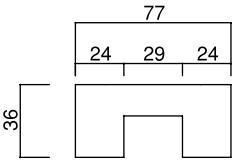
（単位:㎜）



竪枠



鴨居



横断面図

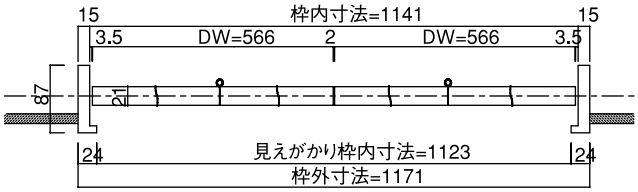
W＝3尺

（単位:㎜）



W＝4.5尺

（単位:㎜）



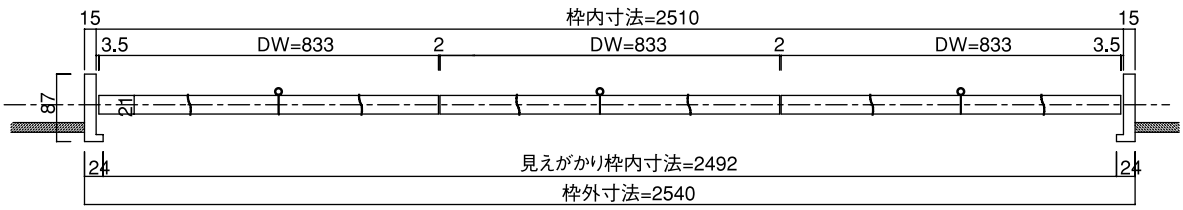
W＝6尺

（単位:㎜）



W＝9尺

（単位:㎜）

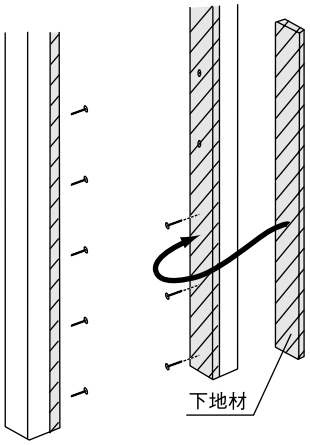


天井ジャストクローゼットドア枠

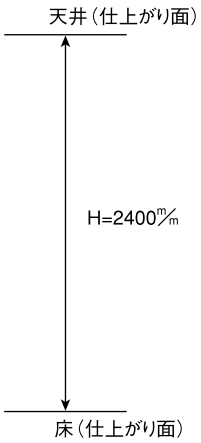
3. 施工手順

①取り付け開口部の確認

●取り付け開口部の確認



納まり図を確認のうえ、
枠材寸法に見合った
開口を設けてください。



⚠ 注意

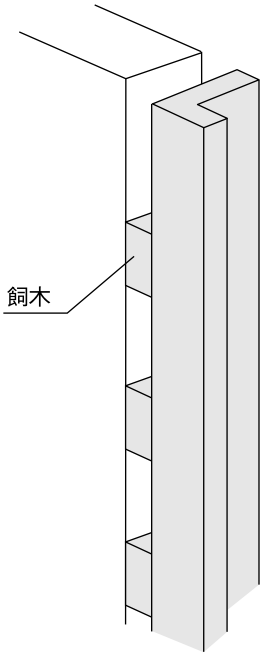
天井高がH=2400㎜になるように仕上げてください。

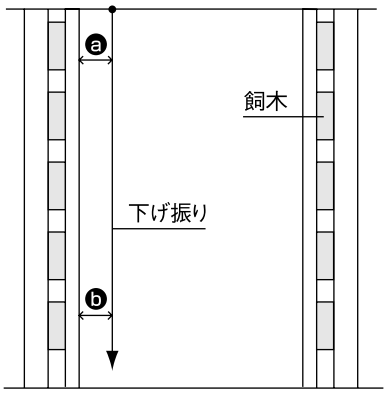
⚠ 注意

天井下地の補強が不十分だと、扉・上吊レールが脱落・転倒するおそれがありますので必ず十分な補強をおこなってください。
※LV野縁システムを推奨します。

②竪枠の仮固定と建て付け調整

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、
ネジレを調整し、仮固定します。





- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。

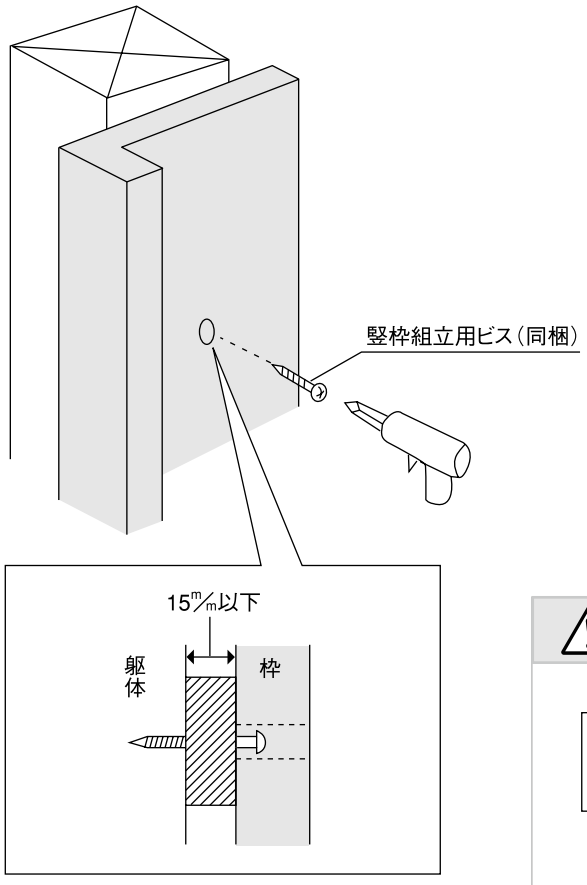
竪枠、鴨居の固定用ビス下穴の背面に飼木を取り付けてください。

⚠ 注意

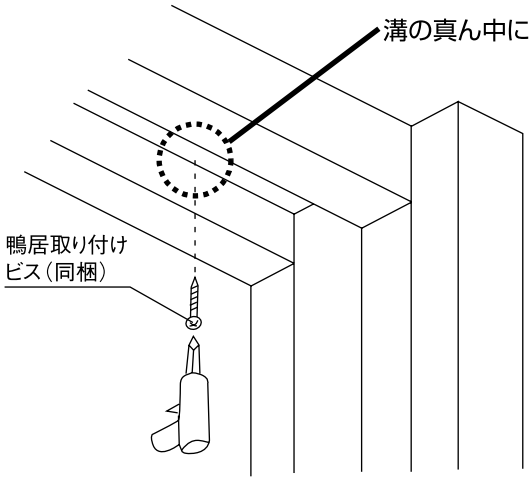
飼木の厚みは最大でも15㎜以下にしてください。

③鴨居・竪枠の本固定

竪枠を竪枠組み立て用ビスで躯体に固定させます。

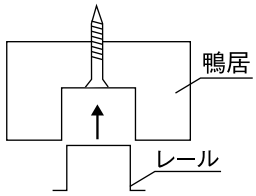


鴨居を図のように鴨居取り付けビスで固定します。



レールを取り付ける前に必ず鴨居本体を躯体に固定させてください。

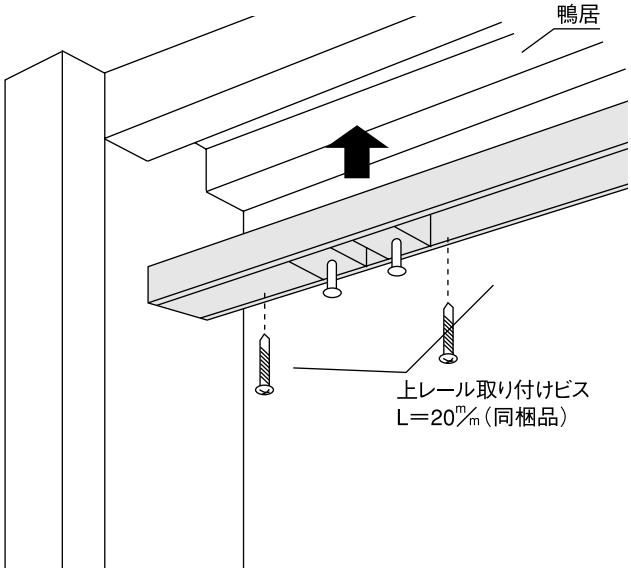
⚠ 注意



鴨居取り付けビスは確実にビス頭を打ち込んでください。確実に打ち込まれていない場合、レールがきちんと取り付かず、扉の開閉に支障をきたすおそれがあります。

④上レールの取り付け

上レール取り付けの際、鴨居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の下穴をあけ、付属のビスを使用して取り付けます。



⚠ 注意

禁止

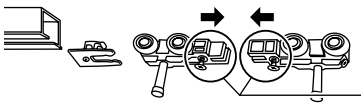
インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

天井ジャストクローゼットドア枠

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

（例）

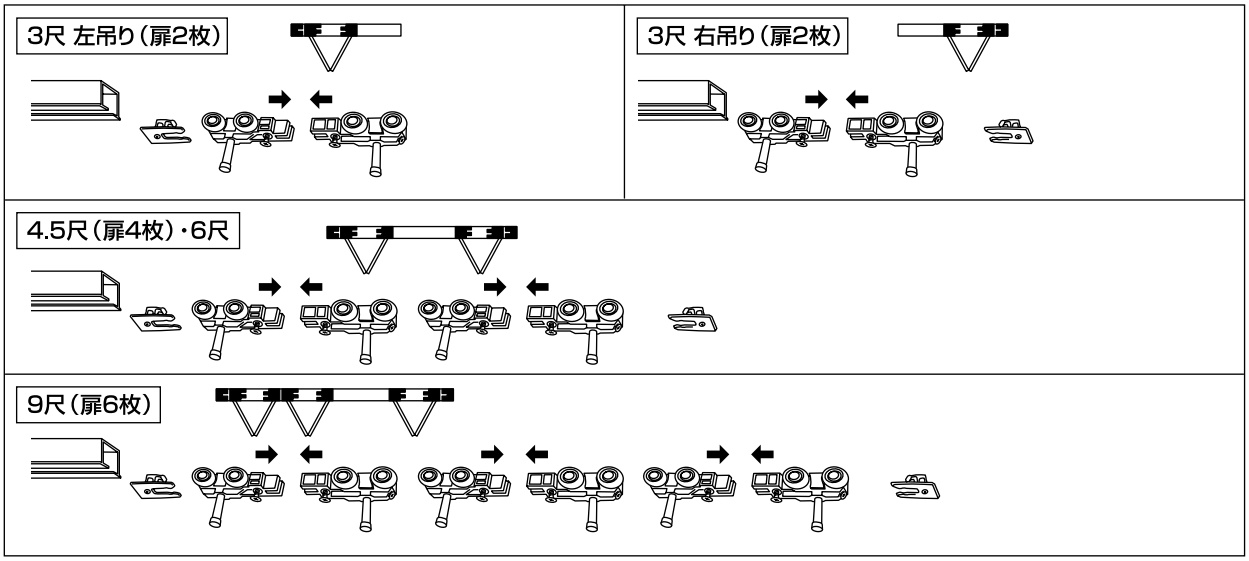


⚠ 注意

必ずおこなう

上固定ストッパーを確実に固定してください。

固定されてないままや、逆向きに挿入した状態で
扉を取り付けた場合、ストッパーが破損するおそれがあります。



⑤床直付けレールの取り付け

床直付けレールの取り付け

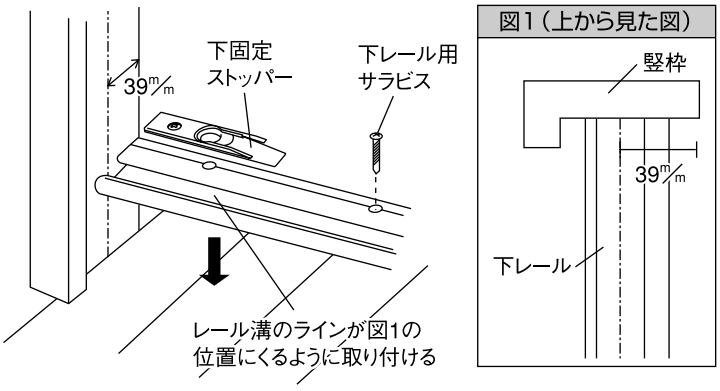


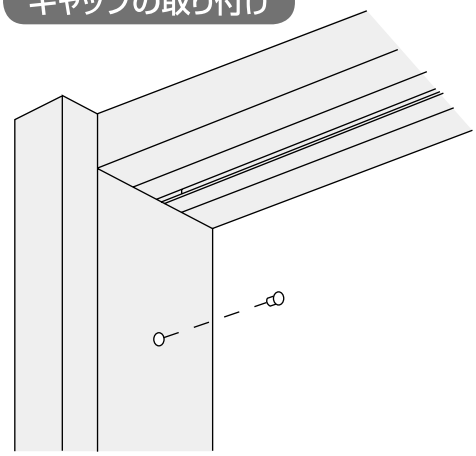
図1（上から見た図）

竪枠の収納内部側から39㎜入った位置に
レール溝の中心を合わせるように取り付けてください。
※ビスが収納内部にくるように取り付けてください。

床直付けレールを取り付けた後、下固定ストッパーを
レールの上から動かないようにしっかり固定します。

⑥キャップの取り付け

キャップの取り付け



竪枠のビス穴に付属の化粧キャップを
差し込みます。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

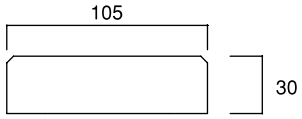
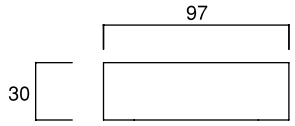
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

天井ジャスト収納両開き戸枠

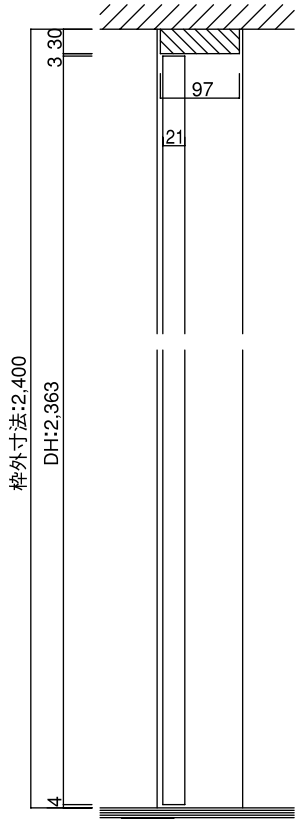
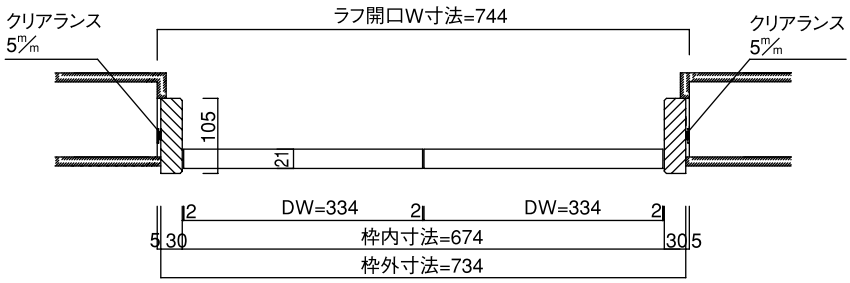
1. 開梱

梱包内訳表

部材名	竪枠	鴨居	鴨居取り付けビス	化粧キャップ
数量	2本	1本	2本	2個

竪枠	鴨居
	

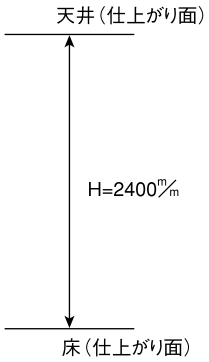
2. 納まり図

縦断面図	横断面図
	

天井ジャスト収納両開き戸枠

3. 施工手順

①取り付け開口部の確認

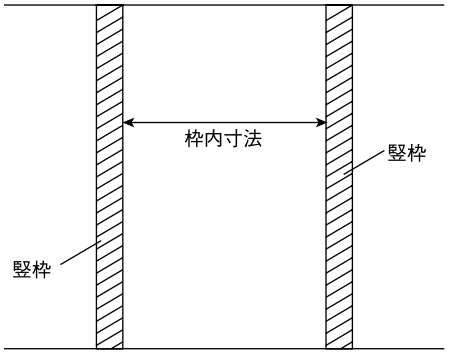


⚠ 注意

扉の高さがH=2363㎜になります。天井高がH=2400㎜になるように仕上げてください。

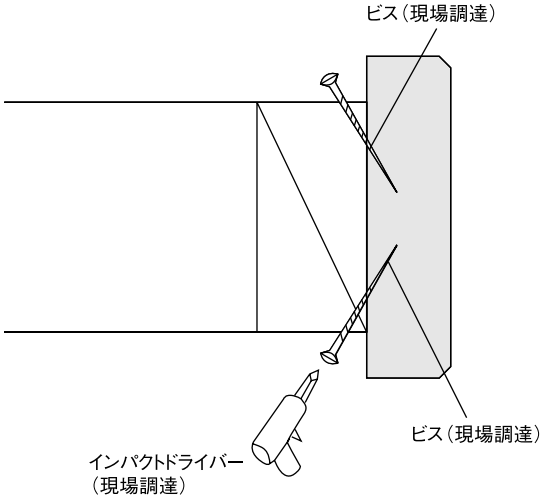
⚠ 注意

竪枠を取り付けるときは、納まり図をよく確認し、枠内寸法を確保してください。枠内寸法が異なっていると扉が納まらない可能性があります。



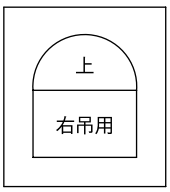
②竪枠の固定

枠材を躯体側から固定します。



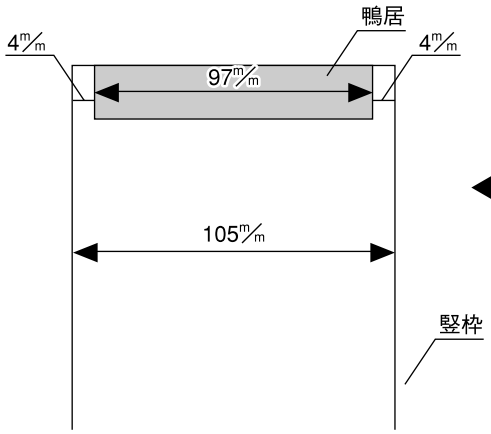
⚠ 注意

竪枠には上下・左右があります。向きを間違って取り付けると扉が取り付きません。竪枠に貼ってある識別シールをご確認ください。

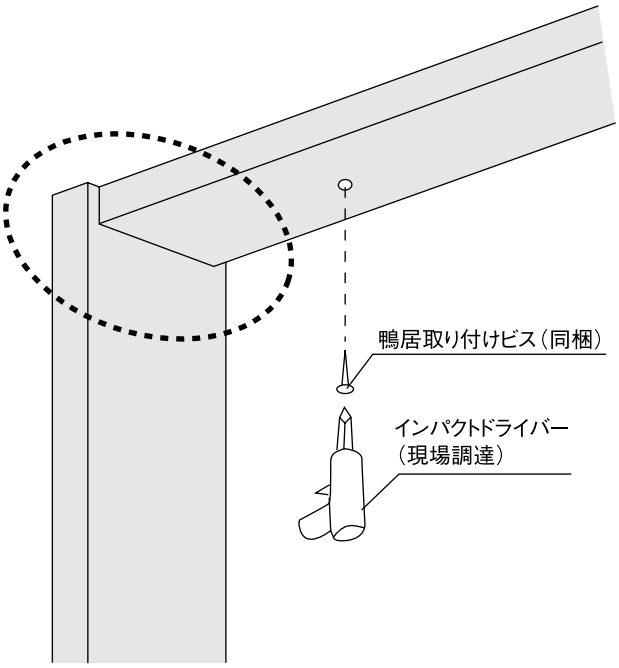


※右吊用の枠の場合

③鴨居の取り付け

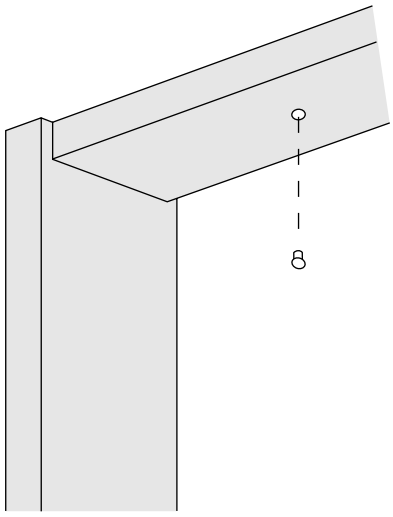


鴨居は竪枠の前後に4㎜づつの
チリを設けて取り付けてください。



鴨居のビス取り付け穴（加工済）から同梱の
鴨居取り付けビスで固定してください。

④キャップの取り付け



鴨居のビス穴に、付属のキャップを差し込みます。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

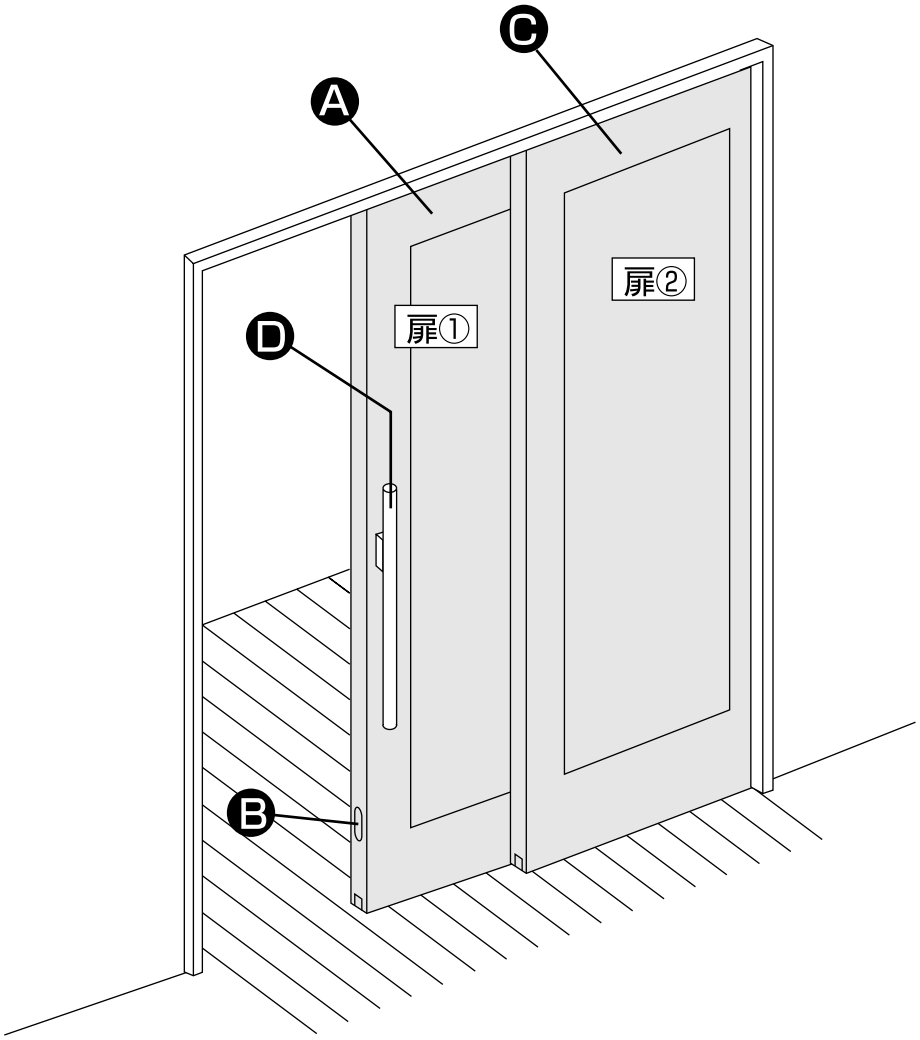
上吊り

機能引き戸 2枚連動引き戸

開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



扉① 梱包内訳表

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	引き戸	1枚	
Ⓑ	振れ止め金具	1個	取付済

引き手（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓓ	バー引き手	1セット	

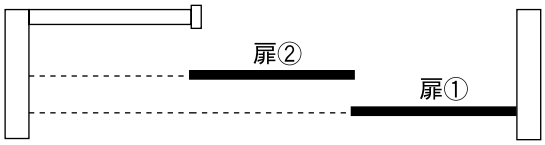
扉② 梱包内訳表

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	引き戸	1枚	引き手加工無し

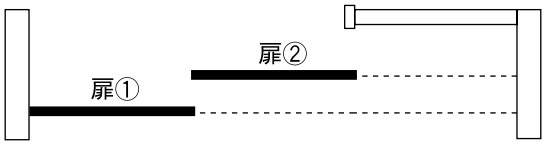
施工手順

引き戸の取り付け

左引き（L）

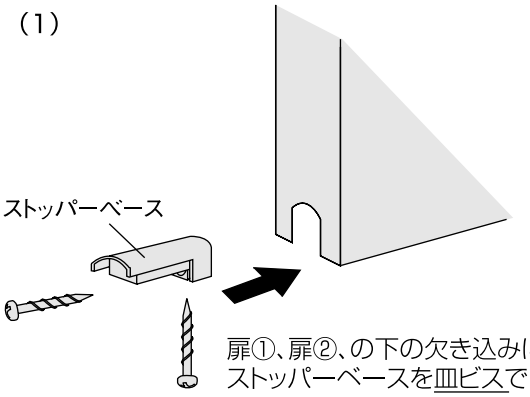


右引き（R）



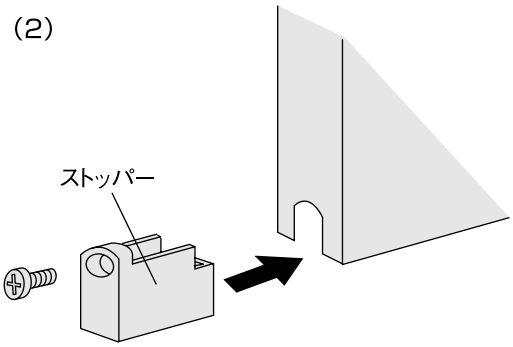
ストッパーの取り付け（枠材に同梱）

（1）



扉①、扉②、の下の欠き込みに
ストッパーベースを皿ビスで固定します。

（2）



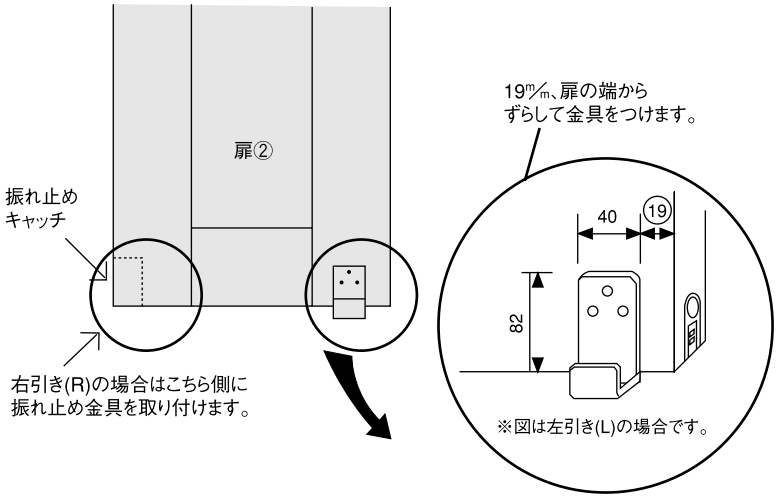
ストッパー本体をベースに専用ネジで固定します。

お願い

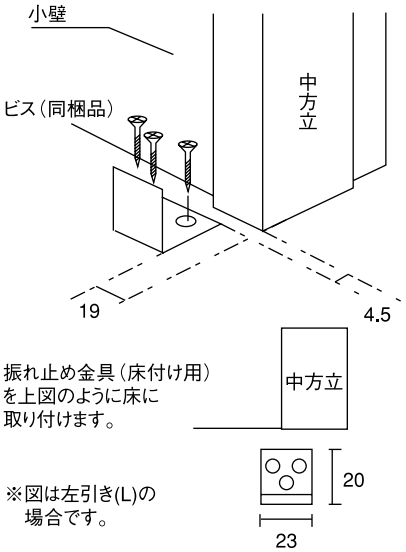
- ストッパーベースを組み付ける前にビス下穴（φ2.5、深さ50㎜）をあけてください（基材割れ防止）

振れ止め金具の取り付け

（1）扉②に振れ止め金具（扉用）を図の位置に取り付けます。
※振れ止め金具（扉用、床付け用）は枠材の梱包に同梱されています。



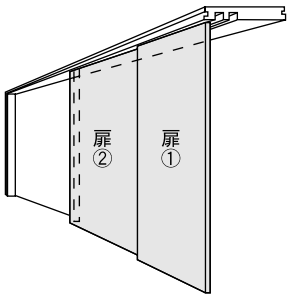
振れ止め金具（床付け用）



上吊り

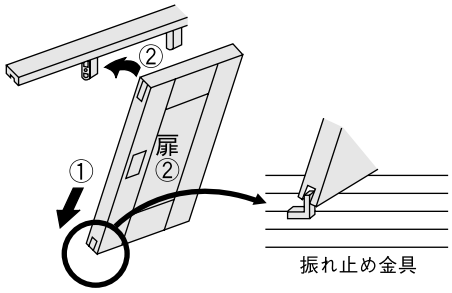
機能引き戸 2枚連動引き戸

引き戸の取り付け

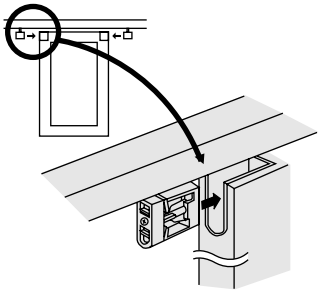


扉②、扉①、の順で吊り込みます。
※図は左引きの場合です。

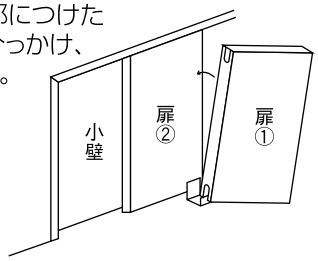
(1) 扉②を床につけた振れ止め金具にひっかけ、扉②をおこします。



(2) 吊り車をスライドさせ、固定カップにカチッと音がするまで差し込んでください。

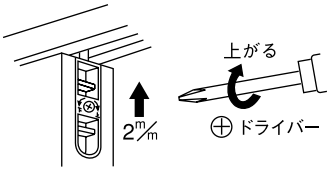


(3) 扉①を扉②の下部につけた振れ止め金具にひっかけ、扉①をおこします。

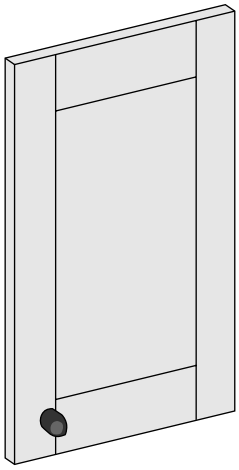


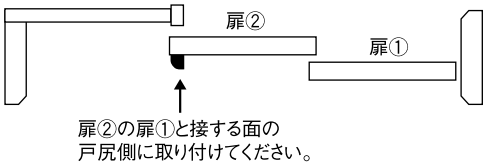
(4) (2)と同様に吊り車を差し込んでください。

(5) 吊り車の調整を行い、扉を全て2㎜上に上げてください。



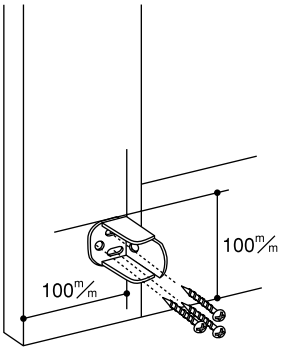
(7) 扉②に引き残しストッパーを取り付けてください。



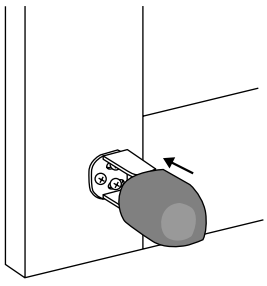


扉②の扉①と接する面の戸尻側に取り付けてください。

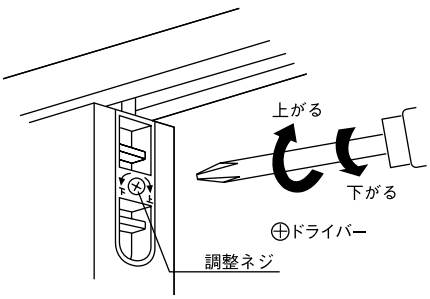
扉②のコバ面より100㎜、下端より100㎜の位置に引き残しストッパーのベースを同梱のビスで固定します。



固定させたベースにカバーを取り付けてください。



吊り車の上下調整



扉と鴨居に隙間が生じたときは、上図のように調整ネジで調整します。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

機能引き戸 2枚連動引き戸

1.開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考	
	竪枠（開口部側）	1本	正寸カット済	
	竪枠（中方立）	1本	正寸カット済	
	竪枠（戸袋側）	1本	正寸カット済	
	鴨居	1本	正寸カット済	
	レール	2本		
	吊り車	4個		
	ストッパー	4個		
	振れ止め金具（床付け用）	1個	ビス同梱	金具セット
	振れ止め金具（扉用）	1個	ビス同梱	
	戸じゃくり用キャップ	1個		

	部材名	数量	備　考
	組み立て専用ビス	6本	
	躯体接合金具用ビス	14本	
	躯体接合金具用キャップ	8個	
	ミニレンチ	1本	ビスセット
	木ダボ	2本	
	クッションキャップ	4個	
	レールビス	30本	
	モヘア	1本	
	振れ止め枠用金具（マグネット）	1個	
	引き残しストッパー	1個	ビス同梱（3本）

※ビスセットの中には一部固定枠の時には使用しないものもあります。

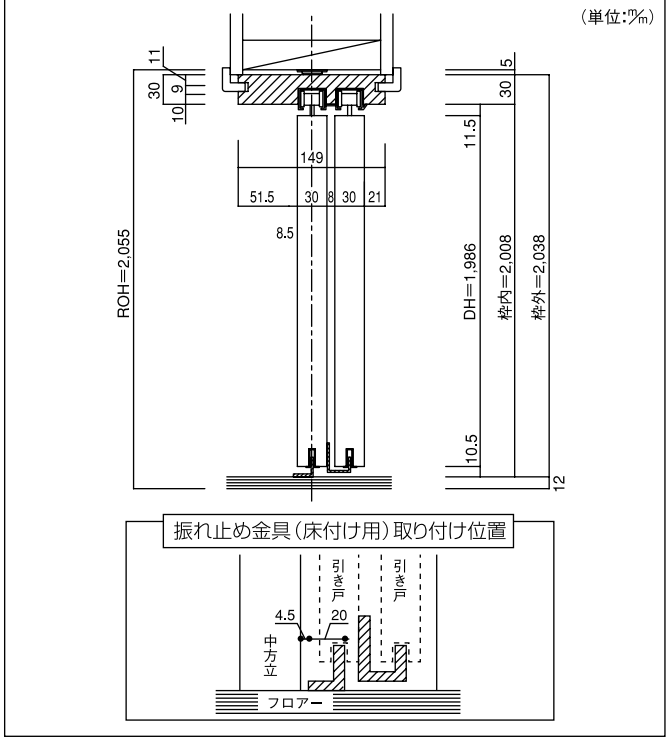
2.納まり図

調整枠には躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
固定枠には躯体接合金具が付いていないので、枠外寸法になった間口を設けてください。

① 縦断面図

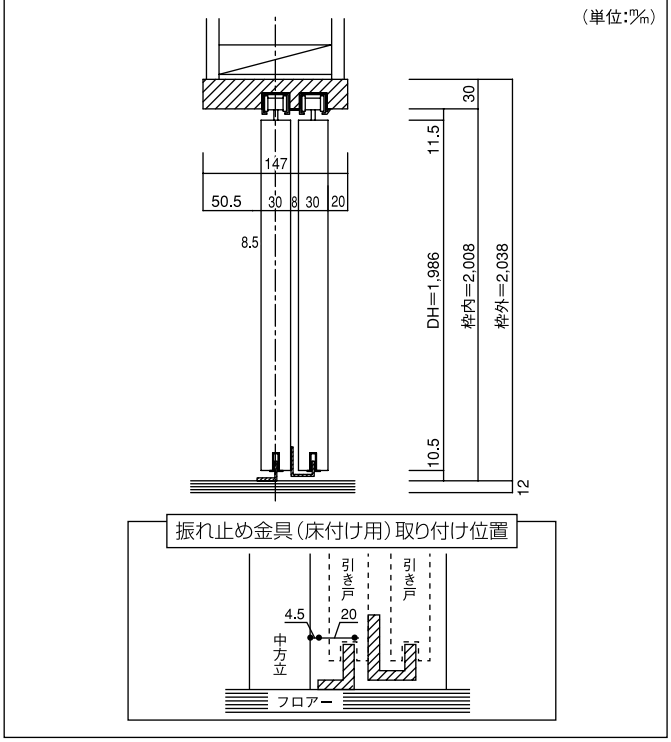
調整枠

（単位：㎜）



固定枠

（単位：㎜）



上吊り 調整枠 固定枠

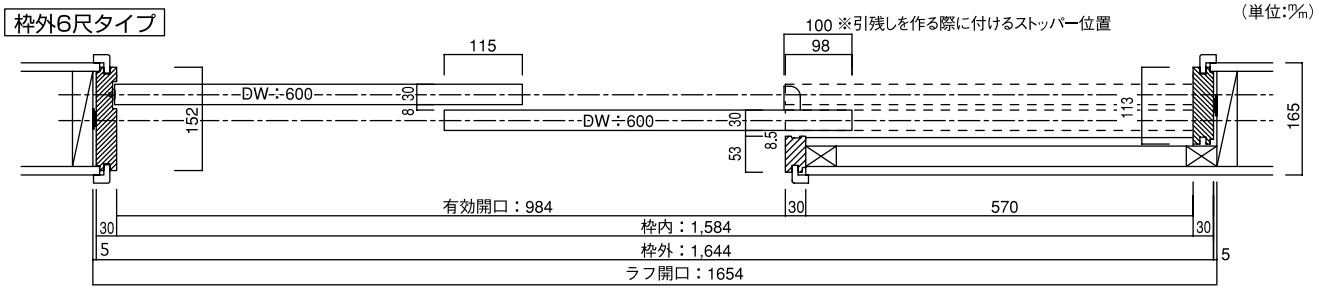
機能引戸 2枚引き込み戸専用枠

② 横断面図

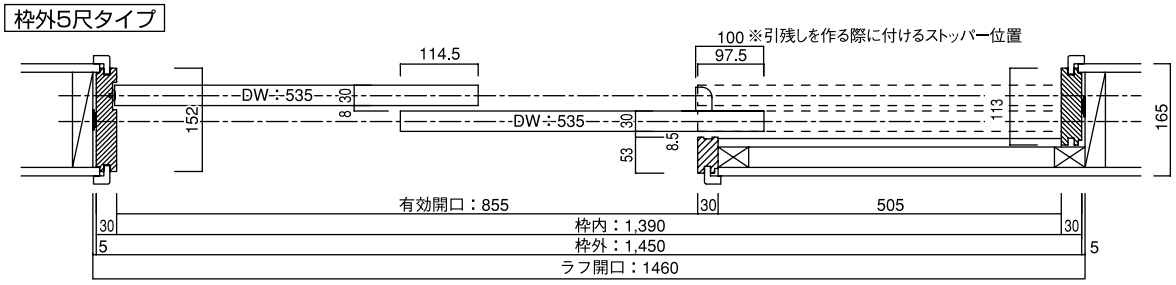
調整枠

（単位:㎜）

枠外6尺タイプ



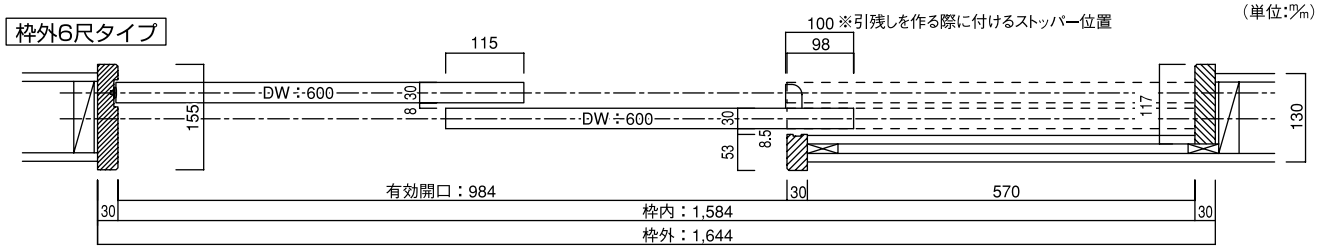
枠外5尺タイプ



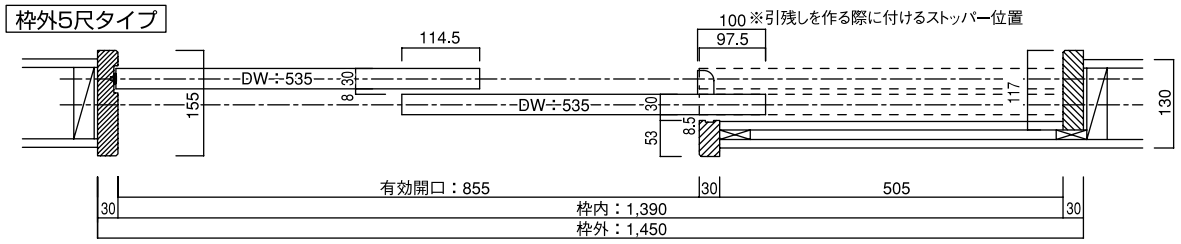
固定枠

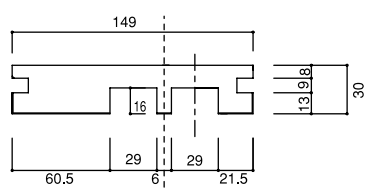
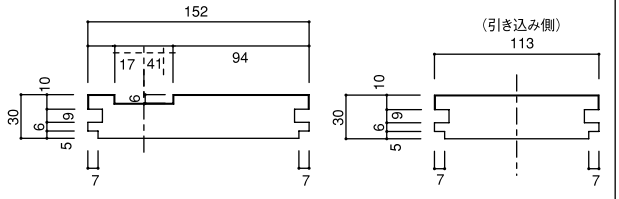
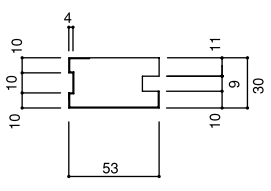
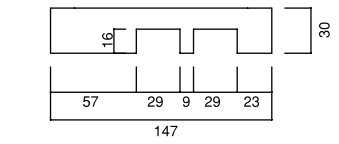
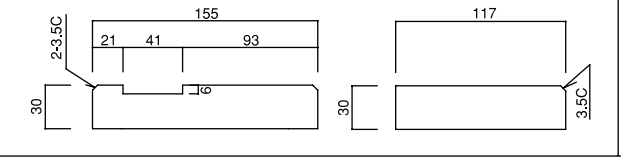
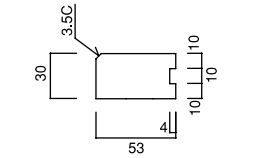
（単位:㎜）

枠外6尺タイプ



枠外5尺タイプ



	鴨居（右引きの場合）	竪枠（右引きの場合）	中方立て
調整枠			
固定枠			

※上記部材図は左引きの場合。

3. 施工手順

施工手順のイラストは調整枠の場合になります。

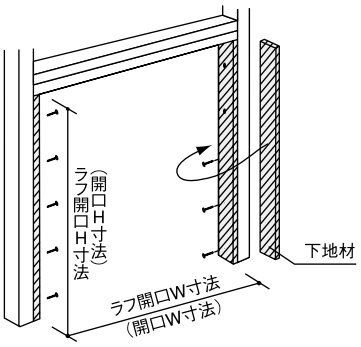
① 取り付け開口部の確認

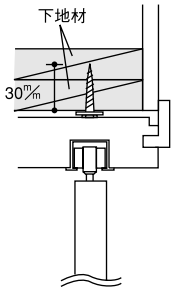
調整枠の場合

開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った**ラフ開口**を設けてください。

固定枠の場合

固定枠には躯体接合金具は付いていません。納まり図を参照のうえ、枠外寸法に合った**開口**を設けてください。





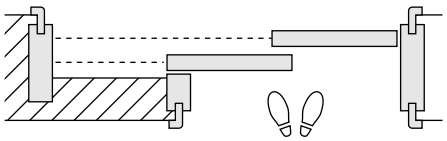
⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

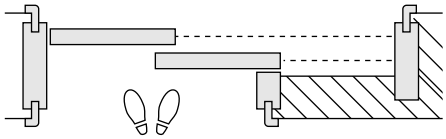
引き手方向の確認

連動引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

右引き



左引き

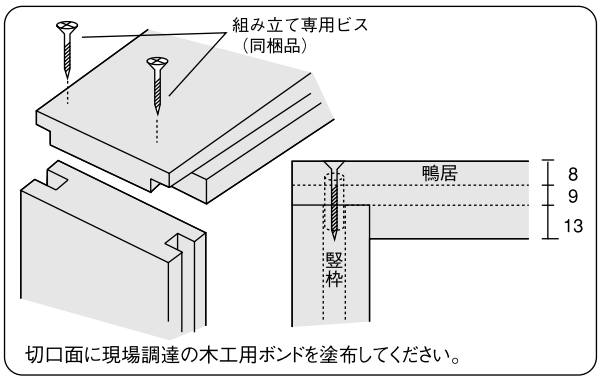


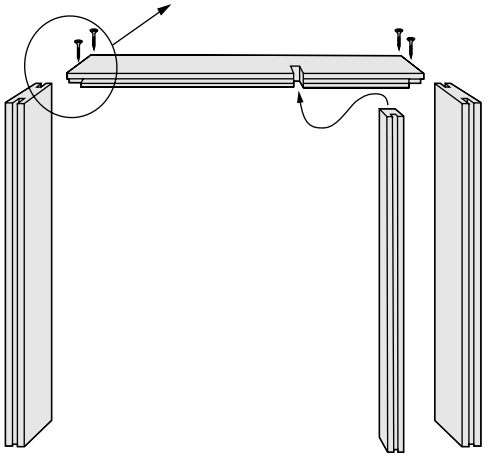
右引き・左引きの竪枠の識別方法

防間溝のついた竪枠を正面から見て、



② 枠材の組み立て、仮固定

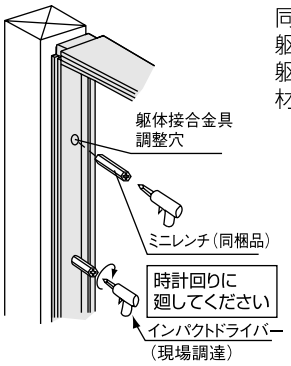


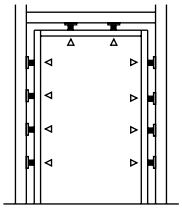


調整枠の場合

枠材の仮固定

同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具調整穴より躯体接合金具を調整し、枠材を仮固定してください。

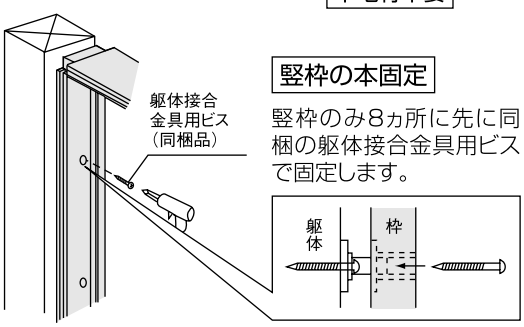




下地材不要

竪枠の本固定

竪枠のみ8ヵ所に先に同梱の躯体接合金具用ビスで固定します。

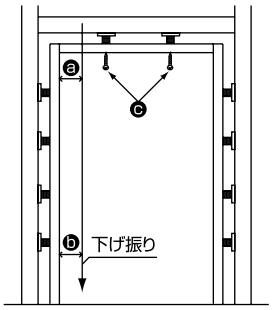


上吊り 調整枠 固定枠

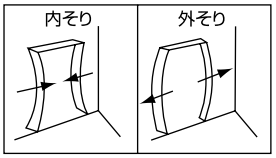
機能引戸 2枚引き込み戸専用枠

調整枠の場合

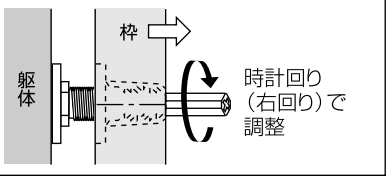
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



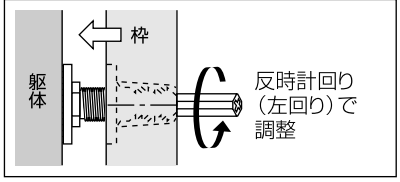
※下記の様なことがないよう
ご注意ください。



枠を内側に寄せる場合

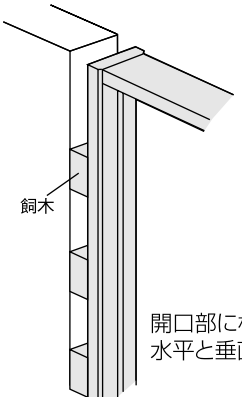


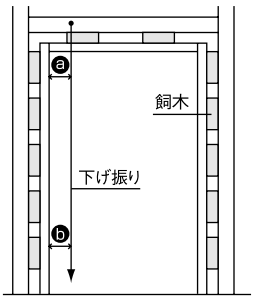
枠を外側に出す場合



固定枠の場合

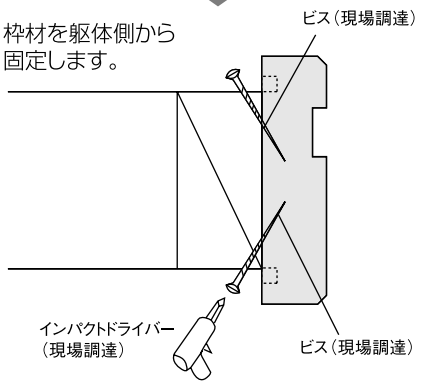
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。



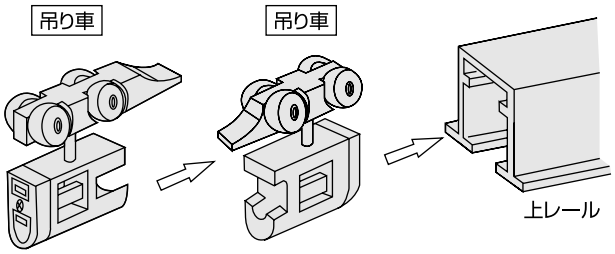


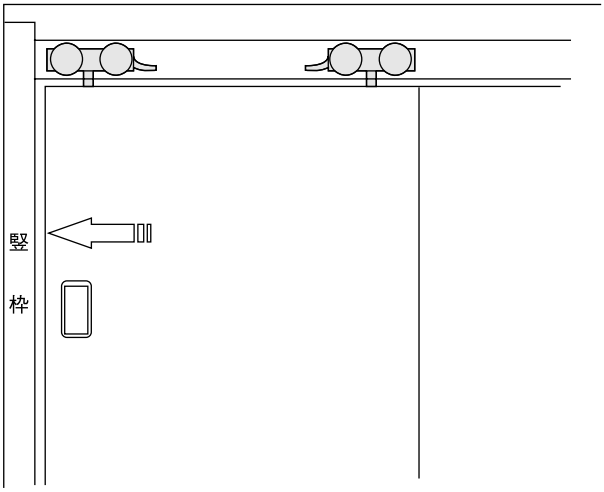
開口部に枠材をはめ込み、飼木で
水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材を躯体側から
固定します。

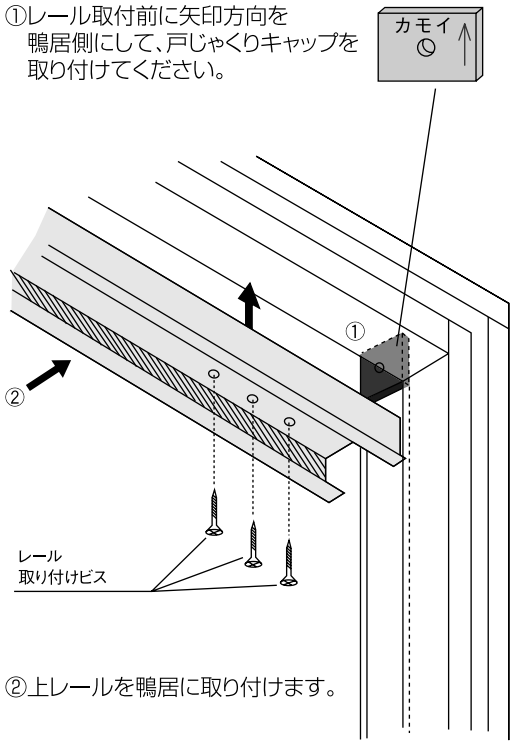


③ 吊り車の挿入と戸じゃくりキャップ、上レールの取り付け





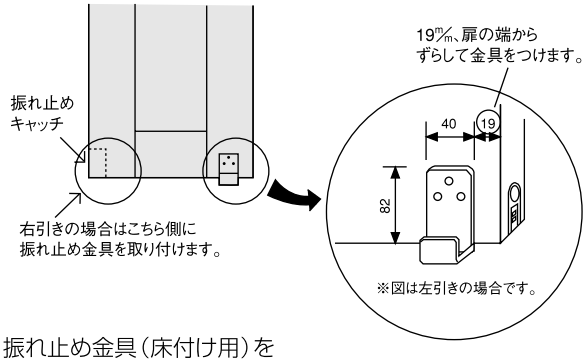
①レール取付前に矢印方向を
鴨居側にして、戸じゃくりキャップを
取り付けてください。



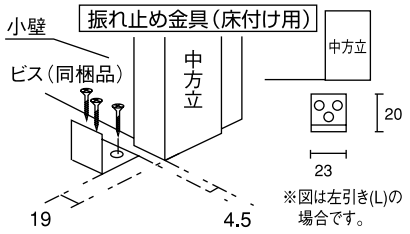
②上レールを鴨居に取り付けます。

⑤振れ止め金具の取り付け

（1）戸尻側の建具に振れ止め金具（扉用）を図の位置に取り付けます。

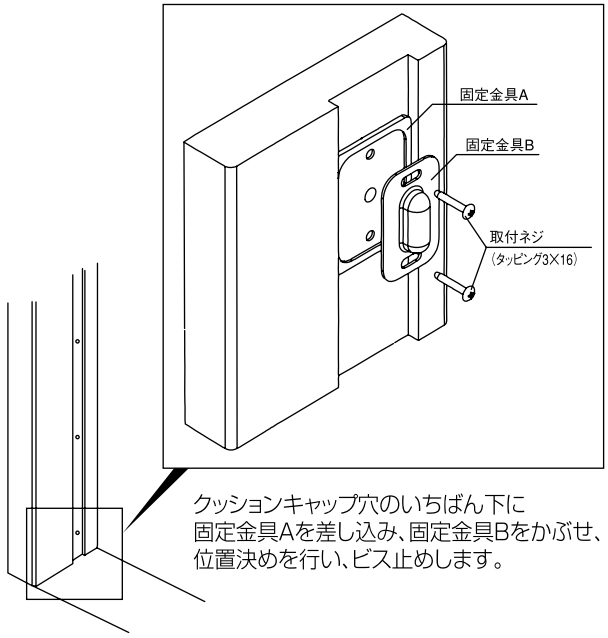


振れ止め金具（床付け用）を
下図のように床に取り付けます。



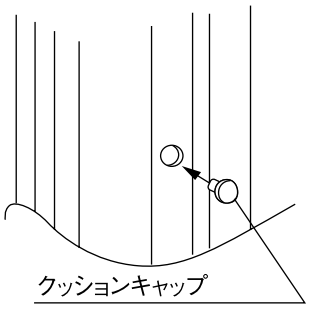
⑥振れ止め金具枠用の取り付け

扉が振れることを防止するため、振れ止め金具枠用（マグネット）を任意の高さに取り付けます。

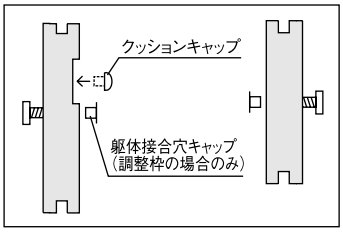


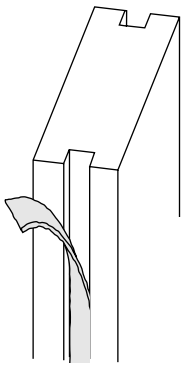
クッションキャップ穴のいちばん下に
固定金具Aを差し込み、固定金具Bをかぶせ、
位置決めを行い、ビス止めします。

⑦モヘア、キャップの取り付け



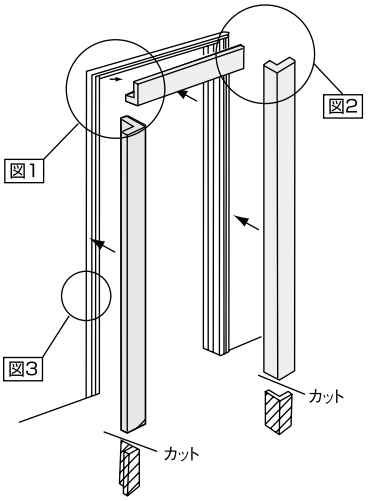
クッションキャップを取り付けます。

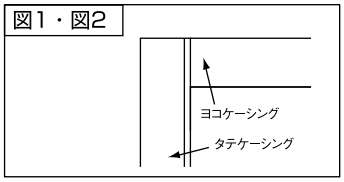


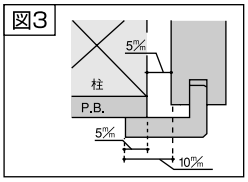


施工後にモヘアを
中方立てにしっかりと
貼り付けます。

⑧ケーシングの取り付け ※調整枠の場合のみ







施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

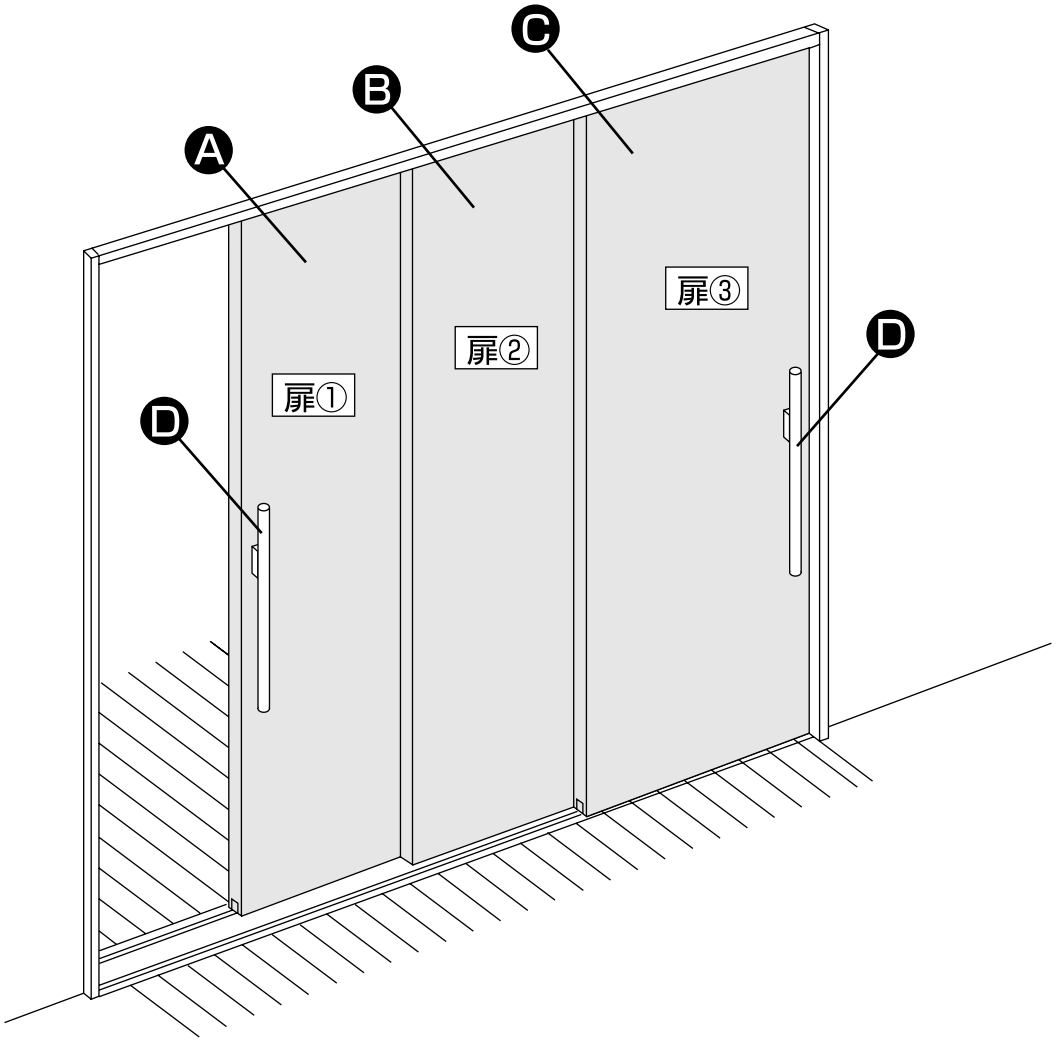
ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

機能引き戸 3枚引き違い戸

開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



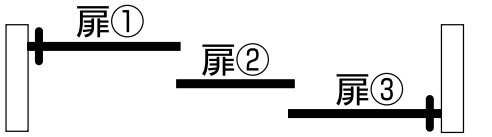
梱包内訳表

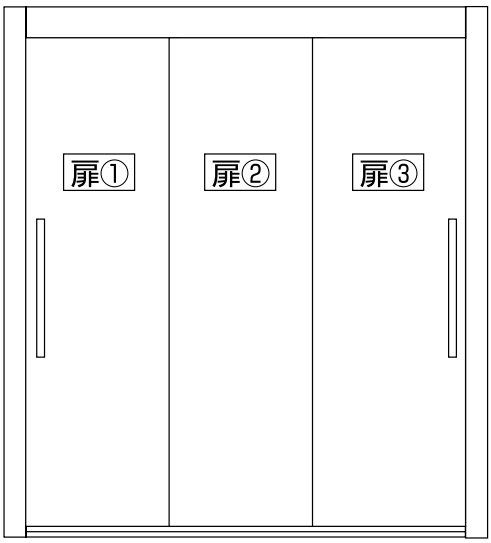
	部材名	数量	備　考
Ⓐ ⋮ Ⓒ	引き戸	2枚	
Ⓑ	引き戸	1枚	

バー引き手（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓓ	バー引き手	2セット	

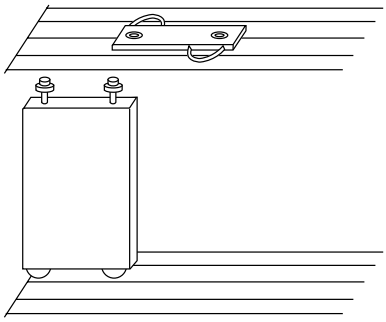
施工手順



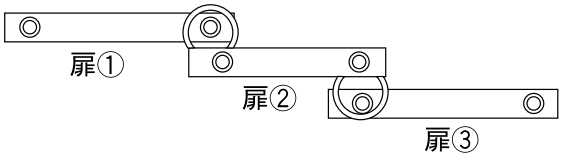


扉① の吊り込み

（1）ピボットをはめ込む。



ピボットを連動金具の差し込み穴に合わせてはめ込みます。

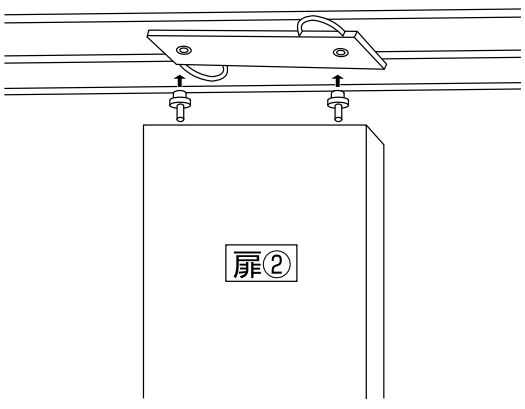


（2）敷居レールにはめ込んでください。

扉② の吊り込み

（1）ピボットをはめ込む。

扉②を中央レール連動金具にピボットを合わせてはめ込んでください。

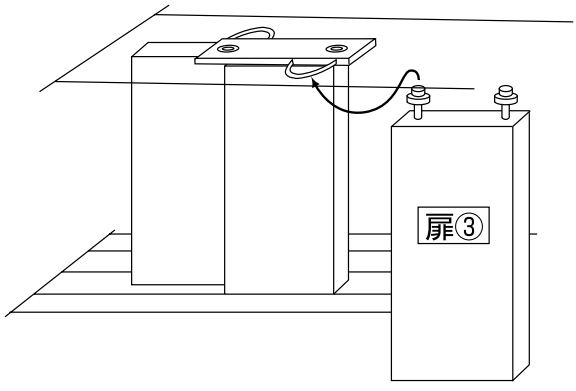


（2）敷居レールにはめ込んでください。

扉③ の吊り込み

（1）ピボットをはめ込みむ。

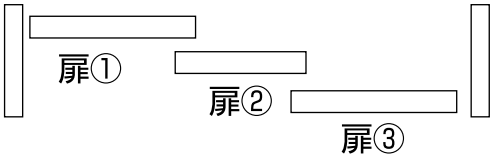
扉③を中央レール連動金具にピボットを合わせてはめ込んでください。



（2）敷居レールにはめ込んでください。

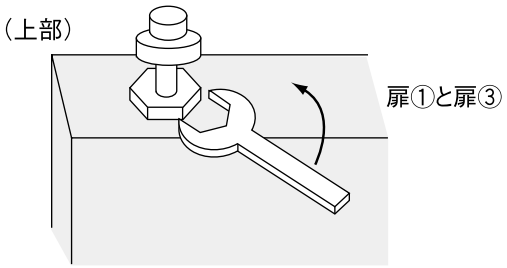
機能引き戸 3枚引き違い戸

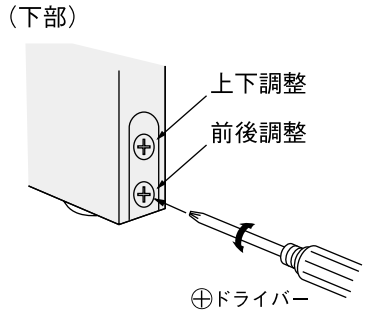
引き戸の調整方法



扉の前後調整

扉と扉に隙間が生じたときは下図のように上部ピボットをスパナで調整します。





施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

機能引き戸 3枚引き違い戸枠

1.開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
	竪枠（右用・左用）	各1本	正寸カット済
	鴨居	1本	正寸カット済
	組み立て専用ビス	4本	L＝50㎜
	躯体接合金具用ビス	11本	
	敷居ベース用ビス	11本	
	上レール	1本	
	下レール	3本	下レールストッパー（ビス付）2個
	Yレールビス	6本	
	上固定ストッパー	2個	
	引き残し用ストッパー	2個	板ナットなし
	引き残し用ストッパー固定ビス	2本	

	部材名	数量	備　考
	戸じゃくり用キャップ	2個	
	躯体接合金具用キャップ	11個	固定枠にはなし
	クッションキャップ	8個	
	木ダボ	2個	
	ミニレンチ	1本	

敷居（別売品）

	部材名	数量	備　考
	敷居	1本	正寸カット済

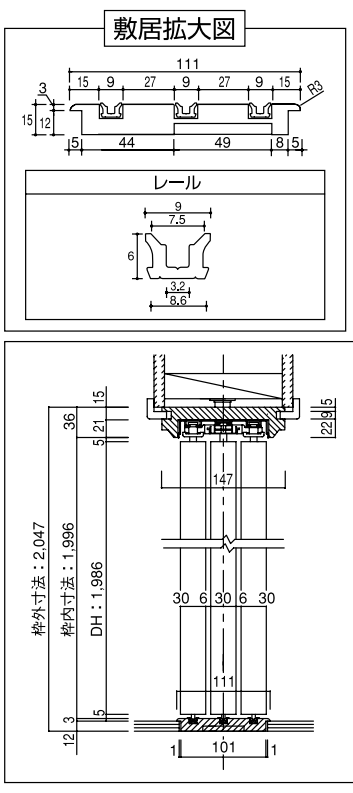
※一部固定枠の時には使用しないものもあります。

2.納まり図

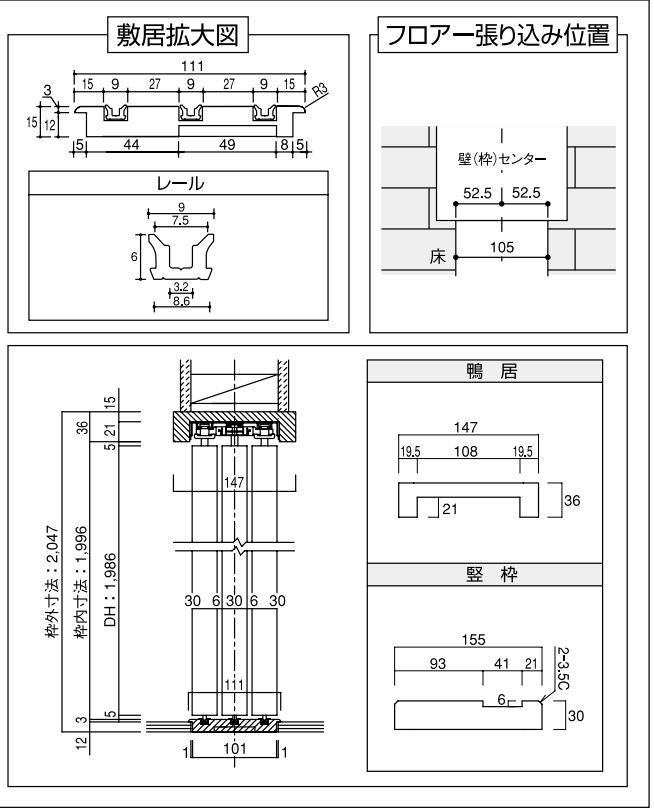
調整枠には躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
固定枠には躯体接合金具が付いていないので、枠外寸法に合った開口を設けてください。

① 縦断面図

調整枠（単位:㎜）



固定枠（単位:㎜）

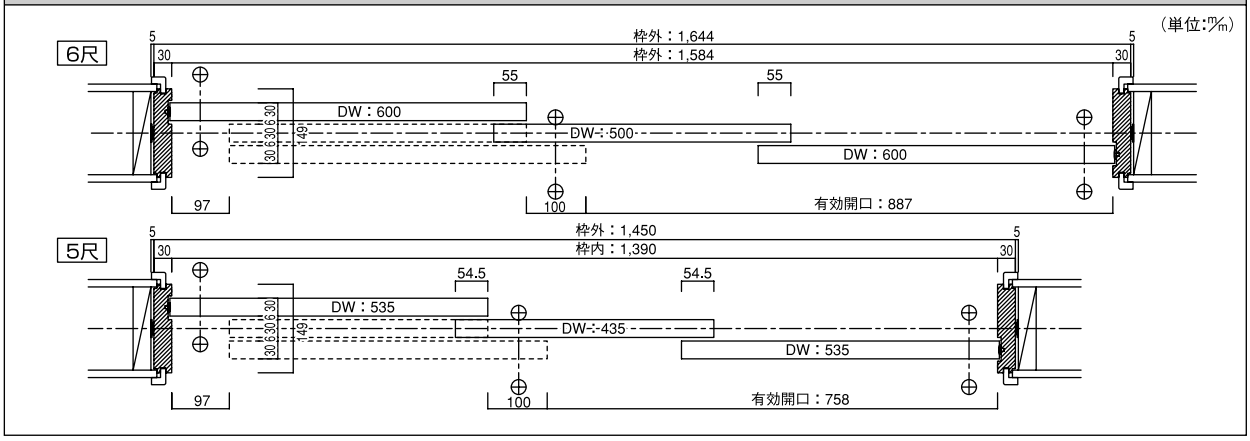


調整枠 固定枠

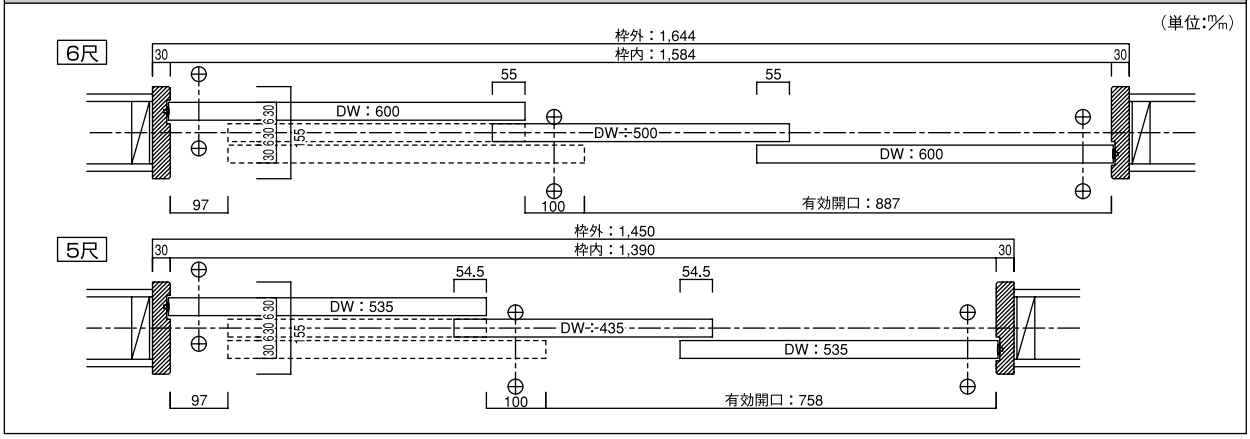
機能引き戸 3枚引き違い戸枠

② 横断面図

調整枠



固定枠



3.施工手順

施工手順のイラストは調整枠の場合になります。

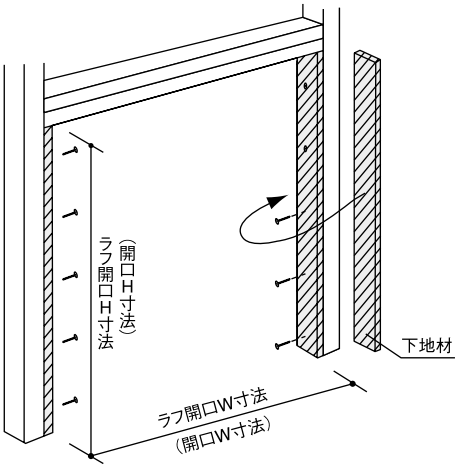
① 取り付け開口部の確認

調整枠の場合

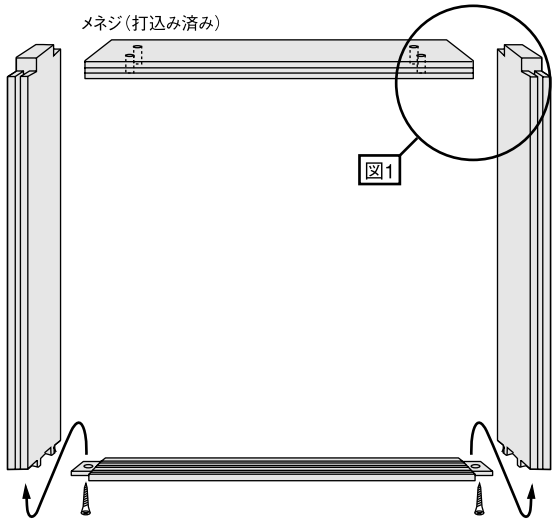
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った**ラフ開口**を設けてください。

固定枠の場合

固定枠には躯体接合金具は付いていません。納まり図を参照のうえ、枠外寸法に合った**開口**を設けてください。

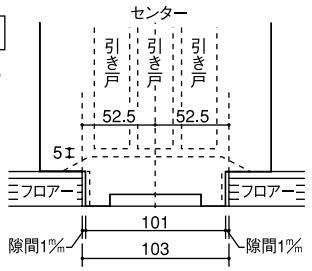


② 枠材の組み立て



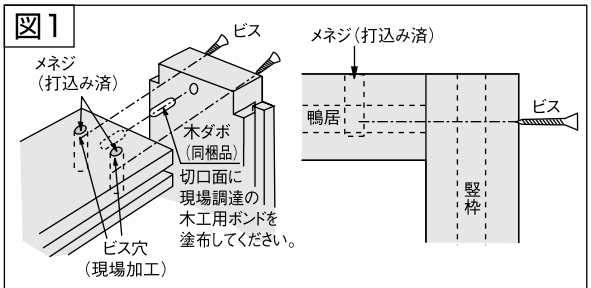
敷居埋め込みの場合

竪枠とフロアーの納まり



- 15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板などを下地にし、高さ調整したうえで施工してください。

図1



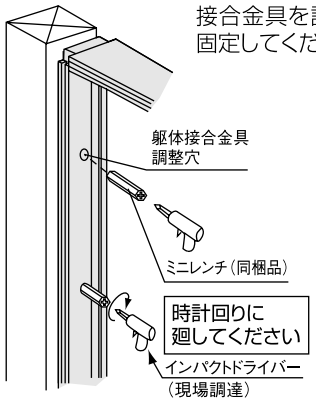
注意！ 敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

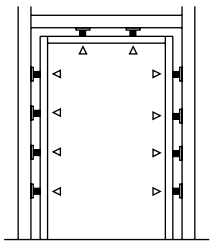
③ 枠材の固定と建て付け調整

調整枠の場合

枠材の仮固定

同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具調整穴より躯体接合金具を調整し、枠材を仮固定してください。

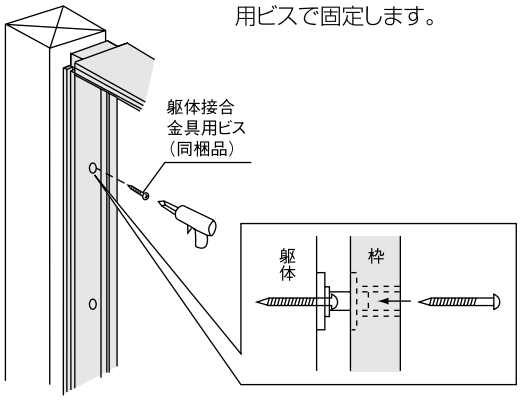




下地材不要

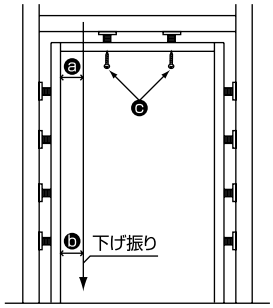
竪枠の本固定

竪枠のみ8ヵ所に先に同梱の躯体接合金具用ビスで固定します。

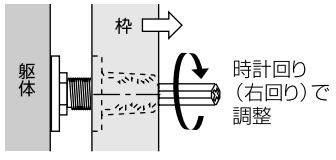


建て付け調整

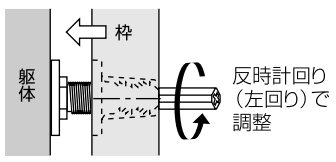
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



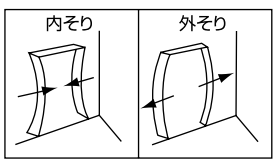
枠を内側に寄せる場合



枠を外側に出す場合



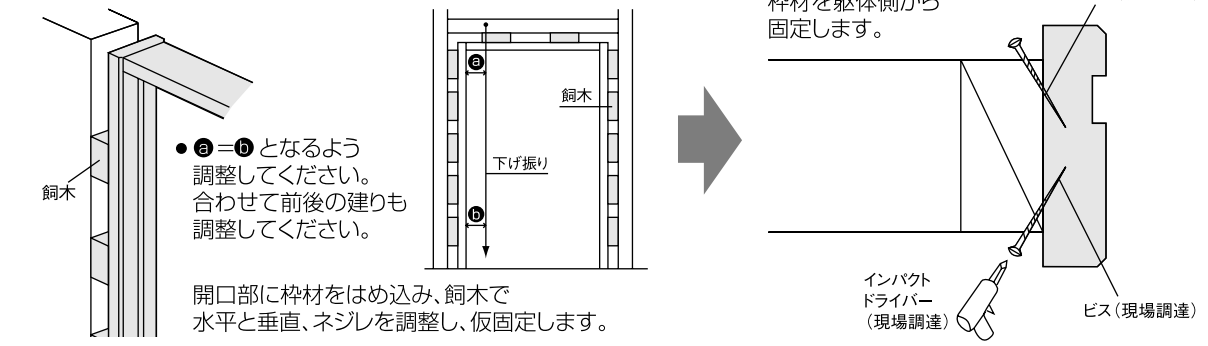
※下記の様なことがないようご注意ください。



調整枠 固定枠

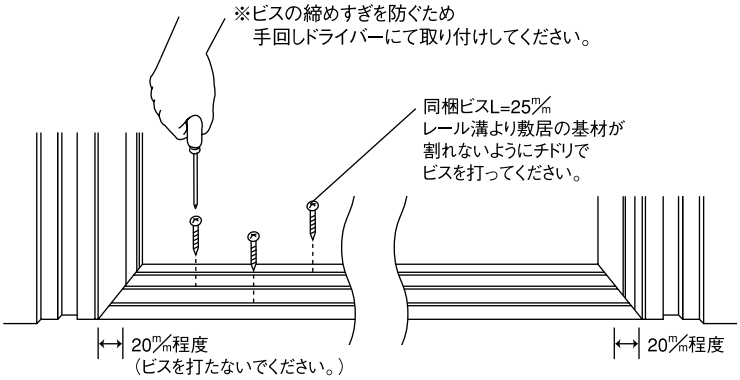
機能引き戸 3枚引き違い戸枠

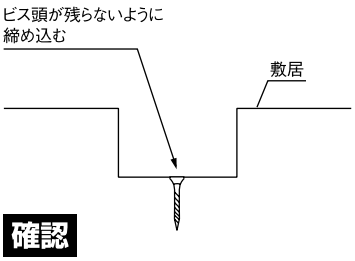
固定枠の場合



④ 敷居の固定とレールの取り付け

敷居の固定





確認

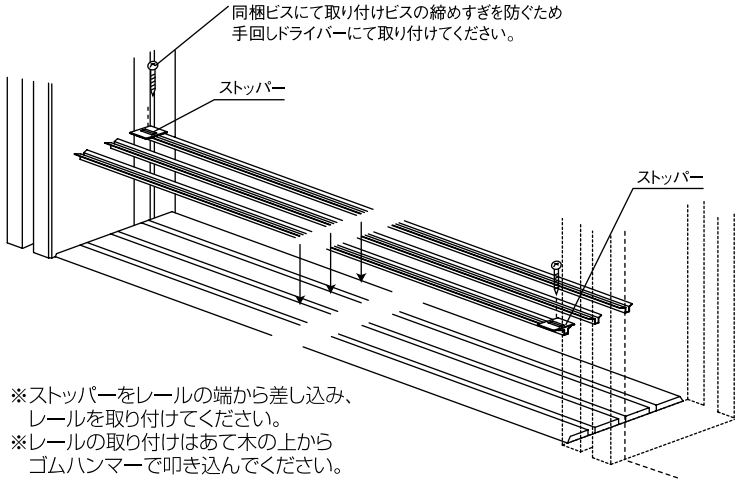
敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

⚠ 注意

敷居溝の外側2本はレール取り付けの際、ストッパーをビス固定します。敷居のビス固定は20㎜程度枠から離してビスを打ってください。

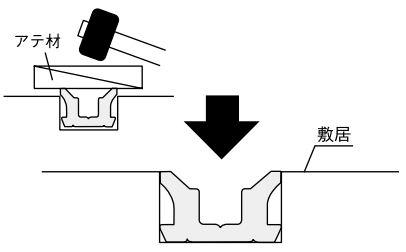
敷居レールの取り付け

重要 レールは必ず下図の位置に取り付けてください。
奥レール：左側にストッパー ／ 中央レール：ストッパーなし ／
手前レール：右側にストッパー



※ストッパーをレールの端から差し込み、
レールを取り付けてください。
※レールの取り付けはあて木の上から
ゴムハンマーで叩き込んでください。

Yレール取り付け時の注意



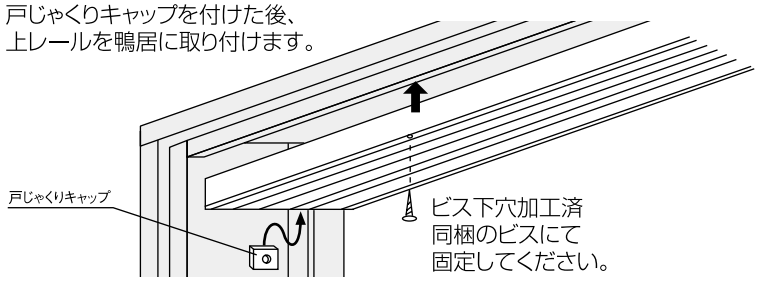
※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

⚠ 注意

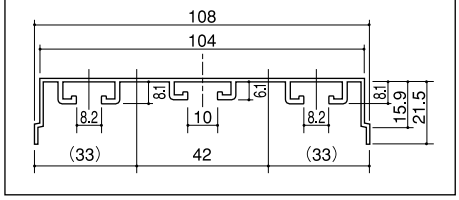
レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

⑤ 上レールの取り付け

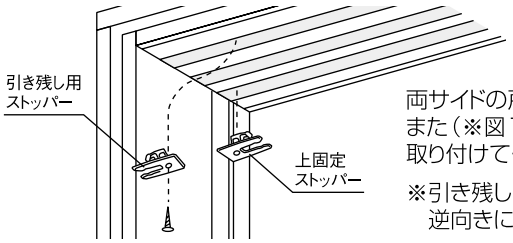
戸じゃくりキャップを付けた後、
上レールを鴨居に取り付けます。



レール詳細図



⑥ 上固定ストッパー・引き残し用ストッパーの取り付け



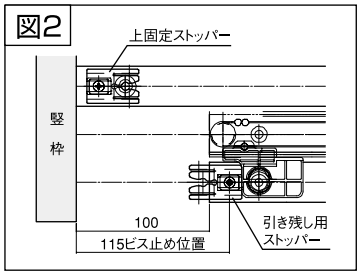
両サイドの戸先側に上固定ストッパーを取り付けてください。（※図1参照）
また（※図1）を参照し、引き残し用ストッパーを指定の位置に同梱の取り付け用ビスで、取り付けてください。

※引き残し用ストッパーは、上固定ストッパーとは
逆向きに取り付けてください。（※図2参照）

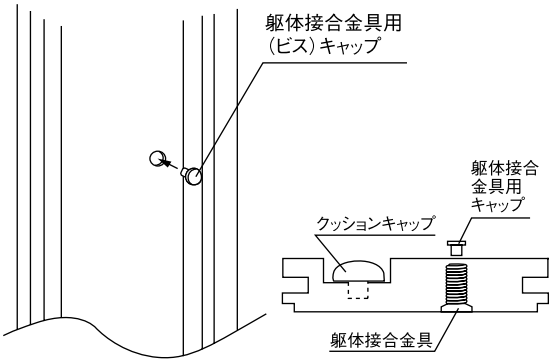
図1



図2



⑦モヘア・キャップの取り付け



※躯体接合金具用キャップは
調整枠の場合のみ取り付けます。

⑧ケーシングの取り付け ※調整枠の場合のみ

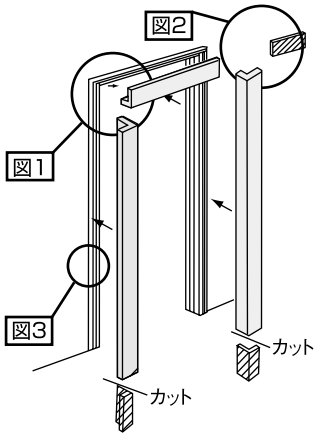


図1・図2

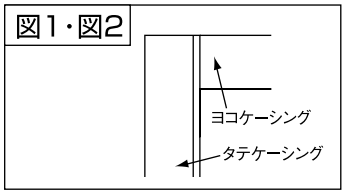
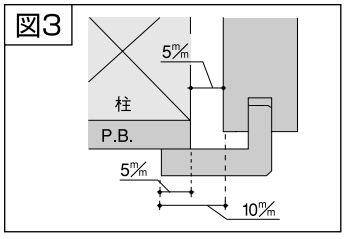


図3



施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

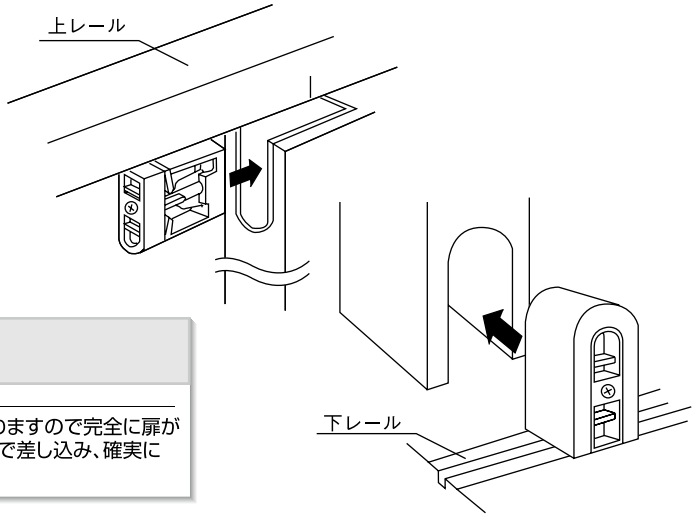
ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

間仕切折れ戸

施工手順

ドアの吊り込み

扉を吊り車とガイドランナーにあわせて吊り込み、扉の横木口から吊り車をカチッと音がするまで差し込み固定します。

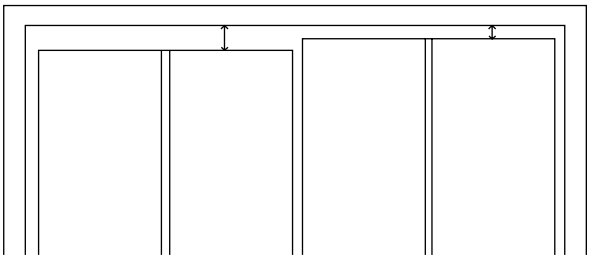


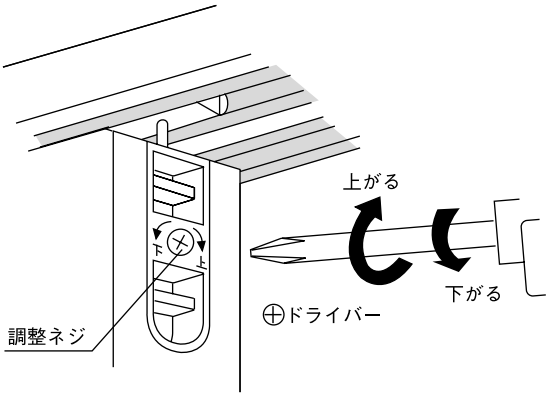
⚠ 注意

必ずおこなう　不完全な吊り込みは扉の脱落の原因となりますので完全に扉が装着されるよう奥までカチッと音がするまで差し込み、確実に装着されているか確認ください。

扉の高さ調整

上端の隙間を確認のうえ、高さを調整してください。
扉を吊ったまま、調整ネジを回して高さを調整します。





施工終了後

養生の方法

施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤまたは養生カバー等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売の養生テープをご使用ください。

お手入れのしかた

扉が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

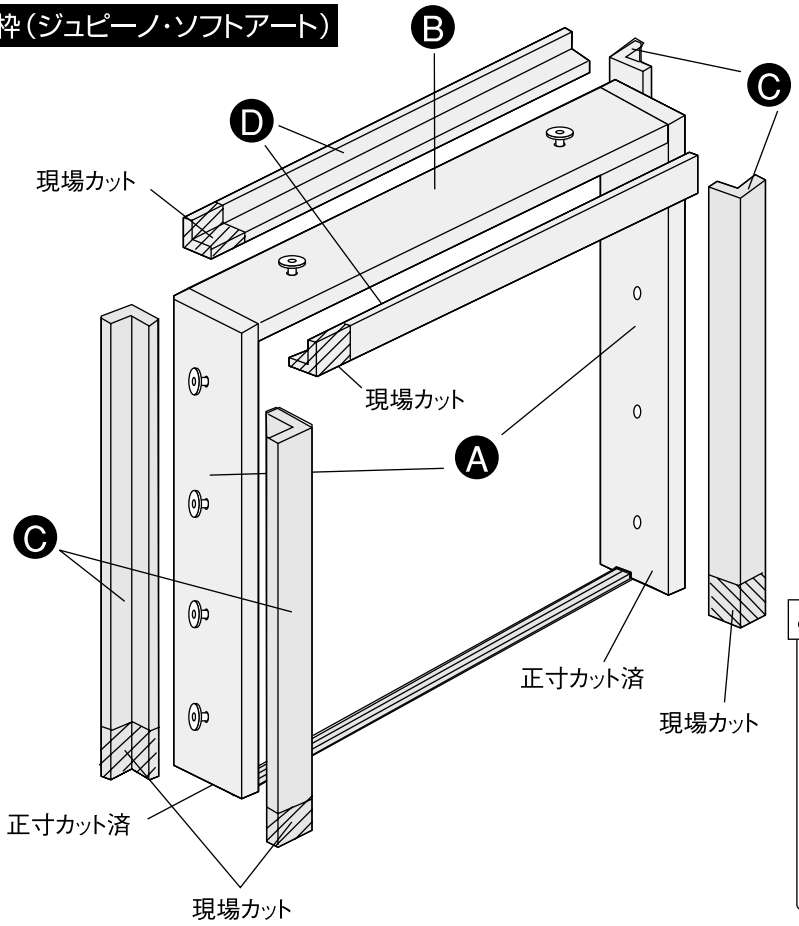
間仕切りシステム折れ戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

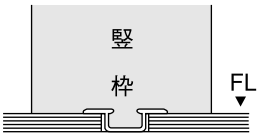
開梱

調整枠（ジュピーノ・ソフトアート）



ご注意

竪枠の正寸カット済について



フロアー下端（12㎜）までの延びを見ていますのでフロアー施工後に枠を取り付ける場合は12㎜カットしてください。

梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量 6尺	9尺	12尺	備考
Ⓐ	竪枠	2本			正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本			正寸カット済
	上レール	1本			ビス付
	下レール	1本			ビス付
	吊り車	4個	6個	8個	ビス付
	ガイドランナー	4個	6個	8個	ビス付
	組み立て専用ビス	4本			
	躯体接合金具用ビス	10本	12本	14本	
	木ダボ	2本			
	ミニレンチ	1本			
	躯体接合金具用キャップ	8個			
	施工説明書	1部			

ケーシングセット

	部材名	数量	備考
Ⓒ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
Ⓓ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

調整枠

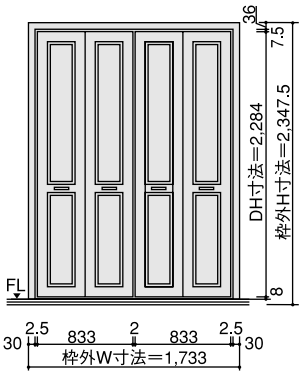
間仕切りシステム折れ戸専用枠材

2. 納まり図

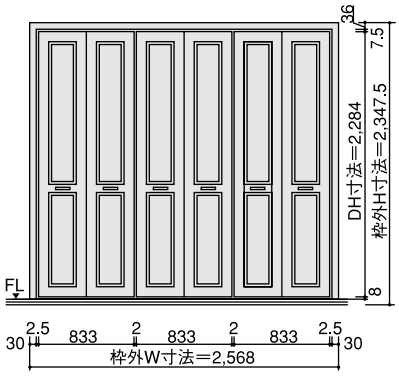
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

（単位:㎜）

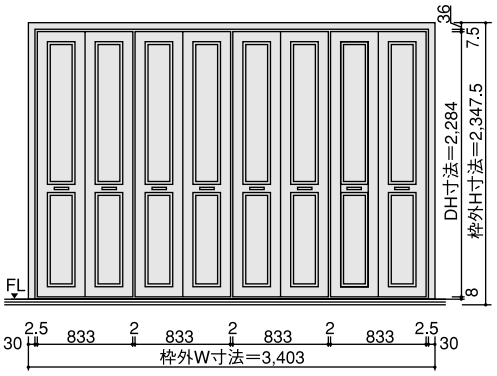
（間口6尺＝枠外1,733㎜）



（間口9尺）

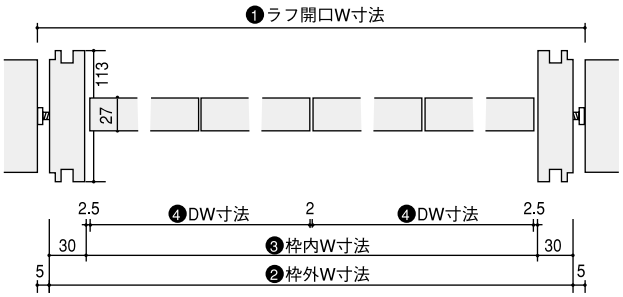


（間口12尺）

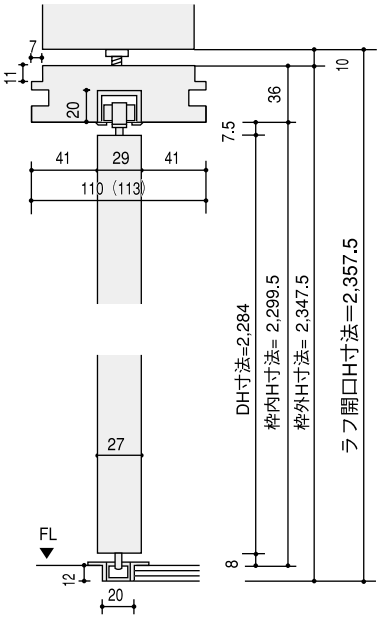


〈横断面図〉

（間口6尺=枠外1,733㎜）



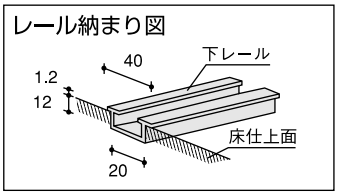
〈縦断面図〉



■ 枠製品寸法と納まり

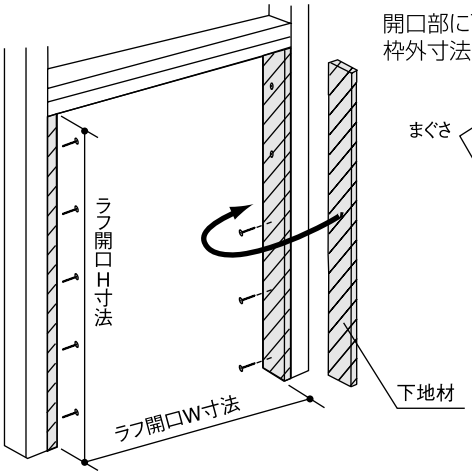
製品寸法	間口6尺	間口9尺	間口12尺
❶ラフ開口W寸法	1,743	2,578	3,413
❷枠外W寸法	1,733	2,568	3,403
❸枠内W寸法	1,673	2,508	3,343
❹DW寸法	833（×2）	833（×3）	833（×4）
有効開口寸法	1,453	2,200	2,947

レール納まり図

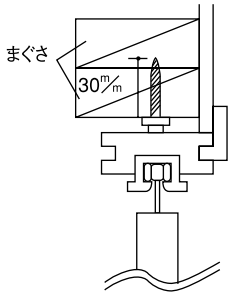


3. 施工手順

取り付け開口部の確認



開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、
枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



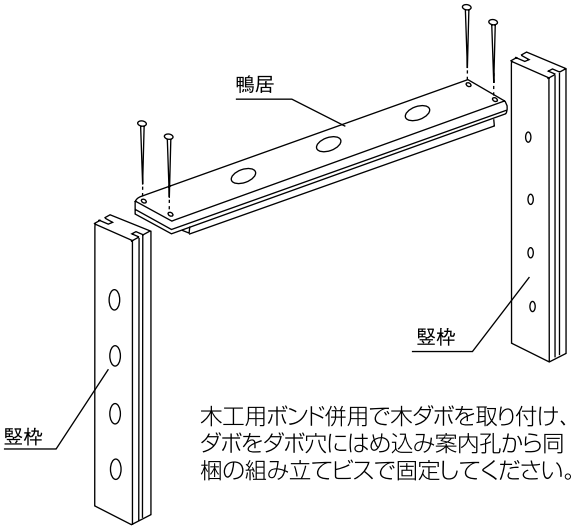
⚠ 注意

注意扉の自重に対するビスの保持のアップの為、まぐさは必ずダブルでとりつけて補強してください。

お願い

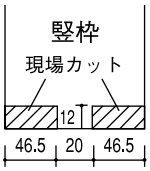
下レールは床に埋め込みとなりますので床下地、及び床の不陸がない様施工してください。

枠材の組み立て

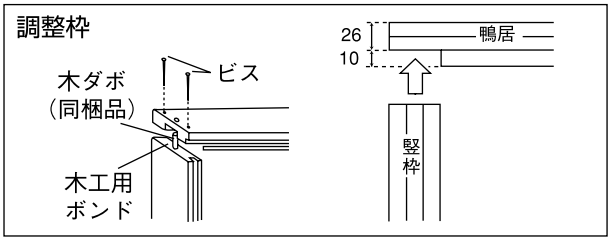


木工用ボンド併用で木ダボを取り付け、ダボをダボ穴にはめ込み案内孔から同梱の組み立てビスで固定してください。

竪枠はフロアー厚12㎜分程のびをみてカットされています。床先貼りの場合は、下図のように現場でカットをして施工してください。



※15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

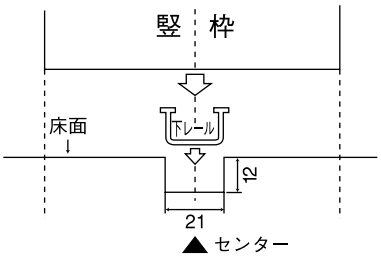


⚠ 注意

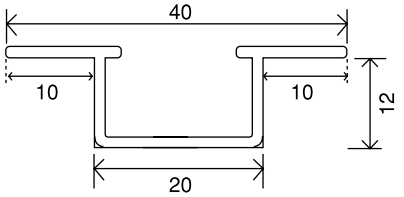
ビス穴加工以外の位置にビスを取り付けると、枠材に割れが発生し、ドアの脱落の原因となり危険ですので、必ずビスはビス穴加工のある位置に取り付けてください。ビス穴加工のない位置にビスを取り付ける場合は、案内孔（3φ㎜）を開けたうえでビスを取り付けてください。

下レールの位置決め

下レールは埋め込み式が基本です。枠材の施工前に下図の様に、下レール埋め込み用スペースを竪枠センターに確保してください。

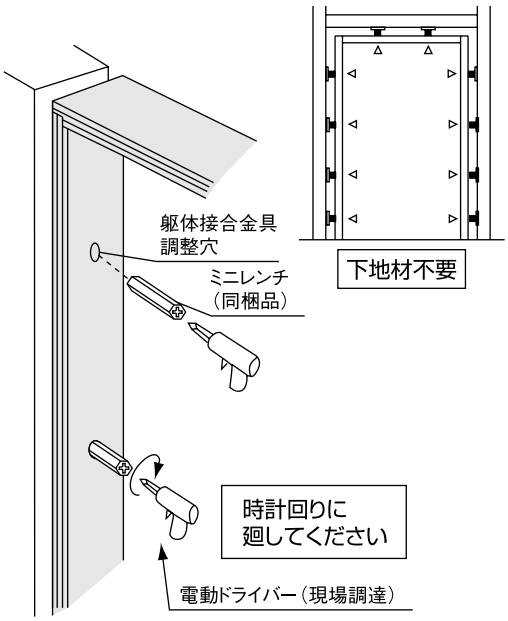


下レール寸法図 （単位:㎜）

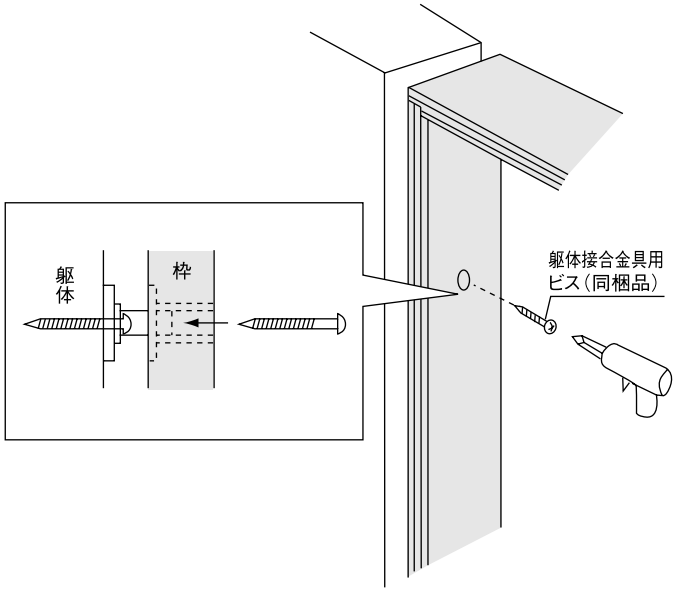


間仕切りシステム折れ戸専用枠材

竪枠の仮固定

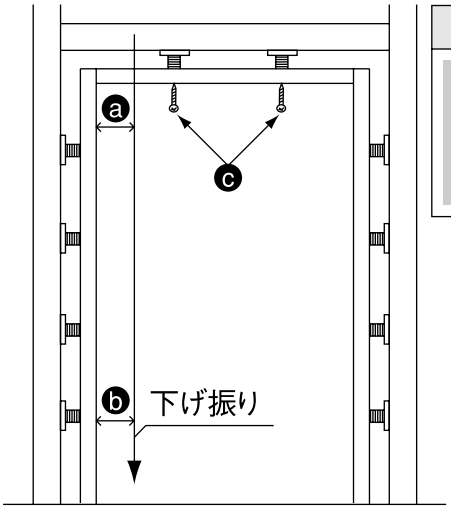


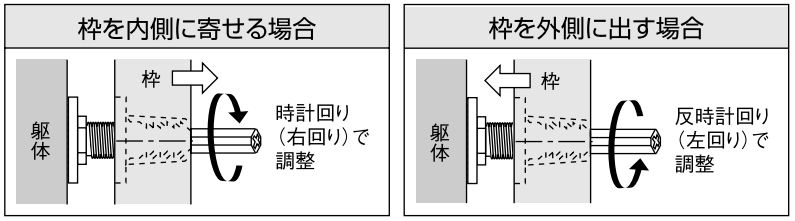
竪枠の本固定

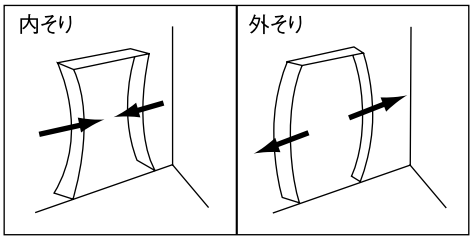


建て付け調整ならびに鴨居の本固定

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



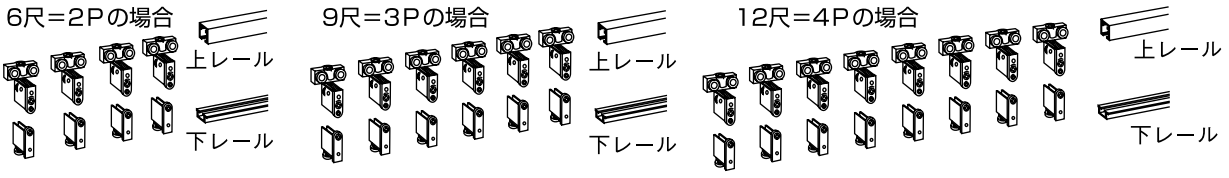




※右記の様なことが
ないようご注意ください。

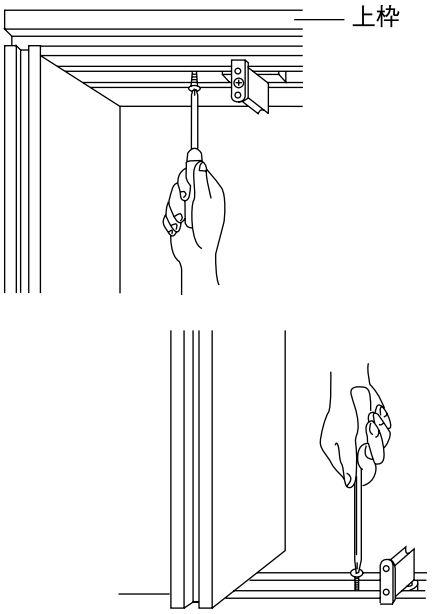
部品の挿入

上下レールを取り付ける前に、部品をレールに挿入します。



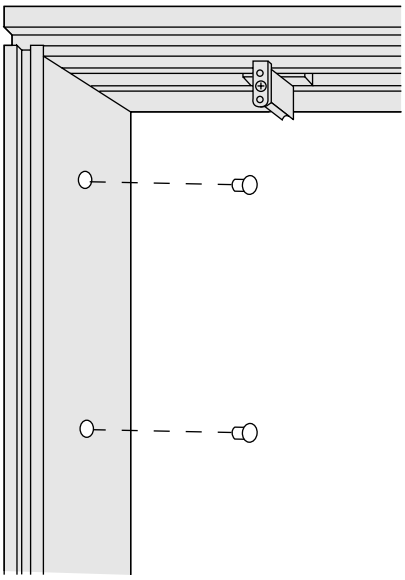
上下レールの取り付け（付属のビス使用）

部品を挿入した上レール、下レールを直径2㎜のキリで、深さ10㎜程度の下穴をあけてそれぞれビスで取り付けます。



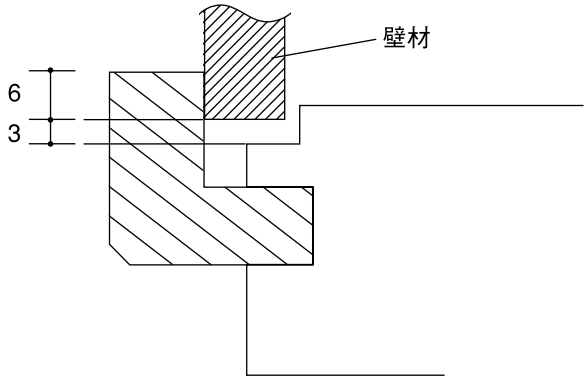
キャップの取り付け

竪枠の躯体接合金具調整穴に付属のキャップを差し込みます。

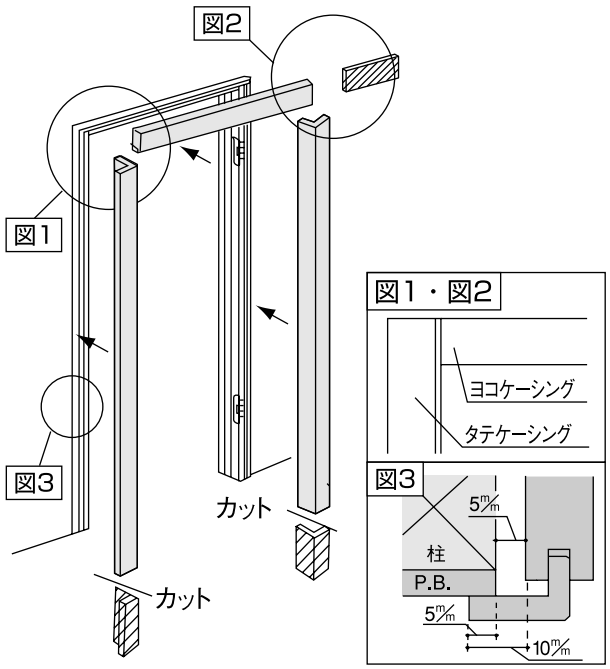


壁材の施工上の注意

躯体接合金具は、完成後でも柱と枠との隙間を調整する機能を持っています。その場合に、壁材が調整の支障にならないよう、下図を参照し、調整のためのクリアランスを確保してください。



ケーシングの取り付け



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してくだ

お手入れのしかた

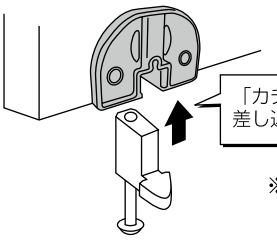
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

クローゼットドア

1. 扉の取り付け・取り外し 置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

扉の取り付け

下ランナーをクローゼット扉下端の固定カップに取り付けます。 置敷居 レール埋込 床直付レール



※下ランナーはクローゼット枠セットの中に入っています。

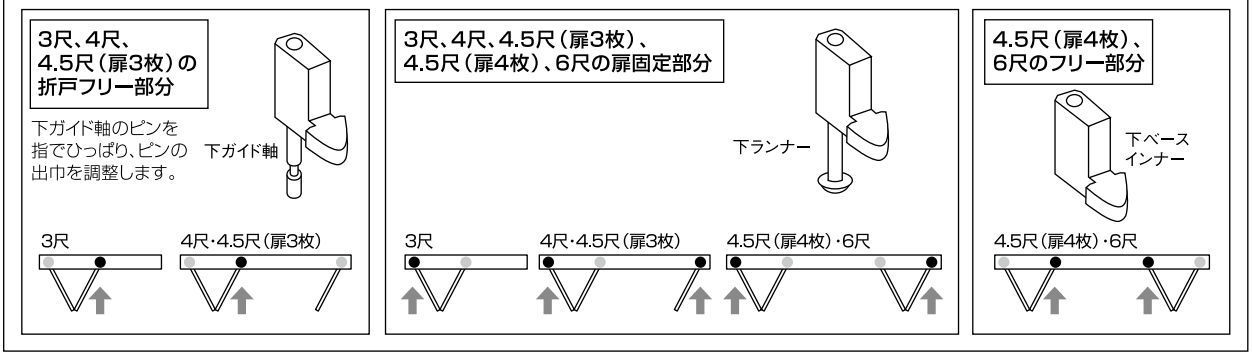
⚠ 注意

必ずおこなう

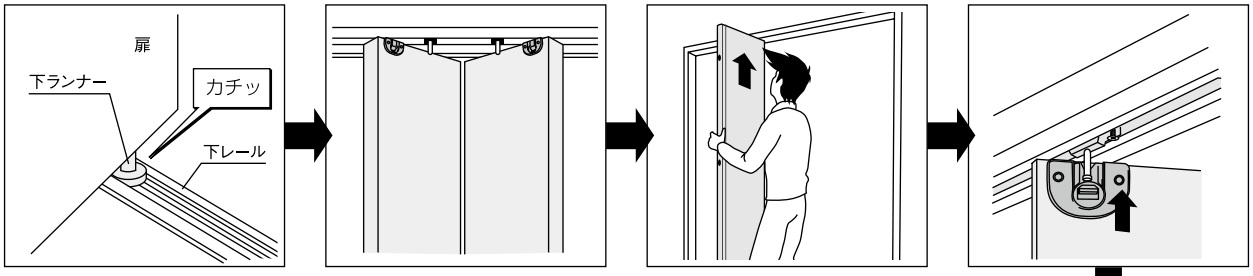
確実に取り付けてください。

確実に取り付けていないと、扉がはずれるおそれがあります。

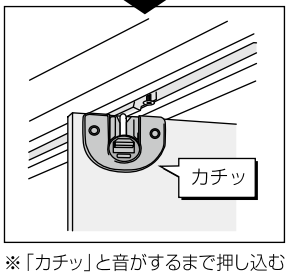
3方枠（レール無し）の場合、下ランナー、下ベースインナー、下ガイド軸を下記位置に取り付ける。 レール無し



下ランナーをレールの溝に入れ、上ランナーをクローゼット扉を折り曲げて固定カップで挟み込むようにします。
扉を持ち上げて上ランナーのシャフト部分に扉裏のカップが「カチッ」と音がするまで差し込みます。



※下ランナーを下レールの溝に落し込む ※上ランナーのシャフトを扉ではさむ ※はさんだ状態で上部ストッパーをはずす



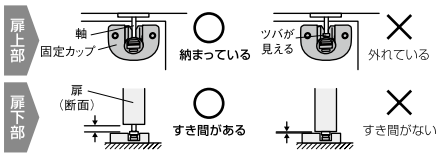
※「カチッ」と音がするまで押し込む

⚠ 注意

必ずおこなう

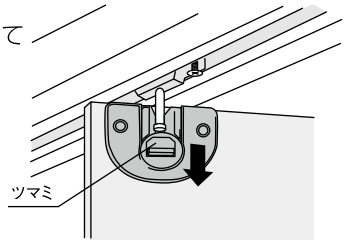
確実に取り付けてください。

確実に取り付けていないと、扉がはずれ、脱落のおそれがあります。



扉の取り外し

赤いツマミを下にズラしてピンをはずします。



⚠ 注意

必ずおこなう

扉の下端に養生材を敷いて作業する。

急に扉がはずれることがあります。

2. 扉の固定

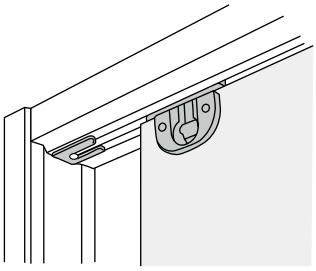
置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

必要に応じて扉の固定を行ってください。

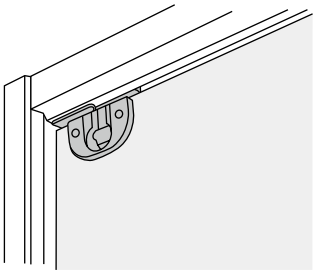
扉を固定する場合

置敷居 レール埋込 床直付レール

固定する扉1枚を伸ばした状態で上固定ストッパー、下固定ストッパーに固定する。
※この状態だと必要に応じてフリーオープンにもできます。



クローゼット上部
フリーで動いている場合



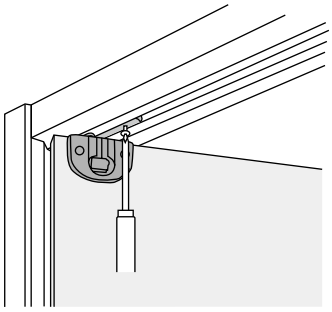
クローゼット上部
固定されている場合

※完全に固定されていないので扉をひっぱると左のフリーの状態になります。

フリーオープンにする場合は先に上固定ストッパーの方から取り外してください。

扉を完全に固定する場合

上ランナーに付いている固定ビスを締めて固定する。



クローゼット上部
完全に固定して使用する場合
上ランナーに付いている固定ビスを締め込みます。

⚠ 注意

必ずおこなう

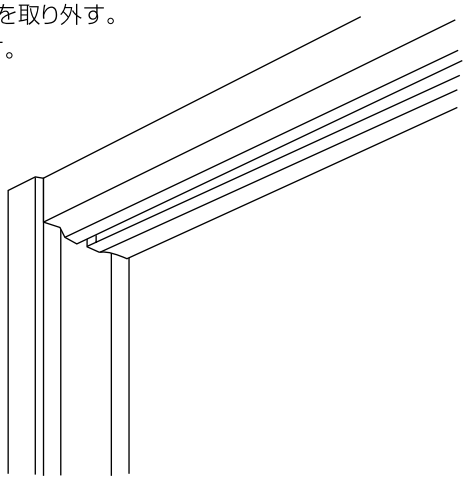
3方枠（レール無し）の場合は必ず軸固定側の固定ビスを締め付けてください。

確実に固定しないと扉が不安定になりケガをするおそれがあります。

扉を完全にフリーオープンの状態にする場合

置敷居 レール埋込 床直付レール

上固定ストッパーと下固定ストッパーを取り外す。
※後で再度取り付けることもできます。



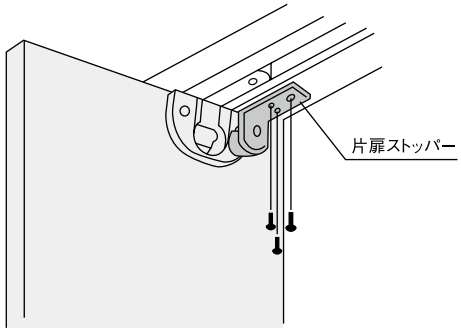
クローゼットドア

3. 金具の取り付け

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

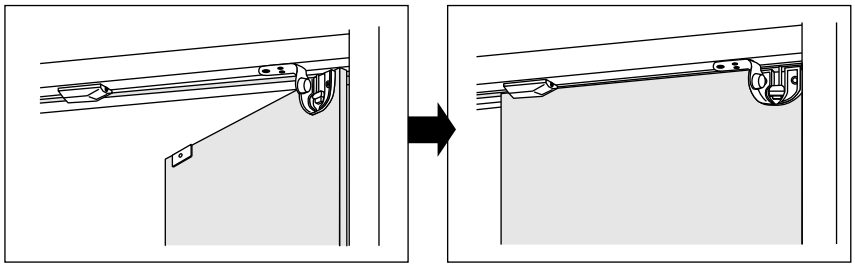
ドアストッパーとマグネットの取り付け ※4尺・4.5尺（扉3枚）のみ

片扉の角度に合せて上レールの後ろ側に
片扉ストッパーを取り付けます。



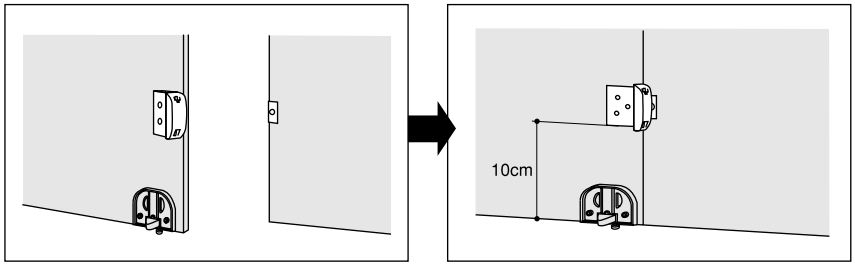
片扉マグネットを上レールと扉本体の2ヵ所に取り付けます。
※上レール用と扉取り付け用の2タイプありますのでご注意ください。（形状が異なります）

上レール用



枠側には「片扉マグネット上」を
レール内に取り付けます。

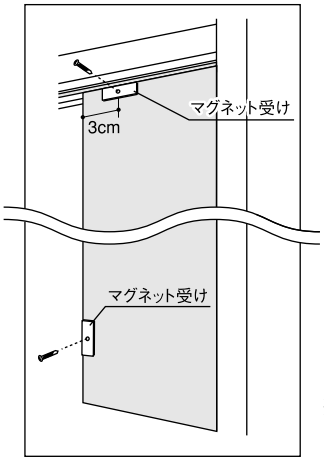
扉取り付け用 ※3方枠（レール無し）タイプには「片扉マグネット下」は取り付けません。



片扉には「片扉マグネット下」を
折戸裏に取り付けます。
片扉裏にマグネットが付いて
固定されます。

※マグネットは扉と
平行に取り付けてください。

片扉裏側



※片扉マグネット下の受けはマグネットの
高さに合わせて取り付けてください。

⚠ 注意

必ずおこなう

プレートからビスが飛び出ていないか確認してください。
プレートからビスが出ていると、マグネットがきかないおそれがあります。

プレートを取り付ける際は、2㎜のキリで下穴を開けてから取り付けてください。

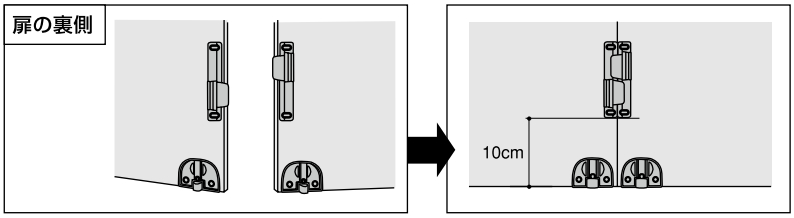
4. 扉の高さ調整

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

めし合せの取り付け ※4.5尺（扉4枚）、6尺のみ

レール無し

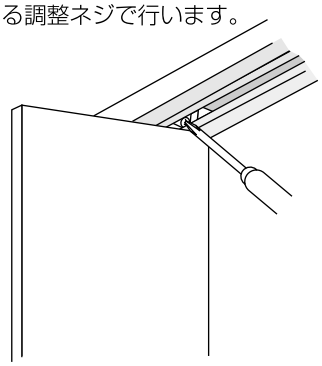
6尺の場合、折れ戸どおしが閉じた際には扉裏のめし合わせで固定されます。



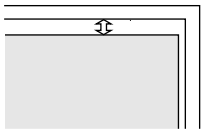
※めし合わせは扉と
平行に取り付けてください。

扉の高さ調整

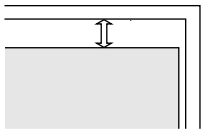
扉の調整は表側から上ランナーに
付いている調整ネジで行います。



ドライバーを右にまわすと扉が
上がり隙間が埋まります。



ドライバーを左にまわすと扉が
下がり隙間が広がります。



⚠ 注意

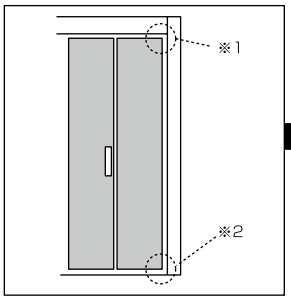
禁止

ドライバーで無理にビス穴をまわさないでください。

ビス頭の山がつぶれ調整ができなくなるおそれがあります。

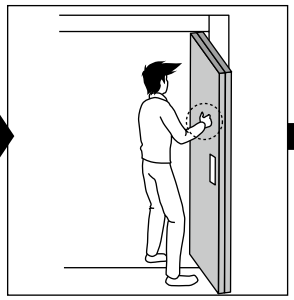
クローゼット扉　軸固定解除方法

①クローゼット扉が軸固定されている状態



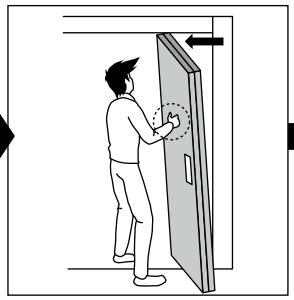
上ランナー（吊車）は、上固定ストッパーにハサミ込まれています。※1
下ランナー（ピボット）は、下固定ストッパーの穴に落し込んでいます。※2

②クローゼット扉の取っ手より上側の側面を持つ



折りたたんだ状態の方がはずしやすくなります。

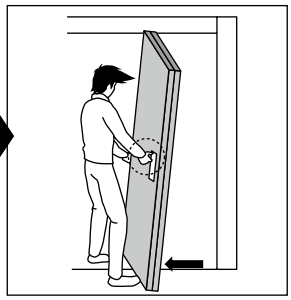
③上固定ストッパーの固定を外す



下固定ストッパーから外そうとすると、ストッパーがズレてしまうことがあります。

上固定ストッパーの方が、下固定ストッパーよりも簡単に外れます

④下固定ストッパーの固定を外す



必ず上固定ストッパーが外れていることを確認してください。

上固定ストッパーが外れていると、下固定ストッパーから簡単に外れます。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

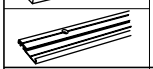
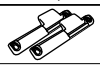
お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

クローゼット専用枠

1. 開梱

梱包内容表

	部材名		敷居直置き・レール埋め込み						床直付けレール						レール無し			
			3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	6尺
	枠材	竪枠	2本						2本						2本			
		鴨居	1本						1本						1本			
	レール	上レール	1本						1本						1本			
		下レール（埋込み用）	1本															
		レール下地ベース	1本															
		床直付けレール							1本									
	上下ランナー	上ランナー	2個	3個		4個	6個	8個	2個	3個		4個	6個	8個	2個	3個		4個
		下ランナー	2個	3個		4個	6個	8個	2個	3個		4個	6個	8個	1個	2個		
		下ベースインナー																2個
		下ガイド軸													1個			
	キャッチャー	上固定ストッパー	1個	2個					1個	2個					1個	2個		
		下固定ストッパー	1個	2個					1個	2個								
		下固定ストッパーNR													1個	2個		
		下ガイド受け													1個			
	片扉用金具	片扉マグネット上（レール付）		1個						1個						1個		
		片扉マグネット下（扉付）		1個						1個								
		片扉ストッパー		1個						1個						1個		
	その他	めし合せ																1セット
		木ダボ	4本						4本						4本			
		ミニレンチ	1本						1本						1本			
		躯体接合金具キャップ	8個						8個						8個			
	ビス	上レール用ナベビス	3本	4本		5本	7本	9本	3本	4本		5本	7本	9本	3本	4本		5本
		下レール用サラビス	3本	4本		5本	7本	9本	3本	4本		5本	7本	9本				
		組立て専用ビス	6本						2本						2本			
		敷居ベース用ビス	2本															
		躯体接合金具ビス	9本			10本	12本	14本	9本			10本	12本	14本	9本			10本

※片扉用金具・めし合せは扉本体に取り付けます。扉を取り付けるまで大切に保管しておいてください。

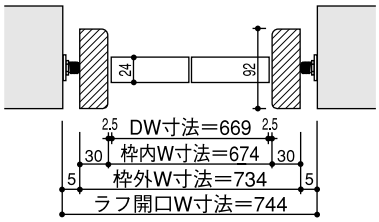
2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

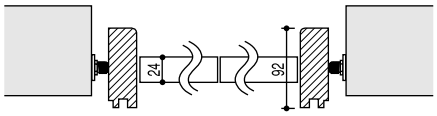
横断面図

（単位：㎜）

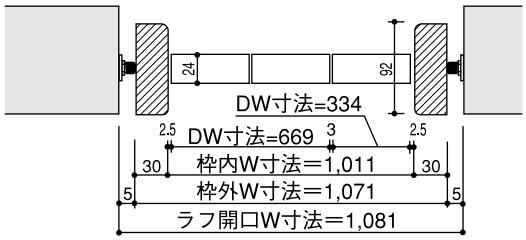
（W＝3尺）



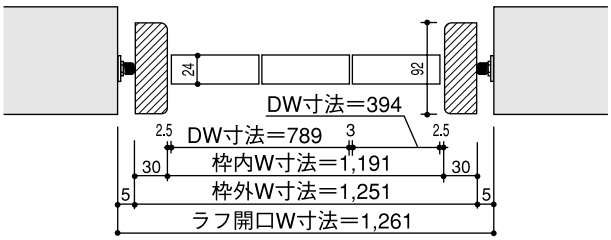
調整枠



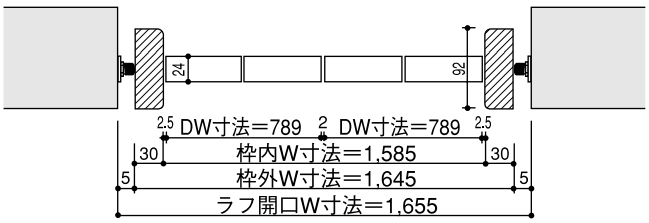
（W＝4尺）



（W＝4.5尺）



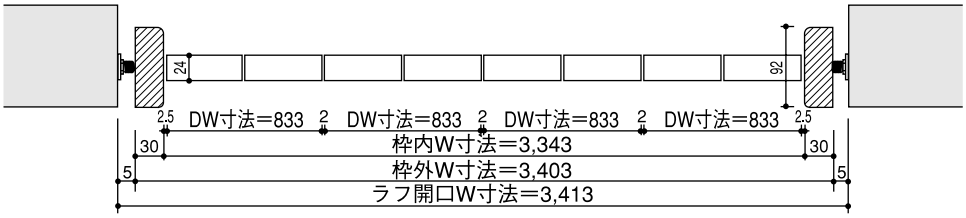
（W＝6尺）



（W＝9尺）



（W＝12尺）

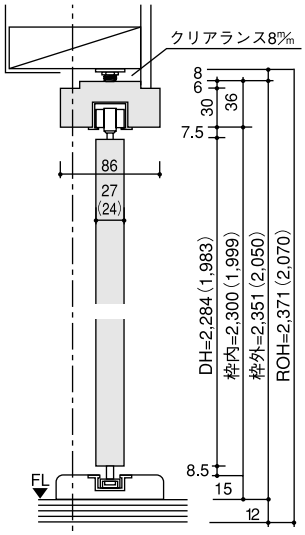
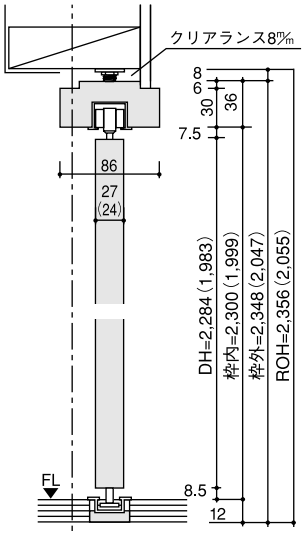
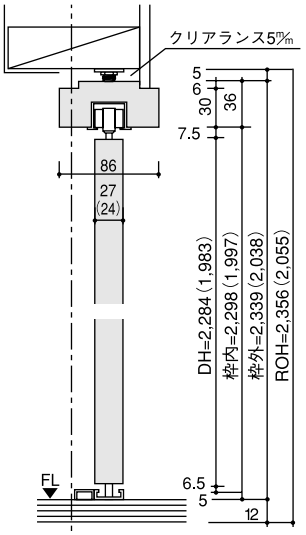
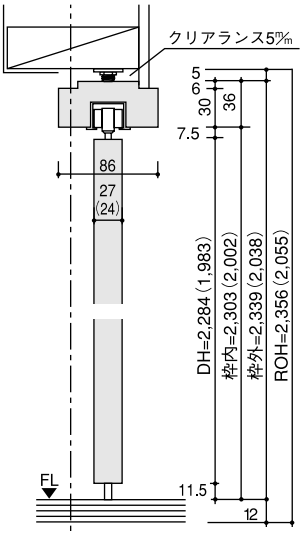
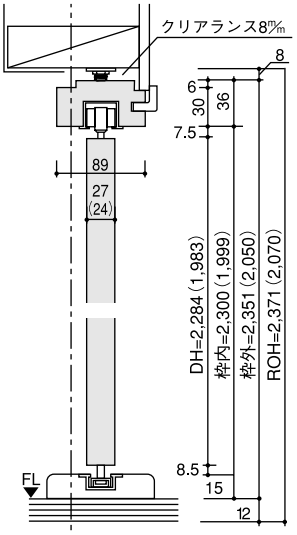
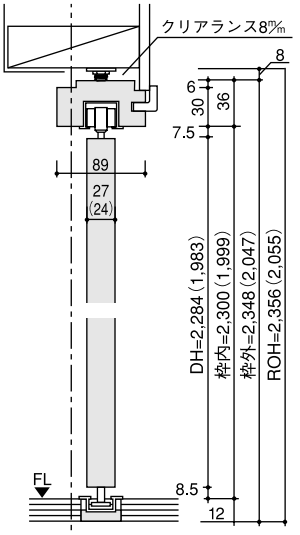
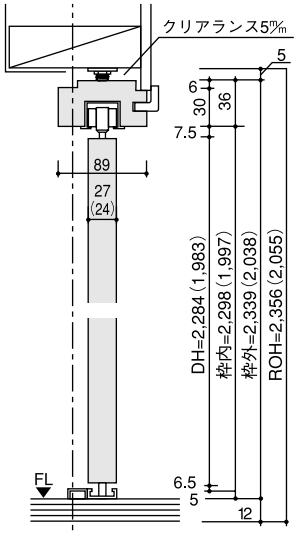
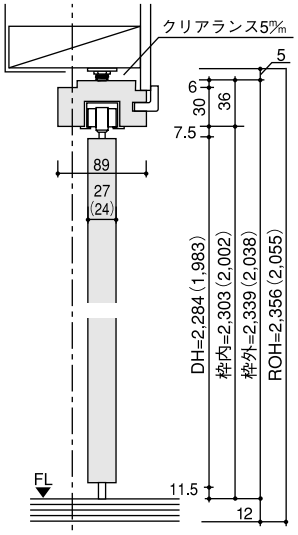


※上記納まり図は固定枠仕様ですが、調整枠の場合も同じ寸法になります。

クローゼット専用枠

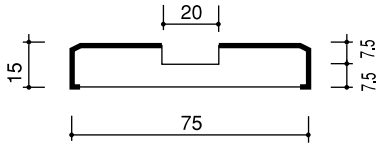
※（ ）内寸法はDH=7尺タイプ

縦断面図　（単位：㎜）

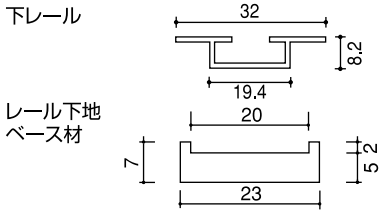
	敷居直置き施工	レール埋め込み施工	床直付けレール施工	レール無し施工
	置敷居	レール埋込	床直付レール	レール無し
固定枠				
調整枠				

※扉の厚み24㎜はルーバータイプの場合です。

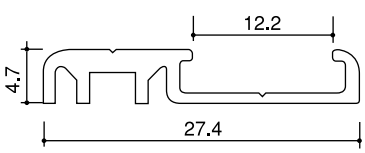
直置き敷居詳細図



埋め込みレール詳細図

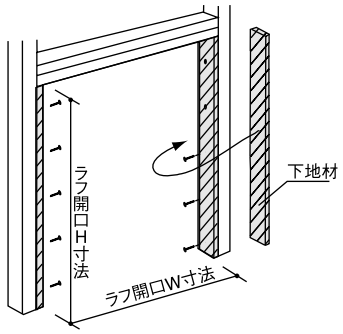


床直付けレール詳細図

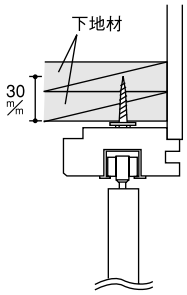


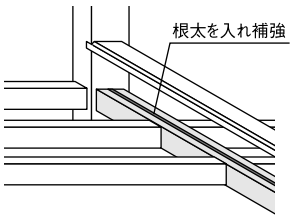
3．施工手順

取り付け開口部・敷居下地の確認 置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し



開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。





枠材は、捨て張り合板の上に施工するか、根太の上に直接施工する場合は、必ず図のように根太を入れ補強してください。

⚠ 注意

必ずおこなう

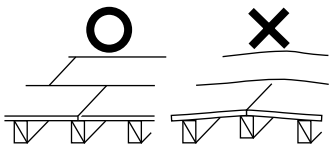
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、まぐさは必ずダブルでとりつけて補強してください。

床直付レール レール無し

施工前確認事項

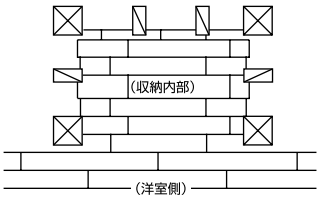
下地の確認

床材（捨て張り合板）を施工する前にクローゼット枠の取り付く位置の下地の水平を確認してください。床（捨て張り合板）の不陸のためにクローゼット扉の開閉に不具合を生じるおそれがあります。

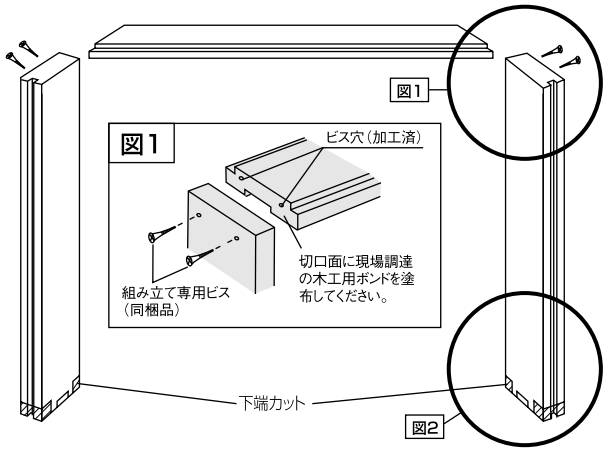


床材の先張り

床直付けレール・レール無し仕様は敷居を使用いたしません。クローゼットの収納内部にも床材を施工してください。



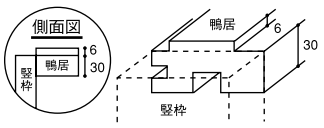
枠材の組み立て 置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し



お願い

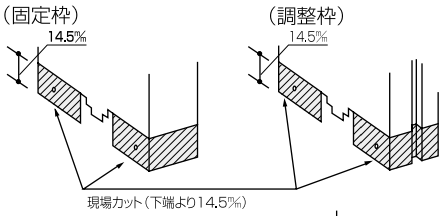
図のように、30㎜見付けの位置で枠を組んでください。

※図のように行わないと扉が入らなくなりますのでご注意ください。

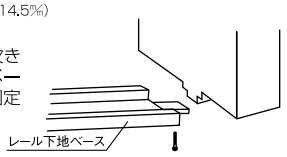


レール埋込

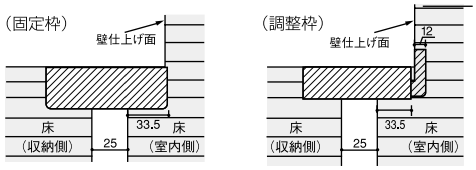
図2 レール埋め込みの場合（単位：㎜）



竪枠の下端をカットした後、欠き込みに合わせてレール下地ベースを取り付け、裏からビスで固定します。



竪枠とフロアーの納まり



●15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

床直付レール レール無し

図2 床直付けレールの場合 レール無しの場合（単位：㎜）

竪枠下端加工はありません。
直接仕上げフロアの上に置いて施工します。

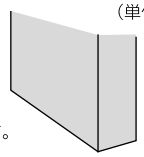
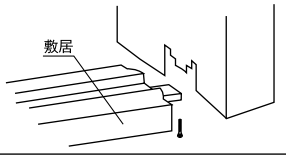


図2 敷居直置きの場合

敷居を組み立て専用ビスで固定します。

※敷居直置きの場合はレール下地ベースは使用しません。

●竪枠の現場カットは不要です。（単位：㎜）

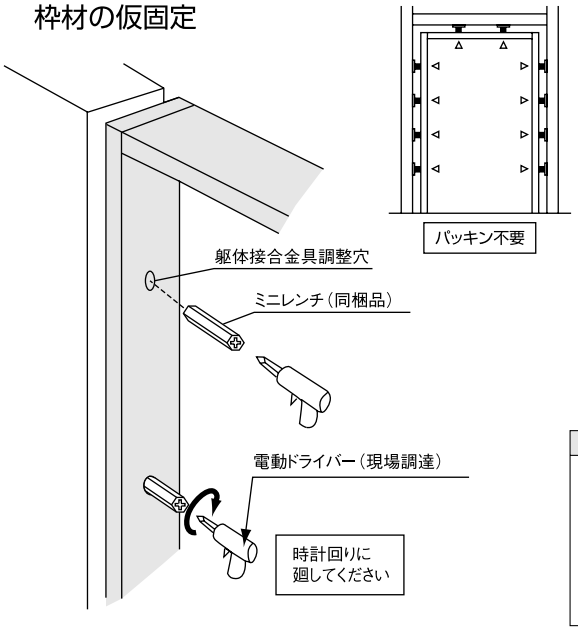


クローゼット専用枠

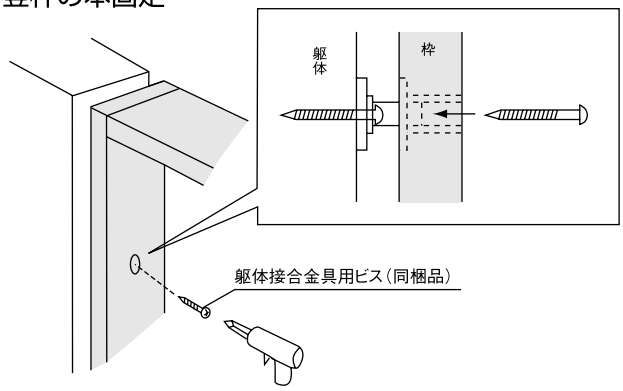
枠材の仮固定・竪枠の本固定

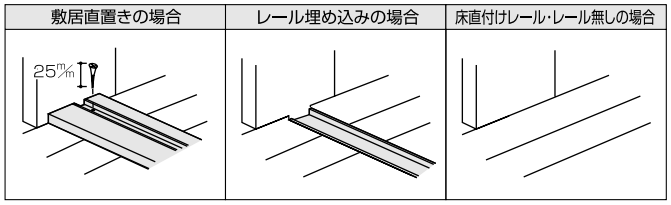
置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

枠材の仮固定



竪枠の本固定

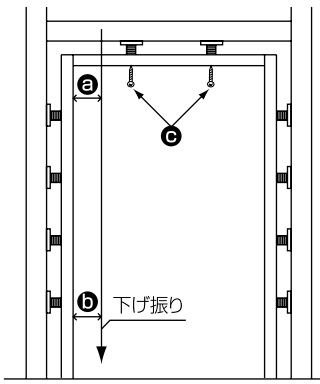


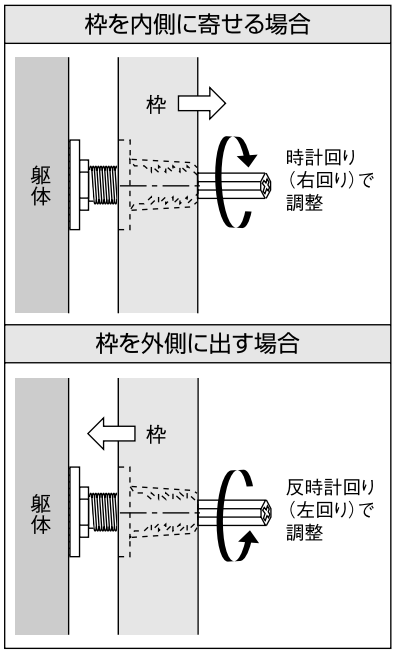


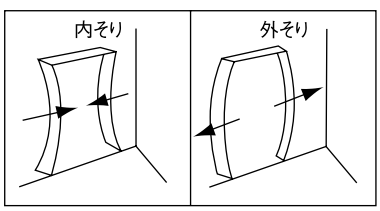
建て付け調整・鴨居の本固定

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。







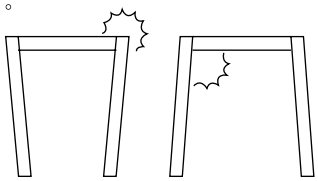
※右記の様なことがないようご注意ください。

床直付レール レール無し

⚠ 注意

破損に十分注意する。

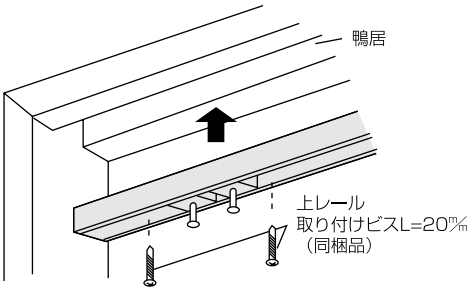
クローゼット枠は3方枠での施工となるため躯体の開口部へセットする時竪枠と鴨居のジョイント部が破損するおそれがあります。



上・下レールの取り付け

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

上レールの取り付け



上レール取り付けの際、鴨居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の下穴をあけ、附属のビスを使用して取り付けます。

⚠ 注意

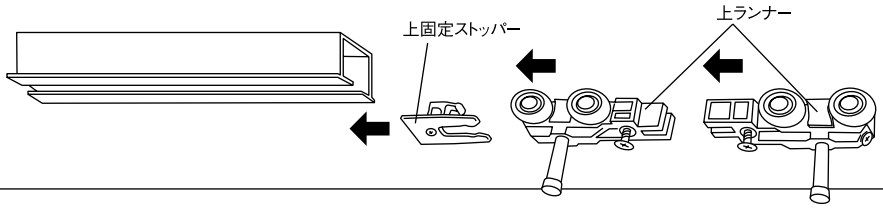
禁止

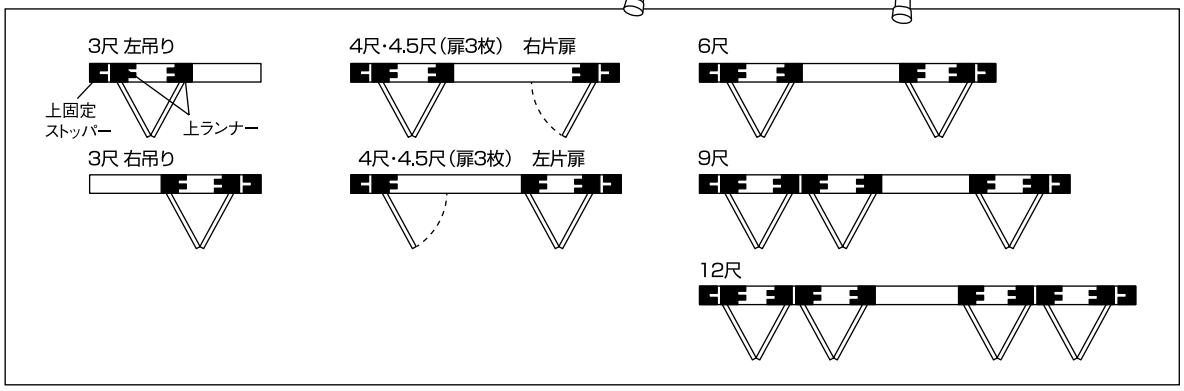
インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

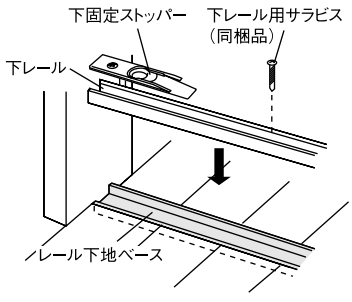
上ランナーの凸凹が合うように向かい合わせにして挿入してください。





レール埋込

下レールの取り付け



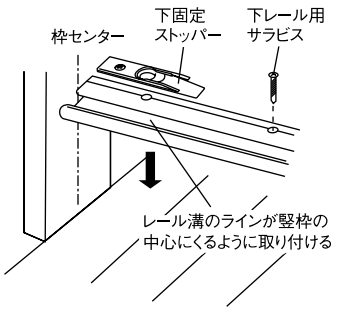
※上図はレール埋め込みのものですが敷居直置きの場合も同様です。

鴨居と同様に敷居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の下穴をあけ、下レールをレール下地ベースまたは敷居にはめこんでください。下レール用サラビスで、レールから下地材までしっかりと固定します。

下レールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないように固定します。

床直付レール

床直付けレールの取り付け



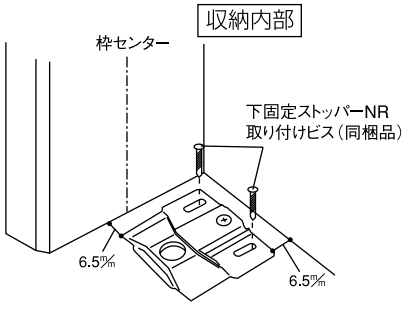
レール溝の中心にあるラインが枠材の中心にくるように取り付けてください。

※ビスが収納内部にくるように取り付けてください。

床直付けレールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないように固定します。

レール無し

レール無しタイプの場合の金具取り付け



下固定ストッパーNR（固定側）

※竪枠の後ろ面、竪枠からともに6.5㎜はなした位置に取り付けネジで床に取り付けてください。

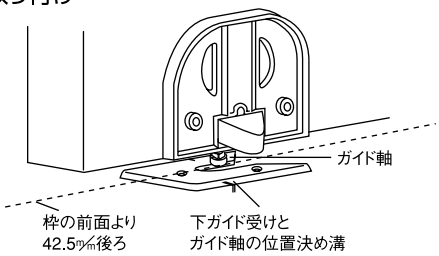
クローゼット専用枠

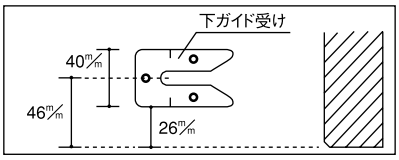
レール無し

レール無しタイプ、W=3尺、4尺、4.5尺の場合のみ下部金具取り付け

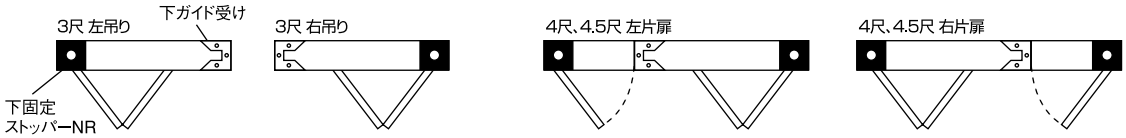
下ガイド受け（可動側受け金具）の取り付け

扉を吊った後下ガイド受けを取り付ける際は右図のように下ランナーと下ガイド受けの位置決め溝をそろえるようにして床に付属のビスで取り付けてください。





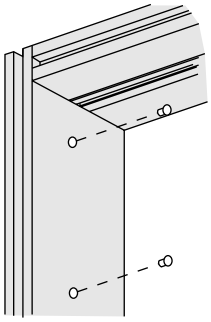
※固定金具が収納の内部にくるように取り付けてください。



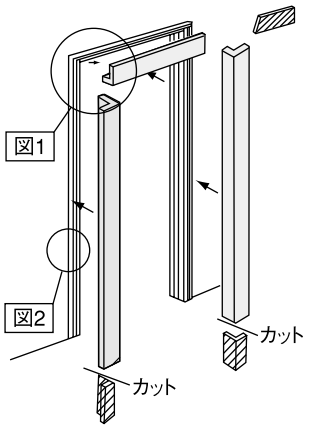
キャップの取り付け・ケーシングの取り付け（調整枠のみ）

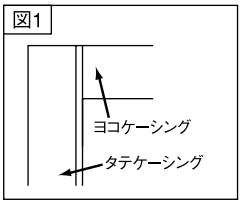
キャップの取り付け

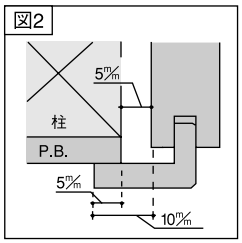
竪枠の躯体接合金具調整穴に付属のキャップを差し込みます。



ケーシングの取り付け







施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

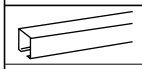
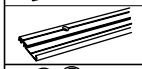
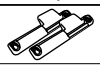
お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

クローゼット専用枠

1. 開梱

梱包内容表

	部材名		敷居直置き・レール埋め込み						床直付けレール						レール無し			
			3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	6尺
	枠材	竪枠	2本						2本						2本			
		鴨居	1本						1本						1本			
	レール	上レール	1本						1本						1本			
		下レール（埋込み用）	1本															
		レール下地ベース	1本															
		床直付けレール							1本									
	上下ランナー	上ランナー	2個	3個		4個	6個	8個	2個	3個		4個	6個	8個	2個	3個		4個
		下ランナー	2個	3個		4個	6個	8個	2個	3個		4個	6個	8個	1個	2個		
		下ベースインナー																2個
		下ガイド軸														1個		
	キャッチャー	上固定ストッパー	1個	2個					1個	2個					1個	2個		
		下固定ストッパー	1個	2個					1個	2個								
		下固定ストッパーNR													1個	2個		
		下ガイド受け														1個		
	片扉用金具	片扉マグネット上（レール付）		1個						1個						1個		
		片扉マグネット下（扉付）		1個						1個								
		片扉ストッパー		1個						1個						1個		
	その他	めし合せ																1セット
		木ダボ	4本						4本						4本			
		ミニレンチ	1本						1本						1本			
		躯体接合金具キャップ	8個						8個						8個			
	ビス	上レール用ナベビス	3本	4本		5本	7本	9本	3本	4本		5本	7本	9本	3本	4本		5本
		下レール用サラビス	3本	4本		5本	7本	9本	3本	4本		5本	7本	9本				
		組立て専用ビス	6本						2本						2本			
		敷居ベース用ビス	2本															
		躯体接合金具ビス	9本			10本	12本	14本	9本			10本	12本	14本	9本			10本

※片扉用金具・めし合せは扉本体に取り付けます。扉を取り付けるまで大切に保管しておいてください。

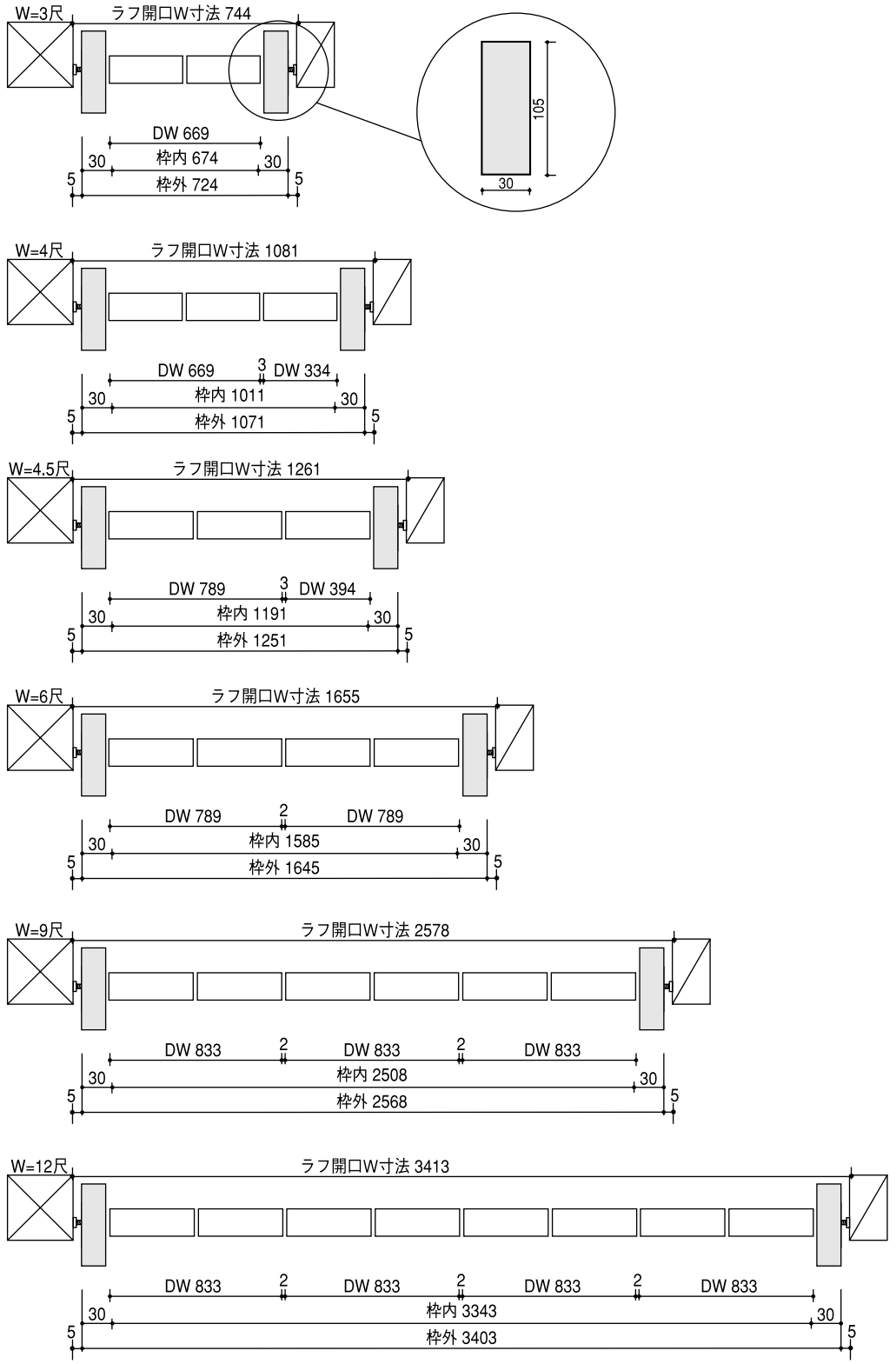
クローゼット専用枠

2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

（単位：㎜）



※（　）内寸法はDH=7尺タイプ

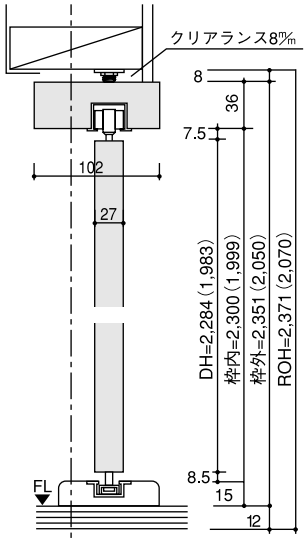
縦断面図

（単位：㎜）

固定枠

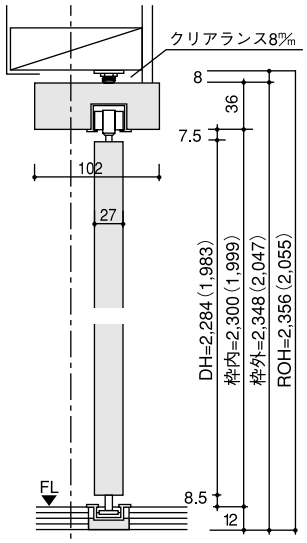
敷居直置き施工

置敷居



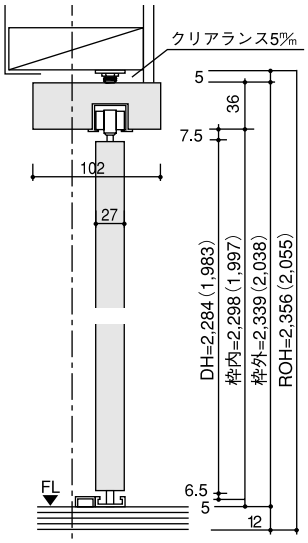
レール埋め込み施工

レール埋込



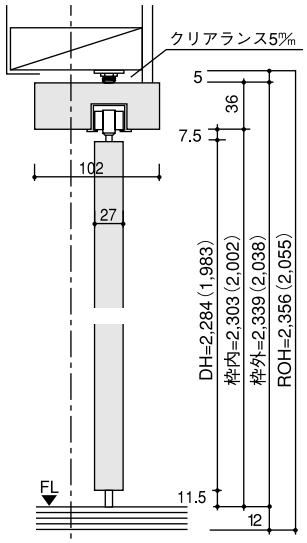
床直付けレール施工

床直付レール

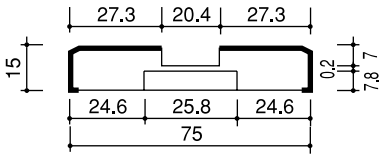


レール無し施工

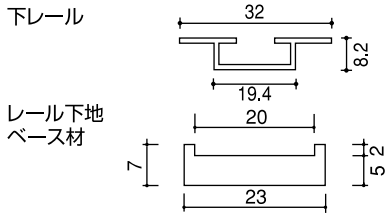
レール無し



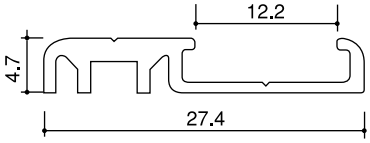
直置き敷居詳細図



埋め込みレール詳細図



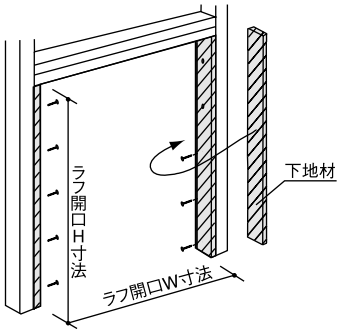
床直付けレール詳細図



クローゼット専用枠

3．施工手順

取り付け開口部・敷居下地の確認 置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

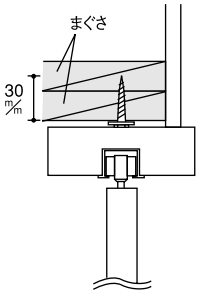


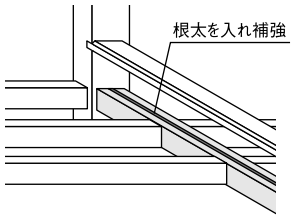
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

⚠ 注意

必ずおこなう

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、まぐさは必ずダブルでとりつけて補強してください。





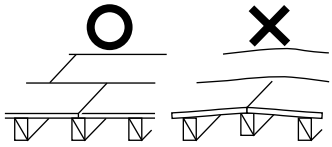
枠材は、捨て張り合板の上に施工するか、根太の上に直接施工する場合は、必ず図のように根太を入れ補強してください。

床直付レール レール無し

施工前確認事項

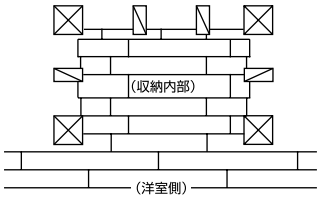
下地の確認

床材（捨て張り合板）を施工する前にクローゼット枠の取り付く位置の下地の水平を確認してください。床（捨て張り合板）の不陸のためにクローゼット扉の開閉に不具合を生じるおそれがあります。



床材の先張り

床直付けレール・レール無し仕様は敷居を使用いたしません。クローゼットの収納内部にも床材を施工してください。



枠材の組み立て 置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

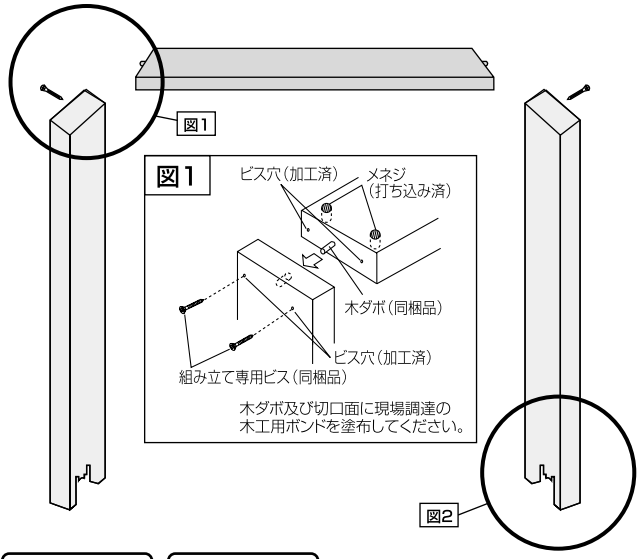


図1

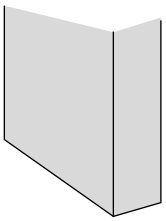
木ダボ及び切口面に現場調達の木工用ボンドを塗布してください。

床直付レール レール無し

図2 床直付けレールの場合 レール無しの場合

（単位：㎜）

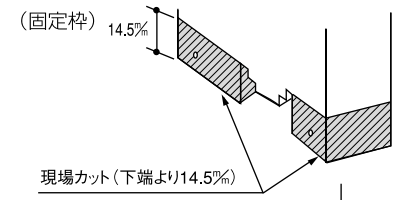
竪枠下端加工はありません。
直接仕上げフロアの上に置いて施工します。



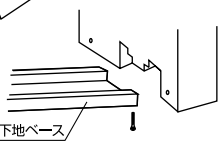
レール埋込

図2 レール埋め込みの場合

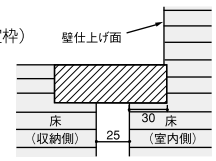
（単位：㎜）



竪枠の下端をカットした後、欠き込みに合わせてレール下地ベースを取り付け、裏からビスで固定します。



竪枠とフロアーの納まり



●15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

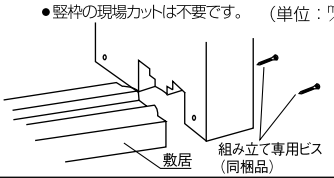
置敷居

図2 敷居直置きの場合

敷居を組み立て専用ビスで固定します。

※敷居直置きの場合はレール下地ベースは使用しません。

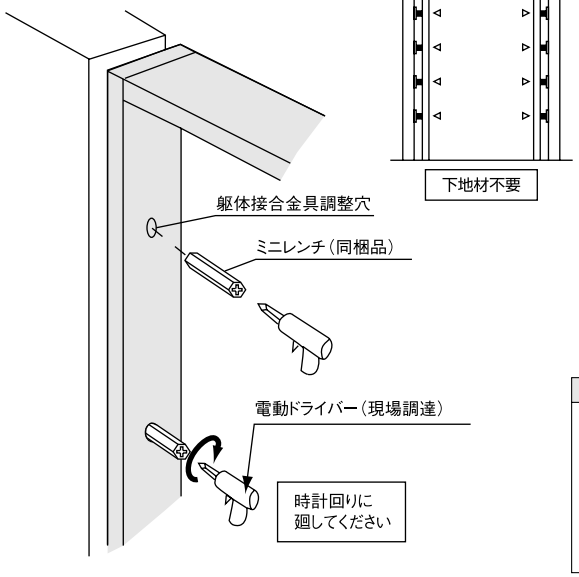
●竪枠の現場カットは不要です。 （単位：㎜）



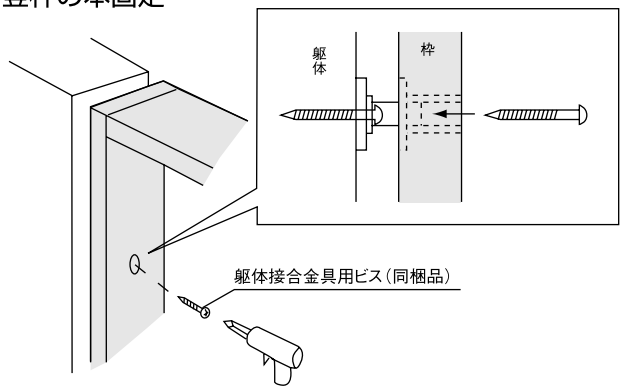
枠材の仮固定・竪枠の本固定

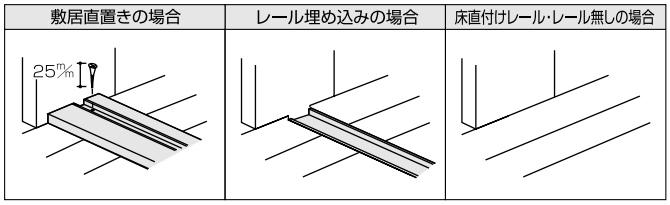
置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

枠材の仮固定



竪枠の本固定

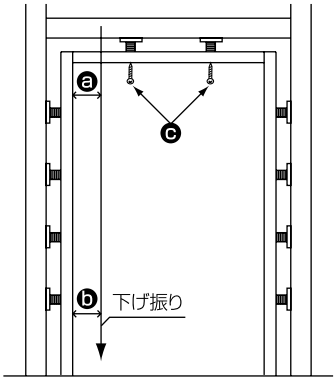


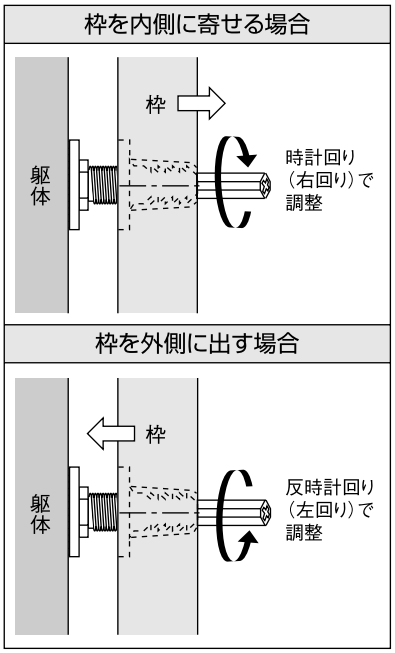


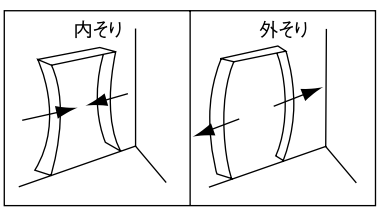
建て付け調整・鴨居の本固定

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。







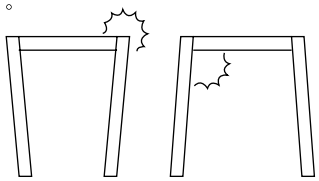
※右記の様なことがないようご注意ください。

床直付レール レール無し

⚠ 注意

破損に十分注意する。

クローゼット枠は3方枠での施工となるため躯体の開口部へセットする時竪枠と鴨居のジョイント部が破損するおそれがあります。

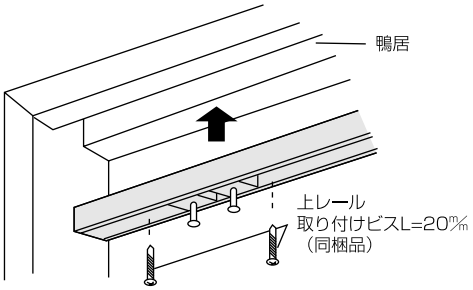


クローゼット専用枠

上・下レールの取り付け

置敷居 | レール埋込 | 床直付レール | レール無し

上レールの取り付け



上レール取り付けの際、鴨居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の下穴をあけ、附属のビスを使用して取り付けます。

⚠ 注意

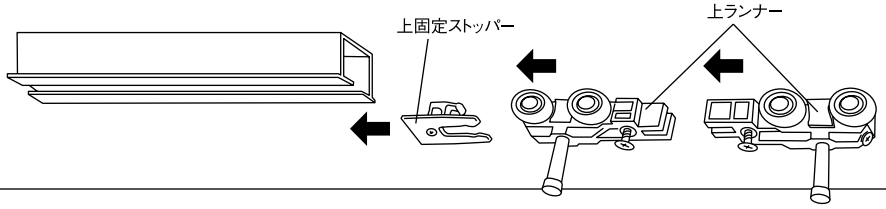
禁止

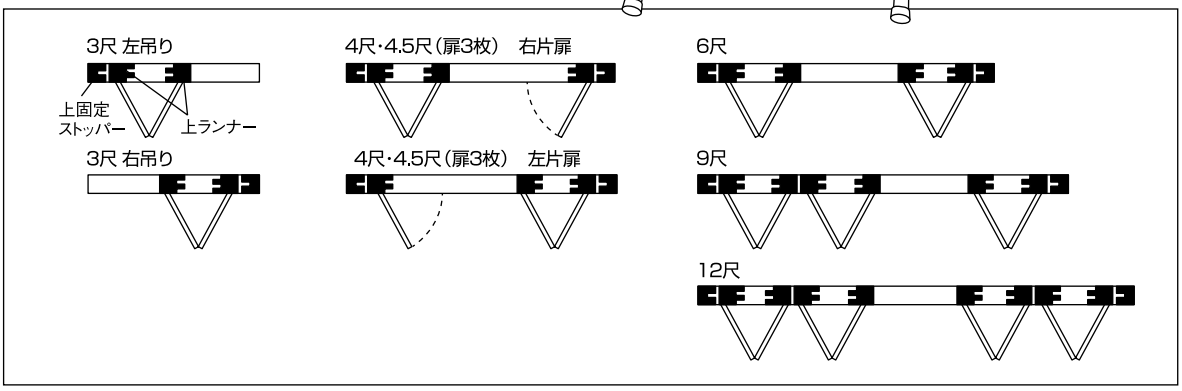
インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

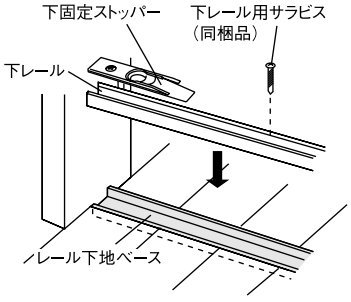
上ランナーの凸凹が合うように向かい合わせにして挿入してください。





レール埋込

下レールの取り付け



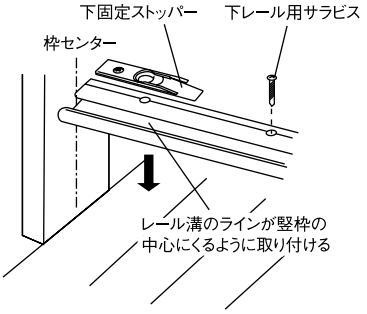
※上図はレール埋め込みのものですが敷居直置きの場合も同様です。

鴨居と同様に敷居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の下穴をあけ、下レールをレール下地ベースまたは敷居にはめこんでください。下レール用サラビスで、レールから下地材までしっかりと固定します。

下レールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないように固定します。

床直付レール

床直付けレールの取り付け



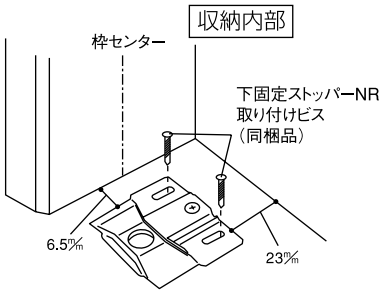
レール溝の中心にあるラインが枠材の中心にくるように取り付けてください。

※ビスが収納内部にくるように取り付けてください。

床直付けレールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないように固定します。

レール無し

レール無しタイプの場合の金具取り付け



下固定ストッパーNR（固定側）

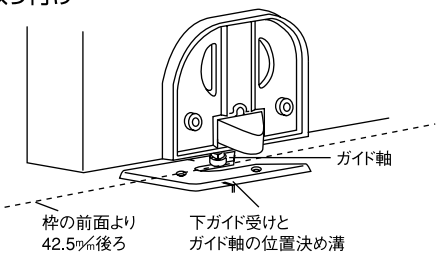
※竪枠の後ろ面から23㎜、竪枠からは6.5㎜はなした位置に取り付けネジで床に取り付けてください。

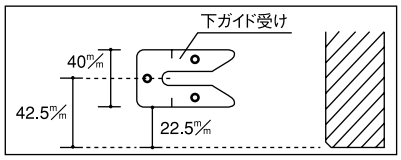
レール無し

レール無しタイプ、W=3尺、4尺、4.5尺の場合のみ下部金具取り付け

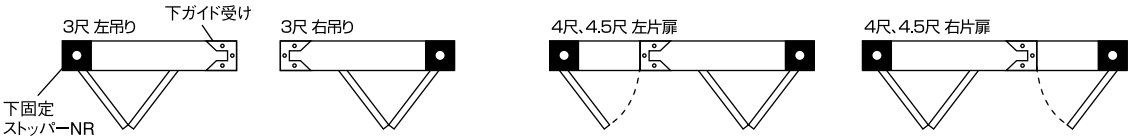
下ガイド受け（可動側受け金具）の取り付け

扉を吊った後下ガイド受けを取り付ける際は右図のように下ガイド軸と下ガイド受けの位置決め溝をそろえるようにして床に付属のビスで取り付けてください。





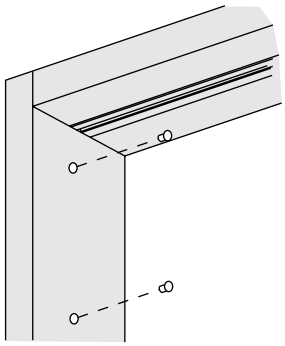
※固定金具が収納の内部にくるように取り付けてください。



キャップの取り付け

キャップの取り付け

竪枠の躯体接合金具調整穴に付属のキャップを差し込みます。



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

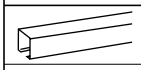
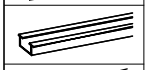
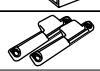
お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

クローゼット専用枠

1. 開梱

梱包内容表

	部材名		敷居直置き・レール埋め込み							床直付けレール							レール無し				
			3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	4.5尺（扉4枚）	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	4.5尺（扉4枚）	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	4.5尺（扉4枚）	6尺
	枠材	竪枠	2本							2本							2本				
		鴨居	1本							1本							1本				
	レール	上レール	1本							1本							1本				
		下レール（埋込み用）	1本																		
		レール下地ベース	1本																		
		床直付けレール								1本											
	上下ランナー	上ランナー	2個	3個			4個	6個	8個	2個	3個			4個	6個	8個	2個	3個			4個
		下ランナー	2個	3個			4個	6個	8個	2個	3個			4個	6個	8個	1個	2個			
		下ベースインナー																			2個
		下ガイド軸															1個				
	キャッチャー	上固定ストッパー	1個	2個						1個	2個						1個	2個			
		下固定ストッパー	1個	2個						1個	2個										
		下固定ストッパーNR															1個	2個			
		下ガイド受け															1個				
	片扉用金具	片扉マグネット上（レール付）		1個							1個							1個			
		片扉マグネット下（扉付）		1個							1個										
		片扉ストッパー		1個							1個							1個			
	その他	めし合せ																			1セット
		木ダボ	4本							4本							4本				
		ミニレンチ	1本							1本							1本				
		躯体接合金具キャップ	8個							8個							8個				
	ビス	上レール用ナベビス	3本	4本			5本	7本	9本	3本	4本			5本	7本	9本	3本	4本			5本
		下レール用サラビス	3本	4本			5本	7本	9本	3本	4本			5本	7本	9本					
		組立て専用ビス	6本							2本							2本				
		敷居ベース用ビス	2本																		
		躯体接合金具ビス	9本				10本	12本	14本	9本				10本	12本	14本	9本				10本

※片扉用金具・めし合せは扉本体に取り付けます。扉を取り付けるまで大切に保管しておいてください。

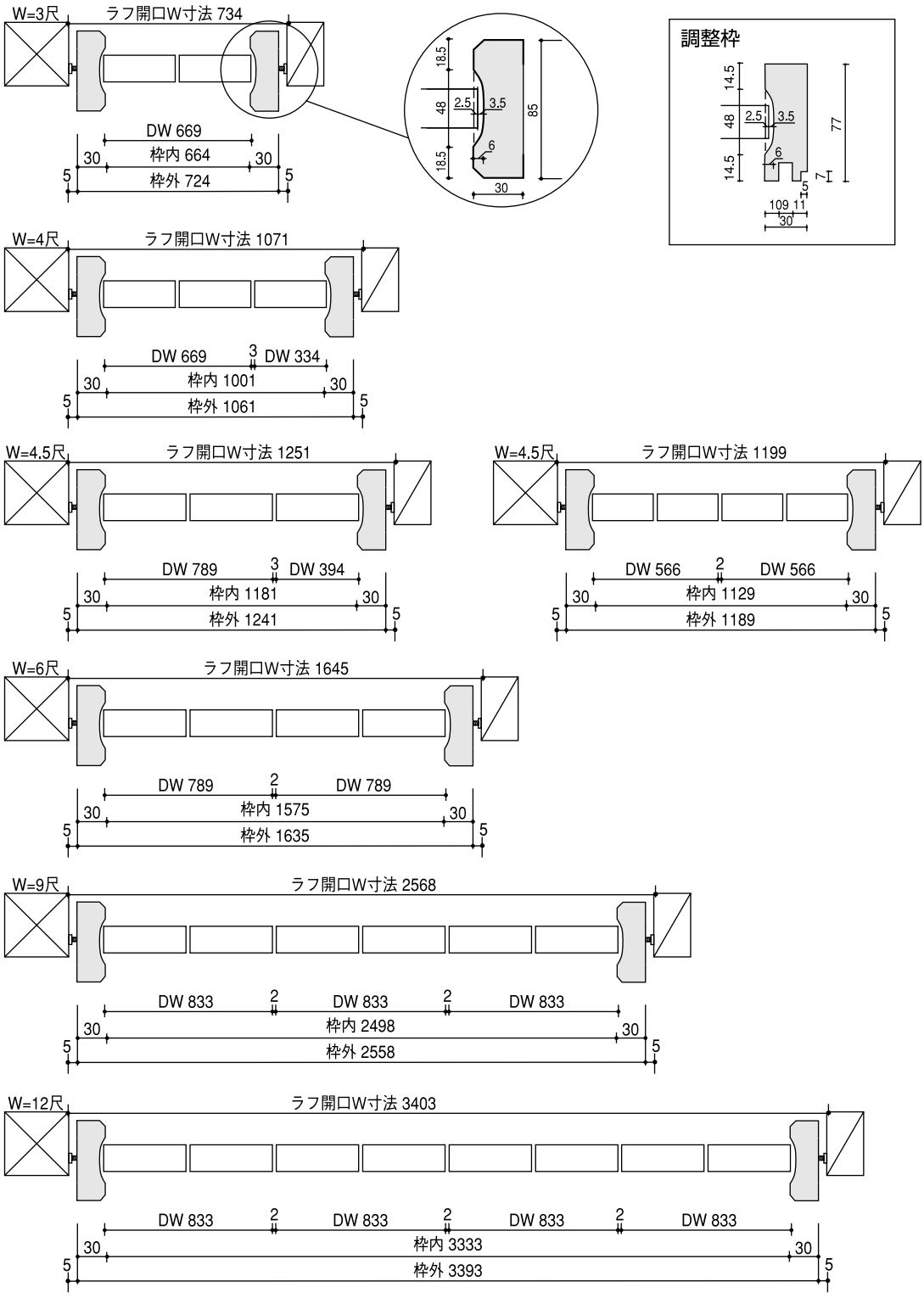
2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

固定枠・調整枠

（単位：㎜）

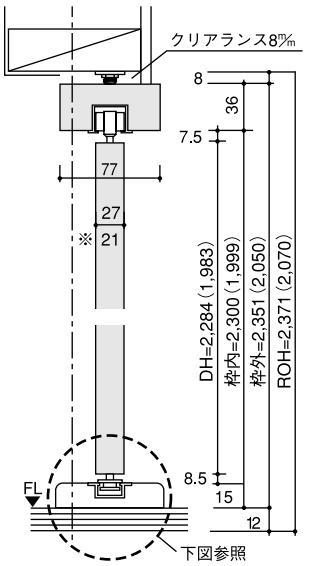
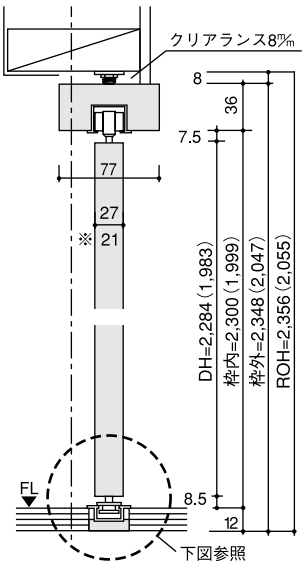
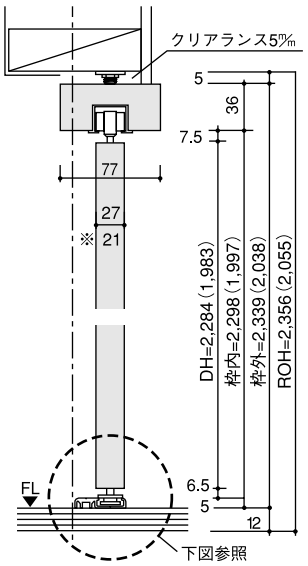
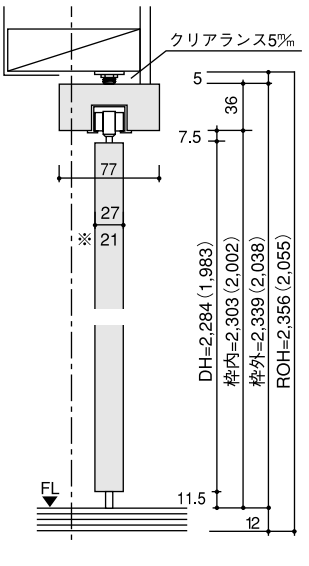
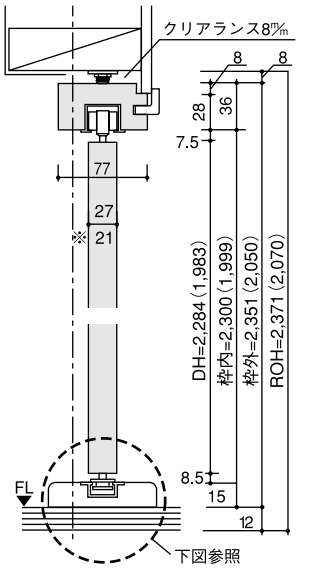
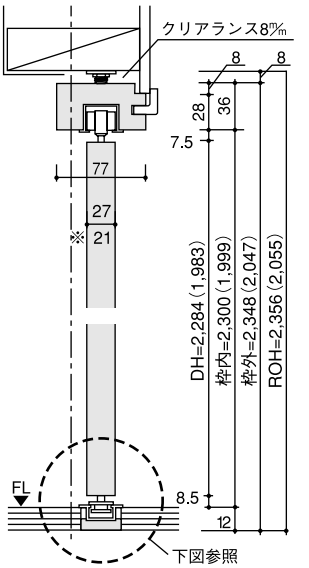
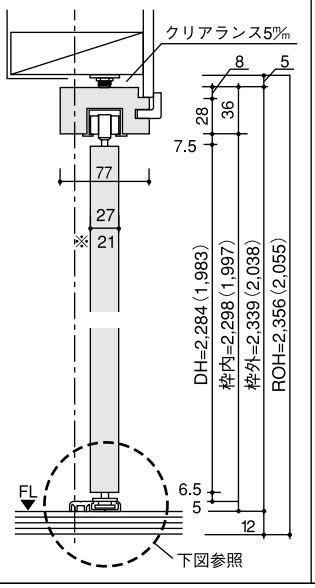
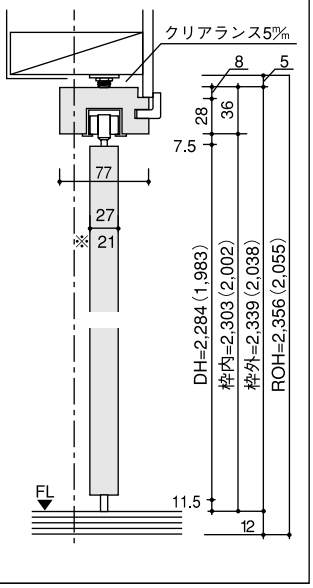


※上記納まり図は固定枠仕様ですが、調整枠の場合も同じ寸法になります。

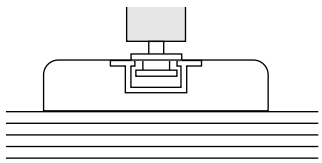
クローゼット専用枠

（ ）内寸法はDH＝7尺タイプ
※扉厚21㎜はスマートタイプの場合

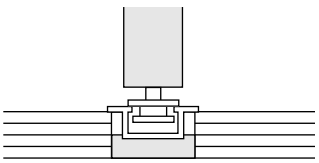
縦断面図　（単位：㎜）

	敷居直置き施工	レール埋め込み施工	床直付けレール施工	レール無し施工
	置敷居	レール埋込	床直付レール	レール無し
固定枠				
調整枠				

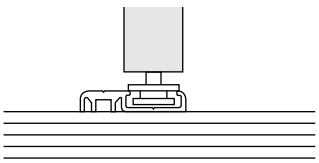
置敷居（拡大図）



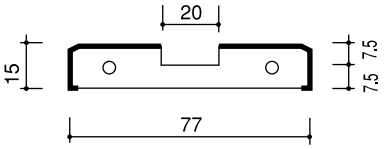
レール埋込（拡大図）



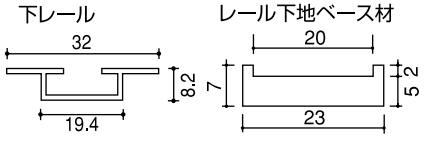
床直付レール（拡大図）



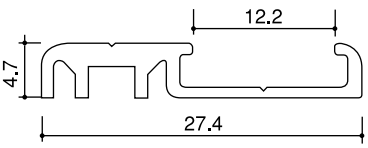
直置き敷居詳細図



埋め込みレール詳細図

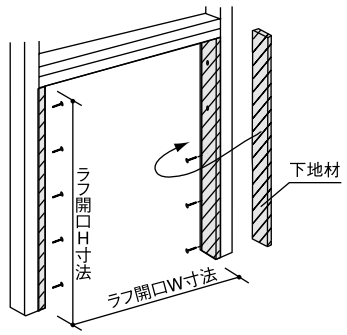


床直付けレール詳細図



3. 施工手順

取り付け開口部・敷居下地の確認 置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

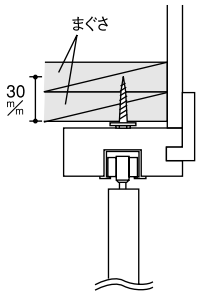


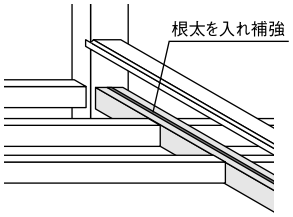
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

⚠ 注意

必ずおこなう

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、まぐさは必ずダブルでとりつけて補強してください。





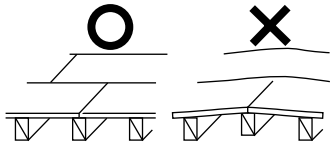
枠材は、捨て張り合板の上に施工するか、根太の上に直接施工する場合は、必ず図のように根太を入れ補強してください。

床直付レール レール無し

施工前確認事項

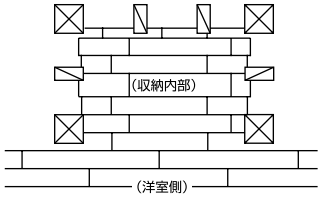
下地の確認

床材（捨て張り合板）を施工する前にクローゼット枠の取り付く位置の下地の水平を確認してください。床（捨て張り合板）の不陸のためにクローゼット扉の開閉に不具合を生じるおそれがあります。



床材の先張り

床直付けレール・レール無し仕様は敷居を使用いたしません。クローゼットの収納内部にも床材を施工してください。



枠材の組み立て 置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

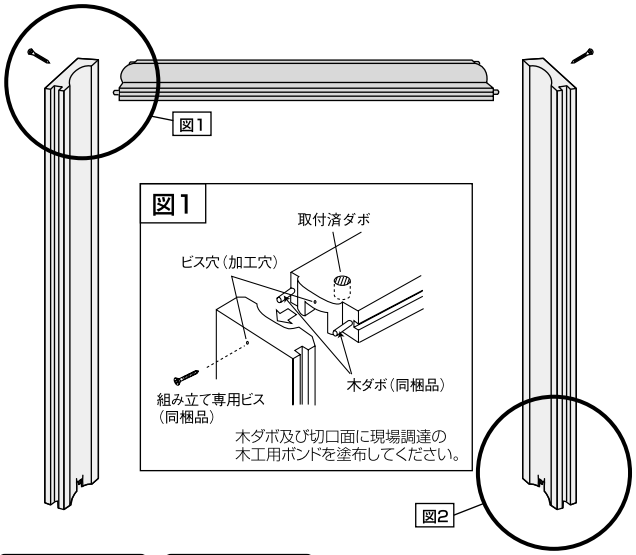


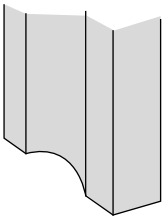
図1

木ダボ及び切口面に現場調達の木工用ボンドを塗布してください。

床直付レール レール無し

図2 床直付けレールの場合 レール無しの場合

（単位：㎜）

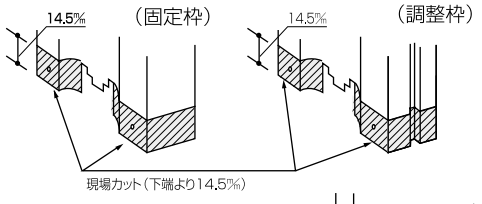


竪枠下端加工はありません。直接仕上げフロアの上に置いて施工します。

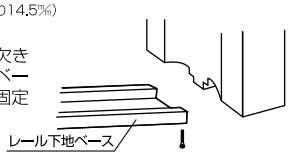
レール埋込

図2 レール埋め込みの場合

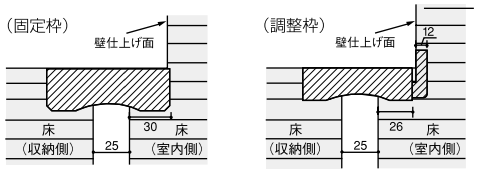
（単位：㎜）



竪枠の下端をカットした後、欠き込みに合わせてレール下地ベースを取り付け、裏からビスで固定します。



竪枠とフロアーの納まり

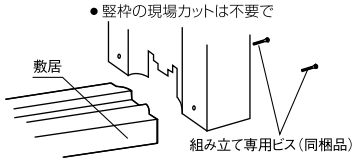


●15㎜フロアーご使用の際は、3㎜のベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

図2 敷居直置きの場合

敷居を組み立て専用ビスで固定します。

※敷居直置きの場合はレール下地ベースは使用しません。

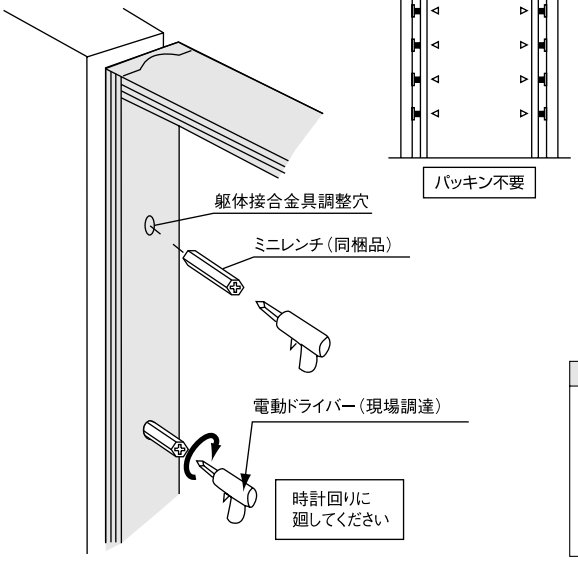


クローゼット専用枠

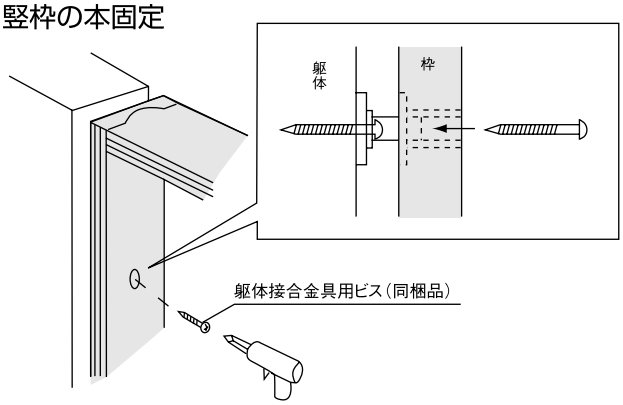
枠材の仮固定・竪枠の本固定

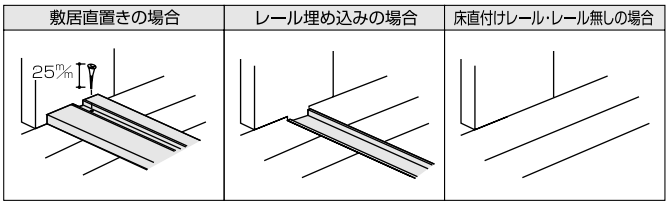
置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

枠材の仮固定



竪枠の本固定

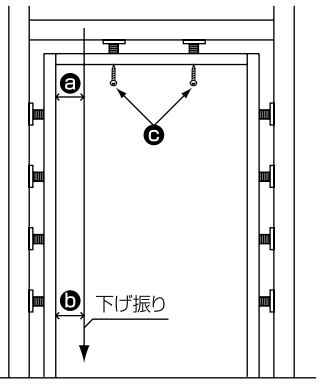




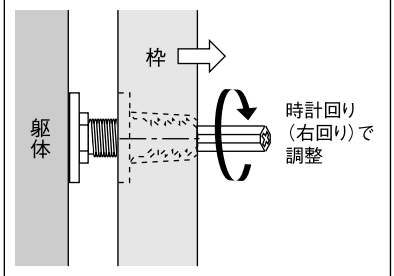
建て付け調整・鴨居の本固定

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

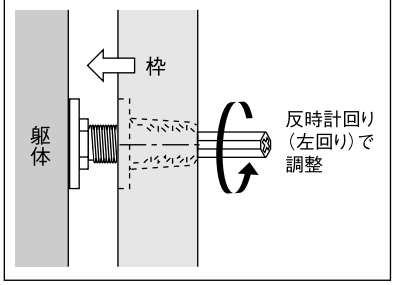
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

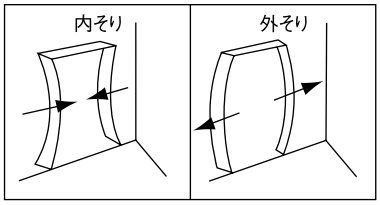


枠を内側に寄せる場合



枠を外側に出す場合





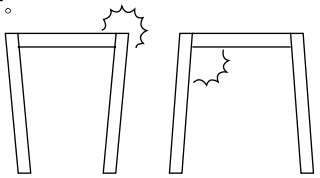
※左記の様なことがないようご注意ください。

床直付レール レール無し

⚠ 注意

破損に十分注意する。

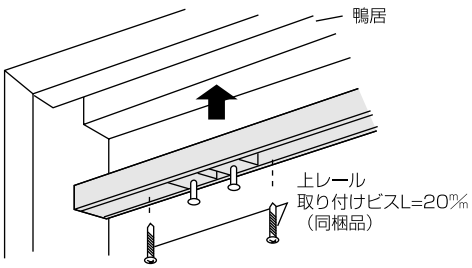
クローゼット枠は3方枠での施工となるため躯体の開口部へセットする時竪枠と鴨居のジョイント部が破損するおそれがあります。



上・下レールの取り付け

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

上レールの取り付け



上レール取り付けの際、鴨居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の下穴をあけ、附属のビスを使用して取り付けます。

⚠ 注意

禁止

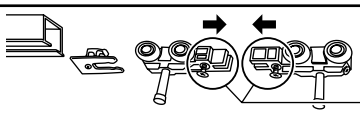
インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

※片扉が取り付く場合、上ランナーのレール挿入向きに注意してください。

（例）

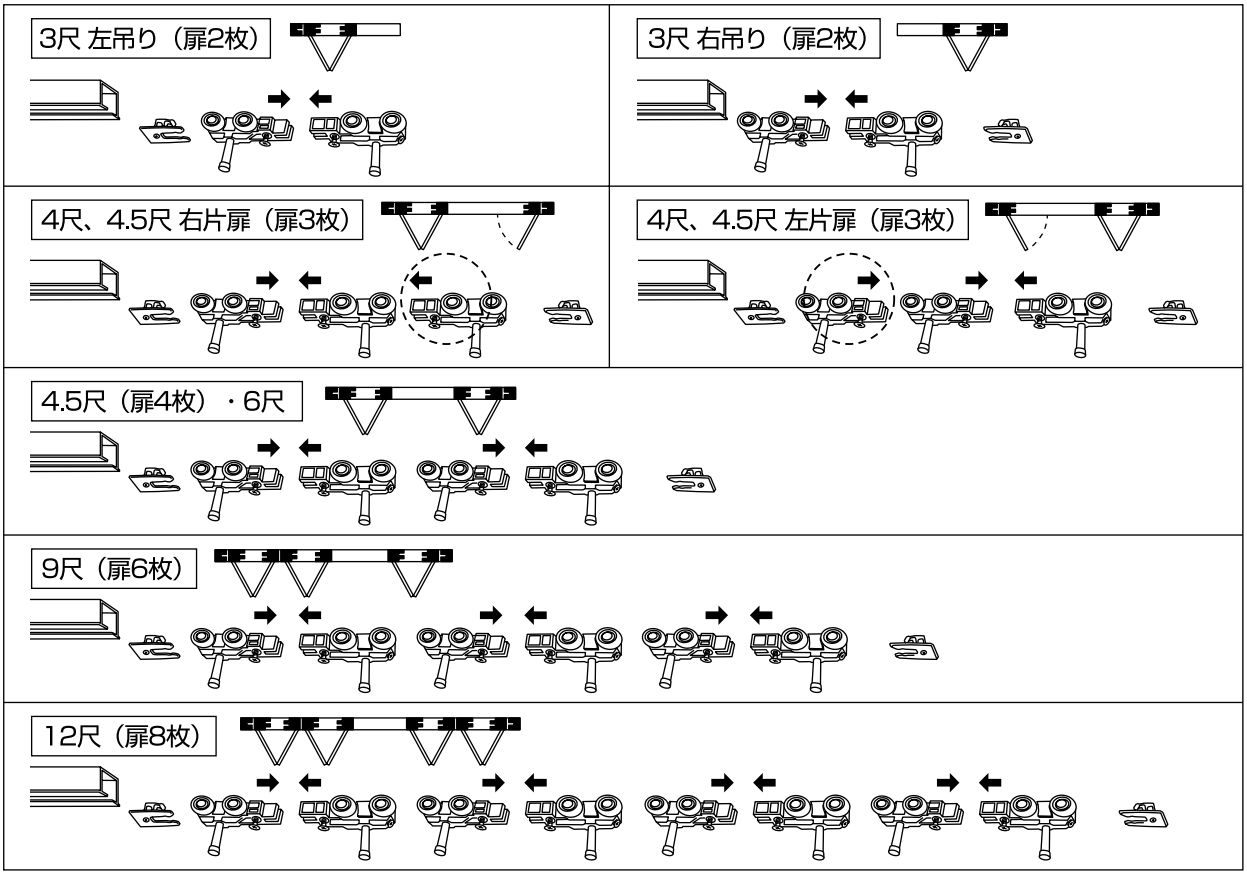


⚠ 注意

必ずおこなう

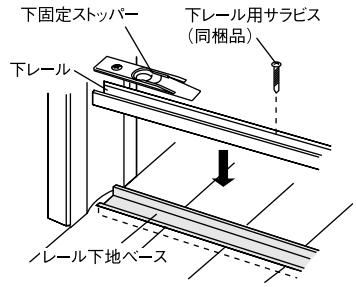
上固定ストッパーを確実に固定してください。

固定されてないままや、逆向きに挿入した状態で扉を取り付けた場合、ストッパーが破損するおそれがあります。



レール埋込

下レールの取り付け



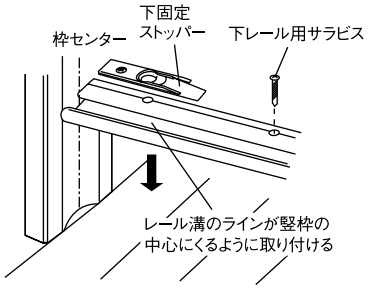
※上図はレール埋め込みのものですが敷居直置きの場合も同様です。

鴨居と同様に敷居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の下穴をあけ、下レールをレール下地ベースまたは敷居にはめこんでください。下レール用サラビスで、レールから下地材までしっかりと固定します。

下レールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないようにしっかり固定します。

床直付レール

床直付けレールの取り付け



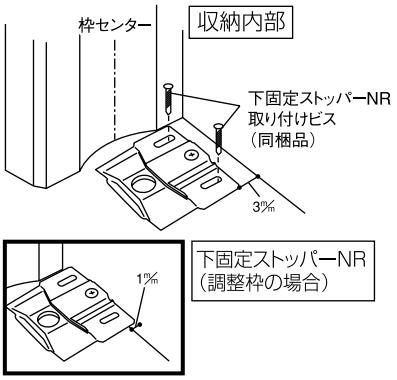
レール溝の中心にあるラインが枠材の中心にくるように取り付けてください。

※ビスが収納内部にくるように取り付けてください。

床直付けレールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないようにしっかり固定します。

レール無し

レール無しタイプの場合の金具取り付け



※竪枠の後ろ面から固定枠の場合3㎜内側に、調整枠の場合1㎜外側に取り付けてください。

※固定枠と調整枠で下固定ストッパーNRを取り付ける位置が異なります。ご注意ください。

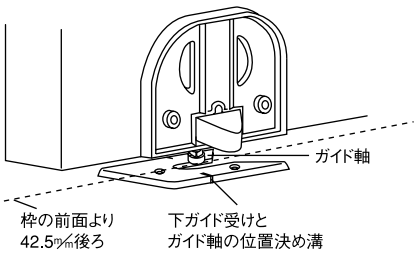
クローゼット専用枠

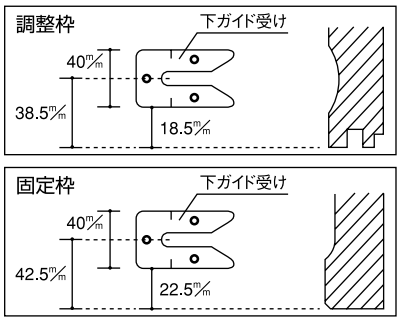
レール無し

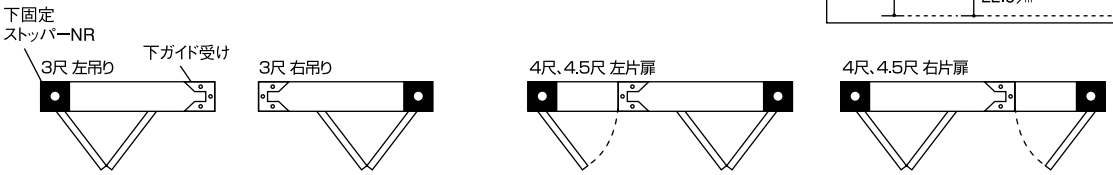
レール無しタイプ、W=3尺、4尺、4.5尺（扉3枚）の場合のみ下部金具取り付け

下ガイド受け（可動側受け金具）の取り付け

扉を吊った後下ガイド受けを取り付ける際は右図のように下ガイド軸と下ガイド受けの位置決め溝をそろえるようにして床に付属のビスで取り付けてください。



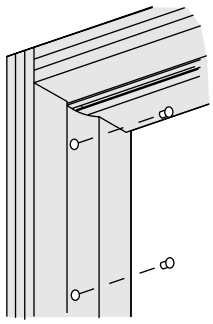




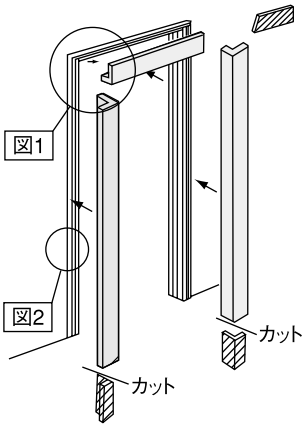
キャップの取り付け・ケーシングの取り付け（調整枠のみ）

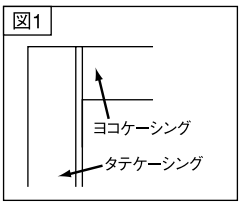
キャップの取り付け

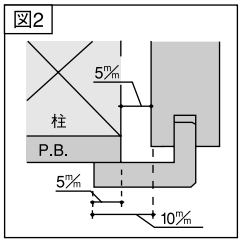
竪枠の躯体接合金具調整穴に付属のキャップを差し込みます。



ケーシングの取り付け





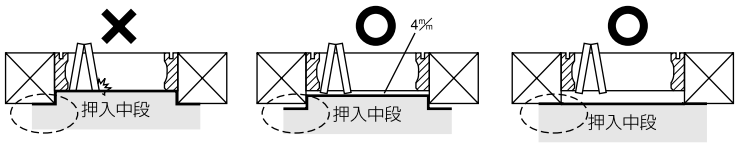


⚠ 注意

必ずおこなう

調整枠の場合、右図のように中段を欠き込んで枠面まで納めないでください。

扉が折れた時、中段に当たります。
（固定枠は当たらない設定になっています。）



施工終了後

養生

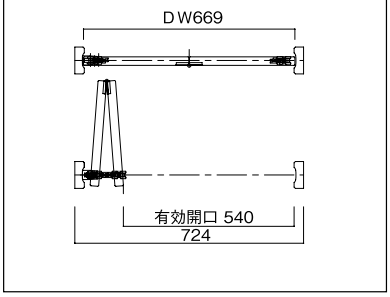
当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

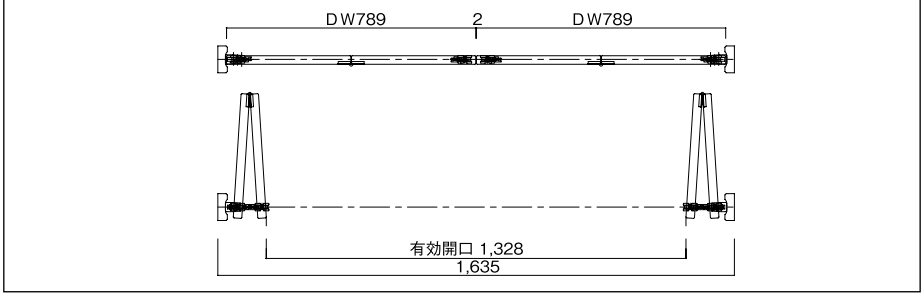
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

クローゼットの有効開口寸法目安

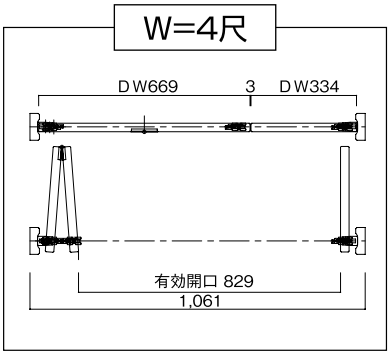
W=3尺



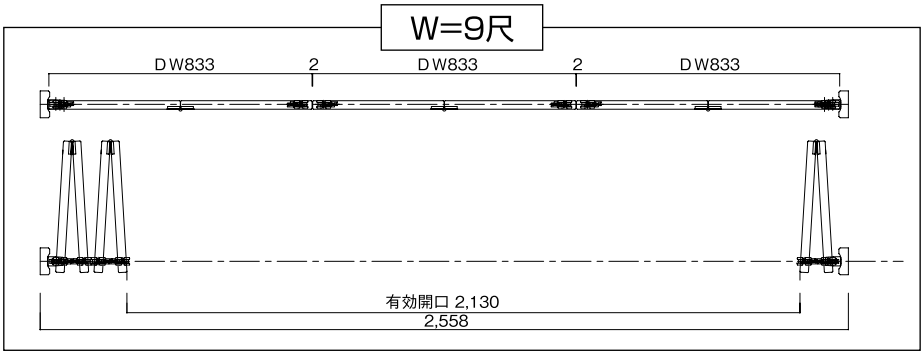
W=6尺



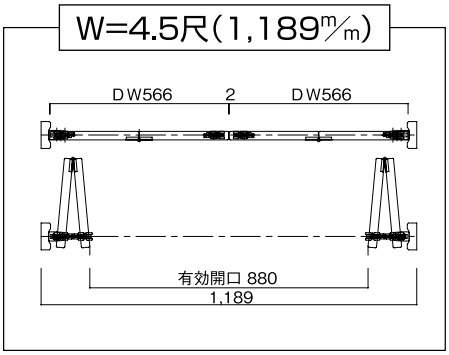
W=4尺



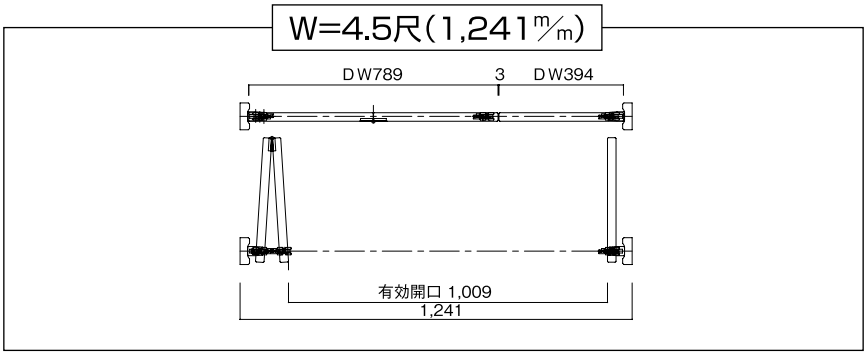
W=9尺



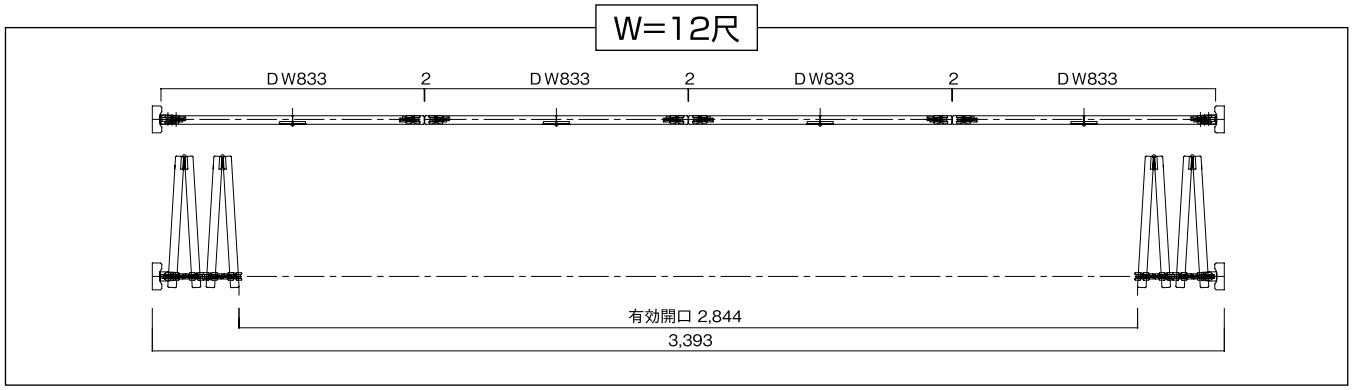
W=4.5尺(1,189㎜)



W=4.5尺(1,241㎜)



W=12尺



＊扉の厚みや取り付け位置によって若干寸法が異なります。
＊有効開口は、取手は含まれておりません。

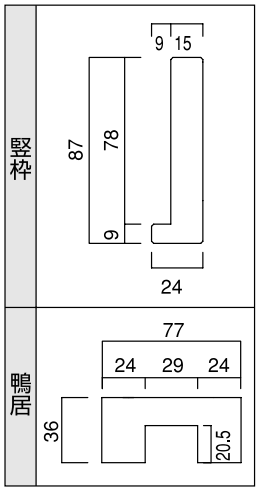
シューズインクローク専用枠

1. 開梱

梱包内訳

	枠材		レール	上下ランナー			金具	
	竪枠	鴨居	上レール	上ランナー	下ランナー	下ベースインナー	上固定ストッパー	土間用金具
								
3尺	2本	1本	1本	2個	1個	1個	1個	1個
4.5尺				4個	2個	2個	2個	2個
6尺								

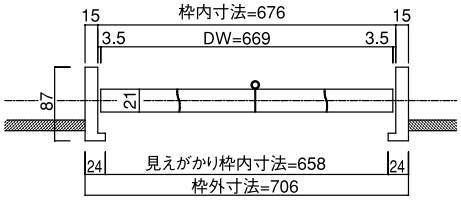
	その他			ビス		
	めし合せ	木ダボ	化粧キャップ	上レール用ナベビス	組み立て専用ビス	竪枠鴨居組み立てビス
						
3尺	ー	2本	8個	3本	4本	9本
4.5尺	1セット			4本		
6尺				5本		10本



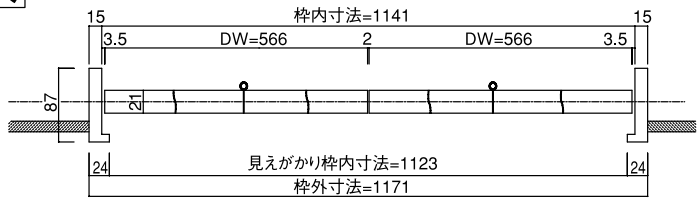
2. 納まり図

横断面図

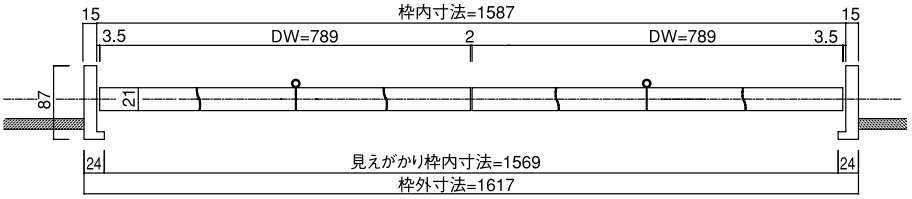
W＝3尺



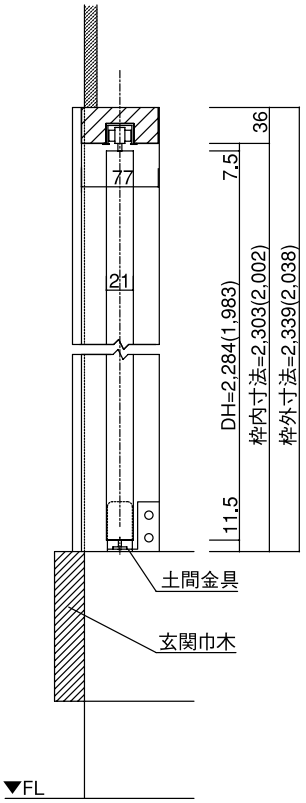
W＝4.5尺



W＝6尺



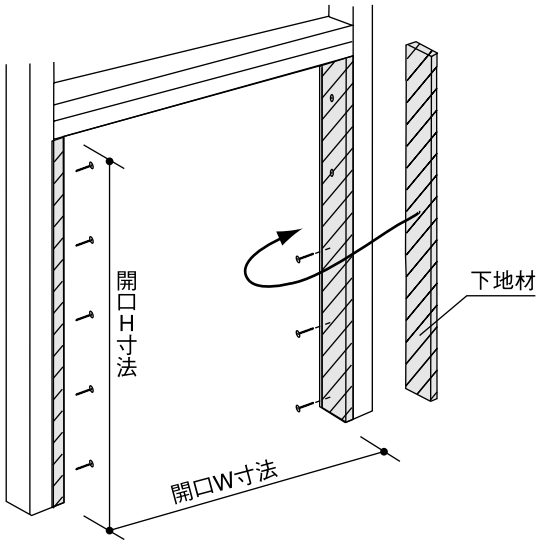
縦断面図

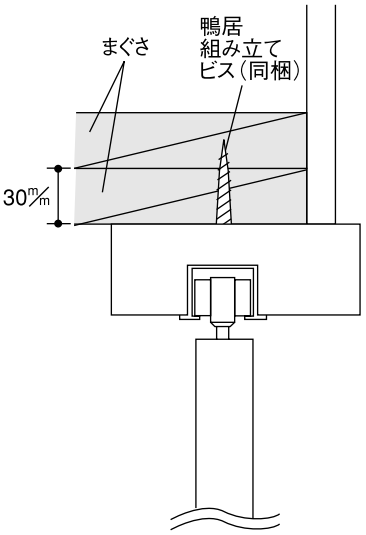


※（　）内寸法はH=7尺の場合

3. 施工手順

①取り付け開口部の確認





開口部に下地材を取り付け、
納まり図参照の上、枠外寸法に見合った
開口を設けてください。

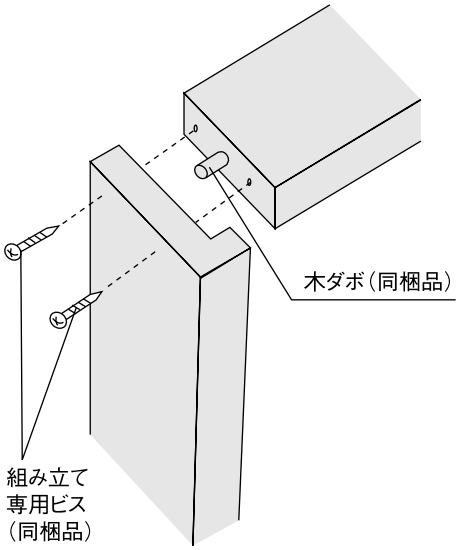
⚠ 注意

必ずおこなう

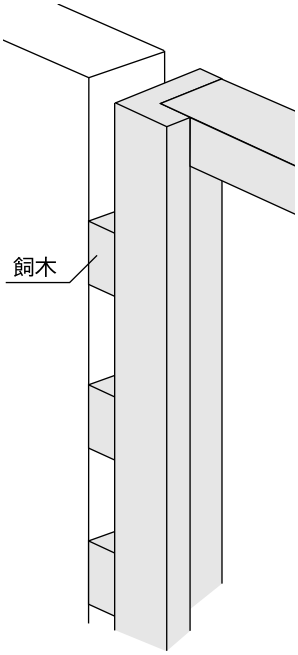
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、
まぐさは必ずダブルでとりつけて補強してください。

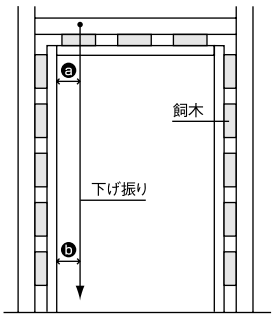
②竪枠の仮固定と建て付け調整

竪枠と鴨居を、木ダボ（同梱品）及び、
木工用ボンド（現場調達）を併用し、
組み立て専用ビス（同梱品）で
3方組み立ててください。



開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、
ネジレを調整し、仮固定します。





- ⓐ＝ⓑとなるよう
  調整してください。

竪枠、鴨居の固定用ビス
下穴の背面に飼木を取り
付けてください。

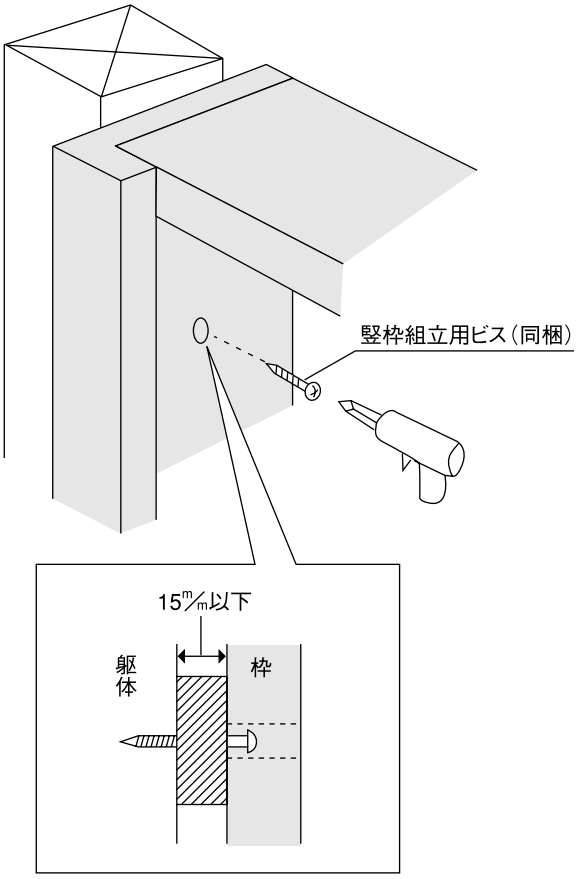
⚠ 注意

飼木の厚みは最大でも
15㎜以下にしてください。

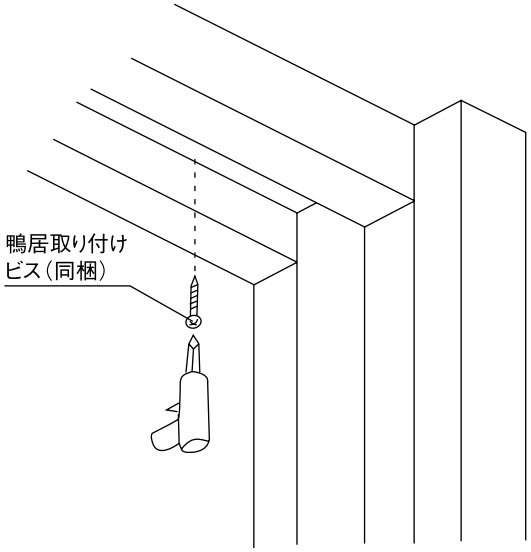
シューズインクローク専用枠

③鴨居・竪枠の本固定

竪枠を竪枠組み立て用ビスで躯体に固定させます。



鴨居を図のように鴨居取り付けビスで固定します。

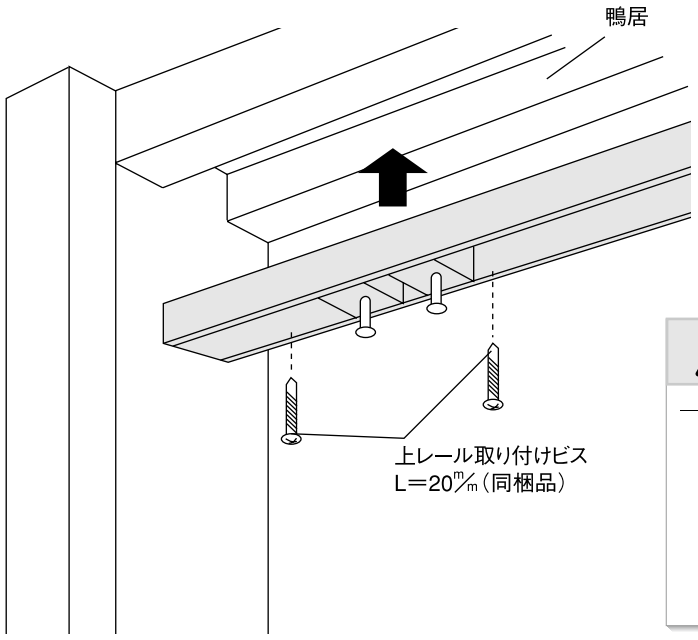


レールを取り付ける前に必ず鴨居本体を
躯体に固定させてください。

④上レールの取り付け

上レールの取り付け

上レール取り付けの際、鴨居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の
下穴をあけ、上レール用ナベビス（同梱品）を使用して取り付けます。



⚠ 注意

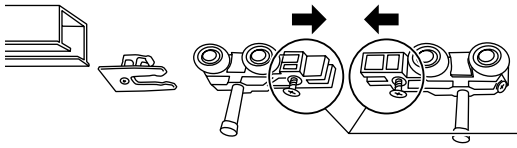
禁止

インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

（例）



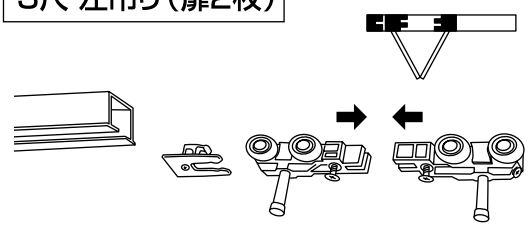
⚠ 注意

必ずおこなう

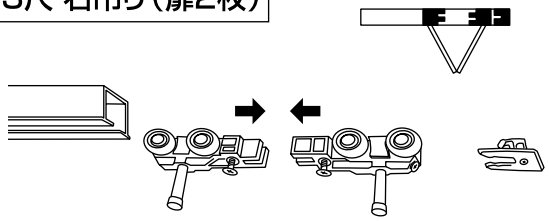
上固定ストッパーを確実に固定してください。

固定されてないままや、逆向きに挿入した状態で扉を取り付けた場合、ストッパーが破損するおそれがあります。

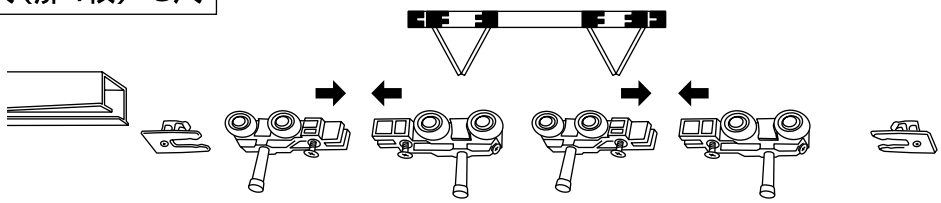
3尺 左吊り（扉2枚）



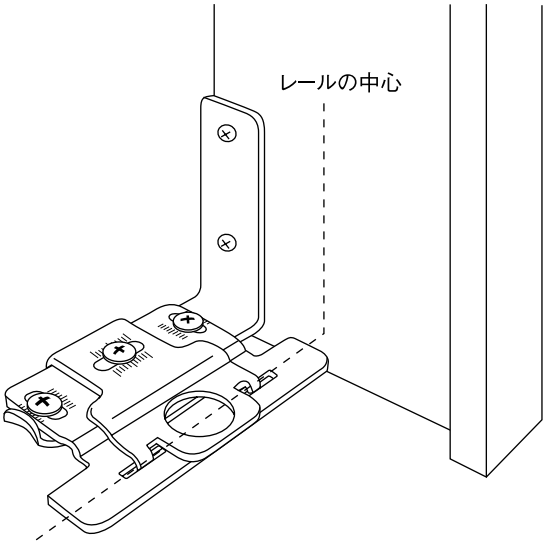
3尺 右吊り（扉2枚）



4.5尺（扉4枚）・6尺



⑤土間用金具の取り付け



竪枠の奥側に金具の端を図のように
合わせて取り付けます。
※図は右竪枠の場合になります。

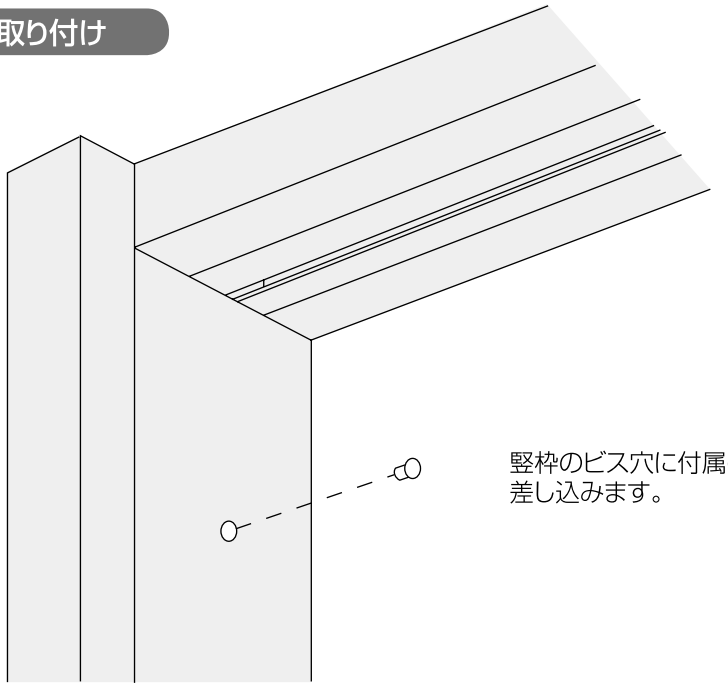
⚠ 注意

土間用金具は左右兼用になります。左右の切り替え方法に関しては、土間用金具本体に同梱されている説明書をご確認ください。

シューズインクローク専用枠

⑥化粧キャップの取り付け

キャップの取り付け



竪枠のビス穴に付属の化粧キャップを差し込みます。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

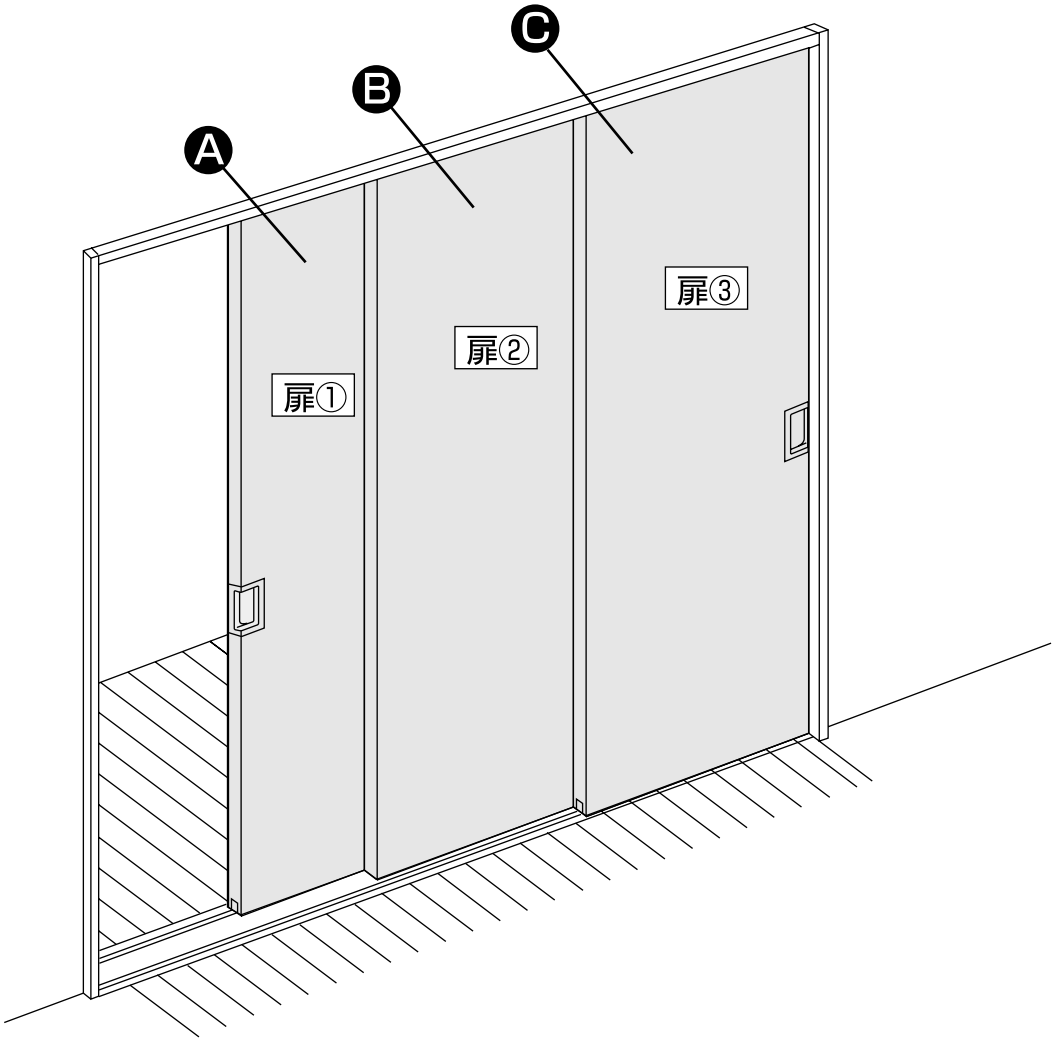
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

収納３連引き戸

開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

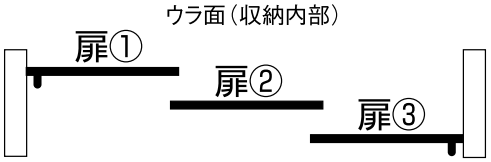
	部材名	数量	備　考
Ⓐ ⋮ Ⓒ	引き戸	2枚	引き手加工有り
Ⓑ	引き戸	1枚	引き手加工無し
	施工説明書	1部	
	使用説明書	1部	

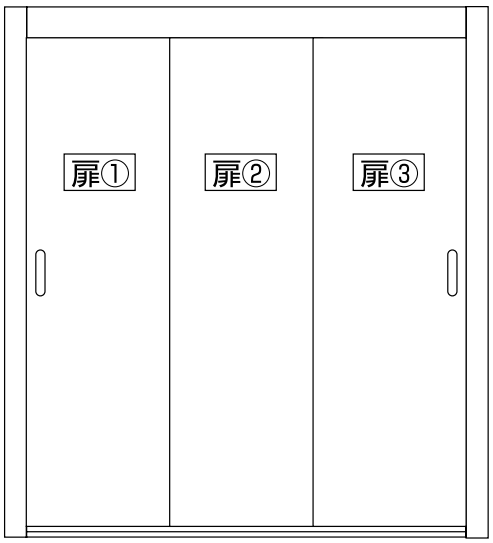
お願い

・施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
・照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで１メートル以上離してください。

収納３連引き戸

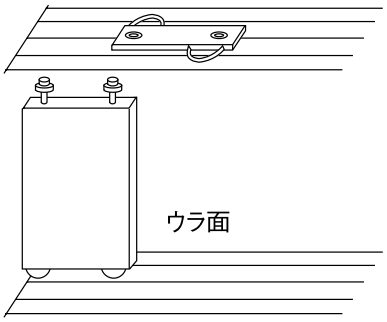
施工手順



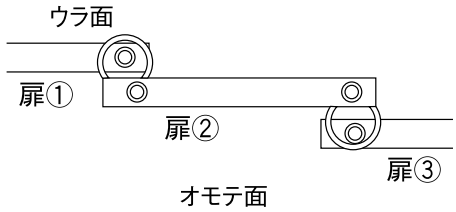


扉① の吊り込み

（1）ピボットをはめ込み



ピボットを連動金具の差し込み穴に合わせて
はめ込みます

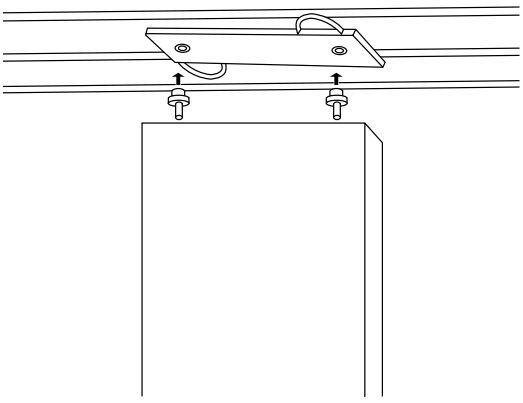


（2）敷居レールにはめ込み

扉② の吊り込み

（1）ピボットをはめ込み

扉②を中央レール連動金具にピボットを
合わせてはめ込んでください

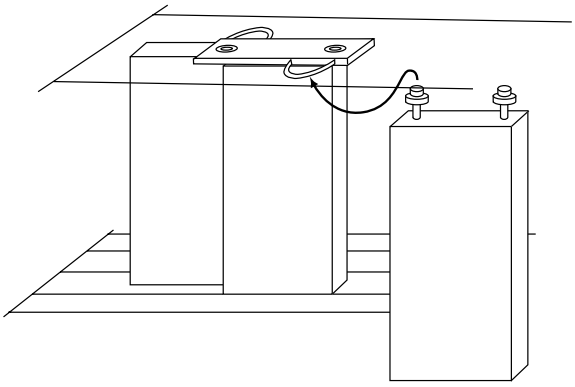


（2）敷居レールにはめ込み

扉③ の吊り込み

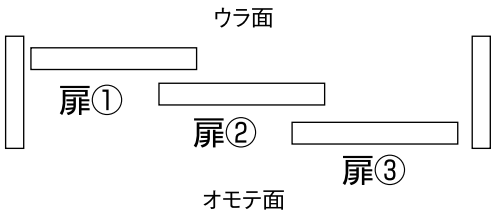
（1）ピボットをはめ込み

扉③を中央レール連動金具にピボットを
合わせてはめ込んでください



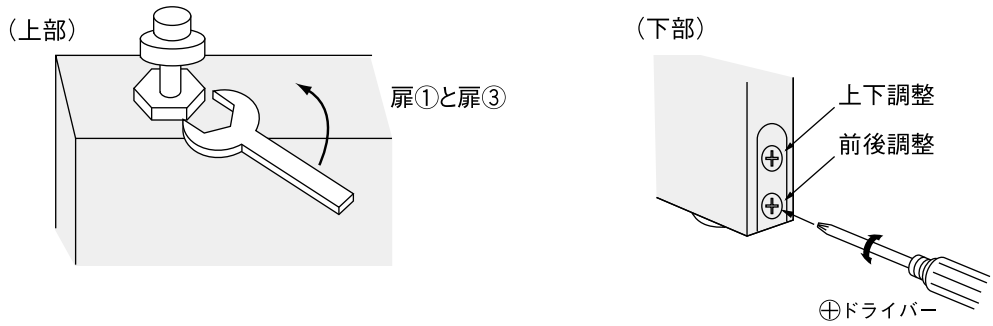
（2）敷居レールにはめ込み

引き戸の調整方法



扉の前後調整

扉と扉に隙間が生じたときは下図のように上部ピボットをスパナで調整します



施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

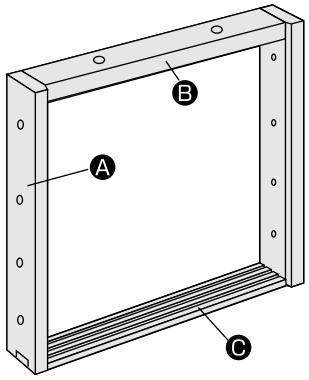
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

収納３連引き戸枠

開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠（右用・左用）	各1本	正寸カット済
Ⓑ	鴨居	1本	正寸カット済
	施工説明書	1部	
	組み立て専用ビス	4本	L＝50㎜
	躯体接合金具用ビス	11本	
	上レール	1本	
	下レール	3本	下レールストッパー（ビス付）2個
	躯体接合金具用キャップ	8個	
	木ダボ	2個	
	ミニレンチ	1本	

敷居（別売品）

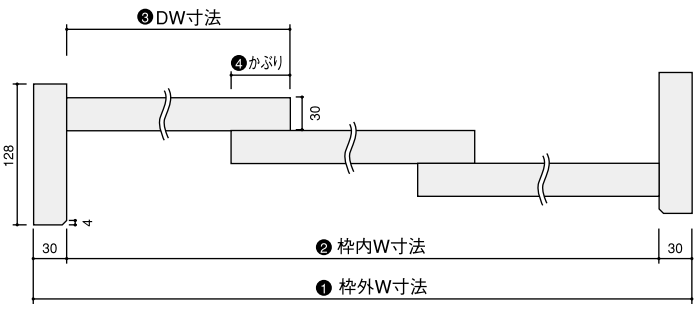
	部材名	数量	備　考
Ⓒ	敷居	1本	正寸カット済

納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

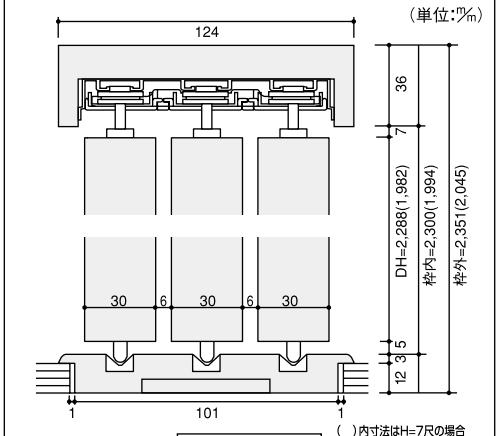
（単位:㎜）



製品寸法	4.5尺	6尺（小）	6尺（大）	9尺
❶ 枠外W寸法	1,225	1,645	1,680	2,479
❷ 枠内W寸法	1,165	1,585	1,620	2,419
❸ DW寸法	430	580	580	848
❹ 扉かぶりしろ	62.5	77.5	60	62.5

縦断面図

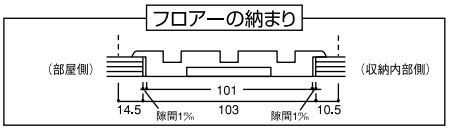
（単位:㎜）



竪枠下端加工図

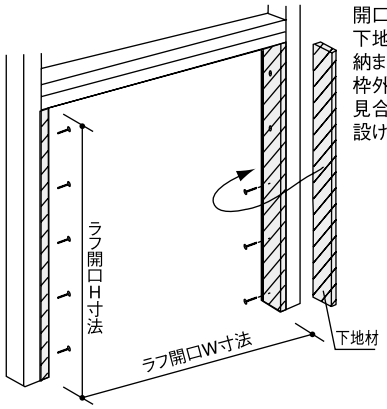


フロアーの納まり

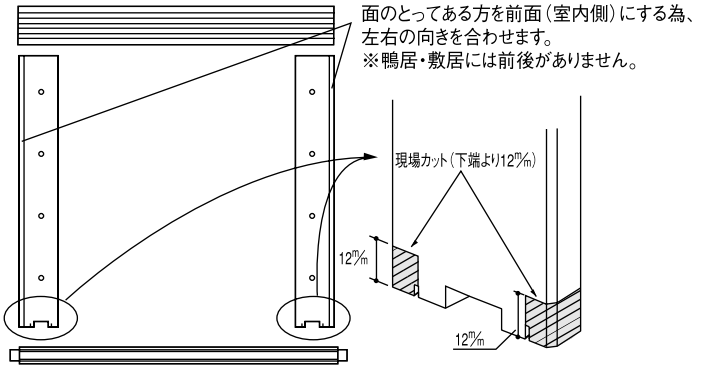


施工手順

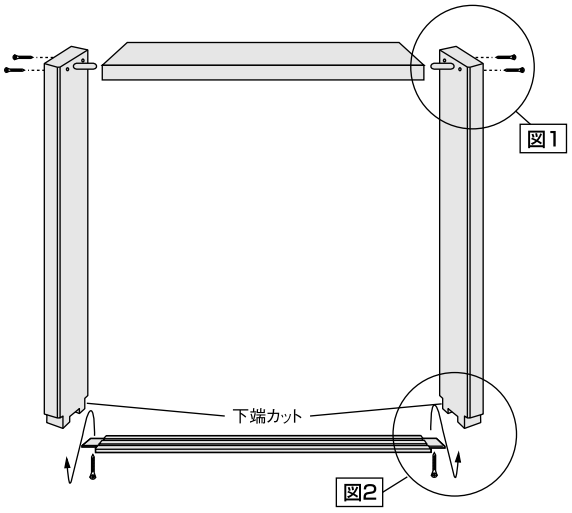
取り付け開口部の確認

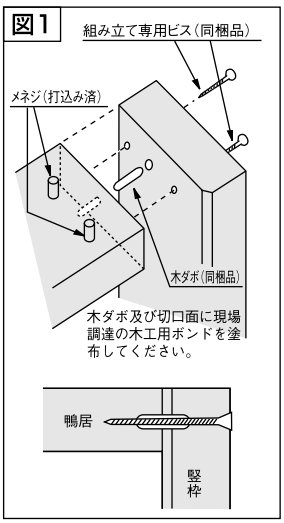


枠材の組み立て（前準備）

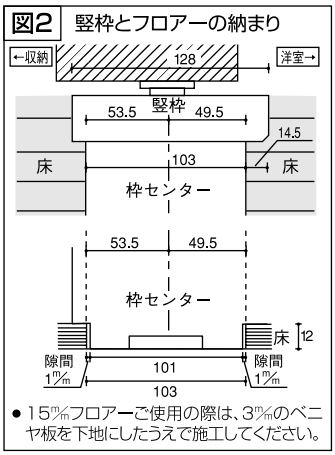


枠材の組み立て（正寸カット済）

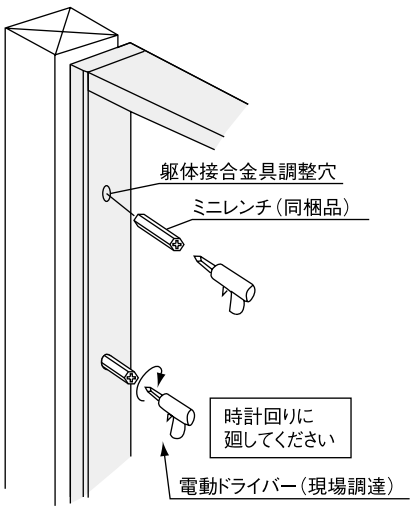


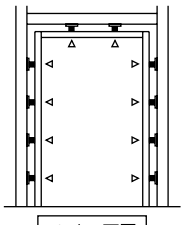


ご注意
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

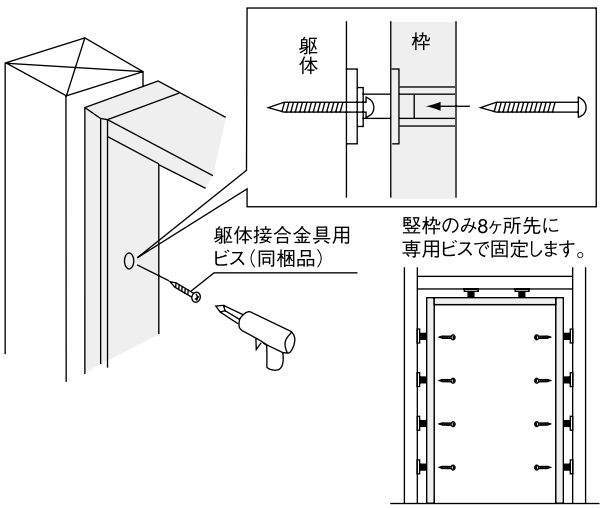


枠材の仮固定



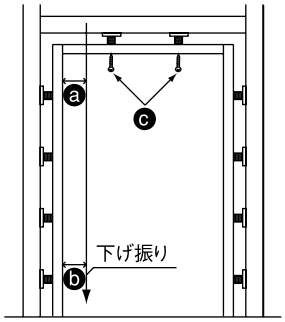


竪枠の本固定

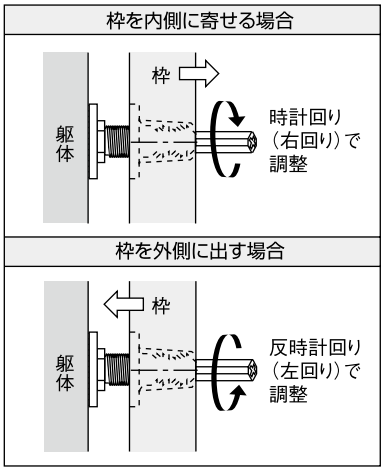


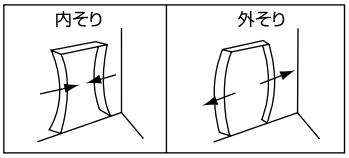
収納３連引き戸枠

建て付け調整ならびに鴨居の本固定



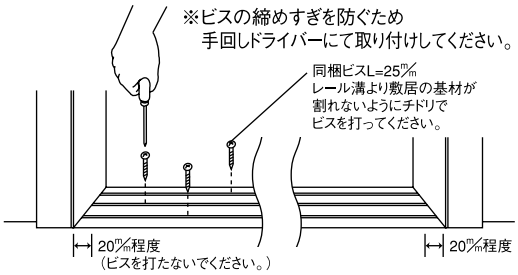
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。





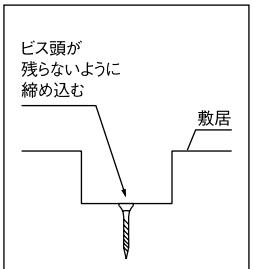
※上記の様なことがないようご注意ください。

敷居の固定



⚠ 注意

敷居溝の外側2本はレール取り付けの際、ストッパーをビス固定します。
敷居のビス固定は20㎜程度枠から離してビスを打ってください。



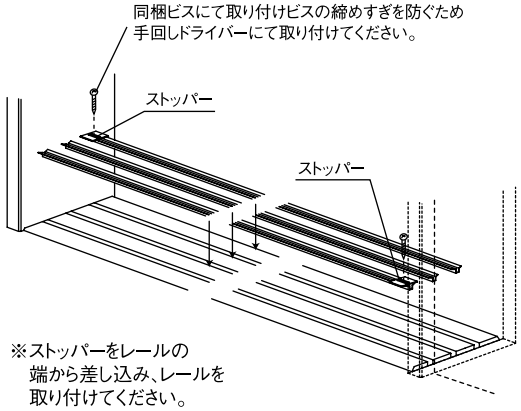
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

敷居レールの取り付け

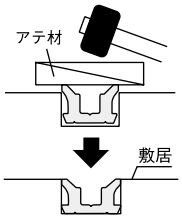
重要

レールは必ず下図の位置に取り付けてください。
奥レール：左側にストッパー
中央レール：ストッパーなし
手前レール：右側にストッパー



※ストッパーをレールの端から差し込み、レールを取り付けてください。
※レールの取り付けはあて木の上からゴムハンマーで叩き込んでください。

Yレール取り付け時の注意



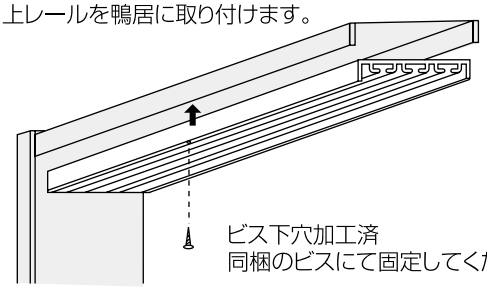
※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

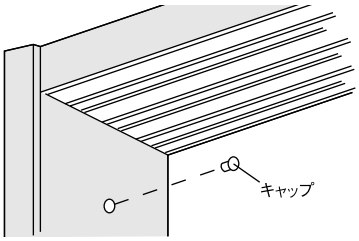
上レールの取り付け

上レールを鴨居に取り付けます。



ビス下穴加工済
同梱のビスにて固定してください。

キャップの取り付け



竪枠8ヶ所の躯体接合金具用の穴に同梱のキャップをかぶせます

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

収納両開き戸

1. 開梱

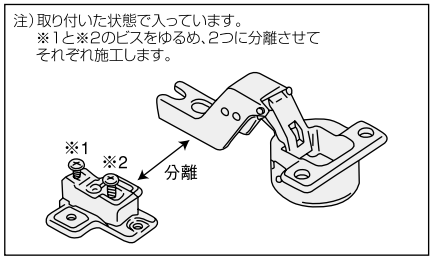
梱包を開いたらまず最初に下表の部品に不足および問題点が無いかどうか確認してください。

梱包内訳表

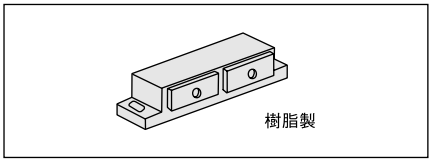
ピノアース・ジュピーノ

	部材名	数量				
		H=3尺	H=4尺	H=6尺	H=7尺	H=8尺
	開き戸	1セット				
	取っ手	1セット		ー	ー	ー
	スライドヒンジ	4セット		6セット		
	マグネット	2個				

※取っ手は1セットに1組入っています。



ピノアース・ジュピーノ用スライドヒンジ

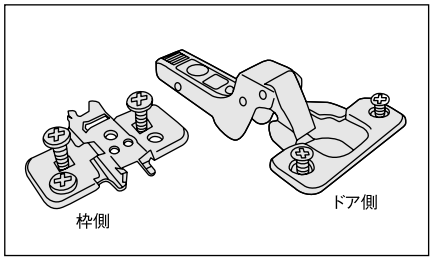


マグネット

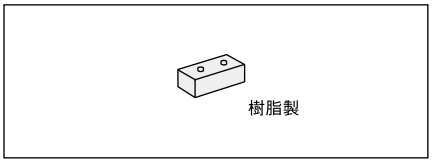
グランステージ・ソフトアート

	部材名	数量				
		H=3尺	H=4尺	H=6尺	H=7尺	H=8尺
	開き戸	1セット				
	取っ手	1セット				
	スライドヒンジ	4セット		6セット		
	戸当り	1個（クリアバンポン2個セット）				

※取っ手は1セットに1組入っています。



グランステージ・ソフトアート用スライドヒンジ



戸当り

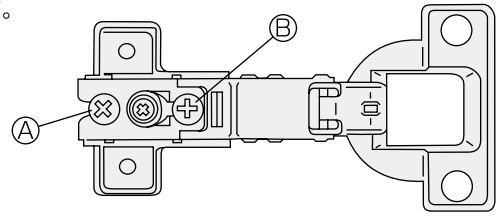
収納両開き戸

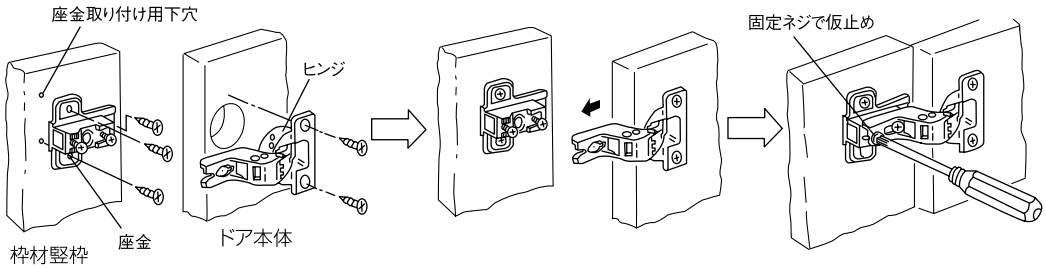
2. 施工手順

スライドヒンジヒンジの取り付け

ピノアース・ジュピーノの場合

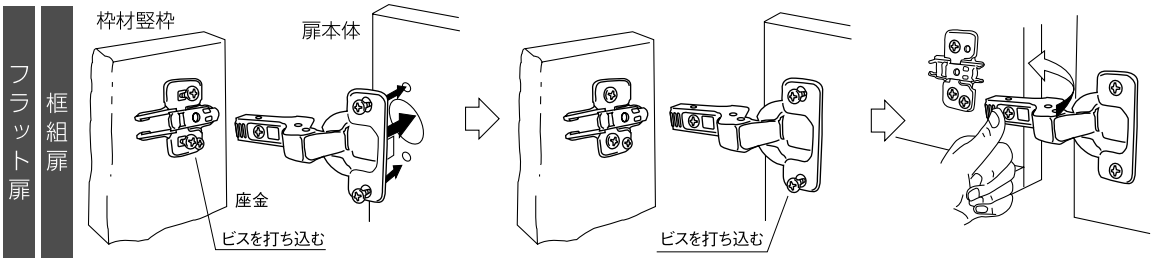
（1）ⒶとⒷのネジをゆるめ座金とヒンジを分離します。
（2）扉本体にヒンジを、枠材に座金を取り付けます。
（3）固定ネジで仮止めします。





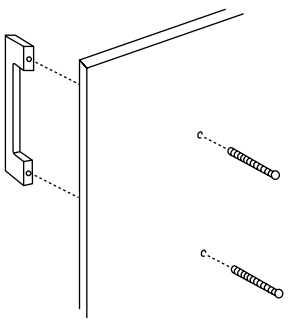
グランステージ・ソフトアートの場合

（1）扉本体にヒンジを、枠材に座金を取り付けます。
（2）固定ネジで仮止めします。

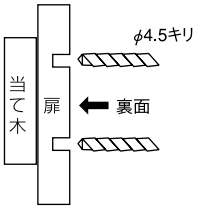


バー取っ手の取り付け

付属のビスで取り付けます。



取手穴貫通のしかた



⚠ 注意

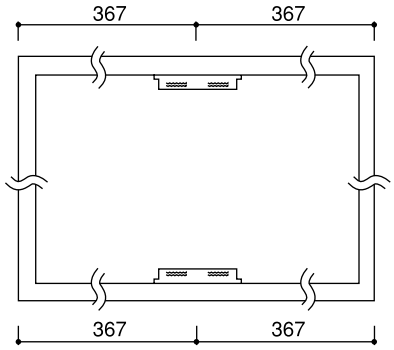
必ずおこなう

取っ手穴を貫通させる時は扉表面に当て木をして、バリ発生を防いでください。

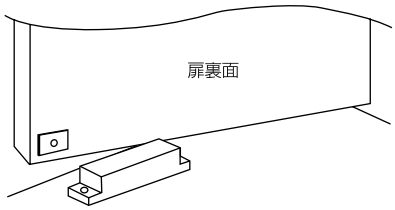
マグネット、戸当りの取り付け

ピノアース・ジュピーノの場合

（1）上下枠に同梱のナベビスでマグネット本体を取り付けます。

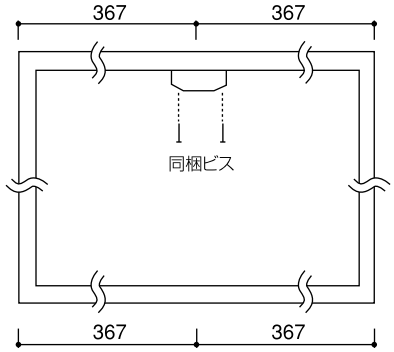


（2）扉裏面に同梱の皿ビスで受け金具を取り付けます。



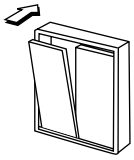
グランステージ・ソフトアートの場合

上枠に戸当りを取り付けます。



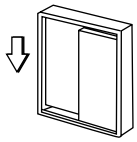
開閉の確認 及び 隙間の調整

納まり図をご参照の上、枠材との隙間を調整します。



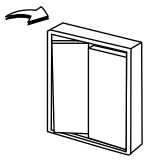
Ⓐ前後の調整ネジ

扉と枠材との隙間が上下で異なっているときはスライドヒンジのⒶのネジを全てゆるめて調整します。



Ⓑ上下の調整ネジ

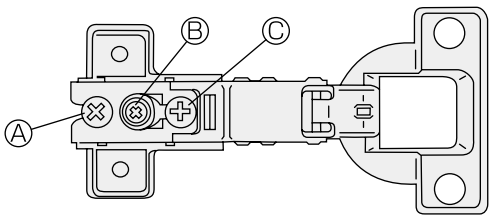
左右の扉の上下が異なっている時などはスライドヒンジのⒷのネジを全てゆるめて調整します。



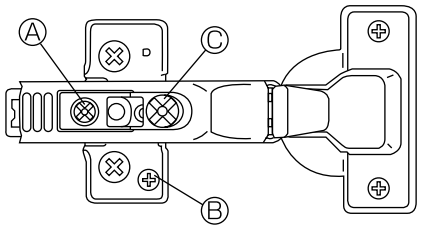
Ⓒ左右の調整ネジ

扉が横にずれている時はⒸのネジをゆるめると内側に、しめると外側に扉が寄ります。

ピノアース・ジュピーノ用



グランステージ・ソフトアート用



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

調整枠 固定枠

収納両開き戸専用枠

1. 開梱

梱包を開いたらまず最初に下表の部品に不足および問題点が無いかどうか確認してください。

梱包内訳表

ピノアース・ジュピーノ

	部材名	数量					備考
		3尺	4尺	6尺	7尺	8尺	
	竪枠	2本					
	上枠	1本					
	組み立て専用ビス	4本					
	躯体接合金具用ビス	1本		9本	9本		
	躯体接合金具用キャップ	1個		9個	9個		
	ミニレンチ	1本					
	木ダボ	2本					
	下枠ベース専用ビス	4本					

グランステージ

	部材名	数量					備考
		3尺	4尺	6尺	7尺	8尺	
	竪枠	2本					
	上枠	1本					
	組み立て専用ビス	4本					
	躯体接合金具用ビス			9本	9本		
	躯体接合金具用キャップ			9個	9個		
	ミニレンチ	1本					
	木ダボ	2本					
	下枠ベース専用ビス	4本					
	木口単板	1本					竪枠上端用

ソフトアート

	部材名	数量					備考
		3尺	4尺	6尺	7尺	8尺	
	竪枠	2本					
	上枠	1本					
	組み立て専用ビス	4本					
	躯体接合金具用ビス			9本	9本		
	躯体接合金具用キャップ			9個	9個		
	ミニレンチ	1本					
	木ダボ	2本					
	下枠ベース専用ビス	4本					
	木口シール	2本					竪枠上端用

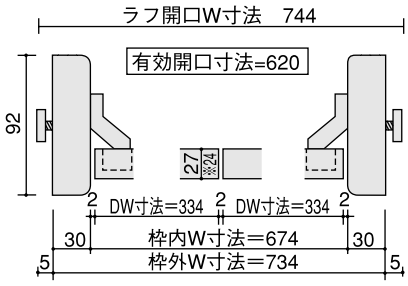
※調整枠用のケーシングセット、下枠（下枠ベース）は別売になります。

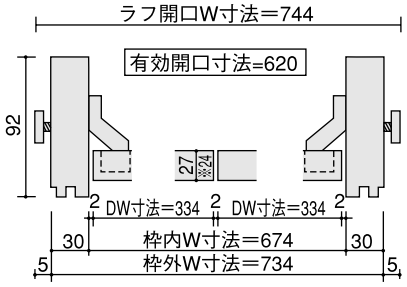
2. 納まり図

ピノアース・ジュピーノ

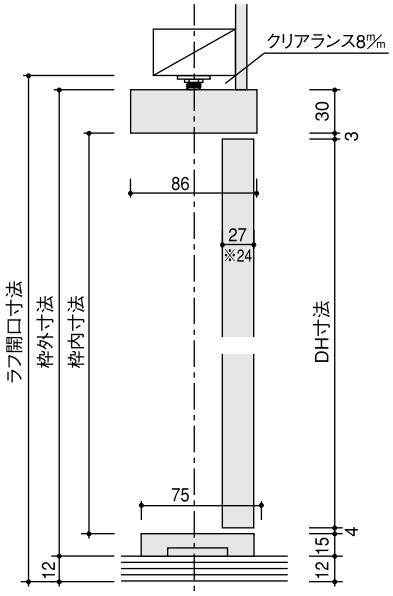
※扉の厚み24㎜はルーバータイプの場合

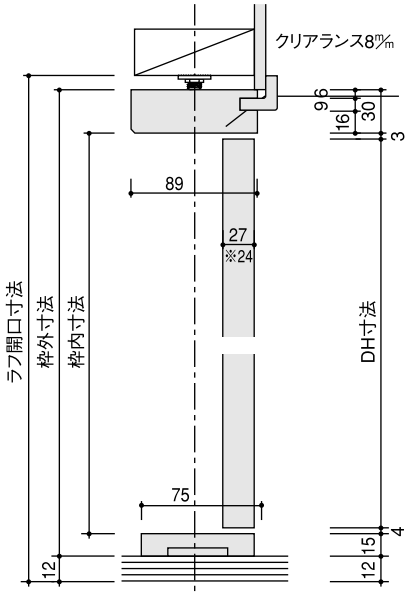
横断面図





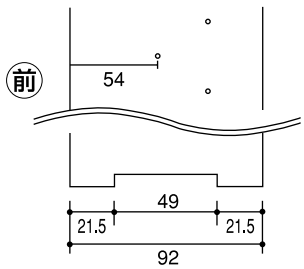
縦断面図





	H=3尺	H=4尺	H=6尺	H=7尺	H=8尺
ラフ開口寸法	–	–	1,805	2,055	2,356
枠外H寸法	832	1,187	1,785	2,035	2,336
枠内H寸法	787	1,142	1,740	1,990	2,291
DH寸法	780	1,135	1,733	1,983	2,284

縦枠下端加工図



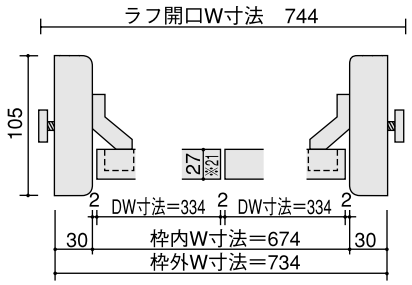
調整枠 固定枠

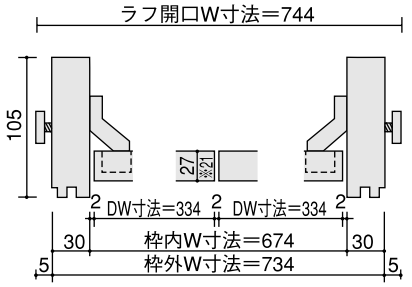
収納両開き戸専用枠

グランステージ・ソフトアート

※扉の厚み21㎜はソフトアート・スマートタイプの場合

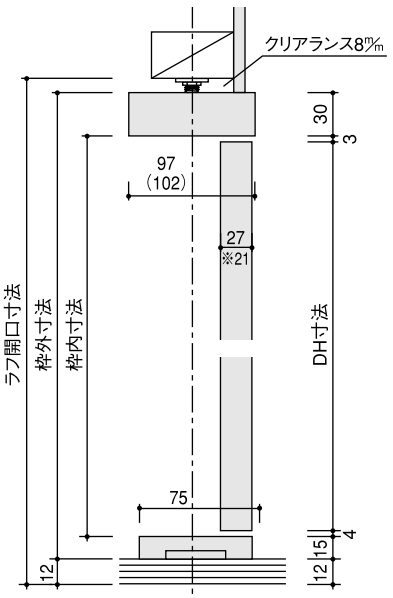
横断面図

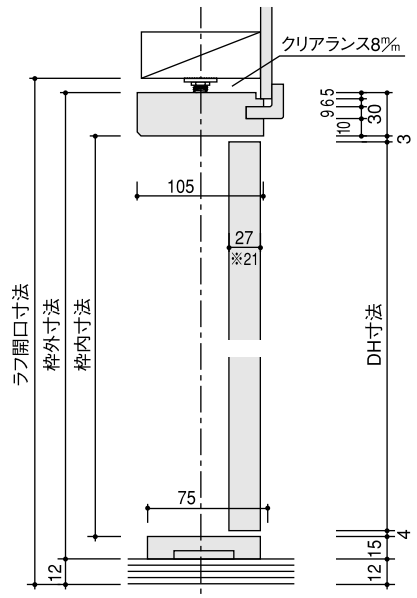




縦断面図

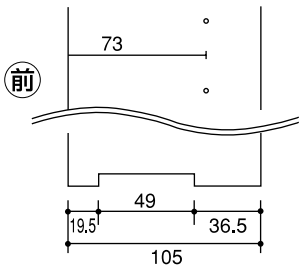
（　）内はグランステージの寸法になります。





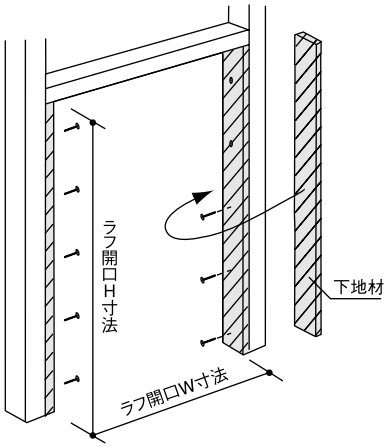
	H=3尺	H=4尺	H=6尺	H=7尺	H=8尺
ラフ開口寸法	–	–	1,805	2,055	2,356
枠外H寸法	832	1,187	1,785	2,035	2,336
枠内H寸法	787	1,142	1,740	1,990	2,291
DH寸法	780	1,135	1,733	1,983	2,284

縦枠下端加工図



3. 施工手順

取り付け開口部の確認・枠材の組み立て



開口部に下地材を取り付け、
納まり図参照の上、枠外寸法に
見合ったラフ開口を設けてください。

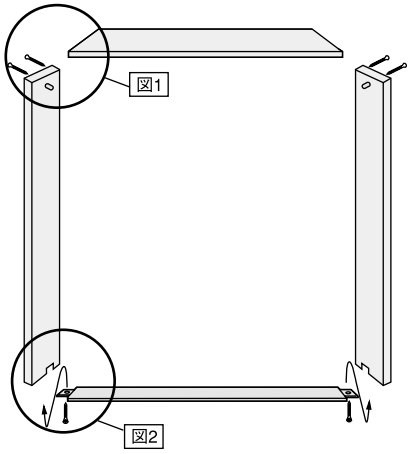
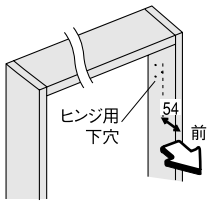
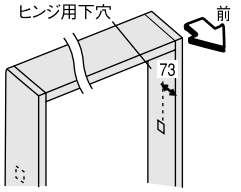


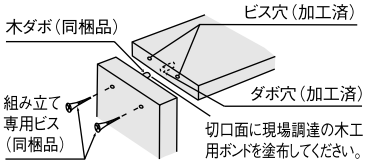
図1　ピノアース・ジュピーノ



ソフトアート・グランステージ



※竪枠の前後方向をご確認の上、
取り付けてください。

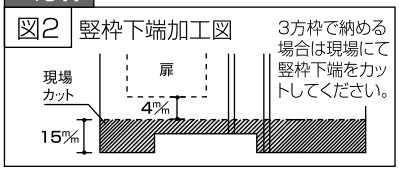


⚠ 注意

裏面・左吊・右吊 印字確認後、枠の組み立てを行ってください。

3方枠

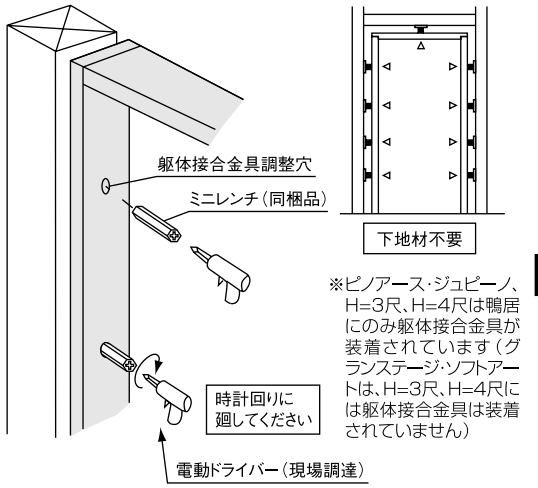
図2　竪枠下端加工図



3方枠で納める場合は現場にて竪枠下端をカットしてください。

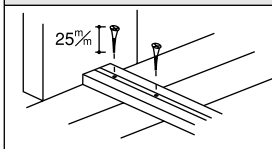
枠材の仮固定・本固定

枠材の仮固定（H=6・7・8尺の場合）



※ピノアース・ジュピーノ、H=3尺、H=4尺は鴨居にのみ躯体接合金具が装着されています（グランステージ・ソフトアートは、H=3尺、H=4尺には躯体接合金具は装着されていません）

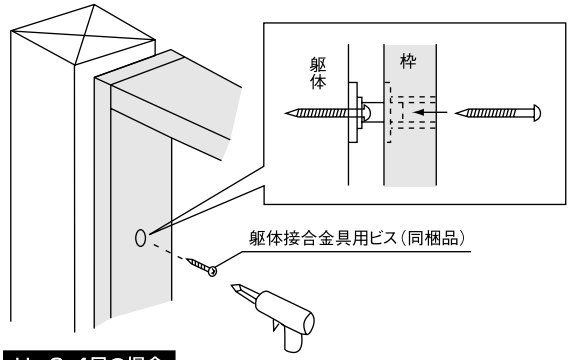
下枠ベースの固定



下枠とベース材は別梱になります。

下枠ベースを同梱のビス（L＝25㎜）でフロアに固定します。

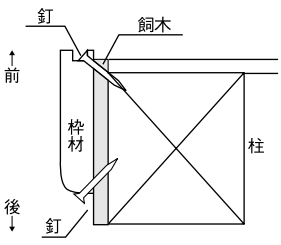
枠材の本固定（H=6・7・8尺の場合）



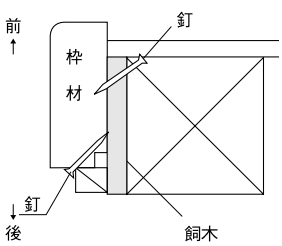
H=3、4尺の場合

飼木（クサビ）のある位置にケーシング溝および躯体裏面より現場調達の釘で固定します。

● 調整枠



● 固定枠



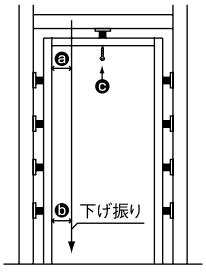
調整枠 固定枠

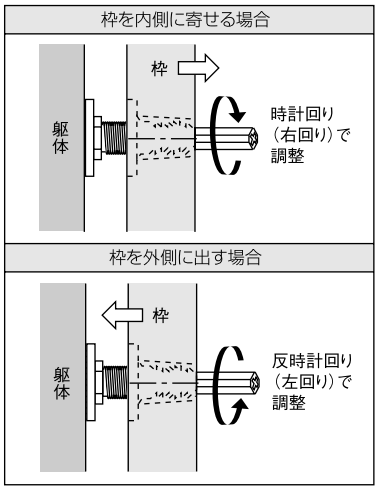
収納両開き戸専用枠

建て付け調整と鴨居の本固定

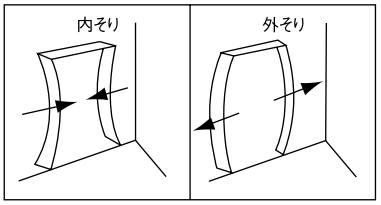
H=6・7・8尺の場合

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



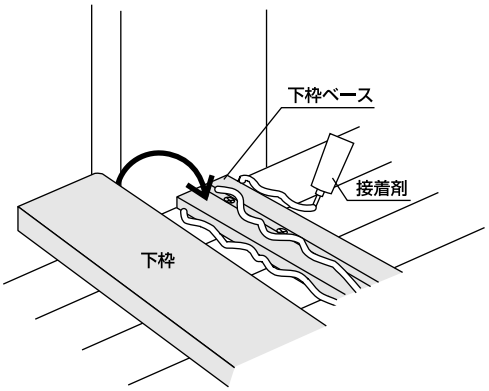


※下記の様なことがないようご注意ください。



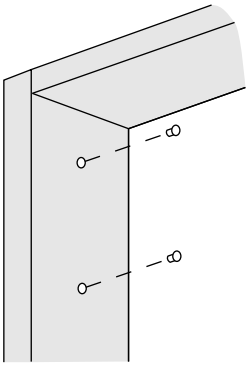
下枠の取り付け（4方枠の場合）、キャップの取り付け

フロアの上に下枠を接着剤併用にてしっかりと固定して下さい。



H=6・7・8尺の場合

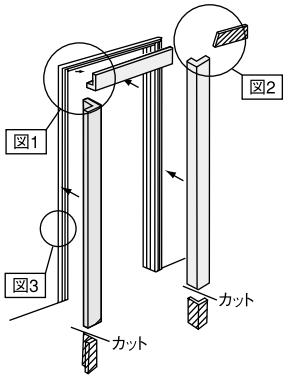
竪枠の躯体接合金具調整穴に、付属のキャップを差し込みます。

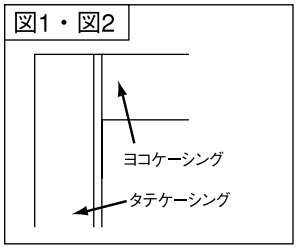


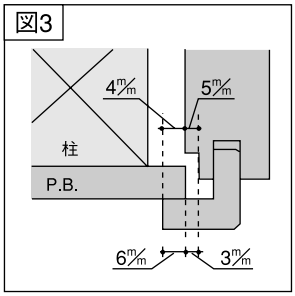
⚠ 注意

躯体接合金具は基本H=6尺以上に装着していますが、ジュピーノ・息吹用の3尺、4尺には鴨居のみ躯体接合金具が装着されています。

ケーシングの取り付け（調整枠の場合のみ）







施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

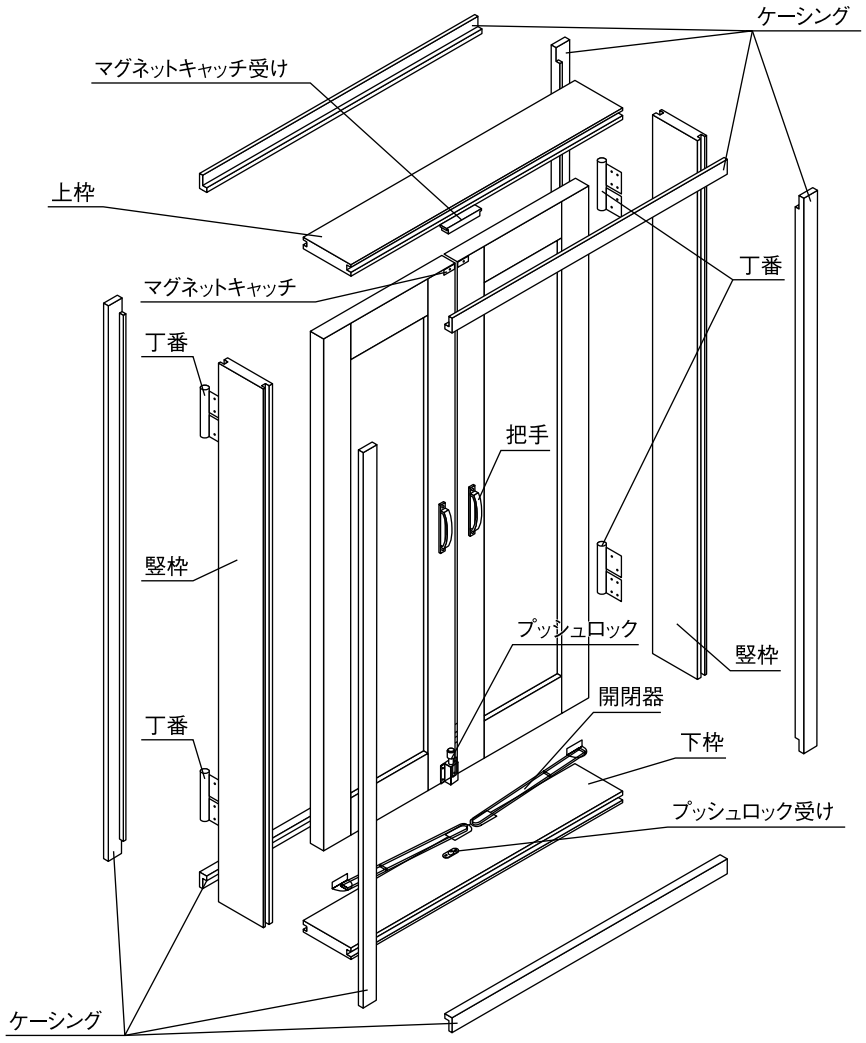
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

吹き抜け窓

1. 開梱

梱包を開いたら、本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

吹き抜け窓

	部材名	数量	備　考
	扉	2枚	召し合わせ付 1枚
📖	使用説明書	1部	必ずお施主様に渡してください。

把手

	部材名	数量	備　考
	把手	2本	取り付けビス同梱

ケーシングセット

	部材名	数量	備　考
	ケーシング（縦用）	4本	正寸カット済
	ケーシング（横用）	4本	正寸カット済

吹き抜け窓セット

	部材名	数量	備　考
❶	竪枠	2本	正寸カット済
❷	上枠	1本	正寸カット済
❸	下枠	1本	正寸カット済
❹	丁番セット	1ｾｯﾄ(4入)	取り付けビス同梱
❺	開閉器	2セット	金具セット
❻	マグネットキャッチ	1セット	金具セット
❼	プッシュロック	1セット	金具セット
❽	組み立て専用ビス	8本	ビスセット
❾	木ダボ	4本	ビスセット
❿	躯体接合金具用ビス	5本	ビスセット
⓫	キャップ	5個	ビスセット
⓬	ミニレンチ	1本	ビスセット
📖	施工説明書	1部	

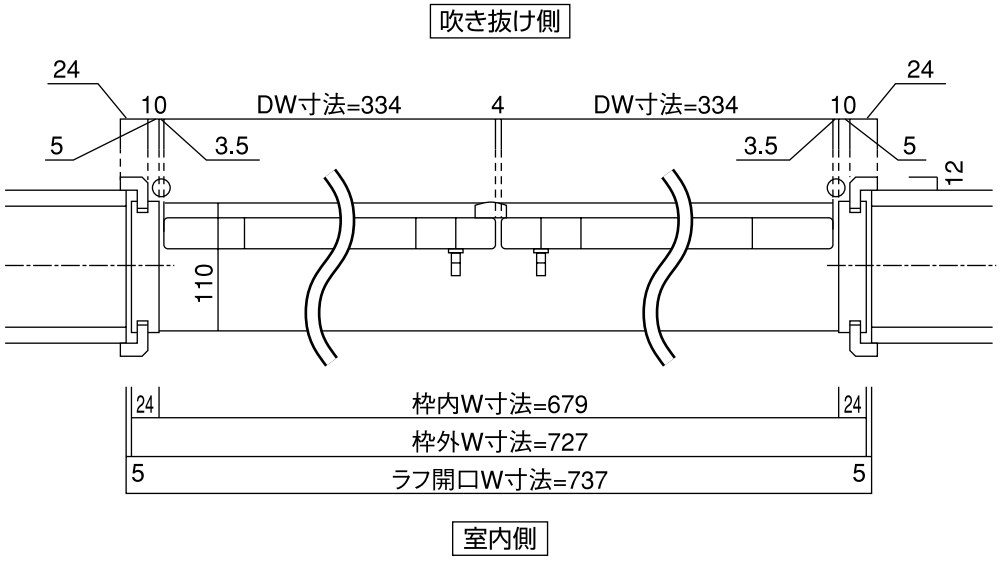
吹き抜け窓

2. 納まり図

本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

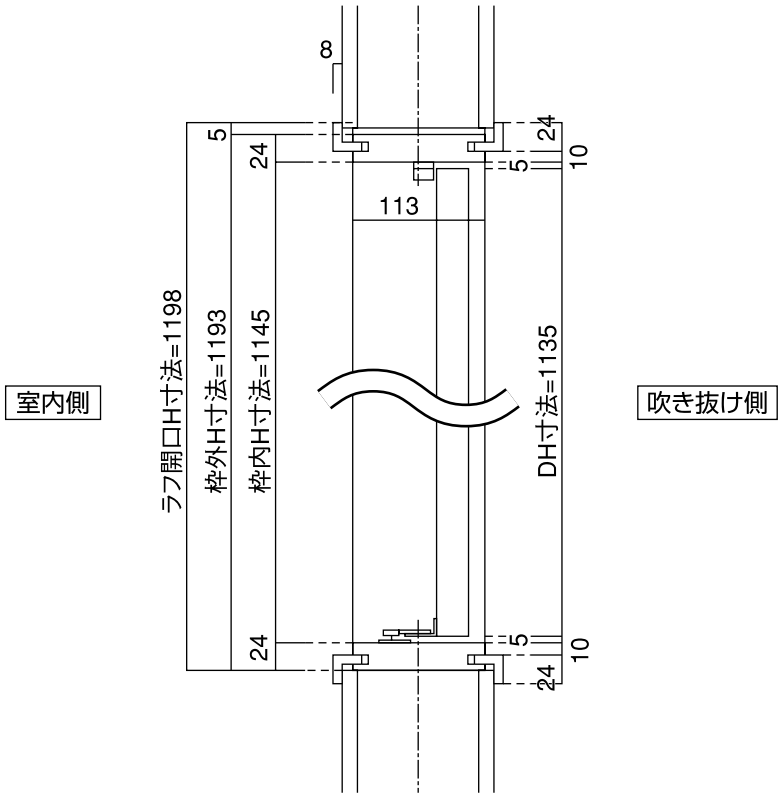
横断面図

（単位:㎜）



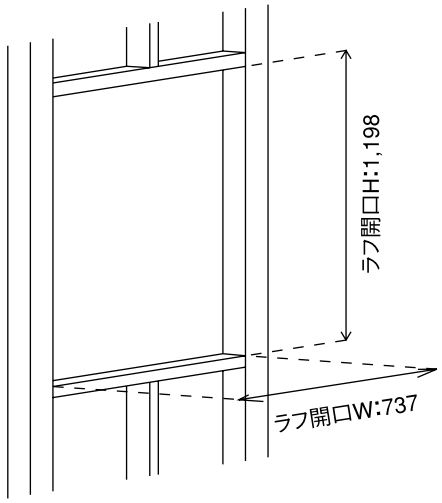
縦断面図

（単位:㎜）



3. 施工手順

取り付け開口部の確認

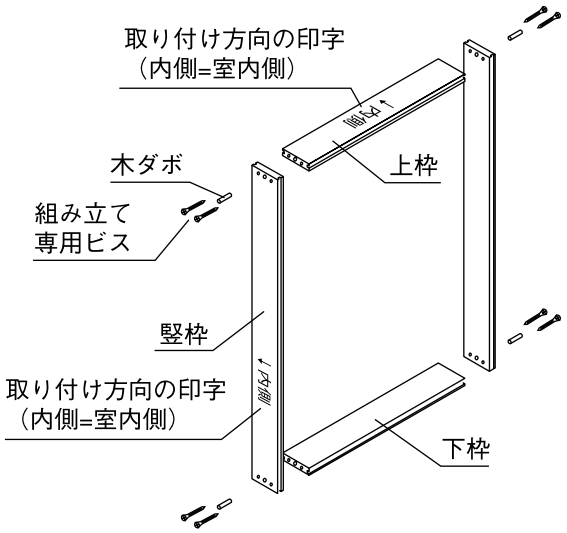


ラフ開口寸法（H:1,198㎜、W:737㎜）の寸法を確認してください。柱の垂直、床、まぐさの水平を下げ振り、水準器でよく確認、調整をしてください。

⚠ 注意

転落防止のため、吹き抜け両開き戸は床面から800㎜以上（3階以上に設置の場合は1,100㎜以上）の高さに設置ください。

枠材の組み立て



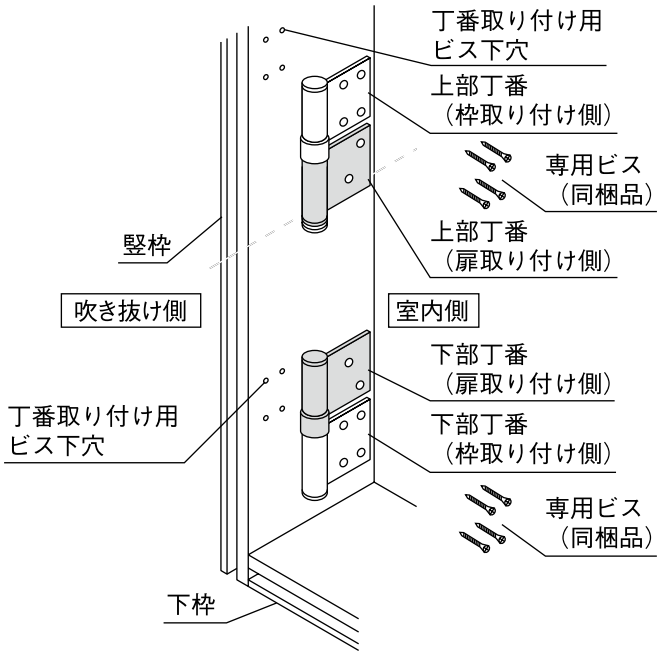
竪枠及び上枠、下枠の各部材裏面に取り付け方向が印字されています。矢印の内側が室内側となります。取り付け方向を揃えて木ダボと組み立て専用ビスで固定し

⚠ 注意

各枠材裏面に取り付け方向が印字されています。

枠材への金具の取り付け

組み立てた枠材の上下を確認してください。上枠には中央に躯体調整金具が付いています。室内側から見て丁番の左右を確認（枠丁番裏面には上下左右を表すシールが貼ってあります）し、同梱のビスで固定してください。
固定位置は丁番取り付け用のビス下穴にならってください。

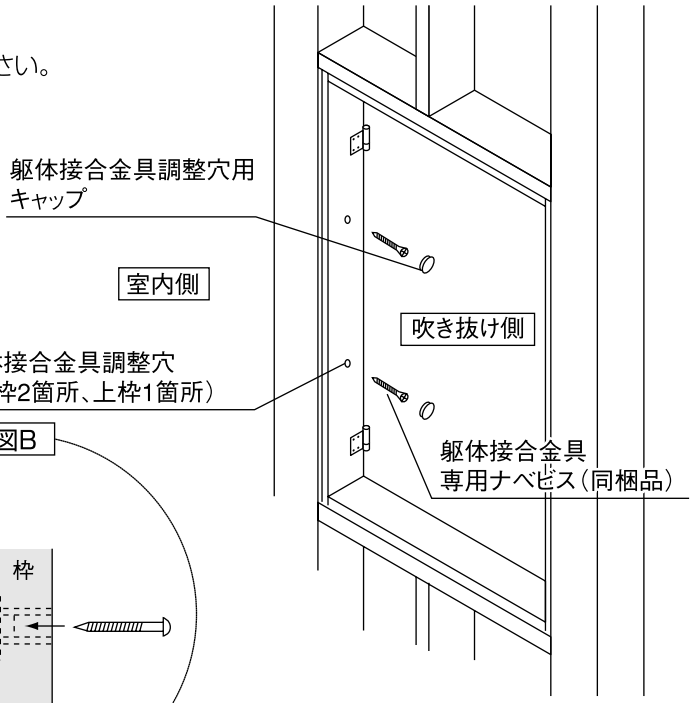


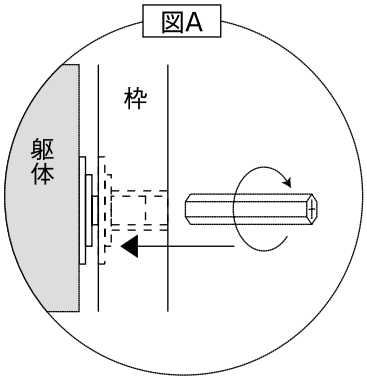
吹き抜け窓

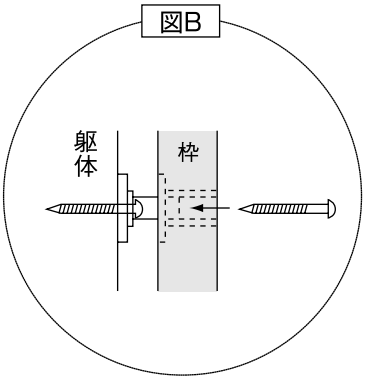
枠材を開口部へ取り付け

ラフ開口寸法（ 取り付け開口部の確認 参照）のでた開口部へ組み立てた枠を入れ、
躯体接合金具を躯体に突っ張らせ仮固定してください。
（図A参照）

躯体接合金具穴より同梱のビスで本固定してください。
（図B参照）





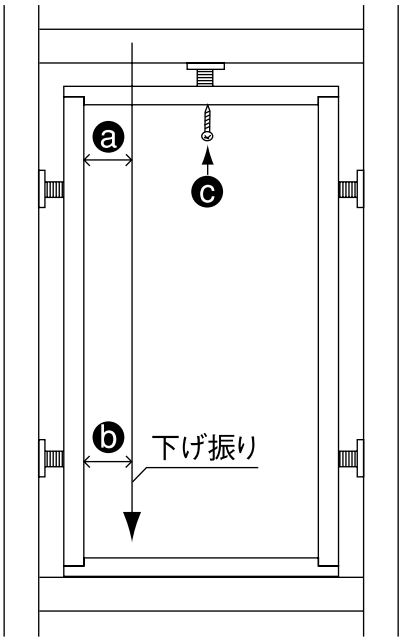


同梱のミニレンチを躯体接合金具へ差し込み、時計回りにまわし、枠を躯体へ突っ張らせます。
（ドライバー使用）

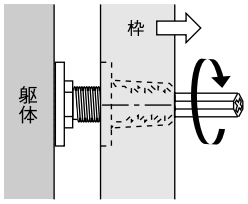
⚠ 注意

枠の取り付けで水平、垂直がでていない場合、扉が閉まらないなどの不具合が生じる場合があります。

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

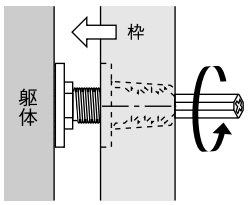


枠を内側に寄せる場合



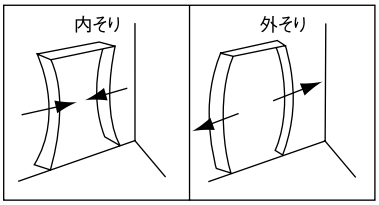
時計回り（右回り）で調整

枠を外側に出す場合

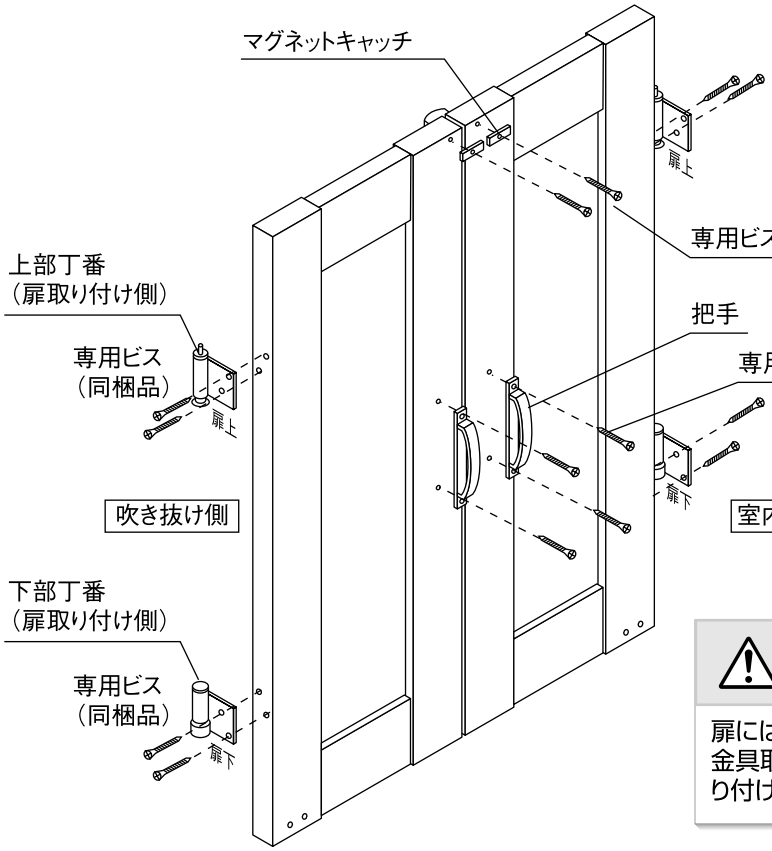


反時計回り（左回り）で調整

※下記の様なことがないようご注意ください。



扉への金具取り付け



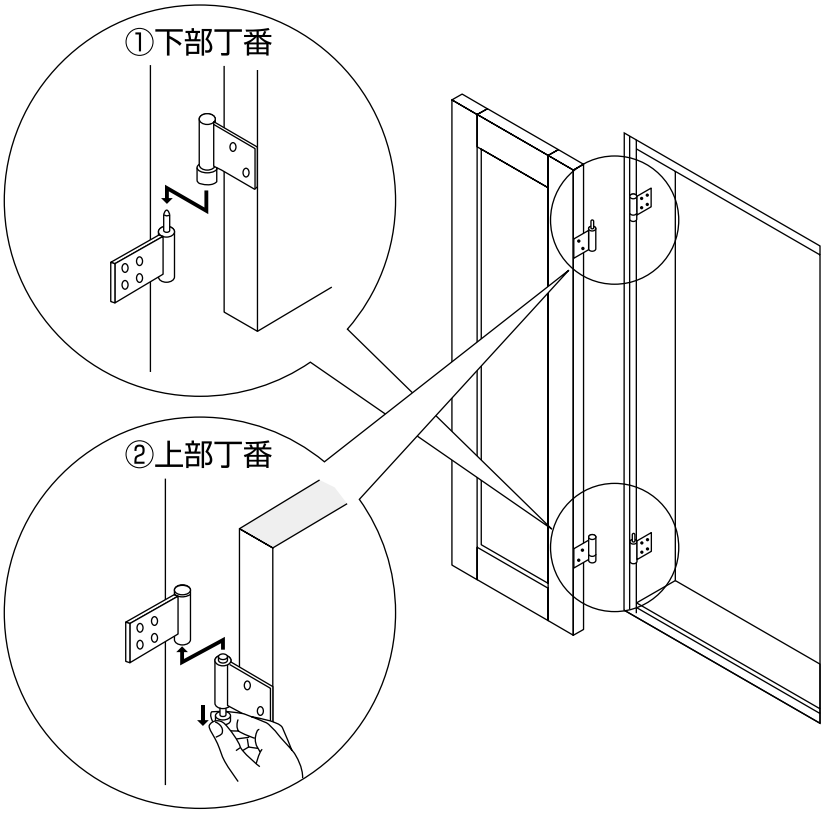
左右の扉に把手、丁番、マグネットキャッチをそれぞれ取り付けてください。各部材の取り付け位置には下穴があけてありますので、下穴にならい同梱の専用ビスにてしっかりと固定してください。

⚠ 注意

扉には上部を表示したシールが貼ってあります。金具取り付け前に向きを確認してください。取り付け後、シールは剥がしてご使用ください。

扉の吊り込み

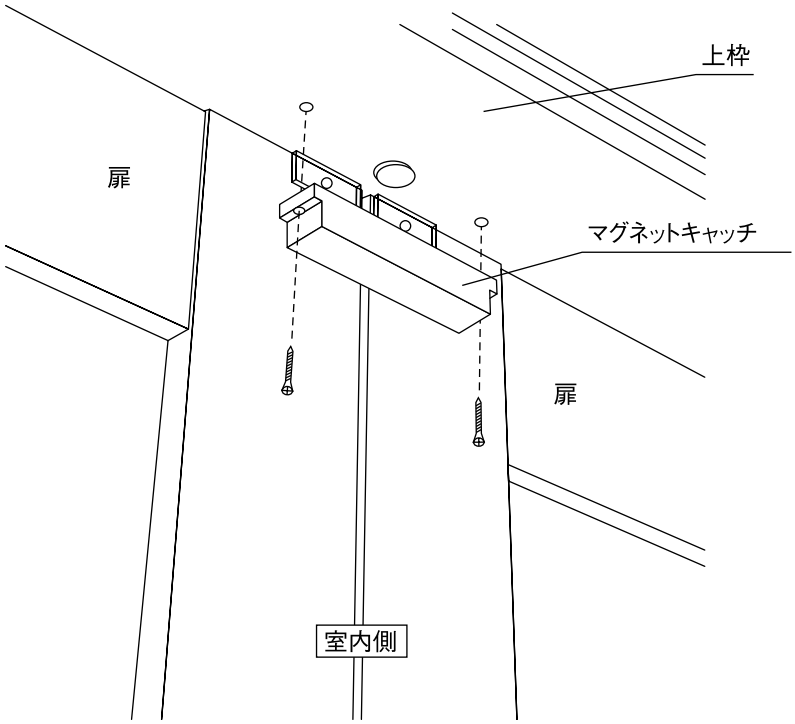
①下部丁番（扉側）を下部丁番（枠側）に差し込みます。
②しっかりと扉を持ちながら上部丁番（扉側）のツマミを下へ引きます。
芯棒が隠れますので、そのままスライドさせるように枠側の上部丁番の真下へ移動させツマミを離し、芯棒を枠側の上部丁番へ差し込みます。



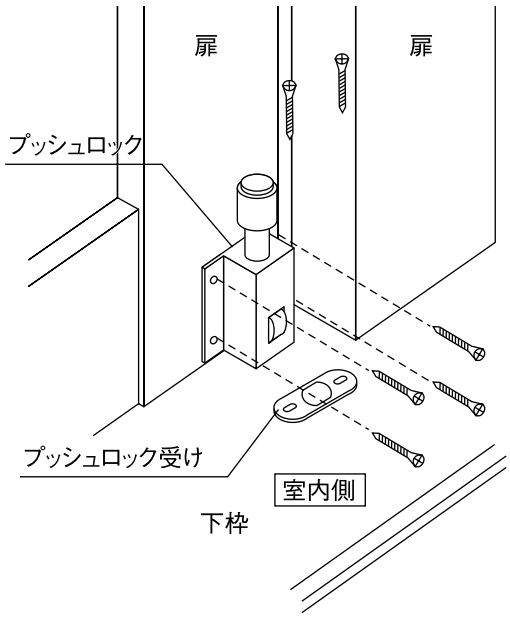
吹き抜け窓

マグネットキャッチの取り付け

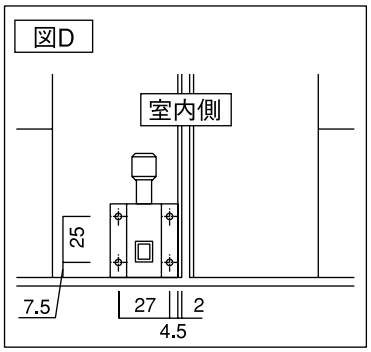
上枠の室内側にマグネットキャッチを取り付けます。
扉を閉めた状態でマグネットの方向を確認してください。扉の方にマグネットがきます。
上枠には下穴がありますので、同梱の専用ビスで固定してください。

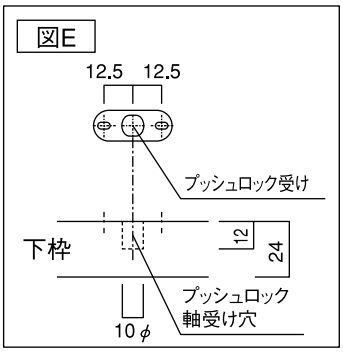


プッシュロックの取り付け



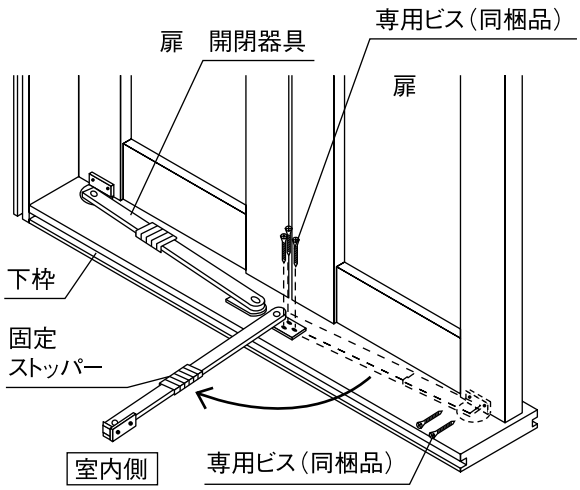
本製品にはプッシュロックが同梱されています。室内から向かって左側の扉（召し合わせ部材のついている扉）の把手下端に木口より面取り分2㎜を避け、器具の下端と扉の下端をあわせて付属のビスで固定します。ビスの下穴は現場加工となりますので下穴位置は図Dをご参照ください。
プッシュロック取り付け後、扉の位置を確認してプッシュロック受けを取り付けます。プッシュロックの軸が入る位置を計測し、10φ、深さ12㎜（図E参照）の非貫通穴を下枠へあけてください。穴のあいた上へプッシュロック受けを置き、位置確認後付属のビスで固定します。





開閉器具の取り付け

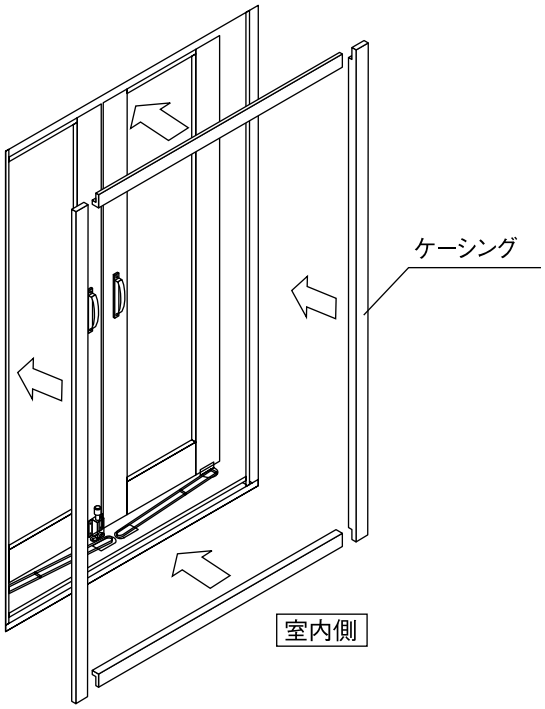
開閉器具を図のように、下枠のビス下穴の位置にあわせて附属のビスで固定します。両側の扉用開閉器をビス固定後、開閉器具を扉側に連結させます。扉にも同様にビス下穴があります。下穴位置で開閉器具を付属のビスにて固定してください。



開閉器具の固定ストッパーをスライドさせることで扉を任意の位置で固定することができます。

ケーシングの取り付け

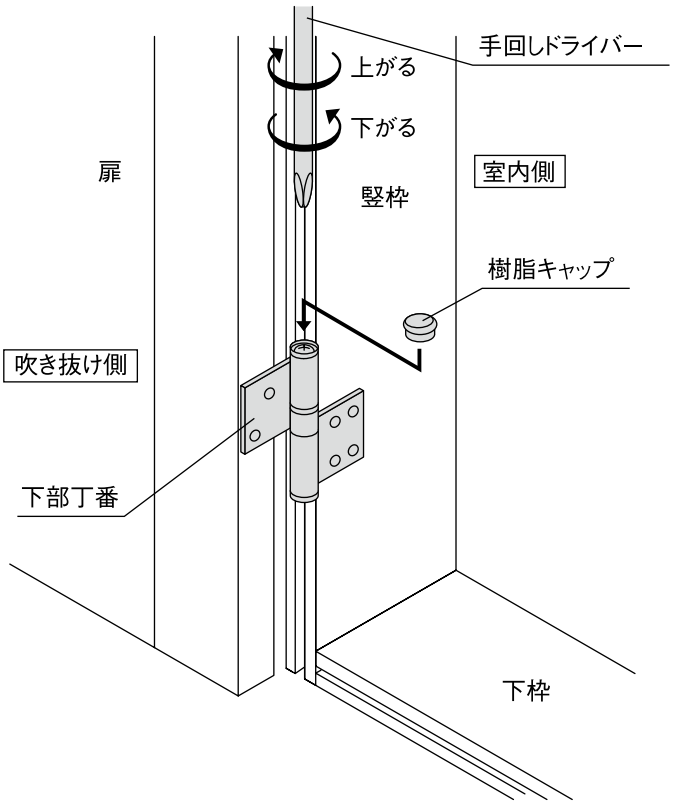
室内側、吹き抜け側にケーシングを取り付けます。ケーシングには適量の木工ボンドをつけてください。（取り付け後はみださない程度）取り付け後当て木などをして木工ボンドが固化するまで固定してください。



丁番の調整方法

上下調整

下部丁番扉側の上部についている樹脂キャップを外し、手回しのプラスドライバーで上下調整をしてください。時計方向に回すと上へ、反時計方向へ回すと下へ動きます。
調整後、樹脂キャップをはめ直し、扉を開閉させ、作動確認をしてください。



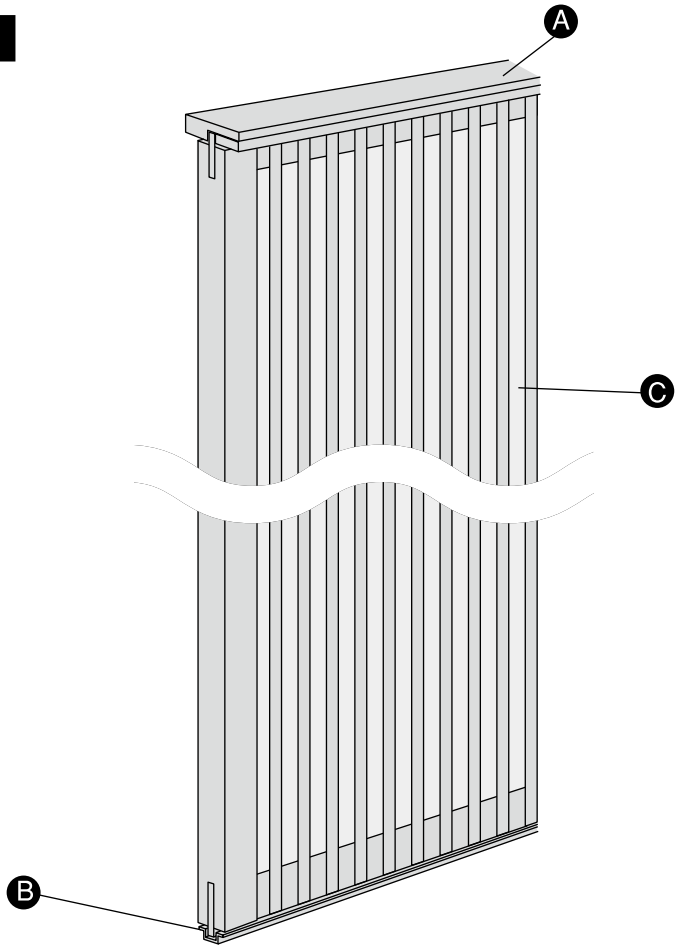
スクリーンパネル

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

スクリーンパネル



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	長さ×巾×厚さ（㎜）	数量	備　考
Ⓐ	鴨居（2分割式）	805×105×29（387×105×30）	1	セット品
Ⓑ	敷居	800×36×15（382×36×15）	1	セット品
Ⓒ	スクリーンパネル本体	2,430×800×36（2,430×382×36）	1	
📖	施工説明書		1部	

別売品〈付柱〉

	長さ×巾×厚さ（㎜）	数量
	2,400×46×15	2
	2,400×70×15	2

別売品〈ケーシング〉

	長さ×巾×厚さ（㎜）	数量
	2,400×62×47	2

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

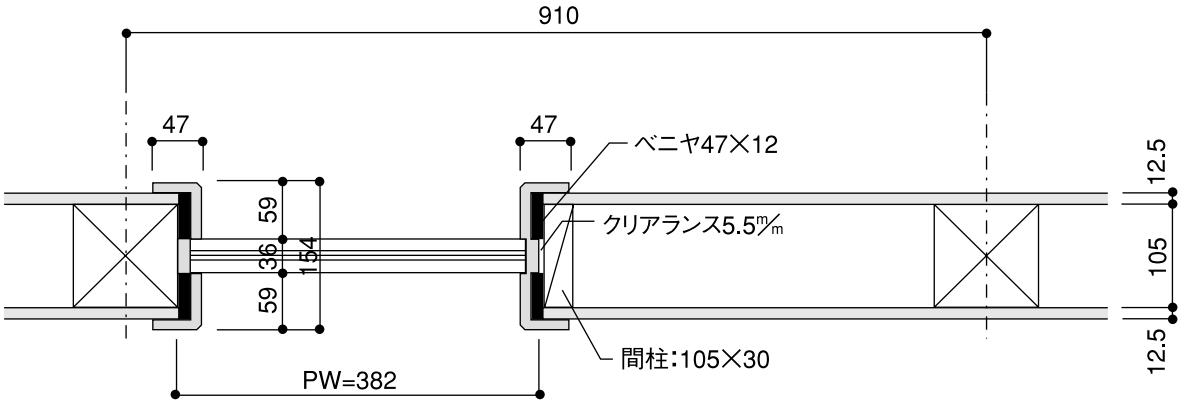
2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

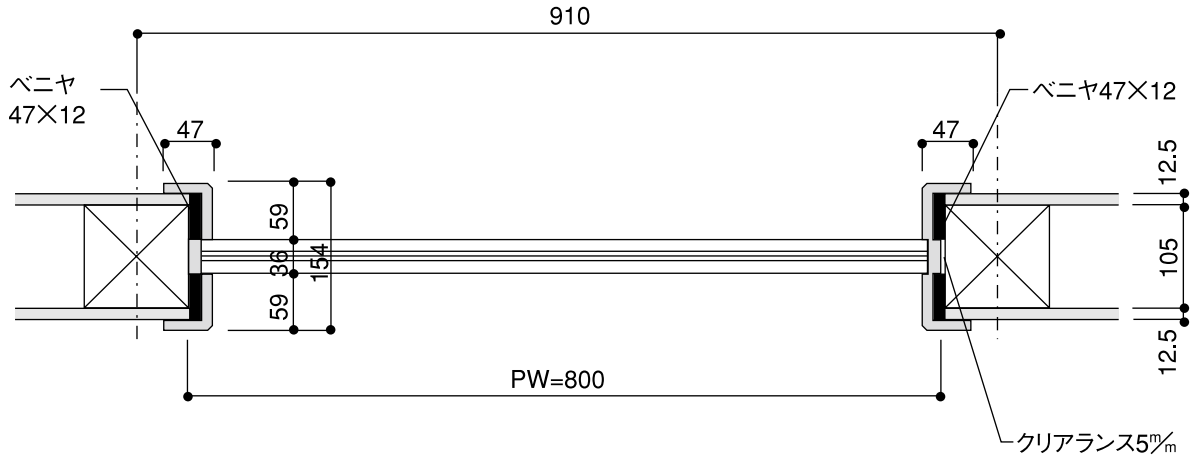
横断面図

（単位:㎜）

PW=382㎜の場合



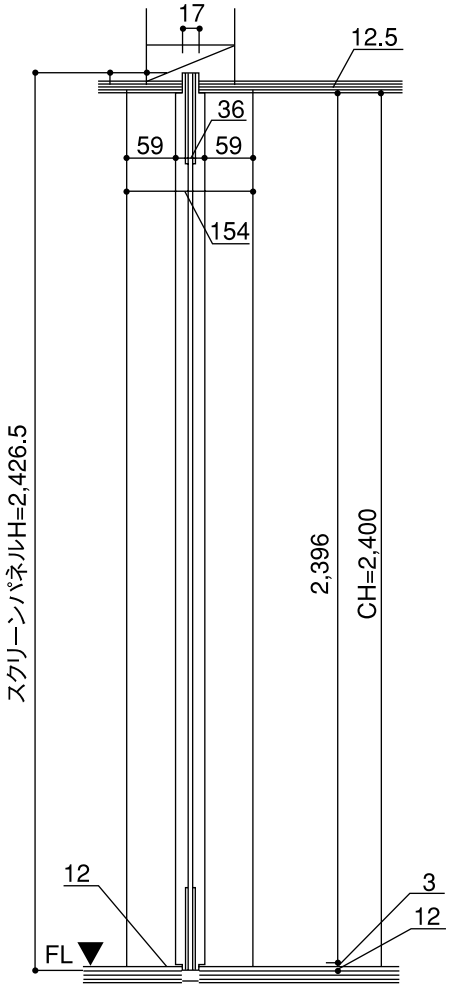
PW=800㎜の場合



スクリーンパネル

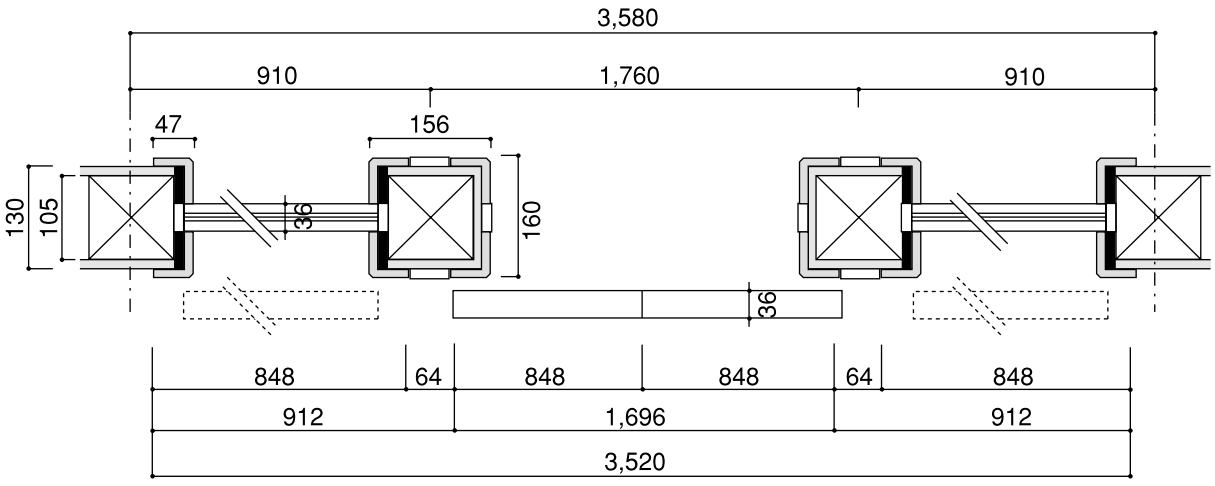
縦断面図

（単位：㎜）



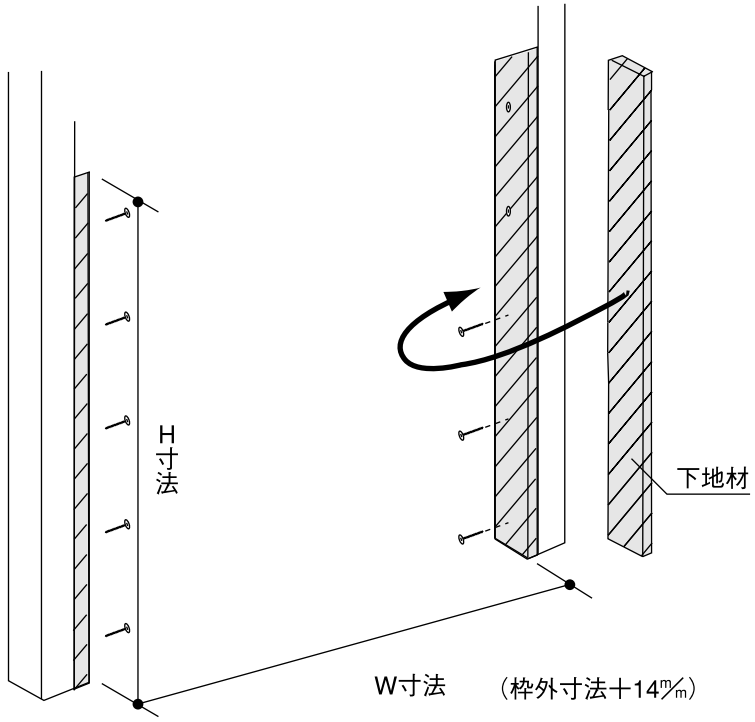
天井ジャスト引き戸との組み合わせパターン

（単位：㎜）



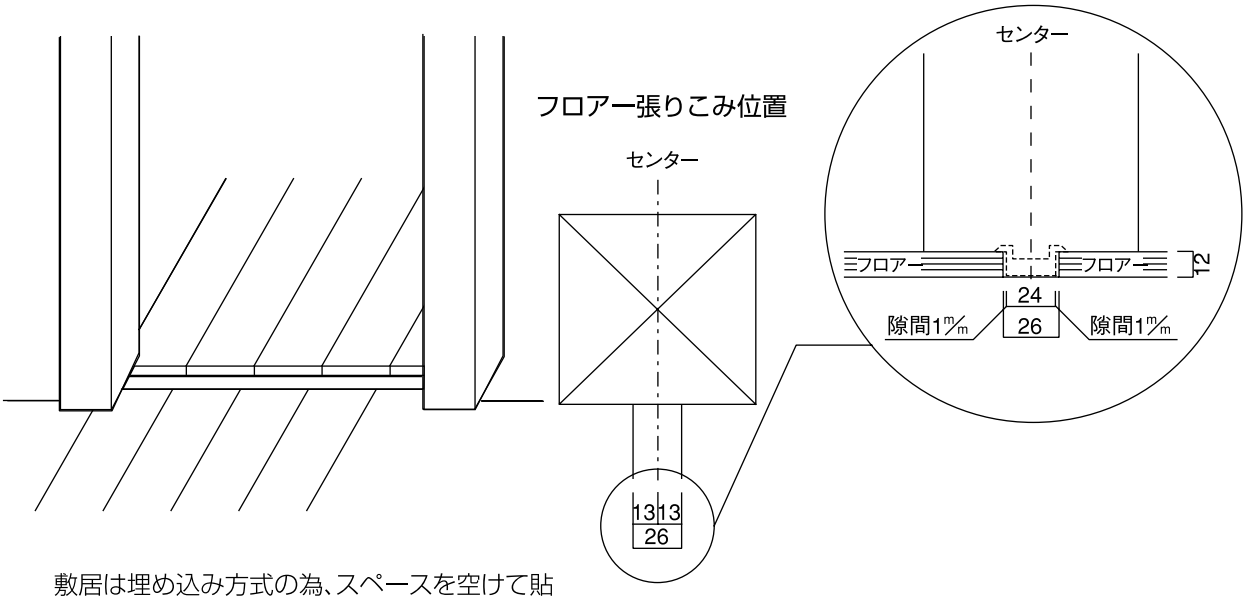
3. 施工手順

取り付け開口部の確認



開口部に下地材を取り付け、枠外寸法に見合った開口を設けてください。

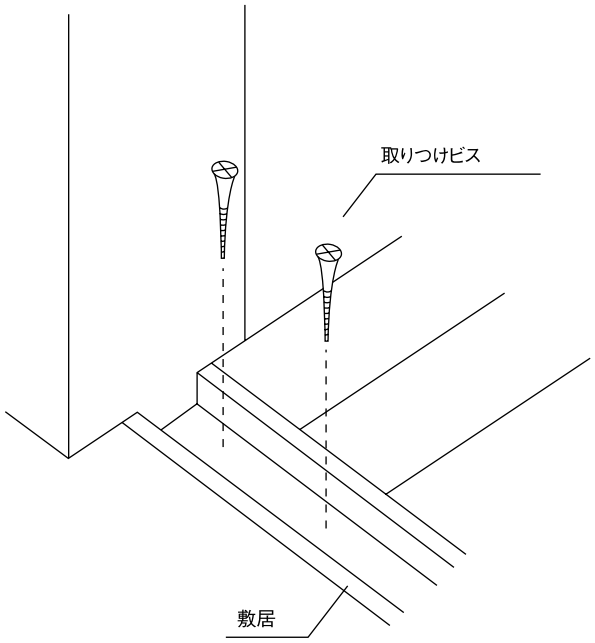
フロアーの張りこみ



敷居は埋め込み方式の為、スペースを空けて貼りこみます。

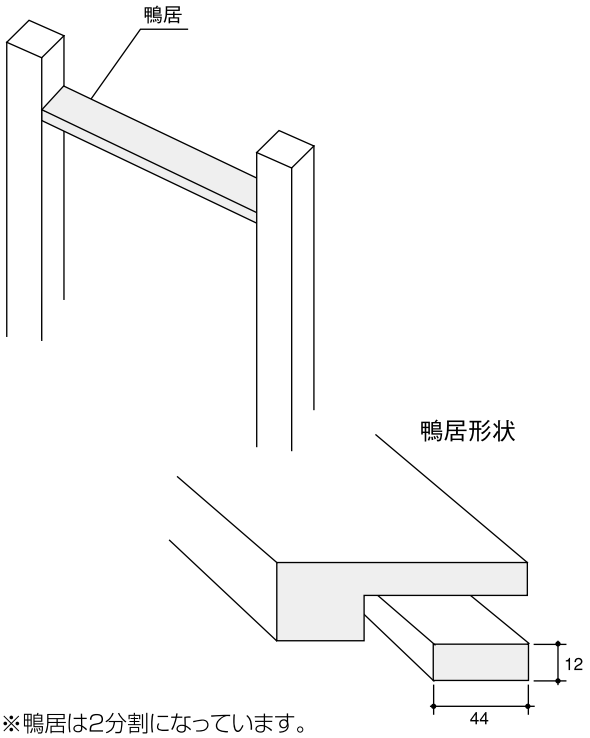
スクリーンパネル

敷居の取り付け



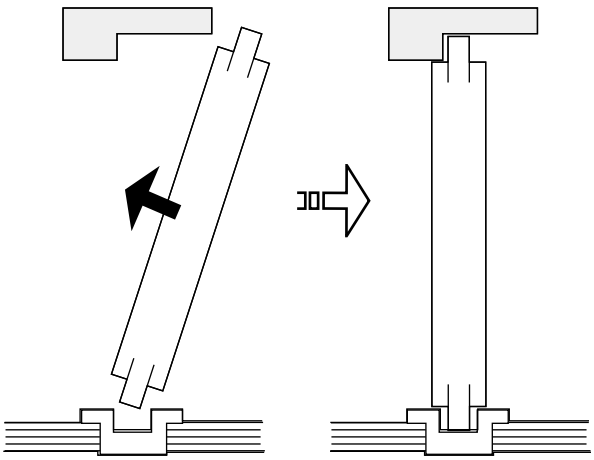
敷居をビスで床下地に固定します。

鴨居の取り付け



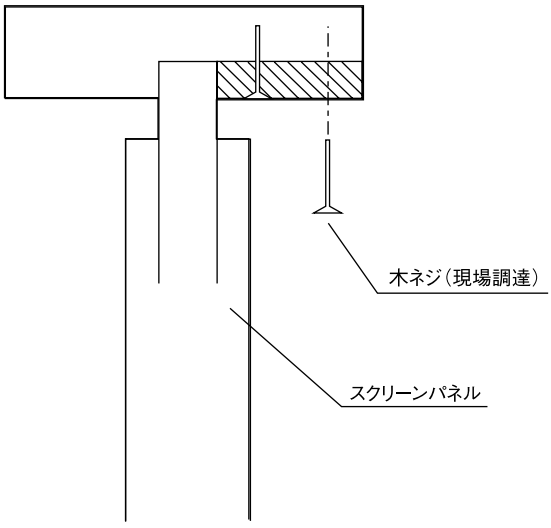
※鴨居は2分割になっています。
44×12㎜はスクリーンパネル本体取り付け後使用します。

スクリーンパネル（本体）の取り付け



スクリーンパネルの上下を確認します。
下端を敷居にはめこみ、スクリーンパネルを起こします。

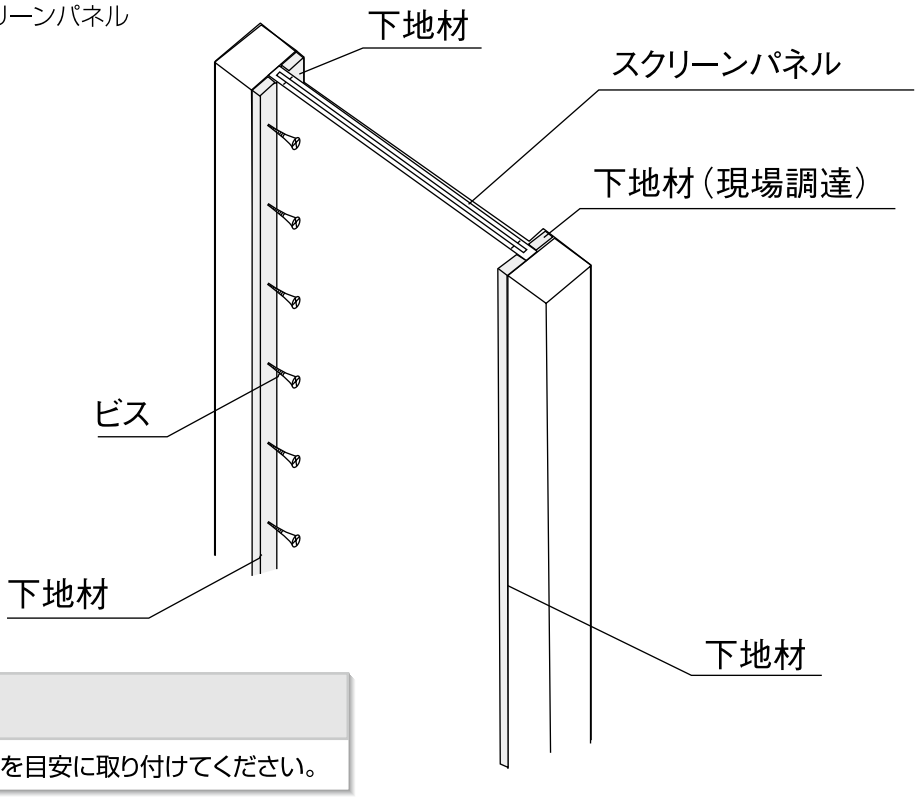
鴨居の固定



鴨居（小:44×12㎜）を木ネジ（L=24）で鴨居（大）としっかり固定します。

スクリーンパネルの固定

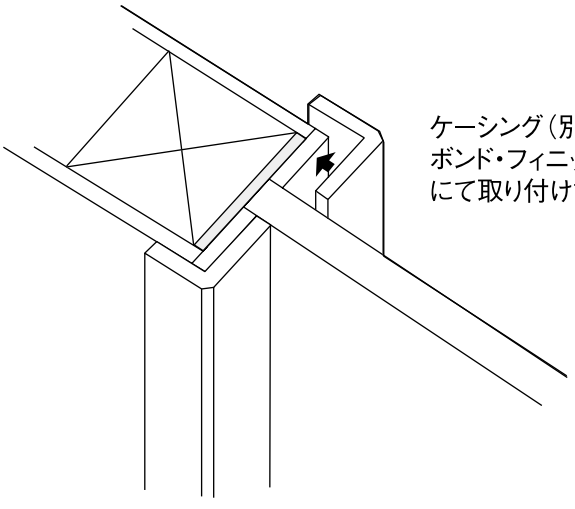
下地材を使い、スクリーンパネルを固定します



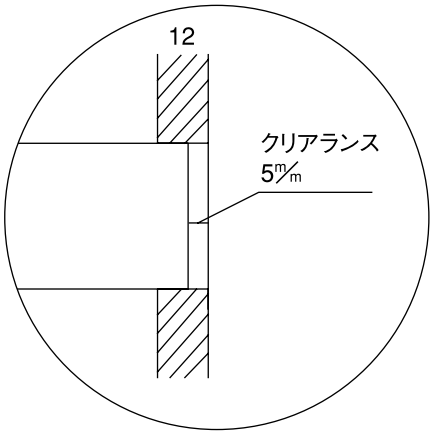
お願い

木ネジのピッチは300㎜を目安に取り付けてください。

ケーシングの取り付け（ケーシング納めの場合）



ケーシング（別売品を）
ボンド・フィニッシュ併用
にて取り付けます。



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

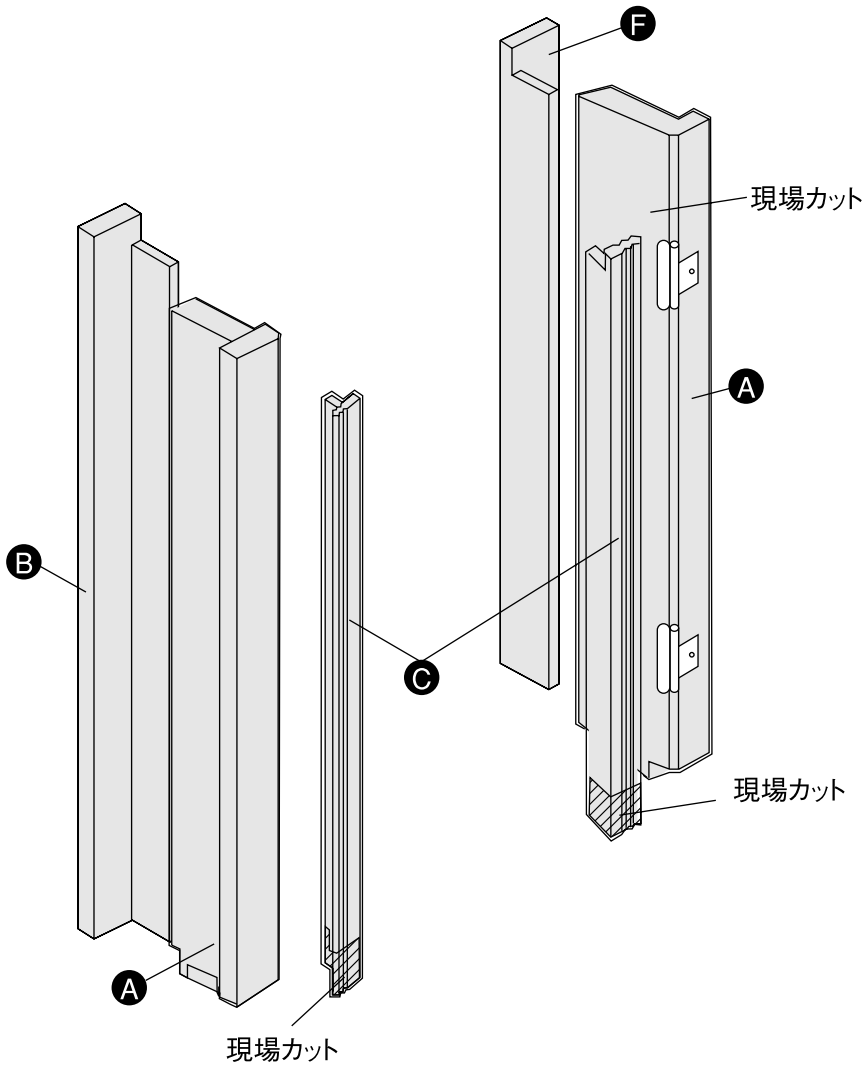
スライド枠（天井ジャスト開きドア枠）

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

シングルドア



梱包内訳表

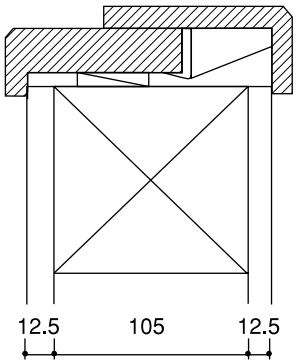
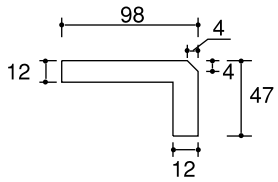
枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済、丁番付×1、ラッチ受付×1
	施工説明書	1部	
	ケーシング止め用ビス	8本	ケーシング用ビス含む（ビスセット）
	竪枠固定ビス	8本	（ビスセット）

ケーシングセット（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓑ	ケーシング	2本	正寸カット済
Ⓒ	戸当りキャップ	2本	現場カット
	固定材	6個	ビス同梱

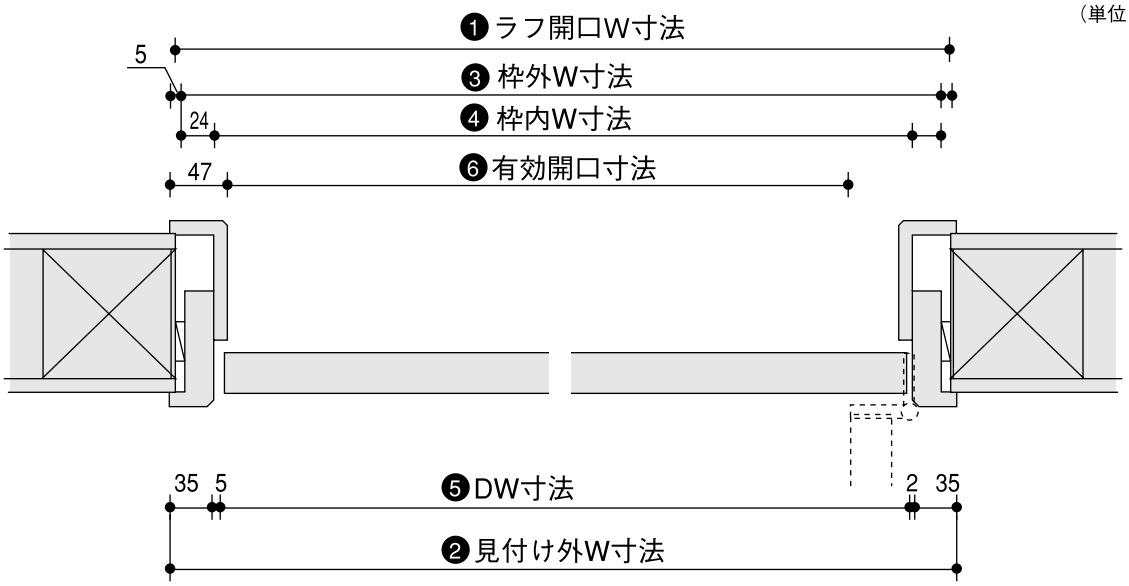
ケーシングの種類と壁厚納まり

	在来工法
ケーシング図及び壁厚納まり（参考例）	 壁厚:130㎜限定 （ケーシング） 

2. 納まり図

横断面図

（単位:㎜）



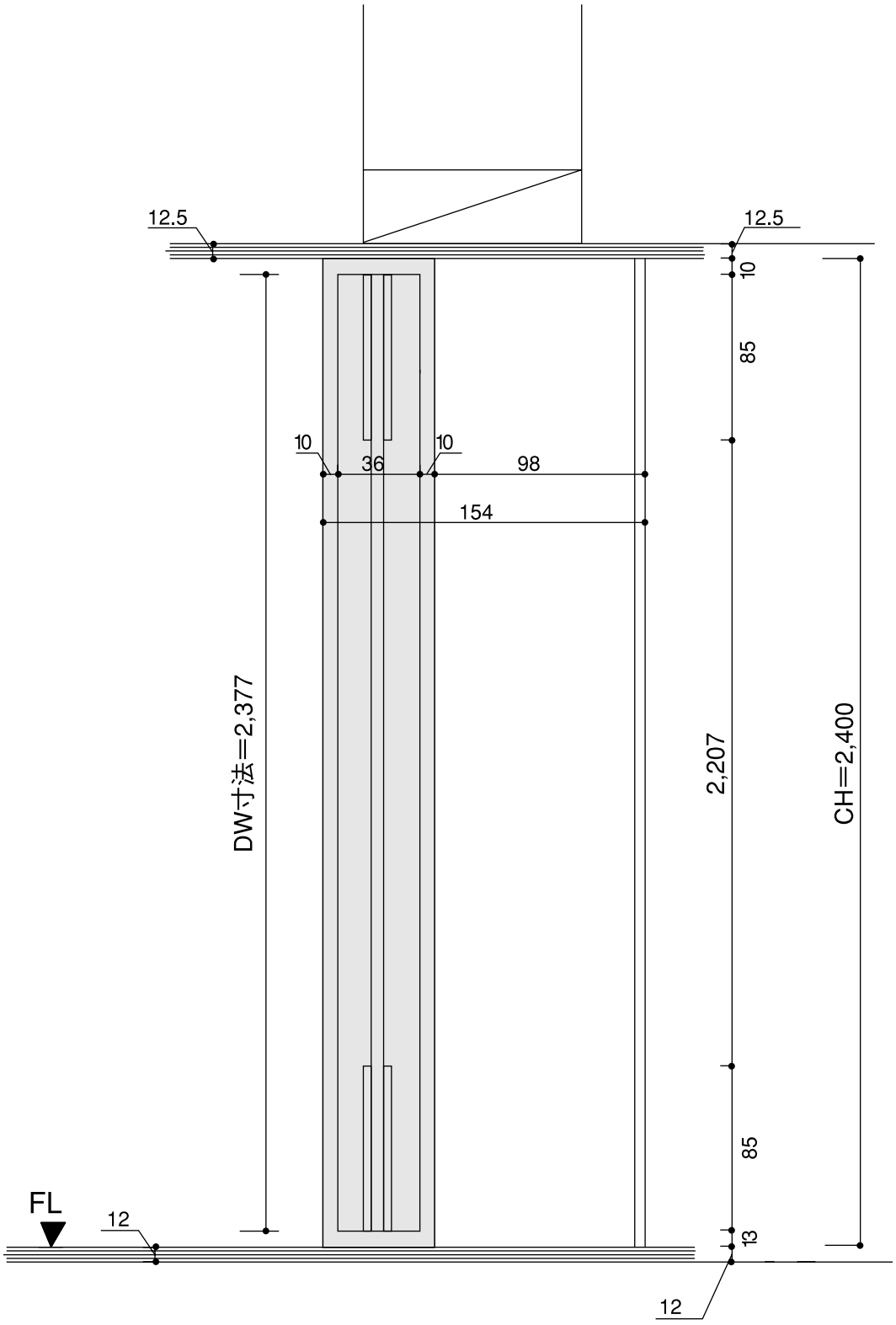
■枠製品寸法と納まり

	778	758
❶ ラフ開口W寸法	788	768
❷ 見付け外W寸法	800	780
❸ 枠外W寸法	778	758
❹ 枠内W寸法	730	710
❺ DW寸法	723	703
❻ 有効開口寸法	653	633

スライド枠（天井ジャスト開きドア枠）

縦断面図

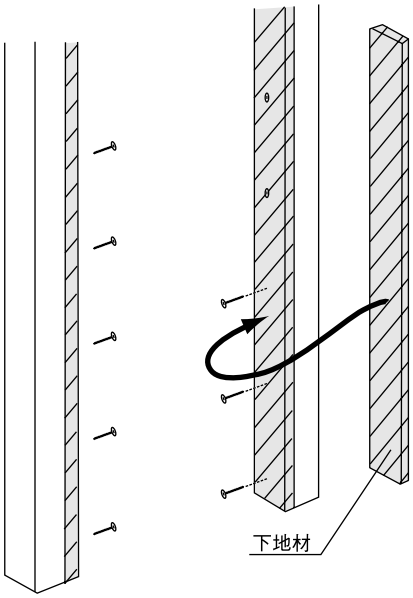
（単位:㎜）



3. 施工手順

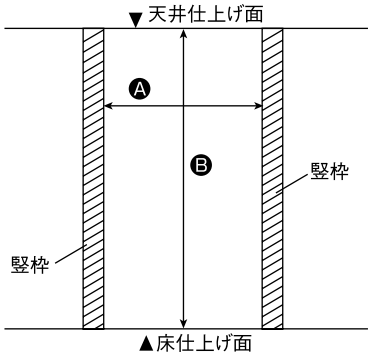
取り付け開口部の確認

●取り付け開口部の確認



納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。

重要



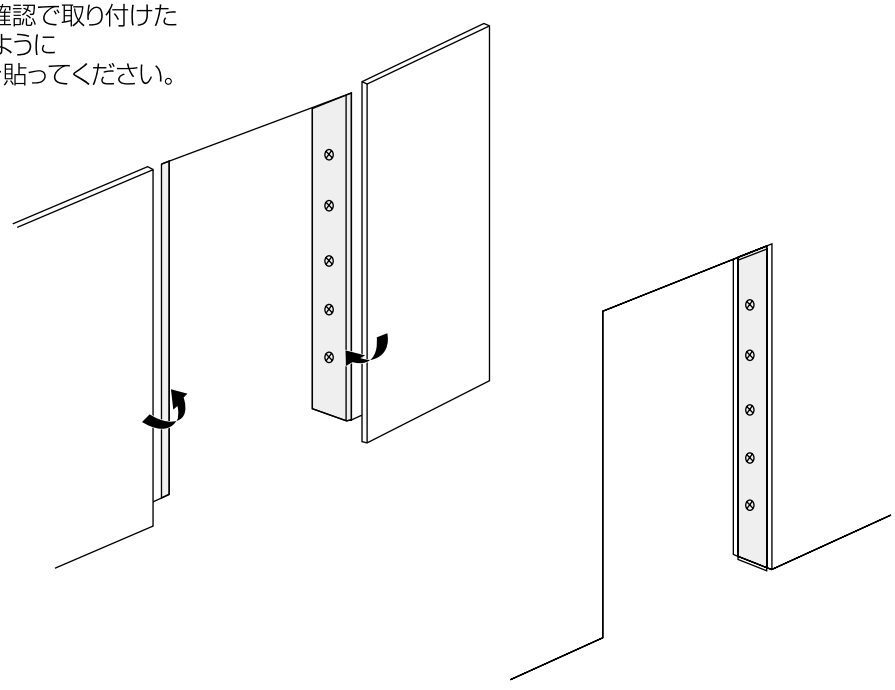
Ⓐ枠内寸法が納まり図と同寸法になるように開口を仕上げてください。
Ⓑ床仕上げ面から天井仕上げ面までがH＝2400㎜になるように仕上げてください。

⚠ 注意

Ⓐ・Ⓑ 寸法が守られないと、ドアが納まらなくなる可能性があります。

プラスターボードの先貼り

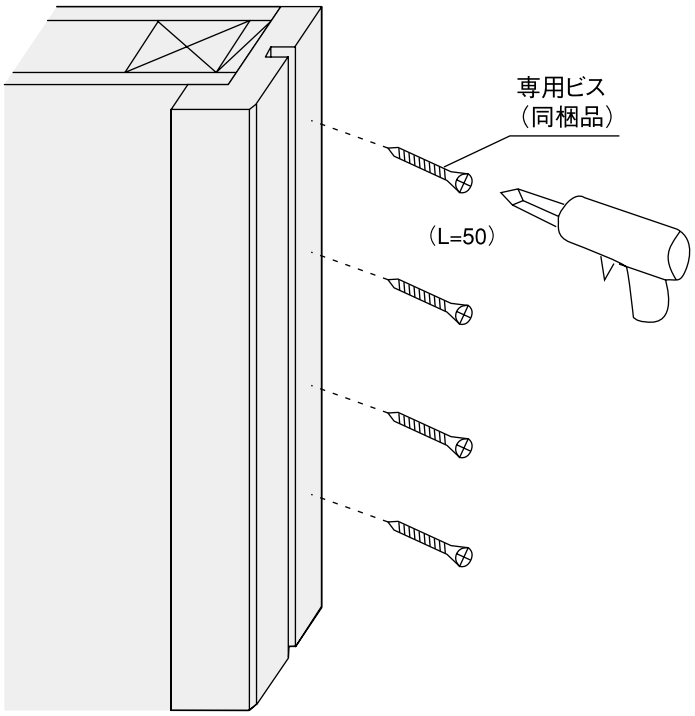
取り付け開口部の確認で取り付けた下地面で仕上がるようにプラスターボードを貼ってください。



スライド枠（天井ジャスト開きドア枠）

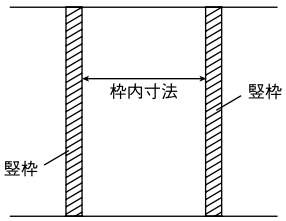
本体枠の取付け・建て付け調整

竪枠を同梱のビスで取り付けてください。

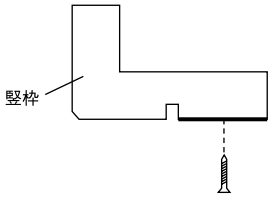


⚠ 注意

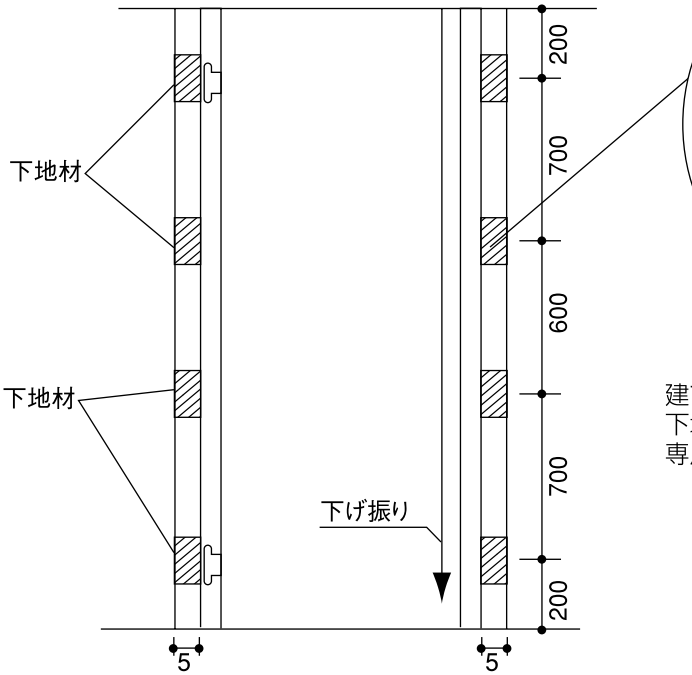
竪枠を取り付けるときは、納まり図をよく確認し、枠内寸法を確保してください。枠内寸法が異なっていると、ドアが取り付かない可能性があります。

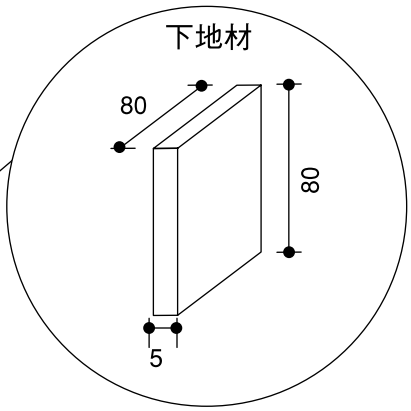


ビスはケーシングで隠れる場所に打ち込んでください。



下地材の取付け位置





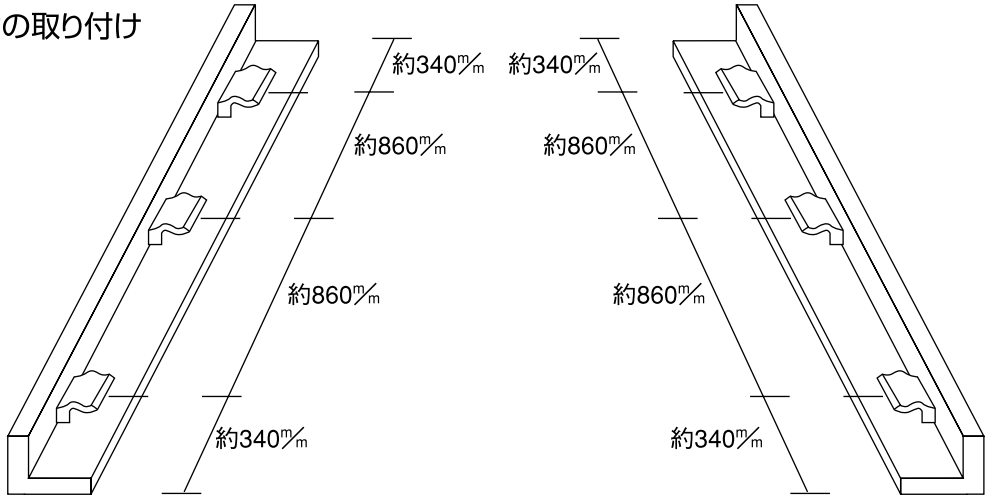
建て付け調整をおこなってください。
下地材（現場調達）にて建て付け調整をおこない、専用ビスで躯体に固定します。

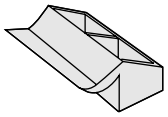
お願い

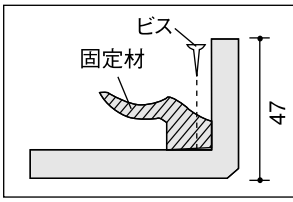
竪枠には上下があります。取り付け前に必ずご確認ください。

ケーシング枠の取り付け

（1）固定材の取り付け



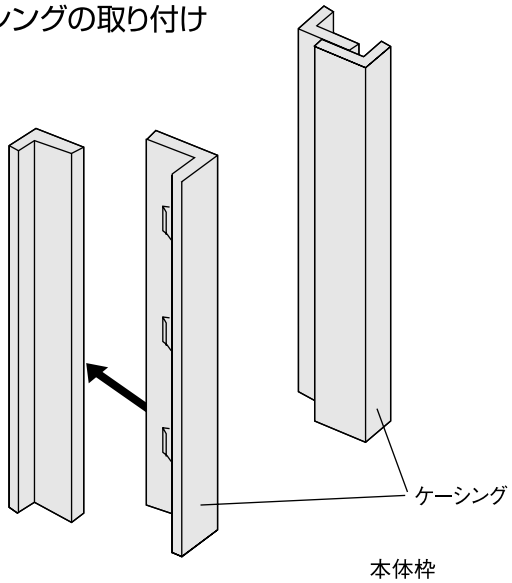

固定材（専用ビス付）

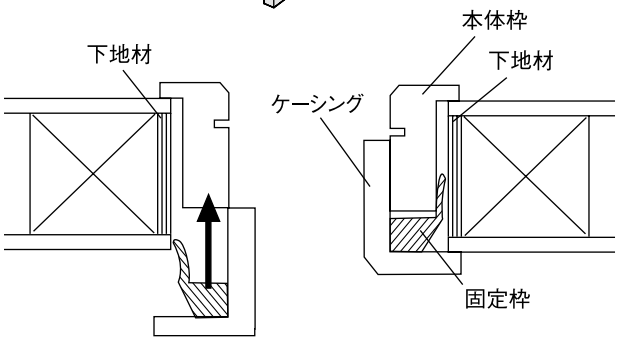


⚠ 注意

固定材はケーシングを本体枠にはさみ込み仮固定させるためのものです。必ずケーシングを取り付ける前に取り付けてください。

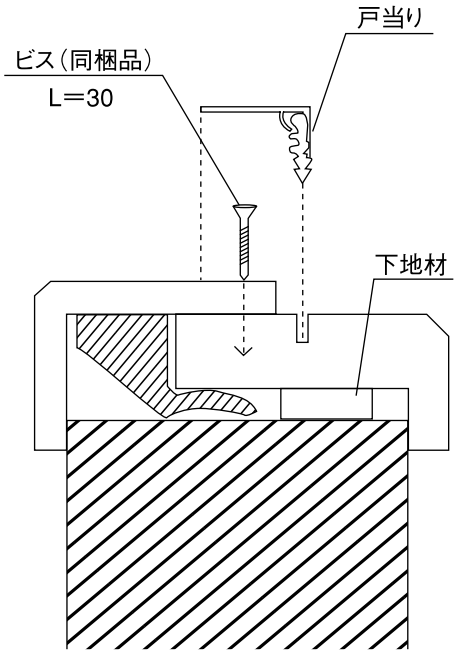
（2）ケーシングの取り付け





ケーシングは本体枠へはさみ込むようにして取り付けます。

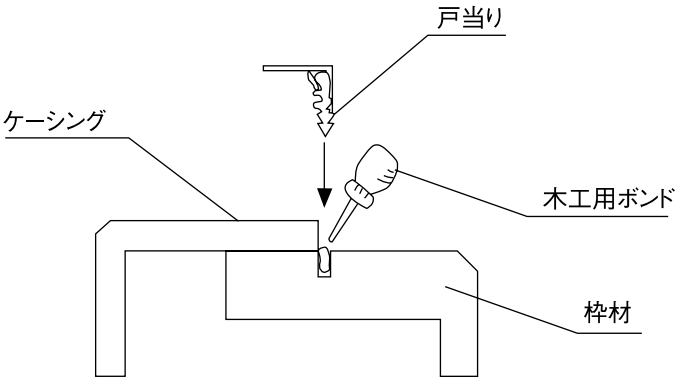
（3）ケーシングのビス固定



戸当りのかくれしろで、ビス止めをしてください。

スライド枠（天井ジャスト開きドア枠）

戸当りの取り付け



木工用ボンドをつけて枠材に戸当りを差し込みます。
ラッチ側にゴム付戸当り、丁番側にゴム無し戸当りをつけます。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

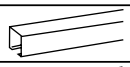
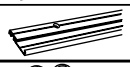
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

スライド枠（クローゼットドア枠）

1. 開梱

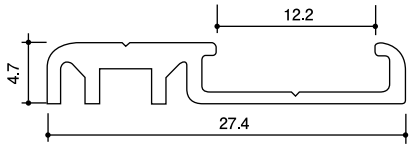
開梱したら数量に不足および損傷等の問題がないかを確認してください。
製品の水漏れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

梱包内容表

	部材名		床直付けレール					レール無し		
			3尺	4尺	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	6尺
	枠材	竪枠	2本					2本		
		鴨居	1本					1本		
	レール	上レール	1本					1本		
		床直付けレール	1本							
	上下ランナー	上ランナー	2個	3個	4個	6個	8個	2個	3個	4個
		下ランナー	2個	3個	4個	6個	8個	1個	2個	2個
		下ベースインナー								2個
		下ガイド軸						1個		
	キャッチャー	上固定ストッパー	1個	2個				1個	2個	
		下固定ストッパー	1個	2個						
		下固定ストッパーNR						1個	2個	
		下ガイド受け						1個		
	片扉用金具	片扉マグネット上（レール付）		1個					1個	
		片扉マグネット下（扉付）		1個						
		片扉ストッパー		1個					1個	
	その他	めし合せ								1セット
		木ダボ	4本					4本		
		ミニレンチ	1本					1本		
		躯体接合金具キャップ	8個					8個		
	ビス	上レール用ナベビス	3本	4本	5本	7本	9本	3本	4本	5本
		下レール用サラビス	3本	4本	5本	7本	9本			
		組立て専用ビス	6本					2本		
		躯体接合金具ビス	9本		10本	12本	14本	7本		8本

※片扉用金具・めし合せは扉本体に取り付けます。扉を取り付けるまで大切に保管しておいてください。

床直付けレール詳細図



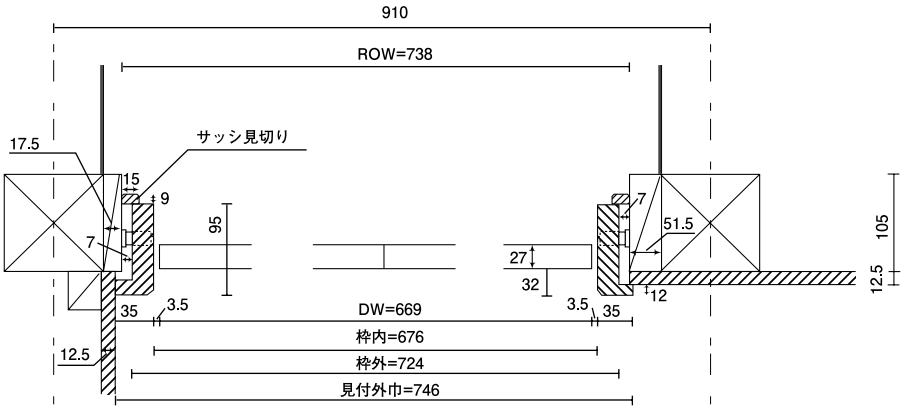
スライド枠（クローゼットドア枠）

2. 納まり図

横断面図及びラフ開口W寸法

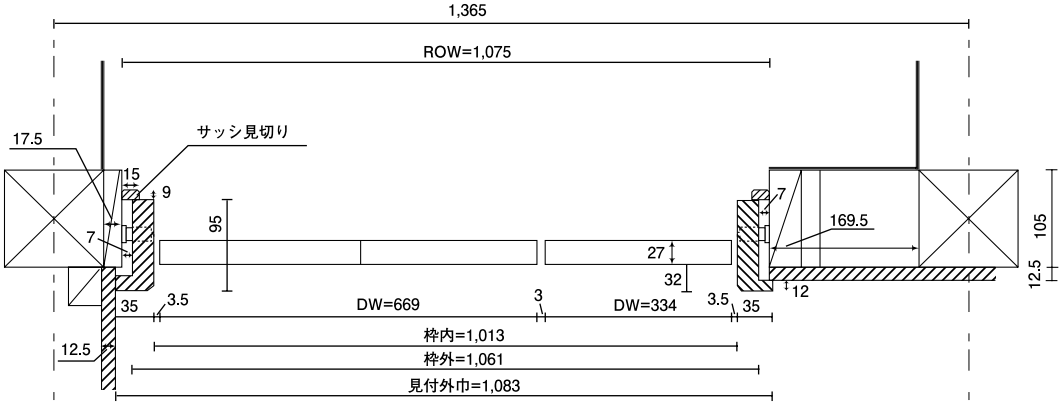
W=3尺

（単位：㎜）



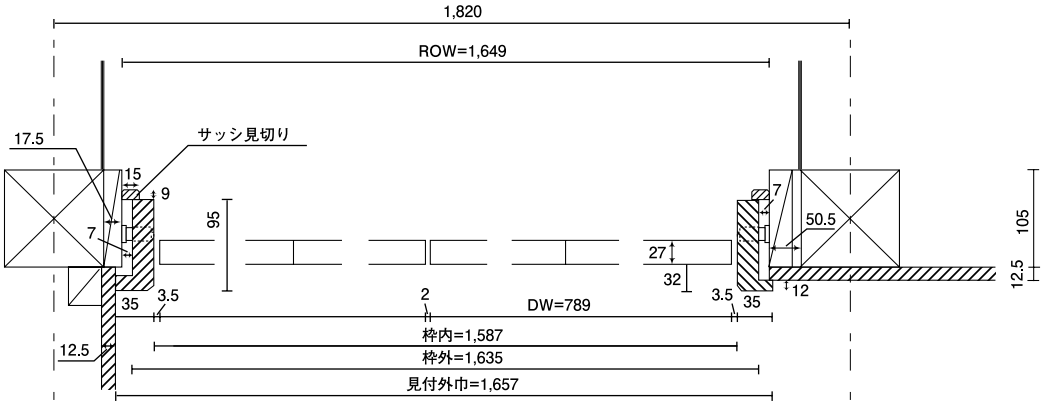
W=4尺

（単位：㎜）



W=6尺

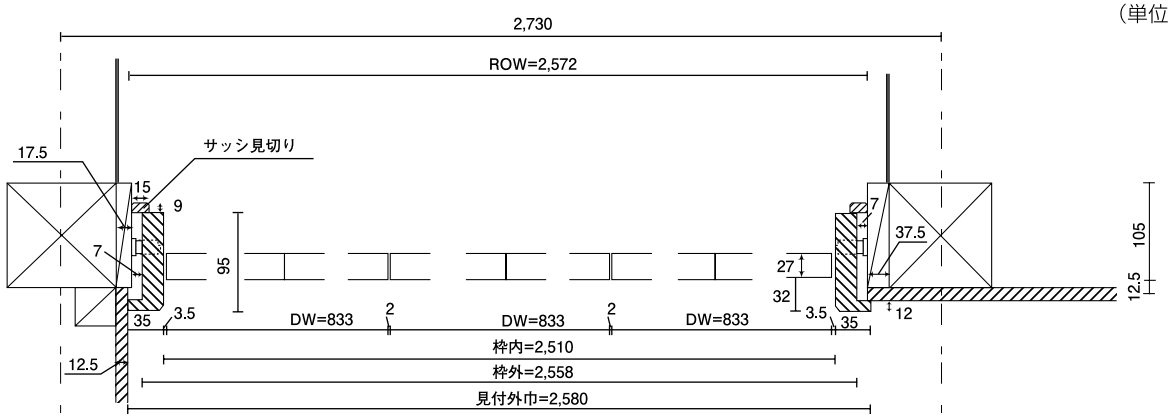
（単位：㎜）



横断面図及びラフ開口W寸法

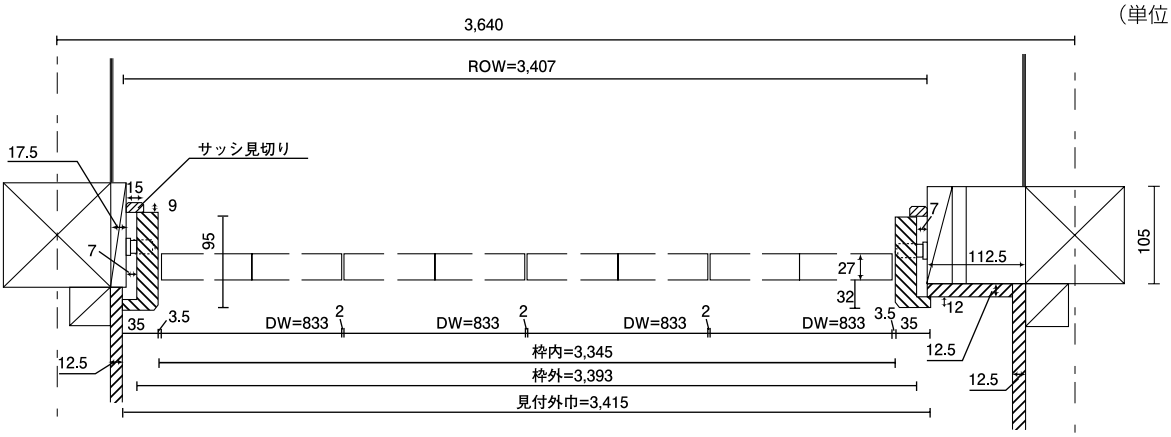
W=9尺

（単位：㎜）



W=12尺

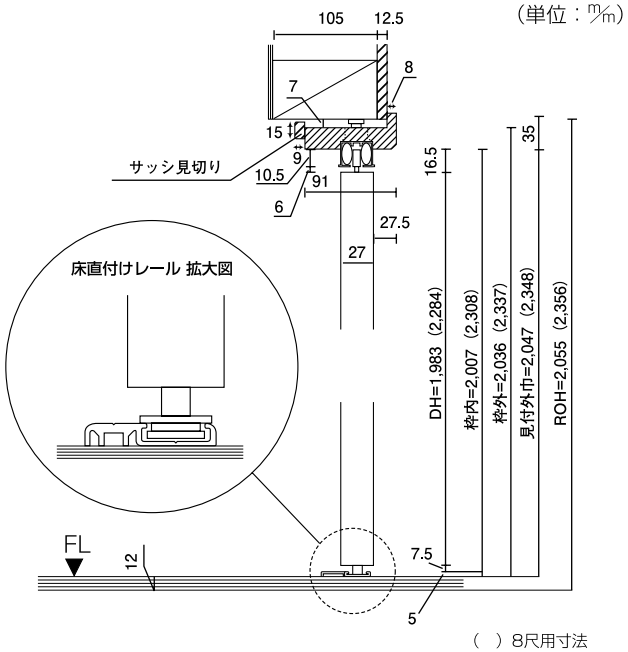
（単位：㎜）



縦断面図及びラフ開口H寸法

床直付けレールタイプ

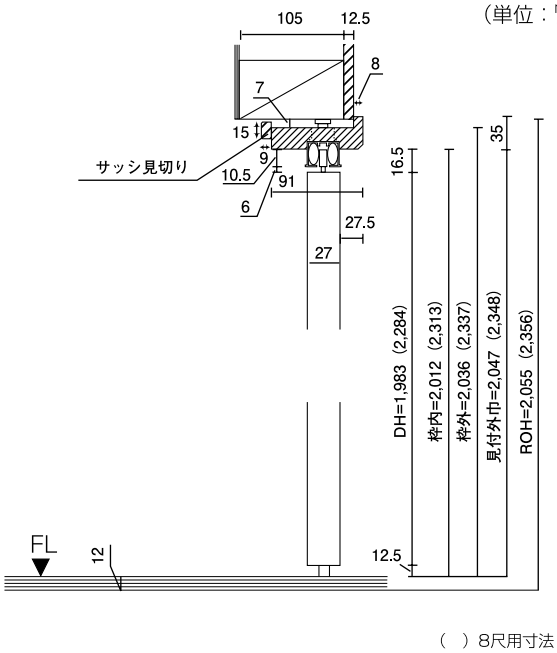
（単位：㎜）



（ ）8尺用寸法

3方枠（レール無し）タイプ

（単位：㎜）

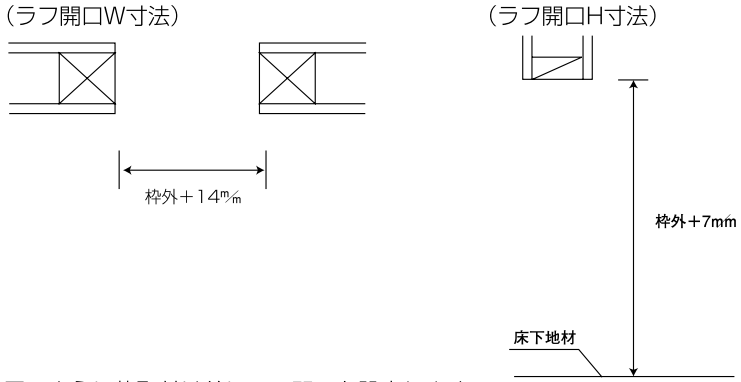


（ ）8尺用寸法

スライド枠（クローゼットドア枠）

3．施工手順

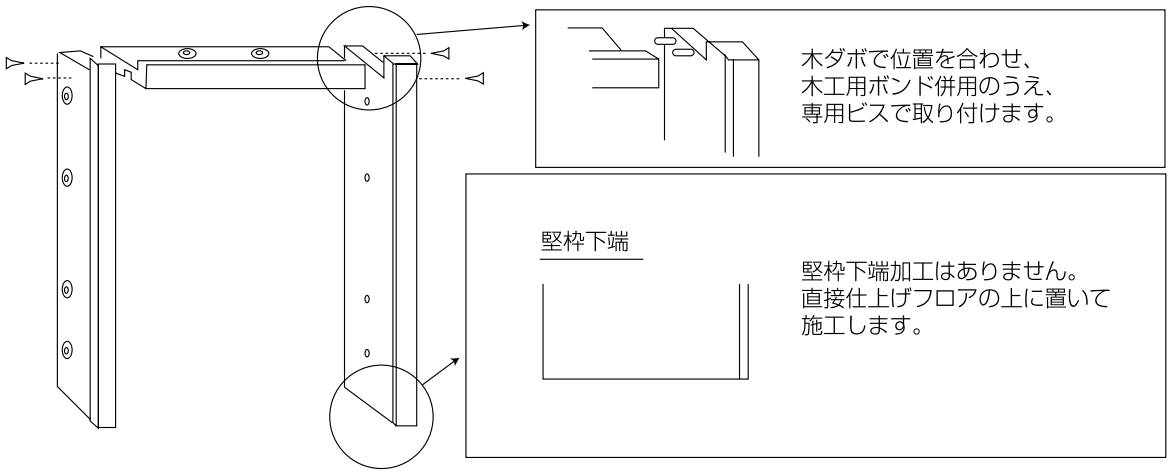
ラフ開口の寸法確認



上図のように枠取付け前にラフ開口を設定します。
プラスターボードはパッキン面で仕上げてください。

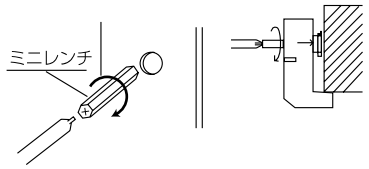
ラフ開口の目安は　W寸法…枠外＋14㎜
　　H寸法…枠外＋7㎜　} で設定してください。

本体枠の組み立て



本体枠の取り付け

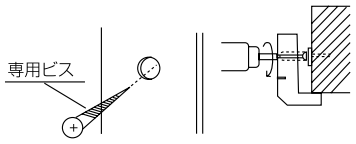
（イ）躯体接合金仮固定



同梱のミニレンチを用いて金具の足を出してやり、躯体へ接地させます。

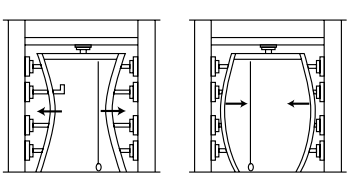
※必ず時計廻りに廻してください。
※電動ドライバー併用でお使いください。

（ロ）躯体への固定



専用ビスで固定します。

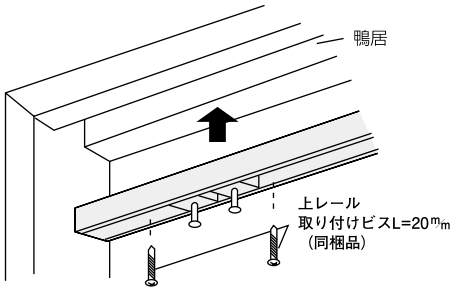
（ハ）建てつけの調整



固定後にミニレンチを再度挿入して、金具の軸芯を廻してやることで、枠のアジャストが可能です。

上下レール取り付け

上レールの取り付け



上レール取り付けの際、鴨居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の下穴をあけ、附属のビスを使用して取り付けます。

⚠ 注意

禁止

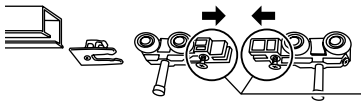
インパクトドライバーは使用しないでください。

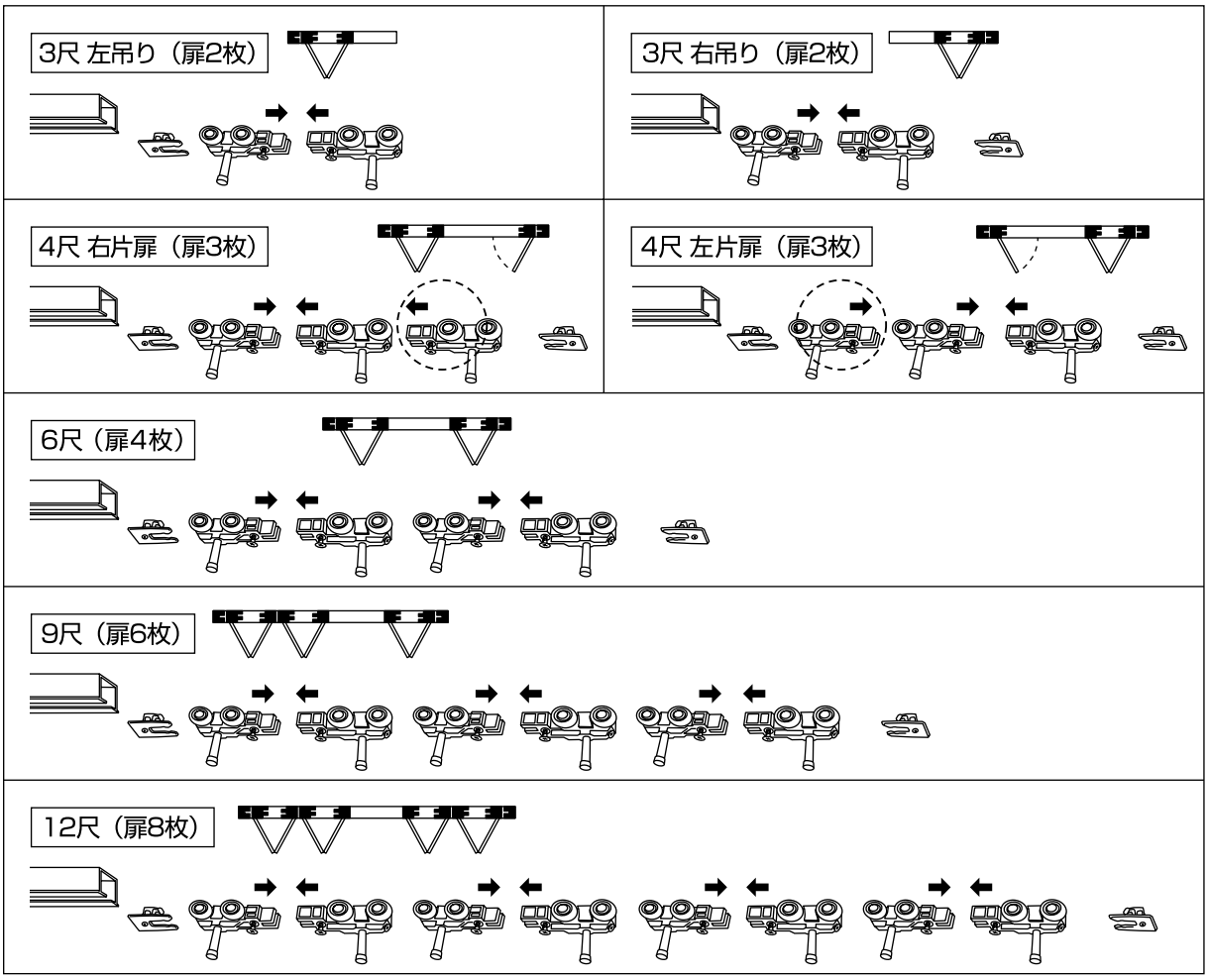
上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

※片扉が取り付く場合、上ランナーのレール挿入向きに注意してください。

（例）





※3方枠（レール無し）はW＝3尺、4尺、6尺のみになります。

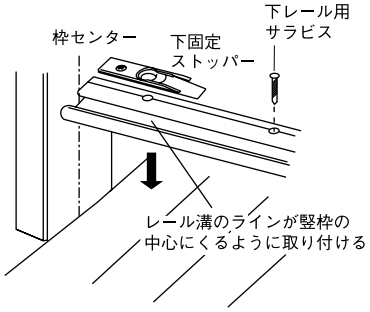
床直付レール

床直付けレールの取り付け

レール溝の中心にあるラインが枠材の中心にくるように取り付けてください。

※ビスが収納内部にくるように取り付けてください。

床直付けレールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないようにしっかり固定します。

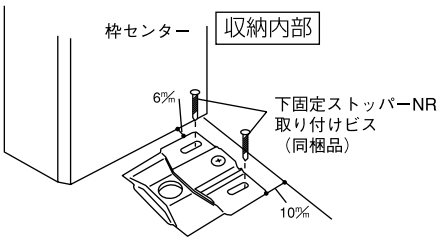


スライド枠（クローゼットドア枠）

レール無し

レール無しタイプの場合の金具取り付け

※竪枠から6㎜はなし、枠の後ろ面から10㎜内側に入ったところに取り付けてください。



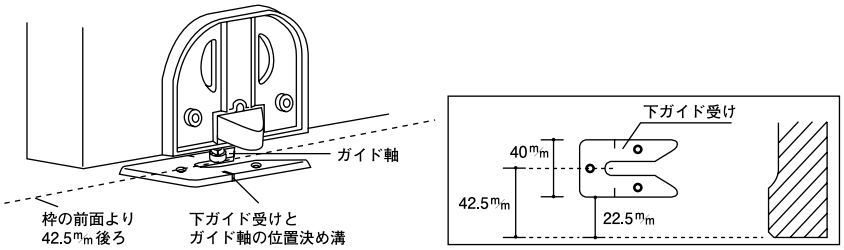
レール無し

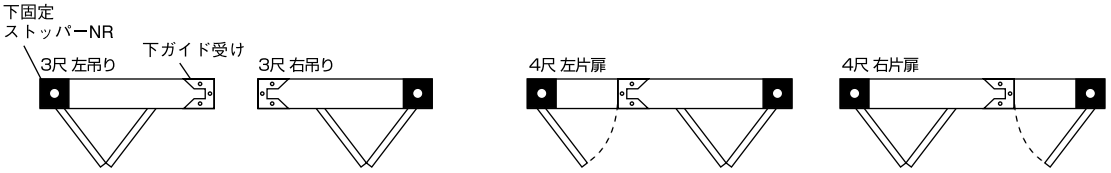
下金物取り付け（3方枠・レール無しタイプの場合）

レール無しタイプ、W=3尺、4尺の場合のみ下部金具取り付け

下ガイド受け（可動側受け金具）の取り付け

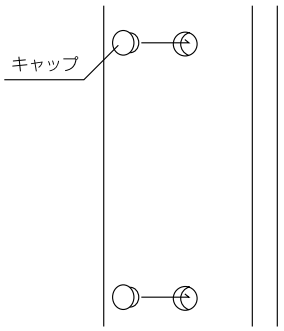
扉を吊った後下ガイド受けを取り付ける際は右図のように下ガイド軸と下ガイド受けの位置決め溝をそろえるようにして床に付属のビスで取り付けてください。





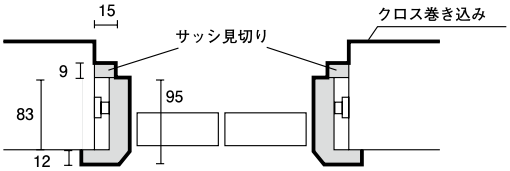
キャップの取り付け・枠裏納め

（イ）キャップの取り付け



躯体接合金具とりつけ用の穴の同梱のキャップをはめ込み仕上げてください。

（ロ）枠ウラ側の納め



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

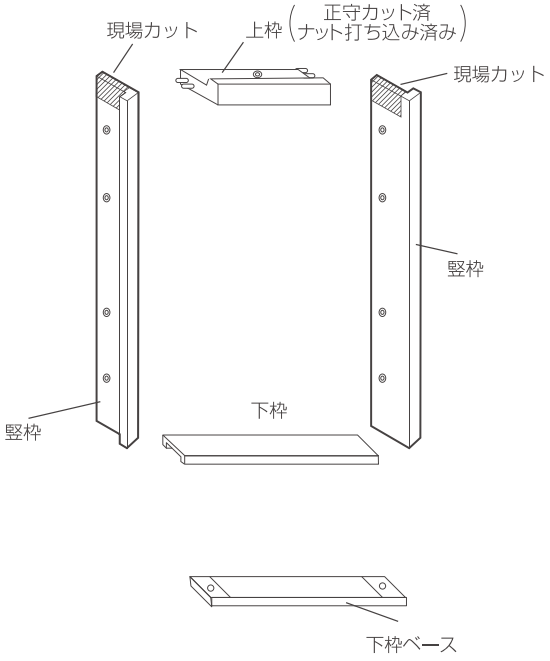
スライド枠（収納両開き戸枠）

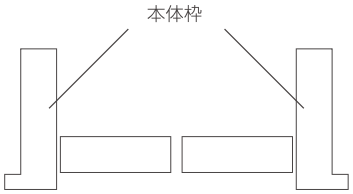
1. 開梱

開梱したら数量に不足および損傷等の問題がないかを確認してください。
製品の水漏れ等不具合があった場合は、必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

梱包内訳

本体枠セット



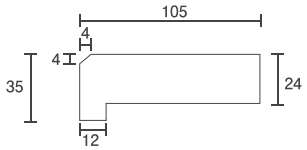
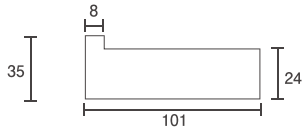
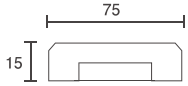


同梱品

施工説明書	1部
枠材組立て用専用ビス	4本
下枠ベース専用ビス	4本
木ダボ	4本
躯体接合金具	9ケ
躯体接合金具専用ビス	9本
ミニレンチ	1本

高さ4尺タイプ（階段下用）には躯体接合金具および
躯体接合金具専用ビスはついておりません。

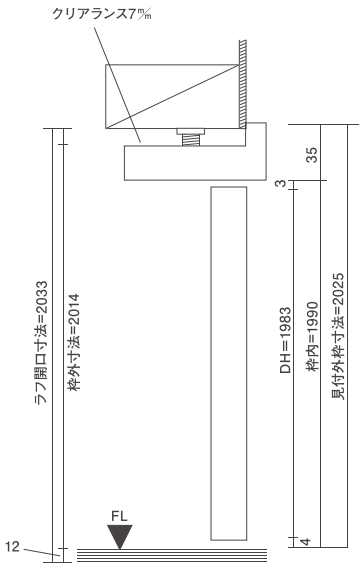
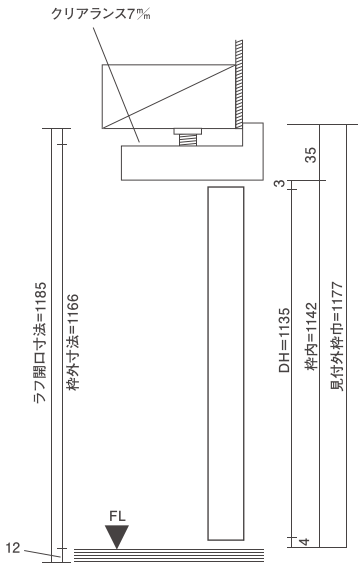
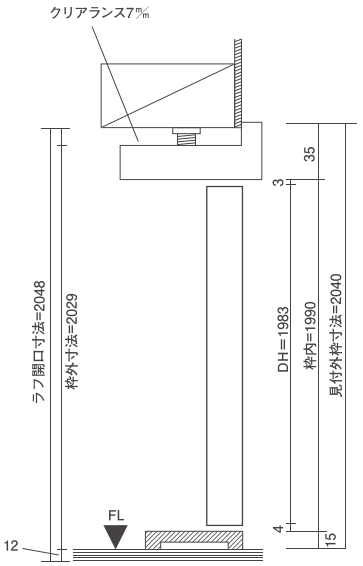
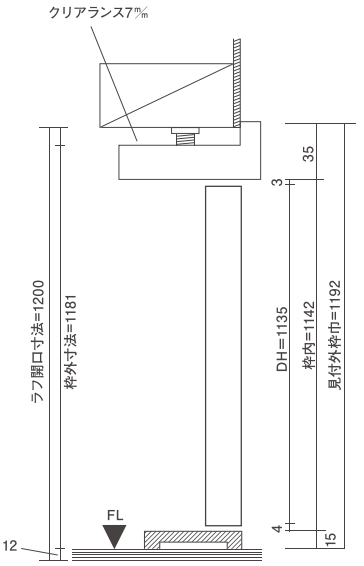
枠材

部材名	断面形状	数量
竪　枠		2
上　枠		1
下　枠 （下枠ベース付）		1

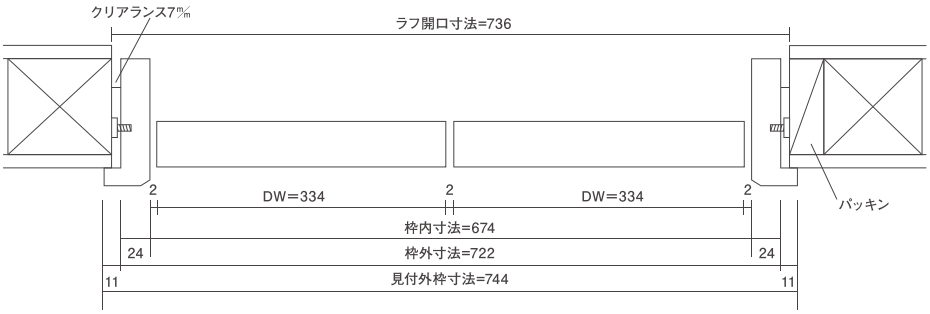
スライド枠（収納両開き戸枠）

2. 納まり図

縦断面図

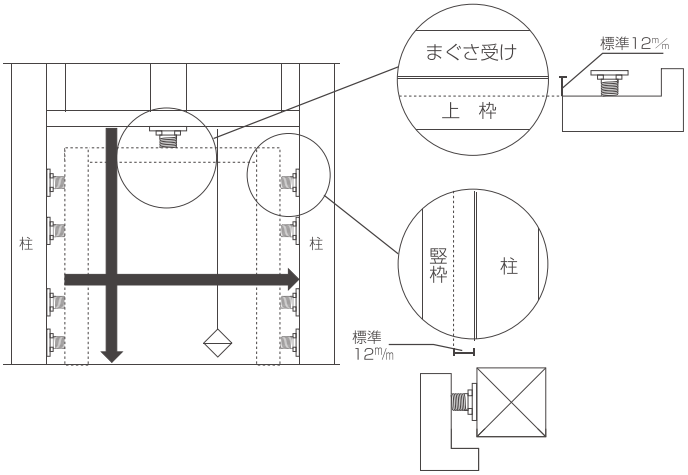
	7 尺	4 尺
3方枠		
4方枠		

横断面図



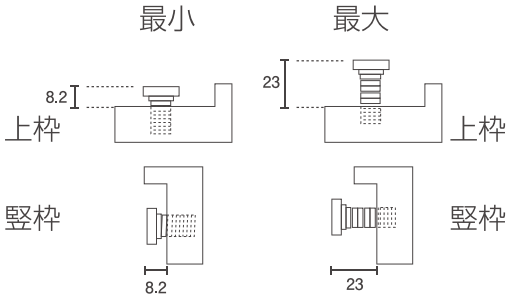
3. 施工手順

開口部の寸法確認

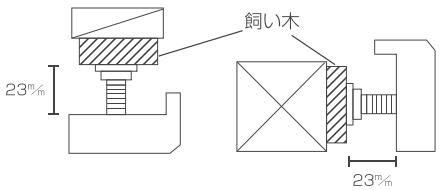


納まり図をご参照のうえ、ドア寸法とともに開口部の高さ、および巾、傾き、ネジレの有無と躯体接合金具で固定するクリアランスがあることをご確認してください。躯体接合金具の下にパッキンを介添えする際はパッキンと枠外の隙間をおよそ12㎜で決定してください。

躯体接合金具の調整範囲について



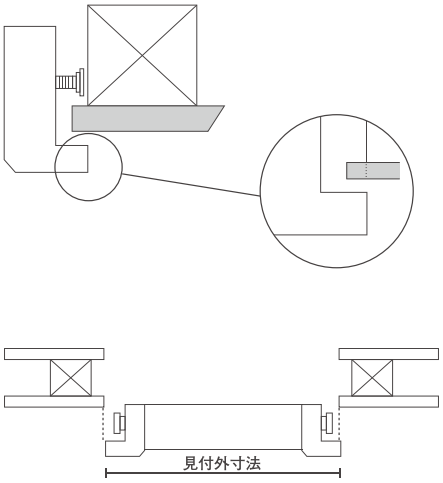
⚠ 注意

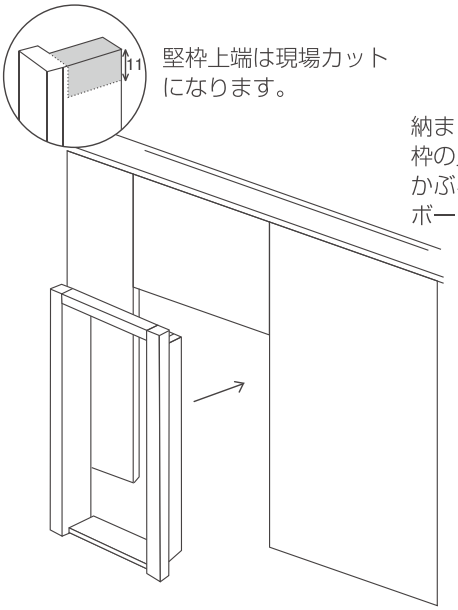


躯体接合金具の最大調整範囲（23㎜）を超えた場合、枠のぐらつき、あるいは金具の抜けの原因となり危険です。その際は飼い木を入れ最大調整範囲を超えない様にしてください。

スライド枠（収納両開き戸枠）

プラスターボードの先貼り…本体枠後付け施工



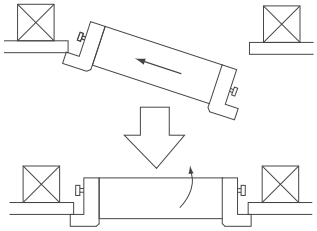


堅枠上端は現場カットになります。

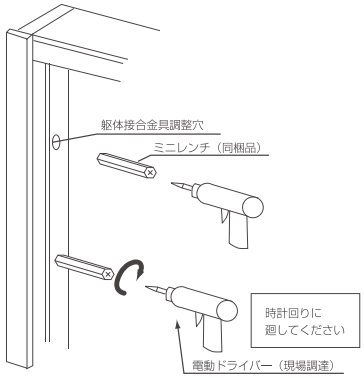
納まり図をご確認のうえ、枠の見付外がボードにかぶる設定でプラスターボードを貼ってください。

枠材の開口部への仮固定

（イ）開口部へセット



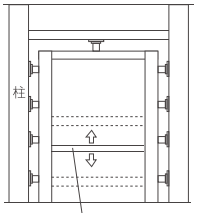
（ロ）躯体接合金具による枠材の仮固定



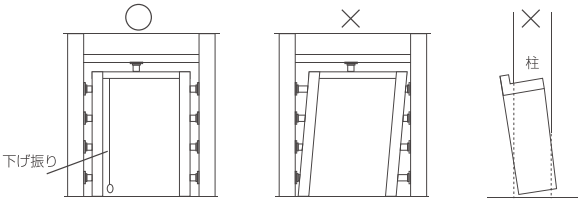
開口部に枠材をはめ込み、躯体接合金具を躯体に当たるまで調整し、枠材を仮固定します。

（ハ）建て付け調整

仮固定後、下げ振りにて水平を垂直、ねじれを調整します。

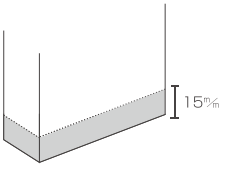


下枠を巾決め定規とし内法寸法を確認します。



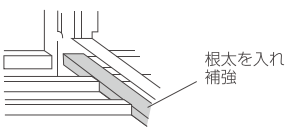
3方枠の場合

3方枠の場合は竪枠を15㎜カットしてください。



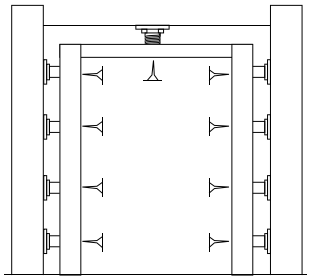
お願い

下枠下地の確認

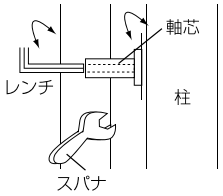


枠材は捨て貼り合板の上に施工するか、根太の上に直接施工する場合は、必ず図のように根太を入れ補強してください。
下地が弱いと、下枠の破損や踏み鳴りの原因となります。

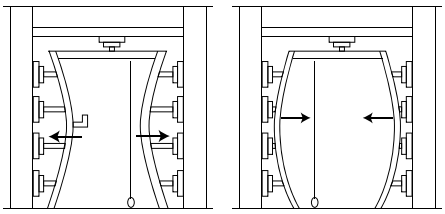
枠の正面から金具取り付けの穴へ同梱の専用ビスを
差し込み、金具を固定します。
1開口全ての金具に取り付けてください。



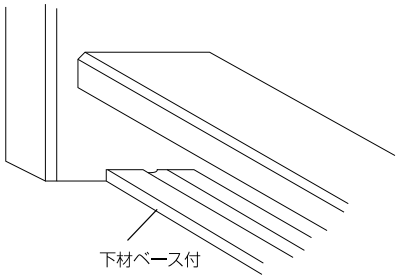
（ロ）固定後の枠の建てつけ調整



レンチもしくはスパナを用いて、
軸芯を廻してやることにより、
枠のアジャストが可能です。



下枠の取り付け（4方枠の場合）



下枠ベース材に下枠をはめ込みます。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

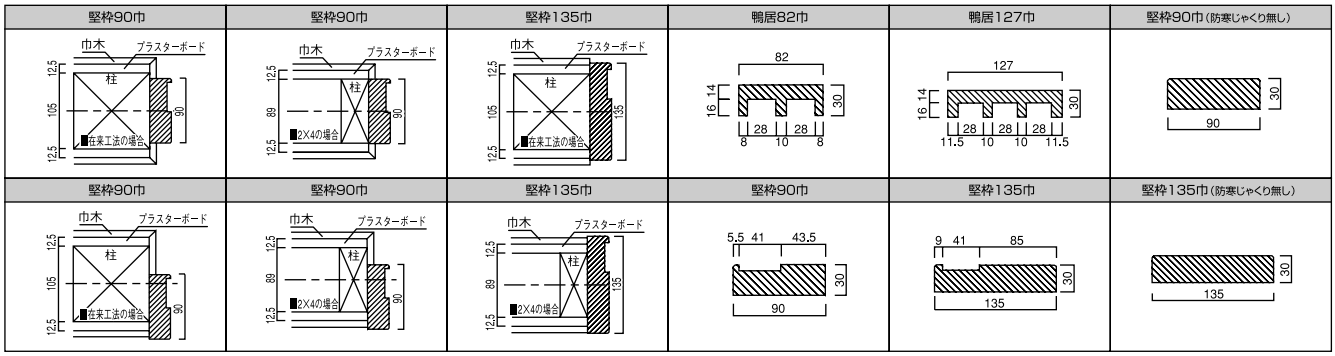
お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤をひたらした柔らかい布をよく搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

アルシャルル

1. 開梱

枠材の形状と巾木・壁厚納まり参考図



梱包内訳表（枠材本体）

4枚引き違い戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	4枚
	戸当たりパッキン	8本
	凹型戸当たりパッキン（※4枚引き違い戸のみ現場取替え）	1本
	吊車	8個
	遮光キャップ	8個
	ガイドローラー	8個
	ガイドローラ取り付けビス	16本
	上レール	2本（幕板付1）（幕板無1）
	上レール取り付けビス（※レール一本につき13本）	26本
	戸じゃくりキャップ（上レール用）	2個
	戸じゃくりキャップ（上レール用）取り付けビス	2本
	下ガイドレール	2本
	下ガイドレール取り付けビス（※レール一本につき14本）	28本
	戸じゃくりキャップ（下ガイドレール用）	2個
	ストッパー	2個
	中間ストッパー	1個
	中間ストッパー取り付けビス	1本

3枚引き違い戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	3枚
	戸当たりパッキン	6本
	凹型戸当たりパッキン（※4枚引き違い戸のみ現場取替え）	ー
	吊車	6個
	遮光キャップ	6個
	ガイドローラー	6個
	ガイドローラ取り付けビス	12本
	上レール	3本（幕板無）
	上レール取り付けビス（※レール一本につき10本）	30本
	戸じゃくりキャップ（上レール用）	2個
	戸じゃくりキャップ（上レール用）取り付けビス	2本
	下ガイドレール	3本
	下ガイドレール取り付けビス（※レール一本につき11本）	33本
	戸じゃくりキャップ（下ガイドレール用）	2個
	ストッパー	2個
	中間ストッパー	ー
	中間ストッパー取り付けビス	ー

2枚引き違い戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	2枚
	戸当たりパッキン	4本
	凹型戸当たりパッキン（※4枚引き違い戸のみ現場取替え）	ー
	吊車	4個
	遮光キャップ	4個
	ガイドローラー	4個
	ガイドローラ取り付けビス	8本
	上レール	2本（幕板付1）（幕板無1）
	上レール取り付けビス（※レール一本につき10本）	20本
	戸じゃくりキャップ（上レール用）	2個
	戸じゃくりキャップ（上レール用）取り付けビス	2本
	下ガイドレール	2本
	下ガイドレール取り付けビス（※レール一本につき11本）	22本
	戸じゃくりキャップ（下ガイドレール用）	2個
	ストッパー	2個
	中間ストッパー	ー
	中間ストッパー取り付けビス	ー

3枚引き込み戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	3枚
	戸当たりパッキン	6本
	凹型戸当たりパッキン（※4枚引き違い戸のみ現場取替え）	ー
	吊車	6個
	遮光キャップ	6個
	ガイドローラー	6個
	ガイドローラ取り付けビス	12本
	上レール	3本（幕板無）
	上レール取り付けビス（※レール一本につき13本）	39本
	戸じゃくりキャップ（上レール用）	1個
	戸じゃくりキャップ（上レール用）取り付けビス	1本
	下ガイドレール	3本
	下ガイドレール取り付けビス（※レール一本につき14本）	42本
	戸じゃくりキャップ（下ガイドレール用）	1個
	ストッパー	1個
	中間ストッパー	ー
	中間ストッパー取り付けビス	ー

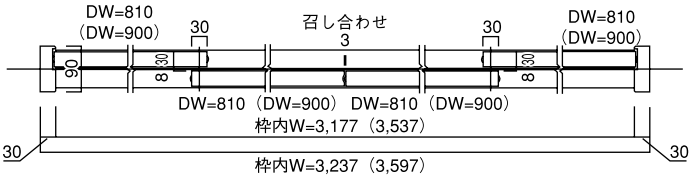
2枚引き込み戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	2枚
	戸当たりパッキン	4本
	凹型戸当たりパッキン（※4枚引き違い戸のみ現場取替え）	ー
	吊車	4個
	遮光キャップ	4個
	ガイドローラー	4個
	ガイドローラ取り付けビス	8本
	上レール	2本（幕板付1）（幕板無1）
	上レール取り付けビス（※レール一本につき10本）	20本
	戸じゃくりキャップ（上レール用）	1個
	戸じゃくりキャップ（上レール用）取り付けビス	1本
	下ガイドレール	2本
	下ガイドレール取り付けビス（※レール一本につき11本）	22本
	戸じゃくりキャップ（下ガイドレール用）	1個
	ストッパー	1個
	中間ストッパー	ー
	中間ストッパー取り付けビス	ー

2. 納まり図

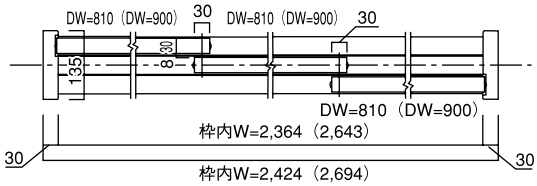
引き違い戸

（単位：㎜）

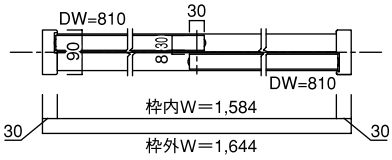
4枚横断面図



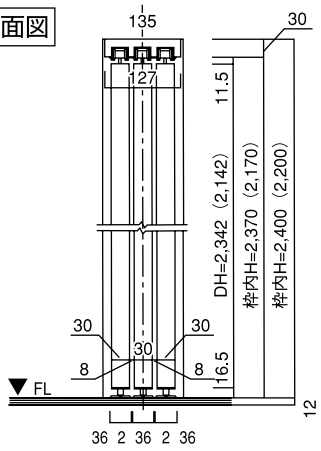
3枚横断面図



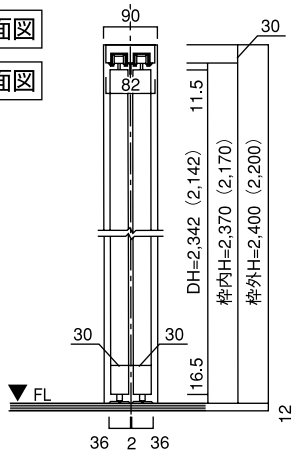
2枚横断面図



3枚縦断面図



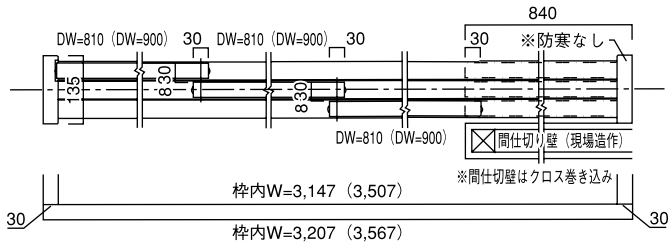
4枚縦断面図
2枚縦断面図



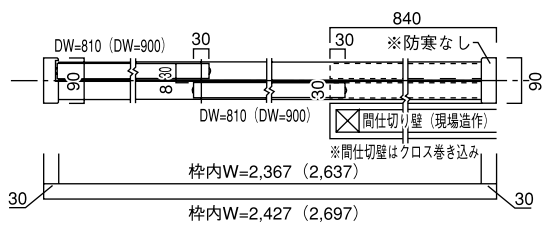
引き込み戸

（単位：㎜）

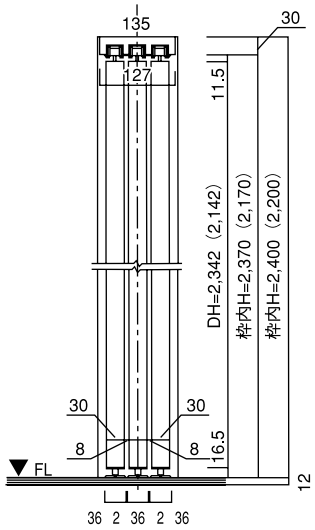
3枚横断面図



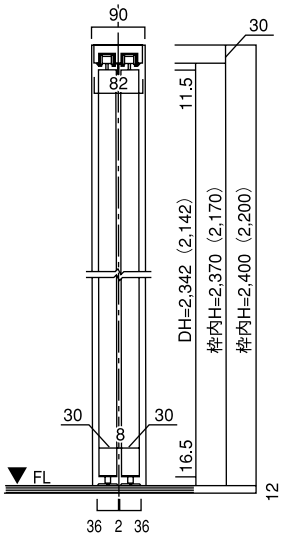
2枚横断面図



3枚縦断面図



2枚縦断面図



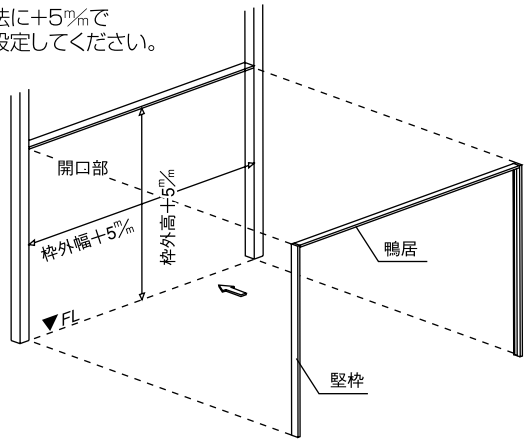
アルシャルル

3. 施工手順

まずアルミスライドスクリーンを取り付ける枠の施行をします。

取り付け開口部の確認

枠外寸法に+5㎜で
開口を設定してください。



■ 外枠寸法表　(単位：㎜)

	扉サイズ		枠外寸法 幅	枠外寸法 高さ(FLより)
4枚引き違い戸	DW810	DH2,342	3,237	2,400
		DH2,142		2,200
	DW900	DH2,342	3,597	2,400
		DH2,142		2,200
3枚引き違い戸	DW810	DH2,342	2,424	2,400
		DH2,142		2,200
	DW900	DH2,342	2,694	2,400
		DH2,142		2,200
3枚引き込み戸	DW810	DH2,342	3,207	2,400
		DH2,142		2,200
	DW900	DH2,342	3,567	2,400
		DH2,142		2,200
2枚引き込み戸	DW810	DH2,342	2,427	2,400
		DH2,142		2,200
	DW900	DH2,342	2,697	2,400
		DH2,142		2,200

⚠ 注意

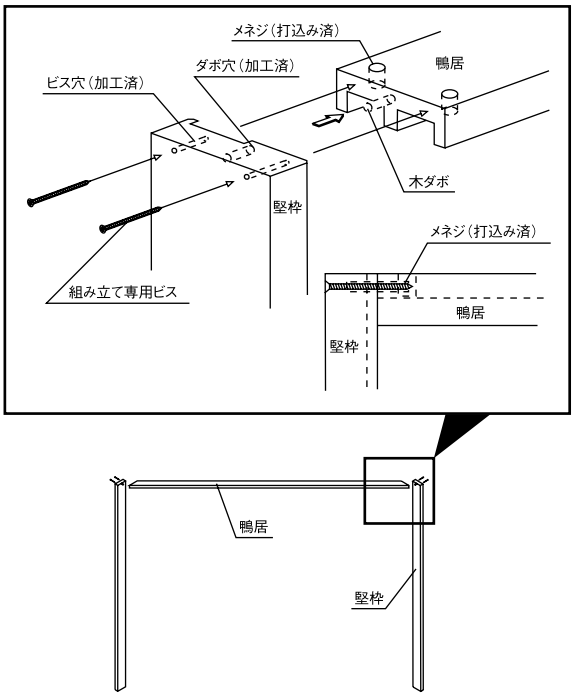
必ずおこなう

下げ振り・水準器・レーザー等を使用し、必ず開口部の垂直と水平を確認してください。また上吊式ですので、鴨居が垂れることのないよう、躯体に十分な強度をもたせてください。鴨居が垂れるとフロアーの破損や開閉時に支障をきたすおそれがあります。

アルミスライドスクリーンの施行をします。

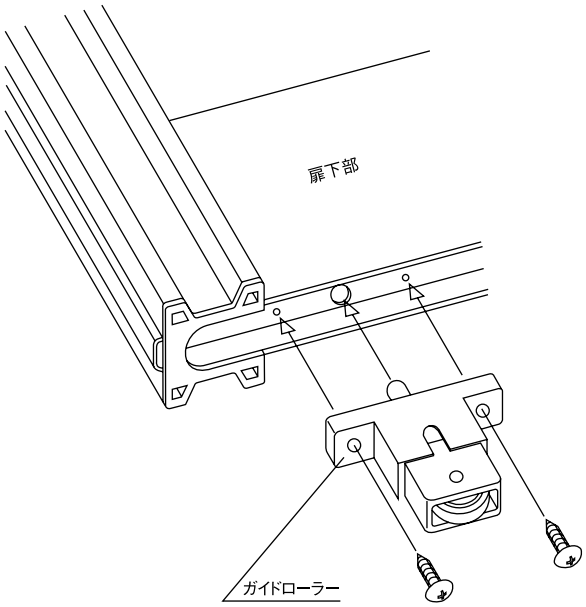
枠材の組み立て

付属の木ダボで鴨居と堅枠を合わせ、組み立て専用ビスで固定します。その際、木ダボ及び切口面に現場調達の木工用ボンドを併用してください。



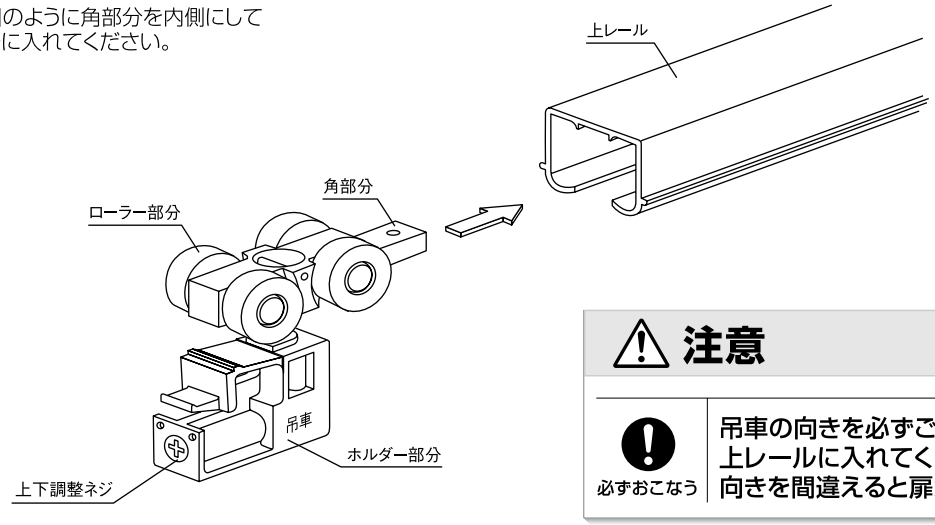
ガイドローラーの取り付け

扉下部の取り付け穴に付属のビスで固定します。



吊車の取り付け

吊車を図のように角部分を内側にして
上レールに入れてください。



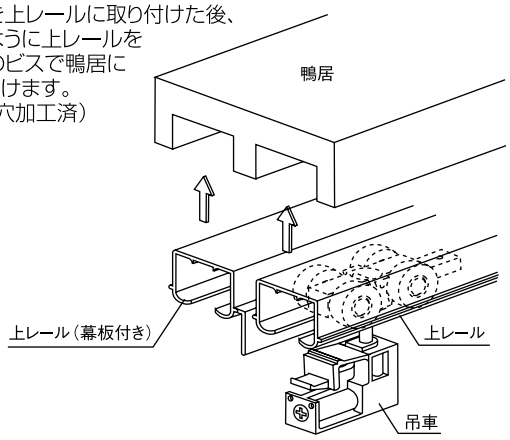
⚠ 注意

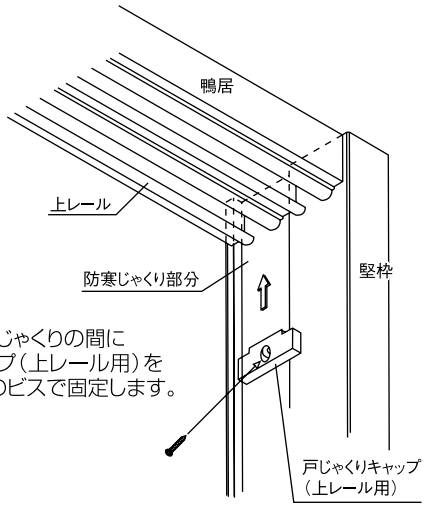
必ずおこなう

**吊車の向きを必ずご確認のうえ、
上レールに入れてください。
向きを間違えると扉が閉まりません。**

上レール及び戸じゃくりキャップ（上レール用）の取り付け

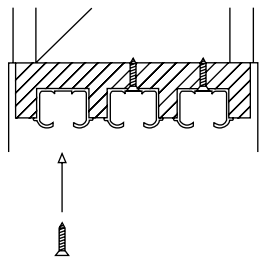
吊車を上レールに取り付けた後、
図のように上レールを
付属のビスで鴨居に
取り付けます。
（ビス穴加工済）



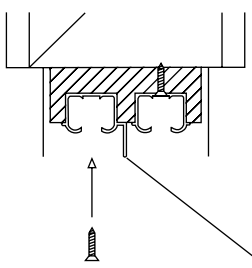


上レールと防寒じゃくりの間に
戸じゃくりキャップ（上レール用）を
差し込み、付属のビスで固定します。

鴨居127巾
3枚引き込み戸、3枚引き違い戸タイプ



鴨居82巾
2枚引き込み戸、4枚引き違い戸タイプ



4枚引き違い、2枚引き込み戸の場合
のみ幕板付き上レールを幕板が内側
にくるように取り付けてください。

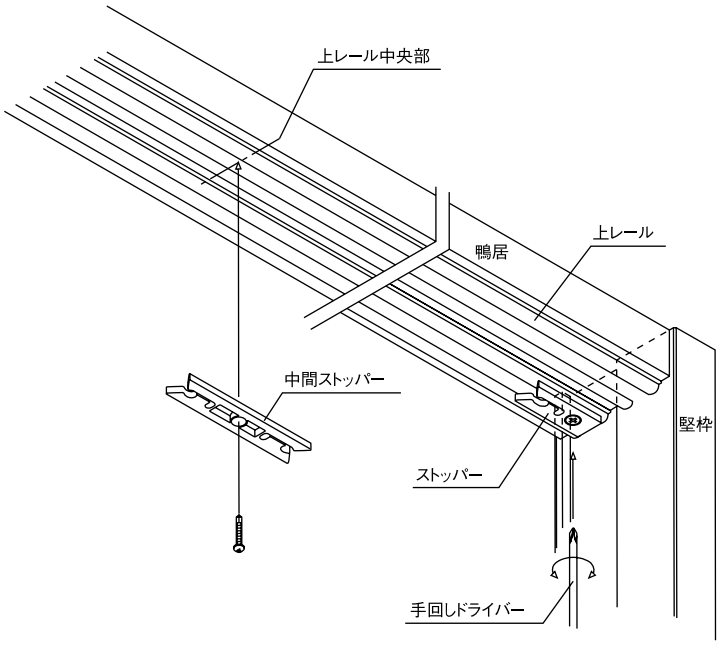
アルシャルル

ストッパーの取り付け

ストッパーを上レールに差し込み、
レールに当てた状態で手回しの
プラスドライバーでビスを回して
固定してください。
（ビスの裏の金具が回り、レールに固定されます。）

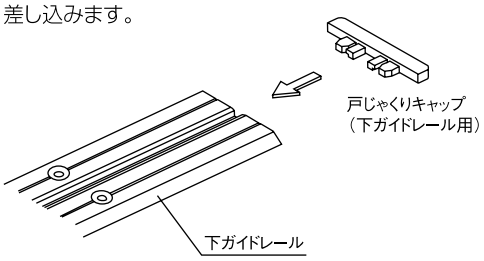
ストッパーを扉を閉めた際に
当たる個所に取り付けます。

4枚引き違い戸の場合のみ、
上レール中央に中間ストッパーを
召し合わせ部分に付属のビスで取り付けます。

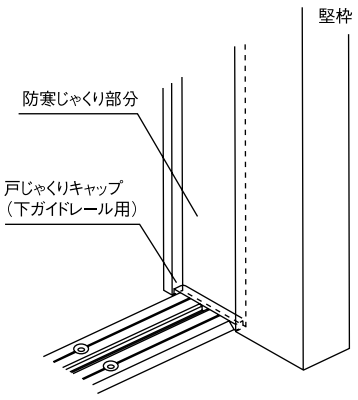


下ガイドレールと戸じゃくりキャップ（下ガイドレール用）の取り付け

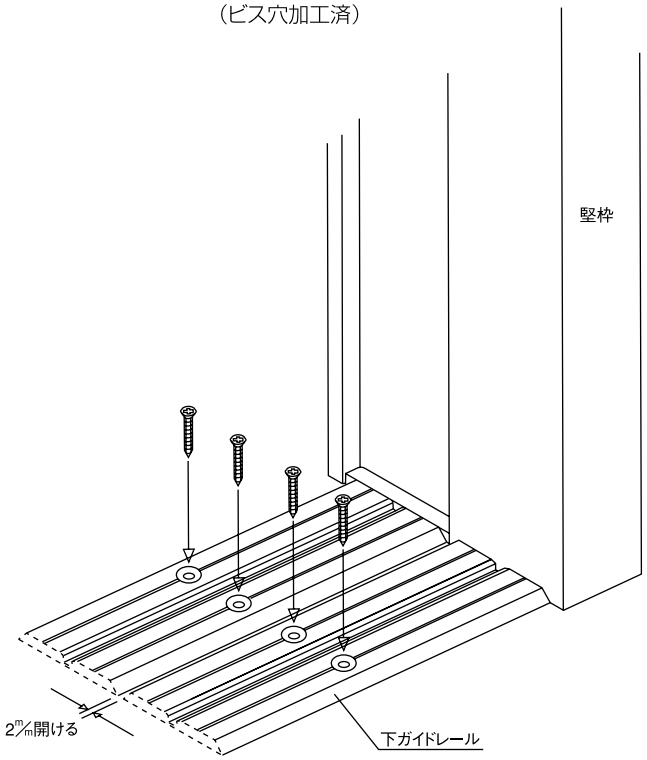
（1）防寒じゃくり側に付く下ガイドレールの端に
戸じゃくりキャップ（下ガイドレール用）を
差し込みます。



（2）防寒じゃくり部分の下側に
（1）の下ガイドレールを差し込みます。

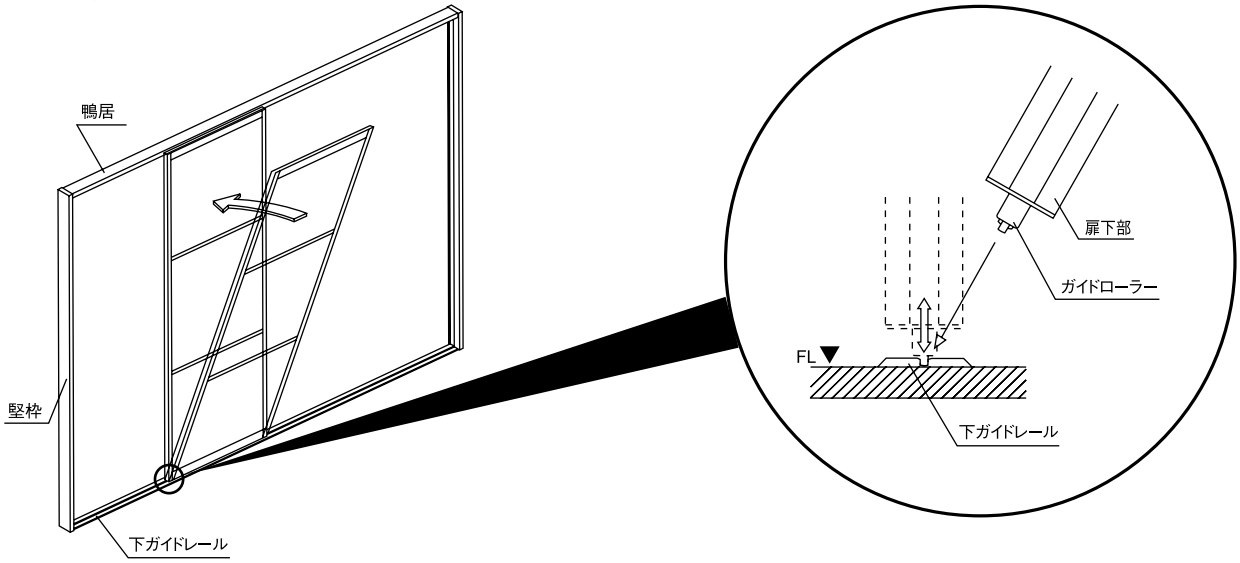


（3）レールとレールの間を2㎜開けて
床に付属のビスで固定します。
（ビス穴加工済）

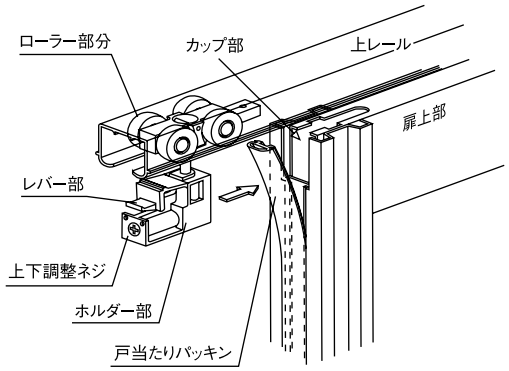


扉の吊り込み

（1）下ガイドレールの溝にガイドローラーを差し込み、
（ガイドローラーはバネで上下します。）
扉を下ガイドレールに乗せます。



（2）扉上部の戸当たりパッキンをめぐり、
吊車のホルダー部分を扉のカップ部に入れ、
パチンという音がするまで差し込んでください。



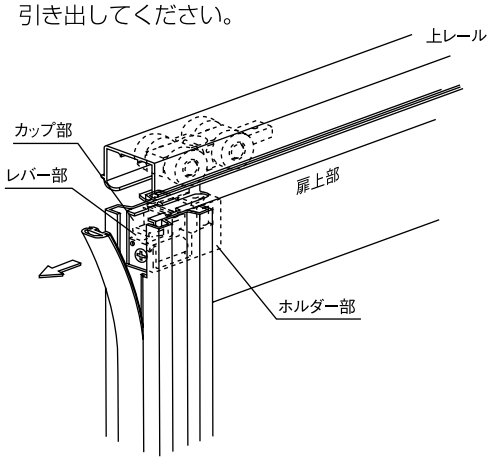
⚠ 注意

必ずおこなう

吊車のホルダー部が扉のカップ部に確実にはまっていることをご確認ください。

確実にはまっていないと扉が脱落するおそれがあります。

（3）吊り込んだ扉を外す場合は吊車のレバー部を
つまんでホルダー部を扉のカップ部から
引き出してください。



⚠ 注意

樹脂パネルの部分は傷つき易いため、取り扱いには十分注意してください。表面の保護フィルムは施工完了まではがさないでください。

⚠ 注意

必ずおこなう

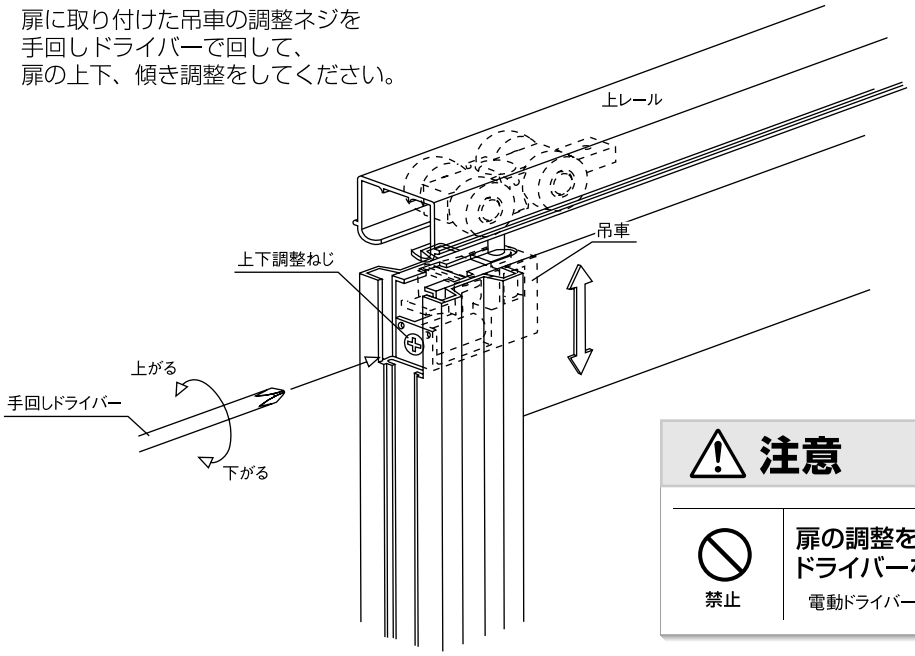
扉を吊り込む際、または外す際は床面を傷つけないように十分に養生してから行ってください。

扉は重量があります。扉の角などを押し付けても破損しないものを使用してください。

アルシャルル

扉の調整

扉に取り付けた吊車の調整ネジを
手回しドライバーで回して、
扉の上下、傾き調整をしてください。



⚠ 注意

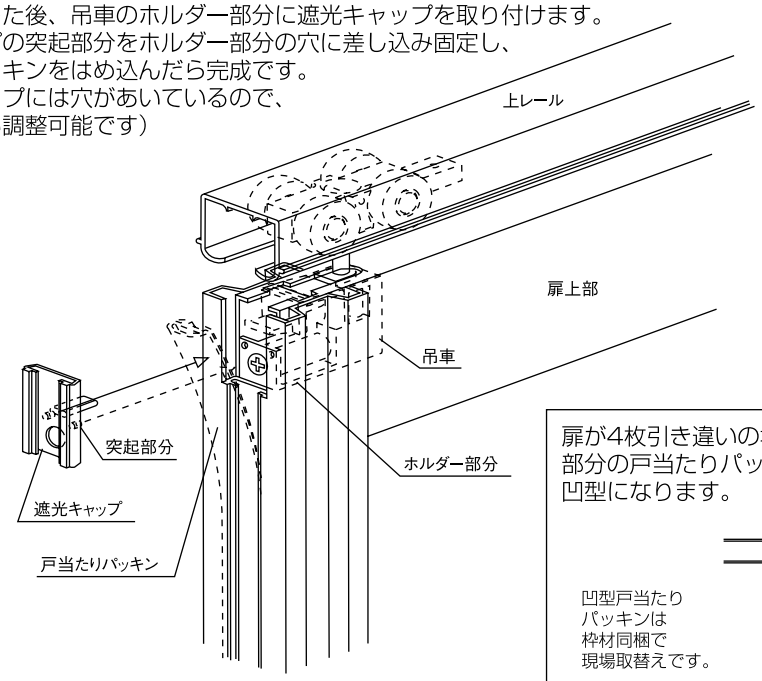
禁止

扉の調整を行う際は、必ず手回しのドライバーを使用してください。

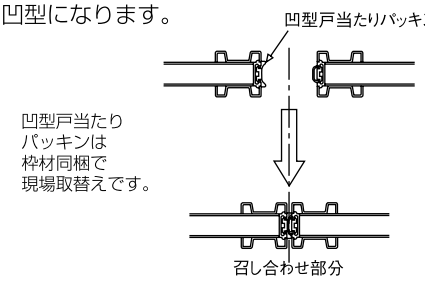
電動ドライバーは金具破損の原因になります。

遮光キャップの取り付け

扉の調整をした後、吊車のホルダー部分に遮光キャップを取り付けます。
遮光キャップの突起部分をホルダー部分の穴に差し込み固定し、
戸当たりパッキンをはめ込んだら完成です。
（遮光キャップには穴があいているので、
取り付け後も調整可能です）



扉が4枚引き違いの場合は中央の召し合わせ部分の戸当たりパッキンが、左右どちらかが凹型になります。

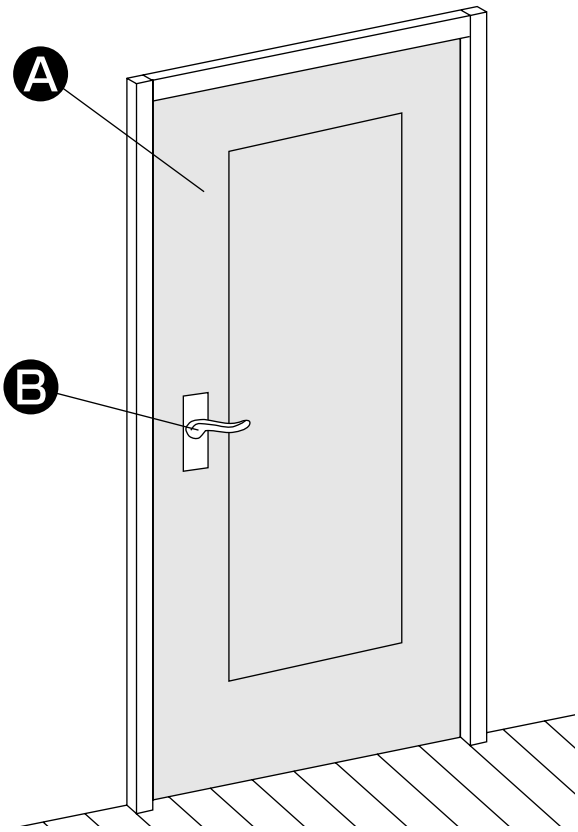


和-洋開きドア

開梱

梱包を開いたらドア本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

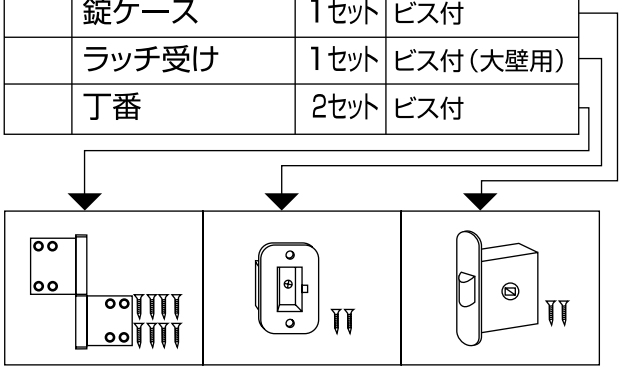
扉本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	扉本体	1枚	錠ケース加工済
	施工説明書	1部	
	使用説明書	1部	

※和室側の襖紙と襖縁は現場にてご用意ください。

戸襖錠セット

	部材名	数量	備　考
Ⓑ	レバーハンドル	1セット	
	錠ケース	1セット	ビス付
	ラッチ受け	1セット	ビス付（大壁用）
	丁番	2セット	ビス付



お願い

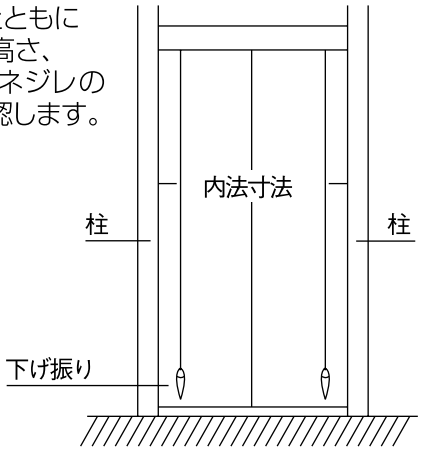
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

和-洋開きドア

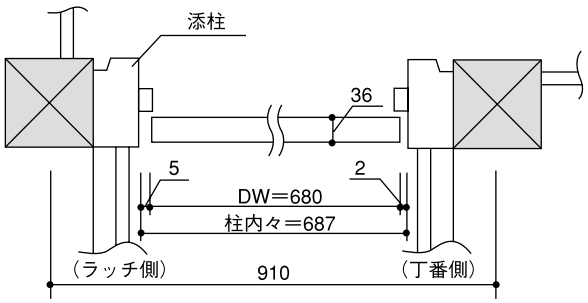
施工手順

開口部の寸法確認

ドア寸法とともに
開口部の高さ、
巾、傾き、ネジレの
有無を確認します。



添柱の取り付け（真壁工法のみ）



ドア寸法および柱とドアの隙間を考慮し、添柱を取り付けます。

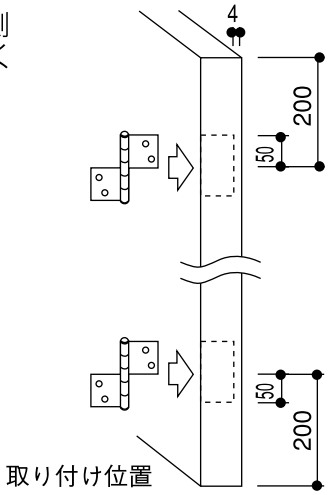
レギュラー扉DW=680㎜を使用した場合の納まり

丁番の取り付け

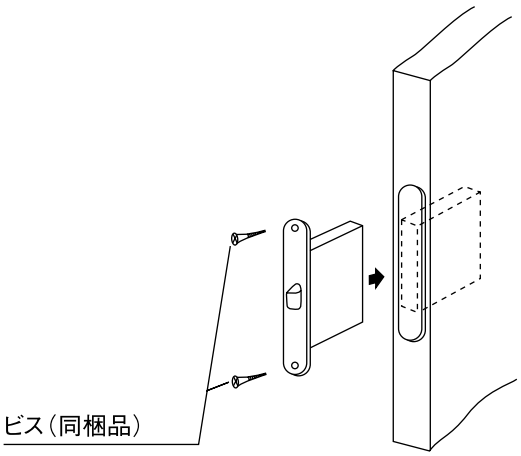
開き勝手と吊元を確認し、戸襖錠セットに同梱されている丁番をドア側と柱側それぞれ位置出しをしたうえで欠き込みせずに直に取り付けてください。

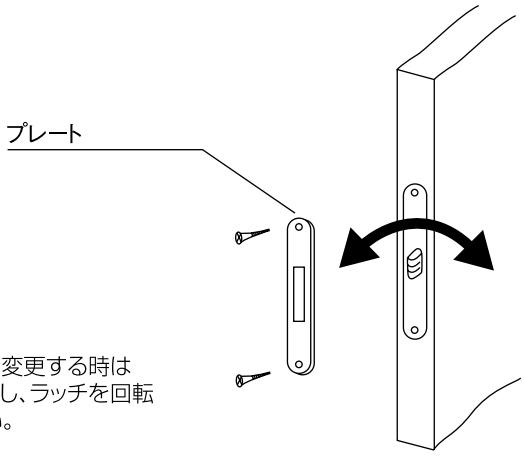
お願い

必ず丁番の上側をドア側に取りつけてください。



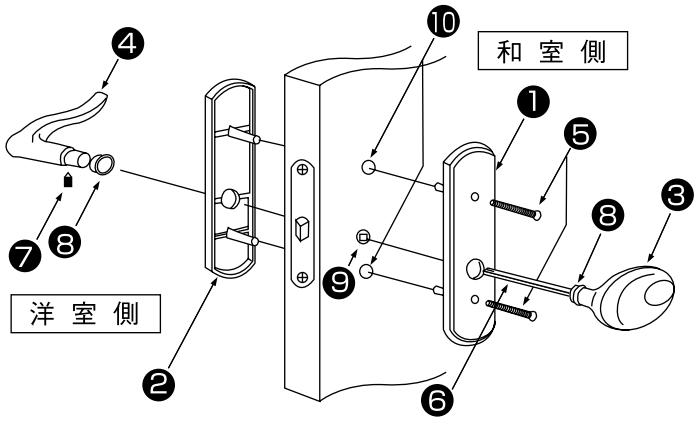
錠ケースの取り付け





ラッチの向きを変更する時は
プレートをはずし、ラッチを回転
させてください。

レバーハンドルの取り付け



レバーハンドルの取り付け

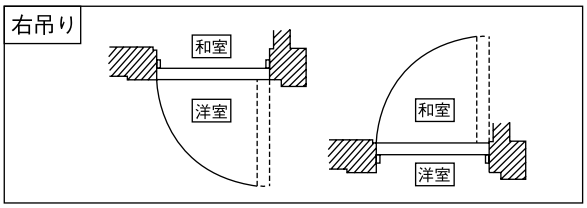
（1）洋室側より洋室側ハンドル座❷を切欠き穴❿に挿入してください。

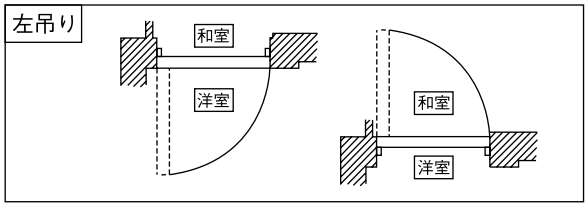
（2）和室側より和室側ハンドル座❶をはめ込み、ハンドル座取り付けビス❺で締め付けてください。

（3）和室側レバーハンドル❸を角芯穴❾に通して洋室側のレバーハンドル❹を角芯❻と合わせて取り付けビス❼で締め付けてください。（ナイロンワッシャー❽のセット忘れのないようご注意ください。）

部材・部位名			
❶	和室側ハンドル座	❻	角芯
❷	洋室側ハンドル座	❼	取り付けビス
❸	和室側レバーハンドル	❽	ナイロンワッシャー
❹	洋室側レバーハンドル	❾	角芯穴
❺	ハンドル座取り付けビス	❿	切欠き穴

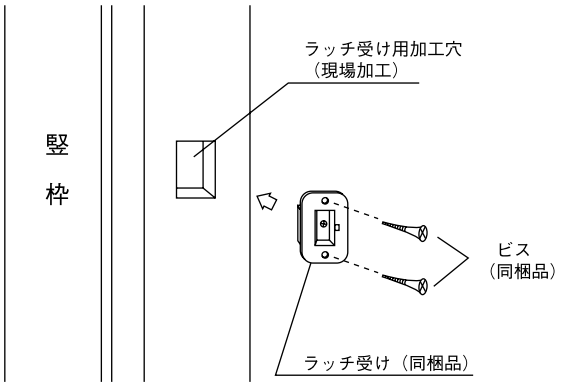
※和ー洋シングルドア（戸襖）と戸襖錠セットのR･Lは、ドアを洋室（廊下側）から見て右吊元=R、左吊元=Lとしています。





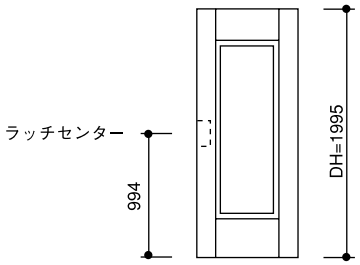
ラッチ受けの取り付け

ラッチは下図の位置でドアにつきますのでその寸法を確認の上、竪枠側の位置出しを行い、欠き込んでラッチ受けをビスで取り付けてください。



ラッチ取り付け位置

姿 図



施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

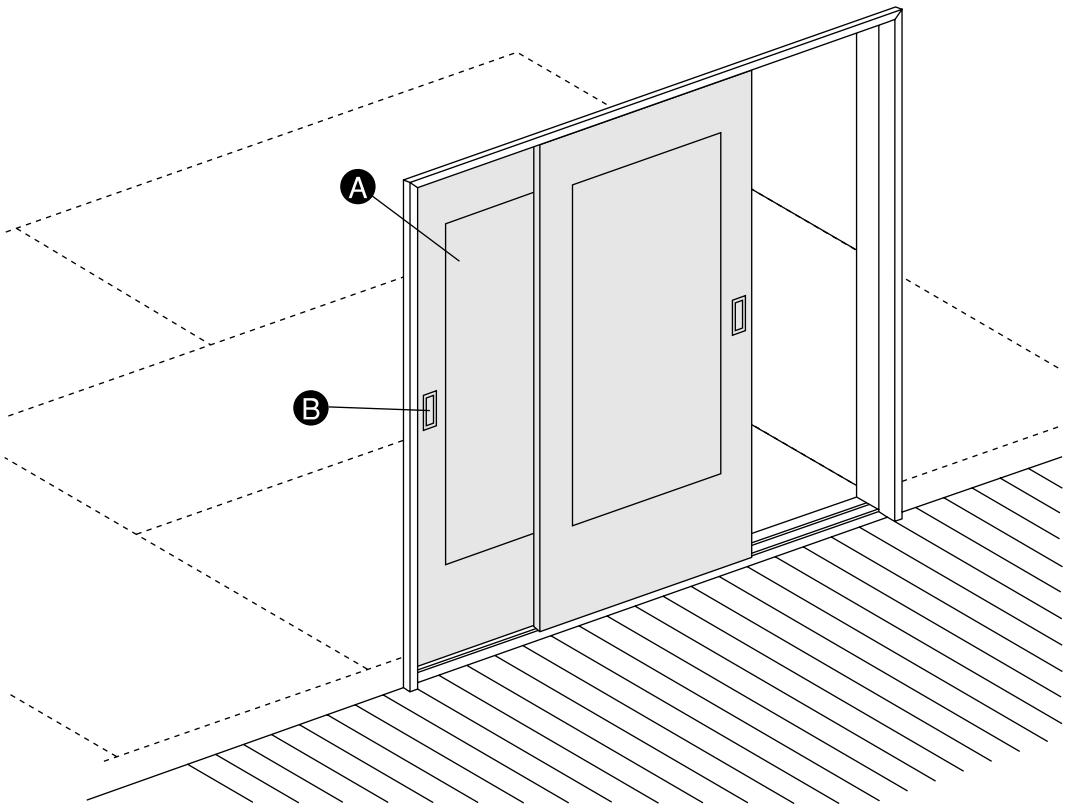
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

和-洋引き戸

1. 開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

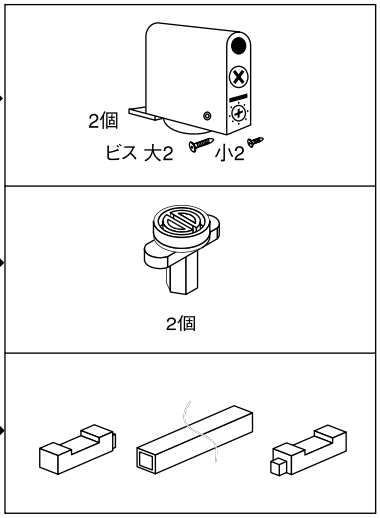
全体図



梱包内訳表

※和室側の引き手、襖縁、襖紙は現場にてご用意ください。

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	引き戸（本体）	1枚	
	戸車	2個	
	ガイドランナー	2個	
	戸首セット	1セット	
📖	施工説明書	1部	
📖	使用説明書	1部	



別売品

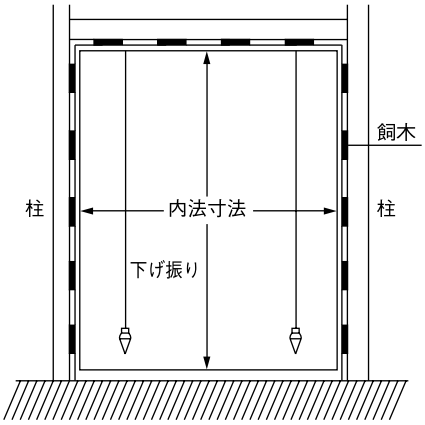
	部材名	数量	備　考
Ⓑ	引き手（洋側）	1個	

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

2. 施工手順

開口部の寸法確認

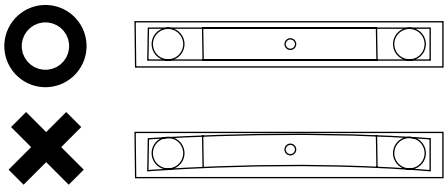


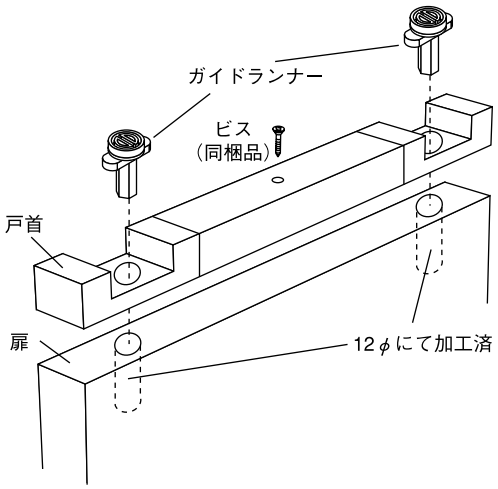
引き戸寸法とともに開口部の高さ、巾、傾き、ネジレの有無を確認します。

ガイドランナー、戸首の取り付け

ガイドランナーを戸首の加工穴に差し込み、扉本体の取り付け穴に打ち込んだうえで、戸首とガイドランナーを同梱のビスにて扉本体に固定させます。

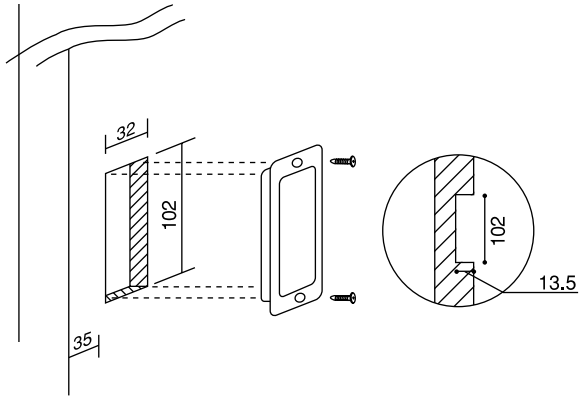
※戸首は建具上端のセンター位置にまっすぐに取り付けてください。

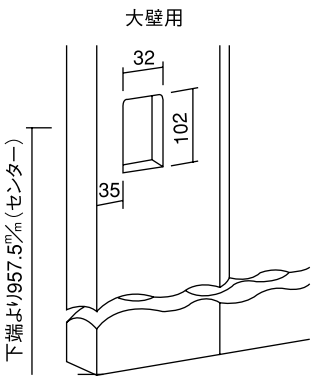




引き手の取り付け

右引き、左引きを確認し、下図の位置に引き手加工を行い、洋室側の引き手を取り付けます。
※和室側の引き手については、現場でご用意ください。
※洋室側の引き手の位置と干渉しない高さで和室側の引き手を取りつけてください。

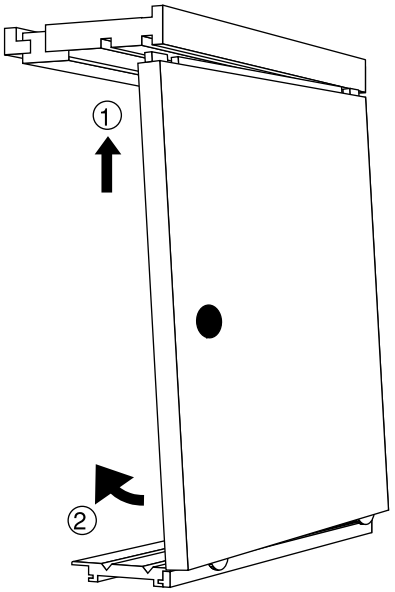




和-洋引き戸

引き戸の取り付け

ガイドランナーを鴨居の溝に入れながら戸車をレールにはめ込みます。
引き戸が垂直に立ち、鴨居溝にガイドランナーがはまっていることを確認してください。



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

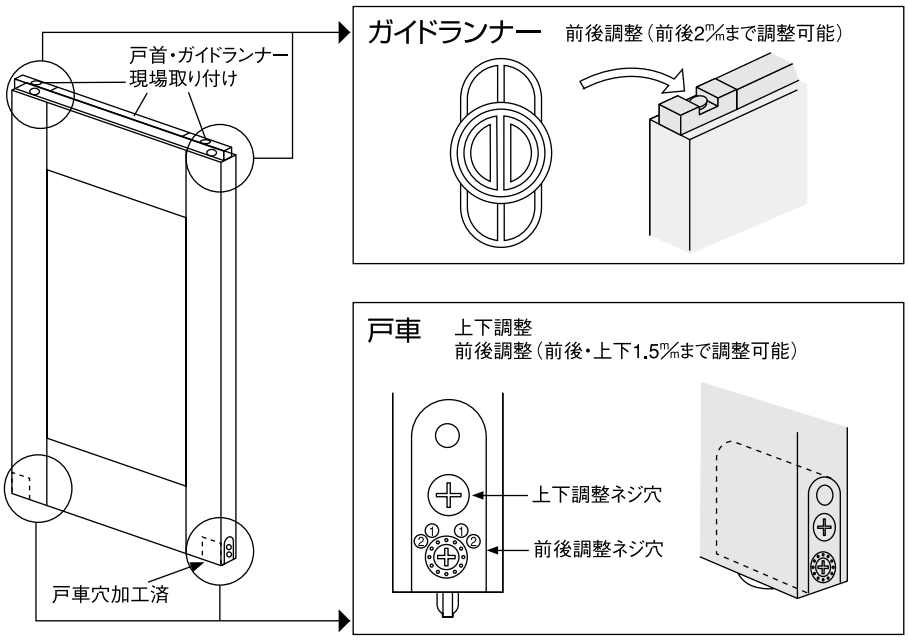
引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

各部の名称および機能

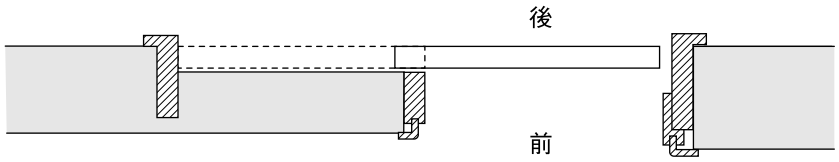
引き戸本体



引き戸の調整の仕方

引き戸を使用されている際、以下のような状態が生じましたら、戸車とガイドランナーにて引き戸を調整することができます。

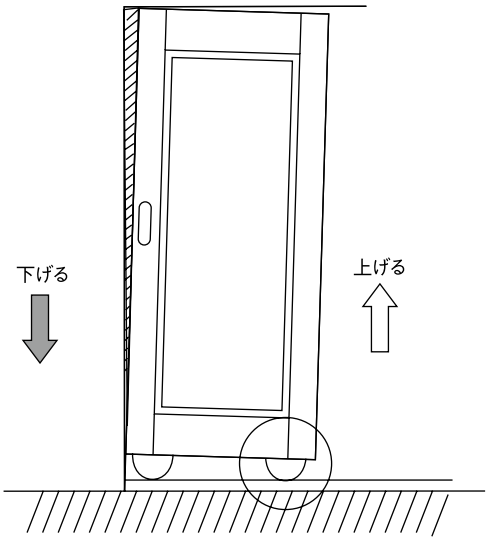
引き戸の位置定義（片引き戸の場合）

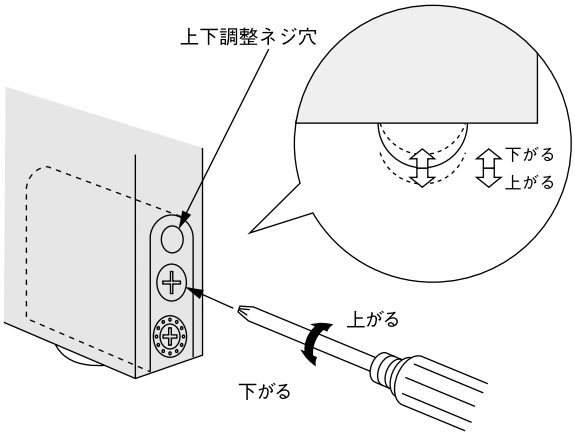


引き戸の位置定義は、
小壁を手前から見た手前を
「前」とします。

竪枠と引き戸の間に隙間が生じたとき（上下調整）

（1）引き戸と竪枠の上部に隙間が生じたとき



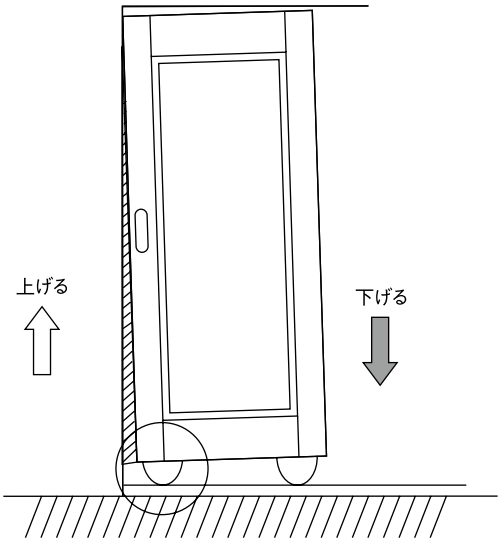


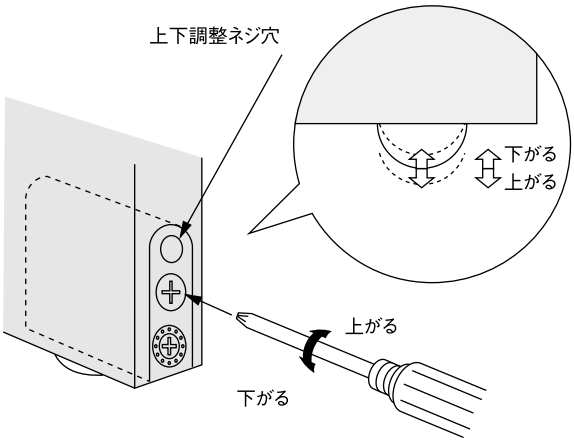
竪枠と引き戸との間に生じる隙間をよくご確認ください。
隙間の状態をご確認の後、プラスドライバーにて戸車の
上下調整ネジを

隙間側戸車 ⟶ 下げる
反対側戸車 ⟶ 上げる

調整を行い、竪枠と引き戸との隙間をなくしてください。

（2）引き戸と竪枠の下部に隙間が生じたとき





竪枠と引き戸との間に生じる隙間をよくご確認ください。
隙間の状態をご確認の後、プラスドライバーにて戸車の
上下調整ネジを

隙間側戸車 ⟶ 上げる
反対側戸車 ⟶ 下げる

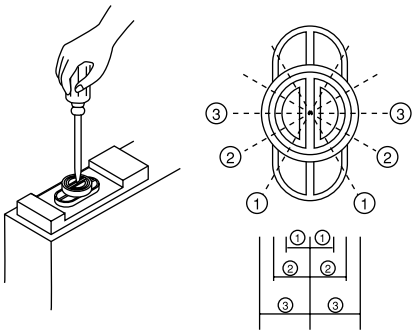
調整を行い、竪枠と引き戸との隙間をなくしてください。

和-洋引き戸

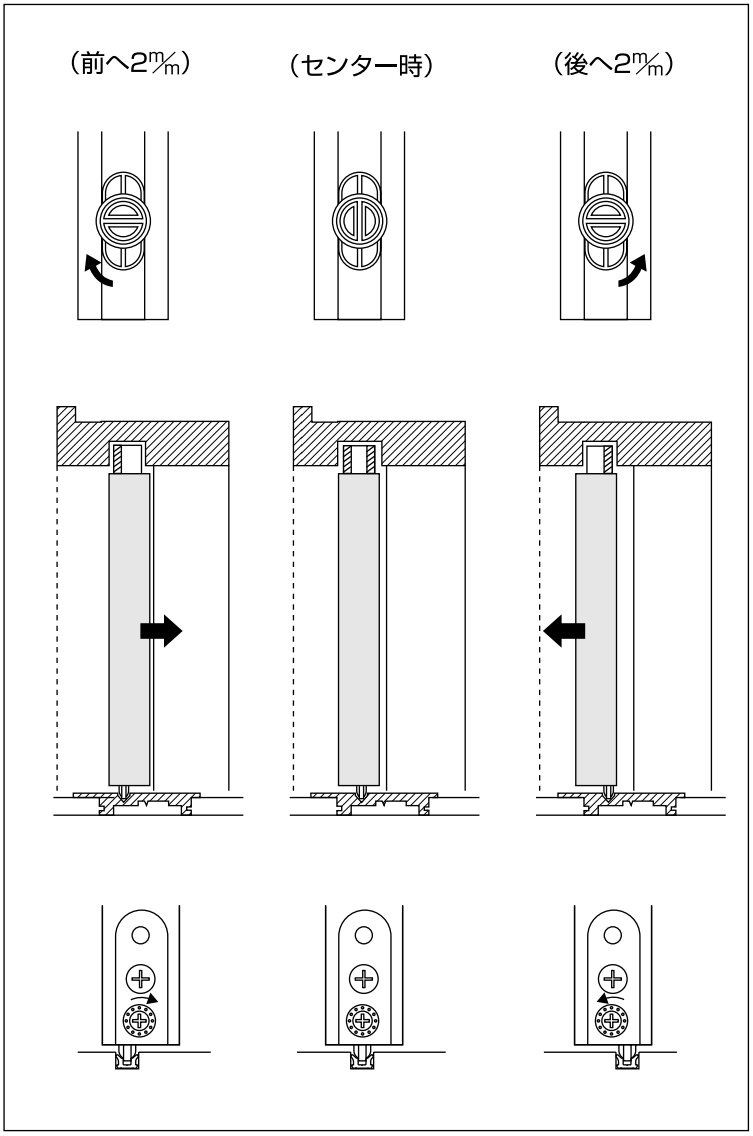
引き戸と引き戸が擦れ合う、引き戸と中方立があたる場合（前後調整）

引き戸をご使用の際に、引き戸と中方立の間の隙間が大きい、または、逆に隙間が少なくて引き戸同士、または引き戸と中方立が擦れるような場合には、前後調整を行ってください。
前後調整は、前後3段階ずつ行うことができます。（前後2㎜まで行うことが可能です）

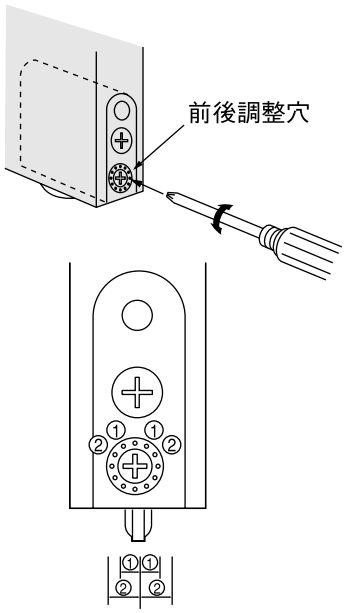
イ）ガイドランナーの調整



① 段階1.0㎜
② 段階1.7㎜
③ 段階2.0㎜



ロ）戸車の調整



①段階　1.0㎜
②段階　1.5㎜

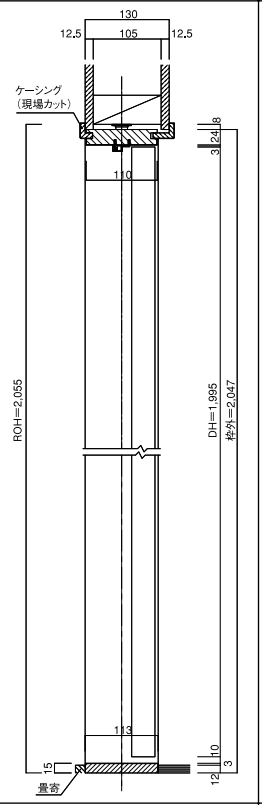
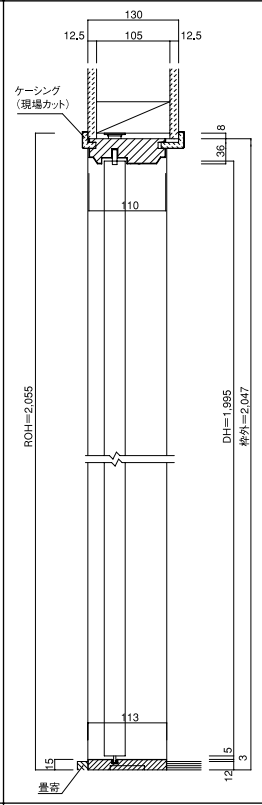
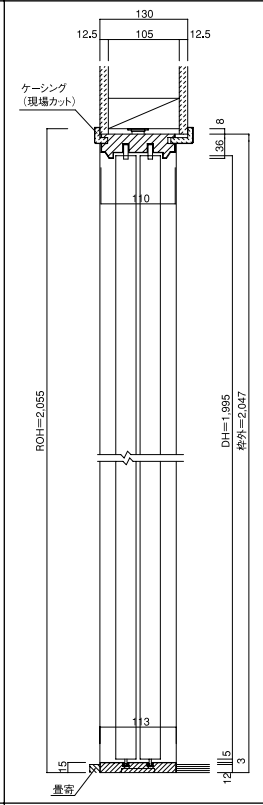
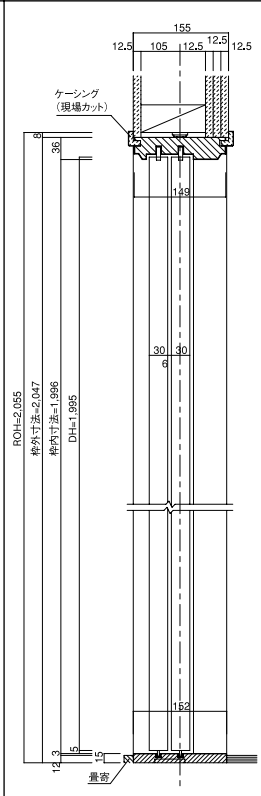
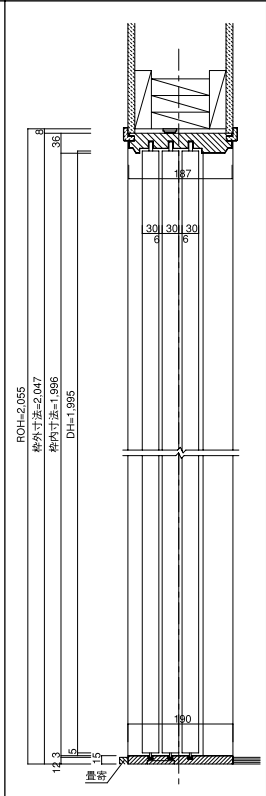
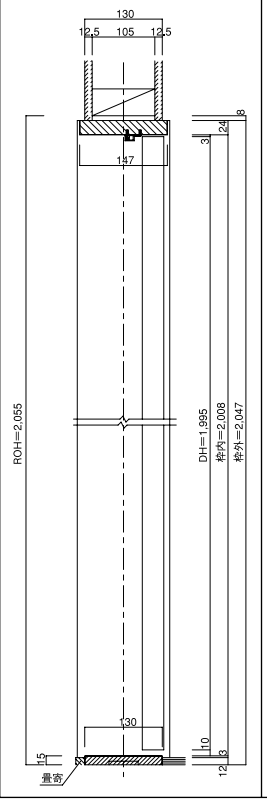
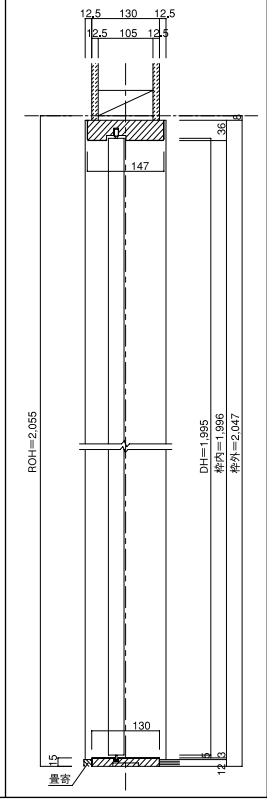
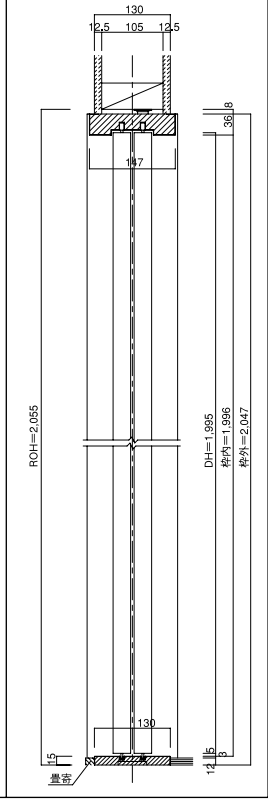
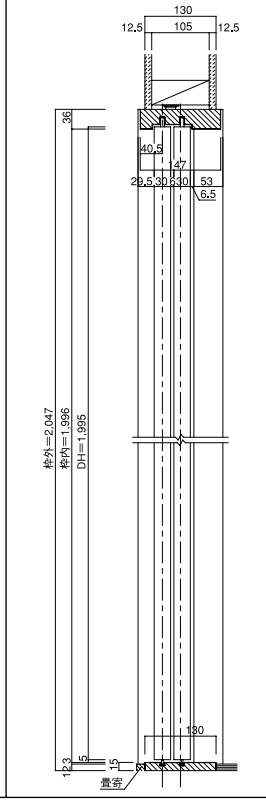
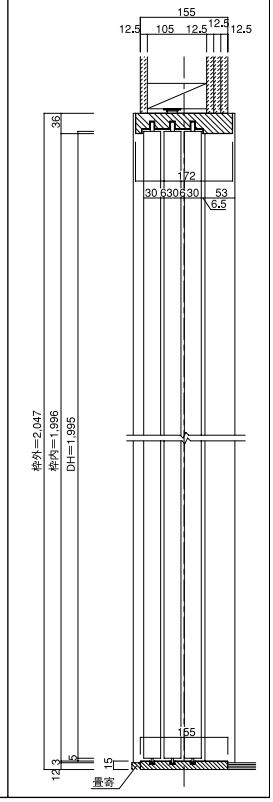
お願い

戸車とガイドランナーの調整は、必ず同じ調整量にしてください。調整量が異なると、引き戸の垂直が保たれず走行が不安定になる原因になります。

幅広敷居・下枠

1. 納まり図

縦断面図 (単位:㎜)

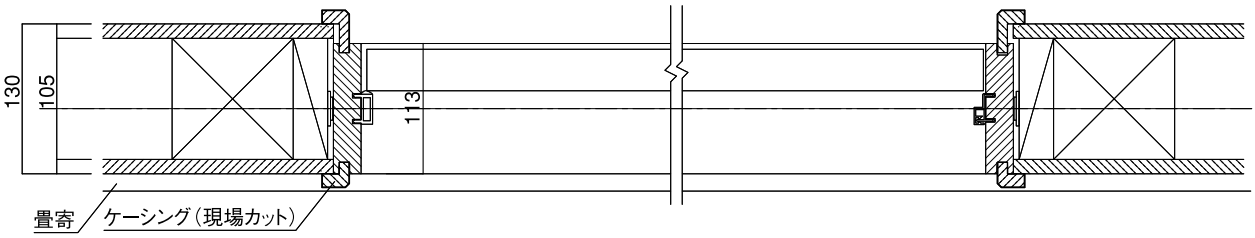
	開きドア	片引き・引き分け	引き違い・4枚引き違い	2枚引き込み	3枚引き込み
調整枠					
固定枠					

幅広敷居・下枠

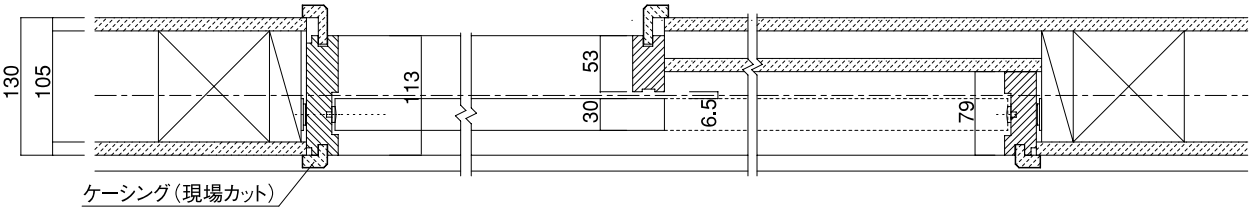
横断面図（調整枠）

（単位:㎜）

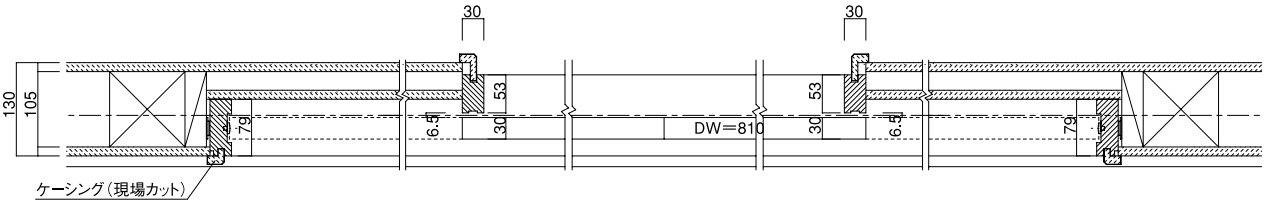
開きドア



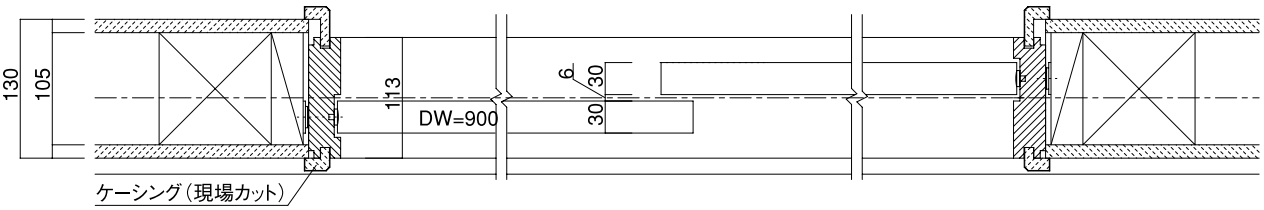
片引き



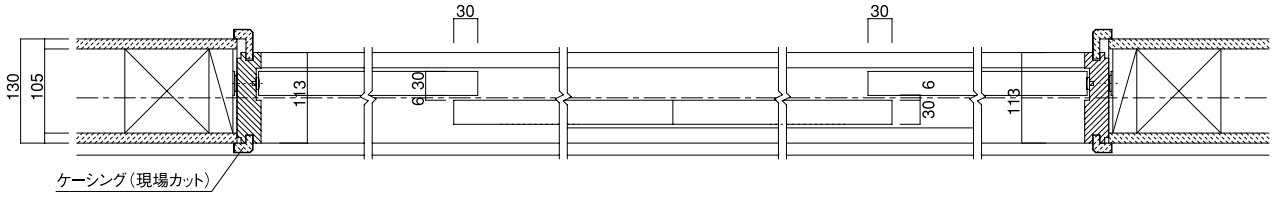
引き分け



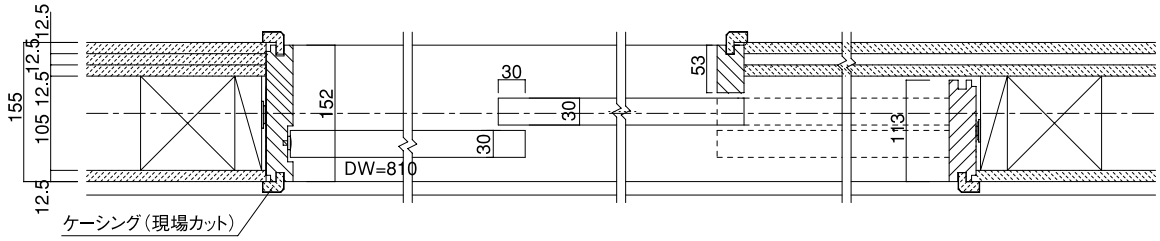
引き違い



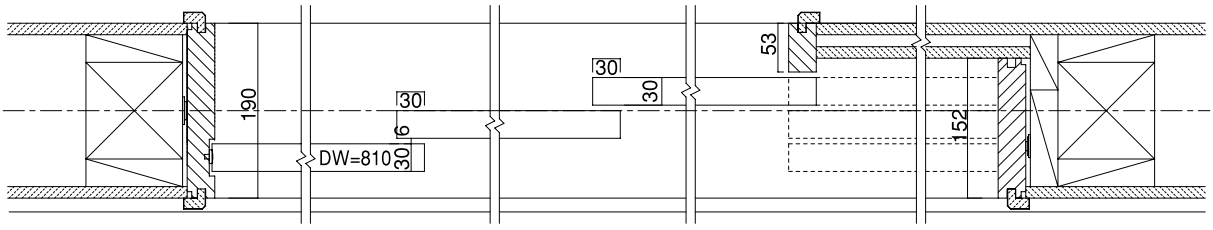
4枚引き違い



2枚引き込み



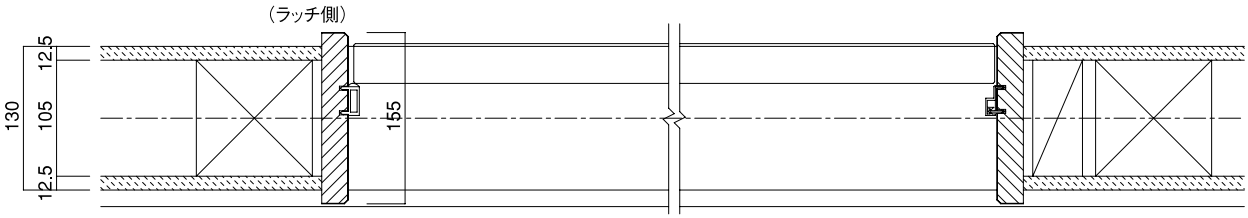
3枚引き込み



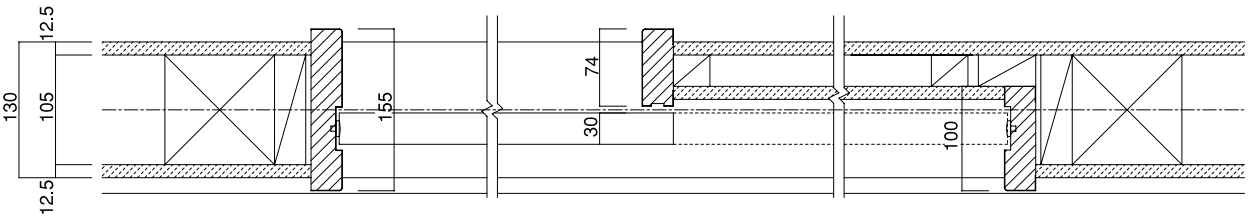
横断面図（固定枠）

（単位:㎜）

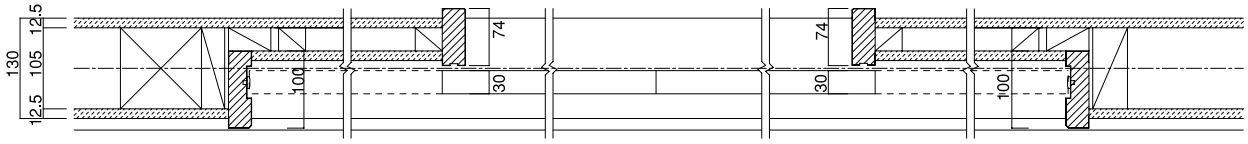
開きドア



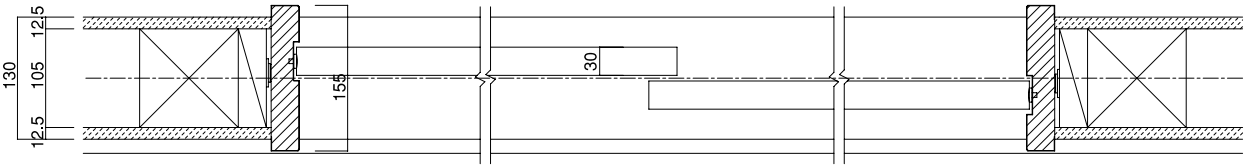
片引き



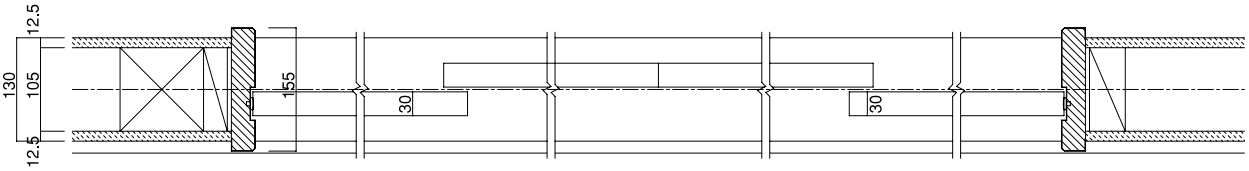
引き分け



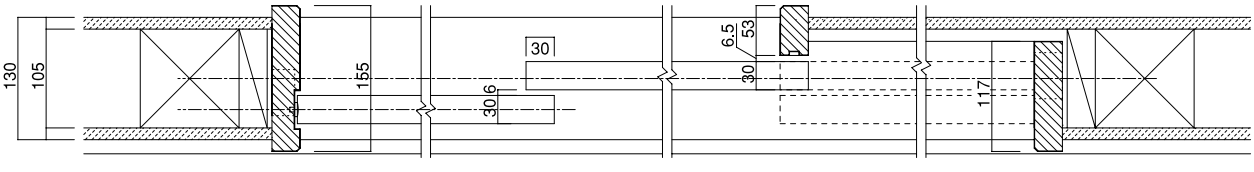
引き違い



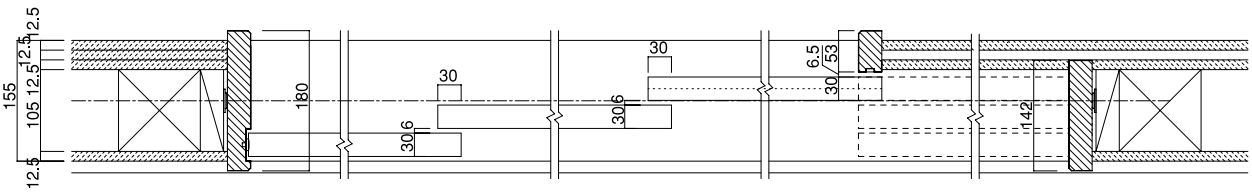
4枚引き違い



2枚引き込み



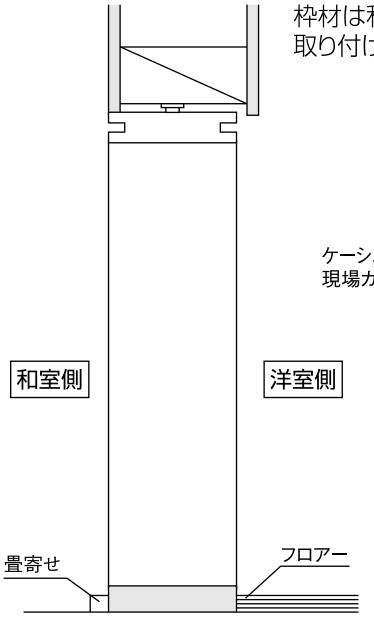
3枚引き込み



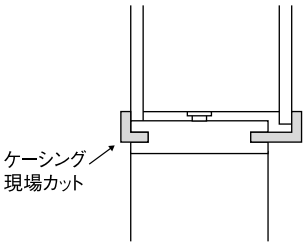
幅広敷居・下枠

2. 施工方法

①調整枠の場合

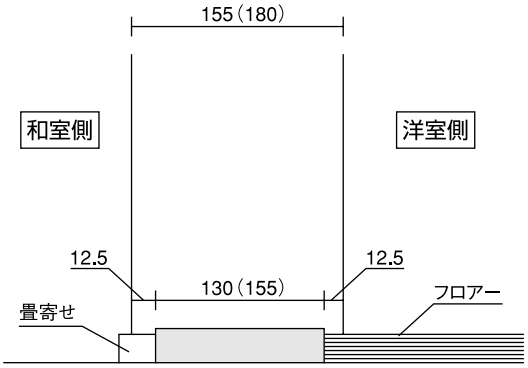


枠材は和室側の壁面に合わせて
取り付けてください。



和室側のケーシングは
差し込み部分をカット
（現場カット）し、
納めてください。

②固定枠の場合

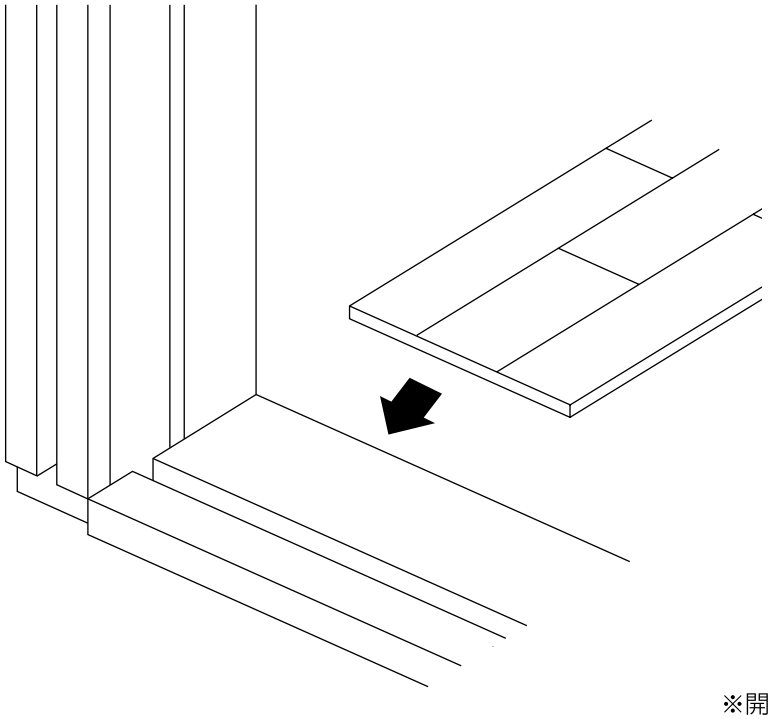


竪枠の両端より12.5㎜づつ枠内に
入った位置に敷居を取り付けてください。

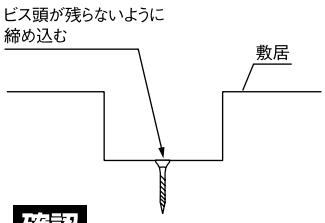
※（　）内寸法は、3枚引き込み戸の場合の寸法です。

③枠材の取り付け

施工手順のイラストは調整枠の引き戸になっています。固定枠の場合も同様の施工方法になります。



ビスを打ち込む際の注意点



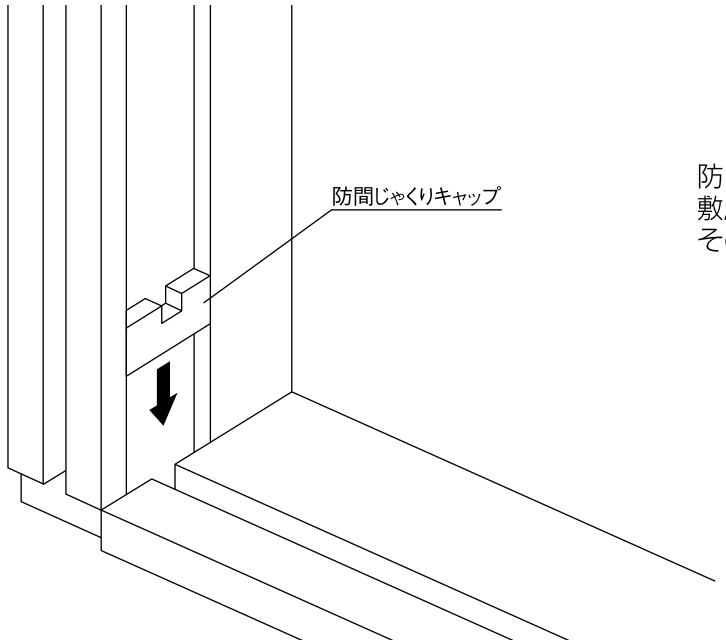
確認

敷居を固定するビスは、
ビス頭が残らないように
確実に締め込んでください。

敷居をビス（現場調達）と
接着剤（現場調達）で先付け施工し、
フロアーは敷居に対し突き付け施工を
おこなってください。

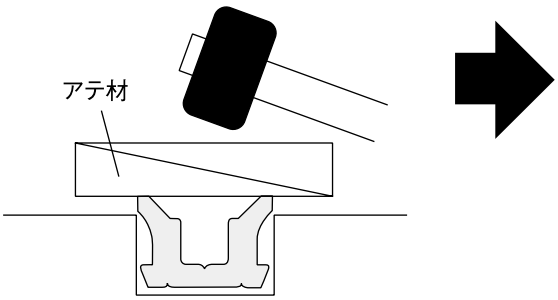
※開きドアの場合（下枠）は無目枠になるので
接着剤（現場調達）のみで取り付けます。

引き戸の場合のみ

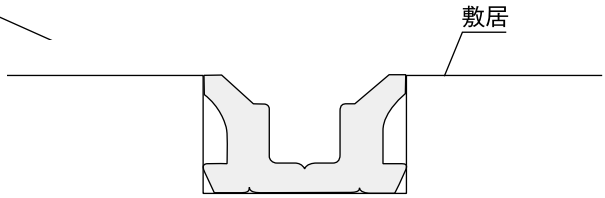


防間じゃくりキャップを竪枠の防間じゃくりと敷居の隙間にはめ込んでください。
その後、Yレールを敷居に取り付けてください。

Yレール取り付け時の注意



防間じゃくりキャップは、レールをはめ込んでいく際にレールと共に押し入れてください。

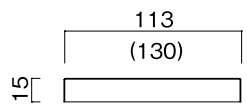
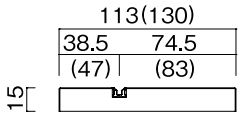
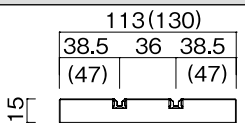
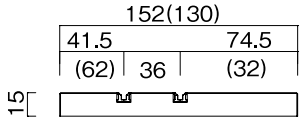
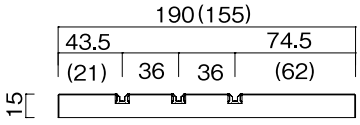


※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

※レールは建具枠本体に同梱されています。

ドア用	片引き用 引き分け用	引き違い用 4枚引き違い用
		
2枚引き込み用	**3枚引き込み用**	
		

※( )内寸法は固定枠の場合。

施工終了後

養生の方法

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

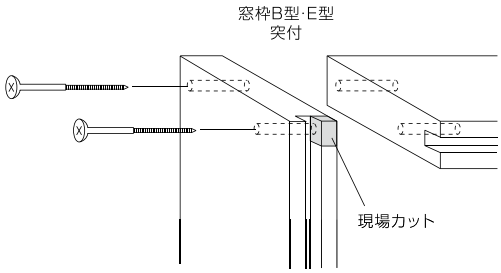
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

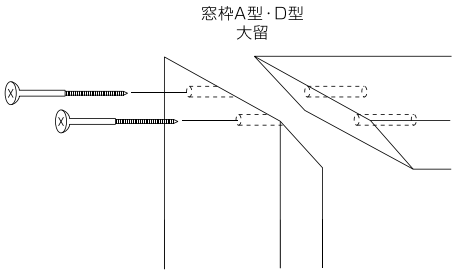
窓枠

1.施工時の留意事項

お願い

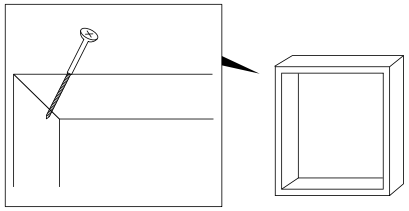
結露による不具合を防止する為、木口・木端部分には、コーキング処置またはアルミテープ等の貼りつけをしてください。
木の割れを防ぐため必ず φ2.4㎜長さ40㎜程度の案内孔を開けてください。





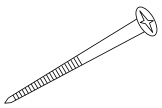
お願い

窓枠の大留に 市販ビス（市販ビスはJIS規格ビスφ3.8㎜長さ45㎜）または、当社WOOD ONE木ネジ を使用される場合に、右図のように斜め打ちをしていただくとより強固に施工できます。



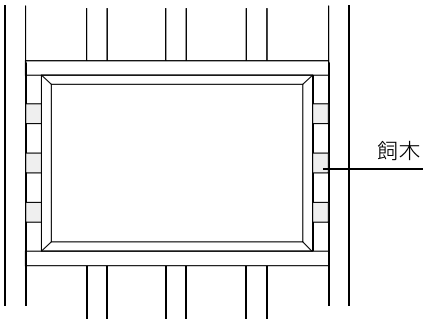
WOOD ONE 木ネジ

品番	ZY0412
設計価格	6,700円／箱
入り数	500本
サイズ	63×4φ



極端な不具合がありましたら、施工前にお買い求め店様または弊社までお申し出ください。
施工後のお申し出には応じかねます。

開口部への取り付け



開口部に窓枠をはめ込み、飼木（クサビ）で水平と垂直ネジレを調整しビスで固定します。

養生の注意

① 表平面にキズがつかないように、ダンボールなどで養生をしてください。
② コバ面にキズがつかないようにダンボールを折り返してご使用ください。
③ 養生を固定する際は、養生剥がれを防ぐため窓枠裏面、または塗膜面以外（ソフトアートシリーズは除く）へ養生テープを貼り付けて固定してください。

①～③の項目を守られない場合での剥離・キズにつきましては品質影響としての保証はいたしかねます。

施工終了後

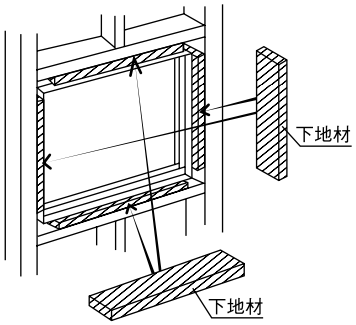
お手入れのしかた 枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し 同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に貼り付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮願います。

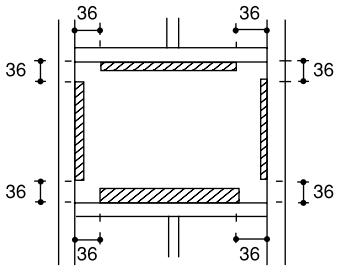
窓枠L型

施工手順

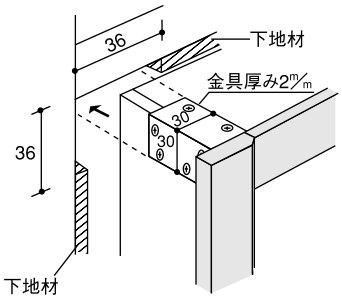
取り付け開口部の確認



サッシ開口部に下地材を取り付け、窓枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。ただし下地材四隅には35～36㎜のスペースを空けておいてください。

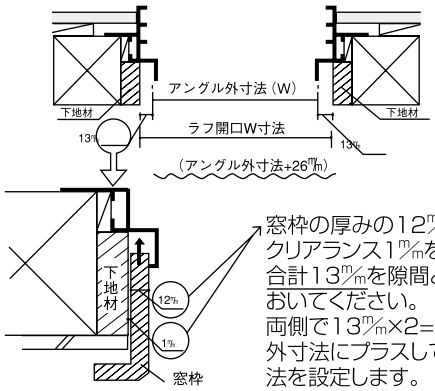


下地材の四隅は上図のようにおよそ36㎜程度目安に空けておいてください。



窓枠を固定するための補強金具が四隅に（3方枠なら上部2ヶ所）とりつきます。その逃げしろを確保する為です。

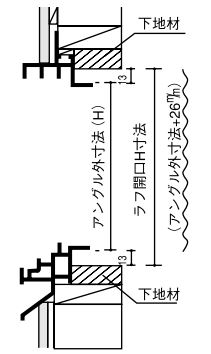
ラフ開口W寸法の設定



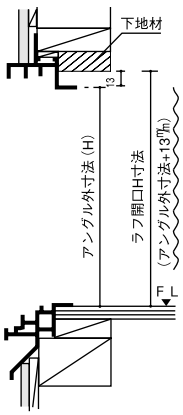
窓枠の厚みの12㎜にわずかなクリアランス1㎜をみて片側の合計13㎜を隙間として空けておいてください。
両側で13㎜×2=26㎜をアングル外寸法にプラスして、ラフ開口W寸法を設定します。

ラフ開口H寸法の設定

4方枠（中連タイプ）

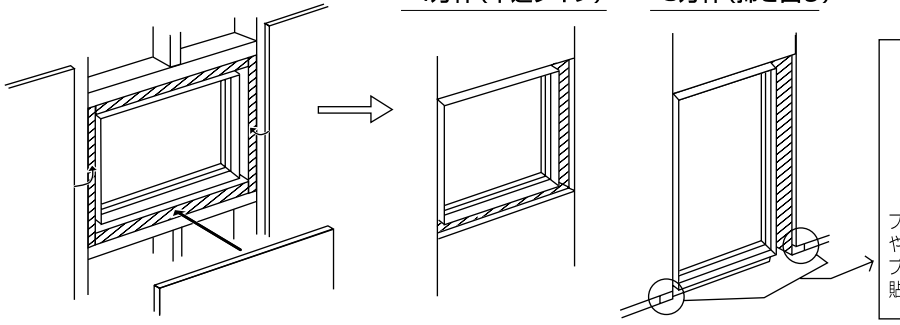


3方枠（掃き出し）



プラスターボードの先貼り

4方枠（中連タイプ）　3方枠（掃き出し）



フロアー後貼りの際、壁際の貼り込みをしやすいように、下ランナーをまわした後に、プラスターボードは18㎜程度浮かせて貼り込んでください。

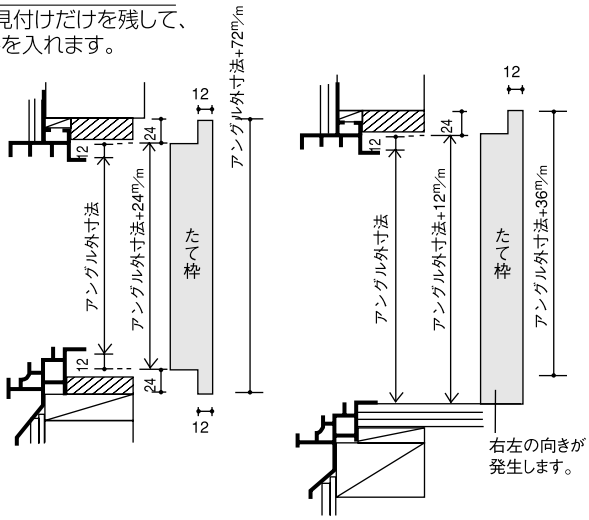
上記で取り付けた下地面で仕上がるようにプラスターボードを貼ってください。

窓枠Ｌ型

窓枠の組み立て

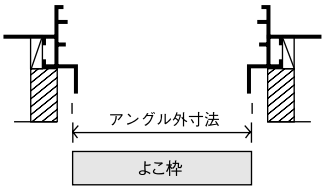
(1)たて枠のカット

たて枠に関しては、前見付けだけを残して、下図のように欠き込みを入れます。



(2)よこ枠のカット

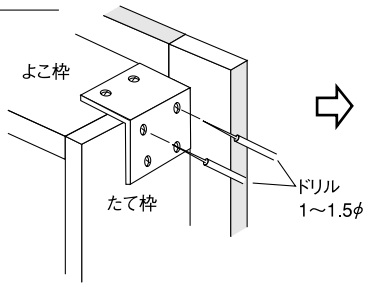
よこ枠はアングル外寸法でカットしてください。



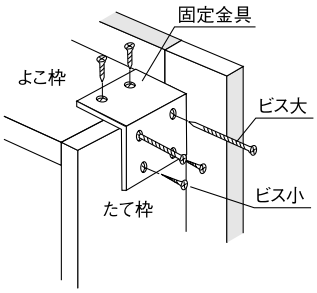
※たて、よこいずれも巾おとしが必要な際は、巾をおとしてからご使用ください。

(3)固定金具の取り付け

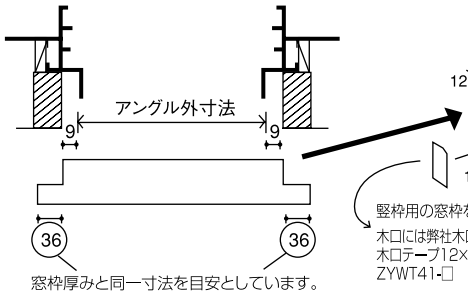
たて枠とよこ枠を固定する下穴2ヶ所は、1～1.5φのドリルで、深さ30～40㎜程度案内孔をあけてください。



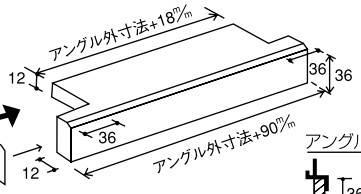
ビスの大で、たて枠とよこ枠を固定します。
ビスの小で、補強として金具を枠



窓台(膳板)として使用する場合　(サッシ見切り厚み9㎜と併用)

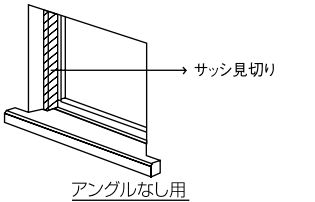


窓枠厚みと同一寸法を目安としています。

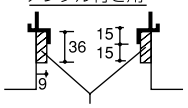


竪枠用の窓枠を窓台として使用してください。
木口には弊社木口テープ(別売)をお使いください。
木口テープ12×36㎜(40入)¥6,500/ケース
ZYWT41-□

サッシの見切りには弊社サッシ見切り(別売)をおすすめします

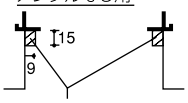


アングル付き用



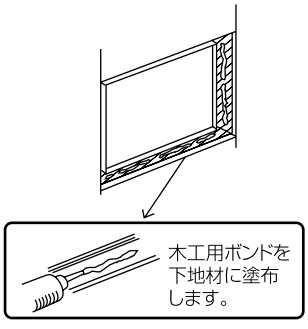
DHQA23-□
3700×30×9(20入)¥26,400/ケース

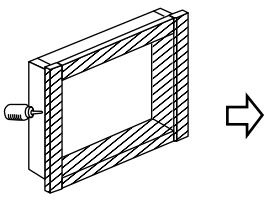
アングルなし用



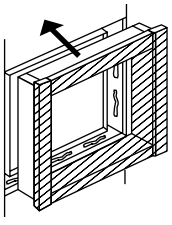
DHQA13-□
3700×15×9(20入)¥13,200/ケース

窓枠の取り付け

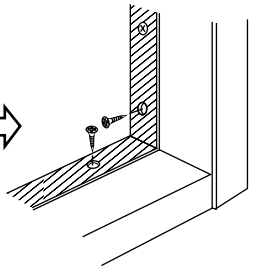




ボンドに接する見付けウラ面にも木工用ボンドを塗布します。



開口部へ窓枠をはめ込みます

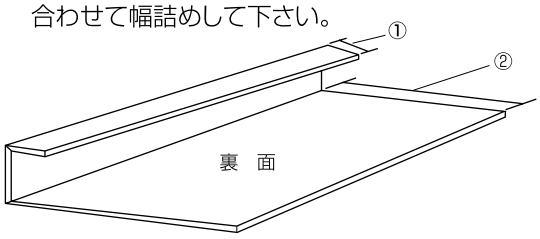


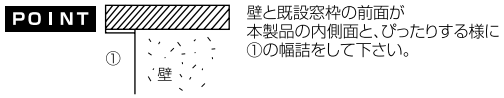
アングルにビスで窓枠本体を固定します。

リフォーム窓枠

施工手順

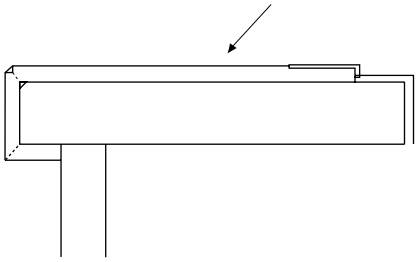
（1）横枠の折返し部分が（①刊）を既設の窓枠に合わせて幅詰めして下さい。





壁と既設窓枠の前面が
本製品の内側面と、ぴったりする様に
①の幅詰をして下さい。

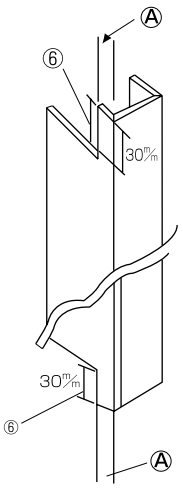
（2）枠幅を既設の窓枠に合わせて幅詰めをして下さい。



（3）タテ枠を正寸カットして下さい。
（既設の窓枠の内寸+60㎜にカットして下さい。）

（4）タテ枠の折り返し部分（刊）を幅詰めして下さい。
（①+4㎜）
また、タテ枠の幅詰もして下さい。
（②+4㎜）

（5）タテ枠の上端、下端のカキ込みをそれぞれ30㎜（本製品の見付分）カットします。



Ⓐの残し代は
現場に合わせて下さい

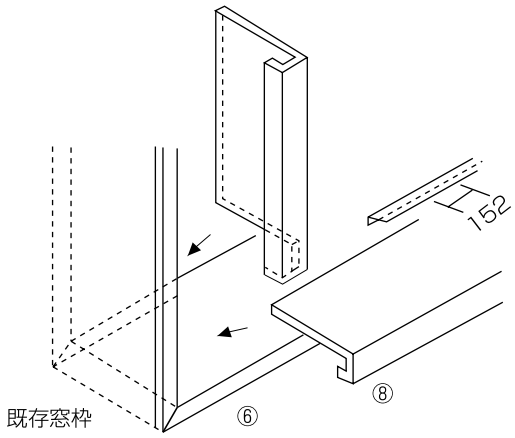
（6）タテ枠を既設窓枠の上から被せ、同梱のアルミアングルで押え、ビス、及びボンドで固定して下さい。

POINT 既設枠の表面化粧材が、シート等の場合は、きれいに剥がして、木工用ボンドを充分に塗布して下さい。

（7）横枠を両サイドのタテ枠の内のり寸法に正寸カットして下さい。



（8）横枠を既存窓枠にはめ込み、同梱のアルミアングルで押え、ビス、ボンドで固定して下さい。

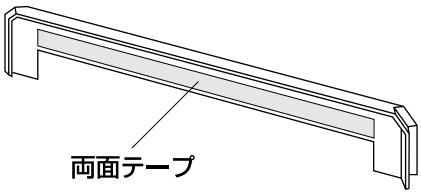


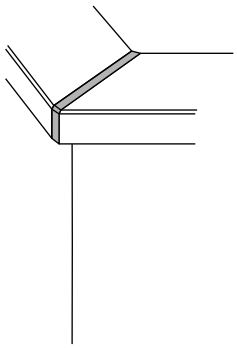
（9）専用シールで、タテ枠の木口を処理して下さい。

シート笠木対応 コーナー部材

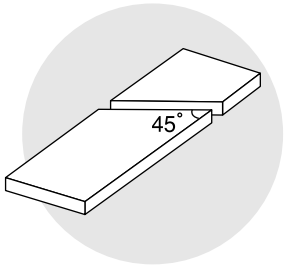
1. 部材名称

水平コーナー部材

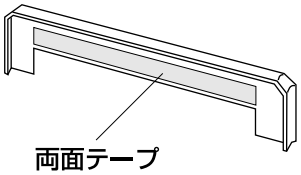


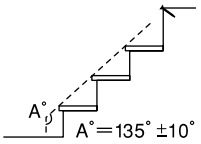


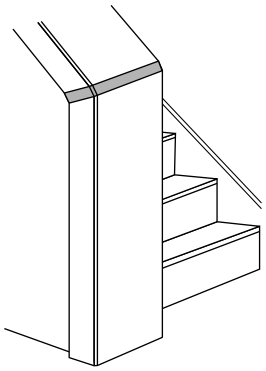
笠木の切断参考図



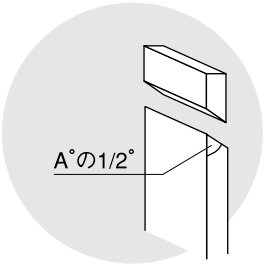
勾配用コーナー部材



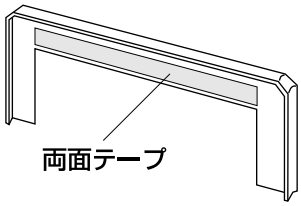


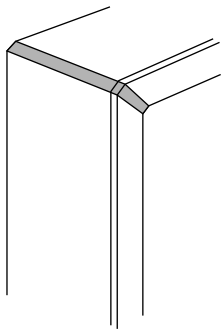


笠木の切断参考図

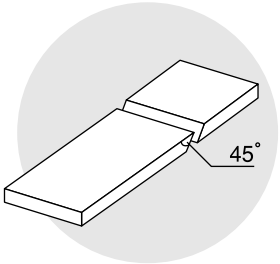


垂直用コーナー部材

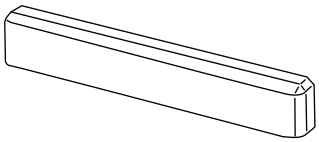


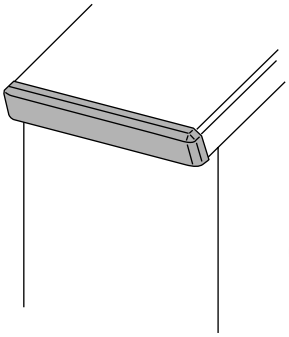


笠木の切断参考図



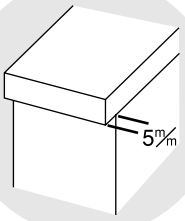
エンドキャップ





笠木の切断参考図

笠木をエンドキャップの厚み
5㎜分のばして切断する



⚠ 注意（コーナー部材）

必ずおこなう

コーナー部材の厚み1㎜を考慮して
笠木の切断をする。

⚠ 注意（エンドキャップ）

必ずおこなう

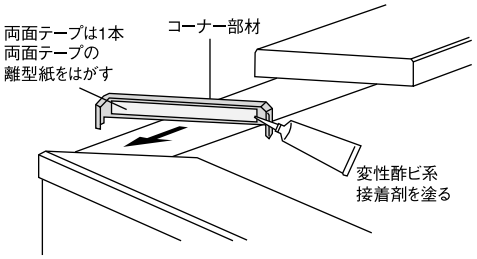
エンドキャップのかぶりの深さは5㎜です。
笠木ののばしは必ず5㎜に合わせてください。

2. 施工手順

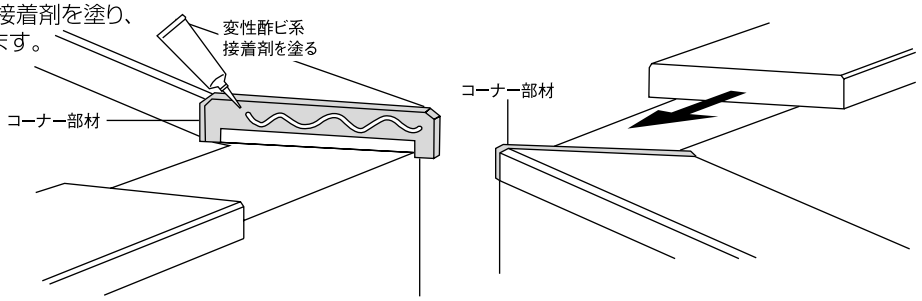
コーナー部材

※イラストは水平コーナー用です。
垂直用・勾配用も同じ要領で施工してください。

コーナー部材の両面テープの離型紙をはがし、
変性酢ビ系接着剤を併用し一方の笠木に取り付けます。



コーナー部材に変性酢ビ系接着剤を塗り、
もう一方の笠木を取り付けます。
笠木を躯体に固定します。

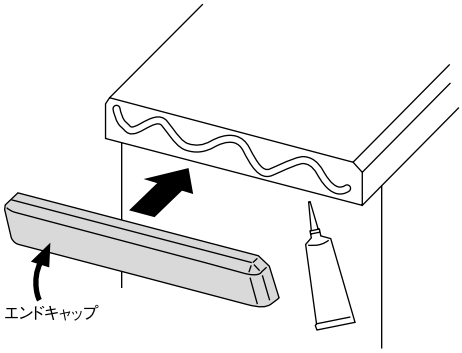


⚠ 注意

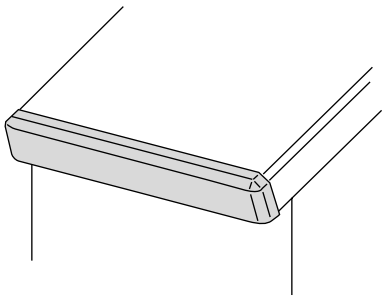
隙間を完全に無くす場合はシーリング（現場調達）などで埋める。

エンドキャップ

笠木の切断面に変性酢ビ系接着剤を塗布します。
はみ出した接着剤は必ずふき取ってください。



エンドキャップを笠木に接着します。



⚠ 注意

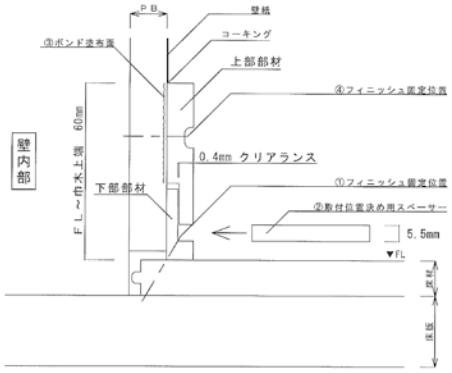
必ずおこなう	**エンドキャップと笠木に隙間とがたつきがないように施工する。**

W型巾木・カーテンBOX

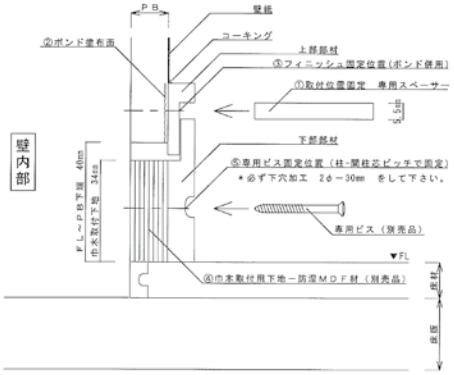
スライド巾木（W型）

納まり図

■巾木W型



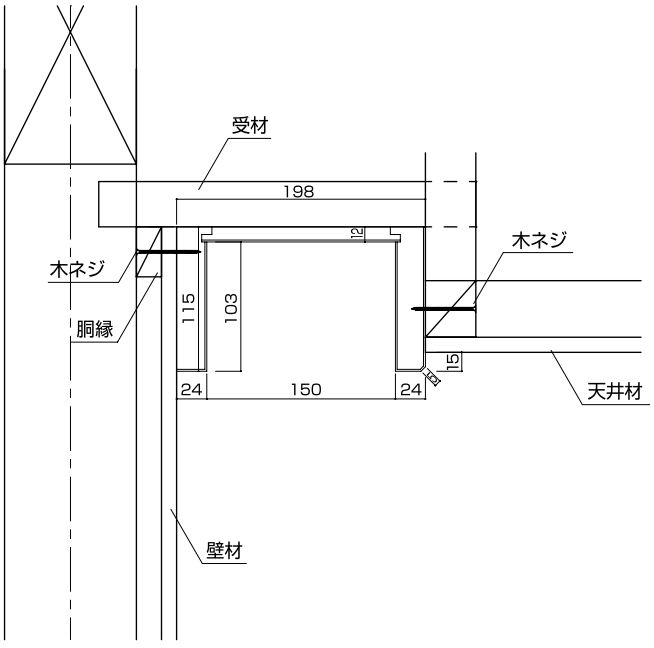
■巾木W型ー壁内点検用



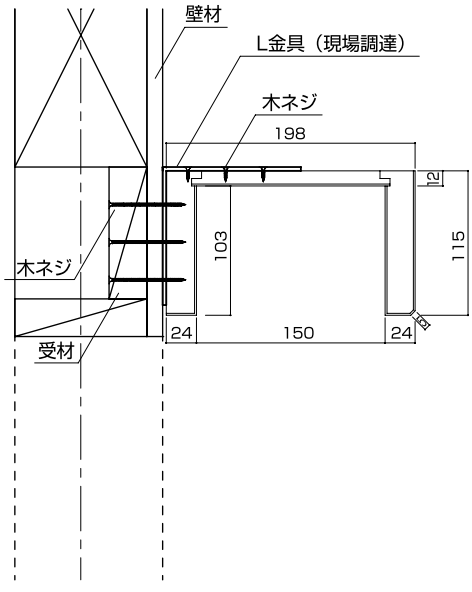
カーテンボックス

納まり図

■天井埋め込みの場合



■壁付けの場合



使用上の注意【玄関収納】

施工に際しての安全上のご注意

⚠注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

安全上のご注意

⚠警告 使用に際して以下の注意が守られない場合、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

- **はさまれ注意!**
  部材と部材のあいだに、体の一部が入っている状態で施工をすると、ケガをする場合がありますのでご注意ください。
- **必ず同梱の金具を使用する。**
  同梱の金具で施工しなかった場合、商品が破損したり、落下、転落してケガをするおそれがあります。

⚠注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

- **屋内専用。**
  屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進む原因となります。
- **棚板の耐荷重は1枚当たり4kg。**
  棚板の耐荷重を越えて収納しますと棚板が破損したり脱落してケガの原因となります。
- **ヒンジを分解しない。**
  扉取り付け用のヒンジを分解したり、無理に曲げたりすると、扉が脱落してケガの原因となりますので、絶対にしないでください。
- **フロアーキャビネットのカウンターの耐荷重は20kg。**
  カウンターの耐荷重を越えて荷物を置いたりしますとカウンターが破損したりし、ケガの原因となります。

必ずおこなう

- **開梱後は換気を行なう。**
  本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。
- **確実にヒンジと座金をジョイントする。**
  扉取り付け用のヒンジが確実に座金とジョイントされていないと、扉が脱落してケガの原因となりますので、確実にヒンジと座金をジョイントしてください。
- **確実にキャビネット同士を連結する。**
  キャビネット同士が連結金具で確実に連結されていないと、キャビネットが転倒・脱落してケガの原因となりますので、確実にキャビネット同士を連結してください。
- **確実にキャビネットと壁面を固定する。**
  キャビネットがあらかじめ間柱・補強桟等の下地処理を施した壁面と固定されていないと、キャビネットが転倒してケガの原因となりますので、確実にキャビネットと壁面を固定してください。L型金具は誤った使い方をしますとその効果が失われてしまいますので、正しい使い方をしてください。

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

耐荷重について

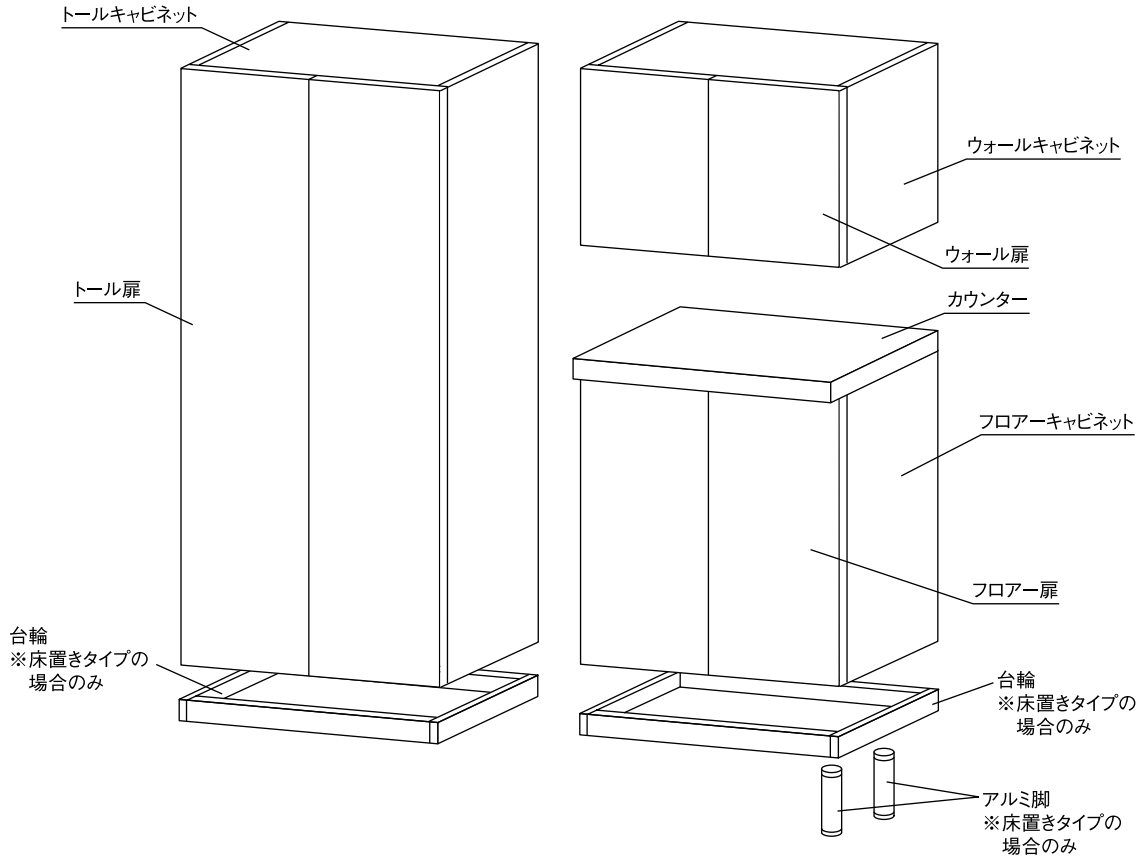
※下記耐荷重以上の荷重をかけると、商品が破損したり転落したりし、ケガの原因となるおそれがありますのでご注意ください。

商品名	耐荷重
棚板	4kg／枚
カウンター	20kg／枚

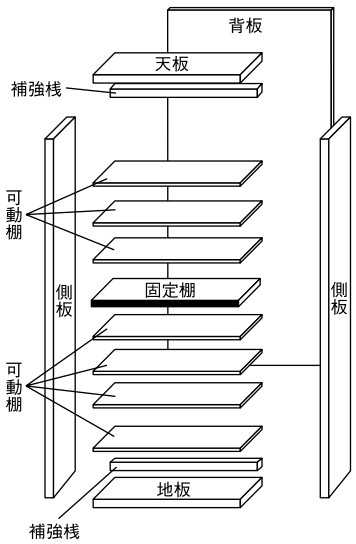
オプションパーツ	
スリッパ収納	スリッパ専用 ※スリッパ以外のものは収納しないでください。
傘収納	傘専用 ※傘以外のものは収納しないでください。
六連フック	2kg ※6個のフック全ての合計重量。
アミカゴ	2kg／個
スライドコートハンガー	8kg／本
回転トレー	300g／個
パイプハンガー	20kg／本
フック	1.5kg

玄関収納

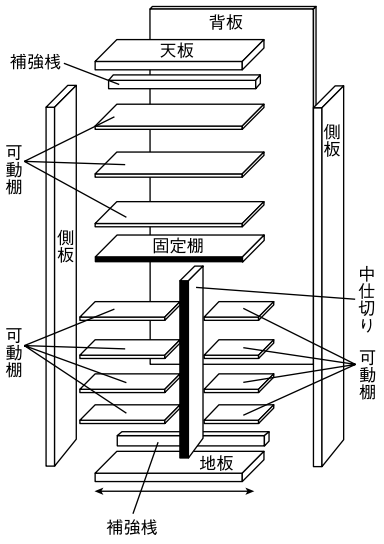
1. パーツ名称



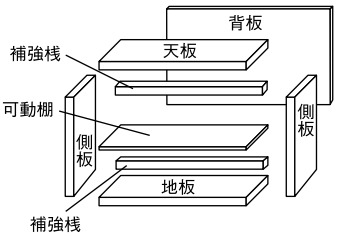
トールキャビネット（棚板タイプ）



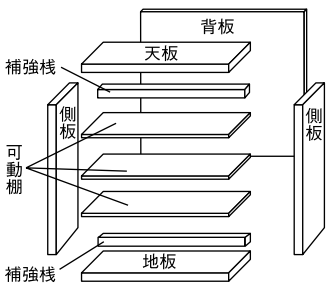
トールキャビネット（中仕切りタイプ）



ウォールキャビネット



フロアーキャビネット

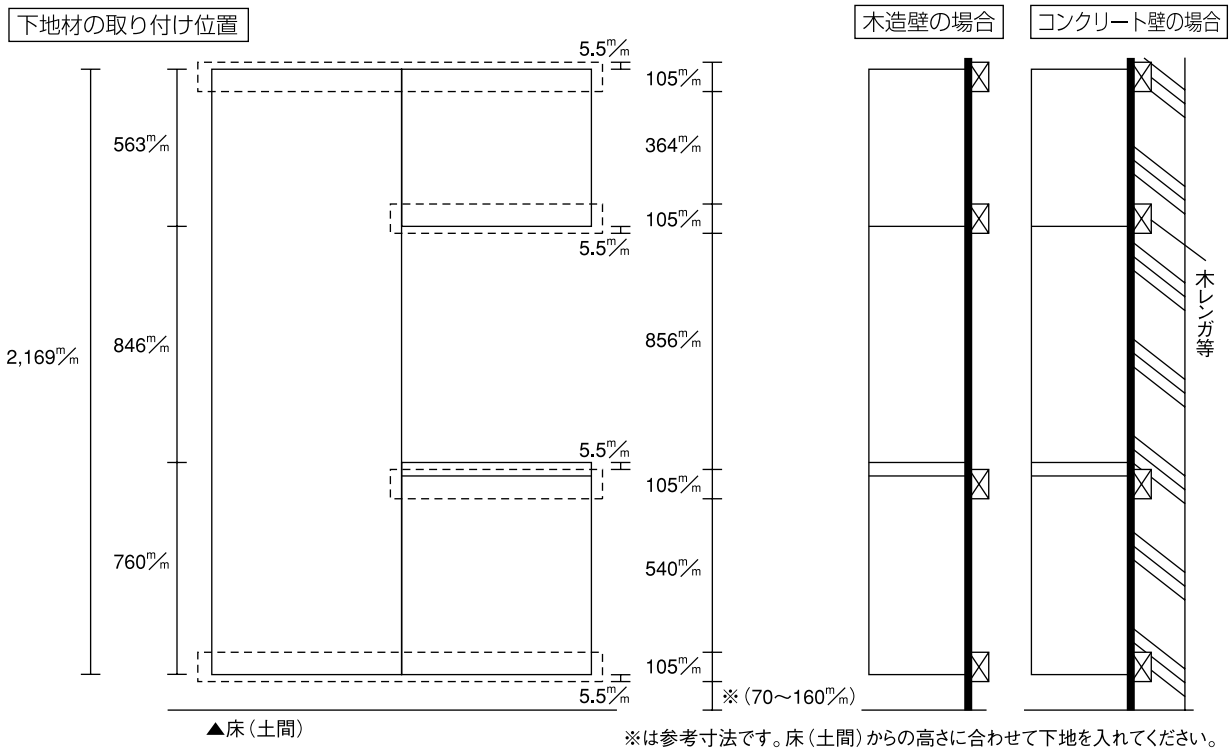


2. 下地処理

玄関収納のキャビネットは壁にビスで固定します。キャビネットに荷物を入れても重量に耐えれるように取り付ける壁下地の補強処理をおこなってください。補強が不十分だとキャビネットが転落するおそれがあります。

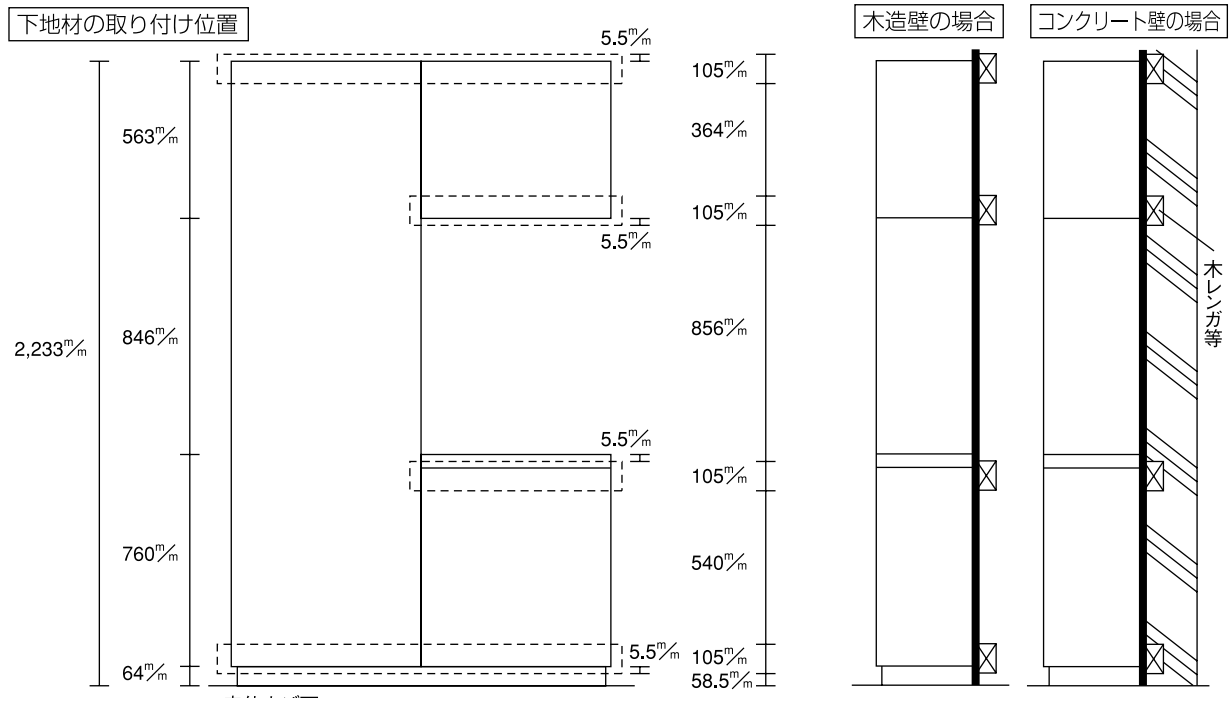
※下地用の木桟木は105㎜×30㎜以上の堅い木を使用してください。

① フロートタイプの場合



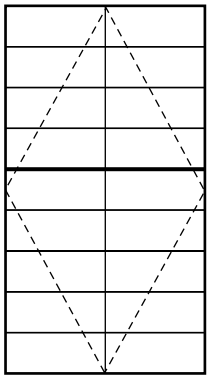
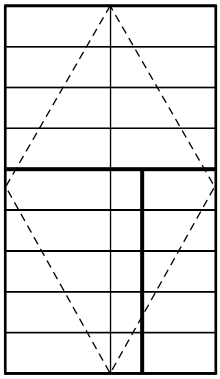
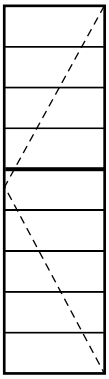
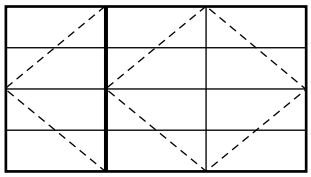
※は参考寸法です。床（土間）からの高さに合わせて下地を入れてください。

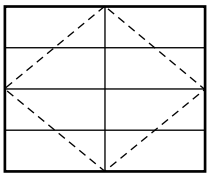
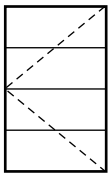
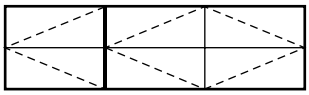
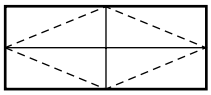
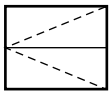
② 床置きタイプの場合



玄関収納

3. 梱包内訳

		トールキャビネット W＝796㎜タイプ（棚板タイプ）	トールキャビネット W＝796㎜タイプ（中仕切りタイプ）	トールキャビネット W＝398㎜タイプ	フロアーキャビネット W＝1,194㎜タイプ
					
側板		2枚	2枚	2枚	4枚
天板		1枚	1枚	1枚	2枚
地板		1枚	1枚	1枚	2枚
固定棚		1枚	1枚	1枚	－
支持材※フロートタイプの場合のみ		1本	1本	1本	2本
補強材		2本	2本	2本	4本
可動棚（764㎜）		7枚	3枚	－	3枚
可動棚（523㎜）		－	4枚	－	－
可動棚（366㎜）		－	－	7枚	3枚
可動棚（218㎜）		－	4枚	－	－
背板		1枚	1枚	1枚	2枚
中仕切り板		－	1枚	－	－
ミニフィックス本体		8個	8個	8個	24個
ミニフィックスボルト		8個	8個	8個	16個
可動棚ダボ		28個	44個	28個	24個
背板用ビス		24本	24本	24本	24本
キャビネット連結ビス		4本	4本	4本	8本
座金		6個	6個	3個	6個
固定棚受け金具		4個	4個	4個	－
固定棚受け金具取り付けネジ		4本	4本	4本	－
木ダボ		12本	16本	12本	20本
補強桟固定ビス		12本	12本	6本	18本
穴かくしキャップ		－	4個	－	－

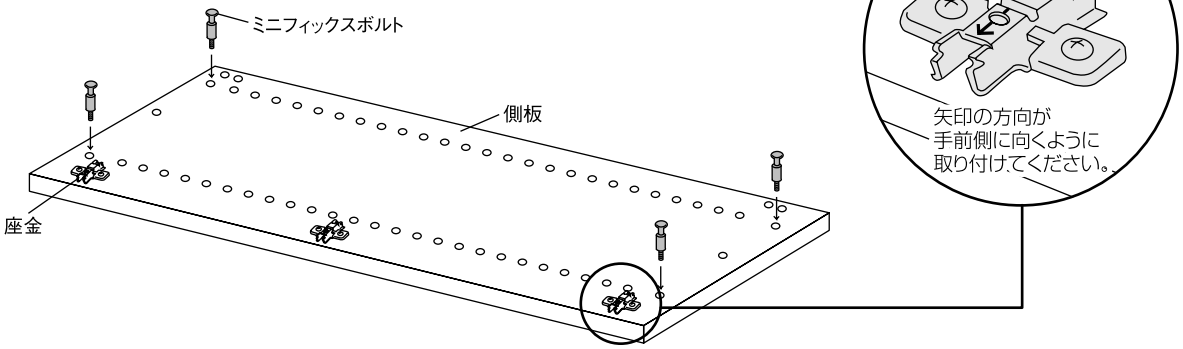
	フロアーキャビネット W＝796㎜タイプ	フロアーキャビネット W＝398㎜タイプ	ウォールキャビネット W＝1,194㎜タイプ	ウォールキャビネット W＝796㎜タイプ	ウォールキャビネット W＝398㎜タイプ
					
	2枚	2枚	4枚	2枚	2枚
	1枚	1枚	2枚	1枚	1枚
	1枚	1枚	2枚	1枚	1枚
	–	–	–	–	–
	1本	1本	–	–	–
	2本	2本	4本	2本	2本
	3枚	–	1枚	1枚	–
	–	–	–	–	–
	–	3枚	1枚	–	1枚
	–	–	–	–	–
	1枚	1枚	2枚	1枚	1枚
	–	–	–	–	–
	12個	12個	16個	8個	8個
	8個	8個	16個	8個	8個
	12個	12個	8個	4個	4個
	12本	12本	24本	12本	12本
	4本	4本	8本	4本	4本
	4個	2個	6個	4個	2個
	–	–	–	–	–
	–	–	–	–	–
	10本	10本	24本	12本	12本
	12本	6本	12本	8本	6本
	–	–	–	–	–

玄関収納

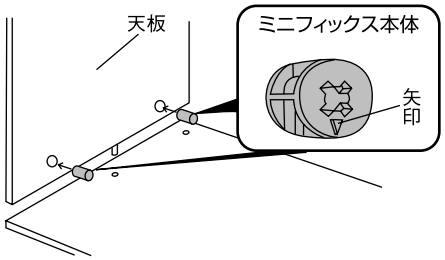
4. 施工手順

① トールキャビネットの組み立て

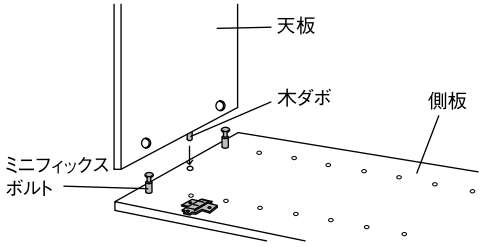
（1）左右の側板に座金と、ミニフィックスボルトを取り付けます。
ミニフィックスボルトは側板のシステム穴の一番上側2ヵ所と、一番下側2ヵ所に取り付けます。
巾398㎜タイプの場合は、座金の取り付けは吊り元側の側板のみです。



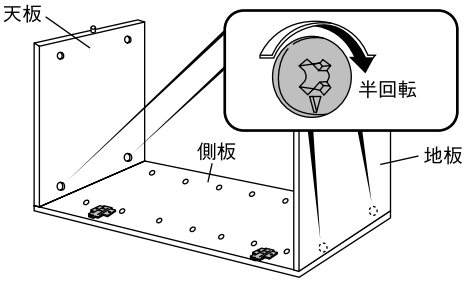
（2）天板に木ダボを取り付けます。
次にミニフィックスの矢印が木口の穴が空いている方へ合わせて取り付けます。



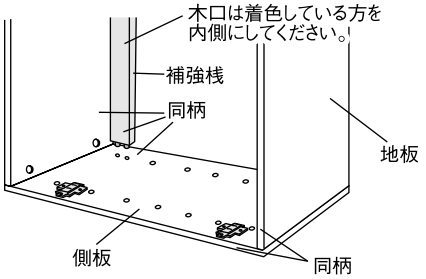
（3）左右の側板どちらかを床に置き、天板の穴のあいている面が内側になるようにして、側板のミニフィックスボルトと天板の木ダボに合わせて差し込みます。



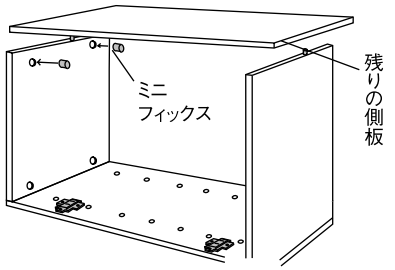
（4）プラスドライバーで、各々のミニフィックス本体を時計回りに約半回転まわして固定します。



（5）補強桟をキャビネットの上下に、取り付け用のダボ穴に合わせて差し込みます。表と裏を確認してセットしてください。

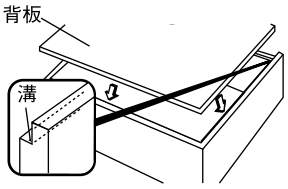


（6）残りの側板をミニフィックスボルトと木ダボに合わせて差し込んで取り付け、（4）、（5）と同様にミニフィックス本体を固定します。

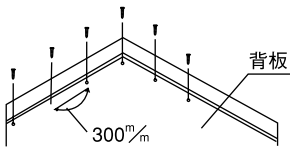


背板の取り付け

（1）側板に切り込んである溝に背板をはめ込みます。

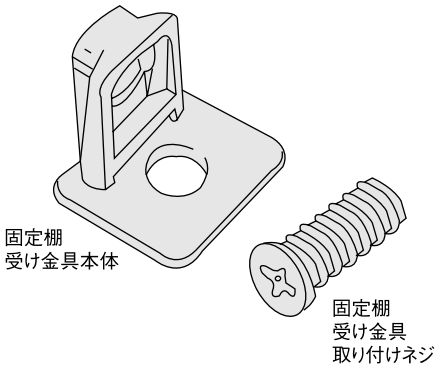


（2）背板の外側から約5㎜の位置に背板止め用の木ネジを約300㎜間隔で打ち込みます。仕上がりをきれいにするために、木ネジを天板・地板・側板側に少し斜めに打ち込んでください。

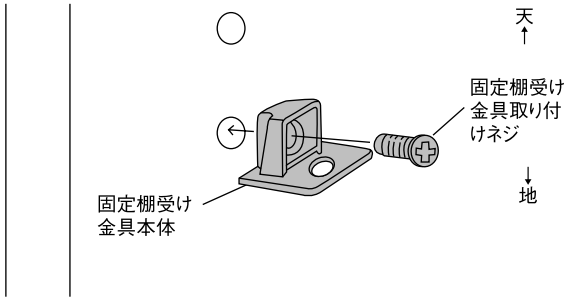


② トールキャビネットの固定棚の取り付け

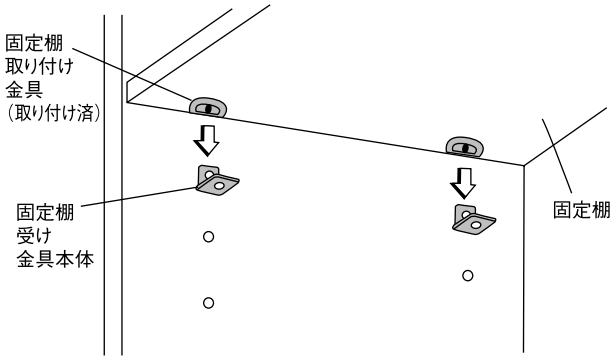
使用する部品



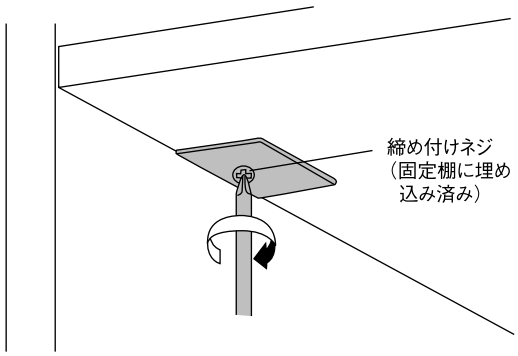
（1）固定棚受け金具本体を同梱の固定棚受け金具取り付けネジでシステム穴を利用して取り付けます。



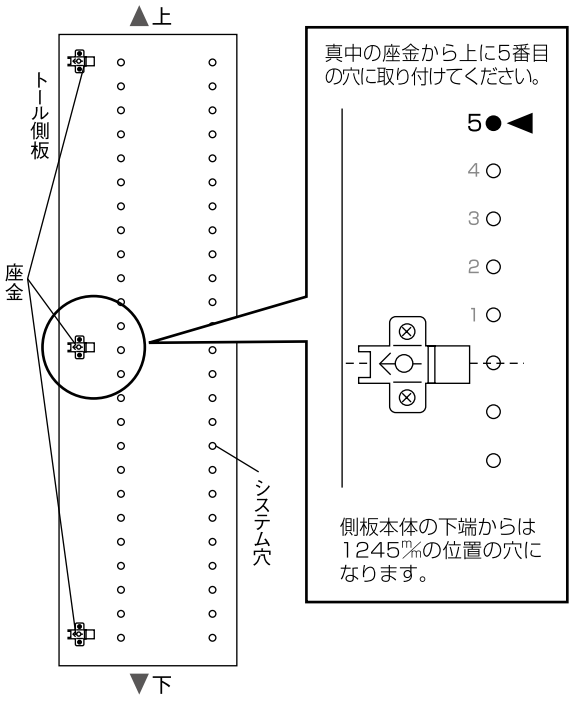
（2）固定棚受け金具本体と固定棚側の取り付け金具とがかみ合うように、上側から固定棚を差し込みます。



（3）下側から固定棚側のネジを半回転まわして固定します。

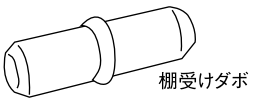


固定棚の取り付け位置

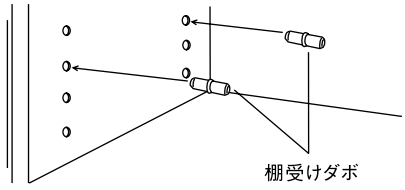


③可動棚の取り付け（全キャビネット共通）

使用する部品

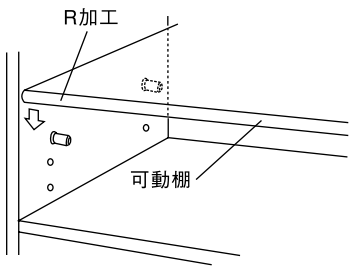


棚受けダボを側板のシステム穴に差し込みます。



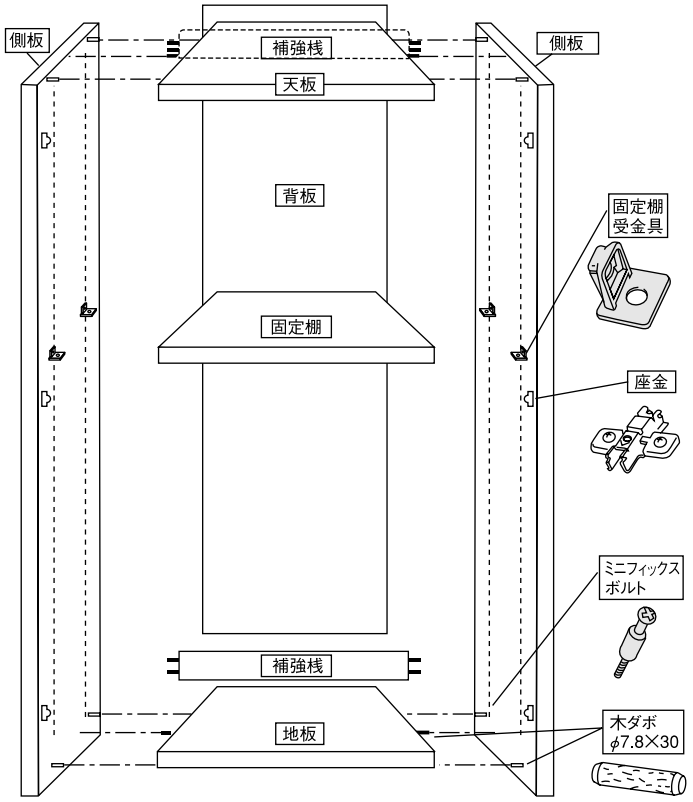
棚受けダボの上に可動棚をセットします。

（R加工をしている方を手前にしてください。）



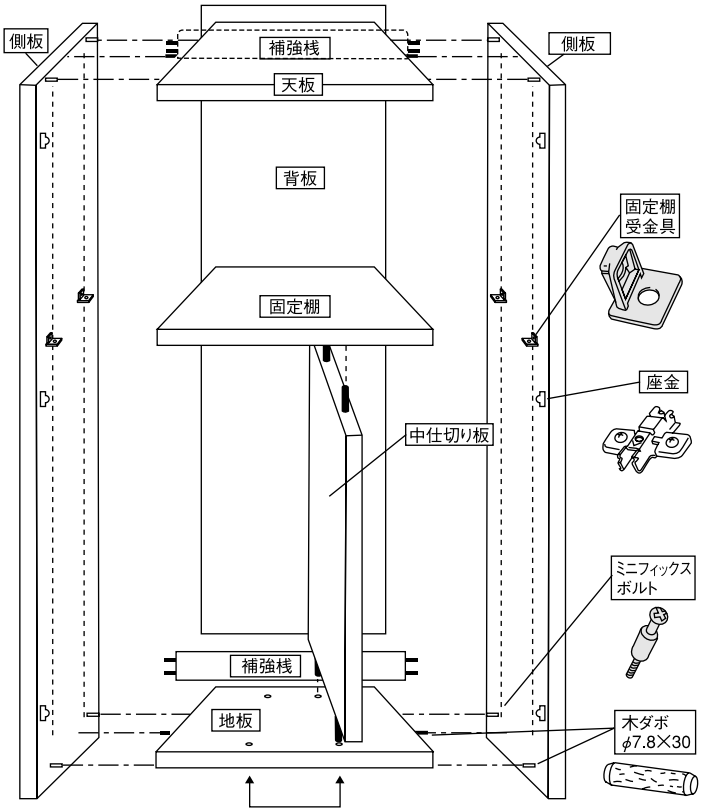
玄関収納

棚板タイプ



※可動棚は表示していません。

中仕切タイプ

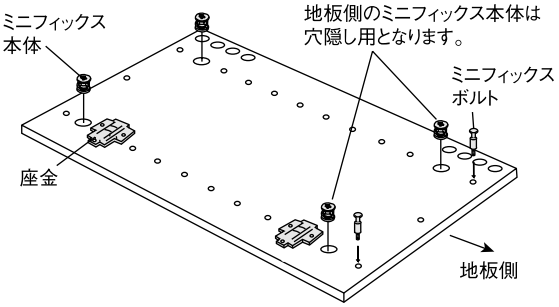


※可動棚は表示していません。

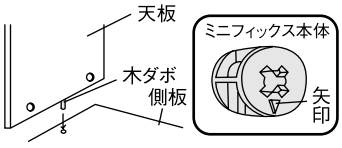
※中仕切り板は左右選択できます。

④ フロアーキャビネットの組み立て

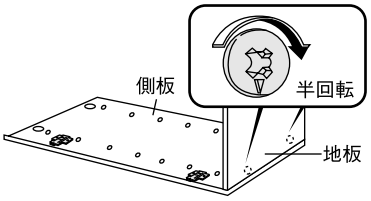
(1) 左右の側板に座金を取り付け後、ミニフィックス本体を取り付けます。このときミニフィックス本体についている矢印が木口の穴へ向くように取り付けます。ミニフィックスボルトはキャビネットの地板と接する側へ取り付けてください。



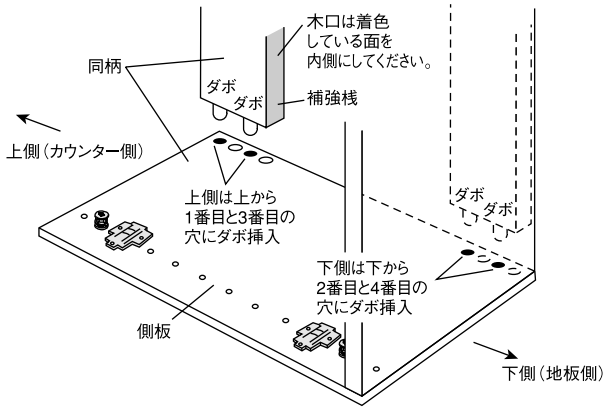
(2) 左右の側板どちらかを床に置き、地板へ木ダボを差し込みます。このときミニフィックス本体についている矢印が木口の穴へ向くように取り付けます。



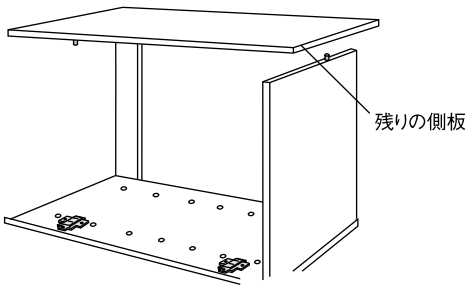
(3) 側板のミニフィックスボルトと地板の木ダボに合わせて差し込みます。プラスドライバーで、ミニフィックス本体を時計回りに約半回転まわして固定します。



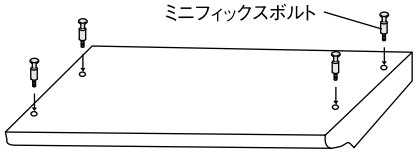
(4) 補強桟をキャビネットの上下に、取り付け用のダボ穴に合わせて差し込みます。表と裏を確認してセットして下さい。



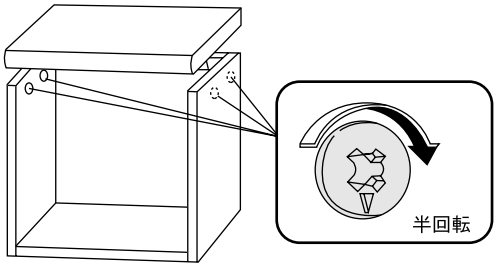
(5) 残りの側板をミニフィックスと地板の木ダボに合わせて差し込んで取り付け、(3) と同様にミニフィックス本体を固定します。

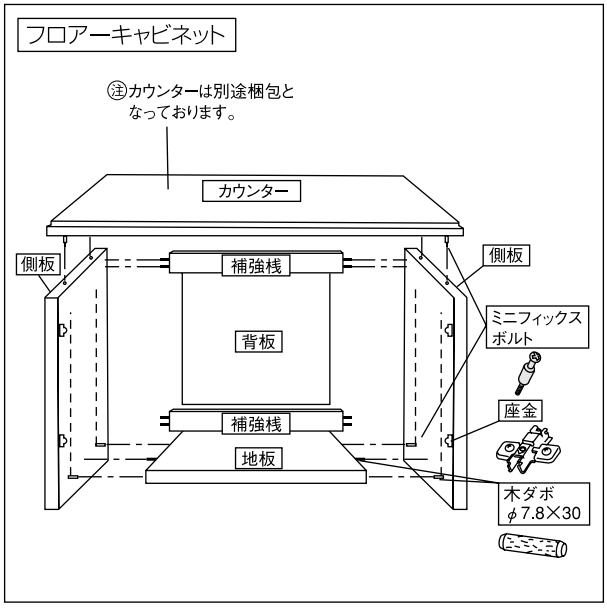


(6) カウンターの裏側からミニフィックスボルトを取り付けます。



(7) (1)～(5) で組み立てたボックスを立てて、上からカウンターのミニフィックスボルトを側板の木口の穴に合わせて差し込みます。(3) と同様にミニフィックス本体を固定します。



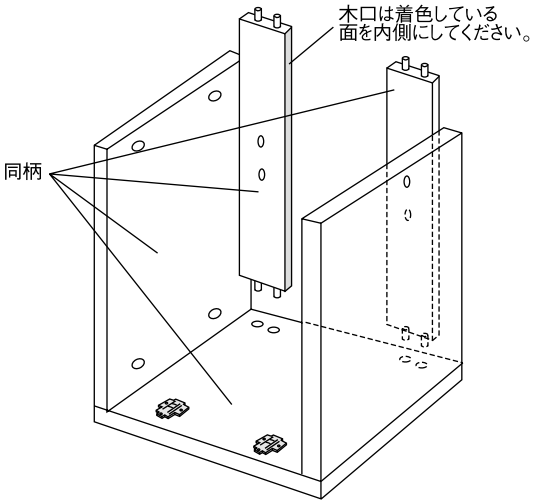


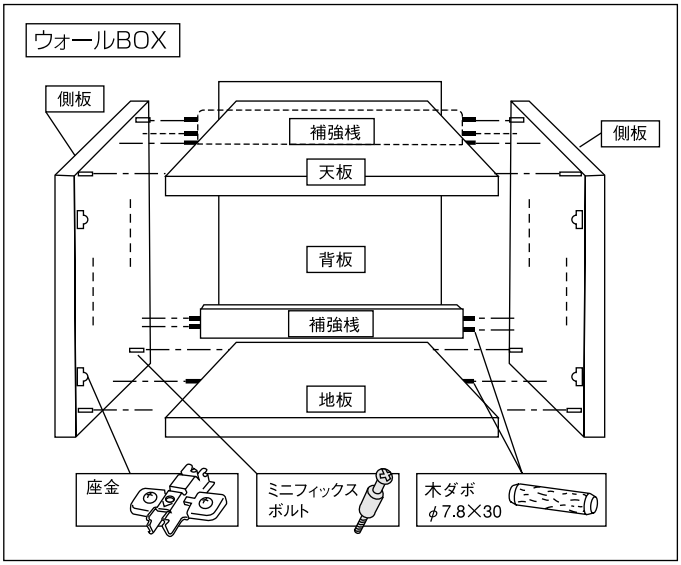
玄関収納

⑤ ウォールキャビネットの組み立て

フロアーキャビネットと同様の手順で組み立ててください。

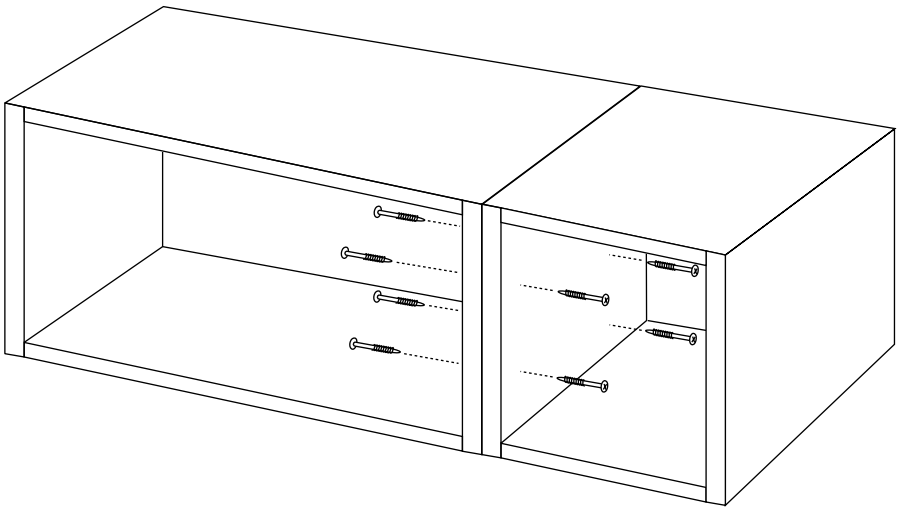
（1）補強桟の表面シート柄は側板、天地板のシート柄と同柄となります。





1194㎜キャビネットの場合（全キャビネット共通）

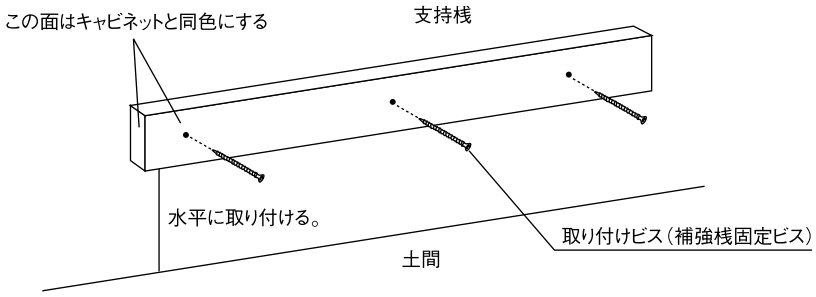
個々に組み立てしたキャビネットを連結ビスで固定します。
片扉の左右勝手を確認の上両側から計8ヶ所で固定します。



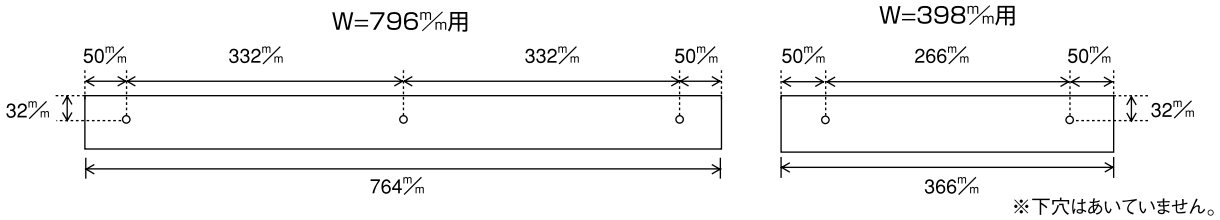
5. 壁面への固定

① フロートタイプの場合

支持桟の水平を確認して取り付けビス（補強桟固定ビス）で壁面に固定してください。

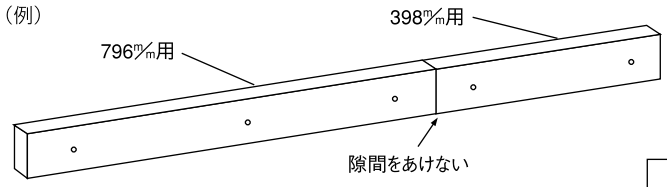


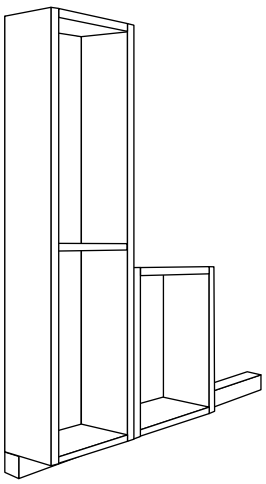
下図の寸法位置に取り付けビス（補強桟固定ビス）を打ち込んでください。



※下穴はあいていません。

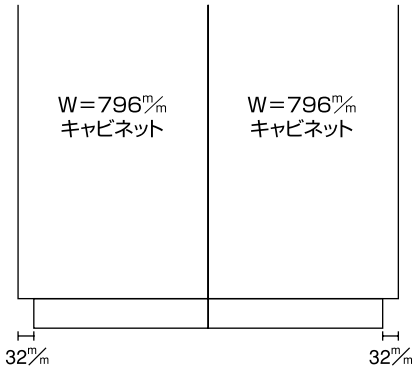
キャビネットが2つ以上並ぶ場合は接合部をしっかり密着させて連結させてください。





キャビネットを支持桟の上に乗せ、下地を施工した場所へビス固定をしてください。

例）W＝796㎜キャビネットを2つ連結させる場合



キャビネットを2つ以上連結させる場合は、支持桟を中心に合わせ、左右均等にクリアランスをとるように施工してください。

※化粧天板の取り付けの場合は、P13をご参照ください。

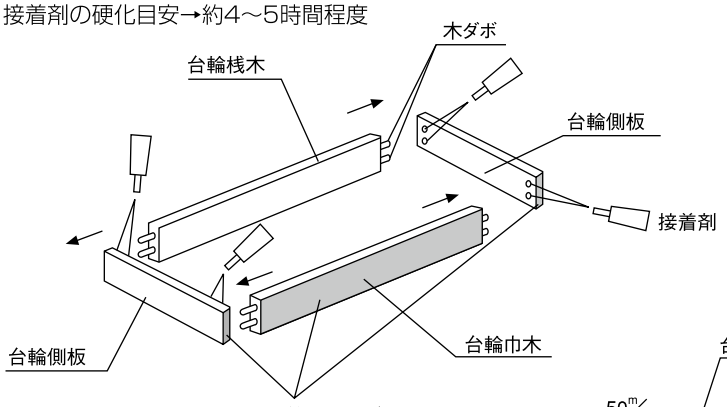
⚠ 注意

危険ですのでトール・ウォールキャビネットの取り付けは2人以上でおこなってください。

玄関収納

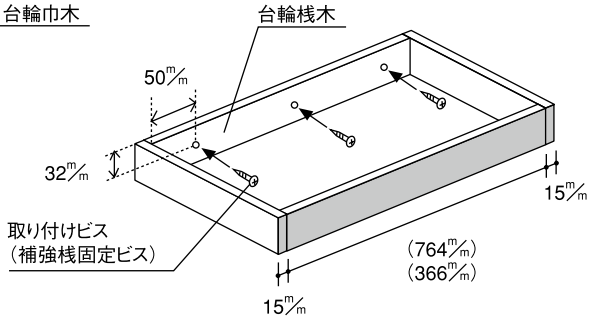
② 床置きタイプの場合

台輪側板のダボ穴に同梱の接着剤を適量塗布し組み立ててください。
※接着剤がはみ出さないように注意してください。
　接着剤を塗布したらすぐに組み立ててください。
　接着剤の硬化目安→約4～5時間程度

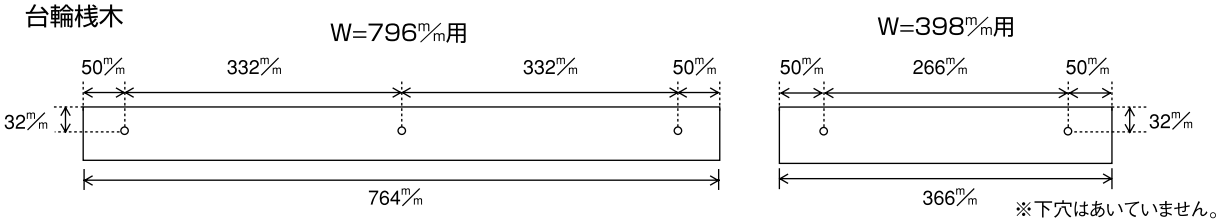


台輪セット内訳	
台輪側板	2本
台輪巾木	1本
台輪桟木	1本
地板連結ビス（ビスキャップ付）	2本
木ダボ	8本
接着剤（10g）	1個
補強桟ビス（W=398㎜用）	2本
補強桟ビス（W=796㎜用）	3本
連結ビス（W=398㎜用）	1本
連結ビス（W=796㎜用）	1本

台輪桟木が壁面に接するようにし、台輪桟木に取り付けビス（補強桟固定ビス）を図の位置に固定してください。



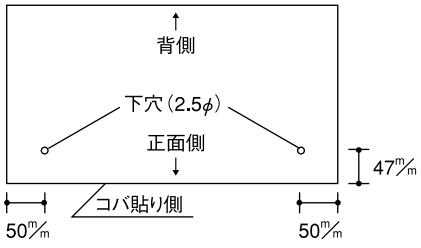
台輪桟木

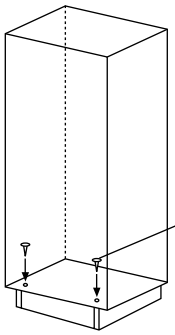


※下穴はあいていません。

台輪の上部にキャビネットをのせて地板の（図1）の位置に下穴（2.5φ）をあけ、地板連結ビスで連結してください。
その後に、壁面下地の位置にキャビネットを固定してください。

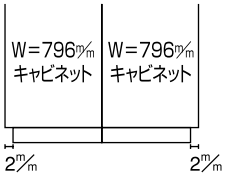
（図1）　W=796㎜の場合



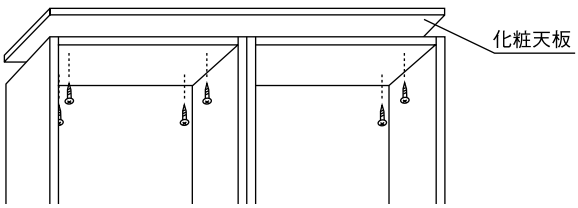


①台輪の上にキャビネットをのせる
②下穴をあけ、地板側から連結させる。

例）W=796㎜キャビネットを2つ連結させる場合

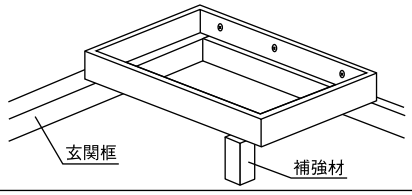


キャビネットを2つ以上連結させる場合は、台輪を中心に合わせ、左右均等にクリアランスをとるように施工してください。



化粧天板を取り付ける場合は、キャビネット側から下穴をあけ、ビス（現場調達）で連結させてください。

玄関框に台輪が少しだけかかる場合



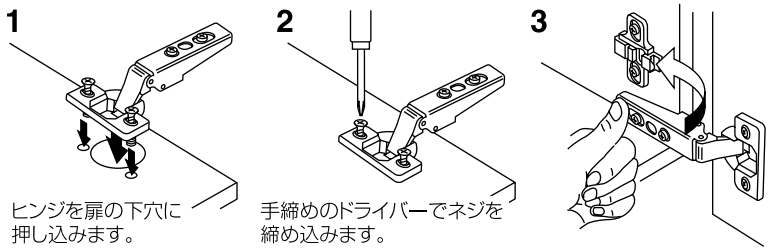
キャビネットをのせる前に荷重で台輪が壊れないように施工が終わるまで補強材（現場調達）をつけておいてください。

⚠ 注意

危険ですのでトール・ウォールキャビネットの取り付けは2人以上でおこなってください。

6. 扉の取り付け・調整方法

① 扉の取付け（スライド丁番の取付け）

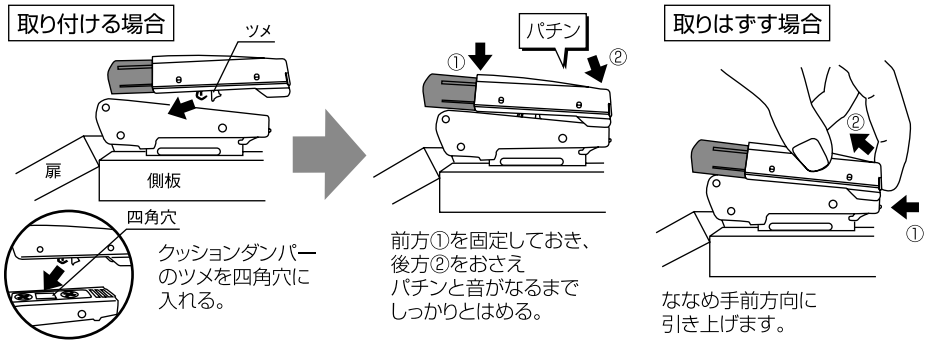


扉をキャビネットに取付けるにはヒンジアームの前部を先に合わせ座金に軽く指で押すだけです。

⚠ 注意

扉にヒンジを取り付ける際には、インパクトドライバーを使用しないでください。

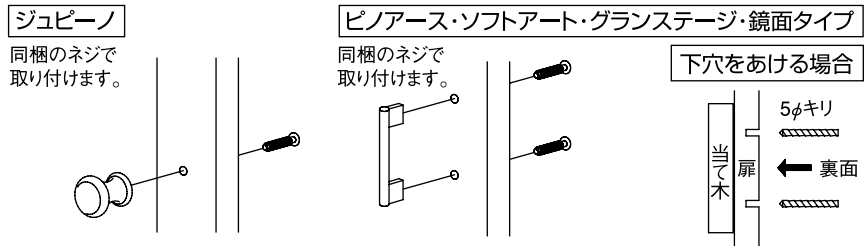
② クッションダンパーの着脱



⚠ 注意

無理な脱着は、部品破損原因になります。

③ 取手の取付け（堀込取手の場合は除きます）



お願い

下穴をあける場合は、扉表面に当て木をして、バリ発生を防いでください。

④ 扉の調整（スライドヒンジの調整）

扉の左右調整

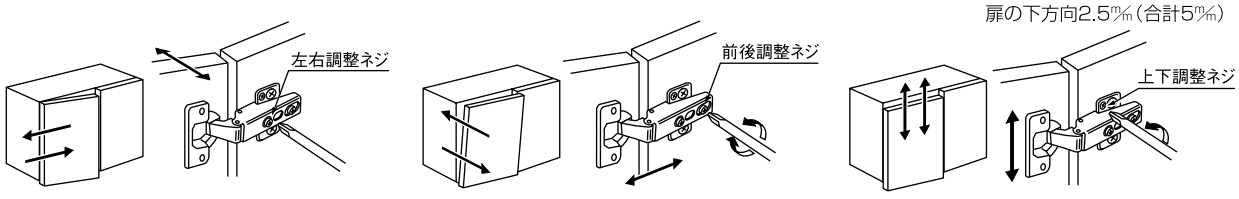
◆左右調整ネジを回して左右調整してください。
アジャスト量:扉の内方向4㎜

扉の前後調整

◆前後調整ネジをゆるめて前後調整した後、締め直してください。
アジャスト量:扉の前方向2㎜
扉の後方向2㎜（合計4㎜）

扉の上下調整

◆（座金により移動が可能です）
上下調整ネジをゆるめて上下調整した後、締め直してください。
アジャスト量:扉の上方向2.5㎜
扉の下方向2.5㎜（合計5㎜）



お願い

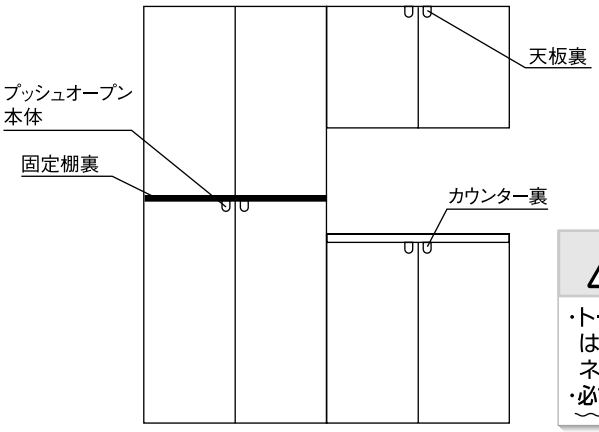
調整ネジの調整はインパクトドライバーは使用しないでください。
調整ネジの破損の原因になりますので必ず手締めのドライバーで調整してください。

玄関収納

7. オプション部材

① プッシュオープン ※ピノアース・ジュピーノシリーズは対応しておりません。

固定棚（トール）・天板（ウォール）・カウンター（フロアー）にプッシュオープン本体を取り付けます。

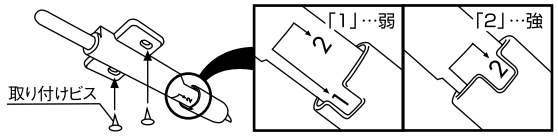


セット内訳	
プッシュオープン本体	1個
プッシュオープン取り付けビス	2本
穴かくしキャップ	2個
プッシュオープン受け	1個
プッシュオープン受け取り付けビス	1本

⚠ 注意

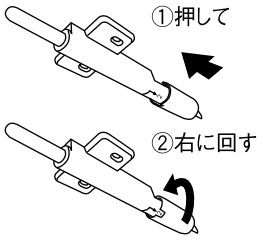
・トール・ウォール用の型紙はキャビネット本体に、フロア用の型紙はカウンターに同梱しております。トール・フロア・ウォールキャビネットで型紙は異なりますので注意してください。
・必ず下穴を空けてからキャビネット本体の組み立てをおこなってください。

プッシュオープンの調整
取り付け前に必ず調整してください。

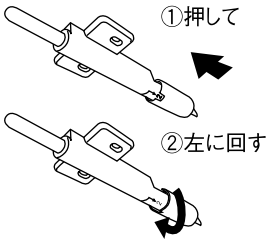


●ウォール・フロアキャビネットの場合…「1」にする。
●トールキャビネットの場合…「2」にする。
※出荷時は1になっています。

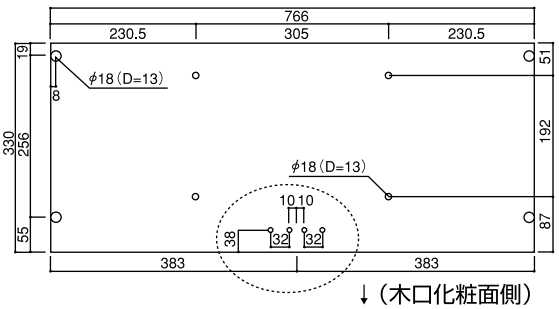
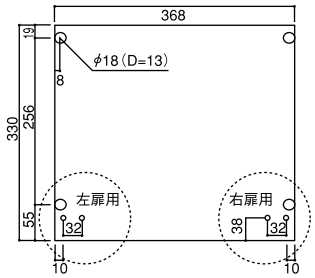
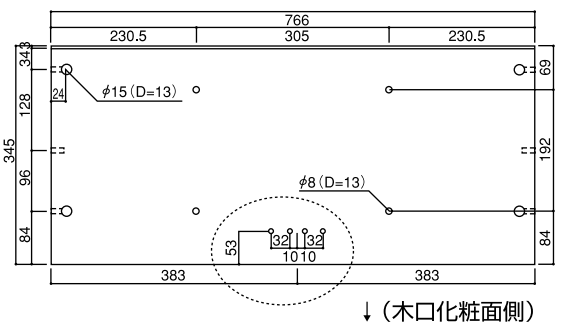
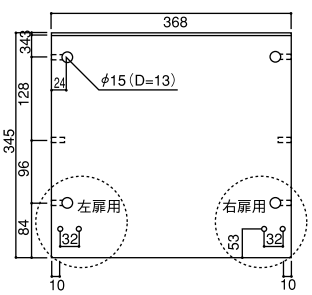
「1」→「2」にする場合



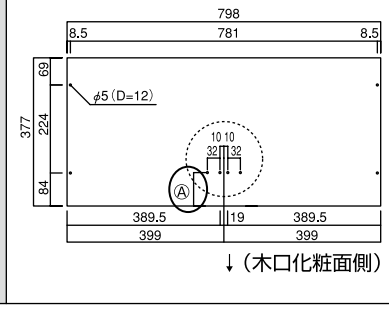
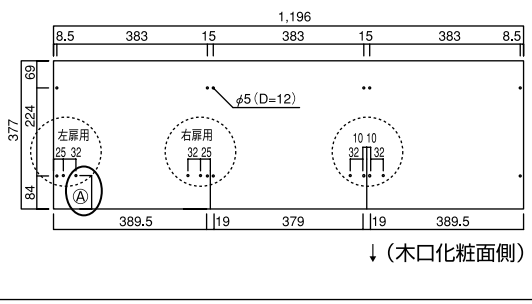
「2」→「1」にする場合



プッシュオープン本体取り付け用下穴加工位置参照図面

	W＝796㎜用	W＝398㎜用
トールキャビネットの場合（固定棚裏）		
ウォールキャビネットの場合（天板裏）		

プッシュオープン本体取り付け用下穴加工位置参照図面

	W＝796㎜用	W＝1194㎜用
フロアーキャビネットの場合（カウンター裏）		

Ⓐのサイズ（㎜）	
グランステージ	80
ソフトアート	85
ソフトアート（鏡面タイプ）	78

注意！ 型紙通りの位置に取り付けないと、プッシュオープンがうまく作動せず開閉に支障をきたす場合があります。

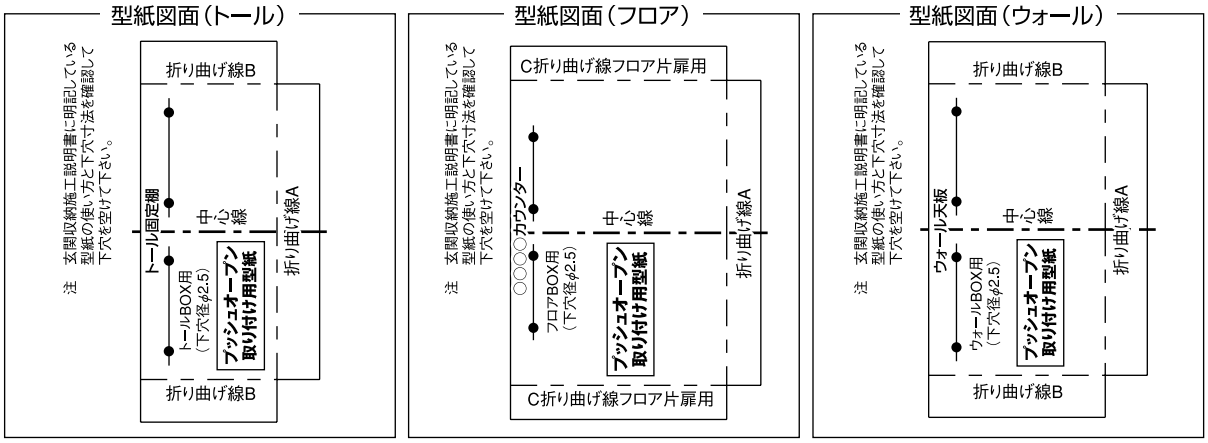
（1）型紙を使用してプッシュオープン取り付け位置に下穴をあけてください。

参照 型紙の使い方

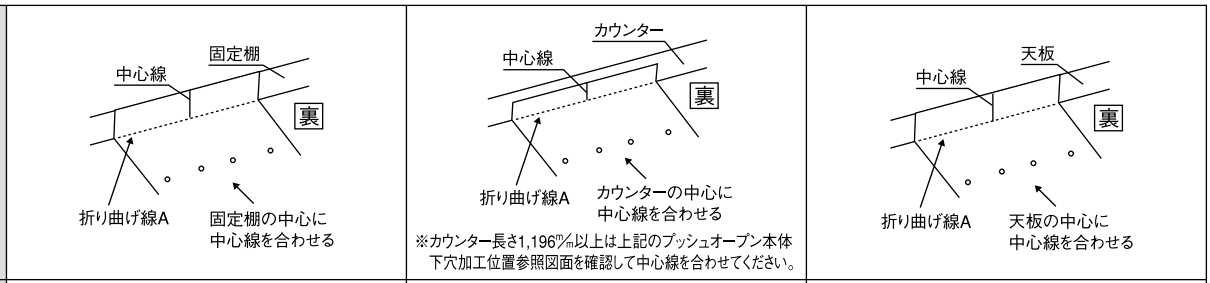
⚠ 注意

トール・ウォール用の型紙はキャビネット本体に、フロア用の型紙はカウンターに同梱しております。

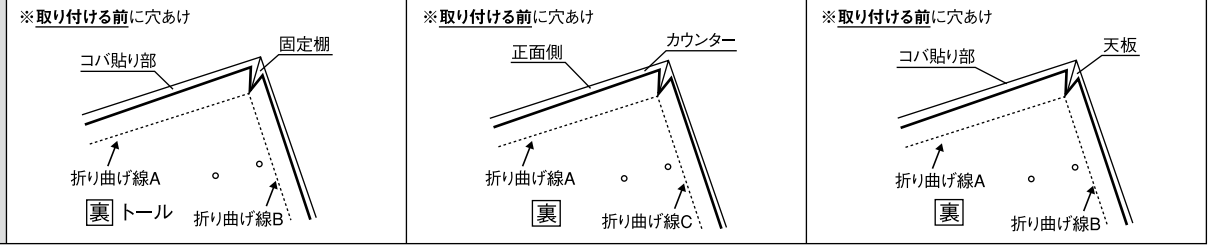
トール・フロア・ウォールキャビネットで型紙は異なりますので注意してください。
両開きの場合は、固定棚・天板・カウンターの中心に型紙の中心線を合わせてください。
※部材を取り付ける前に下穴をあけておいてください。



両開きの場合



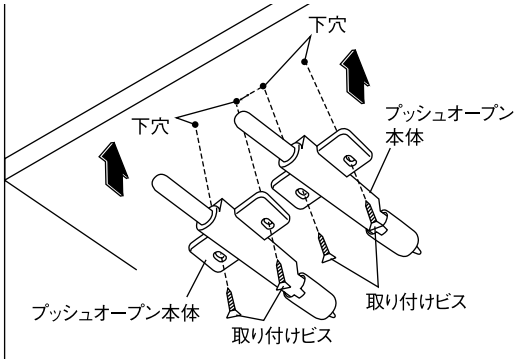
片開きの場合



玄関収納

(2) 下穴の位置に合わせてプッシュオープン本体を取り付けます。

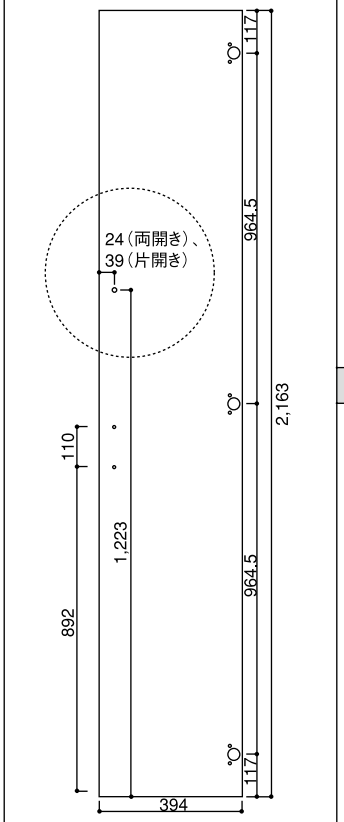
型紙を使用してあけた下穴にプッシュオープン本体を同梱の取り付けビスで固定させます。



(3) 扉の裏側にプッシュオープン受けを取り付ける。
※参照図面で位置を確認して下穴(2.5φ)を空けてプッシュオープン受けを取り付けてください。

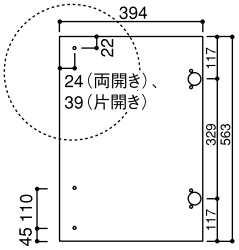
プッシュオープン受け取り付け用下穴位置参照図面

トール扉



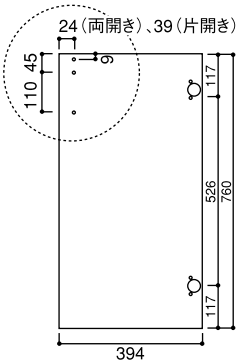
※図面は左吊用扉です。

ウォール扉

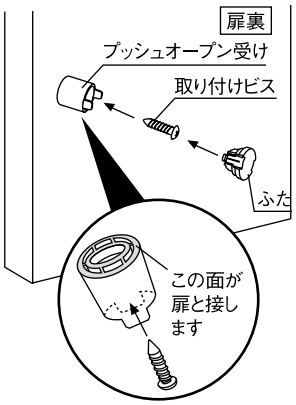


※図面は左吊用扉です。

フロアー扉



※図面は左吊用扉です。

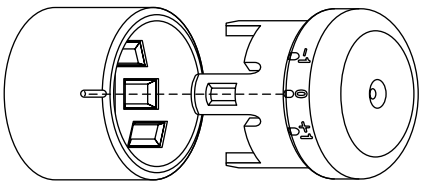


⚠ 注意

ビスの取り付けはインパクトドライバーを使用しないでください。手締めのドライバーで締めてください。

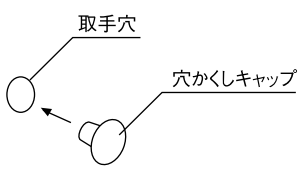
プッシュオープン受けの取り付けについて

戸先側(丁番と逆方向)に下穴をあけてください。
ふたを取り付ける際に下図のようにOの位置に合わせてはめてください。



※1 プッシュオープンの強弱を調整する場合	O…通常 −1…1㎜低くなる +1…1㎜高くなる

(4) 扉裏の取っ手取り付け用の加工穴(半貫通)に、穴隠しキャップを取り付ける。
(プッシュオープンにした場合、取っ手は取り付けないため)



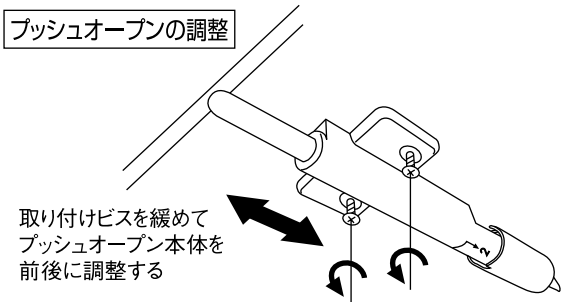
⚠ 注意

扉1枚に対し、取っ手取り付け用の加工穴(半貫通)は2ヶ所空いています。

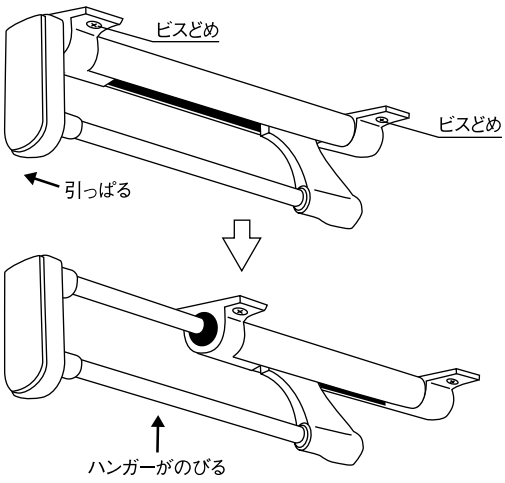
(5) プッシュオープン本体を取り付け後、扉の開閉動作を4〜5回おこない、開閉に問題がないか確認してください。

プッシュオープンがうまく作動しない場合は、取り付けビスを緩めて、プッシュオープン本体を前後に調整をしてください。
※プッシュオープン受けでも強弱の調整は可能です。【※1参照】

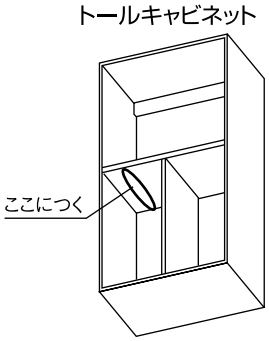
プッシュオープンの調整

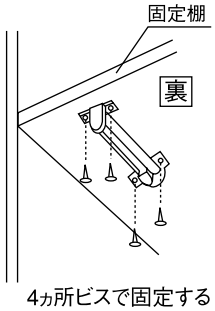


② コート収納（スライドコートハンガー）



セット内訳	
スライドコートハンガー本体	1個
スライドコートハンガー取り付けビス	4本



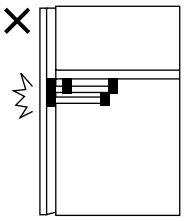


4ヵ所ビスで固定する

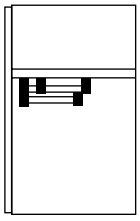
同梱のビスで4ヵ所トールキャビネットの固定棚に取り付けます。
※必ず下穴（2.5φ）をあけてからビスを打ち込んでください。

⚠ 注意

スライドコートハンガーを納めた状態で扉の開閉に支障をきたさない場所に取り付けてください。



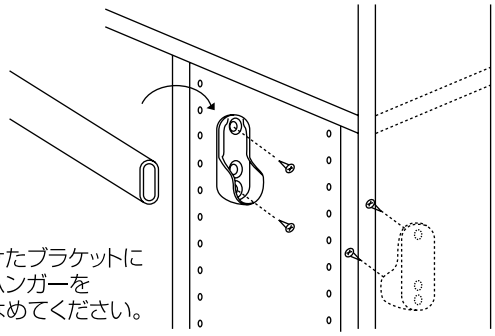
扉を閉めたとき あたって しまう



扉を閉めても あたらない 位置に 取り付け

③ 傘収納（傘受けトレー・フック）

※セット品ではありません。必要な部品を組み合わせてご使用ください。

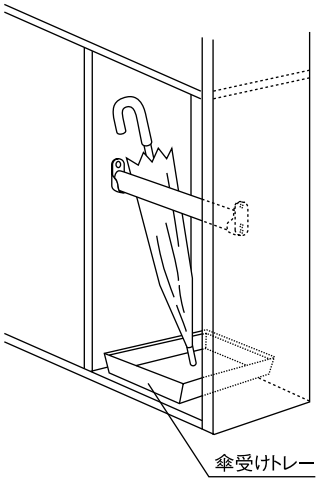


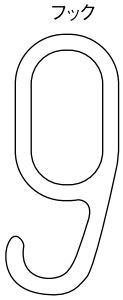
取り付けたブラケットに パイプハンガーを 上からはめてください。

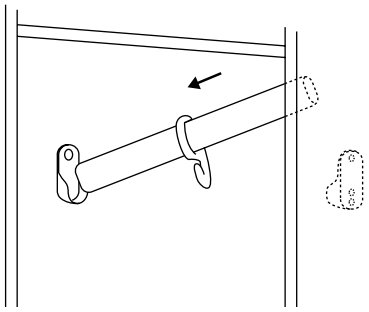
パイプハンガーブラケットを任意の位置に同梱のビスで取り付けてください。

⚠ 注意

ブラケットの高さは左右対象で同じ高さに取り付けてください。
ブラケットの取り付けは、システム穴の位置を避けてください。
ビス取り付けの前に下穴（2.5φ）をあけてください。







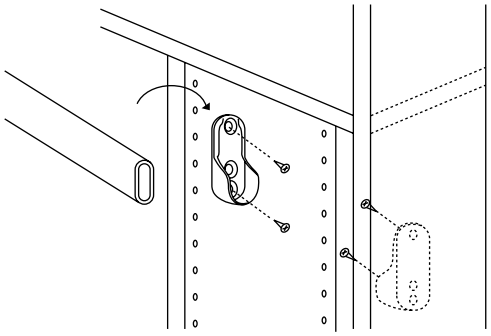
フックを取り付ける場合は、パイプハンガーをブラケットに設置する前にパイプハンガーにフックを通しておいてください。

⚠ 注意

傘を収納する際は十分に乾かしてから収納してください。

玄関収納

④ ブーツハンガー（パイプハンガーセット・フック）



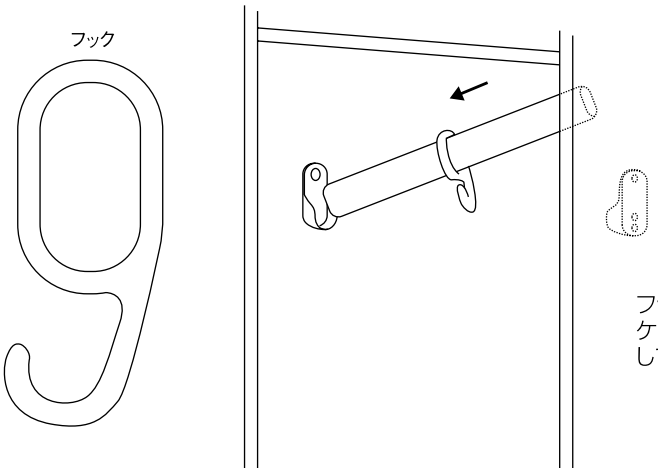
取り付けたブラケットにパイプハンガーを上からはめてください。

ブラケットを任意の位置に同梱のビスで取り付けてください。

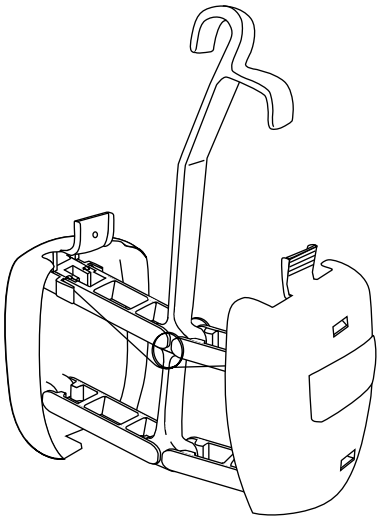
セット内訳		
ブーツハンガー		2個
パイプハンガー（ブラケット2個）	W=764㎜	パイプ1本・ブラケット2個・取り付けビス4本
	W=366㎜	パイプ1本・ブラケット2個・取り付けビス4本
	W=218㎜	パイプ1本・ブラケット2個・取り付けビス4本
	W=523㎜	パイプ1本・ブラケット2個・取り付けビス4本
フック		5個

⚠ 注意

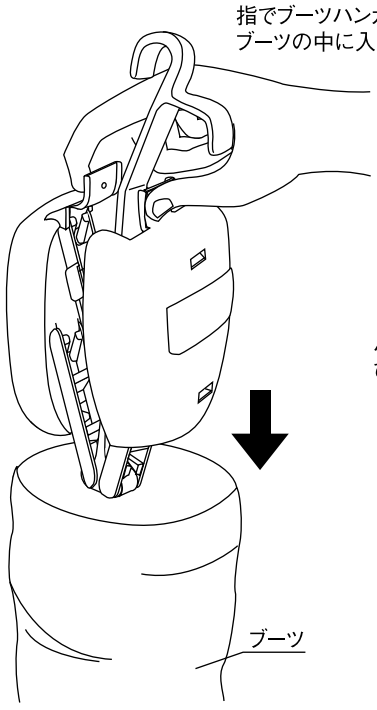
ブラケットの高さは左右対象で同じ高さに取り付けてください。
ブラケットの取り付けは、システム穴の位置を避けてください。
ビス取り付けの前に下穴（2.5φ）をあけてください。

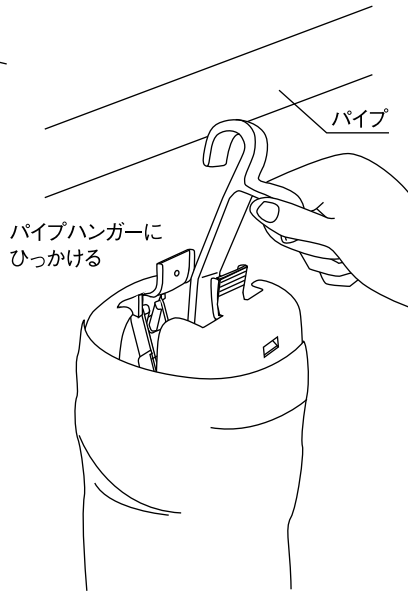


フックを取り付ける場合は、パイプハンガーをブラケットに設置する前にパイプハンガーにフックを通しておいてください。



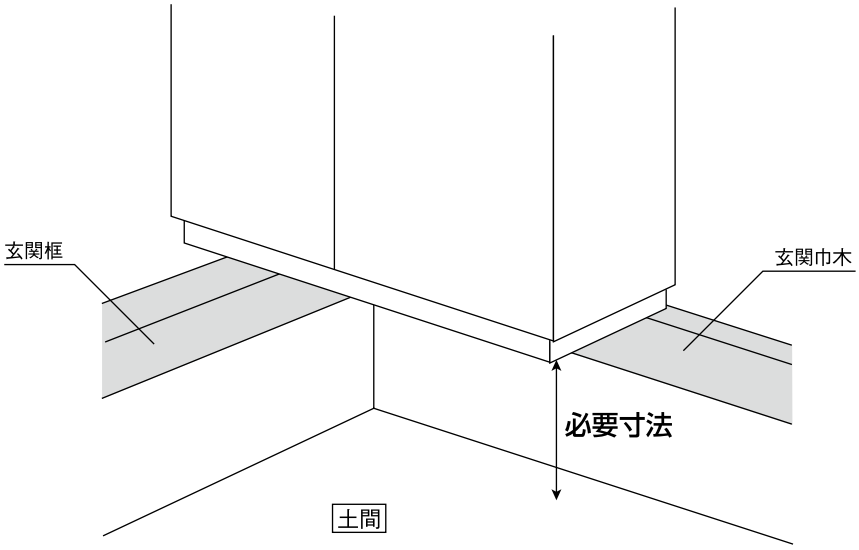
ブーツハンガー



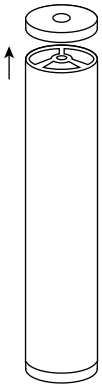


⑤ アルミ脚（台輪施工の場合のみ）

セット内訳	
脚本体	2本
脚取り付けネジ	2本



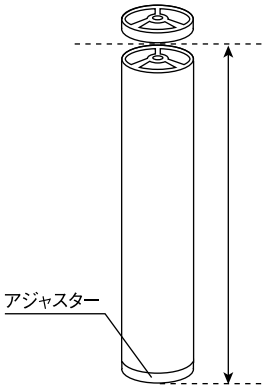
（1）キャップをはずしてください。



⚠ 注意

脚はアルミ製ですので金物専用のノコでカットしてください。木材専用のノコでカットすると、ノコが破損してしまうおそれがあります。

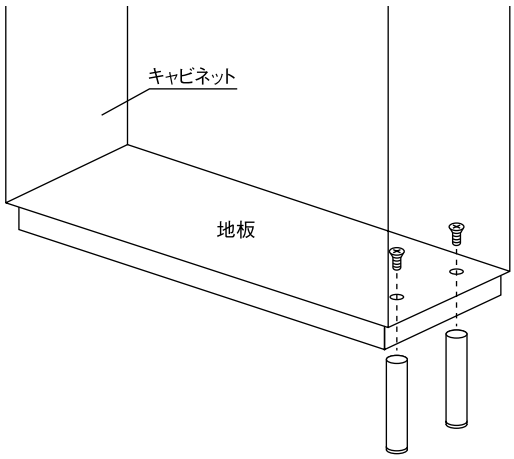
（2）必要寸法から**5～10㎜程度短めに**カットし、キャップをはめてください。



⚠ 注意

脚をカットする際はアジャスター側をカットしないよう、気をつけてください。また、カットは斜めにならないように気をつけてください。

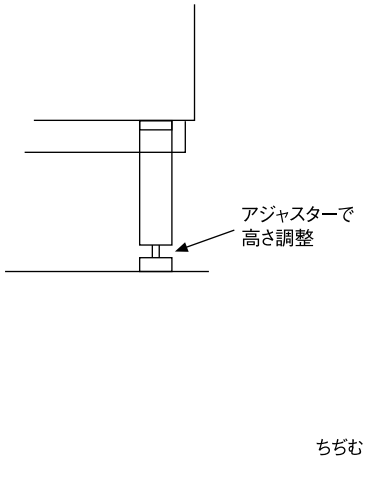
（3）任意の位置でキャビネットの地板側から下穴（6φ）をあけて、同梱のネジで地板と脚を固定させてください。



⚠ 注意

最後までしっかりとネジを締めてください。ネジが緩んでいるとキャビネットなどが転倒し、ケガをするおそれがあります。

（4）必要寸法に合わせてアジャスターで寸法を調整してください。



右にまわす→アジャスターがのびる
左にまわす→アジャスターがちぢむ

アジャスター　約20㎜調整可能

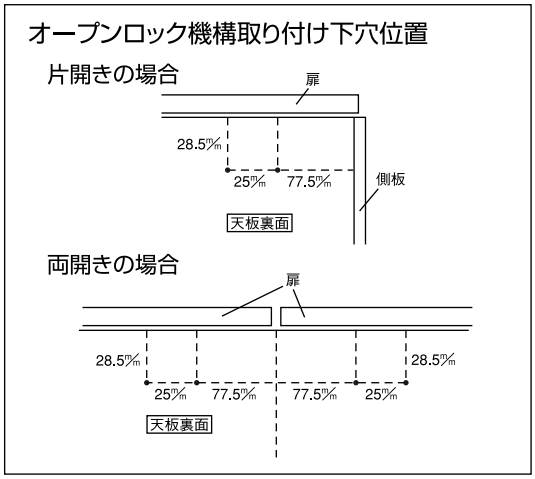
玄関収納

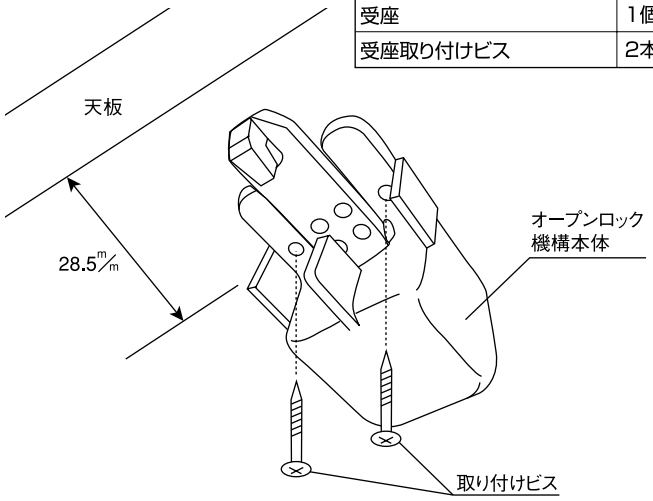
⑥ オープンロック機構 ※フロアーキャビネットには取り付けできません。

（1）本体の取り付け

オープンロック機構本体をキャビネット天板の指定の位置に下穴（2.5φ）をあけ、取り付けビスで取り付けてください。

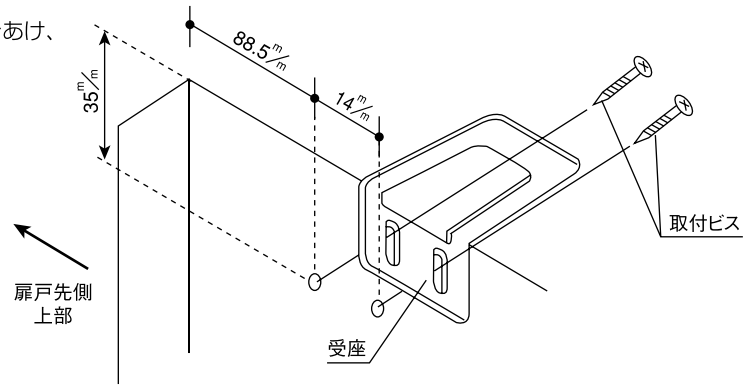
セット内訳	
オープンロック機構本体	1個
オープンロック機構取り付けビス	2本
受座	1個
受座取り付けビス	2本





（2）受座の取り付け

受座を扉裏面の指定の位置に下穴（2.5φ）をあけ、取り付けビスで取り付けてください。

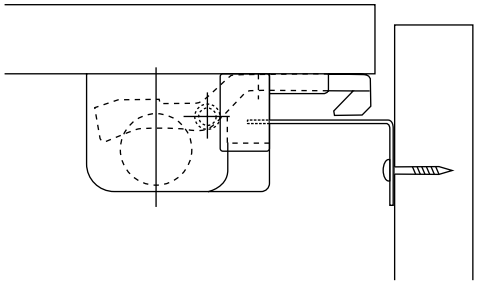


※取り付け寸法図の受座取り付け位置は、受座の長穴の中心を指しています。取り付けビスが長穴の中心になるように取り付けてください。

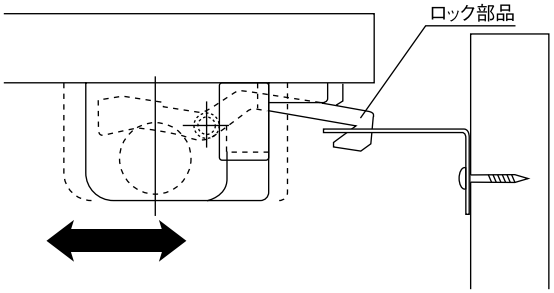
⚠ 注意

オープンロック機構本体、受座を取り付けるときは、必ず先に下穴をあけておいてください。
ビスを締めるときに、インパクトドライバーなどを使用しないでください。
ビスを強く締めすぎると空回りしたりし、確実に固定されないおそれがあります。

ロック機構について



ロックされていない状態
揺れていないときは、内部のボールが動かないので、ロック部品は上がった状態になります。



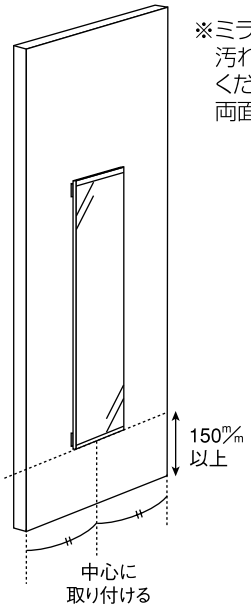
ロックされている状態
キャビネットが揺れ続けると、内部のボールが動き、オープンロック機構本体のロック部品が下がった状態になるのでロック状態になります。揺れがおさまり、内部のボールが止まるとロック部品が上がり、ロックが解除されます。

⑦ 内ミラーセット（扉裏取り付け）

※フラット形状の扉のみ取り付け可能。（ミラー付扉の内側には取り付けできません）

セット内訳	
ミラー	1枚
ミラー押さえ	2本
ミラー押さえ取り付けビス	4本

（1）ミラーの取り付け位置を決めてください。

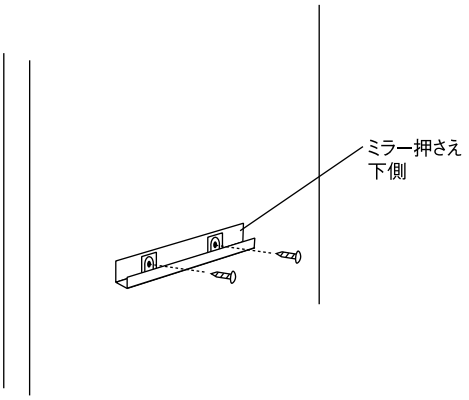


※ミラーを取り付ける位置にゴミや汚れなどがないようにしておいてください。ゴミや汚れなどがあると両面テープの接着力が弱くなります。

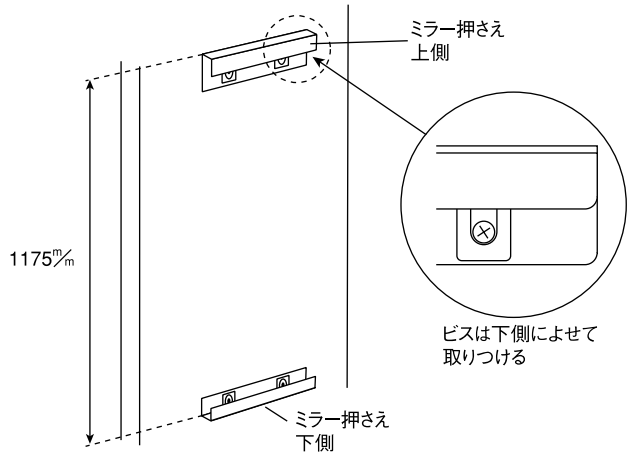
⚠ 注意

ミラーを取り付ける位置は、扉の下端から150㎜以上はなして取り付けてください。また横方向はミラーが扉の中心にくるように取り付けてください。

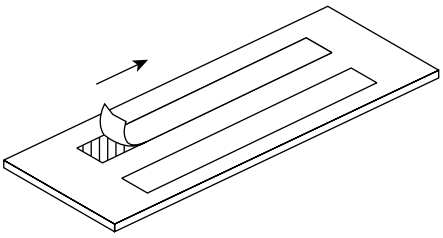
（2）ミラー押さえ下側を同梱のビスで取り付けてください。（完全に固定する）



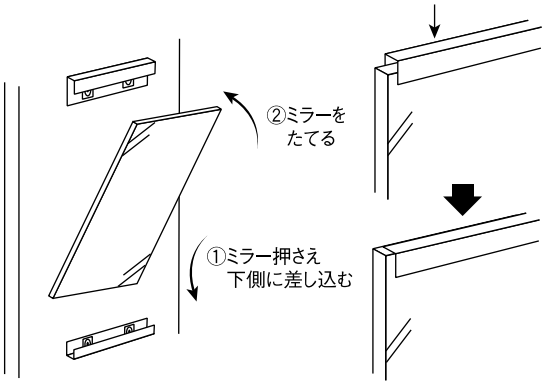
（3）ミラー押さえ上側を同梱のビスで仮固定します。
このときビスは取り付け部分の下側によせて打ち込んでください。また、ミラー押さえ上側が後で動く程度にとめておいてください。
※強く締めすぎると、後で動かなくなります。



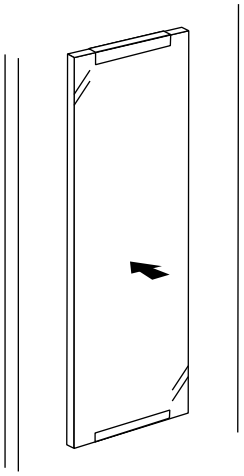
（4）ミラー裏側の両面テープをはがしてください。
※両面テープをはがす前に、1度取り付け位置にあてて、ミラー押さえ上側の位置が問題ないか、確認しておいてください。



（5）ミラーを正面から入れミラー押さえ上側を下にずらし、ミラーがはずれないようにとめる。



（6）ミラーが完全に動かなくなるように表から押さえ両面テープを圧着させてください。

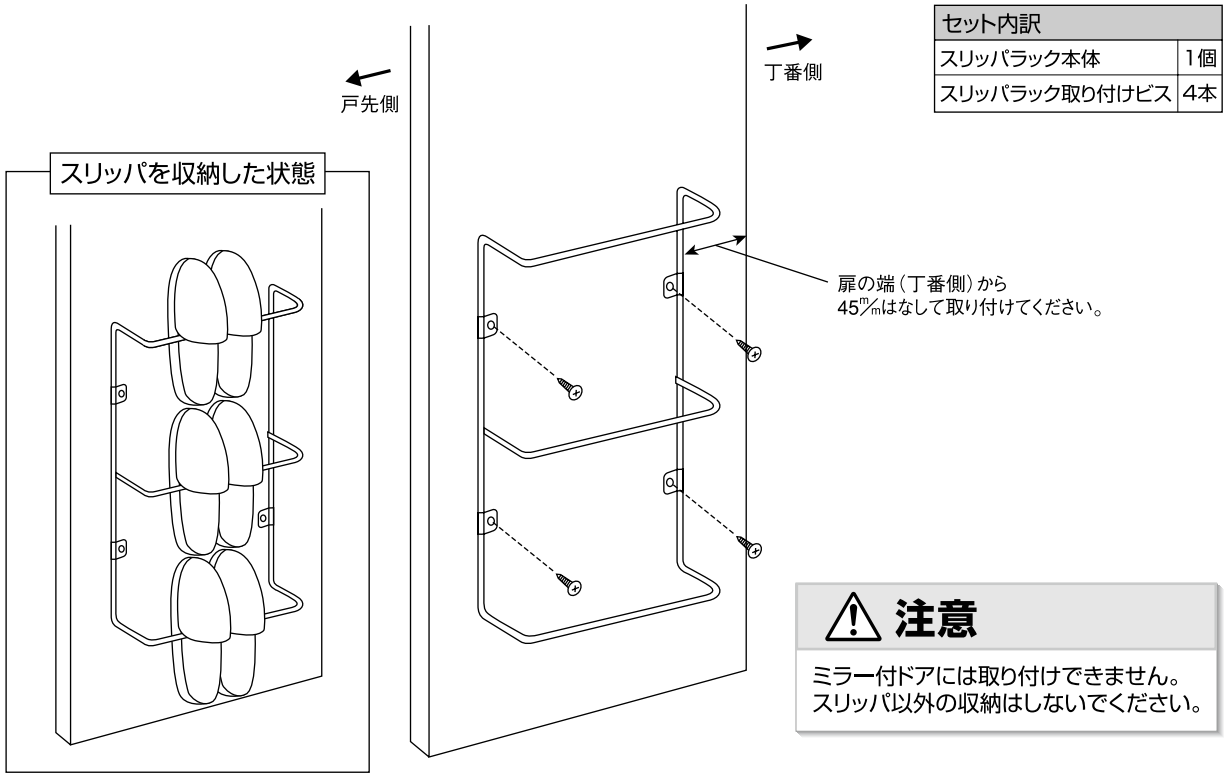


玄関収納

⑧ スリッパラック（扉裏取り付け）

カスタムオーダー・奥行き400㎜（棚板タイプ）にしか取り付けできません。※W寸法はレギュラー巾以上に対応。

セット内訳	
スリッパラック本体	1個
スリッパラック取り付けビス	4本



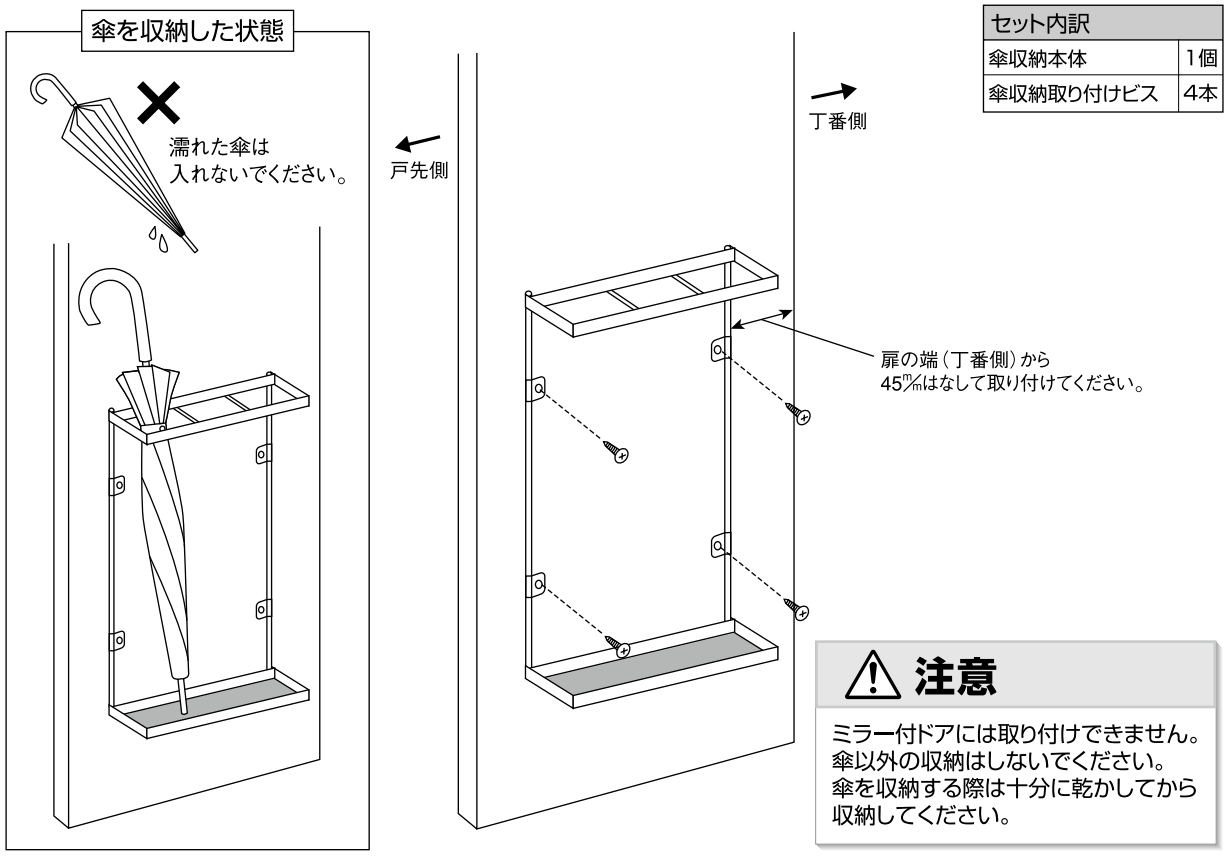
⚠ 注意

ミラー付ドアには取り付けできません。
スリッパ以外の収納はしないでください。

⑨ 傘ラック（扉裏取り付け）

カスタムオーダー・奥行き400㎜（棚板タイプ）にしか取り付けできません。※W寸法はレギュラー巾以上に対応。

セット内訳	
傘収納本体	1個
傘収納取り付けビス	4本



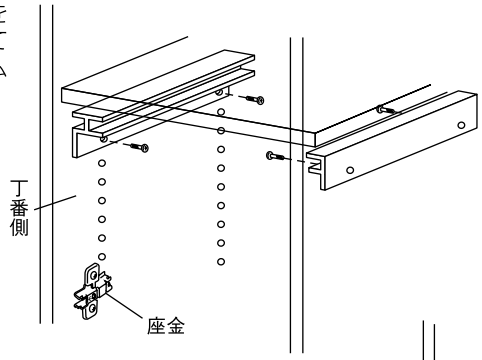
⚠ 注意

ミラー付ドアには取り付けできません。
傘以外の収納はしないでください。
傘を収納する際は十分に乾かしてから収納してください。

⑩ アミカゴ

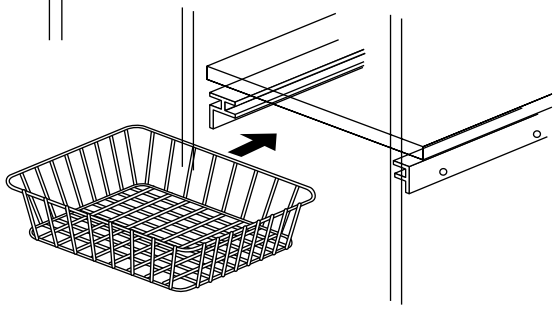
トールキャビネットW＝398㎜タイプのみ取り付け可能。

（1）任意の位置にバスケット受けレールを同梱のレール固定ネジで取り付けてください。このとき、固定はシステム穴を利用してください。



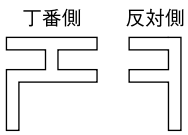
セット内訳	
バスケット本体	1個
バスケット受けレール（丁番側）	1本
バスケット受けレール	1本
レール固定ネジ	4個

（2）取り付けたバスケット受けレールにバスケット本体をスライドさせて取り付けてください。

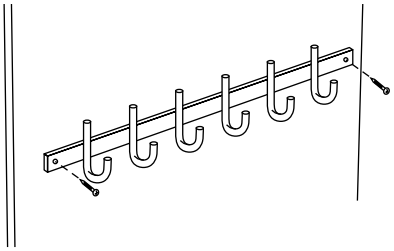


⚠ 注意

丁番側と反対側でバスケット受けレールの形状が異なります。誤って逆に取り付けると、丁番・扉本体とバスケットが接触する可能性があります。



⑪ 六連フック



扉の裏に取り付けます。
取り付け位置を確定させたら下穴（2.5φ）をあけ、同梱の取り付けビスで固定させてください。

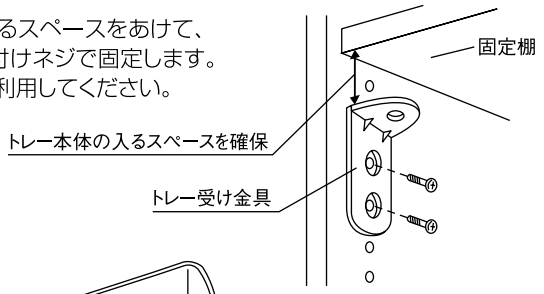
セット内訳	
六連フック本体	1個
六連フック取り付けビス	2本

⚠ 注意

六連フックが固定棚や中仕切り板、可動棚にあたらないように気をつけてください。

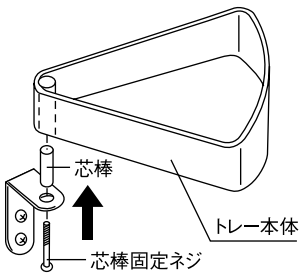
⑫ 回転小物入れ

（1）固定棚の下に、トレー本体が入るスペースをあけて、トレー受け金具を同梱の取り付けネジで固定します。このとき、固定はシステム穴を利用してください。

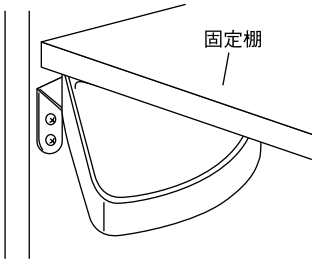


セット内訳	
トレー本体	1個
トレー受け金具	1個
トレー受け取り付けネジ	2個
芯棒	1個
芯棒固定ネジ	1本

（2）芯棒をトレー本体の中心に入れ、芯棒固定ネジでトレー本体とトレー受け金具を固定します。



（3）手前に引っ張り出せば、小物トレーが出てきます。



使用上のご注意

収納共通

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

・屋内専用。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

・パイプハンガーのぶら下がり禁止!
お子様がぶら下がって遊んだりすると、こわれたり、脱落してケガの原因となりますので、絶対にしないでください。

・ぶら下がり禁止!
棚板等にお子様がぶら下がったり、上に乗って遊んだりすると、板が破損したり、脱落してケガの原因となりますので絶対にしないでください。

・ヒンジを分解しない。
扉取り付け用のヒンジを分解したり、無理に曲げたりすると、扉が脱落してケガの原因となりますので、絶対にしないでください。

必ずおこなう

・確実にヒンジと座金をジョイントする。
扉取り付け用のヒンジが確実に座金とジョイントされていないと、扉が脱落してケガの原因となりますので、確実にヒンジと座金をジョイントしてください。

・接着剤と釘を併用する。
施工の際には必ず接着剤と併用して釘をお使いください。接着が甘いと脱落の原因となり危険です。

・下地材の取り付けは確実に固定する。
化粧造作部材が落下して、ケガの原因となりますので、下地材の取り付けは壁面より、柱・間柱に確実にビス等で固定してください。

・開梱後は換気を行なう。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。

・輸送・保管は慎重に!
輸送の際には、荷崩れや衝撃に十分注意してください。また、保管時には水平な場所に平積みしてください。

・間柱・補強桟等の下地処理
収納パーツシステムは、壁面に直接固定するため、間柱・補強桟などの下地処理が不十分ですと転倒、脱落してケガの原因となりますので、所定の位置に躯体下地の準備をしてください。

壁厚収納

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

・棚板の耐荷重は1枚当たり10kg。
棚板の耐荷重を越えて収納しますと棚板が破損したり脱落してケガの原因となります。

必ずおこなう

・確実にキャビネットと壁面を固定する。
キャビネットがあらかじめ間柱・補強桟等の下地処理を施した壁面と固定されていないと、キャビネットが転倒してケガの原因となりますので、確実にキャビネットと壁面を固定してください。

押入れセット

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

必ずおこなう

・間口が広い場合の補強。
間口が2mを越える場合（例えば9尺間口など）は、吊り束や束等の補強材もしくはL型金物等を使って十分な補強を施してください。

・補強。
押入れ地板は5.5㌫であるため、12㌫以上の捨て貼り合板を用いるとともに、根太間隔は303㍉ピッチ以内で施工してください。中段および枕棚の浅木の取付け位置には、胴縁および間柱等の下地を必ず入れてください。

押入れ用壁材　桐

・下地材の上から施工する。
必ず壁の下地材の上から貼りあげてください。直接柱、間柱に打ちつけると、パネル自体に強度がない為、破損しやすく、また構造躯体自体の強度低下を招き危険です。

・化粧釘で固定する。
施工の際は必ず化粧釘をお使いください。

当社収納は、衣類・寝具等を収納するように設計されているため、百科事典等過度な重量物を収納する場合は、棚の落下の原因となりますので、耐荷重をご確認の上、ご使用ください。（棚板及び引き出し等の耐荷重は下表をご参照ください。）

●1枚あたりの耐荷重

中段	200kg（6尺用）
枕棚	100kg（6尺用）
棚板	20kg
ハンガーパイプ	20kg（850㌫スパン）

●1枚あたりの耐荷重（ジュピーノすのこタイプ）

中段	150kg
枕棚	75kg

お願い 安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

洗剤・消臭剤・消臭スプレー・殺虫剤等が製品に直接付着すると変色の原因になります。
＜化粧シート面・裏面（無地）共通＞
ベンジン・アルコール・シンナーなどを使用すると変色、変質することがありますので絶対に使用しないでください。

造り付け家具

⚠ 警告 使用に際して以下の注意が守られない場合、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。確実にお守りください。

注意!

・上部ユニットの耐荷重は1ボックスあたり40kg。
耐荷重を超えて収納しますとユニットが脱落する原因となり危険です。

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

・棚板の耐荷重は1枚当たり20kg。
棚板の耐荷重を越えて収納しますと棚板が破損したり脱落してケガの原因となります。

・ガラスに強い衝撃を与えない。
扉（ガラスタイプ）に強い衝撃を与えるとガラスが割れてケガの原因となり危険です。

・引出しの耐荷重は1杯当たり20kg。
引出し1杯の耐荷重を越えて収納しますと底板が破損したり脱落してケガの原因となります。

必ずおこなう

・確実にキャビネット同士を連結する。
キャビネット同士が連結金具で確実に連結されていないと、キャビネットが転倒・脱落してケガの原因となりますので、確実にキャビネット同士を連結してください。

・確実にキャビネットと壁面を固定する。
キャビネットがあらかじめ間柱・補強桟等の下地処理を施した壁面と固定されていないと、キャビネットが転倒してケガの原因となりますので、確実にキャビネットと壁面を固定してください。

e・ra・bo

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

当社収納は、衣類・寝具等を収納するよう設計されているため、百科事典等過度な重量物を収納する場合は、棚の落下の原因となりますので、耐荷重をご確認の上、ご使用ください。（棚板及び引き出し等の耐荷重は右表をご参照ください。）

●1スパンにつき棚板を1つとして算出しています。複数枚使用するときは、1スパン当り100kgを上限としてください。
●779を越す棚板を使用する場合、棚板の下がりを防止する為に、床面と棚板下部間に仕切り板等の支持材を入れてください。

奥行き	1枚あたりの耐荷重			
	299	459	619	779
750	50kg			
600	30kg			
450	25kg			
300	15kg			

布団収納	50kg

壁厚収納

1. 開梱

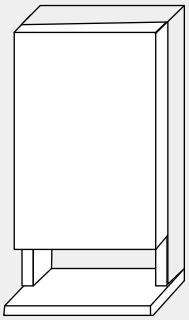
梱包を開いたらまず最初に下表の部品に不足および問題点が無いかどうか確認してください。

梱包内訳表・寸法詳細

※扉とボックスは別梱になります。扉取り付け用のスライドヒンジ・座金はボックスの梱包に入っています。

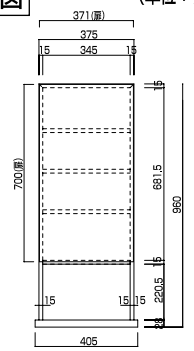
トイレ収納A

姿図

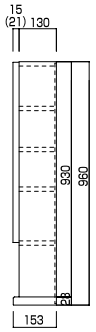


	部材名	数量
	ボックス	1セット
	扉（フラット）	1枚
	可動棚	3枚
	棚ダボ	12個
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	4個
	キャップ	4個
	スライドヒンジ座金	2個
	スライドヒンジ（扉）	2個
	座金・ヒンジ取り付けビス	8本
	タッチラッチ本体	1個
	タッチラッチ扉用	1個
	タッチラッチ取り付けビス	4本

正面図 (単位：㎜)



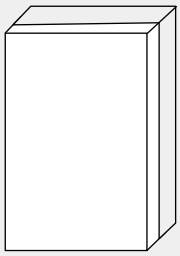
側面図 (単位：㎜)



※（ ）内の寸法はジュピーノ・ピノアースの場合です。

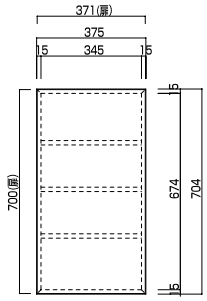
トイレ収納B

姿図

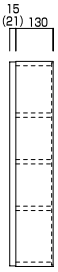


	部材名	数量
	ボックス	1セット
	扉（フラット）	1枚
	可動棚	3枚
	棚ダボ	12個
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	4個
	キャップ	4個
	スライドヒンジ座金	2個
	スライドヒンジ（扉）	2個
	座金・ヒンジ取り付けビス	8本
	タッチラッチ本体	1個
	タッチラッチ扉用	1個
	タッチラッチ取り付けビス	4本

正面図 (単位：㎜)



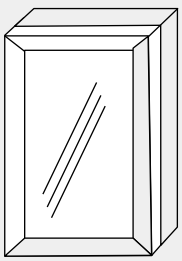
側面図 (単位：㎜)



※（ ）内の寸法はジュピーノ・ピノアースの場合です。

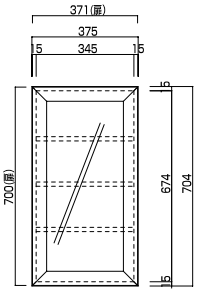
トイレ収納C

姿図

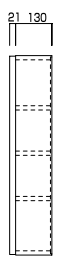


	部材名	数量
	ボックス	1セット
	扉（框組ミラー）	1枚
	可動棚	3枚
	棚ダボ	12個
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	4個
	キャップ	4個
	スライドヒンジ座金	2個
	スライドヒンジ（扉）	2個
	座金・ヒンジ取り付けビス	8本
	タッチラッチ本体	1個
	タッチラッチ扉用	1個
	タッチラッチ取り付けビス	4本

正面図 (単位：㎜)



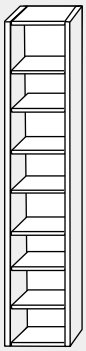
側面図 (単位：㎜)



壁厚収納

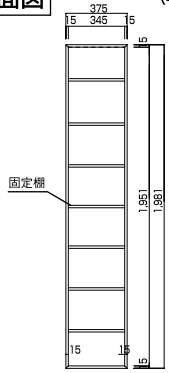
書棚（トールタイプ）

姿図

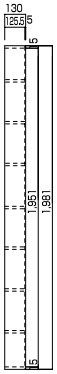


	部材名	数量
	ボックス	1ｾｯﾄ
	可動棚	6枚
	棚ダボ	24個
	連結金具	3本
	下地固定ビス	8本
	ビスワッシャー	11個
	キャップ	11個

正面図 (単位：㎜)

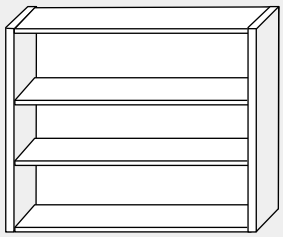


側面図 (単位：㎜)



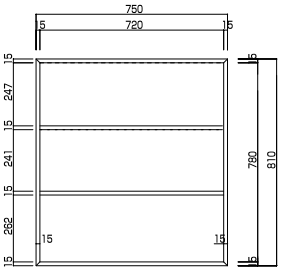
書棚（フロアータイプ）

姿図

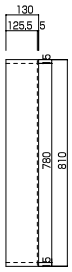


	部材名	数量
	ボックス	1ｾｯﾄ
	可動棚	2枚
	棚ダボ	8個
	連結金具	3本
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	7個
	キャップ	7個

正面図 (単位：㎜)

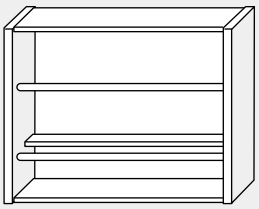


側面図 (単位：㎜)



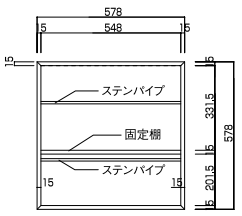
マガジンラック

姿図

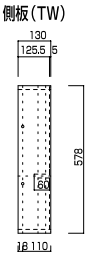


	部材名	数量
	ボックス	1ｾｯﾄ
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	4個
	キャップ	4個

正面図 (単位：㎜)

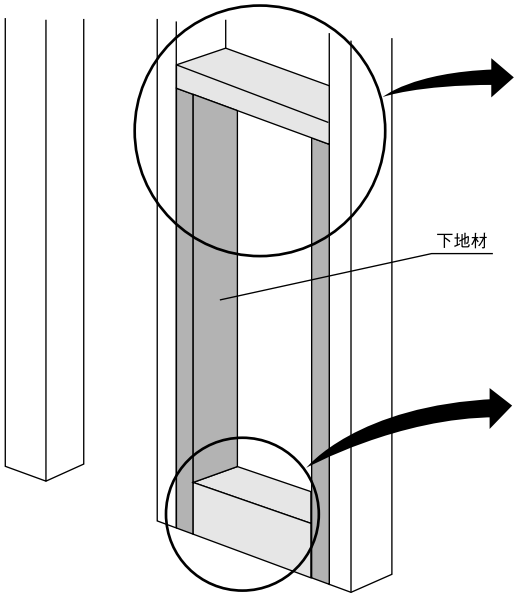


側面図 (単位：㎜)



2. 施工手順

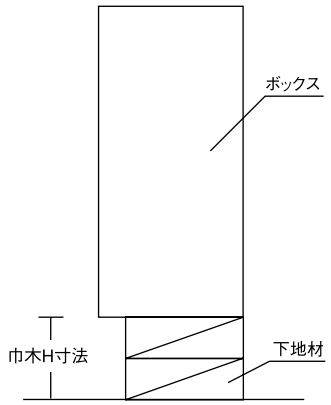
①壁面下地処理



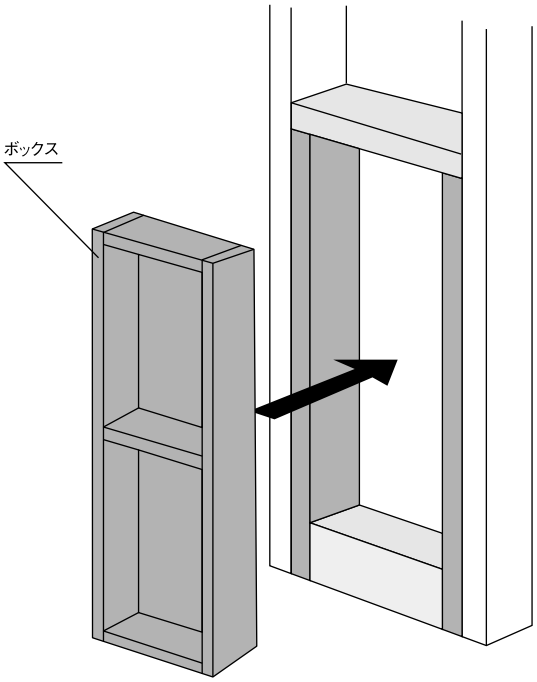
設置位置を任意の場所に決め、ボックス外寸法に合わせて（外寸法＋2㎜程度）間柱のあいだに下地材を設置します。

書棚（トールタイプ）については、下端下地材を化粧巾木の高さに合わせて設置してください。（図1）

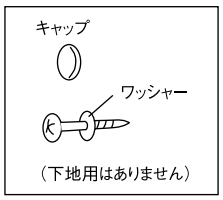
（図1）

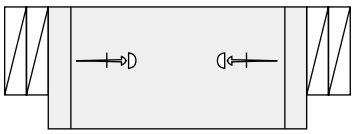


②ボックスの固定



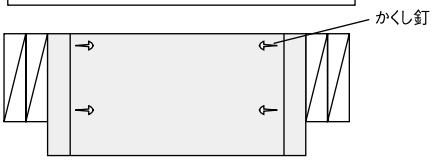
ボックスを壁下地間へ固定します。





ボンド併用で同梱の下地固定ビスで固定します。

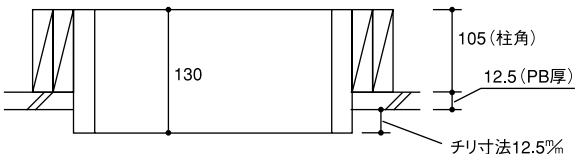
下地固定ビスを使用しない場合



ボンド併用、かくし釘（現場調達）で固定

※壁仕上げ面及び化粧巾木の厚みを考慮し、チリ寸法を調整してください。

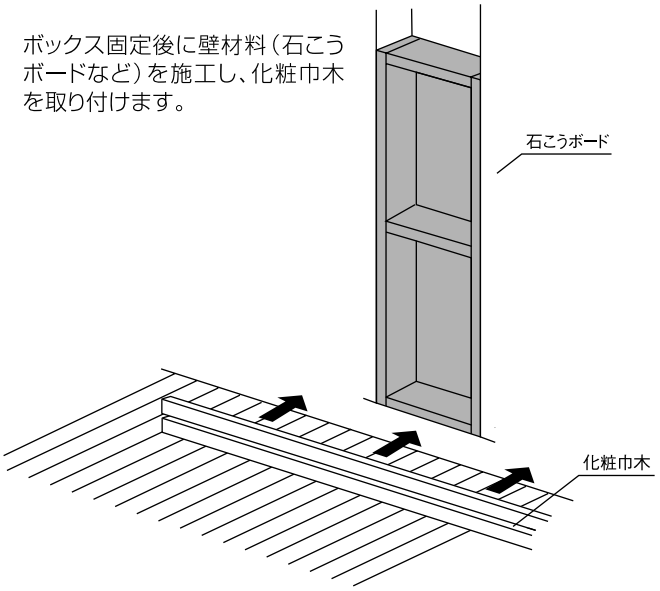
【例】柱角105㎜ PB厚12.5㎜の場合



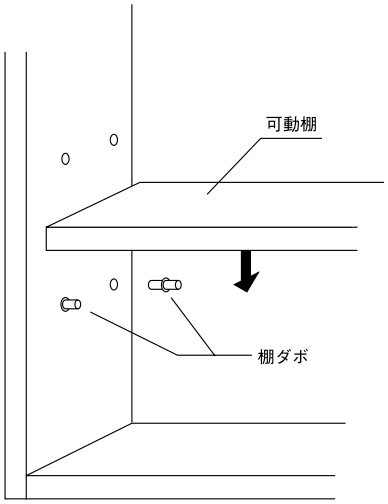
壁厚収納

③壁材料の施工・巾木の取り付け、可動棚の設置

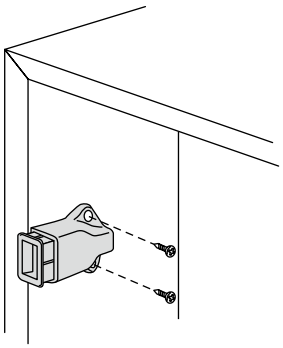
ボックス固定後に壁材料（石こうボードなど）を施工し、化粧巾木を取り付けます。



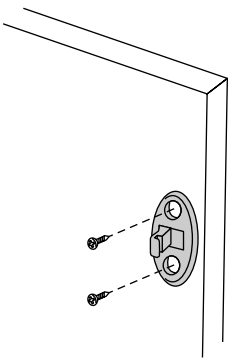
ボックスを壁下地に取り付け後、棚ダボを側板のシステム穴に取り付け、可動棚を設置します。



④タッチラッチの取り付け

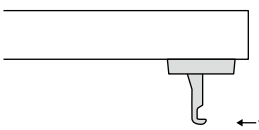


（1）ボックスの側板にタッチラッチ本体を同梱のビスで取り付けてください。ボックス側板には取り付け用の下穴があいています。必ず下穴の位置に取り付けてください。



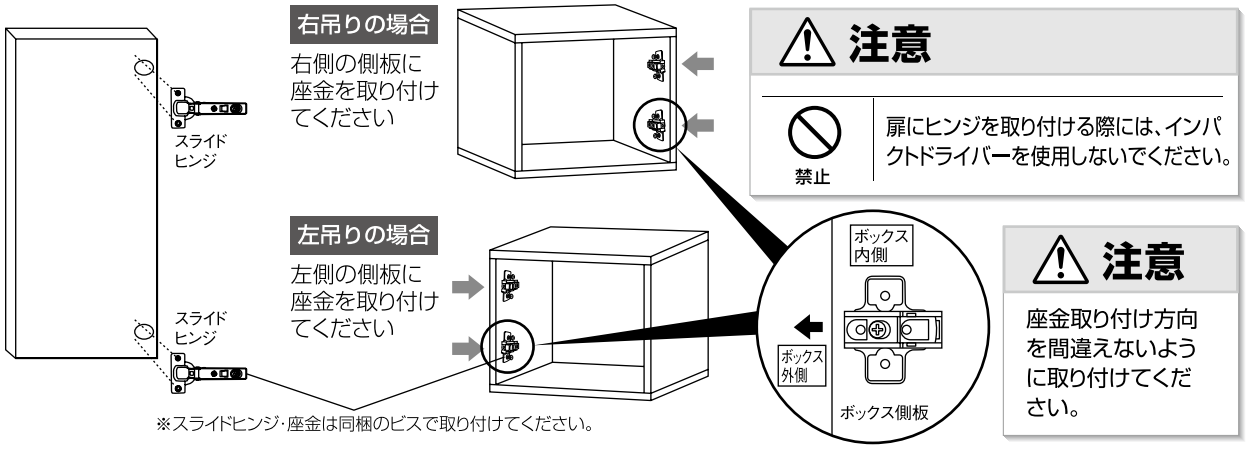
（2）扉の裏にタッチラッチ扉用を、同梱のビスで取り付けてください。扉の裏には取り付け用の下穴があいています。必ず下穴の位置に取り付けてください。

⚠ 注意



3. 扉取り付け

扉取り付け



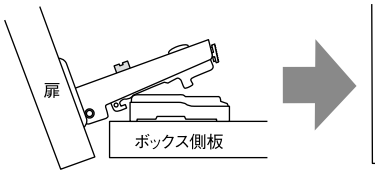
⚠ 注意

禁止 扉にヒンジを取り付ける際には、インパクトドライバーを使用しないでください。

⚠ 注意

座金取り付け方向を間違えないように取り付けてください。

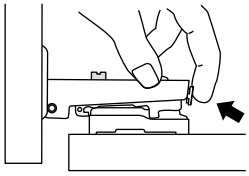
取り付ける場合



（1）扉側の丁番のツメを座金にひっかける

（2）ツメをひっかけた状態で後方部を押さえ、パチンと音がなるまでしっかりとはめる。

取りはずす場合



（3）ここのボタンを押しながら手前に引きはずす。

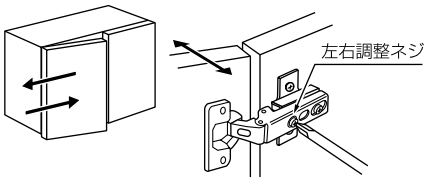
⚠ 注意

禁止 無理な脱着は、部品破損原因になります。

扉の調整（スライドヒンジの調整）

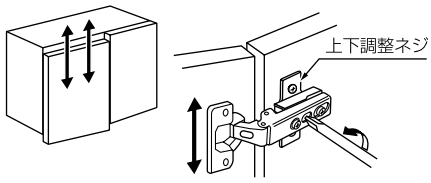
扉の左右調整

左右調整ネジを回して左右調整をしてください



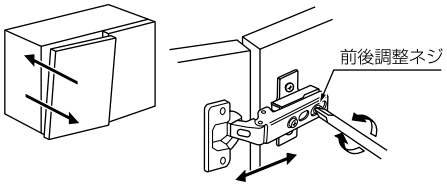
扉の上下調整

上下調整ネジを回して上下調整をしてください



扉の前後調整

前後調整ネジを回して前後調整をしてください



お願い

調整ネジの調整はインパクトドライバーを使用しないでください。

調整ネジの破損の原因になりますので必ず手締めのドライバーで調整してください。

施工終了後

養生

施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤまたは養生カバー等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着力が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売りの養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

お手入れのしかた

キャビネットが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

腰壁（工芸調・ストライプ）

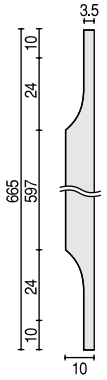
1. 開梱

梱包を解いたら、壁材および専用施工部材不足および問題がないかどうかを確認してください。
製品に水濡れ等不具合があった場合は、必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

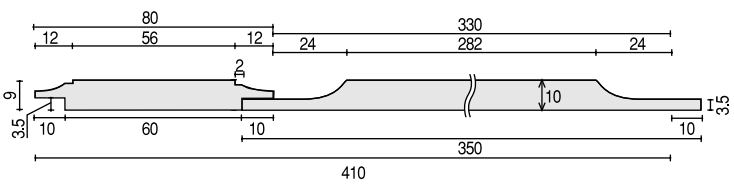
工芸調シリーズ

■腰壁パネル

縦断面図



横断面図

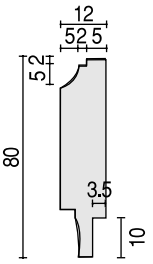
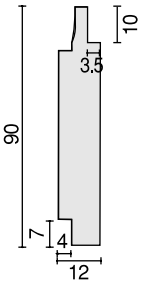


サイズ（㎜）	梱包入数
665×410×10	2枚

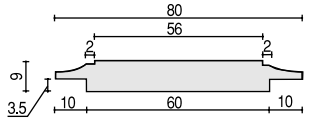
縦見切り2本同梱
巾サイズは有効寸法を表示しております。

■専用施工部材

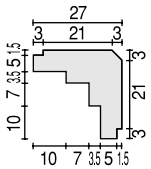
巾木・横見切りセットー1

	断面図	サイズ（㎜）	梱包入数
横見切りー1		3,900×80×12	1本
巾木ー1		3,900×90×12	1本

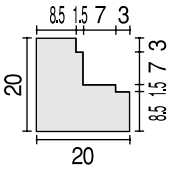
縦見切りセットー1

断面図	サイズ（㎜）	梱包入数
	665×80×9	2本

出隅材

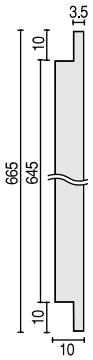
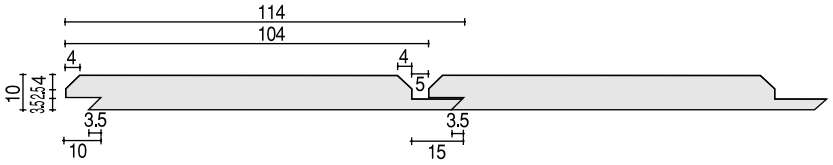
断面図	サイズ（㎜）	梱包入数
	669×27×27	1本

入隅材

断面図	サイズ（㎜）	梱包入数
	669×20×20	1本

ストライプシリーズ

■腰壁パネル

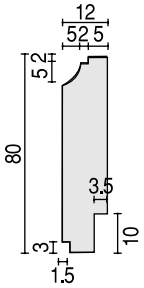
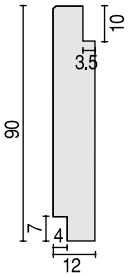
縦断面図	横断面図
	

サイズ(㎜)	梱包入数
665×104×10	10枚

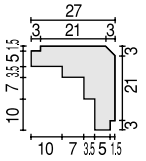
巾サイズは有効寸法を表示しております。

■専用施工部材

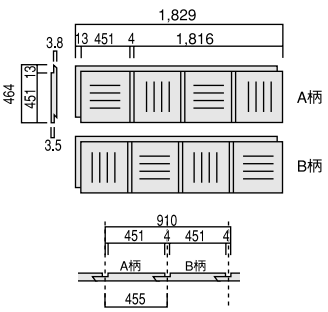
巾木・横見切りセットー2

	断面図	サイズ(㎜)	梱包入数
横見切りー2		3,900×80×12	1本
巾木ー2		3,900×90×12	1本

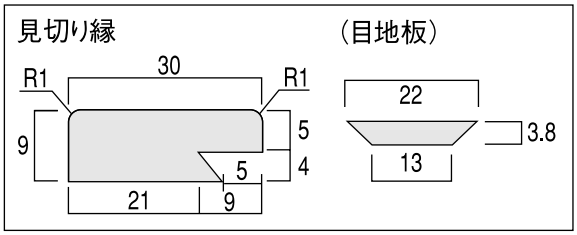
出隅材

断面図	サイズ(㎜)	梱包入数
	669×27×27	1本

スケアーウォール

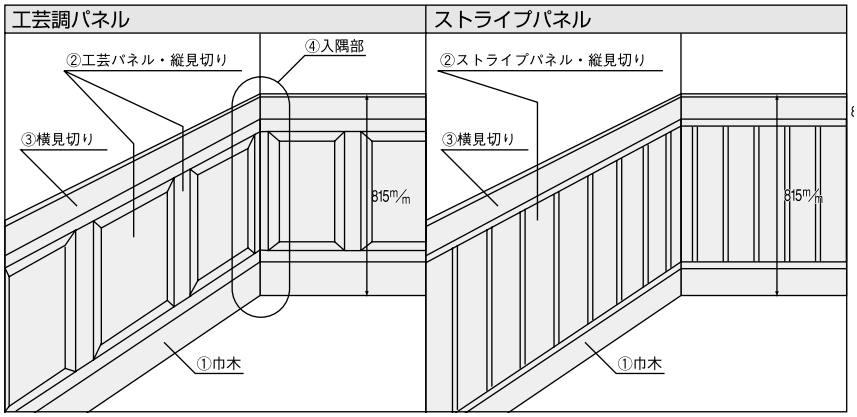
	スケアーウォール	サイズ(㎜)
パネル本体		1,829×464×3.5

■見切り材



腰壁（工芸調・ストライプ）

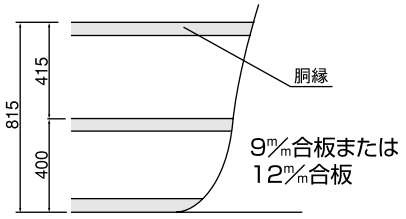
2. 展開図（図の①～④は施工手順毎に詳細をのせています）



中連や出窓サッシがある場合は、腰壁の高さ寸法をあらかじめ考慮のうえ施工をすすめてください。
腰壁高さ寸法は一般的な中連サッシの寸法に合わせやすい設定にしています。

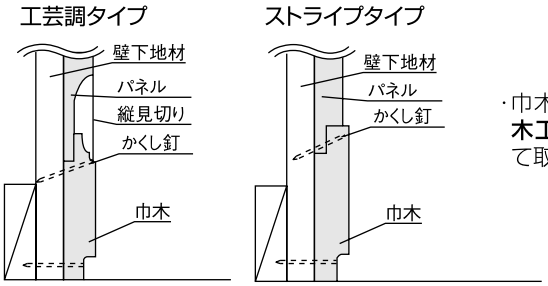
3. 施工手順

（施工準備）



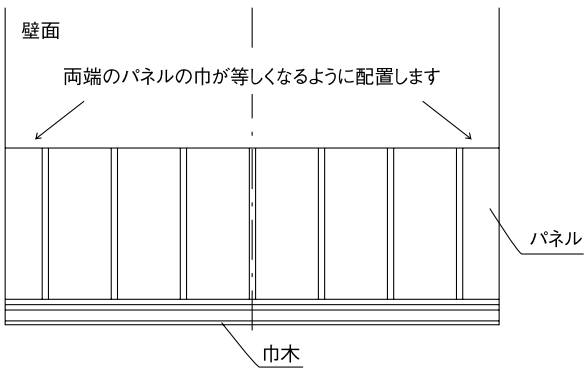
・壁面の下地施工は、横胴縁の上に9㎜あるいは12㎜合板の捨て張りをしてください。
・胴縁は巾木、見切り縁の高さにあわせて施工します。

巾木の取り付け

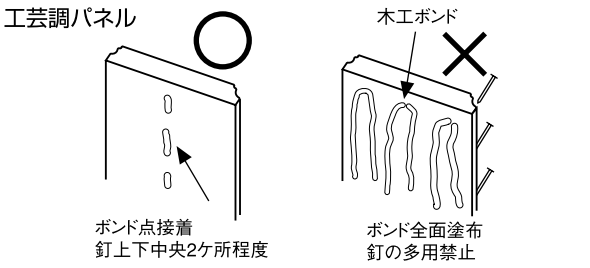


・巾木を墨出し線にそって**木工ボンドと釘を併用**して取り付けてください。

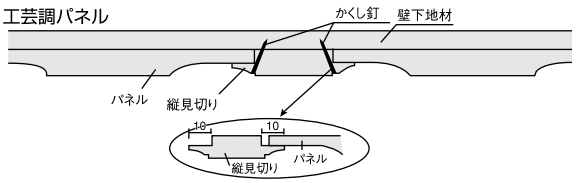
パネル・縦見切りの取り付け



床面より**745**㎜の高さに水平に墨出し線を引いてください。
この位置がパネルの上端になります。割り付けに従ってパネル、縦見切りを仮並べして、色柄をあわせてください。



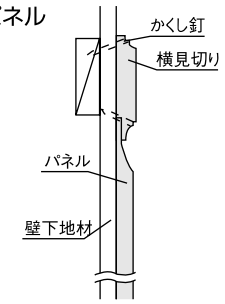
パネルはボンドで点接着し、釘をパネル上下の横見切りで隠れる部分の中央あたりに上下2ケ所程度打ち取り付けを行ってください。



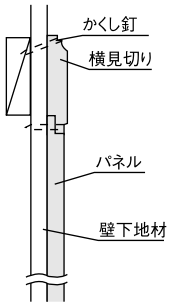
割りつけの際は、見切りとパネルの重ねしろで、微調整できます。
重ねしろは最低5㎜程度とってください。

横見切りの取り付け

工芸調パネル

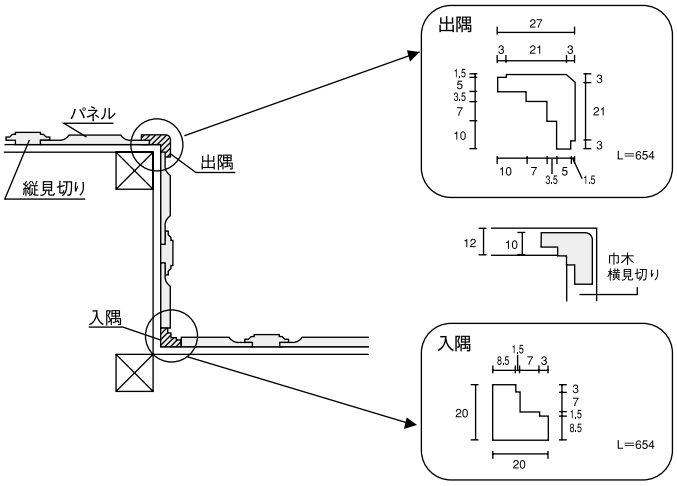


ストライプパネル

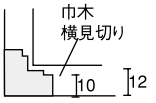


・床面より815㎜の高さに水平に墨出し線を引いてください。
・この位置が横見切りの上端になります。
・横見切りを墨出し線に沿って接着剤と釘併用で取り付けてください。

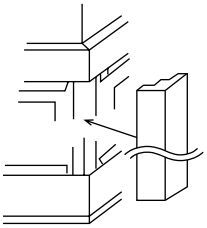
入隅・出隅の納まり



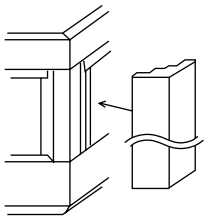
・割りつけの際、パネルがきれいに納まらない場合は、出隅から割りつけをスタートし、入隅部分でパネルをカットして納めてください。



工芸調パネル

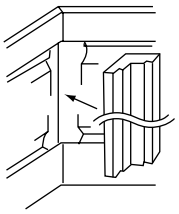


ストライプパネル



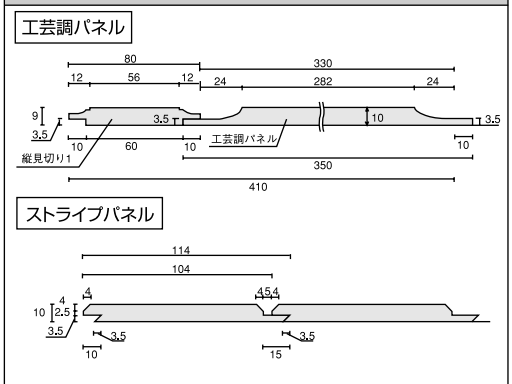
・上図のように横見切り・巾木の華飾面部分を欠き込んだうえで出隅材を取り付けてください。

工芸調パネル

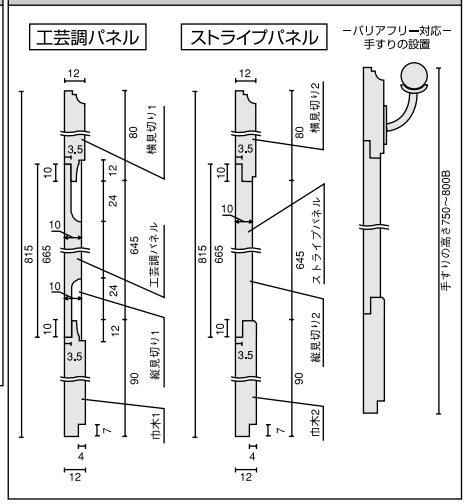


・左図のように横見切り・巾木の華飾面部分を欠き込んだうえで、入隅材を取り付けてください。
・ストライプパネルはつき付けで納められます。

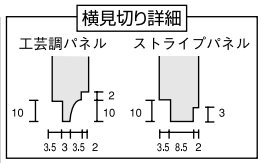
横断面図



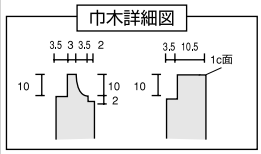
縦断面図



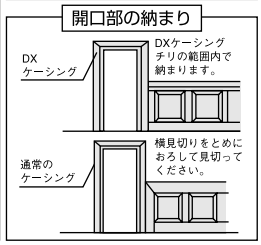
横見切り詳細



巾木詳細図



開口部の納まり



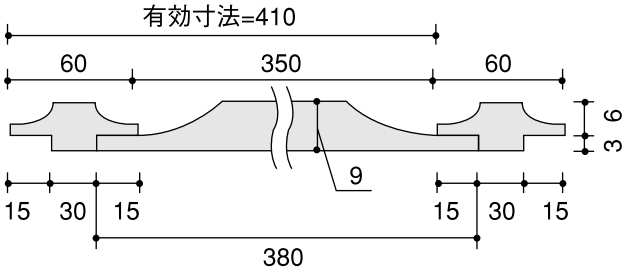
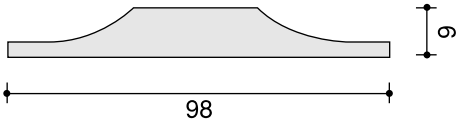
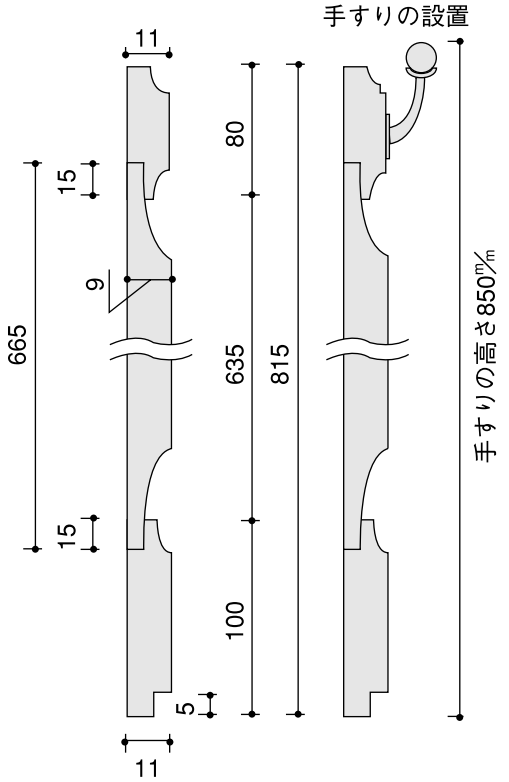
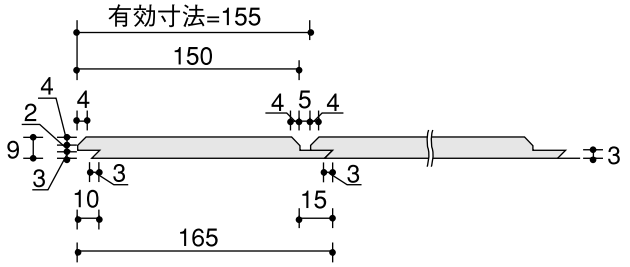
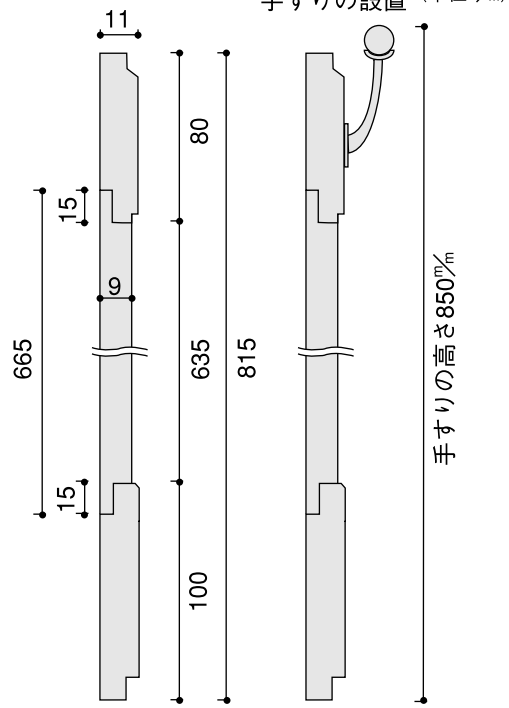
施工終了後

清掃 汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔かい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどを使用すると、パネルや部材が変質したり塗料がはがれたりすることがありますので避けてください。

養生 工事完了まで保護紙等でカバーし傷がつかないようにしてください。

腰壁（工芸調・ストライプ）

1. 納まり図

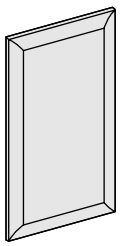
	横断面図	縦断面図
工芸調パネル	W＝380㎜タイプ（単位:㎜）  W＝98㎜タイプ（単位:㎜） 	（単位:㎜） 手すりの設置 
ストライプパネル	（単位:㎜） 	手すりの設置（単位:㎜）  ※手すりの設置を750～800㎜にする場合、パネルをカットして納めてください。

2. 梱包内訳表

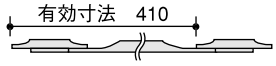
梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

工芸調パネル

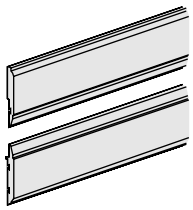
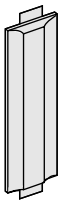
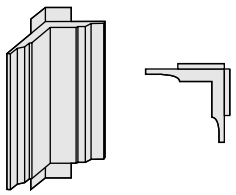
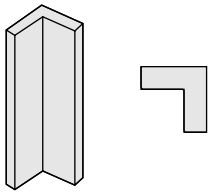
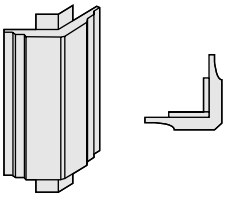
腰壁パネル

	部材名	サイズ (㎜)	梱包入数	備　考
	腰壁パネル W=380㎜タイプ	665×410×9	2枚	縦見切2本同梱・ 両面テープ付
	腰壁パネル W=98㎜タイプ	665×98×9	2枚	両面テープ付

※ W=380㎜タイプの巾サイズは有効寸法を表示しています。



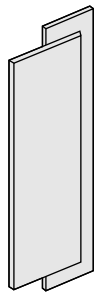
専用施工部材

	部材名	サイズ (㎜)	梱包入数	備　考
 横見切り 巾木	巾木・横見切り セット	横見切り 3900×80×11 巾木 3900×100×11	横見切り 1本 巾木 1本	専用ベース材付・ 両面テープ付
	縦見切りセット	665×60×9	2枚	両面テープ付
	入隅材1	665×44×44	1本	両面テープ付
	入隅材2	665×29×29	1本	
	出隅材	665×41×41	1本	両面テープ付

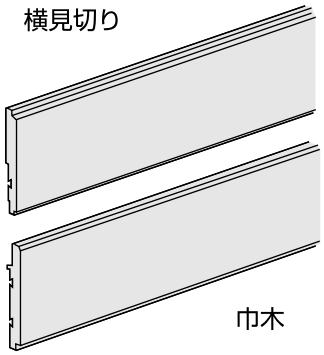
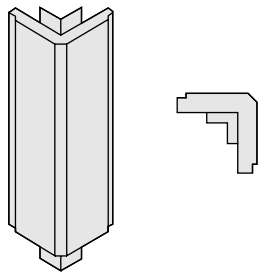
腰壁（工芸調・ストライプ）

ストライプパネル

腰壁パネル

	部材名	サイズ (㎜)	梱包入数	備　考
	ストライプパネル	665×165×9	10枚	

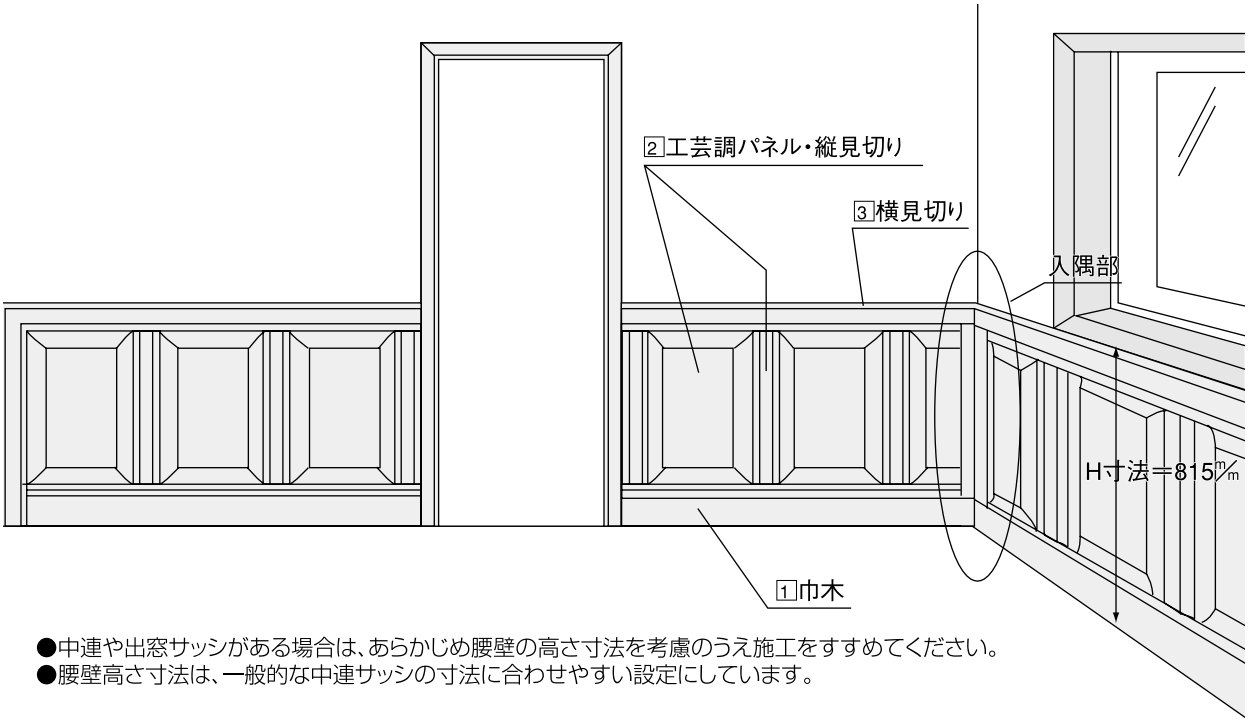
専用施工部材

	部材名	サイズ (㎜)	梱包入数	備　考
横見切り  巾木	巾木・横見切りセット	横見切り 3900×80×11	横見切り 1本	専用ベース材付・ 両面テープ付
		巾木 3900×100×11	巾木 1本	
	出隅材	665×27×27	1本	

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

全体図

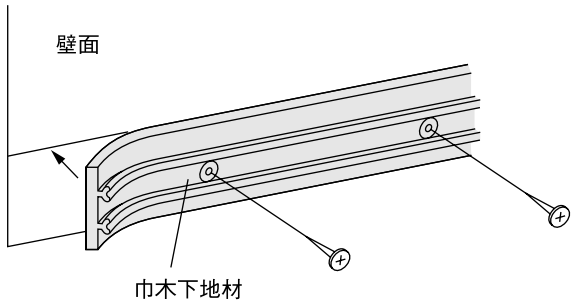


●中連や出窓サッシがある場合は、あらかじめ腰壁の高さ寸法を考慮のうえ施工をすすめてください。
●腰壁高さ寸法は、一般的な中連サッシの寸法に合わせやすい設定にしています。

3. 施工手順

●壁面の下地は、9㎜合板あるいは12㎜の合板下地をおすすめします。
後施工される場合は、間柱の位置を確認のうえPB下地からボンド併用で施工してください。

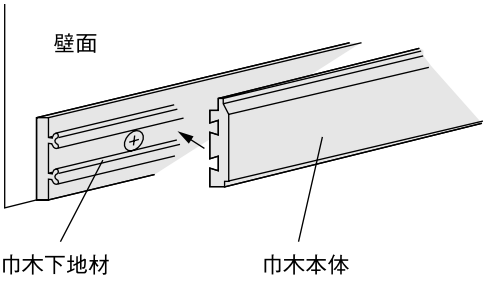
巾木の取り付け（工芸調・ストライプパネル共通）



（1）床面より80m／mの高さに水平に墨出し線を引いてください。
この位置が巾木下地材の上端になります。
下地材の裏面に取り付けてある両面テープで仮止めし、ビスあるいはタッカーで墨出し線にそって取り付けてください。

お願い

プラスターボード下地の場合はボード表面のホコリをよく取り除き施工をおこなってください。



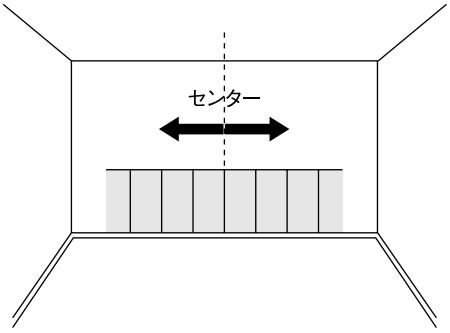
（2）下地材を取り付けた後巾木本体を取り付けてください。

腰壁（工芸調・ストライプ）

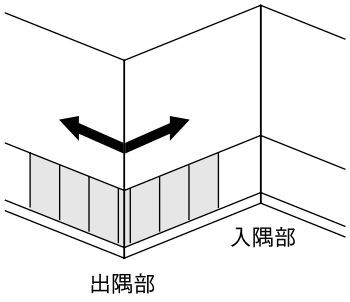
パネルの取り付け

パネルの割り付け確認

〈センター割り付け〉

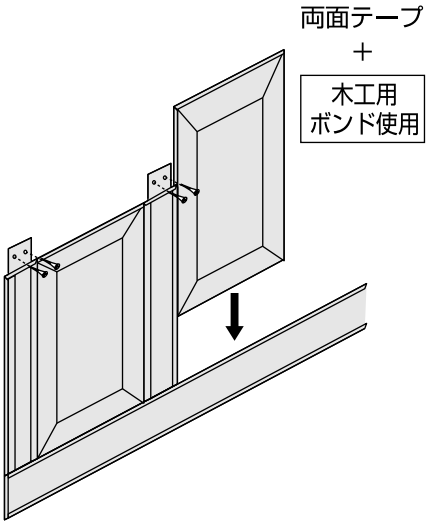


〈出隅からの割り付け〉



※出隅から割り付ける場合下記の出隅の納まりを参照し、パネルの取り付けの前に出隅を取り付けてください。

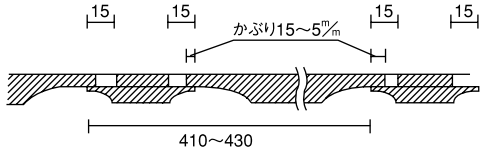
工芸調パネル



（1）パネルと縦見切りを仮並べして、柄を合わせてください。
※入隅部分でパネルをカットして納める場合、下記の納まり図を参考に入隅2を用いて納めてください。

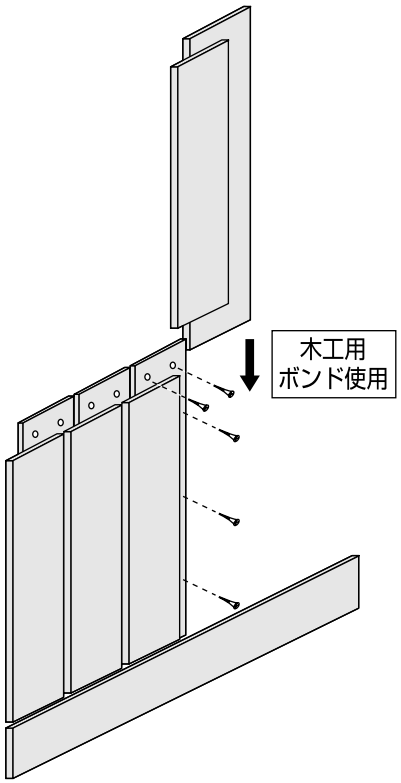
（2）割り付け終えた後、パネル、縦見切りの裏面に取り付けてある両面テープをはがし、必ず**木工用ボンドを併用して、**順次取り付けを行ってください。

（3）縦見切り取り付けの際、上端の合板下地の部分にビスあるいはタッカーで最低2ヶ所固定してください。



●パネル割り付け時には、縦見切りとパネルのかぶり代で調整できます。
●かぶり代は最低でも5㎜は設けてください。

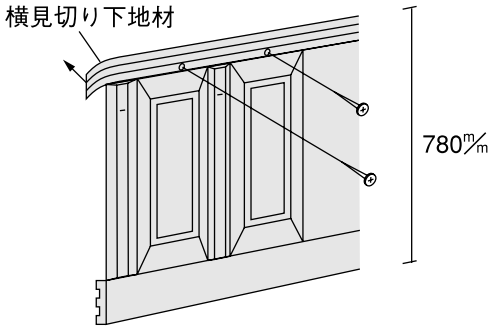
ストライプパネル



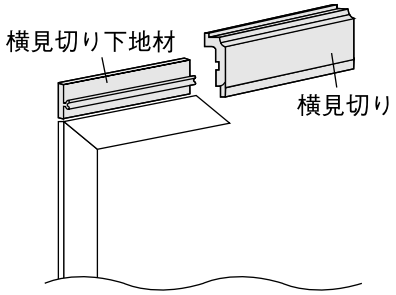
パネルを必ず**木工用ボンド併用**で順次巾木にさしこみ、下地部分をビスあるいはタッカーで固定してください。

※入隅部分はパネルをカットし、つきつけで納めてください。

横見切りの取り付け（工芸調・ストライプパネル共通）



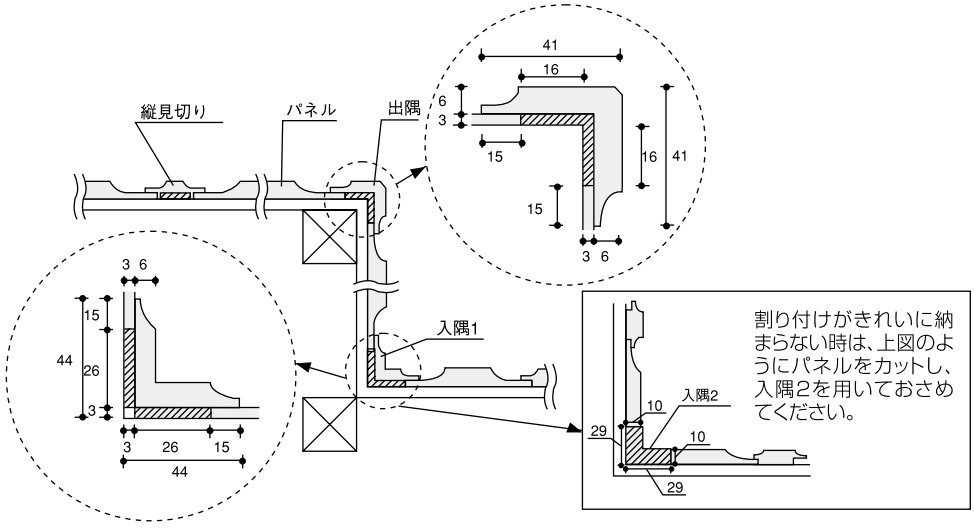
（1）床面より780㎜の高さに水平に墨出し線を引いてください。
この位置が横見切り下地材の上端になります。
下地材の裏面に取り付けてある両面テープで仮止めし、ビスあるいはタッカーで墨出し線にそって取り付けをおこなってください。

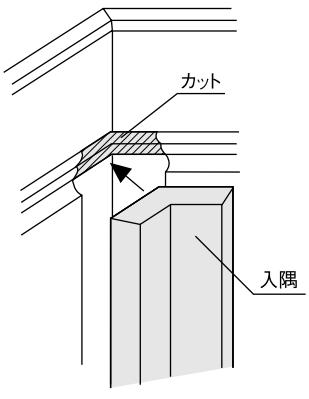


（2）下地材を取り付けた後、横見切り本体を取り付けてください。

入隅・出隅の納まり

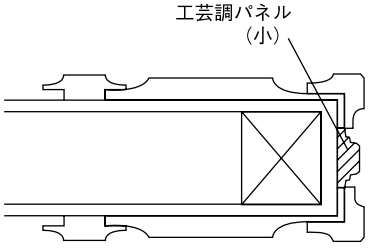
工芸調パネル





横見切り、巾木の華飾面部分を欠き込んだうえで納めてください。

■工芸調パネル（小）の納め



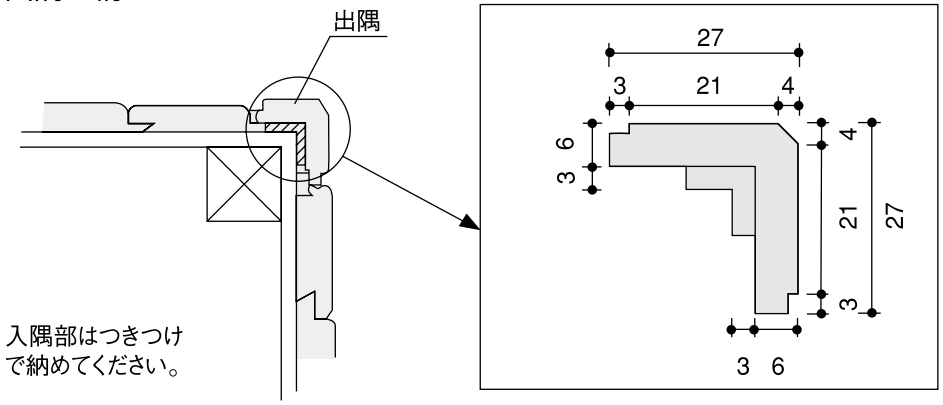
壁の小口方向など入りくんだ納まりの時にお使いください。

腰壁（工芸調・ストライプ）

入隅・出隅の納まり

ストライプパネル

出隅の納まり



施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして、養生してください。

お手入れのしかた

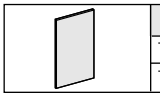
腰壁が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

腰壁（シンプルモダン）

梱包内訳表

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

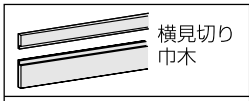
腰壁パネル

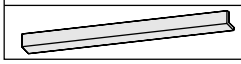


部材名	サイズ (㎜)	梱包入数	備　考
フラットタイプ(8入り)	655×455×7	8枚	両面テープ付
フラットタイプ(2入り)	655×455×7	2枚	両面テープ付

※W=455㎜の巾サイズ実寸を表示しています。

専用施工部材


横見切り巾木

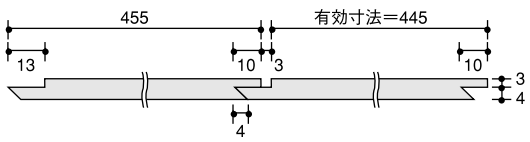
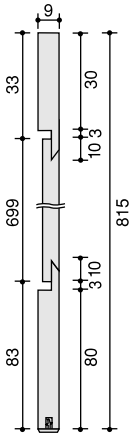


部材名	サイズ (㎜)	梱包入数	備　考
巾木・横見切りセット	3900×43×9	1枚	両面テープ付
	3900×93×9	1枚	
出隅材	42.5×699×42.5	1本	両面テープ付

お願い

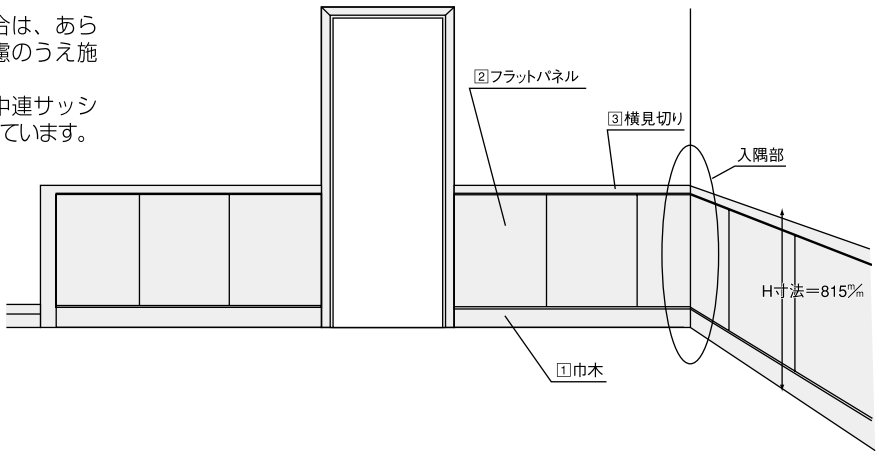
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯･ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

納まり図

	横断面図	縦断面図
フラットパネル	（単位：㎜） 	（単位：㎜） 

全体図

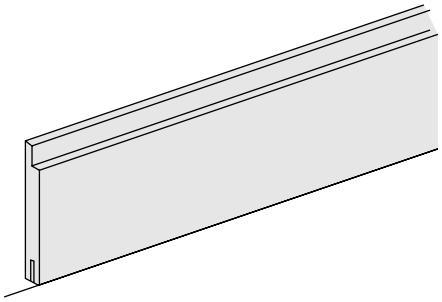
- 中連や出窓サッシがある場合は、あらかじめ腰壁の高さ寸法を考慮のうえ施工をすすめてください。
- 腰壁高さ寸法は、一般的な中連サッシの寸法に合わせやすい設定にしています。



腰壁（シンプルモダン）

施工手順

巾木の取り付け（フラットタイプ）



（1）床面より95㎜の高さに水平に墨出し線を引いてください。
この位置が巾木の上端になります。
両面テープを剥がし、必ず木工用ボンドを併用して、順次取り付けを行ってください。

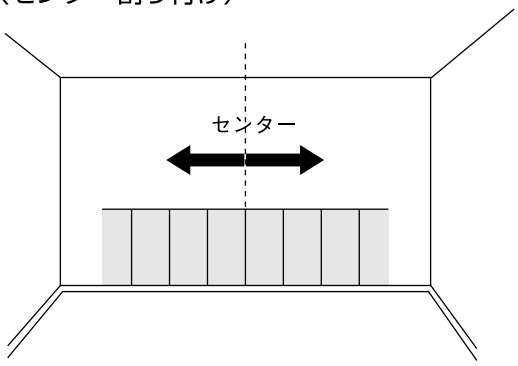
お願い

プラスターボード下地の場合はボード表面のホコリをよく取り除き施工をおこなってください。

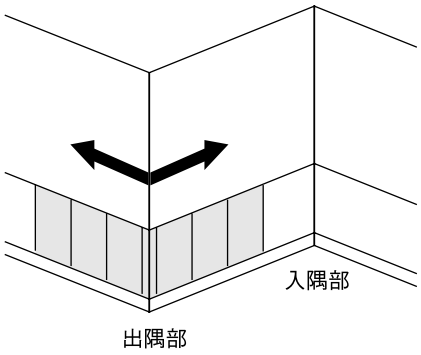
パネルの取り付け

パネルの割り付け確認

〈センター割り付け〉



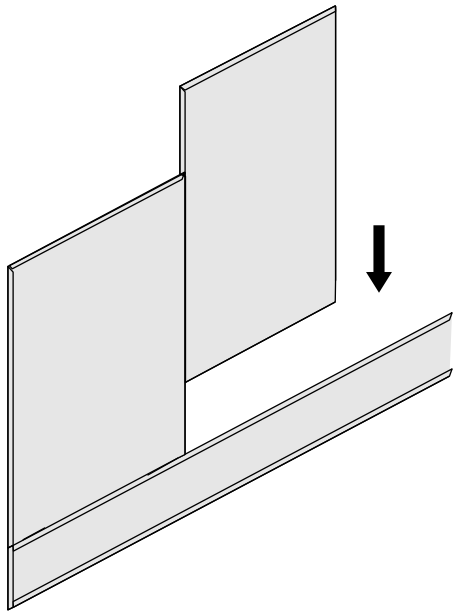
〈出隅からの割り付け〉



⚠ 注意

※出隅から割り付ける場合次ページの出隅の納まりを参照し、パネルの取り付けの前に出隅を取り付けてください。

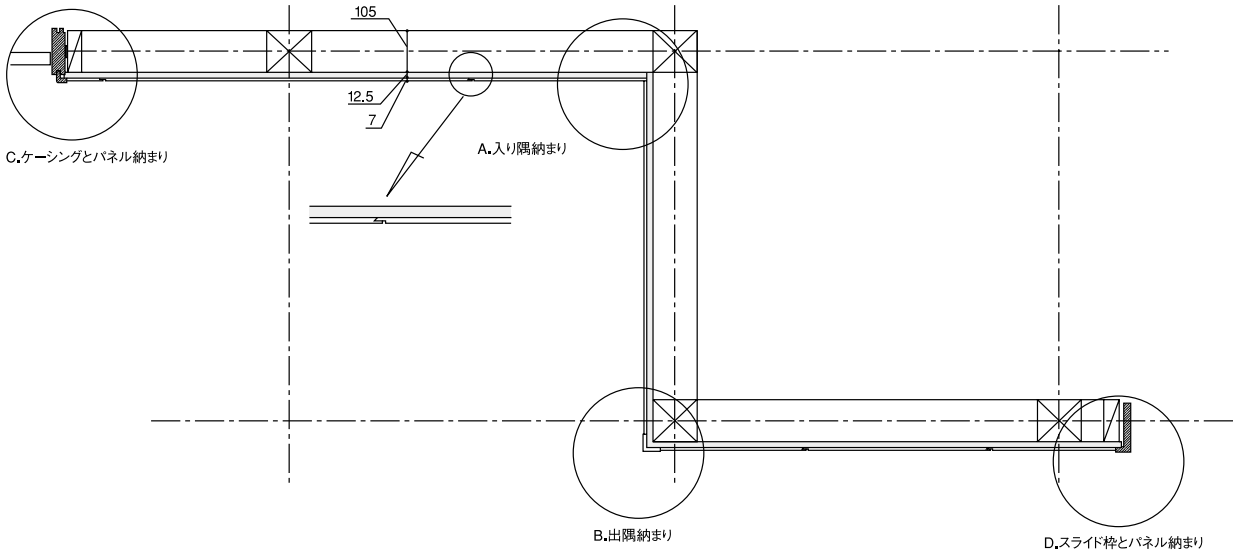
フラットパネル



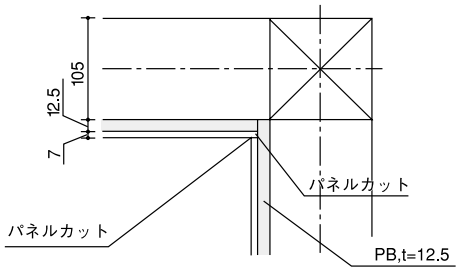
⚠ 注意

※割り付け終了後、パネルの裏面に取り付けてある両面テープを剥がし、必ず木工用ボンドを併用して、順次取り付けを行ってください。

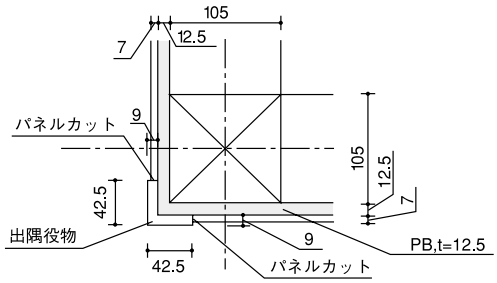
入隅・出隅の納まり図



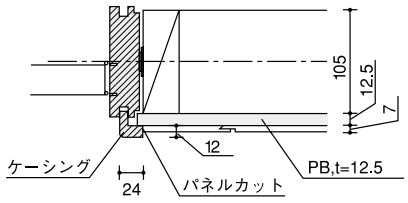
A.入り隅納まり



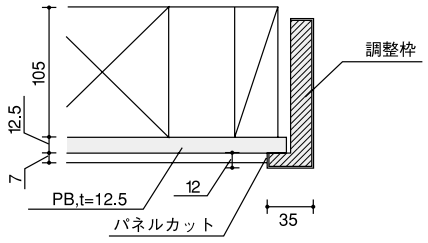
B.出隅納まり



C.ケーシングとパネル納まり



D.スライド枠とパネル納まり



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして、養生してください。

お手入れのしかた

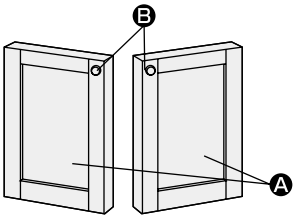
腰壁が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

造り付け家具

1. 開梱

梱包を開いたら、本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。
天板カウンターは別途弊社集成カウンターもしくは専用カウンターをご使用ください。

扉本体
全体図

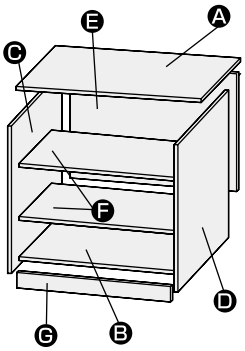


梱包内訳表〈扉本体〉

	部材名	数量	備考
A	扉本体	2枚	
B	取っ手	2個	ビス付
	スライドヒンジ(扉側)	4個	
	スライドヒンジ(座金)	4個	
	クッションダンパー(ブルーモーション)	2個	SAはなし

※ピノアースシリーズ・フラットタイプには取っ手はありません。
※クッションダンパー(ブルーモーション)はジュピーノ・ピノアースシリーズのみです。

キャビネット(巾木仕様)
全体図



梱包内訳表〈キャビネット本体〉

	部材名	備考
A	天板(木ダボ付)	天地兼用
B	地板(木ダボ付)	天地兼用
C	側板(左用)	
D	側板(右用)	
E	背板	
F	可動棚	
G	巾木	

※数量はアイテム別内訳参照

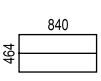
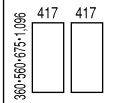
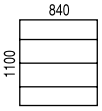
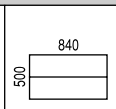
	部材名	備考
	棚ダボ	
	背板用ネジ	
	カウンター・壁面取り付けビス	
	連結金具	
	ビスワッシャー	
	キャップ	

開梱内訳

品名	キャビネット								引き出し			
	ローキャビ		机用		腰壁高さ		銘銘ポスト		上部ユニット				腰壁高さ		机用	
キャビネット	840 / 464		840 / 664		840 / 779		840 / 779 / 組立完成品		840 / 1100 / 組立完成品		840 / 500 / 組立完成品		420 / 779 / 組立完成品		420 / 664 / 組立完成品	
奥行	408	306	408	306	408	306	408	306	408	306	408	306	408	306	408	306
パネル扉	416 / 416 / 360		416 / 416 / 560		416 / 416 / 675				416 / 416 / 1096		416 / 416 / 496					
ガラス扉	416 / 416 / 360		416 / 416 / 560		416 / 416 / 675				416 / 416 / 1096		416 / 416 / 496					

品名		コーナーラック
イラスト	平面図	※ジュピーノ・ピノアースシリーズのみ対応 408(306) R383 (R281)
	側面図	408(306) 779

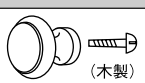
キャビネット梱包内訳表

品名		キャビネット							引き出し	
		ローキャビ	机用	腰壁高さ	キャビネット用扉	銘銘ポスト	上部ユニット		腰壁高さ	机用
	部材・部品名									
Ⓐ	天板（天地兼用）木ダボ付	1	1	1		組み立て済ユニット1セット	組み立て済ユニット1セット	組み立て済ユニット1セット	組み立て済ユニット1セット	組み立て済ユニット1セット
Ⓑ	地板（天地兼用）木ダボ付	1	1	1						
Ⓒ	側板（左用）	1	1	1						
Ⓓ	側板（右用）	1	1	1						
Ⓔ	背板	1	1	1						
Ⓕ	可動棚	1	2	2		2	3	1		
Ⓖ	巾木	1	1	1						
	棚ダボ	4	8	8		8	12	4		
	背板用ネジ	14	20	20						
	壁面取付ビス（L=50㎜）	2	2	2		2	6	6	2	2
	カウンター取付ビス（L=32㎜）	4	4	4		4			4	4
	連結金具	3	3	3		3	3	3	3	3
	ビス・ワッシャー	6	6	6		6	6	6	6	6
	キャップ	9	9	9		9	9	9	9	9
	スライドヒンジ（扉側）				4					
	スライドヒンジ（座金）				4					
	取っ手				2	4			4	4
	ｸｯｼｮﾝﾀﾞﾝﾊﾟｰ（ブルーモーション）				※2					
	ボンド（10g）	1	1	1						

※ジュピーノ・ピノアースシリーズのみ同梱

ユニット梱包内訳表

品名		コーナーラック（ジュピーノ・ピノアースシリーズのみ）	※ サイドパネル			専用カウンター
			H=2400	H=1100	H=779	
	ユニット本体	1セット	1セット	1セット	1セット	1セット
	可動棚	2				
	調整木					
	取っ手					
	棚ダボ	6				
	壁面取付ビス（L=50㎜）	2				
	カウンター取付ビス（L=32㎜）	4				
	連結金具	3				
	ビス・ワッシャー	6	12	8	4	
	キャップ	9	12	8	4	
	小口シート・桟木					2（ソフトアートのみ同梱）

	ジュピーノ（立体角タイプ）・ピノアース（切り面タイプ）	ピノアース（フラットタイプ）	ソフトアート
取っ手		堀り込み取っ手	

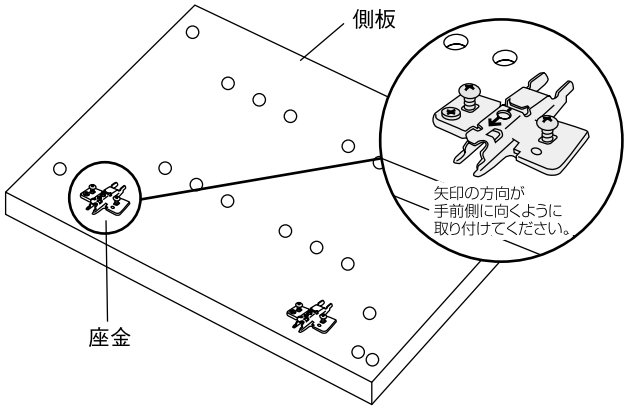
造り付け家具

2. 施工手順

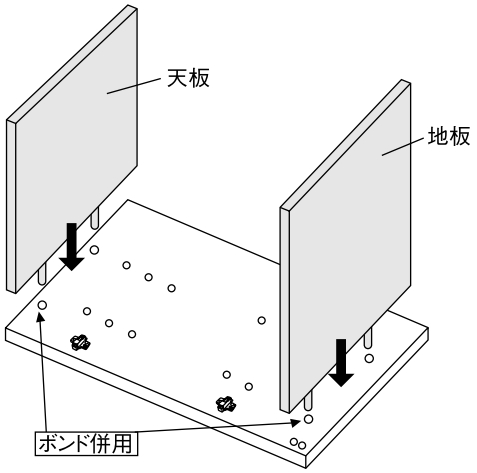
① キャビネット（巾木仕様）の組み立て

扉付きの場合

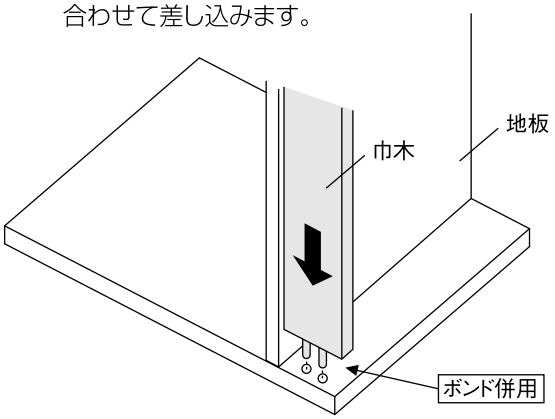
（1）左右の側板に座金（扉同梱品）を取り付けます。



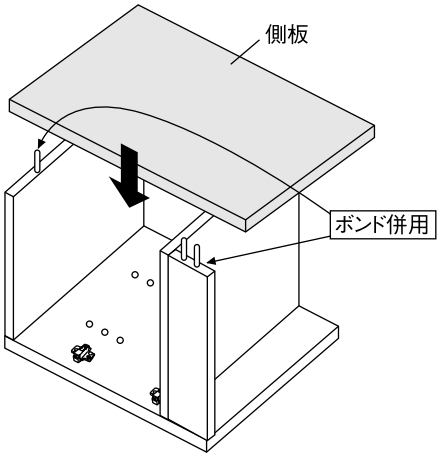
（2）左右の側板どちらかを床に置き、天・地板をボンド併用にてダボ穴に合わせて差し込みます。



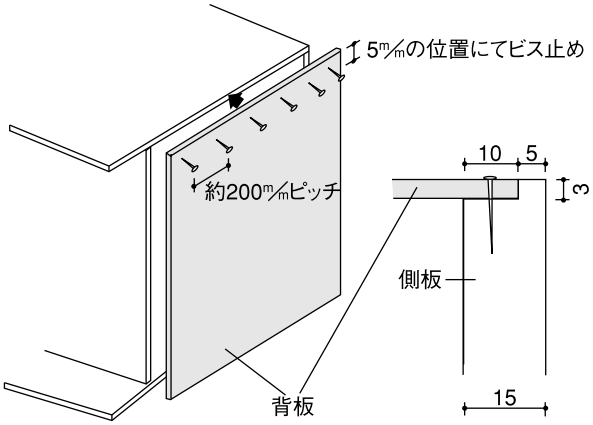
（3）巾木をボンド併用にてダボ穴に合わせて差し込みます。



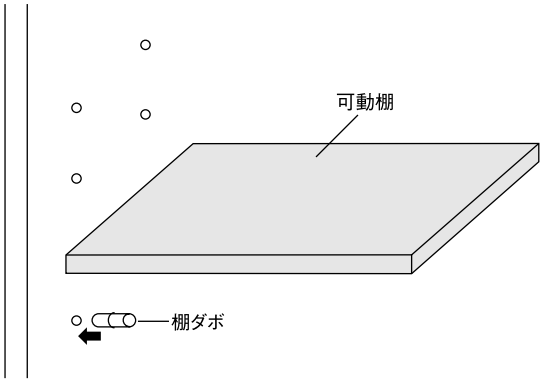
（4）残りの側板をボンド併用にて木ダボに合わせて差し込んで固定します。



（5）側板に切り込んであるミゾに背板をはめ込みます。背板の外側から約5㎜の位置に背板用ネジ（同梱品）で約200㎜間隔で固定します。



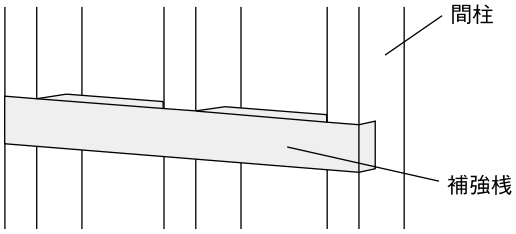
（6）棚ダボを側板のシステム穴に取り付け可動棚を設置します。

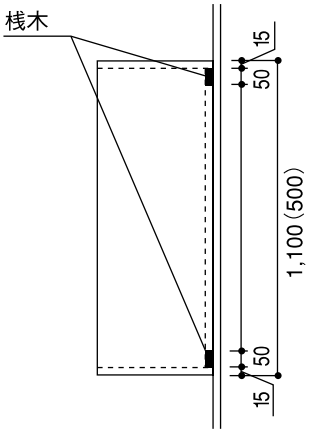


② 壁面への固定

壁面下地処理（事前に設置）

ボックス設置部分にあらかじめ間柱、補強桟等の下地処理を行なった上で、プラスターボード等の壁材を施工してください。

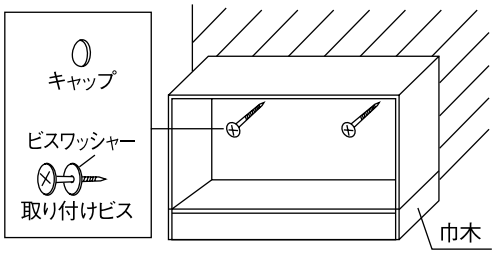




床置き施工

壁面下地にビス固定

同梱品の取り付けビスにビスワッシャーを通して背板越しに2ケ所ビス固定します。ビス取り付け後、キャップ（同梱品）を取り付けてください。引出しユニットについては、引出しを取り外して同様にビス固定してください。



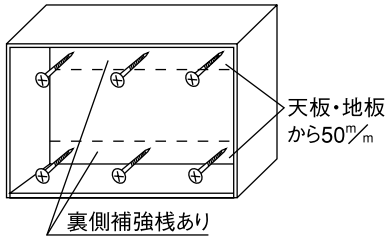
お願い

特に上部ユニットは下地補強桟木位置を考慮のうえ、取り付けてください。

吊り施工

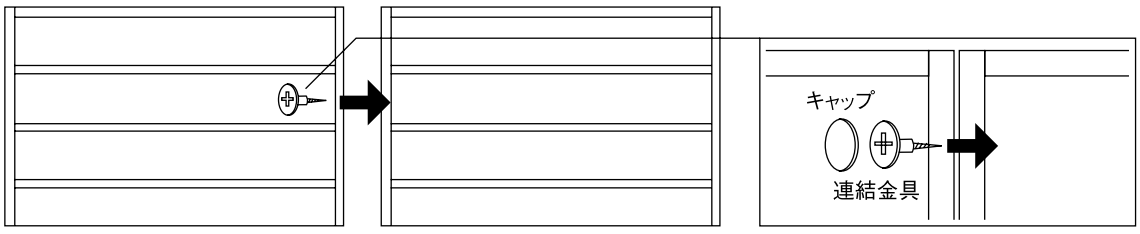
壁面下地にビス固定

背板越しに6ケ所ビス固定します。ビス取り付け後、キャップ（同梱品）を取り付けてください。

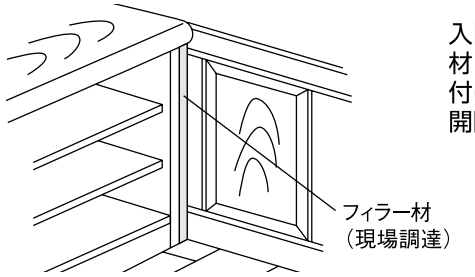


③ キャビネットの連結

キャビネット同士を連結する場合、下穴をあけて、連結金具（同梱品）でキャビネット同士が隙間のない様に固定します。その後、キャップ（同梱品）を取り付けてください。



腰壁施工時の注意点



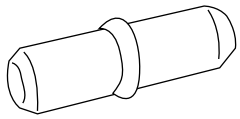
入隅部分で腰壁施工をする際は腰壁の厚み以上のフィラー材（別売品もしくは現場調達）を設置してキャビネットを取り付けしてください。キャビネットに腰壁を直付けしますと扉の開閉が出来なくなります。

造り付け家具

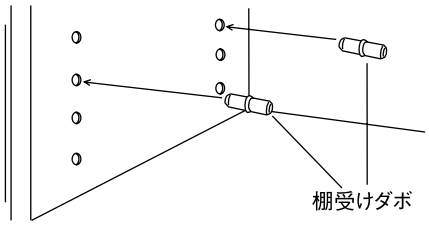
④ 可動棚の取り付け（各キャビネット共通）

使用する部品

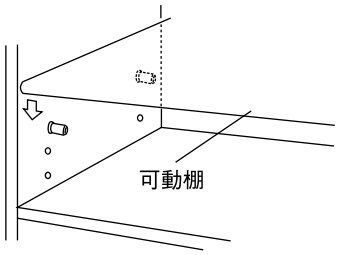
棚受けダボ



（1）棚受けダボを側板のシステム穴に差し込みます。

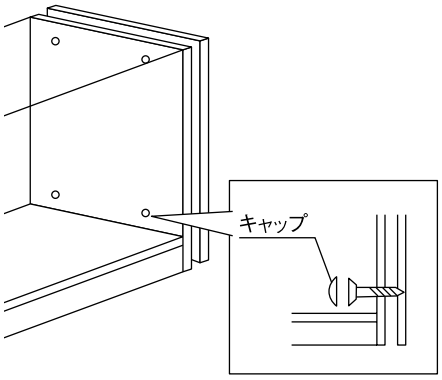


（2）棚受けダボの上に可動棚をセットします。



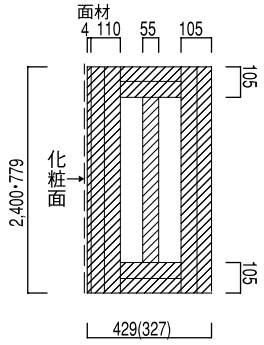
⑤ サイドパネルの取り付け

取り付けビスは、右記のサイドパネル（ジュピーノ·ピノアースのみ）詳細図を参照の上、芯材に当たる位置で固定してください。

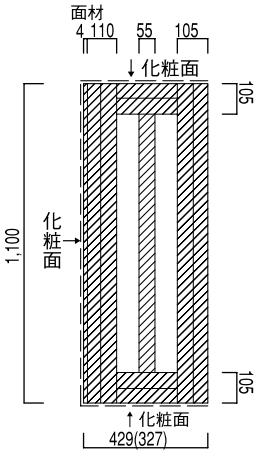


サイドパネル芯材位置
*表面は片面のみ化粧

<化粧面二面>タイプ
·HGES 031（D326タイプ）
· 〃 032（D428タイプ）
· 〃 035（D326タイプ）
· 〃 036（D428タイプ）

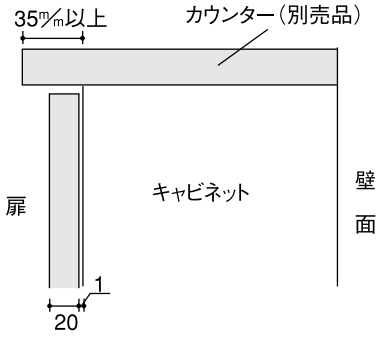


<化粧面四面>タイプ
·HGES 033（D326タイプ）
· 〃 034（D428タイプ）

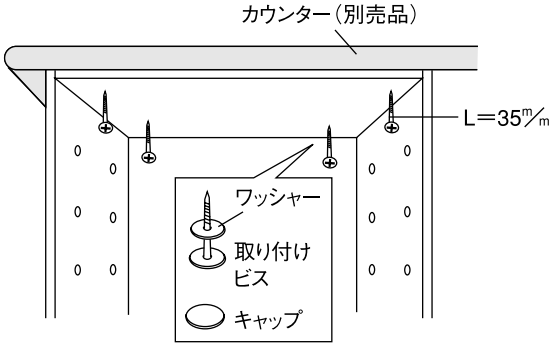


⑥ 天板カウンター（別売品）の取り付け

天板カウンターには別途、弊社専用カウンターもしくは集成カウンターをご使用ください。

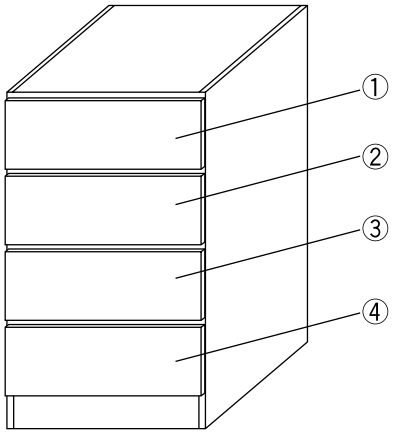


集成カウンターを使用する場合は、キャビネットの前面から35㎜以上を確保し、カウンターの巾を調整してカットしてください。専用カウンターを使用の場合は、カットする必要はありません。

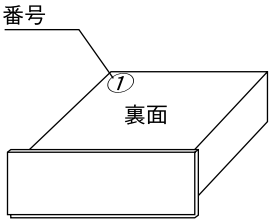


同梱品の取り付けビスにビスワッシャーを通して、キャビネットの天板越しに4ケ所ビス固定します。ビス取り付け後、キャップを取り付けてください。
引出しユニットは引出しを取り外してビス固定してください。

⑦ 引出しユニット施工時のお願い



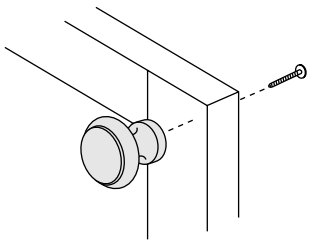
引出し前板のクリアランスは個々に調整していますので、元の位置と違う場所に入れますと、上下のクリアランスが崩れるため、番号の通りに取り付けてください。



3. 扉の取り付け・調整方法

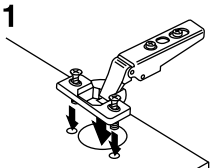
① 取っ手の取り付け

扉の所定の位置に取っ手をビスで固定します。（同梱品）
※ピノアースシリーズのフラットタイプには取っ手は付きません。



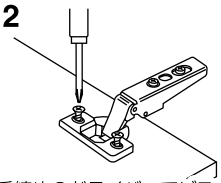
② 扉の取り付け（スライド丁番の取り付け）

1



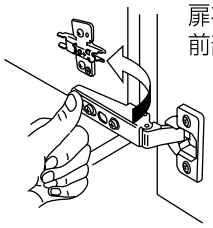
ヒンジを扉の下穴に押し込みます。

2



手締めのドライバーでビスを締め込みます。

3



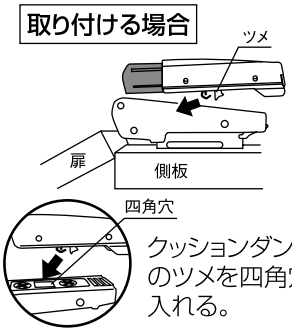
扉をキャビネットに取付けるにはヒンジアームの前部を先に合わせ座金に軽く指で押すだけです。

⚠ 注意

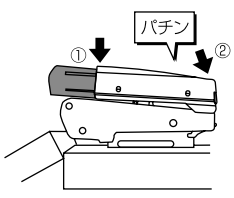
扉にヒンジを取り付ける際には、インパクトドライバーを使用しないでください。

③ クッションダンパー（ブルーモーション）の着脱

取り付ける場合

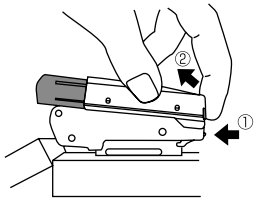


クッションダンパーのツメを四角穴に入れる。



前方①を固定しておき、後方②をおさえパチンと音がなるまでしっかりとはめる。

取りはずす場合



ななめ手前方向に引き上げます。

⚠ 注意

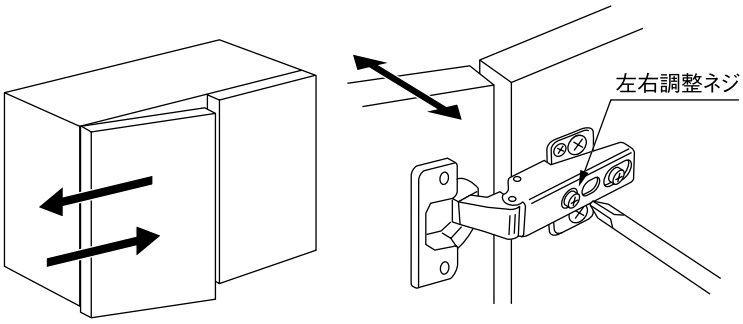
無理な脱着は、部品破損原因になります。

造り付け家具

④ 扉の調整（スライドヒンジの調整）

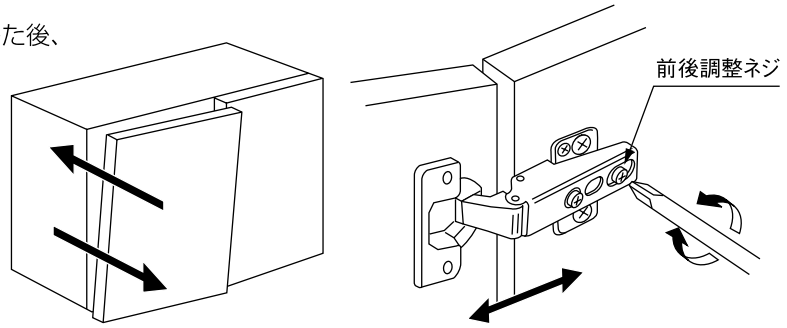
扉の左右調整

◆左右調整ネジを回して
左右調整してください。
アジャスト量:扉の内方向4㎜



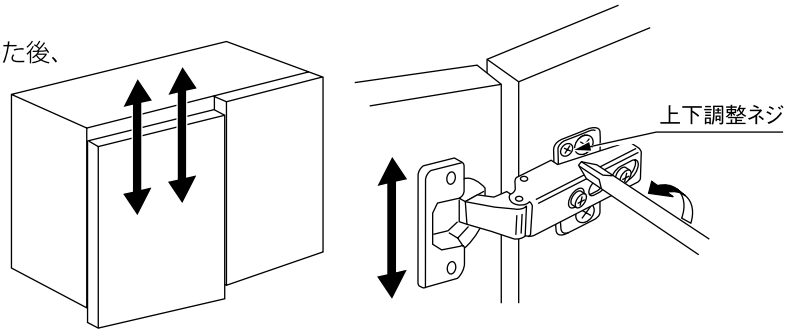
扉の前後調整

◆前後調整ネジをゆるめて前後調整した後、
締め直してください。
アジャスト量:扉の前方向2㎜
扉の後方向2㎜
（合計4㎜）



扉の上下調整

◆（座金により移動が可能です）
上下調整ネジをゆるめて上下調整した後、
締め直してください。
アジャスト量:扉の上方向2.5㎜
扉の下方向2.5㎜
（合計5㎜）



お願い

調整ネジの調整はインパクトドライバーを使用しないでください。
調整ネジの破損の原因になりますので必ず手締めのドライバーで調整してください。

施工終了後

養生の方法

施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤまたは養生カバー等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着力が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売りの養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

お手入れのしかた

キャビネットが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

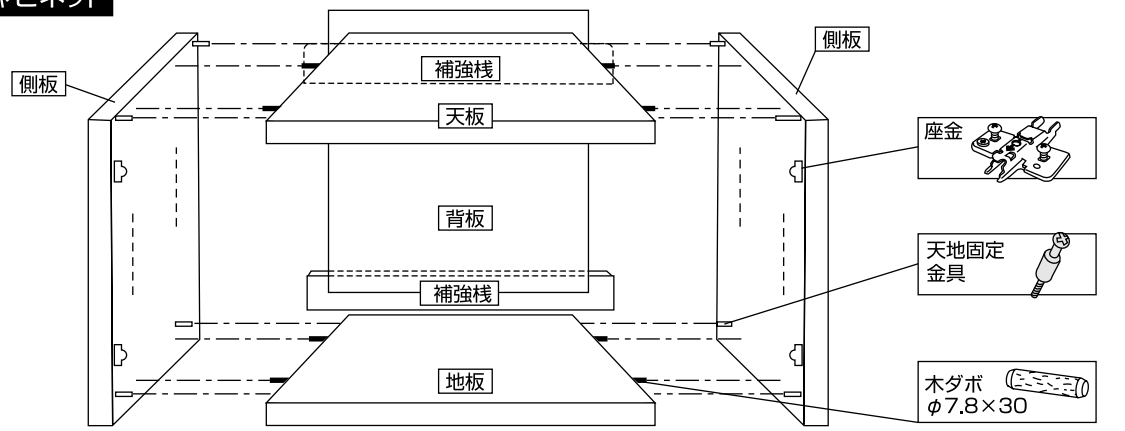
造り付け家具

1. 開梱

梱包を開いたら、本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。
台輪、天板カウンターは別売になっています。

梱包内訳

キャビネット



（天板、地板に差し込み済）

キャビネット梱包内訳表				
品　名		キャビネット　W=800タイプ		
部材・部品名		800 370	800 623	800 966
	天板（天地兼用）木ダボ付	1枚	1枚	1枚
	地板（天地兼用）木ダボ付	1枚	1枚	1枚
	側板（左用）	1枚	1枚	1枚
	側板（右用）	1枚	1枚	1枚
	背板	1枚	1枚	1枚
	可動棚	1枚	2枚	4枚
	補強桟	2本	2本	3本
	棚ダボ	4個	8個	16個
	カウンター・壁面取付ビス（L=41㎜）	8本	8本	10本
	連結金具	6本	6本	6本
	天地固定金具（本体）	8個	8個	8個
	天地固定金具（ボルト）	8本	8本	8本
	天地固定金具（キャップ）	8個	8個	8個
	ビス・ワッシャー	8個	8個	10個
	キャップ	14個	14個	16個

扉本体

	扉本体	2枚
	スライドヒンジ（扉側）	4個
	スライドヒンジ（座金）	4個
	クッションダンパー（ブルーモーション）	2個

台輪（別売品）

	台輪	1個

専用カウンター（別売品）

	専用カウンター	1枚

お願い

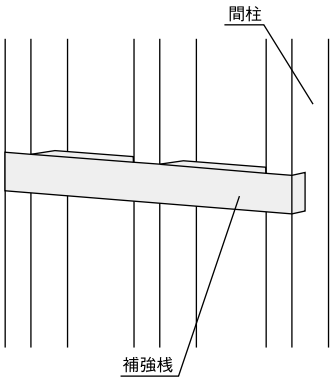
側板木口には化粧面と非化粧面があります。カウンター、台輪を取り付けない面（側板木口が見える面）に化粧面を使ってください。

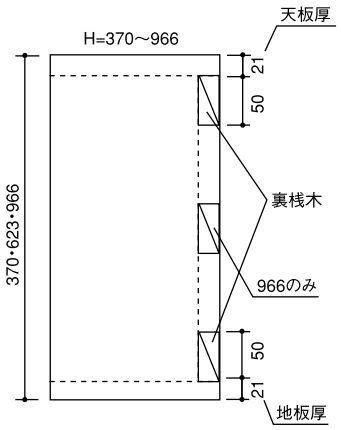
造り付け家具

2. 施工手順

① 壁面下地処理（事前に設置）

キャビネット設置部分にあらかじめ間柱、補強桟等の下地処理を行なった上で、プラスターボード等の壁材を施工してください。

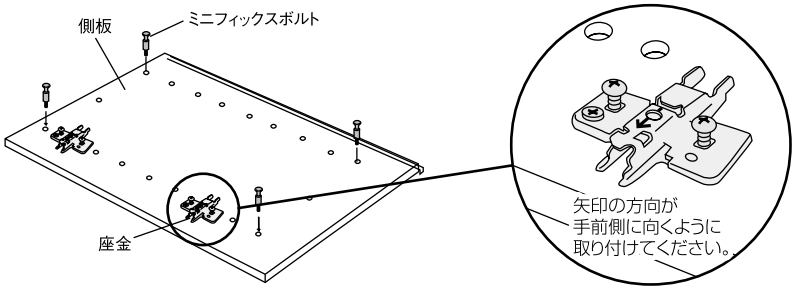




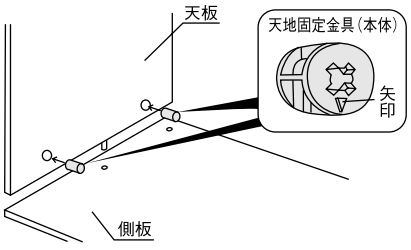
裏桟木（同梱品）は、キャビネット天地板の内面に取り付けてください。
（※H＝966のみ裏桟木は3本同梱）

② キャビネットの組み立て

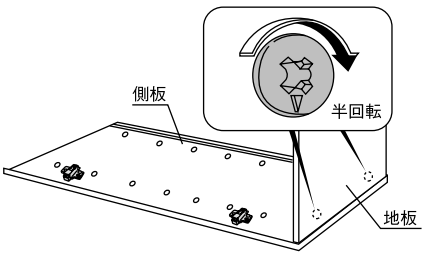
（1）左右の側板に座金・ミニフィックスボルトを、上側になる方の専用穴へ取り付けます。



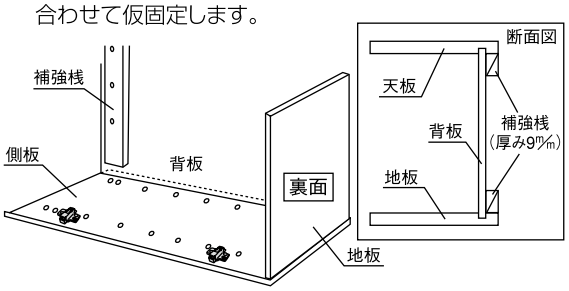
（2）左右の側板どちらかを床に置き、地板へ木ダボを差し込みます。このときミニフィックス本体についている矢印が木口の穴へ向くように取り付けます。



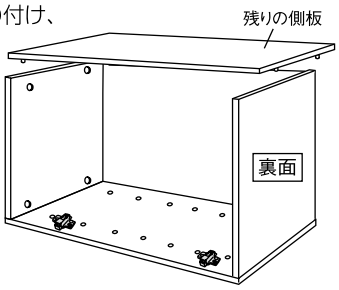
（3）側板のミニフィックスボルトと地板の木ダボに合わせて差し込みます。プラスドライバーで、ミニフィックス本体を時計回りに約半回転まわして固定します。



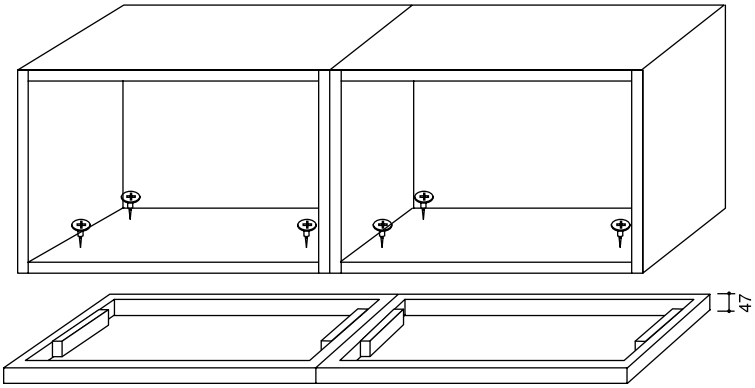
（4）背板を差し込み、補強桟を下地の位置に合わせて仮固定します。



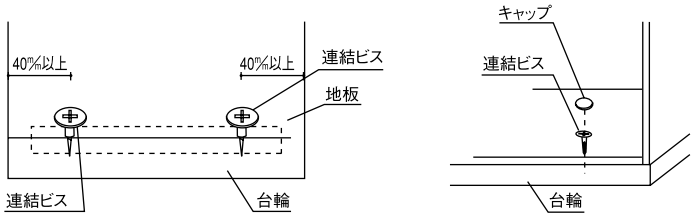
（5）残りの側板をミニフィックスボルトと地板の木ダボに合わせて差し込んで取り付け、（3）と同様にミニフィックス本体を固定します。



③ 台輪（別売品）の施工（床置き施工の場合のみ）



台輪の取り付け

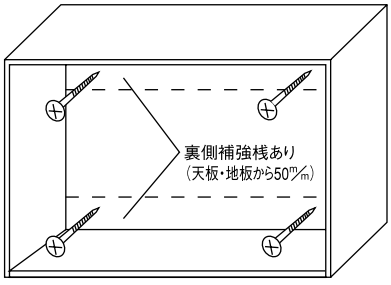


連結ビスで地板と台輪を固定した後、連結ビスの頭をビスキャップで隠してください。

④ 壁面への固定

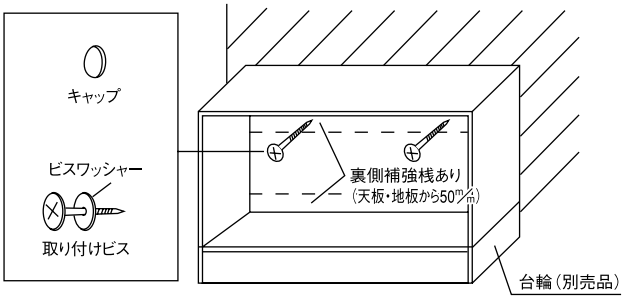
吊り施工 壁面下地にビス固定

背板越しに4ケ所ビス固定します（H=966タイプは6ヶ所）。ビス取り付け後、キャップ（同梱品）を取り付けてください。



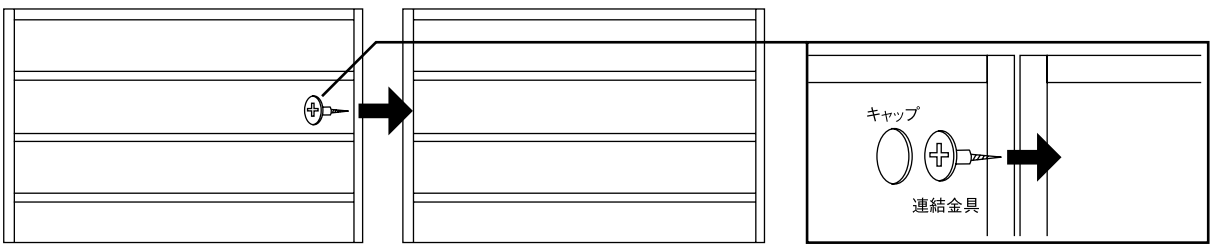
床置き施工 壁面下地にビス固定

同梱品の取り付けビスにビスワッシャーを通して背板越しに2ケ所ビス固定します。ビス取り付け後、キャップ（同梱品）を取り付けてください。引出しユニットについては、引出しを取り外して同様にビス固定してください。



⑤ キャビネットの連結

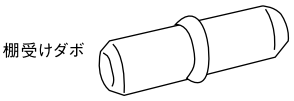
キャビネット同士を連結する場合、下穴をあけて、連結金具（同梱品）でキャビネット同士が隙間のない様に固定します。
その後、キャップ（同梱品）を取り付けてください。



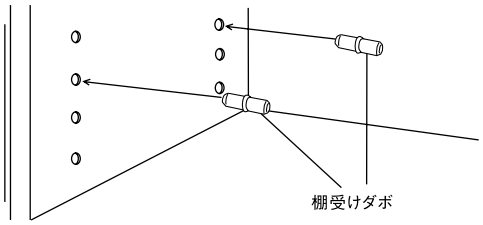
造り付け家具

⑥ 可動棚の取り付け（各キャビネット共通）

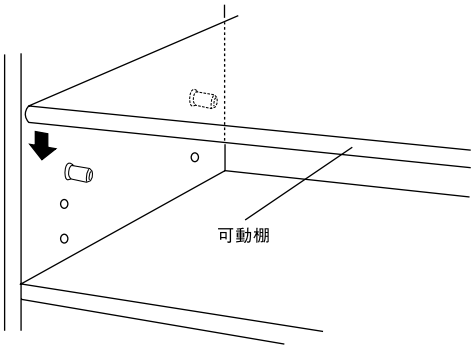
使用する部品



（1）棚受けダボを側板のシステム穴に差し込みます。

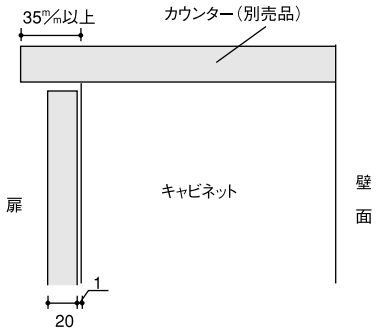


（2）棚受けダボの上に可動棚をセットします。

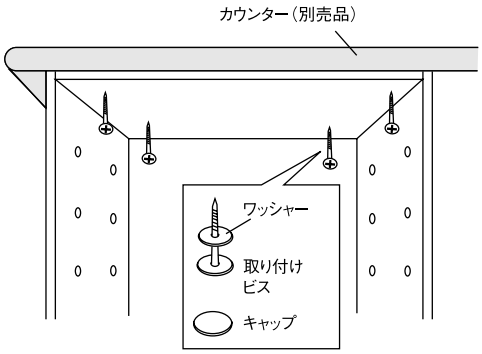


⑦ 天板カウンター（別売品）の取り付け

天板カウンターには別途、弊社専用カウンターもしくは集成カウンターをご使用ください。

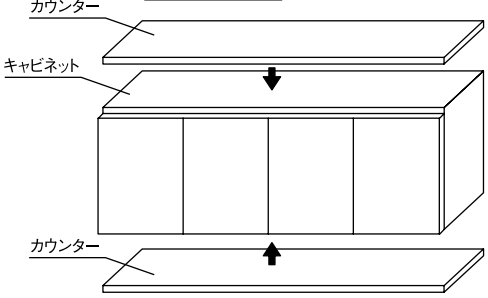


集成カウンターを使用する場合は、キャビネットの前面から35㎜以上を確保し、カウンターの巾を調整してカットしてください。専用カウンターを使用の場合は、カットする必要はありません。



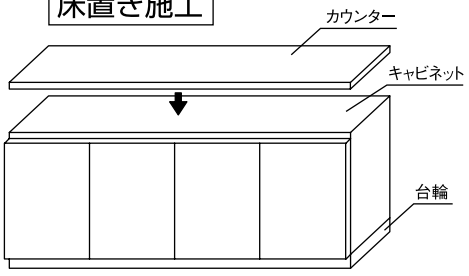
同梱品の取り付けビスにビスワッシャーを通して、キャビネットの天板越しに4ケ所ビス固定します。ビス取り付け後、キャップを取り付けてください。
引出しユニットは引出しを取り外してビス固定してください。

吊り施工



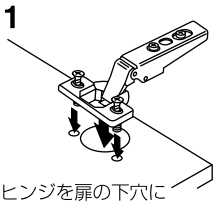
下部のカウンターは、水平ラインを強調するデザインの場合に取り付けてください。

床置き施工

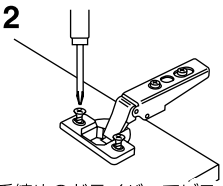


3. 扉の取り付け・調整方法

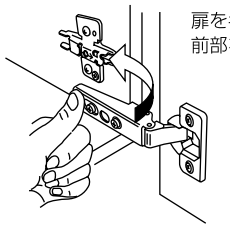
① 扉の取り付け（スライド丁番の取り付け）



ヒンジを扉の下穴に
押し込みます。



手締めのドライバーでビスを
締め込みます。



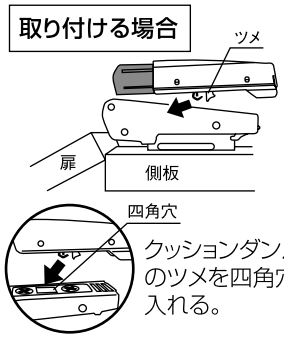
扉をキャビネットに取付けるにはヒンジアームの
前部を先に合わせ座金に軽く指で押すだけです。

⚠ 注意

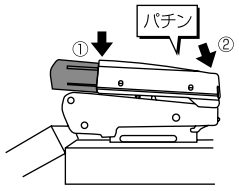
扉にヒンジを取り付ける際には、インパクトドライバーを使用しないでください。

② クッションダンパー（ブルーモーション）の着脱

取り付ける場合

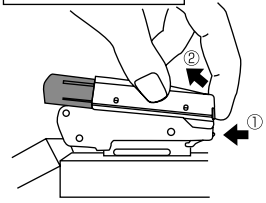


クッションダンパー
のツメを四角穴に
入れる。



前方①を固定しておき、
後方②をおさえ
パチンと音がなるまで
しっかりとはめる。

取りはずす場合



ななめ手前方向に
引き上げます。

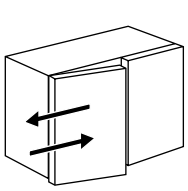
⚠ 注意

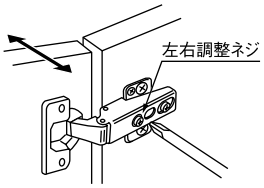
無理な脱着は、部品破損原因になります。

③ 扉の調整（スライドヒンジの調整）

扉の左右調整

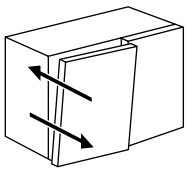
◆左右調整ネジを回して
左右調整してください。
アジャスト量：扉の内方向4㎜

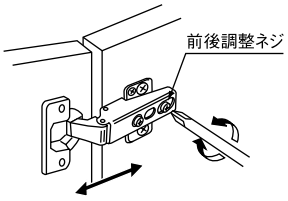




扉の前後調整

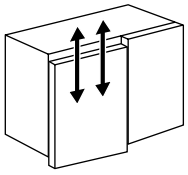
◆前後調整ネジをゆるめて前後調整した後、
締め直してください。
アジャスト量：扉の前方向2㎜
扉の後方向2㎜
（合計4㎜）

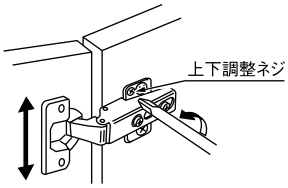




扉の上下調整

◆（座金により移動が可能です）
上下調整ネジをゆるめて上下調整した後、
締め直してください。
アジャスト量：扉の上方向2.5㎜
扉の下方向2.5㎜
（合計5㎜）





お願い

調整ネジの調整はインパクトドライバーを使用しないでください。
調整ネジの破損の原因になりますので必ず手締めのドライバーで調整してください。

施工終了後

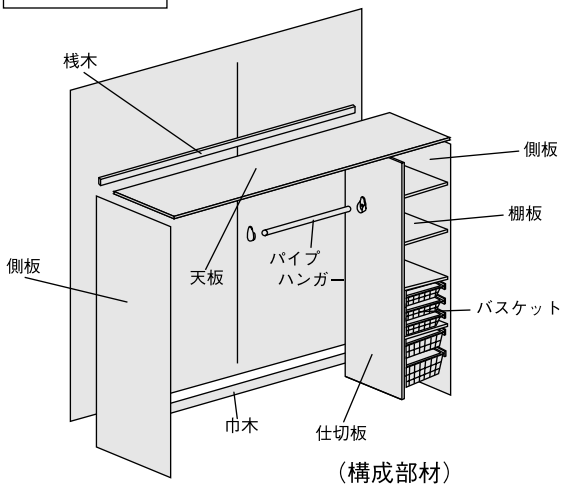
養生の方法 施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤまたは養生カバー等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着力が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売りの養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

お手入れのしかた キャビネットが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

開梱

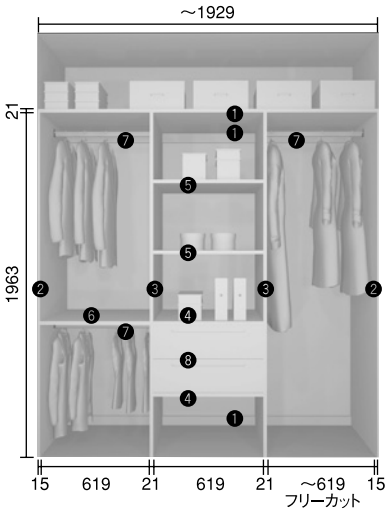
● 梱包を開いたら、本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。
● 製品に水濡れ等不具合があった場合は、**必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。**

部材の名称



（構成部材）

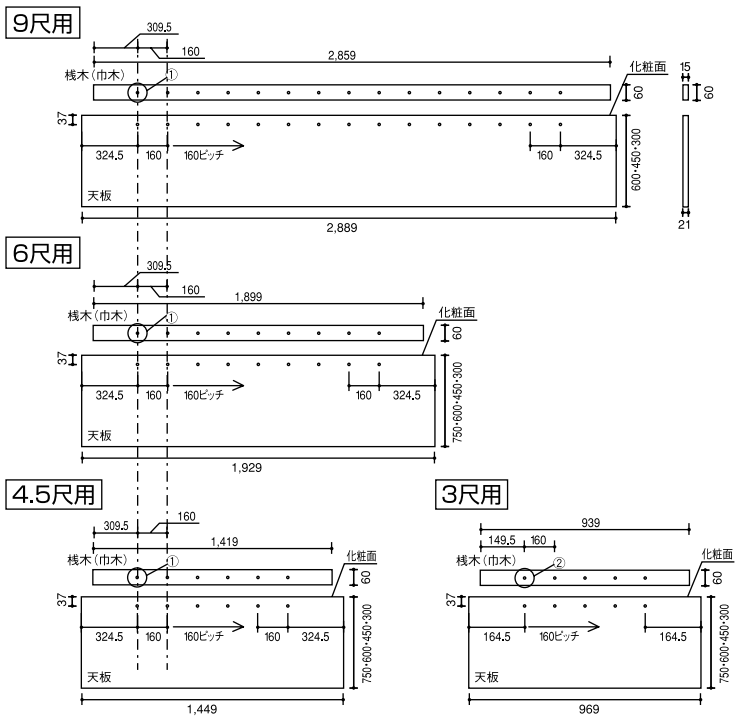
全体図

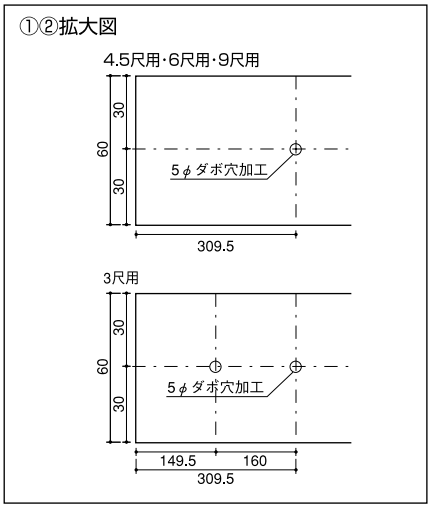


	品名
❶	天板・浅木・巾木セット
❷	側板
❸	仕切り板
❹	棚板（固定棚2入り）
❺	棚板（可動棚2入り）
❻	棚板（固定棚1入り）
❼	パイプハンガー
❽	引き出し（深）2段

天板・巾木・補強桟セット

※巾木・桟木は兼用です。



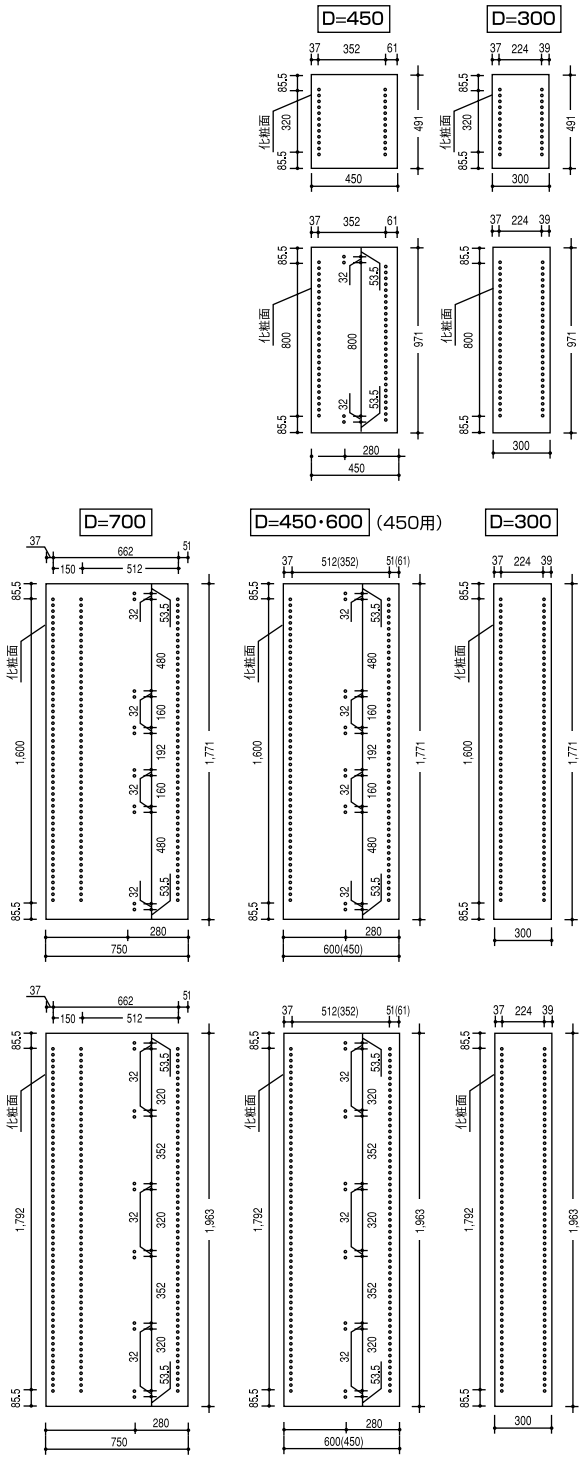


⚠ 注意

天地・巾木・桟木は全てシステム穴加工済です。必ずピッチが揃うように、切り面を揃えてカットしてください。

奥行き	300				450				600				750			備考
長　さ	969	1449	1929	2889	969	1449	1929	2889	969	1449	1929	2889	969	1449	1929	
天　板	1枚															ビスセット（キャップ付）
巾木・補強桟	2本															
施工説明書	1部															
使用説明書	1部															

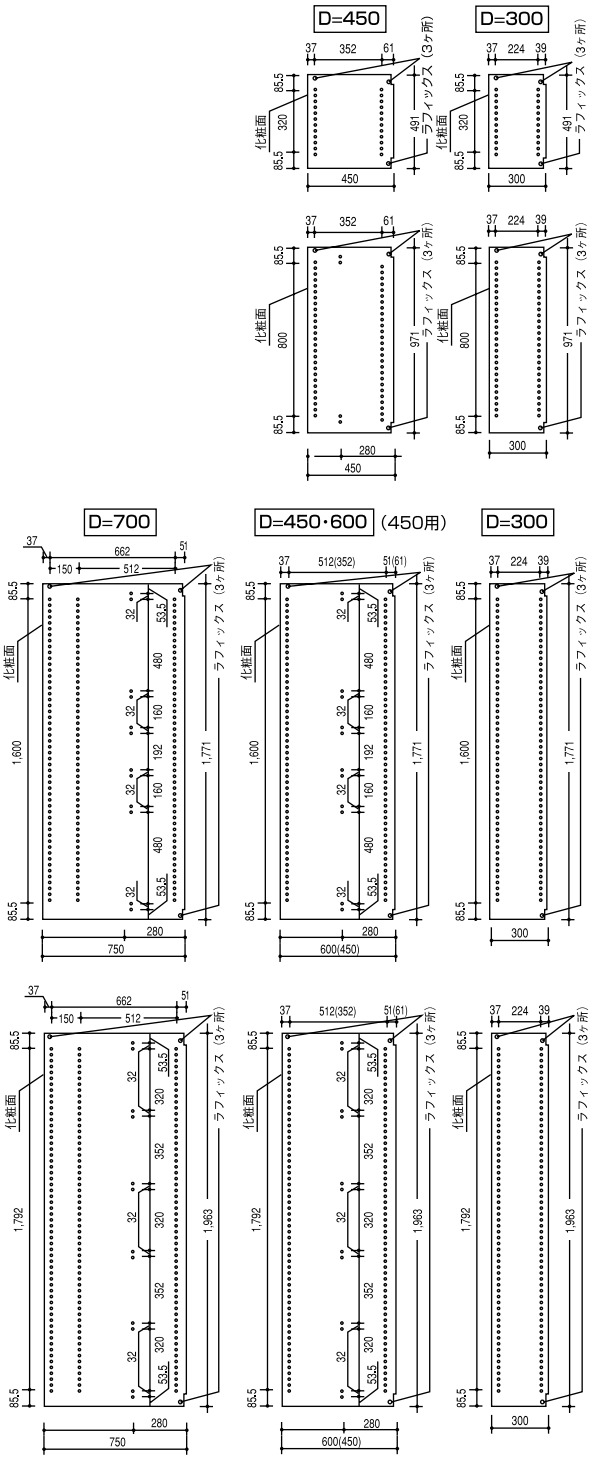
側板（左右兼用）



厚み15㎜

	奥行き	300	450	600	750
	長　さ	491・971・1,771・1,963			
	側　板	1枚			
	壁打ち込みビス（M4×45㎜）	6本			
	天板側板連結ビス	2本			

仕切板

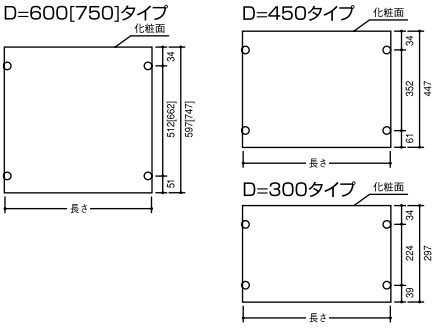


厚み21㎜

	奥行き	300	450	600	750
	長　さ	491・971・1,771・1,963			
	仕切り板	1枚			
	ラフィックス本体	3個			
	ラフィックスボルト	3個			
	ラフィックスカバー	3個			

棚板

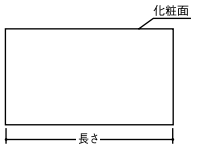
固定棚



厚み21㎜

	奥行き	300	450	600	750
	巾	297	447	597	747
	長 さ	299 459 619 779	299 459 619 779	299 459 619 779	459 619 779
	棚 板	1枚			
	ラフィックス本体	4個			
	ラフィックスボルト	4個			

可動棚



厚み21㎜

	奥行き	300	450	600	750
	巾	297	447	597	747
	長 さ	299 459 619 779	299 459 619 779	299 459 619 779	459 619 779
	棚 板	1枚			
	棚ダボ 可動棚用	4個			

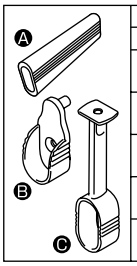
玄関収納用棚板



厚み12㎜

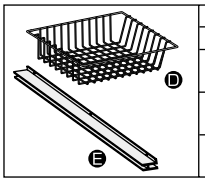
	奥行き	300			
	巾	290			
	長 さ	297	457	617	777
	棚 板	1枚			
	棚ダボ 可動棚用	4個			

パイプハンガーセット



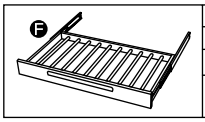
		間 口	400	600	800	1000	1200
		長 さ	450	610	770	1090	1250
	Ⓐ	パイプハンガー	1本				
	Ⓑ	パイプハンガーブラケット	2個				
		パイプハンガーブラケット取り付けビス (M3.5×10㎜)	2本				
	Ⓒ	パイプハンガー中吊ブラケット				1	1
		パイプハンガー中吊ブラケット取り付けビス (M3.5×28㎜)				1	1

ワイヤーバスケットセット（1入）



		奥行き	300		450	
		深 さ	90	180	90	180
	Ⓓ	バスケット	1個			
	Ⓔ	バスケットレール	2本			
		バスケットレール用取り付けビス (M6×10.5㎜)	4本			

スラックスハンガー

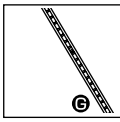


		奥行き	450		600	
		長 さ	459	779	459	779
	Ⓕ	スラックスハンガー	1本			
		スラックスハンガー用取り付けビス (M3.5×25㎜)	4本			

フック

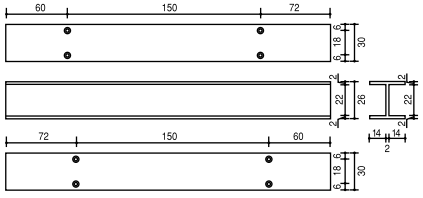
	フック	5個

棚柱セット



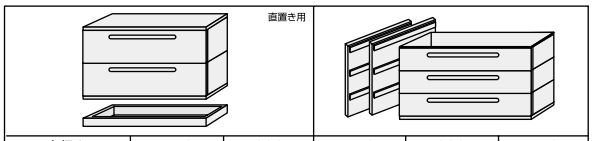
		長 さ	1820
	Ⓖ	棚柱本体	4本
		棚柱本体取り付けビス (M3.5×16㎜)	40本（シルバー色） 44本（ホワイト色）
		棚受け	24個

ウォークインH型ジョイント金物



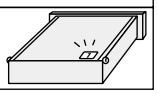
	奥行き	300	450	600	750
	長 さ	282	432	582	732
	コーナージョイント本体	1個			
	コーナージョイント取り付けビス (M3.5×16㎜)	8個	12個	16個	20個

引き出し

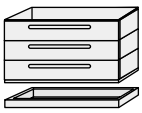


奥行き	450			600			450			600			750		
巾	459	619	779	459	619	779	459	619	779	459	619	779	459	619	779
引き出し2段（深）	1セット			1セット			1セット								
引き出し3段（中）							1セット								
引き出し4段										1セット	1セット		1セット	1セット	
引き出し用レール側板取り付けビス (M3.5×25㎜)	8本														
引き出し用レール側板位置決めダボ (M5×16㎜)	4個														

〈施工上のお願い〉
引き出しの底板部には引き出しの段数に応じ①②と明記してあります。取り付け時には上から①②の順で施工してください。順番が変わると引き出しの隙間が均一にならない場合があります。

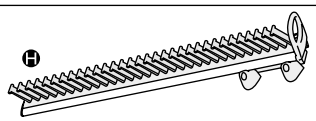


和盆



奥行き	450	600
巾	1,094	
和盆セット	1セット	

ネクタイ掛け



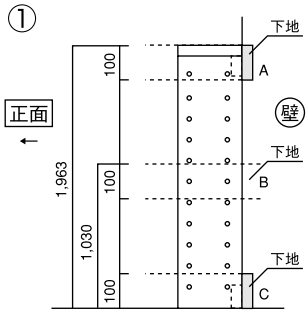
Ⓗ	ネクタイ掛け	1本
	ネクタイ掛け用ビス (M3.5×25㎜)	4本

クローゼット・ウォークインクローゼットプラン基本取り付け

施工の前に

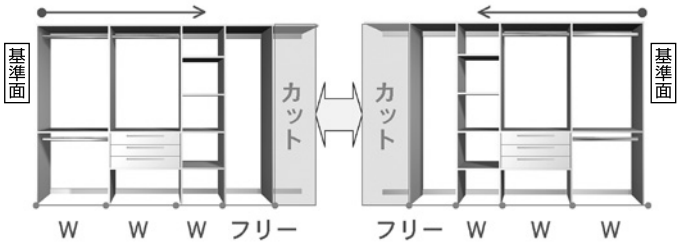
胴縁等の補強桟または合板下地（厚み12㎜以上）などで下地の処理をしてください。下地は巾100㎜以上のものをA～Cの3ヵ所に施してください。
A・Cは奥行方向とワイド方向にも施してください。

①



② 基準面を必ず決めた上で施工を行ってください。

※割り付けは左右どちらからでも可能

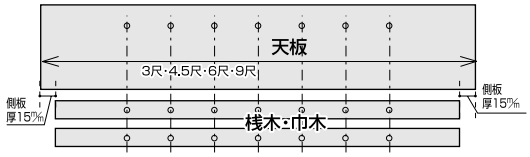


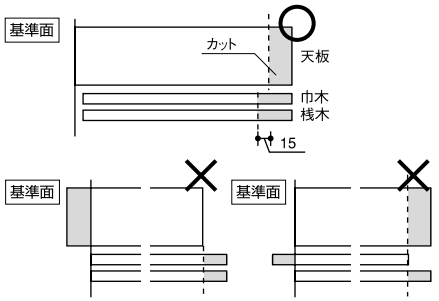
基準面を必ず決めて、仕切板の方向は同じ方向に施工してください。

⚠ 注意

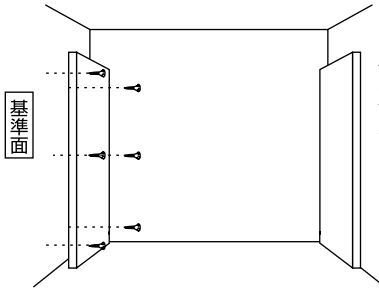
桟木・巾木・天板のカット
- 桟木（巾木）は**側板の内々寸法**に合わせてカットしてください。
- 天板は、**壁の内々寸法**に合わせてカットしてください。

カットの方向
- 基準面を揃えて取り付けてください。



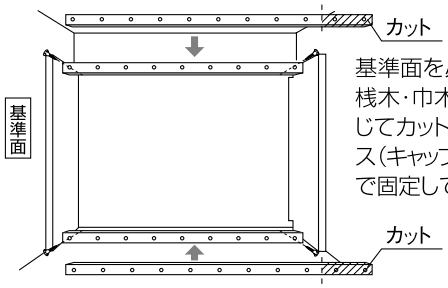


側板の取り付け



側板を壁側に、固定ビス（同梱品・ビスキャップ付）で固定してください。

桟木・巾木の取り付け



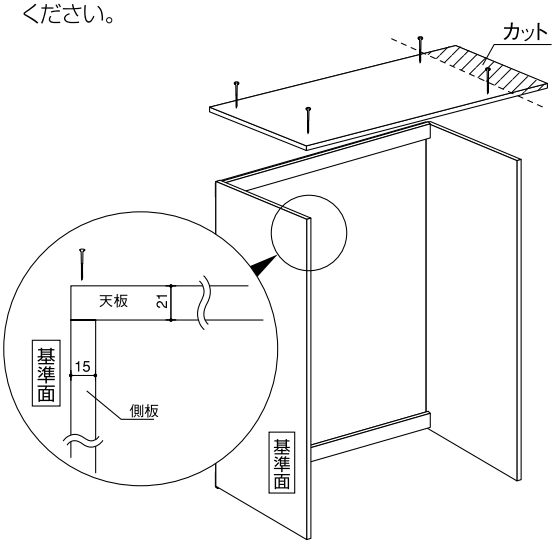
基準面を必ず決めて、桟木・巾木を間口に応じてカットし、同梱のビス（キャップ付専用ビス）で固定してください。

お願い

固定ボルトはシステム穴以外で固定してください。

天板の取り付け

基準面を必ず確認し（桟木・巾木の基準面と同方向）天板を間口に応じてカットし、専用ビスで側板に固定してください。

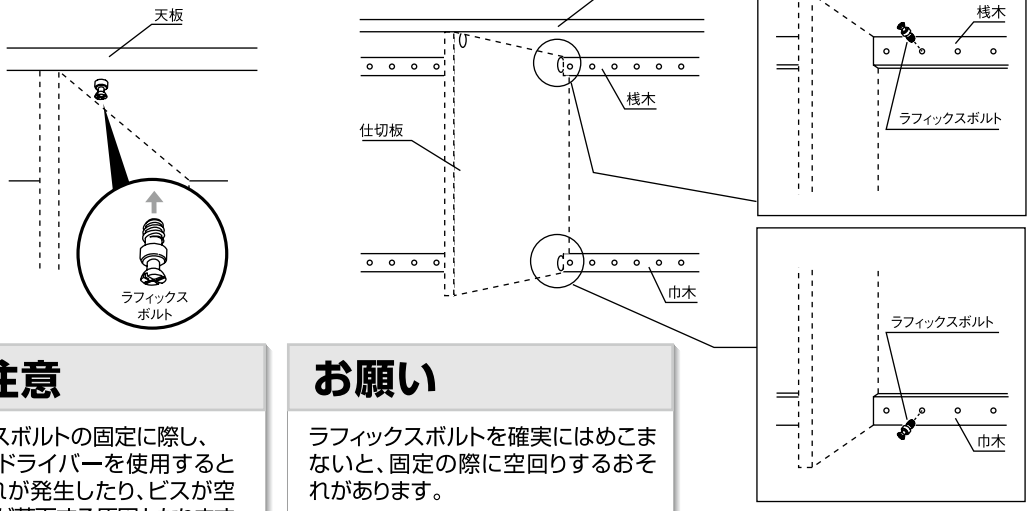


お願い

天板は基準面側の壁にぴったりあわせてください。

ラフィックスボルトの取り付け

桟木、巾木、天板にラフィックスボルトを確実にはめこみ、ドライバーで締めつけ固定してください。



⚠ 注意

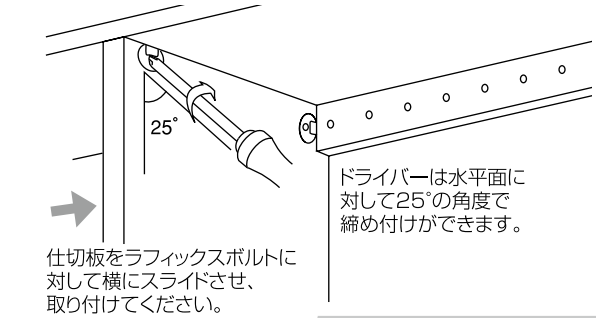
ラフィックスボルトの固定に際し、インパクトドライバーを使用すると基材に割れが発生したり、ビスが空回りして板が落下する原因となります。

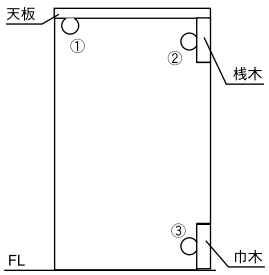
お願い

ラフィックスボルトを確実にはめこまないと、固定の際に空回りするおそれがあります。

仕切板と巾木・桟木・天板の接合

仕切板をラフィックスボルトに取り付け、ドライバーでしめつけ固定してください。



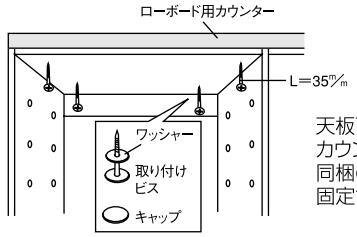


①②③の3ヶ所をドライバーでしめつけ確実に固定してください。

⚠ 注意

ラフィックスボルトの固定に際し、インパクトドライバーを使用すると基材に割れが発生したり、ビスが空回りして板が落下する原因となります。

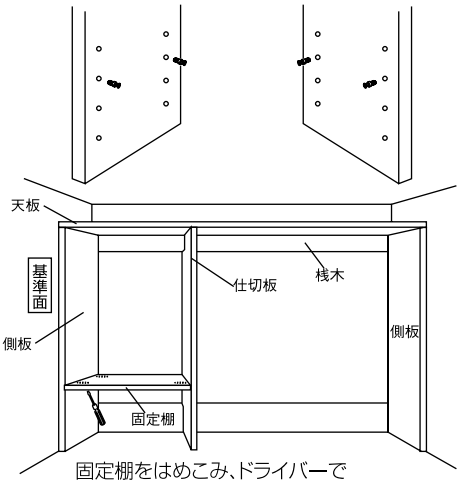
ローボードプラン（テレビ収納プラン）の場合



天板下からローボード用カウンターに向け、同梱のビス（ビスキャップ付）で固定させてください。

固定棚の取り付け

仕切板・側板のシステム穴に
ラフィックスボルトを取り付けてください。



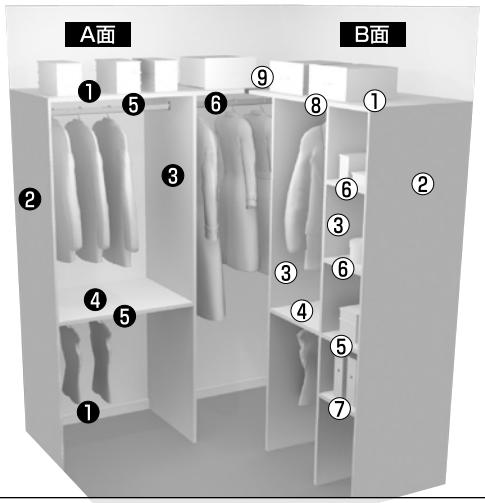
固定棚をはめこみ、ドライバーで締めつけ固定します。

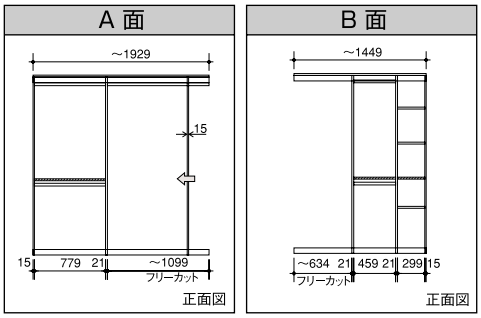
お願い

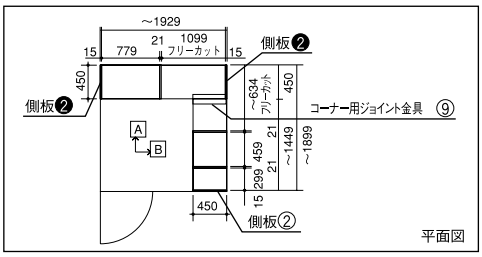
側板と仕切り板の間には必ず1枚は固定棚を取り付けてください。

- 高さ1980㎜／1800㎜：FLから750～900㎜前後
- 高さ1000㎜：FLから400～600㎜
- 高さ　500㎜：任意の高さ

ウォークインクローゼットプラン







両側に側板が取り付く面から施工してください

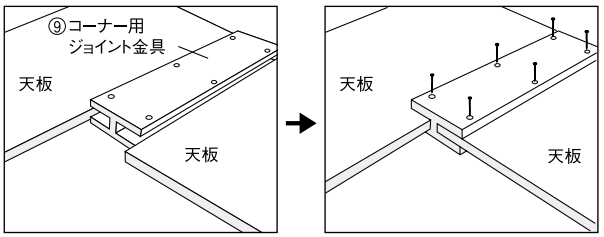
❶天板・桟木・巾木セット ①天板・桟木・巾木セット ⑥棚板（可動棚2入り）
❷側板 ②側板 ⑦棚板（可動棚1入り）
❸仕切り板 ③仕切り板 ⑧パイプハンガー
❹棚板（固定棚1入り） ④棚板（固定棚1入り） ⑨コーナー用 ジョイント金具
❺パイプハンガー ⑤棚板（固定棚1入り）
❻パイプハンガー

仕切板の位置・間隔
フリーカット部分の位置などを確認ください。

側板の取り付け位置

平面図❷❷②の位置に側板を取り付けます。
（取り付け方法は前頁に従って取り付けます。）

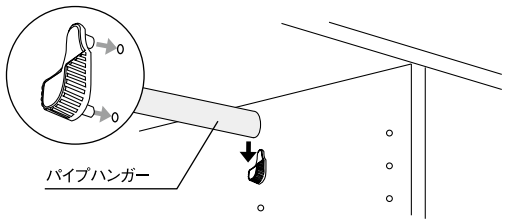
天板の接合　コーナー部分の天板の接合



⑨コーナー用ジョイント金具に各々の天板を差し込み、同梱のビスで固定します。

POINT　システム穴を御利用ください。

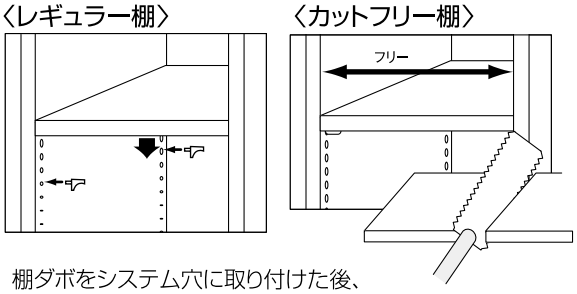
パイプハンガーの取り付け



ブラケットをシステム穴に取り付けた後、パイプハンガーを取り付けてください。
（グラツキが気になる場合、固定したい場合は同梱の専用ビスで固定してください。）

※フリーカット部分へ取り付ける場合は、間口に合せてパイプをカットしてお使いください。

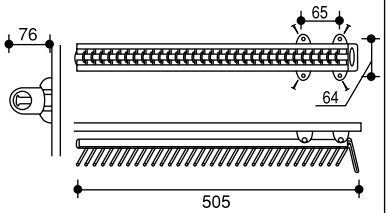
可動棚の取り付け



棚ダボをシステム穴に取り付けた後、可動棚を取り付けてください。

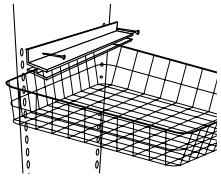
※フリーカット部分へ取り付ける場合は、間口に合せて可動棚をカットしてお使いください。

ネクタイハンガー



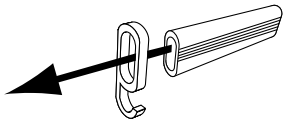
同梱のビスで4ヶ所とめてください。

ワイヤーバスケットの取り付け



側板（仕切板）にレールを同梱のビスで取り付けます。

フック

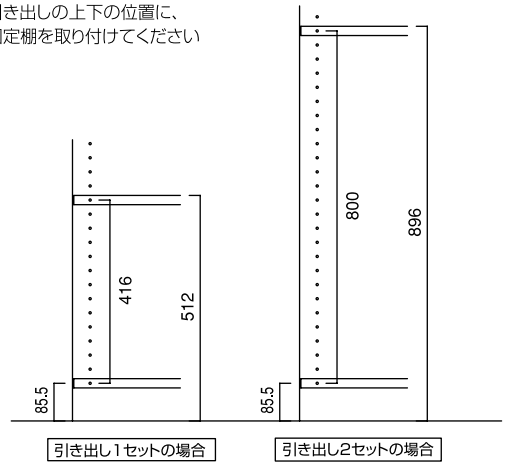


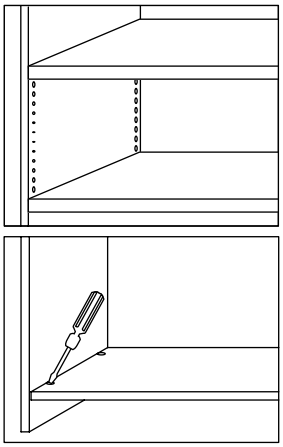
パイプハンガーにフックを通してお使いください。

引き出しの取り付け

①固定棚の取り付け

引き出しの上下の位置に、
固定棚を取り付けてください

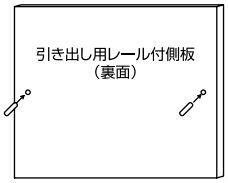




※固定棚の固定が下からできない場合は、固定棚を上下反対にして、上から固定してください

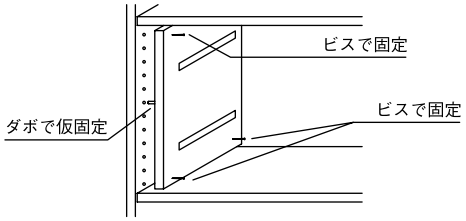
②

引き出し用レール付側板の裏面に、
ダボを取り付けます。



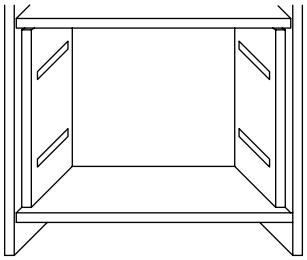
③

引き出し用側板を、本体側板（仕切り板）のシステム穴に
差込み仮固定し、固定ビスで留めてください。



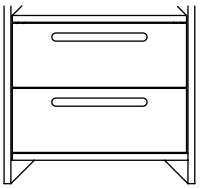
④

両側とも同様に取り付けます。



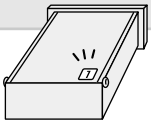
⑤

引き出しを取り付けます。



お願い

引き出しの底板部には引き出しの段数に応じ1 2と明記してあります。取り付け時には上から1 2の順で施工してください。順番が変わると引き出しの隙間が均一にならない場合があります。



施工終了後

養生の方法

施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤまたは養生カバー等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着力が強く、化粧シートのハガレの原因になりますので、別売りの養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

お手入れのしかた

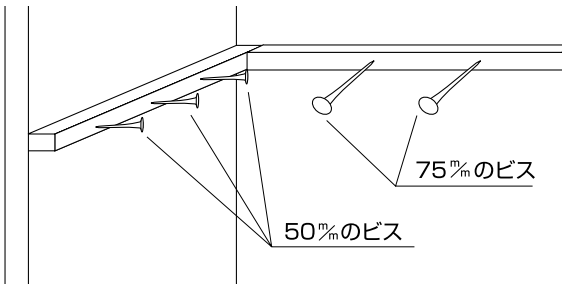
棚板が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

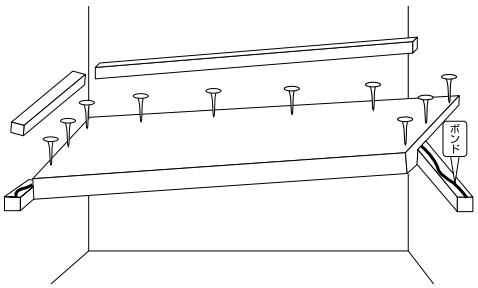
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に貼り付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮願います。

e·ra·bo 布団収納

布団収納棚の取り付け

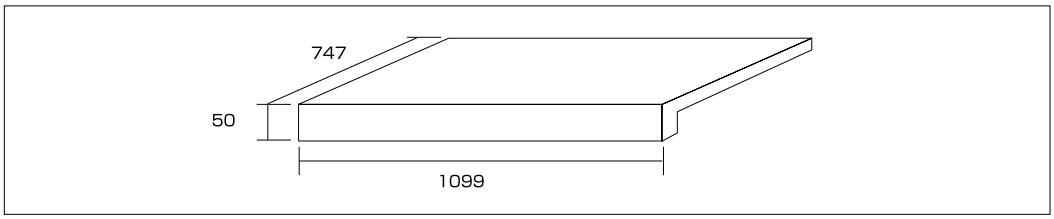


墨出し位置の情報に合わせて、桟木を横に寝かして（高さ30㎜方向）、専用の固定ビスで取り付けてください。なお、サイドパネルは50㎜、壁面との取り付けは、75㎜のビスを各3本づつ使用してください。取り付け後、専用キャップを取り付けてください。
・壁の裏にはあらかじめ補強を入れて、桟木を固定できるようにしておいてください。
・桟木は割れ防止のため必ず下穴加工をしてください。
・ビスはワッシャーをはめた後打ち込んでください。

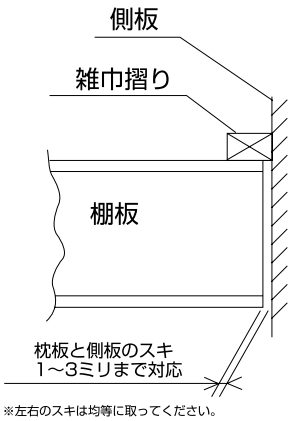


桟木に木工用ボンドを塗布し、棚は釘又はビスで固定します。
その後、隠し釘と木工用ボンドを併用して雑巾ズリを固定します。

布団収納棚

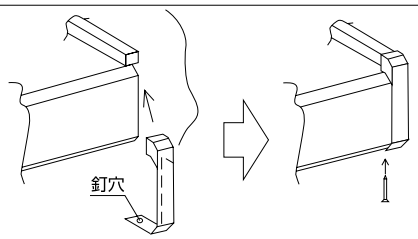


スキマ隠し



※左右のスキは均等に取ってください。

施工要領



①接合部分に接着剤を塗布し破線部のツバ部分をスキマに差し込みます。
推奨品:GPクリヤー（コニシ）

②下方向から釘で固定します。
カラーネイル（25㎜）

※左右有り。本図は右側を示しています。

注意：雑巾摺りは枕棚の面取り部分より出ないように取り付けてください。



施工終了後

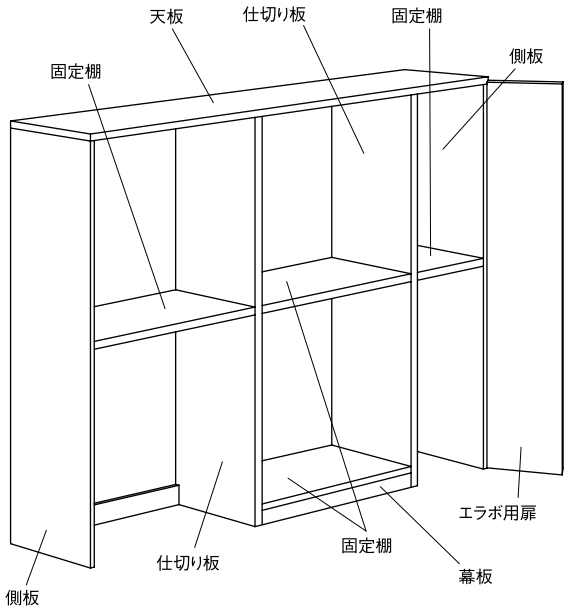
養生 当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

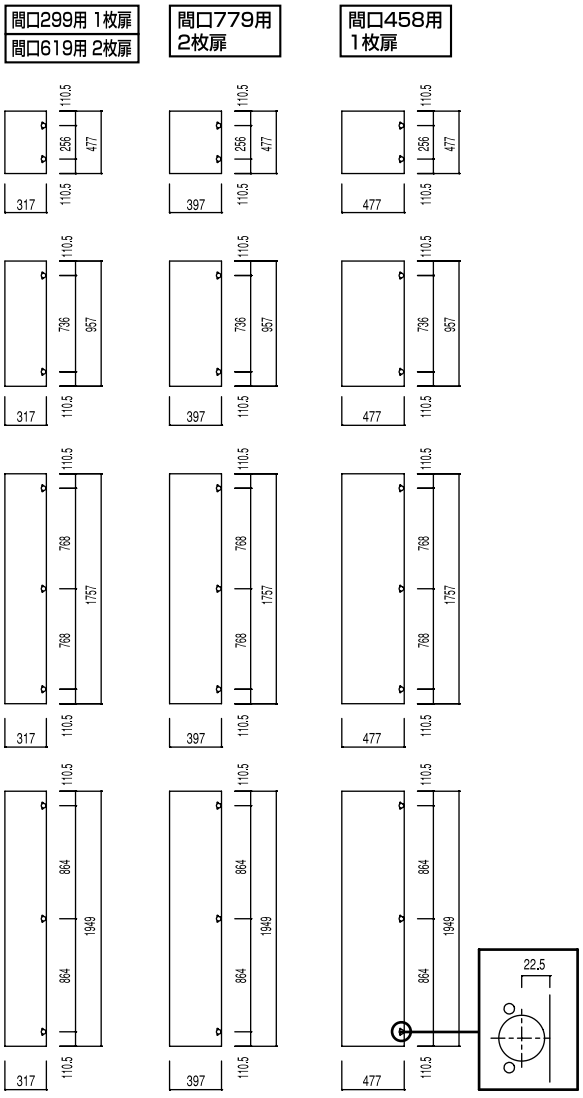
お手入れのしかた

当製品が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

e·ra·bo 扉

1. 部材の名称





施工手順

■本体の組立

1.扉施工時の注意点
2.幕板の取り付け
3.「門型プラン」などの際の仕切り板の加工
（※本体の組立ては、別紙「erabo」本体の施工説明書をご参照ください。）

■扉の組立

1.座金の取り付け
2.スライドヒンジの取り付け
3.扉の取り付け
4.プッシュオープン本体の取り付け
5.扉・プッシュオープンの調整

梱包内訳表

梱包を開いたら、本体および下表の付属品に不足および問題がないかを確認してください。

扉サイズ	長さ	477		957		1757		1949	
	巾	317·477	317·397	317·477	317·397	317·477	317·397	317·477	317·397
	入枚数	1枚	2枚	1枚	2枚	1枚	2枚	1枚	2枚
	スライドヒンジ	2個	4個	2個	4個	3個	6個	3個	6個
	座金	2個	4個	2個	4個	3個	6個	3個	6個
	座金用ビス システム穴	4個	8個	4個	8個	6個	12個	6個	12個
	プッシュオープン 金具本体	1個	2個	1個	2個	1個	2個	1個	2個
	プッシュオープン金具 本体用取り付けビス	2個	4個	2個	4個	2個	4個	2個	4個

2. 施工手順

本体の組み立て

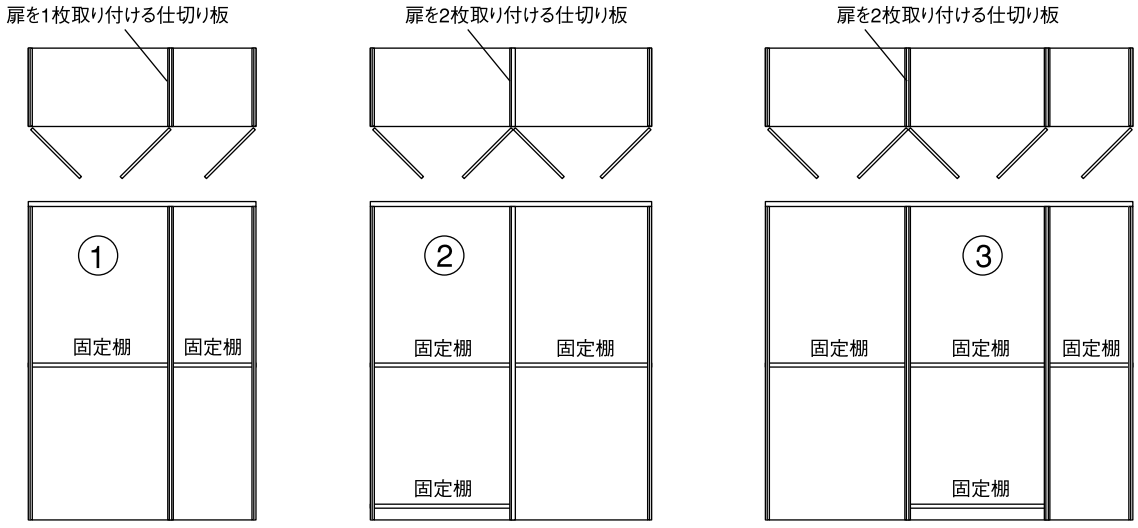
施工時の注意点　（※エラボ本体の組み立ては、別紙施工説明書をご参照ください。）

（1）固定棚が必要です

扉を取り付ける際のエラボ本体には、必ず中段に固定棚を取り付けてください。下記の図面の②と③のように「扉を2枚取り付ける仕切板」には、固定棚を仕切り板・側板の最下段に取り付けてください。その際には左右はどちらでも結構です。また、①のように、各仕切り板に扉が1枚しか取り付けない場合は不要です。

（2）引き出しなどは取り付けできません

扉を取り付ける間口には、引き出し、スラックスハンガーは、取り付けることができません。スライドヒンジや扉と干渉する為です。

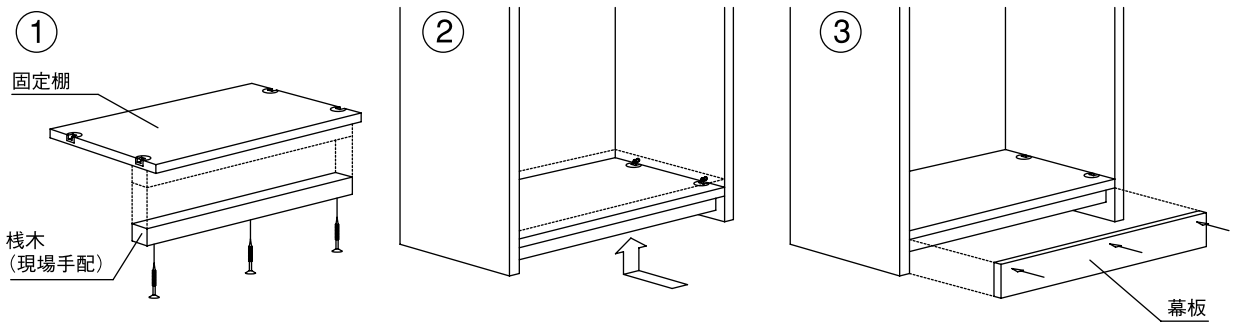


【最下段に固定棚は必要ありません】　【最下段に固定棚が必要です】　【最下段に固定棚が必要です】

幕板の取り付け方法

幕板を取り付けるプランの場合、下記の図をご参照ください。
幕板を固定板の巾と同じ寸法でカットしてください。

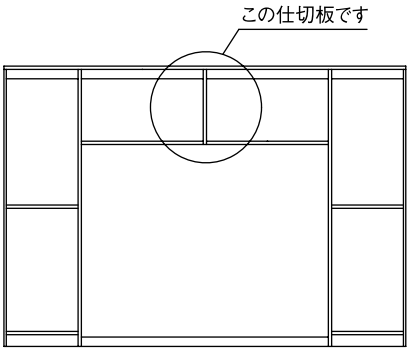
①幕板を取り付けるための桟木（現場手配）を固定棚に固定します。その際に、ラフィックス金具が付いていない面に取り付けてください。
②固定棚を取り付けます。ラフィックス金具をしっかり固定して下さい。
③「①」で固定した桟木に当てるように幕板をつけていただき、フィニッシュネイルなどで固定して下さい。



e·ra·bo 扉

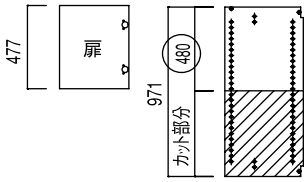
「門型プラン」などの際の仕切り板の加工方法と組み立て方法

下記のような「門型」プランの場合、仕切り板の加工が必要になります。
図をご参照いただきカットしてください。



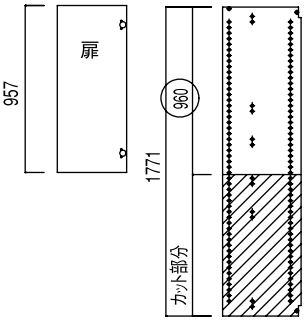
DH=477の場合

※必ず長さ971㎜以上の仕切板をご使用ください。

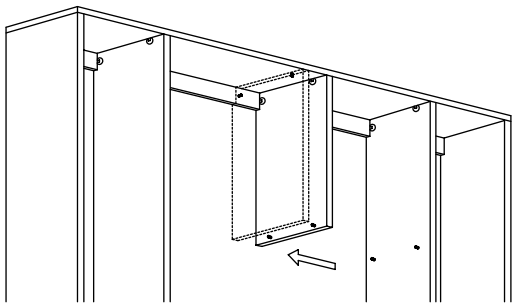


DH=957の場合

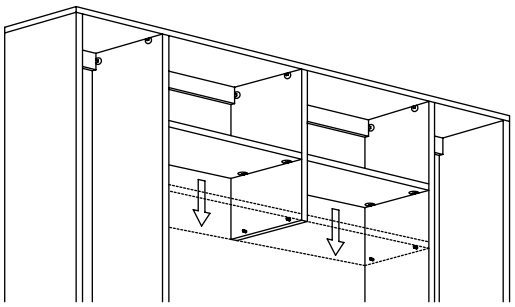
※必ず長さ1,771㎜以上の仕切板をご使用ください。



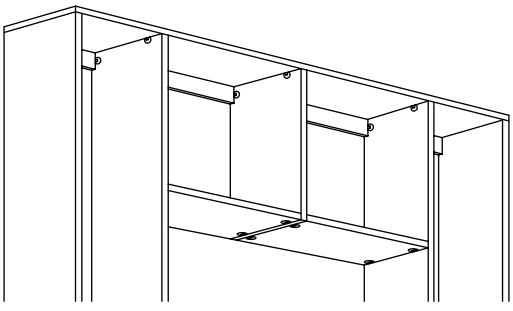
①カットした仕切り板を、巾木と天板のラフィックスで取り付けてください。
+ドライバーでしっかりと締め付けてください。



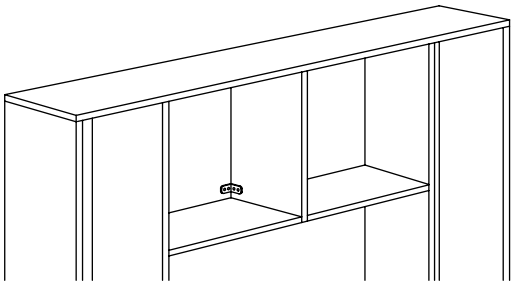
②カットした仕切板と仕切り板に、ラフィックスボルトを取り付け、固定棚を差し込んでください。



③固定板を、ラフィックスで取り付けてください。
+ドライバーでしっかりと締め付けてください。

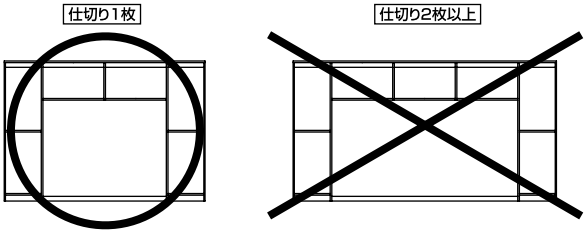


④L金具（別売）で仕切り板を固定してください。



⚠ 注意

カットした仕切りを使用するプランの場合、仕切りを2枚以上使用するプランは避けてください。

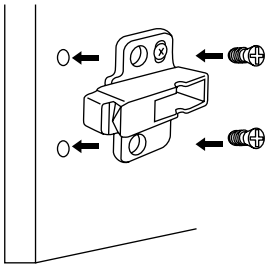


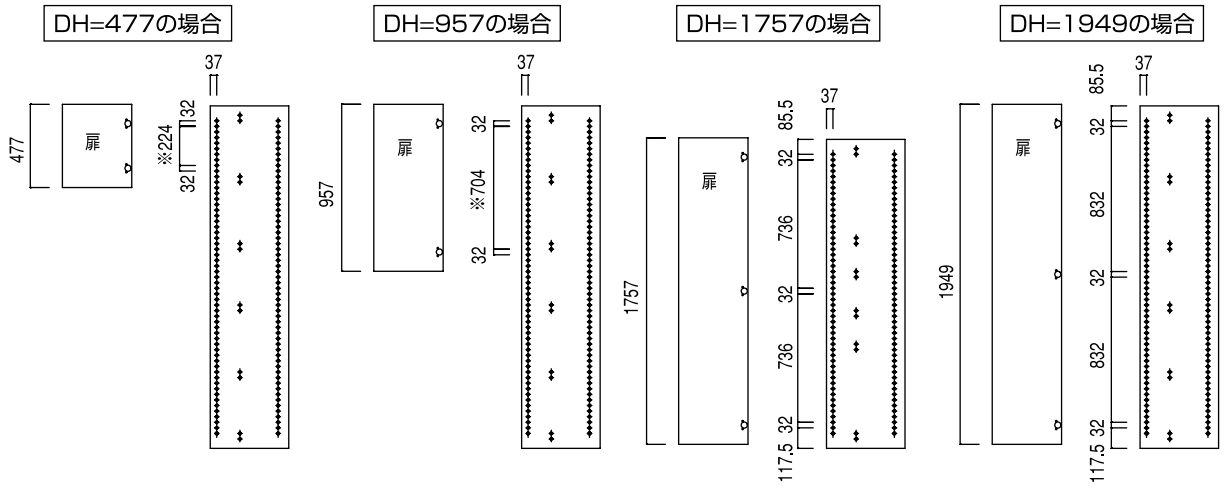
扉の組み立て

(1) 座金を取り付けます (側板・仕切板)

側板・扉に座金を取り付けます。取り付けはエラボのシステム穴を利用します。
取り付け位置は図面の寸法でお願いします。

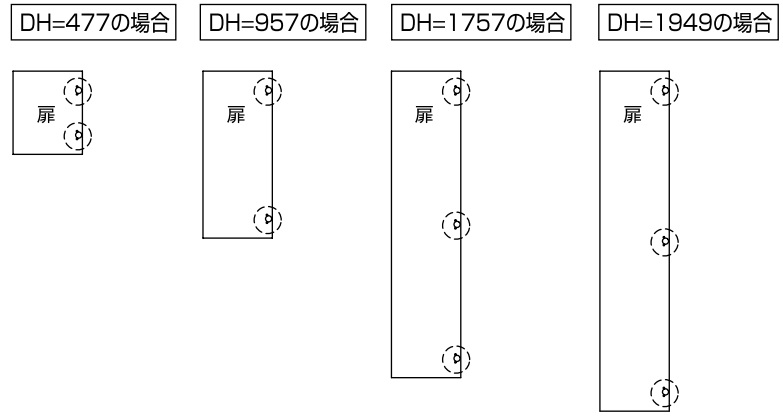
(※寸法は、小さい扉なので取り付け位置は自由になります。
表記の寸法は座金の取付ピッチになります)

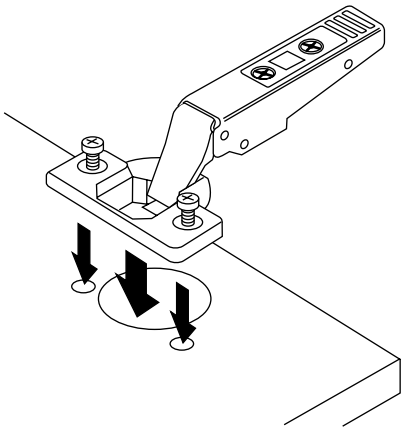




(2) スライドヒンジを取り付けます

扉1枚につき、「DH1757」「DH1949」には3ヶ所、
「DH477」「DH957」には2ヶ所スライドヒンジを取り付けます。

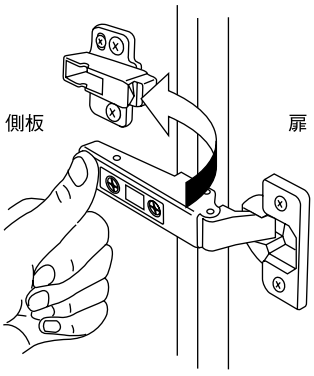




ヒンジを扉の下穴に押し込み
ビス止めします。

(3) 扉を取り付けます

扉をキャビネットに取り付けるにはヒンジアームの
前部を先に合わせ座金に軽く指で押すだけです。

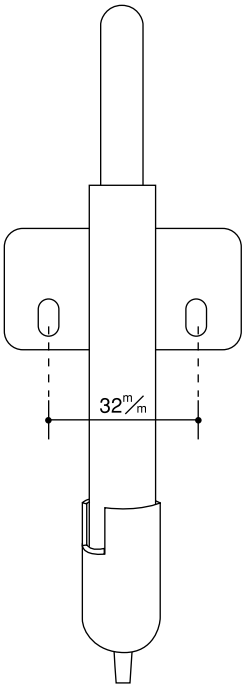


e·ra·bo 扉

プッシュオープン本体の取り付け

側板に取り付ける場合（片開きドア）

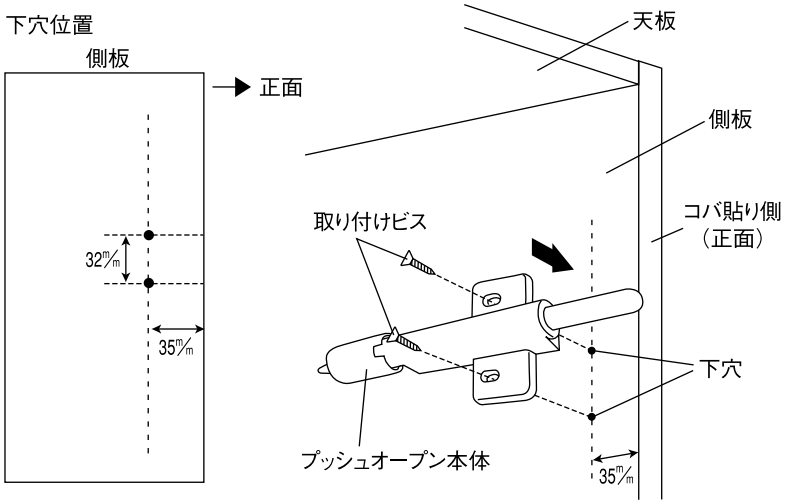
側板にプッシュオープン本体を取り付けます。



⚠ 注意

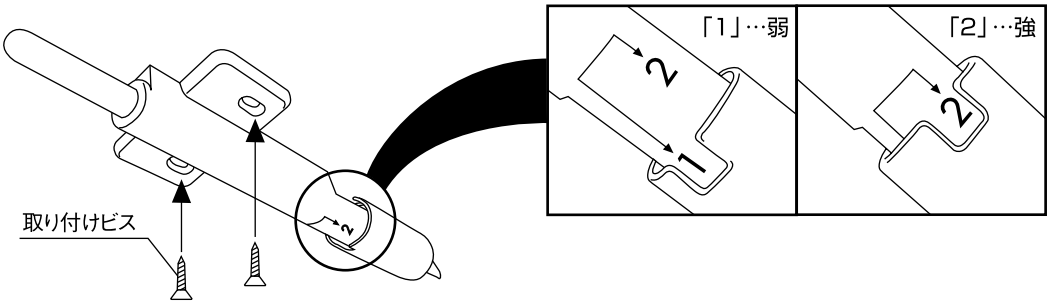
・「DH:1757」と「DH:1949」の場合
プッシュオープン本体の取り付け位置は扉の中央付近に取り付けてください。
・システム穴を利用しての取り付けはできません。

①側板の正面側の材端から35㎜の位置に下穴（2.5φ）をあけてください。
②下穴の位置に合わせ、同梱の取り付けビスで固定してください。



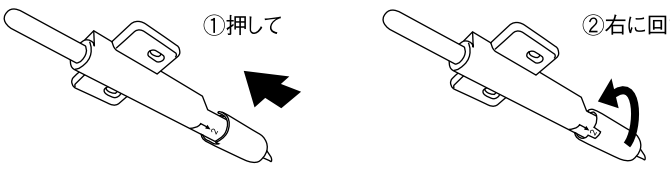
プッシュオープンの調整

取り付け前に必ず調整してください。

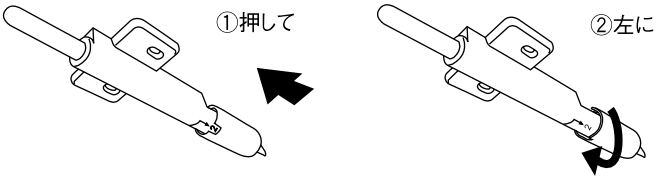


●「DH:1757」と「DH:1949」の場合…「2」にする。
※出荷時は1になっています。

「1」→「2」にする場合



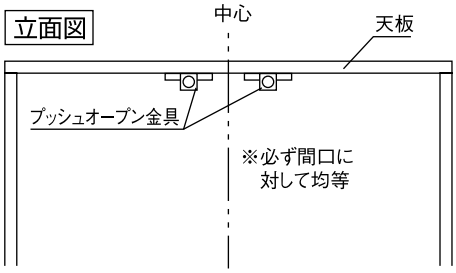
「2」→「1」にする場合

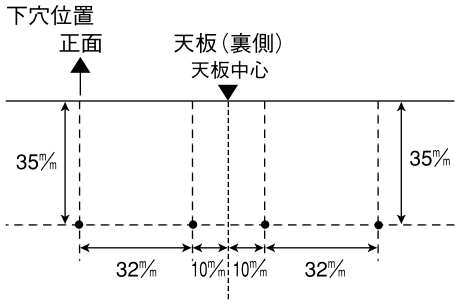


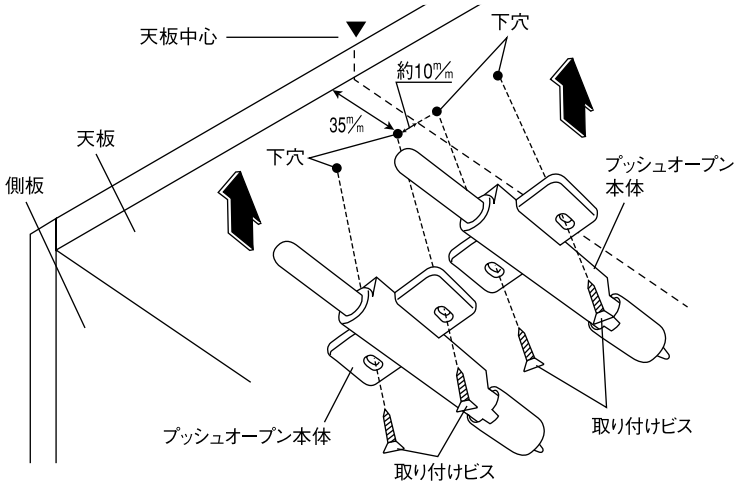
天板に取り付ける場合（両開きドア）

天板にプッシュオープン金具を取り付けます。

立面図







天板の正面側の材端から天板の中心より図のように35㎜の位置に取り付けてください。必ず下穴（2.5φ）を空け取り付けビスで固定してください。

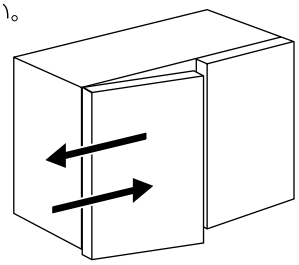
⚠ 注意

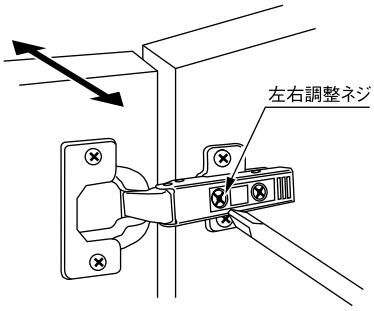
・システム穴を利用しての取り付けはできません。

扉の調整方法

扉の左右調整

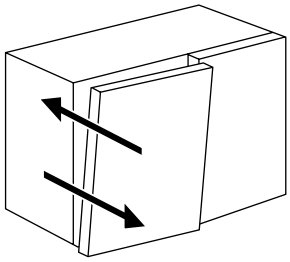
◆左右調整ネジを回して左右調整してください。
アジャスト量:扉の内方向4㎜

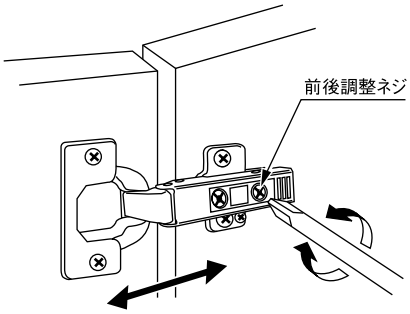




扉の前後調整

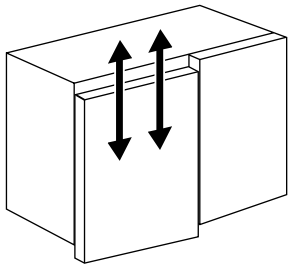
◆前後調整ネジをゆるめて前後調整した後、締め直してください。
アジャスト量:扉の前方向2㎜
扉の後方向2㎜（合計4㎜）

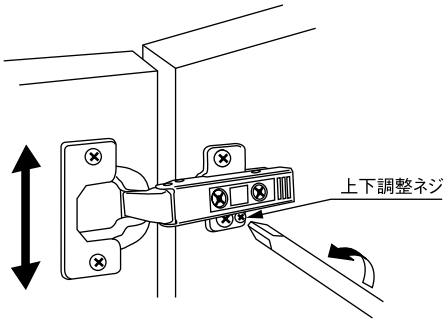




扉の上下調整

◆上下調整ネジをゆるめて上下調整した後、締め直してください。
アジャスト量:扉の上方向2.5㎜
扉の下方向2.5㎜（合計5㎜）

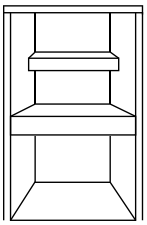
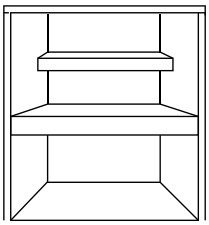
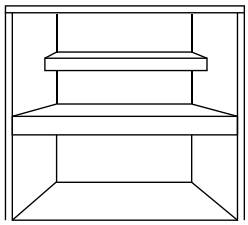




押入れセット

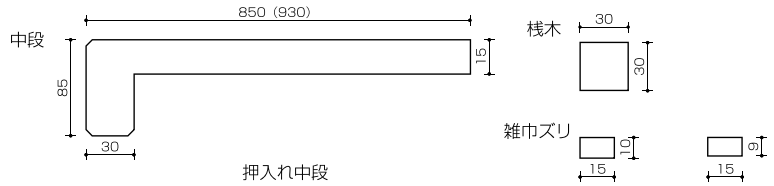
梱包内訳

（　）内メーターモジュール

押入れセット	3尺タイプ		4.5尺タイプ		6尺タイプ	
						
部材名	寸法（㎜）	数量	寸法（㎜）	数量	寸法（㎜）	数量
押入れ中段	900×850×85 （950×930×85）	1	1,360×850×85 （1,450×930×85）	1	1,840×850×85 （1,950×930×85）	1
押入れ枕棚	900×400×50 （950×445×50）	1	1,360×400×50 （1,450×445×50）	1	1,840×400×50 （1,950×445×50）	1
押入れ天板	1,820×910×2.5 （1,950×995×2.5）	1	1,820×910×2.5 （1,950×995×2.5）	2	1,820×910×2.5 （1,950×995×2.5）	2
押入れ地板	1,820×910×5.5 （1,950×995×5.5）	1	1,820×910×5.5 （1,950×995×5.5）	1	1,820×910×5.5 （1,950×995×5.5）	1
押入れ側板・背板	2,430×910×3 （2,430×995×3）	3	2,430×910×3 （2,430×995×3）	4	2,430×910×3 （2,430×995×3）	4

押入れ中段

断面形状



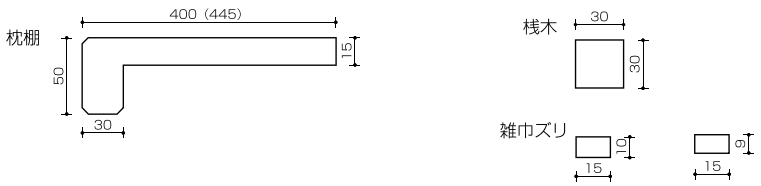
ℓ＝長さ（㎜）

（　）内メーターモジュール

	3尺タイプ	4.5尺タイプ	6尺タイプ	9尺タイプ
中　段	ℓ=900（950）	ℓ=1,360（1,450）	ℓ=1,840（1,950）	ℓ=2,790（2,950）
桟　木	ℓ=900（950）×3本	ℓ=1,360（1,450）×1本 ℓ=900（950）×2本	ℓ=1,840（1,950）×2本	ℓ=2,800（2,950）×1本 ℓ=900（950）×2本
雑巾ズリ	ℓ=900（950）×3本	ℓ=1,360（1,450）×1本 ℓ=900（950）×2本	ℓ=1,830（1,950）×2本	ℓ=1,830（1,950）×2本 ℓ=900（950）×1本
ビ　ス	9	10	11	13

押入れ枕棚

断面形状



ℓ＝長さ（㎜）

（　）内メーターモジュール

	3尺タイプ	4.5尺タイプ	6尺タイプ	9尺タイプ
枕　棚	ℓ=900（950）	ℓ=1,360（1,450）	ℓ=1,840（1,950）	ℓ=2,790（2,950）
桟　木	ℓ=900（950）×2本	ℓ=1,360（1,450）×1本 ℓ=900（950）×1本	ℓ=1,840（1,950）×1本 ℓ=900（950）×1本	ℓ=2,800（2,950）×1本 ℓ=900（950）×2本
雑巾ズリ	ℓ=900（950）×2本	ℓ=1,360（1,450）×1本 ℓ=900（950）×1本	ℓ=1,830（1,950）×1本 ℓ=900（950）×1本	ℓ=1,830（1,950）×2本
ビ　ス	7	8	9	11

施工手順

工程表

1.開梱

↓

現場の確認

壁面下地の処理

2.施工

1.開梱

梱包を解いたら、当製品に不足および問題がないかどうかを確認してください。
製品に水漏れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

⚠ 注意

必ずおこなう

押入れ棚板を「かね手」使用する場合、必ず吊り束や束等（現場調達）を取付け、補強を行ってください。

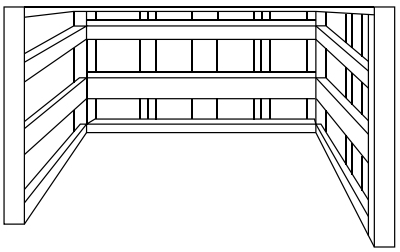
お願い

照明灯･ストーブ等を近づけると熱により変色しますので､1メートル以上離してご使用ください。

2.施工

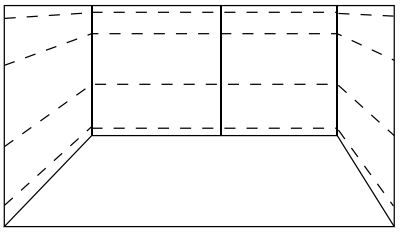
(1)壁面の下地処理

中段・枕棚の桟木の取り付け位置に間柱・補強桟等の下地処理が施されていることを確認してください。天板･地板と側板との間にも隙間が発生しないよう下地処理を施してください。



(2)桟木位置の墨出し

桟木の取り付け位置に墨出しを行ってください。



押入れセット

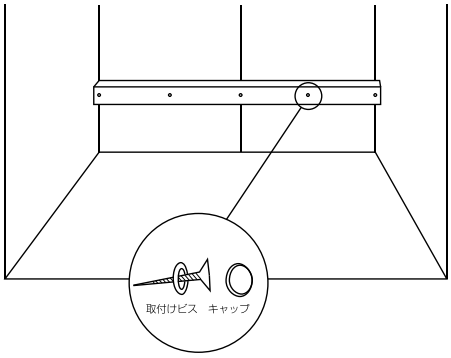
(3)桟木の取付け

・墨出し位置の上方に合わせて後桟木を取付けます。

⚠ 注意

必ずおこなう

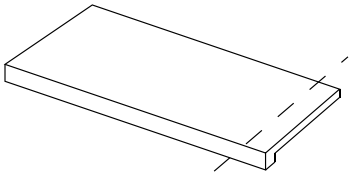
ビスは同梱のものを使用してください。
ピッチはメーターモジュールは500㎜以下、910モジュールは450㎜以下でお願いします。



・桟木の割れ防止のため必ず下穴加工をしてください。
・ビスはワッシャーをはめた後打込んでください。
・同様に横桟の取付けを行ってください。

(4)押入れ棚板の長さカット

・押入れ内寸法(壁面内々)より5㎜短くカットします。



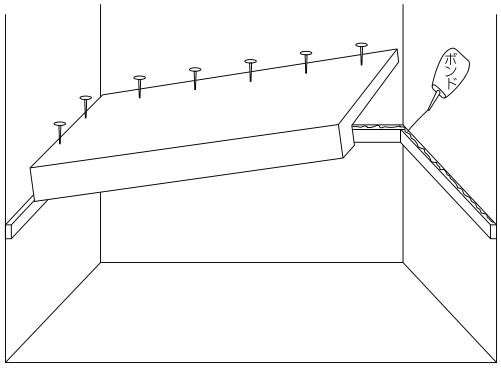
(5)押入れ棚板の固定

・桟木に木工用ボンドを塗布し、釘またはビスで固定します。

⚠ 注意

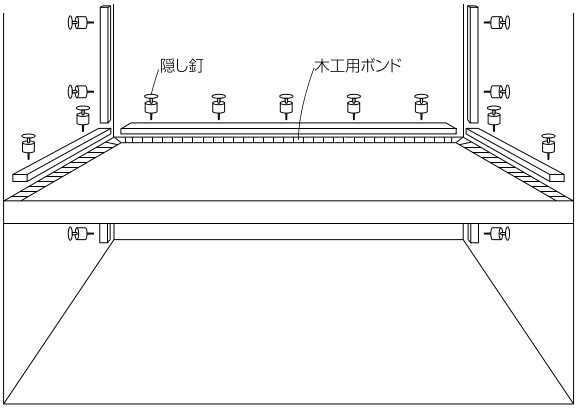
必ずおこなう

釘はN-25以上・ピッチはメーターモジュールは500㎜以下、910モジュールは450㎜以下でお願いします。



(6)雑巾ズリの取付け

・棚と壁面との隙間・釘跡を隠すように取付けてください。
・隠し釘と木工用ボンドを併用して固定します。
・別売の雑巾ズリをスミ柱として御使用されると、更に美しい仕上げとなります。
・端部の割れ防止のため、端より50㎜開けて釘固定してください。

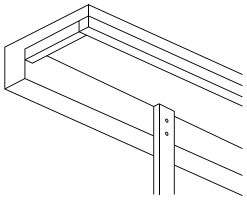


⚠ 注意

必ずおこなう

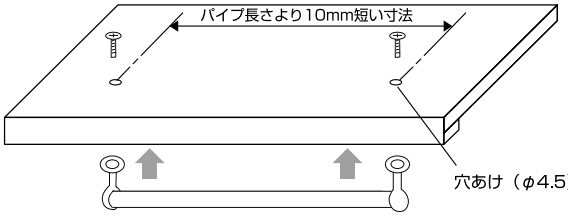
間口が2mを越える場合（例えば9尺間口など）の補強方法

間口が2mを越える場合は、積載時や自重によるたわみが発生し、利用上支障のあるおそれがありますので、吊り束や束等（現場調達）を取付け、中段および枕棚の補強を行ってください。



(7) パイプハンガーの取り付け

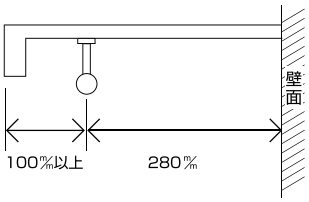
位置決め



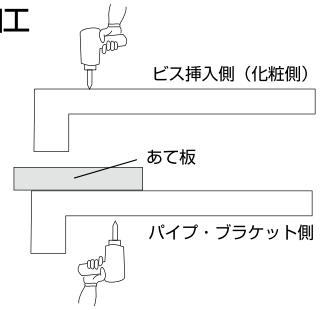
3尺以上の使用の場合は
中間ブラケット（同梱）を取り付けてください。

穴加工時の注意

取付け位置は必ず守ってください。
ハンガー掛けの時に、ハンガーが前框と接触したり、壁面に服が当って、掛けられなくなることがあります。



穴あけ加工



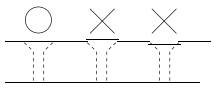
φ4.5のドリルで穴あけしてください。
※ドリル貫通側の加工バリによる不具合のため、ビス挿入側から穴あけ加工を施してください。

やむを得ずパイプ・ブラケット側から穴あけ加工の場合は、ドリル先端の抜け側部分に不要な木材等であて板をしてバリの防止をしてください。

【注意】
ドリル貫通時にケガをするおそれがありますので、ドリル先端には十分注意してください。

ビスの締め付け

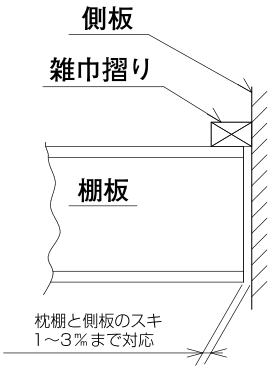
※電動工具禁止



ビスの頭のとび出し、締めすぎに注意してください。

【注意】
ねじ山破損防止のため、ビスの挿入・締め付け時は電動ドライバー等の使用はさけてください。

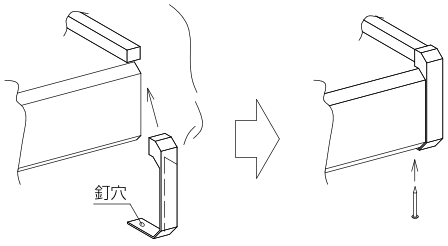
(8) スキマ隠し



＊左右のスキは均等に取ってください。

施工要領

接着剤・釘で固定
（現場調達）



①接合部分に接着剤を塗布し破線部のツバ部分をスキマに差し込みます。
推奨品:GPクリヤー（コニシ）

②下方向から釘で固定します。
カラーネイル(25mm)

＊左右有り。本図は右側を示しています。

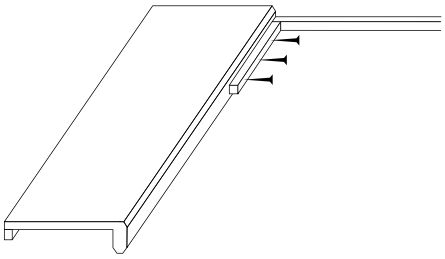
注意：雑巾摺りは枕棚の面取り部分より出ないように取り付けてください。



押入れセット

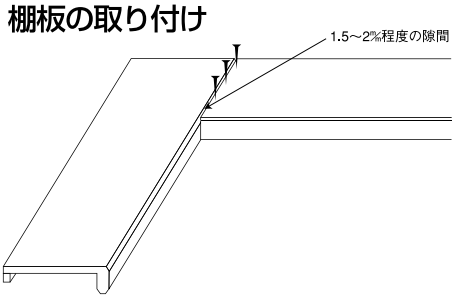
Lコーナーキャップと目地キャップの取り付け方法

(1) 桟木の取り付け



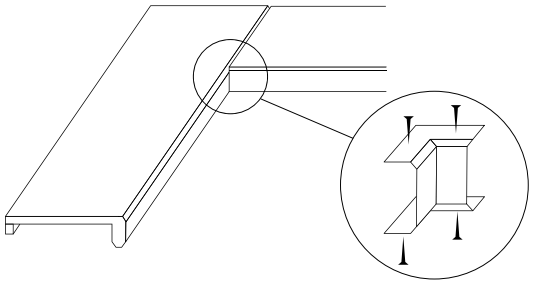
押入れ棚板の表面より15㎜下がった位置に桟木を固定します。

(2) 棚板の取り付け



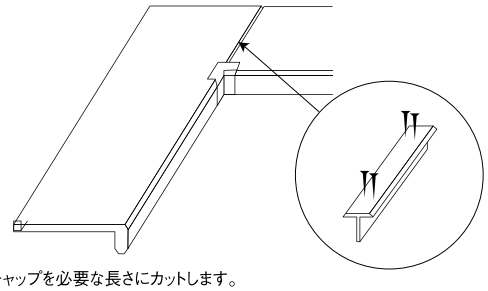
桟木に接着剤（白ボンドなど）を塗り、目地キャップを差し込める程度隙間を空け、棚板をセットし、目地キャップで隠れる位置にネイルで固定します。

(3) Lコーナーキャップの取り付け



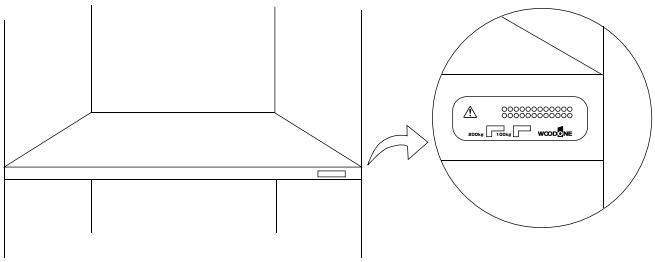
Lコーナーキャップを接着剤（ウレタン系など）と18㎜程度のカラーネイルで固定します。

(4) 目地キャップの取り付け



目地キャップを必要な長さにカットします。
目地キャップを接着剤（ウレタン系がよい）を塗布した溝にセットしてください。
必要に応じて、カラーネイル等（長さ30～40㎜）で固定してください。

耐荷重表示ラベルの貼り付け



同梱の『耐荷重表示ラベル』を前框前面に貼り付けてください。

⚠ 注意

必ずおこなう

押入れ棚板を「かね手」使用する場合、必ず吊り束や束等（現場調達）を取付け補強を行ってください。

施工修了後

禁止

洗剤・消臭剤等の使用禁止
洗剤・消臭剤・殺虫剤が製品に直接付着すると、変色の原因になります。ベンジン・アルコール・シンナーなどを使用されますと、変色・変質することがありますので、絶対に使用しないでください。

必ずおこなう

養生
当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

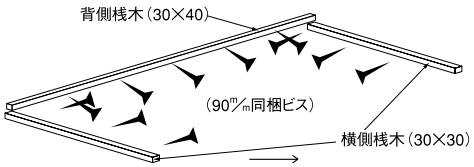
使用説明書の手渡し
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

お手入れのしかた
表面・裏面共に、ほこり、小さな汚れは乾いた布で拭いてください。水気のある布を使用されますと、シートのはがれやシミの原因となります。

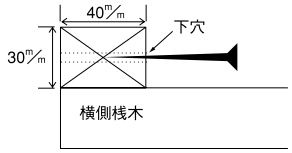
押入れセット ジュピーノ（無垢タイプ）

施工手順

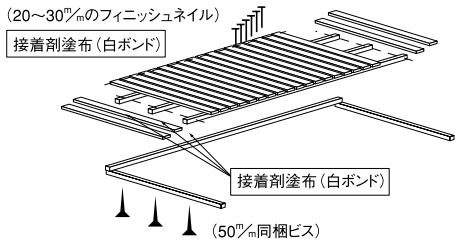
① 桟木の固定



・壁に桟木を同梱のビスにて（およそ300～450㎜ピッチ）固定してください。なお、下地には必ず柱や間柱もしくは胴縁などの補強材で受けてください。また、必ず下穴を開けてビスを打ち込んでください。
・背側の桟木は下図のように横側桟木に乗せて30×40㎜を横にして使用してください。

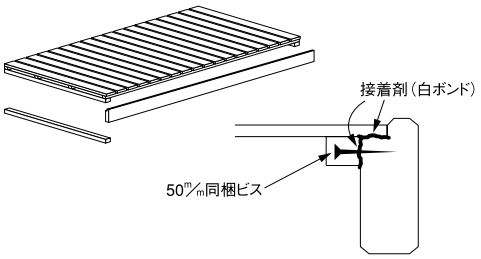


② カット後、すのこ載せ



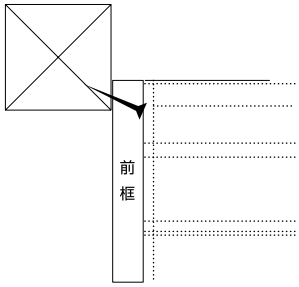
・必要なサイズに、長さは均等にカットし、奥行は後ろ側をカットしてください。
・両サイドのすのこは必要なサイズに巾落しをし、接着剤（木工用ボンド）と、フィニッシュネイルで固定してください。
・桟木の上に接着剤を塗布し（両サイドは補強桟の位置に）、すのこを桟木の上に載せ、横側桟木の裏からビスをもんで固定してください。
・すのこの奥側はフィニッシュネイルで背側桟木にしっかり固定してください。

③ 前框の取り付け



・前框の溝に接着剤を塗布し、すのこに付いてる補助桟の方から、ビスをもみ込んでください。

④ 前框の壁側への固定



・強度の確保の為、前桟木の裏側より、柱や間柱に対してビスをもみ込むことをお勧めします。

⑤ 雑巾ずりの固定・ビスキャップの取り付け

・雑巾ずりを3方にフィニッシュネイルで固定してください。
・桟木のビスの頭には付属のビスキャップを取り付けてください。

⚠ 注意

・ビスは必ず下穴を開けてから打ち込んでください。そうしないと材が割れる可能性があります。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

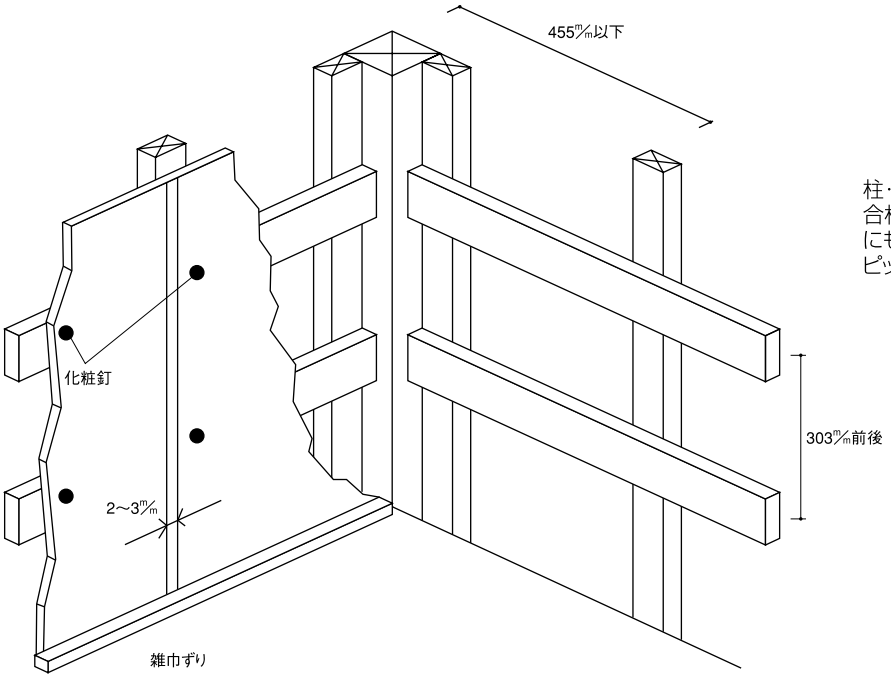
お手入れのしかた

当製品が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

押入れ用壁材・桐（無垢集成）

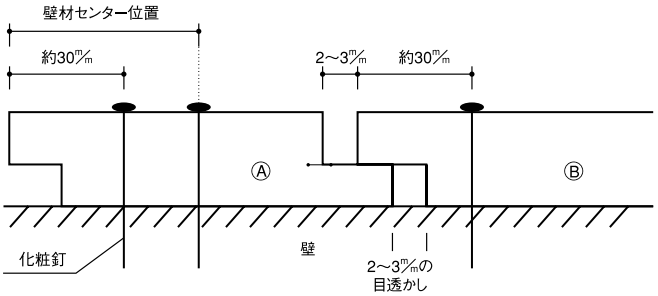
施工手順

① 壁下地の準備



柱・間柱等を455㎜以下に設置し、合板下地貼り、もしくは横方向にも胴縁等を303㎜前後のピッチで設置してください。

② 押入れ用壁材　桐の施工



●左図のように壁材に2～3㎜の目透かしをとり、下地材に合わせて化粧釘で固定してください。壁材 Ⓑ の継手から30㎜程のところに、前の壁材 Ⓐ を押さえるようにして化粧釘を打ってください。
●必要に応じて雑巾ずりを取り付けてください。

お願い

●接着剤のご使用は割れ、突き上げ等の原因となる恐れがありますので避けてください。
●無垢材の為、吸放湿により伸縮をしますので必ずすきまを取って施工してください。
また、化粧釘を打ち過ぎますと、伸縮時の割れの原因となりますのでご注意ください。

お手入れの仕方

●日常のお手入れは、乾いた布でカラ拭きしてください。
●水拭きはご遠慮ください。
●汚れのひどい時は水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾って拭きとり、乾いた布で仕上げてください。
●ベンジン、アルコール、シンナー、酸性洗剤などの溶剤を使用すると、変色、変質しますので、絶対に使用しないでください。

床材 商品別 掲載ページ 一覧表

分　類	工　法	品　名	品　番	施工資料掲載ページ
銘木フローリング	捨て張り工法用	コンビットモノ 4尺タイプ	FG17○○-□	P.429～430
		コンビットグラード ネオワイド	FKG2○○-B	
		コンビットグラード ネオ101	FKG6○○-□	
		コンビットグラード ネオV	FKG5○○-B	
		コンビットグラード アドバンス	FK88○○-B	
無垢フローリング		ピノアース6㎜厚タイプ	FG9032-K-□	P.432
		ピノアース	FG94○○-K-□	P.431
		ピノアース（床暖房対応）	FG93○○-K-□	
		ジュピーノハードタイプ	FG974○-□	
		ジュピーノハードタイプ（床暖房対応）	FG9762-□	
		コンビット オークソリッド	FK5633-□	
		コンビット サクラソリッド（カバノキ）	FK592○-□	
		コンビット バンブーソリッド	FG6302-B	
厚貼りフローリング		コンビットゴージャス エフロ	FK53○○-□	P.429～430
		コンビット アルテ	FK171○-□	
		コンビット コルクフロアー	FE0311-B	
スタンダード フローリング		コンビットプロテクト ネオV152	FK2○51-□	
		コンビットプロテクト ネオ101	FK2○11-□	
		コンビットプロテクト Eco＋4	FK7○51-□	
		コンビットプロテクト Eco101＋4	FK7○11-□	
		コンビットストライプ オークV（鏡面仕上げ）	FK4551-B	
	根太工法用		FK4511-□	根太施工の場合 P.434 捨て張り施工の場合 P.429～430
		コンビットストライプ サクラV（カバノキ）（鏡面仕上げ）	FK4211-□	
		トライフロアー オーク15	FK8151-□	
		コンビットリアージュ 木質柄	FE3○○○	P.433
		コンビットリアージュ 石目柄	FE1○11	
一般住宅用洋風床材/文教施設店舗用	捨て張り工法用	複合フローリング《床暖房用》サクラ（カバノキ）	FG2410-□	P.429～430
	直張り接着工法用	グランドフローリング《床暖房用》サクラ（カバノキ）	FJ5161-□	P.435～436
一般住宅用和風床材（フロング）	根太工法用	WHFゴールド冠松ワイド（マツ科 米ツガ単板）	FH031○	根太施工の場合 P.434 捨て張り施工の場合 P.429～430
		WHFゴールド冠松レギュラー（マツ科 米ツガ単板）	FH161○	
	捨て張り工法用	WHF冠松特選（マツ科 米ツガ単板）	FH141○S	P.429～430
		WHFこえ松（マツ科 米ツガ単板）	FH021○S	
		WHF松柾（マツ科 米マツ単板）	FH241○S	
		WHFゆたか松（人工杢単板）	FH081○S	
		WHF帝松（濃色）（マツ科 赤マツ単板）	FH611○S	
		WHF帝松（淡色）（マツ科 赤マツ単板）	FH621○S	
		鏡松（マツ科 米ツガ単板）	FL061○S	
	根太工法用	WHFゴールド吉野桧	FH191○	根太施工の場合 P.434 捨て張り施工の場合 P.429～430
	捨て張り工法用	WHF吉野桧5寸巾厚貼	FH221○S	P.429～430
		WHF吉野桧5寸巾	FH211○S	
		WHF吉野桧	FH201○S	
		WHF内地桧	FH251○S	
	根太工法用	WHF銘木欅尺巾	FF131○	根太施工の場合 P.434 捨て張り施工の場合 P.429～430
		WHF銘木欅7.5寸巾	FF181○	
	捨て張り工法用	銘木欅尺巾	FL564○S	P.429～430
		銘木欅7.5寸巾	FL421○S	
		銘木欅5寸巾	FL221○S	
		長尺フローリング ニュージーパインうづくり	FG101○-H	
		古民家228（タモ）	FL511○S	
		古民家108（栂）	FH511○S	
		ニューロングエクセル（セン）F-228	FF091○S-B	
一般住宅用洋風床材/文教施設店舗用	直張り接着工法用	グランドフローリング 無垢ピノアース	FJ9431-K-H	P.435～436
		MOKUジュピーノフローリング 武道場用	FG9134-H	
		グランドフローリング ピノアースL-45	FJ9532-K-□	
		グランドフローリング エコエアー	FJ6○96-B	
	捨て張り工法用	複合フローリング（厚み12㎜）	FG0810-□	P.429～430
			FG0710-□	
	根太工法用	複合フローリング（厚み15㎜）	FG05○0-□	根太施工の場合 P.434 捨て張り施工の場合 P.429～430
			FG01○0-□	
			FG03○0-□	
		複合フローリング（厚み18㎜）	FG06○0-□	
			FG02○0-□	
			FG04○0-□	
	直張り接着工法用	グランドフローリング	FJ641○-□	P.435～436
			FJ671○-□	
			FJ691○-□	
			FJ7012-□	
			FJ9○11-□	
		スケアーブロック《プロトタイプ》	FS2○11-□	
		グランドフローリング L-45	FJ1343-□	
			FJ140○-B	
		グランドフローリング カスタム Sタイプ75	FJ3262-□	

床材 JAS 認定・大臣認定など

JAS認定・大臣認定



国土交通大臣認定番号などの詳細な情報については下記のホームページをご覧ください。

ウッドワン ホームページ
http://www.woodone.co.jp/

ウッドワンの F☆☆☆☆ について

建築基準法では、内装仕上げ制限の対象となる部分は、面的な部分とされ、柱などの軸材、廻り縁、窓台、巾木、手すり、建具枠、胴縁、部分的な塗料や接着剤は評価の対象とはなりません。しかしながら、これらの建材も線的な部分の面積が設置部分の見付面積の1/10を超える場合は評価の対象となります。(規制対象外の建材も使用される面積によっては規制対象となります。)そこで **ウッドワン** は建材をどのようにご使用されても「規制対象外」となるようすべての建材に F☆☆☆☆ を表示しております。

JASによる複合フローリング種別

複合1種フローリング

合板のみを基材とした複合フローリングをいう。ここでいう合板のみとは、ベニヤコアー合板を基材としたものという意味である。
なお、ランバーコアー合板を基材としたものは、複合2種フローリングとして取り扱う。
ただし、直貼用製品の裏面に接着された防湿シート(不陸緩和材)等は、単なる接着施工のための副資材と考えられることから、積層接着とはみないこととする。

複合2種フローリング

集成材又は単板積層材のみを基材とした複合フローリングをいう。ここでいう集成材又は単板積層材のみとは、集成材を基材としたもの、単板積層材を基材としたものという意味で、基材に集成材と単板積層材を特定したことである。ただし基材の構成として木質系(ボード類をのぞく)を積層したものは、複合2種フローリングに含まれる。なお、直貼用製品の裏面に接着された防湿シート(不陸緩和剤)等は、単なる接着施工のための副資材と考えられることから、積層接着とはみないこととする。

複合3種フローリング

複合1種及び2種フローリング以外の複合フローリングをいう。したがって、①ボード類を基材としたもの、②木質系と木質系以外の材料を複合した基材のもの、③木質系以外の材料を基材としたもの(ただし、表面の木質材の厚さは、1.2㎜以上とする。)である。

財) 日本合板検査会「フローリングの農林規格の解説」より

公共住宅建設工事共通仕様書による種別(A種、B種、C種、D種)

天然木化粧複合フローリングA種(積層フローリング)

(1)「フローリングの日本農林規格」による複合2種フローリング(天然木化粧)で、表面及び裏面は同一樹種とし、単板の厚さ2.0mm以上、内部は材厚2.2mm内外の積層単板5層で計7層とし、仕上がり板厚は15mmとする。
(2)板そば、木口とも本実加工及び面取りとする。
(3)表面は、工場においてサンダーがけをする。表面塗装は、17.8.1表の1液形ポリウレタンワニスの3回塗り仕上げとする。なお、着色する場合は顔料ステインで行う。
(4)標準寸法は幅90mm又は150mm、長さ900mmとする。

天然木化粧複合フローリングB種(ベニヤフローリングB種)

(1)「フローリングの日本農林規格」による複合1種フローリング(天然木化粧)で表面及び裏面は同一樹種とし、単板厚さ1.2mm以上、内部はラワン(又は広葉樹。)台板合板3層以上、計5層以上とし、仕上がり板厚は12mmとする。
(2)台板合板は、「合板の日本農林規格」の「普通合板の規格」による1類2等以上とする。
(3)板そば、木口とも本実加工及び面取りとする。
(4)表面は、工場においてサンダーがけ及び塗装を行う。塗装は、17.8.1表の1液形ポリウレタンワニスの3回塗り仕上げとする。なお、着色する場合は顔料ステインで行う。
(5)標準寸法は、幅150mm、長さ909mm又は1,818mmとする。

天然木化粧複合フローリングC種(ベニヤフローリングC種)

(1)「フローリングの日本農林規格」による複合1種フローリング(天然木化粧)で、表面及び裏面は同一樹種とし、単板の厚さ1.0mm以上、内部はラワン(又は広葉樹。)台板合板とし、3層以上、計5層以上とし、仕上がり板厚は12mmとする。
(2)台板合板は、「合板の日本農林規格」の「普通合板の規格」による1類2等以上とする。
(3)板そば、木口とも本実加工及び面取りとする。
(4)表面は、V溝加工とし間隔は101mm(等間隔)を標準とする。
(5)表面は、工場においてサンダーがけ及び塗装を行う。塗装は、17.8.1表の1液形ポリウレタンワニスの3回塗り仕上げとする。なお、着色する場合は顔料ステインで行う。
(6)標準寸法は、幅303mm、長さ1,818mmとする。ただし、発泡プラスチック系洋室床下パネル(桟付)の場合は、長さ1,800mmとする。

天然木化粧複合フローリングD種(ベニヤフローリングD種)

(1)「フローリングの日本農林規格」の複合1種フローリング(天然木化粧)で、表面は単板厚さ0.25mm以上1.0mm未満、内部はラワン(又は広葉樹。)台板合板5層以上の計6層以上とし、仕上がり板厚は12mmとする。
(2)台板合板は、「合板の日本農林規格」の「普通合板の規格」による1類2等以上とする。
(3)板そば、木口とも本実加工及び面取りとする。
(4)表面は、V溝加工とし間隔は101mm(等間隔)を標準とする。
(5)表面は、工場においてサンダーがけ及び塗装を行う。塗装は、17.8.1表の1液形ポリウレタンワニスの3回塗り仕上げとする。なお、着色する場合は顔料ステインで行う。
(6)標準寸法は、幅303mm、長さ1,818mmとする。

「公共住宅建設工事共通仕様書(監修国土交通省)」より

天然木だから起きること

隙間や床鳴り

音の程度にもよりますがフローリングの継ぎ目部分がすれて音が発生していることが考えられます。これは、**木の性質としての調湿機能が働き、伸び縮みを生じることによって発生するもので、やむ得ない現象です。**商品の性能、使用上特に問題はありません。その他、水をこぼして長時間放置した場合や、水気の多い手入れをされた場合などでも起こりますので正しいお手入れ方法をお勧めします。



色のばらつき、日焼けについて

フローリングの表面には、天然木の単板が張ってあります。天然の木は人と同様、生き物であり、同じ樹種でも1本1本個性があります。色調についてもばらつくのが、普通であり、色を合わせる努力をして製造していますが。それでも色のばらつきはある程度生じて、同じにはなりません。また、お使いいただいている間に日光や紫外線などによって徐々に色が変わることがありますが、これも天然木特有の性質です。



床材 商品別 種別 一覧表

	分類	品名		(備考)	JASによる複合フローリング種別	公共住宅建設工事共通仕様書による種別
					1～3種該当	A～D種該当
一般住宅用床材	銘木フローリング	コンビットモノ	4尺タイプ	ウォールナット、ブラックチェリー、ハードメープル、サクラ(カバノキ)、オーク(柾)、チーク、ブビンガ、ゼブラ、ウェンゲ、グランナット、グランチーク、グランチェリー	複合1種	対象外
		コンビットグラード	ネオワイド(2P 1本溝)	ウォルナット、ブラックチェリー、ハードメープル	複合1種	対象外
			ネオ101(3P 2本溝)	ウォールナット、ブラックチェリー、ハードメープル、チーク、ゼブラ、ウェンゲ 、グランナット、グランチーク、グランチェリー		
			ネオV(4P 3本溝)	ウォルナット、ブラックチェリー、ハードメープル		
			アドバンス(3P 3本溝)	ウォルナット、ブラックチェリー、ハードメープル、チーク、セン		
	無垢フローリング	無垢フローリング	ピノアース	6mm厚タイプ	対象外	対象外
				自然塗料、自然塗料以外、床暖房対応		
			ジュピーノ	ハードタイプ、ハードタイプ(床暖房対応)		
		コンビット	オークソリッド		対象外	対象外
			サクラソリッド(カバノキ)			
			バンブーソリッド			
	厚貼りフローリング	コンビット	ゴージャスエフロ	ウォールナット・チーク・サクラ(カバノキ)・オーク	複合1種	対象外
			アルテ			
			コルクフロアー			
	スタンダードフローリング	コンビットプロテクト	ネオV152(4P 1本溝)	床暖房非対応、床暖房対応	複合1種	対象外
			ネオ101(3P 2本溝)	床暖房非対応、床暖房対応		
			Eco+4	サクラ(カバノキ)、オーク		
			Eco101+4	サクラ(カバノキ)、オーク		
		コンビットストライプ	オークV(鏡面仕上げ)		複合1種	※D種(オーククリア色は対象外)
			サクラV(カバノキ)(鏡面仕上げ)			※D種
		トライフロアー	オーク15		—	対象外
		コンビットリアージュ	木質柄		複合1種	対象外
			石目柄			
	床暖房用	複合フローリング	サクラ(カバノキ)		複合1種	対象外
		グランドフローリング	サクラ(カバノキ)		複合1種	対象外
一般住宅用和風床材	フロング(和風縁甲板)	フロング	松シリーズ	WHFゴールド冠松ワイド・レギュラー、WHF冠松特選、WHFこえ松、WHF松柾、WHFゆたか松(人工杢単板)、WHF帝松(濃色)・(淡色)、鏡松	複合1種	対象外
			桧シリーズ	WHFゴールド吉野桧、WHF吉野桧5寸巾厚貼、WHF吉野桧5寸巾、WHF吉野桧、WHF内地桧		
			欅シリーズ	WHF銘木欅尺巾・7.5寸巾、銘木欅尺巾・7.5寸巾・5寸巾		
		長尺フローリングニュージーパイン	うづくり		複合1種	対象外
		フロング	古民家	古民家228(タモ)、古民家108(栂)	複合1種	対象外
		ニューロングエクセル	セン	F-228	複合1種	対象外
集合住宅用床材 文教施設店舗用床材	文教施設・一般住宅	グランドフローリング	無垢ピノアース		対象外	対象外
	文教施設店舗用	MUKUジュピーノフローリング	武道場用		対象外	対象外
	文教施設・一般住宅	グランドフローリング	ピノアース L-45		対象外	対象外
	文教施設店舗用		エコエアー	ナラ、ブナ、サクラ(カバノキ)	複合3種	対象外
		複合フローリング		ナラ、ブナ、サクラ(カバノキ)	複合1種	対象外
		グランドフローリング		ナラ、ブナ、サクラ(カバノキ)、ハードメープル	複合1種	対象外
		スケアーブロック	プロトタイプ	ナラ、ブナ、サクラ(カバノキ)	複合1種	対象外
	一般住宅用	グランドフローリング	L-45	サクラ(カバノキ)、ハードメープル、ウォールナット	複合1種	対象外
			カスタム	Sタイプ75		

※D種のV溝加工間隔は101㎜が標準ですが、コンビットストライプはV溝加工間隔が76㎜になります。

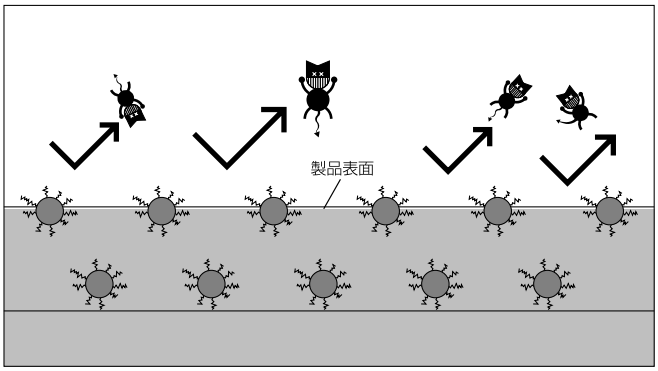
抗菌塗装・裏面防虫処理について

抗菌塗装とは？

超微粒子抗菌剤を塗料にまぜて、製品表面にくまなく塗布することにより、菌の増殖を抑制し製品を清潔に保つ加工をいいます。

効果が確認されている菌は？

身の回りの住空間にいる菌の種類は、莫大な数にのぼると考えられています。その中で、人間や哺乳動物などの腸内に生息し食品等の汚染指標にもなる大腸菌や、自然界に広く存在し化膿症・食中毒などの原因となる黄色ブドウ球菌、また土壌・下水などに広く存在し傷の化膿部に繁殖したり食品の腐敗を起こしてしまう緑濃菌などに、高い抗菌効果を発揮します。



抗菌力試験結果

大腸菌(IF03972)および黄色ブドウ球菌(IF012732)への抗菌試験

試験概要

検体（約50㎜×50㎜）に大腸菌及び黄色ブドウ球菌の菌液を滴下し、その上にポリエチレンフィルムをかぶせ、これらを35℃で保存し、6時間後の生菌数を測定した。また、平行測定で3回試行した。

抗菌力試験結果［フィルム密着法：保存温度35℃］

試　験　菌	保存時間	測定対象	1枚当たりの生菌数
大　腸　菌	開始時	対照	4.7×10^5
	6時間後	検体1）※	4.0×10^5
		検体2）※	34
		対照	7.8×10^6
黄色ブドウ球菌	開始時	対照	4.4×10^5
	6時間後	検体1）※	5.5×10^3
		検体2）※	＜10
		対照	1.9×10^5

菌液調製溶液：1/500濃度0.2%肉エキス添加普通ブイヨン
対照：プラスチックシャーレ
※1）フローリング（ブランク）　抗菌剤の入っていない塗装フローリング
※2）抗菌塗装フローリング
（（財）日本食品分析センターの試験報告書による）

安全性は？

抗菌効果は高くても、皮膚刺激など人体に悪影響を及ぼすようであってはいけません。この抗菌塗装は歯、人工骨などの成分として知られる安全性の高いアパタイト系セラミックスに抗菌活性種である銀イオンを含有させた無機銀系抗菌剤を用いています。接触しても皮膚への影響は少なく、安全性は比較的高いといえます。また、顕著な抗菌効果を示す銀イオンを徐々に放出し効果を長時間持続させるという優れた性質があります。

■安全性の規格値

① ラットまたはマウスを用いた経口急性毒性試験
LD50値　2,000mg/kg以上

② ウサギを用いた皮膚一次刺激性試験
弱い刺激であること

③ 微生物を用いる変異原性試験
陰性

（銀等無機抗菌剤研究会）

抗菌剤の安全性

① マウスを用いた急性毒性試験
LD50＜（♂マウス）
＝＞4,900mg/kg

② ウサギを用いた皮膚一次性刺激試験
刺激性が認められない

③ 微生物を用いる変異原性試験
陰性

（財）北里環境科学センター

→ 体重1kgあたり4,900mgの抗菌セラミックスを摂取させても1匹も死亡しなかったことから、安全性の高さが証明されています。
（北里環境科学センター第1261号）

→ 皮膚に塗布し「かぶれ」の有無を調べる試験において刺激や異常のないことが証明されています。
（北里環境科学センター第2064号）

→ 変異原性試験とは、いわゆるガン試験のことで、変異が元に戻りやすい微生物を用いて、復帰突然変異が起きないことが証明されています。
（北里環境科学センター第2077号）

このように抗菌塗装は安全性の規格値をクリアーしており、コーヒーなどに含まれるカフェインの急性毒性試験値LD50＜1,950mg/kg（体重比）の数値と比較しても、かなり安全性が高いことが証明されます。

裏面防虫処理

ヒラタキクイムシから床を守ります。

床材の裏面に防虫剤を塗布することにより、外部からヒラタキクイムシの被害を防ぎます。防虫剤は非有機リン系薬剤なので、従来の薬剤に比べて安全性が高く、また揮発しにくいタイプなのでいやなにおいが無く、ペットにも安心です。

厚生労働省の室内濃度指針値対象物質のクロルピリホスは含まれていません。

安全上のご注意

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 注意 この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

全製品共通

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

・床下収納庫天板への単独使用禁止
接着剤・ビスで12㎜以上の捨て張り合板を張り、使用してください。

・ピアノ・大型冷蔵庫等重量物の直置き禁止
床材が破壊するおそれがありますので必ず補強対策をし、インシュレーター等を使用してください。

・油性・水性ワックスの使用禁止
油性・水性ワックスはすべりやすくなる為、当社推奨の樹脂ワックスを使用してください。

必ずおこなう

・床下換気口の設置
湿気がこもると床材が腐朽する原因となります。

・開梱後は換気を行なってください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

捨て張り工法用フローリング・無垢フローリング

禁止

・根太上の直接施工の禁止
直接根太上に施工すると強度不足のため床材が破損することがありますので、必ず根太上に厚さ12㎜以上の合板を捨て張りしてください。

床暖房対応フローリング

注意!

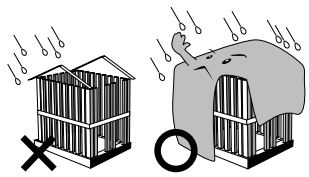
・パネルの釘打ち位置注意!
パイプなどの釘打ち禁止部に釘打ちしないでください。水漏れや故障の原因となります。

・適合発熱パネルの確認
適合しない発熱パネルを使用すると荷重による破損や踏み鳴りなどの不具合が発生します。

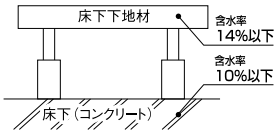
※床暖房を使用する場合は、必ず床暖房施工に対応した施工方法をお守りください。

お願い

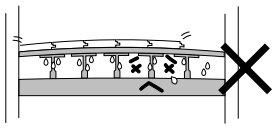
1.床下地材や床下が雨などで濡れると乾燥するまでに時間を要します。屋根工事まではビニールシート等で濡れないように保護してください。



2.下地材（捨て張り合板）は含水率14%以下、床下（コンクリート）等はコンクリート含水計において含水率10%以下になるまで十分に乾燥させ、ご確認後に施工してください。含水率が高いと接着不良や床材の反り、突き上げ、変色等が生じるおそれがあります。



3.床下換気口のない場合はご使用になれません。また床構造は、根太工法と同等以上の強度を確保してください。



換気口のない場合

⚠ 注意

フローリングの下地材が濡れていると…
下地材が万が一、次のような湿潤状態だった場合、表面に変色やしわ等が発生する可能性があります。下地材を十分に乾燥させて施工してください。

①下地合板の含水率が高い場合
下地合板が雨濡れ等により含水率が高い場合、施工後、日数が経過するとフローリング表面が変色することがあります。特に下地合板の裏側に発泡ウレタンなどの断熱材がある場合、フローリングの裏側から水分が抜けにくくなり、フローリングの含水率が過度に上昇してフローリング表面が変色することがあります。

②根太・大引きの含水率が高い場合
根太・大引きに未乾燥材を使用している、または雨濡れ等で根太・大引きの含水率が高い場合、フローリングの含水率が過度に上昇し、フローリング表面が変色することがあります。この場合、変色は根太・大引き上に線上に現われる傾向があります。

③下地のモルタル含水率が高かった場合
モルタルの含水率が十分に下がらない状態で施工されるとフローリングの含水率が過度に上昇し、フローリング表面が変色することがあります。

水濡れ厳禁

当社床材は木質製品です。施工中、雨等による水濡れは厳禁です。

開梱

梱包を開いたら数量に不足及び損傷等の問題が無いかどうかを確認してください。当製品は木質製品です。
輸送中・施工中の水漏れは厳禁です。
開梱後、製品に水漏れ等の不具合があった場合には必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。
また開梱後は速やかに施工してください。

仮並べ

フロアーの表面には天然木を使用しているため、**色や木目・溝部分に多少の違いが出ることがあります。施工前に全部の梱包を開いて色合わせをしてください。**
極端な不具合などがありましたら、施工前にお買い求め店または弊社までお申し出ください。
施工後のお申し出には応じかねます。

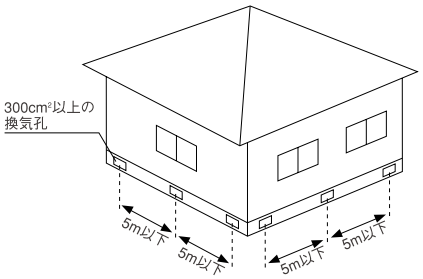
一般住宅用床材（共通）

根太の取り付け等

防湿

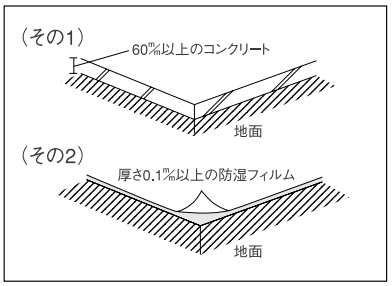
⚠ 注意　床下通風の悪い場合には腐朽しますので、床下に湿気が籠らないよう十分換気がおこなわれるようにしてください。

床下換気孔の位置と数は建築基準法施行令に従ってください（外壁の床下部に壁長さ5m以下毎に、300㎠以上の換気孔設置）。床下の湿度が特に高い場合は、地盤全面に厚さ60㎜以上のコンクリートの打設または厚さ0.1㎜以上の防湿フィルムを全面に敷きつめる等の防湿処理をおこなってください。



一般住宅　換気孔の適正配置（参考）

●床下の湿度が高い場合の防湿方法



校舎、園舎等（床面の低い）場合

（複合フローリング）
L字型パイプ等で十分な換気孔を設ける。このとき、室内の教壇または木製ロッカー等の設置場所にはフローリングを全面に張らず、床下と室内の空気の循環作用にあてること。
体育館については下の表を参照。

〈体育館の換気孔配置〉

立地条件	壁長	高さ（㎜）	巾（㎜）	個数	広さ（㎡）
普　通	5~6m毎に	300	1,800	1	0.54
	〃	〃	900	2	〃
湿気の多いところ	〃	400	1,800	1	0.72
	〃	〃	900	2	〃

フローリング張り標準仕様書（日本フローリング工業会、日本複合床板工業会）より抜粋
※公共物件にご使用の際には、弊社フリーダイヤル 0120-813-331までお問い合わせ下さい。

換気孔の位置

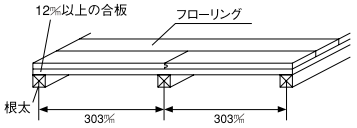
風向きを考慮し向かい合わせで設置すること。（夏期の主風向きを考慮）換気孔だけで十分な換気ができない所では、床下と室内の空気を循環させる強制換気装置を設けること。（特にRC造の1階部分）

下地

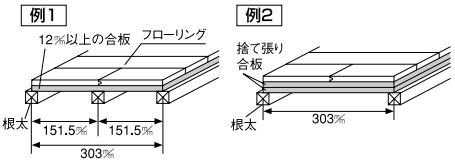
基本

・通常は根太に反り、ねじれの無いプレーナーがけした45×60㎜以上の乾燥材（**含水率14％程度**）を使用し、**根太間隔は303㎜としてください。**
・根太の上には厚さ**12㎜以上の合板（含水率14％以下）**を捨て張りし、施工を推奨します。含水率が高い状態で施工すると表面の床材に反り、狂い、変色が発生する場合がありますのでご注意ください。**根太と合板とは接着剤・釘併用施工としてください。**
・重量物を設置する場合は根太（45×60㎜以上）間隔を151.5㎜にするか（例1）、12㎜以上の下地合板を2重に捨て張りして（図2）補強し、強度を保ってください。また重量物の脚にはインシュレーターや合板等を敷いて荷重が1点に集中して掛からないようにしてください。
・フローリングの継ぎ目と捨て張り合板の継ぎ目が重ならないように施工してください。

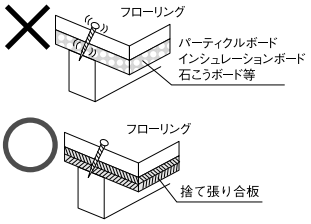
一般の場合（捨て張り工法）



重量物の補強方法



・捨て張り材は合板とし、パーティクルボードや石こうボード等は使用しないでください。

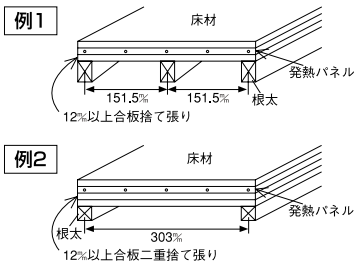


⚠ 注意　無垢フローリングの場合：捨て張り専用床材ですので、直接根太上に施工すると強度不足のため破損することがありますので、必ず根太上に厚さ12㎜以上の合板を捨て張りして施工してください。

床暖房を施工する場合

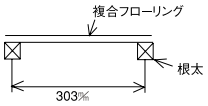
重量物設置の場合の補強処理
・重量物を設置する場合には根太間隔を151.5㎜にする（例1）か、12㎜以上の下地合板を2重に捨て張りして（例2）補強してください。
※発熱パネルの耐荷重についてはパネルメーカーにお問い合わせください。

重量物の補強方法

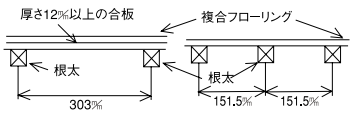


複合フローリングの場合

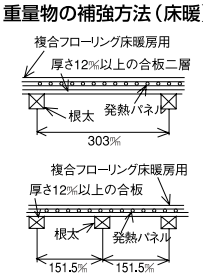
一般の場合



重量物の補強方法（非床暖）



重量物の補強方法（床暖）



体育館で使用する部材のサイズ　体育館は次のようなサイズにしてください。

部材名	巾（㎜）	厚さ（㎜）	断面積（cm²）	間隔（㎜）
大　引	100~120	120~180	120~216	900（909）
根　太	45	75~90	33.75~40.5	300（303）
	60	75~90	40.5~54.0	360（363）

（根太にはアピトン材を推奨）

塗装品使用時のご注意

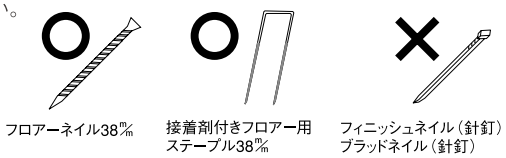
現場で再塗装される時は、必ずポリシャーを掛けてください。また、コートライン等を引く時は、必ずポリシャーまたはウレタン系シンナーでライン引き箇所を拭き、ウレタン系塗料をご使用ください。セメントの水が掛かると材色が変色することがありますので注意してください。

捨て張り工法用フローリング

※床暖房を施工する場合は、床暖房に対応したフロアーを使用し、必ず床暖房施工に対応した施工方法をお守りください。

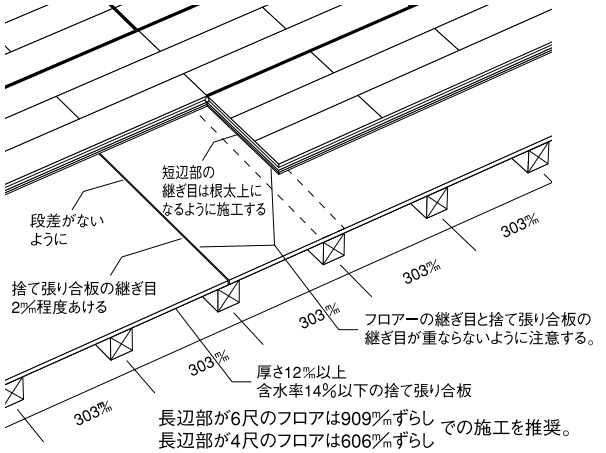
床材の取り付け

●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（足長38㎜以上）またはフロアーネイル（長さ38㎜以上）をご使用ください。
※フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。
●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番:ZX0221）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ接着剤（ボンドKU928C-X）～ウレタン系一液接着剤～
※上記の接着剤からお選びください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。



フロアーの割り付け

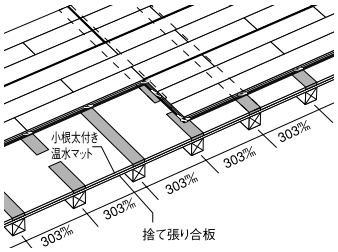
●フロアーの短辺部のサネ接続は根太上になるようフロアーの割り付けをおこなってください。
●フロアーは根太と直交するように施工してください。
※捨て張り合板の継ぎ目とフロアーの継ぎ目が重ならないように注意してください。



床暖房を施工する場合

小根太付き温水マットの場合

●フロアーの短辺部のサネ接続は小根太上になるようにフロアーの割り付けをおこなってください。
●小根太付き温水マットとフロアーの適合を確認したうえで施工をおこなってください。
●小根太とフロアーが直交するように割り付けてください。
●小根太付き温水マットは各メーカーの施工要領に従って施工してください。

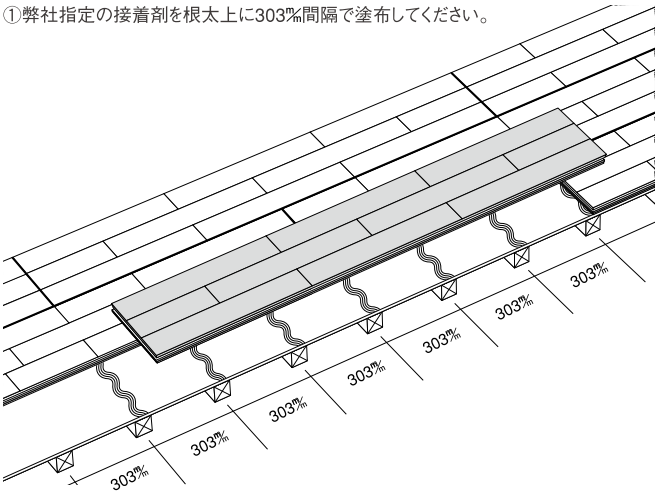


発熱パネルの場合

●発熱パネルとフロアーの適合を確認したうえで施工をおこなってください。
●発熱パネルは各メーカーの施工要領に従って施工してください。
●発熱パネルの周辺の副資材（合板等）との段差が1㎜以下になるように仕上げてください。
●根太間、または根太下には発熱パネルメーカーが指示する断熱材を設置してください。

接着剤の塗布方法

①弊社指定の接着剤を根太上に303㎜間隔で塗布してください。



⚠ 注意

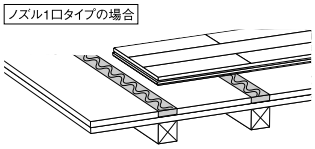
接着剤がフロアーの表面に付着した場合は、乾いた布や、シンナー・アルコールを染みこませた布ですばやく拭き取ってください。接着剤が硬化すると取れなくなります。また、水拭きだと接着剤が表面に残り、ムラや汚れの原因となるおそれがあります。

床暖房を施工する場合

①弊社指定の接着剤を小根太上に303㎜間隔で塗布してください。
※発熱パネルタイプの場合は釘打ち可能位置に303㎜間隔で塗布してください。

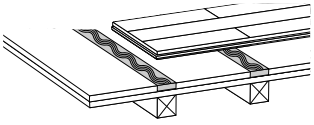
②短辺接続部分は両方のフロアー裏面に充分付着するように波状に塗布してください。
※接着剤カートリッジのノズル1口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように2列に塗布してください。
（接着剤の太さ約8mm／本が目安。塗布量:約150g／m²）

ノズル1口タイプの場合

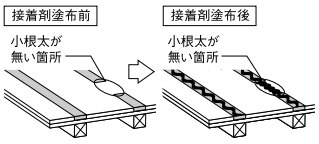


※接着剤カートリッジのノズル4口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
（接着剤の太さ約4mm／本が目安。塗布量:約150g／m²）

ノズル4口タイプの場合



③温水パイプ配管コーナー部の小根太がなく釘打ちできない箇所には接着剤塗布量を増やし、フロアーのサネ接続部分を接着剤で確実に固定してください。



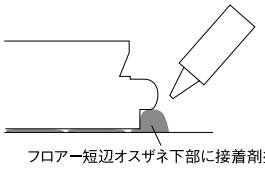
捨て張り工法用フローリング

短辺オスザネ下部への接着剤塗布

2枚目以降のフロアー張り付け時、フロアー短辺オスザネ下部に接着剤が入り込むようフロアーを張ってください。

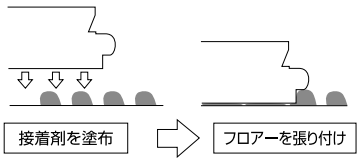
接着剤カートリッジのノズル1口タイプ使用時

接着剤カートリッジのノズルが1口タイプを使用する場合には、フロアー張り付け後、改めてフロアー短辺オスザネ下部に接着剤を塗布してください。
（接着剤の太さ約8mm／本が目安。塗布量約150g／m²）



接着剤カートリッジのノズル4口タイプ使用時

接着剤を下地に4列波状塗布することで、短辺オスザネに接着塗布が可能です。改めてフロアー短辺オスザネ下部に接着剤を塗布する必要はありません。

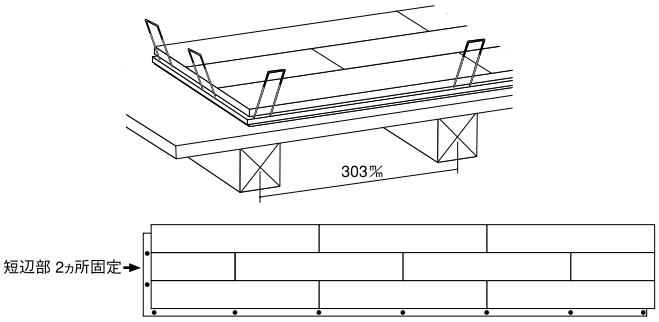


⚠ 注意　接着剤のはみ出しが無いよう適量を塗布し製品表面に接着剤が付着した場合には速やかに布などで拭き取ってください。接着剤が硬化後は除去することができなくなります。

釘打ち

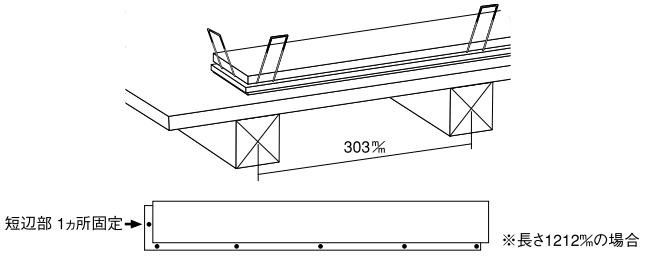
①1×6フロアーの場合

フロアーの長辺方向303㎜ピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）2カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



②短辺部が303㎜未満のフロアーの場合

フロアーの長辺方向303㎜ピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）1カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



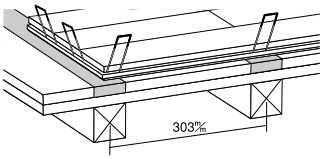
⚠ 注意　釘（接着剤付きフロアー用ステープルもしくはフロアーネイル）打ち込み時、釘の頭がフロアーにめり込まないよう適正なエア圧を設定してください。釘の頭がめり込んだ場合、適正な釘保持力が確保できません。

床暖房を施工する場合

※フロアーの短辺、長辺のサネ接続は小根太上になることを確認した上でフロアー施工を始めてください。
釘打ちはフロアーを押さえ、フロアーと下地をしっかり密着させた状態で釘打ちしてください。

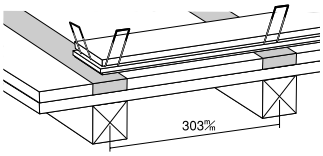
①1×6フロアーの場合

フロアーの長辺方向303㎜ピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）2カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。

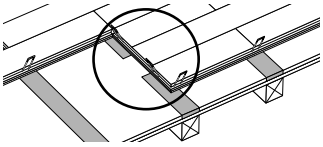


②短辺が303㎜未満のフロアーの場合

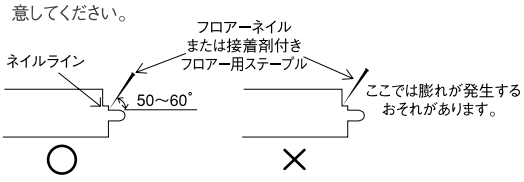
フロアーの長辺方向303㎜ピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）1カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



※温水パイプ配管コーナー部の小根太が無い箇所については釘打ち厳禁です。

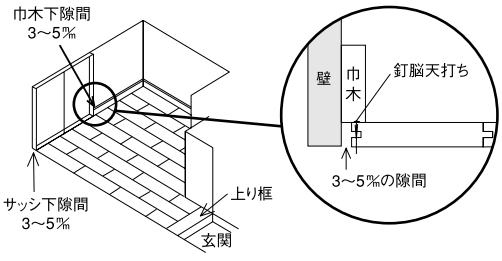


※釘打ち角度は50～60°で打ち込んでください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生してしまうおそれがありますので特に注意してください。



※フロアー周辺の壁際およびサッシ下などには必ず3～5㎜の隙間をあけてください。
また端部の床材は脳天から釘打ちし、完全に固定させてください。

施工例



梅雨時期の湿度対策

●床暖房用フロアーは防湿ダンボールを使用しています。施工現場にて開梱後は養生期間をおかずに速やかに、施工してください。開梱後の製品吸湿には十分注意して施工お願いします。

無垢フローリング

床材の取り付け

お願い 下地への固定はしっかりとおこなってください。無垢フローリングは合板突板フロアーより、乾湿変化による寸法変化が大きく生じます。
下地に対して指定の釘と接着剤で、しっかりと固定してください。しっかりとした固定により、寸法変化を小さく抑えることができます。

●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（足長38㎜以上）またはフロアーネイル（長さ38㎜以上）をご使用ください。
※フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。
●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番:ZX0221）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ接着剤（ボンドKU928C-X）～ウレタン系一液接着剤～
※上記の接着剤からお選びください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。

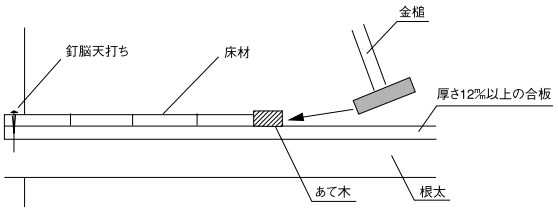


1 張り施工

図のように端部の床材は、釘を脳天打ちで完全に固定してからおこなってください。張り施工に際しては、床材の端材等を当て木として使用し、サネを直接カナヅチで打撃しないでください。

無垢フローリングは吸湿による膨張が大きいので板そばのジョイント部は隙間ゲージを用い0.4㎜程度の隙間を設けてください。又、木口のジョイント部もきつく締めつけないで緩めに施工してください。（簡易隙間ゲージが同梱されています。）

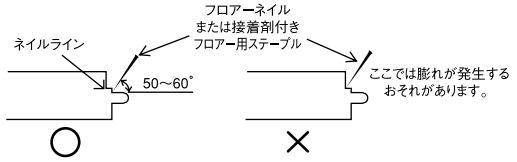
※特に釘打機を使用する場合は釘を打ち込む際にジョイント部が締めつけられますので市販の金属製の隙間ゲージを使用してください。



2 指定釘・接着剤の併用施工

●フロアーネイルまたは接着剤付きフロアー用ステープルとし、指定接着剤を必ず併用施工してください。
●釘打ち込み位置はネイルラインの下部とし、釘部は必ず打ち沈めてください。
●角度は50～60°としてください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生しますので特に注意して施工してください。

角度は50～60°を厳守してください。

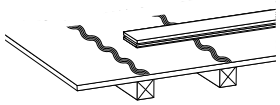


※ネイルラインのない商品はオスザネ上部の根元に同角度で打ち込み膨れが発生しないよう、特に注意して施工してください。

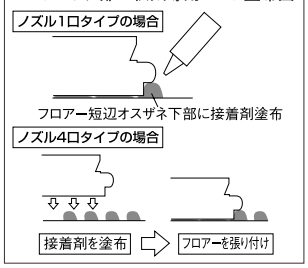
3 指定接着剤の塗布

●接着剤は根太上に塗布し、捨て張り工法においても根太上に塗布してください。
●短辺オスザネ下部（エンドマッチ部）は両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
●塗布量はノズル1口タイプは約8㎜、ノズル4口タイプは約4㎜程度としてください。（約150g/m²）
●養生期間は1日以上としてください。

捨て張り工法時の根太専用ボンド位置



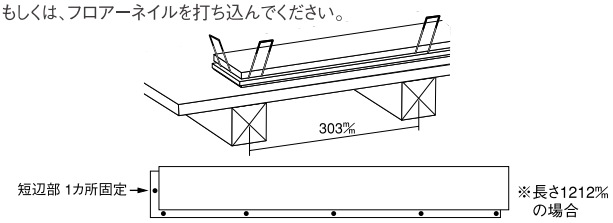
エンドマッチ部の根太専用ボンド塗布図



●フローリングの継ぎ目と捨て張り合板の継ぎ目が重ならないように施工してください。

4 釘打ち

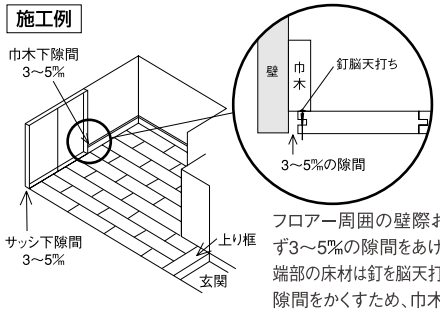
●フロアーネイルまたは接着剤付きフロアー用ステープルの、釘打ち込みピッチは303㎜とし、**必ず根太に打ち込んでください。**
●短辺サネ部分の接続は必ず根太上にておこなってください。**フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）は使用しないでください。**
●短辺方向（エンドマッチ部）にも1ヵ所、指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



●釘（接着剤付きフロアー用ステープルもしくはフロアーネイル）打ち込み時、釘の頭がフロアーにめり込まないよう適正なエア圧を設定してください。釘の頭がめり込んだ場合、適正な釘保持力が確保できません。

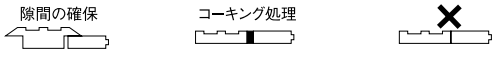
5 壁際およびサッシ下の隙間（フロアーの突き上げ防止のため必ずおこなってください）

施工例



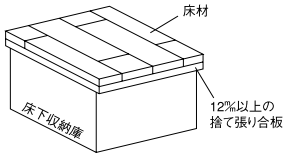
フロアー周囲の壁際およびサッシ下などには必ず3～5㎜の隙間をあけてください。
端部の床材は釘を脳天打ちで完全に固定してください。
隙間をかくすため、巾木は後付けとしてください。

※周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理してください。
吸湿時にフローリングが膨張して不具合が生じますので厳守願います。



6 床下収納庫の天板取り付け

無垢フローリングを床下収納庫の天板に使用する場合は必ず12㎜以上の捨て張り合板を釘と接着剤で補強してください。



⚠ 注意 フロアーを床下収納庫の天板に使用する場合、製品厚15㎜未満のものは荷重による破損の危険性がありますので、捨て張り合板を使用し、総厚が15㎜以上になるようにしてください。

※床暖房対応の無垢フローリングをご使用の場合は、商品同梱の施工説明書をご確認ください。

無垢フローリング ピノアース 6㎜厚タイプ

床材の取り付け

お願い 下地への固定はしっかりとおこなってください。無垢フローリングは合板突板フロアーより、乾湿変化による寸法変化が大きく生じます。
下地に対して指定の釘と接着剤で、しっかりと固定してください。しっかりとした固定により、寸法変化を小さく抑えることができます。

●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（肩幅4㎜、足長25㎜）をご使用ください。
※フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。
●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番：ZX0311）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ接着剤（ボンドKU928C-X）～ウレタン系一液接着剤～
※上記の接着剤からお選びください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。

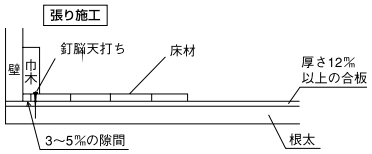

接着剤付きフロアー用ステープル（肩幅4㎜、足長25㎜）


フィニッシュネイル（針釘）
ブラッドネイル（針釘）

1 張り施工

図のように端部の床材は、釘を脳天打ちで完全に固定してから行ってください。

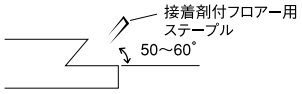
無垢フローリングは吸放湿により、隙間や突き上げが出ることがあります。施工時には、かるく突く程度に施工してください。又、木口のジョイント部もきつく締めつけないで緩めに施工してください。



2 指定釘・接着剤の併用施工

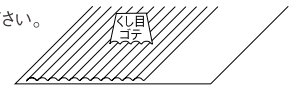
●釘は接着剤付フロアー用ステープル（肩幅4㎜、足長25㎜）とし、直張り用接着剤を必ず併用施工してください。（肩幅4㎜を超えるステープルを使用するとフロアーが割れてしまうおそれがあります。
●角度は50～60°としてください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げフクレが発生しますので特に注意して施工してください。

角度は50～60°を厳守してください。



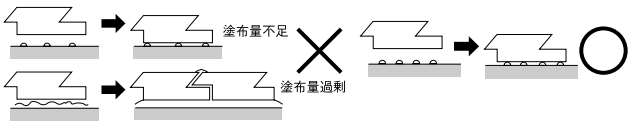
3 指定接着剤の塗布

●接着剤の塗布にはくし目ゴテを使用してください。
●ウレタン樹脂接着剤は、よくかきまぜた後そのまま使用し、塗布後30分以内に施工してください。
●接着剤の使用方法の詳細は接着剤の使用説明書をご覧ください。
●フローリングの継ぎ目と捨て張り合板・既存フロアーの継ぎ目が重ならないように施工してください。段差になる恐れがあります。



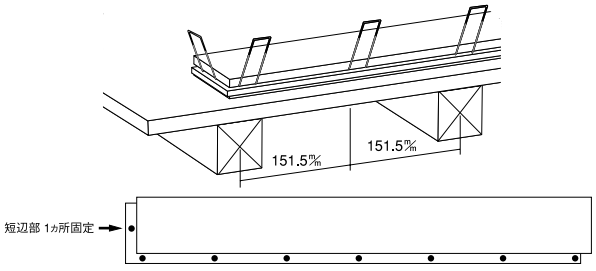
接着剤の塗布量が不足または過剰では接着不良、踏み鳴り、接着剤の表面へのはみ出し等のトラブルのおそれがあります。万一、塗装面に付着した場合は、直ちに濡れ雑巾又は溶剤等で軽く拭き取ってください。硬化後では絶対に取れませんので注意してください。

接着剤の適正塗布量 350～400g/㎡



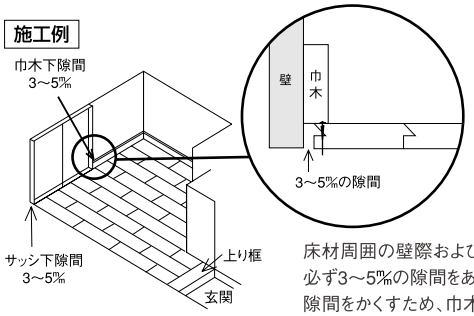
4 釘打ち

●接着剤付フロアー用ステープルの、釘打ち込みピッチは150㎜としてください。
●ステープルをご使用になる場合は、釘頭が残らないように、また、過度に深くならないように打ち込み圧力を6.0～8.0kgf/㎠にし、調整してください。
※下地材への固定はしっかりとおこなってください。無垢フロアーは合板突板フロアーより、乾燥変化による寸法変化が大きく生じます。下地材に対して弊社推奨の釘と接着剤でしっかりと固定してください。しっかりとした固定により、寸法変化を小さく抑えることができます。
●短辺方向にも1ヵ所指定の接着剤付きフロアー用ステープルを打ち込んでください。



5 壁際およびサッシ下の隙間（フロアーの突き上げ防止のため必ずおこなってください）

施工例



床材周囲の壁際およびサッシ下などには必ず3～5㎜の隙間をあけてください。
隙間をかくすため、巾木は後付けとしてください。

※周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理してください。又は、専用の薄床見切り材（別売）をご使用ください。
吸湿時にフローリングが膨張して不具合が生じることがありますので厳守願います。

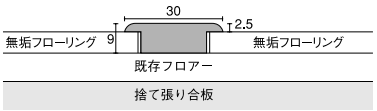


6 既存フロアーの上に追い張りする場合

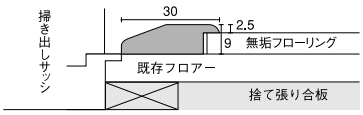
既存フロアーの上に本製品を追い張りする場合は、リフォーム用の薄床見切り材（別売）をご使用いただけます。

●リフォーム用の床見切り材・サッシ見切り材をご使用になる場合は、フロアーの見切りを入れる側の実を切り落とし、見切り材に差し込んで、ご使用ください。見切り材は接着剤を使用し固定させてください。

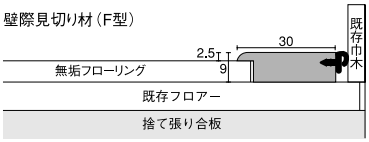
床見切り材（T型）



サッシ見切り材（E型）



壁際見切り材（F型）



コンビットリアージュ®

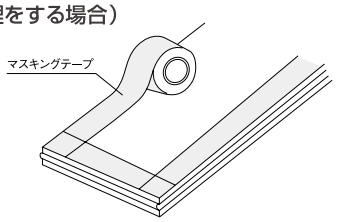
床材の取り付け

●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（足長38㎜以上）またはフロアーネイル（長さ38㎜以上）をご使用ください。
※フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。
●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番:ZX0221）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ接着剤（ボンドKU928C-X）～ウレタン系一液接着剤～
※上記の接着剤からお選びください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。



1 表面のマスキング（防水処理をする場合）

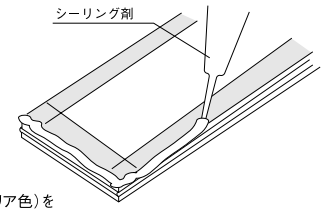
フロアー表面周囲にマスキングテープ（現場調達）を貼ってください。



目地防水用のシーリング剤が床材表面につくと、滑りやすくなります。

2 シーリング剤の塗布（防水処理をする場合）

オスザネ上部（長辺、短辺方向とも）にシーリング剤を塗布します。このとき、オスザネとメスザネをはめたときに、目地からシーリング剤がはみ出すくらい塗布します。

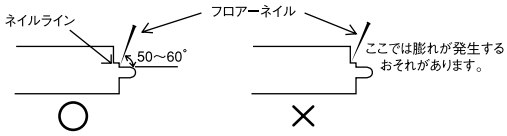


シーリング剤はコニシボンドシリコンコーク（クリア色）をご使用ください。

3 指定釘・接着剤の併用施工

●フロアーネイルまたは接着剤付きフロアー用ステープルとし、指定接着剤を必ず併用施工してください。
●釘打ち込み位置はネイルラインの下部とし、釘部は必ず打ち沈めてください。
●角度は50～60°としてください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生しますので特に注意して施工してください。

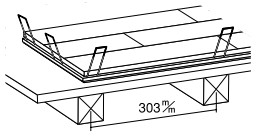
角度は50～60°を厳守してください。

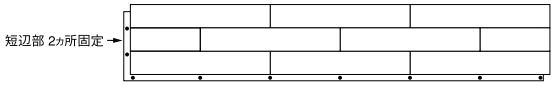


※ネイルラインのない商品はオスザネ上部の根元に同角度で打ち込み膨れが発生しないよう、特に注意して施工してください。

4 釘打ち

●フロアーネイルまたは接着剤付きフロア用ステープルの、釘打ち込みピッチは303㎜とし、必ず根太に打ち込んでください。
●短辺サネ部分の接続は必ず根太上にておこなってください。フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）は使用しないでください。
●短辺方向（エンドマッチ部）にも1ヵ所、指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。

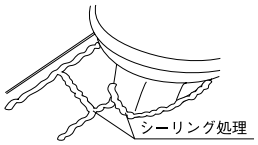




●釘（接着剤付きフロアー用ステープルもしくはフロアーネイル）打ち込み時、釘の頭がフロアーにめり込まないよう適正なエア圧を設定してください。釘の頭ががめり込んだ場合、適正な釘保持力が確保できません。

5 便器周辺などの隙間処理（防水処理をする場合）

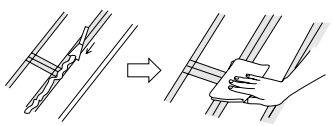
フロアーの目地部分だけではなく、便器の周辺、巾木、敷居など水が浸入する隙間には、全てシーリング剤の塗布をし、完全に防水してください。



防水が完全でない場合は変色などの不具合が発生します。

6 シーリング剤の拭き取り（防水処理をする場合）

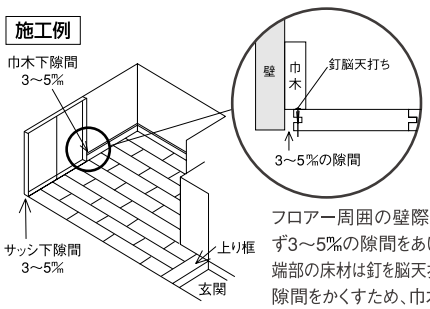
目地部分からはみ出したシーリング剤をスクレーパー等でかき取った後、きれいな雑巾等で拭き取ってください。



●フロアー表面にシーリング剤が付着した場合、シンナーかお湯の浸透した雑巾できれいに拭き取ってください。放置すると表面が滑りやすくなり危険です。
●きれいにマスキングテープをはがしてください。

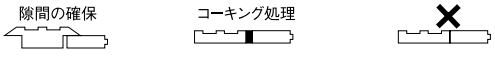
7 壁際およびサッシ下の隙間（フロアーの突き上げ防止のため必ずおこなってください）

施工例



フロアー周囲の壁際およびサッシ下などには必ず3～5㎜の隙間をあけてください。
端部の床材は釘を脳天打ちで完全に固定してください。
隙間をかくすため、巾木は後付けとしてください。

※周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理してください。
吸湿時にフローリングが膨張して不具合が生じますので厳守願います。

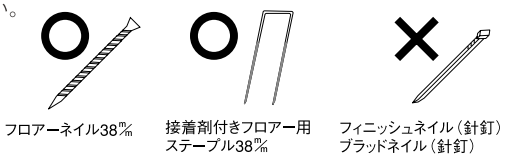


根太工法用フローリング

床材の取り付け

お願い 根太工法用フローリングは根太（捨て張り）施工専用です。直張り施工はおこなわないでください。

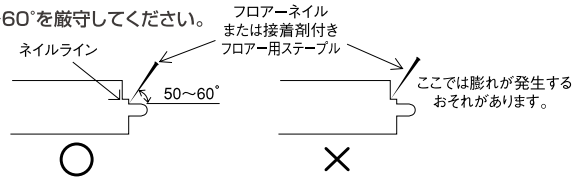
●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（足長38㎜以上）またはフロアーネイル（長さ38㎜以上）をご使用ください。
※フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。
●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番：ZX0221）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ接着剤（ボンドKU928C-X）～ウレタン系一液接着剤～
※上記の接着剤からお選びください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。



1 指定釘・接着剤の併用施工

●フロアーネイルまたは接着剤付きフロアー用ステープルとし、指定接着剤を必ず併用施工してください。
●釘打ち込み位置はネイルラインの下部とし、釘部は必ず打ち沈めてください。
●角度は50～60°としてください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生しますので特に注意して施工してください。

角度は50～60°を厳守してください。

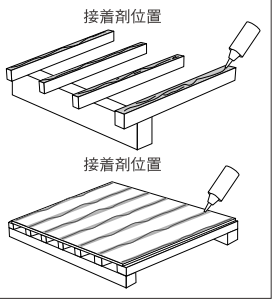


※ネイルラインのない商品はオスザネ上部の根元に同角度で打ち込み膨れが発生しないよう、特に注意して施工してください。

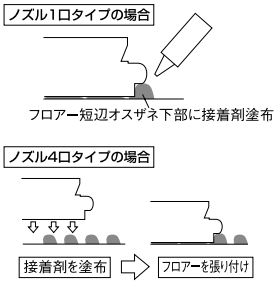
2 指定接着剤の塗布

●接着剤は根太上に塗布し、捨て張り工法においても根太上に塗布してください。
●短辺オスザネ下部（エンドマッチ部）は両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布としてください。
●塗布量はノズル1口タイプは約8㎜、ノズル4口タイプは約4㎜程度としてください。（150g/m²）
●養生期間は1日以上としてください。

捨て張り工法時の根太専用ボンド位置



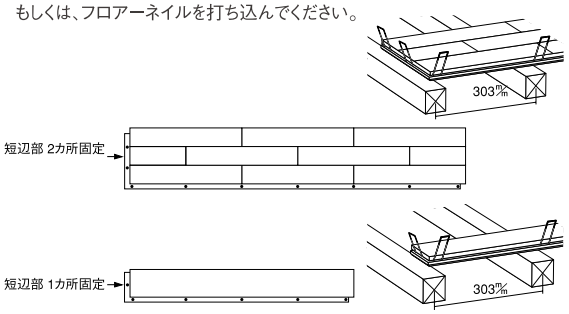
エンドマッチ部の根太専用ボンド塗布図



●フローリングの継ぎ目と捨て張り合板の継ぎ目が重ならないように施工してください。

3 釘打ち

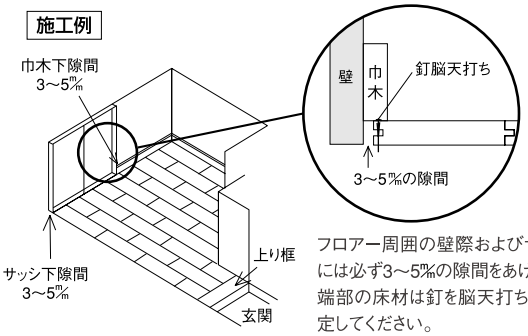
●フロアーネイルまたは接着剤付きフロアー用ステープルの、釘打ち込みピッチは303㎜とし、必ず根太に打ち込んでください。
●短辺サネ部分の接続は必ず根太上にておこなってください。フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）は使用しないでください。
●短辺方向（エンドマッチ部）にも1ヵ所、指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



●釘（接着剤付きフロアー用ステープルもしくはフロアーネイル）打ち込み時、釘の頭がフロアーにめり込まないよう適正なエア圧を設定してください。釘の頭がめり込んだ場合、適正な釘保持力が確保できません。

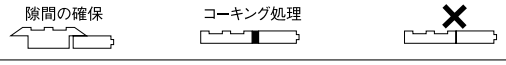
4 壁際およびサッシ下の隙間（フロアーの突き上げ防止のため必ずおこなってください。）

施工例



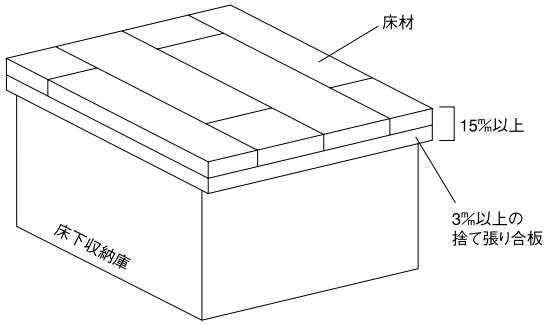
フロアー周囲の壁際およびサッシ下などには必ず3～5㎜の隙間をあけてください。
端部の床材は釘を脳天打ちで完全に固定してください。
隙間と釘をかくすため、巾木は後付けとしてください。

※周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理してください。
吸湿時にフローリングが膨張して不具合が生じますので厳守願います。



5 床下収納庫の天板取り付け

12㎜厚のフロアーを床下収納庫の天板に使用する場合は必ず3㎜以上の捨て張り合板を釘と接着剤で補強してください。



⚠ 注意 フロアーを床下収納庫の天板に使用する場合、製品厚15㎜未満のものは荷重による破損の危険性がありますので、捨て張り合板を使用し、総厚が15㎜以上になるようにしてください。

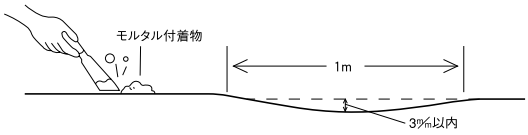
直張り接着工法用床材

床材の取り付け

お願い モルタル下地専用ですので、合板・パーチクルボード・MDF等の下地および二重床へのご使用はお避けください。

下地（コンクリートスラブ下地の場合）

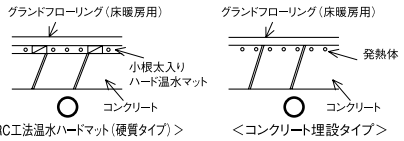
モルタル含水計を使用して、モルタル含水率が10%以下であるか確認してください。含水率の目安は、打設後、夏期で3週間、冬期で4週間以上が必要です。
含水率がこれより高いと接着不良や床材の反り・突き上げ等が生じるおそれがあります。
表面のレイタンスやほこりを十分に除去してください。小粒のモルタル付着物も金コテ等を使用して取り除いてください。
不陸は1mあたり3%以内としてください。これ以上では踏み鳴りや接着不良のおそれがあります。



発熱パネルの設置（床暖の場合）

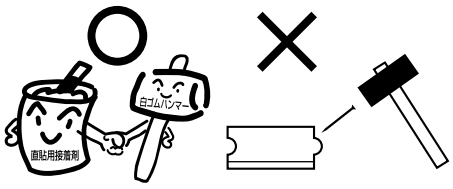
- グランドフローリング（床暖房用）は接着剤の使用により、床暖房発熱パネルの上に施工するタイプです。適合する発熱パネルは発熱パネルメーカーにご確認ください。適合しない発熱パネルは、絶対に使用しないでください。発熱パネルは各メーカーの施工説明書に従って施工してください。
- コンクリート中に熱源を埋設するタイプではモルタルやコンクリートに金網を入れたり、仕切りをつけるなどひび割れ防止対策を施してください。ひび割れが起きると隙間や盛り上がりの原因となります。
- 周辺の副資材（合板等）との段差が1%以下になるようにスペーサー等で平滑に仕上げてください。

各種発熱パネルへの施工例

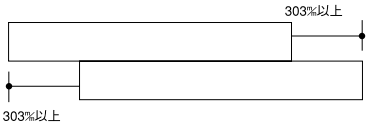


1 張り施工

ウレタン樹脂接着剤で接着施工してください。**なお、踏み鳴りの原因となりますので、絶対釘は使用しないでください。**



ゴムハンマーを使用し、床材表面を叩いて、確実にサネをはめてください。不陸等によりサネが入りにくい場合には再度ゴムハンマーで閉め直してください。張り施工は尺ずらし（303%ずらし）以上としてください。

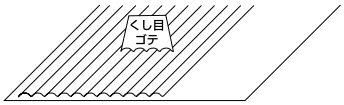


床材のズレや浮き上がりを抑えるため、重しを置きながら床を施工していき、必ず24時間以上の養生をおこなってください。

製品によって、次に示す接着剤を使用してください。接着剤の塗布には必ず同梱の専用くし目ゴテを使用してください。

〈使用接着剤について〉

WOODONE専用接着剤（ウレタン樹脂接着剤）		グランドフローリング グランドフローリングL45	スケアーブロックプロトタイプ
直張り専用接着剤	ZX0211	○	○
大鹿振興（株）	UR-145	○	○
コニシ（株）	KU-928R/C	○	○



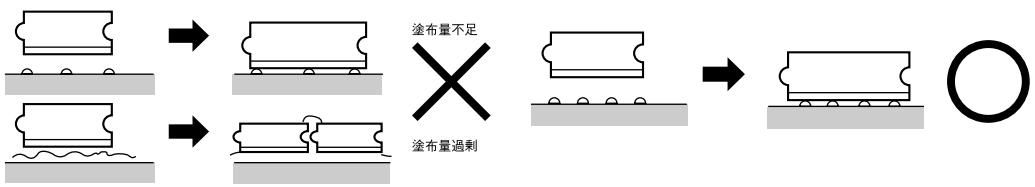
ウレタン樹脂接着剤は、よくかき回した後そのまま使用し、塗布後30分以内に施工してください。

接着剤の使用方法の詳細は接着剤の使用説明書をご覧ください。
接着剤の塗布量は次のようになります。

下地がモルタルの場合：600～700g／m²（約30m²/20kg）
発熱パネル時：400～500g／m²（約45m2/20kg）

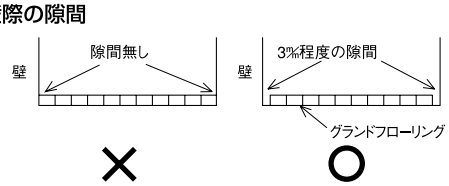
接着剤の塗布量が不足または過剰では接着不良、踏み鳴り、接着材の表面へのはみ出し等のトラブルのおそれがあります。万一、塗装面に付着した場合は、直ちに濡れ雑巾又は溶剤等で軽く拭き取ってください。硬化後では絶対に取れませんので注意してください。

接着剤の適正塗布量

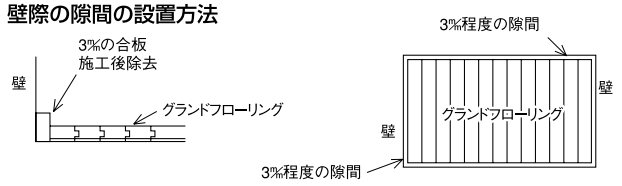


フロアーは基材水分の吸放湿によって伸縮します。そのため、フロアーの伸びを考慮して、フロアー周囲の壁、敷居、下枠、上り框との間には3%程度の隙間を開けて施工してください。3%合板を壁との間に挟み、施工後、除去すると隙間が開けられます。隙間を隠すため、巾木は後付けとしてください。必要ならばコーキング処理してください。巾木との取り合いご使用方法に応じて際根太を入れてください。

壁際の隙間

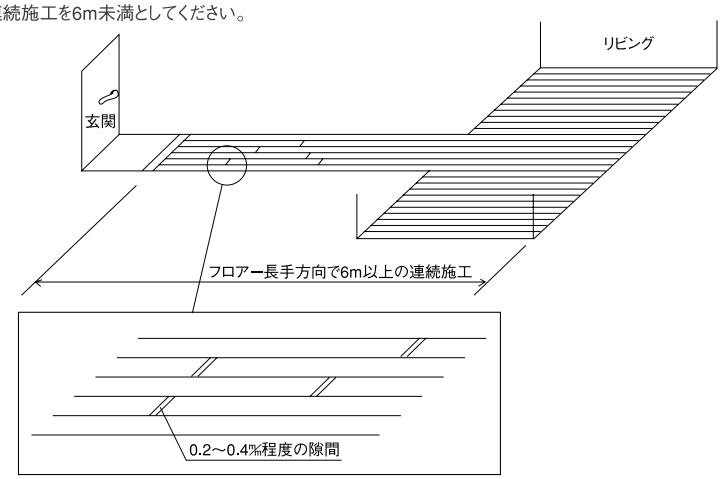


壁際の隙間の設置方法



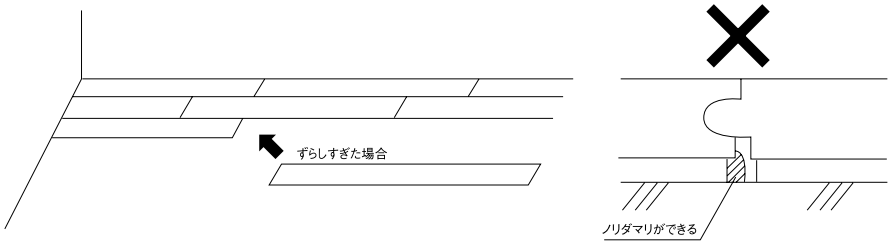
直張り接着工法用床材

フロアーの長手方向で6m以上連続施工する場合には、床材各短辺部のサネを軽くつく程度（0.2～0.4%）ではめ、隙間をもたせて施工してください。
または見切り材を入れ、長手方向の連続施工を6m未満としてください。



設計上、フロアー周辺との間に3%程度の隙間が開けられない場合には、フロアー各短辺部のサネを軽くつく程度（0.2～0.4%）ではめ、隙間をもたせて施工してください。
さらにフロアー長手方向で6m以上連続施工する場合には、見切り材を入れてください。（※床暖房ご使用の場合は、隙間が大きくなる場合がありますのでご了承ください。）

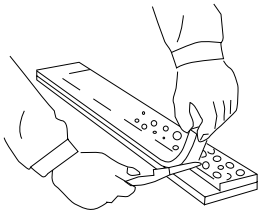
2枚目以降のフロアーは、できるだけずらさないようにしてサネを差し込んでください。ずらしすぎるとサネ部にノリダマリができてしまい、歩行感が硬くなります。

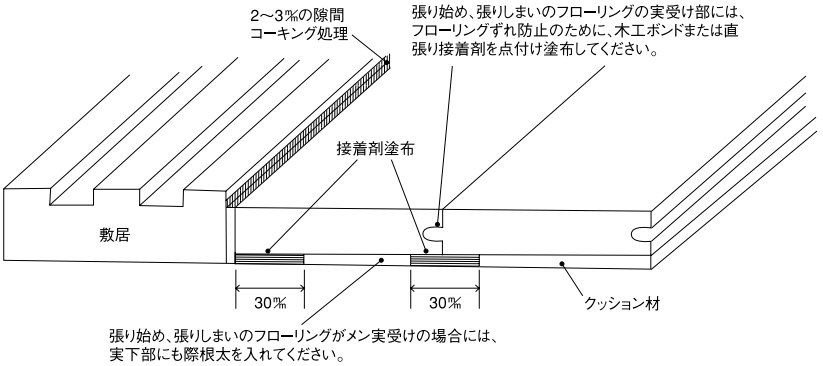


2 際根太の施工方法

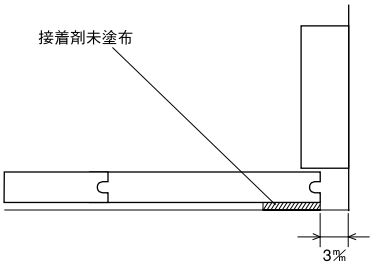
上り框、敷居等との突き付け部分には、段差・隙間が発生するのを防止するため、必ずたわみ防止材として際根太を使用してください。
また、際根太と床材は接着剤で固定してください。

フロアー裏面のクッション材を際根太相当分だけカッターにて除去してください。





壁際の巾木の下部については、際根太と床材は接着剤で固定しないでください。



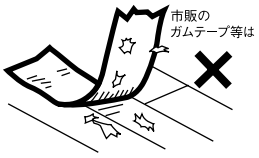
吸放湿による床材の伸びが吸収できるように、
壁と3%程度隙間を開けてください。

床材（共通）

施工終了後

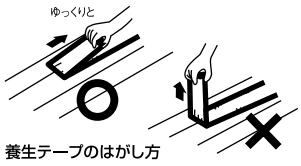
養生

●施工後は、木屑や砂、ごみをきれいに取り除いてダンボール、ベニヤまたは養生カバー等で隙間なくカバーしてください。市販のガムテープや粘着力の強い養生テープをご使用になりますと、塗膜の剥がれの原因になりますので、別売の養生テープ（ZY0211）をご使用ください。



※窓際や直接日光が当たる場所は、すき間をあけずに養生してください。日やけの原因になります。

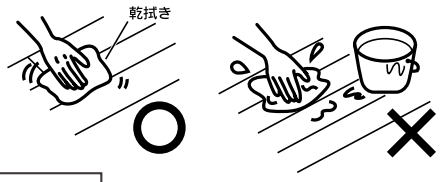
●養生テープを取り除く際は、テープを床面と垂直にしながら剥がすと、製品表面の塗膜剥離をおこすおそれがありますので、テープを床面と平行にしながら、ゆっくりと剥がしてください。



養生テープのはがし方

汚れ落とし

ほこり、小さな汚れを乾いた布で乾拭きしてください。水拭きを行うと長期の間に割れが発生することがありますので、避けてください。ただし、汚れのひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた雑巾を堅く絞ってから拭いてください。



お願い

美装業者様におかれましては、下記の点およびワックス塗布の注意事項について十分注意して作業してください。
※フローリング表面に、水や洗剤を撒き散らさないでください。変色や、床材の変形の原因になります。
※ポリッシャーには柔らかいパットをご使用ください。表面のキズの原因になります。

⚠ 注意 養生期間中、絶対に床暖房および暖房機器の使用は避けてください。フロアーのサネ接続部の隙間発生などの原因となるおそれがあります。

通常塗装の場合

〈ワックス塗布の前に〉

1 ワックスの選定

半年に一度、ワックスによるお手入れを施してください。必ず弊社推奨のワックスをご使用ください。他のワックスはトラブルの原因になります。

フリーワックス製品に関して

フリーワックス製品に関してはワックス塗布は必要ありません。汚れや薬品による汚染、変色が発生しにくく、傷がつきにくい性能を有しています。（お客様の希望によりワックス塗布は可能ですが、化粧表面はワックスの塗布性能となります）

推奨メーカー名	（株）リンレイ
推奨ワックス名	ハイテクフローリングコート、ノンブライト、 ハイテクフローリングコート つや消し40（うづくり フローリング用）

※無垢フローリングピノアースにはノンブライト、ハイテクフローリングコートつや消し40（共にリンレイ）がおすすめです。
※油性ワックス・ロウワックスは絶対に使用しないでください。
（油性ワックスの上に樹脂ワックスを塗布した場合白化することがあります）
※化学雑巾は使用しないでください。（特にワックス塗布直前・塗布後は絶対に使用しないでください）

2 天気の良い日を選び、窓を開けましょう

※雨天等で、湿気が極端に高いときは避けてください。
※気温が低く床材表面が5℃以下での使用はお控えください。
※床暖房用フローリングのお手入れは、床暖房のスイッチを切り、フローリング表面が冷えてからおこなってください。床暖房中に作業を行うと、床暖房パネルの故障、フローリング表面のヒビ割れ、変色などの原因となります。

3 汚れ落とし

（イ）床面のゴミ・ホコリ等を掃除機を使用して十分に取り除いてください
（ロ）床用洗剤（「マイペット」、「オール床クリーナー」等）を薄めた液を雑巾に含ませ、堅く絞ってから拭いてください。
※施工後の床材の表面には、汚れ・油分が付着しているので、十分に洗浄をしてください。
※洗剤を使用する場合は、予め目立たないところで試験洗いをし異常のないことを確認してください。
※長時間、フローリング表面に水分が残らないよう作業してください。
※アルカリ性の強い洗剤は使用しないでください。
※洗剤を、フローリング表面に多量に撒き散らしたり、多量に塗布しないでください。
※スプレータイプの床用洗剤の場合は、雑巾に洗剤をスプレーして拭いてください。
（ハ）水を含ませ、堅く絞った雑巾で洗剤を完全に拭き取ってください。
※洗剤の成分が床面に残るとワックスの密着が悪くなります。
※床材の目地にも洗剤分が残らないようにきれいに拭き取ってください。

〈ワックスの塗布〉

1 塗布

床が完全に乾いたら、きれいなウエスにワックスを含ませ、木目に沿って薄くムラ無く均一に塗ってください。
※ワックスは、当社推奨ワックスを使用し、ウエスにワックスをしみ込ませて均一に塗布してください。
※ワックスを十分に撹拌してください。
※フローリング表面に撒き散らして塗布せず、また塗りすぎないでください。
※床材の目地に、樹脂ワックスが溜まらないように注意してください。
※重ね塗りの場合、前に塗ったワックスを必ず乾かしてから塗布してください。





お願い

●ワックスは使用を誤ると、ベトついたり白化や粉上、変色、密着不良などの異常を起こす場合があります。必ず※印の注意事項を遵守してお手入れしてください。ワックス剥離剤は製品の美観および品質をそこないます。絶対に使用しないでください。
●木質系のフローリングは水分を多く含むと、変色したり、表面がシワ状になることがあります。塗布の際には、十分にご注意ください。
※濃色系の床材は光沢の加減でワックスの擦り傷が目立つ場合があります。ご了承ください。

2 乾燥

乾燥するまで、ワックスを塗ったところを歩かないでください。

床材（共通）

自然塗装品の場合

〈ワックスの選択〉

自然塗料はウレタン系などの塗料と異なり、オイルを浸透させることによって木目をひきたて、木材の呼吸を妨げず、木材が室内の湿度を調整する役割をします。但し、自然塗料は合成樹脂塗料に比べて、床材の表面を保護しないため、日常のきめ細かいメンテナンスが重要です。本品は自然塗料仕上げ商品ですので必ず推奨別売品の自然塗料専用お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」（下記参照）をご使用ください。汚れを落とすと同時にワックス分を補います。また、表面のツヤ出しやはっ水性が必要な場合は別売の固形ワックスをご使用ください。市販の一般床材用樹脂ワックス・油性ワックス等はご使用にならないでください。

〈ワックスの種類〉

下記に示す自然塗料専用ワックスを塗布してください。使用方法はワックスの説明書をご覧ください。

	品　名	容量	塗布可能面積の目安	用　途
当社取扱い品	①お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」	1ℓ	55～30,000㎡	日常のお手入れや軽い汚れ落とし。
		250mℓ	14～7,500㎡	
	②汚れ落としワックス「グレイボ」	50mℓ	——	手垢などの汚れ落としや、表面のツヤ出し用に。
当社推奨品	③メンテナンスキット 植物オイル（全3色）と植物ワックスの詰め合わせ （ハニーブラウン色、ホワイト色、クリア色）	植物オイル50mℓ（1個） 植物ワックス50mℓ（1個）	——	植物オイル（各色）は部分的な補修用。植物ワックスは表面のツヤ出しやはっ水性向上。
	④植物オイル（全3色） （ハニーブラウン色、ホワイト色、クリア色）	750mℓ	15㎡	現場塗装や、定期的な塗り替え用。
		50mℓ	1㎡	

※ご注文の際は販売店様または代理店様にご相談ください。
※お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」と、汚れ落としワックス「グレイボ」はリボス社製品取扱店でもお求めいただけます。

〈ワックス塗布の前に〉

以下の事項を必ずご確認ください。
- お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」はご使用前によく振って、必ずウエス等の布にとって拭いてください。製品に直接塗ると、シミの原因になります。
- 固形ワックスはそのままウエスにとるか、湯煎にかけてワックスをやわらかくしてからお使いください。直火は絶対にしないでください。
- 金属ダストや削りクズなどが残っていると仕上げ塗布した時、黒ジミの原因となりますので、きれいに取り除いておいてください。

〈お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」の塗布手順〉

通常のメンテナンス

（イ）床面のゴミ・ホコリ等を掃除機を使用して十分に取り除いてください。
（ロ）きれいな雑巾に水で薄めたお手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」（ワックスクリーナーを4～10倍の水で薄める）を含ませよく絞ってから、床の表面を拭いてください。
（ハ）乾くまで床の上を歩かないでください。

汚れが激しいときのメンテナンス

（イ）ひどい汚れはお手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」の原液をきれいな雑巾にとり、汚れを拭きとってください。
（ロ）深くしみ込んだ汚れは、#320くらいのサンドペーパーで軽くこすり落とし、メンテナンスキットに入っている「植物オイル」で仕上げてください。
（ハ）深いキズは、同系色の補修剤を埋めこんでから、「植物オイル」で仕上げてください。

お手入れ関連製品のご紹介

①お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」（1L、250mL入）
日常のお手入れや、軽い汚れ落としに。天然成分100％

②汚れ落としワックス「グレイボ」（50mL用）
手垢などの汚れ落としや、表面のツヤ出し用に。

③メンテナンスキット（50mL×2個）
植物オイルと、はっ水性を高める植物ワックス。どちらも天然成分100％

④植物オイル（750mL、50mL）
現場塗装や、定期的な塗り替え用。※750mLで約15m²塗布できます（1回塗りの場合）

①


当社取扱い品

②

当社取扱い品

③

当社推奨品

④

当社推奨品

③④のお問合せ先
株式会社 イケダコーポレーション
エコロジー事業部
〒104-0045
東京都中央区築地1-13-13 北泉ビル8F
TEL（03）3544-4453　FAX（03）3544-4450
E-Mail:ecology-t@iskcorp.com

〒553-0003
大阪市福島区福島4-8-28FJビル3F
TEL（06）6452-9377　FAX（06）6452-9378
E-Mail:ecology@iskcorp.com

ホームページ http://www.iskcorp.com

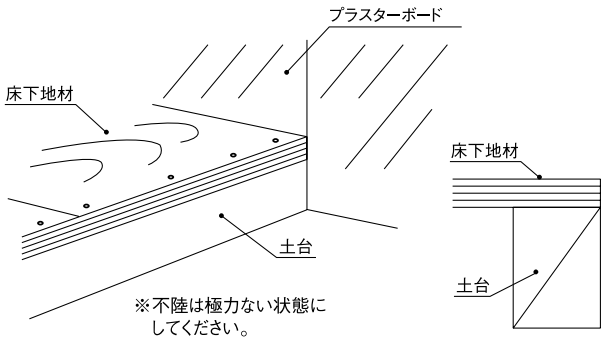
詳しいお手入れの方法は、お手入れ関連製品に付いている使用説明書をご覧ください。

上り框・玄関巾木（リフォームタイプ・後付けタイプ）

施工手順

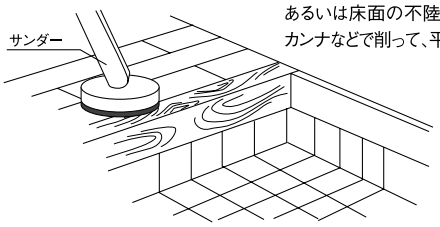
1 取り付け前準備

後付けタイプですので、床下地材（床版、構造用合板等）をあらかじめ施工しておき、壁面はプラスターボード等壁下地材を張っておいてください。



165㎜リフォームタイプについて

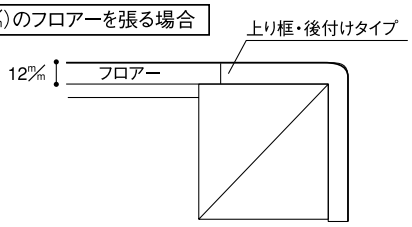
既存の上り框の上面とフロアーの段差、あるいは床面の不陸を、サンダーまたはカンナなどで削って、平滑にしてください。



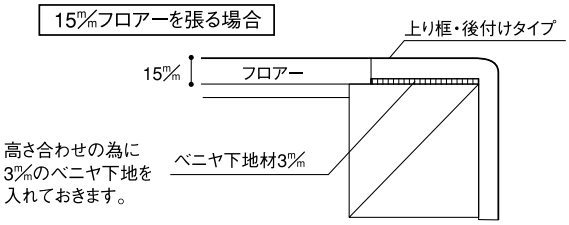
2 上り框

下地の調節

通常（12㎜）のフロアーを張る場合



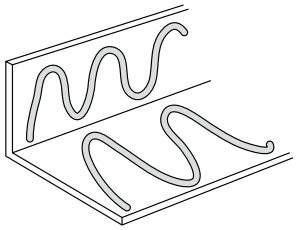
15㎜フロアーを張る場合



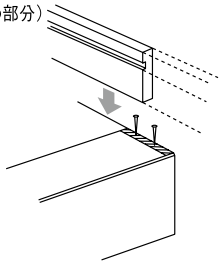
お願い フロアーの雄ざね側を框に突き付ける場合はフロアーのさねを落として施工してください。

3 本体枠の取り付け

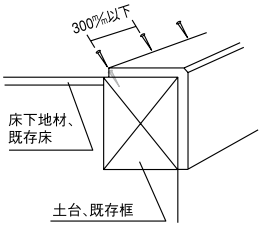
（1）框の裏面に、同梱の接着剤を均一に塗布してください。

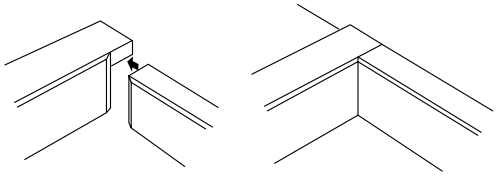


（2）框両端の天面を釘で固定してください。（巾木納め部分）



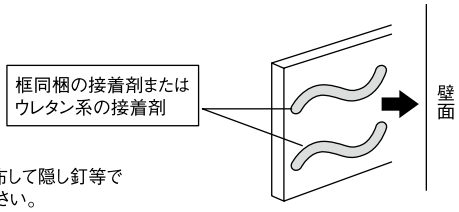
（3）框実部分よりフィニッシュネイルを45°に300㎜以下のピッチで打ち込み固定してください。フィニッシュネイルの頭が残っている場合は、ポンチで打ち込んでください。





つきつけがきれいに納まるように、面部分だけを上り框、玄関巾木とともに上図のように留め加工して、納めてください。

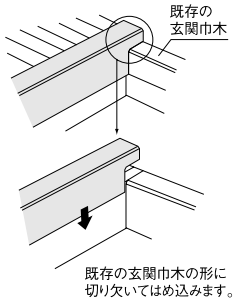
玄関巾木



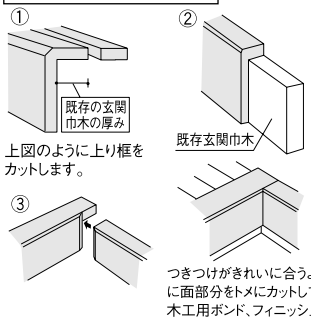
接着剤を塗布して隠し釘等で固定してください。

165㎜リフォームタイプについて（オーク・サクラ（カバノキ））

上り框のみかぶせる場合



玄関巾木として廻す場合



上図のように上り框をカットします。

つきつけがきれいに合うように面部分をトメにカットして、木工用ボンド、フィニッシュ併用で納めてください。

お願い 下地材と本体がきちんと接合していないと段差、踏み鳴り等の原因となります。十分に接合している事を必ず確認してください。

※無垢のリフォーム框をご使用の場合は、商品同梱の施工説明書をご確認ください。

安全上のご注意

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 注意 この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

全製品共通

禁止

・屋内専用です。

屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

必ずおこなう

・開梱後は換気をおこなってください。

本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながる恐れがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・輸送・保管は慎重に!

輸送の際には、荷崩れや衝撃に十分注意してください。また、保管時には、水平な場所に平積みしてください。

・手すり・親柱・子柱の取付け時には必ずお守りください。

（1）子柱（手すり子）の間隔は、子供がすり抜けないように踏板に使用する場合は踏板1段について2本以上、2階ホール等に使用する場合は芯々135㎜以下としてください。また、2階ホールの手すりの高さは床面より1,100㎜を基準としてください。
（2）手すりの接続、手すりと親柱・子柱との接続、手すり・親柱・子柱の躯体側との接続はポリウレタン系接着剤（別売）を使用し強固に取付けてください。

・化粧造作材の固定を確実におこなってください。

化粧造作材を後かぶせで固定する際、落下して、ケガの原因となりますので、樹脂シート専用ボンド併用にて、確実に本体を下地材へかぶせ込み、固定してください。

・手すり・ブラケット取付時に必ずお守りください。

丸棒手すりは転落を防ぐため、次の点に配慮して施工してください。
（1）勾配部分（踊場を含む）の手すりの取り付け高さは踏面より750㎜程度としてください。更に子供用手すりを取り付ける場合は、踏面より高さ600㎜～650㎜程度としてください。
（2）手すり端部はぶつけたりひっかかったりしないよう配慮してください。
（3）アプローチ部分にも手すりを付けてください。
（4）ブラケット（手すり受け）の取り付け間隔は、手すりが折れないよう900㎜以下としてください。
（5）ブラケットは下地にしっかり固定してください。柱・間柱以外で固定する場合は、必ず下地に補強材を入れ補強してください。

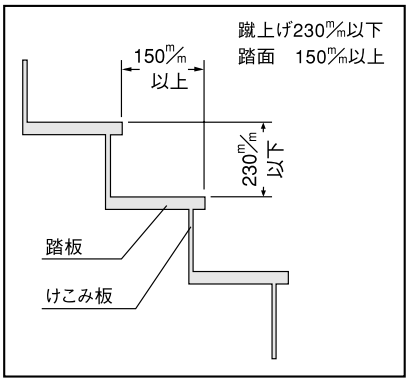
関連法規

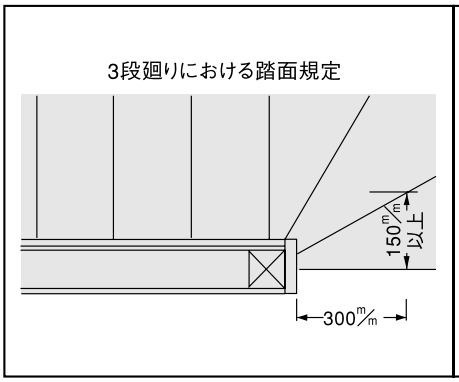
	建築基準法	住宅金融支援機構		日本住宅性能表示基準	
		フラット35技術基準	優良住宅取得支援制度（フラット35S） バリアフリー性 高齢者等配慮対策**等級3**	バリアフリー 高齢者等配慮対策**等級4**	バリアフリー 高齢者等配慮対策**等級5**
踏面寸法（T）	150㎜以上	150㎜以上	195㎜以上		
蹴上寸法（R）	230㎜以下	230㎜以下	550≦T+2R≦650㎜	550≦T+2R≦650㎜	550≦T+2R≦650㎜
階段及び踊場の幅	内法寸法750㎜以上（手すりがある場合は手すりの幅100㎜を限度として手すりがないものとして算出する。）	内法寸法750㎜以上（手すりがある場合は手すりの幅100㎜を限度として手すりがないものとして算出する。）	内法寸法750㎜以上（手すりがある場合は手すりの幅100㎜を限度として手すりがないものとして算出する。）	規定なし	規定なし
勾配	規定なし	規定なし	R/T≦22/21	R/T6/7以下	R/T6/7以下
鼻の出	規定なし	規定なし	30㎜以下（テーパー60°～90°を設けた蹴込板を設けることが望ましい。）	30㎜以下かつ蹴込板を設置。 鼻の出はテーパー60°～90°を設けた部材を設置。	30㎜以下かつ蹴込板を設置。
踊場の位置	4,000㎜以下（それ以上の場合は途中に踊場を設ける）	4,000㎜以下（それ以上の場合は途中に踊場を設ける）	4,000㎜以下（それ以上の場合は途中に踊場を設ける）	規定なし	規定なし
手すりの設置	**片側は必須** ①手すりを設定する。 ②階段・踊場の両側(手すり設置側を除く)に、壁又はこれに代わるものを設ける。 ※高さ1m以下は適用外	**片側は必須** ①手すりを設定する。 ②階段・踊場の両側(手すり設置側を除く)に、壁又はこれに代わるものを設ける。 ※高さ1m以下は適用外	**片側は必須** ①手すりを設定する。 ②階段・踊場の両側(手すり設置側を除く)に、壁又はこれに代わるものを設ける。 ※高さ1m以下は適用外 **勾配が45°を超える場合は両側設置**。	規定なし	規定なし
階段手すりの高さ	規定なし	規定なし	700～900㎜	規定なし	規定なし
子柱の間隔	―	―	内法寸法で110㎜以下	規定なし	規定なし
2階以上にあるバルコニー等の手すりの高さ	1,100㎜以上	1,100㎜以上	1,100㎜以上	規定なし	規定なし
廻り階段の形状	規定なし	規定なし	規定なし。 但し、最上段の通路等への食い込み部分や最下段の通路等への突出がないことが望ましい。	廻り階段等が安全な形式であること。 最上段の通路等への食い込み部分や最下段の通路等への突出がないこと。	廻り階段等が安全な形式であること。 最上段の通路等への食い込み部分や最下段の通路等への突出がないこと。

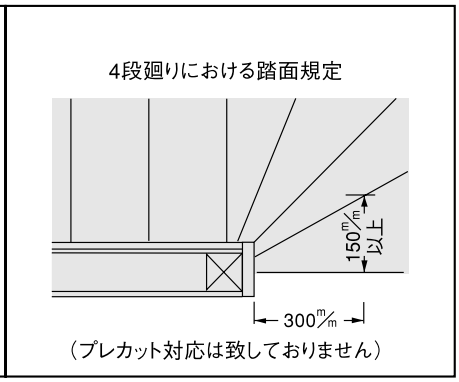
関連法規

階段及び階段まわりの関連法規

●建築基準法施行令の「階段の蹴上げ及び踏面の寸法についての規定」の第23条には次のように規定されています。
3段廻りでは内側の狭い方から300㎜の位置が有効踏面とされており、150㎜以上が必要です。また4段廻りでは、この第23条に適合しないことがありますから、注意してください。

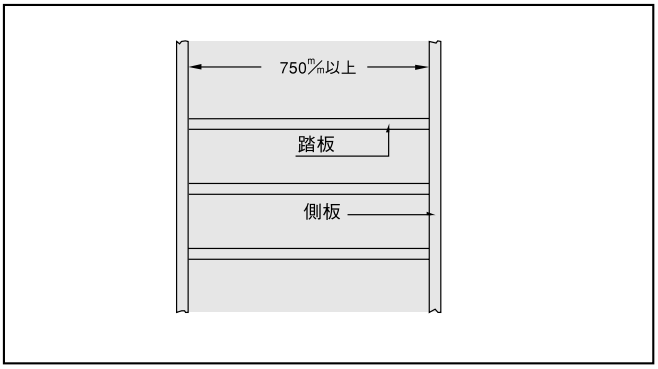




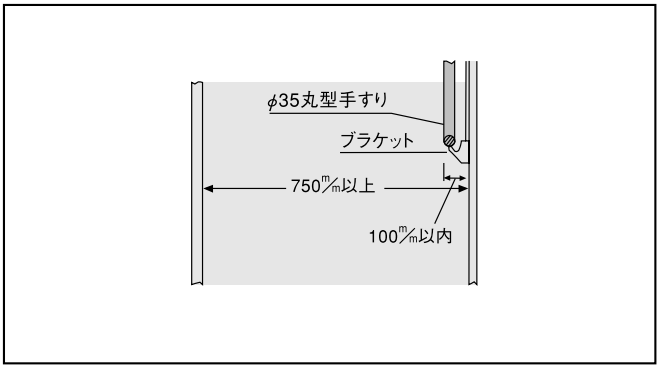


（プレカット対応は致しておりません）

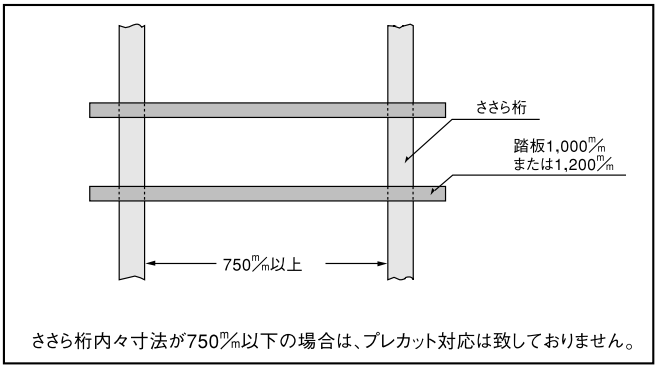
●このほか、有効寸法についての規定は、側板内々寸法750㎜以上を確保するように規定されています。



●建築基準法施工令の改正により階段室には手すりの設置が義務付けられています。
●階段室に丸型手すりを付ける場合、突出する部分が100㎜を超えない場合は階段幅に算入する事が可能です。あらかじめ、100㎜以内になるよう確認の上取り付けてください。

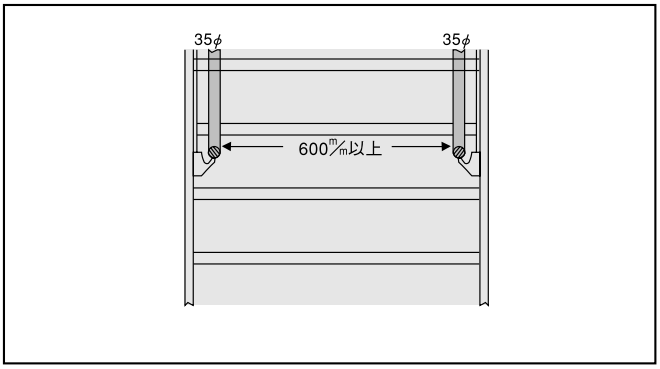


●ささら桁を用いる露出型階段では、ささら桁の内側からが有効内のり寸法と見なされますから踏板の長さ1,000㎜、1,200㎜のうちから適宜選んでください。

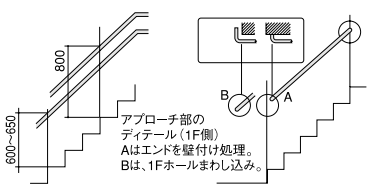


ささら桁内々寸法が750㎜以下の場合は、プレカット対応は致しておりません。

●手すりが階段等の両側に設けられる場合においては一方の手すりの突端から他方の手すりの突端までの内のりが600㎜以上とする。

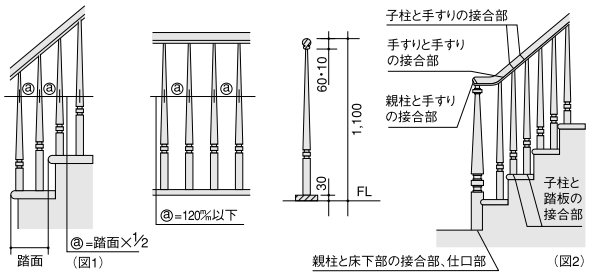


（1）手すりの取り付け高さは800㎜程度としてください。更に子供用手すりを取り付ける場合は、高さ600㎜～650㎜程度としてください。
（2）手すり端部はぶつけたりひっかかったりしないよう配慮してください。
（3）アプローチ部分にも手すりを付けてください。
（4）ブラケット（手すり受け）の取り付け間隔は、900㎜以下としてください。
（5）ブラケットは下地にしっかりと固定してください。柱・間柱以外で固定する場合は、必ず下地に補強材を入れてください。



弊社での積算基準

（1）子柱の間隔は踏板に使用する場合は2本、2階ホール等に使用する場合は芯々120㎜以下とする。2階ホールの手すりの高さは1,100㎜を基準とする。

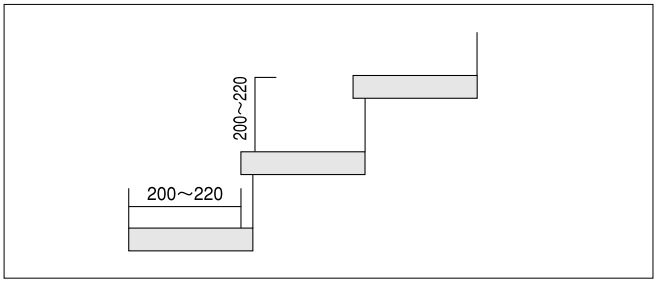


安全上のご注意

注意〈設計施工に際しての安全上のご注意〉　バリアフリー性住宅の階段設計について（住宅金融支援機構フラット35技術基準に基づく）

階段の勾配について

・勾配:R/T＝22/21以下としてください。
・踏面寸法＝(T)・蹴上げ寸法＝(R)とした場合、TおよびRは次の関係寸を満たす寸法としてください。
　T≧195mm かつ 550mm≦T＋2R≦650mm

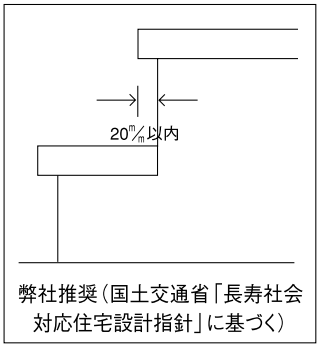


〔階段の勾配基準等に基づく踏面寸法及び蹴上げ寸法早見表〕

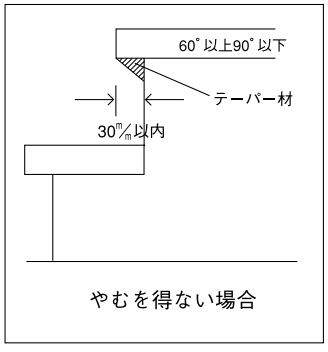
		蹴上げ寸法		
		基準寸法	推奨寸法1	推奨寸法2
		（勾配：22/21以下）	（勾配：6/7以下）	（勾配：7/11以下）
踏面寸法	195mm	178mm～204mm	――	――
	200mm	175mm～209mm	――	――
	205mm	176mm～214mm	172mm～175mm	――
	210mm	181mm～220mm	170mm～180mm	――
	215mm	185mm～217mm	167mm～184mm	――
	220mm	189mm～215mm	165mm～188mm	――
	225mm	193mm～212mm	162mm～192mm	――
	230mm	198mm～210mm	160mm～197mm	――
	235mm	202mm～207mm	157mm～201mm	――
	240mm	――	155mm～205mm	――
	245mm	――	156mm～202mm	152mm～155mm
	250mm	――	160mm～200mm	150mm～159mm
	255mm	――	163mm～197mm	147mm～162mm
	260mm	――	166mm～195mm	145mm～165mm
	265mm	――	169mm～192mm	142mm～168mm
	270mm	――	172mm～190mm	140mm～171mm
住宅金融支援機構仕様書より　以下省略				

鼻の出寸法について

弊社は長寿社会対応住宅指針に基づいて鼻の出寸法20㎜以下を推奨する。
やむを得ない場合30㎜以内でも良いが、その際は60°以上90°以下のテーパー材を設けることが望ましい。



弊社推奨（国土交通省「長寿社会対応住宅設計指針」に基づく）



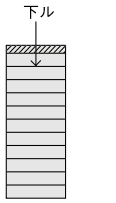
やむを得ない場合

階段のタイプ

国民生活センター等の調査により できるだけさけてほしいタイプ　×

住宅金融支援機構推奨の 望ましいタイプ　○

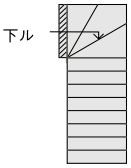
直階段
（足を滑らせた場合転落距離がある）



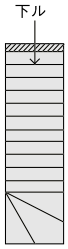
中踊場付直階段



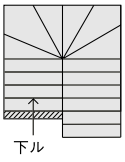
上部3段廻り直階段
（足を滑らせた場合転落距離がある）



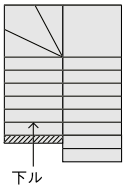
下3段廻り直階段



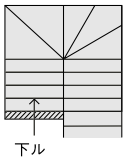
中6段折り返し階段
（足を滑らせた場合転落距離がある）



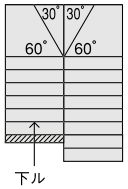
中踊場付折り返し階段



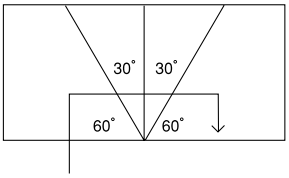
中2段3段廻り折り返し階段
（歩行時のリズムが狂い、また転倒時は転落距離がある）

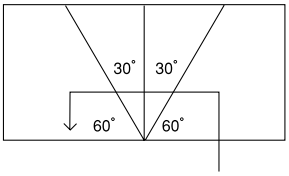


中踊場付折り返し階段



・階段の形状は、直階段又は折れ階段とし転落距離が短くなるよう、中間には踊り場を設けるようにする。曲がり部分を設ける場合は下記のいずれかにする。
・曲がり部分は下階床から3段以内としてください。
・曲がり部分は踊り場から上3段以内としてください。
・廻り階段とする場合の曲がり部分は4段を標準とし下記曲がりとする。





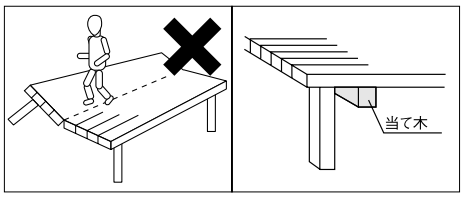
施工上のご注意

注意〈施工に際しての安全上のご注意〉

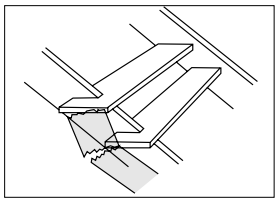
施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。
確実にお守りください。

1.当社階段及び階段廻り部材は住宅内装用部材であるため屋外に使用した場合、雨漏れ、強い太陽光により腐れ・割れ等の劣化が進み、転落等の原因になりますので屋外には使用しないでください。

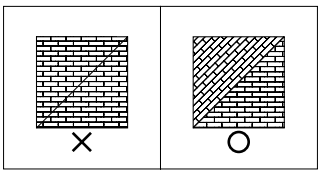
2.集成階段踊場をテーブルに使用し上に乗った場合、材破壊を起こし転倒の原因になるので使用しないでください。どうしても使用する場合は必ず下面に2ヵ所以上の当て木（当て金具）を使用する。



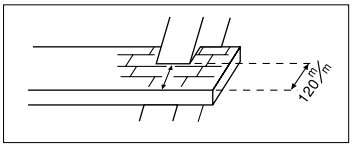
3.側板をささら桁の代用にすると強度不足のため折れ・転倒の原因になるので使用しないでください。



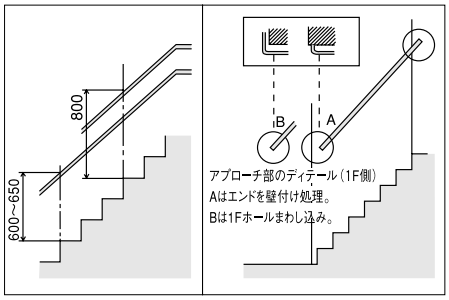
4.集成階段の踊場を2段廻り・3段廻りにカットして使用すると強度不足により材が破壊し、転倒・転落の原因になるので使用しないでください。



5.集成階段の露出用踏板のささら桁から段鼻までの距離が大きい場合、衝撃荷重により割れ・転倒の原因になりますので120㎜以下にしてください。



6.丸棒手すりは転落を防ぐため、次の点に配慮して施工してください。
（1）勾配部分（踊り場を含む）の手すりの取り付け高さは踏面より800㎜程度とする。更に子供用手すりを取り付ける場合は、踏面より高さ600㎜～650㎜程度とする。
（2）手すり端部はぶつけたりひっかかったりしないよう配慮のこと。
（3）アプローチ部分にも手すりを付ける。
（4）ブラケット（手すり受け）の取り付け間隔は、900㎜以下を基準とする。
（5）ブラケットは下地にしっかり固定のこと。柱・間柱以外で固定する場合は、必ず下地に補強材を入れ補強する。



7.手すり・親柱・子柱は転倒転落防止のために次の点に配慮して施工してください。
（1）子柱 の間隔は、子供がすりぬけないように踏板に使用する場合は 踏板1段について2本以上、2階ホール等に使用する場合は芯々135㎜以下とする。
（2）2階ホールの手すりの高さは床面より1,100㎜を基準とする。
（3）手すりの接続、手すりと親柱子柱との接続、手すり・親柱・子柱の躯体側との接続はポリウレタン系接着剤（別売）を使用し、強固に取り付ける。

8.ホルムアルデヒド対策品ですが、換気をおこなわないと発生するホルムアルデヒドによって目、鼻、頭の痛みや皮膚に異常をきたすおそれがあります。

【集成材の施工における注意について】

集成材は欠点を除去した無垢材を接着積層しており、性能としては無垢の1枚ものよりも安定していますが、乾燥すれば収縮し、湿気を吸えば膨張することは木材という性質上避けられません。そのため、施工後に亀裂、隙間、波状凹凸などが発生することがあります。これらの不具合等を避けるため、下記の点に配慮してください。

①.弊社の集成材は含水率を10±2%にしております。
②.塗装品は湿度変化に対し、安定した特質をもっております。
③.無塗装品は長期の保管や放置によって変形することがあります。
④.機能性住宅では室内が乾燥傾向にありますので配慮が必要です。 ※1
⑤.湿気の多い立地での住宅では膨張傾向にありますので配慮が必要です。 ※2
⑥.無塗装品を表面塗装した場合、変形等の不具合の原因となります。必ず裏面も塗装してください。
⑦.下地の構成材がグリーン材であったりすると吸湿し、変形することがあります。
⑧.雨濡れした製品は不具合の原因となります。

※1 住宅によっては完成後の室内平衡含水率が7%前後という特性があり、乾燥収縮は幅広製品で顕著に出る傾向があります。とくに、階段の踊り場や2段、3段廻りの踏板では固定に用いる釘、ビスの本数や位置が収縮を阻害し、亀裂が発生する場合があります。収縮することを予見した仕口で「逃げ」をつくってください。

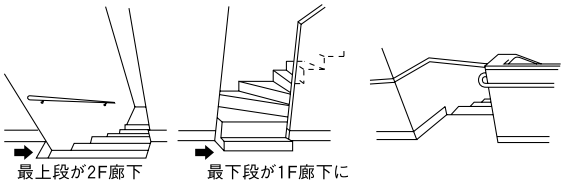
※2 乾燥と反対にこの場合も幅の広い製品ほど寸法変化が大きくなりますので同じように配慮してください。

これらの配慮は部材どおしの取り合いによっては釘、ビスの使用が避けられないことがあります。その際は材の動きに釘、ビス類が追随できるように、径、長さ、材質、本数、位置を決定し、できるだけ「少なめ」にしてください。

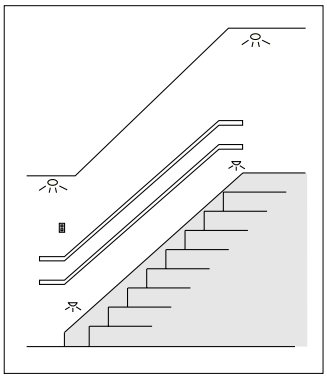
注意〈階段周辺の配置〉

1.最上段、最下段が通路にはみ出さないようにする。
2.階段を歩いている人に向かって開くドアや窓がないようにする。
3.階段の途中や下など、転んでぶつかる所にガラスを用いない。
4.階段を昇降する時、天井やはりが邪魔にならないような高さにする。

参考図　階段の形状の留意事項



注意〈階段の照明〉



（1）階段室は自然光で明るさが保てるよう窓の位置・大きさを配慮する。
（2）照明は階段全体にゆきわたるようにし特に、降りる時に影ができないように設計すること。1ヵ所だけの電球では影ができます。
（3）照明器具は上下いずれからも点滅できるようなるべく3路スイッチを取り付けること。
（4）階段のアプローチ部分には足下灯を設置すること。

施工資料・参考資料

施工資料

1.開梱

梱包を解いたら製品に不足がないかどうかご確認ください。水濡れなど不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

お願い 照明灯・ストーブなどを近づけると、熱により変色しますので、開梱後施工完了まで0.5m以上離してください。

施工前の仮並べ

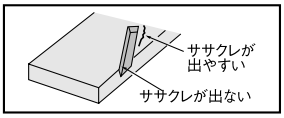
LV階段はいずれも天然木の単板が使われており、1枚1枚少しずつ違った色柄に仕上がっています。踏板、ケコミ板は側板に取り付ける前にあらかじめ淡い色から濃い色に順に仮並べし確認してから順番に側板に組み込んでください。

雨などに濡れた場合の処理方法

階段部材は基材・化粧単板ともに乾燥しておりますが、運搬中または施工中に水濡れ・洗い作業で水分を与えますと、基材のふくれや割れ、変色などの発生原因となります。万一濡れた場合には、すぐに乾いた布などでふき取り、乾燥させてから養生してください。

ササクレの防止

踏板や側板の切り込み、カットされる場合は、化粧単板のササクレを防ぐためにも、鉛筆などによる墨付けの後、カッターナイフ等で必ずケビキ処理をし、ノコ、ノミ入れをおこなって加工してください。電動の溝切りカッターや丸ノコで木目の方向に対して斜めに加工する場合は、刃物の片側、つまり逆目になる側にササクレが出やすくなります。したがって刃物の進行方向には十分ご注意ください。

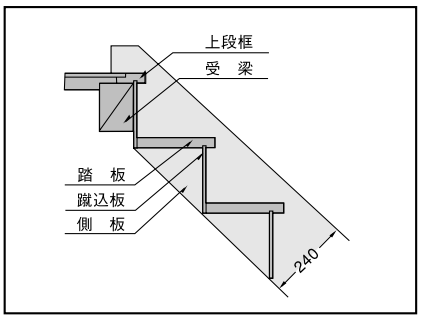


切断した木口等の処理

〈LV階段〉は、側板、ささら桁木口露出部分は梱包の中にある化粧単板を木口面に合わせてカットし、市販のボンドで貼り合わせてください。貼り合わせ面にボンドを塗布し、手でさわってベトつかない程度まで乾いてからアイロンで素早く押さえると上手に貼り合わせ出来ます。

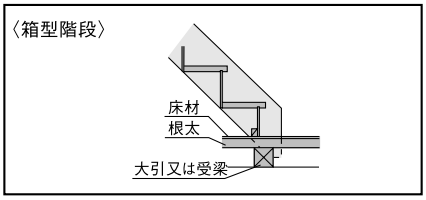
〈集成階段〉には木口部に塗装をしてください。木口部は濃く仕上がりがちですから、着色仕上品では薄めに調色してから重ね塗りをしてください。

階段上部の施工

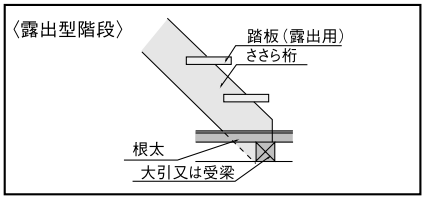


階段下部の施工

箱型階段では側板を柱に胴付けをするのが普通ですから、荷重に対しては比較的安定しています。このため、床下の仕口を簡易に行いがちですが、踏鳴り防止のためにも大引または受梁に取り付けてください。

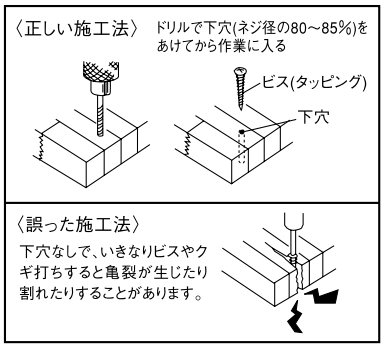


露出型階段では、床下の補強が大切です。大引または受梁にしっかりと取り付けてください。親柱をつける場合には、階段と同時に施工し、大引または受梁に強固に取り付けてください。

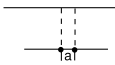


集成材製品の施工時の注意

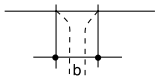
ビスまたはクギを使用するときは必ず下穴をあけてから組みつけ又は固定作業に入ってください。乾燥材含水率（8～12%）ですから、特に端部では割れたり、連続的にクギ打ちするときなども割れがつながったりして破損することがあります。



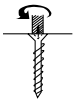
1 下穴またはさそい穴はビス径の80～85%を目安にドリルで正しくあけてください。



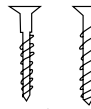
2 皿ビスではビス頭部が木部を押しつぶしますので、上端部は“面”をとるか又は頭径のドリルで“座”をつけてください。押しつぶした場合は塗膜に亀裂が生じたり、長期の使用で浮き上ったりすることがあります。



3 電動式のドライバーで締めつけて下さい。又、電動ドリルでは変速式でクラッチ付のものをご使用ください。



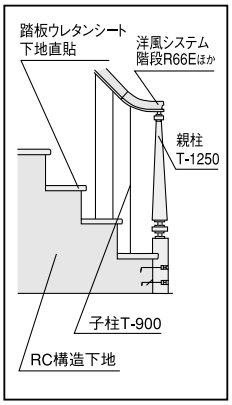
〈ワンポイントレッスン〉



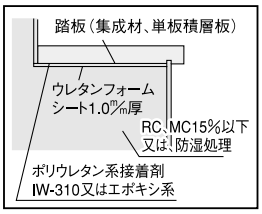
ネジには2つのタイプがあります。通常、木製品にはモクネジが用いられますが、電動工具で強い締め付けトルクが与えられる場合、“首”の部分が折れることがあります。その点タッピングビスは“首”から下が通直でしかも焼入れしてあることから安心ですが、締め過ぎに注意しなければなりません。

施工資料

RC構造下地への階段の取り付け



踏板に集成材を使用する場合は塗装品をお選びください。施工時は裏面を#100でサンディングの上、ウレタンシート1.0㎜にポリウレタン系接着剤IW－310（別売品）又はエポキシ系接着剤を塗布して荷重の上、養生してください。



笠木の施工

集成材および単板積層板による笠木の施工では、次の点に注意してください。

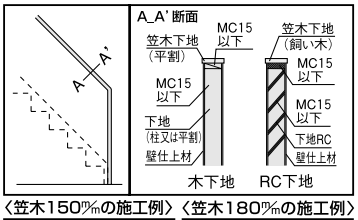
①下地材の含水率（MC）は十分に乾燥したものをお使いください。なお製材品を使用される場合は、含水率15%以下を基準にしてください。

②RC構造ではコンクリートの含水が低下するまで施工は見合わせてください。この基準は3週間前後で含水率15%です。工期の都合上不可能な場合は防湿処理を行ってください。

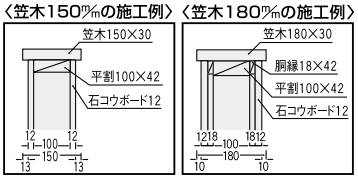
③笠木は、塗装仕上品をおすすめします。現場塗装を行う場合は、裏面をあらかじめ塗装してから施工に入ってください。

④下地材の含水率が高い場合、特に水濡れ材では100%を越えますから集成材はもちろん単板積層板においても反りや単板剥離などの現象を引き起こし、施工後の取り替えは仕上り感を損ねるばかりでなく多大な費用がかかりますのでご注意ください。

●平割の寸法や壁仕上材の厚みによって、チリが異なりますのでご注意ください。



〈笠木150㎜の施工例〉 〈笠木180㎜の施工例〉



異常を感じたら

使用中に異常を感じられたり不具合が生じたときは、取付部分などの状況を確認してください。ご自身で対処できない場合には、施工業者様にご連絡またはご相談ください。

施工終了後

（1）取り付けの確認
設計通りに取り付けられているか、施工中に傷、その他の不具合が発生していないか必ずご確認ください。

（2）照明の確認
照明は階段全体にゆきわたるようになっているか、昇降時に影が出来ないように施工されているかご確認ください。

（3）養生の方法
施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤ等で隙間なく養生してください。**市販のガムテープ等は粘着力が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売りの養生テープ（ZY0211）をご使用ください。**

（4）使用説明書の手渡し
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に貼り付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮願います。

お手入れ・点検のしかた

（1）汚れ落とし
ほこり、小さな汚れを乾いた布で乾拭きしてください。
水拭きを行なうと長期の間に割れが発生する場合がありますので、避けてください。ただし、汚れのひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた雑巾を堅く絞ってからふいてください。

（2）ワックス塗布
半年に一度、当社が推奨する市販の樹脂ワックスを塗布してください。使用方法はワックスの説明書をご覧ください。
※オイルフィニッシュ商品を除きます。

（3）ゆるみのチェック
ゆるみのチェックは手でゆすり、ご確認ください。

お勧めするワックス

メーカー名	（株）リンレイ
推奨ワックス名	ハイテクフローリングコート、ノンブライト、 ハイテクフローリングコート つや消し40（うづくり フローリング用）

※無垢フローリング ジュピーノ「うづくりタイプ」にはノンブライト・ハイテクフローリングコートつや消し40（共にリンレイ）がおすすめです。

デザイン階段

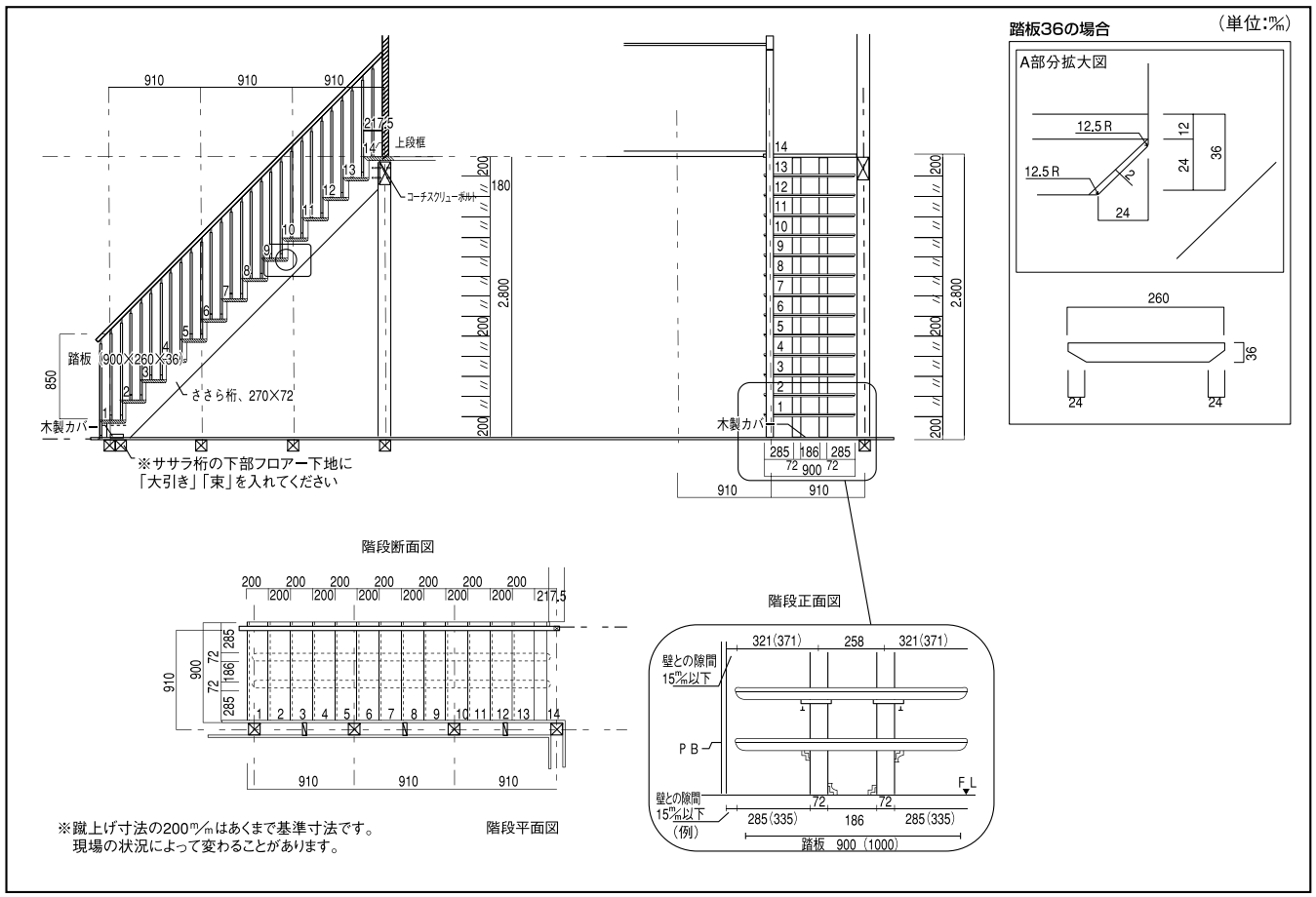
施工上のご注意

ビスは下穴をあけてからしっかりと締め付けてください。下穴はネジ径の80～85%を目安としてください。別売の接着剤（IW-300）を少量充填しておくことも緩み止めの効果があります。

使用上のご注意

●階段の端部で飛び跳ねたり過度の衝撃を加えたりしないでください。
●手すり・子柱をゆすったり、ぶら下がったりしないでください。
●本製品はささら桁の固定部が上下の2箇所のため、段数が多くなると、若干揺れを感じることがあります。

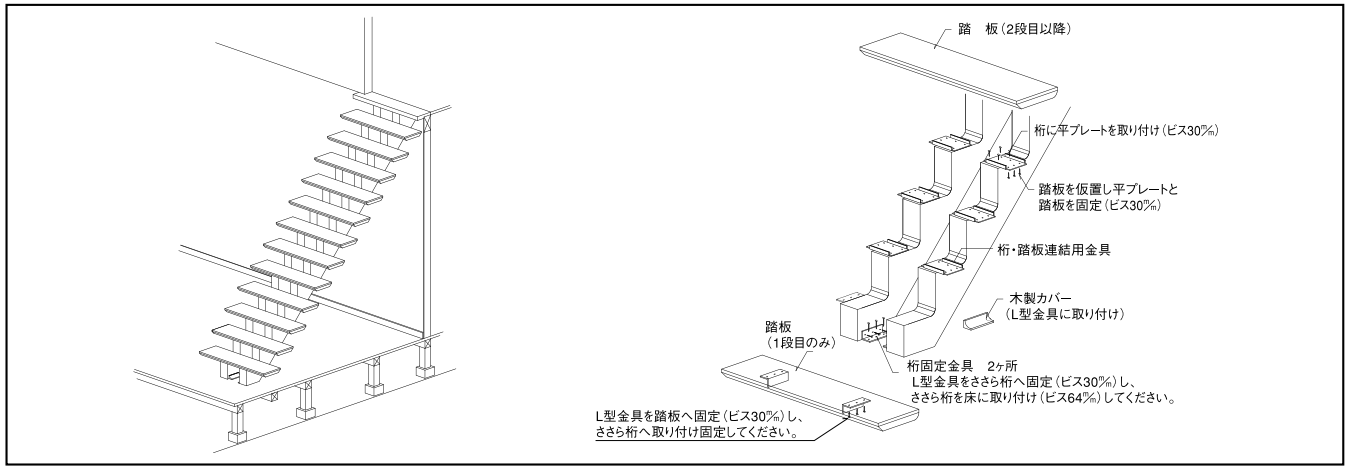
納まり例



開梱

梱包を解いたら、部材に不足および問題がないかどうか確認してください。
製品に水濡れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

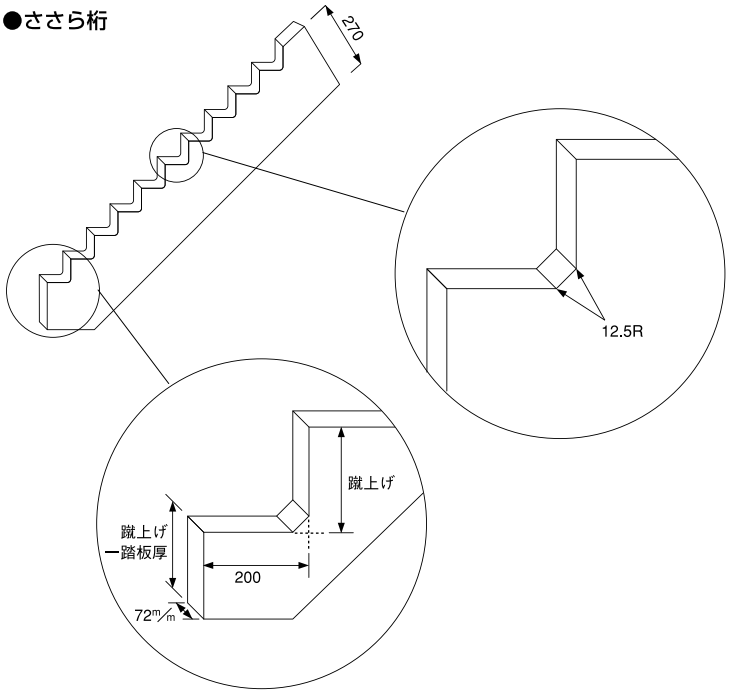
全体図



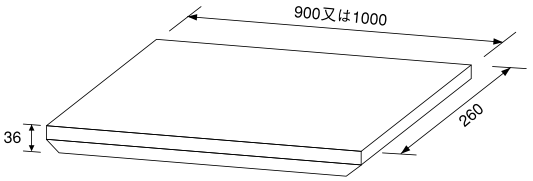
デザイン階段

寸法図

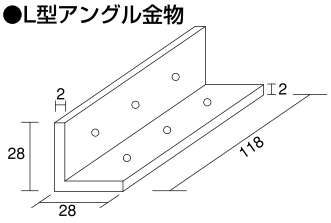
●ささら桁



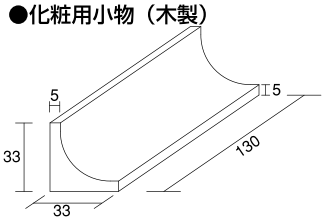
●踏板



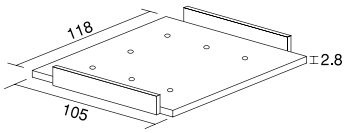
●L型アングル金物



●化粧用小物（木製）



●平型プレート金物



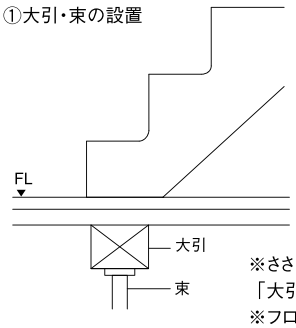
施工の前に

⚠ 注意

●本製品は、躯体に直に施工していきますので、強度を十分に考慮して、施工してください。
●必ず大引き・束・梁に施工してください。
●梁と、部材の連結部の加工を予めおこなってください。

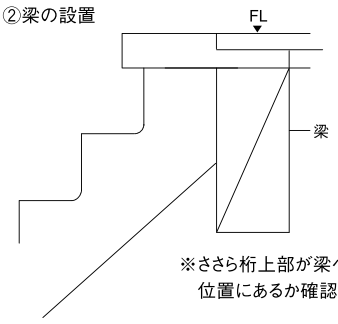
躯体の確認

①大引・束の設置



※ささら桁の下部フロアー下地に「大引」「束」を入れてください。
※フロアー先行張りとし、フロアー上にささら桁取付

②梁の設置



※ささら桁上部が梁へ固定できるような位置にあるか確認してください。

施工手順

準備 ささら桁連結用ボルト下穴をあける前に

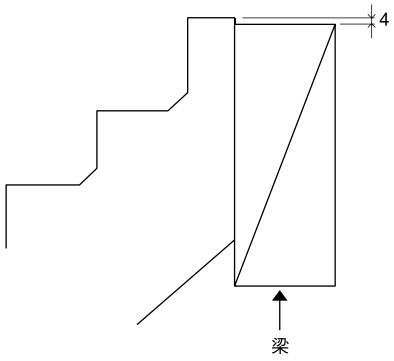
> ⚠ 注意
> 推奨施工では上段框の納まりとして2階床総厚を40㎜（床版28㎜+フロア12㎜）として設定しています。
> 現場により異なる納まりとなる場合は上段框の「フロアしゃくり」「梁しゃくり」「高さ調整パッキン」等で調整をしてください。

ささら桁と梁・上段框の納まり

1

（単位:㎜）

梁よりも4㎜上がったところへ取り付けてください。



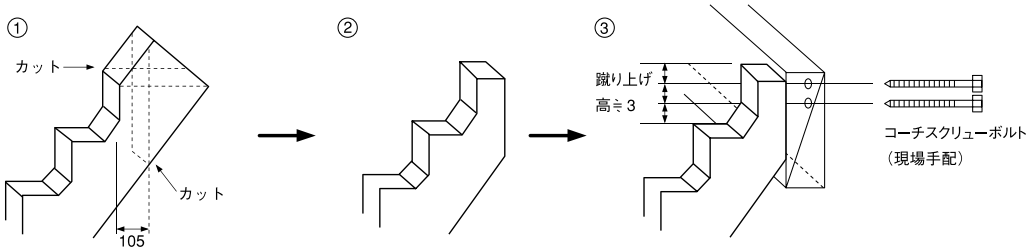
※ササラ桁の高さは一段目の蹴上げ部分を
カットして調整してください。

ささら桁上部、梁の加工

2

（単位:㎜）

ささら桁が取り付け寸法よりのびがある場合



梁の寸法等を基準として、ささら桁上部をカットします。

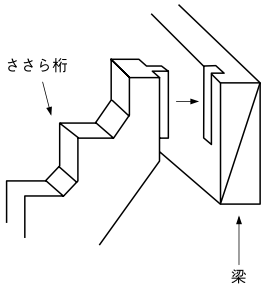
蹴上げ高を3等分した図の位置へコーチスクリューボルト用の
下穴をあけてください。

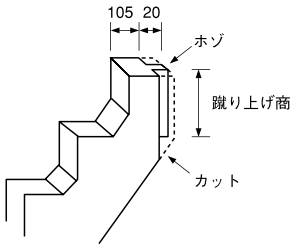
ささら桁が上部加工済の場合

※「ささら桁」が取り付け寸法よりのびがある場合の③をご参照ください。

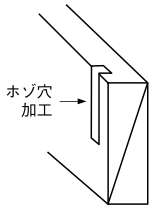
ささら桁上部がホゾ加工の場合ー推奨施工

概略図





ホゾを蹴上げ高分程度に
カットしてください。



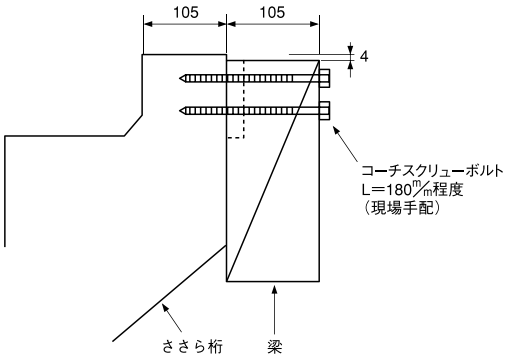
桁を受ける梁に
ホゾ穴加工をしてください。

デザイン階段

ささら桁の連結

3

（単位:㎜）



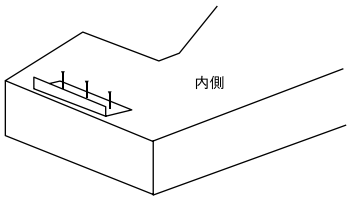
※梁よりも4㎜上がったところに、桁上部を固定してください

L型金物の取り付け

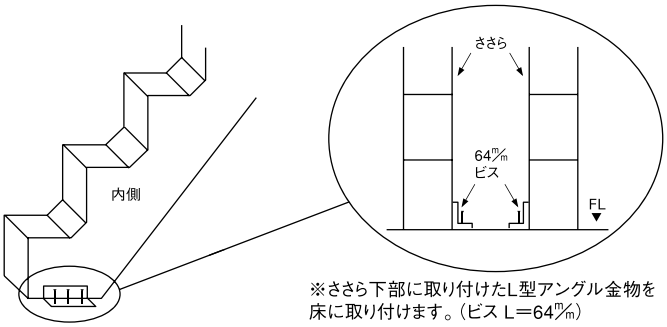
4 フロアーへの結合

（単位:㎜）

ささら桁下端のラインに
L型金物をセットして取り付けます。



ささら下部にL型アングル金物を取り付けます。
（ビス L＝30㎜）



※ささら下部に取り付けたL型アングル金物を
床に取り付けます。（ビス L＝64㎜）

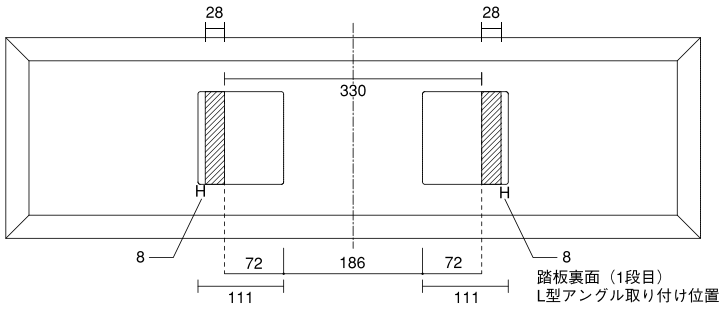
⚠ 注意 L型金具は誤った使い方をしますとその効果が失われてしまいますので、正しい使い方をしてください。

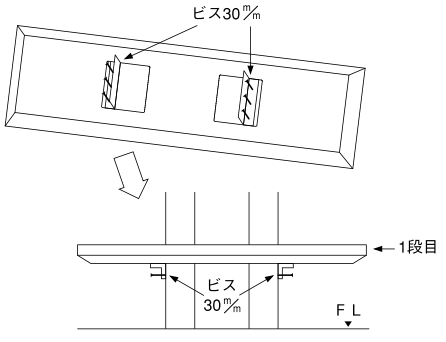
L型アングル金物の取り付け〈1段目の踏板のみ〉

5

（単位:㎜）

裏面にL型アングル金物を取り付けます。L型アングル金物は踏板裏面にほられた
加工掘の中で斜線部の位置にビスL=30㎜で取り付けます。



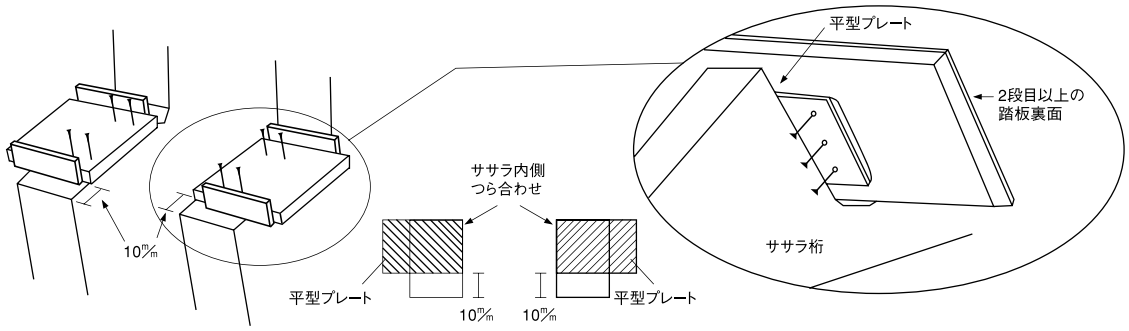


L型アングルを取り付けた1段目踏板を
ささら桁に取り付け、ビス30㎜で固定します。

施工手順

平型プレート金具の取り付け〈2段目以降〉

6

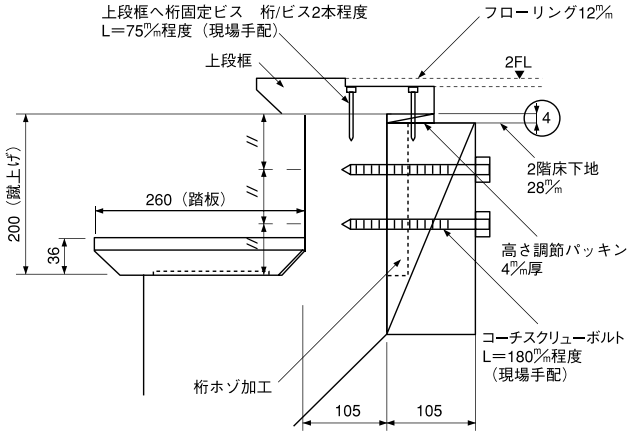


2段目以降の踏板を「平型プレート金物」で固定します。
平型プレートはササラ桁内側でつらを揃え、ササラ桁先端から10㎜の位置で、ビス30㎜で固定します。

⚠ **注意** 平プレートはフランジの向きは踏板と並行になります。

上段框の取り付け

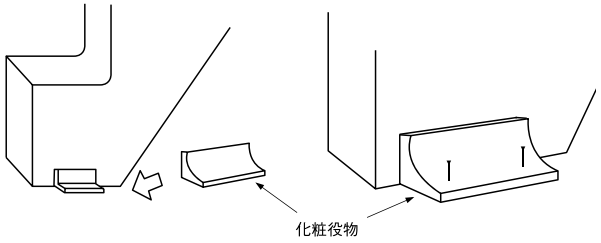
7



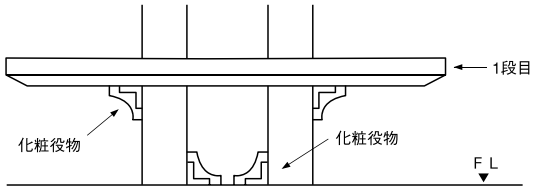
※蹴上げ寸法の200㎜は
あくまで基準寸法です。
現場の現状によって
変わることがあります。

化粧役物（木製）の取り付け〈フロアー部分〉

8

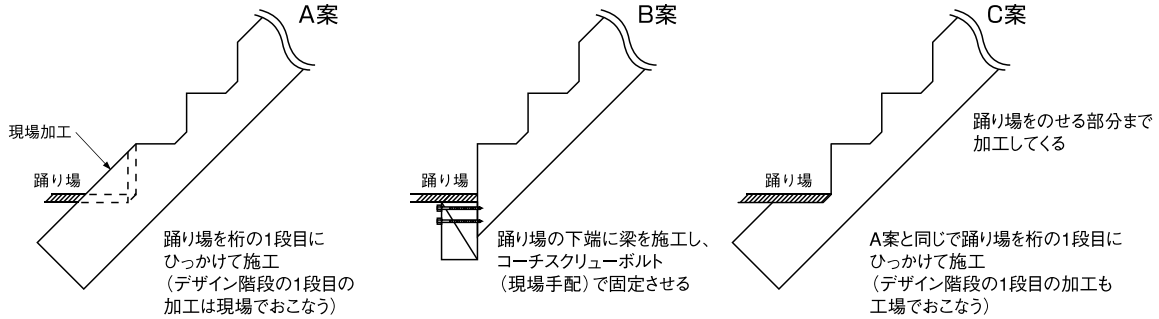


L型アングル金物の上から、化粧役物（木製）を
タッカー等で取り付けます。



デザイン階段下伸ばしについて

9



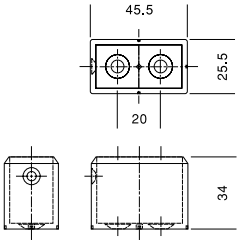
レギュラー階段の途中からデザイン階段を接続させて施工する場合、ささら桁の下端（デザイン階段の1段目部分）の加工が通常のデザイン階段の加工と異なります。A 案〜C 案の中から加工方法を選択してください。

デザイン階段

上下ジョイント金具施セット

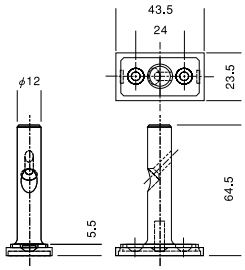
寸法図

〈下ジョイント金具〉



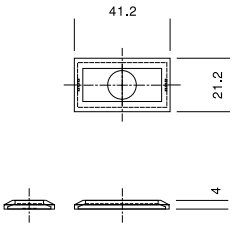
同梱部材
十字穴付き皿タッピンねじ 5×30 2本
十字穴付き丸皿タッピンねじ 3.5×25 1本

〈上ジョイント金具〉

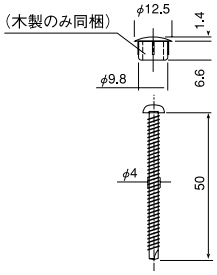


同梱部材
十字穴付き皿タッピンねじ 3.5×25 3本

〈上ジョイント金具カバー〉

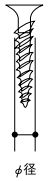


〈穴カクシ／ビスセット〉



下穴径は80～85%を目安にしてください。
別売の接着材（IW-310）を少量充てんして
おくとこも緩み止めの効果があります。

（例）3.5ミリの径のとき
3.5ミリ×80%=2.8>
3.5ミリ×85%=3.0>
このあたりのドリル刃φを選んでください。

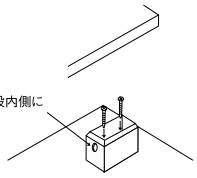


施工手順

1 下ジョイント金具の固定

下ジョイント金具の墨出しを踏板へ行い
下ジョイント金具を踏板にビス固定します。
（同梱の30%皿ビスを使用）

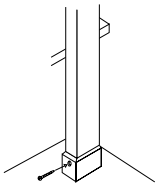
※柱固定用ビス穴が階段内側に
向く様に取り付けます。



2 踏板・蹴込板のカット

子柱を下ジョイント金具の奥まで差込み、
柱と下ジョイント金具をビスで固定します。
（同梱の化粧ビスを使用）

アルミ子柱の場合、支柱の向きは柱カ
バー側が正面、プレカット加工穴側が段
鼻側となります。

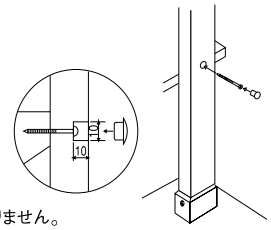


3 下ジョイント金具の固定

柱と踏板の段鼻をビスで固定し、ビスの
頭を穴カクシでキャップします。
（同梱の50%丸皿ビスを使用）

※キャップ取付の下穴加工
10%弱程度が必要です。

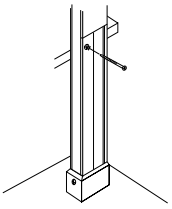
（注）水平部に使用される場合は③の手順は必要ありません。



アルミ用の場合

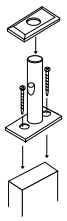
アルミ子柱カバーを上方向へ
スライドさせ、柱と段鼻をビスで固定し、
柱カバーを元に戻します。
（同梱の丸皿ビスを使用）

（注）水平部に使用される場合は
の手順は必要ありません。



4 金具カバーのはめ込み

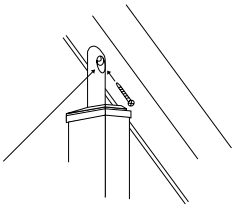
上ジョイント金具を柱上部へのせてビス固定した後、
上ジョイント金具カバーをはめ込みます。
（同梱の25%皿ビスを使用）



5 上ジョイント金具の固定

手すりの穴に上ジョイント金具を差込み、
斜め下方からビスで固定します。
（同梱の25%皿ビスを使用）

※手すり固定用ビス穴
が階段内側に向く様
に取り付けます。

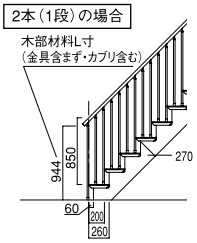


手すりの取り付け

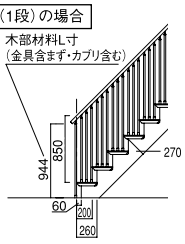
踏板及び、手すりに上下ジョイント金具セットをとりつけて、手すりをはめこみ固定します。

（単位：%）

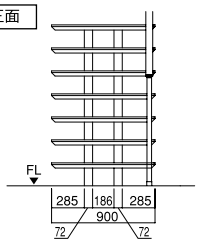
2本（1段）の場合



3本（1段）の場合

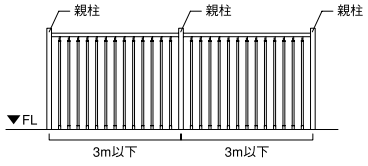


正面



水平部分でのご使用について

・水平部分での取り付けは手すりの両端を壁面か親柱にて
強固に固定してください。
・手すりを水平部分に使用するときは3m以下おきに必ず親
柱を取り付けてください。



デザイン階段

スターティング役物

施工手順

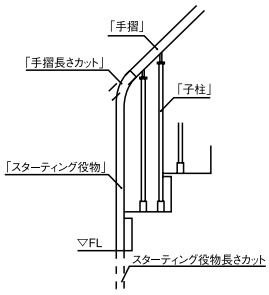
1 仮置き

階段廻り部材、デザイン階段「子柱上下ジョイント金具」、「子柱」「手摺」を施工後、上り始め部分（階段1段目）に「スターティング役物」を仮置します。

2 スターティング役物の長さカット

「スターティング役物」を、階段1段目の段鼻に押しあて、「手摺」と「スターティング役物」の木口面が、重なりあう位置で、「スターティング役物」の下端をカットします。「手摺」との結合作業で、階段の勾配にあわせた、木口面の角度調整が必要となりますので、若干伸びをみた長さカットをしてください。

「仮置き、スターティング役物の長さカット」

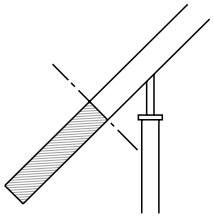


3 手摺の長さカット

施工されている「手摺」と、「スターティング役物」の木口面どうしが結合できるように、手摺の長さを調整します。階段の勾配によってカット部分の木口面角度調整が必要となりますので、若干伸びをみた長さカットをしてください。

長さカットの際は「手摺」を子柱から外して、カットしてください。

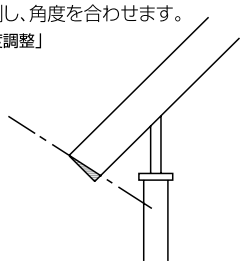
「手摺長さカット」



4 手摺、スターティング役物 接合面角度調整

スターティング役物は、45°の勾配に合わせてあります。手摺の勾配によって、スターティング役物との接合面を切削し、角度を合わせます。

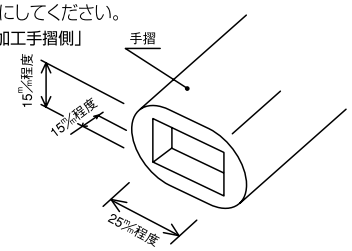
「手摺接合部 角度調整」



5 枘（ホゾ）穴加工（手摺側接合面）

手摺側の接合面へ枘（ホゾ）穴加工を施します。枘（ホゾ）穴の寸法については、25㎜×15㎜×15㎜程度を目安にしてください。

「枘穴加工手摺側」



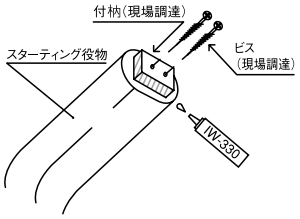
6 付枘（ホゾ）加工（スターティング役物側の接合面）

スターティング役物側の接合面へ、付枘（ホゾ）を固定します。

切削加工した枘穴の寸法より若干小さめの付枘（ホゾ）を接着剤（IW-330）併用で、下穴をあけてからビス固定してください。

※付枘（ホゾ）は現場調達にてお願い致します。

「付枘加工 スターティング役物側」



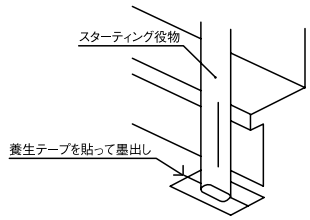
7 スターティング役物、床面ダボ接ぎ加工

スターティング役物と床面の接続、固定を同梱のダボ（L=80㎜、t=16φ）で行います。

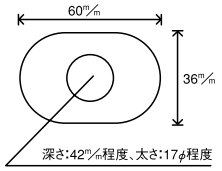
スターティング役物を取付位置に仮置きし床面接地部分に養生テープ等を貼り、墨出しをします。

スターティング役物下部木口面と床面にダボ穴加工をしてください。（タボ穴目安寸法　役物側、床面側t=42㎜程度、t=17φ）ダボ穴はダボより太くすることでスターティング役物と手摺、床面の仮設置がやりやすくなります。

「スターティング役物仮設置、取付位置墨出し」



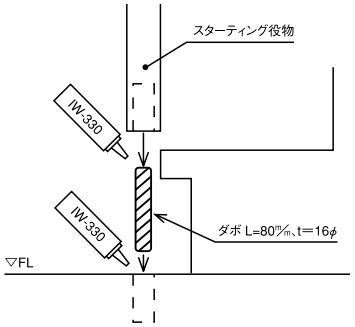
「スターティング役物
下部木口面」



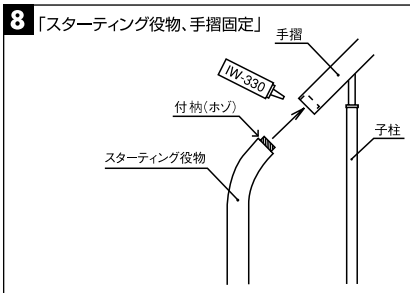
8 スターティング役物の固定

ダボ穴及び付枘穴へ接着剤（IW-330）を適量塗布し、スターティング役物下部と、ダボ接ぎ穴へダボを差し込み、スターティング役物上部の付枘と手摺枘穴を結合します。接着剤（IW-330）硬化には季節や天候によって差が生じますが、少なくとも半日を必要としますので、付枘接ぎ部分をあて木をしてクランプで固定してください。スターティング役物と踏板は、同梱のビス（L=50㎜、t=4φ）、穴カクシキャップを使い固定します。踏板段鼻前面にむかってビス下穴をあけ、穴カクシキャップ固め下穴加工（d=10㎜、t=10φ弱）を施し、ビス固定後、穴カクシキャップを取付ます。

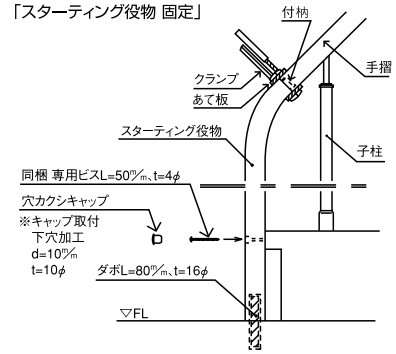
「スターティング役物、下部 固定」



8 「スターティング役物、手摺固定」



「スターティング役物 固定」



接着剤IW-330の使用方法

1.ポリウレタン系接着剤IW-330は強力な接着効果を下記の場合に発揮します。
・木材の木口どうしの接着を行うとき。
・接合金具を用いるとき、金属と木材との接着を可能にする。
・湿度や湿度の変化に対し安定している。
2.R66シリーズの手摺の接合作業、手摺と子柱、踏板やボーダーとの接着作業に用いるほか、親柱の補強や、スターティングステップまわりの補強にもお使いなれます。
3.キャップをとりはずし、アルミ膜を破り、キャップ先端をカッターで切りとり、コーキングガンにセットしてください。
4.適量を接着面に塗り、木片等をヘラ代りにして延ばしてください。金属部のネジまわりにも充てんしてください。木材と金属との一体化により接合の強度は倍加します。
5.硬化は空気中の湿度、木材中の水分によって、ゆっくりと始まりますから、季節や天候によって差が生じますが、少なくとも半日を必要とします。従って、一日の作業を、仕事完了後に養生に入れる様、配慮して頂きますと、効率よく施工が可能です。
6.空気と木材の乾燥する冬期では、被着物の表面を濡れ雑巾や霧吹きで加湿しますと、硬化の立ち上がりが早くなります。
7.手や衣服に付着した接着剤はシンナー類や灯油で拭きとってください。時間が経ちますと、除去できません。
8.建築物の経時変化の中で、ゆるみやガタは出易いものですが、接着剤IW-330はこれらを直すことは出来ませんが防止することはできます。後々のためにも、あらかじめ接着剤IW-330をお選びください。

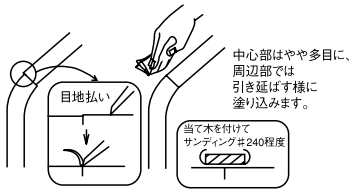
9 スターティング役物と手摺 接合部分の仕上げ

接続部は階段の勾配により目地払いが必要となります。カッターナイフやノミ等で目地を平滑に仕上げてください。製品はオイル塗装がされていますので目地払い後に240番程度のサンドペーパーで接続部をサンディング仕上げし、別売品植物オイルをガーゼやタオルなどのウエスに染みこませ接続部の素地が露出した部分に、塗料を引き延ばしながら仕上げていきます。塗布直後は色調が濃く見えますので、様子を見ながら塗り込んでください。塗装後、少なくとも1日以上放置した状態にしてください。

⚠ 注意

別売品　植物オイル（リボス塗料）につきましてはお近くのウッドワン営業所までご連絡いただくか、巻末の発注書にてご注文ください。

「スターティング役物と手摺 接合部分の仕上げ」



施工終了後

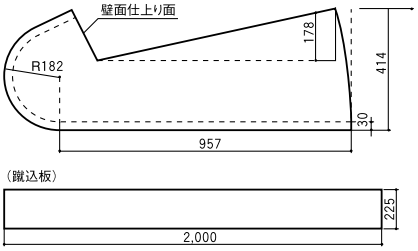
養生の仕方　施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤまたは養生カバー等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売の養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

お手入れのしかた　階段が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を固く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

規格型カーブ階段

標準プラン、スターティングステップ部材内容

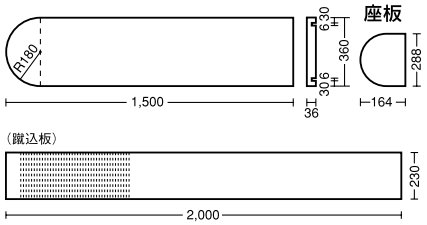
スターティングステップ



上記寸法図は910㎜モジュール用を記載しております。
蹴込板には、湾曲できるようにスリット加工がしてあります。

スターティングステップ部材内容

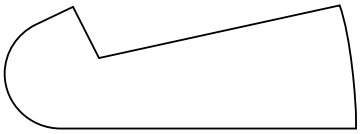
スターティングステップ



蹴込板には、湾曲できるようにスリット加工がしてあります。

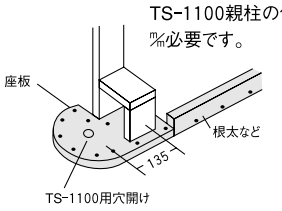
スターティングステップ取りつけ手順

1 スターティングステップは、あらかじめ正寸にてカットされております。



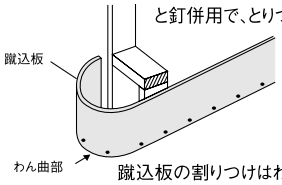
2 座板による下地ごしらえ

壁面からの出シロは、手すり芯とTS-1100親柱の位置とが、135㎜必要です。



3 蹴込板のとりつけ

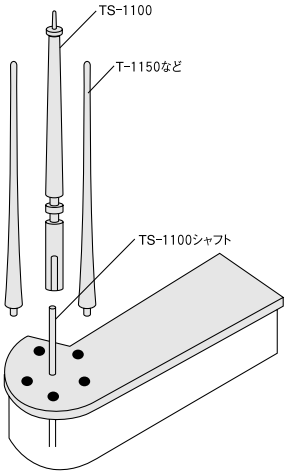
蹴込板は長さを調整の上ボンドと釘併用で、とりつけてください。



蹴込板の割りつけはわん曲部を中心に両サイドを調整し、カットしてください。
釘はハリ釘でカクシクギとしてください。

4 子柱、親柱の取り付け

シャフトは座板、踏板、親柱にボンドと釘を併用してしっかりと固定してください。
TS-1100は通常、ノンカットでご使用ください。

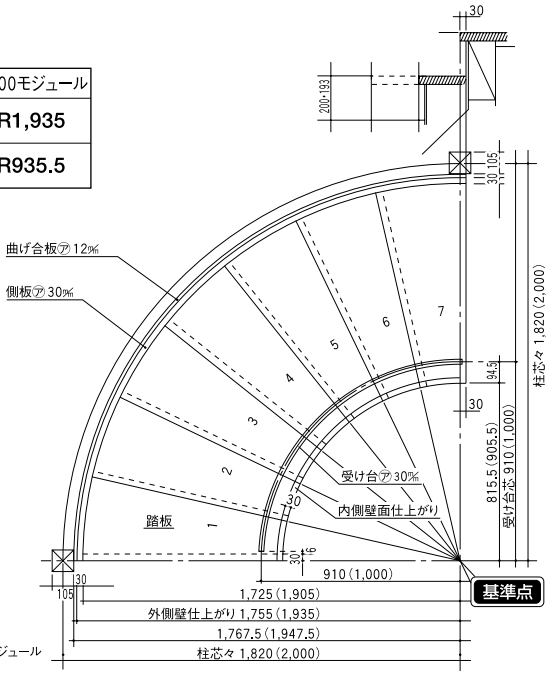


カーブ部分　基本図面（平面図）

カーブ部分の基本図面です。外側側板はプラスターボードの内側に、内側R受け台は910R（1,000R）の位置に設置します。
受け台取付位置につきましては、柱芯より、段鼻（30㎜）十蹴込板（6㎜）、36㎜バックした所よりスタートします。

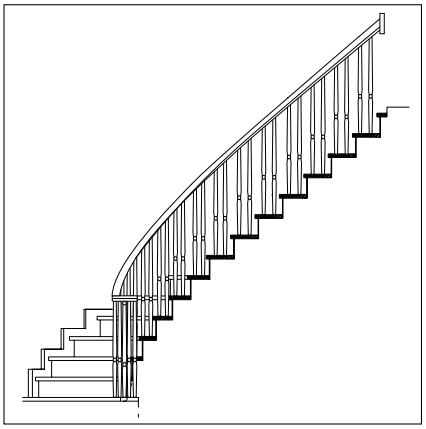
POINT ※柱寸法105㎜、壁合板12㎜の場合

基準点より	910モジュール	1,000モジュール
外側壁仕上がり（㎜）	R1,755	R1,935
内側壁仕上がり（㎜）	R845.5	R935.5



※（　）内はメーターモジュール

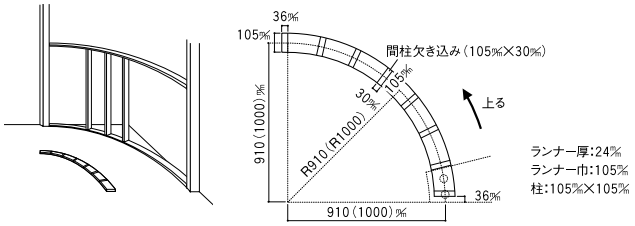
●全体図



施工手順（標準プラン型）

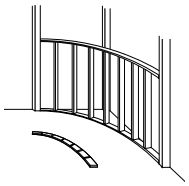
1 ランナーの取り付け（別売品）

※単位:㎜　※（　）内はメーターモジュール



まずガイドランナーを取り付けます。内R用ガイドランナーをカーブ階段のRの中心から910（1000）㎜（ガイドランナーセンター）の位置に設置し、同様に外R用ガイドランナーもRの中心から1820（2000）㎜（ガイドランナーセンター）の位置に設置します。右図にあるように36㎜ずらして施工します。

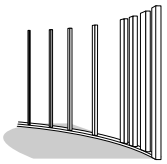
2 外R用ガイドランナーの取り付け



ガイドランナーの上に、間柱（30㎜×105㎜）を取り付けます。

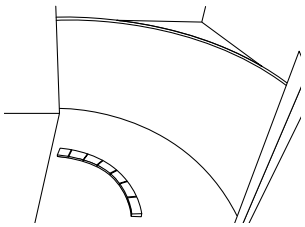
POINT 間柱ピッチの目安

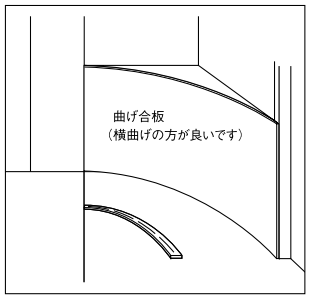
Rをきれいに出し、踏み板の止め具と強度を出すためにも4本／1段程度を目安にしてください。



間柱:30㎜×105㎜

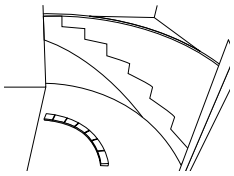
3 外壁の施工





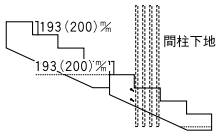
外側R部分の外側壁を施工します。ガイドライナーのRに沿って曲げ合板（横曲げ推奨）をビス止めをします。

4 外側受け台の施工



外壁側に沿って、図のような形状になるように、2枚の外側受け台合板を取り付けます。

側板受け台合板の取り付け

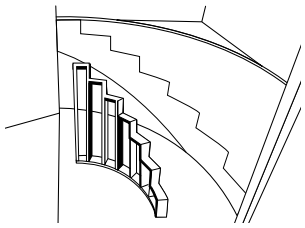


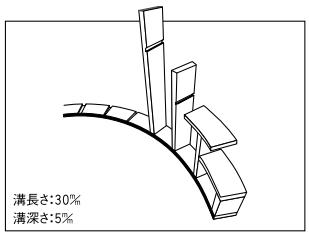
例）200㎜の場合
4×200㎜−36㎜=764㎜

お願い

- ビス止める際は、間柱が下地にあるかを確認してください。
- 外側受け台合板の接合面上部高さは、床面から蹴上げ高4段分の位置に固定し取り付けてください。

5 内側受け台の施工

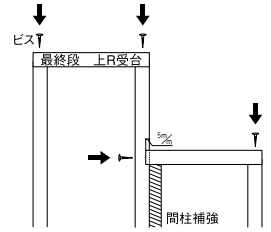




内側ランナー（下）にいれてある間柱欠きに間柱を一段目から順に立てていき、その間柱に乗せるように上部ランナーを次の間柱に入れてある欠きこみに受け台の内R上部分をはめ込んで組み立てていきます。

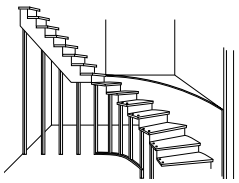
お願い

●最上段のみ上R受け台が小さくなっています。



左図のように間柱に沿うように1本間柱を補強すると強度が増します。

6 踏板の施工





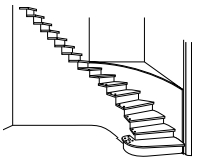
直の部分もカーブ部分と同様に外側受け台と、内側受け台を施工します。そして、内側受け台、外側受け台に乗せるようにして踏み板を施工します。内側Rは踏み板の子柱用の穴が内側受け台のセンターの上に来るようにし、裏側に接着剤を塗布し、穴からビス止めして固定します。外側Rは踏板に接着剤をつけ、裏側からL金具を取り付けて固定します。（左ページ右図）

⚠注意

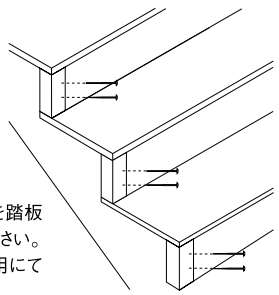
●L金具は、カーブ部分の踏み板では一枚につき二個、直部分踏み板では一個使用してください。

7 内壁の施工

内壁を取り付けます。
Rの部分には外側壁の時と同様に、曲げ合板（横曲げ推奨）を使用し、下地Rに沿って曲げてビス止めしてください。

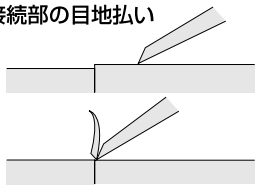


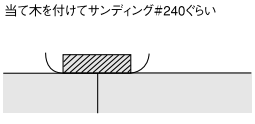
8 蹴込ボーダーの取り付け



●蹴込板の木口を隠す為に蹴込ボーダーを踏板の内々寸法の蹴上げ寸法にカットしてください。
●蹴込ボーダーをカットした後、接着剤併用にて隠し釘で固定してください。

9 接続部の目地払い

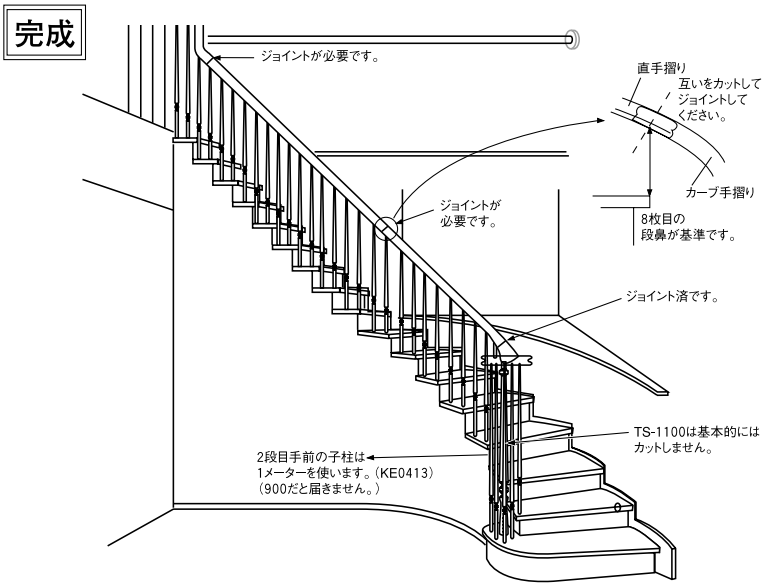




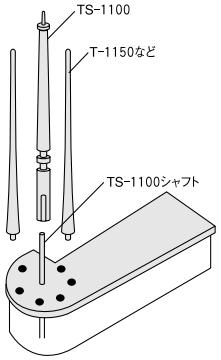
●カッターナイフやノミ、丸ノミなどで目地を平滑に仕上げてください。
●塗装仕上げ品では、あらかじめオイル塗装がなされていますから、目地払い作業は段差の削取りの後、接合部からそれぞれ20cm以内を目安にサンディング仕上げしてください。これよりも狭いと色合わせが難しくなり、広い場合は無駄となります。

規格型カーブ階段

手摺りの施工

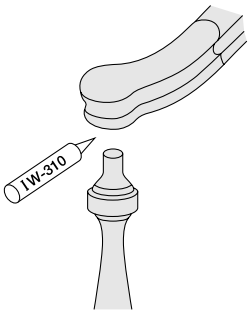


1 親柱、R66ESC（R/L）取り付け



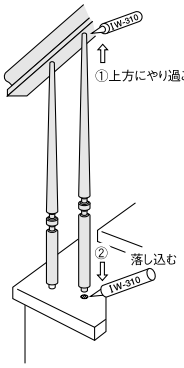
●シャフトは座板、踏板、親柱に接着剤とビスでしっかりと固定してください。
●TS-1100シャフトは通常ノンカットでご使用ください。

2 親柱と手すりの接合



●親子柱と手すりの接続部は、同梱のポリウレタン接着剤（IW-310）を使用し固定してください。
●手摺りの接続方法はプレジョイントシステムを参照してください。

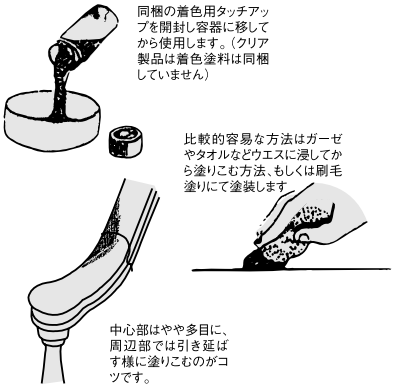
3 子柱と手すりの接合



●手すりをあらかじめに取り付けておき、子柱に弊社別売の接着剤を塗布し、やり過ごして踏板の穴加工位置に落し込んで固定してください。

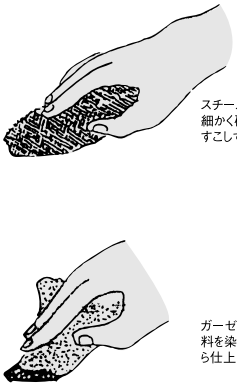
お願い
●接着剤は強度を確保する上で必ずご使用ください。
接着剤は同梱のIW-310を使用してください。

4 接合部の調色塗装



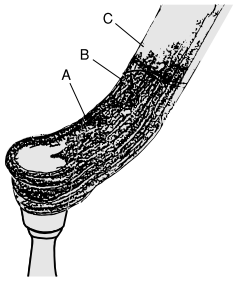
●接合箇所全てにこの方法で調色塗装を行い、塗装面が乾燥するまで少なくとも1日以上放置した状態にしておいてください。

5 接合部と周辺部の仕上げ



●システム部材R66E全体、及び直通部に至るまでを仕上がり色調を見ながら塗り込んでいきます。

6 接合部周辺の調色仕上げ



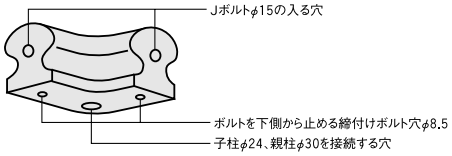
A. R66Eが通直部材Cよりも濃い
B. 接合部で色合わせを行った部分Cの接合部近くはAに合わせてある。

●調色仕上げの方法はBからCにかけて濃さが徐々に薄めに変わっていく様に、着色用タッチアップを繰り返して塗装してください。又、AよりもCが濃いときは逆の方法で仕上げてください。

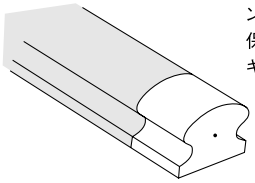
7

調色仕上げ終了後、塗装面が乾燥したのを確認した後、仕上用タッチアップにて仕上げを行っていきます。仕上用タッチアップを塗布し4時間以上放置し乾燥後に#320～400のペーパーで研磨し再度、仕上塗料を塗布し仕上げてください。

プレジョイントシステム（Jボルト仕様の施工方法）加工手順

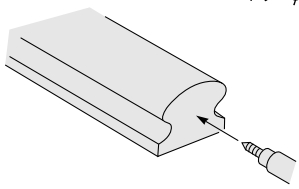


1



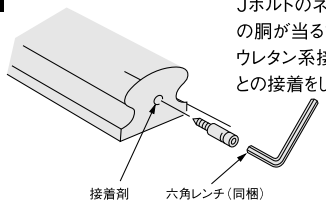
プレジョイント加工のされていない方の手すりのセンター出しはシステム部材側の木口に付いている保護キャップを利用して行ってください。
キャップのセンター穴を利用して中心を出します。

2



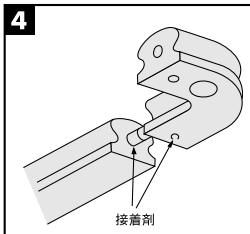
ドリルφ8.5で深さ30㎜の穴あけをします。

3



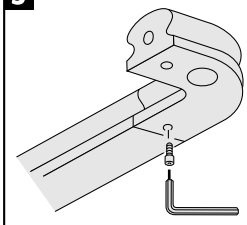
Jボルトのネジ側を同梱の六角レンチ5㎜でボルトの胴が当るまで締めつけてください。このときポリウレタン系接着剤IW-310を使用し、金属と木部との接着をします。

4



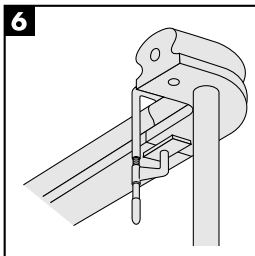
プレジョイント加工されたシステム部材と通直材の接続はまず、木口に接着剤ＩW-310を塗り付け、Jボルトの入るφ15の穴にも注入しておきます。

5



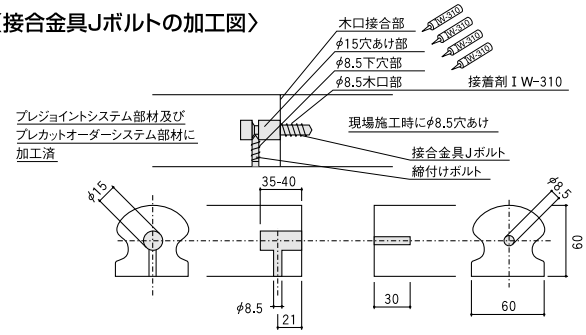
同梱の5㎜六角レンチを使用し、締付けボルトを締め込みます。
このとき六角レンチが奥まで入っていることを十分に確かめてください。レンチのかかりが浅いと六角部を破損することがありますから注意してください。

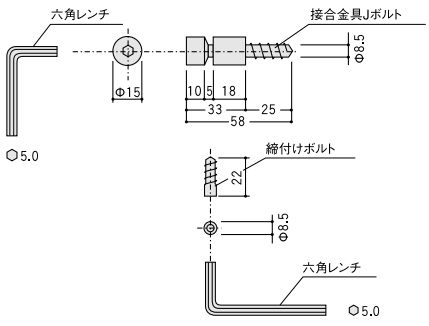
6



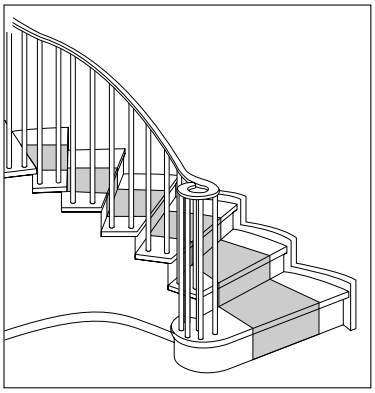
クランピングは小型のシャコマンをいくつか用意しておいてください。接着剤が硬化するまでは重量や衝撃を与えぬ様に注意してください。硬化までに少なくとも半日くらいは養生が必要です。仕事の終了間近に養生に入れる様、作業計画を組んでください。
冬期、空気の乾燥や気温低下で接着時間が長くなることがあります。
濡れ雑巾をクランプの上にかけてやりますと硬化の立ち上がりを早くすることができます。

〈接合金具Jボルトの加工図〉





完成後の養生



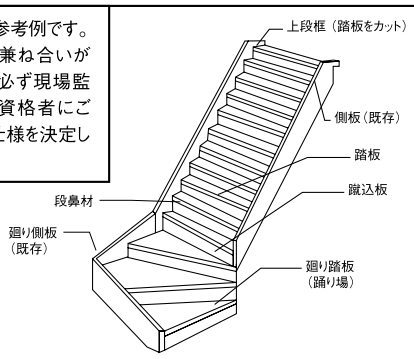
●踏板・蹴込板を保護する為に木屑や砂ゴミを取り除きダンボールなどで十分に養生をおこなってください。

●手すりはダンボールで養生してください。

リフォーム階段

リフォーム階段部材名

お願い
●本書の内容は参考例です。既存住宅との兼ね合いがありますので、必ず現場監督・建築士等資格者にご相談の上で、仕様を決定してください。



現場でご用意いただくもの

●下地材（既存階段の鼻の出と同サイズ）
※「鼻の出を無くした場合の納まり」のみ必要
●木ネジ（φ5.1×32㎜程度のもの）
●フロア用養生テープ
●養生シート
●かくし釘（36㎜）
●ウレタン系無溶剤タイプ
●ピンネイル（L=15㎜）
●フィニッシュネイル（L=35㎜）
●両面テープ
※「鼻の出を活かした場合の納まり」のみ必要

	品　番
WOOD ONE専用ボンド	ZX0222（カートリッジタイプ）
コニシ製	KU-928C-X

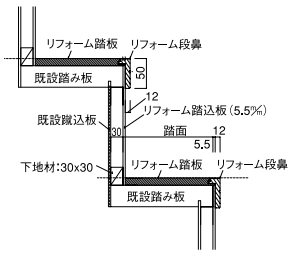
＊専用ボンドをお使いいただく際にはカートリッジガンが必要になります。

＜ボンド塗布量の目安＞
接着剤につきましては、下地合板の場合、400～500g/m²（直14段上り切り時）を目安としてください。
目安としては WOOD ONE 専用ボンド×2本となります。
根拠→ 0.85m×0.25m×14段×0.5kg÷0.76kg
張り面積　目安/m²　容量/1本

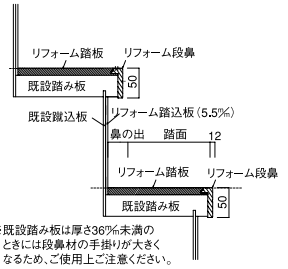
●木工用ボンド ●クレヨンパテ	フィルスティック	ZY061●
●コーキング剤	コーキング剤	ZY063● ZY063●

＜壁際の納まり＞
納まりに応じて、弊社対応部材もございます。
プレカット巾木　チェルード　LH0361ー□　300×300×9（8枚入）
オーク　LH1261ー□　300×300×9（8枚入）

『鼻の出を無くした場合の納まり』



『鼻の出を活かした場合の納まり』



※既設踏み板は厚さ36㎜未満のときには段鼻材の手掛りが大きくなるため、ご使用上ご注意ください。

施工手順

⚠ 注意
「リフォーム階段」は木造住宅向けのリフォーム専用製品です。金属・コンクリート下地の階段には施工しないでください。また、1階・2階ともにフロアー12㎜タイプにて重ね貼りをしてください。

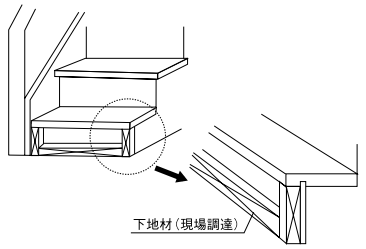
＜施工を始める前に＞
①カーペット・巾木等は必ず取り外してから作業を始めてください。
②既存階段の下地処理を行ってください。
●既存踏板の表面をサンダー等にて平滑にしてください。
●上り切り部分についても、既存上段框と2階フロアーの段差がある場合も同様に平滑にしてください。
●既存蹴込板は専用ボンド塗布に際して、サンドペーパーで目立してください。（鼻の出を活かした場合のみ）

お願い
●本製品は踏板（廻り踏板・踊り場）・蹴込板のみの構成となっております。既存の階段の上からボンド・釘で仕上げていただくタイプです。
●鼻の出裏面には養生テープを使用しないでください。

鼻の出を無くした場合の納まり

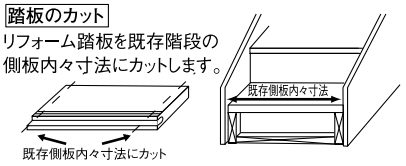
1 下地材の取り付け

既存踏板の鼻の出寸法を採寸し、同寸法にて下地材（現場調達）を既存蹴込板の両サイド・下方へ廻してください。

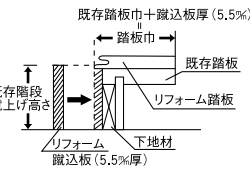


2 踏板・蹴込板のカット

踏板のカット
リフォーム踏板を既存階段の側板内々寸法にカットします。



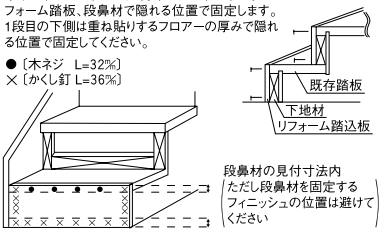
蹴込板のカット
既存階段の蹴上げ高さと同じ寸法にカットします。



3 蹴込板の取り付け

下地材の上からリフォーム蹴込板を前面に取り付けてください。＊蹴込の高さは、既存階段の蹴上げ高さにします。

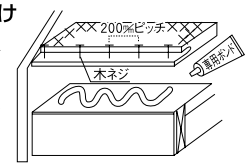
木ネジ（L=32㎜）とかくし釘（L=36㎜）をそれぞれリフォーム踏板、段鼻材で隠れる位置で固定します。
1段目の下側は重ね貼りするフロアーの厚みで隠れる位置で固定してください。
●〔木ネジ　L=32㎜〕
×〔かくし釘 L=36㎜〕



重ね貼りフロアーの厚み2段目以降はリフォーム踏板の厚み（12㎜）になります。

4 踏板の取り付け

専用ボンド（指定ボンド）で踏板を貼り、木ネジ、かくし釘で固定します。

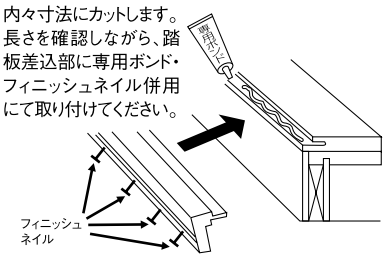


＊×印はかくし釘（L=36㎜）の位置です。

お願い
●ボンドがはみ出したらすぐに、拭きとってください。
●かくし釘を打ち込む際には、木ネジの箇所と重ならないように注意してください。
●フィニッシュネイルの頭は必ずポンチで打ち込んでください。

5 段鼻材の取り付け

内々寸法にカットします。長さを確認しながら、踏板差込部に専用ボンド・フィニッシュネイル併用にて取り付けてください。

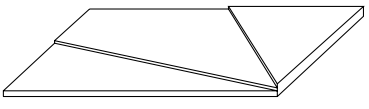


1段毎に**1**～**5**の繰り返しとなります。

＊段鼻材施工後、ボンドがはみださないように、加減して塗布してください。

6 廻り踏板・踊り場の取り付け

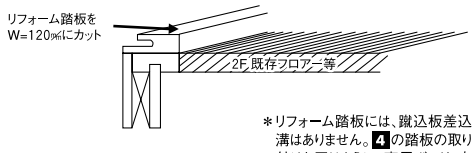
既存踏板の踏面と同様のサイズにカットします。
（取り付けは**1**～**5**）



⚠ 注意
廻り階段の踏板に取り付ける段鼻材は、両側の小面の角度を壁面に合わせてカットしてください。

7 最上段（上段框）の施工

階段を上がり切り部まで仕上げたら、上段框として、リフォーム踏板巾をW＝120㎜にカットします。（但し、現場での状況により若干調整が必要です）カットした踏板を蹴込板の前面に合わせて取り付けます。

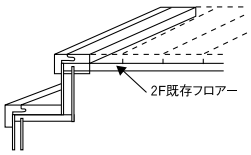


＊リフォーム踏板には、蹴込板差込溝はありません。4の踏板の取り付けと同じように、専用ボンド、木ネジ、かくし釘で固定してください。

2Fフロアー重ね貼り不要の場合
床見切り材をご使用ください。

8 フロアー（12㎜）の重ね貼り

階段部分が全部貼り上がったら、重ね貼りフロアー（12㎜）を貼ります。

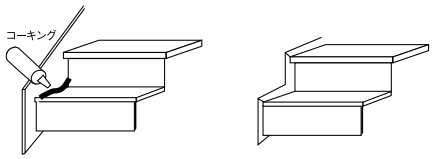


9 壁際の納め方 仕上げ

隙間の処理

＜既存側板納め＞
隙間はコーキング材で処理してください。

＜巾木納め＞
巾木・雑巾ずり（別売）で隠します。



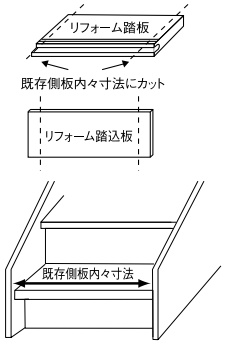
＊巾木はLVLオーク用の「プレカット巾木」を別途ご発注の上、仕上げてください。

⚠ 注意　壁際に隙間ができないように、コーキング等で充填してください。

鼻の出を活かした場合の納まり

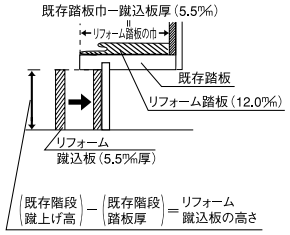
1-1 踏板・蹴込板のカット

踏板、踏込板横巾カット
リフォーム踏板、リフォーム蹴込板を既存側板内々寸法にカットします。



1-2 踏板・蹴込板のカット

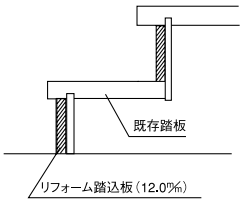
踏板、踏込板奥行高さカット
リフォーム踏板及びリフォーム蹴込板を下図の寸法でカットします。



2-1 蹴込板の取り付け

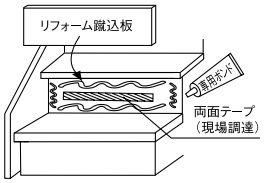
（既存蹴込板はサンドペーパーで目立した状態にしておいてください。）

リフォーム蹴込板の高さは、既存階段の「蹴上げ高さー既存階段踏板厚」です。



2-2 蹴込板の取り付け

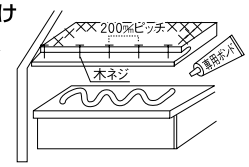
既存蹴込板表面を、ボンドがしっかりとつくようにサンドペーパーにて目立してください。
専用ボンド塗布前に、蹴込板仮止め用の両面テープ（現場調達）を中央付近に貼り、外周部分へ適量、専用ボンドを塗布し接着してください。



＊リフォーム蹴込板施工後、ボンドがはみださないように加減して塗布してください。

3 踏板の取り付け

専用ボンド（指定ボンド）で踏板を貼り、木ネジ、かくし釘で固定します。



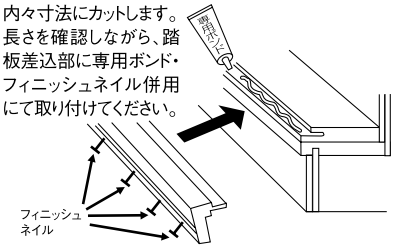
＊×印はかくし釘（L＝36㎜）の位置です。
＊リフォーム踏板施工後、ボンドがはみださないように加減して塗布してください。

お願い
- ●ボンドがはみ出したらすぐに、拭きとってください。
- ●かくし釘を打ち込む際には、木ネジの箇所と重ならないように注意してください。
- ●フィニッシュネイルの頭は必ずポンチで打ち込んでください。
- ●木ネジの施工は、下穴をキリであけてから固定してください。

4 段鼻材の取り付け

既存側板

内々寸法にカットします。長さを確認しながら、踏板差込部に専用ボンド・フィニッシュネイル併用にて取り付けてください。

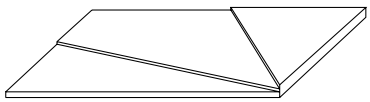


1段毎に1～4の繰り返しとなります。

＊段鼻材施工後、ボンドがはみださないように、加減して塗布してください。

5 廻り踏板・踊り場の取り付け

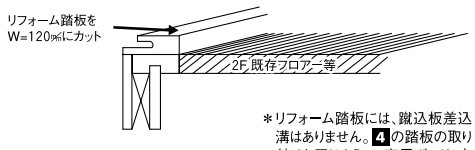
既存踏板の踏面と同様のサイズにカットします。（取り付けは1～4）



⚠ 注意　廻り階段の踏板に取り付ける段鼻材は、両側の小面の角度を壁面に合わせてカットしてください。

6 最上段（上段框）の施工

階段を上がり切り部まで仕上げたら、上段框として、リフォーム踏板巾をW＝120㎜にカットします。（但し、現場での状況により若干調整が必要です）カットした踏板を既存上段框の前面に合わせて取り付けます。

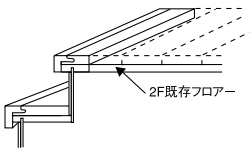


＊リフォーム踏板には、蹴込板差込溝はありません。4の踏板の取り付けと同じように、専用ボンド、木ネジ、かくし釘で固定してください。

2Fフロアー重ね貼り不要の場合
床見切り材をご使用ください。

7 フロアー（12㎜）の重ね貼り

階段部分が全部貼り上がったら、重ね貼りフロアー（12㎜）を貼ります。

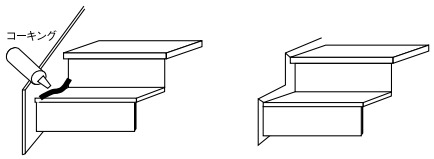


8 壁際の納め方 仕上げ

隙間の処理

＜既存側板納め＞
隙間はコーキング材で処理してください。

＜巾木納め＞
巾木・雑巾ずり（別売）で隠します。



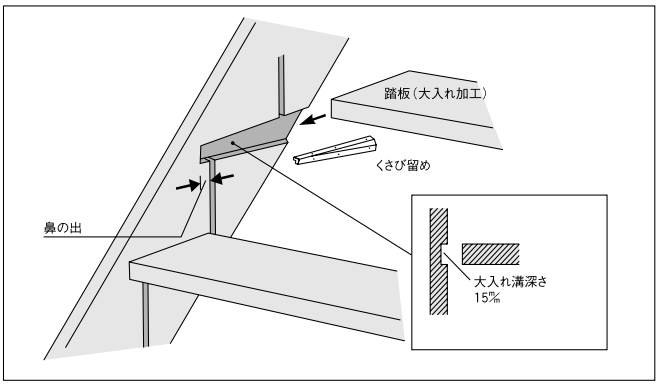
＊巾木はLVLオーク用の「プレカット巾木」を別途ご発注の上、仕上げてください。

⚠ 注意　壁際に隙間ができないように、コーキング等で充填してください。

プレカット階段

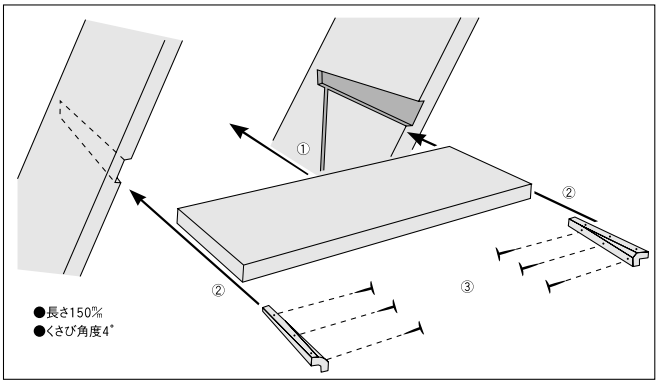
箱型大入れ加工プレカット

鼻の出部分だけ踏板厚で平行カットし、その後ろは下面側が傾斜してテーパー状になっています。
従って、踏板をはめこんだらくさび留めを行って施工してください。
くさびは別売の「ラクラク階段くさび」をご利用ください。



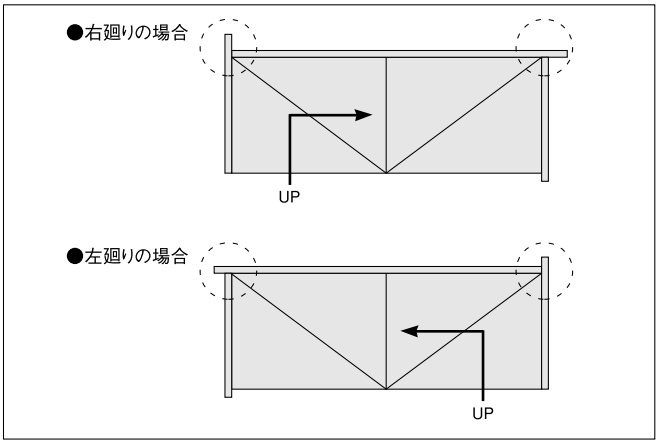
■「ラクラク階段くさび」の施工手順

①プレカット（大入れ加工）された側板に、踏板を入れる。
②くさびを打ち込む。
　このとき、壁側にくさびを寄せるように、手で添えておこなってください。
③くさびを、釘で固定する。
※くさびは、左右いずれにもご使用できます。



廻り側板プレカット（大入れ加工）180度4段・6段廻り

廻り側板で納める場合は、下記の通り、廻り側板取付け願います。

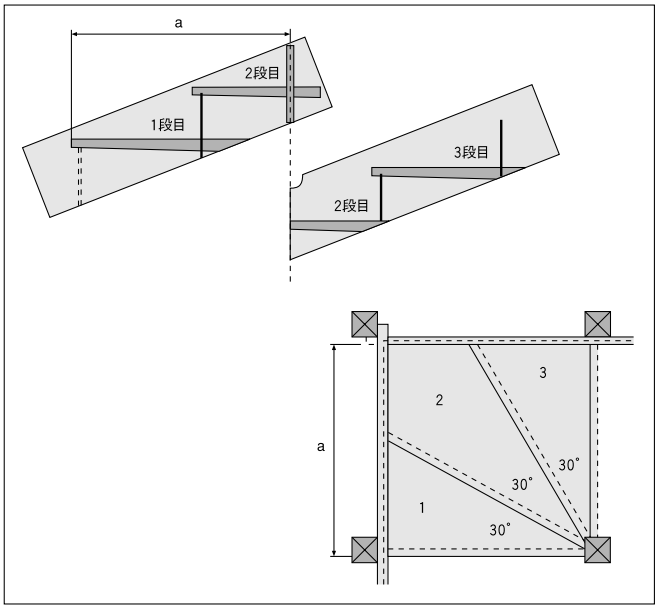


廻り側板プレカット（大入れ加工）90度　3段廻り

廻り側板は、下側板と上側板が平行に加工されています。下図のように接続加工をしてありますので接合していただければ取り付けできます。
180度6段廻りの場合も、側板接続加工してありますので接合するだけで簡単に取り付けできます。

■蹴込み柱芯納め

蹴込みが柱芯から始まり柱芯で終わる納まりで、廻り始めと終わりの蹴込みは柱芯に位置します。側板接続基準点は、「蹴込み柱芯納め」を基準に加工しています。

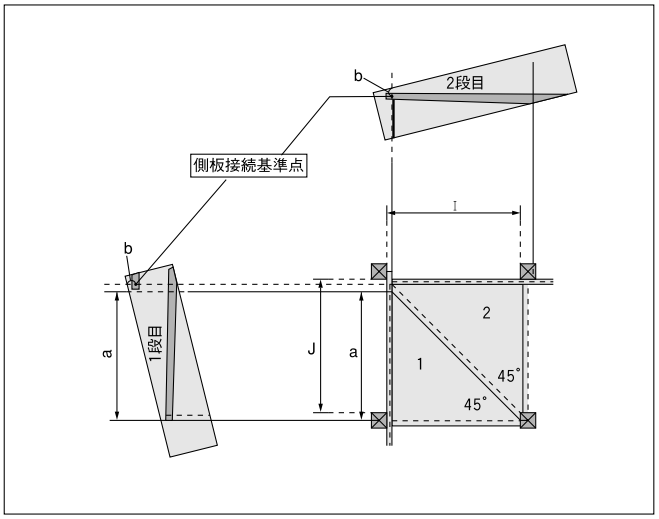


廻り側板プレカット（大入れ加工）90度　2段廻り

2段廻りを廻り側板で納める場合は、廻り踏板の均等2分割（45度）納めを原則としますので、柱内々寸法は**I寸法＝J寸法**にてお願いします。
接続点の加工は、3段廻りと同様です。
尚、180度4段廻りの場合も、側板接続加工をしてありますので接合するだけで簡単に取り付けできます。

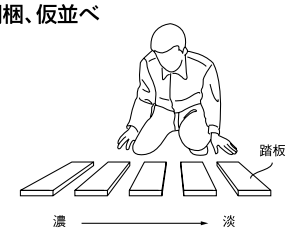
■蹴込み柱芯納め

この場合の**接続点は、側板接続加工部中心が中心点**となります。



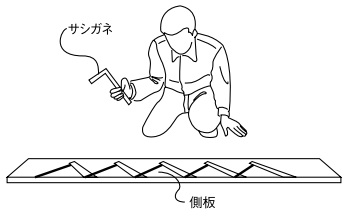
施工手順

1 開梱、仮並べ



●開梱後は最初に施工説明書をお読みください。
●踏板をあらかじめ濃色から淡色へ仮並べしてください。

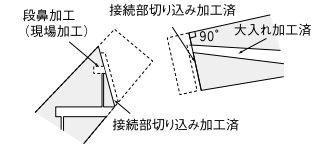
2 階高と加工寸法の確認



●納入された側板の加工寸法と現場の階高を確認してください。
●相違がない事を確認後、側板の取り付けを始めます。

3 直側板と廻り側板の接続

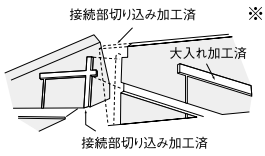
（直側板と廻りの側板の接続）



●廻り側板の段鼻掘り込みより廻り側板を直角にカットしてください。
●直側板は、段鼻掘り込みより廻り側板をカットした角度に合わせてカットしてください。

4 廻り側板と廻り側板の接続（蹴込み柱芯納め）

（廻り側板と廻り側板の接続）



※「蹴込み柱芯納め」
蹴込みが柱芯から始まり柱芯で終わる納まりで、廻り始めと終わりの蹴込みは柱芯に位置します。

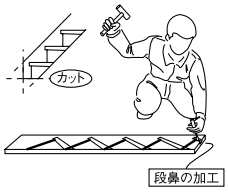
側板接続基準点は、「蹴込み柱芯納め」を基準に加工しています。

5 廻り側板の取り付け



●廻り側板取り付け位置を蹴上げ寸法より計算し位置決めをおこなってください。
●側板の掘り込み部分より柱、間柱に向け45㎜以上の木ネジで側板を固定してください。

6 段鼻加工、側板下端カット



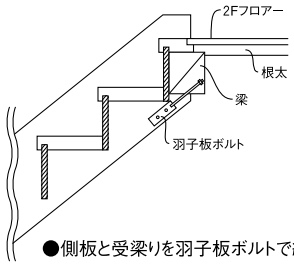
●直側板と廻り側板との接続部の段鼻を掘り込み加工をおこないます。
●直側板の下端を1階フロアー面に合わせカットを行います。

7 直側板の取り付け



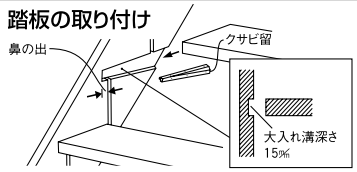
●廻り側板と接点を合わせ踏板の掘り込み部分より45㎜以上の木ネジで柱に固定してください。
●角度の微調整は直側板で調整して取り付けてください。

8 直側板上端の取り付け



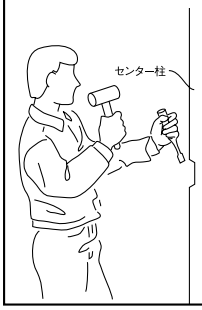
●側板と受梁りを羽子板ボルトで締めて固定してください。

9 踏板の取り付け



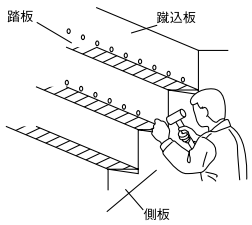
●踏板の正寸カット（オプション）を行ってありますので側板の裏にパッキン材にて調整しながら取り付けてください。
●踏板の固定には別売品のクサビを打ち込んで止めてください。
クサビ（別売品）　ZY2011　¥3600（30本入り）

10 廻り踏板の取り付け



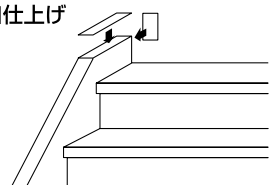
●廻り踏板の有効寸法を確認し、センター柱に欠き込みを入れます。
●廻り踏板を廻り側板の加工寸法に合わせカットをしてください。
●柱の欠き込み部分にて微調整を行い、廻り踏板の取り付けをおこなってください。

11 蹴込板の取り付け



●蹴込板を階段の裏側より釘またはビスとボンドを必ず併用し固定してください。

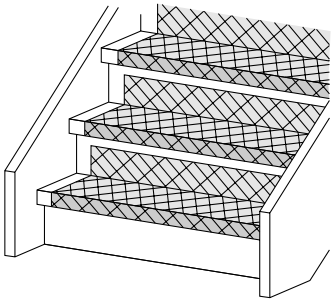
12 木口仕上げ



● LV階段　同梱の木口単板を木工用ボンドにて貼り木口を仕上げてください。

● 集成階段　現場塗装にて重ね塗りをして仕上げてください。

13 完成後の養生



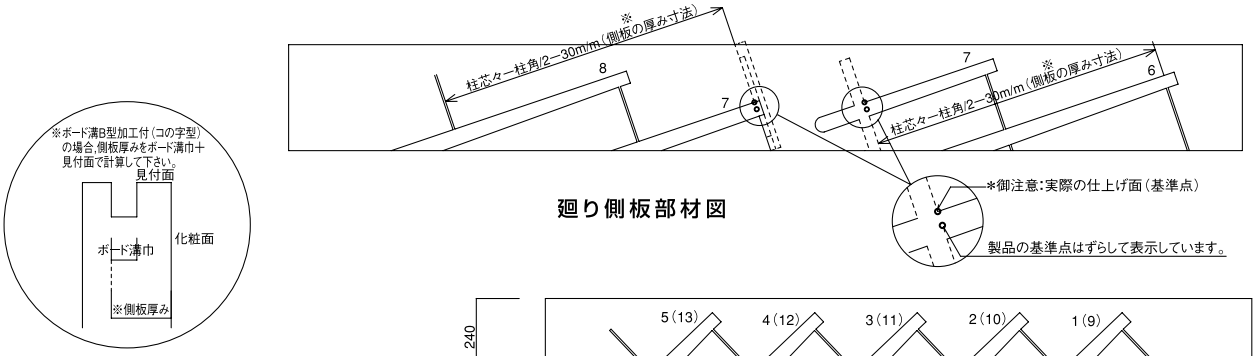
●踏板を保護するために木屑や砂、ゴミを取り除き、段ボールなどで十分に養生を行ってください。また、養生テープを使用する際には、弊社別売品の**WOOD ONE**養生テープを使用してください。一般の養生テープは粘着力が強いため、塗膜がはがれる原因となります。
●最後に同梱されておりました使用説明書をお施主様にお渡しください。

商品名	品番	設計価格
WOOD ONE 養生テープ	ZY0211	¥1,400/巻（ケース 30巻）

お願い	●鼻の出裏面には養生テープを使用しないでください。

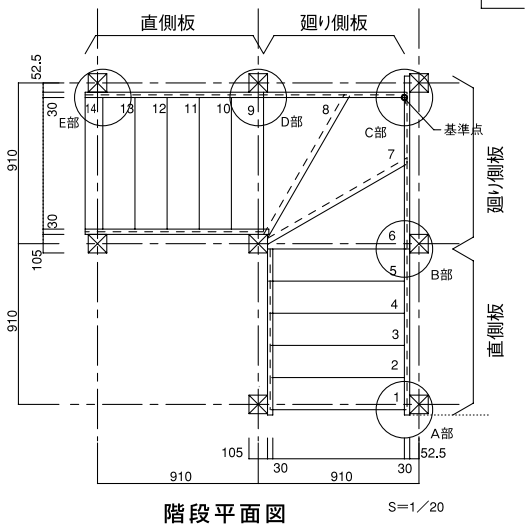
プレカット階段

3段廻り階段　側板接続方法



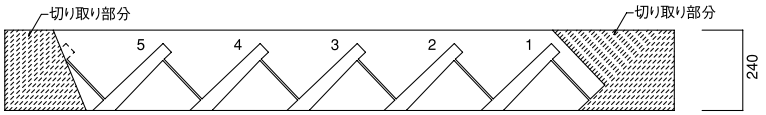
廻り側板部材図

直側板部材図



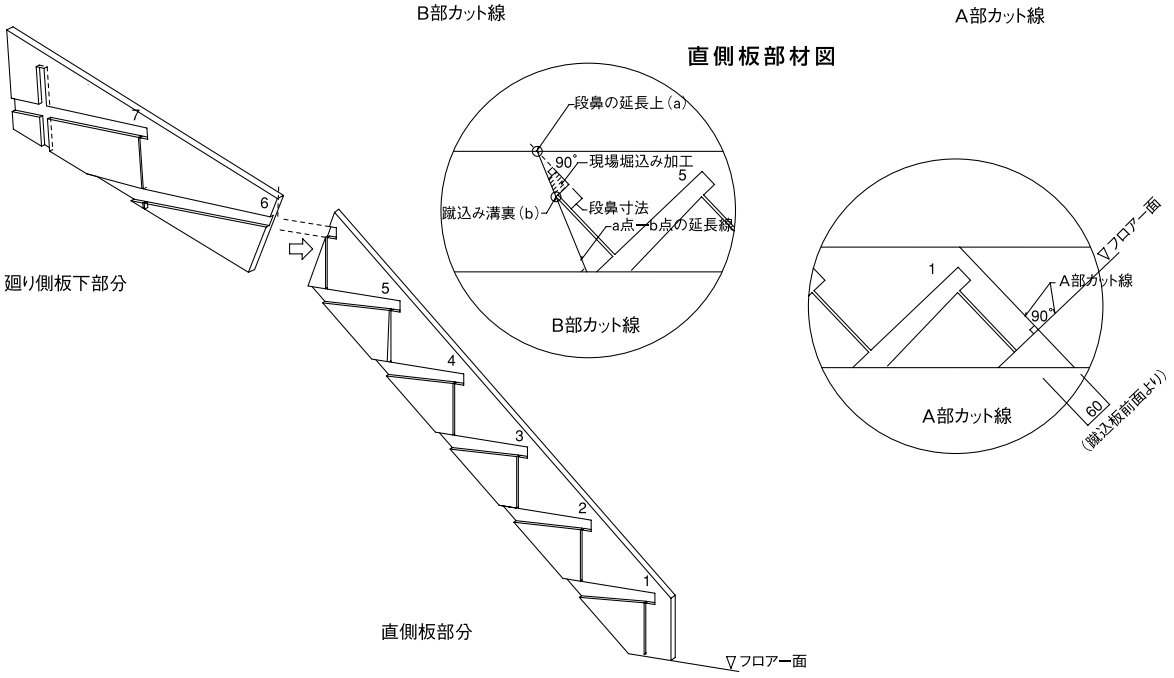
階段平面図　S=1／20

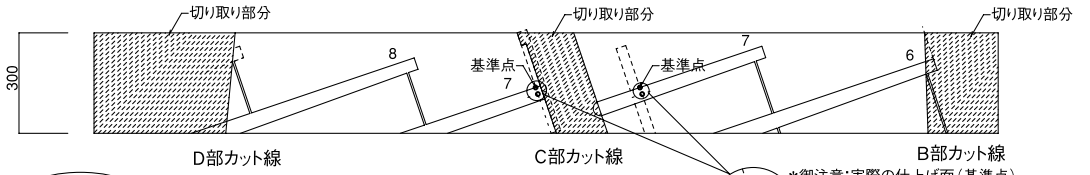
●本階段は910モジュール,柱:105角を基準として蹴込芯納まりで作成しています。
●柱内々間で設定しているので現場がそうならない場合は柱の欠き込み,
パッキン等の調整が必要です。
●現場微調整お願いします。
●箱階段＋露出階段や露出階段は踏板巾などの関係で見付寸法の調整が必要です。
廻り階段との接続は現場調整が必要になるケースがあります。
●直階段部が2ケ所以上ある階段で、蹴上げ,踏面,見付けのいずれかが異なる
場合は現場調整が必要になります。
●2段＋3段などの不均等な廻り階段は見付寸法の関係で直階段の側板の見付けを
調整させて頂くケースがあります。



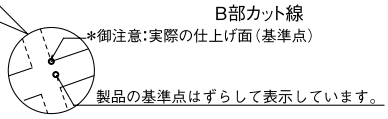
B部カット線　　A部カット線

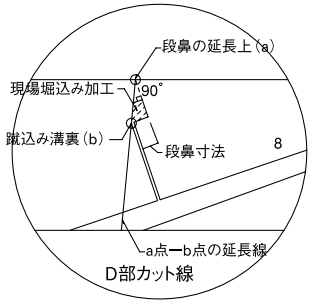
直側板部材図



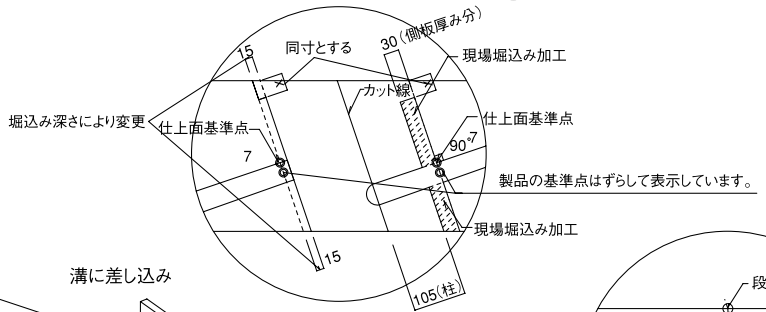


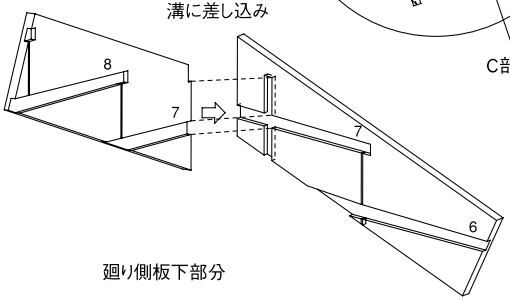
廻り側板部材図



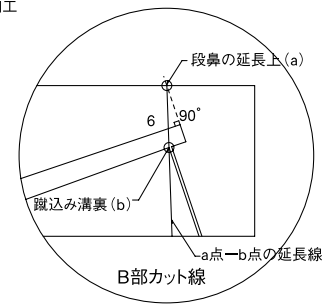


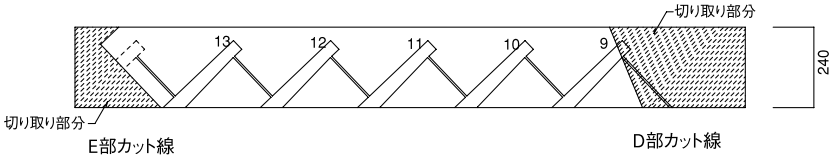
廻り側板上部分



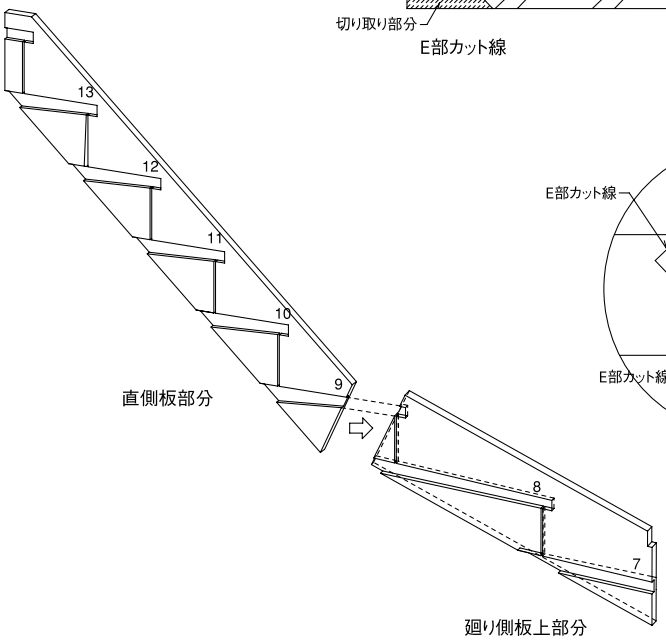


廻り側板下部分

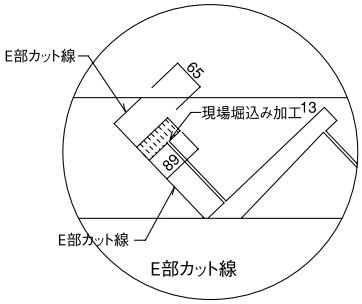


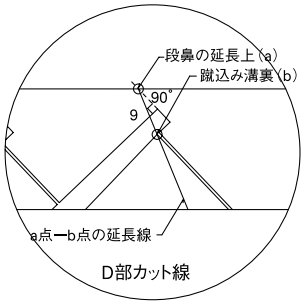


直側板部材図



廻り側板上部分

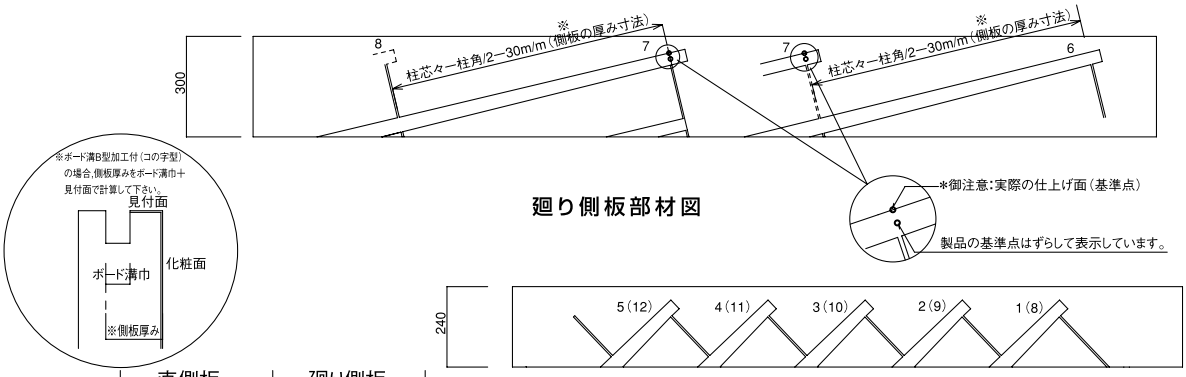




プレカット階段

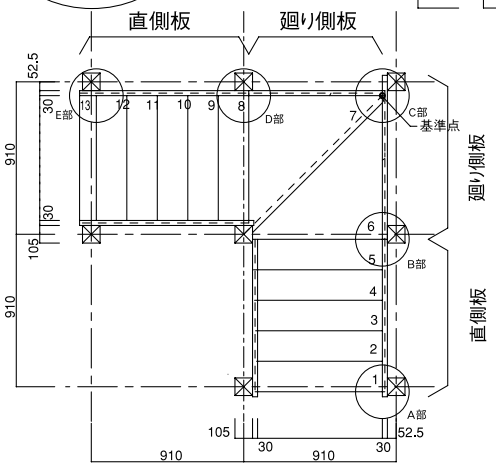
2段廻り階段　側板接続方法

※直部分は3段廻り階段と同様です



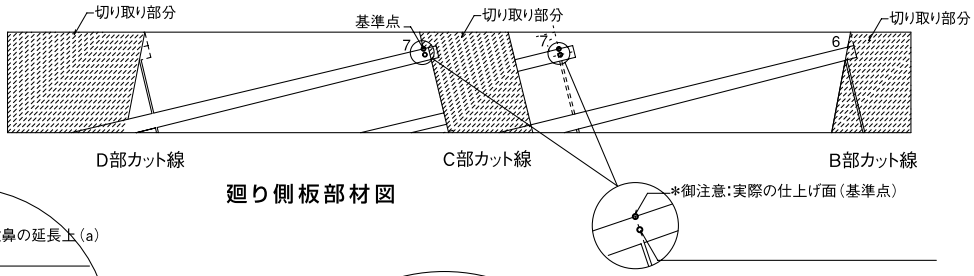
廻り側板部材図

直側板部材図

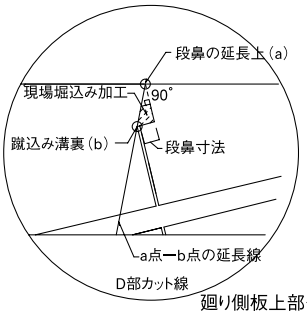


階段平面図　S=1／20

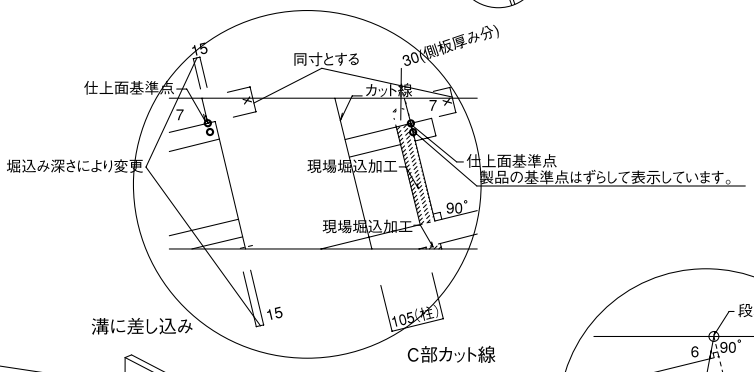
- ●本階段は910モジュール,柱:105角を基準として蹴込芯納まりで作成しています。
- ●柱内々間で設定しているので現場がそうならない場合は柱の欠き込み,パッキン等の調整が必要です。
- ●現場微調整お願いします。
- ●箱階段＋露出階段や露出階段は踏板巾などの関係で見付寸法の調整が必要です。廻り階段との接続は現場調整が必要になるケースがあります。
- ●直階段部が2ケ所以上ある階段で、蹴上げ,踏面,見付けのいずれかが異なる場合は現場調整が必要になります。
- ●2段＋3段などの不均等な廻り階段は見付寸法の関係で直階段の側板の見付けを調整させて頂くケースがあります。

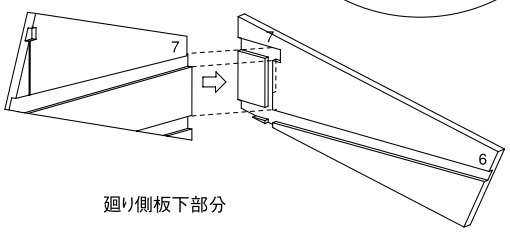


廻り側板部材図

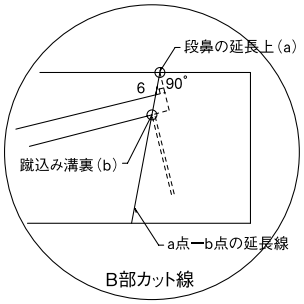


廻り側板上部分



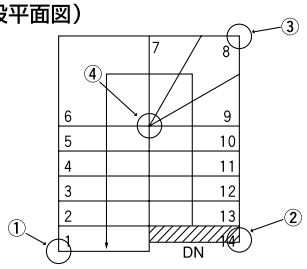


廻り側板下部分

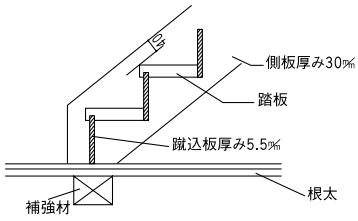


プレカット階段〈オプション加工〉納まり図

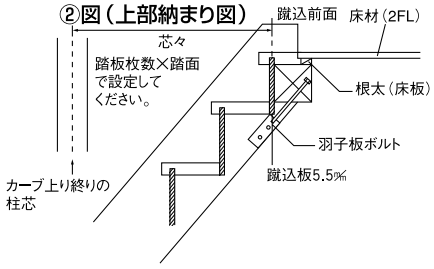
（階段平面図）



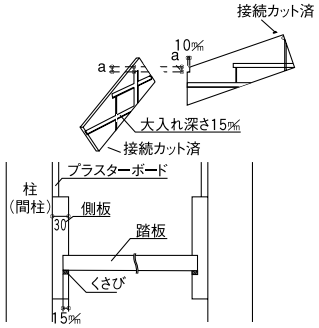
①図（下部納まり図）



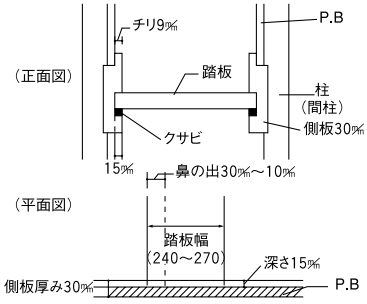
②図（上部納まり図）



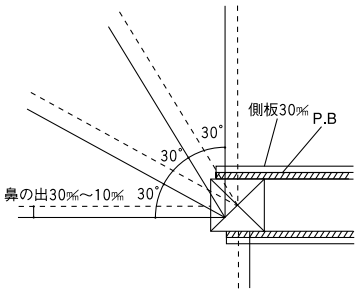
③図（3段廻り用受け台納まり図）



（踏板納まり図）



④図（廻り踏板納まり図）

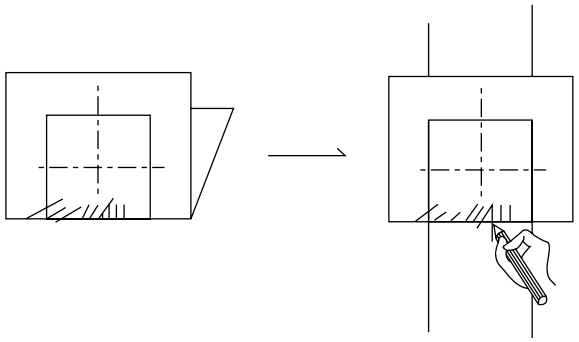


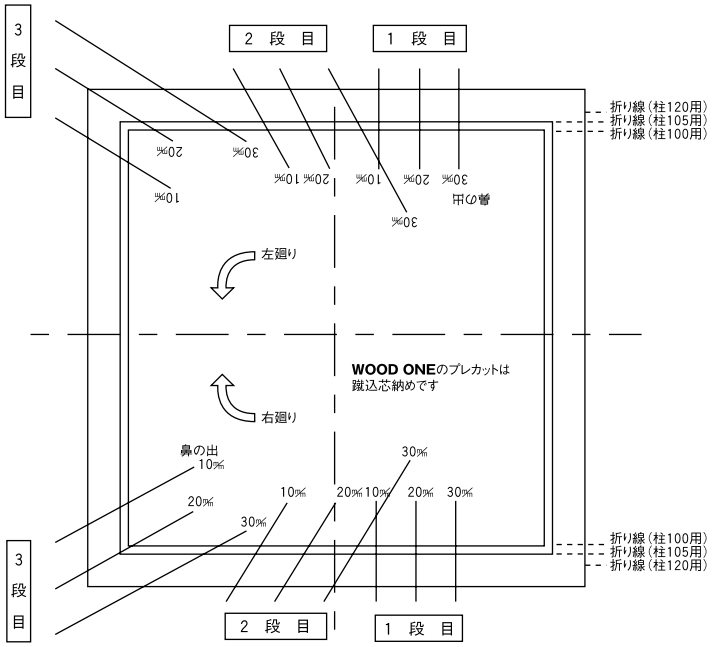
3段廻　柱欠き込みの位置決め用紙

この階段は蹴込み芯（**蹴込みの前面が柱の中心**）で加工されていますので次の手順で加工ねがいます。

1）柱の中心線を線引きする。

2）鼻の出を確認し柱角の位置に施工説明書を定規とし折り線より定規を折り柱芯を合わせ折り目と鼻の出が交差した点が欠き込みの前面（廻り踏板の前面）の位置になります。





R66 シリーズ

手すり・親柱・子柱の施工

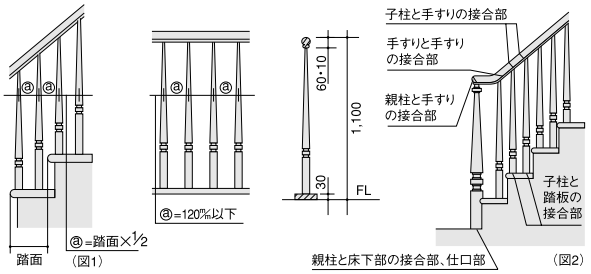
⚠ 注意

（1）子柱の間隔は、子どもがすり抜けない間隔で施行をおこなってください。

（2）手すりの接続、手すりと親柱子柱との接続、手すり・親柱・子柱の躯体側との接続は、ポリウレタン系接着剤（別売）を使用し、強固にとりつける。（図2参照）

弊社での積算基準

（1）子柱の間隔は踏板に使用する場合は2本、2階ホール等に使用する場合は芯々120㎜以下とする。2階ホールの手すりの高さは1,100㎜を基準とする。

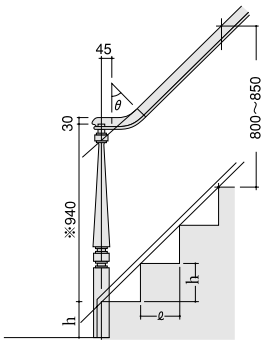


親柱の位置と高さ

勾配部の手すりの高さは800㎜～850㎜が目安となります。親柱の位置によって親柱の取り付け高さが変わりますので下図を参照してください。

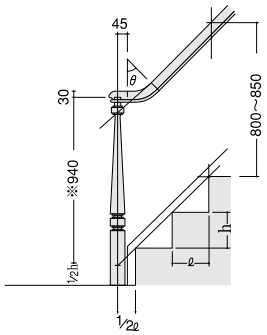
昇りはじめ部分の親柱

1. 段鼻と親柱の中心が一致する場合



親柱の高さ=※940㎜＋h

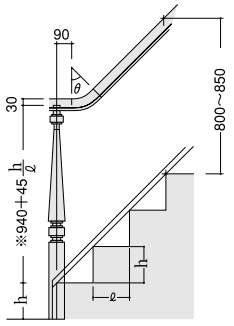
2. 親柱の中心が踏面の半分の寸法だけ段鼻からずれている場合



親柱の高さ=※940㎜＋ ½h

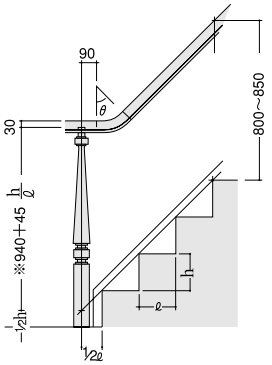
階段途中の親柱

1. 段鼻と親柱の中心が一致する場合



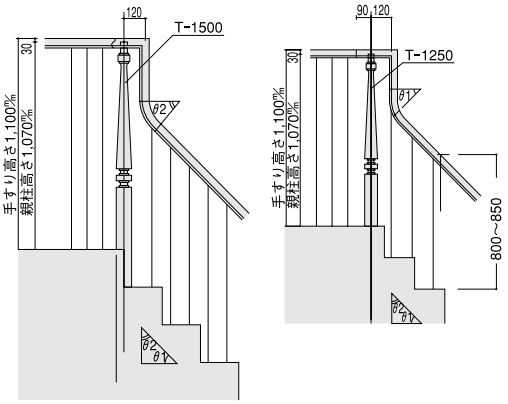
親柱の高さ=※940㎜＋ 45 $\frac{h}{\ell}$ ＋ h

2. 親柱の中心が踏面の半分の寸法だけ段鼻からずれている場合



親柱の高さ=※940㎜＋ 45 $\frac{h}{\ell}$ ＋½h

ホールの親柱

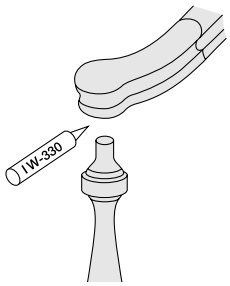


※印の寸法
940㎜は、勾配がほぼ45°の場合の目安です。勾配がゆるやかな場合は920㎜程度、きつい場合には950㎜程度にすれば、手すりの高さで800㎜～850㎜に納まります。

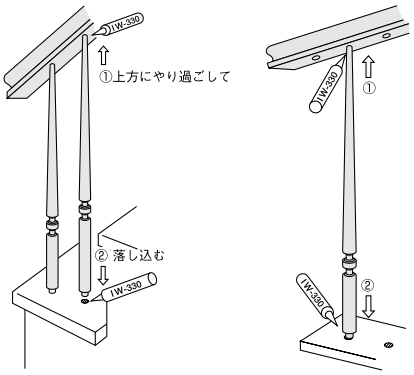
接合の手順

接着剤による親柱と手すりの接合

お願い	親子柱と手すりの接続部は弊社では別売のポリウレタン接着剤（IW-330）の使用をおすすめしています。この理由は、階段部材にも近年、塗装品が増えていますが、塗装面と木部との接着を考えますと、酢ビ系の接着剤では強度が得られないことと、接着部のはく離を起こしやすいことです。 また、この接着剤（IW-330）は金属と木部との接着も可能ですから、接合金具の周辺にも塗布することでより高い強度が得られます。



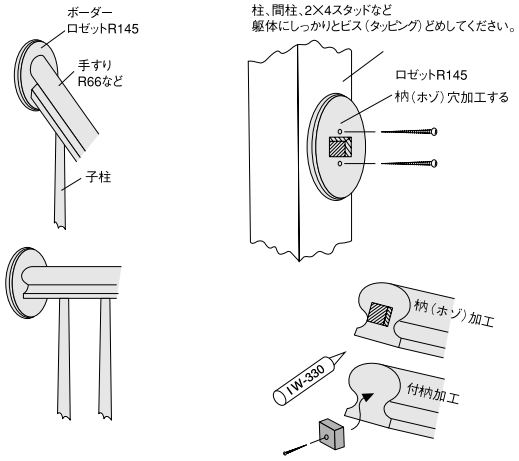
子柱と手すり及び踏板



お願い	接着剤は強度を確保する上で必ずご使用ください。接着剤は別売のIW-330を使用してください。

施工者が2名で作業できる場合は手すりを上から乗せる方法で可能ですが、1名作業のときにはやり過ごして落とし込む方法をおとりください。

ボーダーと壁面・ボーダーと手すりの接合



接着剤IW−330の使用方法

1.ポリウレタン系接着剤IW−330は強力な接着効果を下記の場合に発揮します。
- **木材の木口どうしの接着を行うとき。**
- **接合金具を用いるとき、金属と木材との接着を可能にする。**
- **温度や湿度の変化に対し安定している。**

2.R66シリーズ手すりの接合作業、手すりと子柱、踏板やボーダーとの接着作業に用いるほか、親柱の補強や、スターティングステップまわりの補強にもお使いになれます。

3.キャップをとりはずし、アルミ膜を破り、キャップ先端をカッターで切りとり、コーキングガンにセットしてください。

4.適量を接着面に塗り、木片等をヘラ代りにして延ばしてください。金属部のネジまわりにも充てんしてください。木材と金属との一体化により接合の強度は倍加します。

5.硬化は空気中の湿度、木材中の水分によって、ゆっくりと始まりますから、季節や天候によって差が生じますが、少なくとも半日を必要とします。
従って、一日の作業を、仕事完了後に養生に入れる様、配慮して頂きますと、効率よく施工が可能です。

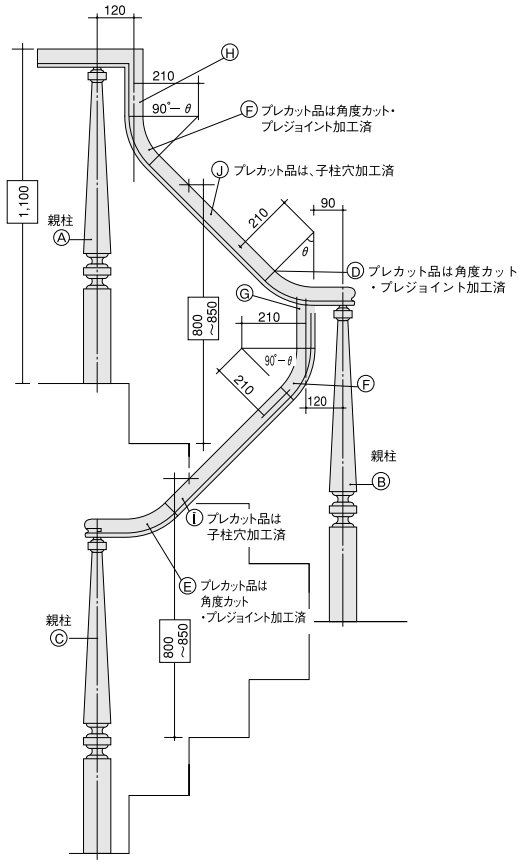
6.空気と木材の乾燥する冬期では、被着物の表面を濡れ雑巾や霧吹きで加湿しますと、硬化の立ち上がりが早くなります。

7.手や衣服に付着した接着剤はシンナー類や灯油で拭きとってください。時間が経ちますと、除去できません。

8.建築物の経時変化の中で、ゆるみやガタは出易いものですが、接着剤IW−330はこれらを直すことは出来ませんが防止することはできます。後々のためにも、あらかじめ接着剤IW−330をお選びください。

R66 シリーズ

施工手順



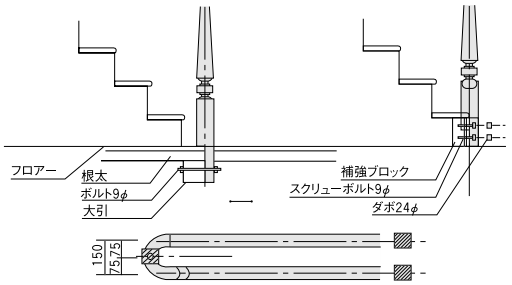
プレカット加工をおすすめします。

階段の勾配・踏面・蹴上げ寸法に合せて加工します。
加工内容
1. 通直材（R66-2000、3000、4200）の子柱用穴あけ
2. システム部材の角度カットおよびプレジョイント加工

※通常の階段廻り部材と異なる特殊な加工を、工場にて行って納入しますので、現場作業が大巾に軽減され、美しい仕上がりを実現します。

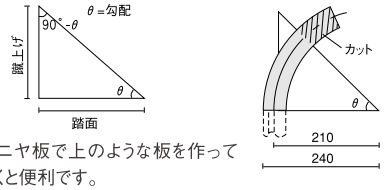
1 親柱の位置を決めます。

・2階ホールの手すりの高さは1,100㎜としてください。（親柱Ⓐ）
・階段昇り口や途中に立つ親柱（親柱 Ⓑ・Ⓒ）は、立てる位置によって高さが変わります（P.510参照）。又、階段部の手すり高さによっても変わります。
・Uターンするタイプの手すり部材を使用する場合は親柱の位置に気をつけてください。

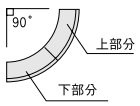


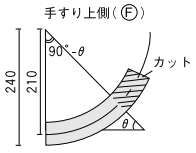
※親柱は先付施工でしっかり固定することが原則です。後付施工となる場合は、踏板に欠き込みを入れ補強材などを用いて階段本体としっかり固定してください。

2 システム部材の角度カットを行います。



※ベニヤ板で上のような板を作っておくと便利です。





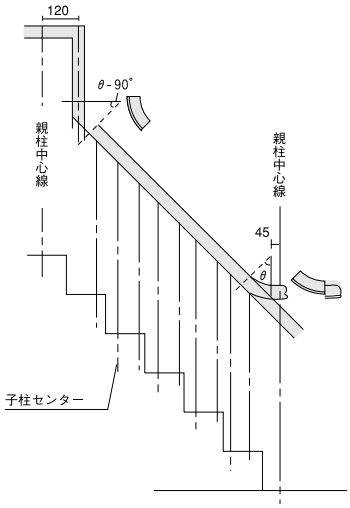
〈確認〉
カットされた下部分と上部分を合わせると90°になります。
※プレカット手すりの場合はカット済みです。接合作業の軽減、精度の確保の点でもプレカット発注をおすすめします。

3 原寸図作成と長さカット

壁やベニヤに原寸図を描き、脚部（ⒽⒼ）の長さカット、および通直部手すり（ⒾⒿ）の長さカットをおこないます。原寸図に角度カットの済んだ湾曲部の現物をあてがい、切断位置を墨付けしカットします。

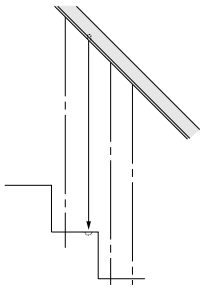
※プレカット品の場合は通直部の子柱穴加工をしていますので、踏板との位置関係に注意してカットしてください。

〈原寸図作成上の注意〉
各部材の寸法が決められていますので部材の寸法に従い作成してください。



4 仮固定と子柱位置の確認

・切断した部材をP.499を参照してジョイント用の加工をおこないます。
※プレカットされたシステム部材にはプレジョイント加工を施してあります。
・それぞれの部材を実際に親柱にのせてボルトで仮固定し、納まり具合を確認します。この時、子柱穴の位置を手すり、踏板の両方にチェックします。



5 子柱穴あけ

・子柱穴の位置をチェックしたら仮固定を解き、手すり、および踏板に24φドリルで子柱の穴あけをおこないます。
※プレカット品の手すりの場合は子柱穴加工済みです。この作業は仕上がり状態を満足することが難しい加工ですが、プレカット発注にしますと、精度の高い、美しい仕上がりになります。

6 手すりの固定

手すり部材をウレタン系接着剤（IW−330）とJボルトを併用して固定します。

7 子柱の取り付け

上部をやりすごしてから落とし込んで入れます。この場合もウレタン系接着剤（IW−330）を使用してください。

8

ジョイント部分に目違いが発生した場合はP.498を参照し、補修してください。

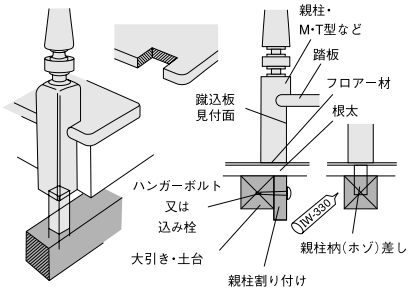
ヒナ段仕様の場合の施工方法

（1）親柱の固定方法

先付け施工の場合

親柱下端は枘（ほぞ）差しとし、大引、土台にハンガーボルト（φ10）や込み栓で接着剤を併用して固定してください。

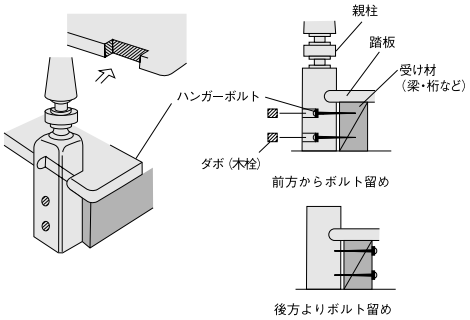
親柱の位置決めは、床下の大引や土台の位置および取り付け方によって、あるていど任意設定できます。蹴込み見付面合わせは、親柱の奥行方向の幅詰め調整で行ないますが、強度面から3分の2くらいを残してください。



後付け施工の場合

蹴込み見付面合わせは踏板の鼻の出寸法分を踏板側を欠きとり、それ以上は親柱側で幅詰めしてください。

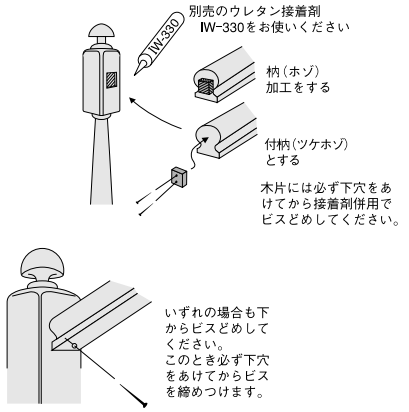
蹴込み見付面合わせは踏板の見返し寸法分を踏板側を欠きとり、それ以上は親柱側で幅詰めと合わせて行ってください。この場合も親柱幅は3分の2くらいを残してください。

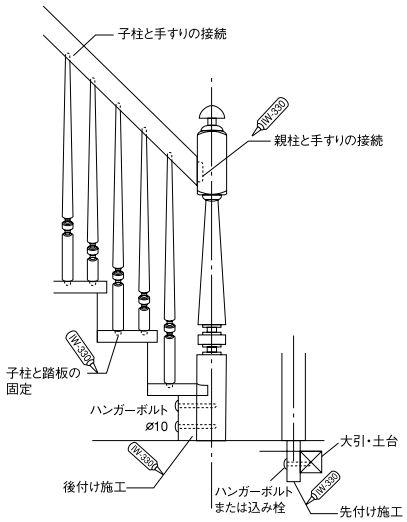


（2）親柱と手すりの接続方法

先付け施工の場合

親柱と手すりの仕口は枘（ほぞ）差しまたは付枘（つけほぞ）とし、接着剤を使用してください。





（3）子柱と踏板の固定方法

子柱下端は枘（ほぞ）差しまたは大入れとし接着剤を使用してください。

（4）子柱と手すりの接続方法

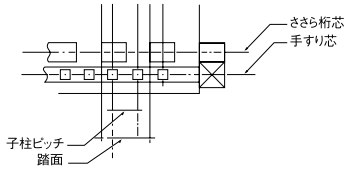
子柱上端は大入れとし、接着剤をご使用ください。

接着剤は別売りの接着剤
IW−330をご使用ください。

ささら桁仕様の場合の施工方法

（1）子柱の位置

①子柱下端を踏板に入れる場合
　下図のようにささら桁芯と手すり芯をずらして施工してください。
②1段2本立ての子柱のピッチは踏面の1/2で施工してください。



（2）親柱の固定、親柱と手すりの接続

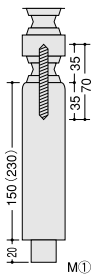
子柱と踏板の固定、子柱と手すりの固定は前（3）・（4）項に準じて施工してください。

⚠ 注意

子柱E型には金属ボルトの接合を行っております。
切断の際には充分ご注意ください。



子柱タイプ		接合箇所
型	長さ	
E	900	①
E	1,150	①
T	900	なし
T	1,150	〃
H	900	〃
H	1,150	〃



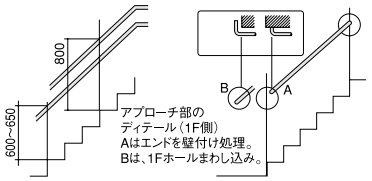
（　）は1,150ミリ長さのとき

35φシリーズ・手すりブラケットシステム

施工上のご注意

⚠ 注意

(1) 手すりの取り付け高さは800㎜程度としてください。更に子供用手すりを取り付ける場合は、高さ600㎜～650㎜程度としてください。
(2) 手すり端部はぶつけたりひっかかったりしないよう配慮してください。
(3) アプローチ部分にも手すりを付けてください。
(4) ブラケット（手すり受け）の取り付け間隔は、900㎜以下としてください。
(5) ブラケットは下地にしっかりと固定してください。柱・間柱以外で固定する場合は、必ず下地に補強材を入れてください。

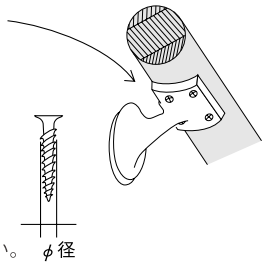


丸型手すりの施工

すきまが生じて緩まないようセットビスは下穴をあけてからしっかりと締め付けてください。

下穴径は80～85%を目安にしてください。別売の接着剤（IW－310）を少量充てんしておくこともゆるみ止めの効果があります。

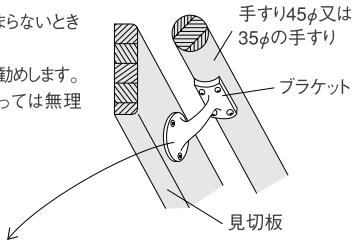
（例）4ミリの径のとき
4ミリ×80%=3.2㎜
4ミリ×85%=3.4㎜
このあたりのドリル刃φを選んでください。



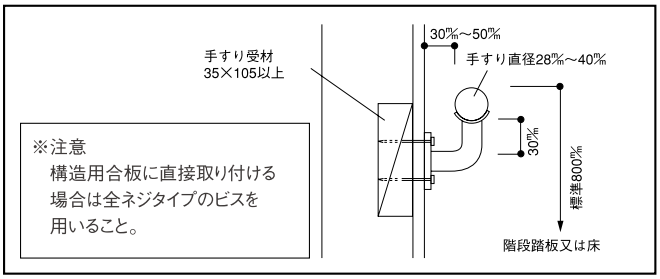
見切板ご使用のお勧め

○壁下地の都合でブラケット位置が定まらないとき
○意匠面でアクセントを付けたいとき
などに見切板（笠木など）のご使用をお勧めします。
ただし、階段スペースの幅寸法によっては無理な場合があります。

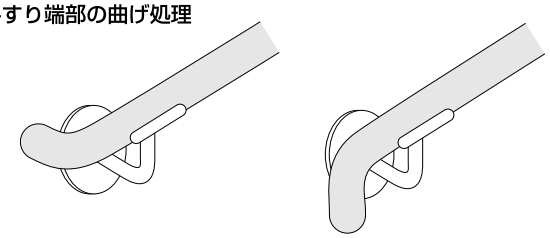
ブラケットのベースの下に柱や間柱への取り付けビスがくるようにするとビスの頭部を隠すことができます。



手すりの形状と設置方法（住宅金融支援機構　共通仕様書より）



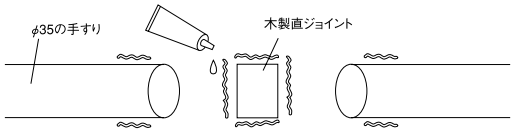
手すり端部の曲げ処理



施工手順

木製フリージョイント直用

木製直ジョイントと丸棒手すりをボンド付けし、（現場調達）両端に差し込みます。



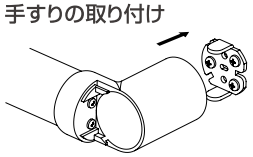
⚠ 注意

安全にご使用いただくため、取付け時は必ず以下の注意をお守りください。守られない場合、直ジョイントから手すりが外れたりするおそれがあります。
●ブラケットは必ず木製直ジョイントの端から60%以内に、両側へ取付けてください。又、壁下地補強材の有無状態を確認してください。
●丸棒手すりは、必ずボンド塗布の上、木製直ジョイントの奥まで押し込んで取付けてください。

エンドエルボー金具（着脱タイプ）

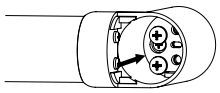
取り付け

1 手すりの取り付け



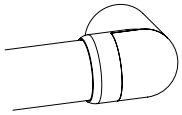
手すり全体をまっすぐに差し込んでください。

2 手すりの固定



組立ビスを取付け最後まで確実に回してください。

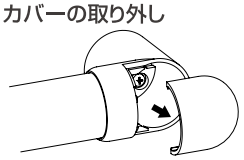
3 カバーの取り付け



カバーを取付け、納まりを確認してください。
浮いている場合は手順**2**を再確認してください。

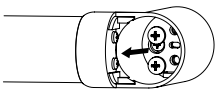
取り外し

1 カバーの取り外し



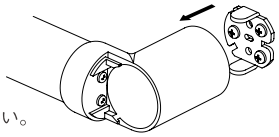
カバーをはずしてください。

2 ビスの取り外し



組立ビスをドライバーで外してください。

3 手すりの取り外し



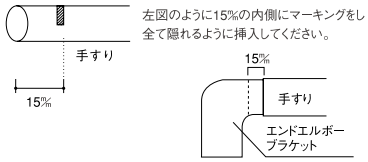
手すり全体を手前にまっすぐ引いてください。

施工手順

エンドエルボー金具（着脱なし）

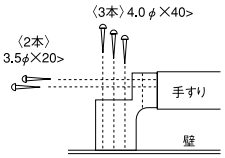
1 手すりのカット

手すりを納まりに合わせてカットしてください。
（金具内に15㎜はいります。）



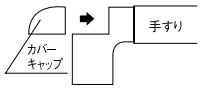
2 手すりの固定

エンドエルボーブラケット内に手すりを15㎜差し込んでビスで固定してください。（専用ビスが同梱されています。）



2 手すりカバーの取り付け

カバーを取り付けてください。

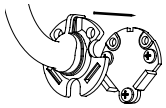


※手すり35φ用です。

直型ブラケット・壁取り付けブラケット・壁取り付け首振りブラケット（着脱タイプ）

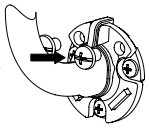
取り付け

1 手すりの取り付け



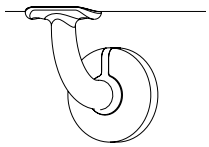
手すり全体をまっすぐに差し込んでください。

2 手すりの固定



組立ビスを取付け最後まで確実に回してください。

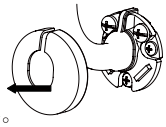
3 カバーの取り付け



カバーを取付け、納まりを確認してください。浮いている場合は手順 **1** を再確認してください。

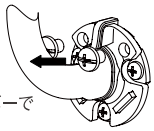
取り外し

1 カバーの取り外し



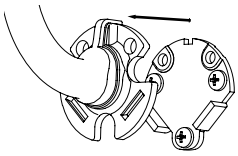
カバーをはずしてください。

2 ビスの取り外し



組立ビスをドライバーで外してください。

3 手すりの取り外し

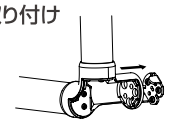


手すり全体を手前にまっすぐ引いてください。

L型金具（着脱タイプ）

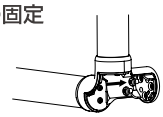
取り付け

1 手すりの取り付け



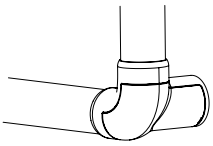
手すり全体をまっすぐに差し込んでください。

2 手すりの固定



組立ビスを取付け最後まで確実に回してください。

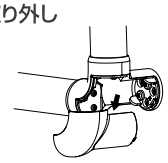
3 カバーの取り付け



カバーを取付け、納まりを確認してください。浮いている場合は手順 **2** を再確認してください。

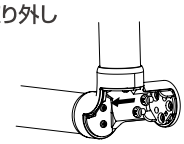
取り外し

1 カバーの取り外し



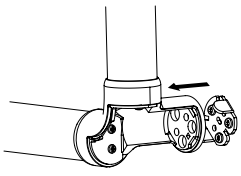
カバーをはずしてください。

2 ビスの取り外し



組立ビスをドライバーで外してください。

3 手すりの取り外し

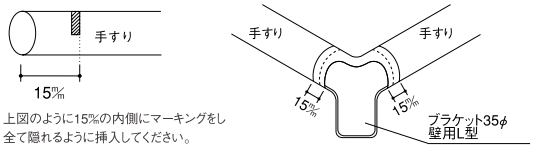


手すり全体を手前にまっすぐ引いてください。

L型金具（着脱なし）

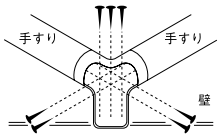
1 手すりのカット

手すりを納まりに合わせてカットしてください。
（金具内に15㎜はいります。）



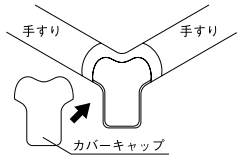
2 手すりの固定

エンドエルボーブラケット内に手すりを15㎜差し込んでビスで固定してください。（専用ビスが同梱されています。）



2 手すりカバーの取り付け

カバーを取り付けてください。



35φシリーズ・手すりブラケットシステム

施工手順

後付け用ベース材

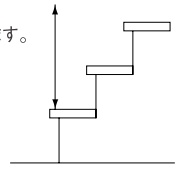
1 確認

下地材の位置を確認してください。
※柱・間柱の位置です。

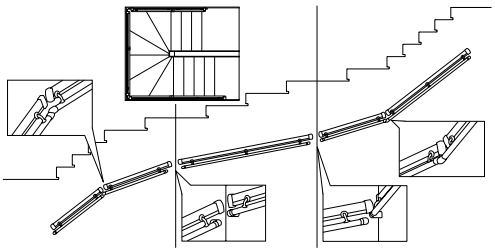
2 位置決め

ベース材の取付け位置を決めます。

取付け位置は路面から手すり上端が800㎜程度としてください。

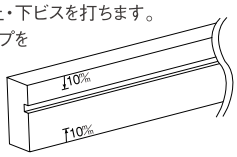


施工参考例



3 ビス打ち

910㎜ピッチ以内に上・下ビスを打ちます。
ビス頭には専用キャップをはめてください。



※ベース割れ防止の為、必ず下穴加工の後、ビス固定してください。

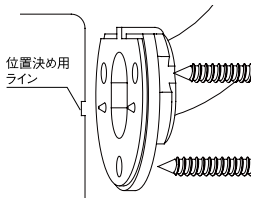
4 ブラケットの取り付け

後付け用ブラケット・丸棒手すり35φを取り付けます。
（詳細は、後付け用ブラケット施工説明書をご参照ください。）

後付け用ブラケット

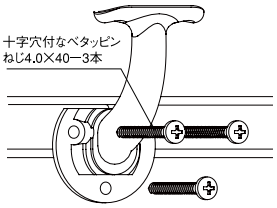
ベース材（位置決め用ライン）が正しく取り付けされてるかご確認ください。

1 取付け位置の調整



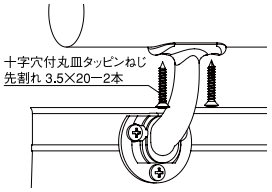
受け台の位置決め用ラインにブラケットの台座部裏面の突起部を合わせて位置を決めてください。

2 ブラケットの固定



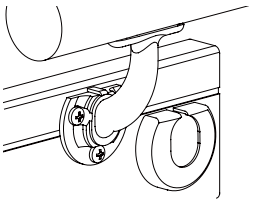
十字穴付なべタッピンねじ 4.0×40で固定してください。

3 丸棒の固定



丸棒をブラケットに十字穴付丸皿タッピンねじ 3.5×20先割れで固定してください。

4 カバーの取付け

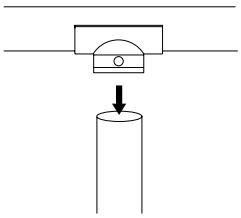


最後にブラケットカバーを取付けてください。

Tジョイント金具

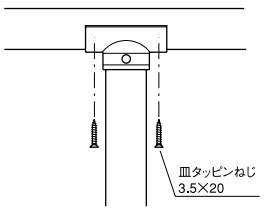
ベース材（位置決め用ライン）が正しく取り付けされてるかご確認ください。

1 金具の取付け



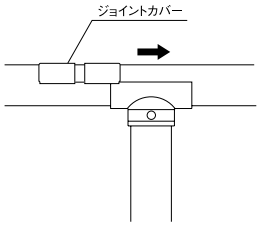
丸棒にTジョイント金具本体を取り付ける。

2 金具の固定



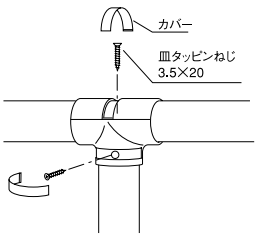
位置を確認した後丸棒（横）の取り付けビスで固定する。

3 ジョイントカバーの取り付け



Tジョイントカバーをスライドさせ取り付ける。（スライド方向注意）

4 カバーの取付け

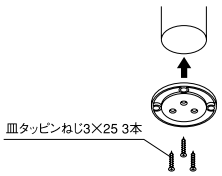


ビスで固定しカバーを取り付ける。

エンドベース金具（大）

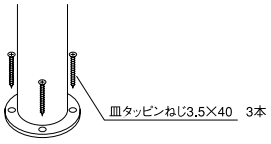
1 金具の取付け

丸棒端部にエンドベース金具（大）を取り付ける。



2 金具の固定

エンドベース金具（大）を床に取り付ける。



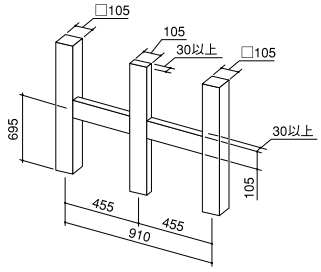
腰手すり単体の施工（床面から手すり上端750㎜設定時）

お願い 腰手すりと腰手すりブラケットは、セットにしてお使いください。

1 確認

ブラケット取り付け位置に手すり受材35㎜×105㎜以上の下地があることをご確認ください。

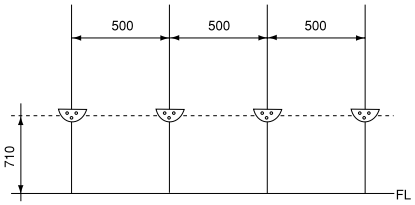
910モジュールの場合の下地の補強例



※上記の様に、必ず下地に補強を入れて、手すりが折れない様にブラケット（手すり受け）の取付間隔は500㎜以下としてください。

2 ビス打ち

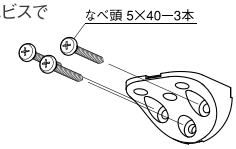
下図の位置へブラケットを壁面にビスで固定してください。



お願い ブラケットの取付け間隔は500㎜以下としてください。

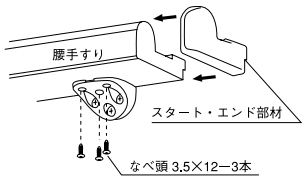
3 ブラケットの固定

ブラケットを壁面にビスで固定してください。

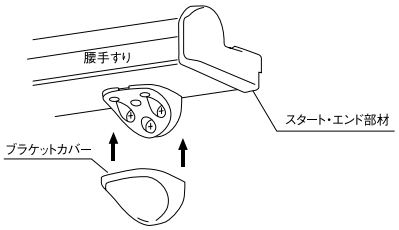


4 各部の固定

腰手すりをブラケットにのせ、ビスで固定し、スタート・エンド部材をボンドで取り付けてください。

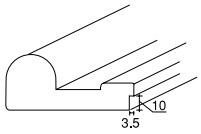


5 カバーの取り付け

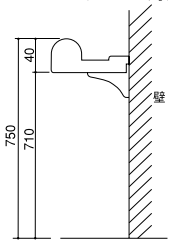


〈腰手すりと腰壁ジュピーノ併用施工〉

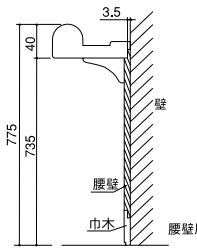
対応腰壁部材
……ジュピーノストライプパネル



腰壁へ取り付ける場合
（ストライプパネルのみ対応）



直接壁へ取り付ける場合

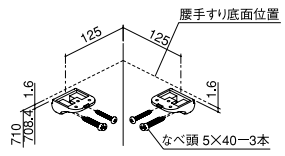


腰壁厚み10㎜です。

入り隅部

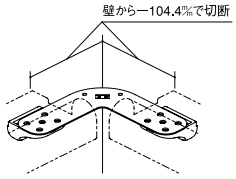
腰手すりと出隅材・入り隅材の木口面全面に必ず酢ビ系ボンドを併用してください。

1 ブラケットの固定



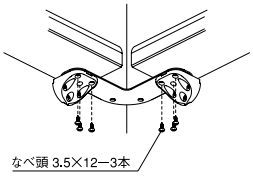
図の位置へブラケットを壁面にビスで固定してください。

2 コーナープレートの位置調整



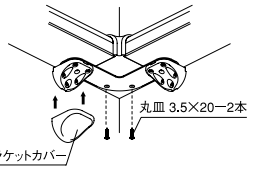
コーナープレートを刻印（穴位置）に合わせて、ブラケットにのせてください。

3 腰手すりの固定



腰手すりをのせビスで固定してください。

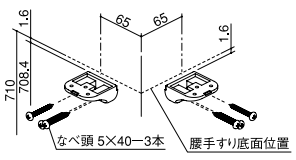
4 カバーの取付け



出隅材・入り隅材をのせビスで固定し、カバーを取り付けてください。

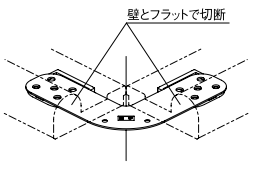
出隅部

1 ブラケットの固定



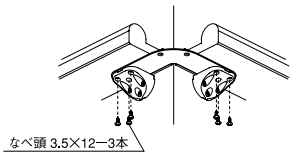
図の位置へブラケットを壁面にビスで固定してください。

2 コーナープレートの位置調整



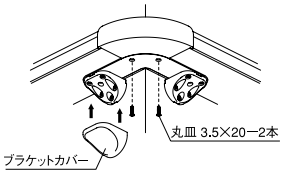
コーナープレートを刻印（穴位置）に合わせて、ブラケットにのせてください。

3 腰手すりの固定



腰手すりをのせビスで固定してください。

4 カバーの取付け



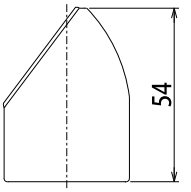
出隅材・入り隅材をのせビスで固定し、カバーを取り付けてください。

35φシリーズ・手すりブラケットシステム

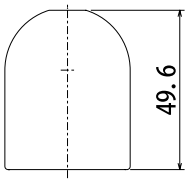
フリージョイント金具

フリージョイント金具（着脱タイプ）

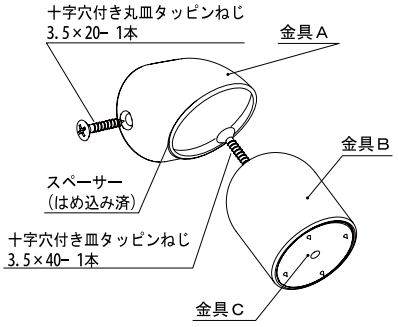
金具A



金具B

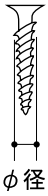


すきまが生じて緩まないようセットビスは
下穴をあけてからしっかりと締め付けて下さい。

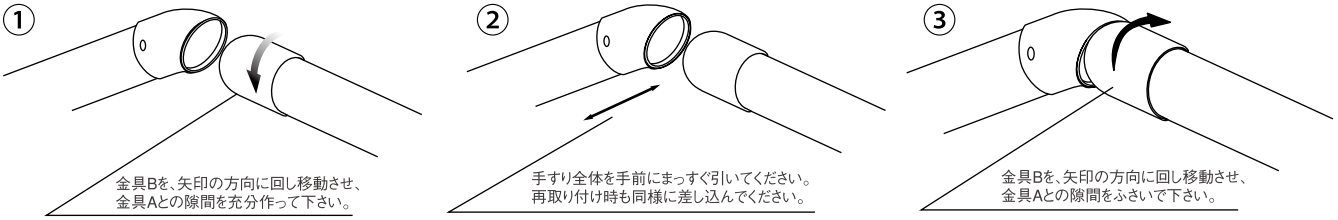


下穴径は80～85%を目安にし
てください。別売の接着剤（IW-
310）を少量充てんしておくこ
とも緩み止めの効果があります。

（例）3.5ミリの径のとき
3.5ミリ×80%=2.8㎜
3.5ミリ×85%=3.0㎜
このあたりのドリル刃φを
選んでください。



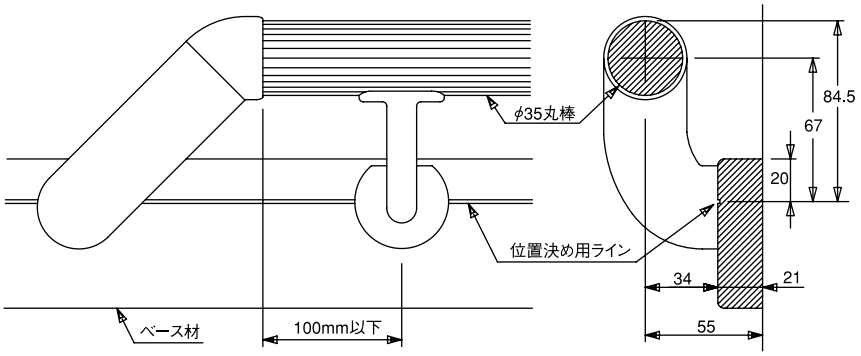
着脱手順



後付けエンドブラケット

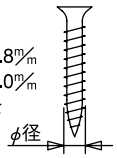
注意事項

・ブラケットは、単独では使用しないでください.
・ブラケットは、壁取付けブラケットの取付位置から100㎜以下の間隔で取付けてください。
・ベース材位置決め用ラインに、ブラケット裏面突起を合せて取付けてください。
・後付け用施工（ベース材取付）以外には使用しないでください。



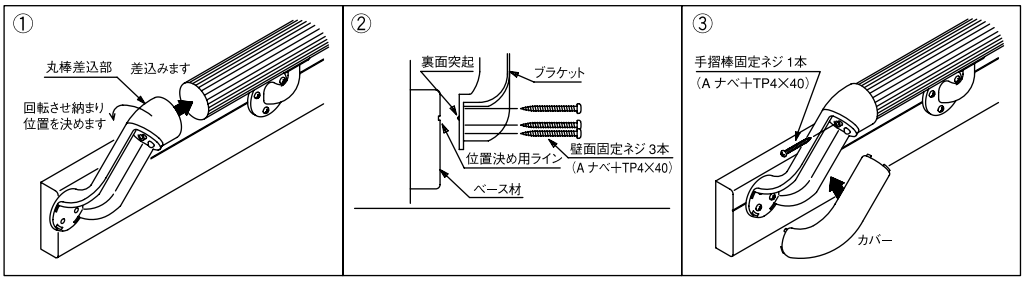
下穴径は80～85%を目安にしてください。
別売の接着剤（IW-310）少量充てんして
おくことも緩み止めの効果があります。

（例）3.5ミリの径のとき
3.5ミリ×80%＝2.8㎜
3.5ミリ×85%＝3.0㎜
このあたりのドリル刃φを
選んでください。



施工手順

①ベース材に壁取付けブラケットと手摺棒を取付け後、手摺棒端部にブラケットを取付けるため、丸棒差込部を回転させ収まり位置を決め、手摺棒に差込みます。
②ベース材位置決め用ラインにブラケットの裏面突起を合わせ、壁面固定 ネジA+ナベTP4×40 3本にてベース材へ固定します。
③ブラケットを手摺棒固定ネジAナベ+TP4×40 1本にて手摺棒木口に固定し、カバーを装着します。



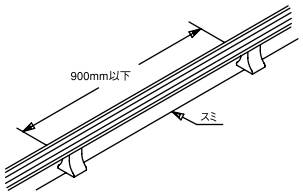
部品明細

部品名称	数量
ブラケット	1
カバー	1
手摺棒固定ネジ 壁面固定ネジ A ナベ+TP4×40	4

シンプルタイプ直型ブラケット

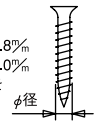
注意事項

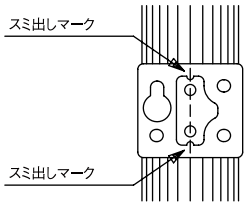
・厚み12㎜以上の合板か、同等以上の下地材に取付けてください。
・ブラケットは900㎜以下の間隔で取付してください。(下図参照)
・ブラケット仮固定穴への取付ネジは A丸皿+TP4×30 です。
・施工が完了するまでの問、部品を紛失しないよう保管してください。



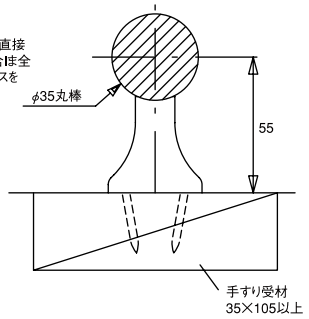
下穴径は80～85%を目安にしてください。
別売の接着剤(IW-310)少量充てんしてお〈ことも緩み止めの効果があります。

(例)3.5ミリの径のとき
3.5ミリ×80%=2.8㎜
3.5ミリ×85%=3.0㎜
このあたりのドリル刃φを選んでください。



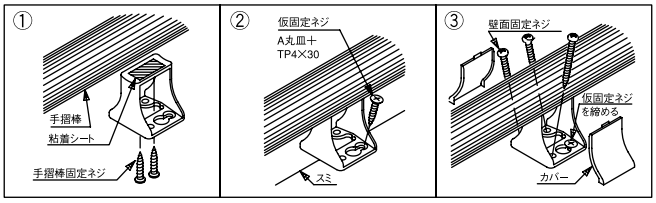


※注意
構造用合板に直接取り付ける場合は全ネジタイプのビスを用いること。

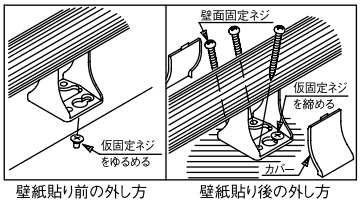


施工手順

①ブラケット手摺棒受部の粘着シートで手摺棒を仮固定し、手摺棒固定ネジAナベT P3.5×20 2本にて手摺棒を固定します。
②壁面にスミ出し後、スミ出しマークにあわせ仮固定ネジA 丸皿TP4x30 1本にて仮固定します
③壁面に壁面固定ネジA ナベ+TP4×40 3本にてブラケットを固定し、カバーを装着します。



着脱施工時



壁紙貼り前の外し方　壁紙貼り後の外し方

部品明細(ブラケット1個あたり)

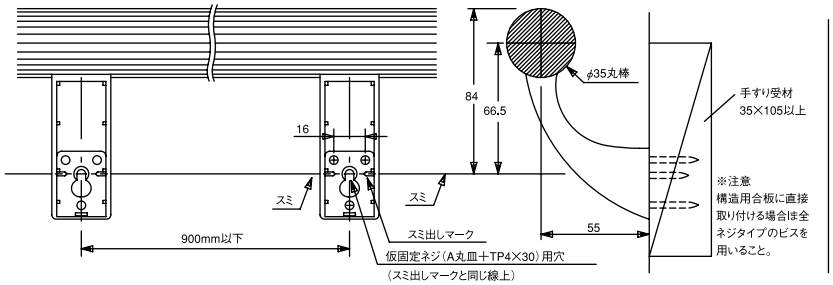
部品名称	数量
ブラケット(粘着シート付)	1
カバー	1
仮固定ネジ A 丸皿+TP4×30	1
手摺棒固定ネジ A ナベ+TP3.5×20	2
壁面固定ネジ A ナベ+TP4×40	3

【着脱施工時】
壁紙貼り前の外し方
仮固定ネジA丸皿+TP4×30 1本をゆるめ、手摺セットを外します。その時、仮固定ネジA 丸皿T P 4 x30は壁面に残ります。
壁紙貼り後の取付方
手摺セットを壁面に残っている 仮固定ネジA 丸皿+ T P 4 x30 に取付け、仮固定ネジA 丸皿T P 4 x30 と壁面固定ネジA ナベTP4x40 3 本にてブラケットを固定し、カバーを装着します。

シンプルタイプ壁取り付けブラケット

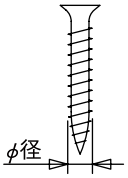
注意事項

・厚み12㎜以上の合板か、同等以上の下地材に取付けてください。
・ブラケット仮固定穴への取付ネジは A丸皿+TP4×30 です。
・ブラケットは900㎜以下の間隔で取付してください。(下図参照)
・施工が完了するまでの問、部品を紛失しないよう保管してください。



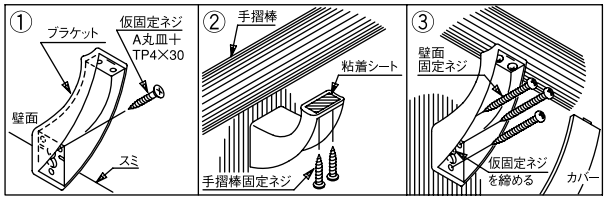
下穴径は80～85%を目安にしてください。
別売の接着剤(IW-310)少量充てんしておくことも
緩み止めの効果があります。

(例)3.5ミリの径のとき
3.5ミリ×80%=2.8㎜
3.5ミリ×85%=3.0㎜
このあたりのドリル刃φを選んでください。

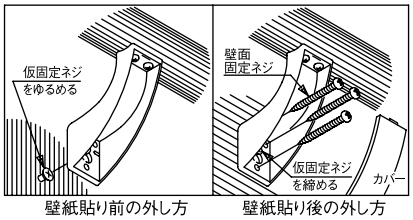


施工手順

①壁面にスミ出し後、スミ出しマークにあわせ仮固定ネジA 丸皿TP4×30 1本にて仮固定します。
②ブラケット手摺棒受部の粘着シートで手摺棒を仮固定し、手摺棒固定ネジAナベT P3.5×20 2本にて手摺棒を固定します。
③壁面に壁面固定ネジA ナベ+TP4×40 3本にてブラケットを固定し、カバーを装着します。



着脱施工時



壁紙貼り前の外し方　壁紙貼り後の外し方

部品明細(ブラケット1個あたり)

部品名称	数量
ブラケット(粘着シート付)	1
カバー	1
仮固定ネジ A 丸皿+TP4×30	1
手摺棒固定ネジ A ナベ+TP3.5×20	2
壁面固定ネジ A ナベ+TP4×40	3

【着脱施工時】
壁紙貼り前の外し方
仮固定ネジA丸皿+TP4×30 1本をゆるめ、手摺セットを外します。その時、仮固定ネジA 丸皿T P 4 x30は壁面に残ります。
壁紙貼り後の取付方
手摺セットを壁面に残っている 仮固定ネジA 丸皿+ T P 4 x30 に取付け、仮固定ネジA 丸皿T P 4 x30 と壁面固定ネジA ナベTP4x40 3 本にてブラケットを固定し、カバーを装着します。

安全上のご注意

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 注意 この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

屋根裏収納用はしご・ロフト用はしご

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落・破損の原因となり危険です。特に湿気の多い場所や自動車の排気ガスが入り込むような場所（車庫の上等）には取り付けをしないでください。サビの原因となり、本体破損のおそれがあります。

・商品の解体・改造・仕様変更は絶対にしないでください。
本体破損の原因となり危険です。

・ナット・ビス類がゆるんだまま使用しないでください。
本体の破損により落下、転倒してケガをするおそれがあります。

・スリッパ等すべりやすいものを履いての昇り降りはやめてください。
滑って踏みはずし、ケガをするおそれがあります。

・はしごやフタの開閉の途中でぶらさがったり、ゆさぶったりしないでください。
落下や転落する危険があります。

・屋根裏収納用はしごは開閉時、天井ふたの真下に立ったり、片手のみで開閉したりしないでください。
物が落下してケガをするおそれがあります。

・はしごに背を向けての昇り降りはしないでください。
安全を欠き、踏みはずしてケガをするおそれがあります。

・はしごに乗った（踏板に足を掛けた）状態で荷の上げ下げ等の作業はしないでください。
踏みはずしたり、不安定な状態になるなど危険です。

・お子様やお年寄りなど体力の弱い方のご使用は避けてください。
体力の弱い方のご使用は、ケガや事故の原因になります。またお子様の遊び道具にしないでください。

・とび降り・ゆさぶり禁止
はしごからの飛び降り、ゆさぶり等はしないでください。
※ケガや破損の原因となります。

必ずおこなう

・施工作業は2人以上でおこなってください。
施工作業は必ず2人以上でおこなってください。1人で作業をおこなうと不安定な作業になり、落下などの原因となります。2人以上で施工作業をおこなう時は合図、確認をおこない、不意に開閉をしないでください。

・建築基準法に従ってください。
天井裏は建築基準法の規制があり、屋根裏収納用はしごを使用した場合は、居室としては使えません。

・入居後は換気をおこなってください。
本製品は、ホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・障害物の有無の確認をしてください。
施工前に設置場所と周辺、及び天井裏に電気配線などの障害物がないことを確認してください。

・屋根裏収納用はしごの最大許容荷重は120kgです。
施工の際、天井にたわみ、歪みなどが生じないよう補強材を確実に施工してください。

・ロフト用はしごの最大許容荷重は100kgです。
・ロフト用アルミはしごの最大許容荷重は120kgです。
パイプ受けは確実に取り付けてください。

※必ずお守りください。

	最大荷重
屋根裏	120kg
ロフト用	100kg
ロフト用アルミはしご	120kg

・床面にはしご下部が接地するようにしてください。
床面にはしご下部（ゴムキャップ）がしっかり接地するように取り付けてください。

・開梱後は換気をおこなってください。
本製品は、ホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・ナット・ビス類の締め付けは確実におこなってください。
施工後、安全のために再度各部のナット・ビス類の締め付けをおこなってください。

・強度を十分に確認してください。
設置をおこなう天井の、全体的な強度を十分に確かめてから施工をおこなってください。（施主様とご相談の上、収納内容に合わせるようにしてください。）

屋根裏収納はしご／ロフト用はしご

使用上のご注意

はしごを背にして昇り降りしないで下さい。踏み外してケガをするおそれがあります。



はしごに乗った（踏板に足を掛けた）状態で荷物の上げ下げ等の作業はしないで下さい。踏みはずしや不安定な状態になる危険があります。



直射日光を長く当てると変色、変形の恐れがあります。カーテン、ブラインドなどでさえぎるようにしてください。



粘着テープなどは直接表面に貼らないでください。はがす時に塗膜や表面材を痛めるおそれがあります。



虫害を発見した場合はただちに殺虫や防虫処理をしてください。放置すると虫害が拡大するおそれがあります。



常時水のかかるところや、湿気の多いところでのご使用は避けてください。



クレヨン、マジック、水性インキなどが表面に付着したときは、アルコールまたはシミ抜き用ベンジンを含ませた布で軽く速やかに拭き取ってください。



天井収納へのシンナー・塗料・油等危険物の収納は避けてください。



店舗など、土足でのご使用は避けてください。

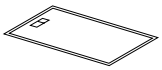


屋根裏収納用はしごの使用方法　※屋根裏収納用はしごは頭上で取り扱いますので十分ご注意ください。

降ろす場合

1 閉めた状態

降ろす前に、まわりの安全確認をおこなってください。



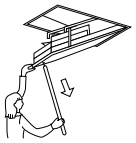
2 ラッチレバーの使用

付属の開閉棒をラッチレバーの穴に掛け、ゆっくりと開閉棒を下に引きます。
注意：天井ふたの真下には立たないでください。



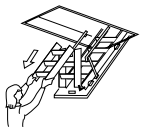
3 天井ふたを降ろす

右手で天井ふたをささえ開閉棒をラッチレバーから抜き、天井ふたが止まる位置まで手を離さずにゆっくり降ろしてください。



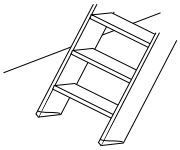
4 はしごを伸ばす

はしご本体を両手で持って折りたたんだはしご部分を伸ばします。
注意：両手を離さず、しっかりとはしご本体を持って後へ下がりながらゆっくり引き降ろしてください。



5 はしご下部を床に降ろす

はしご下部を床に降ろします。
※この時、はしご下部が床面に確実に降りているか、また、はしご本体がまっすぐ伸びているか確認してください。



収納する場合

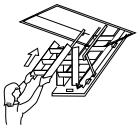
1 はしご下部を持ち上げる

両手でしっかりと、はしご本体を持ってください。



2 はしごを折りたたむ

はしご本体を折りたたみます。
※このとき、両手は絶対に離さず確実に折りたたみ、ゆっくりと天井ふたにのせてください。



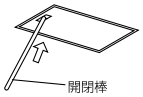
3 天井ふたを閉める

片手で天井ふたをささえ開閉棒をラッチレバーの穴に掛けます。両手で開閉棒を持ち、ゆっくりと押し上げます。天井ふたは最後まで押し上げ必ずラッチに掛かるようにしてください。



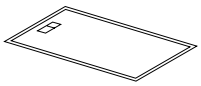
4 開閉棒をはずす

開閉棒をはずします。
注意：開閉棒は子どもの手の届かないところに保管してください。



5 閉めた状態

天井ふたが確実にしまっているか確認してください。
注意：開閉棒は子どもの手が届かない所へ保管してください。

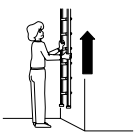


ロフト用はしごの使用方法　※屋根裏収納用はしごは頭上で取り扱いますので十分ご注意ください。

はしご使用時

1 閉めた状態

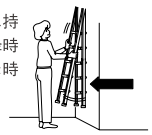
はしごの前に立ち、はしごを両手で持ち上げ、収納用パイプよりフックを外す。



⚠ 注意　持ち上げる時は、はしご本体をしっかりと持ってください。

2 ラッチレバーの使用

はしご本体を斜めに持ちながらフック（昇降時用）をパイプ（昇降時用）にかける



⚠ 注意　フックがパイプに確実に掛かっているかを確認してください。

3 天井ふたを降ろす

最後まで引き出してから、床に接地させる。



⚠ 注意　フックが外れたりしない様に引き出してください。
両方の脚カバーが床面に密着しているか、必ず確認してください。

4 はしごを伸ばす

手すりをしっかりつかみ、スリッパ等の履物は履かずに昇降する。



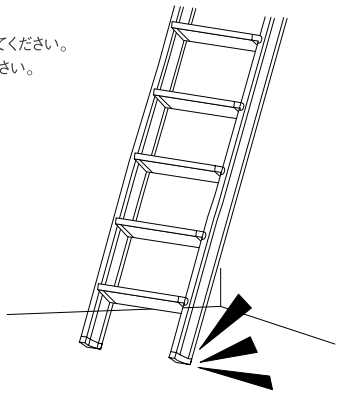
⚠ 注意　両手に荷物を持っての昇降はしないでください。ケガの原因となります。

はしご収納時

「はしご使用時」1～3と逆の手順で収納してください。

収納状態

この際は、はしごが垂直になるようにしてください。
また、ふらつきの無い事を確認してください。

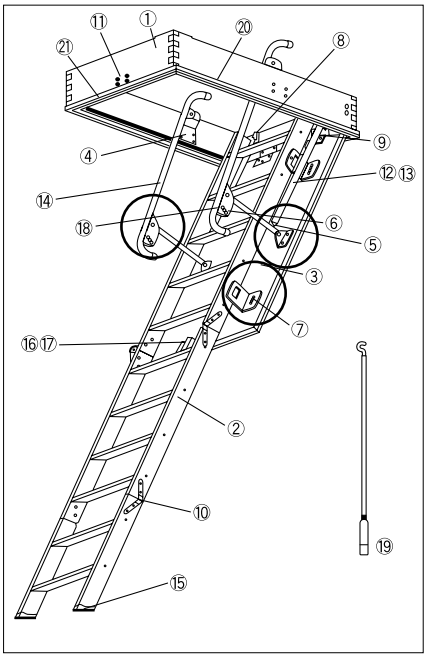


⚠ 注意　はしごは出したまま放置せずに、必ず収納してください。思わぬ事故・ケガの原因となります。
はしごを収納する際、壁・クロスなどにぶつけてキズをつけないように注意してください。

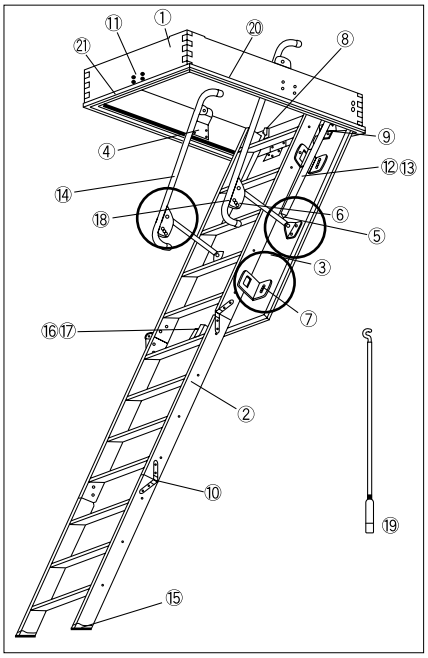
屋根裏収納用はしご

姿図及び梱包内容

8尺タイプ



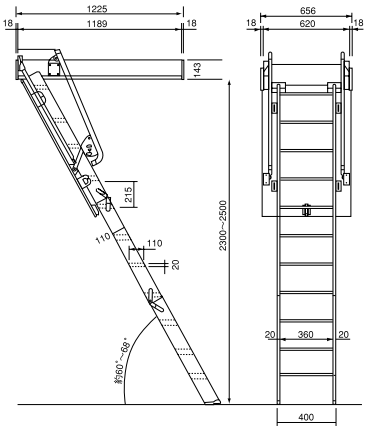
9尺タイプ



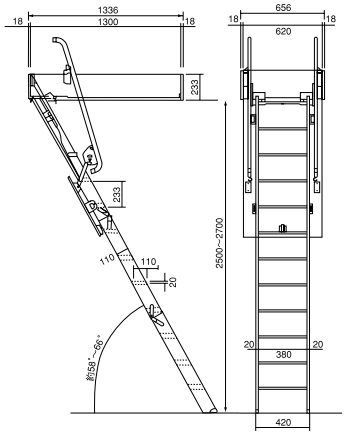
	部品名	仕様	数量
1	収納ボックス本体	合板（生地仕上げ）	1セット
2	はしご本体	天然木（ウレタン塗装）	
3	天井ふた	合板（生地仕上げ）	
4	支柱	鉄製（亜鉛メッキ仕上げ）	
5	手すり支持金具		
6	高さ調整プレート		
7	はしご受金具		
8	スプリング掛け金具		
9	丁番		
10	はしごヒンジ		
11	ラッチ受け金具		
12	スプリング	鋼線（亜鉛メッキ仕上げ）	
13	ターンバックル	鉄製（亜鉛メッキ仕上げ）	
14	手すり	鉄製（焼付塗装）	
15	ゴムキャップ	プラウン	
16	ラッチ	鉄＋樹脂製	
17	ラッチカバー	樹脂製	
18	M5ボルト、ナット、スプリングワッシャ		
19	開閉棒	鉄製亜鉛メッキ（長さ1000㎜）	1
20	額縁（大）	樹脂製	2
21	額縁（小）		2
22	ボックス本体取付用木ネジ	5.1 φ × 63 ㎜ ⊕	14
23	施工説明書		1
24	使用説明書（施主様用）		1

寸法図

8尺タイプ



9尺タイプ



8尺タイプ

高さ調整プレート番号	H寸法（㎜）	角度
①	2,500～2,460	67.8°
②	2,460～2,420	65.6°
③	2,420～2,380	64.0°
④	2,380～2,340	62.1°
⑤	2,340～2,300	60.1°

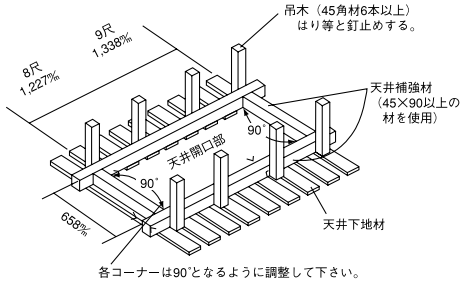
9尺タイプ

高さ調整プレート番号	H寸法（㎜）	角度
①	2,700～2,660	65.4°
②	2,660～2,620	63.3°
③	2,620～2,580	62.0°
④	2,580～2,540	60.3°
⑤	2,540～2,500	57.8°

施工手順

1 開口部を設け、補強材の取付

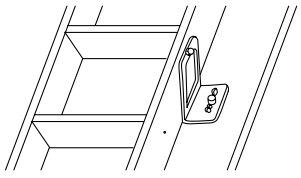
・天井開口部に補強材を取り付ける。
天井開口寸法：
8尺タイプ658㎜×1,227㎜
9尺タイプ658㎜×1,338㎜
・吊木ははり等に釘止めし、天井強度を確保する。



お願い 天井にたわみ、歪みなどが生じると、うまく作動しません。
設置場所の全体的な強度を確かめてください。

2 はしご本体を収納ボックス本体から取り外す

・はしご受け金具かのナットを6ヵ所外して、はしご本体を収納ボックス本体から取り外し、はしご本体を一時他の場所で保管してください。



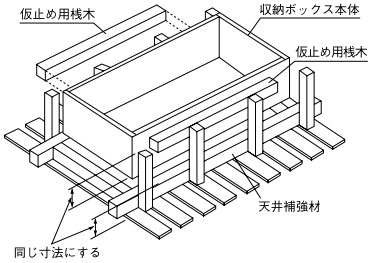
施工手順

3 収納ボックス本体の仮止め

※この時、天井ふたを閉めた状態で作業してください。

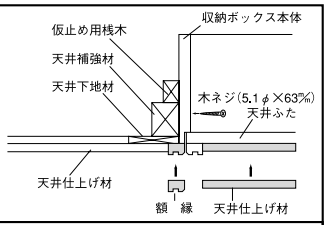
①仮止め用桟木の取り付け
天井下地から天井補強材上端までの寸法を測り、収納ボックス本体の下端から同じ寸法の位置に仮止め用桟木を打ちつける。

②収納ボックス本体を天井開口部に落とし込み、仮止め用桟木が天井補強材に架かるようにそっと置く。



4 収納ボックス本体の本固定

・開閉具合確認後、収納ボックス本体内面から同梱の木ネジ（5.1φ×63㎜）で長手方向4本以上、短手方向3本以上で収納ボックス本体を天井補強材と本固定する。



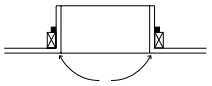
⚠ 注意 収納ボックス本体の本固定時には閉まっている天井ふたには乗らないでください。落下しケガをするおそれがあります。

お願い ラッチが確実に作動しているかどうか確認してください。
天井ふたがスムーズに開閉するか確認してください。

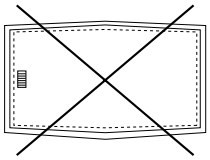
5 収納ボックス本体にはしご本体を取り付ける

収納ボックス本体のはしご受け金具のナットを6カ所外し、はしご本体を取り付けてください。

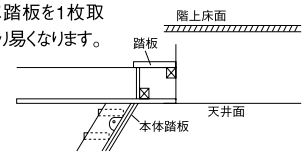
お願い 天井面と収納ボックスが面一になるように取り付けてください。



収納ボックス本体の板面は反らさない。反っているとラッチがかかりにくくなったり、その他の金具に不具合が生じます。
天井ふたを開閉し、ラッチのかかり具合やその他金具の具合を確認してください。



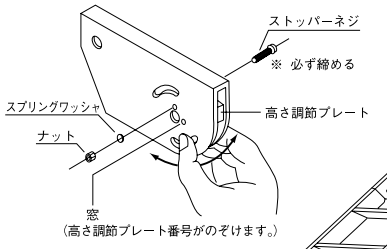
本体と踏板と階上床面までの間隔が広くなる場合は、枠板上面に踏板を1枚取り付けると昇り易くなります。



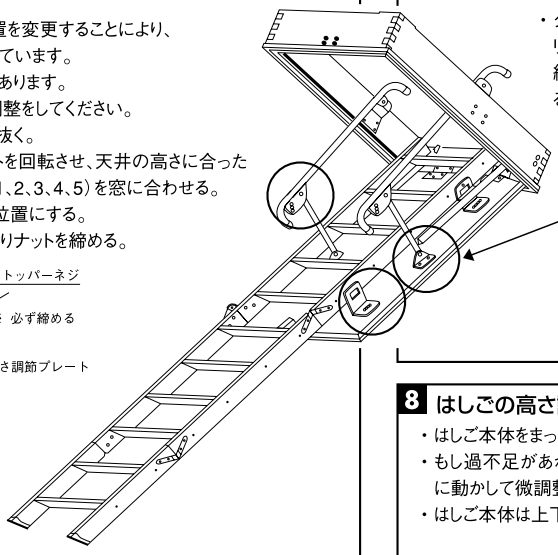
⚠ 注意 踏板の強度は十分に確保してください。（ケガの原因となります。）

6 はしごの角度調整の手順

・高さ調整プレートを回転させて位置を変更することにより、はしごの角度をかえられる様になっています。
・天井の高さによって変える必要があります。
下記の図と表を参考にして角度調整をしてください。
1.ナットを緩めて、ストッパーネジを抜く。
2.表を参考にして高さ調整プレートを回転させ、天井の高さに合った高さ調整プレート番号の刻印（1、2、3、4、5）を窓に合わせる。
3.高さ調整プレートは左右共同じ位置にする。
4.ストッパーネジを差し込み、しっかりナットを締める。



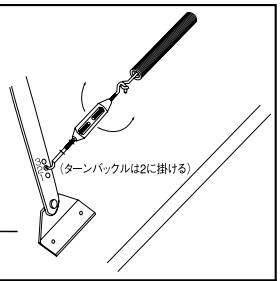
天井の高さと高さ調整プレート番号を合わせてください。



高さ調整プレート番号		①	②	③	④	⑤
天井高さ（㎜）	8尺	2,500～2,460	2,460～2,420	2,420～2,380	2,380～2,340	2,340～2,300
	9尺	2,700～2,660	2,660～2,620	2,620～2,580	2,580～2,540	2,540～2,500
高さ調整プレートの位置						
		1	2	3	4	5

7 天井ふたの開閉の強さ調整手順

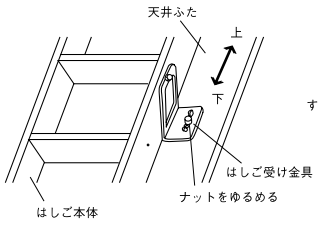
・ターンバックルでスプリングの強さを調整する。締めると強くなり、緩めると弱くなります。

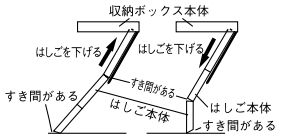


お願い ターンバックルを調整する時に、ドライバー等をターンバックルの中に通して回す場合はネジ山がつぶれないように注意します。ターンバックルは左右にあります。同じように調節します。

8 はしごの高さ調整

・はしご本体をまっすぐに伸ばして、その長さに過不足がないか確認します。
・もし過不足があれば、はしご受け金具カット（4カ所）をゆるめ、はしご本体を上下に動かして微調整します。
・はしご本体は上下それぞれ約20%の範囲で調整出来ます。



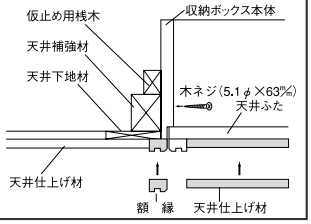


⚠ 注意 ゆるめたナットは、調整後しっかり締め直してください。
危険ですのではしご本体は必ずすきまのない様に調整してください。

最後に総チェックを行ってください。

・ナット、ネジ等の締め忘れがないか確認してください。
・各部の破損がないか確認してください。
・ナット、ネジ等の増締めを行ってください。
・はしご本体が確実に床面に着いているか確認してください。
・はしご本体にすき間がないか確認してください。

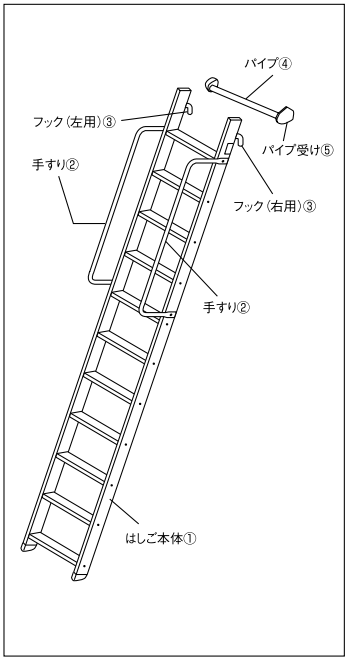
⚠ 注意 ・閉まっている天井ふたには乗らないでください。

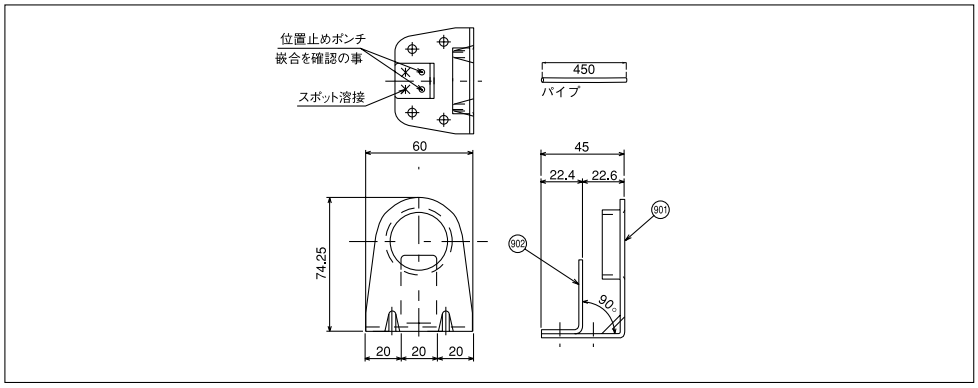


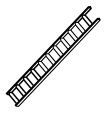
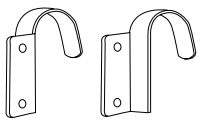
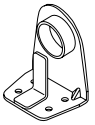
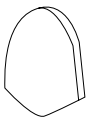
ロフト用はしご（木製）

姿図及び梱包内容

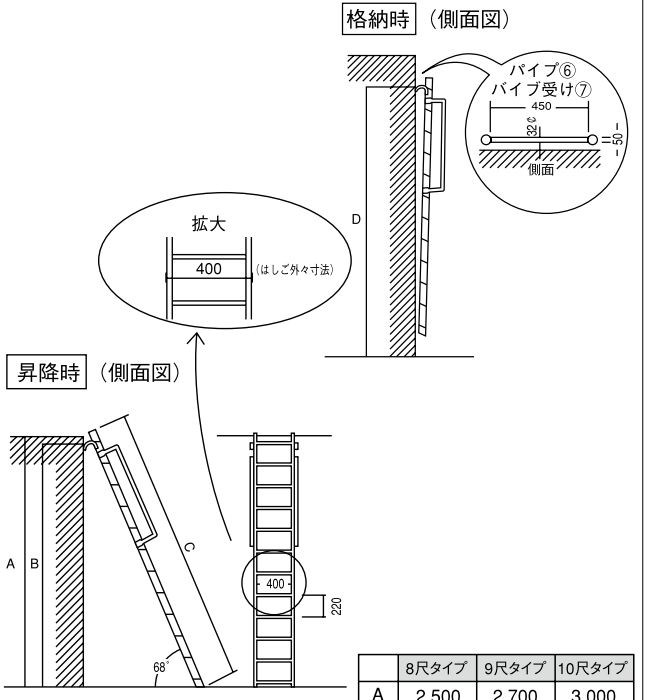
8尺タイプ　9尺タイプ　10尺タイプ





	はしご本体側	てすり側				
部材名	1.はしご本体	2.手すり	3.フック（右用・左用）	4.パイプ	5.パイプ受け	6.ブラケットカバー
部材図						
数　量	1	2	左右各1	2	4	4
		トランスネジ、ナット、スプリングワッシャ各8		タッピングネジ　16本		

寸法図



	8尺タイプ	9尺タイプ	10尺タイプ
A	2,500	2,700	3,000
B	2,430	2,630	2,930
C	2,789	3,001	3,309
D	2,700	2,950	3,218

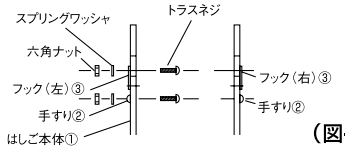
単位:ミリメートル

施工手順（ロフトはしご）

1 取り付け場所に強度のある構造体を用意してください。

2 はしごに手すりを左右に取り付けてください。（図-1）

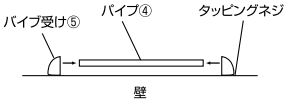
3 はしごにフック（右）フック（左）を取り付けてください。（図-1）



（図-1）

4 パイプにパイプ受けを差し込んでください。この時、昇降用と収納用がありますので忘れないでください。（図-2）

5 パイプ受けを構造体にタッピングネジでしっかりと取り付けてください。この時、昇降用と収納用がありますので忘れないでください。



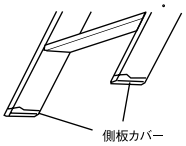
（図-2）

6 クッションゴム・下部カバーの取付け

はしご本体の底部に下部カバーを取付けます。

●はしご本体が収納時に壁（クロス）や巾木に当たる場合は、付属のクッションゴムを貼り付けてください

※側板カバーを外した場合



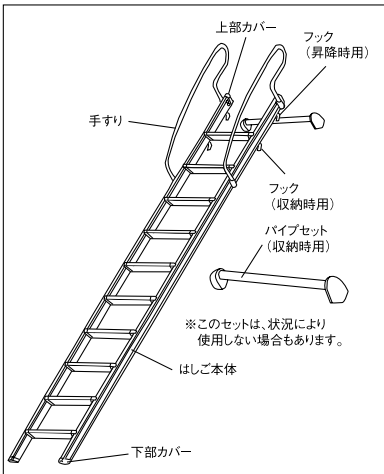
お願い　クッションゴムを貼る際にホコリや油分が無いことを確認してください

⚠ 注意

●取り付け場所は強度のある構造体にしっかりと取り付けてください。　●床面にはしご下部（ゴムキャップ）がしっかり接地するように取り付けてください。
●商品の解体、改造、仕様変更は絶対にしないでください。　●取り付け終了後ナット、ビス類の緩みがないか確認してください。
●ロフト用はしごの最大許容荷重は**100kgです**。パイプ受けは確実に取り付けてください。

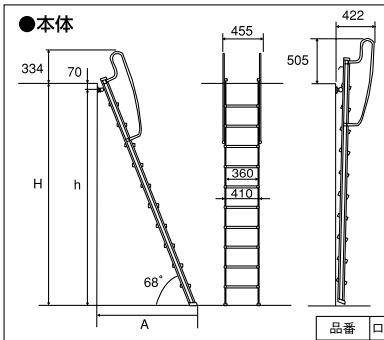
ロフト用はしご（アルミ製）

姿図及び梱包内容



	名　称		数量
はしご本体側	はしご本体		1
	部品箱		1
	フック	4ヶ	
	フック取付けビス（サラM5X16）	8本	
	クッションゴム	2ヶ	
	手すりスペーサー	4ヶ	
	転倒防止ベルト	1ヶ	
手すり側	手すり		2
	部品袋		1
	手すりブラケット	4ヶ	
	手すり取り付けビス（サラM5X40）	8本	
	ビス座	8ヶ	
	ビスキャップ	8ヶ	
	パイプセット		2
	施工説明書		1
	取扱説明書		1

寸法図

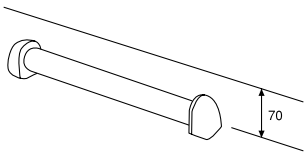


品番	ロフト高（H）	パイプセット位置（h）	A寸法	段数
7尺用	2100	2030	969	8
8尺用	2500	2430	1131	10
9尺用	2700	2630	1212	11

施工手順

本体組み立て前の準備

パイプをはしご本体に取り付けます

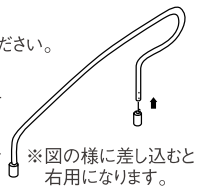


1 はしご本体の組み立て

手すりにブラケットを差し込んでください。

●手すりには左右ありませんが、手すりブラケットを差し込む方向により左右が出来ます。

●手すりと手すりブラケットの穴を合わせてください。

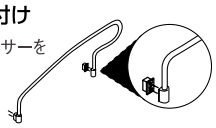


※図の様に差し込むと右用になります。

2 手すりスペーサーの取付け

手すりブラケットに手すりスペーサーを取り付けてください。

●スペーサーには上下ありません。



お願い　手すりブラケットに手すりスペーサーを確実にはめ込んでください。

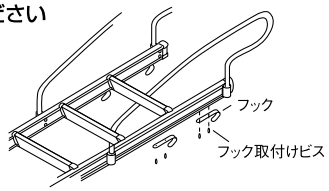
3 手すりの取付け

●はしご本体の側面の開口部に手すりスペーサーを差し込み、はしご本体の内側より左右の手すりを、手すり取付けビスでしっかりと固定してください。

●ビスキャップはビスが確実にしまっていることを必ず確認してください。

4 はしご本体にフックを取付けてください

●フックはビスで確実に固定してください。使用中にフックが取れると重大な事故につながります。



⚠ 注意

●フックはビスで確実に固定してください。使用中にフックが外れると脱落し破損、ケガをするおそれがあります。

5 ベルトの取付け

倒れ防止の為、はしご本体とパイプを転倒防止ベルトで連結してください。

⚠ 注意

●転倒防止ベルトは、しっかりとパイプ及びはしご本体に固定してください。事故ケガの原因となり危険です。

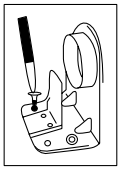
6 部品の取付け

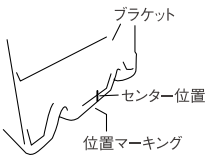
パイプの取付け

❶ ブラケットのセンター位置と壁面のマーキングを合わせてビス止めをする（ビス4本）

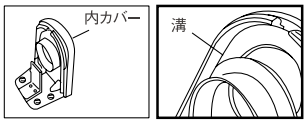
⚠ 注意

●付属のビスでしっかりと確実に取付けてください。

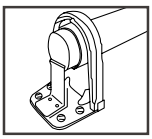




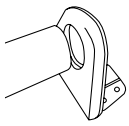
❷ 内カバーの溝をブラケットに差し込む。



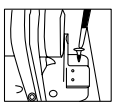
❸ パイプを差し込む。この時、パイプが止まるまで差し込む事。



❹ もう一方のブラケットは止まるまでパイプに差し込む。この時内カバーはあらかじめブラケットにセットしておいてください。



❺ 内カバーのセンター位置と壁面のマーキングを合わせて、ビス止めをする。（ビス4本）

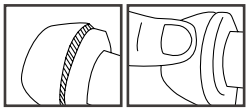




⚠ 注意

●付属のビスでしっかりと確実に取付けてください。

❻ 外カバーを取付ける。この時、内カバーの溝に外カバーのリブを差し込み、外カバーのツメがかかって、「パチン」と音がするまで押し込んでください。





はしご本体の組立

❶ 手すりに手すりブラケットを差し込む。

⚠ 注意

●手すりに左右はありませんが、手すりブラケットを差し込む方向により左右が出来ます。

●手すりと手すりブラケットの穴を合わせてください。



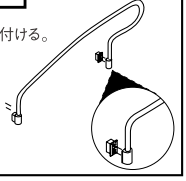
※図の様に差し込むと右用になります。

❷ 手すりブラケットに手すりスペーサーを取付ける。

⚠ 注意

●手すりスペーサーに上下はありません。

●手すりブラケットに手すりスペーサーを確実にはめ込んでください。



施工終了後

●使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

安全上のご注意

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **注意** この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

施工終了後

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

・ぶら下がり禁止!
棚板等にお子様がぶら下がったり、上に乗って遊んだりすると、板が破損したり、脱落してケガの原因となりますので絶対にしないでください。

必ずおこなう

・開梱後は換気をおこなってください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。
ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・輸送・保管は慎重に!
輸送の際には、荷崩れや衝撃に十分注意してください。また、保管時には、水平な場所に平積みしてください。

・下地材の上から施工してください。
必ず壁の下地材の上から貼りあげてください。直接柱、間柱に打ちつけると、パネル自体に強度がない為、破損しやすく、また構造躯体自体の強度低下を招き危険です。

集成カウンター・集成フリーサイズ板

集成材の施工における注意について

集成材は無垢材の集積で、性能としては無垢の1枚ものよりも安定していることは事実ですが、仕上がりの含水率は乾燥すれば収縮し、湿気を吸えば膨張することが木材という性質上避けられません。こうした性質によって、施工後に亀裂、隙間、波状凹凸などが発生することがあります。これらの不具合現象は施工の方法、仕口、アイデアによって下記の点について配慮してください。

①.弊社の集成材は含水率を10±2%にしております。
②.塗装品は湿度変化に対し、安定した特質をもっております。
③.無塗装品は長期の保管や放置によって変形することがあります。
④.機能性住宅では室内が乾燥傾向にありますので配慮が必要です。※1
⑤.湿気の多い立地での住宅では膨張傾向にありますので配慮が必要です。※2
⑥.無塗装品では片面のみの塗装では変形等の不具合の原因となります。必ず裏面も塗装してください。
⑦.下地の構成材がグリーン材であったりすると吸湿し、変形することがあります。
⑧.雨ぬれした製品は不具合の原因となります。

※1 住宅によっては完成後の室内平衡含水率が7%前後という特性があり、乾燥収縮は幅広製品では影響が顕著であることが見受けられます。
とくに、階段の踊り場や2段、3段廻りの踏板では固定に用いる釘、ビスの本数や位置が収縮を阻害し、亀裂が発生する場合があります。
収縮することを予見した仕口で「逃げ」をつくってください。
※2 乾燥と反対にこの場合も幅広製品ほど寸法変化が大きくなりますので同じように配慮してください。

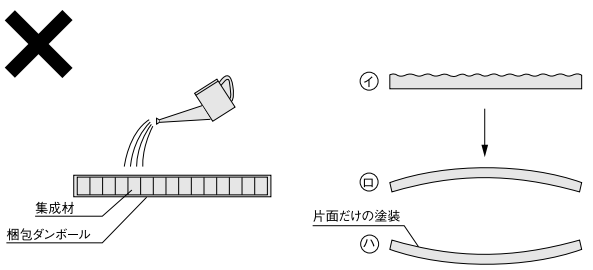
これらの配慮は部材どおしの取り合いによっては釘、ビスの使用が避けられないことがあります。その際は材の動きに釘、ビス類が追随できるように径、長さ、材質、本数、位置を決定し、できるだけ「少なめ」にしてください。

施工の留意点

集成材製品は天然乾燥、人工乾燥および養生によって、可能な限り反りや狂いを止めてありますが、取り付け場所や使用条件などが悪い場合、経時変化として、反りや狂いを生じることがあります。このため、これらの製品を使用、施工する際には次の点に注意してください。

直接的要因による反り・狂い

直接的要因



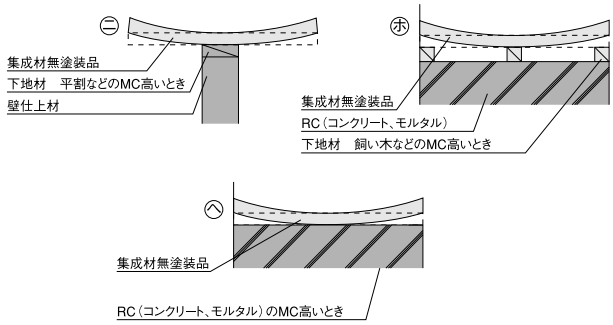
集成材は梱包し出荷するときは含水率を10%（季節によっては13%）程度に調湿仕上げしていますが、輸送途中や各所での保管時、あるいは施工途中で水濡れさせますと、次のような現象を引き起こします。塗装品の場合は、これらをある程度防止することができます。

●濡れた表面は、初期段階で凹凸を生じます。この現象は梅雨期や長雨の続く時期にも発生します。塗装品ではこの現象を軽微におさえることができます。（図㋑）
●次の段階では、木材内部に水分傾斜が発生し、含水率の高いところは膨張が始まります。全体的に変形は明らかになってきます。（図㋺）
●片面だけの塗装でもこの現象は生じます。表面だけの塗装では、裏面が膨張し反りが発生します。（図㋩）

⚠ 注意
当社集成カウンター・集成フリーサイズ板は住宅内装用部材であるために屋外に使用した場合、雨漏れ、太陽光により腐れ、割れ等の劣化が進む原因になりますので、屋外に使用しないでください。

間接的要因による反り・狂い

間接的要因



巾広材では店舗用カウンター、対面式キッチンカウンター、店舗用ディスプレイ台などがあります。巾狭材では笠木が類似します。下地材の含水率（以下MCと略）が20%を超えますと水分の移動が始まり、反りが生じます。ズブ生と称するMC100%を超えるものでは、反りの矢高は20～30%にも及びます。下地材には乾燥材を使用し、集成カウンター、集成フリーサイズ板は塗装仕上げしたものをお使いください。取り付けはボンドと木ネジ併用。使用するボンドは酢ビ系（木工ボンド）は避け、ウレタン系（IW-310 ⇨下表）やエポキシ系または樹脂シート専用ボンド（⇨下表）を使用してください。

●RCの乾燥状態が良好でも、下地材のMCが高い場合は、反りが発生します。
（図㋭㋬）また、RCのMCが高く、下地材のMCが低い場合は、徐々に反りが出てきます。
（図㋣）RCの防湿処理を行い、乾燥した下地材を用い、集成カウンター、集成フリーサイズ板は塗装仕上げしたものをお使いください。接着剤はウレタン系やエポキシ系を用い荷重の上、養生してください。
●RCへの直貼りはMCの状態をよくチェックしてください。15%以上では反り発生となります。防湿処理を行い、集成材とRCの接着は、ウレタンシート1.0～2.0㎜を入れてください。不陸調整はもちろん、接着効果も上ります。
集成材は塗装品を用い、裏面に#100くらいのサンディングを行った上で、ウレタン系やエポキシ系接着剤または樹脂シート専用ボンドを塗布し、荷重の上、養生してください。

〈接着剤〉

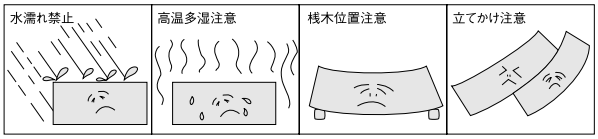
	品　番	設計価格/本
IW-310	ZY1211	¥2,762（¥2,630）
樹脂シート専用ボンド	ZY4121	¥1,785（¥1,700）（500g入）

集成カウンター・集成フリーサイズ板

施工上のご注意

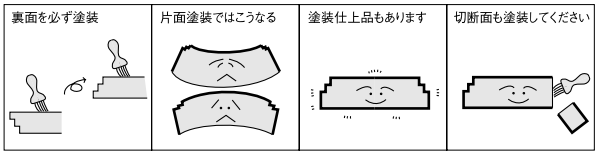
製品の保管・管理

温湿度の変化によって反り、狂いを発生することがありますので、湿度の高いところでの保管は避けてください。特に雨に濡らすことはもちろん、梅雨時の保管場所にも注意してください。
原則として平積みしてください。この場合、長さや巾によって、正しく桟を入れてください。ピッチは450㎜以下として下さい。



塗装における注意点

●無塗装品の現場塗装を行なう場合は、片面だけの塗装は水分、湿度の吸湿状態に片寄りが生じ、反りや狂いの原因になりますので必ず裏面をあらかじめ塗装してから取り付けてください。
●塗装品を現場で切断して使用される場合、反りや狂いが生じないよう必ず切断面を塗装してください。
●塗装は品質の点からウレタン系塗料をおすすめします。また、仕上りをよくするため、2回以上塗装してください。着色ステイン、あるいはカラー塗装をご使用になる場合は、材によっては仕上り色が異なることがありますので、塗装前にテスト塗りしてご確認ください。



雨などに濡れた場合の処理方法

集成カウンター・集成フリーサイズ板は乾燥しておりますが、運搬中または施工中に水濡れ・洗い作業で水分を与えますと、基材のふくれや割れ、変色などの発生原因となります。
万一濡れた場合には、すぐに乾いた布などでふき取り、乾燥させてから養生してください。

ササクレの防止方法

集成カウンター・集成フリーサイズ板の切り込みカットをされる場合は、基材のササクレを防止するために、鉛筆などによる墨付けの後、カッターナイフ等で必ずケビキ処理をし、ノコ、ノミ入れを行ってください。

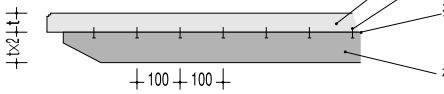
カウンター使用の場合

カウンター等にご使用の場合は反り、狂い防止のため裏桟の取り付けを行ってください。

反り防止用の桟木、当て材の使用について

カウンター等にご使用の場合は反り、狂い防止のため裏桟の取り付けを行ってください。

巾広材では反りや狂いが生じやすくなります。従って裏面、切断面を含む塗装仕上げはもちろんのこと、桟木や当て材などによって、反り防止を行なう必要があります。

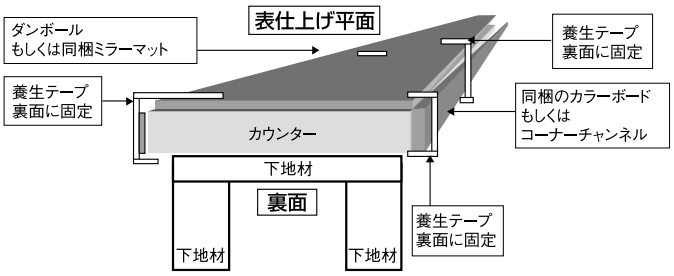


モクネジピッチは100㎜を目安にしてください。

天板ー 6面を完全塗装してください。
モクネジー 硬い材質ではキリモミを行ってください。
接合部ー 接着剤を使用する場合はウレタン系・エポキシ系の接着剤を使用してください。
桟木ー カウンターなどの板厚の倍以上をとってください。桟木の間隔は500㎜を目安にしてください。

●以上のような現象をくいとめるには、塗装仕上品を採用することが最も効果的です。巾広材ではあらかじめ反り防止桟を用いることも効果があります。しかし一度反ったものを元に戻すには、相当の強度を必要としますので、この段階で反り防止桟を用いても効果は期待できません。
●階段材のように、施工によって組み合わされ、強度が分散される場合は問題ありませんが、カウンターやテーブルのように比較的オープンな用途では、反りが顕著に出ることが多いのが通例です。従って塗装品の採用をあらためてお願いします。

塗装済みカウンター養生方法について



⚠ 注意

①.表平面にキズがつかないように、ダンボールもしくは同梱のミラーマットを上においてください。
②.コバ面にキズがつかないようにダンボールを折り返すか同梱のカラーボードもしくは、コーナーチャンネルをご使用ください。
③.養生剥がれを防止するために上記2項目にて処理後、養生テープをカウンター裏面に貼り付け全体の養生を固定してください。
①～③の項目を守られない場合での剥離・キズにつきましては品質影響としての保証はいたしかねます。

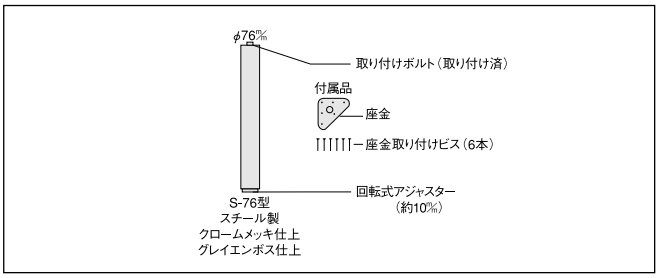
施工終了後

養生

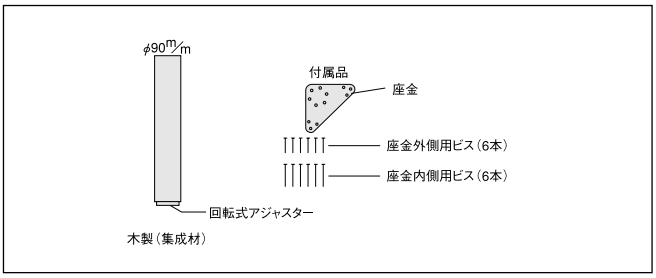
施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤ等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着力が強く、木部の繊維や塗膜のハガレの原因になりますので、別売の養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

カウンター用脚

S−76型



W−90型

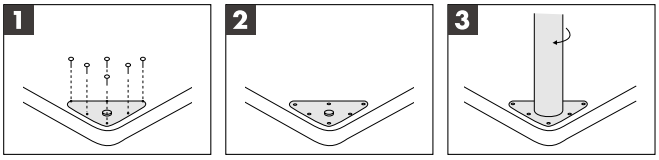


脚の長さは調整できません。

S−76型では長さ調整はできません。それぞれの長さに天板の厚みを加えたものが、カウンターやテーブルの高さとなります。
接地面の微調整はアジャスターを回転させて合わせてください。（約10㎜調整可）

座金と天板（カウンター・テーブルなど）の取り付け

テーブルなど重量のあるものは、天板を逆に置いた上で作業してください。この場合、天板には位置決めの上、下穴をあけてください。材種によってはビスが破損することもありますので、この作業は確実におこなってください。下穴の基準はネジの山から山の寸法に対し80〜85％を目安にしてください。
（例）4㎜の径のとき4㎜×80％=3.2㎜　4㎜×85％=3.4㎜このあたりのドリル刃φを選んでください。

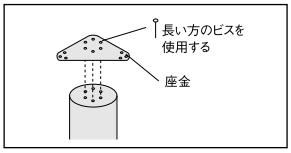


カウンター・テーブルの高さと脚の調整

本製品は脚の長さが650㎜となっていますので、切断して高さを調整してください。あらかじめ、カウンターやテーブルの高さをお決めの上、必要な長さに切断し、座金の取り付けを行ってください。
接地面の微調整はアジャスターを回転させて合わせてください。（約10㎜調整可）

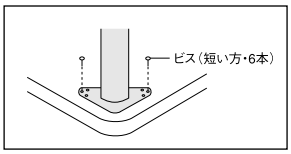
脚と座金の取り付け

座金中央部のネジ穴に、同梱のビスの長いもの（6本）をネジ込んでください。この場合、あらかじめドリルやキリなどで、下穴をあけておくと容易に作業できます。脚を確実に固定するため、ビスは6本全てをご使用ください。



脚部と天板（カウンター・テーブルなど）の取り付け

テーブルなど重量のあるものは、天板を逆に置いた上で作業してください。この場合も天板に下穴をあけてください。材種によってはビスが破損することもありますので、この作業は確実におこなってください。

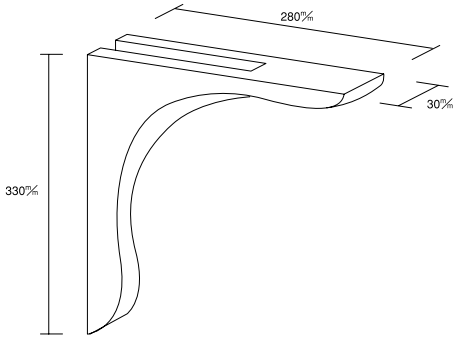


飾り脚

飾り脚の取付け

開梱

次の部品がセットされています。

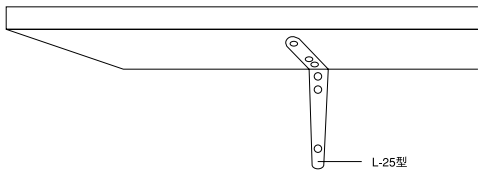


※必ず補強金具としてL-25型（別売品）をご使用ください。

梱包を解いたら製品に不良および問題がないかどうかご確認ください。
水漏れなど不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

1 L-25型の取り付け

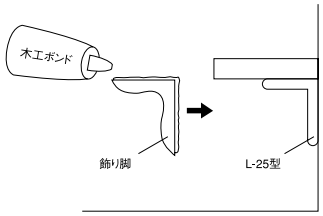
壁面と天板（カウンターなど）の下面のレベルを調整した後、L-25型（別売品）を先に取り付けてください。



品　名	品　番	設計価格/本
L-25 型	SKPL12	¥3,600

確実に固定するためビスは6本全てをご使用ください。
この場合、あらかじめドリルやキリなどで、下穴をあけておくと容易に作業できます。

2 飾り脚の取り付け



L-25型の上からかぶせるようにして取り付けてください。
取り付け時には飾り脚の木口面に木工用ボンドを塗布し、フィニッシュにて確実に固定をしてください。

安全上のご注意

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **注意**　この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

施工終了後

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

必ずおこなう

・化粧造作材の固定を確実におこなってください。
化粧造作材を後かぶせで固定する際、落下して、ケガの原因となりますので、樹脂シート専用ボンド併用にて、確実に本体を下地材へかぶせ込み、固定してください。

・下地材の上から施工してください。
必ず壁の下地材の上から貼りあげてください。直接柱、間柱に打ちつけると、パネル自体に強度がない為、破損しやすく、また構造躯体自体の強度低下を招き危険です。

・開梱後は換気をおこなってください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。
ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・輸送・保管は慎重に!
輸送の際には、荷崩れや衝撃に十分注意してください。また、保管時には、水平な場所に平積みしてください。

・接着剤と釘を併用してください。
施工の際は必ず接着剤と併用して釘をお使いください。接着が甘いと脱落の原因となり危険です。

・下地材の取り付けは確実に固定してください。
化粧造作部材が落下して、ケガの原因となりますので、下地材の取り付けは壁面より、柱・間柱に確実にステープルで固定してください。

天井

禁止

・火気厳禁
特定の条件下において、外部の火気による発火の可能性があります。
火気には十分お気を付けください。

・荷重厳禁
天井板は耐荷重に優れていません。施工前・施工後共に荷重を掛けると破損及びケガの原因となります。

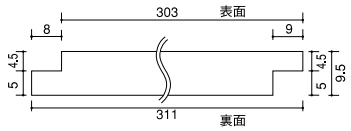
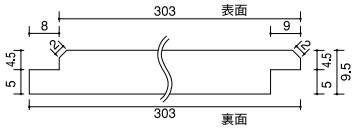
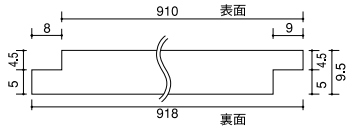
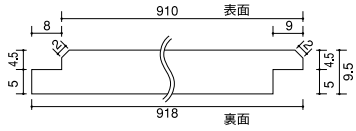
サラッとM

搬入時における取扱い注意事項

・野積みしないでください。 ・屋内の平らな場所に保管してください。 ・床面からの湿気を防ぐように置いてください。
・TVOCの揮発があるところに置かないでください。

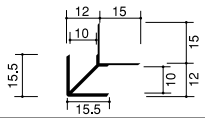
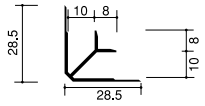
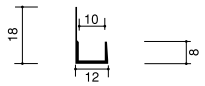
開梱

寸法詳細図

断面形状（なぐり・のこめ・たてすじ）	断面形状（フラット）	製品サイズ（㎜）
		1尺×8尺 2,490×306×9.5
		3尺×8尺 2,490×913×9.5

基材：モイス MOISS

別売品

名　称	断面形状	製品サイズ（㎜）
出隅材（アルミ製）		2,730×27×27
入隅材（アルミ製）		2,730×28.5×28.5
コ型ジョイナー（アルミ製）		2,730×12×18

施工手順

⚠ 注意 ・施工中は仕上げ材の取扱いとして慎重に作業してください。 ・大きな傷については交換が必要となります。

1 下地施工

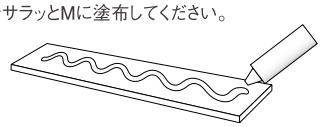
1尺×8尺サイズ使用の場合
・胴縁を303㎜ピッチ又は、合板5.5㎜以上を施工してください。

2 墨出し・割付

取合い、納まりを考慮して割りつけをしてください。

3 接着剤の塗布

接着剤をサラッとMに塗布してください。



・使用接着剤について（アクリル樹脂系エマルジョン形）

推奨メーカー名	推奨接着剤	使用量
コニシ（株）	CK51Hボリパック（1ℓ ボリパック入り）	壁面：156㎖（約0.17本/パック）

⚠ 注意
・接着面のホコリやゴミは取り除いてください。
・接着剤が硬化するまでの仮止めとして、フィッシャー（ピン）ネイル、若しくは両面テープを使用してください。

4 サラッとMの施工

ピンネイルまたは、スーパーフィニッシュネイルで固定してください。（ピッチ100㎜）

■ピンネイル

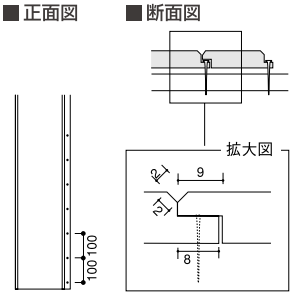
寸法（㎜）	長さ：30/35 径：0.63
メーカー名	兼松日産農林（株）、マックス（株）
工具名	KZ-35P（兼松日産農林社製） TA-235/P35F3（マックス社製）
消耗品	S6-30、35（兼松日産農林社製） P30F3-S、P35F3-S（マックス社製）

■スーパーフィニッシュネイル

寸法（㎜）	長さ：30/35 径：1.05 頭径1.4×1.3
メーカー名	兼松日産農林（株）、マックス（株）
工具名	KZ-50SF（兼松日産農林社製） TA-255/F55MO（マックス社製）
消耗品	SF-30、35（兼松日産農林社製） F-30MO、35MO（マックス社製）

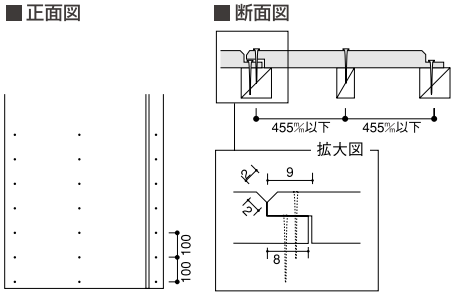
1尺×8尺サイズ

■正面図 ■断面図



3尺×8尺サイズ

■正面図 ■断面図

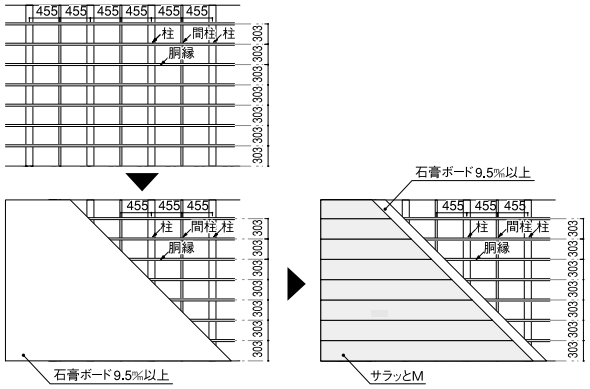


サラッとM

施工図

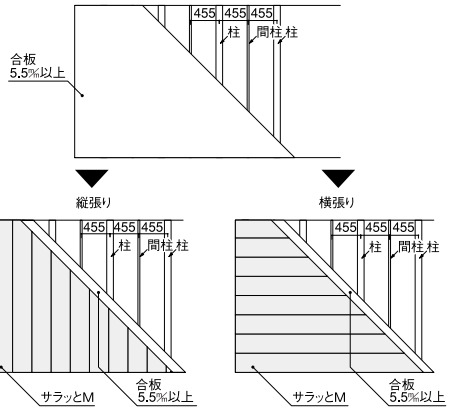
1尺×8尺　横胴縁下地

※303㎜ピッチ以下に下地を施工してください。（取合い、納まりを考慮してください。）

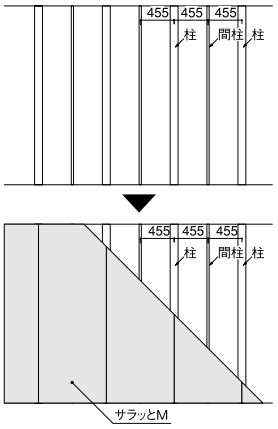


1尺×8尺　合板下地

※厚さ5.5㎜以上の合板を下地に施工してください。

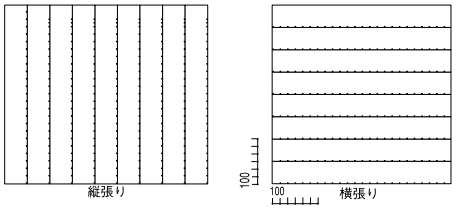


3尺×8尺　直張り

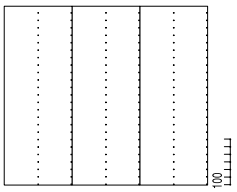


取り付けピッチ

■1尺×8尺

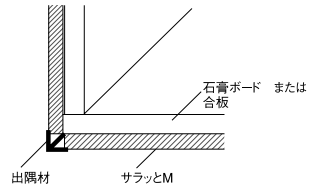


■3尺×8尺

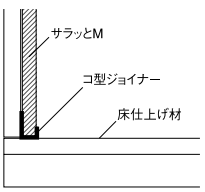


納まり図

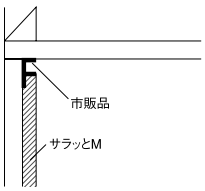
●出隅　出隅材使用の場合



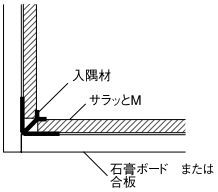
●床　コ型ジョイナー材使用の場合



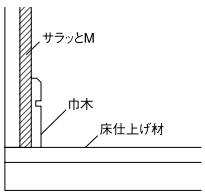
●出隅　出隅材使用の場合（参考例）



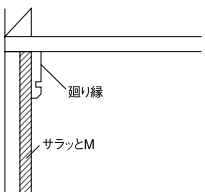
●入隅　入隅材使用の場合



●床　巾木使用の場合



●天井　廻り縁使用の場合



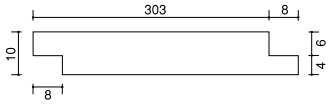
現場での廃材処理について

「サラッとM」を廃棄処理する場合は、ガラス・陶磁器質、またはコンクリート廃材に該当しますので、産業廃棄物処理法に従った廃棄処理を行ってください。

リアルウォール　ジュピーノ

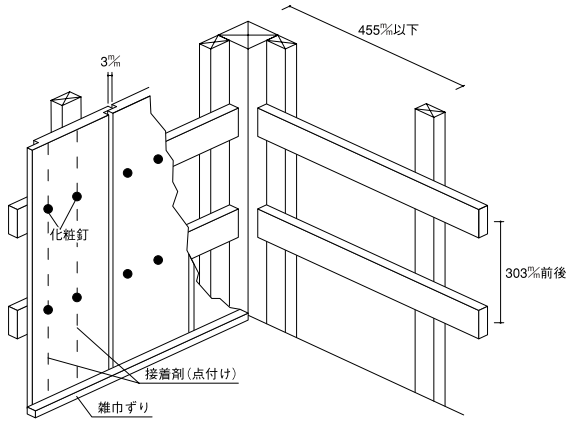
開梱

寸法詳細図

断面形状	製品サイズ（㎜）
表面  裏面	2,430×306×10 （見付巾303㎜＋目透かし3㎜）

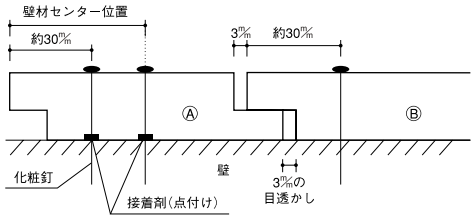
施工手順

1 壁下地の準備



柱・間柱等を455㎜以下に設置し、合板下地貼り、もしくは横方向にも胴縁等を303㎜前後のピッチで設置してください。

2 リアルウォールジュピーノの施工



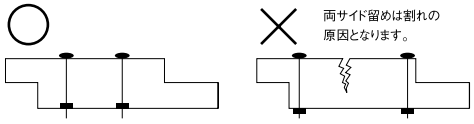
・上図のように壁材に3㎜の目透かしを取り、下地材に合わせて**化粧釘と接着剤（点付け）で施工してください。**壁材Bの継ぎ手から30㎜程のところに、前の壁材Aを押さえるようにして化粧釘を打ってください。
・目透かしの3㎜は付属のスキマゲージをお使いください。

⚠ 注意　接着剤のベタ塗り、S字塗りはしないでください。吸放湿による伸縮で下地の剥離、または表面の割れを生じるおそれがあります。

3 塗装における注意点

現場塗装を行う場合は、裏面も塗装してください。表面のみ（片面）の塗装の場合水分、湿度の吸湿状態に片よりが生じ、反りや、狂いの原因になります。

お願い



無垢材の為、吸放湿により伸縮をしますので必ず目透かしを取って施工してください。
下地への固定は左図の様に板巾方向2ヶ所で施工してください。

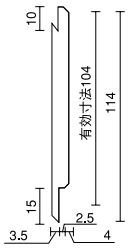
お手入れのしかた

●日常のお手入れは、乾いた布でカラ拭きしてください。
●水拭きはご遠慮ください。
●汚れのひどい時は水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾って拭きとり、乾いた布で仕上げてください。
●ベンジン、アルコール、シンナー、酸性洗剤などの溶剤を使用すると、変色、変質しますので、絶対に使用しないでください。

羽目板 ピノアース／ジュピーノ・ソリッド

パネル

羽目板

断面図	部材名	サイズ	梱包入数
	羽目板 ピノアース／ ジュピーノ・ソリッド	1,818×104×10 2,730×104×10	16 10

雨等の水漏れのない様にご注意ください。

内装仕上げ材の為、雨等の水漏れのない様、注意を払ってください。
変色、カビ発生、割れ、反り等の原因となります。

仮並べ

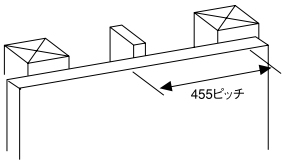
羽目板は天然木を使用していますので、色や木目・節が違います。
施工前に予め色及び柄合わせをしてから貼っていただくと、仕上がりがいっそう美しくなります。

お願い

・施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
・照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

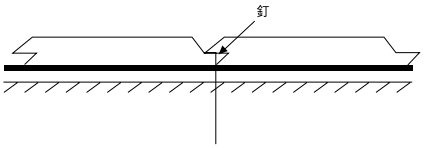
施工手順

1 壁下地の準備



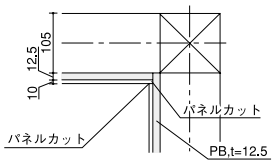
・柱・間柱等を455㎜以下に設置の上、石膏ボード等を貼っておいてください。
・縦貼り時には12㎜あるいは9㎜の合板の捨て貼りをしてください。
（腰壁使用時も同様です。）

2 羽目板の施工

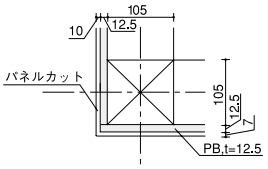


裏面へ木工用ボンド（現場調達）塗布の上、実の隠れ代へ釘を壁下地に向けて、打ち込んでください。（天井に使用時は、特にボンド併用を厳守ください。）

入り隅納まり



出隅納まり



お手入れのしかた

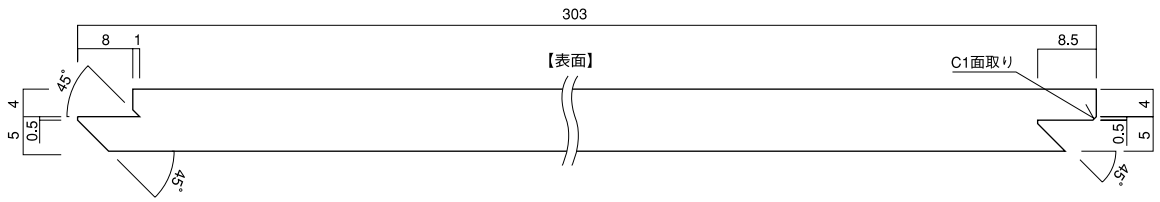
●日常のお手入れは、乾いた布でカラ拭きしてください。
●水拭きはご遠慮ください。
●汚れのひどい時は水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を固く搾って拭きとり、乾いた布で仕上げてください。
●ベンジン、アルコール、シンナー、酸性洗剤などの溶剤を使用すると、変色、変質しますので、絶対に使用しないでください。
●ワックスがけをされる場合は樹脂系ワックスを御使用ください。（塗り床用）

銘木壁材

寸法詳細図・梱包内訳

断面図

（単位：㎜）



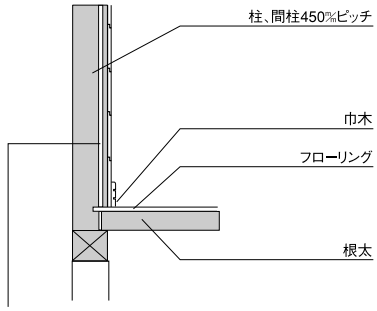
部材名	サイズ		梱包入数	備考
ゼブラ	3,900×303×9	3,700×303×9	3	施工説明書　1部
ウェンゲ				
オーク				
ウォールナット	3,900×225×9	3,700×225×9	4	施工説明書　1部

施工手順

お願い

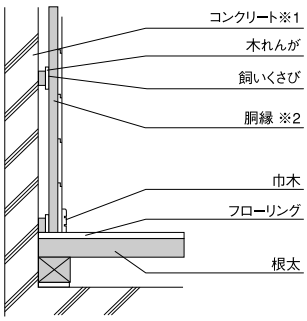
- コンクリート壁は含水率が15%以下になるまでよく乾燥させて下さい。夏で3週間以上、冬で4週間以上かかります。（モルタル水分計で測定）
- 間柱、胴縁等は乾燥材をご使用下さい。施工後波打ちの原因となります。

木造軸組、枠組壁工法（2×4）



●12㎜あるいは9.5㎜の合板の捨て貼りをしてください。

RC工法



RC工法への使用について

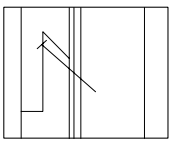
※1 コンクリート下地への施工は、コンクリートの含水率が高い場合、内装壁材が長さ方向に膨張することがあります。従って、長さ方向のジョイント部は下記の表を基準に目透し施工してください。

1 ピッチの確定

下地は450㎜ピッチで、施工してください。
また、内装壁材は施工場所の環境によく馴染ませた上で施工してください。

2 固定

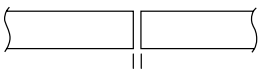
接着剤を併用して、フィニッシュネイルで固定してください。



お願い

コンクリート養生日数とジョイント部の目透し寸法

工期等でコンクリート壁の乾燥が不十分な場合は施工後の伸びによるふくれが生じる事が有りますので、突き付け部の目透し巾を下記表を参考にして決定ください。



長さ方向のジョイント部目透かし寸法

〈冬期の場合の目安〉

コンクリート養生日数	目透し寸法
4週間以上	2㎜以上
2～4週間	3㎜以上
2週間未満	施工は見合わせてください。

羽目ロング

1 開梱

梱包を解いたら数量に不足および損傷等の問題がないかどうかを確認してください。
製品に水濡れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

2 雨等に濡れた場合の処理方法

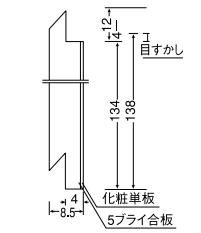
施工中に雨等により濡れた場合は表面単板の割れや変色防止のため、すぐに乾いた布で拭き取ってください。

3 仮並べ

当社壁材には表面に天然木を使用しているため、色や木目に多少の違いが出ることがありますので、施工前に全部の梱包を開いて予め色合わせをしてください。極端な不具合がありましたら、施工前に販売店様または弊社までお申し出ください。施工後のお申し出には応じかねます。

寸法詳細図

■断面図



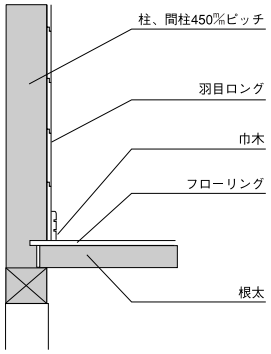
お願い 外部および軒天などへのご使用は絶対にしないでください。

施工手順

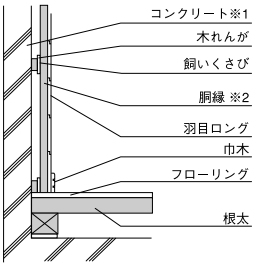
お願い
・コンクリート壁は含水率が15%以下になるまでよく乾燥させて下さい。夏で3週間以上、冬で4週間以上かかります。(モルタル水分計で測定)
・間柱、胴縁等は乾燥材をご使用下さい。施工後波打ちの原因となります。

1 壁下地の準備

木造軸組、枠組壁工法(2×4)



RC工法



体育館等への使用について

※1 体育館用のコンクリート下地への施工は、コンクリートの含水率が高い場合、羽目ロングが長さ方向に膨張することがあります。従って、長さ方向のジョイント部は下記の表を基準に目透し施工してください。

※2 間柱、たて胴縁の間隔は、体育館では人及びボール等の衝撃を考慮して、303㎜ピッチで施工してください。

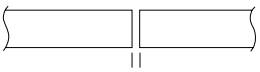
お願い

コンクリート養生日数とジョイント部の目透し寸法

工期等でコンクリート壁の乾燥が不十分な場合は施工後羽目ロングの伸びによるふくれが生じる 事が有りますので、突き付け部の目透し巾を下記表を参考にして決定下さい。

〈冬期の場合の目安〉

コンクリート養生日数	目透し寸法
4週間以上	2%以上
2~4週間	3%以上
2週間未満	施工は見合わせてください。



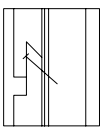
長さ方向のジョイント部目透かし寸法

2 ピッチの確定

住宅では、450㎜ピッチで、体育館では対衝撃性を考慮して303㎜ピッチで施工してください。また、羽目ロングは施工場所の環境によく馴染ませた上で施工すると共に突き付け部に2%以上の目透しをつけて下さい。

3 固定

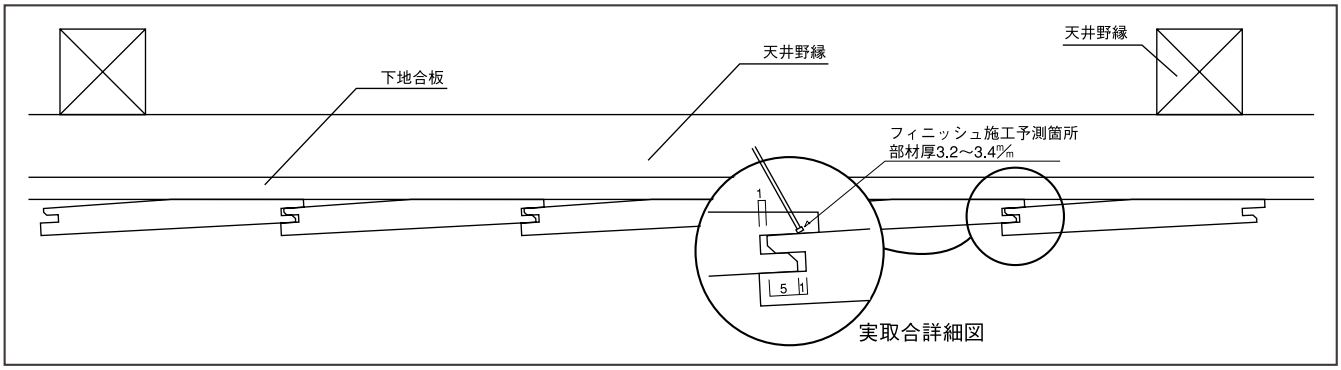
釘はカラーネイル(商品梱包ケースに在中)を使用し、接着剤を併用してください。



鎧天井®

施工資料

施工概略図



1.開梱

梱包を解いたら数量に不足および損傷等の問題がないかどうかを確認してください。製品に水濡れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

2.雨等に濡れた場合の処理方法

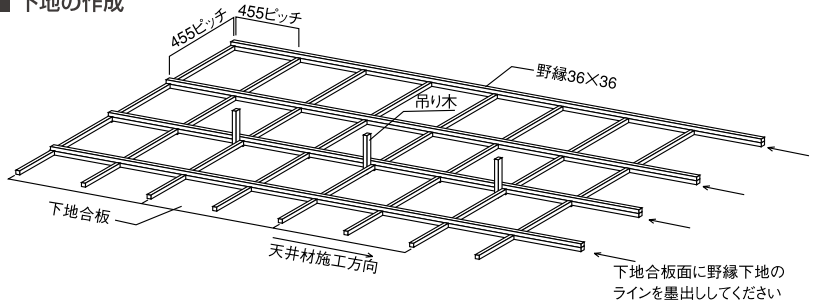
施工中に雨等により濡れた場合は表面単板の割れや変色防止のため、すぐに乾いた布で拭き取ってください。

3.仮並べ

当社壁材には表面に天然木を使用しているため、色や木目に多少の違いが出ることがありますので、施工前に全部の梱包を開いて予め色合わせをしてください。極端な不具合がありましたら、施工前に販売店様または弊社までお申し出ください。**施工後のお申し出には応じかねます。**

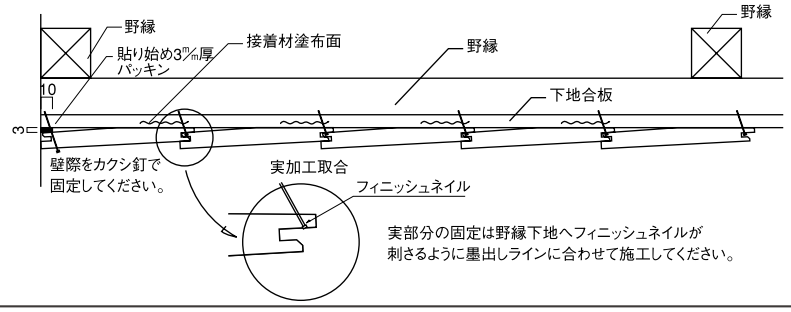
施工手順

1 下地の作成



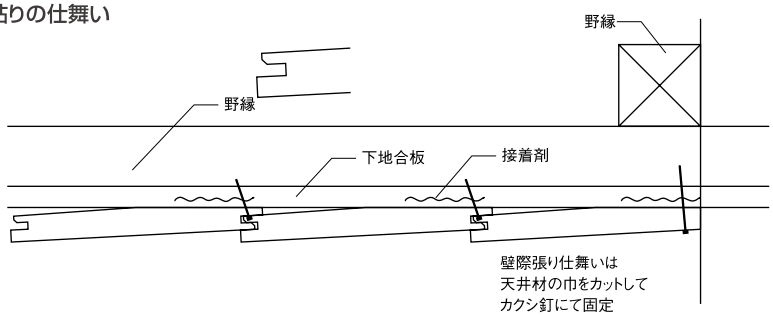
野縁は36㎜×36㎜サイズ以上を使用し、下地合板を貼ってください。下地の完成後に、天井材を固定するために、下地の位置を墨出しして、取り付けの準備をしてください。

2 貼り始め



貼り始めには、3㎜×10㎜のパッキン（現場調達）を天井入隅へ取り付け天井材の角度が2枚目以降と揃うように取り付けてください。施工は天井材の天井接地面にボンド（現場調達）を塗布し、壁際はカクシ釘実側はフィッシュネイルにて固定してください。

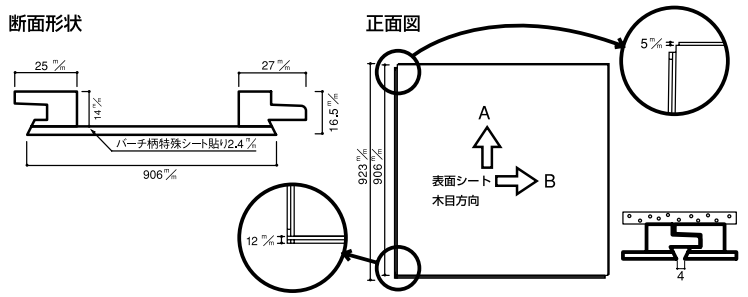
3 貼りの仕舞い



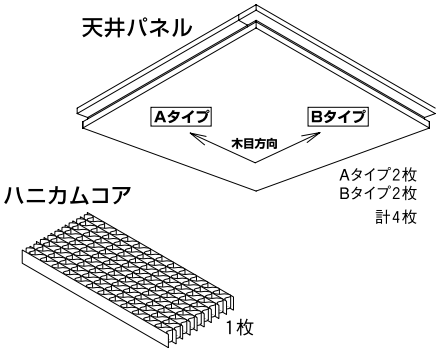
貼り仕舞いの寸法に合わせて天井材の巾をカットし、ボンド（現場調達）を施工して壁際をカクシ釘にて堅固に取り付けてください。

洋風天井

寸法図



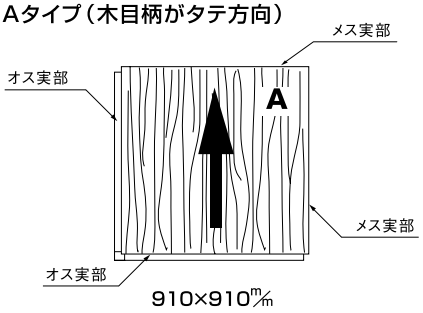
梱包内訳



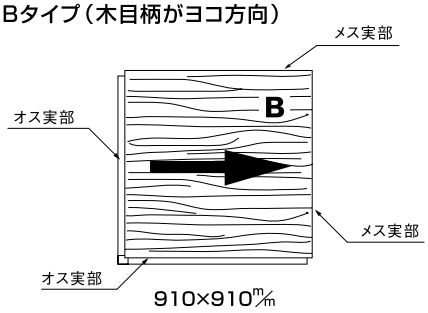
商品の仕様

洋風天井には柄方向が2タイプ（A・B）あります。
施工される前に以下2タイプの商品が揃っているか、ご確認ください。

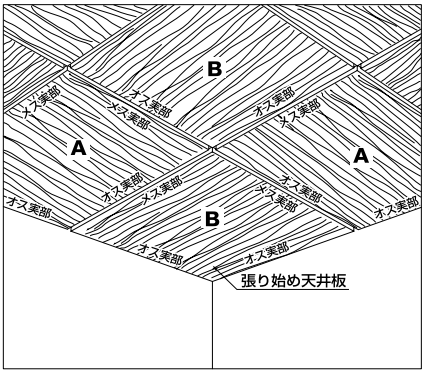
Aタイプ（木目柄がタテ方向）



Bタイプ（木目柄がヨコ方向）



施工参考例



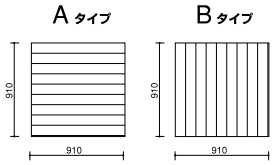
施工前のチェックポイント

●保護フィルムを天井材表面の合わせ部に入れておりますが、天井材は完成品です。傷や汚れが付かないように注意してください。
●照明器具等の取り付けに際しては、吊り木・野縁等による補強を行い、天井板自体には荷重がかからないように施工してください。
●野縁・吊り木等に使用する木材は乾燥材で、通直な物を選んでご使用ください。もしくは、天井板または石膏ボードと接する面にはプレナーをかけてください。

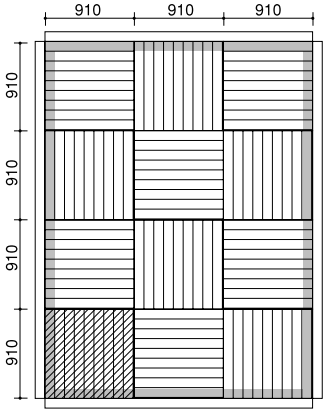
割り付け参考例

施工上の注意

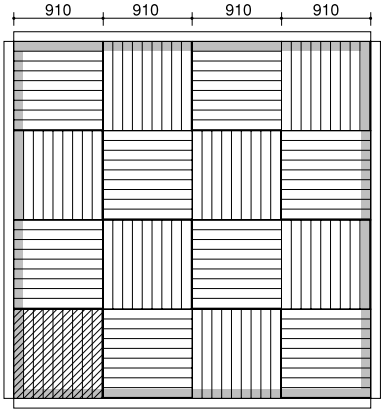
施工時にはオスザネ・メスザネに注意して施工してください。
（天井伏図または仮並べをしてから施工することをおすすめします）



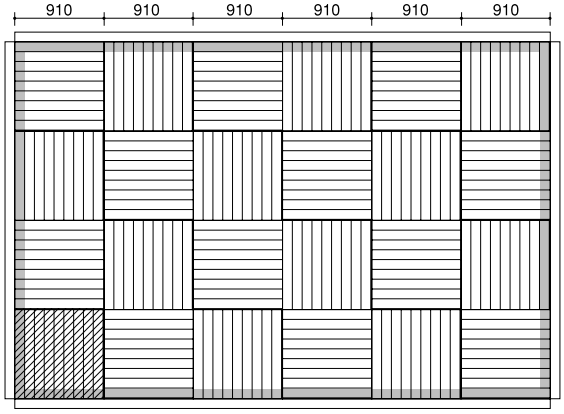
■6帖用
Aタイプ 6枚（3ケース）
Bタイプ 6枚



■8帖用
Aタイプ 8枚（4ケース）
Bタイプ 8枚



■12帖用
Aタイプ 12枚（6ケース）
Bタイプ 12枚

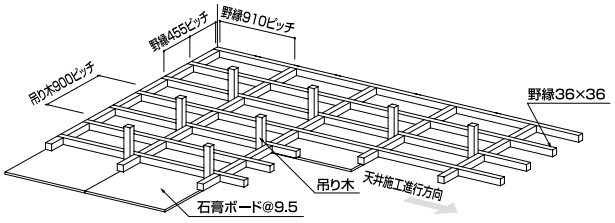


……張り始め天井位置
……カット部分

施工手順

1 下地の作成

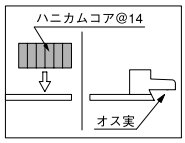
野縁は36×36㎜サイズ以上を使用し、455×910㎜ピッチで格子組にし、9.5㎜厚以上の石膏ボードで捨て張りを行ってください。また、吊り木は900㎜ピッチ内外での施工をお勧めします。
下地の完成後、天井材の割り付けに合わせて墨出しを行ってください。



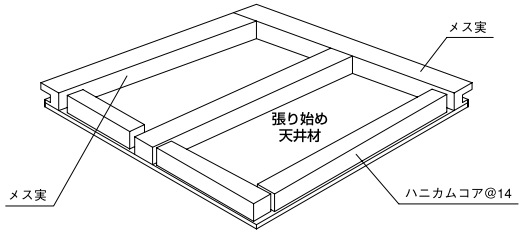
2 天井材のカット

壁際に取り付ける天井材は、現場の寸法に応じて、縦方向、横方向を寸法カットを行い、カットした部分には、同梱のハニカム（@14㎜）を取り付け、木工用ボンドで固定します。

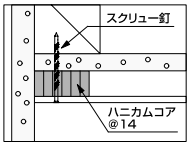
※張り始めの天井材はオス実部、張り仕舞いの天井材はメス実部をカットします。（左図は張り始め用）



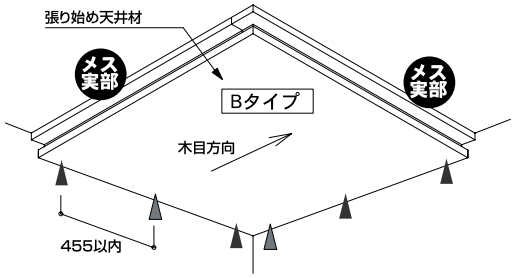
天井材には木目方向が90度違う「Aタイプ」と「Bタイプ」があります。互い違いに施工しますので、天井材伏図を作り、割り付けを施工前に決定し、それに基づいて天井材をカットする必要があります。



3 張り始め

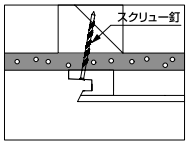


割り付けに基づき寸法カットした天井材を天井に取り付け、壁際部を、スクリュー釘、フィニッシュネイル等で野縁に固定します。
スクリュー釘　　L＝38㎜以上（現場調達）
フィニッシュネイル　L＝45㎜以上（現場調達）
（石膏ボード@9.5㎜以上捨て張りの場合）

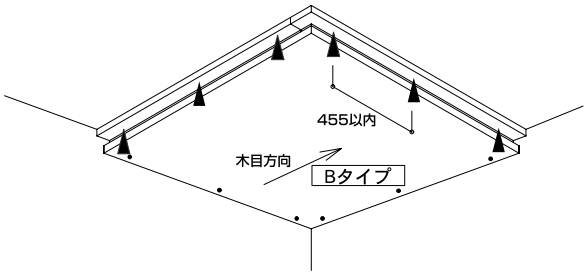


お願い フィニッシュネイルを打つ時に、釘打機頭部から飛び散る潤滑油が、天井材の表面に付着しないように気をつけてください。

4 壁際の固定

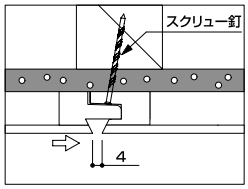


天井材のメス実部を455㎜以内のピッチで、スクリュー釘、フィニッシュネイル等で野縁に固定します。
スクリュー釘　　L＝38㎜以上（現場調達）
フィニッシュネイル　L＝45㎜以上（現場調達）
（石膏ボード@9.5㎜以上捨て張りの場合）



お願い フィニッシュネイルを使用する場合は木工用ボンドで固定してください。また、フィニッシュネイルを打つ時に、釘打機頭部から飛び散る潤滑油が、天井材の表面に付着しないように気をつけてください。

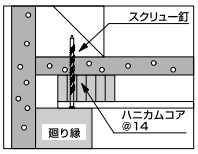
5 2枚目の取り付け

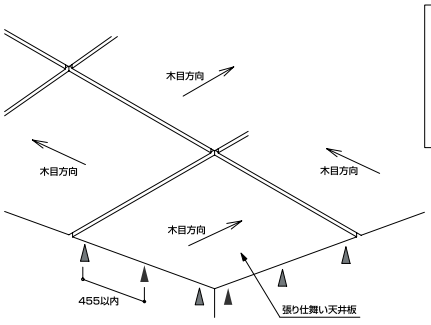


オス実をメス実に目地幅が4㎜になるまで差し込みます。

6 張り仕舞い

割り付けに基づき寸法カットした天井材を天井に取り付け、壁際部を、スクリュー釘、フィニッシュネイル等で野縁に固定します。また、廻り縁を取り付け釘頭を隠します。
スクリュー釘　　L＝38㎜以上（現場調達）
フィニッシュネイル　L＝45㎜以上（現場調達）
（石膏ボード@9.5㎜以上捨て張りの場合）





お願い フィニッシュネイルを打つ時に、釘打機頭部から飛び散る潤滑油が、天井材の表面に付着しないように気をつけてください。

アフターサービス

（アフターサービス）

アフターサービスのお問合せは、お買い求めいただいた販売店・工事店もしくは弊社最寄の支店・営業所にご連絡下さい。
保証期間経過後は、有料修理となります。

（保証期間）

お引渡し日（注1・注2）を起点として、2年間（一部商品は1年間）保証致します。（対象商品と保証期間一覧表参照）

注1）改修工事の場合・・・工事完了日
注2）分譲住宅の場合・・・建築主様への引渡し日

（保証内容）

使用説明書・施工説明書・本体添付ラベル等の注意書きに沿った施工・使用状態で、保証期間内に生じた、弊社の責任に起因する商品の不具合は、無料修理させて頂きます。
（下記の免責事項に該当するものを除く）

（免責事項）保証期間内であっても、次のような場合には有料（商品・部品代＋技術料＋出張料）となります。

①建物の設計・施工に起因する不具合。
②施工説明書に記載された方法以外の施工内容に起因する不具合。
③用途外に使用された場合の不具合（例えば、内装ドアを屋外との仕切りに使用された場合）。
④仕上げ面のキズなどの不具合で、引渡し時に申し入れがなかったもの。
⑤商品発売時、実用化された技術では予防する事が不可能であった現象に起因する不具合。
⑥引渡し後の使用上の誤り、調整不備又は不適切なメンテナンスによる不具合。
⑦取扱説明書記載事項から逸脱した使用に伴う、消耗や摩耗による不具合。
⑧消耗性部品の取替えや修理に起因した不具合。
⑨重量物（ピアノ・本棚・運搬用台車等）の影響による割れや凹みなどの不具合。
⑩冷暖房に起因する室内の乾燥による隙間・反り・キシミ音などの不具合。
⑪保証期間経過後の申し入れ、または不具合発生後速やかに申し入れがなかったもの。
⑫火災・地震・水害・落雷などの天災地変、公害・塩害・ガス害による不具合。
⑬建築躯体の変形など商品以外の不具合で生じた故障及び損傷。
⑭犯罪など不法な行為に起因する不具合。
⑮環境が悪い場所で（例えば、部屋内外の温度が極端に違う部位で、又極端に乾湿を繰り返す場所など）使用されたことに起因する不具合。
⑯犬・猫・鳥・鼠など小動物の害による不具合、納入後一年以上経過したキクイムシなどによる虫害。
⑰経時変化による変退色、汚れ、劣化、摩耗など。
⑱その他、上記免責事項に準ずると見なされるもの、並びに上記免責事項以外で商品に起因する品質不良でないもの。

（対象商品と保証期間の一覧表）

商品分類	保証事項	保証箇所	対象不具合現象	期間
建具（ドア・引戸・開閉間仕切り・収納扉）	使用上著しい支障が生じない事	扉・枠・ガラス・鏡	本体及び開口の変形や変質による機能が損なわれる等（反り・剥れ・割れ）	2年間
	使用上の支障や外観上著しい変質が生じないこと	金具類	部品の破損・変形・作動不良や錆変色などにより機能が損なわれる等	2年間
造作材	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
玄関収納	使用上著しい支障が生じない事	扉・ボックス・ガラス鏡	本体及びボックスの変形や変質により機能が損なわれる等（反り・剥れ・割れ）	2年間
	使用上の支障や外観上著しい変質が生じないこと	金具類・樹脂棚	部品の破損・変形・作動不良や錆変色などにより機能が損なわれる等	2年間
壁厚収納	使用上著しい支障が生じない事	扉・ボックス・ガラス鏡	本体及びボックスの変形や変質により機能が損なわれる等（反り・剥れ・割れ）	2年間
	使用上の支障や外観上著しい変質が生じないこと	金具類・樹脂棚	部品の破損・変形・作動不良や錆変色などにより機能が損なわれる等	2年間
腰壁	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
収納(erabo・押入れ)	使用上著しい支障が生じない事	扉・ボックス・ガラス鏡	本体及びボックスの変形や変質により機能が損なわれる等（反り・剥れ・割れ）	2年間
	使用上の支障や外観上著しい変質が生じないこと	金具類・樹脂棚	部品の破損・変形・作動不良や錆変色などにより機能が損なわれる等	2年間
床材	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
階段材	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
カウンター	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
インテリアボード	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
内装壁材・天井材	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
ウッドエクステリア	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	1年間
キッチン・バス洗面化粧台	別途、商品別の保証書があります。			

その他注意事項

1）遮音性能・床衝撃音遮断性能、吸音性能については、一定の条件下で測定された数値であり、施工現場や居住後における性能を保証するものではなく、保証の対象外とします。
2）また、下地材に関しても前項と同様に保証の対象外とします。

事業所一覧

本　　社　〒738-8502　広島県廿日市市木材港南1-1　TEL（0829）32-3330／FAX（0829）32-5524

北海道・東北

北東北営業所　〒020-0866　岩手県盛岡市本宮6-12-51
☎（019）656-5135／FAX（019）656-5136

仙台営業所　〒983-0002　宮城県仙台市宮城野区蒲生字須賀前103-5
☎（022）388-6131／FAX（022）388-6132

福島営業所　〒963-0111　福島県郡山市安積町荒井字丈部内8-1
☎（024）946-6501／FAX（024）946-6506

札幌営業所　〒062-0020　北海道札幌市豊平区月寒中央通2-4-17
☎（011）853-6565
FAX（011）853-6585

関東北

高崎営業所　〒370-0851　群馬県高崎市上中居町379-1
☎（027）325-5077／FAX（027）327-7855

熊谷営業所　〒360-0803　埼玉県熊谷市柿沼990-1
☎（048）528-5121／FAX（048）526-3858

新潟営業所　〒950-0922　新潟県新潟市中央区山二ツ2-17-24
☎（025）287-0888
FAX（025）257-1157

宇都宮営業所　〒321-0954　栃木県宇都宮市元今泉4-8-19
☎（028）639-5551／FAX（028）639-5444

大宮営業所　〒330-0852　埼玉県さいたま市大宮区大成町1-476
☎（048）666-6311／FAX（048）652-1043

多摩営業所　〒190-0002　東京都立川市幸町1-25-23 ヴィレッジ20 1F
☎（042）537-5500／（042）538-7188
FAX（042）538-7155

関東南

水戸営業所　〒310-0836　茨城県水戸市元吉田町261-4
☎（029）304-6110／FAX（029）304-6120

柏営業所　〒277-0832　千葉県柏市北柏1-10-19
☎（04）7162-2684／FAX（04）7162-2792

岩井出張所　〒306-0608　茨城県坂東市幸神平1
☎（0297）20-8367／FAX（0297）36-2955

千葉営業所　〒260-0843　千葉県千葉市中央区末広2-12-6
☎（043）305-0970／FAX（043）305-0971

東京支店　〒134-0088　東京都江戸川区西葛西6-9-12
第三吉野ビル6F
☎（03）5667-2561／FAX（03）5667-2565

横浜営業所　〒224-0012　神奈川県横浜市都筑区牛久保1-1-7
☎（045）913-0012／FAX（045）913-0025

相模原営業所　〒252-0303　神奈川県相模原市南区相模大野7-11-2リプロ相模大野2F
☎（042）765-7001／FAX（042）765-0033

中部

静岡営業所　〒422-8036　静岡県静岡市駿河区敷地1-3-1
☎（054）237-1000／FAX（054）237-1155

豊橋営業所　〒441-8074　愛知県豊橋市明海町5-31
☎（0532）23-3333／FAX（0532）23-5221

浜松営業所　〒430-0807　静岡県浜松市中区佐藤2-35-18
☎（053）467-1181／FAX（053）467-1182

長野営業所　〒390-0825　長野県松本市並柳1-5-14
☎（0263）27-6301／（0263）29-0788
FAX（0263）24-3083／（0263）29-0755

名古屋支店　〒485-0039　愛知県小牧市外堀4-88
☎（0568）72-8253／FAX（0568）73-1058

三重営業課　〒514-0817　三重県津市高茶屋小森町2851-1
☎（059）238-2030／FAX（059）238-2032

岐阜営業所　〒500-8383　岐阜県岐阜市江添2-9-20
☎（058）268-0074／（058）278-0088
FAX（058）272-5554

岡崎営業所　〒444-0814　愛知県岡崎市羽根町小豆坂169-1
☎（0564）71-7373／FAX（0564）71-1801

北陸・京滋

金沢営業所　〒921-8801　石川県石川郡野々市町御経塚4-72
☎（076）249-6206／FAX（076）240-2242

福井出張所　〒910-0846　福井県福井市四ツ井1-17-30 フジビル1F B号室
☎（0776）57-1305／FAX（0776）57-1308

富山出張所　〒939-8271　富山県富山市太郎丸西町2-7-12 AYタウンB室
☎（076）425-6511／FAX（076）425-6550

京都営業所　〒612-8447　京都府京都市伏見区竹田西内畑町58
☎（075）604-0673／FAX（075）604-0671

滋賀営業所　〒520-3015　滋賀県栗東市安養寺7-6-23
☎（077）554-8555／FAX（077）554-8550

近畿

大阪支店　〒561-0804　大阪府豊中市曽根南町3-20-14
☎（06）6862-1212／FAX（06）6862-0853

南大阪営業所　〒596-0012　大阪府岸和田市新港町10-7
☎（072）437-2921／FAX（072）436-1744

神戸営業所　〒650-0044　兵庫県神戸市中央区東川崎町1-2-2 HDC神戸4F
☎（078）360-5040／FAX（078）360-5059

姫路営業所　〒672-8048　兵庫県姫路市飾磨区三宅3-26
☎（079）233-6400／FAX（079）231-4666

中国・四国

岡山営業所　〒700-0971　岡山県岡山市北区野田3-23-8
☎（086）242-4180／FAX（086）242-4188

山陰営業所　〒683-0003　鳥取県米子市皆生3-6-11
☎（0859）35-0733／FAX（0859）35-0735

広島営業所　〒738-0023　広島県廿日市市下平良1-12-1
☎（0829）32-3145／FAX（0829）32-5544

福山出張所　〒721-0955　広島県福山市新涯町1-13-7
☎（084）957-0830／FAX（084）957-0851

山口営業所　〒754-0021　山口県山口市小郡黄金町14-10
☎（083）976-0120／FAX（083）976-0125

高松営業所　〒761-0301　香川県高松市林町2536-16
☎（087）867-3515／FAX（087）867-3880

徳島営業課　〒770-0866　徳島県徳島市末広3-1-43
☎（088）602-1765／FAX（088）623-8331

高知出張所　〒780-8004　高知県高知市新田町20-24
☎（088）837-0088／FAX（088）837-0055

松山営業所　〒790-0951　愛媛県松山市天山1-10-23
☎（089）945-1444／（089）987-7660
FAX（089）945-2555／（089）987-7670

九州

福岡支店　〒816-0941　福岡県大野城市東大利3-8-1
☎（092）581-5710／FAX（092）581-5724

北九州営業所　〒802-0979　福岡県北九州市小倉南区徳力新町2-12-35
☎（093）965-8880／（093）965-1777
FAX（093）965-8882／（093）965-1666

長崎営業所　〒851-0103　長崎県長崎市中里町1688-1
☎（095）838-6881／（095）834-0222
FAX（095）838-6882／（095）834-0233

熊本営業所　〒862-0968　熊本県熊本市馬渡2-1-20
☎（096）370-8555／FAX（096）370-8556

大分営業所　〒870-0955　大分県大分市下郡南4-2-3
☎（097）567-0851／（097）554-7088
FAX（097）567-7257／（097）554-7045

鹿児島営業所　〒890-0055　鹿児島県鹿児島市上荒田町44-30
☎（099）284-1088／FAX（099）284-1055

宮崎営業所　〒880-0831　宮崎県宮崎市新栄町86-1
☎（0985）26-9588／FAX（0985）26-9488

2011年6月現在

WOODONE

2011 設計施工資料集

Data File Catalogue

2011.07

設計施工資料集

建具／収納／洋風造作材／腰壁／床／
階段／カウンター etc…

商品に関するお問い合わせ窓口

フリーダイヤル 0120-813-331

［受付時間］平日／8:30～17:00 ［休日］土日・祝日・GW・年末年始・夏期休暇

●カタログ、サンプルの請求、特注の可否、納期、在庫確認につきましては、最寄りの営業所へお問合わせください。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて

株式会社ウッドワンは、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。

安全に関するご注意

●商品には安全にお使い頂くために、商品梱包の中に使用説明書が同梱されています。正しくご使用して頂くために施工業者様は、必ずお施主様にお渡し頂きますようよろしくお願いします。

●安全に、より良い状態でお使い頂くためにも消耗品の点検等をおすすめします。

ご購入にあたって

●商品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

●このカタログの内容についてのお問い合わせは、弊社もしくはお近くの販売店にご相談ください。

株式会社ウッドワン

●商品・お取り扱い・工事などのご相談・お問い合わせは、お買い求めの販売店・施工店へ。

■発行

株式会社ウッドワン　営業推進部

〒738-8502広島県廿日市市木材港南1-1

本書からの無断の複製はかたくお断りします。

このカタログの記載内容は平成23年6月現在のものです。

ホームページ http://www.woodone.co.jp/

モバイル http://www.woodone.co.jp/i/index.htm

※携帯電話の機種により、操作方法が異なります。取扱説明書をご参照ください。

ZCSG110 第1版 '11.07.T